両総農業水利事業第3揚水機場建設工事
埋蔵文化財調査報告書2

―山武市八幡神社北(1)・(2)・(3)遺跡―

第1分冊
(本文編)

平成21年2月

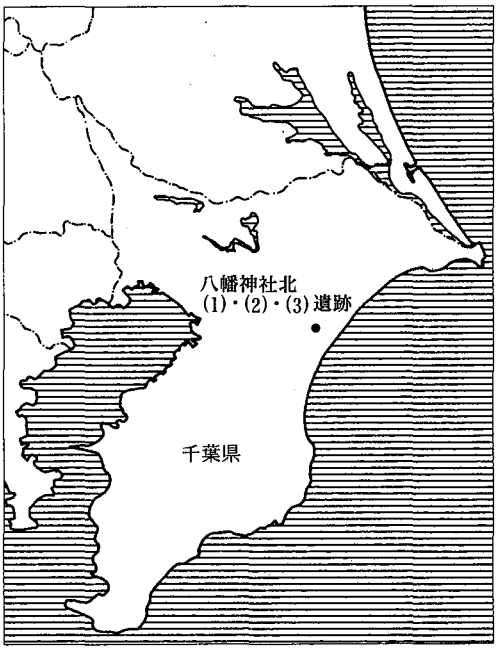
関東農政局両総農業水利事業所

財団法人 千葉県教育振興財団

両総農業水利事業第３揚水機場建設工事
埋蔵文化財調査報告書２

―山武市八幡神社北(1)・(2)・(3)遺跡―

第１分冊
（本文編）



八幡神社北(1)〈手前〉・八幡神社北(2)〈奥〉(北から)

八幡神社北(1)西側（北から)

巻頭図版２　航空写真(2)

八幡神社北(1)東側（南東から）

八幡神社北(2)西側（南東から）

八幡神社北（1）石器集中１
八幡神社北（1）石器集中２
八幡神社北（2）石器集中２
八幡神社北（1）石器集中３
八幡神社北（2）石器集中１

巻頭図版４　古墳時代～奈良･平安時代遺物

八幡神社北（1）瀬戸・美濃他

八幡神社北（2）瀬戸・美濃他

八幡神社北（1）常滑片口鉢

八幡神社北（2）常滑片口鉢

八幡神社北（1）常滑壷甕（口縁部～胴部）

八幡神社北（2）（3）常滑壷甕（口縁部～胴部）

八幡神社北（1）渥美・常滑壷甕（胴部～底部）

八幡神社北（2）（3）渥美・常滑壷甕（胴部～底部）

序　　文

財団法人千葉県教育振興財団(財団法人千葉県文化財センターから平成17年9月1日付で名称変更)は，埋蔵文化財の調査研究，文化財保護思想の涵養と普及などを目的として昭和49年に設立されて以来，数多くの遺跡の発掘調査を実施し，その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび，千葉県教育振興財団調査報告第608集として，山武市の両総農業水利事業第3揚水機場建設工事に伴って実施した八幡神社北(1)・(2)・(3)遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では，旧石器時代の石器集中地点，古墳時代後期から奈良・平安時代にかけての集落跡，中世の屋敷跡などが検出され，この地域の歴史を知るうえで多くの貴重な成果が得られています。

刊行に当たり，この報告書が学術資料として，また埋蔵文化財の保護に対する理解を深めるための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに，調査に際しご指導，ご協力をいただきました地元の方々をはじめとする関係の皆様や関係機関，また発掘から整理までご苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成21年2月

財団法人　千葉県教育振興財団

理　事　長　　福　島　義　弘

凡　　例

1　本書は，両総農業水利事業第3揚水機場建設工事に伴う埋蔵文化財調査報告書2の本文編である。

2　本書に収録した遺跡は，次の3遺跡である。

八幡神社北(1)遺跡(遺跡コード404-011)　山武市成東字八幡台3301-1ほか

八幡神社北(2)遺跡(遺跡コード404-010)　山武市成東字八幡台3303-1ほか

八幡神社北(3)遺跡(遺跡コード404-012)　山武市成東字八幡台3287ほか

3　発掘調査から報告書作成に至る業務は，農林水産省関東農政局両総水利事業所の委託を受けて財団法人千葉県教育振興財団が実施した。

4　発掘調査および整理作業の担当者および実施期間は第1章に記載した。

5　本書の執筆は旧石器時代および縄文時代石器について永塚俊司，中・近世について井上哲朗・鳴田浩司，その他は黒沢崇が担当した。また，全体の編集は黒沢・井上が行った。

6　発掘調査から報告書の刊行に至るまで，千葉県教育長教育振興部文化財課，成東町教育委員会，山武市教育委員会，(財)山武郡市文化財センター，関東農政局両総水利事業所，愛知学院大学教授　藤澤良祐氏のご指導，ご協力を得た。

7　本書で使用した地形図は下記の通りである。

国土地理院発行　1:25,000　地形図「成東」(N1-54-19-11-1)

参謀本部陸軍部測量局作成　1:20,000　「迅速測図－成東町」(明治15年測量，明治20年発行)

成東町作成　1:2,500　「成東町平面図」11（平成12年修正）

8　周辺地形航空写真は京葉測量株式会社による平成16年1月撮影のものを使用した。

9　本書で使用した座標値はすべて日本測地系にもとづく平面直角座標で，図面の方位はすべて座標北である。

10　図などの表現の凡例は以下の通りである。なお，須恵器は断面を黒塗にした。

総　目　次

第１分冊(本文編)

巻頭図版
第１章　事業の概要
　第１節　調査の経緯と経過 …… 1
　第２節　遺跡の位置と歴史的環境 …… 1
　第３節　調査方法と経過 …… 7
　第４節　調査の成果概要 …… 9
第２章　八幡神社北(1)遺跡
　第１節　旧石器時代 …… 17
　第２節　縄文時代・弥生時代 …… 30
　第３節　古墳時代～奈良・平安時代 …… 43
　第４節　中・近世 …… 132
第３章　八幡神社北(2)遺跡
　第１節　旧石器時代 …… 175
　第２節　縄文時代 …… 186
　第３節　古墳時代～奈良・平安時代 …… 188
　第４節　中・近世 …… 280
第４章　八幡神社北(3)遺跡
　第１節　旧石器時代・縄文時代 …… 333
　第２節　奈良・平安時代 …… 336
　第３節　中・近世 …… 342
第５章　まとめ
　第１節　旧石器時代 …… 351
　第２節　縄文時代・弥生時代 …… 353
　第３節　古墳時代～奈良・平安時代 …… 356
　第４節　中・近世 …… 366

第２分冊　(附表・写真編)

附　表 …… 1
写真図版

巻頭図版目次

巻頭図版1　航空写真(1)
巻頭図版2　航空写真(2)
巻頭図版3　旧石器時代遺物
巻頭図版4　古墳時代～奈良・平安時代遺物
巻頭図版5　中・近世遺物(1)
巻頭図版6　中・近世遺物(2)
巻頭図版7　中・近世遺物(3)
巻頭図版8　中・近世遺物(4)

挿図目次

第１章　事業の概要

第１図　八幡神社北・南遺跡と
　　グリッド配置図 …… 2
第２図　八幡神社北遺跡周辺地形図 …… 3
第３図　『迅速測図』による調査地周辺図
　　(S=1/20,000)…… 4
第４図　八幡神社北遺跡周辺の主な遺跡 … 6
第５図　八幡神社北(1)遺跡上層遺構
　　全体図 …… 10
第６図　八幡神社北(2)遺跡上層遺構
　　全体図 …… 11
第７図　八幡神社北(3)遺跡上層遺構
　　全体図 …… 13

第２章　八幡神社北(1)遺跡

第８図　立川ロームの土層柱状図 …… 17
第９図　旧石器確認グリッド配置図と
　　本調査範囲 …… 18
第10図　石器集中1 器種別出土状況 …… 20
第11図　石器集中1 石材別出土状況 …… 21
第12図　石器集中1 出土石器(1) …… 21
第13図　石器集中1 出土石器(2) …… 22
第14図　石器集中2 器種別出土状況 …… 24
第15図　石器集中2 石材別出土状況 …… 24
第16図　石器集中2 出土石器(1) …… 25
第17図　石器集中2 出土石器(2) …… 26
第18図　石器集中3 器種別出土状況 …… 27
第19図　石器集中3 石材別出土状況 …… 27
第20図　石器集中3 出土石器(1) …… 28
第21図　石器集中3 出土石器(2) …… 29
第23図　縄文時代・弥生時代遺構分布図 … 31
第22図　SK-078 …… 30
第24図　縄文土器 …… 33
第25図　縄文時代石器(1) …… 34
第26図　縄文時代石器(2) …… 35
第27図　SI-032(1) …… 36
第28図　SI-032(2) …… 37
第29図　SI-040 …… 38
第30図　SK-023・031～033 …… 40
第31図　弥生土器 …… 42
第32図　古墳時代～奈良・平安時代
　　遺構分布図(全体)…… 44
第33図　古墳時代～奈良・平安時代
　　遺構分布図(西側部分)…… 45
第34図　古墳時代～奈良・平安時代
　　遺構分布図(東側部分)…… 46
第35図　SI-001 …… 47

第36図　SI-002 …… 49
第37図　SI-003 …… 50
第38図　SI-004・SK-085(1) …… 51
第39図　SI-004(2) …… 52
第40図　SK-085(2) …… 54
第41図　SI-005 …… 55
第42図　SI-006 …… 56
第43図　SI-007 …… 57
第44図　SI-008 …… 59
第45図　SI-009(1) …… 60
第46図　SI-009(2) …… 61
第47図　SI-010(1) …… 63
第48図　SI-010(2) …… 64
第49図　SI-011(1) …… 66
第50図　SI-011(2) …… 67
第51図　SI-012 …… 68
第52図　SI-013 …… 69
第53図　SI-014 …… 70
第54図　SI-015 …… 72
第55図　SI-016 …… 74
第56図　SI-017(1) …… 75
第57図　SI-017(2) …… 77
第58図　SI-018 …… 78
第59図　SI-019 …… 80
第60図　SI-020(1) …… 81
第61図　SI-020(2) …… 82
第62図　SI-021 …… 83
第63図　SI-022 …… 85
第64図　SI-023 …… 86
第65図　SI-024 …… 87
第66図　SI-025(1) …… 88
第67図　SI-025(2) …… 89
第68図　SI-026(1) …… 90
第69図　SI-026(2) …… 91
第70図　SI-028 …… 93
第71図　SI-030 …… 94
第72図　SI-031 …… 95
第73図　SI-033 …… 96
第74図　SI-034 …… 98
第75図　SI-035 …… 99
第76図　SI-036 …… 101
第77図　SI-037 …… 102
第78図　SI-038 …… 103
第79図　SI-039 …… 105
第80図　SI-041 …… 106
第81図　SI-042(1) …… 107
第82図　SI-042(2) …… 109
第83図　SI-043A …… 110
第84図　SI-043B …… 111
第85図　SI-044 …… 112
第86図　掘立柱建物跡群全体図 …… 113
第87図　SA-003～007 …… 114
第88図　SB-001・009 …… 116
第89図　SB-002・003 …… 117
第90図　SB-004～006 …… 118
第91図　SB-007 …… 119
第92図　SB-008 …… 120
第93図　掘立柱建物跡出土遺物 …… 122
第94図　SK-004・016 …… 124
第95図　SK-018 …… 126
第96図　SK-019・020・027・028・038・039 …… 127
第97図　遺構外出土遺物(1) …… 129
第98図　遺構外出土遺物(2) …… 131
第99図　中・近世遺構全体図 …… 134
第100図　南西部中・近世遺構分布図 …… 136
第101図　SD-001～003・005 断面図 …… 137
第102図　北東部中・近世遺構分布図 …… 139
第103図　北東部西側SX-002他遺構群 …… 141
第104図　SX-002, SD-008・010・013・015・017, SA-002 断面図 …… 142
第105図　SX-002, SD-008・010・017, SA-002 断面図 …… 143
第106図　SD-018～020 …… 144

第107図　北東部東側掘立柱建物跡他遺構群 …… 145
第108図　SB-010～015，SA-001 断面図 … 147
第109図　SK-001・002・008・009～012 … 150
第110図　SK-013・022・030・040・041・051 …… 152
第111図　SX-001，SK-045～049，SD-008 … 153
第112図　SK-056・057・059・064～066・071，SH-067 …… 156
第113図　SK-070・075～077・081・083・084 …… 158
第114図　瀬戸・美濃他陶磁器，土器，土製品 …… 162
第115図　常滑片口鉢 …… 163
第116図　常滑壺・甕(1)…… 164
第117図　常滑壺・甕(2)…… 165
第118図　常滑壺・甕(3)…… 166
第119図　陶器転用砥石 …… 167
第120図　須恵器・土師器転用砥石 …… 168
第121図　石製品(板碑，砥石他) …… 170
第122図　銭貨 …… 171
第123図　金属製品，鉄滓 …… 172

第３章　八幡神社北(2)遺跡

第124図　立川ロームの土層柱状図 …… 175
第125図　旧石器確認グリッド配置図と本調査範囲 …… 176
第126図　石器集中1 器種別出土状況 …… 178
第127図　石器集中1 石材別出土状況 …… 179
第128図　石器集中1 出土石器(1)…… 180
第129図　石器集中1 出土石器(2)…… 181
第130図　石器集中2 器種別出土状況 …… 182
第131図　石器集中2 石材別出土状況 …… 183
第132図　石器集中2 出土石器 …… 184
第133図　単独出土石器出土状況 …… 184
第134図　単独出土石器と上層出土石器 …… 185
第135図　縄文土器 …… 186
第136図　縄文時代石器 …… 187
第137図　古墳時代～奈良・平安時代遺構分布図(全体) …… 189
第138図　古墳時代～奈良・平安時代遺構分布図(西側部分) …… 190
第139図　古墳時代～奈良・平安時代遺構分布図(東側部分) …… 191
第140図　SI-001 …… 192
第141図　SI-002 …… 193
第142図　SI-003・004(1) …… 195
第143図　SI-003・004(2) …… 196
第144図　SI-005(1) …… 198
第145図　SI-005(2) …… 199
第146図　SI-006 …… 201
第147図　SI-007・008 …… 202
第148図　SI-009 …… 203
第149図　SI-010 …… 205
第150図　SI-011 …… 206
第151図　SI-012 …… 208
第152図　SI-013 …… 209
第153図　SI-014・029 …… 210
第154図　SI-015 …… 211
第155図　SI-016 …… 212
第156図　SI-017 …… 213
第157図　SI-018 …… 214
第158図　SI-019 …… 215
第159図　SI-020 …… 216
第160図　SI-021 …… 218
第161図　SI-022 …… 219
第162図　SI-023 …… 220
第163図　SI-024 …… 221
第164図　SI-025 …… 223
第165図　SI-026 …… 224
第166図　SI-027 …… 225
第167図　SI-028 …… 227

第168図　SI-030 …… 228
第169図　SI-031(1)…… 229
第170図　SI-031(2)…… 230
第171図　SI-032(1)…… 232
第172図　SI-032(2)…… 233
第173図　SI-033 …… 233
第174図　SI-034 …… 234
第175図　SI-035 …… 235
第176図　SI-036 …… 236
第177図　SI-037 …… 237
第178図　SI-038 …… 238
第179図　SI-039 …… 239
第180図　SI-040 …… 241
第181図　SI-041(1)…… 242
第182図　SI-041(2)…… 243
第183図　SI-042 …… 245
第184図　SI-043 …… 247
第185図　SI-044 …… 249
第186図　SI-045(1)…… 250
第187図　SI-045(2)…… 251
第188図　SI-046A・B …… 253
第189図　SI-046C …… 254
第190図　SI-046A・B・C (1)…… 255
第191図　SI-046A・B・C (2)…… 257
第192図　SI-047 …… 259
第193図　SI-048 …… 261
第194図　SI-049(1) …… 263
第195図　SI-049(2) …… 264
第196図　SI-050 …… 265
第197図　SI-051 …… 267
第198図　SI-052 …… 269
第199図　SI-054 …… 270
第200図　SI-055 …… 271
第201図　SB-001・002 …… 273
第202図　SB-005 …… 274
第203図　遺構外出土遺物(1) …… 275
第204図　遺構外出土遺物(2) …… 277
第205図　遺構外出土遺物(3) …… 279
第206図　中・近世遺構全体図 …… 282
第207図　南部中・近世遺構分布図 …… 287
第208図　北部中・近世遺構分布図 …… 288
第209図　SD-001・003～010・012～014・020
断面図 …… 289
第210図　SD-022・023・029・031・034～036・
039, SX-010 断面図 …… 290
第211図　SD-038A・B …… 291
第212図　SX-001・002 …… 293
第213図　中央部遺構群 …… 297
第214図　SX-003・004, SB-005・006,
SA-001・002 断面図 …… 299
第215図　SX-005 …… 300
第216図　SX-007・008, SD-039 …… 301
第217図　SX-009周辺 …… 302
第218図　SB-003・004 …… 303
第219図　SA-003 …… 304
第220図　SK-001～004 …… 305
第221図　SK-005～009 …… 306
第222図　SK-010・011・013・015・018～021,
SH-016・017 …… 308
第223図　SK-026・027・029～033・035・036
…… 310
第224図　SK-037～045 …… 312
第225図　SK-046～048 …… 314
第226図　SK-049～051・053・054 …… 316
第227図　SK-055・056・061 …… 317
第228図　瀬戸・美濃他陶磁器 …… 319
第229図　土器, 土製品 …… 320
第230図　常滑片口鉢 …… 322
第231図　渥美, 常滑壺・甕 …… 323
第232図　陶器・須恵器転用砥石 …… 324
第233図　石造物(板碑, 五輪塔) …… 326
第234図　石製品(砥石他) …… 327
第235図　銭貨 …… 328
第236図　金属製品, 鉄滓他 …… 329

第４章　八幡神社北(3)遺跡

第237図　単独出土石器 …… 333
第239図　旧石器確認グリッド配置図 …… 334
第238図　SK-001 …… 333
第240図　上層遺構分布図 …… 335
第241図　SI-001(1) …… 337
第242図　SI-001(2) …… 339
第243図　SI-002 …… 340
第244図　SI-003 …… 341
第245図　SX-001(台地整形部分) …… 342
第246図　SD-001 ～ 003 …… 344
第247図　SD-004・005 …… 345
第248図　SB-001・002, SD-006・007 …… 347

第５章　まとめ

第249図　八幡神社北遺跡の旧石器時代 …… 352
第250図　八幡神社北・南遺跡出土弥生土器
　　比較(壺) …… 354
第251図　八幡神社北・南遺跡出土弥生土器
　　比較(甕) …… 355
第252図　土器の変遷① …… 358
第253図　土器の変遷② …… 359
第254図　時期別竪穴住居跡床面積分布 …… 360
第255図　時期別竪穴住居跡主軸方位 …… 361
第256図　竪穴住居時期別変遷図 …… 362
第257図　文字資料と特殊遺物 …… 364
第258図　金属製品他 …… 365
第259図　中世遺物グリッド別出土位置図 … 367
第260図　千葉県内中世遺跡種類・器種別
　　陶磁器類組成 …… 374
第261図　中・近世推定景観概念図 …… 375

表　目　次（本文編）

第１表　八幡神社北(1)遺跡 縄文時代・弥生時代
　　遺構一覧表 …… 30
第２表　八幡神社北(1)遺跡 古墳時代～奈良・平
　　安時代遺構一覧表 …… 43
第３表　八幡神社北(1)遺跡 中・近世遺構
　　一覧表…… 132
第４表　八幡神社北(2)遺跡 古墳時代～奈良・平
　　安時代遺構一覧表 …… 188
第５表　八幡神社北(2)遺跡 中・近世遺構
　　一覧表 …… 280
第６表　八幡神社北(3)遺跡 奈良・平安時代,
　　中・近世遺構一覧表 …… 336
第７表　八幡神社北遺跡竪穴住居跡時期別
　　一覧表 …… 361
第８表　地点別中・近世遺物出土量 …… 370
第９表　中世陶磁器消長表 …… 371
第10表　千葉県内中世遺跡出土陶磁器類
　　組成表 …… 372

第１章
事業の概要

第1章　事業の概要

第1節　調査の経緯と経過[1]（第1図）

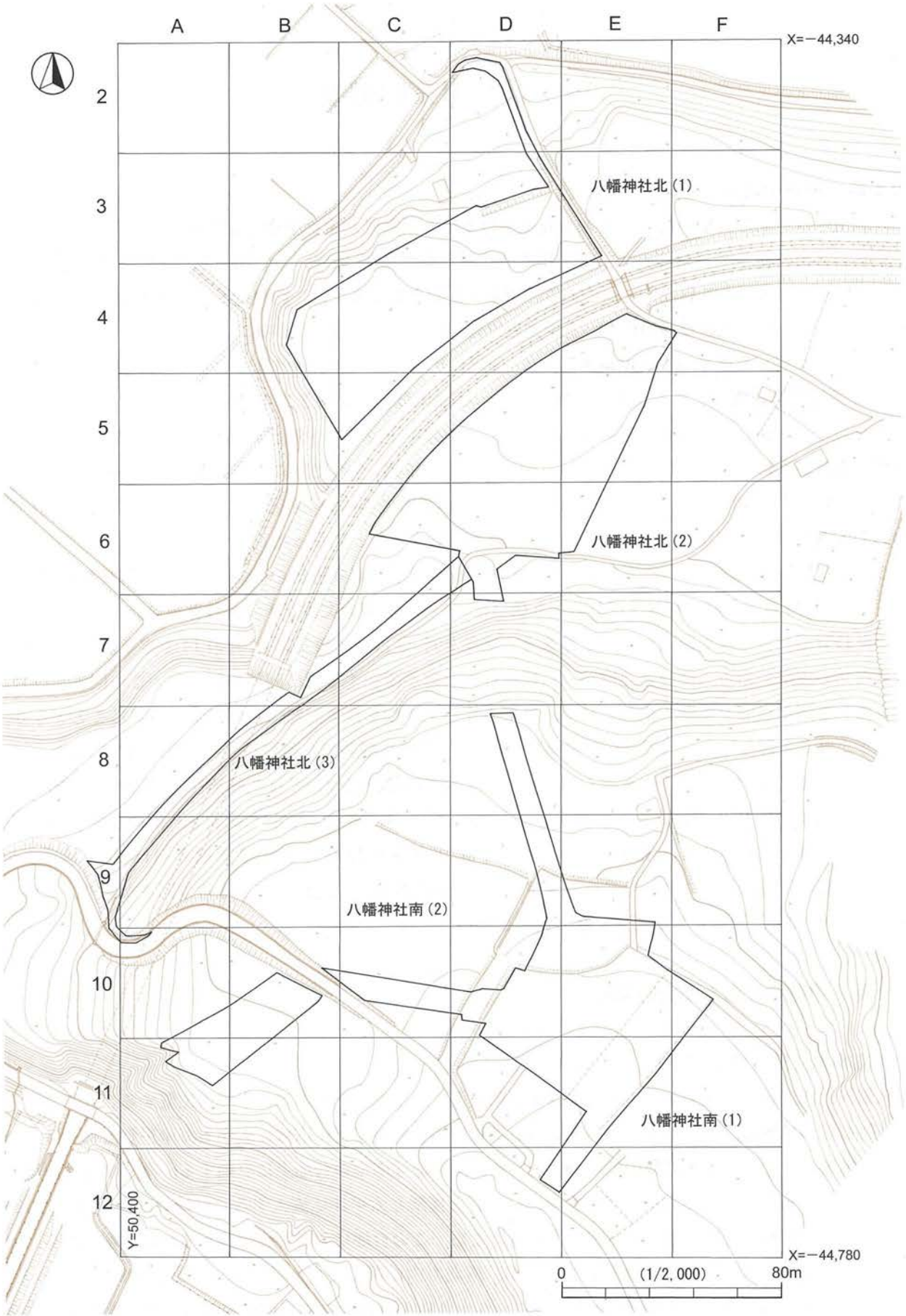
両総用水は，北は利根川沿岸から九十九里平野まで，千葉県北東部を中心に灌漑する農業水利施設で，千葉県の水田の約20％を灌漑している。用水の総延長距離は78㎞で，わが国の農業水利施設のなかでも大規模で広範囲にわたる施設の一つである。用水が敷設されるまでは，利根川沿岸は排水不良地域で度々湛水害にさらされ，大きな河川のない九十九里平野の水田は，干魃被害が絶えなかった。そこで，水田地帯の治水と安定した農業用水の供給を目的に，昭和18年から国営両総用水土地改良事業が着工し，昭和40年に両総用水が完成した。用水の完成は，この地域の農業の発展と高生産性農業の実現に重要な役割を果たした。しかし，完成から長い年月が経過し，水路やトンネル・施設の老朽化と能力低下が著しく，施設の更新が急務となり，平成5年度から「両総農業水利事業」として施設の更新事業を進めることになった。さらに，平成10年には関東農政局両総農業水利事業所で全体的な施設の更新を行う事業計画を立て，山武郡成東町成東(現山武市成東)に第3揚水機場を設置することになった。

この第3揚水機場設置の事業実施にあたって，両総農業水利事業所から平成13年9月7日付け13両総第411号で「埋蔵文化財の有無及びその取り扱いについて」の照会文書が千葉県教育委員会へ提出された。千葉県教育委員会は現地踏査の結果を踏まえ，同年9月28日付け教文第13号の14で事業計画の台地一帯に周知の遺跡である八幡神社北遺跡，八幡神社南遺跡が所在する旨の回答を行った。この回答を受け，取り扱いを関係機関で協議を重ねた結果，事業の性格上やむを得ず記録保存の措置を講ずることとなり，(財)千葉県文化財センター（現(財)千葉県教育振興財団)が発掘調査を実施した。今回の調査にあたって，八幡神社北遺跡は，現両総用水を挟んで右岸の第2調整池部分については八幡神社北(1)遺跡，左岸の機場部分を八幡神社北(2)遺跡とした。八幡神社南遺跡は，吐水槽を中心とした範囲を八幡神社南(1)遺跡とし，管路部分を八幡神社南(2)遺跡とした。なお平成16年5月18日付けの13両総第411号で，機場部から延びる管理用道路部分について追加照会があり，全域に埋蔵文化財が所在する旨の回答があり，その部分を八幡神社北(3)遺跡として調査を追加実施した。

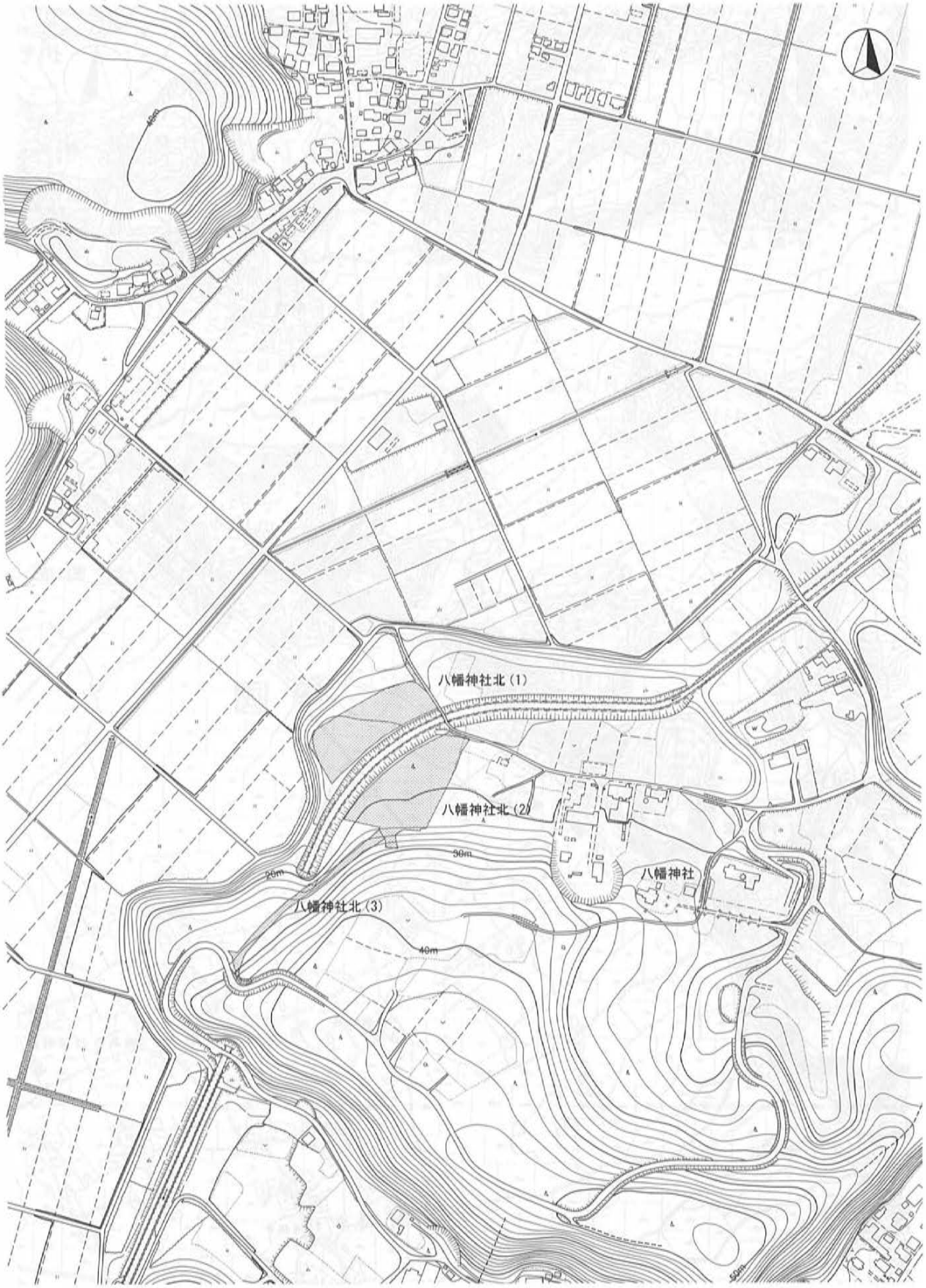
第2節　遺跡の位置と歴史的環境

1　遺跡の位置（第2・3図）

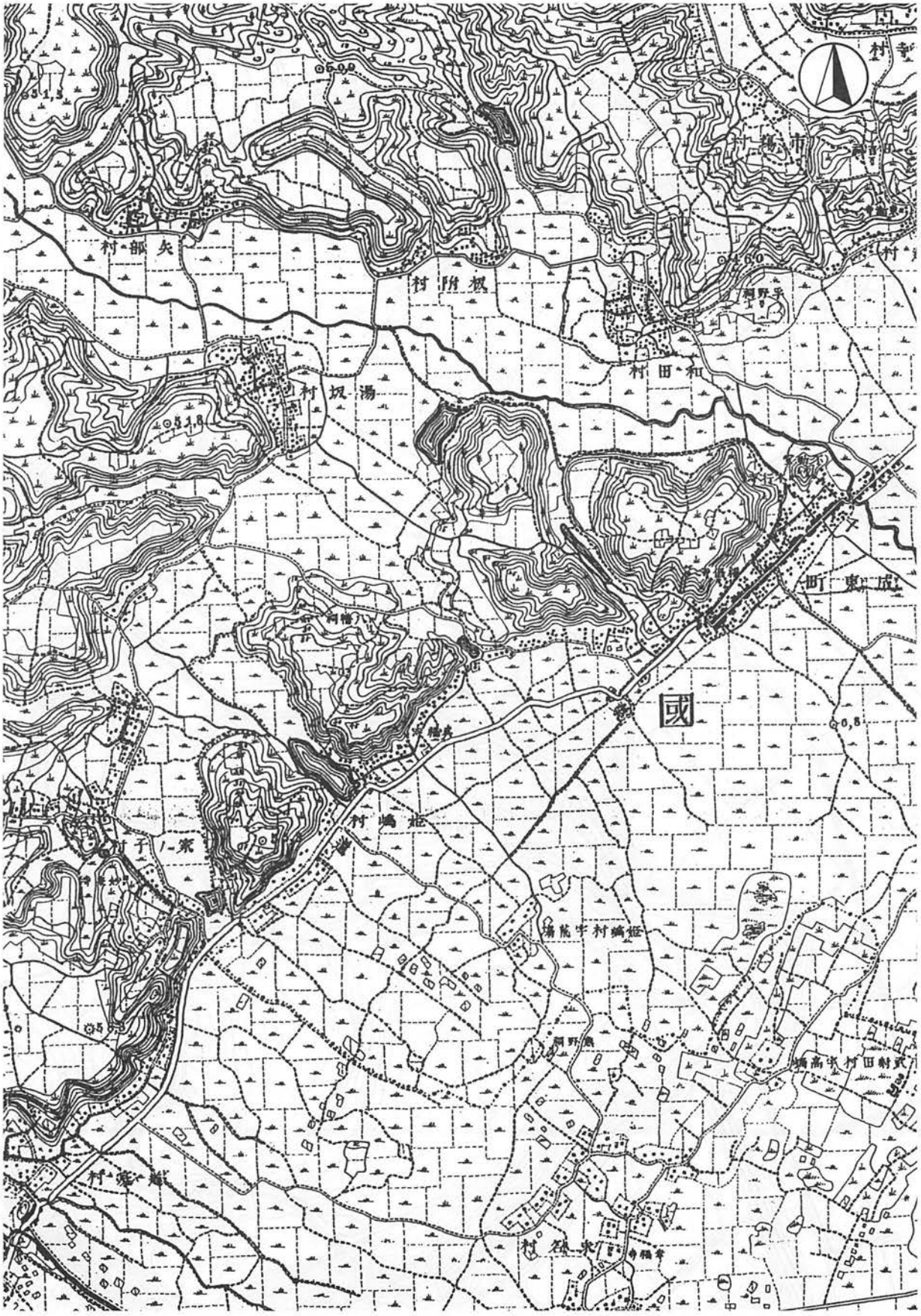
八幡神社北遺跡の所在する山武市成東は千葉県東部，九十九里平野のほぼ中央に位置する。九十九里平野に臨むこの地域は，下総台地の一角をしめる洪積台地と海蝕崖下に広域に広がる海岸平野とに分けられる。本遺跡はそのちょうど境界の洪積台地上，作田川下流域南岸の台地上に立地する。南下する作田川はこの台地の中央部から東裾を沿って，九十九里平野を横断し太平洋に流入する。台地の南側裾の国道126号沿いには市街地，それ以外には水田が広がる。また，この台地は北西背後に控える台地の基部から，太平洋側に切り離された一つの独立丘陵であるが，南北方向に深く浸食を受けて，細かく分断されている。台地上の平坦部はいずれも標高50ｍ前後あり，九十九里平野に臨む南東側は急峻な崖で，北側はやや緩



第１図　八幡神社北・南遺跡とグリッド配置図



第２図　八幡神社北遺跡周辺地形図



第３図　『迅速測図』による調査地周辺図（S=1/20,000）

やかな傾斜となる。個々の台地を分断する谷津は調整池あるいは溜池として利用されていた様子が『迅速測図』(第3図)から読みとれ，一部は今も築堤して調整池として残る。

遺跡調査区は台地北側の一段低い裾部にあたり，標高18 m～22 m，水田面との比高9 m～13 mである。南側には高さ20 m以上の急斜面がそびえ，その上の平坦部に八幡神社南遺跡が立地する。調査地の地目は畑地で，周辺にも畑地や荒蕪地が若干広がるが，多くは杉などの針葉樹林に深く覆われていた。

2　歴史的環境[2]（第4図）

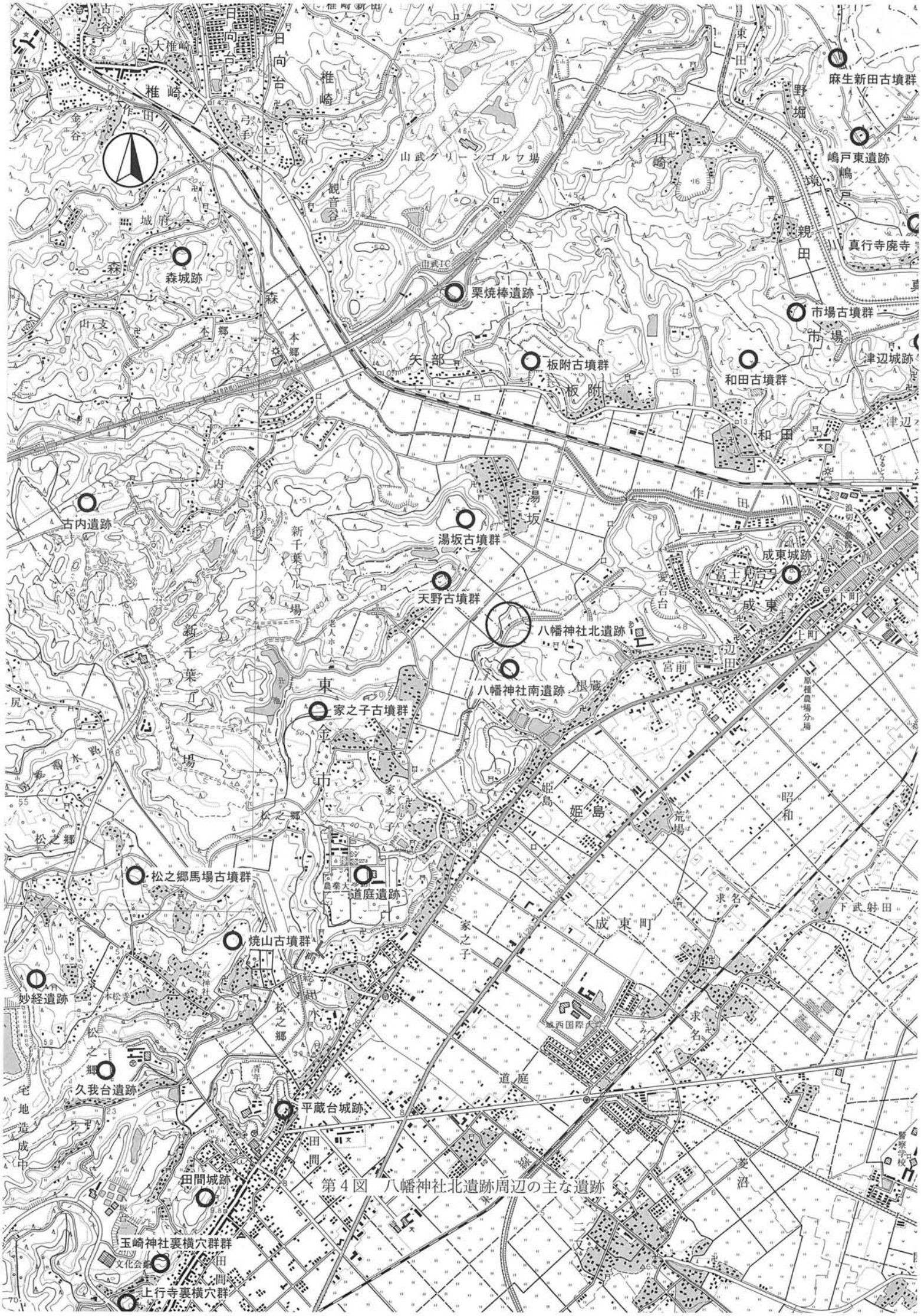
既に本事業報告書1でも記載しているので，ここでは，八幡神社北遺跡で確認された主な時代について，原始・古代は周辺の遺跡を概観するに留め，中・近世は伝承や文献史料も合わせて紹介する。

本遺跡の南西に位置する道庭遺跡は，弥生時代中期の多数の方形周溝墓と，弥生時代中期から後期にかけての集落が検出されている。南に隣接する八幡神社南遺跡[3]においても小規模ではあるが，弥生時代中期の方形周溝墓・竪穴住居跡が検出されており，本遺跡との関連性が注目される。他の弥生時代の調査例としては平蔵台遺跡・久我台遺跡があげられる。

古墳時代後期以降の調査例では，道庭遺跡・平蔵台遺跡・久我台遺跡・妙経遺跡・東金台遺跡・栗焼棒遺跡などがあげられる。ほとんどの遺跡で，古墳時代後期に本格的な集落の形成がはじまり，奈良・平安時代まで継続する特徴がみられ，本遺跡の様相とも合致する。一方，今回の調査区では古墳を検出することはなかったが，周辺には古墳時代後期以降と考えられる多くの古墳群が所在する。終末期の大型墳を含む板附古墳群をはじめ，湯坂古墳群・天野古墳群・道庭古墳群・麻生新田古墳群・市場古墳群・和田古墳群・家之子古墳群・松之郷馬場古墳群などがあげられる。南西の東金市域では，九十九里平野に臨む海蝕崖斜面に，玉崎神社裏横穴群や上行寺裏横穴群が確認されている。また，作田川・境川を越えた位置になるが，武射郡の中枢施設である郡衙や郡寺とされる嶋戸東遺跡や真行寺廃寺なども所在する。

中世については，当時の確実な文献史料が少ないために不明な点が多いが，本遺跡周辺は武射郡鳴戸郷で山辺庄に含まれていたとみられる。東上総は，平忠常の乱(1027年～1031年)以降上総平氏により開発が進められるが，平広常の乱(1183年)後には没収された上総氏領の大半や名跡を千葉氏が継承する。その後，宝治合戦(1247年)後には三浦氏方についた上総権介秀胤が殺され，北条方の足利義氏が伊勢神宮に寄進した武射御厨等が成立するが間もなく消滅し，14世紀中葉には足利氏領を引き継いだ足利尊氏が武射郡小松村(旧成東町小松)を鎌倉宝戒寺に寄進している。当地域の在地領主層の動向としては，13世紀前葉には真行寺薬師堂の檀越として上総氏系で残った「印東四郎入道」をはじめ，15世紀初頭まで印東氏の名が見える(『真行寺薬師縁起・薬師堂棟策覚』山辺家文書)。また，本遺跡南側に所在する八幡神社は，14世紀初頭に孫の平清胤が産土神として祀ったともいわれ，参道は平将門が築造したという「将門堤」の伝説が残る。一方，「印東四郎入道」は，江戸期の伝承(『銘細手控抄』渡辺家文書)では，応永22年(1415)に「入道山」(成東城)を築城したとされるため，混乱が生じている。なお，13世紀代には金尾(旧松尾町)一帯に成東刑部大輔胤教が(『金照寺由来記』)，13世紀末には鳴戸郷に千葉介成胤の庶子胤俊(成東刑部少輔)が居領したとされる(『別本千葉系図』)が，その後14・15世紀代の同氏系の記録は存在しない。結局，中世前期には印東・千葉の両家が併存していたようであり，周辺遺跡では，久我台遺跡で，本遺跡と同様な時期である13世紀後半から15世紀前半を中心とした集落と墓域が検出されている。

応永25年(1418)の上杉禅秀の乱や上総本一揆以降の戦国時代は多くの城が築かれ，久我台遺跡の様に



第４図　八幡神社北遺跡周辺の主な遺跡

集落の移動も推測される時期であるが，当地域には史料がなく，成東城には16世紀に入ってから千葉介勝胤の庶子胤定(鳴戸兵部少輔)，さらに嫡子将胤(兵庫介)が居城したとされ(『千葉大系図』他)，戦国末期には千葉宗家同様に後北条氏下に入った。天正18年(1590)の小田原城開城では，成東千葉氏に仕えた武士層の多くは地元に帰農し，本佐倉城に預けられていた将胤遺児も成東に復帰し城下の矢原で矢原千葉氏として細々と続いた(『宇津木文書』他)。鳴戸(成東)には徳川家康家臣石川康道が入部し2万石を所領したが，慶長7年(1602)幕府領として関東総奉行青山忠成が入り，元禄13年(1700)以降は下総結城藩(水野家)領として幕末を迎えた。

なお，成東城の大規模で技巧的な構造から，勝浦正木氏による16世紀後半の断続的な下総侵攻が，東金酒井氏(東金市東金城・平蔵台城・田間城他)を里見氏下に入らせ同時に成東が酒井氏領に取り込まれ，後北条氏の反攻により1576年酒井氏が後北条氏下に入った時に千葉宗家が仲介した講和の条件として成東千葉氏が復帰した段階の築城或いは改築の可能性，さらに，従来井田氏(芝山町大台城・横芝光町坂田城他)の城とされてきた津辺城が，その近世的構造等から，従来成東城に入ったとされる石川氏の築城である可能性も指摘されている[4]。

第3節　調査方法と経過

1　発掘調査の方法（第2図）

調査にあたっては，八幡神社北・南遺跡の調査区全体を覆うように国土方眼座標(第Ⅸ座標系)のX＝－44,300，Y＝50,400を起点に40m×40mの方眼網を設定し，大グリッドとした。名称は起点から南方向にI，2，3，・・・東方向にA，B，C・・・とした。その大グリッドを4m四方に100分割し，北西隅を00，南東隅を99として小グリッドとした。グリッドの呼称は数字とアルファベットを組み合わせ，たとえば11E-36というように表記した。この表記は現地調査の記録類から，遺物の注記にあたっても踏襲した。

調査はまず上層の確認調査を調査対象面積の10%を目安に，調査地の形状や微地形等を考慮に入れて，トレンチを設定した。また，遺構の性格・時期・深度等を把握するために，遺構の埋土を一部掘り上げた。八幡神社北(1)遺跡は調査前には一部が畑，一部は杉の植林地，八幡神社北(2)・(3)遺跡はほぼ全面が杉の植林地であった。当初から八幡神社北(1)・(2)遺跡の調査区内に大きな段差を確認していたが，確認調査で中世遺物が出土したことにより，この段差が中世の台地整形であることが判明した。地山が段整形等で掘削されていない地点では土師器や須恵器などが出土し，カマドを持った竪穴住居跡も確認できたことから，古墳時代後期から中世に至るまでの大規模な複合遺跡であることが明らかになった。

確認調査の結果，調査地全域に濃密に遺構が分布していることが判明し，八幡神社北(1)遺跡では，台地上面の調査範囲はすべて本調査範囲となった。ただし，現道路脇の拡幅調査に関わる範囲は一部について本調査を行った。八幡神社北(2)遺跡では上層の本調査範囲は，度重なる協議の結果，事業範囲の内，建物建設など掘削を伴う範囲及び調査対象の竪穴住居跡等の遺構が掛かる範囲に限定された。また，下層の確認調査は上層の本調査が終了した地点から対象面積の4%について随時行った。

上層の本調査のため，ほぼ全域の表土除去を重機を使用して開始した。杉が規則正しく植栽され，表土層もかなり厚くなっており，これに相当の時間を要することとなった。表土除去後の精査を終え，本格的な発掘調査へと移行した。本調査にあたり，遺構の種類によって竪穴住居跡はＳＩ，土坑はＳＫ，溝はＳ

D，掘立柱建物跡はＳＢ，柵列はＳＡ，その他や性格不明の遺構をＳＸと記号を付し，種類ごとに３桁の通し番号を付けて遺構番号とした。遺物の取り上げについては遺構出土を基本とし，各遺構ごとに通し番号を付けた。ただし，旧石器や所属遺構が不明確な遺物については小グリッド単位で取り上げた。遺物番号は遺構と同様に小グリッド毎に通し番号を付けた。

なお，八幡神社北(2)・(3)遺跡の上層本調査では，作業の効率化を図るため測量会社に委託して，竪穴住居跡の平面測量，エレベーション測量を実施した。覆土断面図と遺物分布図，カマドの実測については，作業の手順上，従来どおりの方法が効率的であると判断し，調査補助員の手で行った。

2　整理作業の方法

整理作業では，原則的に発掘調査において付けた遺構番号をそのまま使用し，遺物への注記作業もすべてこれに則っている。整理の進捗に伴い，遺構の性格や番号重複などの判明により変更及び新規番号を付した遺構は以下の通りである。なお，遺物注記後の変更のため注記は発掘段階の遺構番号のままである。

・八幡神社北(1)遺跡　　変更　SI-029 → SK-085，SK-050・067・082 → SH-050・067・082
　　新規　SB-010 ～ 015，SK-086 ～ 093
・八幡神社北(2)遺跡　　変更　SD-031 → SD-045
　　SK-016 ～ 018・022 ～ 024 → SH-016 ～ 018・022 ～ 024
　　新規　SB-005・006，SD-046・047

遺物については，原始・古代は遺構ごとに種別に分類してから接合作業等を実施した。中・近世は遺構に伴うものが少なく同一個体が広く分布していたため，種別に分類・接合後に遺構と合わせた。接合結果は，遺物出土図や遺物台帳をもとに，接合状況図を平面と断面で作成した。

3　調査・整理の経過

八幡神社北(1)・(2)・(3)遺跡の調査組織と発掘調査・整理作業の担当者・期間・内容は以下の通りである。

平成16年度　東部調査事務所長　鈴木定明

発掘調査	担当者	八幡神社北(1)遺跡	宮　重行，竹内久美子，稲生一夫，鳴田浩司，土屋潤一郎		
		八幡神社北(2)遺跡	池田大助，鳴田浩司，渡邊高弘		
		八幡神社北(3)遺跡	鳴田浩司		
	期　間	八幡神社北(1)遺跡	平成16年 5月 6日～同年10月29日		
		八幡神社北(2)遺跡	平成16年 4月 5日～同年11月16日		
		八幡神社北(3)遺跡	平成16年10月 1日～同年10月15日		
			平成16年11月17日～同年11月30日		
	内　容	八幡神社北(1)遺跡	確認調査	上層	353㎡／4,226㎡
				下層	170㎡／4,226㎡
			本調査	上層	4,226㎡
				下層	500㎡
		八幡神社北(2)遺跡	確認調査	上層	560㎡／5,168㎡

			下層	262 ㎡／4,391 ㎡
		本調査	上層	4,208 ㎡
			下層	266 ㎡
	八幡神社北(3)遺跡	確認調査	下層	48 ㎡／1,398 ㎡
		本調査	上層	1,398 ㎡
			下層	0 ㎡

整理作業　担当者　八幡神社北(1)遺跡　池田大助，鳴田浩司，今泉 潔
八幡神社北(2)遺跡　池田大助，岸本弘三，鳴田浩司
期　間　八幡神社北(1)遺跡　平成16年11月1日～平成17年3月25日
八幡神社北(2)遺跡　平成16年12月1日～平成17年3月25日
八幡神社北(3)遺跡　平成17年2月1日～平成17年3月25日
内　容　水洗・注記から実測・トレースの一部まで

平成17年度　東部調査事務所長　鈴木定明
整理作業　担当者　八幡神社北(1)・(2)・(3)遺跡　鳴田浩司，池田大助，雨宮龍太郎，石倉亮二，西口 徹
期　間　八幡神社北(1)遺跡　平成17年11月1日～平成18年3月31日
八幡神社北(2)・(3)遺跡　平成17年4月1日～平成17年10月31日
内　容　実測・トレースの一部から原稿執筆の一部まで

平成19年度　北部調査事務所長　豊田佳伸
整理作業　担当者　八幡神社北(1)・(2)・(3)遺跡　井上哲朗，黒沢 崇
期　間　八幡神社北(1)遺跡　平成19年12月1日～平成20年1月15日
八幡神社北(2)・(3)遺跡　平成20年1月16日～同年3月31日
内　容　原稿執筆の一部から編集の一部

平成20年度　北部調査事務所長　豊田佳伸
整理作業　担当者　八幡神社北(1)・(2)・(3)遺跡　井上哲朗，黒沢 崇
期　間　八幡神社北(1)・(2)・(3)遺跡　平成20年8月1日～12月28日
内　容　編集の一部・報告書刊行

第4節　調査の成果概要

1　八幡神社北(1)遺跡（第5図）

調査区は台地の北側にあたり，北側に向かい緩やかに傾斜している地形である。

旧石器時代の石器集中地点は南西部の台地の斜面寄りに3か所，比較的近接して検出された。出土層位はⅦ層～Ⅹ層である。主な出土遺物は局部磨製石斧・石斧調整剥片・楔形石器・台形様石器・石斧未製品などである。弥生時代は，中期の竪穴住居跡が2軒検出されたが，墓域を確認することはできなかった。

第5図　八幡神社北 (1) 遺跡上層遺構全体図

第 6 図　八幡神社北 (2) 遺跡上層遺構全体図

古墳時代後期～奈良・平安時代にかけては継続的に集落が台地全体に営まれ，主に竪穴住居跡42軒，掘立柱建物跡9棟が検出された。中・近世は，溝や柵列によって区画された内部に掘立柱建物跡や土坑からなる屋敷区画が，また，地山整形を伴い井戸または粘土採掘坑に推測される大型の落ち込みや墓坑とも考えられる土坑群も検出された。中世遺物は13世紀から14世紀の陶磁器が主体である。

2　八幡神社北(2)遺跡（第6図）

調査地は台地の平坦面で，両総用水を挟んで八幡神社北(1)遺跡の南側に位置し，緩やかに北に向かってやや傾斜している地形である。

旧石器時代では，Ⅵ層～Ⅶ層を中心とする小規模なブロックとⅢ層～Ⅴ層を中心とする礫群を主体とするブロックが検出された。古墳時代後期～奈良・平安時代では主に竪穴住居跡が54軒検出された。中・近世の遺構や両総用水部分により削平されるが，八幡神社北(1)遺跡と同集落であり，台地全体に継続的に展開する集落が想定できる。中・近世では，溝や柵列によって区画されて，地山整形された掘立柱建物跡等からなる屋敷区画，ピット群や火葬施設からなる空間，多様な大型竪穴等が検出され，同様な出土遺物の様相からも八幡神社北(1)遺跡の東部から連続する集落の中の一角と考えられる。

3　八幡神社北(3)遺跡（第7図）

調査区は幅約6ｍ，全長約200ｍと細長く，北端で八幡神社北(2)遺跡と接する。地形は西側が大きく落ちる谷津部の先端で東側は低位段丘面の急斜面となっている。

旧石器時代の遺物は上層遺構確認時に出土した黒曜石製の細石刃1点のみであった。八幡神社北(1)・(2)遺跡で多数みられた古墳時代後期の竪穴住居跡はなく，奈良・平安時代の竪穴住居跡が3軒散漫に検出された。中世では，八幡神社北(2)遺跡の南辺で検出された段整形上段の遺構群に連続して，調査区北側の台地整形区画内で掘立柱建物跡・溝などが検出された。

注1　調査の経緯と経過については，下記の本事業報告書第1巻に詳細な記載がある。
今泉　潔　2006『両総農業水利事業第3揚水機場建設工事埋蔵文化財調査報告1』(財)千葉県教育振興財団

2　歴史的環境の遺跡位置及び概要については，下記文献を参考にした。
篠丸頼彦　1972『成東城跡調査報告書』成東城跡調査団
伊藤一男ほか　1986『成東町史　通史編』成東町
伊藤一男　1991『房総戦国土豪の終焉－小田原落城と両総の在地勢力－』崙書房
小笠原長和監修　1996『日本歴史地理体系第12巻　千葉県の地名』(株)平凡社
千葉県教育委員会　1996『千葉県所在中近世城館跡詳細分布調査報告書Ⅱ－旧上総・安房国地域－』
(財)千葉県史料研究財団編　1996『千葉県の歴史　資料編　古代』千葉県
千葉県教育委員会　1998『千葉県埋蔵文化財分布地図(2)－香取・海上・匝瑳・山武地区(改訂版)』
(財)千葉県史料研究財団編　1998『千葉県の歴史　資料編　中世1　考古資料』千葉県

3　歴史的環境の原始・古代については，注1の文献に詳細な記載がある。

4　小高春雄　2006『山武の城』自家版

第７図　八幡神社北 (3) 遺跡上層遺構全体図

第２章
八幡神社北（1）遺跡

第2章　八幡神社北(1)遺跡

第1節　旧石器時代（第9図）

旧石器時代の確認調査は対象面積4,226㎡のうち170㎡について実施した。調査対象地域内に2m×2mの確認グリッドを44か所設定した。確認調査は重機(クラムシェル)によって立川ローム層を少しずつ掘削し，地上で遺物の有無を確認する方法を採用した。確認調査によって，ローム層中から旧石器時代の遺物が確認された3地点について周囲を拡張した結果，石器集中地点が検出され，合計500㎡の本調査が実施された(石器集中1～3)。

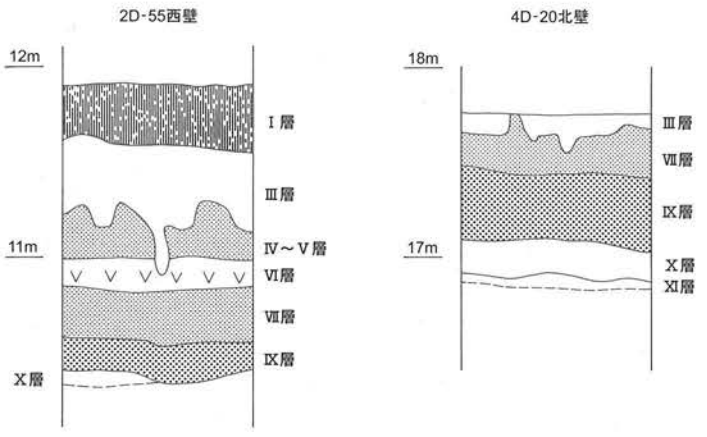
石器集中1は調査区西端の4B-88・97・98グリッドを中心に分布する小規模なブロックで，出土層位はIX層下部である。石器集中2は石器集中1の南東に隣接し，5C-10・11・20・21グリッドを中心に分布するブロックで，出土層位はIX層下部～X層である。石器集中3は4C-75・76・77グリッドを中心に分布する小規模なブロックで，出土層位はVII層を主体とする。

石器集中1と石器集中2は分布状況や石器群の様相から同一文化層ととらえる。

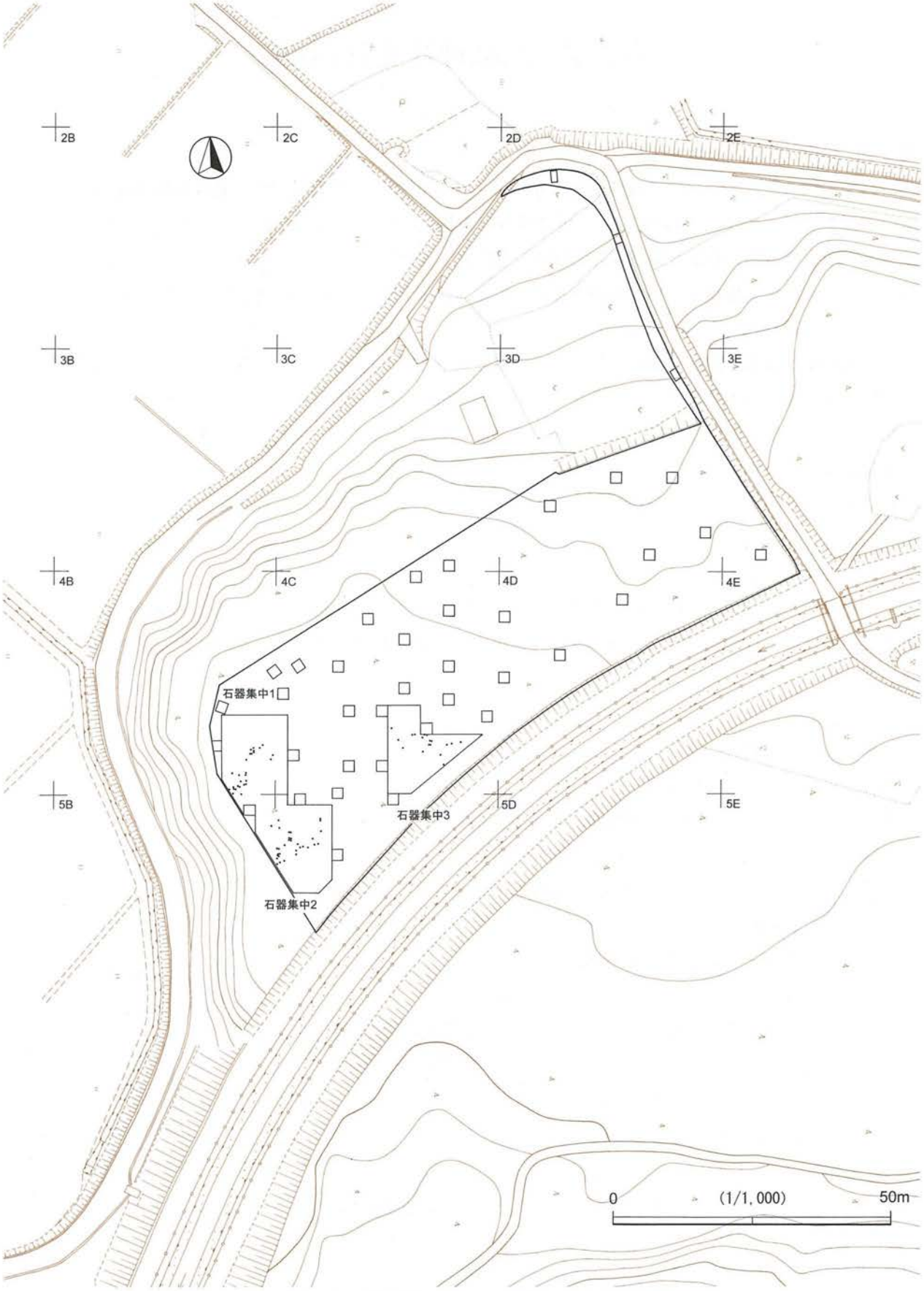
1　基本層序（第8図）

下層確認グリッドのうち，4D-20北壁と道路拡張部2D-45～55西壁の土層断面図を第8図に示した。前者は中世以後の台地整形によりソフトロームの大半が削られてしまっている。以下，調査時の注記を記す。

I層	表土(耕作土)
III層	立川ローム軟質部
IV～V層	以下，立川ローム硬質部，第1黒色帯を含む，黄褐色
VI層	ATを含む(ブロック状に一部みられる)
VII層	黄褐色，第2黒色帯上部，乾燥して白くなりクラックが入る
IX層	黄褐色(VII層よりやや暗い色調)，第2黒色帯下部，赤色スコリア含む
X層	黄褐色(やや灰色帯びる)，IX層より軟質
XI層	武蔵野ローム最上層，暗灰褐色，粘性がある



第8図　立川ロームの土層柱状図



第9図　旧石器確認グリッド配置図と本調査範囲

2　石器集中地点

(1) 石器集中1（第10～13図，第11・14表，図版2・52・53）

分　布　調査区東端の4B-88・97・98グリッドを中心に分布する小規模なブロックで，出土層位はIX層中位～下位を主体とする。分布は南北10ｍ×東西7ｍの範囲に北東から南西方向へ帯状に散在する状況である。集中域は径4ｍほどの大きさで2地点に分離される(第11図)。

器　種　局部磨製石斧1点，石斧片2点，楔形石器2点，剥片15点，砕片1点，礫片5点の合計26点が出土した。剥片は石斧の調整剥片と楔形石器から剥離された両極剥片が主体を占め，本石器集中地点の剥片剥離の主体は石斧の調整剥離と両極剥離である。

1は粘板岩製の楔形石器である。背面に自然面が残る。接合資料1は楔形石器(3)と楔形石器剥片(2)の接合資料である。小振りな楔形石器で，縦位の断面は紡錘形を呈する。分布は南集中域にまとまる。4はホルンフェルス製の局部磨製石斧である。石斧調整剥片を素材としたもので，側縁を中心に調整剥離が施され，刃部と器体の一部に研磨痕が観察される。刃部は後世のガジリによって大部分を欠損している。5は石斧の基部片と判断した。凝灰岩製で研磨痕等は観察されない。6は凝灰岩製の石斧片である。刃部側が欠損している。研磨痕は観察されない。7～12は石斧調整剥片である。11を除き，すべての背面に研磨痕が観察される。刃部調整に伴う調整剥片である。石斧の調整剥片の特徴として打面が比較的直線的で線状打面もしくは顕著に稜調整が施されたものが多い。

石　材　凝灰岩11点，粘板岩6点，チャート6点，ホルンフェルス2点，砂岩1点で構成される。同一母岩と判断される資料は集中域内で収束し，とくに粘板岩は北集中域にまとまる。ただし，北集中域に分布する資料と同一母岩と判断される資料が石器集中2にもみられることから，両集中地点の関係の深さが垣間見える(両集中地点には同一母岩が存在することから母岩No.は両集中地点共通とし，通し番号を付した)。器種との関係で言えば，楔形石器と楔形石器剥片にはチャート・粘板岩，石斧と石斧調整剥片には凝灰岩・ホルンフェルスが用いられる。

凝灰岩は11点中7点4母岩を抽出した(母岩No.4～7)。母岩No.4は石核片(5) 1点と石斧調整剥片1点の2点で構成される。風化剥離面は灰緑色，自然面は濃緑色を呈する特徴的な母岩である。母岩No.5は斑紋のはいる薄灰緑色を呈する母岩で，折面同士の接合資料2 (7＋8)のみで構成される。斑紋が入る同様の資料があるが，色調がやや異なるため同一母岩とはしなかった。母岩No.6は風化剥離面が明青灰色，新鮮な剥離面は濃紺色を呈する母岩。石斧調整剥片2点で構成される。母岩No.7は薄灰緑色を呈する母岩で，本集中地点には1点しか分布しないが，石器集中2に同一母岩が複数分布する。濃緑色の粒子が散らばる特徴を持つ。すべて石斧調整剥片と判断される。

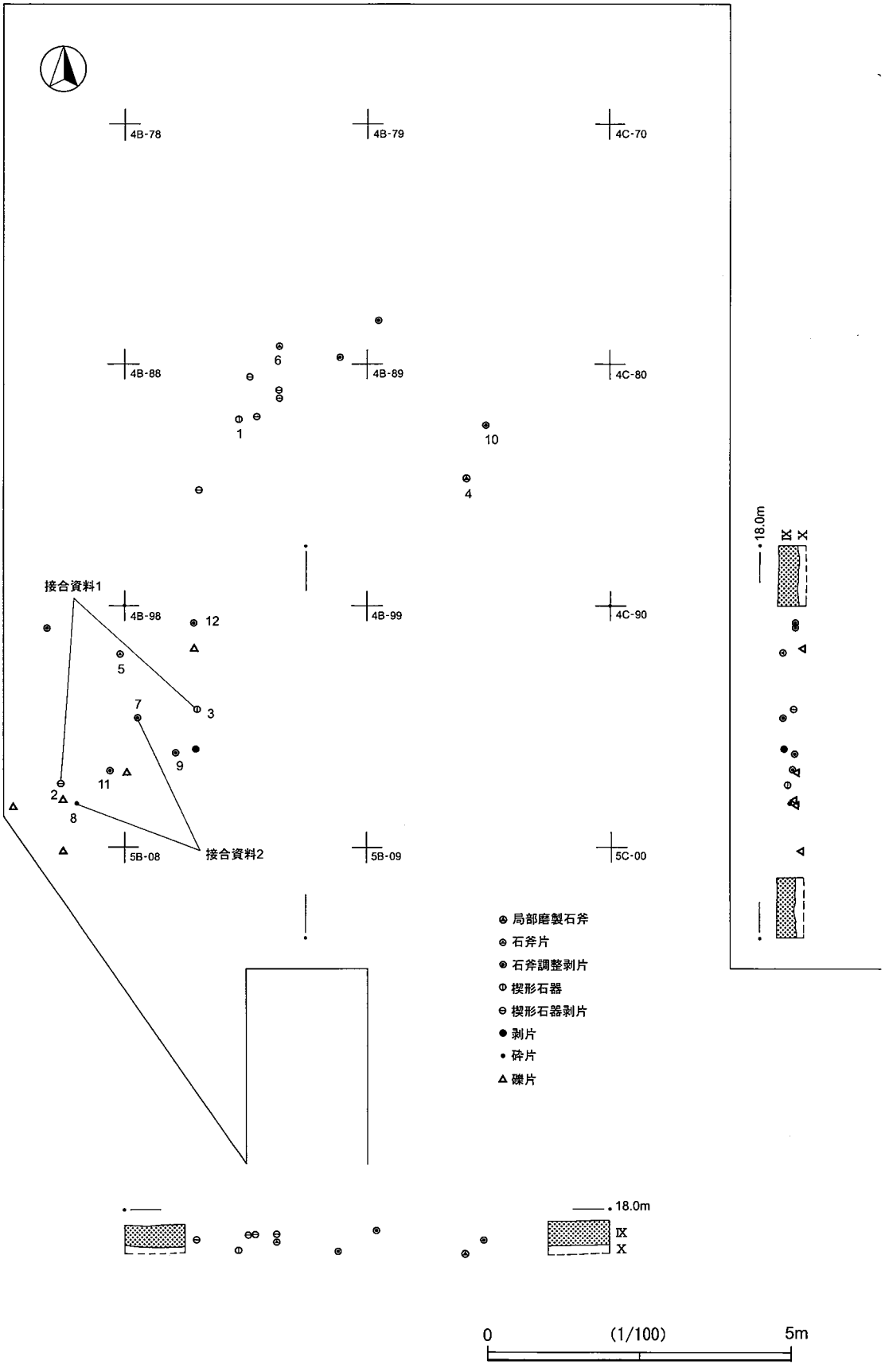
粘板岩は2母岩に分けられた(母岩No.1・3)。濃青灰色の母岩No.1は楔形石器(1) 1点と楔形石器剥片1点の2点で構成される。薄青白色の母岩No.3は楔形石器剥片4点で構成され，同一母岩が石器集中2に分布している。

チャートは楔形石器と剥片の接合資料1 (2＋3)のみである(母岩No.2)。青灰色を呈した母岩で質はあまり良くない。

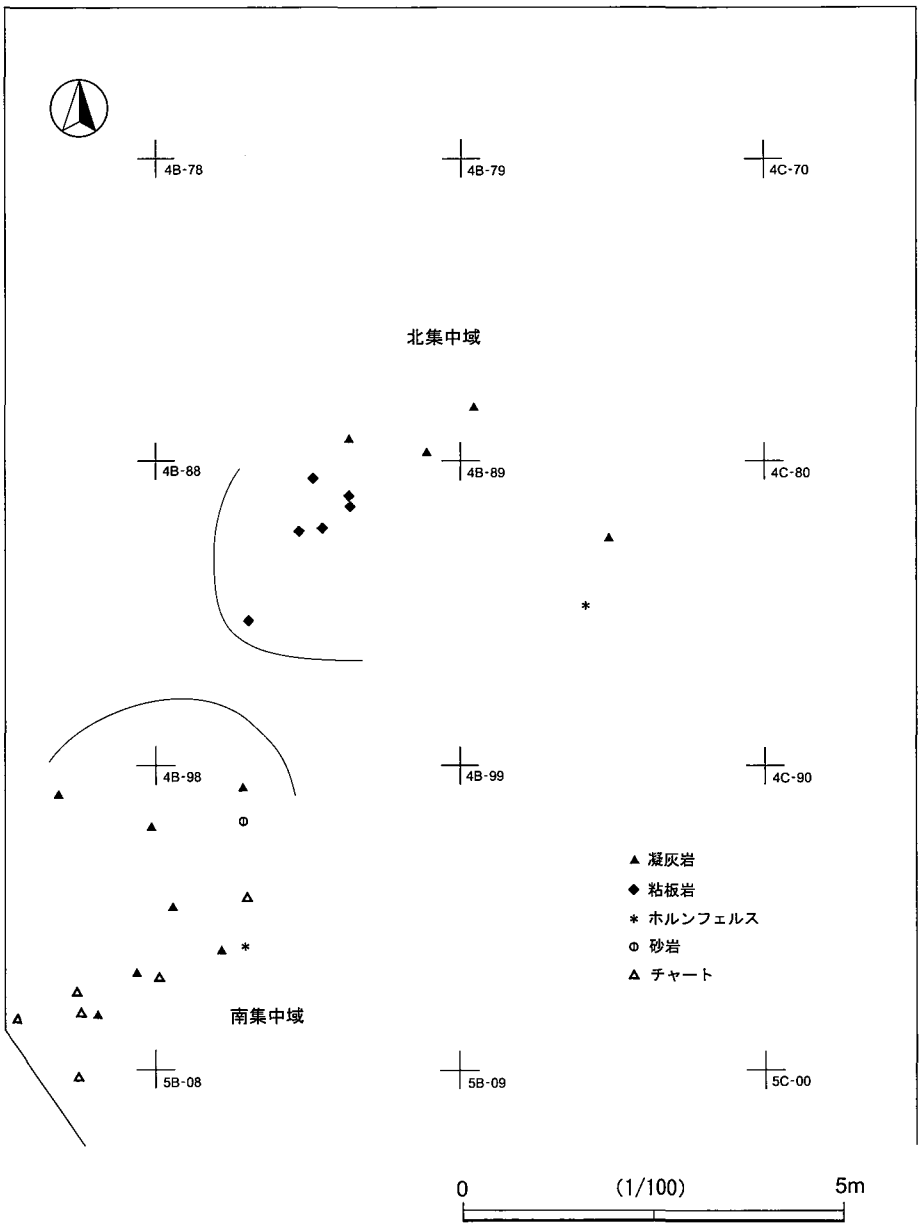
ホルンフェルス2点は，いずれも単独母岩である。

(2) 石器集中2（第14～17図，第12・15表，図版2・52・53）

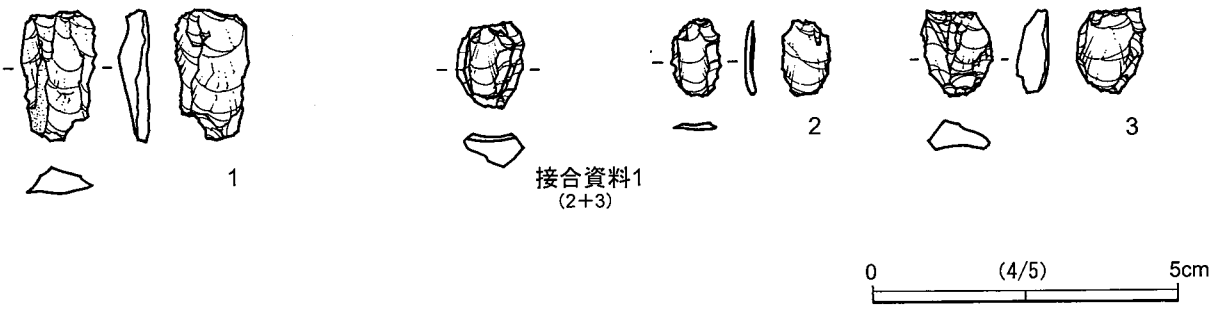
分　布　調査区の西端，石器集中1の南東側に隣接し，5C-20・21を中心に南北8ｍ×東西8ｍの範囲に



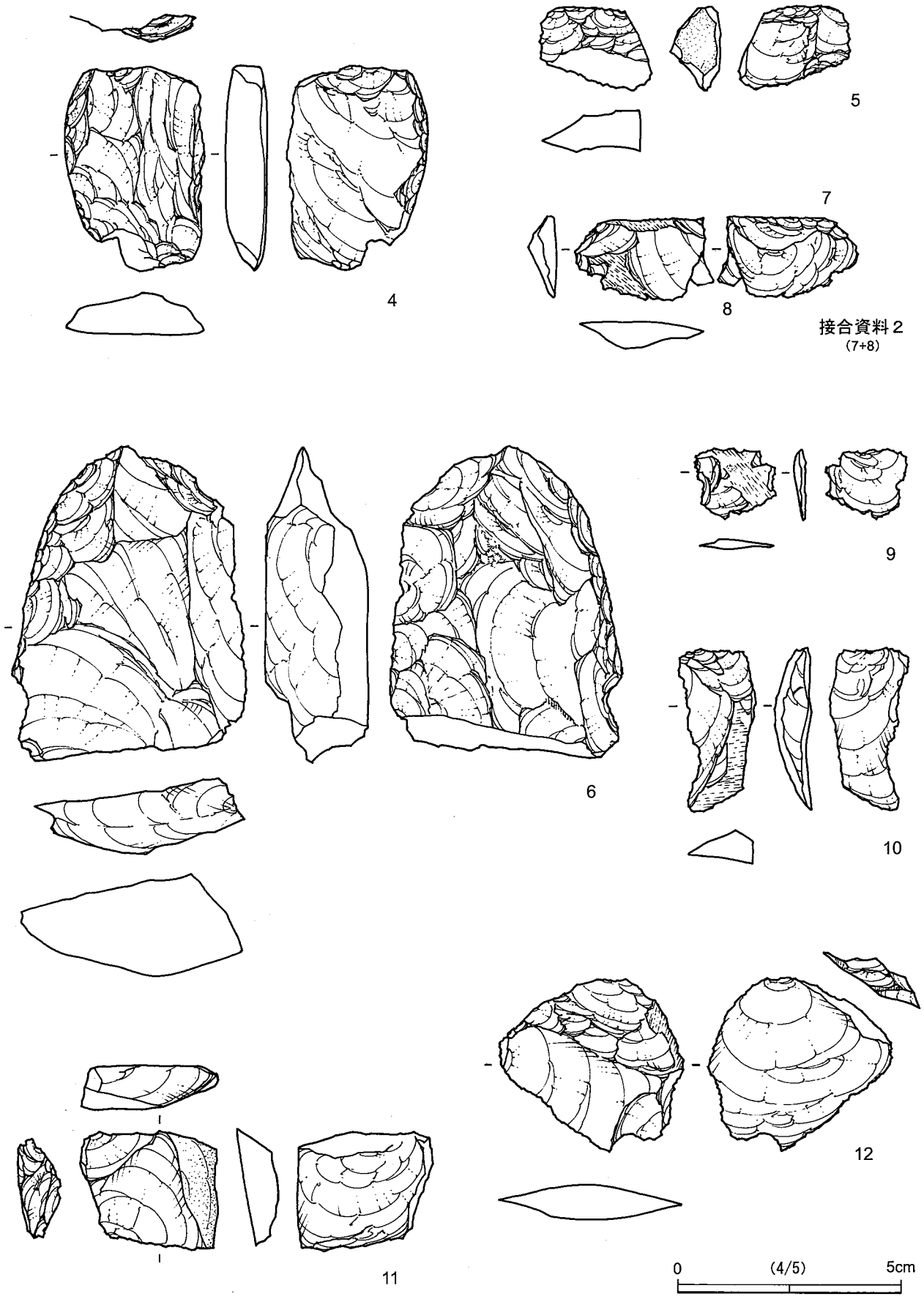
第10図　石器集中1 器種別出土状況



第 11 図　石器集中 1 石材別出土状況



第 12 図　石器集中 1 出土石器 (1)



第13図　石器集中1 出土石器 (2)

まばらに濃淡をもって分布する。石器集中1から帯状にブロックが連続して弧状を呈すれば，径20数m規模の環状ブロックを形成していた可能性もある。出土層位はIX層下位～X層であり，石器群の内容等を勘案しても，石器集中1とは同一時期のものと考える。

器　種　石斧片1点，楔形石器3点，剥片25点，礫片3点の合計32点が出土した。1～3は楔形石器である。両極剥離によって表裏ともに剥離が進行し，断面が特徴的な紡錘形となっている。4は凝灰岩製の石斧片である。上下両端ともに欠損している。実測図の下半側の側縁の稜はややつぶれた状態で，上端側は鋭利な稜が残っている。5～11は石斧調整剥片である。線状の打面や，剥片の末端がきれいに抜けないでスッテップフラクチャーを呈しているものが目立つ。5～8には背面に研磨痕が観察される。

石　材　凝灰岩17点，粘板岩2点，ホルンフェルス6点，黒色頁岩1点，チャート5点，流紋岩1点で構成される。

凝灰岩は17点中14点4母岩を抽出した(母岩No.6～9)。そのうち2母岩は石器集中1にも分布する(母岩No.6・No.7)。母岩No.6は風化剥離面が明青灰色，新鮮な剥離面は濃紺色を呈する母岩。石斧調整剥片2点で構成される。母岩No.7は薄灰緑色を呈し，濃緑色の粒子が散らばる母岩で，石斧調整剥片5点で構成される。図示した接合資料4以外の3点の背面にはいずれも研磨痕が観察される。母岩No.8は明灰緑色を呈する細粒子の母岩で，石斧調整剥片2点で構成される(5)。母岩No.9は淡緑灰色を呈する母岩で僅かに濃緑色の粒子を含む。剥片5点で構成され，大半が石斧調整剥片である。

粘板岩は2点あるが同一母岩で，石器集中1にも分布する(母岩No.3)。いずれも板状に剥離された資料で，そのうち1点には背面に研磨痕が観察される。石器集中1に分布する資料は両極剥離に伴う剥片であることから，石斧調整剥片を素材とした両極剥離が行われた可能性が指摘される。

チャートは3点中2点1母岩を抽出した(母岩No.11)。円磨礫を素材とした母岩で，黒色～青白色を帯びたものである。石核(12)1点と剥片1点で構成される。

ホルンフェルスは楔形石器(1)1点を除く，5点が同一母岩である(母岩No.10)。母岩No.10は楔形石器(3)1点，剥片4点で構成され，剥片はそのほとんどが石斧調整剥片の特徴を持つ(接合資料3)。

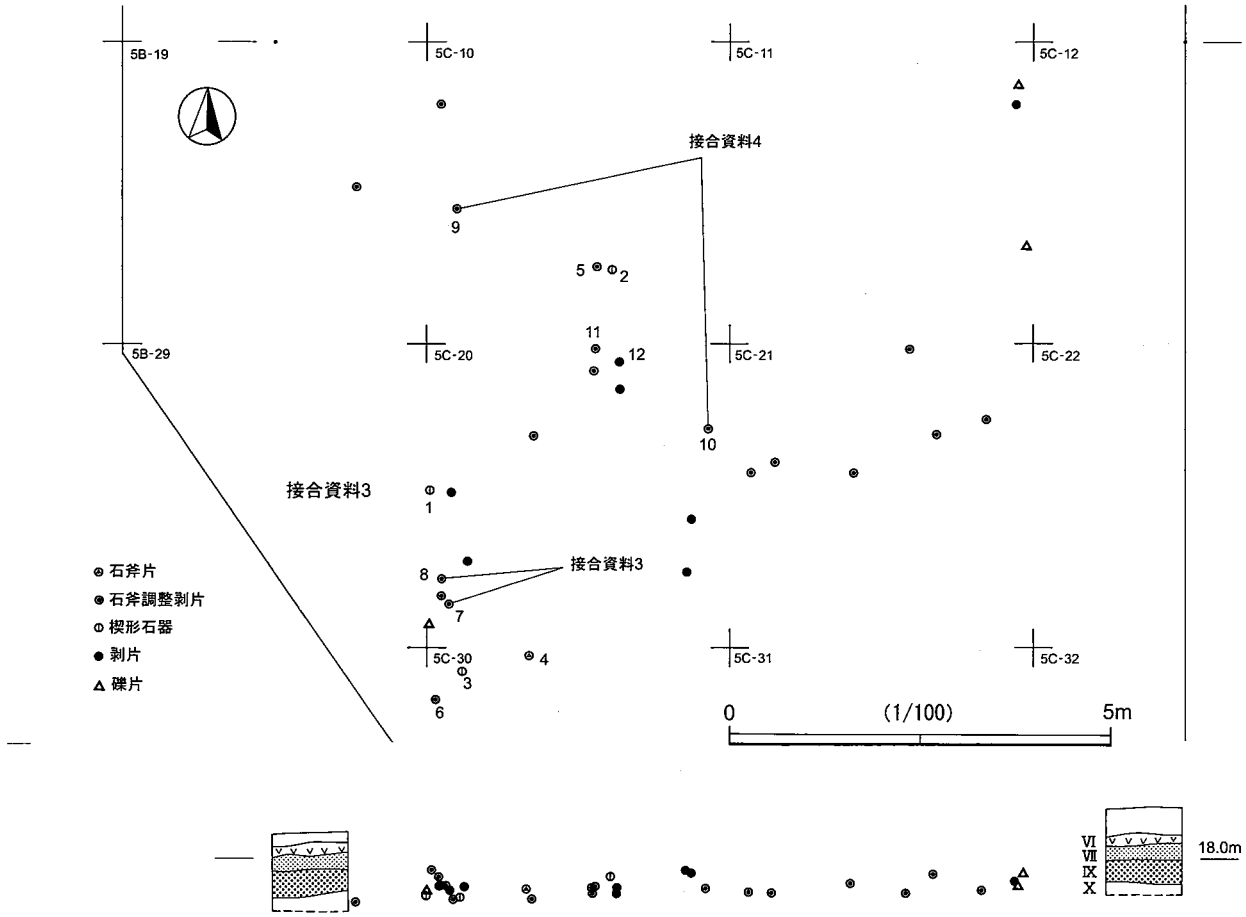
(3) 石器集中3（第18～21図，第13・16表，図版3・54)

分　布　調査区西側の4C-75～78グリッドを中心に南北7m×東西14mの範囲にまばらに散在する分布状況である。出土層位はVIIを主体とし，一部IX層～X層に広がる。

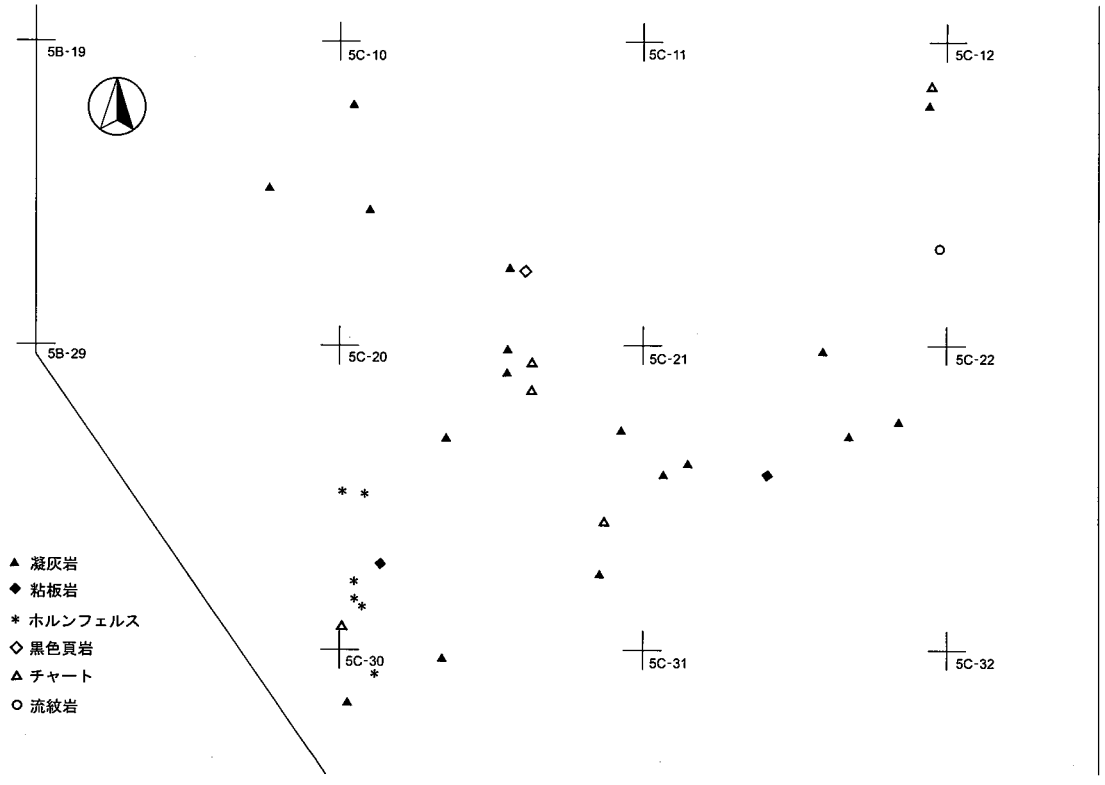
器　種　台形様石器1点，石斧未成品1点，剥片16点，石核1点，礫片2点の合計21点が出土した。

1はチャート製の台形様石器で，やや分厚い剥片を素材とし，剥片の側縁に急角度調整が施されたものである。チャート製の剥片(2～8)は，節理の発達状況から定型的な剥片を剥離することは困難であった石核から剥離されたものと推測される。平坦な剥離面を打面とし，背面状況からは特に規則性無く打面を移動させながらランダムに剥片剥離を進めていることが分かる。9は分厚い剥片を素材とした石核で，剥片の小口面を剥離面に設定している。10・11は安山岩製の剥片である。平坦面を打面とし，幅広ないし矩形の形状である。12はホルンフェルス製の剥片で，打面は線状打面で石斧の調整剥片の可能性もある。13は節理面から分割された礫片の分割面の一部に調整剥離が施された資料で石斧の未成品と考えられる。

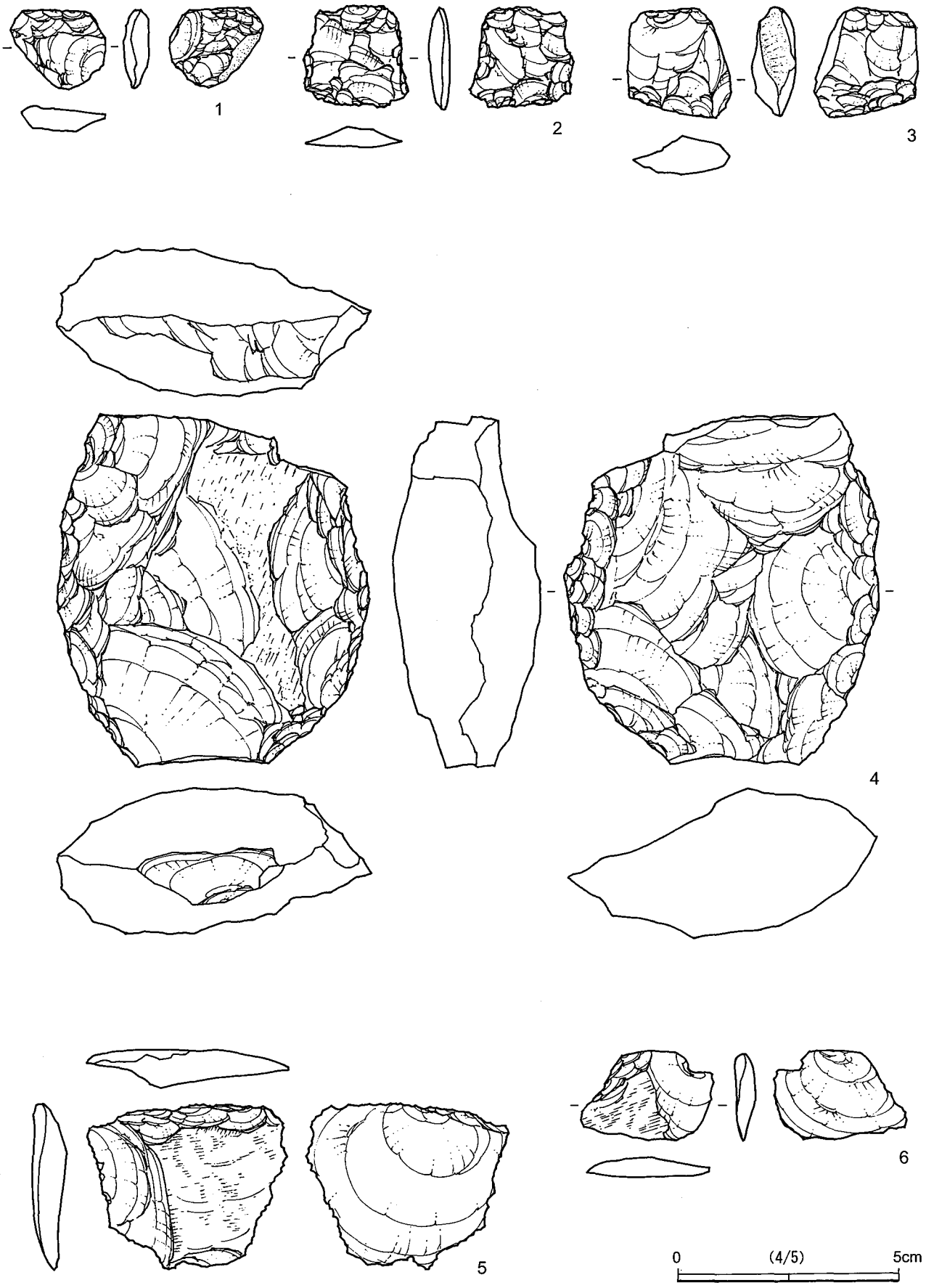
石　材　チャート14点，ホルンフェルス2点，安山岩2点，凝灰岩1点，黒曜石1点，砂岩1点で構成される。チャートは接合資料1を含む母岩No.1（3点)を抽出した。黒色の節理面が特徴で濃い緑色を呈する。母岩No.1以外のチャート11点は，母岩No.1と比べると白色帯びた資料が多く，一部に黒色に近い濃緑色が混じるなどやや変異に富んだ資料であるため積極的には母岩を抽出することはしなかったものの，白色の節理が筋状に走る特徴は多くの資料にみられることから，その多くは同一母岩の可能性が指摘される。



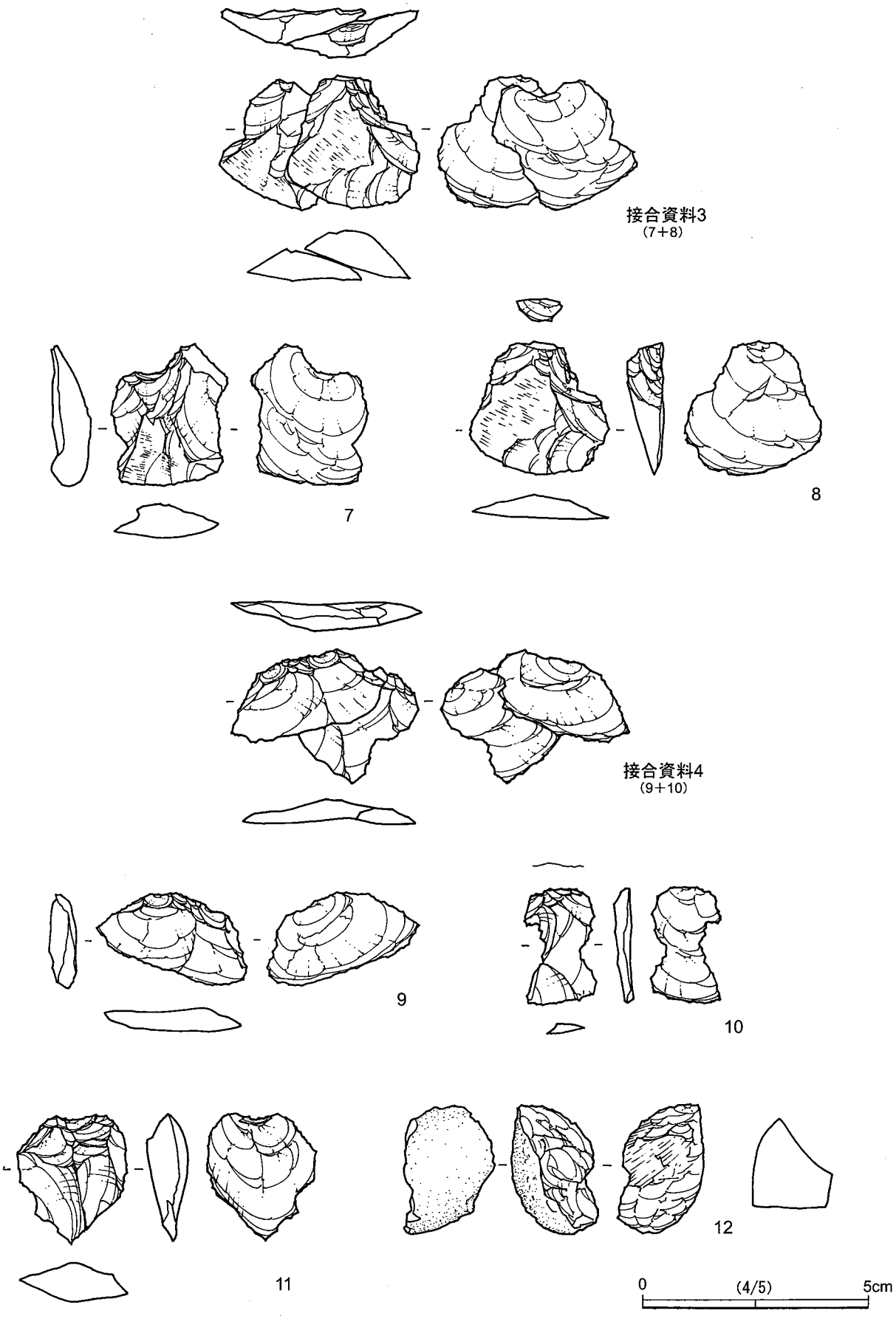
第 14 図　石器集中 2 器種別出土状況



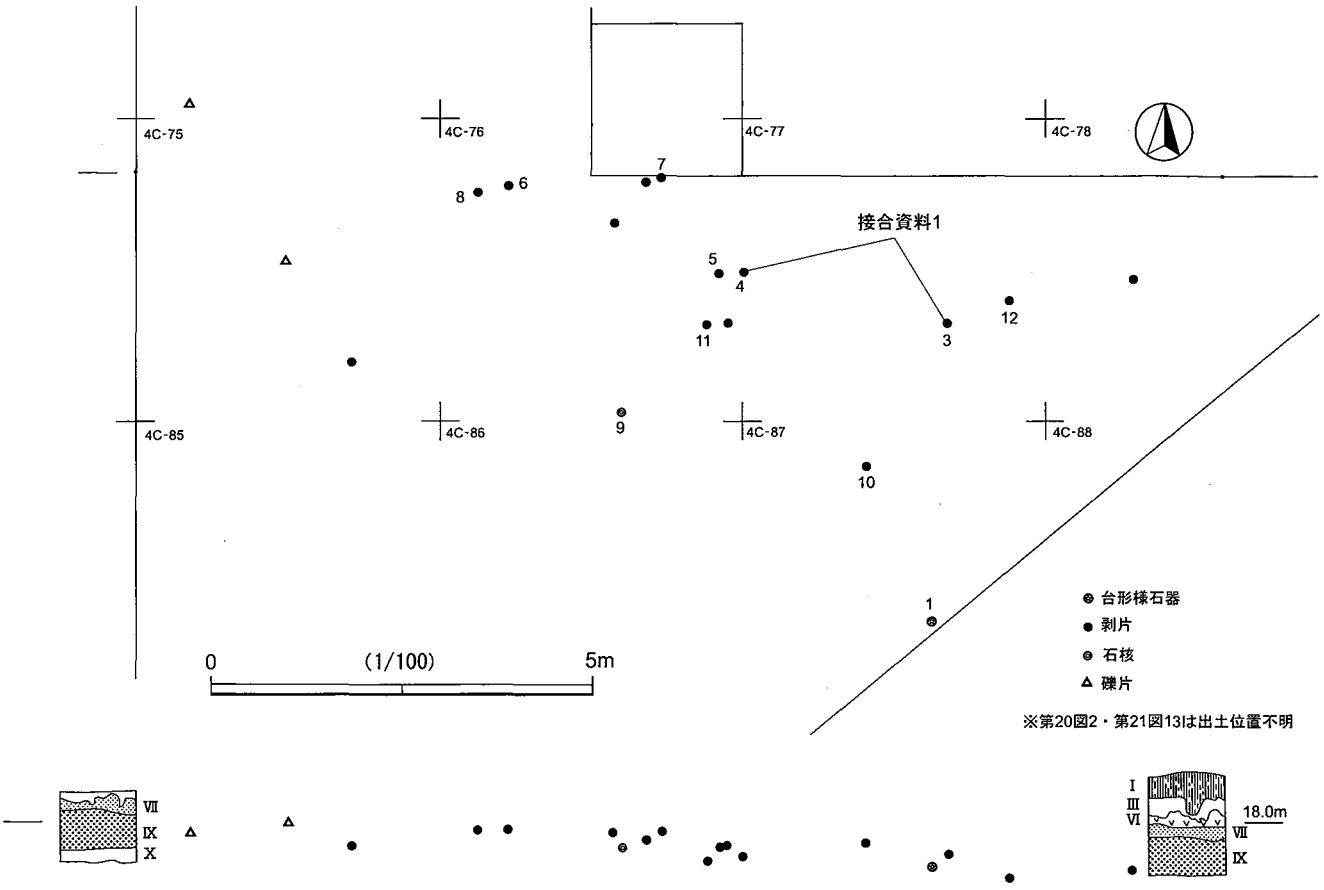
第 15 図　石器集中 2 石材別出土状況



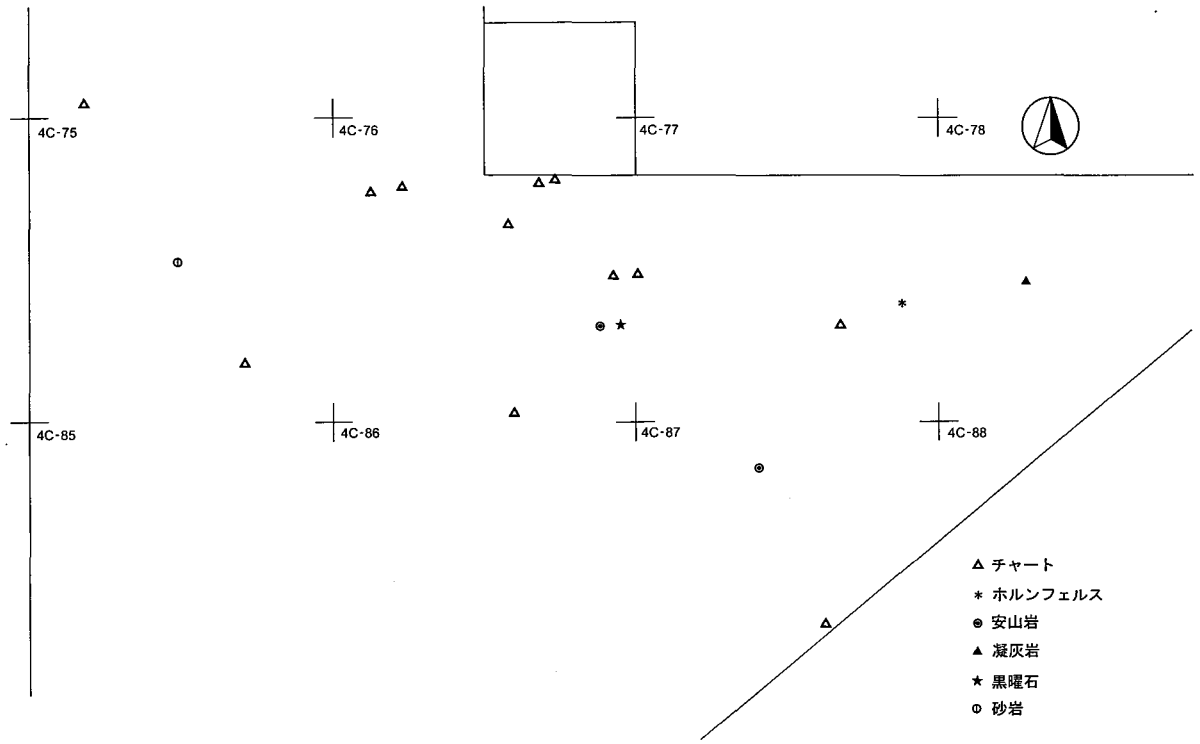
第 16 図　石器集中 2 出土石器 (1)



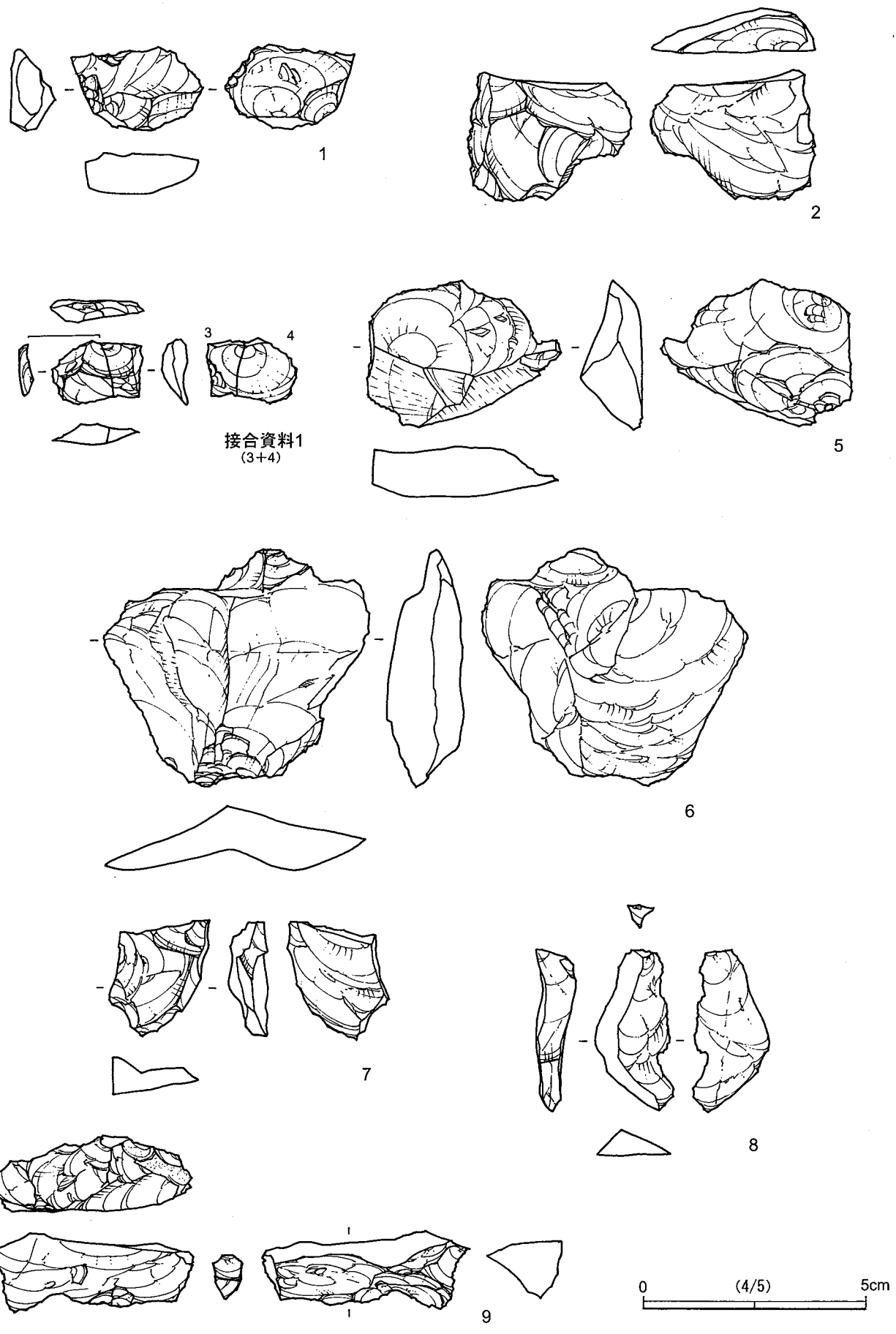
第17図　石器集中2 出土石器 (2)



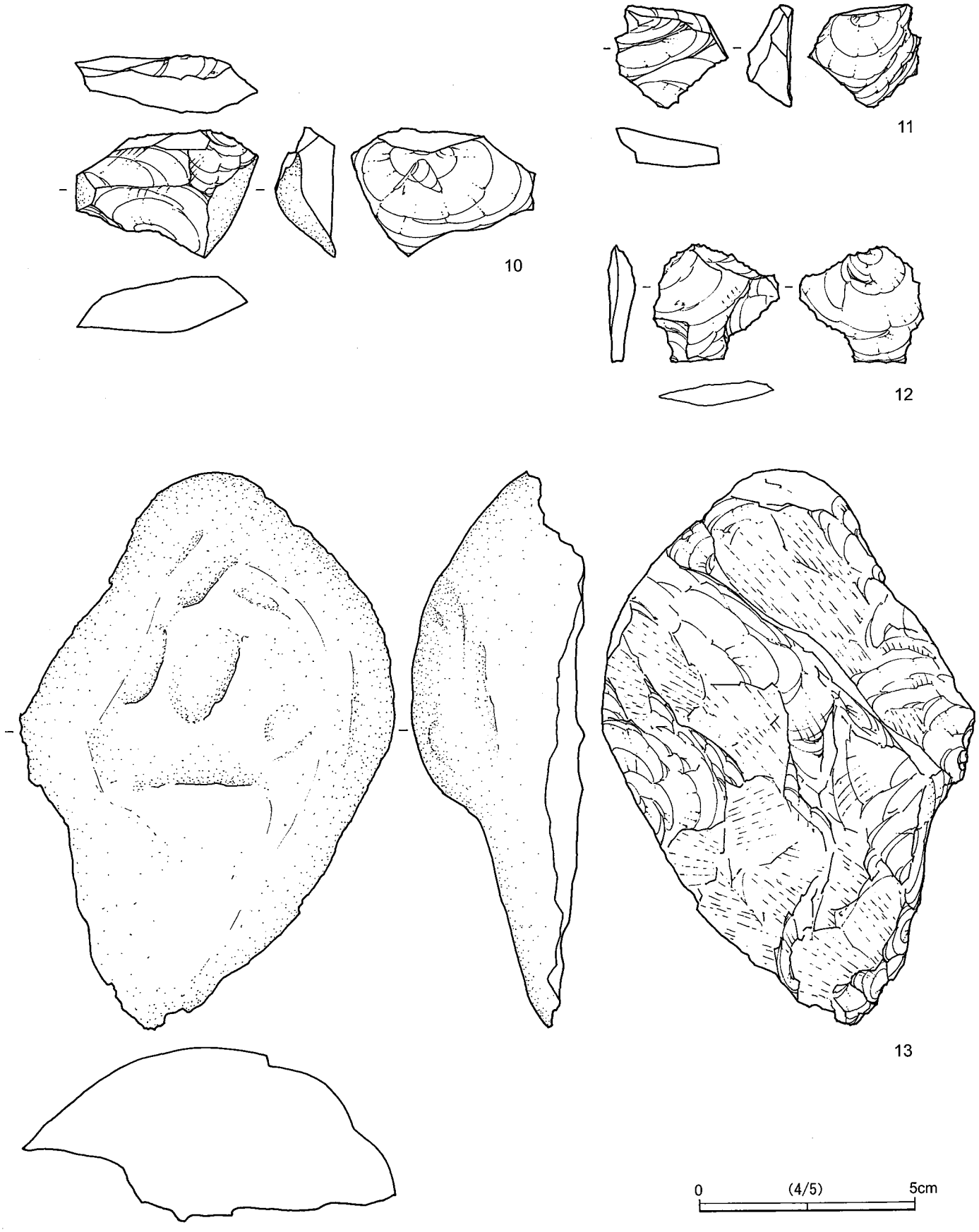
第 18 図　石器集中 3 器種別出土状況



第 19 図　石器集中 3 石材別出土状況



第 20 図　石器集中 3 出土石器 (1)



第 21 図　石器集中 3 出土石器 (2)

第2節　縄文時代・弥生時代（第22図・第1表）

縄文時代に属する遺構は陥穴のみであった。また，弥生時代に属する遺構は竪穴住居跡2軒，土坑5基である。この時期の遺構は少なく，後世の奈良・平安時代の竪穴住居や掘立柱建物によって削平を受けてしまっており，完全な形では残っていないものが多い。他の時期にも共通して言えることであるが，中世以降大きな削平を受けているので，場合によっては完全に消滅してしまった遺構もあった可能性が高い。

第1表　八幡神社北(1)遺跡 縄文時代・弥生時代 遺構一覧表

縄文時代

遺構No.	種類	位置(グリッド)	備考
SK-035	土坑	4D-50	陥穴？
SK-078	土坑	4D-08	陥穴

遺構No.	種類	位置(グリッド)	備考
SK-079	土坑	4D-22	陥穴？
SK-080	土坑	4D-24	陥穴？

弥生時代

遺構No.	種類	位置(グリッド)	備考
SI-032	竪穴住居跡	5C-01	
SI-040	竪穴住居跡	4C-96	
SK-023	土坑	4B-59	
SK-024	土坑	4B-59	

遺構No.	種類	位置(グリッド)	備考
SK-031	土坑	4C-05	
SK-032	土坑	4C-06	
SK-033	土坑	3C-86	

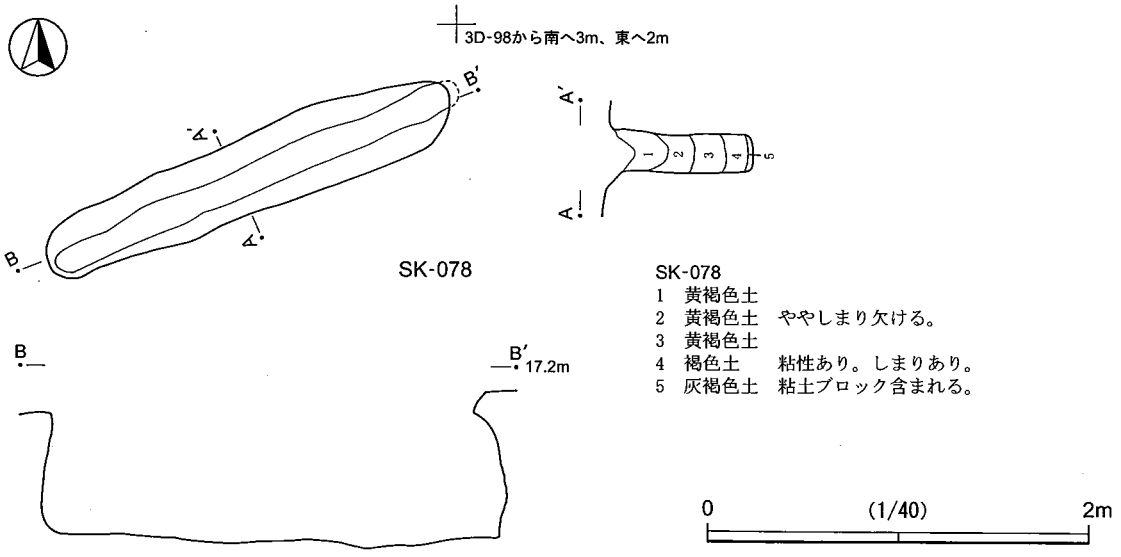
1　縄文時代

縄文時代の遺構として確実に捉えられたのは陥穴1基(SK-078)のみである。なお，中世遺構群に深く削平され，形状・規模がはっきりしないが，4D-50（SK-035：図版48）・4D-22（SK-079：図版51）・4D-24(SK-080：図版51)グリッドにそれぞれ1か所ずつ，陥穴の可能性のある掘り込みの痕跡が確認された。

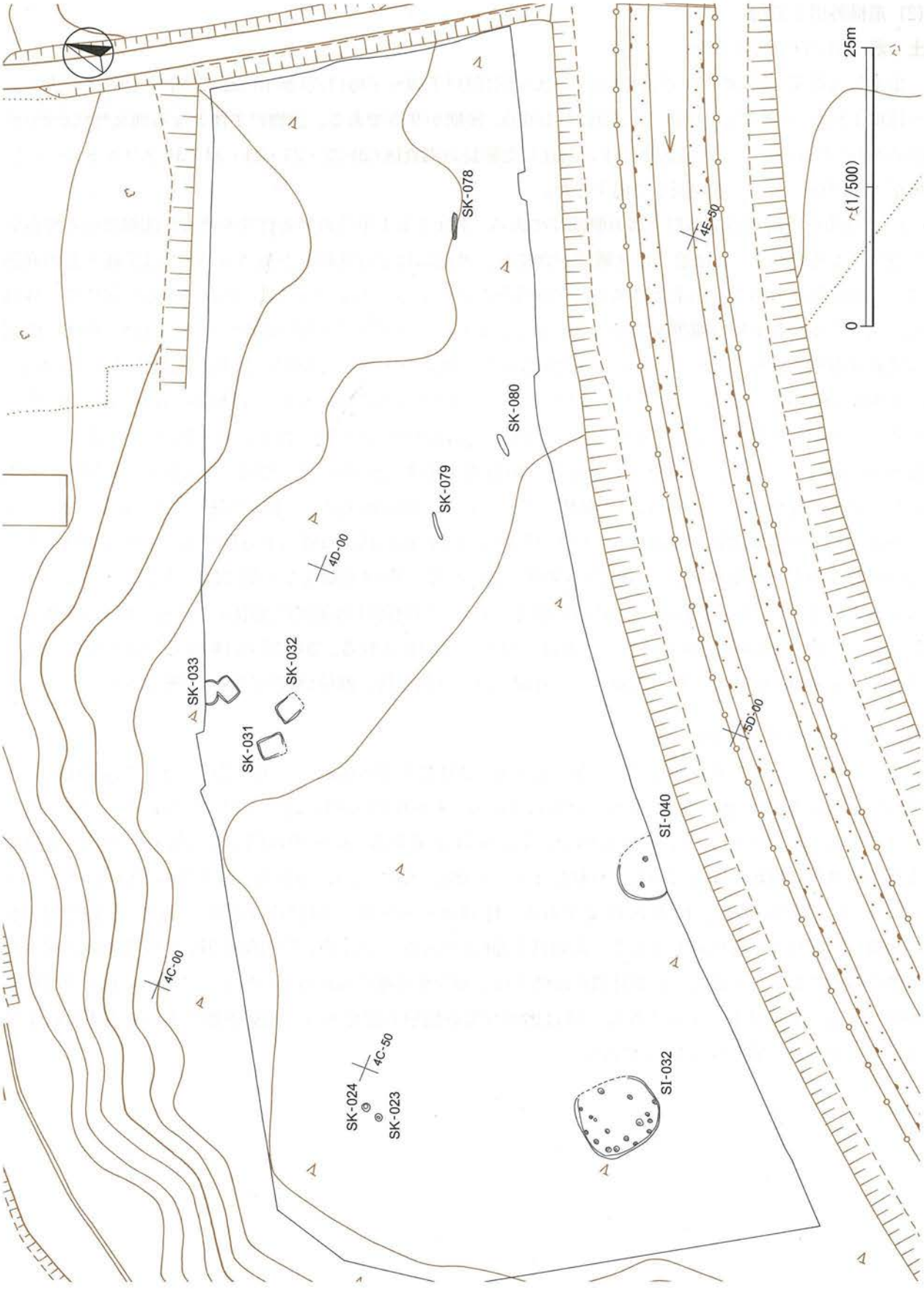
(1) 土　坑

ＳＫ－０７８（第23図）

4D-08グリッドに位置する。当初は上に広がる掘立柱建物跡の柱穴群によって認識できなかったが，発掘がすすむにつれて平面プランが確認された。規模は，長軸2.56 m・短軸0.22 m・深さ0.8 mである。細長い平面形で，長軸壁面がオーバーハングする形状である。遺物は出土しなかった。



第22図　SK-078



第 23 図　縄文時代・弥生時代遺構分布図

(2) 遺構外出土遺物

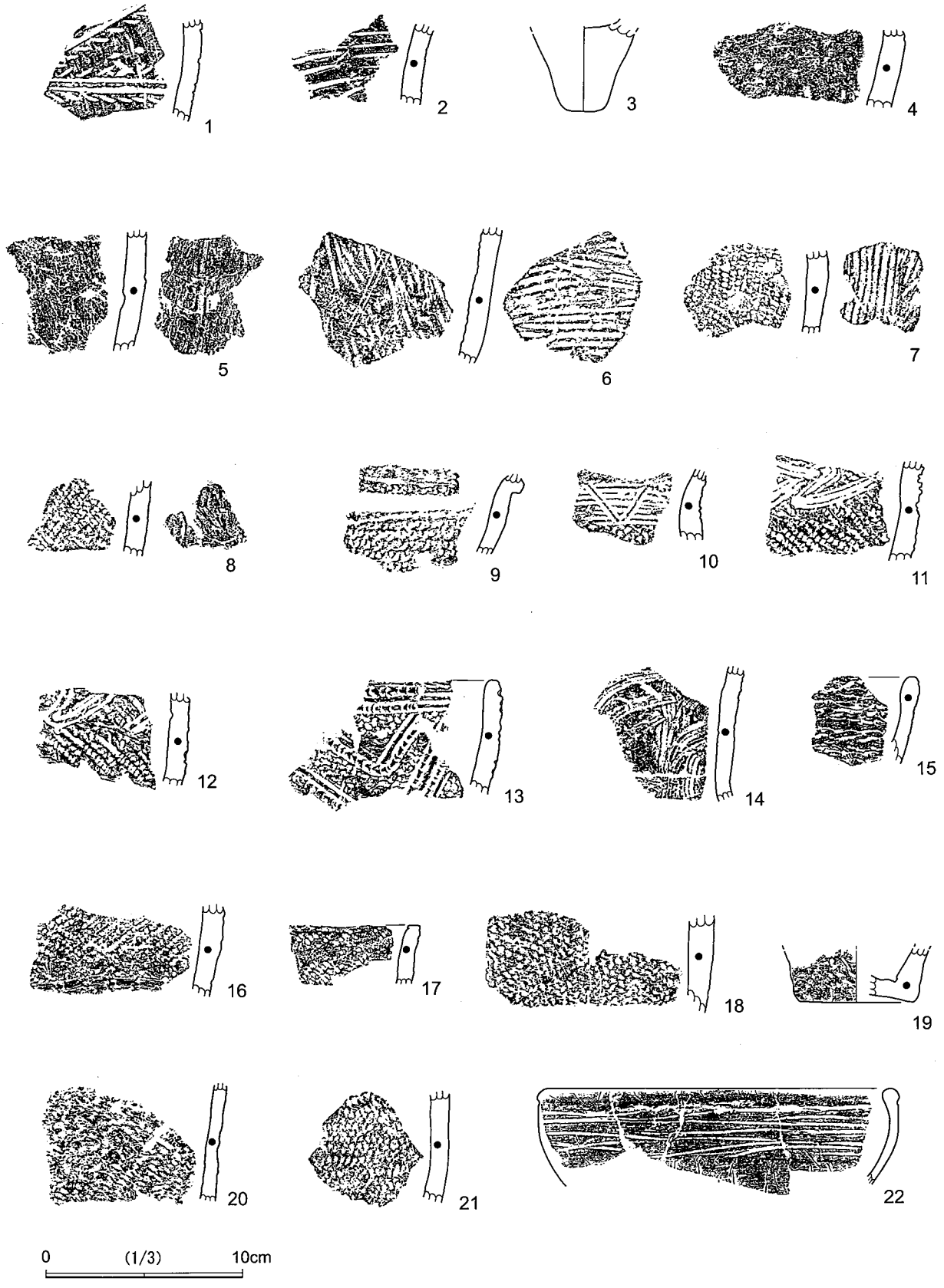
土　器（第24図，図版56）

出土した縄文土器の時期の内訳は縄文時代早期(田戸下層～子母口式)が18点，早期～前期(茅山上層式～花積下層式)が49点，前期(黒浜式期)が186点，後期が9点である。遺物の主体となる縄文時代前期(黒浜式期)の土器は大半が道路拡幅に伴い調査した細長い調査区(2D-22・23・24・33・34グリッド)からで，現在の水田面にかなり近い高さで出土した。

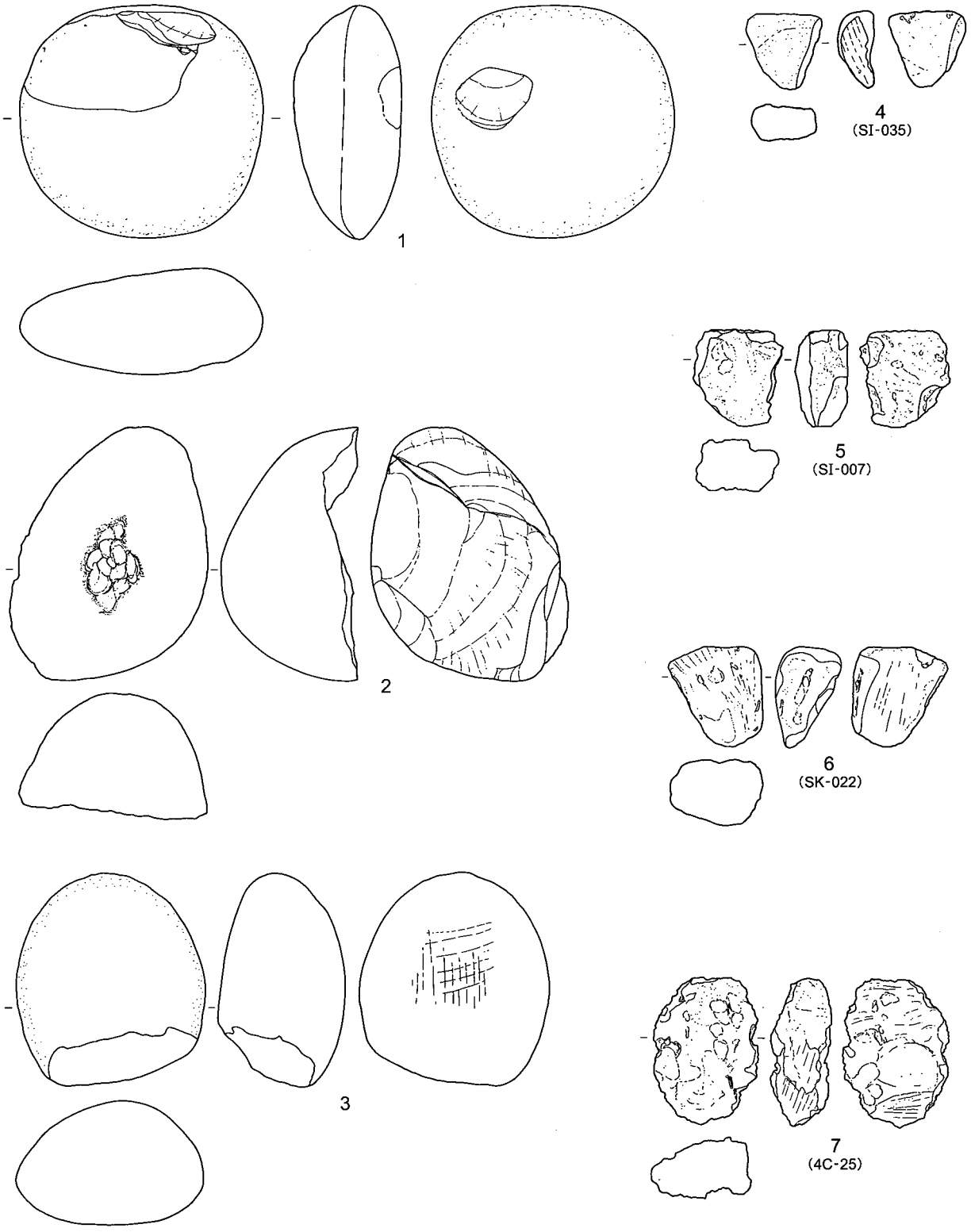
1・2は田戸下層式の深鉢形土器の胴部片である。1は2本1単位の半截竹管を使った沈線に沿って斜位の刺突文が施される。2は胎土には繊維が含まれ，外面には平行沈線文が施される。3は尖底土器の底部で，外面は無文である。胎土にはスコリアが多量に含まれる。4は子母口式の深鉢形土器胴部片で，外面は無文である。胎土には繊維が含まれる。5は茅山上層式の深鉢形土器胴部片である。外面は無文，内面は条痕文が施される。6～8は茅山上層式から花積下層式の深鉢形土器破片で，胎土には繊維が含まれる。6は外面に縦方向，内面には横方向の条痕文，7・8は外面が単節LR縄文，内面が縦方向の条痕文が施される。9は前期の深鉢形土器片と考えられ，胎土には白色砂粒が多量に含まれる。10～21は黒浜式の深鉢形土器破片で，胎土には繊維が含まれる。10は縄文地文に横位の平行沈線，半截竹管で鋸歯状に区画される文様が施される。11・12は同一個体と考えられる。縄文地文に，3本1単位の沈線で曲線が描かれ，その後2本1単位の沈線が施される。13はLR縄文地文に鋸歯状に竹管による押引文，その後口縁に沿って直線的な押引文が施される。14・15は条線が施される。16は羽縄文と下部にはヘラ状工具による押引文が施される。17は口縁部片で外面はLR縄文である。口唇部は角頭状に面取りされる。18はRL縄文が施される。19は深鉢形土器の底部で，まばらな撚糸文が施される。20・21はLR縄文が施される。22は加曽利B式期の(浅)鉢形土器で内面ナデ，外面にはヘラ削り後，横位の浅い沈線文が施される。

石　器（第25・26図，図版55）

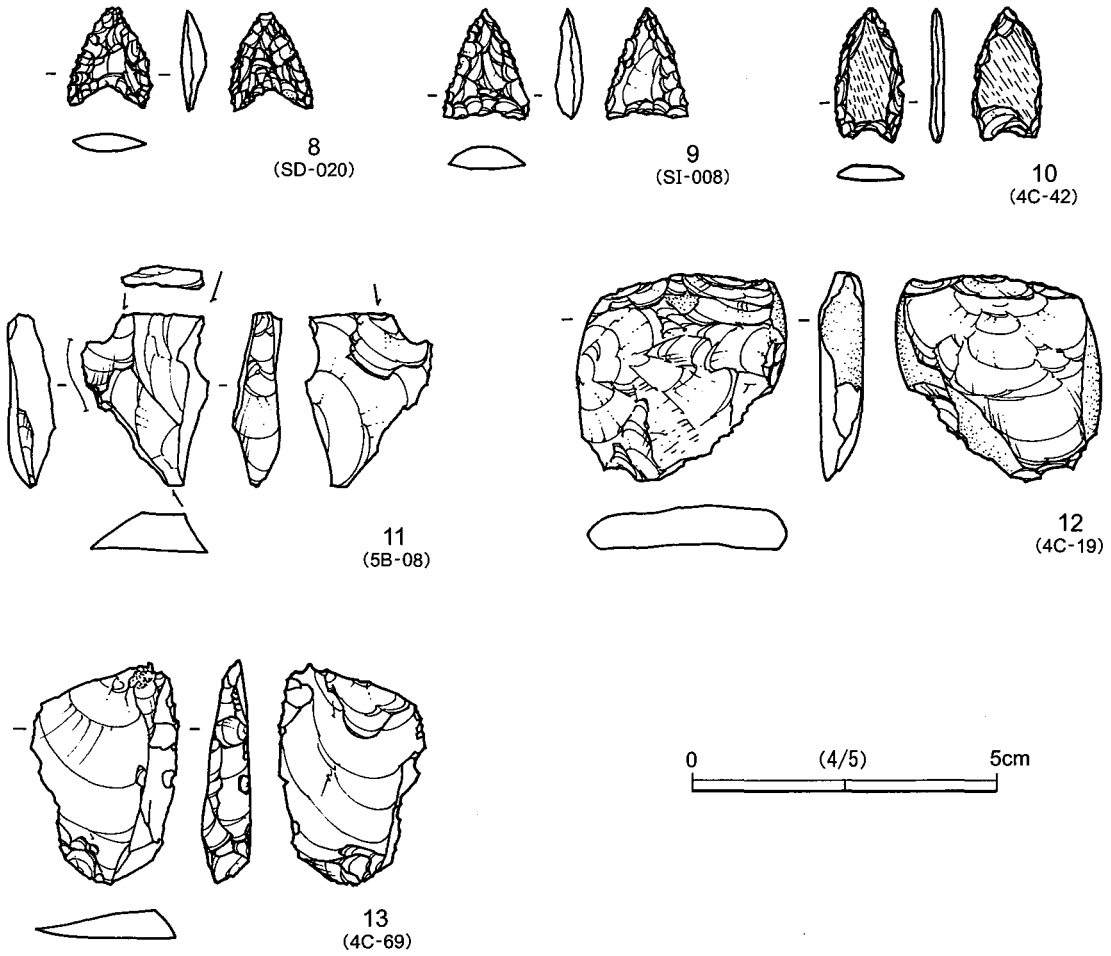
1はホルンフェルス製の敲石で，重量302.8ｇ，2は頁岩製の敲石で，重量279.2ｇ，3は安山岩製の磨石で，重量237.56ｇである。4～7は軽石である。4～6の色調は白色，7はやや黒みを帯びる。重量は4は1.12ｇ，5が2.89ｇ，6は5.86ｇ，7は6.51ｇである。8～10は凹基の石鏃で，10のみ表裏に研磨が施され，板状となっている。石材はチャート(8)，安山岩(9)，凝灰岩(10)を用いている。重量は8が0.64ｇ，9が0.88ｇ，10が0.78ｇである。11はチャート製の彫刻刀形石器で，剥片の折面や端部から加撃し，彫刻刀面を形成している。重量は3.80ｇである。12は薄い楕円礫を用いて両極剥離が施された楔形石器である。石鏃などの素材剥片に供される剥片を剥離するための石核として用いられた可能性も指摘できる。重量は11.47ｇである。13は黒曜石製の楔形石器である。両極剥離によって表裏共にポジ面となっている。重量は5.16ｇである。



第 24 図　縄文土器



第25図　縄文時代石器 (1)



第 26 図　縄文時代石器 (2)

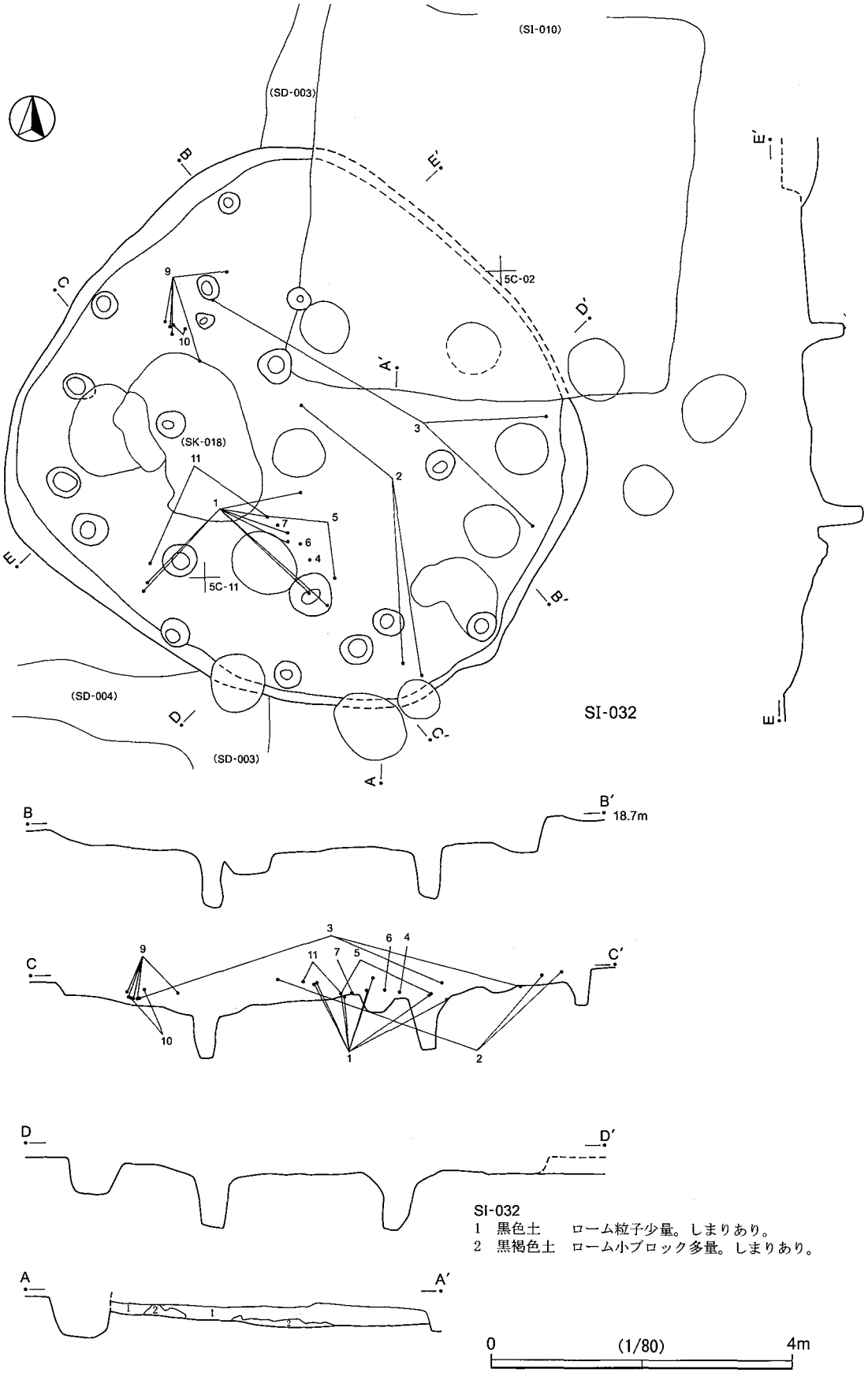
2　弥生時代（第 17・19 表）

竪穴住居跡は調査区南側の台地平坦面，土坑は調査区北側の北へ緩やかに傾斜しはじめる台地縁辺部で検出された。土坑については積極的に弥生時代とする遺物は出土していないが，発掘時の所見を優先し，弥生時代の帰属とした。

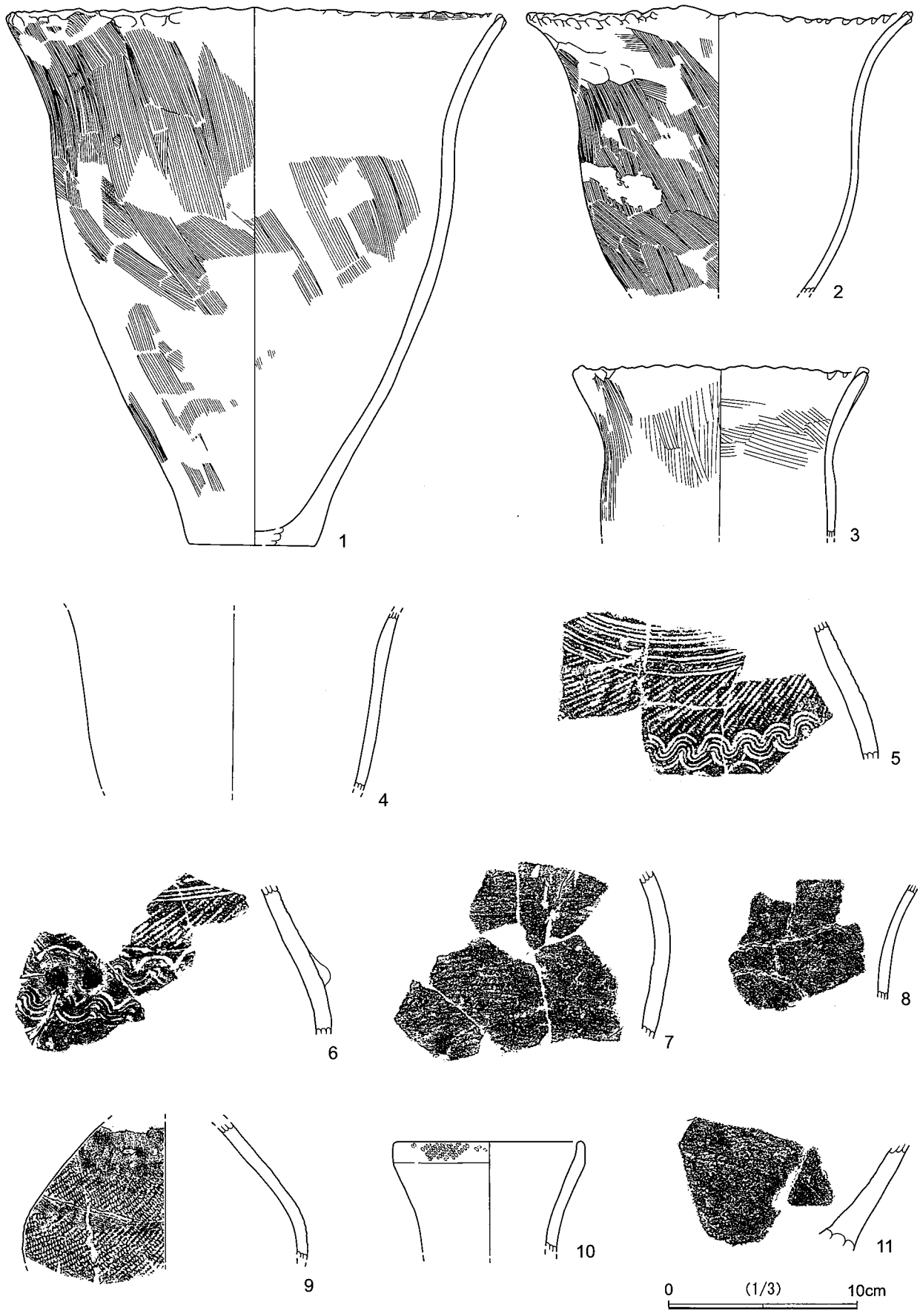
(1) 竪穴住居跡

ＳＩ－０３２（第 27・28 図，図版 23・24・57）

5C-01 グリッドに位置する。形状はやや丸みの強い隅丸方形を呈し，規模は推定長軸 7.30 m・短軸 6.70 m・深さ約 0.30 mである。床面は住居中央部が最も深くなり，壁は緩やかに立ち上がる。遺物は住居南端で波状口縁の甕型土器片がまとまって出土した。調査当初は弥生時代の竪穴住居跡ではなく，不整形の落ち込みと考えていたが，掘りあがった状況と出土遺物・柱穴から竪穴住居跡として捉えた。炉跡は掘立柱建物跡(SB-001)によって削平されたと考えられ，床面には炉跡に伴う焼土の痕跡すら確認できなかった。主柱穴は 4 本で，その間隔は 2.4 m，2.9 mである。その他に壁に沿って柱穴が 11 本確認された。間隔は一様ではなく，住居南側に集中する。

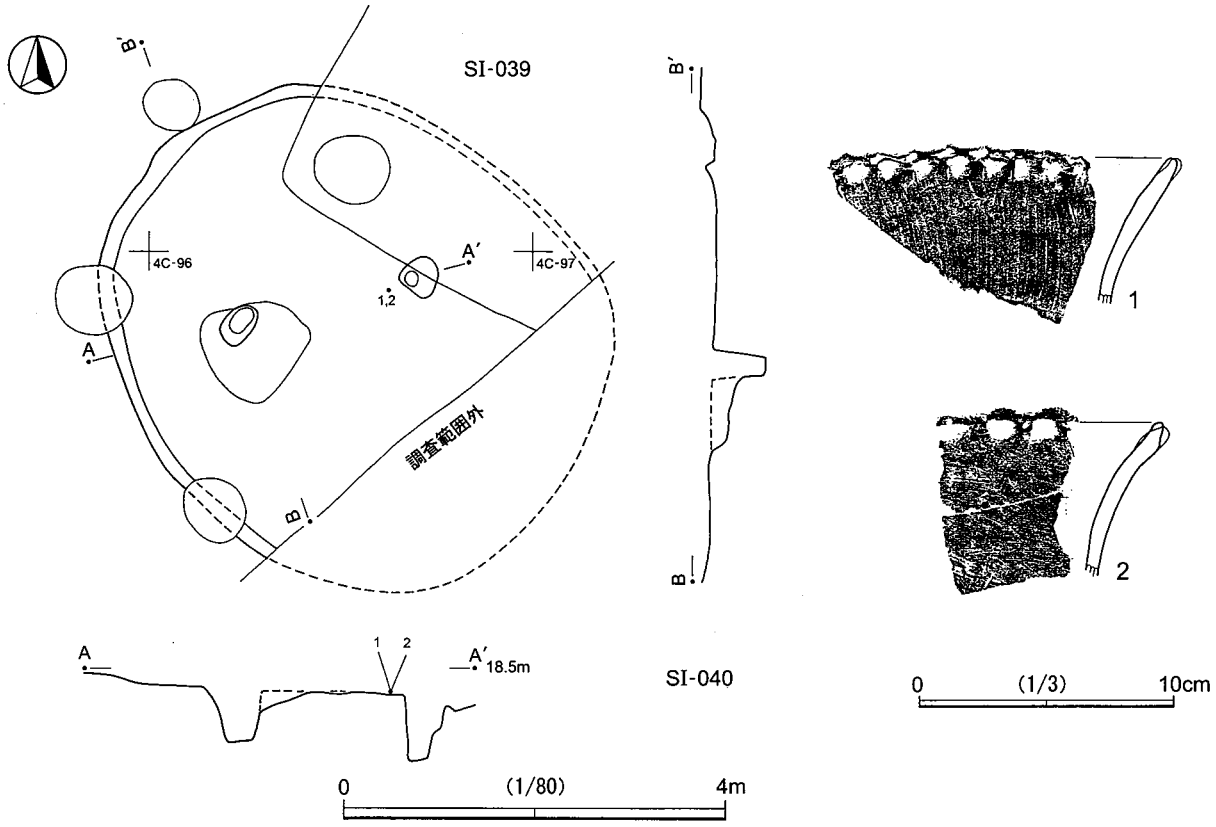

(SI-010)
(SD-003)
(SK-018)
(SD-004)
(SD-003)
5C-02
5C-11
SI-032
B′
18.7m
SI-032
1 黒色土　ローム粒子少量。しまりあり。
2 黒褐色土　ローム小ブロック多量。しまりあり。
0
(1/80)
4m

第27図　SI-032(1)



第 28 図　SI-032 (2)

1・2・3は口縁が大きく外反する甕形土器で，口唇部は指頭による交互押捺を施す波状口縁である。口縁以下に細かなハケ目を施し，1･3は内面にもハケ目が残る。焼成は良好で，胎土にスコリア(1～3㎜)・黒色粒子・雲母粒子・海綿骨針が少量含まれる。1は全体の1/5の遺存である。色調は外面がにぶい褐色～黒褐色，内面はにぶい褐色～にぶい黄褐色である。2は口縁部～胴部の1/2の遺存である。色調は外面が褐色，内面がにぶい黄橙色である。胴部外面には炭化物が付着する。3は口縁部～胴部上半の1/2の遺存である。色調は外面が灰褐色～黒色，内面がにぶい黄褐色である。1・2に比べハケ目は単位の粗いものを使用しているが，胎土・焼成は共通する。4・8は甕胴部破片である。接点はないが同一個体の可能性が高い。色調は内外面共に灰褐色である。焼成は良好で，胎土には白色粒子･海綿骨針が少量含まれる。内外面共にナデ調整であるが，摩滅気味である。5・6は　壺形土器の肩部片で接点はないが同一個体である。焼成は良好で，胎土には微小砂礫が含まれる。横位と波状の櫛描文の間にLR縄文が施される。6は2か所に突起を有する。7は壺胴部破片である。外面は丁寧な横方向を中心とするミガキ調整，内面はナデ調整が施される。色調は外面が灰褐色～黒色，内面が灰褐色である。焼成は良好で，胎土に微小砂礫･黒色粒子が含まれる。9は，壺胴部上半4/5の遺存である。焼成は良好で，胎土には雲母粒・微小砂礫が含まれる。色調は内外面共に橙色である。横位の縄文帯のその間を磨り消している。頸部に近い部分は丁寧な縦方向のミガキ調整，内面はナデ調整である。10は壺口縁部の3/10の遺存である。色調は内外面共に橙色である。焼成は良好で，胎土には微小砂礫・海綿骨針・雲母粒子が含まれる。外面はミガキ調整され，口縁端部にLR縄文が施される。内面はナデ調整である。11は壺胴部下半破片である。色調は内外面共に灰褐色である。焼成は良好で，胎土には微小砂礫・黒色粒子が含まれる。



第29図　SI-040

ＳＩ－０４０（第29図，図版28・58）

4C-96グリッドに位置する。南東約1/3が調査範囲外にあたり，後世の竪穴住居跡，掘立柱建物跡と重複しており，規模は明白ではない。壁は西側部分が確認できたが，壁の立ち上がりがはっきりしない。平面はややいびつな楕円形で，規模は推定長軸5.4ｍ・短軸4.7ｍ・深さ0.18ｍである。柱穴は２本のみでSI-032のような企画性を持った主柱穴は確認できなかった。

出土遺物は少なく，図示できたのは甕形土器の口縁部片２点である。1・2とも口唇部は指頭による交互押捺を施す波状口縁である。焼成は良好で，胎土に各種微小砂礫が比較的多く含まれる。1の色調は内外面共ににぶい褐色である。外面は縦方向の弱いハケ目，内面は横方向のナデ調整である。2の色調は外面が黒色，内面はにぶい黄橙色である。内外面共に横方向の雑なナデ調整が施される。

(2) 土　坑

ＳＫ－０２３（第30図，図版47・58）

4B-59グリッドに位置する。小型の土坑である。平面形は円形で，規模は径0.66ｍ・深さ0.24ｍである。

1は壺で，頸部～肩部の90％の遺存である。色調は外面は黒色，内面は褐灰色である。焼成は良好で，胎土にはスコリア・白色粒子が含まれる。外面は肩部に２条の波状の櫛描文，頸部にハケ目がミガキ状に施される。内面はナデ調整と思われるが，器面はほとんど剥落している。2は小型の鉢形土器で，全体の1/4の遺存である。色調は内外面共に灰褐色である。焼成は良好で，胎土には微小砂礫・海綿骨針が含まれる。内外面共にナデ調整であるが，部分的にハケ目が残る。

ＳＫ－０２４（第30図，図版47）

4B-59グリッドに位置する。小型のピット状の土坑である。平面形はいびつな楕円形で，規模は長軸0.75ｍ・短軸0.52ｍ・深さ0.72ｍである。しっかりした掘り込みであるが，下部ほど掘り込みの形状が安定していない。SK-023に隣接しており，同一時期の可能性がある。

ＳＫ－０３１（第30図，図版48）

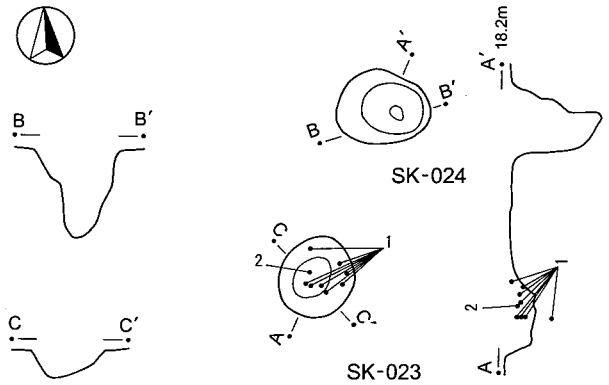
4C-05グリッドに位置する。平面形は長方形で，規模は長軸2.38ｍ・短軸1.85ｍ・深さ0.3ｍである。北西寄りの床面には被熱した痕跡がみられた。

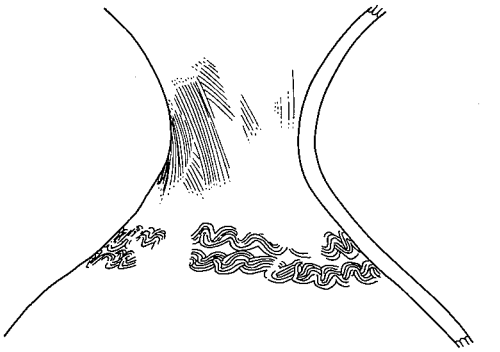
ＳＫ－０３２（第30図）

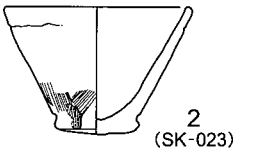
4C-06グリッドに位置する。平面形は長方形で，規模は長軸推定1.93ｍ・短軸1.79ｍ・深さ0.12ｍである。

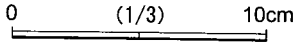
ＳＫ－０３３（第30図，図版48）

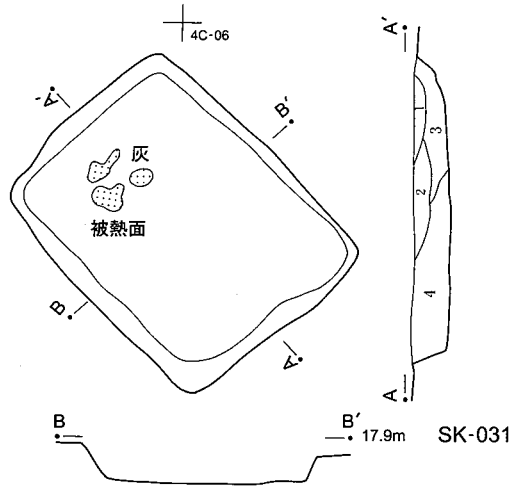
3C-86グリッドに位置する。平面形は長方形で，規模は長軸2.17ｍ・短軸1.69ｍ・深さ0.32ｍである。南壁寄りには被熱した砂岩が出土したが，ボロボロしており，取り上げることは不可能であった。



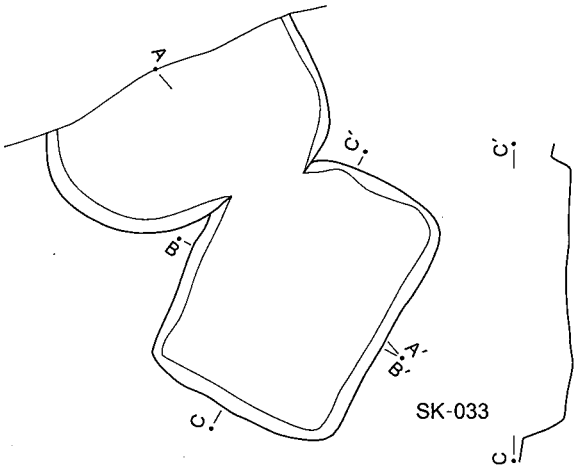




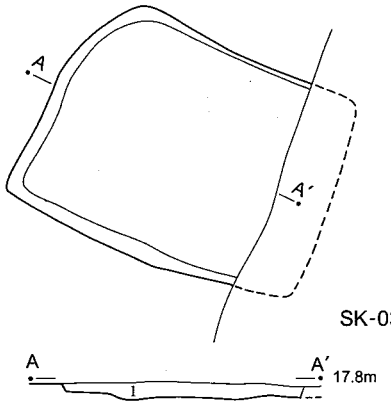




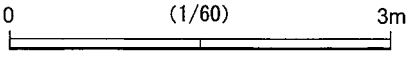
SK-031
1 暗褐色土　ロームブロック含まれる。
2 褐色土　ローム粒子・ロームブロック多量。
3 暗褐色土　ローム粒子・ロームブロック多量。
4 褐色土　ローム粒子・ロームブロック多量。



SK-033
1 黄褐色土　黒褐色土・ハードロームブロック含まれる。
2 黒色土　炭化物・ローム小ブロック含まれる。
3 黄褐色土　黒褐色土・ローム主体。焼土粒子少量。
4 黄褐色土　ローム主体。



SK-032
1 褐色土　ロームブロック多量。



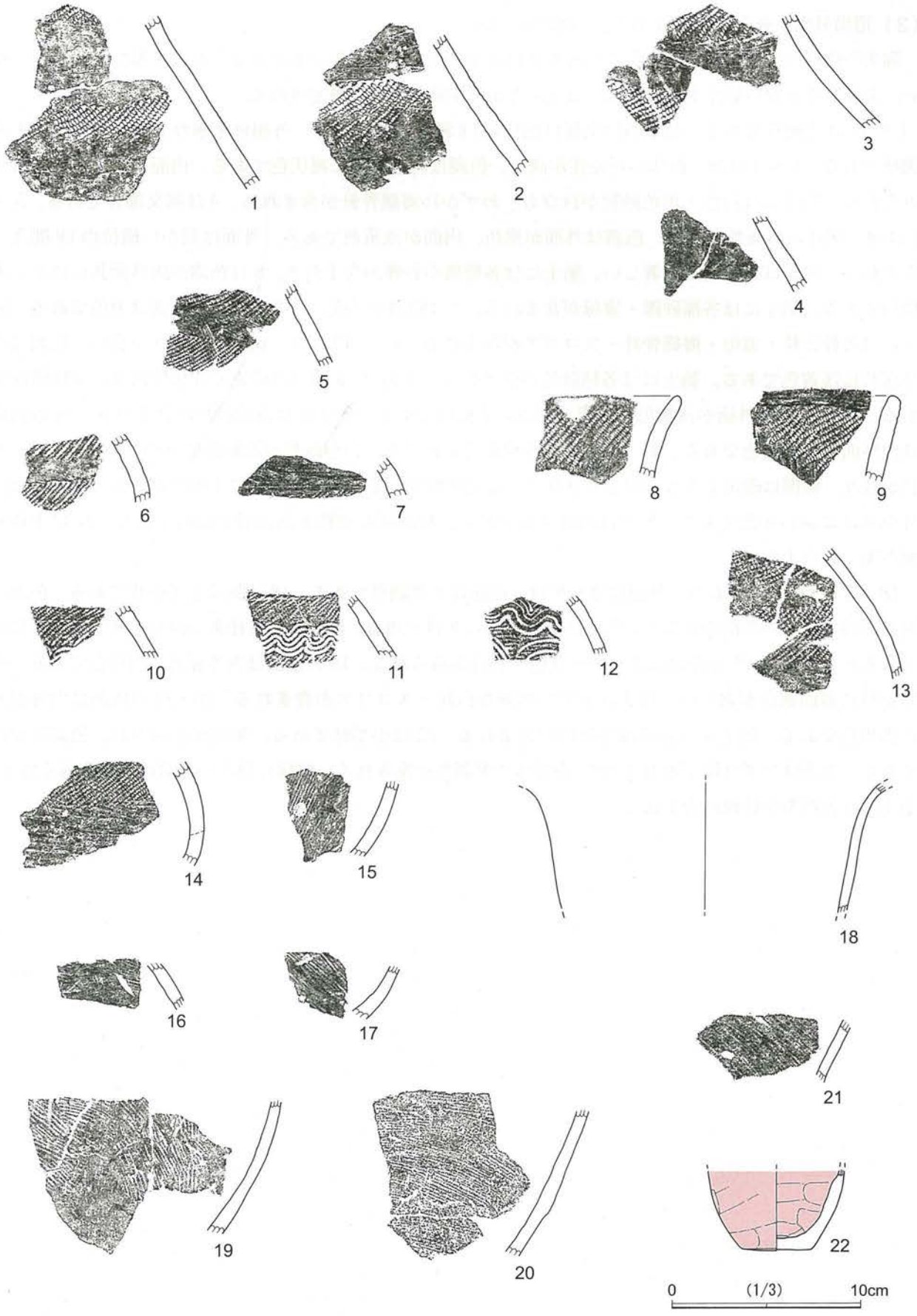
第30図　SK-023・031～033

（3）遺構外出土弥生土器（第31図，図版58・59）

弥生時代以外の遺構の覆土中からもあまり量は多くないが，弥生土器が出土した。石器は出土していない。実測していない破片土器も含め，ほとんどが弥生時代中期に限定される。

1～17は壺破片である。基本的に文様は横位のLR縄文が施される。外面は丁寧なミガキ，内面はナデ調整である。1～4は同一個体の可能性が高い。色調は内外面共に褐灰色である。内面は部分的に剥落がみられる。胎土には白色・黒色砂粒が目立ち，わずかに海綿骨針が含まれる。4は無文部分である。5～7は同一個体の可能性が高い。色調は外面が黒色，内面が浅黄色である。外面は細かい横位のLR縄文が施される。内面は雑で凹凸が著しい。胎土には各種微小砂礫が含まれる。8は色調が内外面共ににぶい黄橙色である。胎土には各種砂礫・雲母が含まれる。9は色調が外面がにぶい橙色，内面は黒色である。胎土には各種砂粒・雲母・海綿骨針・スコリアが含まれる。10～12は同一個体の可能性が高い。色調は内外面共に浅黄色である。胎土には各種砂粒が含まれる。外面はLR縄文に横位の波状櫛歯文の文様構成である。13の色調は外面が浅黄色，内面がにぶい黄橙色である。胎土には各種砂粒が含まれる。14の色調は内外面共に灰黄色である。胎土には各種砂粒が含まれるが，白色砂粒が比較的目立つ。15～17はハケ目が残り，範囲は確定できないが赤彩されていた可能性がある。外面は非常に丁寧に磨かれる。色調は内外面共ににぶい褐色である。胎土は精選されており，極微細な砂粒と海綿骨針が含まれる。17は土器断面が黒く発色する。

18～21は甕破片である。外面にはハケ目，内面はナデ調整である。18は胴部上半破片である。色調は内外面共ににぶい黄橙色である。内面に横方向のハケ目が残る。胎土には各種微小砂粒・スコリア・砂礫が含まれる。19～21は被熱により黒く変色・剥落がみられる。19の色調は内外面共に褐灰色である。内面が特に器面剥落が著しい。胎土は緻密で微細な砂粒・スコリアが含まれる。20・21の色調は内外面共に黒褐色である。胎土には各種微小砂粒が含まれる。22は小型鉢である。全面が赤彩され，色調は赤色である。外面はケズリ後丁寧なミガキ，内面はナデ調整が施される。口縁に向かい急激に器壁が薄くなる。胎土には各種微小砂粒が含まれる。



第31図　弥生土器

第3節　古墳時代～奈良・平安時代（第32～34図，第2・17～21表）

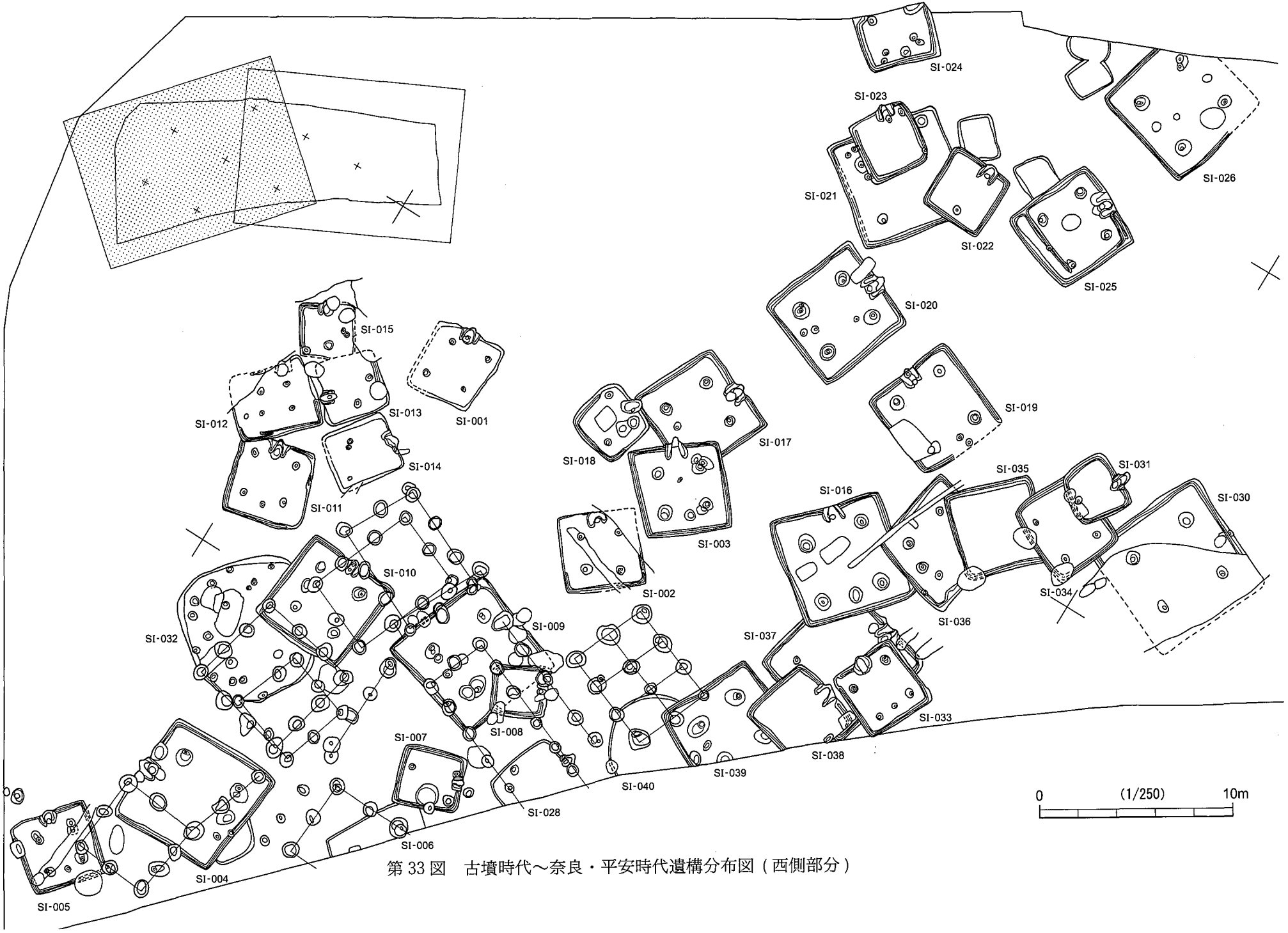
八幡神社北(1)遺跡の古墳時代～奈良・平安時代の集落は継続的に営まれ，特に古墳時代後期から終末期にかけての竪穴住居跡が多く検出された。ここでは，古墳時代から奈良・平安時代の遺構を合わせて遺構番号順に説明を行う。この時期の遺構は竪穴住居跡42軒，掘立柱建物跡9軒，柵列5基，土坑10基である。遺構が調査地区の西半分に概ね集中するのは，東側が中世以降大きな台地整形を受けているためである。したがって，遺構の残存状態も床面を残すだけのものも多い。本来は台地上全面に展開していたものと考えられる。なお，弥生時代後期から古墳時代中期までの遺構はなく，遺物もほとんど出土しなかった。

第2表　八幡神社北(1)遺跡 古墳時代～奈良・平安時代 遺構一覧表

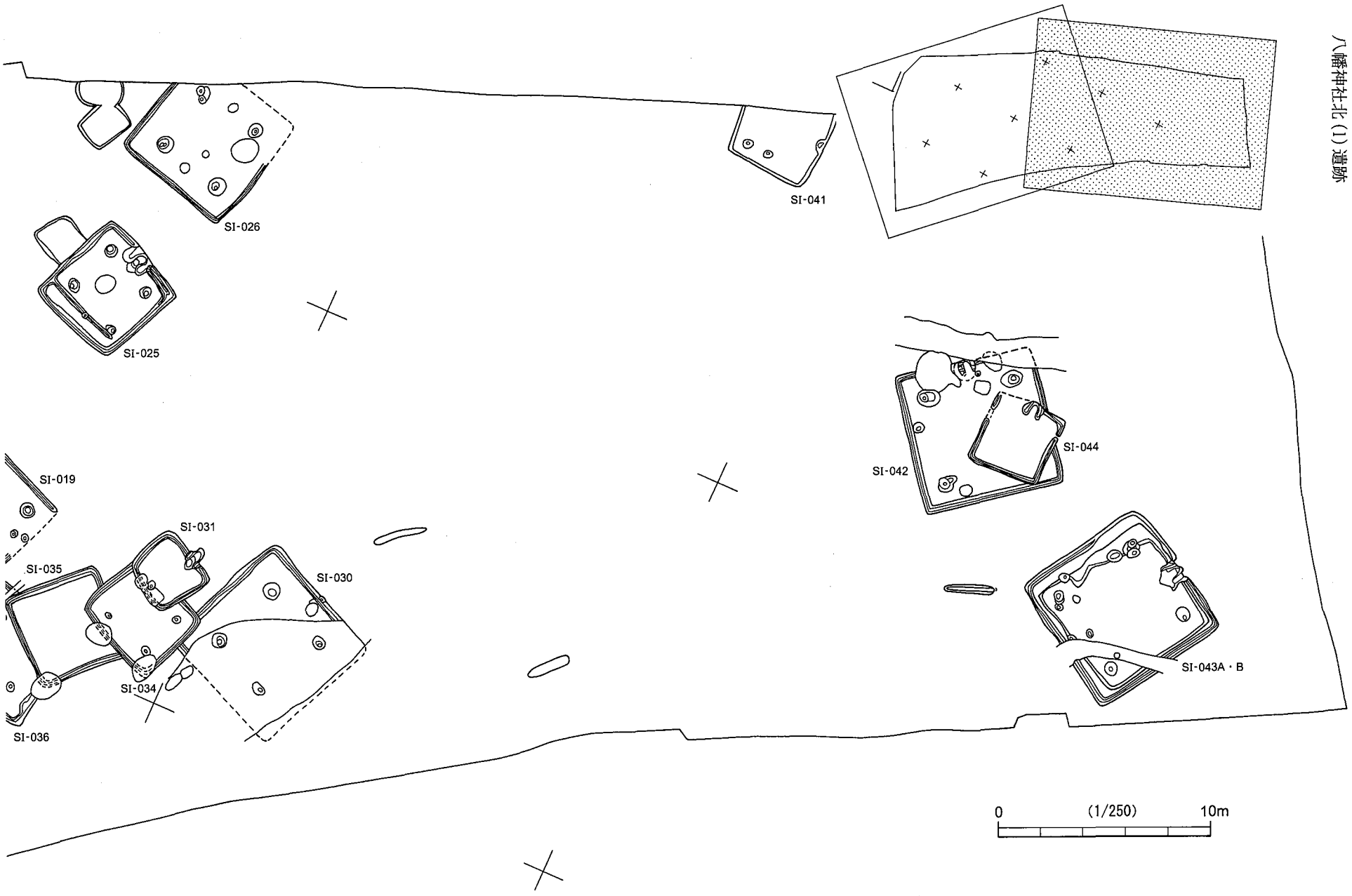
遺構No.	種類	位置(グリッド)	備考
SI-001	竪穴住居跡	4C-61	
SI-002	竪穴住居跡	4C-74	
SI-003	竪穴住居跡	4C-65	
SI-004	竪穴住居跡	5C-22	
SI-005	竪穴住居跡	5C-40	
SI-006	竪穴住居跡	5C-14	
SI-007	竪穴住居跡	5C-04	
SI-008	竪穴住居跡	4C-94	
SI-009	竪穴住居跡	4C-93	
SI-010	竪穴住居跡	4C-92	
SI-011	竪穴住居跡	4C-80	
SI-012	竪穴住居跡	4C-70	
SI-013	竪穴住居跡	4C-70	
SI-014	竪穴住居跡	4C-71	
SI-015	竪穴住居跡	4C-60	
SI-016	竪穴住居跡	4C-67	
SI-017	竪穴住居跡	4C-54	
SI-018	竪穴住居跡	4C-53	
SI-019	竪穴住居跡	4C-37	
SI-020	竪穴住居跡	4C-35	
SI-021	竪穴住居跡	4C-15	
SI-022	竪穴住居跡	4C-16	
SI-023	竪穴住居跡	4C-15	
SI-024	竪穴住居跡	3C-94	
SI-025	竪穴住居跡	4C-07	
SI-026	竪穴住居跡	3C-87	
SI-027	欠番		
SI-028	竪穴住居跡	5C-05	
SI-029	欠番　SK-085に変更		
SI-030	竪穴住居跡	4D-30	
SI-031	竪穴住居跡	4C-39	
SI-032	竪穴住居跡	5C-01	
SI-033	竪穴住居跡	4C-78	
SI-034	竪穴住居跡	4C-49	

遺構No.	種類	位置(グリッド)	備考
SI-035	竪穴住居跡	4C-48	
SI-036	竪穴住居跡	4C-58	
SI-037	竪穴住居跡	4C-77	
SI-038	竪穴住居跡	4C-77	
SI-039	竪穴住居跡	4C-87	
SI-040	竪穴住居跡	4C-96	
SI-041	竪穴住居跡	3D-63	
SI-042	竪穴住居跡	3D-87	
SI-043	竪穴住居跡	3D-99	
SI-044	竪穴住居跡	3D-87	
SA-003	柵列	5C-22	
SA-004	柵列	5C-14	
SA-005	柵列	5C-13	
SA-006	柵列	4C-95	
SA-007	柵列	5C-22	
SB-001	掘立柱建物跡	5C-01	
SB-002	掘立柱建物跡	5C-31	
SB-003	掘立柱建物跡	5C-23	
SB-004	掘立柱建物跡	4C-93	
SB-005	掘立柱建物跡	4C-82	
SB-006	掘立柱建物跡	4C-82	
SB-007	掘立柱建物跡	4C-85	
SB-008	掘立柱建物跡	4C-94	
SB-009	掘立柱建物跡	5C-12	
SK-004	土坑	4C-60	
SK-016	土坑	5B-19	
SK-018	土坑	5C-00	
SK-019	土坑	5C-30	
SK-020	土坑	5C-40	
SK-027	土坑	4C-84	
SK-028	土坑	4C-84	
SK-038	土坑	4C-70	
SK-039	土坑	4C-71	
SK-085	土坑	5C-32	SI-004と同掛図

第 32 図　古墳時代～奈良・平安時代遺構分布図（全体）



第 33 図　古墳時代～奈良・平安時代遺構分布図（西側部分）

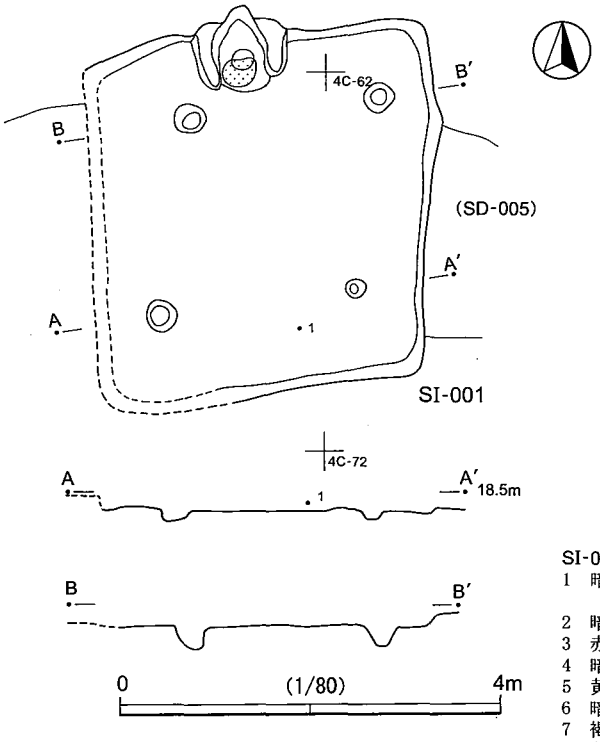


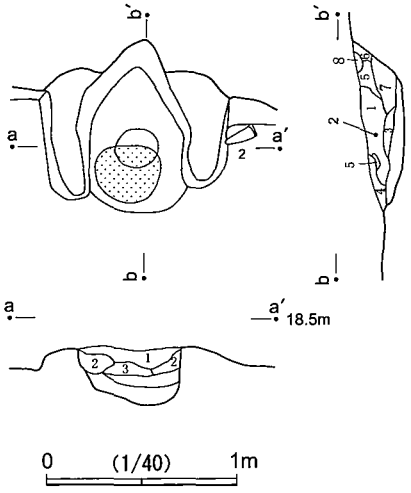
第 34 図　古墳時代～奈良・平安時代遺構分布図（東側部分）

1　竪穴住居跡

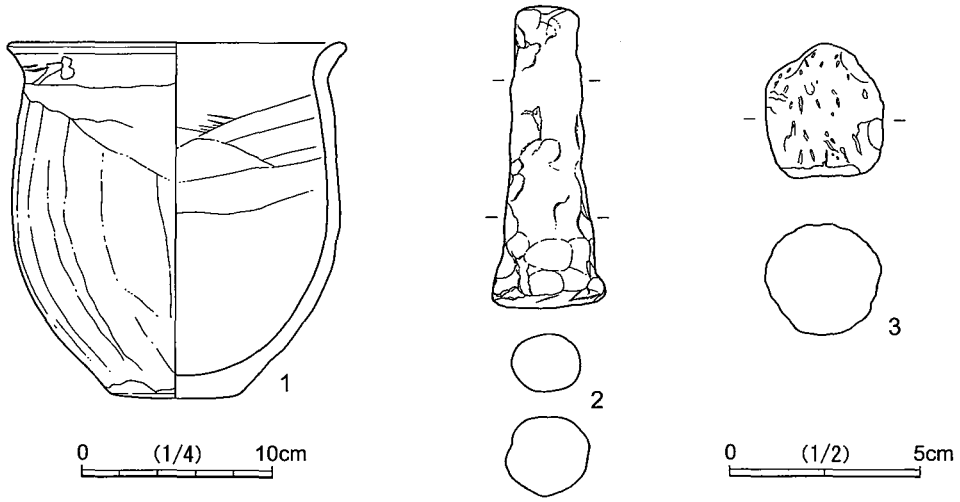
ＳＩ－００１（第35図，図版4・5・60）

4C-61グリッドに位置する。平面形は方形で，規模は主軸長3.52ｍ・幅推定3.34ｍである。主軸はN-5°-Wである。東壁・西壁がSD-005に切られ，壁がはっきりしていない。掘り込みは浅く，確認面から平均15㎝である。カマドは北壁中央やや西寄りに付設される。火焼部はカマド中心よりやや手前で顕著に赤化している。右カマド袖外側で支脚が完形に近い形で出土した。ピットは主柱穴が4基で，掘り込みは浅い。特に南側の2基の柱穴が浅い。床面は，木の根による攪乱により安定せず，硬化面ははっきりしない。壁周溝は検出されなかった。





SI-001 カマド
1　暗褐色土　ローム粒子(3～5㎜)少量。ローム粒子やや多量。焼土ブロック少量。流込土。
2　暗灰褐色土　炭・炭化粒子少量。焼土ブロックやや多量。
3　赤褐色土　焼土主体。炭含まれる。
4　暗褐色土　ロームブロック(3～5㎜)少量。
5　黄白色土　山砂層。カマド構築材。
6　暗褐色土　ローム粒子(5～10㎜)多量。流込土。
7　褐色土　ローム粒子多量。山砂粒子少量。
8　黄褐色土　ロームブロック含まれる。



第35図　SI-001

遺物は覆土が薄く，ほとんど出土していない。1は土師器小型甕で，全体の1/3の遺存である。SD-005出土の土器破片も接合した。色調は外面が赤褐色～黒褐色，内面が明褐色である。外面は全体に被熱痕跡が顕著である。焼成は良好，胎土には微小白色・黒色粒・雲母粒が含まれる。口縁部は強いヨコナデ，外面はヘラケズリ，内面は比較的丁寧なヘラナデ調整である。2は土製支脚でほぼ完形である。色調はにぶい黄褐色～橙色である。胎土には白色砂粒が多く含まれる。端部には指の圧痕が顕著で，底面にはスサ痕がみられる。3は球状の石だが，加工痕等は判然としない。石材は安山岩である。長さ35㎜・幅30㎜・重量26.14ｇである。

ＳＩ－００２（第36図，図版5・60）

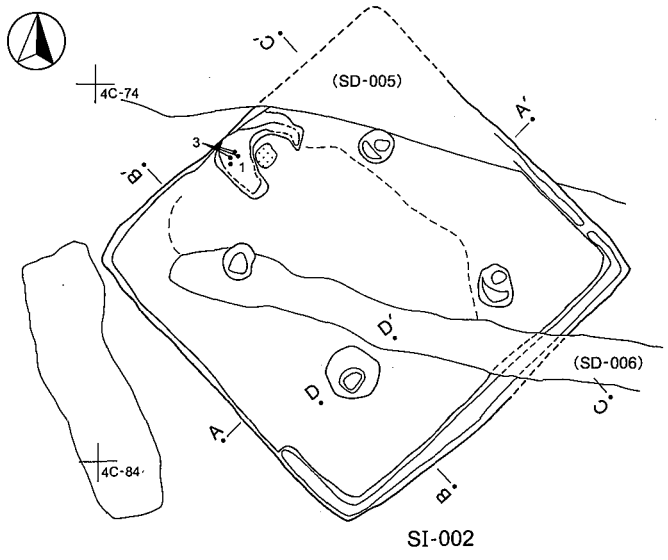
4C-74グリッドに位置する。平面形は方形で，規模は主軸長3.92ｍ・幅3.97ｍである。主軸はN-42°-Wである。北東部壁がSD-005，南東壁の一部がSD-006に切られている。掘り込みは確認面から平均20㎝である。カマドは北西壁中央に付設される。確認面が低く，住居外に続く煙道部の掘り込みは確認されなかった。ピットは主柱穴が4基で，掘り込みはしっかりとしているが，深さが一定しない。床面は中央部の硬化が顕著であった。壁周溝は南東側の床面で検出されたが，他ははっきりしなかった。壁周溝の平均的な規模は下端幅14㎝・床面からの深さ5㎝である。

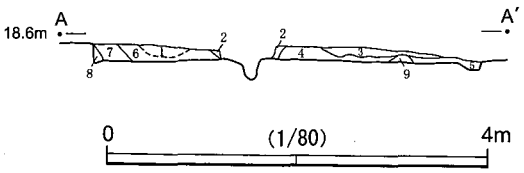
遺物はほとんど出土しなかった。1は土師器高坏で，全体の2/3の遺存である。色調は外面が灰赤色，内面が赤色である。胎土には白色・灰白色砂粒・砂礫が多量に含まれる。坏部内面は丁寧なミガキ，脚部内面はヘラケズリ調整である。外面は口縁部がヨコナデ，その他はヘラケズリ後ナデ・ミガキ調整である。坏部外面には明確な稜が作り出される。2は土師器甕胴部の破片である。色調は内外面共ににぶい橙色～橙色である。焼成はやや不良で軟質である。胎土には白色・灰白色砂粒・スコリア粒が多量に含まれる。内面は丁寧なナデ，外面はヘラケズリ調整である。外面の一部に筋状に削られた痕跡があり，砥石代わりに使用されていたと考えられる。3は土師器小型甕で，胴部～底部の1/2の遺存である。色調は内外面共に明赤褐色～赤黒色である。胎土には白色微砂粒・スコリアが含まれる。内面はヘラケズリ後ナデ・ミガキ，外面はヘラケズリ後ミガキ調整である。

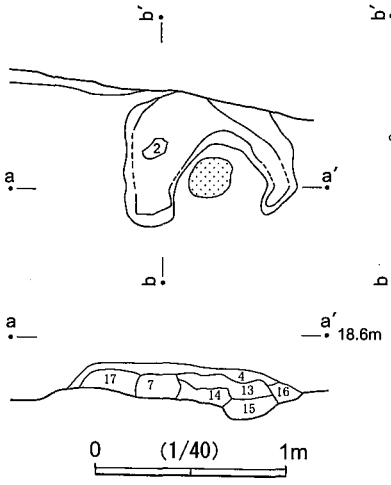
ＳＩ－００３（第37図，図版4・5・60）

4C-65グリッドに位置する。平面形は方形で，規模は主軸長4.39ｍ・幅4.42ｍである。主軸はN-47°-Wである。SI-017を切って構築され，南部壁はSD-005に切られる。掘り込みは確認面から平均20㎝である。カマドは北西壁中央に付設される。火焼部床面は壁に沿って立ち上がり一度段を有して，煙道部は緩やかに住居外へと続く。ピットは主柱穴が4基で，掘り込みはしっかりとしている。南東壁際に入口ピット，中央ややカマド寄りに小ピットが確認できた。床面は，中央部の硬化が顕著であった。壁周溝は全周し，平均的な規模は下端幅6㎝・床面からの深さ10㎝である。

遺物はカマド寄りから比較的多く出土した。1は土師器小型坏で，全体の4/5の遺存である。色調は内面がにぶい赤褐色，外面がにぶい橙色で，器面が剥落しているが内外面共に赤彩される。胎土には白色・透明微砂粒が多く，他にスコリア・海綿骨針が含まれる。内面は丁寧なナデ，外面はヘラケズリ後ナデ調整である。2は土師器小型坏で，口縁部の1/4の遺存である。色調は内外面共ににぶい橙色～赤色で，全面赤彩される。胎土に白色砂粒・海綿骨針が含まれる。内面は丁寧なナデ，外面はヘラケズリ後ナデ調整であるが，器面は外面が特に摩滅している。3は厚手の椀形滓破片である。比重があり，重量は94.92ｇ



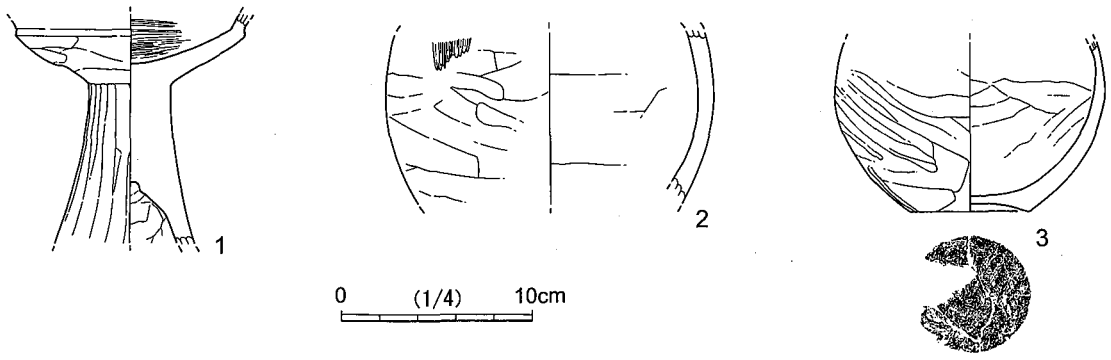




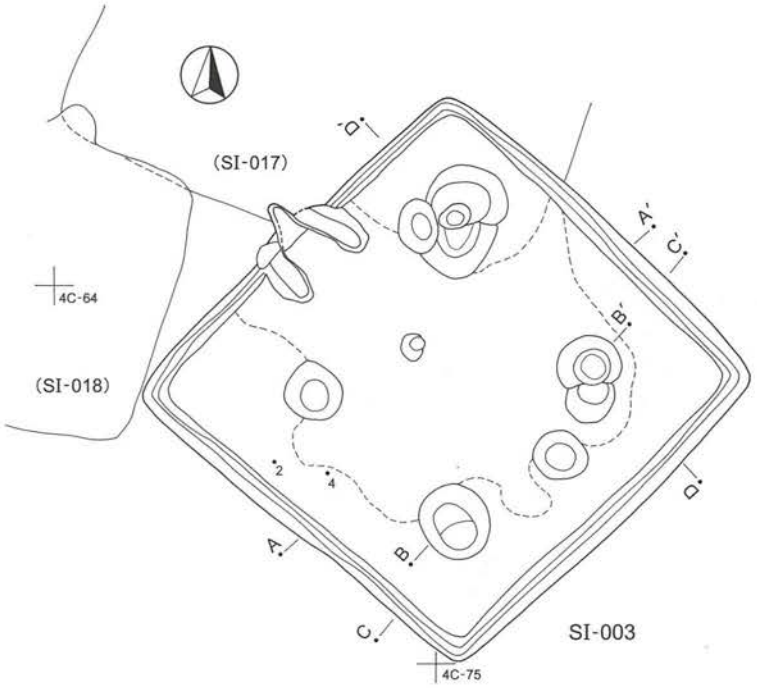
SI-002
1 暗褐色土　ローム粒子(2～3mm)多量。
2 暗褐色土　SD-006に沿って堆積。
3 暗褐色土　１層に似ている。ローム粒子多量。
4 暗褐色土　山砂多量。
5 暗褐色土　他の層より色が濃く、ローム粒子少量。
6 暗褐色土　細ローム粒子多量。
　ローム粒子(2～5mm)少量。
7 暗茶褐色土　ローム粒子(5mm)少量。しまり強い。
8 暗茶褐色土　ロームブロック少量。
9 暗黄褐色土　ロームブロック少量。ローム粒子多量。

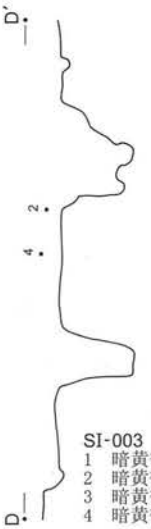
Pit D-D′
1 暗褐色土　ローム粒子少量。
2 黄褐色土　ボソボソしたロームブロック多量。

カマド
1 暗褐色土　細ローム粒子少量。
2 暗黄褐色土　細ローム粒子多量。しまり強い。
3 暗黄褐色土　色調が２層より濃い。しまり強い。
4 暗黄褐色土　ローム粒子多量。
5 黄褐色土　ローム主体。
6 明黄褐色土　ローム主体。
7 暗黄褐色土　ローム粒子多量。山砂少量。
8 暗黄褐色土　細ローム粒子含まれる。しまり弱い。
9 暗褐色土　細ローム粒子少量。しまり弱い。
10 暗黄褐色土　焼土細粒子少量。しまり強い。
11 暗茶褐色土　ローム粒子(2～3mm)少量。
12 暗褐色土　混ざり少ない。しまり強い。
13 暗褐色土　焼土粒子(1mm)少量。
14 赤褐色土　焼土粒子(5mm)多量。
15 暗黄褐色土　細ローム粒子少量。
16 褐色土　山砂含まれる。ローム粒子少量。
17 暗黄褐色土　細ローム粒子・山砂少量。

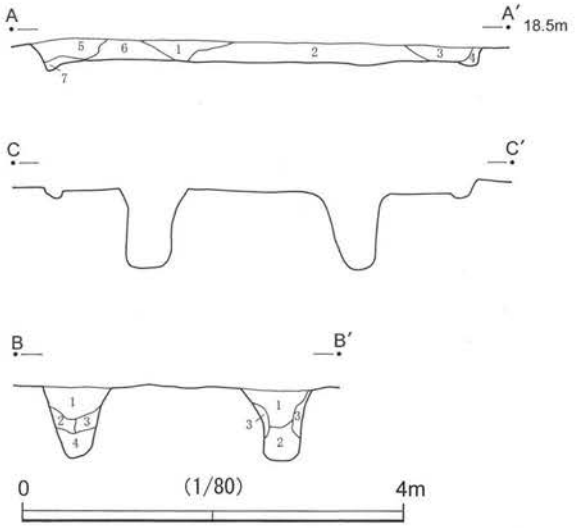


第36図　SI-002

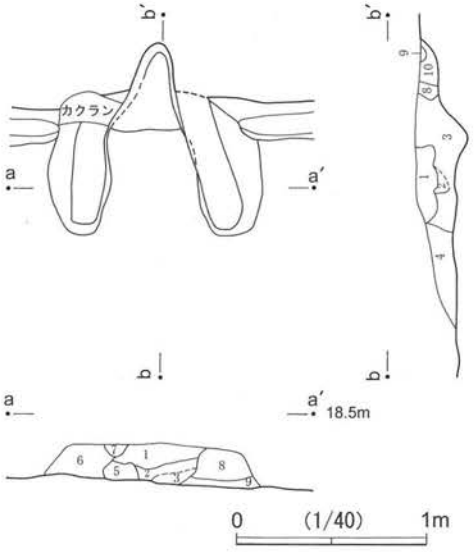




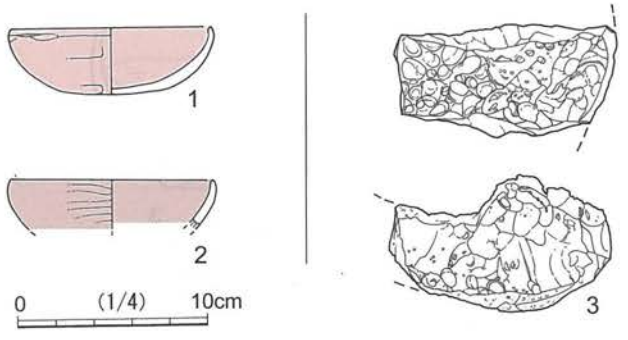
SI-003
1 暗黄褐色土　細ローム粒子少量。
2 暗黄褐色土　ローム粒子（5㎜）少量。
3 暗黄褐色土　混じり少ない。
4 暗黄褐色土　3層に似ている。しまり弱い。
5 暗黄褐色土　ローム粒子（1～3㎜）微量。しまり強い。
6 暗褐色土　ロームブロック(10㎜）少量。
7 暗黄褐色土　ロームブロック(10～20㎜）多量。

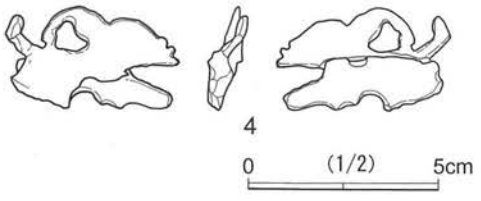


Plt B-B'
1 黒褐色土　ロームブロック(10㎜)少量。焼土粒子含まれる。しまりなし。
2 褐色土　ロームブロック(10～30㎜)含まれる。しまりなし。
3 黄褐色土　ローム粒子多量。しまりなし。
4 黒褐色土　ロームブロック(10㎜)含まれる。

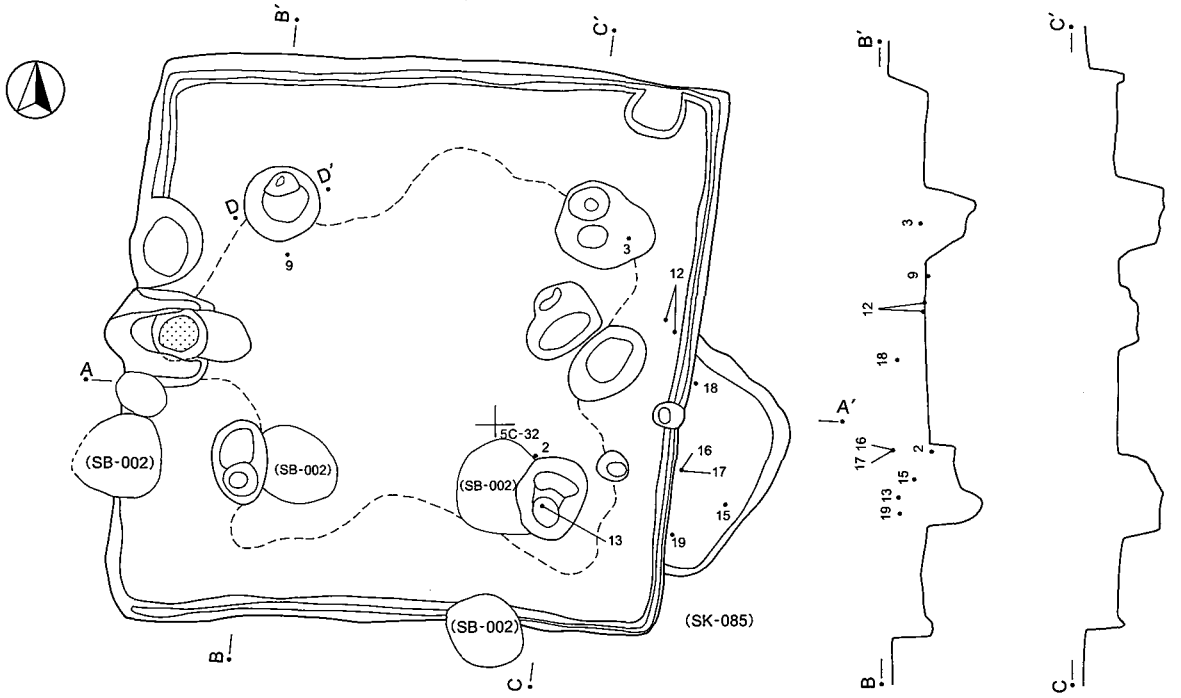


カマド
1 黒褐色砂　灰白色砂・焼土微量。しまりあり。
2 暗赤褐色砂
3 黒褐色砂　赤褐色砂粒子含まれる。
4 灰褐色砂　カマド構築材（崩壊砂）
5 黒褐色砂　ローム小ブロック含まれる。しまりやや弱い。
6 灰黄白色砂　カマド左袖残存部。
7 黒褐色砂　根による撹乱。
8 灰黄白色砂　ロームが含まれる。しまりあり。
9 赤褐色焼土　焼土粒子主体。
10 褐色土　ローム粒子含まれる。

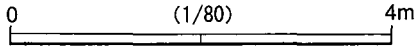




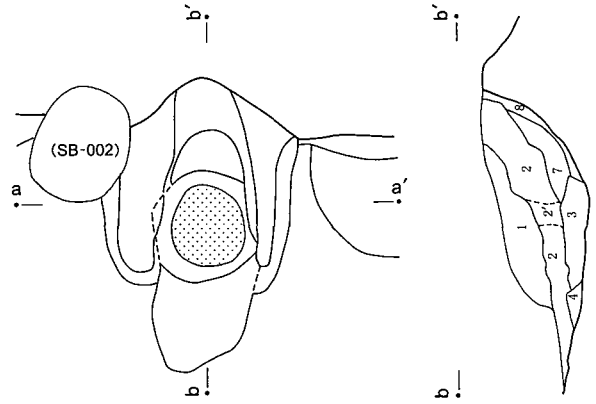
第37図　SI-003

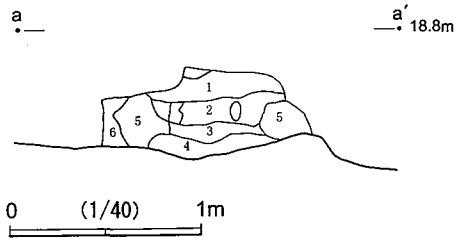


SI-004



Pit D-D′
1 暗褐色土　細ローム粒子(1～5mm)多量。しまり弱い。
2 暗褐色土　ロームブロック(10mm)少量。しまり弱い。
3 暗褐色土　ロームブロック(10～20mm)多量。しまり弱い。
4 暗褐色土　細ローム粒子少量。しまり弱い。





カマド
1 暗灰褐色土　砂ロームブロック多量。カマド上部にのった土。しまり弱い。
2 暗灰褐色土　砂ブロック多量。ロームブロック含まれる。天井部の崩れたものが主体。
2′ 暗灰褐色土　しまり弱い。
3 暗褐色土　砂・焼土・炭が含まれる。
4 暗褐色土　焼土・砂多量。3の砂の多い部位。
5 灰褐色砂　カマド袖。砂質粘土。
6 暗褐色土　砂ブロック多量。しまり弱い。(ピット覆土)
7 暗褐色土　砂含まれる。焼砂ブロック多量。3層と類似。(カマド内覆土)
8 褐色土　砂含まれる。ローム主体。上部には煙道の崩れた焼砂が含まれる。

第38図　SI-004・SK-085 (1)

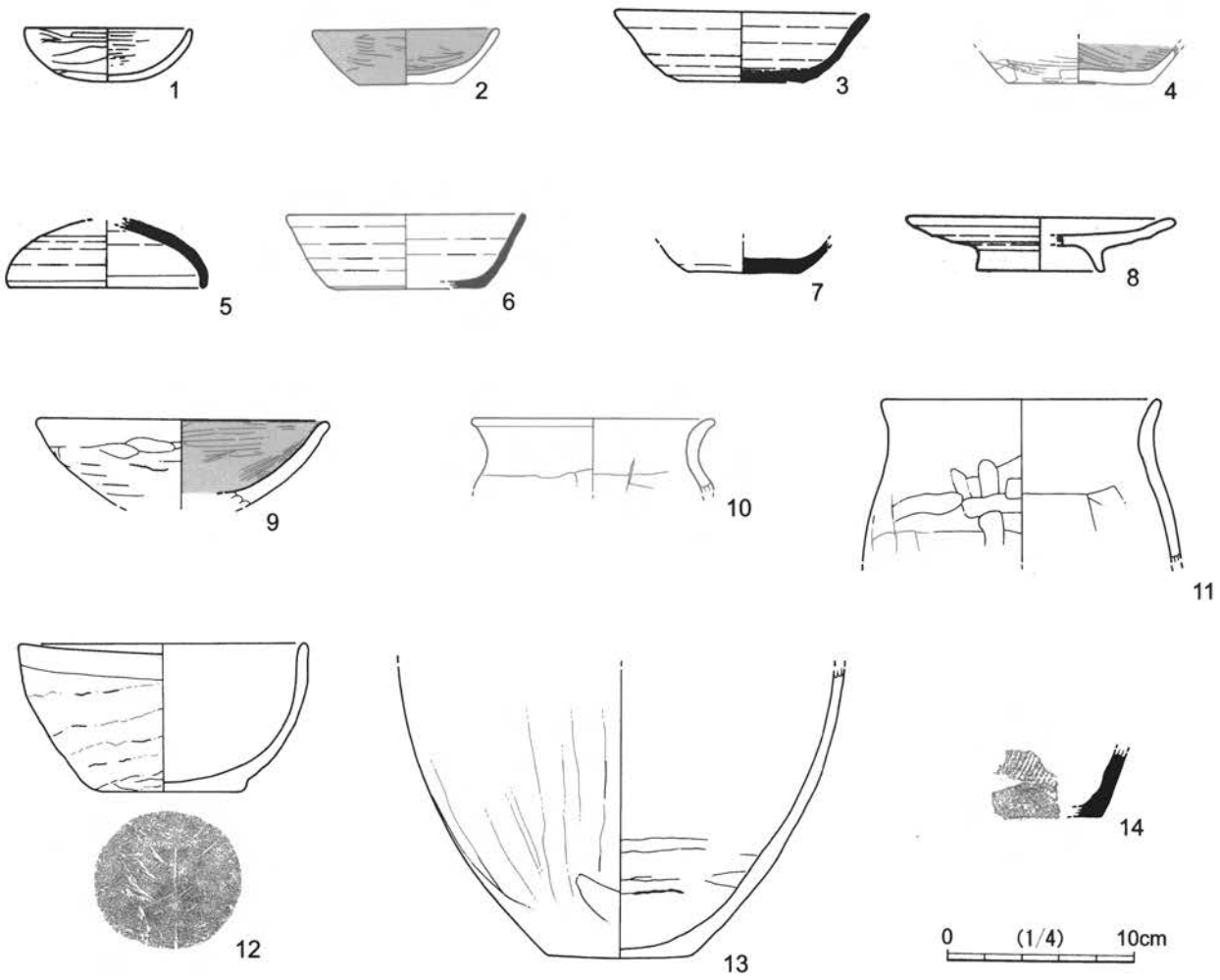
である。破面は3面で，上下面と側面1面が生きている。破面と上面に黒錆が滲み，鉄分が含まれると考えられる。色調は地が黒褐色，表面は暗褐色である。4は銅製の飾り金具と考えられる。折れ曲がり錆着したものか，2個体が重なっているため，本来の形が判然としない。ハート形の透かしや細く突き出た棒状部分，棒状部分の反対側の刻み形は旧形を遺存していると考えられる。重量は12.64 gである。

ＳＩ－００４・ＳＫ－０８５（旧ＳＩ－０２９）（第38～40図，図版5・6・60）

SI-004・SK-085は5C-22グリッド周辺に位置する。

SK-085は調査時にはSI-029としていたが，小型であり，ピットも確認できず，住居跡とは捉えがたいため，整理時に土坑として扱うことにした。説明はSI-004と併せて，この項目にて行う。平面形は隅丸方形と考えられ，一辺は推定で2.3 mである。掘り込みは確認面から30 cmである。床面は安定せず，凹凸がみられる。

SI-004の平面形は方形で，規模は主軸長5.81 m・幅5.76 mである。主軸はN-84°-Wである。SK-085を切って構築され，掘立柱建物跡(SB-002)により部分的に切られている。掘り込みは確認面から平均35 cmである。カマドは西壁中央に付設され，火焼部床面は被熱し赤化している。火焼部から煙道へは緩やかに立ち上がる。ピットは主柱穴が4基で，掘り込みはしっかりとしている。東壁際に入口施設に伴う掘り

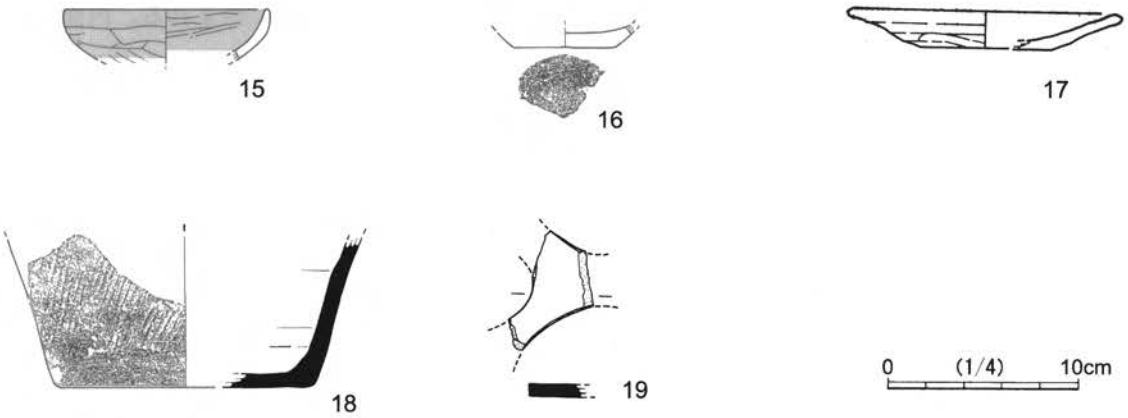


第39図　SI-004(2)

込みが複数みられる。床面は，中央部の主柱穴に囲まれた部分での硬化が顕著であった。壁周溝はカマド南側以外で確認でき，平均的な規模は下端幅6㎝・床面からの深さ8㎝である。

遺物は，平面上の出土位置を優先し，SI-004（1～14）とSK-085（15～19）と帰属を分けた。1は土師器小型坏で，全体の1/8の遺存である。色調は内外面共ににぶい橙色で，口縁端部は黒色を帯びる。黒色処理の可能性があるが，断定できない。焼成はやや不良で，胎土には雲母粒・スコリア・海綿骨針が含まれる。内面は横方向のミガキ，外面はヘラケズリ後ミガキ調整である。2・4は土師器坏である。2は全体の3/5の遺存である。色調は内面が灰黄色～黒色，外面がにぶい黄橙色～黒色である。内外面共に黒色処理(漆)である。焼成はやや不良で，胎土にはスコリア粒・海綿骨針が含まれる。内面はミガキ，外面がヘラケズリ後ミガキ調整である。底面は平底で，丁寧なミガキ調整である。3は全体の2/5の遺存である。色調は内外面共ににぶい赤褐色である。硬質である。胎土には白色砂粒・スコリア粒が多く含まれる。ロクロ整形で，体部下端・底面は回転ヘラケズリ調整である。4は底部の1/2の遺存である。色調は内面が黒色処理(炭)され黒色，外面はにぶい橙色である。胎土にはスコリア粒が多く含まれる。内面はミガキ，外面はヘラケズリ後ミガキ調整である。底面は平底で，ヘラケズリ後一方向に丁寧なミガキ調整である。5は須恵器小型坏蓋で，全体の1/3の遺存である。色調は内外面共に灰色である。焼成はやや不良，胎土は精緻で，砂粒が微量含まれる。内外面共にロクロナデ調整である。6・7は須恵器坏である。6は全体の1/6の遺存である。色調は内外面共に暗灰黄色で，やや赤みが残り，完全な還元色ではない。断面は赤みを帯びる。硬質である。胎土には白色微砂粒が含まれる。ロクロ整形で，底面は一方向のヘラケズリ調整である。7は底部の3/4の遺存である。色調は内外面共に灰色である。焼成は良好であるが，胎土には白色砂礫が含まれ，器面には細かなヒビが入る。体部下端は回転ヘラケズリで，底面は回転ヘラ切りである。8は土師器の高台付皿で，全体の1/5の遺存である。色調は内面がにぶい橙色～黒褐色，外面がにぶい橙色である。胎土には白色微砂粒・スコリア粒が含まれる。内面は丁寧なナデ，体部下端はヘラケズリ，高台はヨコナデ，底面はナデ調整である。9は土師器高坏の坏部と考えられる。色調は内面が黒色処理(炭)され，黒色，外面はにぶい赤褐色である。胎土には白色微砂粒・スコリア粒が多く含まれる。内面はミガキ，外面は口縁部がヨコナデ，体部がヘラケズリ後ミガキ調整である。10は土師器甕で，口縁部の1/4の遺存である。色調は内外面共に橙色である。焼成はやや不良で，胎土には白色微砂粒が含まれる。内面はナデ，外面はヘラケズリ調整が施されるが，2次被熱により器面はボロボロで，黒色物質が付着している。11は土師器甑で，口縁部～胴部上半の1/5の遺存である。色調は内外面共に橙色である。外面には黒斑がみられる。被熱により，特に外面が剥落気味である。焼成はやや不良で，胎土には白色微砂粒・スコリア粒子が含まれる。外面はヘラケズリ，内面はナデ調整である。12は土師器の鉢で，全体の2/3の遺存である。色調は内面が赤褐色で，外面が赤褐色～褐色である。胎土には白色砂粒が含まれる。内面はナデ・ミガキ，外面はヘラケズリ後ミガキ調整である。体部外面には粘土紐接合痕が部分的に確認できる。底面は無調整で，木葉痕が残る。13は土師器甕で，底部～胴部下半の1/4の遺存である。色調は外面がにぶい赤褐色～黒褐色，内面が赤褐色～褐色である。胎土には白色砂粒・砂礫が少量含まれる。外面はヘラケズリ後縦方向のミガキ，内面はナデ・ミガキ調整である。内面下部に輪積痕がみられる。14は須恵器甕の底部破片である。色調は内面が褐灰色，外面が明赤褐色～赤灰色で，赤みがあり完全に還元色になっていない。胎土にはスコリア粒が多く含まれる。内面はナデ，外面はタタキ目，下端はヘラケズリ調整である。底面は無調整である。

15～19はSK-085の覆土内から出土した遺物である。15・16は土師器坏である。15は口縁部～体部の1/4の遺存である。色調は内外面共ににぶい橙色～灰褐色で，黒色処理(漆)されたものと考えられる。胎土には白色微砂粒が含まれる。内面はミガキ，体部外面はヘラケズリ後ミガキ調整である。16は底部の1/4の遺存である。色調は，内外面共に，浅黄色である。内面はナデ，体部下端はヘラケズリ，底面は回転糸切り後無調整である。他に比べ胎土全体が白みを帯びる。17は土師器皿の全体の1/4の遺存である。色調は内外面共ににぶい橙色である。胎土には白色微砂粒が含まれる。ロクロ整形で，外面体部下端・底面は手持ちヘラケズリ調整である。18は須恵器甕で，底部～胴部下半の1/6の遺存である。色調は内面が褐灰色，外面がにぶい赤褐色で，還元色ではなく，赤みを帯びる。外面はタタキ目，ナデ及び下端はヘラケズリ調整，内面はナデ調整である。底面は無調整である。19は須恵器多孔式甑の底面破片である。色調は内外面共に灰色である。胎土には白色砂粒が含まれる。内面はナデ，底面は無調整である。

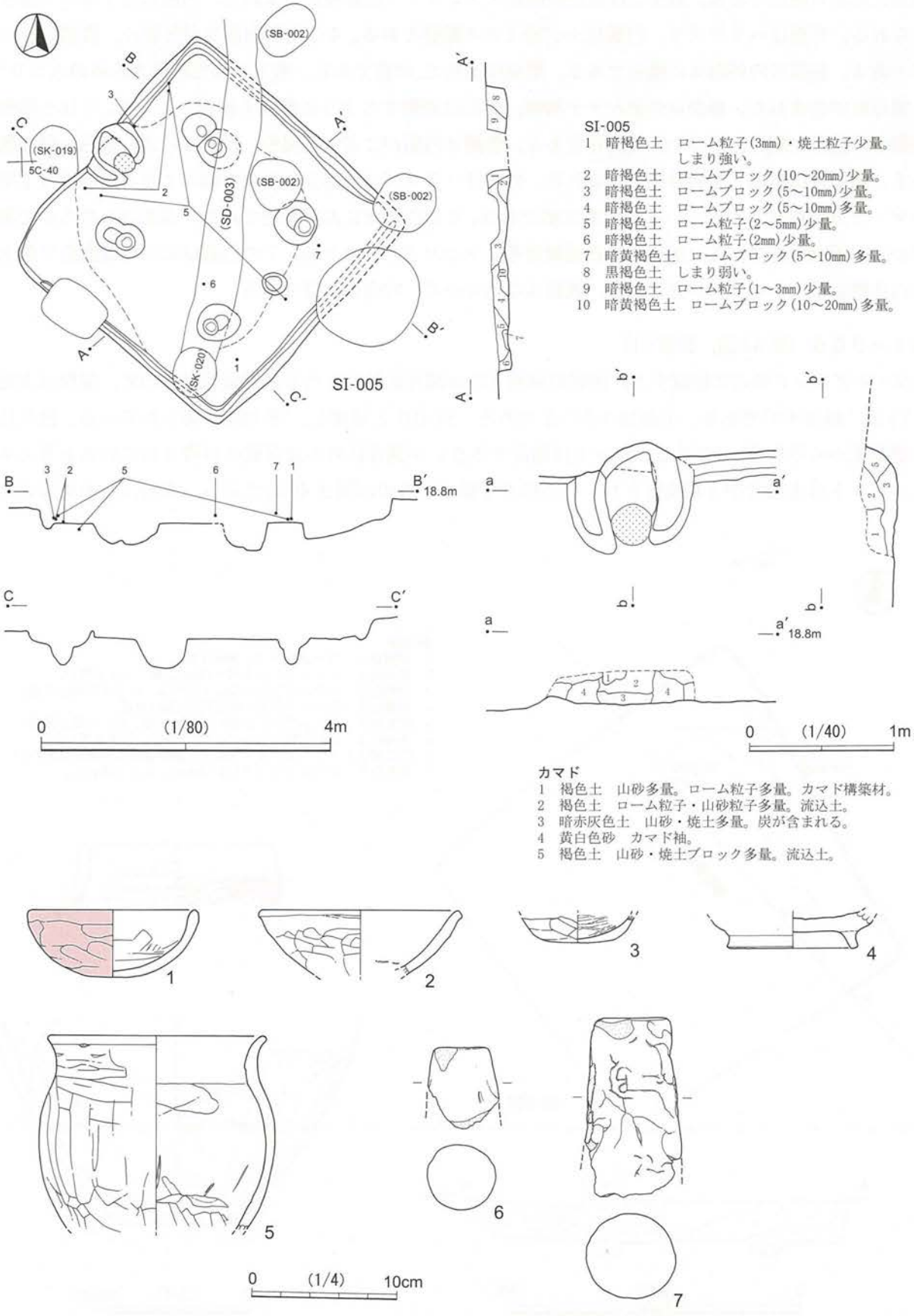


第40図　SK-085(2)

ＳＩ－００５（第41図，図版5・60・61）

5C-40グリッド周辺に位置する。SK-020・SD-003・SB-002に切られている。平面形は方形で，規模は主軸長3.74m・幅3.83mである。主軸はN-49°-Wである。掘り込みは確認面から平均20cmである。カマドは北西壁中央に付設される。火焼部床面は被熱により赤化している。ピットは主柱穴が4基で，掘り込みはしっかりとしている。また，東壁際に深さ20cmのピットが確認された。床面は，中央部の主柱穴を囲む広い部分で硬化が顕著であった。壁周溝は東側コーナー部分以外は確認され，平均的な規模は下端幅6cm・床面からの深さ8cmである。

遺物の出土はあまり多くなく，支脚がカマドから離れた部分から2個体分出土した。時期が他の遺物と異なる4の坏は破片であり，床面から10cm浮いて出土しているため，流れ込みの可能性が強い。1は土師器坏で全体の3/4の遺存である。色調は内面はにぶい橙色～黒色，外面はにぶい橙色～明赤褐色で，外面は赤彩される。内面も赤彩の可能性があるが，断定できない。胎土には灰白色砂粒が多く含まれる。内面はナデ，外面はヘラケズリ後ナデ調整である。口縁部と体部の境に比較的明瞭な稜を作りだしている。2は土師器坏で，口縁部～体部の1/3の遺存である。色調は内外面共ににぶい橙色～黒褐色である。焼成はやや不良で，胎土には白色砂粒・スコリア粒子が含まれる。内面はナデ，外面はヘラケズリ調整である。口縁部と体部の境には比較明瞭な稜を作り出す。3は土師器坏で，底部の3/4の遺存である。色調は内外



SI-005
1 暗褐色土　ローム粒子(3㎜)・焼土粒子少量。しまり強い。
2 暗褐色土　ロームブロック(10～20㎜)少量。
3 暗褐色土　ロームブロック(5～10㎜)少量。
4 暗褐色土　ロームブロック(5～10㎜)多量。
5 暗褐色土　ローム粒子(2～5㎜)少量。
6 暗褐色土　ローム粒子(2㎜)少量。
7 暗黄褐色土　ロームブロック(5～10㎜)多量。
8 黒褐色土　しまり弱い。
9 暗褐色土　ローム粒子(1～3㎜)少量。
10 暗黄褐色土　ロームブロック(10～20㎜)多量。

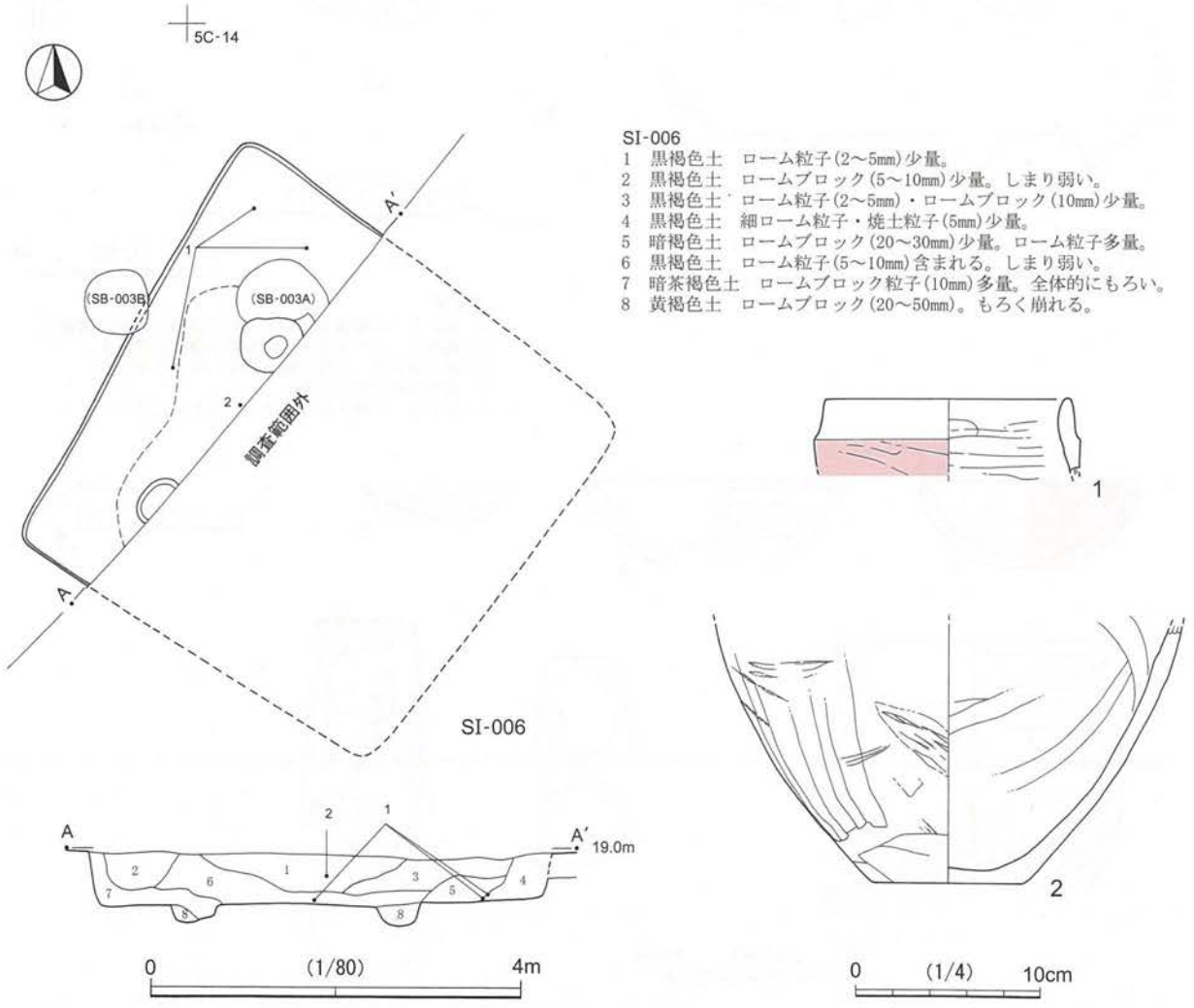
カマド
1 褐色土　山砂多量。ローム粒子多量。カマド構築材。
2 褐色土　ローム粒子・山砂粒子多量。流込土。
3 暗赤灰色土　山砂・焼土多量。炭が含まれる。
4 黄白色砂　カマド袖。
5 褐色土　山砂・焼土ブロック多量。流込土。

第41図　SI-005

面共ににぶい橙色である。胎土には白色微砂粒・スコリア・雲母粒が含まれる。内面には1本ヘラ書きがみられる。外面はヘラケズリ，内面はナデ後ミガキ調整である。4は土師器高台付坏破片，底部のみの遺存である。色調は内外面共に橙色である。焼成は不良で,軟質である。胎土には比較的大きめのスコリア・金雲母粒が含まれる。器面は外面がナデ調整，内面は剥離するように激しく摩滅している。5は土師器小型甕で口縁部～胴部上半の1/4の遺存である。色調は内面がにぶい赤褐色，外面はにぶい橙色～暗褐色である。胎土には白色・透明砂粒が含まれる。外面はヘラケズリ後部分的な縦方向のミガキ，内面は丁寧なナデ・ミガキ調整である。6・7は土製支脚である。6の色調はにぶい褐色である。表面はなめらかで硬質だが，内部は軟質である。胎土には白色微砂粒・スコリアが含まれる。7の色調はにぶい黄橙色で胎土には白色微砂粒・スコリアが含まれる。表面はなめらかで，内面は軟質である。

ＳＩ－００６（第42図，図版61）

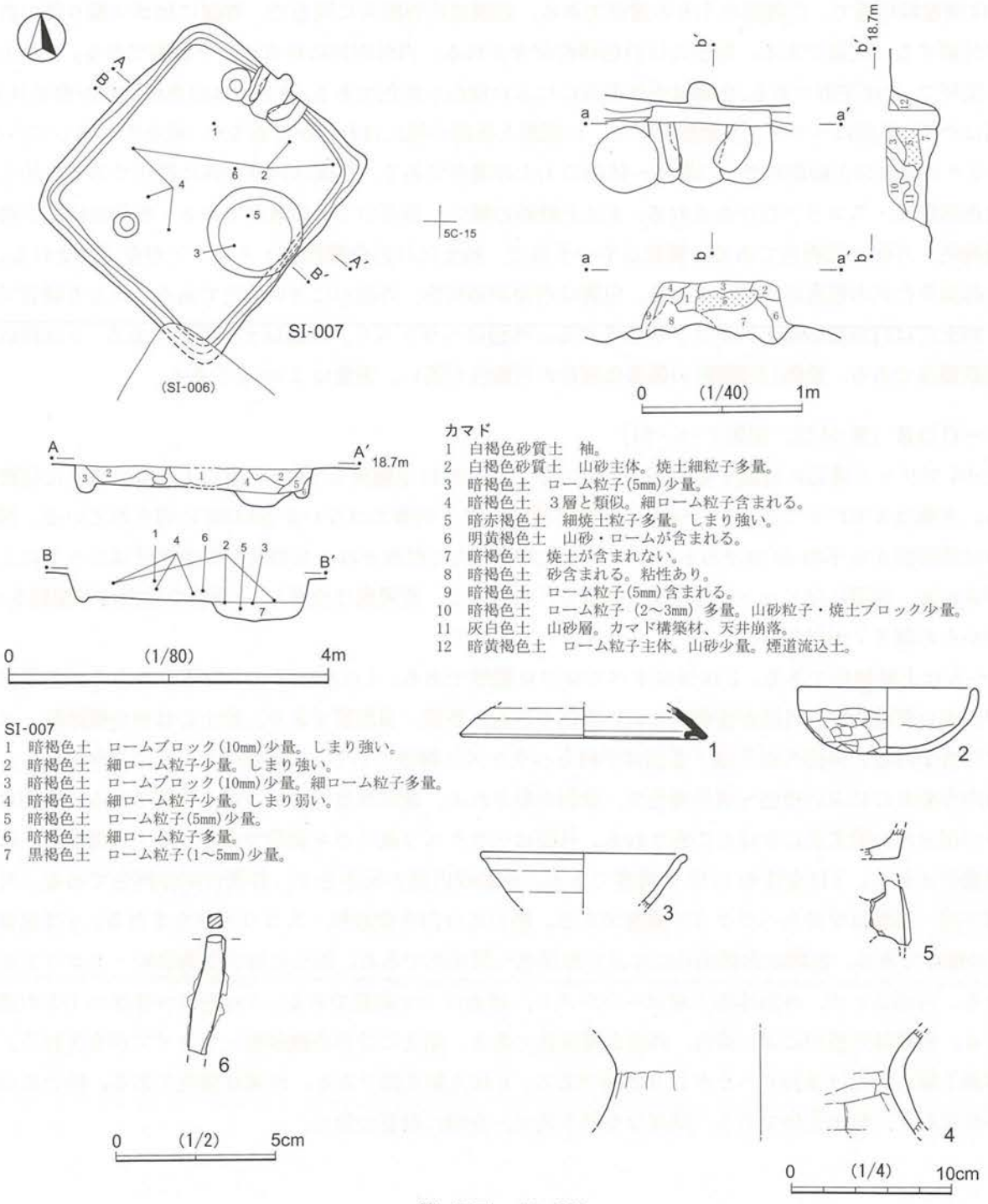
5C-14グリッド周辺に位置する。住居の東側2/3が調査区外にあたる。平面形は方形で，規模は主軸長3.74 m，幅は不明である。主軸はN-35°-Eである。SI-007と隣接し，SB-003に切られている。掘り込みは確認面から平均50 cmである。カマドは確認できないが調査区外の北東壁に付設されていると考えられる。ピットは主柱穴が2基検出され，中心部まで掘れたものは深さ40 cmである。床面は，中央部の主柱



第42図 SI-006

穴を囲む広い部分での硬化が顕著であった。壁周溝は検出されなかった。

遺物はほとんど出土していない。1は土師器大型坏で，口縁部の1/3の遺存である。色調は内面がにぶい橙色，外面がにぶい橙色～黒色で，体部に赤彩の痕跡が残る。胎土には白色砂粒・スコリア・海綿骨針が含まれる。内外面ともヘラナデ調整である。口縁部と体部の境には明瞭な稜が作り出される。2は土師器甕で，底部～胴部下半の1/4の遺存である。色調は内外面共に褐色～黒褐色である。胎土には雲母粒・白色粒・スコリアが含まれる。内外面に筋状の痕跡があり，砥石として使用した可能性がある。外面はヘラケズリ，内面は雑なヘラナデ調整である。



カマド
1 白褐色砂質土 袖。
2 白褐色砂質土 山砂主体。焼土細粒子多量。
3 暗褐色土 ローム粒子(5mm)少量。
4 暗褐色土 3層と類似。細ローム粒子含まれる。
5 暗赤褐色土 細焼土粒子多量。しまり強い。
6 明黄褐色土 山砂・ロームが含まれる。
7 暗褐色土 焼土が含まれない。
8 暗褐色土 砂含まれる。粘性あり。
9 暗褐色土 ローム粒子(5mm)含まれる。
10 暗褐色土 ローム粒子 (2～3mm) 多量。山砂粒子・焼土ブロック少量。
11 灰白色土 山砂層。カマド構築材、天井崩落。
12 暗黄褐色土 ローム粒子主体。山砂少量。煙道流込土。

SI-007
1 暗褐色土 ロームブロック(10mm)少量。しまり強い。
2 暗褐色土 細ローム粒子少量。しまり強い。
3 暗褐色土 ロームブロック(10mm)少量。細ローム粒子多量。
4 暗褐色土 細ローム粒子少量。しまり弱い。
5 暗褐色土 ローム粒子(5mm)少量。
6 暗褐色土 細ローム粒子多量。
7 黒褐色土 ローム粒子(1～5mm)少量。

第43図 SI-007

ＳＩ－００７（第43図，図版6・8・61）

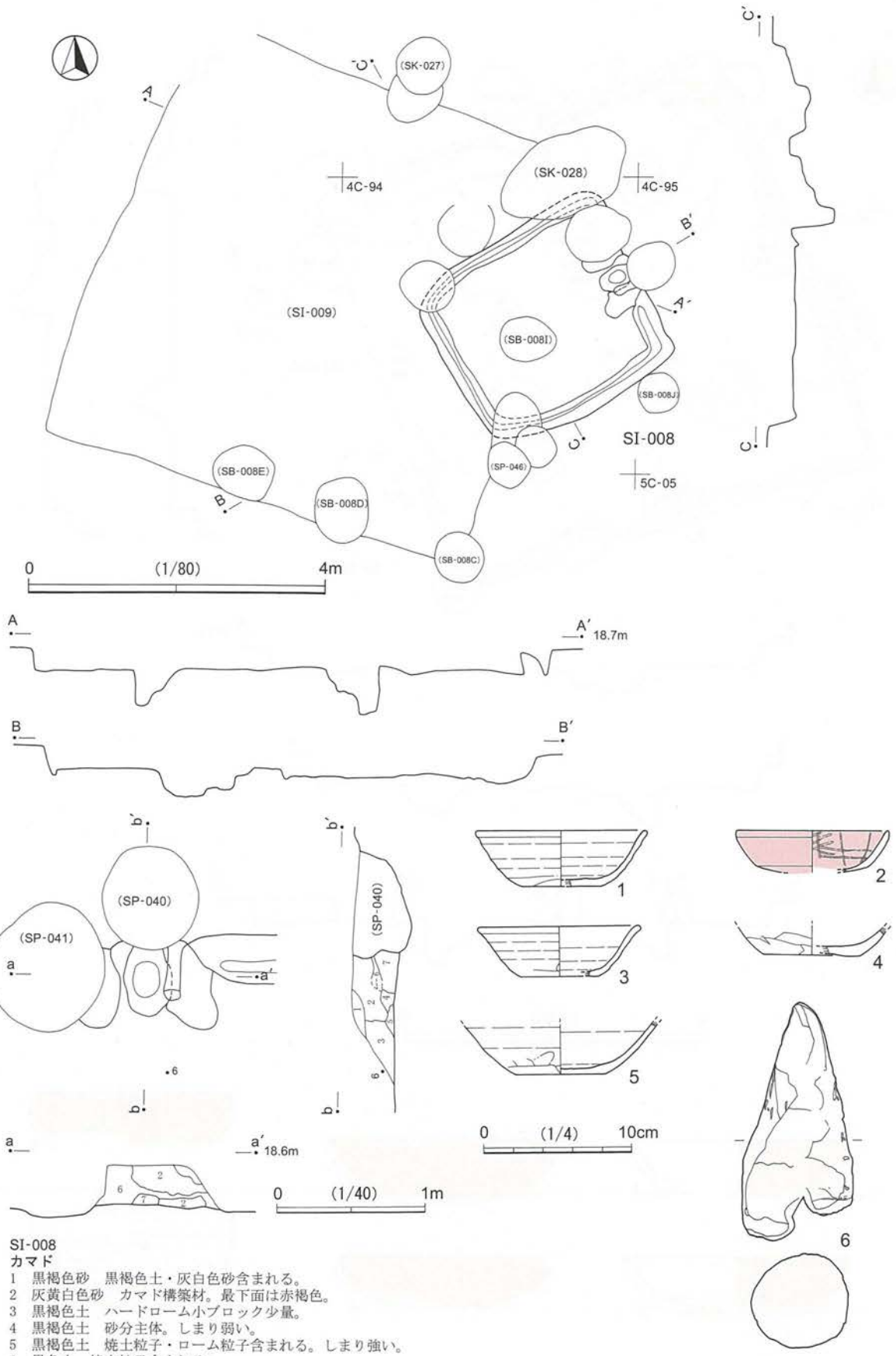
5C-04グリッド周辺に位置する。平面形は方形で，規模は主軸長3.14ｍ・幅2.91ｍである。主軸はN-40°-Eである。掘り込みは確認面から平均35㎝である。カマドは北東壁中央に付設される。奥壁部分は根による攪乱により，掘り込みははっきりしない。ピットは主柱穴が2基で，西側に偏る変則的なものである。北側のピットが深さ22㎝，南側が13㎝と掘り込みが浅く，主柱穴になり得たかは判断が難しい。住居床面東側に大きな円形の掘り込みがあるが，住居に伴うものではなく，住居構築以前の掘り込みの可能性が高い。壁周溝は全周し，平均的な規模は下端幅8㎝・床面からの深さ6㎝である。

1は須恵器坏蓋で，口縁部の1/8の遺存である。色調は内外面共に灰色で，外面にはゴマ振り状の自然釉が付着する。硬質である。胎土には白色砂粒が含まれる。内外面共にロクロナデ調整である。2は土師器小型坏で，ほぼ完形である。色調は内外面共ににぶい橙色～黒色である。胎土には白色微砂粒が含まれる。内面はナデ，外面はヘラケズリ調整である。口縁部と体部の境にはわずかであるが，稜を作り出している。3はロクロ整形の土師器坏で，口縁部～体部の1/4の遺存である。色調は内外面共に橙色である。胎土には白色微砂粒・スコリア粒が含まれる。4は土師器の甕で，頚部の1/5の遺存である。色調は内面が橙色～黒褐色，外面は黒褐色である。焼成はやや不良で，胎土には白色微砂粒・スコリアが多く含まれる。5は土師器多孔式の甑底部小破片である。色調は内面が褐灰色，外面がにぶい橙色である。かなり硬質である。胎土には白色微砂粒・スコリアが含まれる。外面はヘラケズリ，内面はナデ調整である。6は棒状の不明鉄製品である。鉄鏃(長頸鏃)の頸部の破片の可能性が高い。重量は3.31ｇである。

ＳＩ－００８（第44図，図版7・8・61）

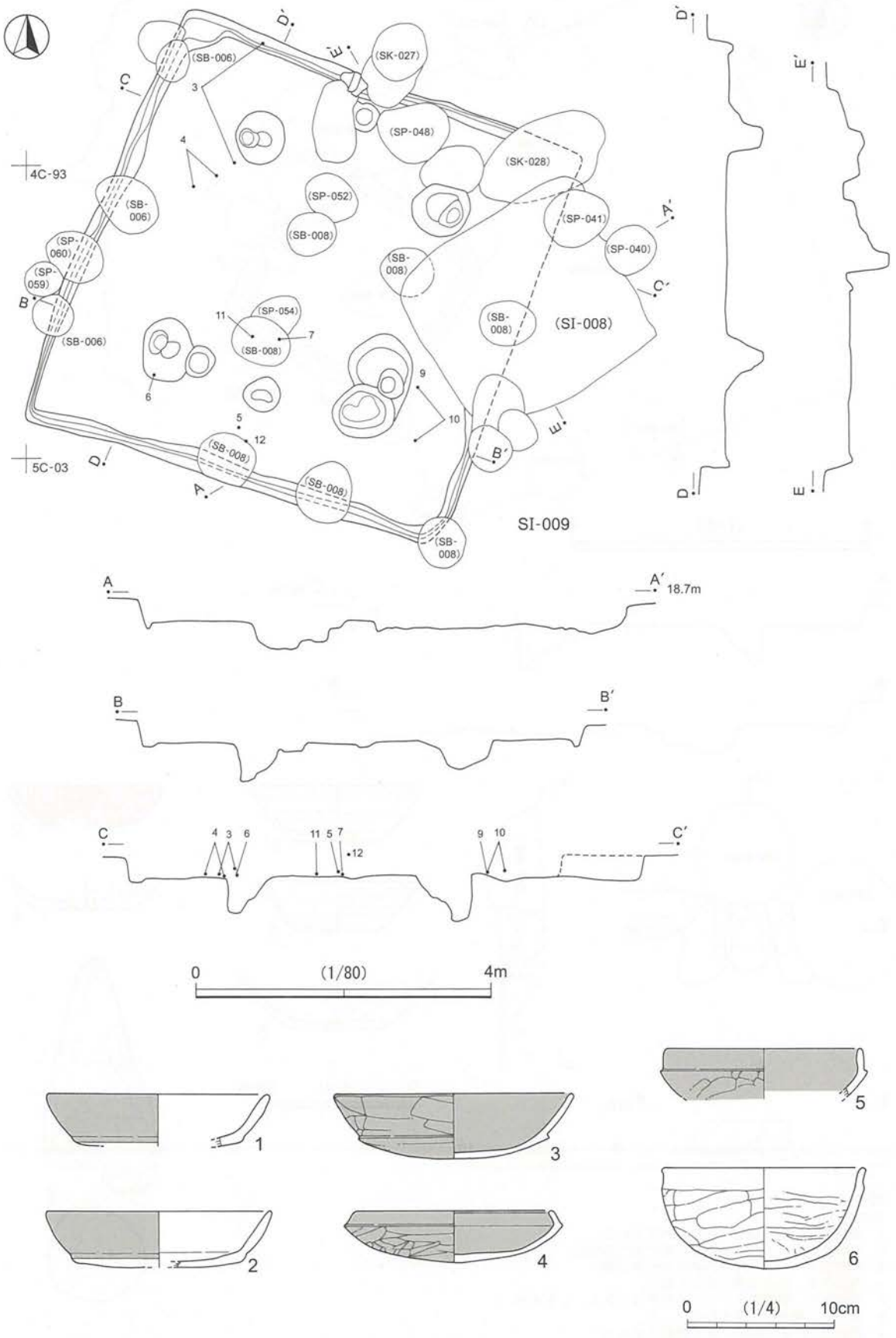
4C-94グリッド周辺に位置する。平面形は方形で，規模は主軸長2.58ｍ・幅2.4ｍの小型の住居跡である。主軸はN-60°-Eである。SI-009を切って構築され，明確ではないがSB-008に切られている。掘り込みは確認面から平均30㎝である。カマドは北東壁中央に付設され，左袖及び煙道部分はピットにより削平される。床面にはピットや硬化面は確認されなかった。壁周溝は全周し，平均的な規模は下端幅6㎝・床面からの深さ7㎝である。

1～5は土師器坏である。2以外はすべてロクロ整形である。1は全体の1/6の遺存である。色調は内面がにぶい黄橙色で，外面が橙色～にぶい褐色である。硬質，須恵質である。胎土には白色微砂粒・スコリアが含まれる。体部外面下端・底面は手持ちヘラケズリ調整である。2は全体の1/8の遺存である。色調は内外面共ににぶい橙色～明赤褐色で，全面赤彩される。焼成は良好であるが，軟質である。内面はミガキが部分的に暗文状にまばらに施される。外面はヘラケズリ後ミガキ調整である。胎土は精緻で，砂粒が微量含まれる。3は全体の1/10の遺存である。色調は内面が灰赤色で，外面は明赤褐色である。外面体部下端・底面は手持ちヘラケズリ調整である。胎土には白色微砂粒・スコリアが含まれる。4は底部の1/3の遺存である。色調は内外面共ににぶい赤褐色～灰褐色である。胎土には白色微砂粒・スコリアが含まれる。内面はナデ，外面体部下端はヘラケズリ，底面はナデ調整である。5は底部～体部の1/5の遺存である。色調は内面がにぶい褐色，外面が褐灰色である。胎土には白色微砂粒・スコリアが含まれる。外面体部下端と底面は手持ちヘラケズリ調整である。6は土製支脚である。色調は橙色である。胎土には砂粒が含まれず，粘土主体である。焼成はやや不良で，全体に軟質で脆い。

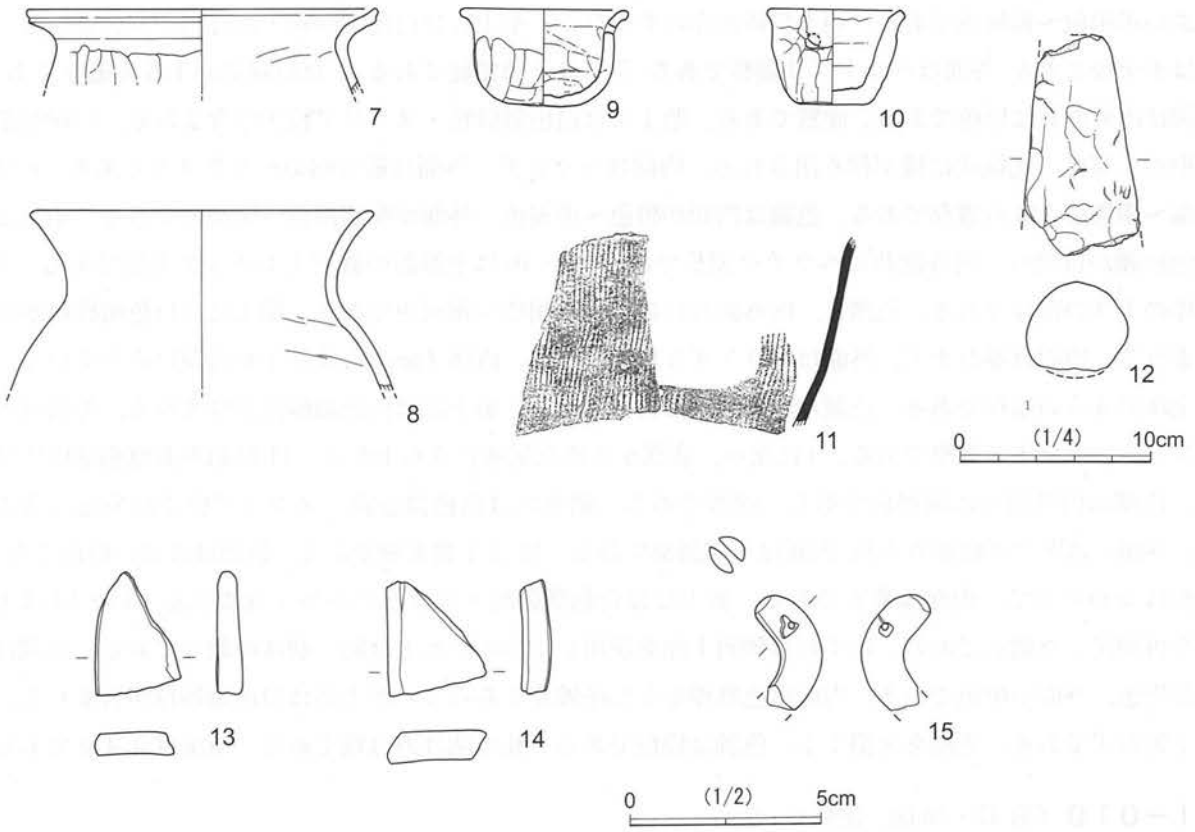


SI-008
カマド
1　黒褐色砂　黒褐色土・灰白色砂含まれる。
2　灰黄白色砂　カマド構築材。最下面は赤褐色。
3　黒褐色土　ハードローム小ブロック少量。
4　黒褐色土　砂分主体。しまり弱い。
5　黒褐色土　焼土粒子・ローム粒子含まれる。しまり強い。
6　黒色土　焼土粒子含まれる。
7　黒褐色土　焼土粒子・灰白色砂含まれる。

第44図　SI-008


SI-009
(SI-008)
(SB-006)
(SB-008)
(SK-027)
(SK-028)
(SP-048)
(SP-052)
(SP-041)
(SP-040)
(SP-060)
(SP-059)
(SP-054)
4C-93
5C-03
A
A′
18.7m
B
B′
C
C′
D
D′
E
E′
0
(1/80)
4m
0
(1/4)
10cm

第45図　SI-009(1)



第46図　SI-009(2)

ＳＩ－００９（第45・46図，図版7・8・61・62）

4C-93グリッド周辺に位置する。SI-008･SB-008など多くのピット群に切られている。平面形は方形で，規模は主軸長5.72ｍ・幅5.93ｍの大型住居である。主軸はN-21°-Eである。掘り込みは確認面から平均30㎝である。カマドは北壁中央に付設される。煙道部及び袖部分は掘立柱建物跡により削平され，詳細は判然としない。火焼部床面は赤化し，周辺より10㎝掘り窪められている。ピットは主柱穴が4基で，掘り込みはしっかりとしている。南側の主柱穴に並ぶように入口ピット(深28㎝)が検出された。壁周溝はカマド部分も含め全周し，平均的な規模は下端幅6㎝・床面からの深さ8㎝である。

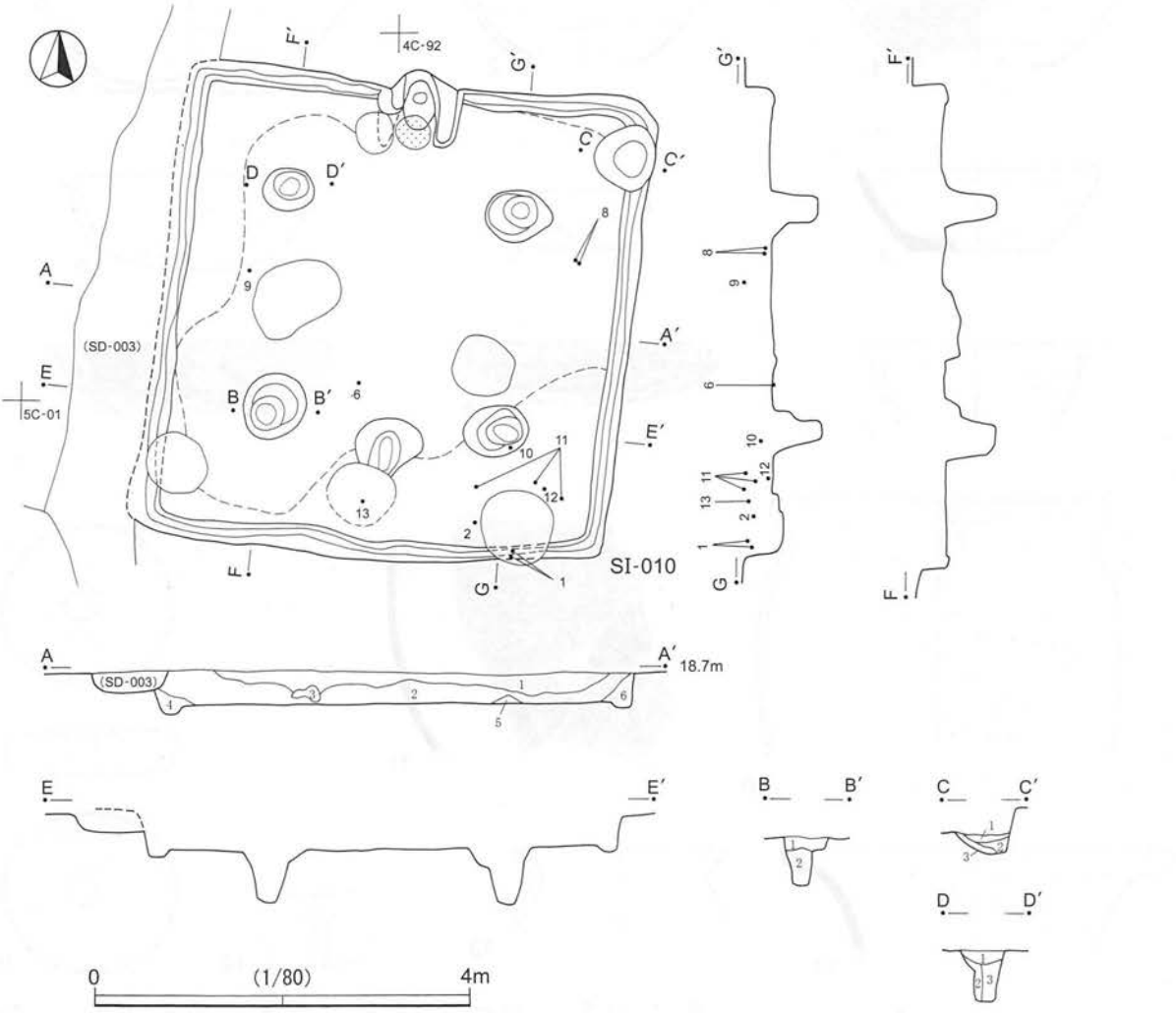
遺物は比較的多く出土した。実測したもの以外に弥生時代中期土器片も多く出土した。1～5は土師器坏である。1は口縁部破片で，色調は内面がにぶい褐色，外面が褐灰色である。焼成はやや不良で，胎土にはスコリア粒子が目立つ。内面はナデ，外面はヘラケズリ後ナデ調整である。2は全体の1/5の遺存で，1と特徴が類似し，同一個体の可能性が高い。3は全体の3/4の遺存である。色調は内面がにぶい橙色，外面がにぶい褐色～黒褐色である。胎土には白色微砂粒・スコリア粒子が含まれる。外面は口縁部も含め全面ヘラケズリ，内面はナデ調整である。底部付近は細かいヘラケズリにより，かなり薄手に仕上げている。4はほぼ完形である。色調は内面がにぶい黄橙色～黒色，外面はにぶい黄橙色で，完全には残っていないが，内外面共に黒色処理されたと考えられる。胎土には微砂粒・スコリア粒子が含まれる。口縁部はヨコナデで，外面はヘラケズリ，内面は丁寧なナデ調整である。5は口縁部破片で，色調は内外面共に黒色処理され，黒褐色である。胎土には白色微砂粒・スコリア粒子・雲母粒子が含まれる。口縁部はヨコナデで，外面はヘラケズリ，内面はナデ調整である。6は土師器鉢で，ほぼ完形である。色調は内外面共に

にぶい赤褐色～褐灰色である。胎土自体が赤みを帯びる。胎土には白色微砂粒・雲母粒子が含まれる。内面はナデ後ミガキ,外面はヘラケズリ調整である。7･8は土師器甕である。7は口縁部の1/6の遺存である。色調は内外面共に橙色である。硬質である。胎土には白色微砂粒・スコリア粒子が含まれる。口縁端部は整形が丁寧で,沈線状に稜が作り出される。内面はヘラナデ,外面は縦方向のヘラケズリである。8は口縁部～頸部の1/6の遺存である。色調は内面が橙色～黒褐色,外面が明赤褐色～黒褐色である。胎土には白色砂礫が目立つ。内外面共にヘラナデ調整である。9・10は土師器の甕形ミニチュア土器である。9は全体の1/3の遺存である。色調は,内外面共ににぶい赤褐色～褐灰色である。胎土には白色微砂粒が多く含まれる。内面は雑なナデ,外面はヘラケズリ調整である。直径4㎜の小孔が1か所開けられている。10は全体の4/5の遺存である。色調は内外面共に橙色である。胎土には白色微砂粒が含まれる。外面はヘラケズリ,内面はナデ調整である。9に比べ,底部から直立気味に立ち上がる。11は須恵器甑胴部破片である。色調は内外面共に灰褐色である。硬質である。胎土には白色微砂粒・スコリア粒子が多量に含まれる。外面にはタタキ痕がみられ,内面はナデ調整である。12は土製支脚である。色調はにぶい橙色である。表面はなめらかで,内面は軟質である。胎土には白色微砂粒・スコリアが多く含まれる。13・14は土器片を再利用した砥石である。いずれも側面1面を使用している。もとは同一個体の破片である。色調は内面が黒色,外面が橙色である。内面黒色処理をした坏破片であろう。胎土には白色微砂粒が含まれる。15は土製勾玉である。先端を欠損する。色調は橙色である。孔の開け方は雑である。重量は4.4ｇである。

ＳＩ－０１０（第47・48図,図版9・62）

4C-92グリッド周辺に位置する。平面形は方形で,規模は主軸長5.2ｍ・幅4.89ｍである。主軸はN-6°-Eである。西壁を平行しているSD-003に切られ,南壁に沿ってSB-001に切られている。掘り込みは確認面から平均32㎝である。カマドは北壁中央に付設される。火焼部床面は赤化し,奥壁に近い部分がやや低くなる。ピットは主柱穴が4基で,掘り込みはしっかりとしている。北東コーナーと入口部にそれぞれピット(深20㎝・40㎝)が1基ずつ検出された。床面は,中央部の主柱穴を囲む広い部分での硬化が顕著であった。壁周溝は全周し,平均的な規模は下端幅8㎝・床面からの深さ4㎝である。

遺物は遺構南半分から多く出土した。1～3は土師器坏である。1は口縁部～体部の1/4の遺存である。色調は内面が口縁外面端部を含め黒色処理され,外面は浅黄橙色である。胎土には白色微砂粒が含まれる。ロクロ整形で外面はロクロナデ,内面はナデ後丁寧なミガキ調整である。2は口縁部～体部の1/5の遺存である。色調は内面がにぶい橙色,外面がにぶい赤褐色である。焼成は良好で硬質である。胎土には白色微砂粒・スコリア粒子が含まれる。ロクロ整形である。外面体部下端は手持ちヘラケズリ調整である。3は大型の坏である。全体の1/3の遺存である。色調は内面が橙色～褐灰色で,外面がにぶい赤褐色である。焼成は良好で硬質である。胎土には白色微砂粒が多く含まれる。ロクロ整形である。底部内面はやや膨らむ。外面体部下端は手持ちヘラケズリ,底面は回転ヘラ切り後手持ちヘラケズリ調整である。底面には意図的か不明であるがヘラ書きがみられる。4は須恵器坏で,全体の1/3の遺存である。色調は内外面共ににぶい黄橙色で,断面内部は灰色である。硬質である。胎土には白色砂粒・スコリア粒子が含まれる。ロクロ整形で,底面・外面体部下端は回転ヘラケズリ調整である。5はミニチュア土器である。全体の1/8の遺存である。色調は内外面共に橙色である。胎土には白色・灰白色微砂粒が含まれる。内外面共にナデ調整で,口縁には指の指紋が確認できる。6・7は土師器椀で,色調が異なるが,形状が酷似する。6は全

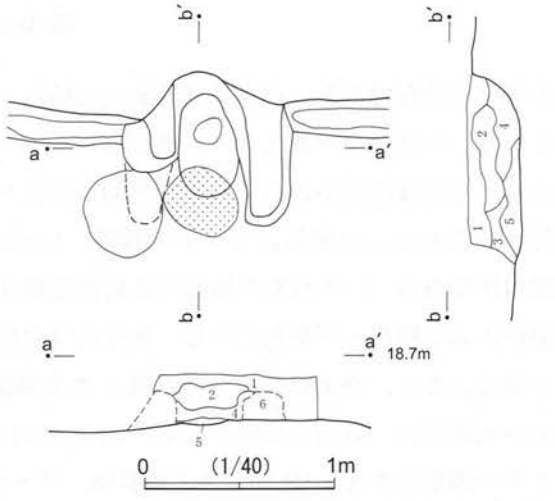


SI-010
1　黒褐色土　細ローム粒子少量。
2　黒褐色土　細ローム粒子少量。ローム粒子(5mm)含まれる。
3　暗黄褐色土　ロームブロック(20～30mm)含まれる。細ローム粒子多量。
4　暗黄褐色土　細ローム粒子多量。ローム主体。
5　暗褐色土　細ローム粒子微量。
6　黄褐色土　ローム粒子多量。ロームブロック多量。

Pit B-B′
1　暗褐色土　ロームブロック(10～20mm)多量。しまり弱い。
2　暗黄褐色土　ローム粒子(5mm)多量。しまり弱い。

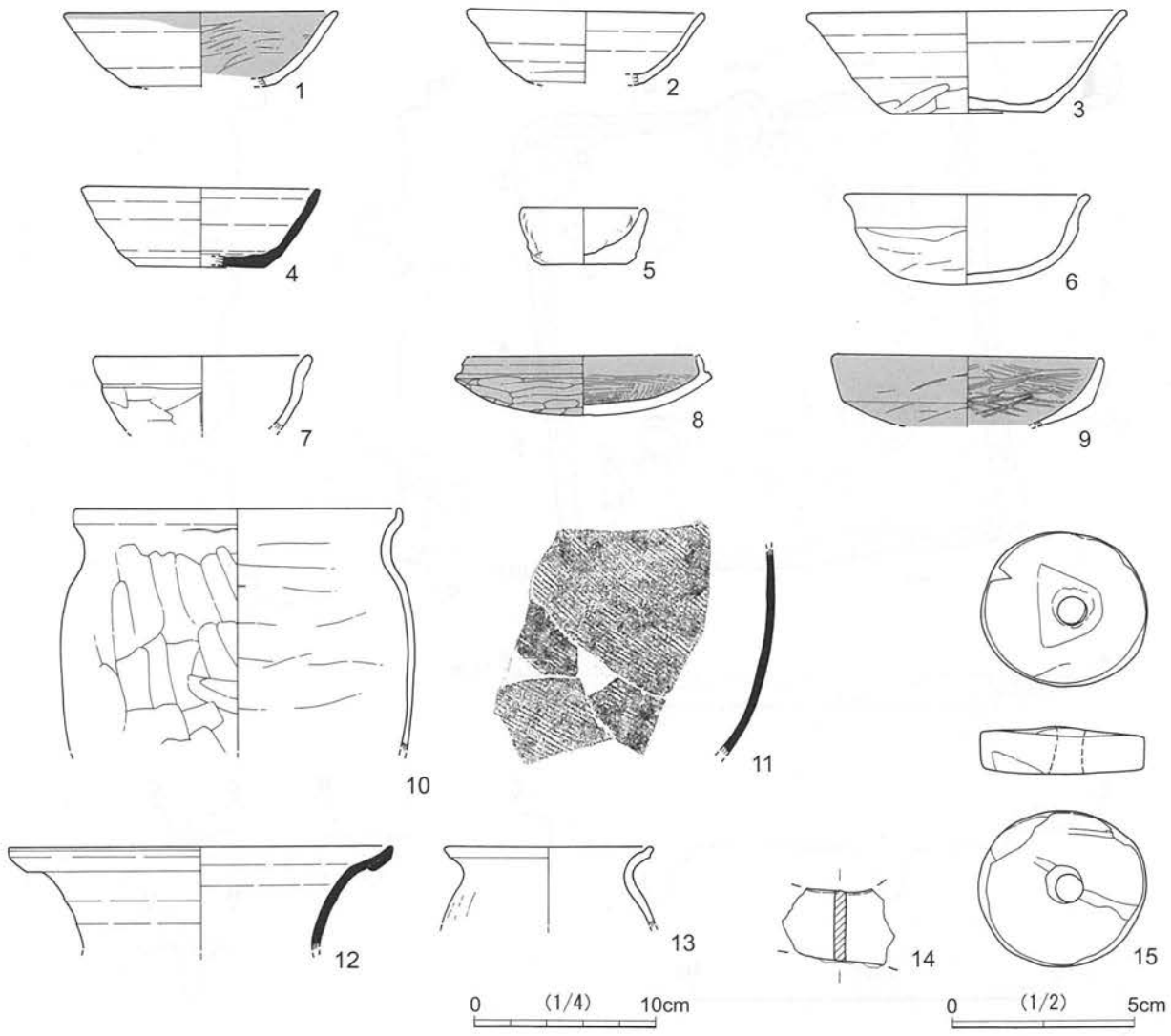
Pit C-C′
1　黒褐色土　しまり弱い。
2　暗褐色土　ロームブロック(10mm)少量。
3　暗褐色土　ローム粒子・ロームブロック多量。

Pit D-D′
1　暗褐色土　ローム粒子多量。
2　黄褐色土　ロームブロック多量。ややしまりあり。
3　暗黄褐色土　ロームブロック・ローム粒子多量。しまり弱い。



カマド
1　灰白色砂質土　山砂多量。細ローム粒子多量。
2　灰白色砂質土　焼土ブロック少量。山砂多量。細ローム粒子少量。
3　灰白色砂質土　山砂多量。
4　暗灰白色砂質土　細ローム粒子多量。山砂少量。
5　暗褐色砂質土　焼土ブロック多量。山砂・ロームブロック(10mm)少量。
6　灰白色砂質土　山砂・褐色土多量。

第47図　SI-010(1)



第48図　SI-010(2)

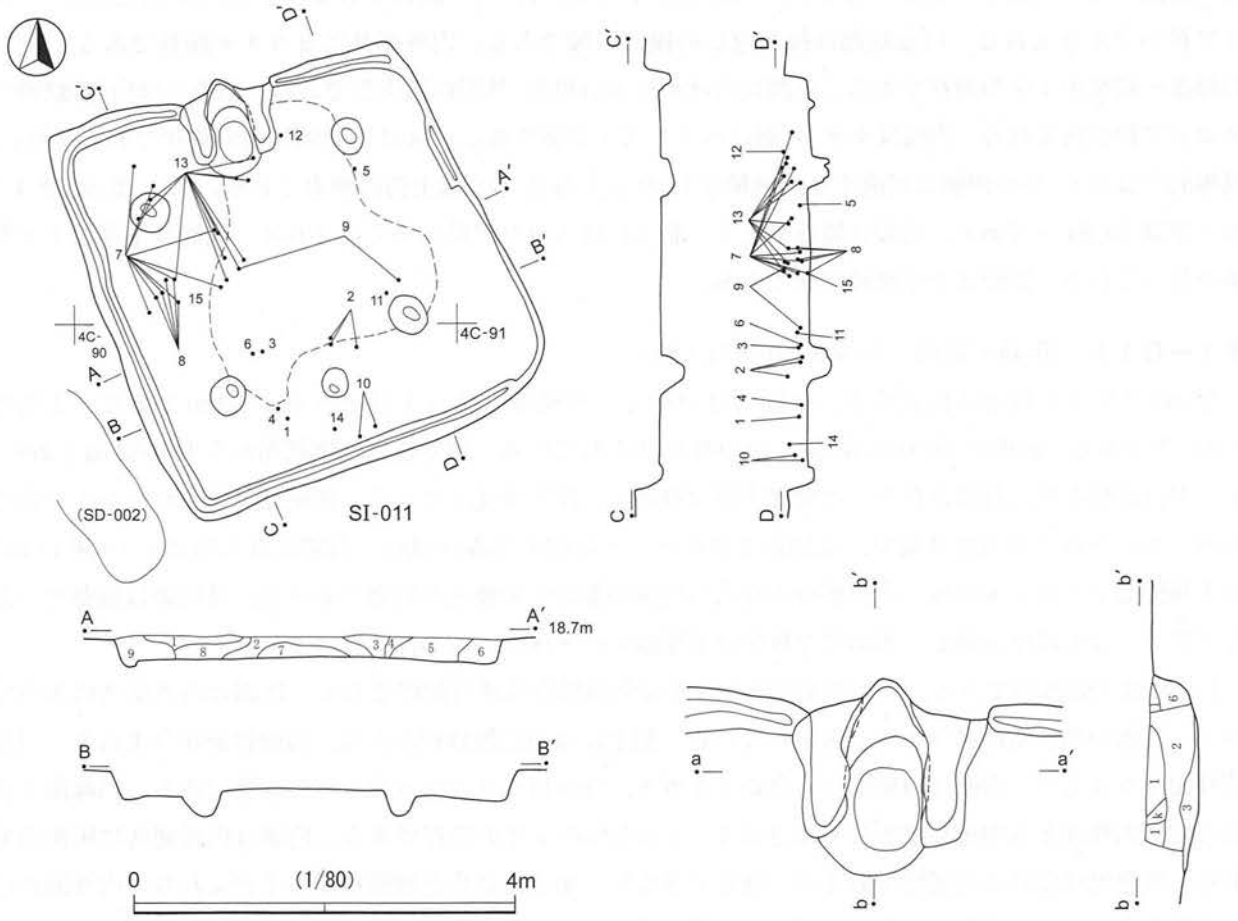
体の1/2の遺存である。色調は内外面共に橙色である。胎土には白色微砂粒・スコリア粒子・海綿骨針が含まれる。内面はナデ後ミガキ，外面はヘラケズリ後ミガキ調整である。7は口縁部～体部の1/6の遺存である。色調は内面がにぶい橙色，外面が橙色～黒色である。胎土には白色微砂粒・スコリア粒子・海綿骨針が含まれる。口縁部はヨコナデ調整，内面は剥落している。外面はヘラケズリ調整である。8・9は土師器坏である。いずれも内外面共に黒色処理される。8は全体の1/2の遺存である。色調は内面が黒色，外面がにぶい橙色～灰褐色である。胎土には白色微砂粒・スコリア粒・金雲母粒子が多く含まれる。内面は丁寧なミガキ，外面はヘラケズリ後ミガキ調整である。9は口縁部～体部の1/5の遺存である。色調は内面が灰黄褐色，外面が黒色である。胎土には白色微砂粒子が含まれる。口縁部を含め，内外面共に丁寧なミガキ調整である。10・13は土師器甕，11・12は須恵器甕である。10は口縁部～胴部上半の1/6の遺存である。色調は内面が明赤褐色～暗赤灰色，外面が橙色～にぶい赤褐色である。薄手で硬質である。胎土には白色・灰白色砂粒が含まれる。外面はヘラケズリ，内面はナデ調整である。頸部の屈曲が緩やかである。11は胴部破片である。色調は内面がにぶい橙色～灰褐色，外面が橙色～赤灰色である。硬質である。胎土には白色・透明砂粒が多く含まれる。内面はナデ，当て具痕，外面はタタキ目が確認できる。12

は口縁部の1/5の遺存である。色調は内外面共に明赤褐色である。硬質である。胎土には白色砂粒・スコリア粒が多く含まれる。口縁端部は折り返しの複合口縁である。内外面共にヨコナデ調整である。13は口縁部～肩部の1/4の遺存である。色調は内面がにぶい橙色,外面が褐灰色である。胎土には白色微砂粒・スコリア粒が含まれる。内面はナデ,外面はヘラケズリ調整である。14は不明鉄製品の破片である。薄く,直線的ではなく,やや内側に屈曲する。重量は7.59 gである。15は土製紡錘車である。厚1.25 cm・径4.1 cm・重量30.84 gである。色調は橙色である。胎土にはスコリア粒が多く含まれる。表面は丁寧にナデ調整を行っている。器面はやや摩滅気味である。

ＳＩ－０１１（第49・50図，図版9・10・62・63）

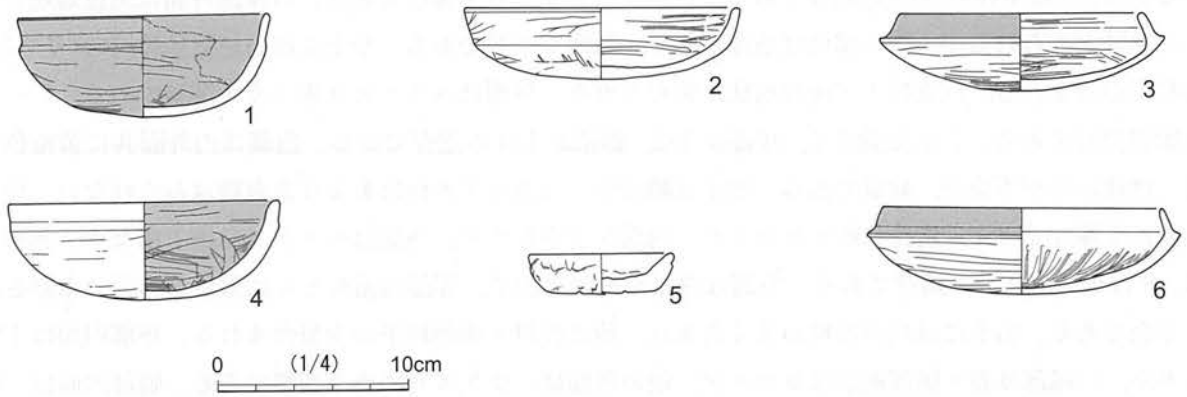
4C-80グリッド周辺に位置する。平面形は方形で，規模は主軸長4.17 m・幅3.94 mである。主軸はN-20°-Wである。西壁はSD-003,南壁はSB-001に切られている。掘り込みは確認面から平均32 cmである。カマドは北壁中央に付設される。火焼部床面は被熱し，厚く赤化している。奥壁は立ち上がりがやや急である。ピットは主柱穴が4基で，北側の2基のピットの掘り込みは浅い。南側には入口ピット(深11 cm)が1基確認できた。床面は，中央部の主柱穴の内側の部分での硬化が顕著であった。壁周溝は東壁で一部とぎれながらもほぼ全周し，平均的な規模は下端幅6 cm・床面からの深さ8 cmである。

1～6は土師器坏である。1はほぼ完形の内外面全面黒色処理の個体である。色調は内外面共に黒色である。外面の黒色処理はほとんど剥がれている。胎土には白色微砂粒が多量，海綿骨針が含まれる。口縁部外面はヨコナデ，内面は口縁部分も含めてミガキ，外面はヘラケズリ後ミガキ調整である。口縁部と体部の境に内外面とも明確に稜が作り出される。2は全体の1/2の遺存である。色調は内外面共に灰褐色である。黒色処理(漆)の可能性があるが，断定できない。胎土には白色微砂粒が多く含まれる。内外面共に口縁部も含めミガキ調整である。口縁部と体部の境は外面で稜が作り出され,かすかに段状となっている。3は完形で，色調は内面がにぶい赤褐色～黒色，外面が灰褐色～黒色である。口縁部外面は黒色処理(炭)された痕跡が残る。他の部分も黒色処理していた可能性があるが断定できない。胎土には白色・灰白色砂礫が多く含まれる。口縁部も含め，内外面共に丁寧なミガキ調整である。外面にはヘラケズリの痕跡もみられる。4は完形で，色調は内面が黒色，外面がにぶい赤褐色～黒色である。内面は黒色処理(炭)されるが，外面は残存がわずかで黒色処理の範囲が不明である。胎土には白色微砂粒子が含まれる。口縁部も含め，内外面共に丁寧なミガキ調整である。5は手捏ね土器で，全体の1/2の遺存である。色調は内外面共に橙色である。胎土には白色微砂粒子・海綿骨針が含まれる。外面は無調整で，内面は比較的丁寧なナデ調整である。6は全体の90%の遺存である。色調は内外面とも黒褐色である。口縁部外面は黒色処理されていた痕跡がみられるが，他の部位は遺存が悪く，範囲が不明である。胎土には白色微砂粒・スコリア粒・雲母粒子が含まれる。内面はナデ後放射状に密なミガキ，外面はヘラケズリ後ミガキ調整である。7～11は土師器高坏である。7は大型品で，坏部が1/2，脚部が1/4の遺存である。色調は内外面共に黄橙色である。焼成はやや不良で，軟質である。胎土は緻密で，スコリアの他はあまり含有物はみられない。坏部内外面は丁寧なミガキ，脚部は裾がヨコナデ，内面が丁寧なナデ，外面はヘラケズリ後丁寧なナデ調整である。8は全体の4/5の遺存である。色調は内面が黒色処理で，脚部内面もともに黒色，外面は赤彩されて，赤色である。胎土には白色砂粒が多く含まれ，他に雲母・黒色粒子が少量含まれる。坏部内面は丁寧なミガキ，口縁部外面・脚部裾部はヨコナデ，他の外面はヘラケズリ後ナデ調整である。脚部内面は，輪

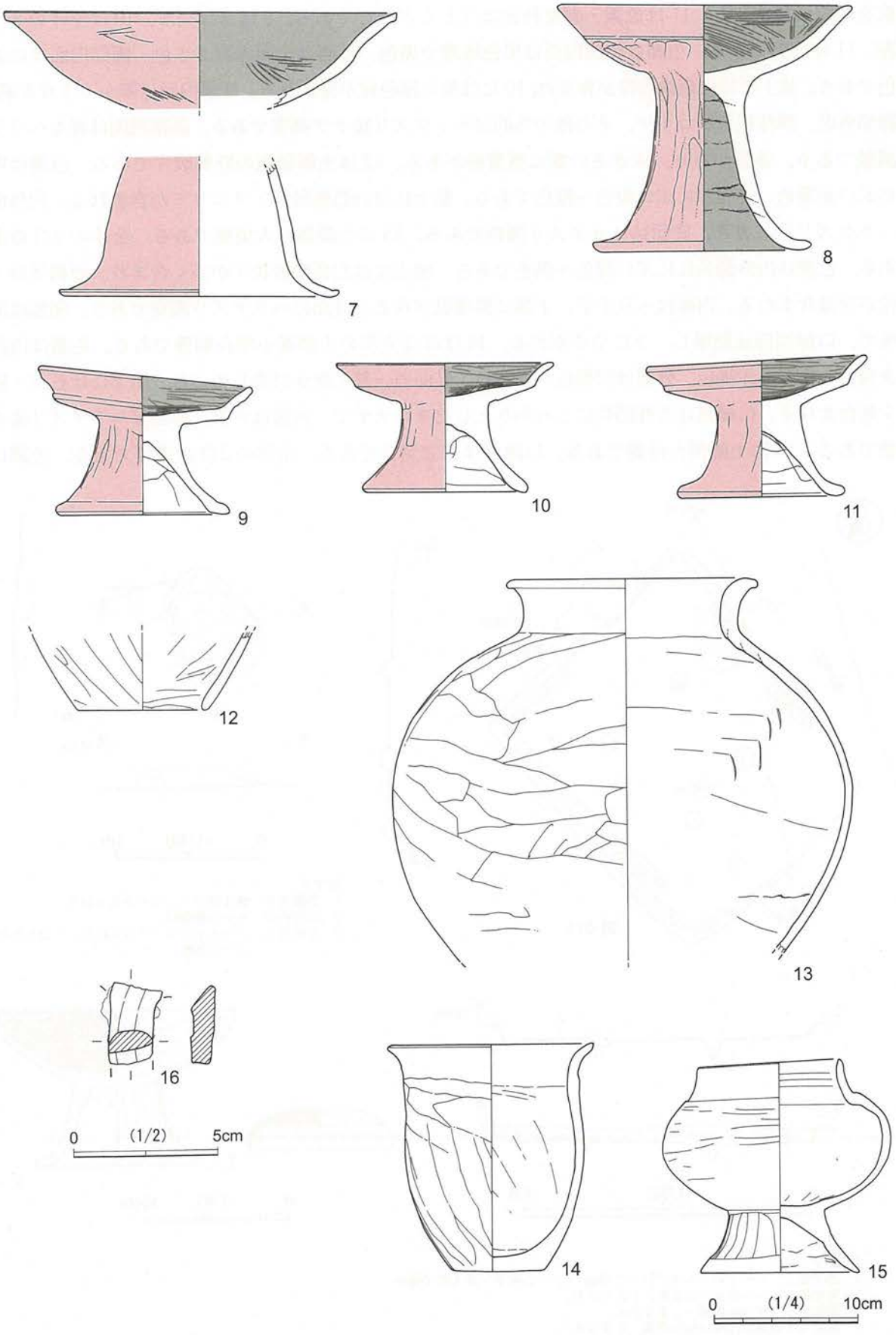


SI-011
1 暗褐色土　細ローム粒子多量。焼土ブロック(5～10㎜)少量。しまり強い。
2 暗褐色土　ローム粒子(2～10㎜)少量。しまり強い。
3 暗褐色土　黒土とローム粒子がまだらに含まれる。
4 暗黄褐色土　ロームブロック(5～10㎜)多量。
5 暗褐色土　ローム粒子(2～5㎜)多量。
6 暗褐色土　ローム粒子多量。しまり弱い。
7 暗褐色土　しまり弱い。
8 暗黄褐色土　ロームブロック(10㎜)多量。しまり強い。
9 暗茶褐色土　細ローム粒子少量。

カマド
1 黄白色土　山砂主体。ローム粒子少量。カマド構築材。
2 暗褐色土　山砂粒子多量。ロームブロックやや多量。流込土。
3 暗灰色土　山砂粒子やや多量。
4 黄白色土　山砂主体。袖。
5 黄褐色土　ローム粒子・山砂含まれる。袖。
6 黄褐色土　ローム主体。砂多量。焼土含まれる。煙道の痕跡か。

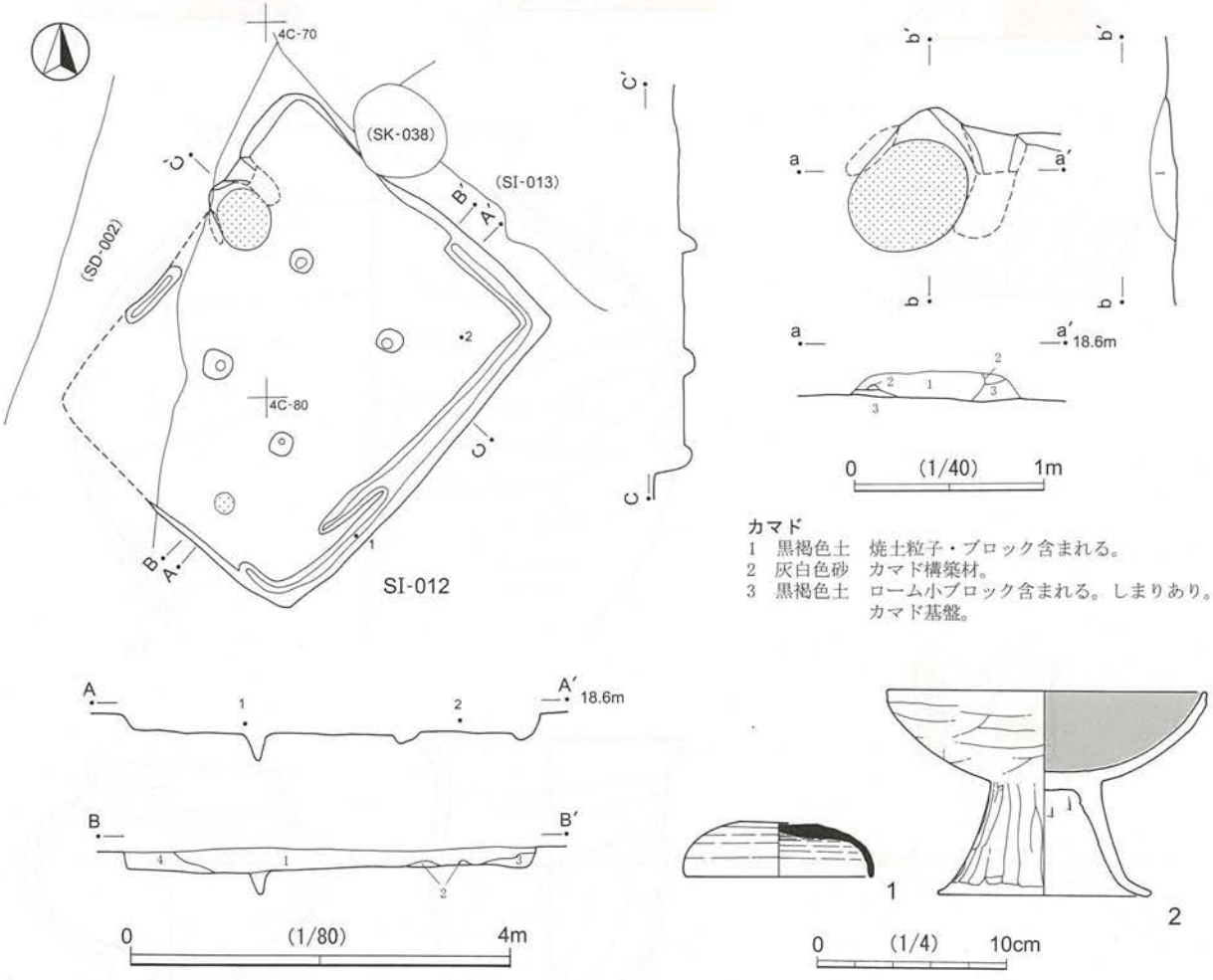


第49図　SI-011(1)



第50図　SI-011 (2)

積痕を明瞭に残す。9～11は色調・調整技法はほとんど同じである。9はほぼ完形，10は全体の2/3の遺存，11は完形である。色調は坏部内面は黒色処理で黒色，外面は全面赤彩で赤色，脚部内面はにぶい褐色である。胎土には白色微砂粒が含まれ，10には他に黒色粒が含まれる。坏部内面は細かくミガキ調整，口縁部外面，脚部裾はヨコナデ，その他の外面はヘラケズリ後ナデ調整である。脚部内面は雑なヘラケズリ調整である。器厚があり，大きさの割に重量感がある。12は土師器甑の底部破片である。色調は内面がにぶい赤褐色，外面がにぶい橙色～橙色である。胎土には白色微砂粒・スコリアが含まれる。内外面共にヘラケズリ後ミガキ，底面はヘラケズリ調整である。13は土師器の大型甕である。全体の2/3の遺存である。色調は内外面共ににぶい褐色～黒色である。胎土には白色微砂粒子が多く含まれ，海綿骨針・雲母粒が少量含まれる。内面はヘラナデ，下部に輪積痕が残る。外面はヘラケズリ調整である。頸部は直立気味で，口縁端部は肥厚し，下にやや垂れる。14はほぼ完形の土師器小型長胴甕である。色調は内面が明赤褐色～にぶい赤褐色，外面は明褐色～黒色で，外面の一部に炭が付着している。胎土には石英・砂礫が少量含まれる。口縁部は内外面共にしっかりとしたヨコナデで，内面はナデ，外面はヘラケズリ後ナデ調整である。15は土師器台付甕である。口縁部は直立気味である。全体の2/3の遺存である。色調は外



カマド
1 黒褐色土 焼土粒子・ブロック含まれる。
2 灰白色砂 カマド構築材。
3 黒褐色土 ローム小ブロック含まれる。しまりあり。
カマド基盤。

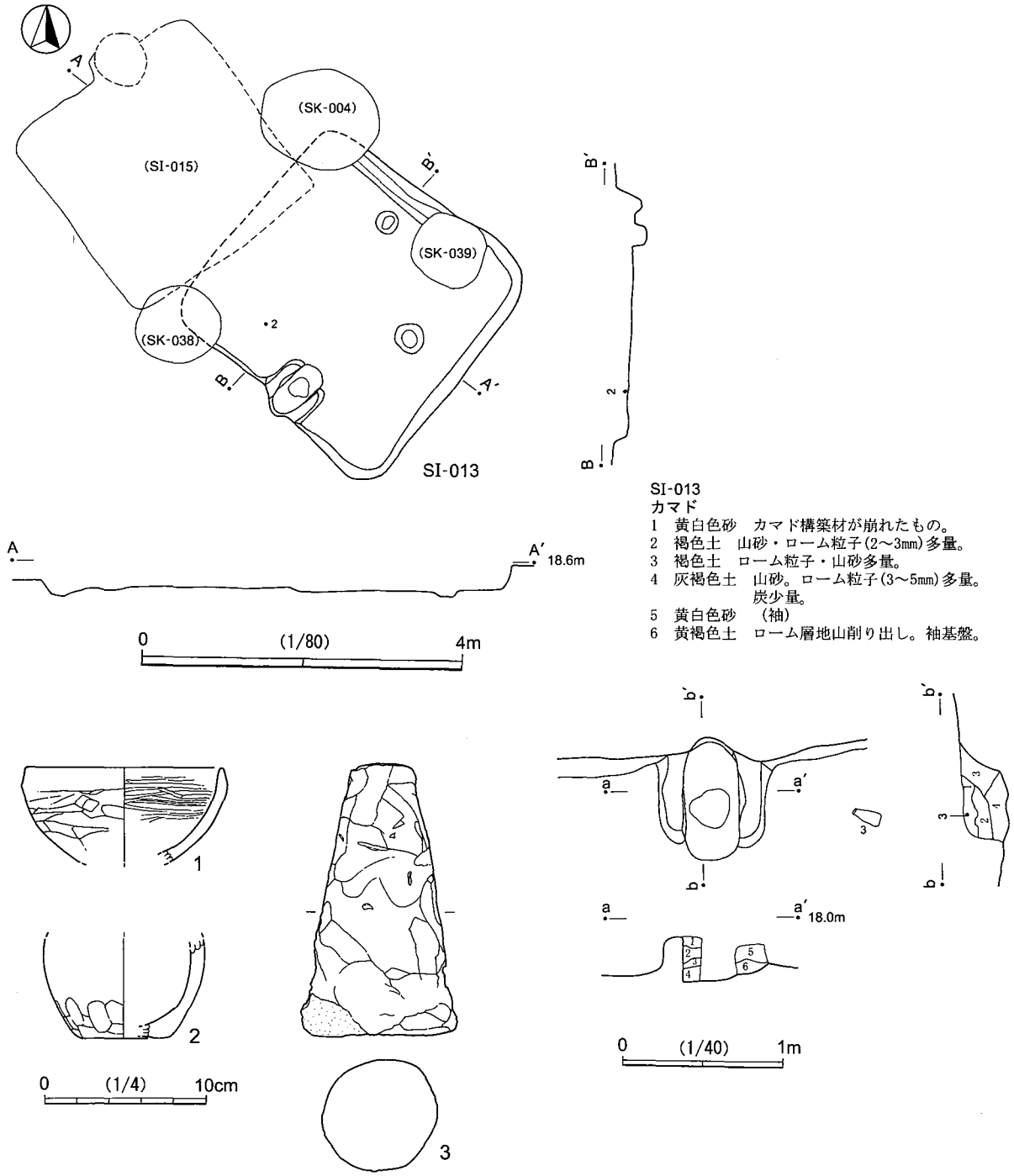
SI-012
1 黒褐色土 ハードローム小ブロック(5mm)・ローム粒子・焼土粒子微量。
2 黄褐色土 ハードローム主体。しまりあり。
3 黄褐色土 ローム主体。しまりあり。
4 褐色土 被熱した灰白色砂多量。しまりあり。

第51図 SI-012

面がにぶい褐色～灰褐色，内面は灰褐色である。胎土には白色微砂粒が含まれる。口縁部はヨコナデ後ミガキ，内面はナデ，外面は甕部分はヘラケズリ後ミガキ，台部外面は縦方向のヘラケズリ調整である。器壁は薄く，丁寧な作りである。16は不明鉄製品である。重量は10.32ｇである。先端がひろがり，厚みが無くなるので，鑿状の工具の可能性がある。

ＳＩ－０１２（第51図，図版11・63）

4C-70グリッド周辺に位置する。平面形は横長の長方形で，規模は主軸長3.5ｍ・幅4.29ｍである。主軸はN-47°-Wである。西部壁をSD-002に切られている。掘り込みは確認面から平均20㎝である。カマ



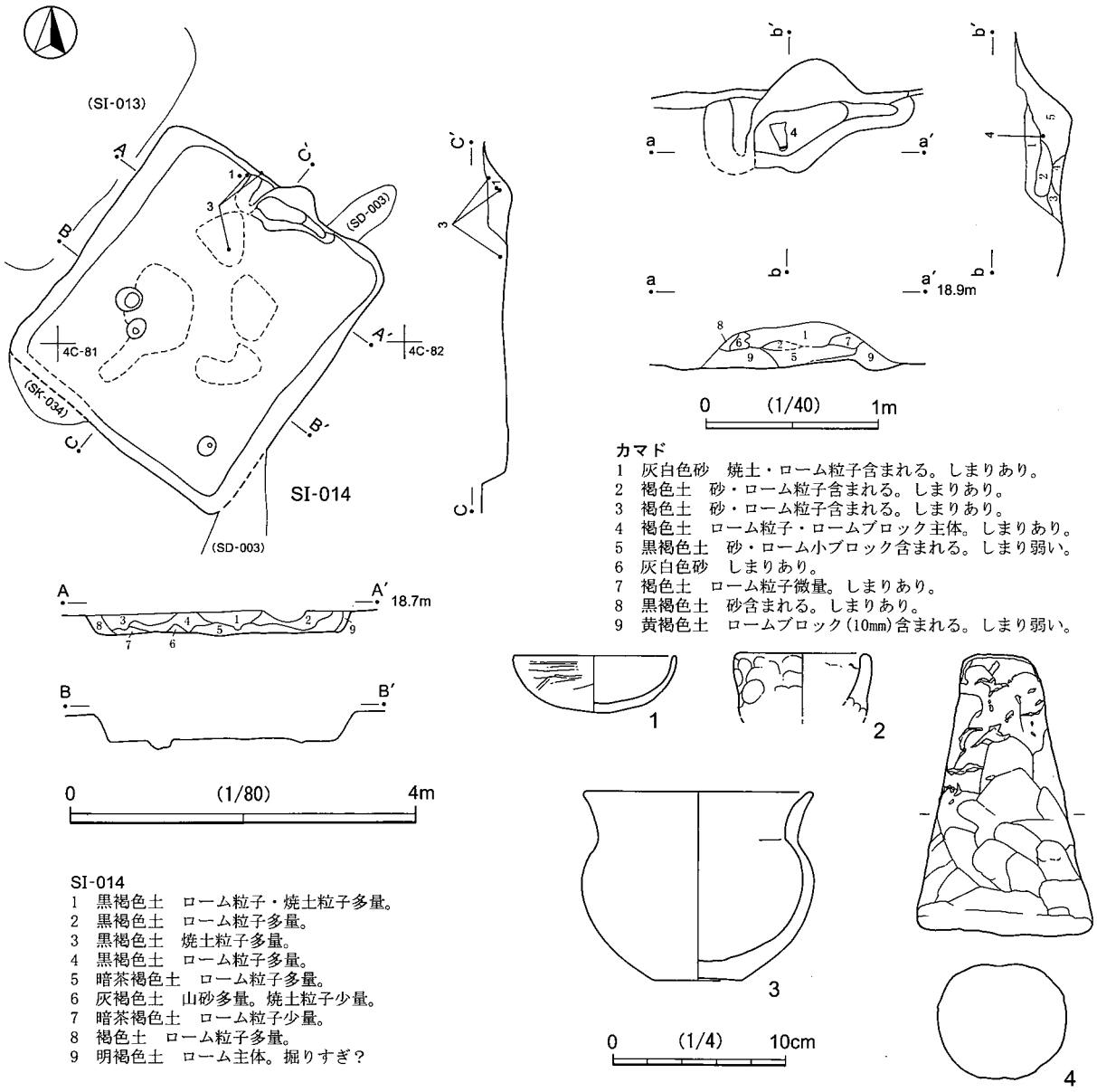
第52図　SI-013

ドは北西壁北寄に付設される。火焼部床面は広い範囲で被熱している。ピットは主柱穴が4基で，掘り込みは南コーナーの柱穴以外は浅い。壁周溝は切り合う部分以外は全周し，平均的な規模は下端幅8cm・床面からの深さ5cmである。

南西壁近くから焼土が出土した。1は須恵器小型蓋の完形品である。色調は内外面共に灰色である。焼成は良好で硬質である。胎土に長石粒が含まれるが，全体的に砂っぽい。全面ロクロナデで，回転ヘラ切りされたものと考えられる。2は土師器高坏の坏部の1/3以外の遺存である。色調は内外面共に，橙色である。焼成はやや不良で，胎土にはスコリア粒が目立ち，白色砂粒が含まれる。2次被熱を受けたためか器面がかなり荒れている。内面はナデ，外面はヘラケズリ後ナデ調整である。

ＳＩ－０１３（第52図，図版11・13・63・64）

4C-70グリッド周辺に位置する。平面形は方形で，規模は主軸長2.94m・幅推定3.18mである。主軸はN-143°-Wである。SI-015，SK-004・038・039に切られている。掘り込みは確認面から平均30cmである。



カマド
1 灰白色砂 焼土・ローム粒子含まれる。しまりあり。
2 褐色土 砂・ローム粒子含まれる。しまりあり。
3 褐色土 砂・ローム粒子含まれる。しまりあり。
4 褐色土 ローム粒子・ロームブロック主体。しまりあり。
5 黒褐色土 砂・ローム小ブロック含まれる。しまり弱い。
6 灰白色砂 しまりあり。
7 褐色土 ローム粒子微量。しまりあり。
8 黒褐色土 砂含まれる。しまりあり。
9 黄褐色土 ロームブロック(10mm)含まれる。しまり弱い。

SI-014
1 黒褐色土 ローム粒子・焼土粒子多量。
2 黒褐色土 ローム粒子多量。
3 黒褐色土 焼土粒子多量。
4 黒褐色土 ローム粒子多量。
5 暗茶褐色土 ローム粒子多量。
6 灰褐色土 山砂多量。焼土粒子少量。
7 暗茶褐色土 ローム粒子少量。
8 褐色土 ローム粒子多量。
9 明褐色土 ローム主体。掘りすぎ？

第53図 SI-014

カマドは南西壁中央に付設される。カマド袖基部はローム層の地山を削って構築している。住居中央やや東寄りに浅い掘り込みがみられる。入口ピット(深 20 cm)が北東壁沿いで確認された。壁周溝は北東壁の一部でみられ，平均的な規模は下端幅 10 cm・床面からの深さ 5 cmである。

遺物はほとんど出土していない。カマド右脇から土製支脚が出土した。1 は土師器坏で，口縁部～体部の 1/6 の遺存である。色調は外面が黒色，内面が灰褐色である。胎土には白色微砂粒が含まれる。内面は丁寧なミガキ，外面はヘラケズリ後ミガキ調整である。2 は小型甕で，底部～胴部下半の 1/3 の遺存である。色調は内外面共に橙色である。胎土には白色微砂粒子・スコリア粒子が含まれる。外面はヘラケズリ後ミガキ，内面はナデ調整，底面はヘラケズリ調整である。内面は器面の剥落が著しい。3 は土製支脚である。色調は橙色である。焼成はやや不良で，軟質で脆い。胎土には砂礫は含まれず，スサが混入する。

ＳＩ－０１４（第 53 図，図版 12・13・64)

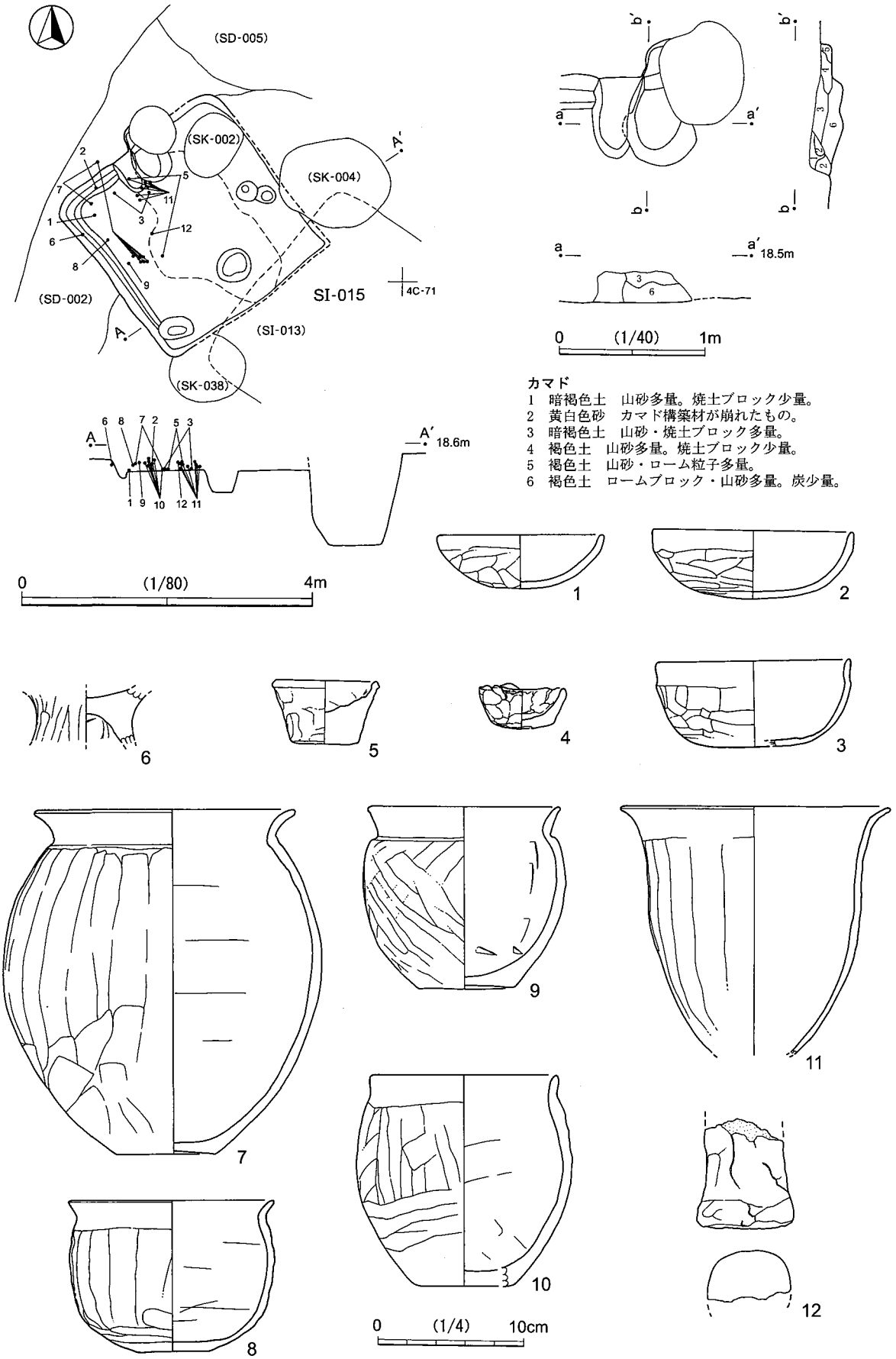
4C-71 グリッド周辺に位置する。平面形は縦長の長方形で，規模は主軸長 3.33 m・幅 2.6 mである。主軸は N-38°-E である。南部壁・北部壁を SD-003 に，南西部コーナーでは SK-034 に切られている。掘り込みは確認面から平均 25 cmである。カマドは北東壁中央に付設される。火焼部の中央から浮いた位置で支脚が出土した。ピットは 3 か所不規則な位置に確認され，その内エレベーション図に掛からない小型のピット 2 基は床面からの深さが 30 ～ 40 cmである。床面の硬化している部分は中央部に部分的に確認された。壁周溝は検出されなかった。

遺物はほとんど出土していない。1 は土師器小型坏で，全体の 4/5 の遺存である。色調は内面が橙色・黒色で炭の付着が所々みられるが，黒色処理によるものかは判断付かない。内面中央に「×」の弱い線刻がみられる。胎土は緻密でスコリア粒子が目立つ。内面はミガキ，外面はヘラケズリ後ミガキ調整である。2 は手捏ね土器で口縁部から体部の 1/2 の遺存である。色調は内面がにぶい褐色，外面が黒色である。焼成はやや不良で，胎土には白色微砂粒・金雲母粒子が含まれる。内外面共に指ナデ調整である。3 は土師器小型甕である。全体の 1/3 の遺存である。色調は内外面共に灰褐色・橙色で，破片による 2 次被熱により，色調が破片毎に異なっている。胎土には白色微粒子・雲母粒・海綿骨針が含まれる。外面はヘラケズリ後ナデ，内面はナデ，底面はヘラケズリ調整である。4 は土製支脚である。色調は橙色である。焼成はやや不良で全体的に軟質で脆い。胎土には砂礫を含まず，スサが混入する。

ＳＩ－０１５（第 54 図，図版 13・14・64・65)

4C-60 グリッド周辺に位置する。平面形は方形で，規模は主軸長 2.59 m・幅 2.56 mである。主軸は N-36°-W である。SI-013 を切って構築され，SD-002，SK-002・004・038 に切られている。掘り込みは確認面から平均 17 cmである。覆土は各層共に堅くしまっている。カマドは北西壁中央に付設されるが，右袖は攪乱により遺存が不良である。ピットは東側に 2 基(深 23 cm，16 cm)，南コーナーに 1 基(深 7 cm)，入口部に 1 基(深 28 cm)が検出された。床面はカマドから入口にかけての中央部が特に硬化している。壁周溝は西側を中心に確認され，平均的な規模は下端幅 6 cm・床面からの深さ 3 cmである。

遺物は西側を中心にまとまって出土した。1 は土師器坏で，全体の 1/2 の遺存である。色調は内面はにぶい赤褐色～黒褐色，外面はにぶい赤褐色～にぶい橙色である。胎土自体が赤みを帯びている。胎土には白色微砂粒が含まれる。口縁部外面はヨコナデ，内面はナデ・ミガキ，外面はヘラケズリ調整である。2 は土師器坏で，ほぼ完形である。色調は内面がにぶい赤褐色～黒色，外面がにぶい褐色～赤色である。胎


(SD-005)
(SK-002)
(SK-004)
(SD-002)
(SI-013)
(SK-038)
SI-015
4C-71
A
A'
a
a'
b
b'
18.5m
0 (1/40) 1m
0 (1/80) 4m
0 (1/4) 10cm
カマド
1 暗褐色土 山砂多量。焼土ブロック少量。
2 黄白色砂 カマド構築材が崩れたもの。
3 暗褐色土 山砂・焼土ブロック多量。
4 褐色土 山砂多量。焼土ブロック少量。
5 褐色土 山砂・ローム粒子多量。
6 褐色土 ロームブロック・山砂多量。炭少量。

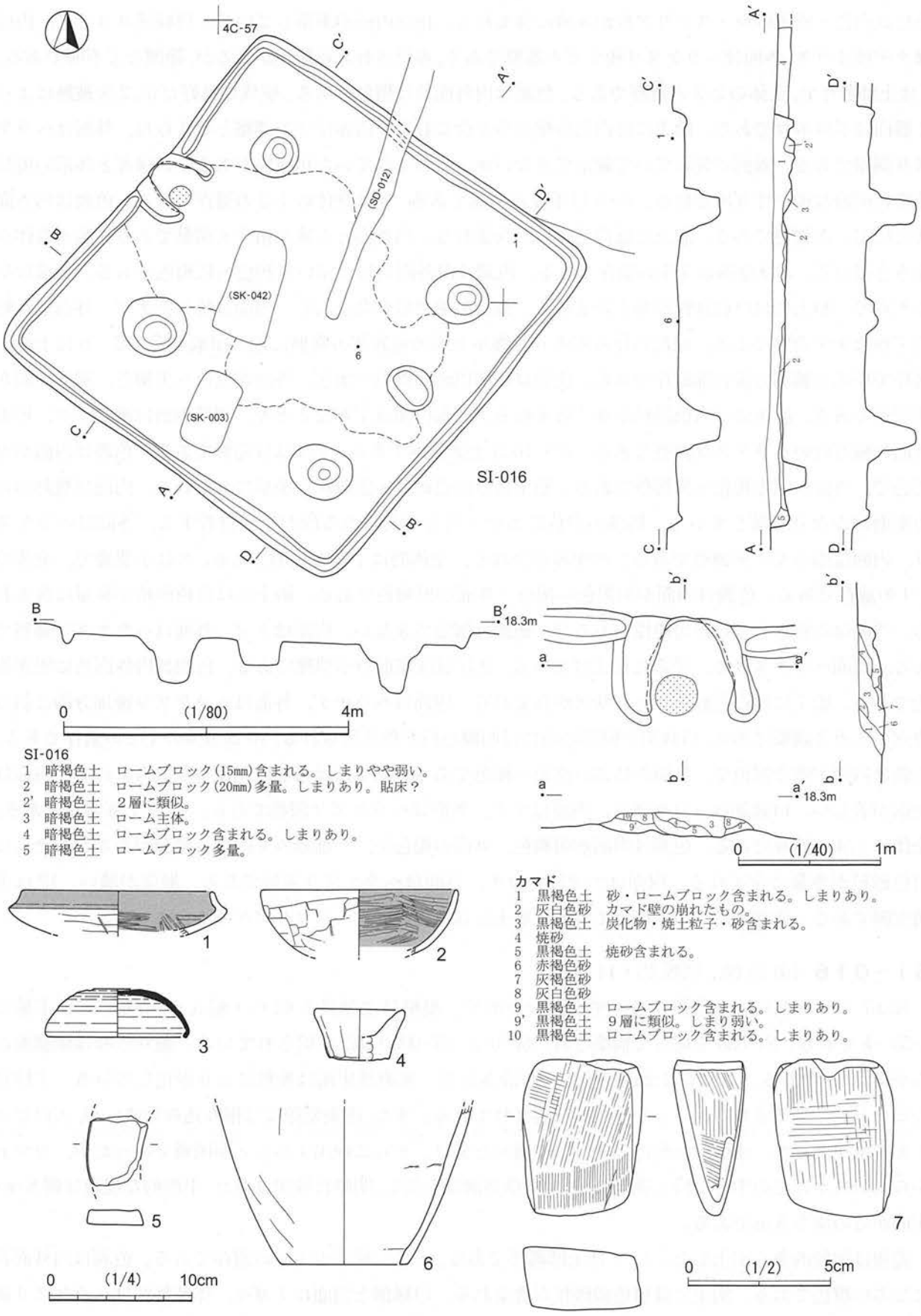
第54図 SI-015

土には白色・灰色砂粒・スコリア粒が多量に含まれる。特に内面が剥落している。口縁部ヨコナデ，内面はナデ後ミガキ，外面はヘラケズリ後ミガキ調整である。赤彩された可能性があるが，範囲など不明である。3は土師器坏で，全体の2/3の遺存である。色調は内外面共に橙色である。焼成は良好だが，2次被熱によって器面はボロボロである。胎土には白色砂粒が多く含まれる。内面はナデ調整と考えられ，外面はヘラケズリ調整である。器面が荒れていて確定できないが，赤彩されていた可能性がある。口縁部と体部の境に非常に明瞭な稜が作り出される。4・5は手捏ね土器である。4は全体の1/2の遺存である。色調は内外面共ににぶい赤褐色である。胎土には白色砂粒が含まれる。内外面とも雑な指ナデ調整である。胎土自体が赤みを帯びる。5は全体の4/5の遺存である。色調は内外面共ににぶい赤褐色～灰褐色である。焼成はやや不良で，胎土には白色砂粒が多く含まれる。他に海綿骨針が含まれる。内面は雑な指ナデ，外面は比較的丁寧なナデ調整である。底部の厚みがあり，弥生土器の壺底部の整形に近い印象を受ける。6は土師器高坏で坏部と脚部の接合部破片である。色調は坏部内面が橙色～黒色，外面が橙色～黒褐色，脚部内面が褐灰色である。胎土には白色砂粒が多く含まれる。坏部内面は丁寧なミガキ，脚部内面は雑なナデ，坏部外面は縦方向のヘラケズリ調整である。7～10は土師器甕である。7はほぼ完形である。色調は内面が赤褐色で，外面が明赤褐色～黒褐色である。胎土には白色砂粒・雲母粒が多量に含まれる。内面は被熱のため器面がかなり剥落している。胴部の中位にカマド材と考えられる砂が一部付着する。外面はヘラケズリ，内面は恐らくナデ調整である。ゆがみが少なく，全体的に丁寧な成形である。8は小型甕で，全体の3/4の遺存である。色調は内面が黒褐色～褐色，外面が黒褐色である。胎土には白色砂粒が多量に含まれる。外面は赤彩されていた可能性があるが，範囲は確定できない。内面はナデ，外面はヘラケズリ調整である。底面ヘラケズリで，平らに仕上げている。9はほぼ完形の小型甕である。色調は内外面共に明赤褐色である。胎土には白色砂粒・スコリアが含まれる。内面はヘラナデ，外面はヘラケズリ後部分的に斜め方向にミガキ調整である。口縁部と胴部の境には明瞭な段が作り出される。10は全体の1/2の遺存である。色調は内面が明赤褐色で，外面がにぶい橙色～褐色である。胎土には白色砂粒が多量に含まれる。内面は剥落が著しい。口縁部はヘラケズリ，内面はナデ，外面はヘラケズリ調整である。11は土師器甑である。全体の3/4の遺存である。色調は内面が明褐色，外面が褐色で，一部赤みを帯びる部分がある。胎土には白色砂粒が多量に含まれる。内面はナデ後ミガキ，外面はヘラケズリ調整である。器壁が薄い。12は土製支脚である。色調はにぶい黄橙色である。胎土には白色微砂粒・スコリアが多く含まれる。

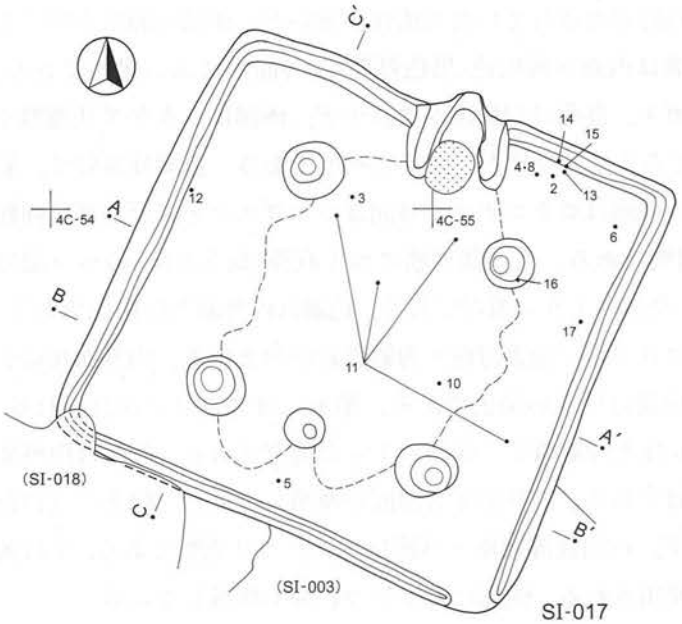
ＳＩ－０１６（第55図，図版13・14・65）

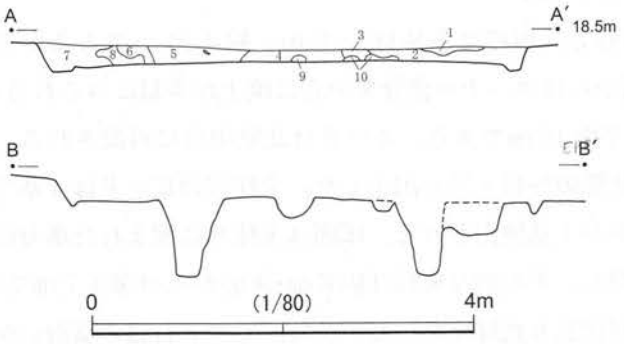
4C-67グリッド周辺に位置する。平面形は方形で，規模は主軸長5.62ｍ・幅5.68ｍである。主軸はN-53°-Wである。SI-036を切って構築され，SD-012，SK-003・042に切られている。掘り込みは確認面から平均15㎝である。カマドは北西壁中央に付設される。火焼部床面は被熱により赤化している。主柱穴のピットは4基でそれぞれしっかりと掘り込まれている。また，南東壁際には掘り込みは浅いが，入口ピットを1基検出した。床面は杉根により著しく攪乱を受け，平らに検出することが困難であったが，カマドから入口にかけての中心が特に硬化している。壁周溝は全周し，明瞭に検出された。平均的な規模は幅8㎝・床面からの深さ5㎝である。

遺物は比較的多く出土した。1・2は土師器坏である。1は口縁部の1/4の遺存である。色調は内外面共ににぶい橙色である。胎土には白色微砂粒が含まれる。口縁部と内面はミガキ，体部外面はヘラケズリ後

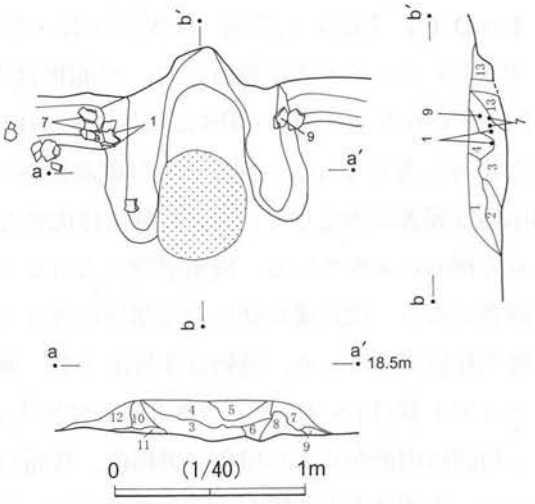

4C-57
(SD-012)
(SK-042)
(SK-003)
SI-016
B
B'
18.3m
0 (1/80) 4m
SI-016
1 暗褐色土 ロームブロック(15mm)含まれる。しまりやや弱い。
2 暗褐色土 ロームブロック(20mm)多量。しまりあり。貼床?
2' 暗褐色土 2層に類似。
3 暗褐色土 ローム主体。
4 暗褐色土 ロームブロック含まれる。しまりあり。
5 暗褐色土 ロームブロック多量。
a
a'
18.3m
0 (1/40) 1m
カマド
1 黒褐色土 砂・ロームブロック含まれる。しまりあり。
2 灰白色砂 カマド壁の崩れたもの。
3 黒褐色土 炭化物・焼土粒子・砂含まれる。
4 焼砂
5 黒褐色土 焼砂含まれる。
6 赤褐色砂
7 灰褐色砂
8 灰白色砂
9 黒褐色土 ロームブロック含まれる。しまりあり。
9' 黒褐色土 9層に類似。しまり弱い。
10 黒褐色土 ロームブロック含まれる。しまりあり。
1
2
3
4
5
6
7
0 (1/4) 10cm
0 (1/2) 5cm

第55図 SI-016

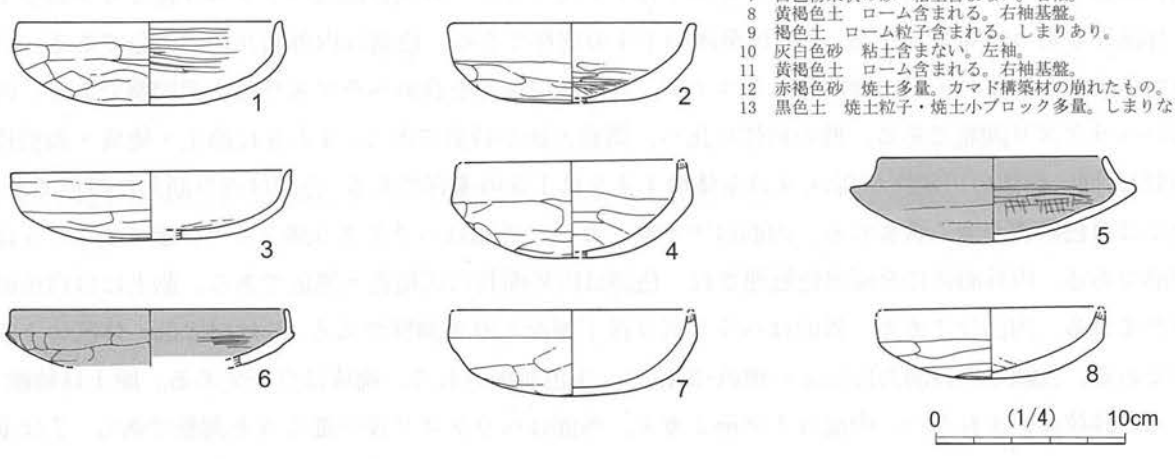




SI-017
1 暗褐色土　細ローム粒子多量。砂含まれる。しまり強い。
2 暗褐色土　細ローム粒子まだらに含まれる。
3 暗褐色土　細ローム粒子多量。しまり強い。
4 暗褐色土　ローム粒子(5mm)少量。
5 暗褐色土　ローム粒子多量。
6 暗黄褐色土　ローム粒子(1～3mm)多量。
7 暗黄褐色土　ローム粒子(1～10mm)多量。しまり弱く、ボソボソ。
8 赤褐色土　焼土ブロック。
9 暗褐色土　ローム粒子(1～3mm)多量。
10 暗黄褐色土　細ローム粒子多量。



カマド
1 灰黄褐色砂　カマド構築材の崩れたもの。
2 黒褐色砂　焼土粒子含まれる。しまりやや弱い。
3 黒褐色砂　焼土ブロック・焼土粒子含まれる。
4 灰白色砂　焼土・灰白色砂が縞状に含まれる。
5 褐色土　焼土粒子・灰白色砂含まれる。しまりなし。
6 黒褐色土　焼土粒子主体。ボロボロして崩れやすい。
7 白色粉末状の砂　粘土含まない。右袖。
8 黄褐色土　ローム含まれる。右袖基盤。
9 褐色土　ローム粒子含まれる。しまりあり。
10 灰白色砂　粘土含まない。左袖。
11 黄褐色土　ローム含まれる。右袖基盤。
12 赤褐色砂　焼土多量。カマド構築材の崩れたもの。
13 黒色土　焼土粒子・焼土小ブロック多量。しまりなし。



第56図　SI-017(1)

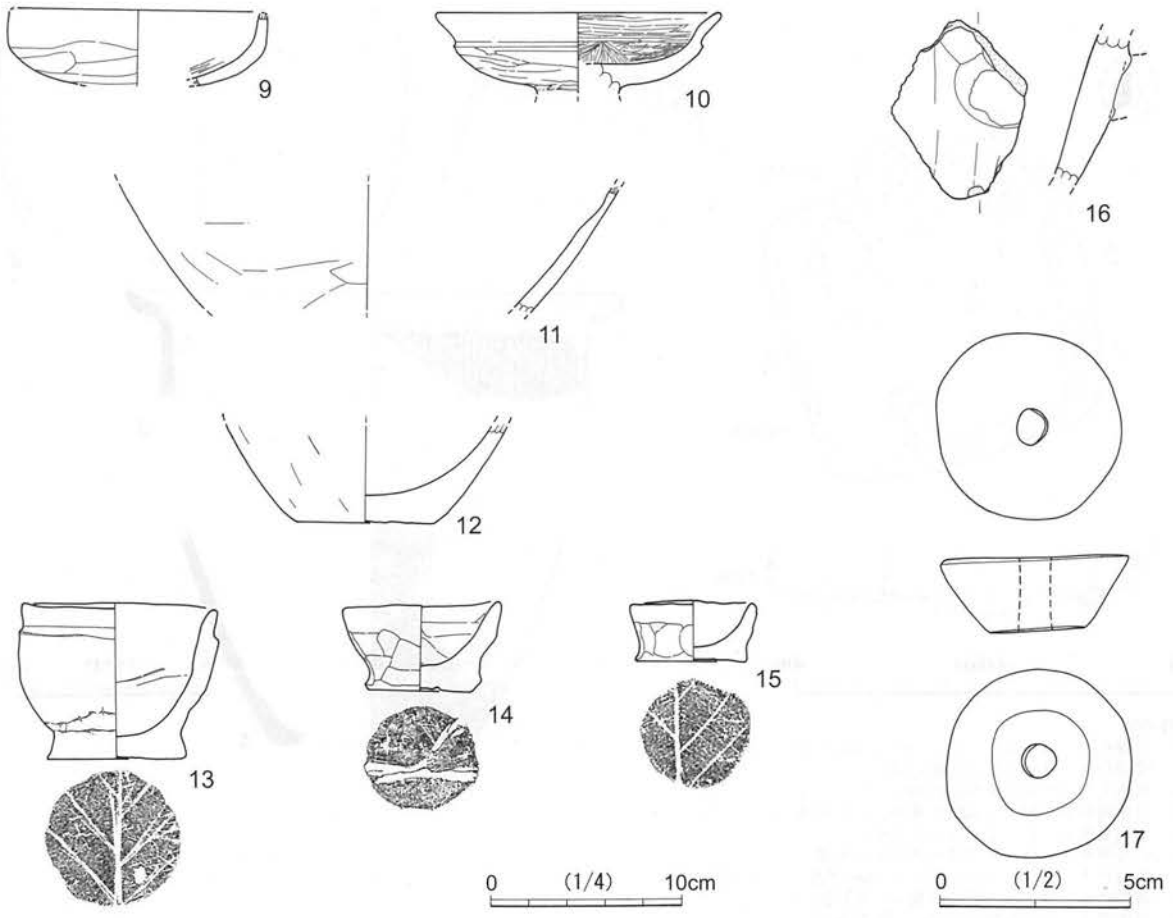
ミガキ調整である。口縁部と坏内部は黒色処理(漆)がなされていた可能性が強いが，体部外面は不明である。2は口縁部～体部の1/4の遺存である。色調は内面が褐灰色(黒色処理)，外面はにぶい褐色である。胎土にはスコリア粒子が目立つ。内面は全面ミガキ，外面は口縁部がヨコナデ，体部はヘラケズリ調整である。3は須恵器蓋である。全体の1/2の遺存である。色調は内外面共に灰色である。色調は良好で，胎土は緻密である。所々黒い吹き出しがみられる。内面はロクロナデ，外面はロクロナデと，天井部は回転ヘラケズリで，回転ヘラによる切り離し後無調整である。天井部外面には1直線(長5.5㎝)のヘラ記号(焼成前)が確認できる。4は手捏ね土器である。全体の1/5の遺存である。色調は内外面共に橙色である。胎土には各種微小砂礫が多く含まれる。他にスコリア粒・金雲母粒・海綿骨針が含まれる。内外面共にナデ調整である。5は甑底部破片と考えられる。色調はにぶい橙色である。胎土にはスコリアが含まれる。上下面はナデ，側面はヘラケズリ調整である。6は土師器甑で，底部の1/8の遺存である。色調は内外面共に橙色である。焼成はやや不良で，全体に軟質である。内外面とも器面が摩滅している。胎土には白色微砂粒・スコリア粒が含まれる。内面はヘラナデ，内面底部端部・外面はヘラケズリ調整である。7は凝灰岩製の砥石である。破面以外は側面も含めて使用される。先端に行くにつれ薄く摩滅している。

ＳＩ－０１７（第56・57図，図版13・15・17・65・66）

4C-54グリッド周辺に位置する。平面形は方形で，規模は主軸長4.79ｍ・幅4.81ｍである。主軸はN-24°-Eである。SI-003・018に切られる。床面からはコーナー部分を中心に焼土が多量にみられるため，焼失住居と考えられる。掘り込みは確認面から平均15㎝である。カマドは北壁中央に付設される。火焼部床面は顕著に赤化している。左袖には伏せた状態の坏(1・7)が出土した。主柱穴のピットは4基でしっかりと掘り込まれている。南東壁際に入口ピットが1基検出された。床面は主柱穴に囲まれた部分の硬化が顕著である。壁周溝は切り合う部分以外は全周し，平均的な規模は幅8㎝・床面からの深さ7㎝である。

焼失住居であるため，遺物は多数出土し，遺存状態も良好であった。また，カマド右脇の壁沿いからミニチュア土器(13～15)が3点まとまって出土した。1～9は土師器坏である。1は全体の3/4の遺存である。色調は内面がにぶい橙色～黒褐色，外面がにぶい赤褐色～黒褐色である。胎土には白色砂粒が多く含まれる。内面は全面丁寧なミガキであるが，部分的に剥落している。外面は口縁部がヨコナデ，体部～底部はヘラケズリ後ミガキ調整である。2は全体の1/2の遺存である。色調は内面がにぶい赤褐色，外面は黒色である。胎土自体が赤みを帯びる。胎土には白色・灰白色砂粒・海綿骨針が含まれる。口縁はヨコナデ，内面は口縁下まで広い範囲ヨコナデで，その下はナデ後ミガキ，外面体部はヘラケズリ後ミガキ調整である。体部厚があり，重量感がある。3は全体の1/4の遺存である。色調は内外面共に赤黒色である。胎土には白色砂粒が含まれる。口縁内面はヨコナデ，外面は口縁部を含めヘラケズリ後ナデ調整である。内面は弱いヘラケズリ調整である。他の個体に比べ，調整方法が特異である。4と9は胎土・焼成・調整技法が類似し，同一個体の可能性が高い。4は全体の1/4，9は1/5の遺存である。色調は内外面共に橙色である。胎土には白色砂礫が多く含まれる。内面はナデ後ミガキ，外面はヘラケズリ後ミガキ調整である。5はほぼ完形である。内外面共に全面黒色処理され，色調は内外面共に灰褐色～黒色である。胎土には白色微砂粒が含まれる。内面はミガキ，外面はヘラケズリ後丁寧なミガキ調整である。6は口縁部～体部の1/5の遺存である。色調は内外面共ににぶい褐色・黒色で，黒色処理される。焼成は良好である。胎土は精緻で，ほとんど砂粒が含まれない。内面はナデ後ミガキ，外面はヘラケズリ後一部ミガキ調整である。7は全体

の 3/4 の遺存である。色調は内外面共ににぶい橙色～にぶい赤褐色である。胎土自体が赤みを帯びる。胎土には白色・灰白色砂礫・スコリア粒が多く含まれる。内面はナデ・ミガキ，外面はヘラケズリ後ミガキ調整である。8 は全体の 1/4 の遺存である。色調は内外面共ににぶい橙色である。胎土には白色砂礫が多く含まれる。口縁部外面はヨコナデ，内面はミガキ，外面はヘラケズリ調整である。10 は土師器高坏で，坏部の 1/4 の遺存である。色調は内面はにぶい褐色，外面はにぶい褐色～灰褐色である。硬質である。口縁部は稜をもち，外反する。全体的に丁寧な整形である。胎土には白色微砂粒・スコリア粒が含まれる。口縁部外面はヨコナデ，内面は全面丁寧な細かいミガキ，外面はヘラケズリ後ナデ調整である。11 は土師器甕の底部破片である。色調は内面が橙色，外面がにぶい褐色である。焼成はやや不良で，胎土には白色砂粒・スコリア粒が含まれる。内面は器面が荒れて調整不明，外面はヘラケズリである。12 は土師器甕底部の 1/2 の遺存である。色調は内外面共に橙色～灰褐色である。焼成はやや不良で，胎土には白色・灰白色砂礫が多く含まれる。内面はナデ，外面はヘラケズリ調整が施されるが，内外面共に剥落が著しい。13 ～ 15 は土師器の小型鉢であり，完形である。器厚が全体的に厚く，重量感がある。13・15 の色調は内外面共に橙色で，14 は内外面共ににぶい橙色である。胎土には白色砂粒が多く含まれる。口縁部は強いヨコナデ，内面はナデ，外面はナデ調整が施されるが，13 の胴部下部には粘土紐接合痕がみられる。底面は無調整で，明瞭に木葉痕がみられる。16 は土師器甑の胴部破片である。色調は内面がにぶい橙色，外面が灰褐色である。焼成はやや不良で，胎土には白色砂礫が多量に含まれる。内面はナデ・ミガキ，外面はヘラケズリ後ミガキ調整である。器壁が厚く，外面に把手が剥がれた跡がみられる。17 は土製紡錘



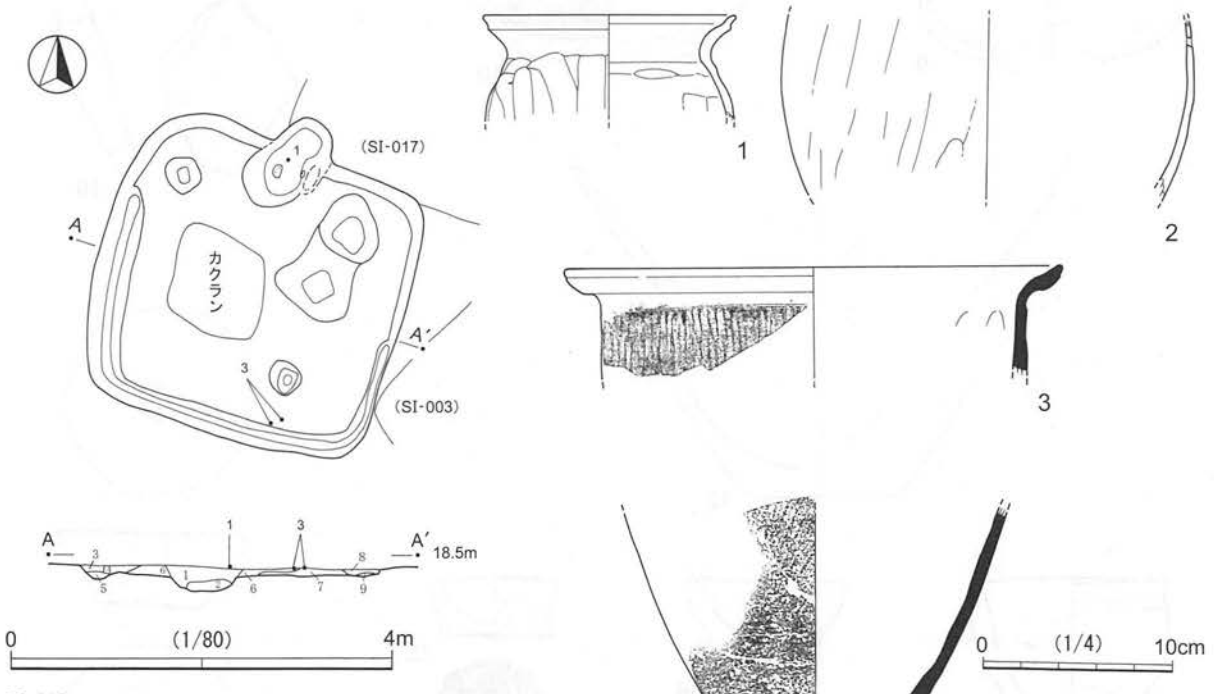
第 57 図　SI-017 (2)

車である。完形で，表面は丁寧に磨かれ，焼成も良好である。色調はにぶい赤褐色である。重量は44.76ｇである。胎土には白色微砂粒が含まれる。

ＳＩ－０１８（第58図，図版17・66）

4C-53グリッド周辺に位置する。平面形は方形で，規模は主軸長2.9ｍ・幅3.03ｍである。主軸はN-17°-Eである。SI-017を切って構築され，中央には大きな攪乱がある。掘り込みは確認面から平均10㎝である。カマドは北壁中央に付設されるが，切り合いにより，明瞭なプランを捉えることができなかった。南西コーナーを除いた各コーナーに不整形であるがピットを3基検出した。壁周溝は住居の南半分で検出され，平均的な規模は幅8㎝・床面からの深さ5㎝である。

遺物はカマド周辺から主に出土した。1は土師器甕で，口縁部の1/4の遺存である。色調は内外面共に灰褐色である。胎土には白色微砂粒･スコリア粒が含まれる。内面はナデ，外面はヘラケズリ調整である。器壁は薄く，硬質である。2は土師器甕の胴部破片である。内面は灰褐色，外面は黒褐色である。胎土には白色微砂粒が含まれる。直径5㎜の孔が焼成後に1か所穿たれる。内面はナデ，外面はヘラケズリ調整である。外面にはカマド構築材の砂が一部付着する。3は須恵器甑で，口縁部～胴部上半の1/6の遺存である。色調は内外面共に灰色である。焼成は良好で硬質である。胎土には白色微砂粒・スコリア粒が含まれる。外面はタタキ目，内面はナデで，所々当て具痕がみられる。4は須恵器甕の底部破片である。色調は外面が淡赤橙色，外面がにぶい赤褐色である。胎土には白色砂粒が含まれる。外面はタタキ目，内面はナデで，所々当て具痕がみられる。内外面共に被熱による器面の剥落が著しい。



SI-018
1　暗褐色土　ロームブロック(20～30㎜)少量。しまり強い。
2　暗褐色土　ローム粒子(5㎜)少量。
3　褐色土　ローム粒子(5㎜)少量。
4　暗黄褐色土　細ローム粒子多量。しまり強い。
5　暗黄褐色土　ロームブロック多量。
6　暗黄褐色土　ロームブロック(10㎜)多量。
7　黄褐色土　ロームブロック(5～10㎜)多量。しまり強い。
8　黄褐色土　細ローム粒子少量。しまり強い。
9　黄褐色土　ロームブロック。しまり強い。

第58図　SI-018

ＳＩ－０１９（第59図，図版15・17・66・67）

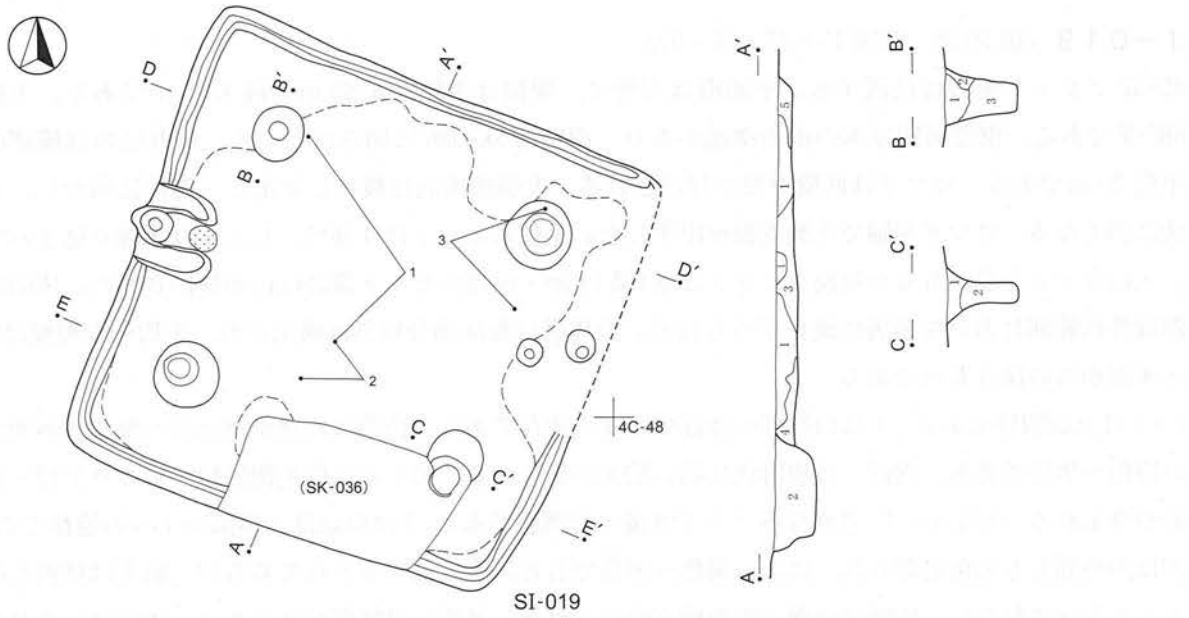
4C-37グリッド周辺に位置する。平面形は方形で，規模は主軸長4.85ｍ・幅4.75ｍである。主軸はN-68°-Wである。東壁周辺は木の根の攪乱があり，南壁はSK-036に切られている。掘り込みは確認面から平均20㎝である。カマドは西壁中央に付設される。火焼部床面は被熱し赤化し，奥壁に向かい，ピット状に深くなる。カマド左脇で土製支脚が出土した。主柱穴ピットは4基で，しっかりと掘り込まれている。入口ピットと思われる小規模なピット2基(深11㎝・壁際のピット深26㎝)が検出された。床面には壁際以外広範囲において顕著に硬化がみられる。壁周溝は攪乱部分以外は検出され，平均的な規模は幅7㎝・床面からの深さ6㎝である。

1・2は土師器坏である。1は口縁部～体部の1/4の遺存である。色調は内面が褐灰色～黒色，外面がにぶい橙色～黒色である。内面には放射状に細い暗文が施される。胎土には白色微砂粒・スコリア粒・海綿骨針が含まれる。内面はナデ，外面はヘラケズリ後ナデ調整である。2は口縁部～体部の1/3の遺存である。色調は内外面とも黒色処理され，にぶい褐色～黒色である。焼成はやや不良であるが，胎土は精緻で砂粒がほとんど含まれない。内面は全面丁寧な横方向のミガキ，外面は口縁部がヨコナデ，体部はヘラケズリ後ミガキ調整である。3は土師器甕である。口縁部～胴部上半の2/3の遺存である。色調は内面が赤褐色，外面がにぶい赤褐色である。胎土には白色微砂粒が含まれる。成形は雑で，口縁は緩く波打つ。外面はナデ，内面は弱いヘラケズリ調整である。器面調整は異質である。4は土製支脚である。色調はにぶい黄橙色である。表面は凹凸が多く，雑な調整である。表面は被熱により，ボロボロしている。

ＳＩ－０２０（第60・61図，図版16・17・67）

4C-35グリッド周辺に位置する。平面形は方形で，規模は主軸長5.2ｍ・幅4.95ｍである。主軸はN-21°-Eである。北壁はSK-030に切られている。掘り込みは確認面から平均20㎝である。カマドは北壁中央に付設される。火焼部床面は被熱し赤化している。奥壁に向かい，段をもちながら緩やかに立ち上がる。主柱穴ピットは4基あり，しっかりと掘り込まれている。主柱穴の覆土は，上部はしまりが強いが，下部は柔らかで脆い。また，入口ピットと思われる小規模なピット2基(深25㎝・壁際ピット深10㎝)が検出された。北東の主柱穴脇の小ピットは深さ18㎝で，補助的な柱穴であろうか。壁周溝は全周し，平均的な規模は幅8㎝・床面からの深さ7㎝である。

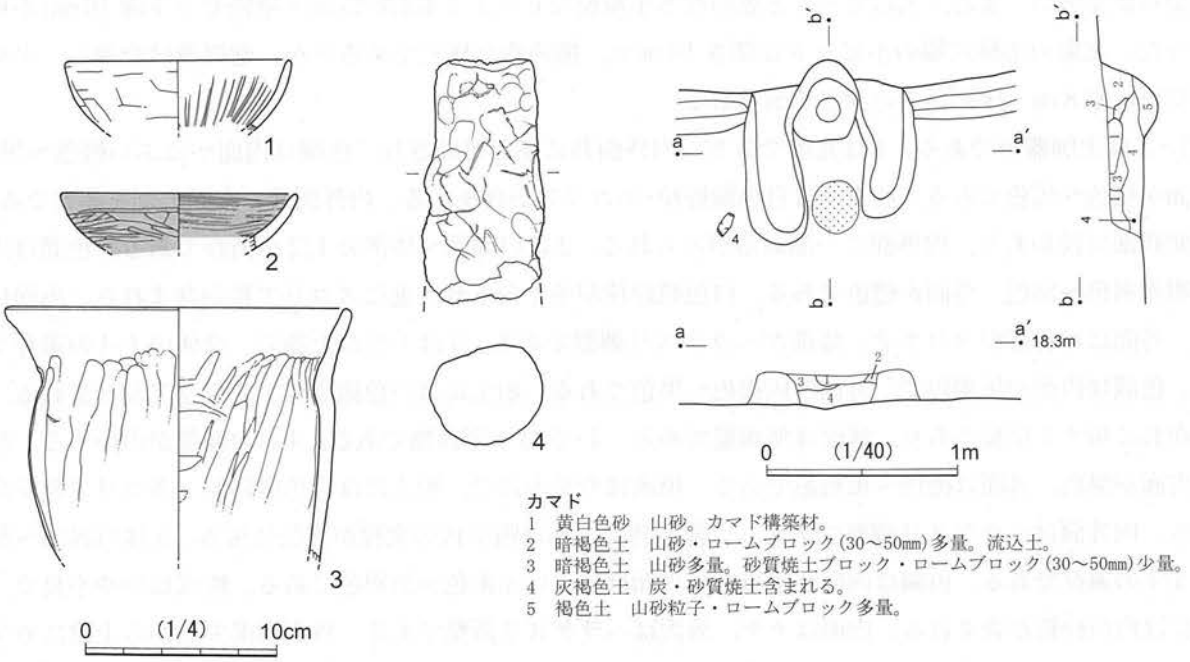
1・2は土師器坏である。1は完形である。内外面共に黒色処理され，色調は内面がにぶい橙色～黒色，外面が橙色～黒色である。胎土には白色微砂粒･スコリアが含まれる。内外面共に全面ミガキ調整である。外面底部に段があり，内外面に一部剥落がみられる。2は口縁部～体部の1/2の遺存である。色調は内面が明赤褐色～黒色，外面が橙色である。白色微砂粒が多く含まれ，他にスコリア粒が含まれる。内面はナデ，外面は口縁部がヨコナデ，体部がヘラケズリ調整である。3は手捏ね土器で，全体の1/4の遺存である。色調は内面が灰褐色で，外面が灰褐色～黒色である。胎土には白色微砂粒・スコリアが含まれる。内外面共に指ナデ圧痕があり，底面は無調整である。4・5は土師器甕である。4は口縁部が内傾する。色調は内面が黒色，外面は橙色～黒褐色である。焼成はやや不良で，胎土には白色微砂粒・スコリア粒が含まれる。内外面はヘラケズリ調整である。口縁部外面下部に隆帯状の突線が横位に巡る。5は口縁部～胴部の3/4の遺存である。色調は内面が明褐色，外面はにぶい赤褐色～黒褐色である。焼成はやや不良で，胎土には白色砂粒が含まれる。内面はナデ，外面はヘラケズリ調整である。外面胴部中位から上位にカマド



SI-019
1 暗褐色土　ロームブロック(10～20mm)・細ローム粒子多量。
2 黒褐色土　ロームブロック(10mm)多量。
3 暗褐色土　細ローム粒子少量。
4 暗黄褐色土　細ローム粒子多量。
5 暗褐色土

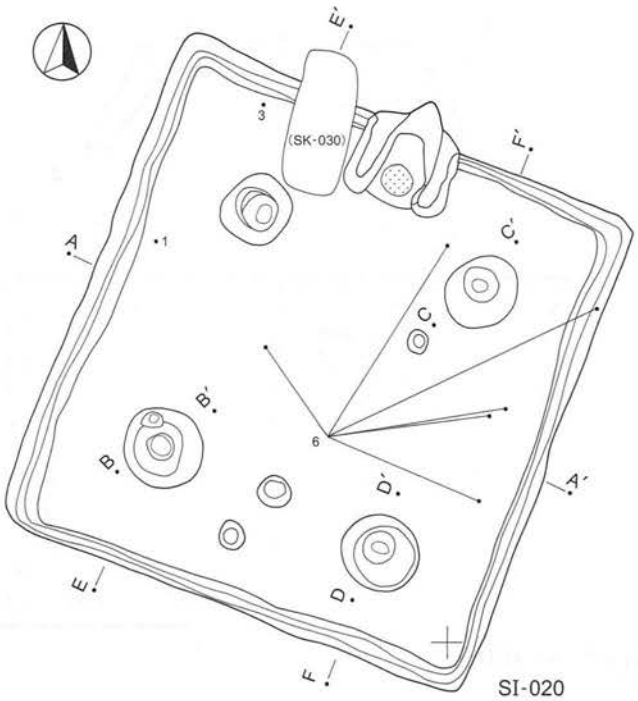
Pit B-B′
1 暗茶褐色土　ロームブロック(10mm)少量。しまり弱い。
2 暗黄褐色土　ロームブロック。しまり強い。
3 暗茶褐色土　ロームブロック少量。しまり弱く、ボロボロ。

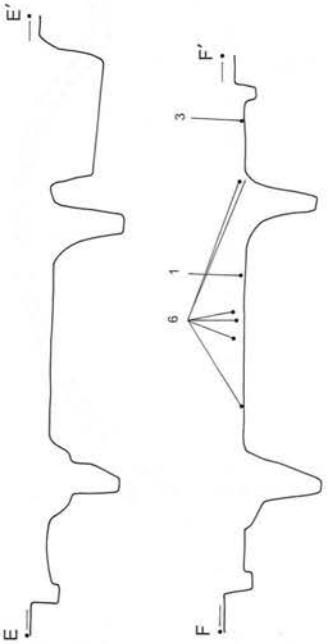
Pit C-C′
1 暗褐色土　ロームブロック(10mm)少量。しまり弱い。
2 暗茶褐色土　ロームブロック(20mm)少量。しまり弱い。

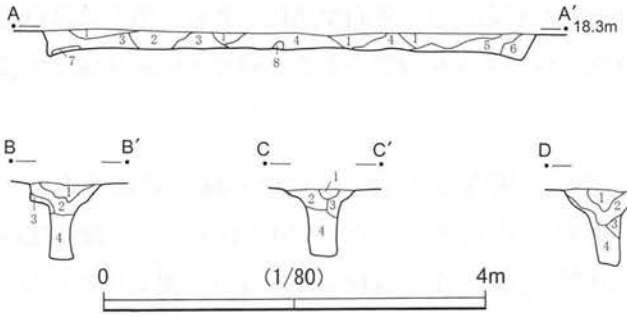


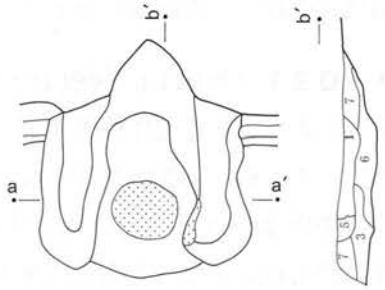
カマド
1 黄白色砂　山砂。カマド構築材。
2 暗褐色土　山砂・ロームブロック(30～50mm)多量。流込土。
3 暗褐色土　山砂多量。砂質焼土ブロック・ロームブロック(30～50mm)少量。
4 灰褐色土　炭・砂質焼土含まれる。
5 褐色土　山砂粒子・ロームブロック多量。

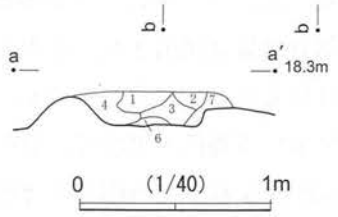
第59図　SI-019











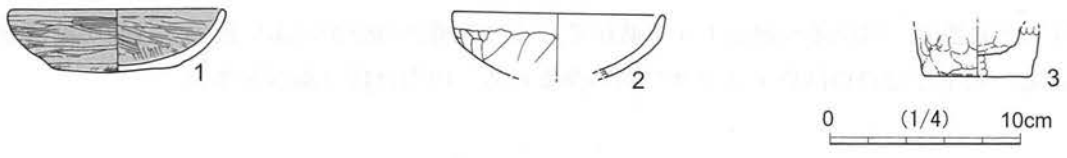
SI-020
1 暗褐色土　細ローム粒子多量。
2 暗黄褐色土　ローム粒子(1～5mm)多量。
3 暗黄褐色土　ロームブロック(10mm)多量。
4 暗褐色土　細ローム粒子少量。
5 黄褐色土　細ローム粒子多量。ロームブロック(20～30mm)少量。
6 暗黄褐色土　ローム粒子(1～3mm)多量。
7 明黄褐色土　ロームブロック含まれる。
8 灰白色砂質土　山砂。

Pit B-B′
1 暗黄褐色土　ロームブロック(30mm)含まれる。ローム粒子多量。ややしまりあり。
2 暗褐色土　ロームブロック(20mm)含まれる。ややしまりあり。
3 暗褐色土　ロームブロック含まれる。ややしまりあり。
4 暗黄褐色土　ロームブロック多量。しまり弱い。

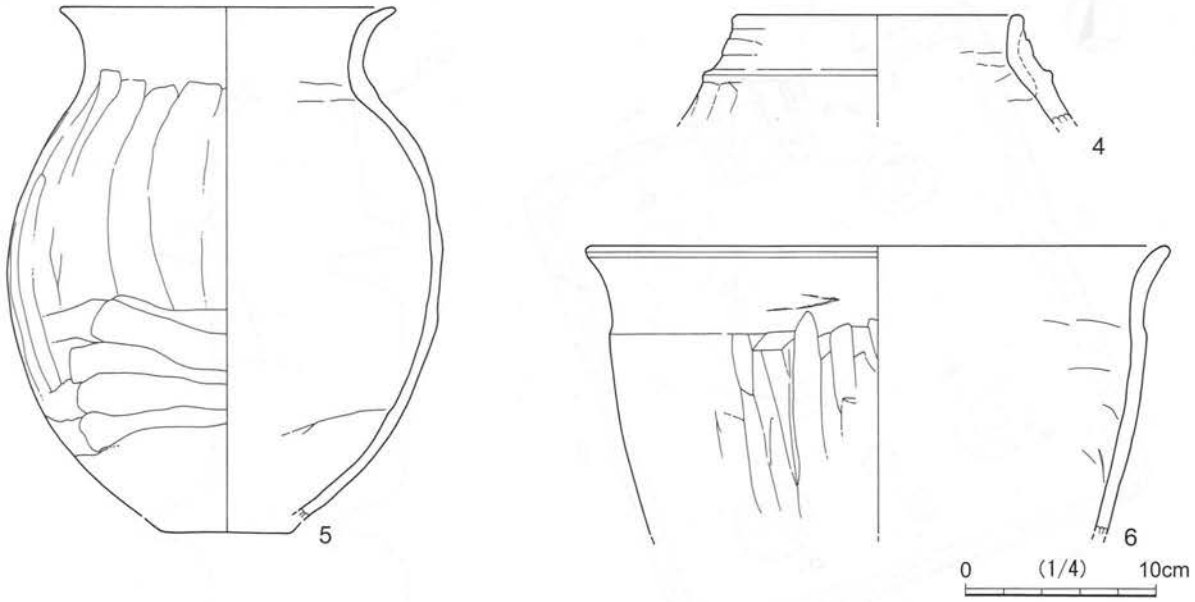
Pit C-C′
1 暗褐色土　細ローム粒子少量。しまりあり。
2 黒褐色土　ローム粒子少量。ロームブロック(10mm)少量。
3 暗黄褐色土　ロームブロック(10mm)少量。ローム多量。
4 黄褐色土　ロームブロック(10～30mm)多量。しまり弱い。

Pit D-D′
1 暗褐色土　ロームブロック(10mm)多量。ややしまっている。
2 黒褐色土　ローム粒子少量。ややしまりあり。
3 暗黄褐色土　ロームブロック(10mm)多量。しまり弱い。
4 黄褐色土　ロームブロック多量。しまり弱い。

カマド
1 暗茶褐色土　細焼土粒子多量。
2 暗赤褐色土　焼土ブロック(10mm)多量。
3 暗茶褐色土　細焼土粒子少量。
4 暗茶褐色土　細焼土粒子・ローム粒子少量。
　焼土ブロック含まれる。
5 暗茶褐色土　1層に近い。焼土少なめ。
6 暗茶褐色土　ロームブロック少量。焼土粒子微量。
7 灰白色砂質土　山砂粒子多量。



第60図　SI-020(1)



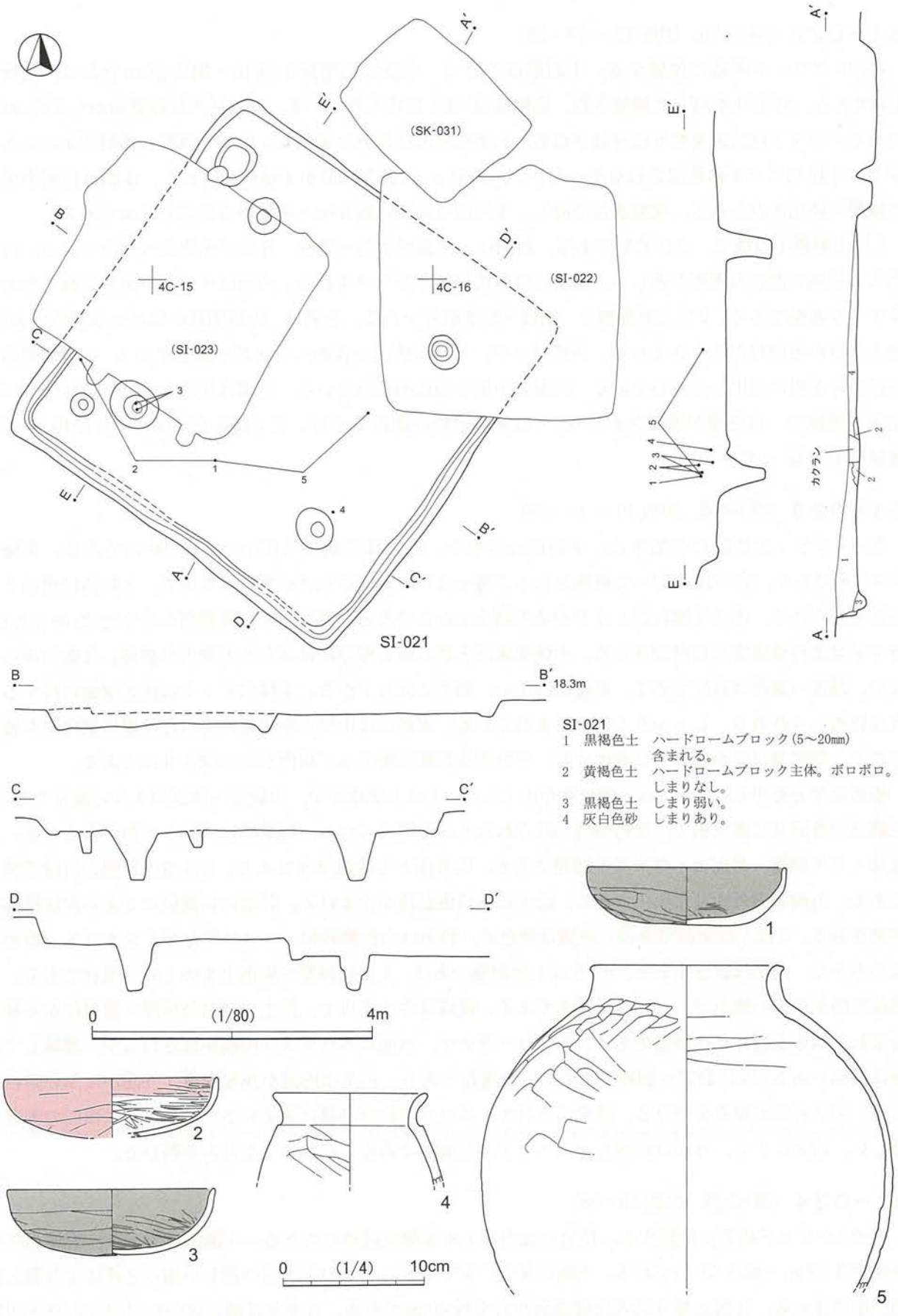
第61図　SI-020(2)

構築材の砂の付着がみられる。内面は被熱で剥落し，上半部に内容物の付着がみられる。6は土師器甑で，口縁部～胴部上半の1/6の遺存である。色調は内面が明赤褐色，外面が黒色である。胎土には白色砂礫が多量に含まれる。内面はヘラナデ，外面は縦方向のヘラケズリ調整である。口縁の屈曲は緩やかである。

ＳＩ－０２１（第62図，図版16・67）

4C-15グリッド周辺に位置する。平面形は方形で，規模は主軸長5.62ｍ・幅5.52ｍである。主軸はN-29°-Eである。南西壁周辺で木の根の攪乱，北側でSI-022・SI-023に切られている。掘り込みは確認面から平均20㎝である。カマドはSI-023により削平され，全く遺存していない。覆土はロームブロックが多く含まれる土で，人為的に埋め戻したと考えられる。主柱穴ピットは4基あり，しっかりと掘り込まれている。北コーナーにはやや不整形であるが，貯蔵穴と思われる土坑(深32㎝)が検出された。壁周溝は攪乱部分以外は検出され，平均的な規模は幅8㎝・床面からの深さ3㎝である。

遺物はほとんど出土していない。1～3は土師器坏である。1は全体の3/4の遺存である。色調は内外面共ににぶい赤褐色～黒色で，遺存は悪いが内外面共に漆による黒色処理である。胎土には白色砂粒・スコリア粒が含まれる。内面はナデ後ミガキ，外面はヘラケズリ後ミガキ調整である。底面はやや成形が雑で，ゆがむ。2は全体の1/2の遺存である。色調は内外面共に明赤褐色～黒色である。内面は口縁部，外面は全面赤彩される。胎土には微砂粒が含まれる。調整は内面はミガキ，外面はヘラケズリ後ミガキ調整である。3は全体の1/2の遺存である。内外面共に黒色処理(漆)され，色調は内面がにぶい赤褐色～黒色，外面が黒褐色～黒色で，胎土には白色砂粒が多く含まれる。内面はミガキ，外面はヘラケズリ後ミガキ調整である。4は小型甕で，口縁部～胴部上半1/6の遺存である。色調は内面が黒褐色，外面は灰褐色～黒褐色であるが，胎土自体が赤みを帯びる。胎土には白色砂粒が含まれる。口縁部下部に明瞭な稜が作り出される。5は土師器甕で，口縁部～胴部1/6の遺存である。色調は内面がにぶい橙色，外面が黄橙色～にぶい橙色である。胎土には白色砂粒・スコリア粒が含まれる。内面は特に剥落が多い。


(SK-031)
(SI-022)
(SI-023)
4C-15
4C-16
A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
E
E'
カクラン
SI-021
B
B' 18.3m
C
C'
D
D'
0 (1/80) 4m
0 (1/4) 10cm
SI-021
1 黒褐色土 ハードロームブロック(5～20mm)含まれる。
2 黄褐色土 ハードロームブロック主体。ボロボロ。しまりなし。
3 黒褐色土 しまり弱い。
4 灰白色砂 しまりあり。
1
2
3
4
5

第62図 SI-021

ＳＩ－０２２（第63図，図版16～18・68）

4C-16グリッド周辺に位置する。平面形は方形で，規模は主軸長3.31ｍ・幅3.23ｍである。主軸はN-0°である。SI-021を切って構築され，北壁はSK-031に切られている。掘り込みは確認面から平均30㎝である。カマドは北壁東寄りに付設される。火焼部床面は顕著に赤化している。奥壁は比較的急に立ち上がる。主柱穴ピットは確認されなかったが，入口ピット(深22㎝)が1基検出された。床面は住居中央部で顕著に硬化がみられる。壁周溝は全周し，平均的な規模は幅6㎝・床面からの深さ4㎝である。

1は土師器小型甕で，ほぼ完形である。色調は，内面が赤色～黒色，外面が赤橙色～黒色である。内外面とも被熱で器面の剥落が著しい。胎土には白色砂粒が多く含まれる。内面はナデ，外面は底面も含めヘラケズリ調整である。2は土師器甕で，胴部～底部破片である。色調は，内外面共ににぶい赤褐色である。胎土には白色砂粒が多く含まれる。内面はナデ，外面は底面も含めヘラケズリ調整である。3は須恵器甕胴部破片を硯に転用したものである。内面の中央中心に摺られている。色調は灰色で，焼成は良好である。胎土は精緻で，白色礫が微量含まれる。4は凝灰岩製の砥石である。上下面と右側面が主に使用される。重量は157.68ｇである。

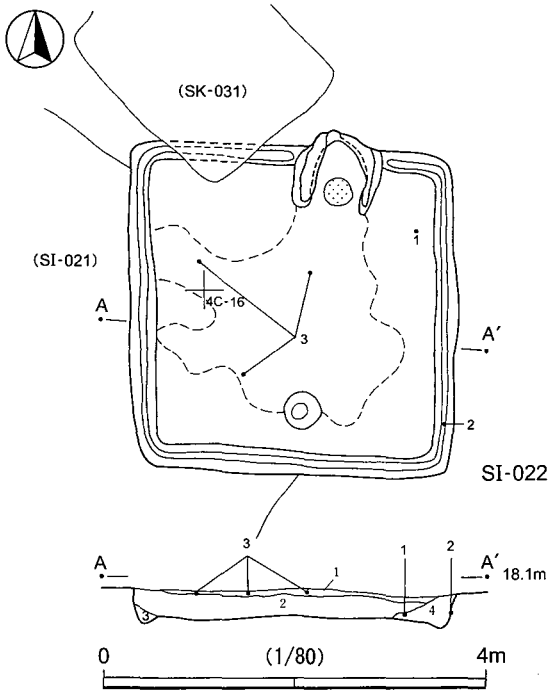
ＳＩ－０２３（第64図，図版16～18・68）

4C-15グリッド周辺に位置する。平面形は方形で，規模は主軸長3.06ｍ・幅2.98ｍである。主軸はN-58°-Wである。SI-021を切って構築される。覆土はロームブロックが含まれる土で，人為的に埋めていると考えられる。出土土器はほとんどがその埋土中からである。掘り込みは確認面から平均25㎝である。カマドは北西壁東寄りに付設される。火焼部床面と思われる部分にはほとんど焼土や被熱した跡がみられない。袖部の遺存は良好である。奥壁に向かい，斜めに立ち上がる。主柱穴ピットは住居壁面に接するような位置に4基あり，しっかりと掘り込まれている。床面には中央とやや北に寄った位置に硬化面が確認できた。壁周溝は北西部以外は検出され，平均的な規模は幅7㎝・床面からの深さ6㎝である。

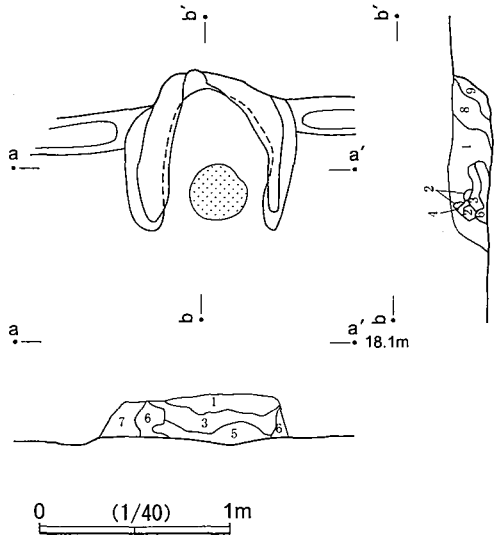
住居北半分を中心に焼土・砂・炭化物が出土した。1は土師器坏で，口縁部～体部の1/6の遺存である。色調は内外面共に黄灰色で，黒色処理(漆)されたものと考えられる。胎土にはスコリア粒が含まれる。内面はミガキ調整，外面はヘラケズリ調整である。内外面とも摩滅気味である。2は須恵器甕の口縁部破片である。色調は内外面共に灰色である。胎土には白色砂粒が含まれる。外面には横位に2条の波状櫛描文が施される。3は土製支脚である。色調は橙色で，胎土は白色微砂粒・スコリアが多く含まれる。表面はなめらかで，内部は軟質である。4・5は土師器甕である。4は口縁部～胴部上半の1/6の遺存である。色調は内面がにぶい橙色で，外面が黒褐色である。焼成はやや不良で，胎土には白色砂礫・雲母粒が多量に含まれ，他の土器に比べ異質である。内面はヘラナデ，外面はヘラケズリ調整が施されるが，摩滅して詳細は不明である。5は底部～胴部下半の1/4の遺存である。色調は内面が浅黄橙色，外面がにぶい橙色である。胎土自体が赤みを帯びる。焼成は不良で，スコリア粒が多量に含まれる。内面が特に器面の剥落が著しい。内面はナデ，外面は底面も含めヘラケズリ調整である。底部はやや丸みを帯びる。

ＳＩ－０２４（第65図，図版19・68）

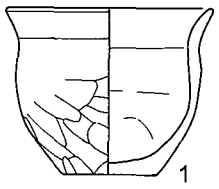
3C-94グリッド周辺に位置する。住居の北西部1/4は調査区外にあたる。平面形は方形で，規模は主軸長推定3.62ｍ・幅3.51ｍである。主軸はN-50°-Wである。北側の土坑状の新しい掘り込みにより壁と床面が削平される。住居の掘り込みは確認面から平均40㎝である。カマドは調査区外に付設されたと想定

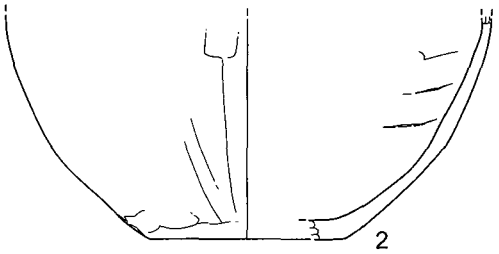


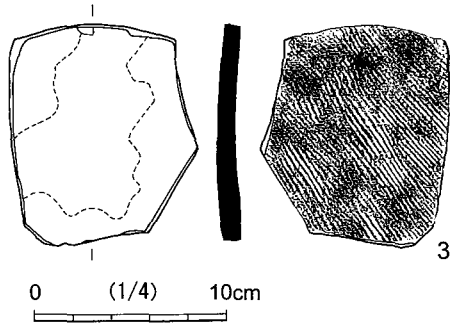
SI-022
1 黒褐色土 ローム粒子含まれる。
2 暗褐色土 ロームブロック(5～20㎜)多量。
3 褐色土 しまりやや弱い。壁溝土。
4 褐色土 ロームブロック主体。カクラン土。しまりなし。

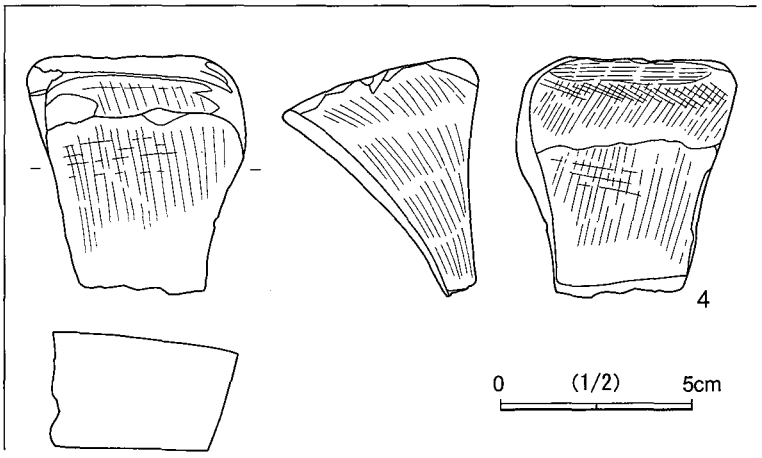


カマド
1 黒褐色土 焼砂・炭化物粒子含まれる。
2 灰白色砂
3 赤褐色焼砂
4 褐色焼砂
5 黄褐色土 ローム・砂含まれる。
6 灰白色砂 しまりあり。袖。
7 黄褐色土 ローム粒子多量。しまりあり。
8 灰褐色土 灰白色砂・炭化物粒子・ローム粒子含まれる。
9 黄褐色土 ロームブロック主体。

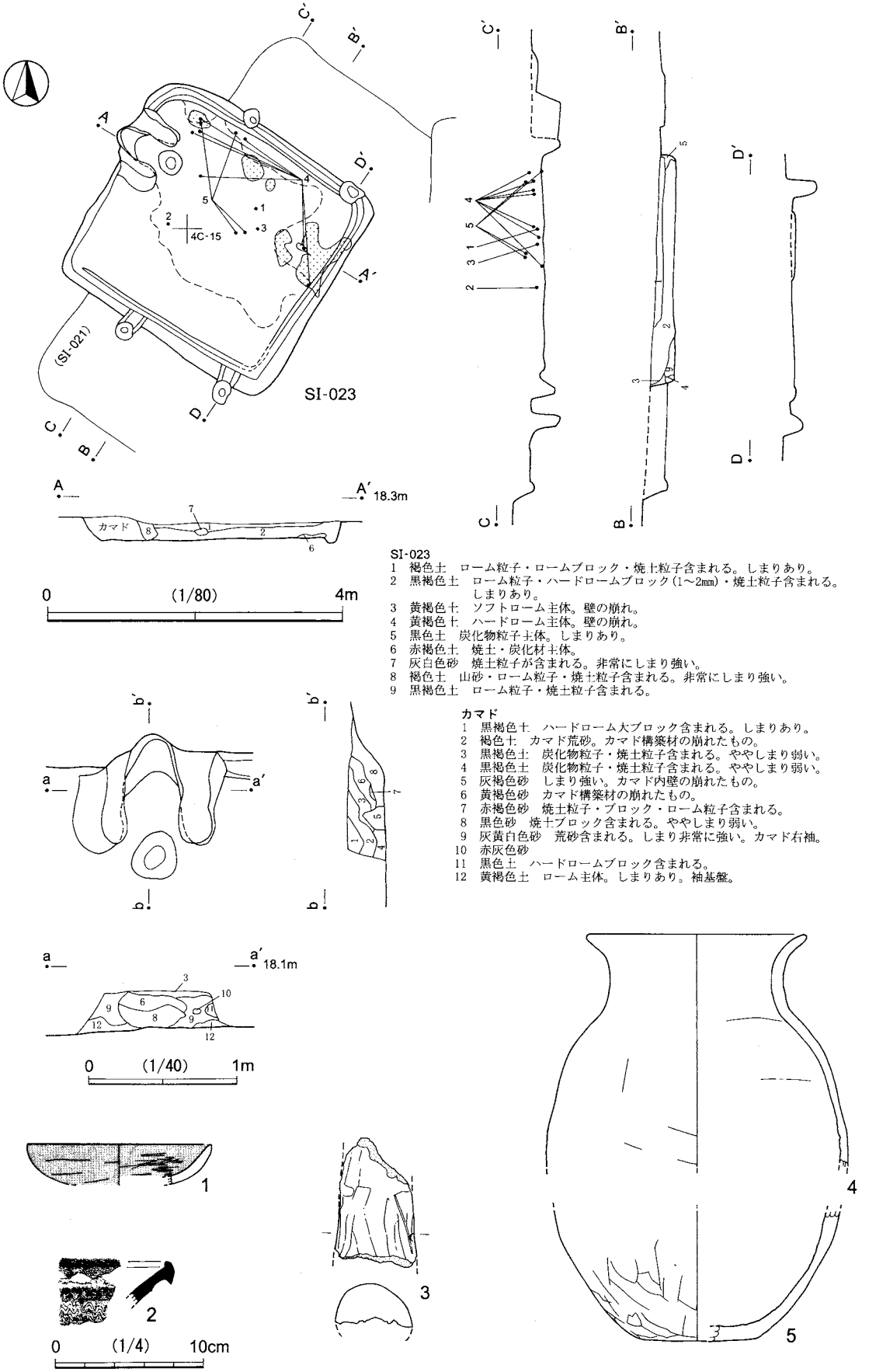








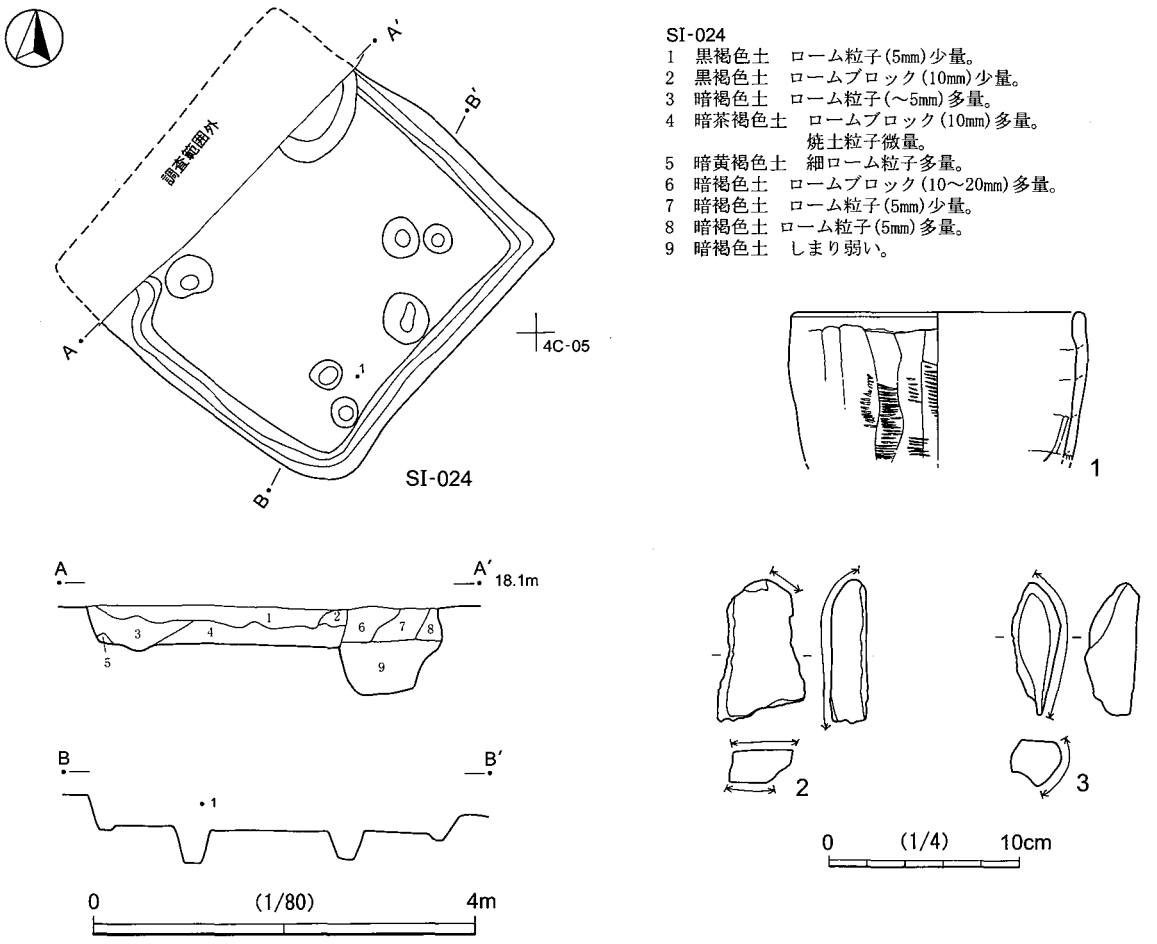
第63図 SI-022



SI-023
1 褐色土　ローム粒子・ロームブロック・焼土粒子含まれる。しまりあり。
2 黒褐色土　ローム粒子・ハードロームブロック(1～2mm)・焼土粒子含まれる。しまりあり。
3 黄褐色土　ソフトローム主体。壁の崩れ。
4 黄褐色土　ハードローム主体。壁の崩れ。
5 黒色土　炭化物粒子主体。しまりあり。
6 赤褐色土　焼土・炭化材主体。
7 灰白色砂　焼土粒子が含まれる。非常にしまり強い。
8 褐色土　山砂・ローム粒子・焼土粒子含まれる。非常にしまり強い。
9 黒褐色土　ローム粒子・焼土粒子含まれる。

カマド
1 黒褐色土　ハードローム大ブロック含まれる。しまりあり。
2 褐色土　カマド荒砂。カマド構築材の崩れたもの。
3 黒褐色土　炭化物粒子・焼土粒子含まれる。ややしまり弱い。
4 黒褐色土　炭化物粒子・焼土粒子含まれる。ややしまり弱い。
5 灰褐色砂　しまり強い。カマド内壁の崩れたもの。
6 黄褐色砂　カマド構築材の崩れたもの。
7 赤褐色砂　焼土粒子・ブロック・ローム粒子含まれる。
8 黒色砂　焼土ブロック含まれる。ややしまり弱い。
9 灰黄白色砂　荒砂含まれる。しまり非常に強い。カマド右袖。
10 赤灰色砂
11 黒色土　ハードロームブロック含まれる。
12 黄褐色土　ローム主体。しまりあり。袖基盤。

第64図　SI-023



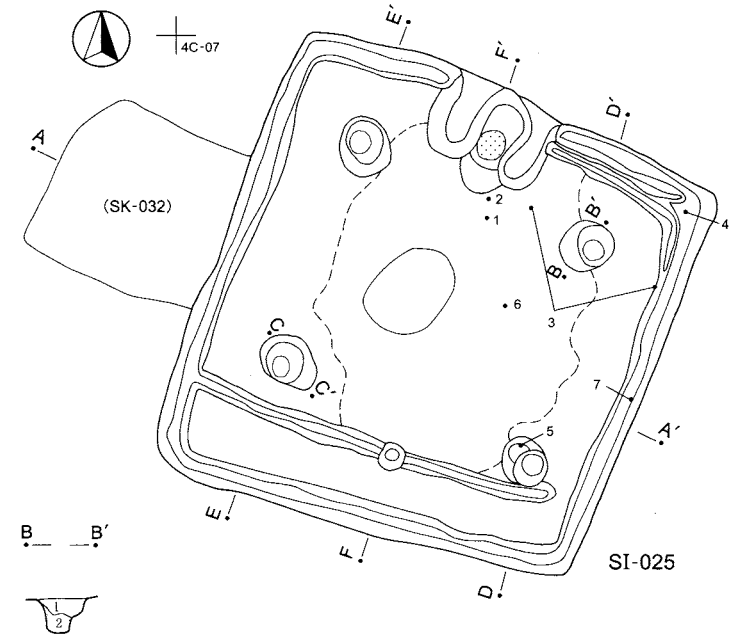
第65図 SI-024

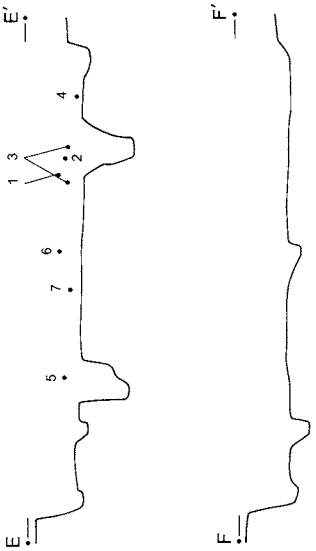
される。主柱穴は3基検出され，残りの1基は北コーナーの切り合いにより確認できなかった。また，入口付近のピット(深17㎝)と南側の主柱穴に沿う形でピットがそれぞれ検出された。床面には顕著な硬化面は確認されなかった。壁周溝は調査範囲内では全周し，西側で屈曲する。その部分には木の根があり，その影響の可能性が高い。平均的な規模は幅8㎝・床面からの深さ5㎝である。

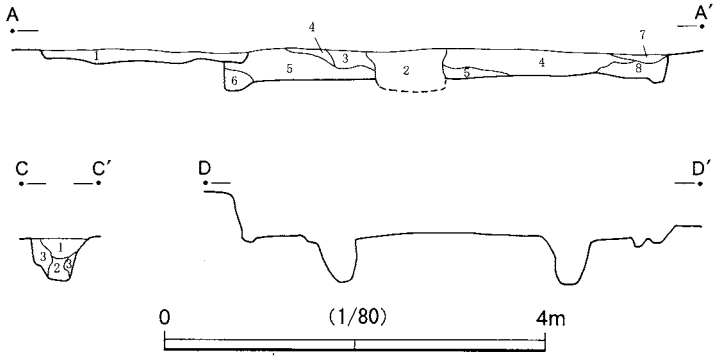
1は土師器甑の口縁部～胴部上半の1/6の遺存である。色調は内面が明赤褐色～黒褐色，外面はにぶい赤褐色～黒色である。胎土には白色砂粒が多く含まれる。内面はナデ，外面はヘラケズリ調整である。内面は輪積した痕跡が残る。2・3は土器転用砥石である。いずれも色調は灰色で，胎土にはスコリアが含まれる。須恵質の土器の再利用であり，住居の時期より新しい可能性もある。

ＳＩ－０２５（第66・67図，図版19・21・68）

4C-07グリッド周辺に位置する。平面形は方形で，規模は主軸長4.87ｍ・幅4.53ｍである。主軸はN-23°-Eである。西側は浅い土坑のSK-032に切られ，住居中央は後世の掘り込みによって攪乱されている。住居の掘り込みは確認面から平均30㎝である。カマドは北壁中央に付設される。火焼部床面は，赤化が著しい。カマド床面は奥壁に向かい，緩やかに立ち上がる。主柱穴ピットは4基あり，しっかりと掘り込まれている。南壁側には入口ピットを1基検出した。入口ピットと同位置で，南壁に平行するように間仕切り溝が検出された。床面にはカマドと入口ピットの主軸に沿って硬化面が確認された。壁周溝は全周し，平均的な規模は幅12㎝・床面からの深さ6㎝である。

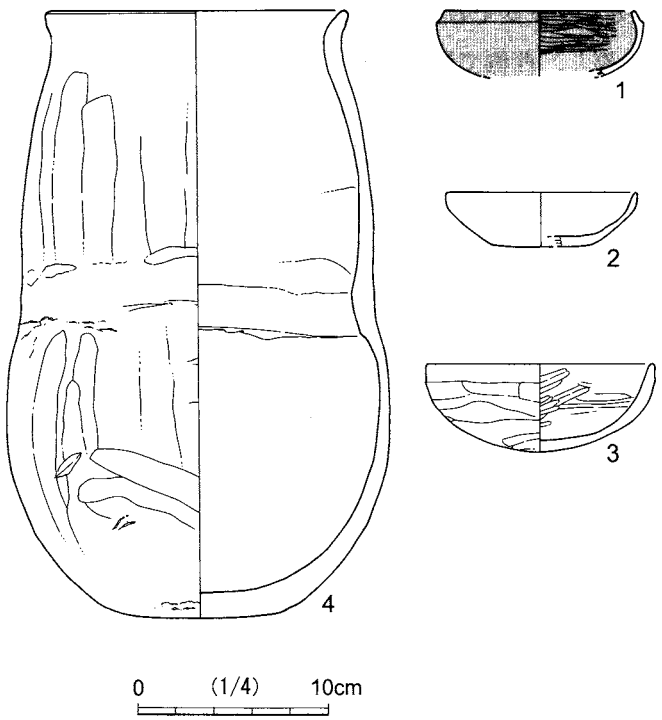


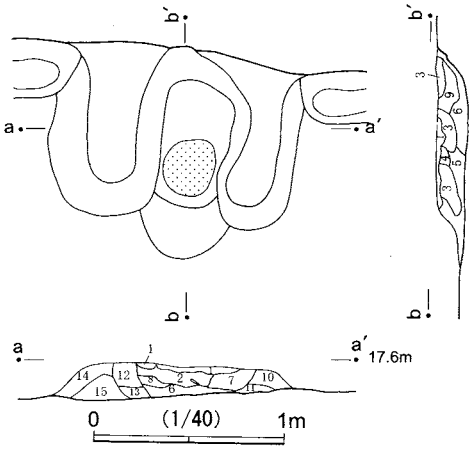




SI-025
1 褐色土 ロームブロック(3～5mm, 10～30mm)多量。
2 黒褐色土 ロームブロック(5～10mm)多量。
3 褐色土 ロームブロック(10～20mm)多量。
4 暗褐色土 ロームブロック(3～5mm, 10～20mm)多量。
5 暗褐色土 ロームブロック(3～5mm, 10～30mm)多量。
6 暗褐色土 ローム粒子(3～5mm)やや多量。
7 暗褐色土 ローム粒子(3～5mm)少量。
8 褐色土 ローム粒子(3～5mm)多量。

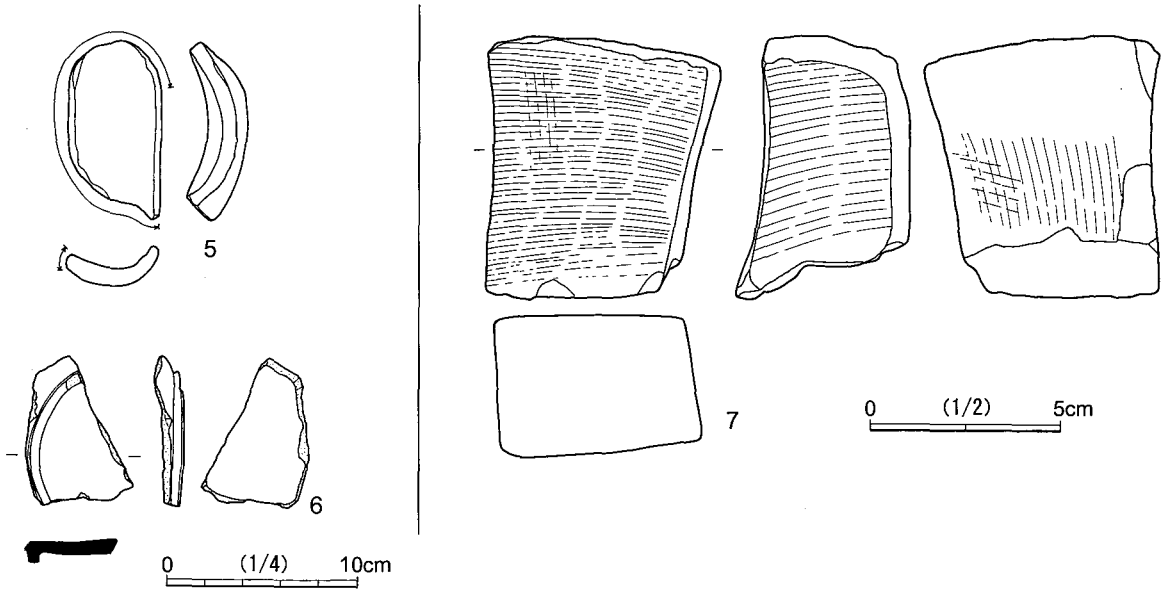
Pit B-B′・C-C′
1 暗褐色土 ロームブロック(10mm)やや多量。
2 褐色土 ロームブロック(20～30mm)多量。
3 暗褐色土 ロームブロック(3～5mm, 20～30mm)多量。





カマド
1 暗褐色土 山砂・焼土ブロック少量。
2 暗褐色土 山砂・焼土ブロック多量。
3 赤褐色土 カマド構築材が崩れたもの。
4 暗褐色土 山砂・焼土ブロック多量。流込土。
5 暗赤褐色土 焼土多量。炭含まれる。
6 暗赤褐色土 焼土やや多量。炭少量。
7 暗褐色土 焼土ブロック多量。
8 褐色土 山砂多量。焼土ブロック少量。
9 暗褐色土 ローム粒子(3～5mm)やや多量。山砂少量。流込土。
10 灰黄色土 山砂主体。しまり強い。
11 黄褐色土 赤褐色焼土ブロック含まれる。しまりあり。
12 灰黄色砂 しまりあり。
13 黄褐色土 ロームブロック主体。しまりあり。
14 灰黄色土 山砂・ロームブロックが含まれる。しまりあり。
15 黄褐色土 ハードロームブロック主体。しまりややなし。

第66図 SI-025(1)



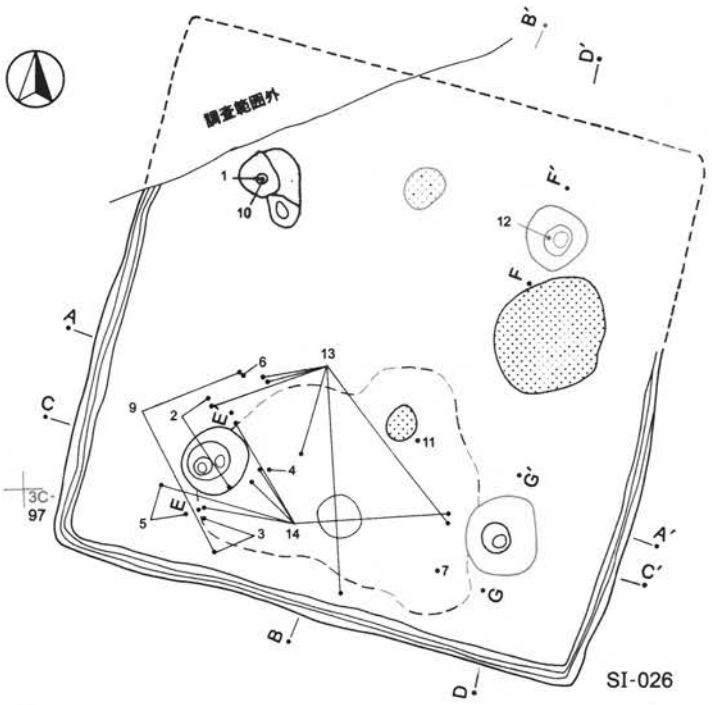
第67図　SI-025(2)

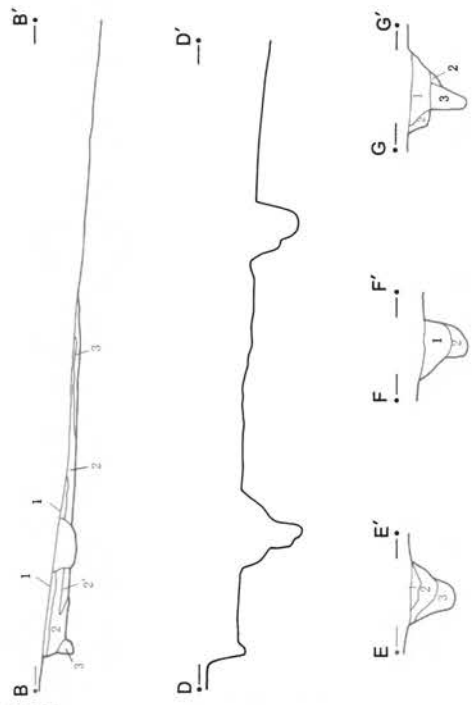
遺物は比較的多く出土した。1～3は土師器坏である。1は全体の1/3の遺存である。色調は内面が灰黄褐色，外面は浅黄橙色である。内外面共に黒色処理(漆)されていたと考えられる。焼成はやや不良，胎土は精緻で，微砂粒が少量含まれる。内面はミガキ，外面はヘラケズリ調整である。2は全体の1/4の遺存である。色調は内面が灰黄褐色，外面が浅黄橙色である。特に外面の器面が摩滅している。内面には黒色処理の痕跡がかすかに残るが，断定できない。胎土にはスコリアが多く含まれる。内面はミガキ，外面は恐らくヘラケズリ調整である。3は全体の2/3の遺存である。色調は内外面共に浅黄橙色である。胎土には白色微砂粒・スコリア粒が含まれる。内面はナデ後丁寧なミガキ，外面はヘラケズリ調整である。4は土師器甕で，全体の1/2の遺存である。胴部中位で緩くくびれる長胴の形状である。色調は，内面が褐色～黒褐色，外面が黒褐色である。胎土には白色砂粒が含まれる。内面はナデ，外面はヘラケズリ後ナデ調整である。屈曲部は器厚があり，上半・下半をそれぞれ作った後に接合したものと考えられる。5は土師器甕の口縁破片を砥石に転用したものである。破断面のみを摺って使用している。色調は内面が黒褐色～黒色で，外面がにぶい赤褐色～黒色である。胎土には白色微砂粒が多量に含まれる。6は須恵器高台付き坏の底部破片を転用して硯に使用したものである。内面を摺り面として使用している。色調は灰色である。胎土には白色砂粒が含まれる。7は凝灰岩製の砥石である。下面も使用されるが，特に上面・両側面が摩滅している。重量は242.24ｇである。

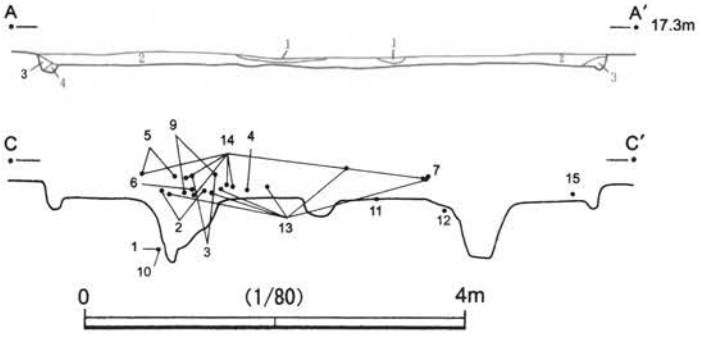
ＳＩ－０２６（第68・69図，図版20・21・69）

3C-87グリッド周辺に位置する。北西コーナーが調査範囲外にあたり，完掘できていない。平面形は方形で，規模は推定主軸長5.7ｍ・幅5.79ｍである。主軸はN-16°-Eである。北壁側は遺構確認面が低く，カマドは火焼面の痕跡のみの検出で，床・壁共に削平される。住居東側では，広範囲に砂が含まれた焼土が検出された。主柱穴ピットは4基あり，しっかりと掘り込まれている。入口と考えられる位置のピットは後世の掘り込みの跡である。床面の南半分に偏って，硬化面が確認できた。壁周溝は床面の検出できた部分では全周し，平均的な規模は幅7㎝・床面からの深さ6㎝である。

遺物は床面上以外に柱穴覆土内からも出土した。出土総量も多い。1～8は土師器坏である。1は完形





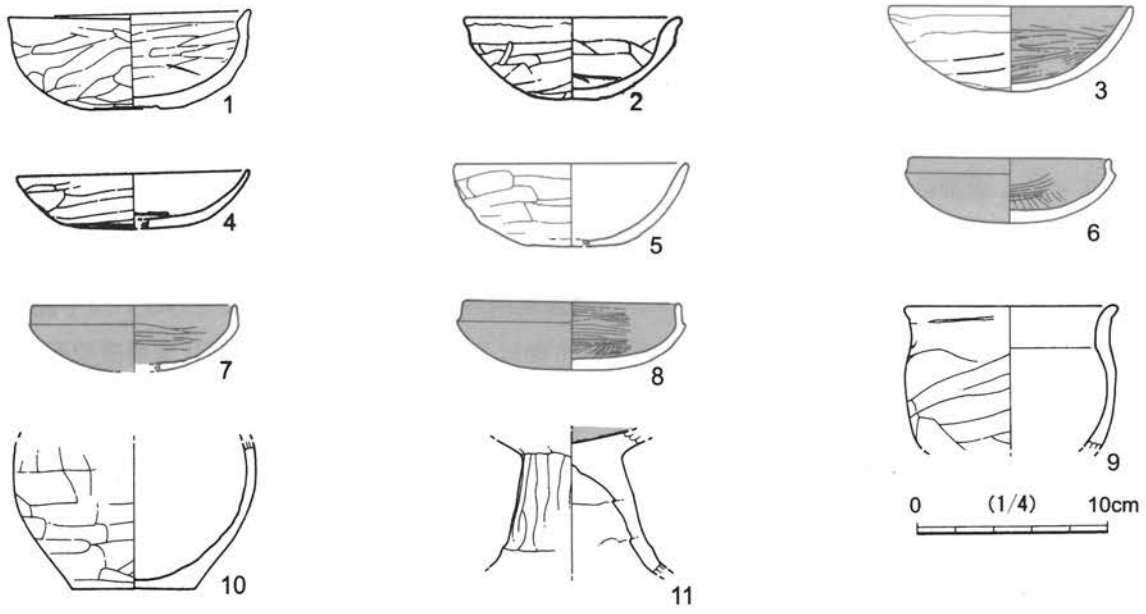


SI-026
1 暗褐色土 ローム粒子含まれる。しまりあり。
2 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック含まれる。しまりあり。
2' 暗褐色土 砂ブロック・ロームブロック含まれる。
3 褐色土 ロームブロック主体。しまりやや弱い。
4 褐色土 ロームブロック多量。しまり非常に強い。貼床?

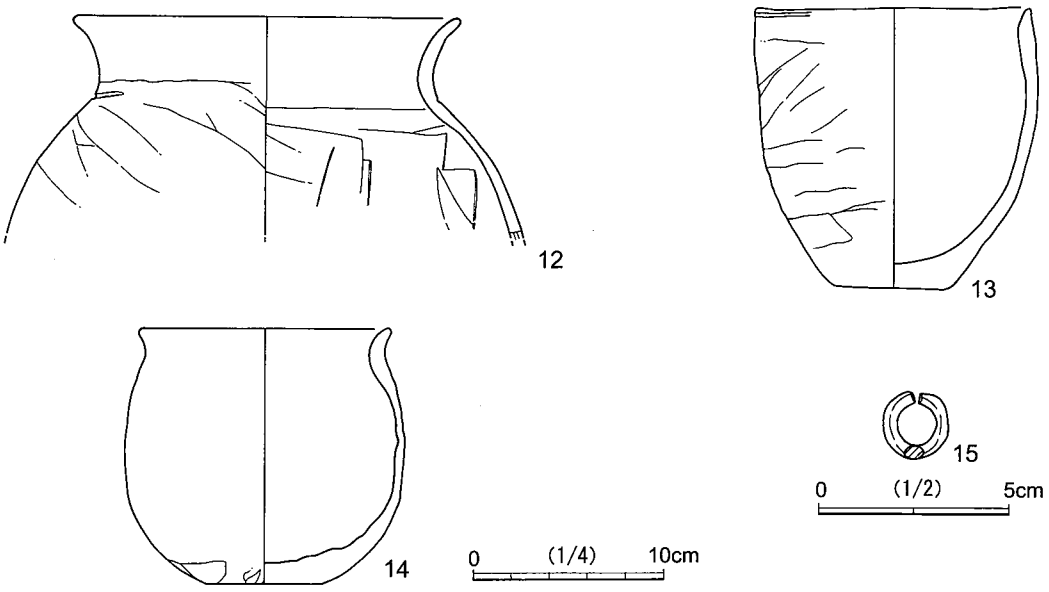
Pit E-E'
1 褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック含まれる。
2 黒褐色土 ローム粒子・ブロック・炭化物含まれる。しまりあり。
3 灰褐色土 灰白色砂多量。しまりあり。

Pit F-F'
1 褐色土 焼土粒子・炭化物粒子含まれる。
2 褐色土 しまりあり。

Pit G-G'
1 褐色土 ローム粒子含まれる。しまりあり。
2 褐色土 ハードローム小ブロック含まれる。しまり非常に強い。
3 褐色土 ローム粒子含まれる。しまりなし。(柱痕か?)



第68図 SI-026(1)



第69図　SI-026(2)

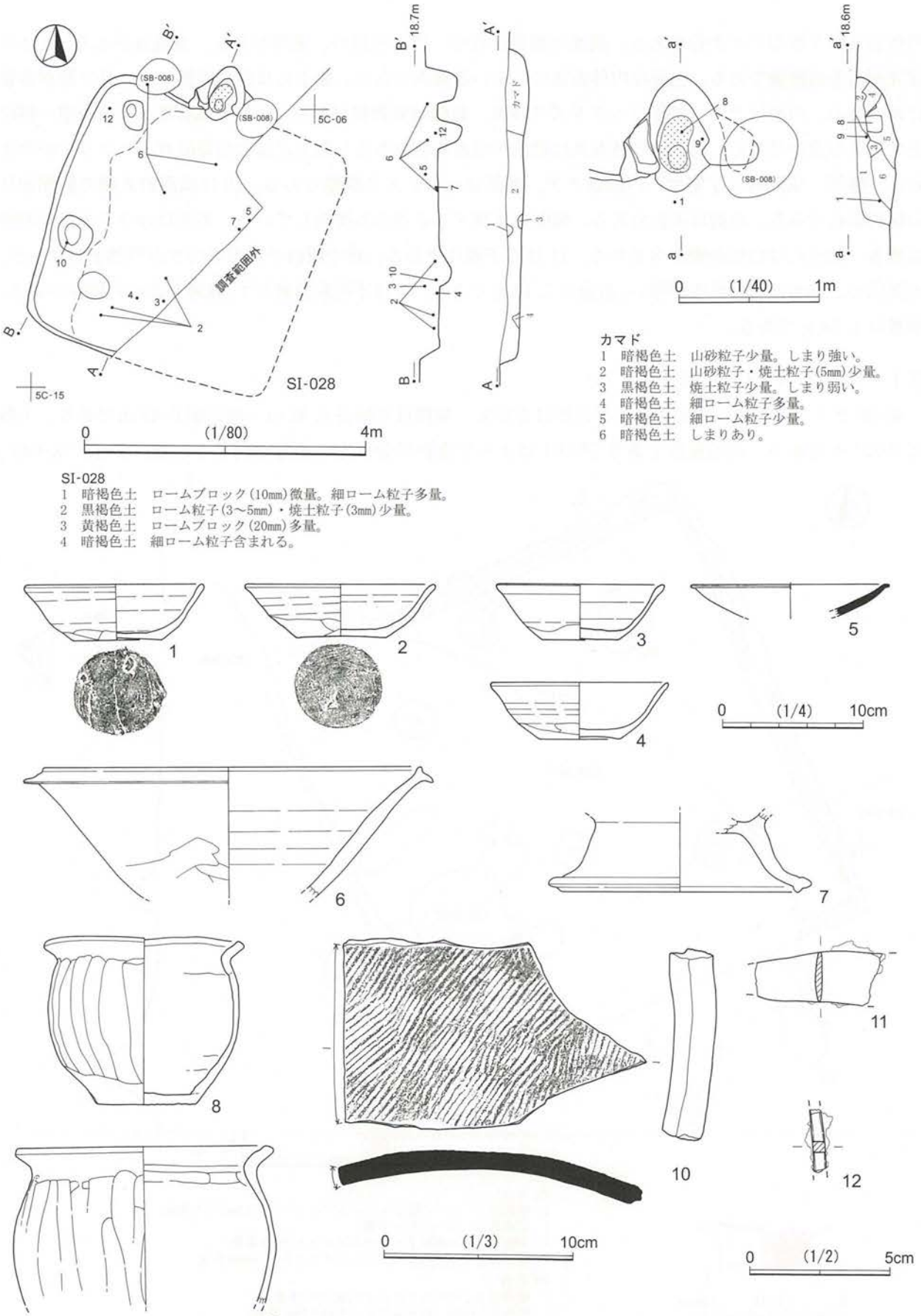
である。色調は内面がにぶい橙色～黒褐色，外面は灰褐色である。胎土には白色微砂粒が多く含まれる。内面はヘラナデ，外面はヘラケズリ，部分的にミガキ調整である。底面もヘラケズリによりやや平底を意識した整形になっている。器厚があり，調整もやや雑な印象を受ける。2は全体の1/2の遺存である。色調は内面が明赤褐色～褐色，外面がにぶい橙色～黒色である。胎土には白色砂粒・スコリアが含まれる。内面は雑なナデ，外面はヘラケズリ調整である。3は全体の5/6の遺存である。色調は内面が黒色処理され黒色，外面は橙色～にぶい褐色である。焼成はやや不良で，胎土には白色微砂粒・スコリア粒が含まれる。内面はミガキ，外面はヘラケズリ調整である。4は全体の1/3の遺存である。色調は内外面共ににぶい橙色～橙色である。胎土には白色微砂粒が含まれる。内面はミガキ，外面はヘラケズリ後ミガキ調整である。5は全体の5/6の遺存である。色調は内外面共に浅黄橙色～にぶい橙色である。胎土にはスコリアが目立つ。内面はミガキ，外面はヘラケズリ調整である。内外面共に2次被熱により，器面の剥落が著しい。6は全体の1/2の遺存である。色調は内面が黄灰色～灰色，外面は黄灰色である。かなり摩滅しているが，内外面共に黒色処理(漆)されていたものと考えられる。焼成は不良で，胎土には白色微砂粒が含まれる。内面はミガキ，外面はヘラケズリ後ナデ調整である。7は全体の1/4の遺存である。色調は内面が褐灰色，外面がにぶい褐色で，かなり摩滅しているが，黒色処理(漆)されていたものと考えられる。焼成はやや不良で，胎土は精緻でスコリア粒が含まれる。内面は口縁部も含めて丁寧なミガキ，外面はヘラケズリ調整である。8は全体の1/3の遺存である。色調は内外面共ににぶい橙色～灰褐色である。かなり摩滅しているが，黒色処理(漆)されていたものと考えられる。焼成はやや不良で，胎土は精緻で，スコリア粒が含まれる。内面は口縁部も含めて丁寧なミガキ，外面はヘラケズリ調整である。9・10は土師器小型甕である。9は口縁部～胴部の3/5の遺存である。口縁頸部はほとんど屈曲せずに立ち上がる形状である。口縁端部に細い粘土紐をつけ，わずかに外反させる。色調は内面がにぶい褐色，外面がにぶい赤褐色～黒褐色である。胎土には白色微砂粒が多量に含まれる。2次被熱により器面内面の剥落が著しい。内面はナデ，外面はヘラケズリ調整である。10は底部～胴部下半の遺存である。色調は内面が橙色，外面がにぶい橙色～黒色である。胎土には白色砂礫・スコリアが含まれる。内面はナデ，外面はヘラケズリ後ナデ，底面

はヘラケズリ調整である。内面は剥落が著しい。11は高坏で，脚部を中心に3/4の遺存である。色調は坏部内面が黒色処理され黒色，脚部内面・外面はにぶい褐色である。胎土には白色砂粒が多量に含まれる。脚部内面はナデ調整が施されるが，粘土紐の巻き上げ痕が明瞭に残る。裾部はヨコナデ，脚部外面は縦方向のヘラケズリ，坏部内面はミガキ調整である。12～14は土師器甕である。12は口縁部～肩部の1/4の遺存である。色調は内外面共に浅黄橙色である。胎土には砂礫が極多量に含まれる。内面はヘラナデ，外面はヘラケズリ調整である。口縁部外面の付け根に筋状にナデつけ痕がみられる。器壁は比較的薄い。13は口縁が屈曲しない，砲弾型の甕で全体の2/3の遺存である。色調は内面が明赤褐色，外面が暗赤褐色である。胎土には白色砂粒が多量に含まれる。内外面共に2次被熱で器面が剥落している。内面はナデ，外面はヘラケズリ調整である。14は全体の2/3の遺存である。色調は内外面共ににぶい赤褐色～暗赤灰色である。胎土自体が赤みを帯びる。2次被熱により内面が特に器面の剥落が著しい。胎土には白色微砂粒が多量に含まれる。内面はヘラナデ，外面は底面を含めてヘラケズリ調整である。胴部の中位は器壁が薄く，その割に底部は厚みがある。15は銅製の耳環である。一部金色もみえることから銅芯に金鍍金したものと考えられる。重量は4.00ｇである。

ＳＩ－０２８（第70図，図版20・21・69・70）

5C-05グリッド周辺に位置する。平面形は方形で，規模は主軸長3.67ｍ・推定幅3.77ｍである。主軸はN-19°-Eである。住居東半分は調査範囲外にあたる。一部，SB-008の柱穴に切られている。掘り込みは確認面から平均20㎝である。カマドは北壁中央に付設される。火焼部の床面からやや浮いた位置から土師器甕が出土した。ピットは西壁に沿って2基検出されたが，位置・掘り込みの浅さから主柱穴とは考えにくい。床面には中央部分の広範囲で硬化面が確認できた。壁周溝は確認されなかった。

1～4は土師器坏である。1は完形である。色調は内面が灰褐色，外面がにぶい赤褐色である。胎土には白色微砂粒・スコリア粒が多く含まれる。ロクロ整形で，体部下端は手持ちヘラケズリ，底面は回転糸切り後，手持ちヘラケズリ調整である。2は全体の3/4の遺存である。色調は内外面共ににぶい赤褐色である。胎土には白色微砂粒・スコリア粒が多く含まれる。ロクロ整形で，体部下端は手持ちヘラケズリ，底面は回転糸切り後，手持ちヘラケズリ調整である。3は全体の1/4の遺存である。色調は内外面共に明赤褐色である。胎土には白色微砂粒・スコリア粒が多く含まれる。ロクロ整形で，体部下端と底面は手持ちヘラケズリ調整である。底部内面中央がやや盛り上がる。4は全体の2/3の遺存である。色調は内外面共ににぶい赤褐色である。焼成は良好で胎土には白色微砂粒・スコリア粒が多く含まれる。ロクロ整形で，体部下端と底面は手持ちヘラケズリ調整である。平面はヘラケズリによってやや内側に凹んでいる。内外面の一部に粘土のケズリかすが付着している。5は灰釉陶器の皿で口縁部1/8の遺存である。色調は内外面共に灰色で，灰釉が薄く施釉される。胎土は精緻である。ロクロ整形で，口縁端部がわずかに外反する。6・7は大型台付鉢の破片と考えられる。色調をみる限り土師器であるが，焼成は良好で，硬質であり窯で焼かれた可能性が高い。6の色調は内面は灰褐色，外面はにぶい赤褐色である。胎土には白色砂粒・スコリア粒が含まれる。大きく直線的にハの字に開く形態である。口縁部端部は特に外面に大きく張り出す。外面は口縁部～胴部中位までナデ，胴部下位はヘラケズリ調整である。外面口縁付近にはタタキ目の痕跡がみられる。内面は全面ナデ調整である。器厚があり，規模としては7と釣り合うが，同一個体ではない可能性が高い。7の色調は内外面共に橙色～褐灰色である。胎土には白色砂粒・スコリア粒が多く含まれる。



SI-028
1 暗褐色土 ロームブロック(10㎜)微量。細ローム粒子多量。
2 黒褐色土 ローム粒子(3～5㎜)・焼土粒子(3㎜)少量。
3 黄褐色土 ロームブロック(20㎜)多量。
4 暗褐色土 細ローム粒子含まれる。

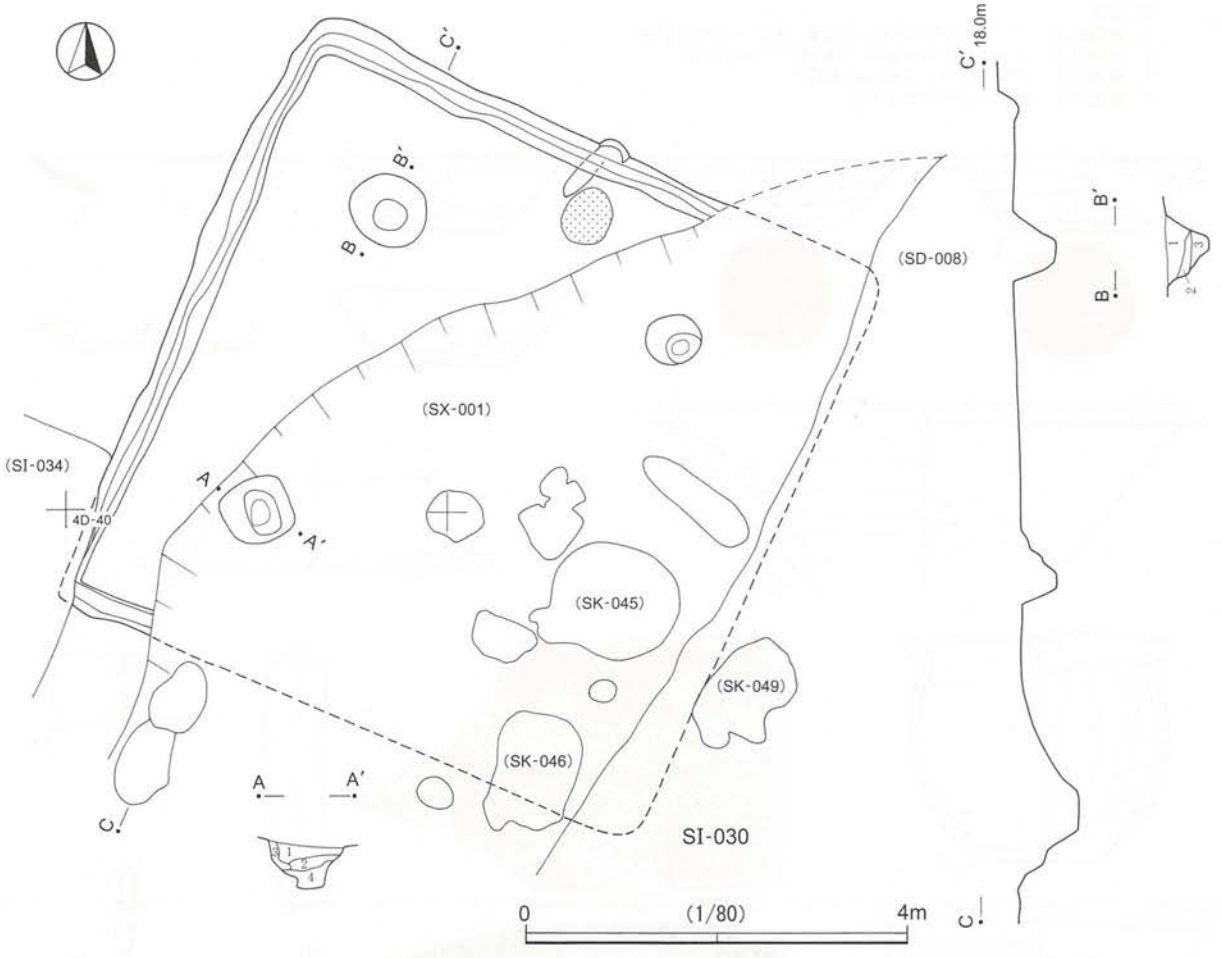
カマド
1 暗褐色土 山砂粒子少量。しまり強い。
2 暗褐色土 山砂粒子・焼土粒子(5㎜)少量。
3 黒褐色土 焼土粒子少量。しまり弱い。
4 暗褐色土 細ローム粒子多量。
5 暗褐色土 細ローム粒子少量。
6 暗褐色土 しまりあり。

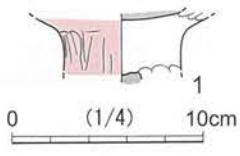
第70図 SI-028

内外面共に丁寧なナデ調整である。端部の調整は雑で，やや波打つ。器厚があり，重量感がある。8はほぼ完形の土師器甕である。色調は内外面共ににぶい赤褐色である。胎土には白色砂粒・スコリア粒が多量に含まれる。内面はナデ，外面はヘラケズリ調整，底面は無調整である。9は土師器甕で，口縁部～胴部上半1/2の遺存である。色調は内外面共に橙色～明赤褐色である。胎土には白色微砂粒・スコリアが含まれる。整形・成形共に丁寧で，内面はナデ，外面はヘラケズリ調整である。10は須恵器大甕の胴部破片の転用砥石である。色調は灰色である。破面の直交する2辺のみ使用している。外面にはタタキ目が明瞭に残る。胎土には白色砂礫が含まれる。11は刀子破片である。錆で断面では刃の向きが判然としないが，実測図の上側が刃の可能性が強い。重量は7.19 gである。12は不明鉄器破片で，鉄鏃頸部の可能性がある。重量は1.34 gである。

ＳＩ－０３０（第71図，図版22・70）

4D-30グリッド周辺に位置する。平面形は方形で，規模は主軸長6.48 m・推定幅6.48 mである。主軸はN-23°-Eである。台地整形であるSX-001によって南側半分以上の床面が削平される。また，SK-045・





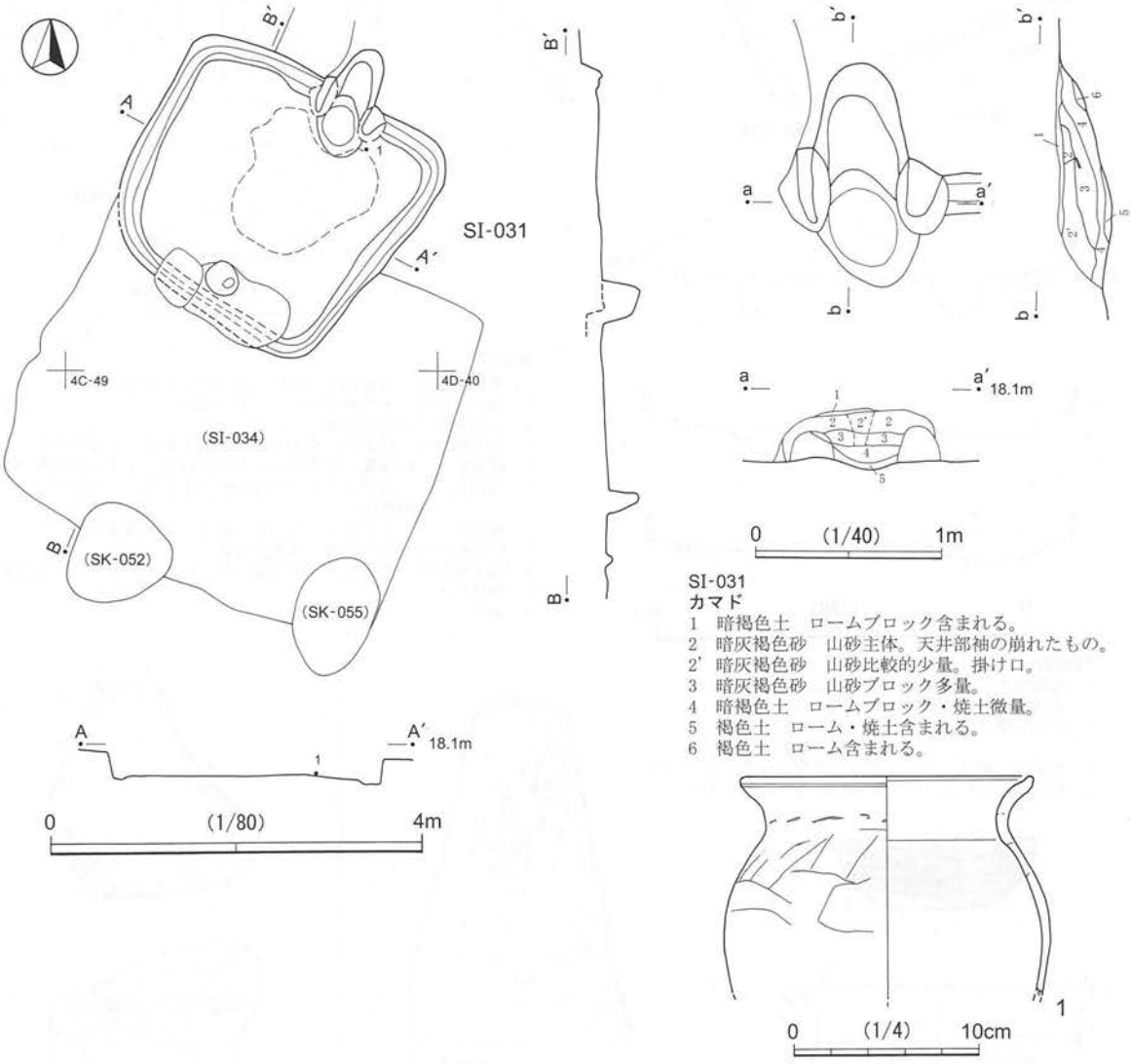
Pit A-A′
1 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック(5～10㎜)やや多量。
2 暗褐色土 ローム粒子少量。
3 褐色土 ローム粒子・ロームブロック(5㎜)多量。
4 褐色土 ローム粒子・ロームブロック(10～20㎜)多量。

Pit B-B′
1 暗褐色土 ロームブロック(5㎜)やや多量。
2 褐色土 山砂・ロームブロック(3～5㎜)多量。
3 褐色土 ローム粒子・ロームブロック(5～10㎜)多量。

第71図 SI-030

046・049に切られている。掘り込みは確認面から平均10㎝である。カマドは構築材の砂のわずかな散布と火焼面の存在から，北東壁中央に付設されたと考えられる。主柱穴ピットは南コーナーの1基が後世の土坑で削平されて，3基のみの検出である。それぞれ，しっかりと掘り込まれている。壁周溝は攪乱部分以外は検出され，平均的な規模は幅8㎝・床面からの深さ5㎝である。

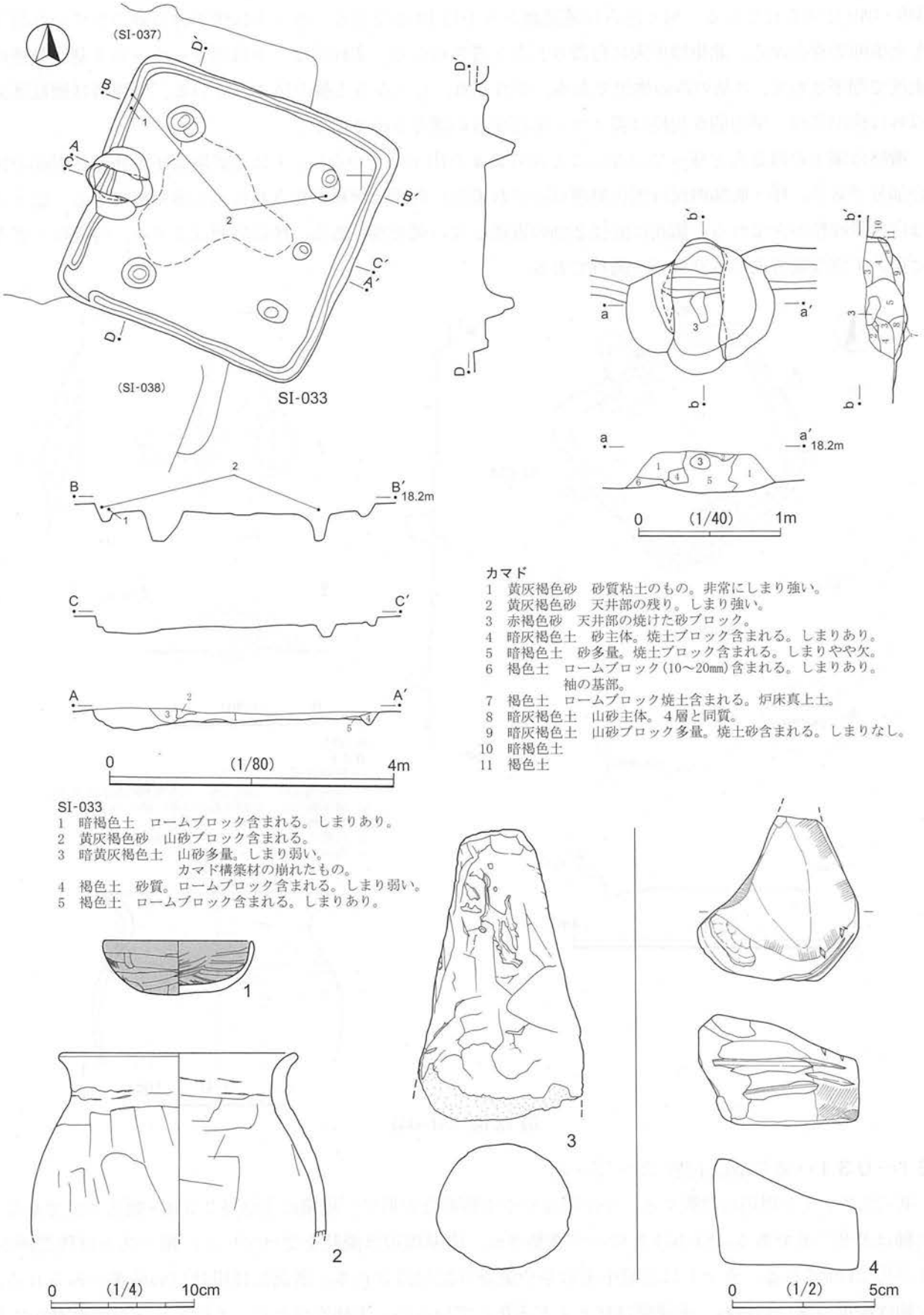
遺物は覆土がほとんど残っていないことからあまり出土していない。1は土師器高坏の坏部と脚部の接合部分である。坏・脚部内面は黒色処理(炭)され黒色，外面は赤彩が施されにぶい赤褐色である。胎土には白色微砂粒が含まれる。側面に直径2㎜の貫通しない刺突痕がある。坏部内面はミガキ，外面はミガキに近い丁寧な縦方向のヘラケズリ調整である。



第72図 SI-031

ＳＩ－０３１（第72図，図版22～25・70）

4C-39グリッド周辺に位置する。平面形はやや不整形な方形で，規模は主軸長2.6ｍ・幅2.9ｍである。主軸はN-27°-Eである。SI-034を切って構築され，南壁周辺は攪乱を受けている。掘り込みは確認面から平均20㎝である。カマドは北壁中央のやや東寄りに付設される。断面には掛け口の痕跡がみられる。左袖は後世の溝に切られ，火焼部はほとんど赤化していない。主柱穴はなく，入口ピットが南壁寄りに1


(SI-037)
(SI-038)
SI-033
18.2m
0 (1/80) 4m
0 (1/40) 1m
カマド
1 黄灰褐色砂 砂質粘土のもの。非常にしまり強い。
2 黄灰褐色砂 天井部の残り。しまり強い。
3 赤褐色砂 天井部の焼けた砂ブロック。
4 暗灰褐色土 砂主体。焼土ブロック含まれる。しまりあり。
5 暗褐色土 砂多量。焼土ブロック含まれる。しまりやや欠。
6 褐色土 ロームブロック(10～20㎜)含まれる。しまりあり。袖の基部。
7 褐色土 ロームブロック焼土含まれる。炉床真上土。
8 暗灰褐色土 山砂主体。4層と同質。
9 暗灰褐色土 山砂ブロック多量。焼土砂含まれる。しまりなし。
10 暗褐色土
11 褐色土
SI-033
1 暗褐色土 ロームブロック含まれる。しまりあり。
2 黄灰褐色砂 山砂ブロック含まれる。
3 暗黄灰褐色土 山砂多量。しまり弱い。カマド構築材の崩れたもの。
4 褐色土 砂質。ロームブロック含まれる。しまり弱い。
5 褐色土 ロームブロック含まれる。しまりあり。
0 (1/4) 10cm
0 (1/2) 5cm

第73図 SI-033

基のみ検出された。床面には中央ややカマド寄りに硬化面を確認できた。壁周溝は攪乱部分以外は検出され，平均的な規模は幅10㎝・床面からの深さ4㎝である。

遺物はほとんど出土していない。1は土師器甕の口縁部～胴部上半の1/2の遺存である。色調は内面が暗褐色，外面が赤褐色である。胎土には白色砂粒・スコリアが多く含まれる。口縁端部を丁寧に整形している。内面はナデ，外面はヘラケズリ調整である。

ＳＩ－０３３（第73図，図版25・26・31・71）

4C-78グリッド周辺に位置する。平面形は方形で，規模は主軸長3.7ｍ・幅3.58ｍである。主軸はN-68°-Wである。SI-037を切り，SI-038とは隣接して構築される。掘り込みは確認面から平均10㎝である。西壁中央にカマドが付設される。掛け口中央で，やや浮いたレベルで土製支脚が出土した。火焼面はほとんど赤化していない。主柱穴ピットは4基で，しっかりとした掘り込みをもつ。東壁側には入口ピットが検出された。床面中央部で硬化面が確認された。壁周溝は南西コーナーで一部とぎれるが，ほぼ全周する。壁周溝の平均的な規模は幅8㎝・床面からの深さ7㎝である。

遺物はほとんど出土していない。1は土師器坏で，ほぼ完形である。色調は外面がにぶい黄橙色～黒色，外面が浅黄色である。内外面共に黒色処理(漆)されていたと考えられる。胎土は精緻である。内面は丁寧なミガキ，外面は口縁部がヨコナデ，体部はヘラケズリ，底部は平底を意識したヘラケズリ調整である。2は土師器甕で口縁部～胴部上半の1/4の遺存である。色調は内外面共ににぶい赤褐色～黒褐色である。胎土には砂礫・スコリアが含まれる。内面は丁寧なヘラナデ，外面はヘラケズリ後ナデ調整である。3は土製支脚である。色調はにぶい橙色である。焼成は不良で，全体に軟質で脆い。胎土に砂は含まれず，粘土が主体である。4は砂岩製の砥石である。破面である一面を除き，全面が使用される。底面は2条溝状に深く削られている。重量は115.9ｇである。

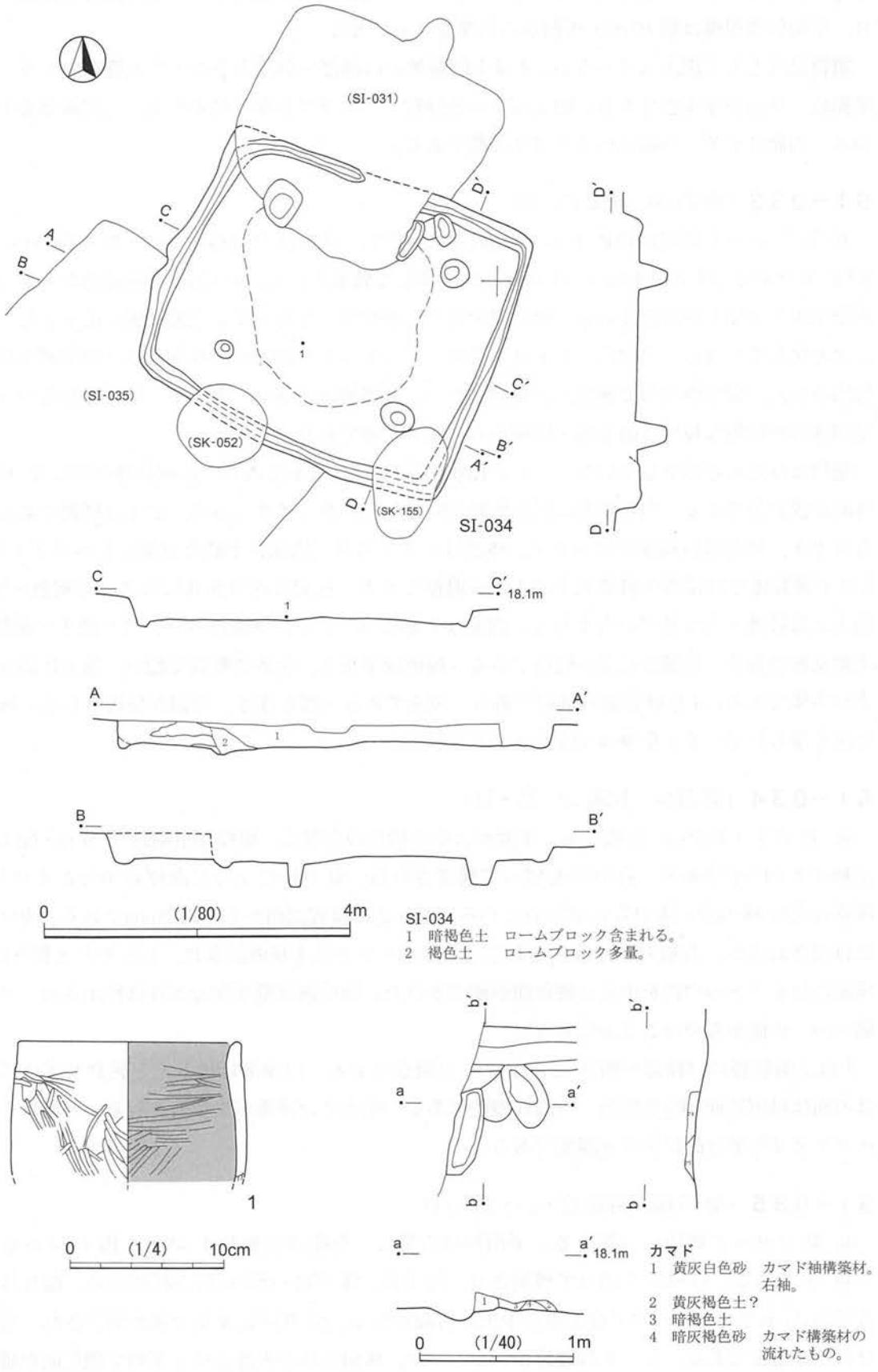
ＳＩ－０３４（第74図，図版22・25・71）

4C-49グリッド周辺に位置する。平面形はやや横長の方形で，規模は主軸長3.74ｍ・幅4.32ｍである。主軸はN-21°-Eである。SI-035を切って構築される。SI-031によって北壁の半分とカマドが削平され，南壁付近はSK-052・SK-055に切られている。掘り込みは確認面から平均20㎝である。カマドは北壁中央に付設されるが，右袖のみの遺存である。主柱穴ピットは4基確認され，しっかりと掘り込まれている。床面にはピットの内側を中心に硬化面が確認された。壁周溝は攪乱部分以外は検出され，平均的な規模は幅8㎝・床面からの深さ3㎝である。

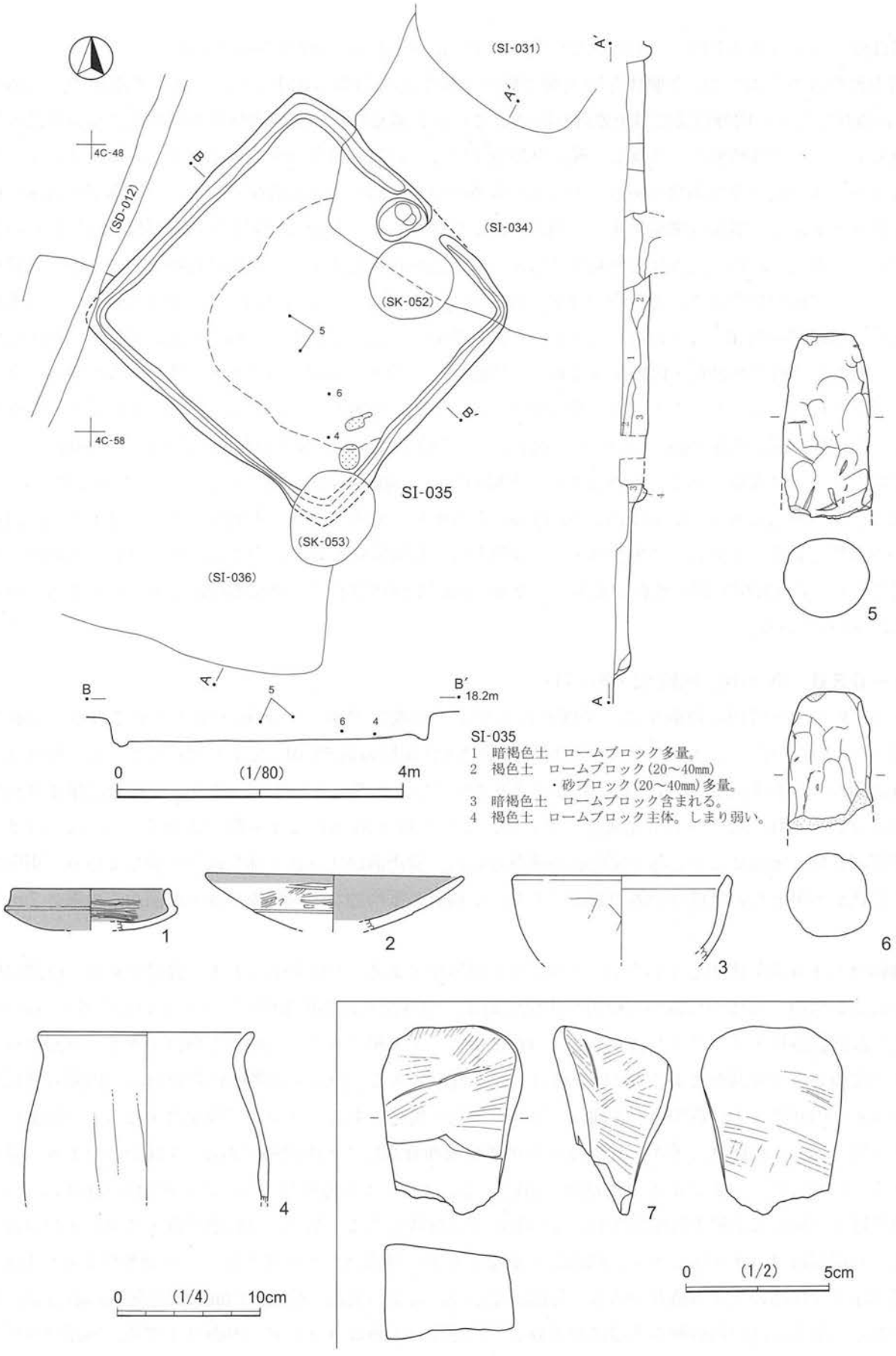
1は土師器甕の口縁部～胴部上半の1/10の遺存である。口縁部はほとんど屈曲せずに直立する。色調は内面は黒色処理(炭)で黒色，外面は橙色である。胎土には砂礫が少量含まれる。内面はミガキ，外面はヘラケズリ後部分的にミガキ調整である。

ＳＩ－０３５（第75図，図版22・25・26・71）

4C-48グリッド周辺に位置する。平面形は方形で，規模は主軸長4.38ｍ・幅4.24ｍである。主軸はN-44°-Eである。SI-036を切って構築され，SI-034，SK-052・053に切られている。掘り込みは確認面から平均35㎝である。カマドは北東壁中央に付設される。SI-034により上部が削平され，火焼面の低い部分のみの遺存である。ピットは確認されなかった。床面には中央部とやや東側で硬化面が確認された。壁


(SI-031)
(SI-035)
(SK-052)
(SK-155)
SI-034
A
A′
B
B′
C
C′
D
D′
18.1m
0 (1/80) 4m
SI-034
1 暗褐色土 ロームブロック含まれる。
2 褐色土 ロームブロック多量。
a
a′
b
b′
0 (1/4) 10cm
0 (1/40) 1m
カマド
1 黄灰白色砂 カマド袖構築材。右袖。
2 黄灰褐色土?
3 暗褐色土
4 暗灰褐色砂 カマド構築材の流れたもの。

第74図 SI-034


(SI-031)
A'
4C-48
B
(SD-012)
(SI-034)
(SK-052)
5
6
4
B'
4C-58
SI-035
(SK-053)
(SI-036)
A
B
B'
18.2m
0 (1/80) 4m
SI-035
1 暗褐色土 ロームブロック多量。
2 褐色土 ロームブロック(20～40㎜)
・砂ブロック(20～40㎜)多量。
3 暗褐色土 ロームブロック含まれる。
4 褐色土 ロームブロック主体。しまり弱い。
1
2
3
4
5
6
7
0 (1/4) 10cm
0 (1/2) 5cm

第75図 SI-035

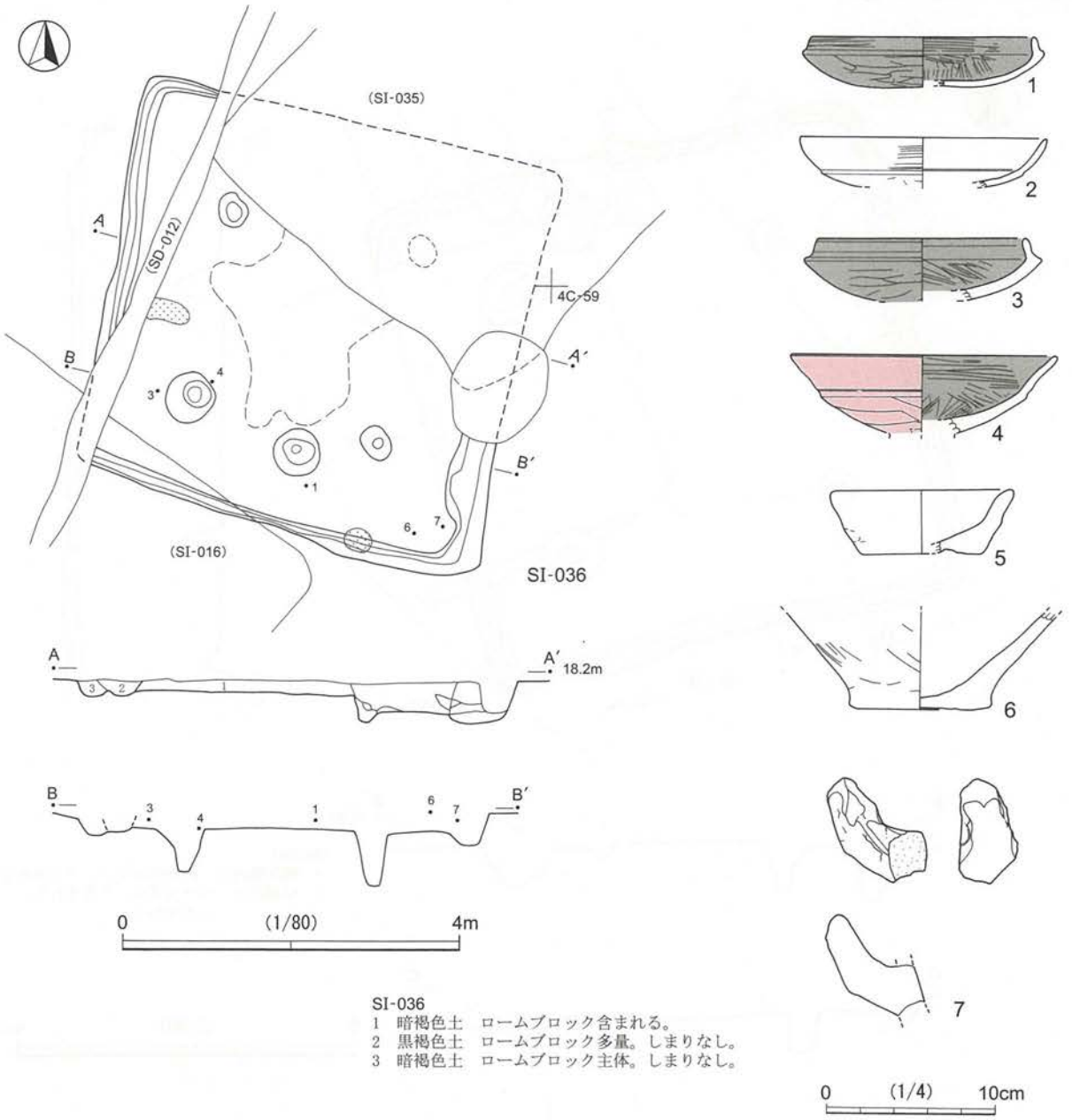
周溝は攪乱部分以外は全周し，平均的な規模は幅10㎝・床面からの深さ7㎝である。

出土遺物は多くないが，2個体分の土製支脚が住居中心部分から出土した。1は土師器坏で，全体の1/8の遺存である。内外面共に黒色処理(漆)されていたと考えられる。色調は内外面共ににぶい黄色～黒褐色である。胎土は精緻で，スコリア粒が少量含まれる。口縁部はヨコナデ後ミガキ，内面はミガキ，外面はヘラケズリ後ミガキ調整である。2は土師器高坏で，坏部の1/6の遺存である。口縁部下位に弱い段差が作り出される。器面は摩滅気味で，範囲は確定できないが，外面口縁部と坏部内面は黒色処理(漆)されていたと考えられる。色調は内外面共ににぶい黄橙色～褐灰色である。焼成は良好である。胎土は精緻で，スコリア粒が少量含まれる。内面はナデ後ミガキ，外面はヘラケズリ後ミガキ調整である。3は土師器椀で，口縁部～胴部の1/6の遺存である。色調は内面がにぶい黄橙色，外面がにぶい黄橙色～褐灰色である。胎土には白色微砂粒・砂礫が含まれる。内面はヘラナデ，外面はヘラケズリ後ナデ調整である。内面口縁部下位にはしっかりとした稜が作り出される。4は土師器甕で，口縁部～胴部上半の3/4の遺存である。色調は内面は黒色，外面は赤褐色～黒色である。胎土には白色砂粒が多量に含まれる。内面はナデ，外面はヘラケズリ調整である。内外面共に2次被熱により器面の剥落が著しい。5・6は土製支脚である。色調はにぶい橙色である。5は胎土に金雲母細粒が含まれ，緻密で重い。表面はなめらかであるが，内面はやや軟質である。表面にスサ痕が残る。6は胎土に白色微砂粒が多量に含まれ，砂っぽい。内面はやや軟質である。7は凝灰岩製の砥石である。上下面と側面が使用される。特に側面がなめらかである。重量は123.43ｇである。

ＳＩ－０３６（第76図，図版22・26・71）

4C-58グリッド周辺に位置する。平面形は方形で，規模は主軸長4.86ｍ・幅4.8ｍである。主軸はN-12°-Eである。北はSI-035，南はSI-016，西壁付近は後世の溝SD-012により切られている。掘り込みは確認面から平均15㎝である。北壁中央に付設されていたと考えられるが，カマドは完全に削平されて遺存しない。主柱穴ピットは3基確認されたが，もう1基はSI-035により削平される。入口ピットが1基確認された。床面には中心部で硬化面が確認された。壁周溝は切り合う部分以外全周している。東壁周溝の形状が不整形なのは後世の溝の影響である。壁周溝の平均的な規模は幅9㎝・床面からの深さ7㎝である。

遺物はあまり多く出土していない。1～3は土師器坏である。1は全体の1/4の遺存である。色調は内面がにぶい橙色，外面がにぶい黄橙色～黒色である。内外面共に黒色処理(漆)されていたと考えられる。胎土には白色砂粒・スコリアが含まれる。口縁部はヨコナデ後ミガキ，内面は丁寧なミガキ，外面はヘラケズリ後粗いミガキ調整である。2は全体の1/8の遺存である。口縁下部外面に段を有し，内面も筋状に線が入る。内面はにぶい黄橙色，外面はにぶい黄橙色～橙色である。スコリア粒が含まれる。口縁部はヨコナデ後ミガキ，内面はミガキ，外面はヘラケズリ後部分的にミガキ調整である。3は全体の1/8の遺存である。内面は炭素吸着による黒色処理で黒色，外面は漆による処理によりにぶい褐色～黒褐色である。黒色処理で2種類の処理方法が施され，この遺跡では特殊である。胎土には白色砂粒・スコリア粒が含まれる。口縁部はヨコナデ後ミガキ，内面は丁寧なミガキ，外面はヘラケズリ後ミガキ調整である。4は土師器高坏で，坏部の1/3の遺存である。外面が赤彩で，にぶい橙色～橙色，内面は黒色処理(炭)され，黒色である。胎土には白色砂粒が多量に含まれる。口縁部は丁寧なヨコナデ，内面はミガキ，外面はヘラケ

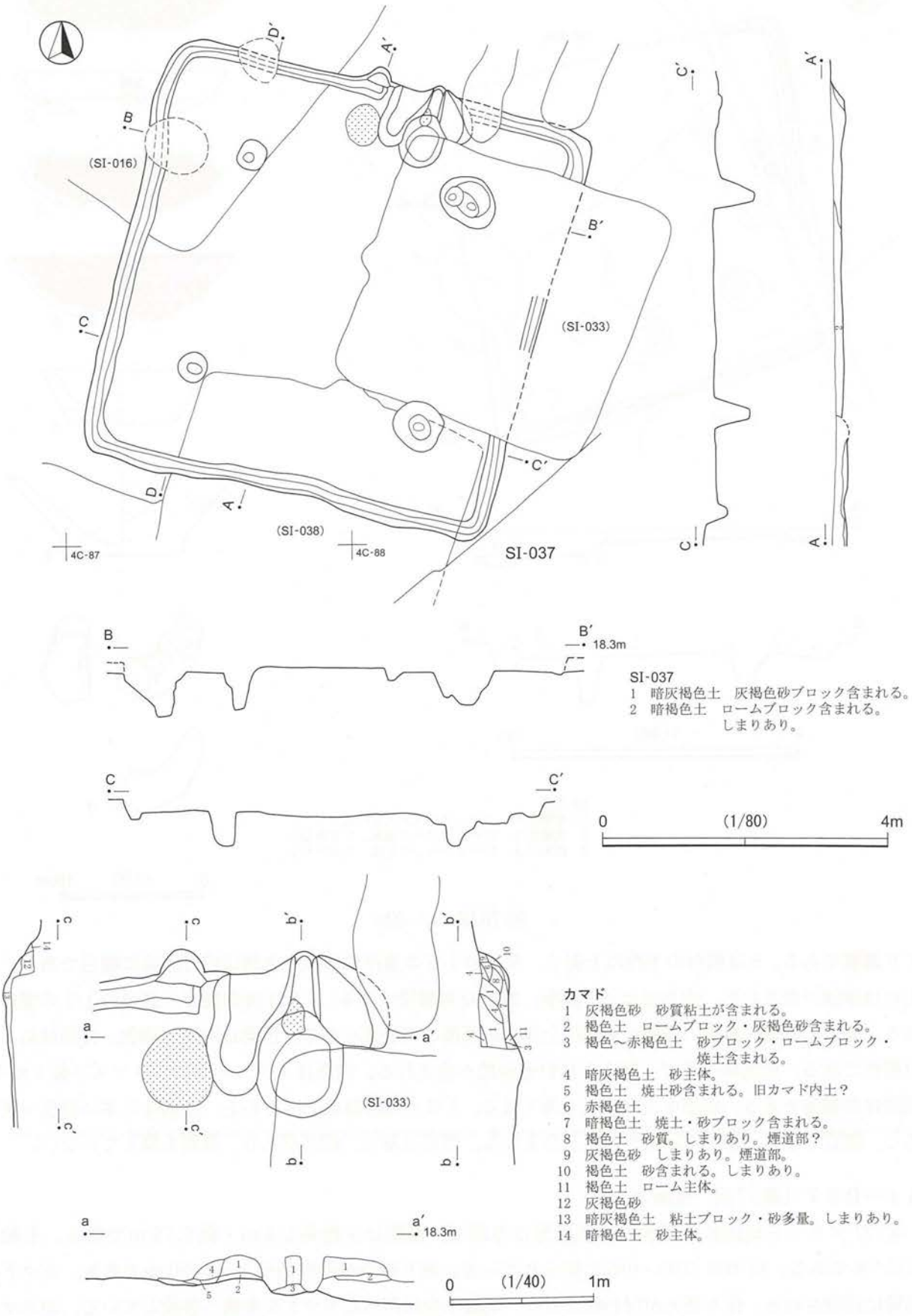


第 76 図　SI-036

ズリ調整である。5 は椀形の手捏ね土器で，全体の 1/6 の遺存である。色調は内外面共に橙色である。胎土には砂礫が含まれる。内外面はナデ調整，底面は無調整である。6 は土師器甕で，底部の 1/2 の遺存である。胎土・焼成・調整の特徴から弥生土器壺の底部の可能性もある。色調は内面が橙色，外面はにぶい黄橙色である。焼成は不良で，胎土には白色砂粒が含まれる。内面はナデ，外面はヘラケズリ後ミガキ，底面は無調整である。底部中央はかなり薄くなる。7 は土師器甑の把手である。色調はにぶい橙色～灰褐色で，硬質である。胎土には白色砂粒が含まれる。整形は雑で，凹凸があり，器面を整えていない。

ＳＩ－０３７（第 77 図，図版 26）

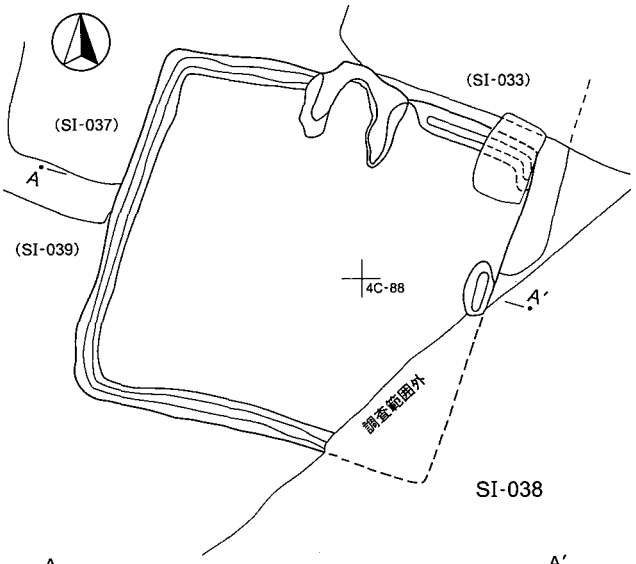
4C-77 グリッド周辺に位置する。平面形は方形で，規模は主軸長 5.8 m・幅 5.75 m である。主軸は N-15°-E である。SI-038・033・016 に切られている。掘り込みは確認面から平均 20 ㎝である。カマドは北壁に付設される。作り替えが行われており，北壁中央に作ったカマドを東隣へ移設している。旧カマド



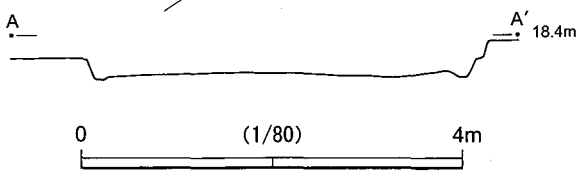
SI-037
1 暗灰褐色土 灰褐色砂ブロック含まれる。
2 暗褐色土 ロームブロック含まれる。しまりあり。

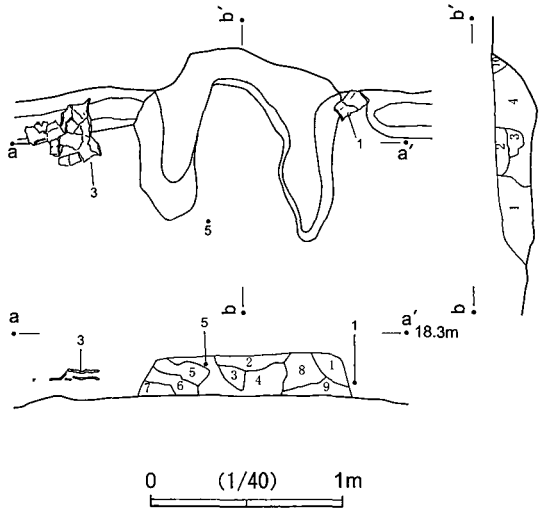
カマド
1 灰褐色砂 砂質粘土が含まれる。
2 褐色土 ロームブロック・灰褐色砂含まれる。
3 褐色～赤褐色土 砂ブロック・ロームブロック・焼土含まれる。
4 暗灰褐色土 砂主体。
5 褐色土 焼土砂含まれる。旧カマド内土?
6 赤褐色土
7 暗褐色土 焼土・砂ブロック含まれる。
8 褐色土 砂質。しまりあり。煙道部?
9 灰褐色砂 しまりあり。煙道部。
10 褐色土 砂含まれる。しまりあり。
11 褐色土 ローム主体。
12 灰褐色砂
13 暗灰褐色土 粘土ブロック・砂多量。しまりあり。
14 暗褐色土 砂主体。

第77図 SI-037

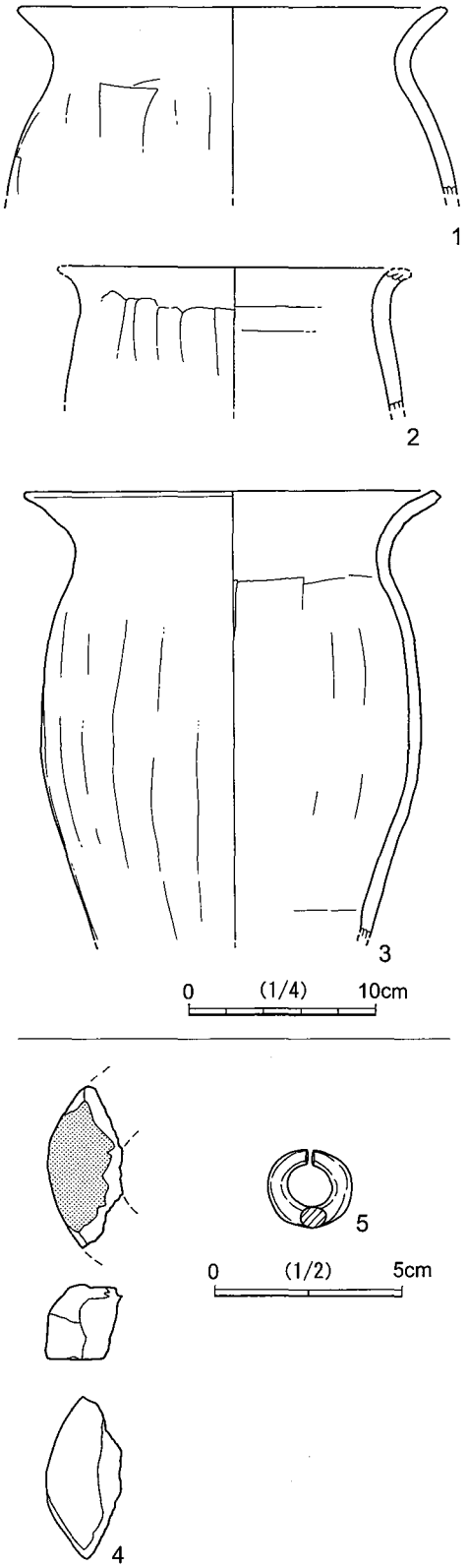


SI-038





カマド
1 黒褐色土　ローム小ブロック含まれる。
2 灰白色砂
3 赤褐色焼土
4 黒褐色土　焼土粒子含まれる。
5 赤褐色焼土　カマド内壁。
6 黒褐色土　ローム小ブロック・灰白色砂含まれる。
7 黒褐色土　しまりあり。
8 黒褐色砂　粘土・砂含まれる。しまり強い。
9 黒褐色土　ロームブロック・黄褐色土含まれる。しまり強い。
10 赤褐色焼砂塊　硬質。



第78図　SI-038

は煙道の壁面への掘り込みと火焼面が確認できる。新カマドは右袖がSI-033により半分削平される。主柱穴ピットは4基確認され，しっかりと掘り込まれている。壁周溝は切り合う部分以外は全周し，平均的な規模は幅10㎝・床面からの深さ10㎝である。なお，出土遺物は少なく，実測可能な遺物はなかった。

ＳＩ－０３８（第78図，図版26・27・31・71・72）

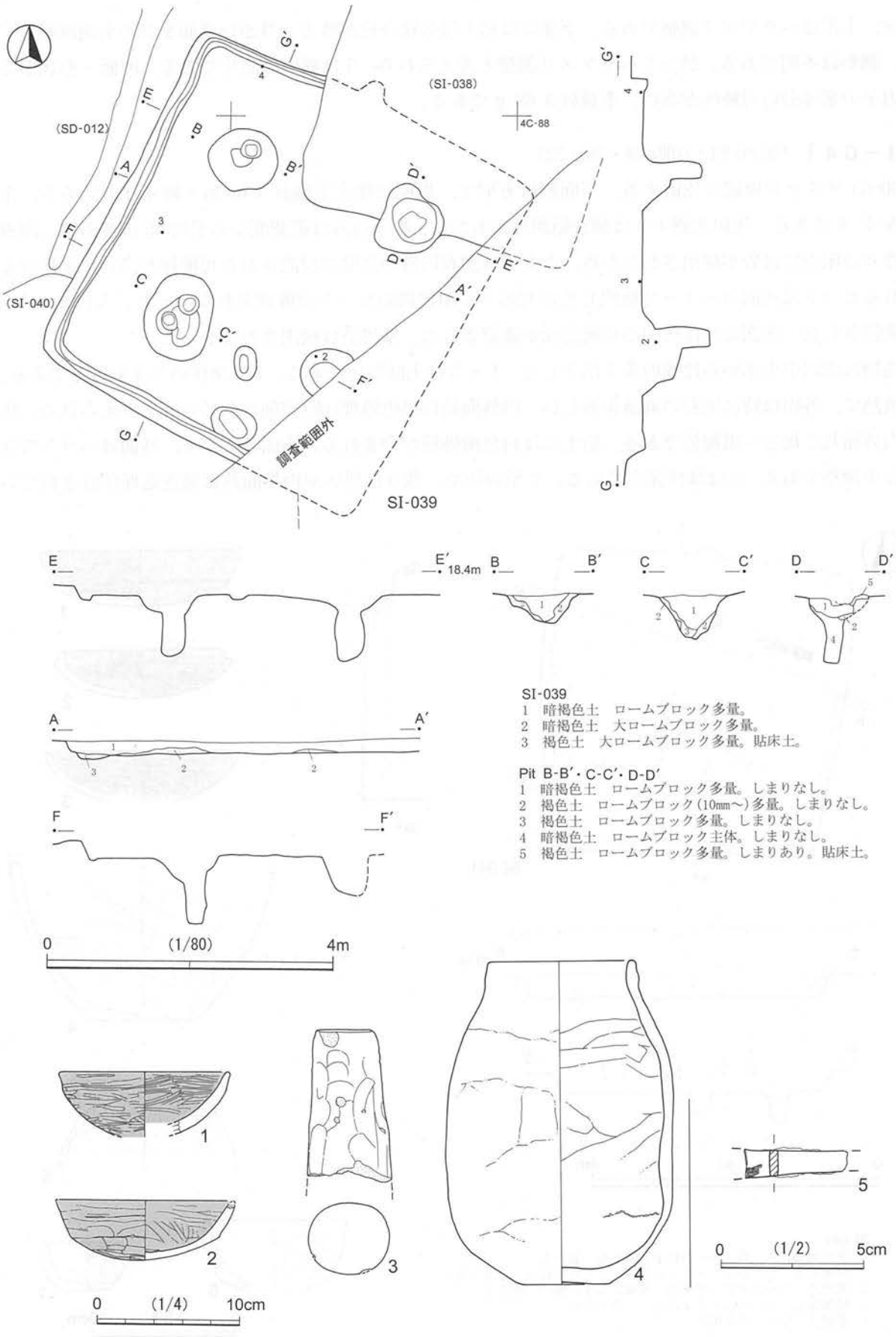
4C-77グリッド周辺に位置する。南東部コーナーは調査範囲外にあたる。平面形は方形で，規模は主軸長3.71ｍ・幅3.91ｍである。主軸はN-17°-Eである。SI-039・SI-037を切って構築される。掘り込みは確認面から平均10㎝である。カマドは北壁中央に付設され，両袖とも遺存は良好である。カマド周辺からは耳環や甕がつぶれた状態で出土した。床面からはピット・硬化面は確認されていない。壁周溝は切り合う部分以外は全周し，平均的な規模は幅10㎝・床面からの深さ5㎝である。

遺物はほとんど出土していない。1～3は土師器甕である。1は口縁部～肩部の1/4の遺存である。色調は内面が橙色，外面が暗赤褐色である。胎土には白色砂粒・雲母粒・砂礫が含まれる。内外面共に器面が摩滅しているため調整は判然としないが，内面はナデ，外面はヘラケズリ調整とみられる。口縁は端部はやや波打ち，頸部の屈曲は緩やかである。2は口縁部～胴部上半の1/6の遺存である。色調は内面が赤灰色，外面が灰褐色である。胎土には白色微砂粒が多く含まれる。内面はナデ，外面はヘラケズリ調整である。口縁頸部の屈曲はほとんどなく，甑の可能性もある。3は口縁部～胴部の3/5の遺存である。色調は内外面共に暗褐色である。胎土には白色砂粒・スコリア・金雲母が多量に含まれる。内面はヘラナデ，外面はヘラケズリ調整である。器壁は全体的に薄い。4は羽口の先端部破片である。実測図上面が羽口先端にあたる。先端にはガラス質の滓が固着する。側面・裏面はすっぱりと切断されたようになっているため，再利用された可能性もある。重量は15.40ｇである。5は銅製の耳環である。カマド直上，住居覆土最上面から出土した。カマドに直接伴うものではない。全面緑青に覆われている。銅芯に金鍍金されていたものと考えられる。SI-026出土のものに比べ一回り大きく，重量もある。重量は10.78ｇである。

ＳＩ－０３９（第79図，図版27・31・72）

4C-87グリッド周辺に位置する。南東コーナーは調査範囲外にあたる。平面形は方形で，規模は主軸長5.13ｍ・幅推定4.45ｍである。主軸はN-23°-Eである。SI-038によって切られている。掘り込みは確認面から平均20㎝である。カマドは北壁に付設されていたと考えられるが，火焼面も含め完全に削平されている。主柱穴ピットは4基確認され，しっかりと掘り込まれている。また，入口付近には2基のピットが確認された。南壁のピットの深さは12㎝である。壁周溝は切り合う部分以外は全周し，平均的な規模は幅7㎝・床面からの深さ5㎝である。

1・2は土師器坏である。1は全体の1/5の遺存である。色調は内面が黒色処理(漆)で，にぶい橙色，外面が炭素吸着による黒色処理で黒色である。胎土には白色砂粒･スコリアが含まれる。内面は丁寧なミガキ，外面はヘラケズリ後ミガキ調整である。2は全体の2/3の遺存である。内外面共に黒色処理(漆)されていたものと考えられる。色調は灰褐色である。胎土には白色砂粒が多く含まれる。口縁部はヨコナデ後ミガキ，内面はナデ後ミガキ，外面はヘラケズリ後ミガキ調整である。内面はヘラナデ痕が明瞭に残る。3は土製支脚である。色調はにぶい橙色である。胎土には白色微砂粒が多く含まれ，砂っぽい。上面は平滑である。表面はなめらかで，内面はやや軟質である。4は土師器の特殊甕で全体の4/5の遺存である。口縁部は胴部より径が小さくなり，直線的に立ち上がる。胎土には白色砂粒が多量に含まれる。内面は下部が


(SD-012)
(SI-038)
4C-88
(SI-040)
調査範囲外
SI-039
E
E′ 18.4m
B
B′
C
C′
D
D′
A
A′
F
F′
0 (1/80) 4m
SI-039
1 暗褐色土 ロームブロック多量。
2 暗褐色土 大ロームブロック多量。
3 褐色土 大ロームブロック多量。貼床土。
Pit B-B′・C-C′・D-D′
1 暗褐色土 ロームブロック多量。しまりなし。
2 褐色土 ロームブロック(10㎜～)多量。しまりなし。
3 褐色土 ロームブロック多量。しまりなし。
4 暗褐色土 ロームブロック主体。しまりなし。
5 褐色土 ロームブロック多量。しまりあり。貼床土。
1
2
3
4
5
0 (1/4) 10cm
0 (1/2) 5cm

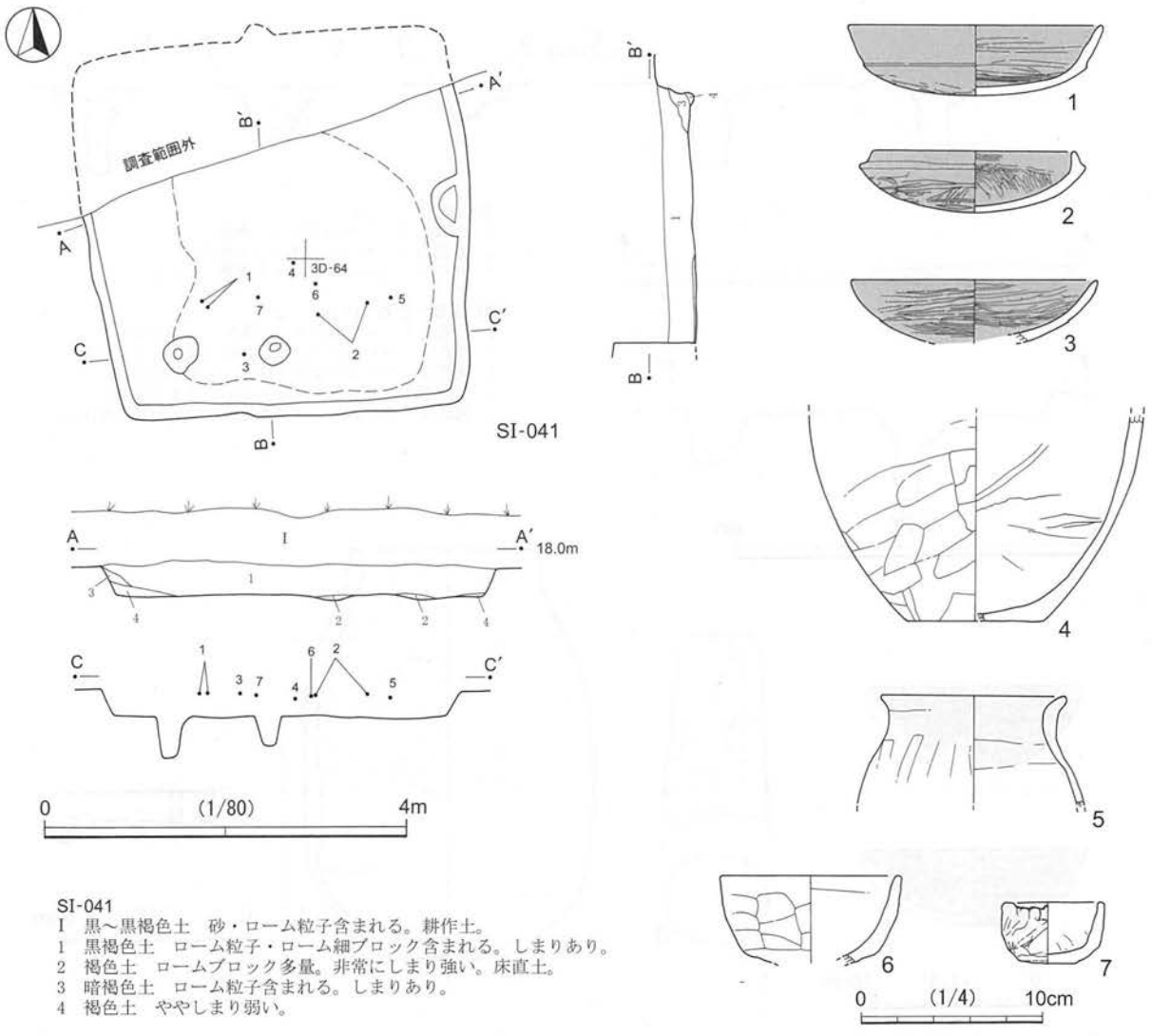
第79図 SI-039

ナデ，上部はヘラケズリ調整である。下部には粘土紐の接合痕が残る。外面は底面を含め全面摩滅しており，調整は不明である。恐らくヘラケズリ調整と考えられる。5は鉄器の破片である。断面・形状からみて刀子の茎部分の可能性が高い。重量は3.68 gである。

ＳＩ－０４１（第80図，図版28・29・72）

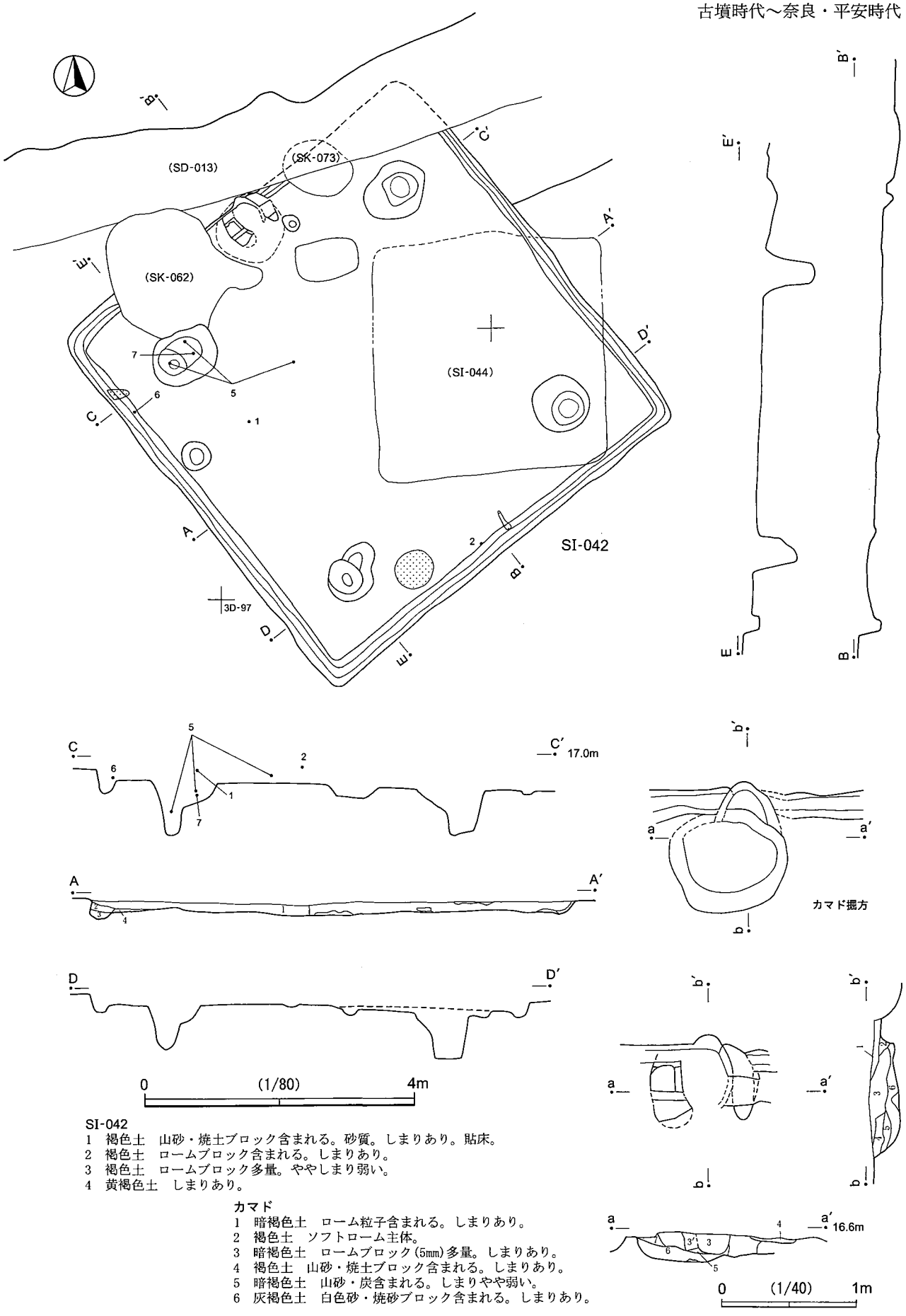
3D-63グリッド周辺に位置する。平面形は方形で，規模は推定主軸長4.08 m・幅4.0 mである。主軸はN-4°-Wである。住居北側1/3は調査範囲外にあたる。掘り込みは確認面から平均35 cmである。調査区壁寄りの床面には砂が検出されたため，カマドは調査区外の北壁に付設された可能性が高い。主柱穴と思われるピットは南西コーナーで検出したが対応する南東側のピットは確認されなかった。入口ピットは1基確認された。床面には住居中心に硬化面が確認された。壁周溝は検出されなかった。

遺物は住居中央部から比較的多く出土した。1～3は土師器坏である。1は全体の3/4の遺存である。2次被熱で，外面は特に器面の剥落が著しい。内外面共に黒色処理(漆)が施されていたと考えられる。色調は内外面共に褐色～黒褐色である。胎土には白色微砂粒が含まれる。内面はミガキ，外面はヘラケズリ後ミガキ調整である。2はほぼ完形である。小型の坏で，残りは悪いが内外面共に黒色処理(漆)されていた



SI-041
I　黒～黒褐色土　砂・ローム粒子含まれる。耕作土。
1　黒褐色土　ローム粒子・ローム細ブロック含まれる。しまりあり。
2　褐色土　ロームブロック多量。非常にしまり強い。床直土。
3　暗褐色土　ローム粒子含まれる。しまりあり。
4　褐色土　ややしまり弱い。

第80図　SI-041



SI-042
1 褐色土　山砂・焼土ブロック含まれる。砂質。しまりあり。貼床。
2 褐色土　ロームブロック含まれる。しまりあり。
3 褐色土　ロームブロック多量。ややしまり弱い。
4 黄褐色土　しまりあり。

カマド
1 暗褐色土　ローム粒子含まれる。しまりあり。
2 褐色土　ソフトローム主体。
3 暗褐色土　ロームブロック(5mm)多量。しまりあり。
4 褐色土　山砂・焼土ブロック含まれる。しまりあり。
5 暗褐色土　山砂・炭含まれる。しまりやや弱い。
6 灰褐色土　白色砂・焼砂ブロック含まれる。しまりあり。

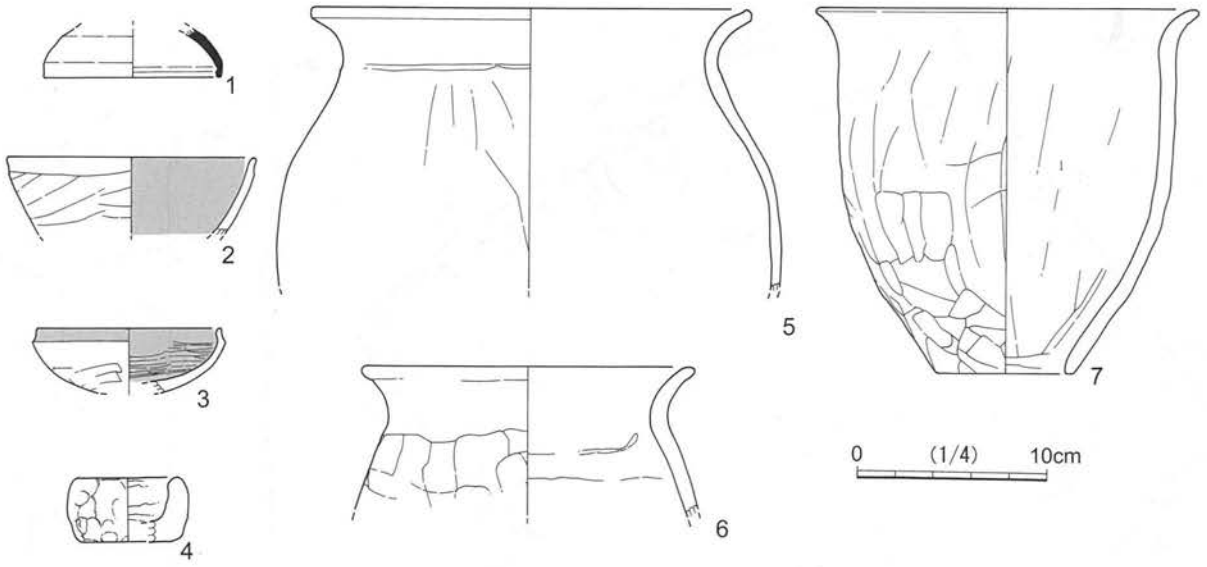
第81図　SI-042(1)

と考えられる。色調は内外面共ににぶい橙色～黒褐色である。胎土は精緻で，スコリア粒が含まれる。口縁部はヨコナデ後ミガキ，内面は丁寧なミガキ，外面はヘラケズリ後ミガキ調整である。底面は使用に伴う摩滅がみられる。3は口縁部～体部の1/4の遺存である。特に内面の残りが悪いが内外面共に黒色処理(漆)されていたと考えられる。色調は内外面共ににぶい黄褐色である。焼成はやや不良で，胎土は精緻で，スコリア粒が含まれる。内外面共に丁寧なミガキ調整である。外面は口縁下部にミガキにより，やや低い段差がみられる。4・5は土師器甕である。4は底部～胴部下半の1/3の遺存である。色調は内面がにぶい橙色，外面がにぶい褐色である。胎土には白色微砂粒・スコリア粒が含まれる。内面はナデ，外面はヘラケズリで一部ミガキ，底面はヘラケズリ調整である。底部内面はほとんど剥落している。5は口縁部～胴部上半の遺存である。口縁部は短く，弱く外反する。2次被熱により外面の剥落が著しい。色調は内面が黒色，外面がにぶい橙色～黒色である。胎土には白色砂粒が含まれる。胴部は内面がナデ，外面はヘラケズリ調整である。6は土師器鉢，全体の1/3の遺存である。色調は内外面共ににぶい赤褐色～黒褐色である。胎土には白色微砂粒が含まれる。内面は丁寧なナデ，外面口縁はヨコナデ，胴部は粗い横方向のヘラケズリ調整である。底面は平らではなく，中央がやや膨らむ形にヘラケズリ調整が行われる。7はミニチュア土器の椀形である。色調は内外面共に橙色～灰褐色である。胎土には白色微砂粒が含まれる。外面には粘土紐接合痕が部分的にみられる。底面は平底を意識し，内外面は雑なナデつけである。

ＳＩ－０４２（第81・82図，図版29・72・73）

3D-87グリッド周辺に位置する。平面形は方形で，規模は主軸長6.44ｍ・幅6.35ｍの比較的大型の住居跡である。主軸はN-38°-Wである。SI-044によって北東壁，SK-62・073・SD-013によって北西壁が切られている。掘り込みは確認面から平均10㎝である。カマドは北西壁中央に付設される。旧カマドを壊し，埋めて作り直していた。旧カマドの火焼部は深く，掘り込まれている。覆土には焼土が含まれ，壁際から薄い焼土ブロックが確認された。主柱穴ピットは4基確認され，しっかりと掘り込まれている。その他に南西壁沿いに1基ピット(深20㎝)が検出された。壁周溝はカマド部も含めて全周して掘られていた。壁周溝の平均的な規模は幅10㎝・床面からの深さ14㎝としっかりと掘り込まれている。

1は須恵器蓋で，口縁部～体部の1/5の遺存である。外面にはゴマ降り状の自然釉が付着する。色調は外面が黒色，内面が灰色である。硬質である。胎土は緻密で，白色微砂粒が微量含まれる。器面には所々黒い吹き出しがみられる。口縁内部には沈線上に筋が残される。2・3は土師器坏である。2は口縁部～体部の1/4の遺存である。内面のみ黒色処理(漆)されていると考えられる。色調は内面がにぶい赤褐色，外面はにぶい橙色である。胎土には白色微砂粒が含まれる。内面はミガキ，外面は口縁部がヨコナデ，体部はヘラケズリ調整である。3は全体の1/2の遺存である。内面は全面黒色処理(漆)，外面は口縁部のみ確認でき，体部は摩滅していて断定できない。色調は内面がにぶい褐色，外面が橙色～褐灰色である。焼成はやや不良であるが，胎土は精緻で，混入物が少ない。内面はミガキ，外面はヘラケズリ調整である。4は手捏ね土器である。全体の1/4の遺存である。色調は内面がにぶい褐色～褐灰色，外面が灰褐色である。焼成は不良で，胎土には白色微砂粒が含まれる。内外面共に雑なナデ調整で，底面は無調整である。5・6は土師器甕である。5は口縁部～胴部上半の1/6の遺存である。色調は内面が橙色～褐灰色，外面が橙色～黒色である。胎土には砂礫・雲母が多量に含まれる。内面は丁寧なナデ，外面はヘラケズリ後ナデ調整である。内面頸部付近の器面に褐色物質が付着する。6は口縁部～肩部の1/3の遺存である。色調は内外



第 82 図　SI-042 (2)

面共に明褐色である。胎土には白色微砂粒が含まれる。内面はナデ，外面はヘラケズリ調整である。7 は土師器甕で，全体の 1/4 の遺存である。色調は内面が明褐色，外面がにぶい褐色～黒色である。胎土には白色砂粒・スコリア粒が多く含まれる。内面は丁寧なナデ後ミガキ，外面はヘラケズリ調整である。

他に遺構に伴うかどうかは判断付かないが，炭化した種子(桃？)が 3 点出土した。大きさはほぼ同じで約長 22 ㎜・幅 17 ㎜である。

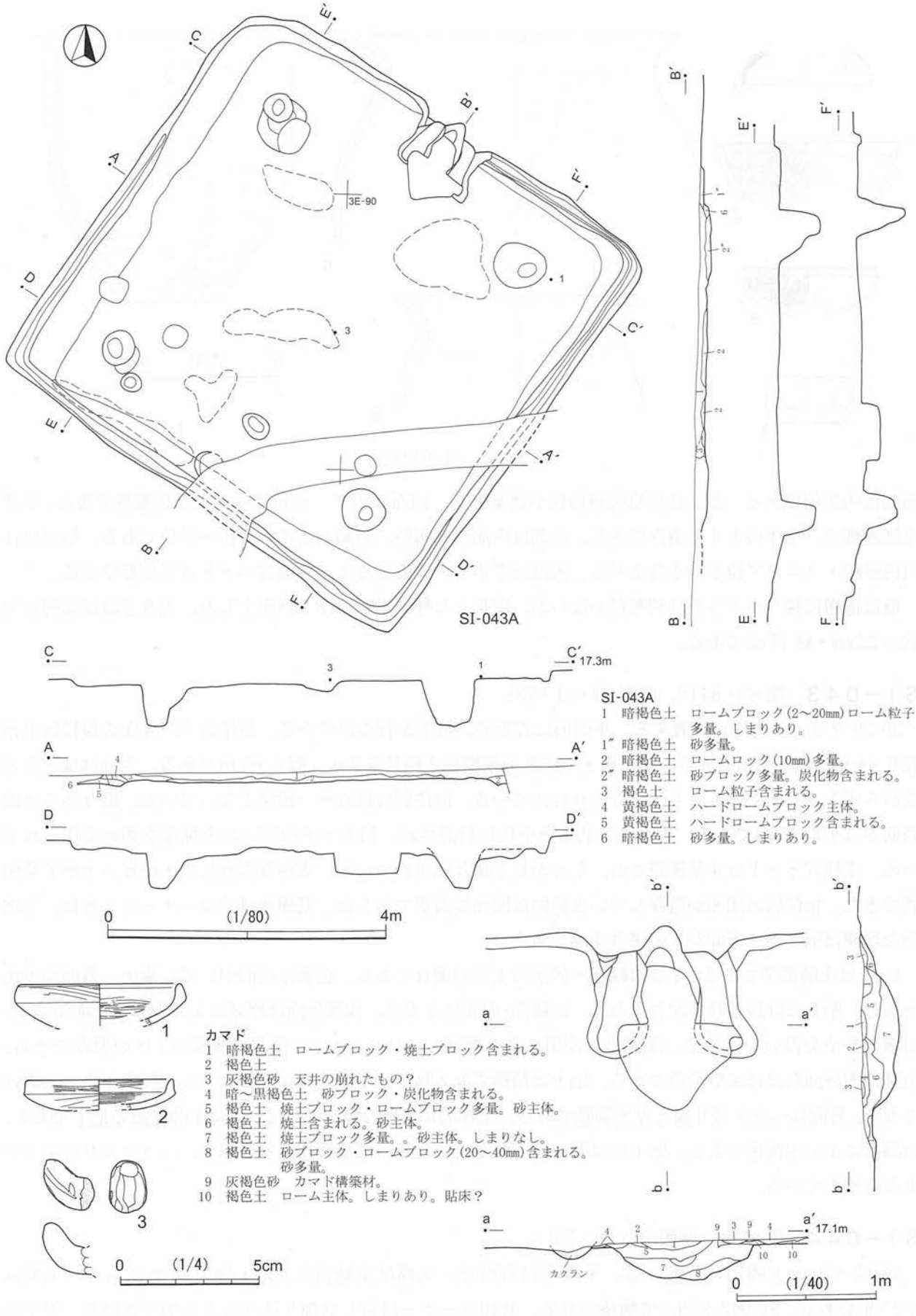
ＳＩ－０４３（第 83・84 図，図版 30・31・73）

3D-99 グリッド周辺に位置する。平面形は方形で，拡張が行われている。新住居 SI-043A の規模は主軸長 6.48 m・幅 6.7 mである。旧住居 SI-043B の規模は主軸長 5.7 m・幅 5.65 mである。主軸はほとんど変わらず N-32°-E である。主柱穴も作り替えている。旧住居は掘方が一段深くなっていた。掘り込みは確認面から平均 15 ㎝である。カマドは北東壁中央に付設され，旧カマドの凹んだ火焼部を埋めて作られている。主柱穴ピットは 4 基確認され，しっかりと掘り込まれている。南西壁寄りには入口ピットが 1 基確認できた。新住居の床面が遺存している範囲は図面で波線で示した。壁周溝は北コーナーでとぎれ，平均的な規模は幅 7 ㎝・床面からの深さ 4 ㎝である。

1・2 は土師器坏である。1 は口縁部～体部の 1/5 の遺存である。色調は内面がにぶい褐色，外面が黒色である。胎土には白色砂粒が含まれる。口縁部･内面はミガキ，体部外面は摩滅により調整は不明である。口縁はやや分厚いつくりで，端部は，使用により摩滅している。2 は口縁部～体部の 1/8 の遺存である。色調は内外面共ににぶい橙色である。胎土は精緻で混入物は少ない。口縁部はヨコナデ後ミガキ，内面はミガキ，外面はヘラケズリ後ミガキ調整である。全体的に丁寧な整形である。3 は土師器甑の把手である。色調はにぶい赤褐色である。胎土には微砂粒が多く含まれる。整形は比較的丁寧で，ヘラケズリによって丸みを整えている。

ＳＩ－０４４（第 85 図，図版 29・30・73）

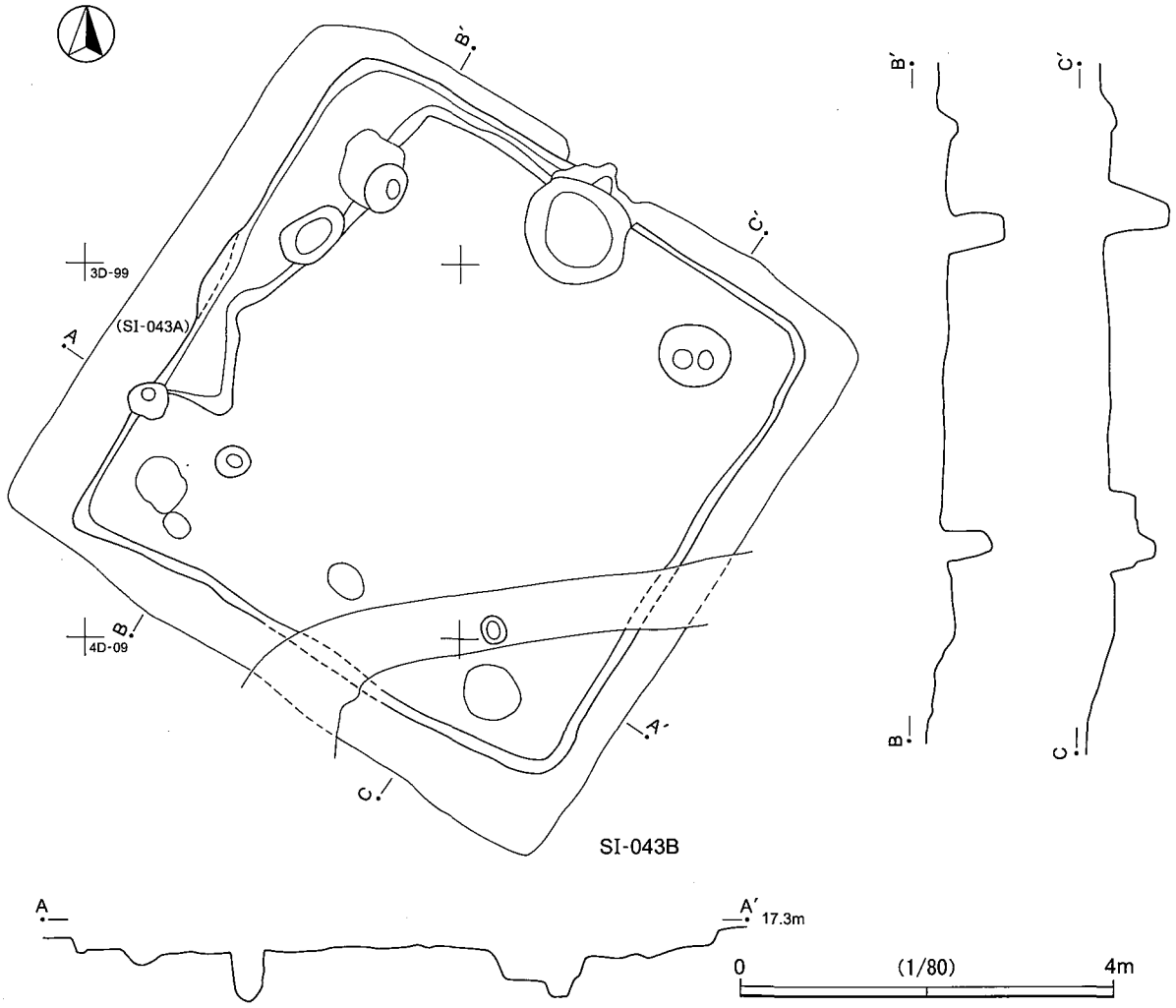
3D-87 グリッド周辺に位置する。平面形は方形で，規模は主軸長 3.3 m・幅 3.28 mである。主軸は N-2°-W である。SI-042 を切って構築される。北西コーナーは新しい掘り込みにより削平される。掘り込



SI-043A
1 暗褐色土 ロームブロック(2～20mm)ローム粒子多量。しまりあり。
1″ 暗褐色土 砂多量。
2 暗褐色土 ロームロック(10mm)多量。
2″ 暗褐色土 砂ブロック多量。炭化物含まれる。
3 褐色土 ローム粒子含まれる。
4 黄褐色土 ハードロームブロック主体。
5 黄褐色土 ハードロームブロック含まれる。
6 暗褐色土 砂多量。しまりあり。

カマド
1 暗褐色土 ロームブロック・焼土ブロック含まれる。
2 褐色土
3 灰褐色砂 天井の崩れたもの？
4 暗～黒褐色土 砂ブロック・炭化物含まれる。
5 褐色土 焼土ブロック・ロームブロック多量。砂主体。
6 褐色土 焼土含まれる。砂主体。
7 褐色土 焼土ブロック多量。。砂主体。しまりなし。
8 褐色土 砂ブロック・ロームブロック(20～40mm)含まれる。砂多量。
9 灰褐色砂 カマド構築材。
10 褐色土 ローム主体。しまりあり。貼床？

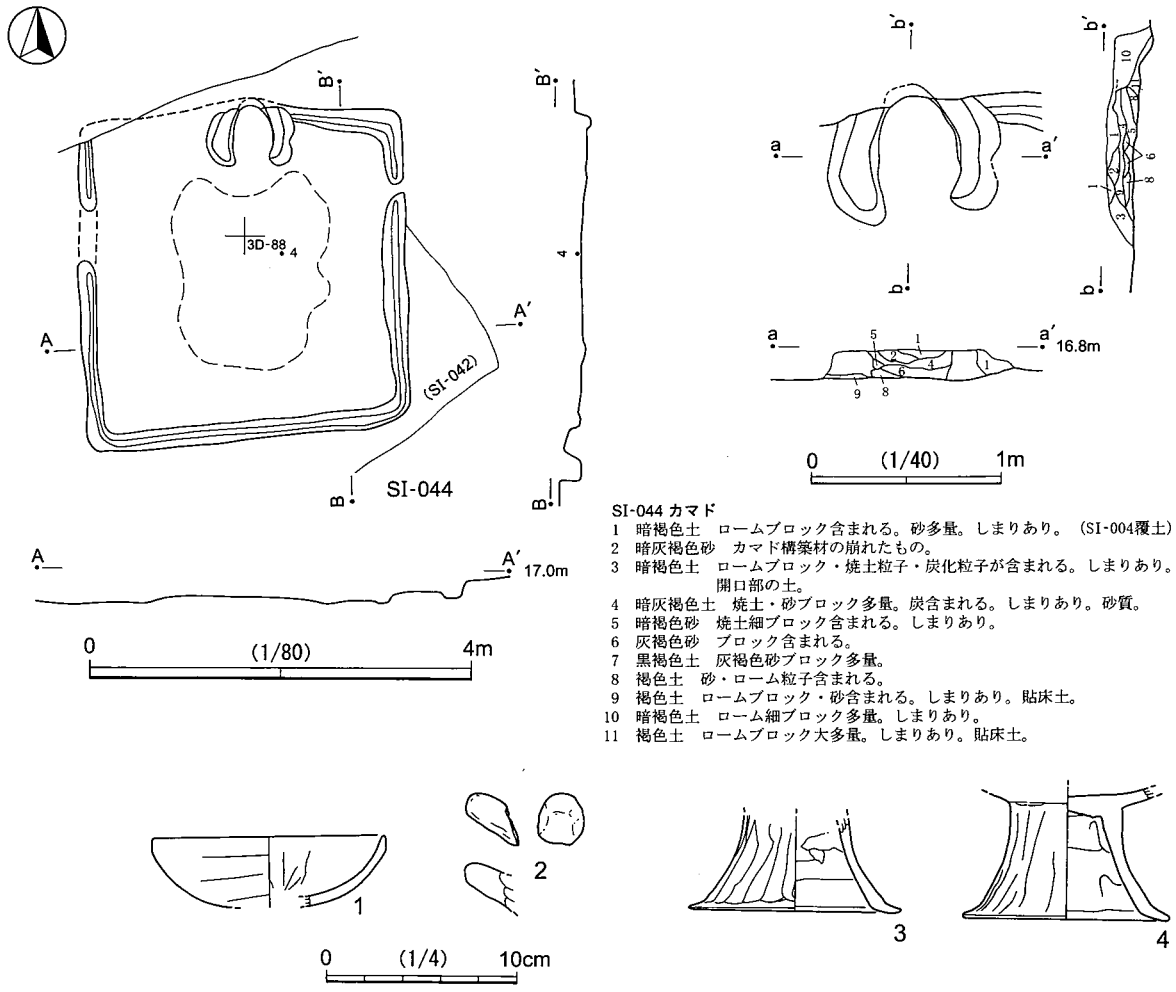
第83図 SI-043A



第84図　SI-043B

みは確認面から平均15㎝である。カマドは北壁中央に付設される。ピットは床面から検出されなかった。床面には中央部において硬化面が確認された。壁周溝は部分的にとぎれるが，ほぼ全周し，平均的な規模は幅6㎝・床面からの深さ3㎝である。

1は土師器坏で，口縁部～体部の1/4の遺存である。色調は内外面赤褐色である。赤彩されているのか胎土自体が表面だけ赤く発色しているのかは，器面が摩滅していて判然としない。焼成はやや不良で，断面は灰色である。胎土は精緻で，混入物は少ない。内面はミガキ，外面はヘラケズリ後ナデとみられる。2は土師器甑の把手部分である。色調は赤褐色で，胎土自体が赤みを帯びる。胎土には白色微砂粒が含まれる。ナデ調整が施されるが，所々凹凸が残る。3･4は土師器高坏である。3は脚部の1/2の遺存である。色調は内外面共ににぶい褐色である。胎土にはスコリア粒が目立つ。裾部はヨコナデ，内面は横方向，外面は縦方向のヘラケズリ調整である。4は脚部の3/4の遺存である。色調は内外面共ににぶい橙色である。焼成はやや不良で，胎土にはスコリア粒が目立つ。裾部はヨコナデ，外面は縦方向のヘラケズリ，脚部内面はヘラケズリ，坏部はミガキ調整である。坏部の脚部内裏面は雑にヘラ状工具でナデつけている。



第85図 SI-044

2 柵列・掘立柱建物跡(第86図)

SA−003(第87図)

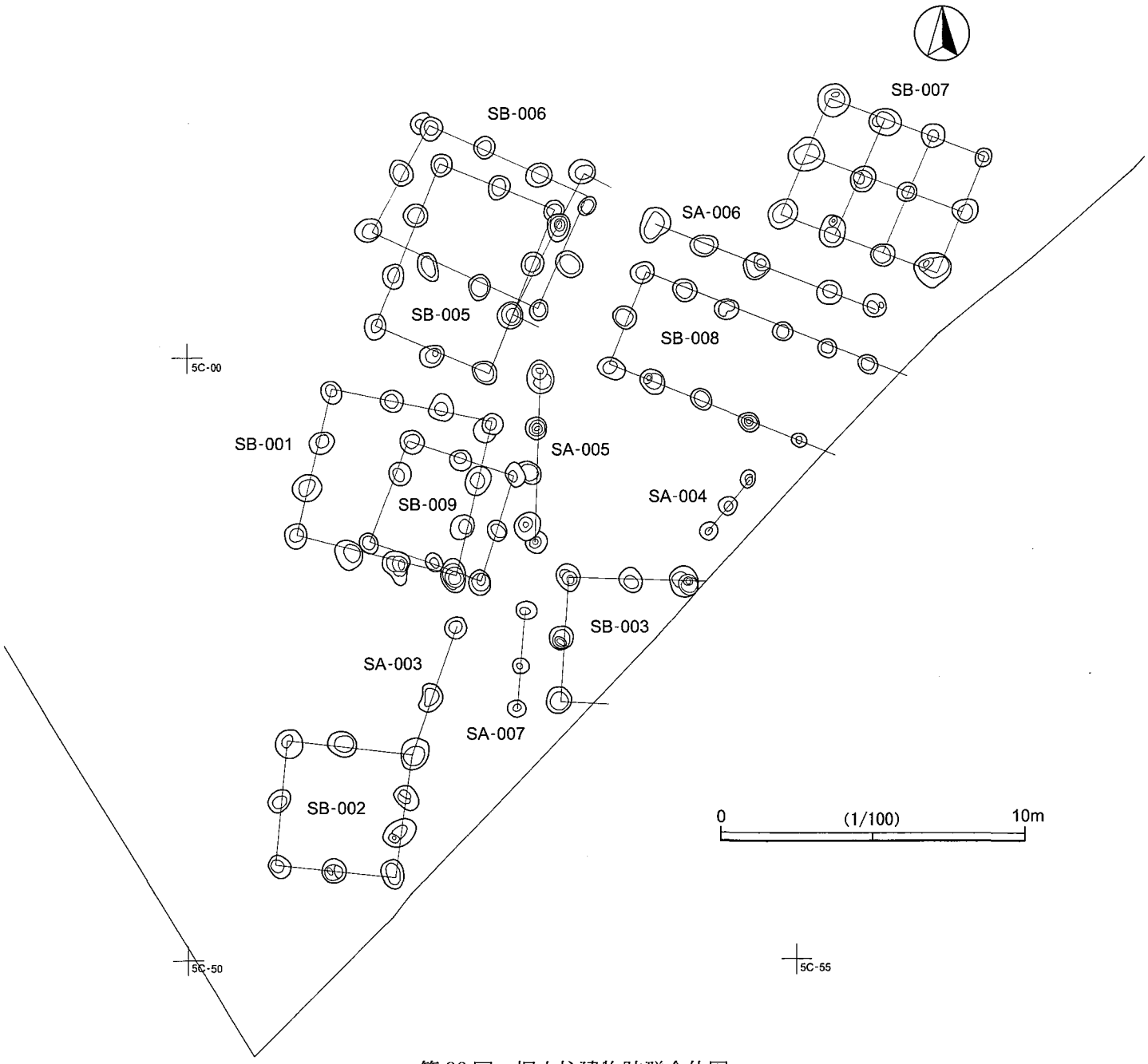
5C-22グリッド周辺に位置する。規模は3基のピットで構成され，4.4m長である。主軸はN-23°-Eである。柱間寸法は2.0m～2.2mで，柱穴直径は0.6～1.0mである。確認面からの掘り込みが浅く，中央に位置するピットは不整形である。

SA−004(第87図)

5C-14グリッド周辺に位置する。規模は3基のピットで構成され，2.2m長で小規模である。主軸はN-38°-Eである。柱間寸法は1.0m～1.2mで，柱穴直径は0.5～0.6mである。北東端のピット以外は確認面からの掘り込みはしっかりしている。

SA−005(第87図)

5C-13グリッド周辺に位置する。規模は4基のピットで構成され，4.7m長である。主軸はN-2°-Eである。柱間寸法は1.5m～1.7mで，柱穴直径は0.6～0.9mである。中央の2基のピットは確認面からの掘り込みが浅く，両端のピットは底面に段を有する。



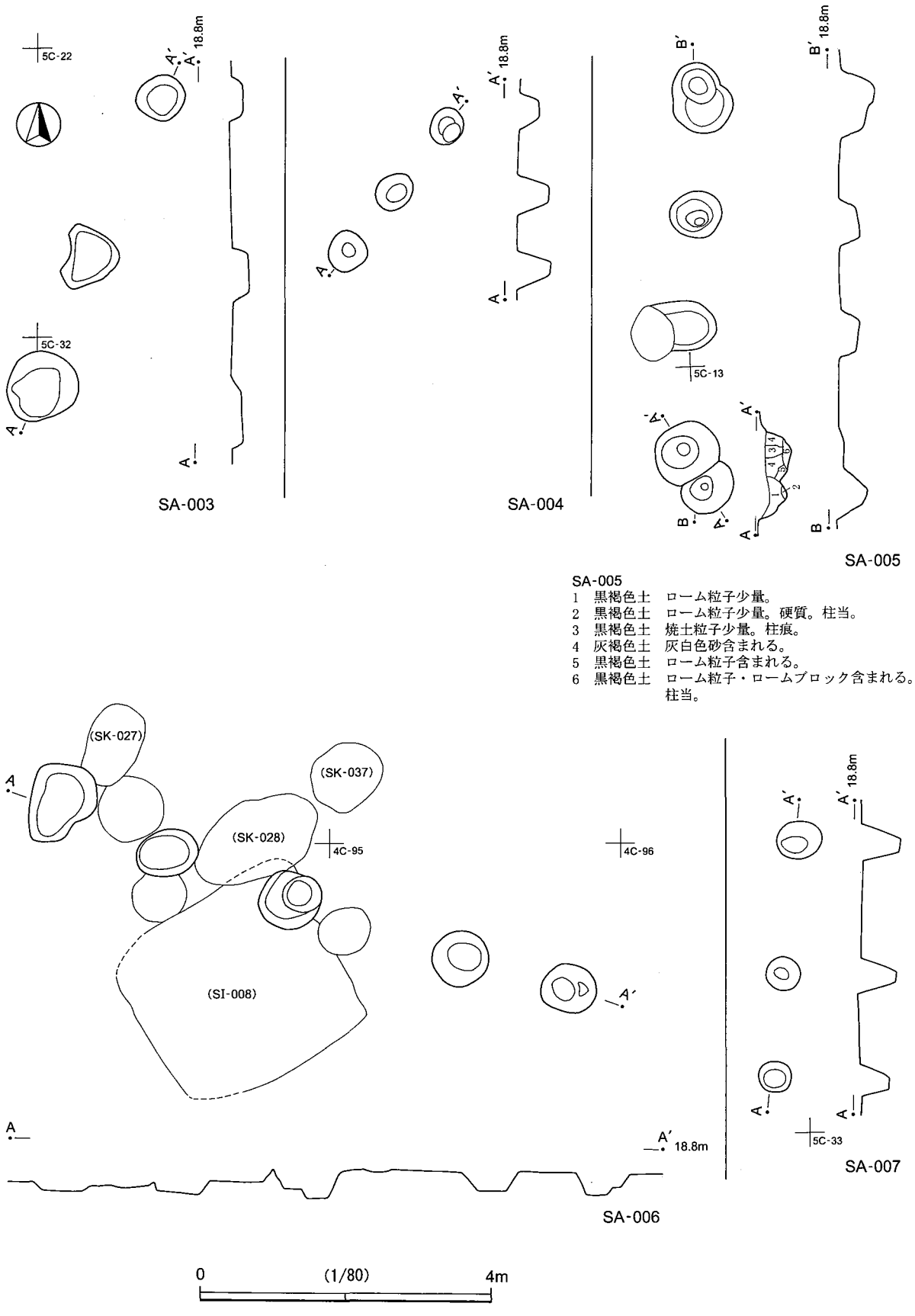
第 86 図　掘立柱建物跡群全体図

ＳＡ－００６（第 87 図）

4C-95 グリッド周辺に位置する。規模は 5 基のピットで構成され，7.4 m長である。主軸は N-69°-W である。柱間寸法は 1.5 m～ 2.4 mで，柱穴直径は 0.7 ～ 0.9 mである。確認面からの掘り込みが全体的に浅い。

ＳＡ－００７（第 87 図）

5C-22 グリッド周辺に位置する。規模は 3 基のピットで構成され，4.4 m長である。主軸は N-23°-E である。柱間寸法は 2.0 m～ 2.2 mで，柱穴直径は 0.6 ～ 1.0 mである。確認面からの掘り込みが浅く，中央に位置するピットは不整形である。



第87図 SA-003～007

ＳＢ－００１（第88図）

5C-01グリッド周辺に位置する。SB-009と重複する。規模は桁行3間×梁間3間で，主軸はN-17°-Eである。桁行の柱列長は5.4m，梁間の柱列長は4.8mである。柱間寸法は1.7m～1.8m，柱穴直径は0.7m～1.0mである。確認面からの掘り込みが比較的しっかりとしており，断面では柱痕が確認された。

ＳＢ－００２（第89図，図版32）

5C-31グリッド周辺に位置する。規模は桁行2（3）間×梁間3間で，主軸はN-8°-Eである。桁行の柱列長は4.2m，梁間の柱列長は4.1mである。柱間寸法は1.3m～2.2m，柱穴直径は0.7m～1.0mである。確認面からの掘り込みが比較的しっかりとしており，一部のピットの断面では柱痕が確認された。

ＳＢ－００３（第89図，図版32）

5C-23グリッド周辺に位置する。規模は桁行2間以上×梁間2間で，主軸はN-5°-Eである。桁行の柱列長は4.0m以上，梁間の柱列長は4.0mである。柱間寸法は2.0m，柱穴直径は0.7m～1.0mである。確認面からの掘り込みが比較的しっかりとしており，断面では柱痕が確認された。

ＳＢ－００４（第90図）

5C-01グリッド周辺に位置する。SB-005・006と重複する。規模は桁行不明×梁間3間で，主軸はN-27°-Eである。桁行の柱列長は不明，梁間の柱列長は5.2mである。柱間寸法は1.6m～1.9m，柱穴直径は0.7m～0.9mである。確認面からの掘り込みが比較的しっかりとしているが，SB-005とピットが重なり，規模・方向など不明な点が多い。

ＳＢ－００５（第90図，図版32）

4C-82グリッド周辺に位置する。SB-004・006と重複する。規模は桁行3間×梁間2間で，主軸はN-22°-Eである。桁行の柱列長は5.8m，梁間の柱列長は4.0mである。柱間寸法は2.1m～1.8m，柱穴直径は0.6m～0.8mである。確認面からの掘り込みが梁間より桁行方向のピットの方が比較的しっかりとしている。

ＳＢ－００６（第90図，図版32）

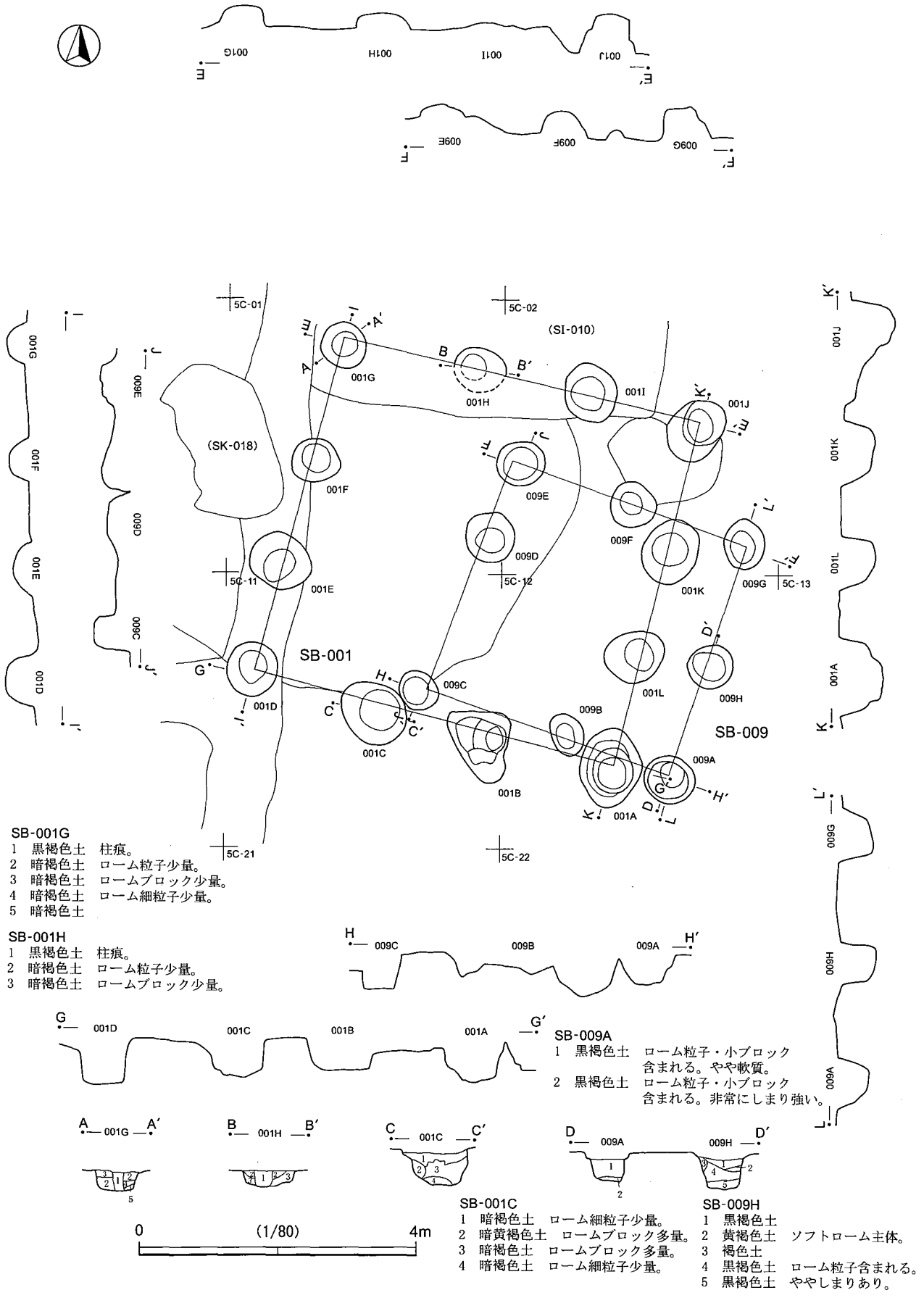
4C-82グリッド周辺に位置する。SB-004・005と重複する。規模は桁行3間×梁間2間で，主軸はN-25°-Eである。桁行の柱列長は6.0m，梁間の柱列長は3.8mである。柱間寸法は2.1m～1.8m，柱穴直径は0.6m～0.8mである。確認面からの掘り込みが比較的しっかりとしており，一部のピットの断面では柱痕が確認された。

ＳＢ－００７（第91図，図版33）

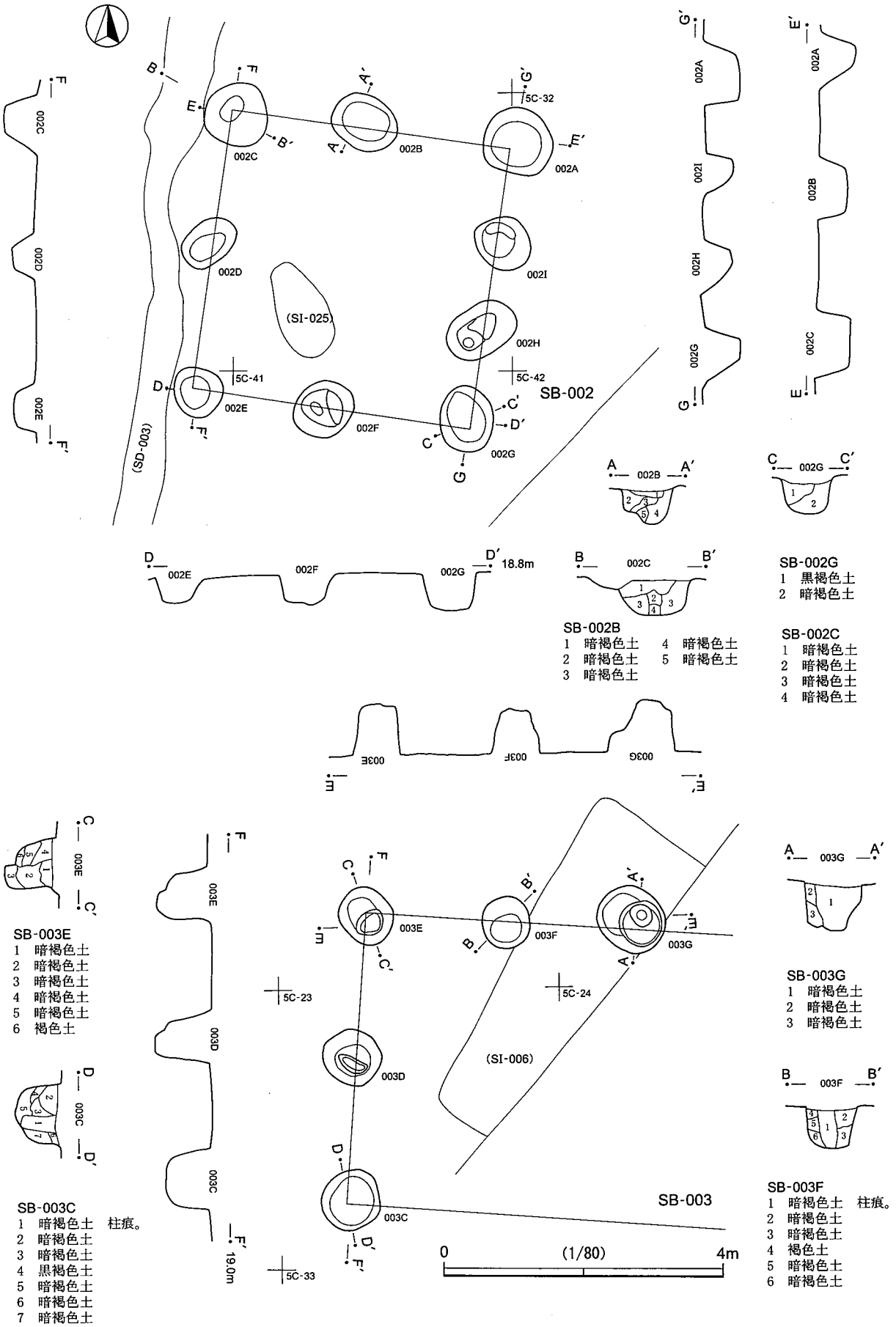
4C-85グリッド周辺に位置する。規模は桁行3間×梁間2間の総柱構造である。主軸はN-23°-Eである。桁行の柱列長は5.4m，梁間の柱列長は4.2mである。柱間寸法は1.8m～2.1m，柱穴直径は0.6m～0.9mである。確認面からの掘り込みが全体的に浅い。

ＳＢ－００８（第92図）

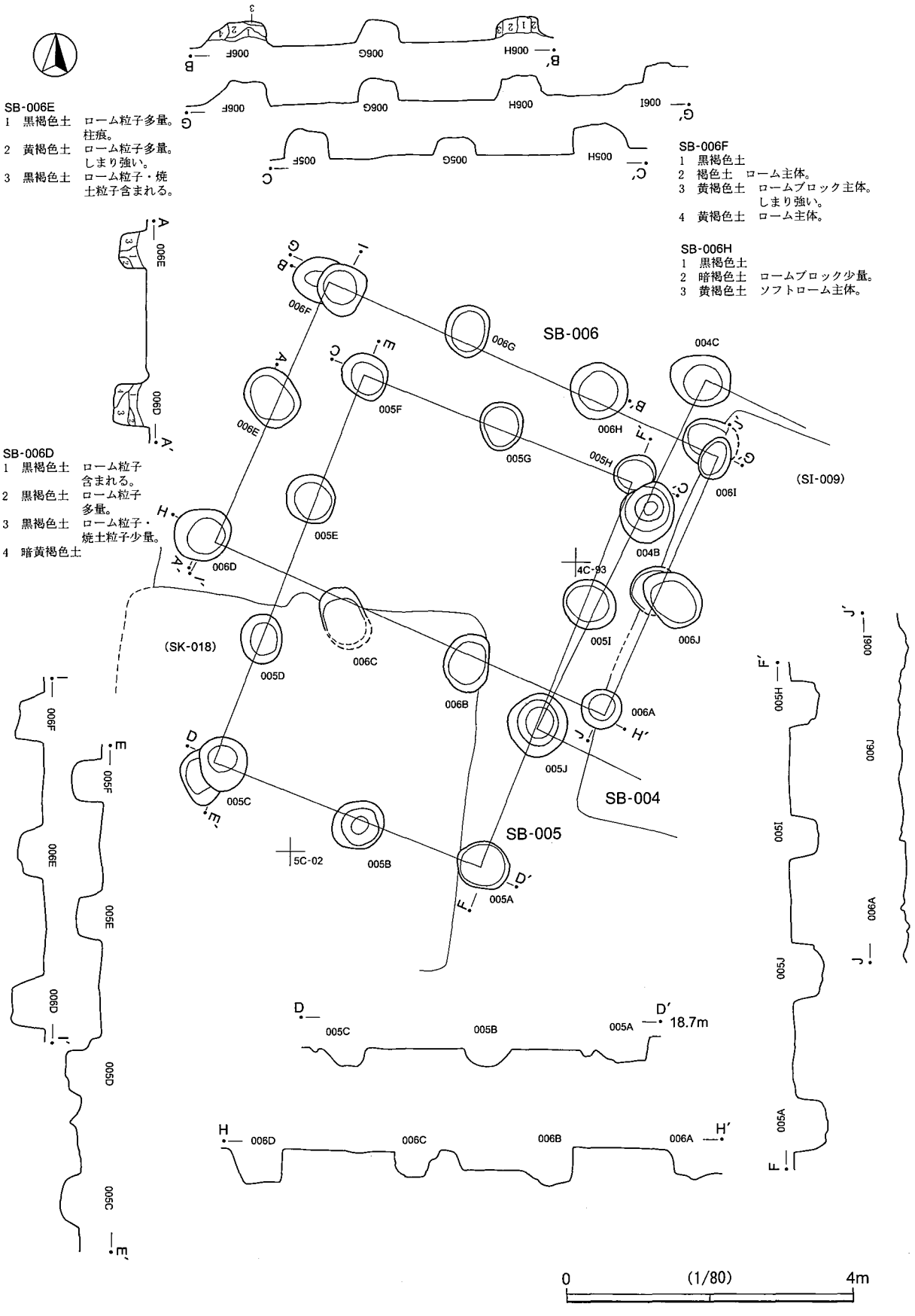
4C-94グリッド周辺に位置する。規模は桁行5間×梁間2間で，主軸はN-23°-Wである。桁行の柱列長は8.0m，梁間の柱列長は3.2mである。柱間寸法は1.6m～2.0m，柱穴直径は0.4m～0.9mである。



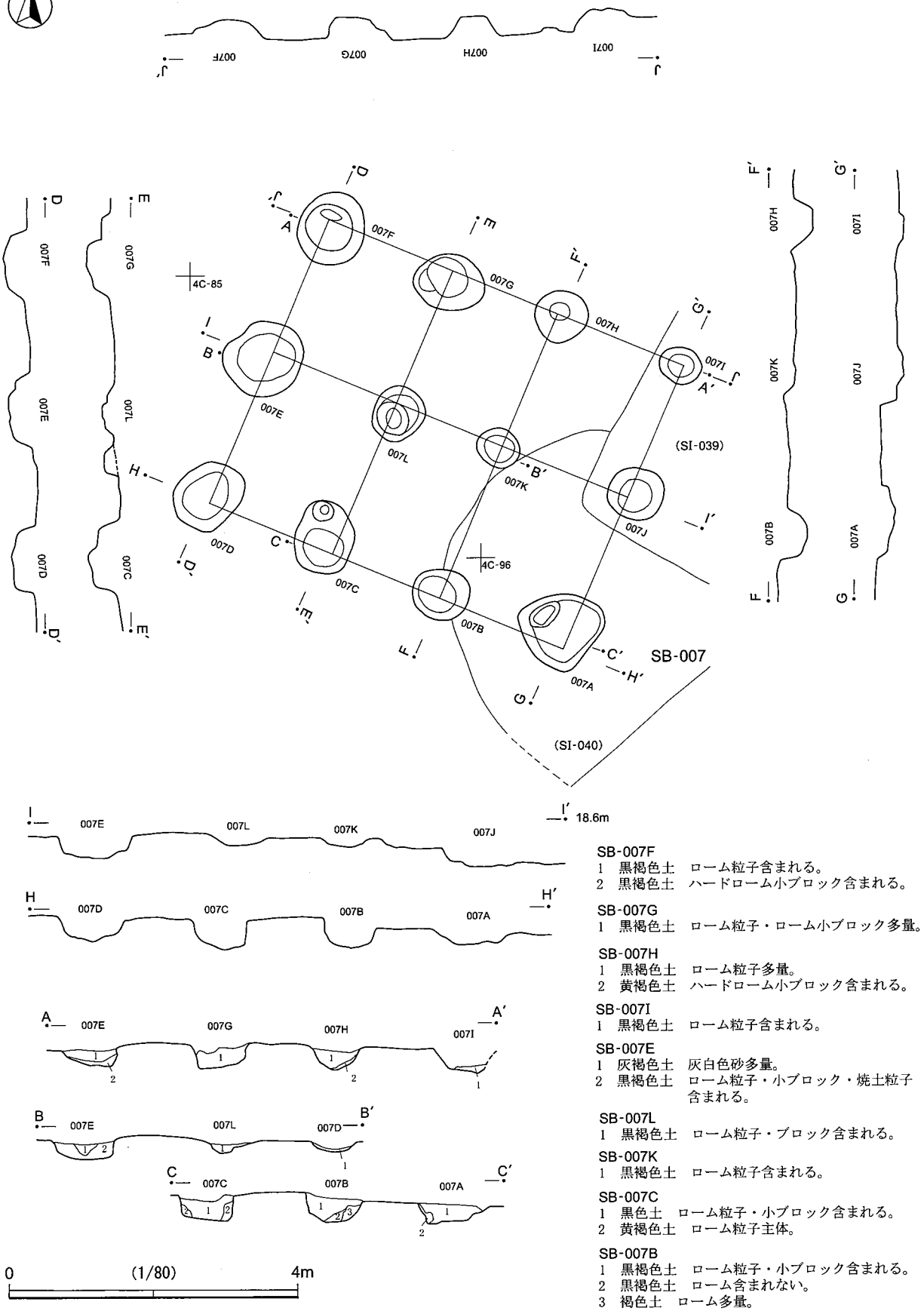
第88図 SB-001・009



第89図 SB-002・003



第90図 SB-004～006



SB-007F
1 黒褐色土　ローム粒子含まれる。
2 黒褐色土　ハードローム小ブロック含まれる。

SB-007G
1 黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック多量。

SB-007H
1 黒褐色土　ローム粒子多量。
2 黄褐色土　ハードローム小ブロック含まれる。

SB-007I
1 黒褐色土　ローム粒子含まれる。

SB-007E
1 灰褐色土　灰白色砂多量。
2 黒褐色土　ローム粒子・小ブロック・焼土粒子含まれる。

SB-007L
1 黒褐色土　ローム粒子・ブロック含まれる。

SB-007K
1 黒褐色土　ローム粒子含まれる。

SB-007C
1 黒色土　ローム粒子・小ブロック含まれる。
2 黄褐色土　ローム粒子主体。

SB-007B
1 黒褐色土　ローム粒子・小ブロック含まれる。
2 黒褐色土　ローム含まれない。
3 褐色土　ローム多量。

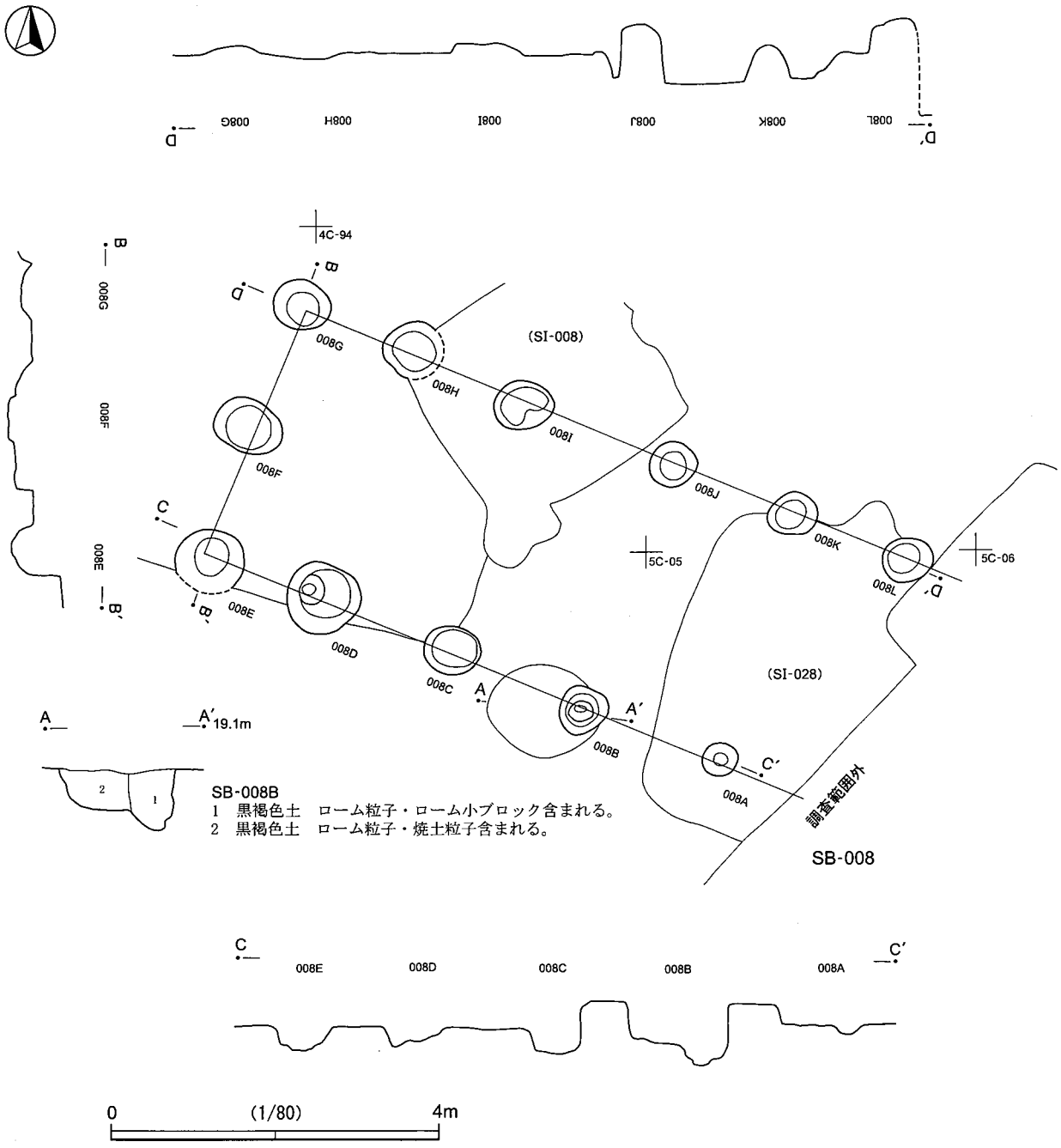
SB-007A
1 黒褐色土　ハードロームブロック含まれる。
2 褐色土　ローム主体。

第91図　SB-007

確認面からの掘り込みが西側と東側で異なり，一連の遺構ではない可能性も考えられる。

SB－009（第88図）

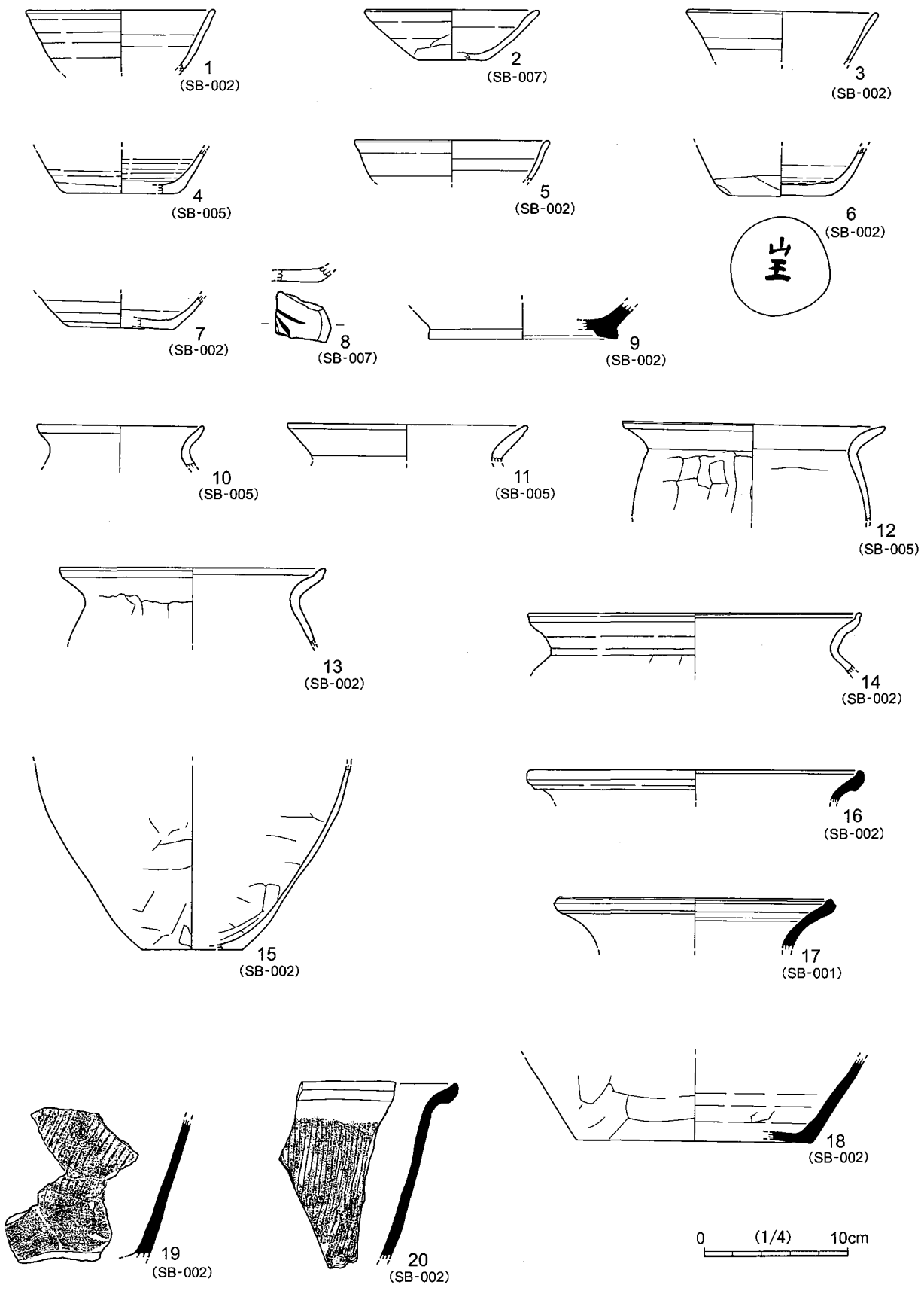
5C-12グリッド周辺に位置する。SB-001と重複する。規模は桁行2間×梁間2間で，主軸はN-20°-Eである。桁行の柱列長は3.6 m，梁間の柱列長は3.6 mである。柱間寸法は1.2 m～2.4 m，柱穴直径は0.5 m～0.7 mである。確認面からの掘り込みが比較的しっかりとしている。



第92図 SB-008

掘立柱建物跡出土遺物（第93図，図版73・76）

1～8はロクロ整形の土師器坏である。1はSB-002出土で，口縁部～体部の1/8の遺存である。色調は内外面共ににぶい橙色である。胎土には白色微砂粒が含まれる。2はSB-007出土で，全体の1/6の遺存である。色調は内外面共ににぶい橙色～灰褐色である。胎土には白色微砂粒が含まれる。体部下端と底面は手持ちヘラケズリ調整である。3はSB-002出土で，口縁部～体部の1/6の遺存である。色調は内面が橙色，外面がにぶい橙色～黒色である。胎土には灰白色砂粒・スコリア粒が目立つ。4はSB-005出土で，体部～底部の1/3の遺存である。色調は内外面共ににぶい赤褐色である。胎土には白色・灰色砂粒が多く含まれる。体部下端・底面はヘラケズリ調整である。5はSB-002出土で，口縁部の1/8の遺存である。色調は内外面共に橙色である。胎土には白色砂粒が含まれる。6はSB-002からの出土で，体部～底部の2/3の遺存である。底面中央に「山王」の墨書が明瞭に残る。胎土にはスコリアが目立つ。体部下端と底面は手持ちヘラケズリ調整である。器厚が比較的厚い。7はSB-002出土で，体部～底部の1/4の遺存である。色調は内外面共ににぶい赤褐色で，胎土自体が赤く発色する。胎土には白色微砂粒・スコリアが含まれる。体部下端と底面は回転ヘラケズリ調整である。8はSB-007出土の底部破片で，底面に墨書がみられる。破片のため文字は不明である。色調は内面が浅黄橙色，外面がにぶい橙色である。胎土には砂粒が含まれる。底面はヘラケズリ調整である。9はSB-002出土の須恵器瓶類で，底部の1/6の遺存である。色調は内外面共に灰白色である。胎土は緻密で砂粒が含まれる。内面はロクロナデ，外面は回転ヘラケズリ調整である。器面には所々黒色の吹き出しがみられる。10～14は土師器甕口縁破片である。いずれも内面はナデ，外面はヘラケズリ調整である。また，器壁も薄く，胎土には白色微砂粒・スコリア粒子が含まれる。10はSB-005出土で，内面が明赤褐色，外面がにぶい赤褐色である。11はSB-005からの出土で，内面がにぶい赤褐色，外面が黒褐色である。12はSB-002出土で，内外面共ににぶい赤褐色である。13はSB-002出土で，内外面共に明赤褐色～暗赤灰色である。14はSB-002出土で，内面がにぶい橙色～灰褐色，外面がにぶい橙色である。15はSB-002出土の土師器甕で，胴部下半～底部の1/8の遺存である。色調は内面が赤褐色～にぶい赤褐色，外面がにぶい赤褐色である。器壁が非常に薄い。胎土には白色微砂粒・スコリア粒が含まれる。内面は赤褐色～にぶい赤褐色，外面はにぶい赤褐色である。内面はヘラナデ，外面はヘラケズリ調整である。16・17は須恵器甕口縁破片である。16はSB-002，17はSB-001出土である。いずれも色調は灰色で，胎土には白色砂粒が含まれる。硬質である。18はSB-002出土の須恵器甕で，底部の1/6の遺存である。色調は灰色である。焼成はやや不良で，胎土には白色微砂粒が多く含まれる。内面はナデ，外面はヘラケズリ，底面は無調整である。断面は中心が灰色，その両脇が赤褐色となっている。19はSB-002出土の須恵器甕胴部下半破片である。還元色ではない須恵器である。色調は内外面共に黒色である。胎土には白色微砂粒・スコリア粒が含まれる。外面にはタタキ目が残る。外面胴部下端はヘラケズリ，内面はナデ調整である。20はSB-002出土の須恵器甕で，口縁部から胴部上半破片である。色調は内外面共ににぶい橙色で，還元色ではない須恵器である。内面はナデ調整，外面にはタタキ目が残る。硬質である。



第93図　掘立柱建物跡出土遺物

3 土 坑

土坑は時期決定が遺物の僅少さから判断が難しい。ここでは，発掘時の所見と，遺構の立地から，中世以前(古墳時代～奈良・平安時代)と考えられる9基について説明を行う。

SK－004（第94図）

4C-60グリッド周辺に位置する。平面形はいびつな円形で，長軸1.52ｍ・短軸1.26ｍ・深さ1.22ｍである。しっかりした掘り込みであるが，覆土はしまりの弱い暗褐色土である。底面は平らで，壁面は直角に近く急に立ち上がる。

SK－016（第94図，図版73・74）

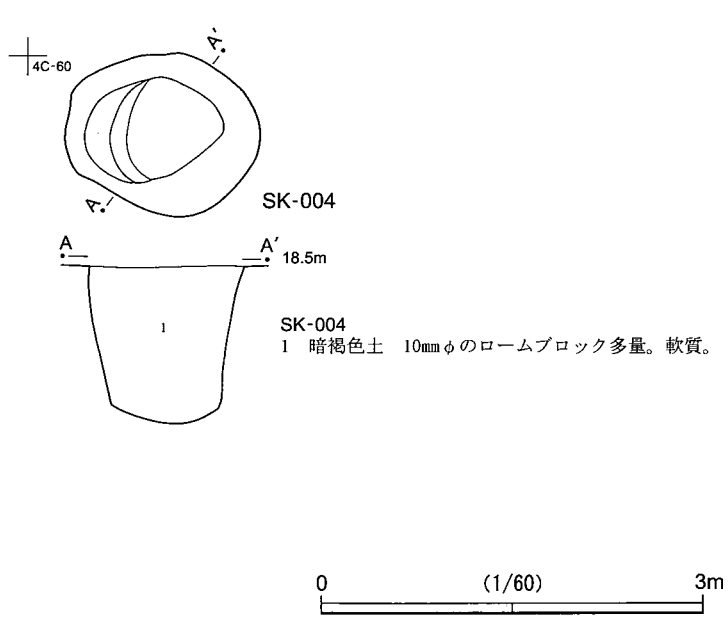
5B-19グリッド周辺に位置する。平面形は不整形で，長軸2.0ｍ・短軸1.4ｍ・深さ0.32ｍである。掘り込みは浅く，平面形もいびつで，底面も平らではない。床面に近い部分で，焼土が多く堆積し，床面は被熱して硬化している。壁面は緩やかに立ち上がる。

1～5はロクロ整形の土師器坏である。すべて胎土には白色微砂粒・スコリア粒が含まれる。1は全体の4/5の遺存である。色調は内外面共ににぶい赤褐色である。体部下端と底面は手持ちヘラケズリ調整である。内面に，重ね焼きした痕跡(粘土貼付)がみられる。口縁端部は肥厚・外反し，外面口縁下が沈線状に凹む。2は全体の1/2の遺存である。色調は内外面共に橙色～赤色である。体部下端と底面は手持ちヘラケズリ調整である。3は全体の2/3の遺存である。色調は内面が明赤褐色～黒褐色，外面は明赤褐色である。口縁部下には焼成前に孔(直径5㎜)が穿たれる。体部下端と底面は手持ちヘラケズリ調整である。4は全体の2/3の遺存である。内面は黒色，外面は橙色～黒色である。体部下端と底面は手持ちヘラケズリ調整である。5は口縁部の1/6の遺存である。内面は橙色，外面は灰褐色である。体部下端はヘラケズリ調整である。6～8は土師器甕である。6は口縁部～肩部の1/4の遺存である。色調は内外面共ににぶい橙色である。胎土には白色砂粒・スコリア粒が含まれる。内面はヘラナデ，外面は縦方向のヘラケズリ調整が施され，全体的に丁寧な整形である。7・8は口縁部の破片で同一個体の可能性もある。硬質で，赤みのある須恵器の可能性がある。色調は内面が黒褐色，外面が黒色である。8はやや橙色の色調も含まれる。胎土には白色微砂粒が多く含まれる。内外面共にナデ調整である。9は石帯である。石材は花崗閃緑岩である。長さ36.35㎜・幅29.32㎜・厚5.72㎜・重さ15.42ｇである。裏面には2孔対で2か所に穴が穿たれる。ほぼ長方形であるが，一辺はやや丸みを帯びる。表面は丁寧に研磨されている

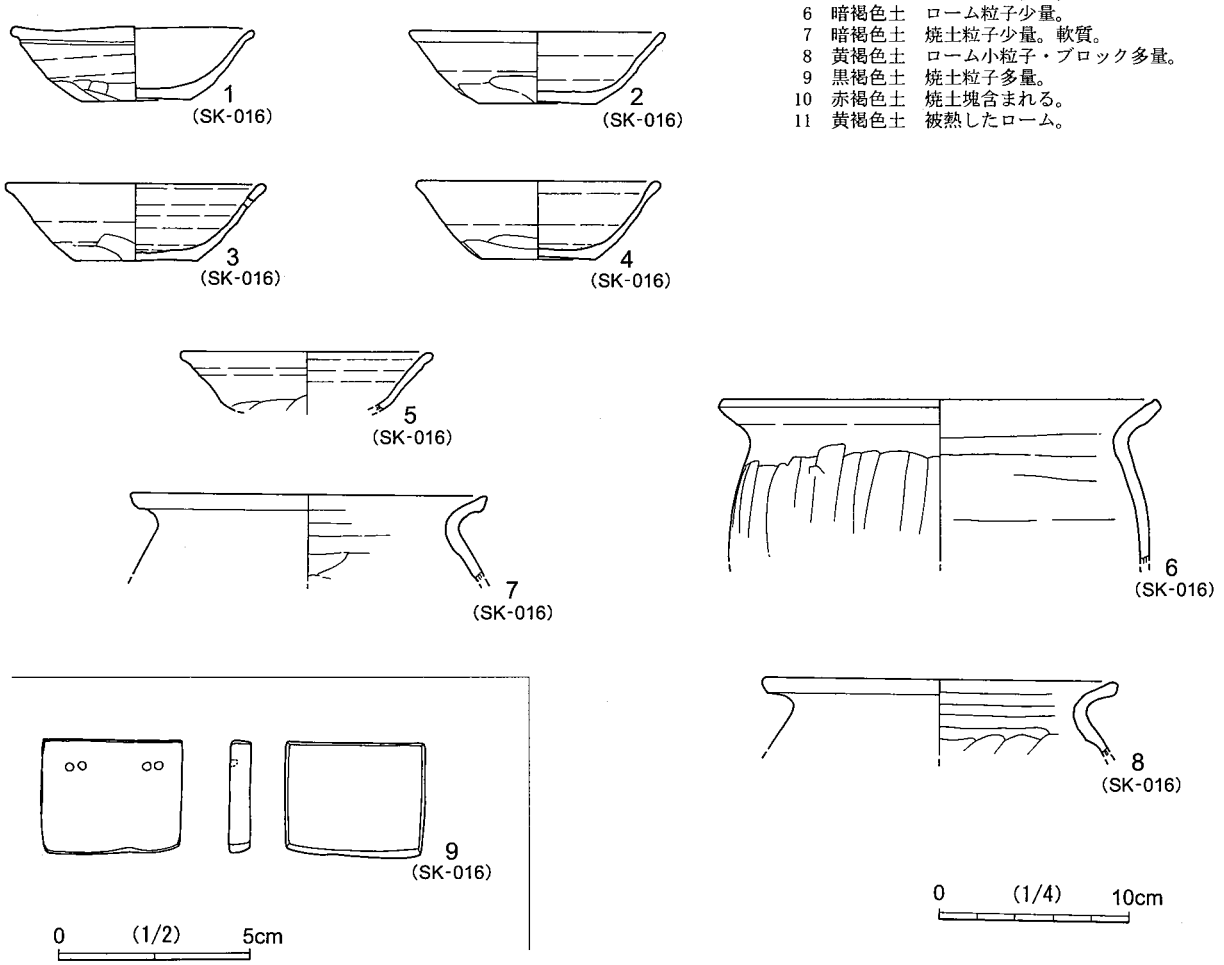
SK－018（第95図，図版47・73～75）

5C-00グリッド周辺に位置する。平面形は楕円形で，長軸2.42ｍ・短軸1.56ｍ・深さ0.58ｍである。掘り込みは比較的しっかりしている。底面は平らで，壁面は緩やかに立ち上がる。ほとんどの遺物は床面から浮いた状態で出土した。覆土の上層に焼土粒子が大量に含まれ，半分程度埋まった状態で土器が投げ込まれたものと考えられる。

1・2は土師器坏である。1は全体の5/6の遺存である。色調は内外面共ににぶい橙色～黒色である。胎土には白色微砂粒・スコリア粒が含まれる。丸底で，全体的に丁寧な整形である。内面は丁寧なナデ，外面はヘラケズリ後ミガキ調整である。2は口縁部の1/4の遺存である。色調は内面が灰褐色，外面が橙色である。胎土には白色微砂粒・スコリア粒が含まれる。内面はミガキ，外面はヘラケズリ後ミガキ調整で



SK-016
1 褐色土 ローム粒子多量。硬くしまる。
2 黒褐色土 焼土粒子少量。硬くしまる。
3 黒褐色土 ローム粒子・焼土粒子少量。
4 黒褐色土 ロームブロック少量。
5 暗褐色土 ローム粒子多量。
6 暗褐色土 ローム粒子少量。
7 暗褐色土 焼土粒子少量。軟質。
8 黄褐色土 ローム小粒子・ブロック多量。
9 黒褐色土 焼土粒子多量。
10 赤褐色土 焼土塊含まれる。
11 黄褐色土 被熱したローム。



第94図 SK-004・016

ある。3は土師器高坏の坏部で，口縁部の1/6の遺存である。色調は内外面共に橙色である。胎土には白色微砂粒が含まれる。内外面共に丁寧なミガキ調整である。4は土師器台付き甕の台部である。色調は内外面共に橙色である。胎土には白色微砂粒が含まれる。外面は細かいミガキ，内面は胴部がナデ，台部はハケ目状工具によるナデ調整である。5は土師器のコップ形ミニチュア土器で，完形である。ややゆがみがみられる。色調は内外面共ににぶい橙色～黒色である。胎土には白色微砂粒が含まれる。内面はナデ，外面は縦方向のヘラケズリ，底面はナデ調整である。底部厚があり，大きさの割に重量がある。6～14は土師器甕である。6は口縁部の1/4の遺存である。色調は内外面共に橙色～黒色である。胎土には白色微砂粒が含まれる。内面はナデ，外面はヘラケズリ調整である。7と9は同一個体であろう。7は口縁部の1/4，9は胴部の1/8の遺存である。色調は内外面共に赤褐色～黒褐色である。白色微砂粒・スコリア粒が多量に含まれる。内面はナデ，外面はヘラケズリ調整である。2次被熱により器面は所々剥落している。8は口縁部～胴部上半の1/2の遺存である。色調は内外面共ににぶい橙色～黒色である。胎土には砂礫が多く含まれる。内面はナデ，外面はヘラケズリ調整である。2次被熱により，特に外面器面がほとんど剥落している。10は胴部の1/8の遺存である。色調は内面がにぶい橙色，外面が橙色～黒色である。白色微砂粒・スコリア粒が含まれる。内面はナデ，外面はヘラケズリ後ナデ調整である。11は底部～胴部下半の1/3の遺存である。色調は内面は淡赤橙色～にぶい赤褐色，外面は明赤褐色～黒褐色である。胎土には白色微砂粒が含まれる。底部は胴径の割に小さく，ヘラケズリ調整される。内面はナデ，外面はヘラケズリ後ナデ調整である。2次被熱により，器面は部分的に剥落している。12は胴部の1/5の遺存である。色調は橙色～黒色である。胎土には白色砂粒・スコリア粒が含まれる。内面はナデ，外面は2次的被熱により器面がほとんど剥がれるが，恐らくヘラケズリ調整であろう。13は底部～胴部下半の1/4の遺存である。色調は内面が浅黄橙色，外面は橙色～黒色である。胎土には砂礫・金雲母粒が含まれる。内面は丁寧なナデ，外面は底面も含めヘラケズリ調整である。14は小型甕の底部である。色調は内面が黒色，外面が橙色である。胎土には白色微砂粒が含まれる。内面はヘラナデ，外面は底面も含めヘラケズリ調整である。底部中央は反る。器面外面は2次被熱で剥落は著しい。

ＳＫ－０１９（第96図）

5C-30グリッド周辺に位置する。平面形は楕円形で，長軸0.82ｍ・短軸0.63ｍ・深さ0.59ｍである。掘り込みは中心部のみ深い。覆土上層はしまりが強いが，下層は軟質である。ピット状で，壁面は急激に立ち上がる。

ＳＫ－０２０（第96図）

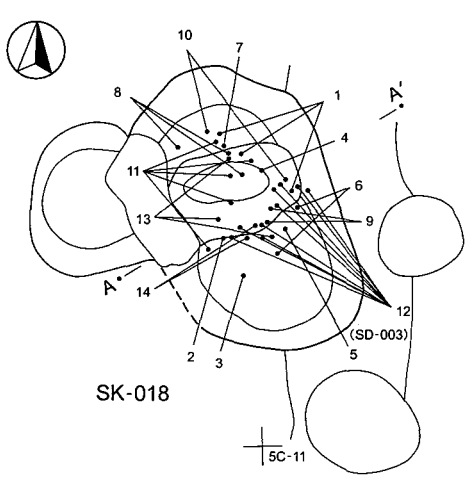
5C-40グリッド周辺に位置する。平面形はほぼ円形で，長軸0.69ｍ・短軸0.62ｍ・深さ0.18ｍである。掘り込みは浅く，覆土にはローム粒子が含まれる。ピット状で，底面は平らで，壁面は急激に立ち上がる。

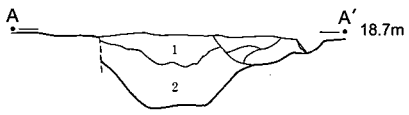
ＳＫ－０２７（第96図）

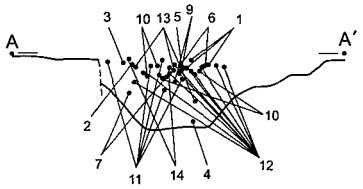
4C-84グリッド周辺に位置する。平面形は楕円形で，長軸1.19ｍ・短軸0.7ｍ・深さ0.46ｍである。掘り込みは段を有し，底面は平らで，壁面は急激に立ち上がる。

ＳＫ－０２８（第96図）

4C-84グリッド周辺に位置する。平面形は楕円形で，長軸1.85ｍ・短軸1.1ｍ・深さ0.4ｍである。

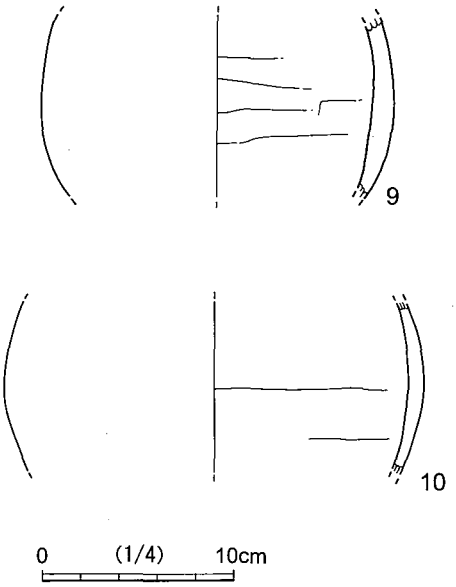




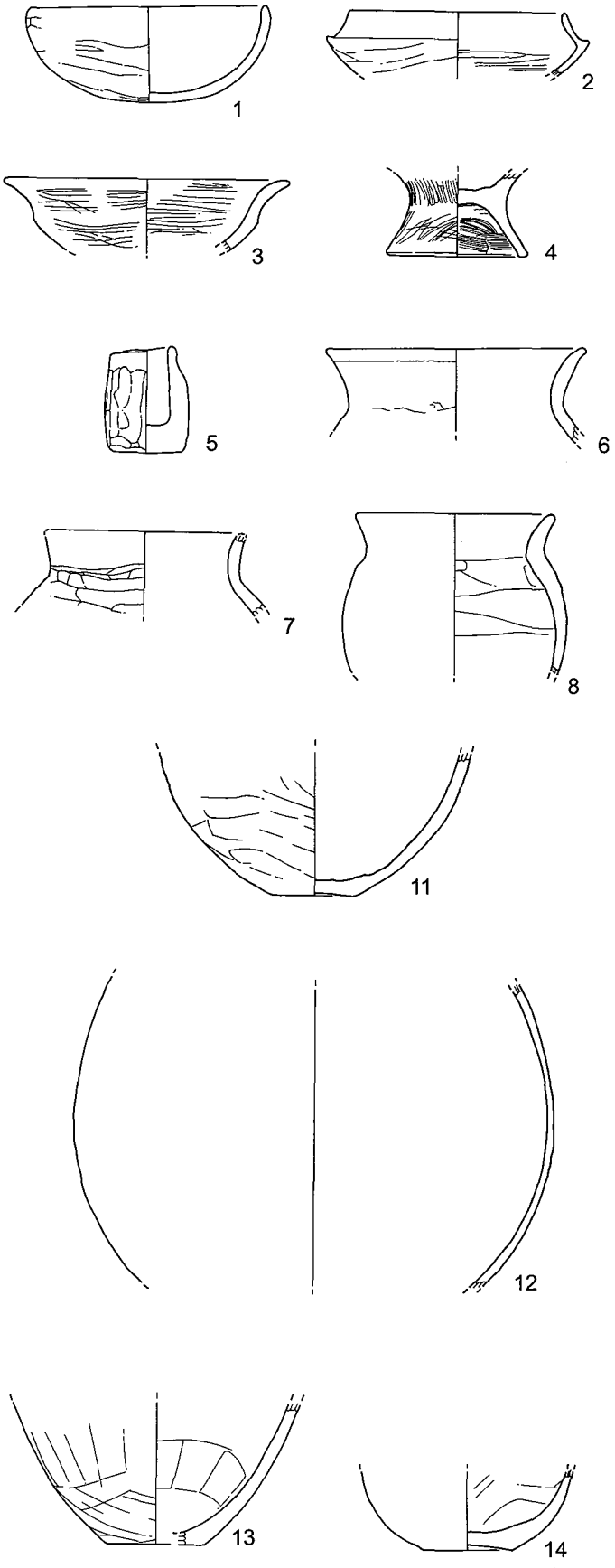


SK-018
1　暗褐色土　焼土粒子多量。軟質。
2　暗黄褐色土　ローム細粒子多量。焼土粒子少量。

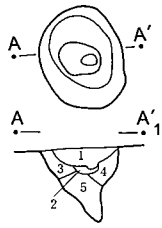
0　(1/60)　3m



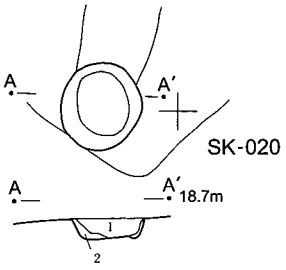
0　(1/4)　10cm



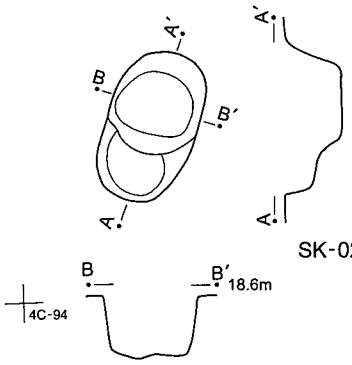
第95図　SK-018

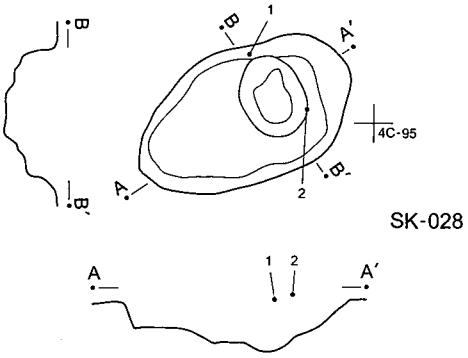


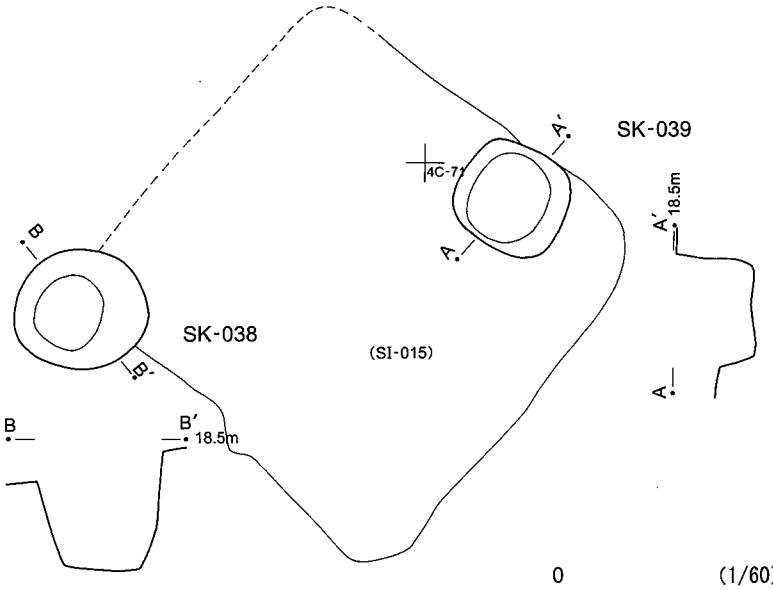
SK-019
1 褐色土　ローム細粒子少量。硬くしまる。
2 黄褐色土　ロームブロック含まれる。
3 暗黄褐色土　ローム細粒子多量。
4 褐色土　ロームブロック少量。ローム粒子多量。
5 暗褐色土　ローム粒子少量。軟質。

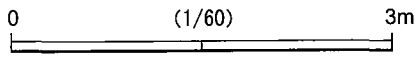


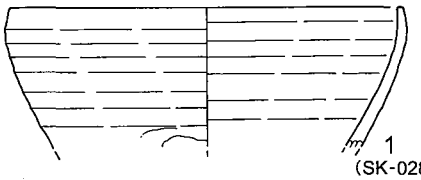
SK-020
1 暗褐色土　ローム粒子含まれる。軟質。
2 暗褐色土　ロームブロック・ローム粒子多量。

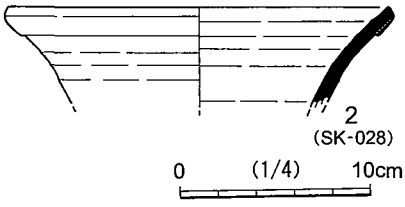












第 96 図　SK-019・020・027・028・038・039

底面は凹凸があり，平ら，壁面は緩やかに立ち上がる。

1は土師器鉢で，口縁部～体部の1/10の遺存である。色調は内外面共に橙色である。胎土には白色・透明砂礫・スコリアが含まれる。調整は内外面共に丁寧な横方向のナデである。口縁端部は丸みをもたず，平らに仕上げられている。2は赤みを帯びた須恵器甕で，口縁部の1/8の遺存である。口縁部は外側に折り返し，2重口縁である。2次被熱により，内外面共に所々剥落している。色調は内外面共ににぶい黄橙色である。胎土には白色微砂粒・スコリア粒が含まれる。

ＳＫ－０３８（第96図，図版11）

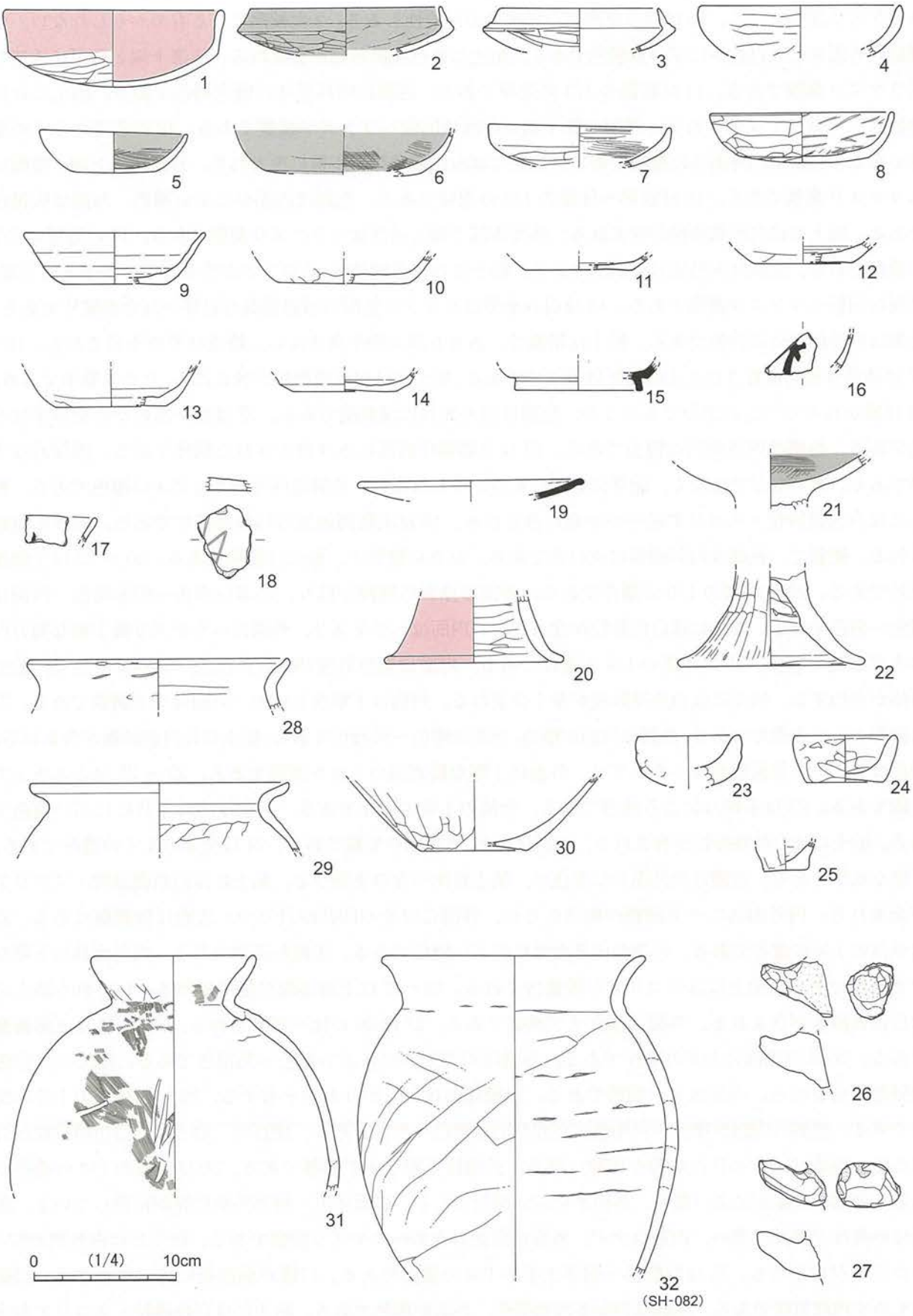
4C-70グリッド周辺に位置する。平面形はほぼ円形で，長軸1.07ｍ・短軸0.95ｍ・深さ0.86ｍである。掘り込みはしっかりしている。ピット状で，底面は平ら，壁面は急激に立ち上がる。

ＳＫ－０３９（第96図，図版11）

4C-71グリッド周辺に位置する。平面形はほぼ円形で，長軸0.9ｍ・短軸0.78ｍ・深さ0.58ｍである。掘り込みはしっかりしている。ピット状で，底面は平らで，壁面は急激に立ち上がる。SK-038と隣接し，形状も近いことから，セットとして機能していた可能性がある。

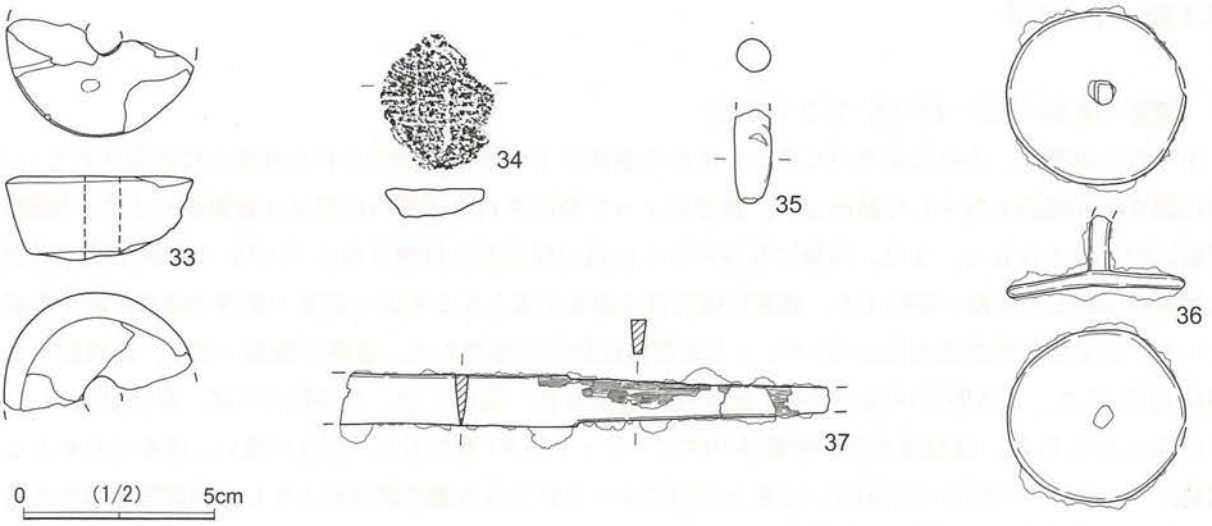
4　遺構外出土遺物（第97・98図，図版74～76）

1～8は土師器坏である。1は全体の4/5の遺存で，比較的大型の坏である。SI-032の弥生時代住居の覆土中から出土した。外面の口縁部と内面が赤彩され，赤彩部は赤色，体部外面はにぶい橙色である。焼成はやや不良である。胎土は精緻で，砂粒が微量含まれる。内面は丁寧なナデ，体部外面はヘラケズリ調整である。2は口縁部～体部の1/5の遺存である。内外面共に全面黒色処理(漆)で，色調は黒褐色である。白色微砂粒・スコリア粒が少量含まれる。内面はナデ後ミガキ，外面はヘラケズリ後ミガキ調整である。口縁部は一段屈曲して上に立ち上がる。3は口縁部～体部の1/8の遺存である。色調は内面が灰黄褐色，外面が灰褐色である。内面はナデ，外面はヘラケズリ調整である。口縁部は一段屈曲して立ち上がる。4は口縁部～体部の1/6の遺存である。色調は内面がにぶい橙色，外面が灰褐色である。胎土には白色微砂粒が含まれる。口縁部と内面はヨコナデ，体部外面はヘラケズリ後ナデ調整である。体部と口縁部との境はなだらかで，丸みを内外面とも帯びる。5は完形である。内面のみ黒色処理(漆)で，色調は，内面が褐灰色，外面はにぶい黄橙色である。焼成はやや不良であるが，胎土は精緻である。外面は底部を除いて器面が剥落している。内面は丁寧なミガキ調整，底面はヘラケズリによって平底を意識して作り出している。口縁端部は摩滅するように凹凸がある。6は体部～底部の1/3の遺存である。内外面共に黒色処理(漆)されており，色調は内外面共に褐灰色である。胎土には白色微砂粒が含まれる。内面は丁寧なミガキ，外面はヘラケズリ後ミガキ調整である。底部はやや稜は丸みがあるが，平底を意識してヘラケズリ調整される。7は全体の1/6の遺存である。色調は内外面共に明赤褐色である。胎土自体が赤みを帯びる。胎土にはスコリア粒が含まれる。内面はミガキ，外面はヘラケズリ調整である。8は全体の2/3の遺存である。色調は内外面共ににぶい橙色である。胎土には白色微砂粒・スコリアが含まれる。内面は口縁～全体にわたって横方向の丁寧なナデ後，暗文状に放射状ミガキが施されるが，雑である。外面は体部と底面がヘラケズリ調整で，底面は平底である。9～14はロクロ整形の土師器坏である。9は全体の1/8の遺存である。色調は内面がにぶい赤褐色，外面が黒褐色である。胎土には白色微砂粒が含まれる。体部下端と底面は回転



第 97 図　遺構外出土遺物 (1)

ヘラケズリ調整である。10は白みを帯び，須恵器の可能性もある。2次被熱によるものかもしれない。色調は内外面共に灰白色～にぶい黄橙色である。胎土には白色微砂粒が含まれる。体部下端と底面は手持ちヘラケズリ調整である。11は底部の1/3の遺存である。色調は内外面共に暗赤褐色である。胎土には白色砂粒・スコリアが含まれる。外面体部下端と底面は回転ヘラケズリ調整である。12は底部の1/4の遺存である。色調は内外面共に橙色である。胎土には白色微砂粒が多量に含まれる。外面体部下端と底面はヘラケズリ調整である。13は底部～体部の1/8の遺存である。色調は内面がにぶい褐色，外面は灰褐色である。胎土には白色微砂粒が含まれる。外面体部下端と底面はヘラケズリ調整である。14は底部の2/3の遺存である。色調は内外面共に黒色である。胎土には白色微砂粒・スコリアが含まれる。外面体部下端・底面は回転ヘラケズリ調整である。15は白みを帯びたロクロ整形の須恵器高台付坏の高台部破片である。色調は内外面共に灰白色である。胎土は精緻で，あまり混入物を含まない。焼成はやや不良である。16・17は体部外面に墨書された土師器坏体部破片である。胎土には白色微砂粒が含まれる。ロクロ整形である。16は横からみて「大」の部分であろうか。色調は内外面共に浅黄橙である。17は極一部のため全体字は不明である。色調は内外面共に橙色である。18は土師器坏底部にヘラ書きされた個体である。直線的な文字であり，漢字などではなく，記号化されたものかもしれない。色調は内外面共ににぶい橙色である。胎土には白色微砂粒・スコリア粒子が多量に含まれる。19は灰釉陶器皿の口縁部破片である。内面に施釉される。硬質で，色調は内外面共に灰白色である。ロクロ整形で，胎土は精緻である。20～22は土師器高坏である。20は脚部の1/6の遺存である。外面は赤彩の痕跡が残り，にぶい橙色～明赤褐色，内面は橙色～黒色である。胎土には白色砂粒が含まれる。内面はヘラケズリ，外面はヘラケズリ後丁寧な横方向のナデ調整である。21は坏部の1/4の遺存である。内面は黒色処理(炭)され黒色，外面は赤色で，胎土自体が発色する。胎土には白色微砂粒が多く含まれる。内面は丁寧なミガキ，外面はナデ調整である。22は脚部の1/2の遺存である。色調は内面が橙色，外面は橙色～灰褐色である。胎土には白色砂礫が含まれる。内面はナデで，底面部分はヘラケズリ，外面は丁寧な縦方向のミガキ調整である。23～25はミニチュア土器である。23は手捏ねによる成形である。全体の1/4の遺存である。色調は内外面共ににぶい橙色である。胎土には白色微砂粒が含まれる。内面はナデ，外面はやや雑である。24は全体の1/4の遺存である。丁寧な成形である。色調は内外面共に赤色で，胎土自体が赤みを帯びる。胎土には白色微砂粒・スコリアが含まれる。内外面共にナデ調整が施されるが，外面にはやや凹凸が目立つ。底面は無調整である。25は全体の1/4の遺存である。色調は内外面共ににぶい橙色である。手捏ね成形である。内外面共に丁寧なナデ調整である。胎土にはスコリアが微量含まれる。26・27は土師器甑の把手である。いずれも胎土には白色微砂粒が含まれる。外面は雑なナデ調整である。27は26に比べ扁平である。28～32は土師器甕である。28は口縁部の1/8の遺存である。色調は内外面共ににぶい褐色～黒褐色である。胎土には白色微砂粒が含まれる。内面はナデ調整である。口縁端部はしっかりと角を有する。29は口縁部の1/6の遺存である。色調は内面が赤色～灰褐色，外面が明赤褐色～黒色である。硬質で，胎土には白色微砂粒が含まれる。内面はナデつけた痕跡が明瞭に残る。外面は丁寧なナデ調整である。30は底部の1/4の遺存である。色調は内面がにぶい橙色，外面がにぶい褐色である。底面中央・胴部外面に煤が付着している。底面は中央ほど器壁が薄い。内面はナデ，外面は底面も含めヘラケズリ調整である。胎土には白色微砂粒・スコリアが含まれる。31は口縁部～胴部上半の1/4の遺存である。口縁が胴部径に比べて小さく，口縁部もやや内湾気味である。色調は内面が浅黄橙色，外面が橙色である。胎土には白色砂粒・スコリアが含



第 98 図　遺構外出土遺物 (2)

まれる。内面は口縁直下はハケ目，胴部はナデ，外面はハケ目調整である。32 は口縁部～胴部下半までの遺存である。色調は内面が暗赤褐色，外面が暗赤褐色～黒褐色である。胎土には白色砂粒・スコリアが多く含まれる。内面はナデであるが，所々粘土紐接合痕が残される。外面はヘラケズリ後ナデ調整である。外面にはカマド構築材の砂が微量付着している。口縁部は完存するが，端部はやや波打つ。

33 は土製紡錘車の破片である。色調は暗赤褐色である。表面は丁寧に磨かれている。重量は 27.79 g である。34 は瓦の破片である。布目圧痕がみられる。凹面のみの遺存である。色調は黒褐色である。35 は棒状の土製品の破片である。意図的かは分からないが，ヘラによる筋が部分的に付けられる。36・37 は鉄製品である。36 は鉄製紡錘車である。棒状部は一部のみの遺存である。棒状部断面は方形である。重量は 25.28 g である。37 は刀子である。関は背側がはっきりしないが，恐らく両関であろう。茎部には木質が比較的遺存する。茎部断面も刃側がやや細い台形である。重量は 14.88 g である。

第4節　中・近世

1　遺構（第99・100・102図，第3・22表）

中・近世遺構は，全体に北北東に向かってひな壇状に下がる様に整形された台地上に形成されている。特に調査区北東側で集中して検出され，溝等によって整形された区画内に掘立柱建物跡や土坑が展開し，屋敷区画と考えられる。また，西側には井戸または粘土採掘坑に推測されるSX-002と作業空間，南西側には整形区画と土坑群が存在する。調査区南西部は溝を主体とする地区で南北・東西の溝が区画を形成している。北東部と南西部の間の4Cグリッド北東部は空白地域である。遺構の種類・数は，道路跡を含む溝状遺構17条，台地整形区画2箇所，掘立柱建物跡6棟，柵列2条，方形竪穴3基，粘土貼土坑3基，その他の土坑40基，建物域外及び遺構外の柱穴・ピット約50基である。深さが浅い，溝をはじめとした遺構については，当時の生活面或いは表土が関東ローム層である遺構確認面よりも上の腐植土層であったためで，比較的新しい遺構の可能性が考えられる。

遺構番号は，調査の進捗上，概ね南西部から北東部の順に番号が付けられている。各遺構説明には覆土から出土した中・近世遺物を入れたが，記述のないものは出土がなかった遺構である。なお，瀬戸・美濃磁器は近世陶磁器に含まれるものであるが，江戸時代末期と時期的に限定されるので敢えて記述した。また，各遺構の詳細については，一覧表(第22表)も参照されたい。

第3表　八幡神社北(1)遺跡 中・近世 遺構一覧表

遺構No.	種類	位置(グリッド)	備考
SD-001	溝状遺構	5B-08周辺	
SD-002	溝状遺構	4C-41周辺	
SD-003	溝状遺構	5C-00周辺	
SD-004	溝状遺構	5B-19周辺	
SD-005	溝状遺構	4C-61周辺	
SD-006	溝状遺構	4C-74周辺	
SD-007	欠番		
SD-008	溝状遺構	4C-13周辺	
SD-009	溝状遺構	4C-72周辺	
SD-010	溝状遺構	4C-09周辺	
SD-011	欠番		
SD-012	欠番		
SD-013	溝状遺構	3D-74周辺	
SD-014	溝状遺構	3D-58周辺	
SD-015	溝状遺構	3D-95周辺	
SD-016	溝状遺構・一部道路	4D-24周辺	
SD-017	溝状遺構	4D-09周辺	
SD-018	道路	2D	
SD-019	道路	2D	
SD-020	溝状遺構	2D	
SX-001	台地整形区画	4D-40周辺	
SX-002	台地整形区画	3C-90周辺	
SB-010	掘立柱建物跡	4D-34	新番号
SB-011	掘立柱建物跡	4D-05周辺	新番号
SB-012	掘立柱建物跡	4D-15周辺	新番号
SB-013	掘立柱建物跡	4D-06周辺	新番号
SB-014	掘立柱建物跡	4D-07周辺	新番号
SB-015	掘立柱建物跡	4D-08周辺	新番号
SA-001	柵列	4D-23周辺	
SA-002	柵列	3D-71周辺	
SH-050	柱穴	4D-34	旧SK-050
SH-067	柱穴	4D-04	旧SK-067
SH-082	柱穴	4D-16	旧SK-082
SK-001	土坑	4C-50周辺	
SK-002	土坑	4C-60	旧SK-060
SK-003	欠番		
SK-005	欠番		
SK-006	欠番		
SK-007	欠番		
SK-008	土坑	4C-32	
SK-009	土坑	4C-32	
SK-010	土坑	4C-41	
SK-011	土坑	4C-22	
SK-012	土坑	4C-13	
SK-013	土坑	4C-02周辺	
SK-014	欠番		
SK-015	欠番		
SK-017	欠番		

遺構No.	種類	位置(グリッド)	備考
SK-021	欠番		
SK-022	土坑	4C-73 周辺	
SK-025	欠番		
SK-026	欠番		
SK-029	欠番		
SK-030	土坑	4C-25	
SK-034	欠番		
SK-035	欠番		
SK-036	欠番		
SK-037	欠番		
SK-040	土坑	4D-34	
SK-041	土坑	4D-33	
SK-042	欠番		
SK-043	欠番		
SK-044	欠番		
SK-045	土坑	4D-41	
SK-046	土坑	4D-41	
SK-047	土坑	4D-51	
SK-048	土坑	4D-42	
SK-049	土坑	4D-41	
SK-051	土坑	4D-20	
SK-052	土坑	4C-49	
SK-053	土坑	4C-58	
SK-054	土坑	4C-69	
SK-055	欠番		
SK-056	方形竪穴か	4D-24	
SK-057	粘土貼土坑	4D-04 周辺	
SK-058	土坑	4D-13 周辺	
SK-059	土坑	3C-99	

遺構No.	種類	位置(グリッド)	備考
SK-060	欠番		
SK-061	欠番		
SK-062	土坑	3D-76	
SK-063	土坑	3E-60	
SK-064	土坑	4D-14	
SK-065	土坑	4D-14	
SK-066	土坑	4D-13 周辺	
SK-068	欠番		
SK-069	欠番		
SK-070	粘土貼土坑	3D-96 周辺	
SK-071	粘土貼土坑	4D-16 周辺	
SK-072	土坑	4D-26	
SK-073	欠番		
SK-074	欠番		
SK-075	方形竪穴か	4D-04	
SK-076	方形竪穴	3D-96 周辺	
SK-077	土坑	4D-12	
SK-081	土坑	3D-80	
SK-083	欠番		
SK-084	土坑	4D-33	
SK-086	土坑	3D-75 周辺	新番号
SK-087	土坑	3D-85	新番号
SK-088	土坑または溝	3D-95 周辺	新番号
SK-089	土坑または窪み	3D-84 周辺	新番号
SK-090	擂鉢状土坑	3D-93 周辺	新番号
SK-091	土坑	4D-13	新番号
SK-092	土坑	4D-23	新番号
SK-093	土坑または柱穴	4D-42	新番号

(1) 溝状遺構

溝状遺構は，南西部(4B・4C・5B・5C グリッド)と北東部(主に 3D・4D グリッド)と北端部(2D グリッド)で検出された。

SD－001 (第 100・101 図，図版 39)

調査区南端の 5B グリッド北東部から 4B グリッド南東端にかけて造られ，そのまま連続する様に続き東西にも枝別れする SD-002 との接合部分で若干段違い状に屈曲する。主軸は N-10°-W，規模は，調査区内長さ 20 m程・上端幅 0.9 m～2.2 m・下端幅 0.15 m～1.0 m・深さ 0.4 m～0.7 mである。掘り込みは浅く，底面からの立ち上がりは不明瞭である。覆土はローム粒が多く硬質である。SD-002 の枝溝は SD-001 とは異なるが，主溝は SD-001 に連続する点から SD-001 と連続する同一溝とした方がよいと考えられる。ただ，溝の底部の形状は SD-001 が狭く，SD-002 の南側は広く，北側が狭い点が異なる。本溝から派生する SD-002 と SD-005 は，ほぼ同時期と考えられる。

第99図　中・近世遺構全体図

ＳＤ－００２（第100・101図，図版39・46・47）

SD-001から連続して北側に延びる主溝は4B・4Cグリッドにまたがり，台地縁の等高線に沿う様に西側にやや膨らむ。主軸は南部はN-17°-E・北部はN-30°-E，規模は調査区内長さ37ｍ・上端幅1.0ｍ～1.7ｍ・平均1.6ｍ・下端幅0.4ｍ～1.0ｍ・深さ0.2ｍ～0.3ｍである。SD-005と繋がる部分より南側は底が幅広く，北側は内部に細い溝が入る形状であり，性格が異なる可能性がある。覆土も地点によって様相が異なる。東西に枝別れする溝の内，西側は主溝よりやや深く，西方向から更に北に曲がり(N-30°-E)，覆土は軟質であるが，東側溝は主溝より浅く，南東に4ｍ程延び，覆土は硬質である。よって，水は西側溝は主溝から流れ，東側溝は逆に主溝に流れ込むことが推測できる。枝溝の上端幅は0.8ｍ～1.2ｍである。なお，SD-002北部では，重複するように土坑SK-001・005・008～013が造られている。時期は比較的新しいもの(近世以降)と推測される。

ＳＤ－００３（第100・101図，図版39・40）

ほぼSD-001と平行するように4C・5Cグリッドにまたがり南北方向に伸びるやや小規模な溝で，主軸はN-8°-E，規模は調査区内長さ34ｍ程・上端幅0.4ｍ～1.1ｍ・平均0.8ｍ・下端幅0.15ｍ～0.55ｍ・深さ0.4ｍである。南端部では一部途切れる箇所があり，ピットが3.5ｍ間隔で並ぶ部分がある。覆土中から常滑甕・近世磁器が出土した。SD-005手前で東方向へ屈曲する様相があり，SD-009或いはSD-006につながる可能性もある。また途中5C-10グリッドあたりから西方向へSD-004が派生する。

ＳＤ－００４（第100図，図版39・40）

SD-003からほぼ直角に近く西へ延び，SD-001と交差し，5B･5Cグリッドにまたがり，SD-001に切られる。主軸はN-87°-W，規模は調査区内長さ12ｍ程・上端幅0.6ｍ～0.8ｍ・下端幅0.2ｍ～0.5ｍ・深さ0.25ｍほどである。覆土中から常滑片口鉢・瀬戸輪禿皿(7)(17世紀)が出土した。

ＳＤ－００５（第100・101図，図版40）

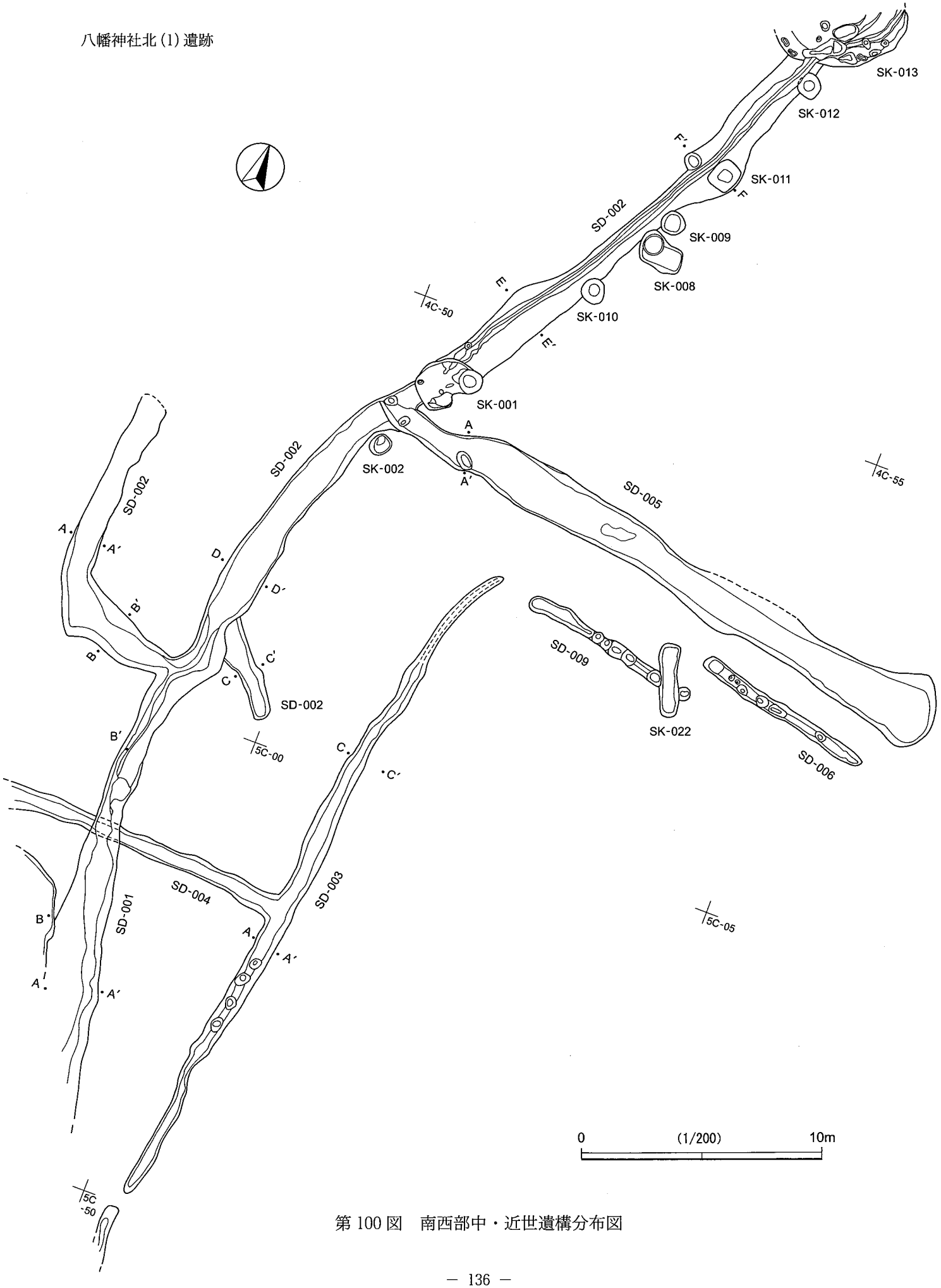
SD-002から東西に延び，4Cグリッドに収まるやや幅広い溝である。主軸はN-79°-W，規模は長さ26.5ｍ・上端幅1.0ｍ～2.1ｍ・平均1.8ｍ・下端幅0.7ｍ～1.6ｍ・深さ0.25ｍである。SD-002の接続部分では本溝の方がやや深い。覆土中から中・近世瀬戸美濃皿・近世陶器・土器・鉄製金具(91)が出土した。

ＳＤ－００６（第100図，図版40）

4C-74～76グリッドに位置し，SD-005の南側でSD-005に沿って延びる小規模な溝である。主軸はN-77°-W，規模は長さ8ｍ程・上端幅0.5ｍ～0.6ｍ・下端幅0.2ｍ～0.4ｍ・深さ0.15ｍである。内部に深さ0.25ｍほどのピットが並ぶことから柵列や垣根の可能性も考えられる。覆土中から常滑甕片が出土した。

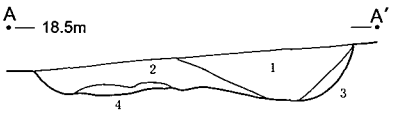
ＳＤ－００８（第102～105・107・111図，図版35・41～43）

調査区北東部で，4D～3Dグリッドにかけて南北方向に比較的直線的に延び，SD-010と交差する。主軸は北部N-15°-E，南部はN-31°-Eである。時期的には本溝の方が古いと考えられる。断面は逆台形状で，深さは1.1ｍ～1.4ｍ・上端幅1.0ｍ～1.2ｍ・下端幅0.5ｍ前後である。底面は平坦であるが，硬化面はない。南部の壁面には規則的に並ぶピット列が確認できるが，溝との関連は不明である。また，浅い台



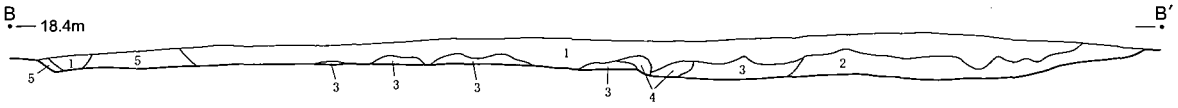
第 100 図　南西部中・近世遺構分布図

SD-001

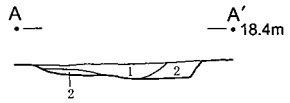


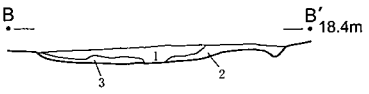
SD-001
A-A′
1　暗褐色土　ローム粒少量。
2　暗褐色土　ローム粒多量。１層より明るい。
3　黄褐色土　ロームブロック多量。

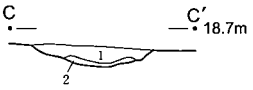
B-B′
1　黄褐色土　ローム粒(5㎜以下)多量。硬質土。
2　暗黄褐色土　１層と同様だがやや濃い。ローム粒少量。
3　明黄褐色土　ローム主体の軟質土。褐色土の混入あり。
4　黄褐色土　ロームブロック(10㎜)混入。
5　褐色土　ブロック状ロームが硬くしまる。



SD-002



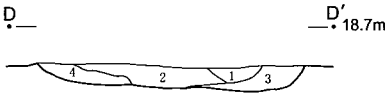




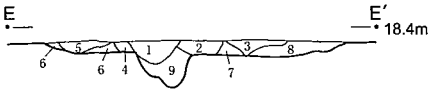
SD-002
A-A′
1　暗茶褐色土　ローム粒少量。
2　暗黄褐色土　ソフトローム多量。しまりなし。

B-B′
1　暗褐色土　ローム粒多量。軟質。
2　黄褐色土　ローム粒多量。ややしまりあり。
3　黄褐色土　ソフトローム多量。

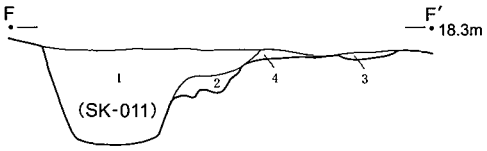
C-C′
1　褐色土　ローム粒少量。硬質。
2　黄褐色土　褐色土少量。硬質。



D-D′
1　暗褐色土　ローム細粒多量。
2　褐色土　ローム粒多量。１層より明るい。
3　黄褐色土　褐色土多量。しまりなし。
4　明褐色土　２層と同様だが、ローム粒多量でより明るい。

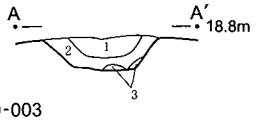


E-E′
1　暗褐色土　ローム粒(5㎜)少量。しまりあり。
2　褐色土　ローム粒(5㎜)多量。しまりあり。
3　暗褐色土　ローム粒少量。
4　暗褐色土　ローム粒多量。
5　褐色土　ローム粒多量。
6　黄褐色土　褐色土少量。
7　黄褐色土　ロームブロック多量。
8　明黄褐色土　ロームブロック少量。
9　暗褐色土　ロームブロック(5～10㎜)多量。しまりなし。



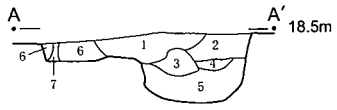
F-F′
1　暗褐色土　ロームブロック(10～20㎜)多量。軟質。(SK011覆土)
2　黄褐色土　ロームブロック(10～20㎜)多量。ローム主体。
3　明黄褐色土　ロームブロック魁。
4　褐色土　混入物少量。しまりあり。

SD-003

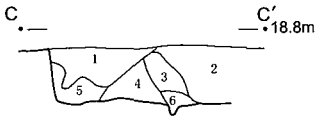


SD-003
A-A′
1　暗褐色土　ローム細粒少量。硬質。
2　暗黄褐色土　ローム粒多量。
3　黄褐色土　ローム主体。褐色土少量。

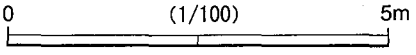
SD-005



SD-005
A-A′
1　暗褐色土　ローム粒(5～7㎜)少量。
2　褐色土　ローム粒(1～3㎜)少量。
3　黄褐色土　ローム粒(1㎜前後)多量。
4　明黄褐色土　ハードローム塊。
5　褐色土　混入物少量。軟質。
6　暗褐色土　ローム粒(1㎜)・黒色土(10㎜)少量。
7　褐色土　ローム粒少量。



C-C′
1　暗褐色土　ローム粒少量。
2　暗褐色土　ローム粒平均に含まれる。(住居跡覆土)
3　褐色土　ローム粒(1～5㎜)まばらに含む。
4　黄褐色土　ローム主体。褐色土少量。
5　黄褐色土　褐色土塊混入。しまりあり。
6　黄褐色土　平均して褐色土含む。軟質。



第101図　SD-001～003・005 断面図

地整形区画ＳＸ-001と重複するが，先後関係は不明である。覆土は，ローム粒の少ない暗褐色土主体で，古瀬戸瓶子(11)(13世紀末～14世紀初頭)・常滑片口鉢(30)・甕片(34，49，50)(13世紀)・転用砥石(51，57，58)・鉄滓(95)が出土した。

ＳＤ－００９（第100図，図版40）

4C-72・73グリッドに位置し，SD-006同様，SD-005の南側に沿って延び，内部にピットが並ぶ。主軸はN-78°-W，規模は長さ7.8ｍ・上端幅0.4ｍ～0.6ｍ・下端幅0.1ｍ～0.4ｍ・深さ0.1～0.15ｍ，ピットの深さ0.15～0.25ｍである。

SD-003～006・009は関連して方形区画を形成しており，ピット列は垣根状のもの，各溝の途切れた部分或いは互い違いになった部分は通路の存在が推定できる。また，SD-004はSD-001に切られることや出土遺物等から，これらは中世から存在し，SD-001・002は近世以降であることが想像される。

ＳＤ－０１０（第102～105図，図版41・43・44）

調査区北東部内3C・4C・4Dグリッドにかかり，北東側に一段低く整形された区画SX-002の周囲を囲む様に段の下に造り出されている。中央部で直角に近い形で屈曲し，北西辺は内部で2条の溝が平行し，主軸はN-2°-E，規模は長さ16ｍ程・幅1.6ｍ～2.6ｍで北部ほど幅が狭くなり，深さは西側から0.5ｍ・東側から0.2ｍである。南辺は主軸はN-67°-W，規模は長さ20ｍ程・幅0.5ｍ～2.6ｍで東側ほど幅が狭くなり，底幅は0.3ｍ～0.7ｍ，深さは南側から0.8～0.9ｍ・北側から0.2ｍである。覆土中から常滑甕(49)・近世瀬戸美濃磁器片・板状鉄製品が出土した。

ＳＤ－０１３（第102・104図，図版44）

調査区北東端を東西方向に延び，3D・3Eグリッドにまたがる。主軸は西部N-75°-E，中央部N-82°-E，東部N-72°-Eである。規模は調査区検出長さ44ｍ程・上端幅0.8ｍ～1.6ｍ・平均1.4ｍ・下端幅0.25ｍ～0.8ｍ・深さは0.2ｍ程である。途中3D-75グリッドあたりでSD-015が南方向に直角に延びる。この2本の溝状遺構は掘立柱建物跡を斜めに横切り，その方向は中世遺構群の主軸方向と異なるので，時期も異なると考えられる。おそらく，掘立柱建物跡より新しい。覆土中から須恵器転用砥石(71)，常滑甕(46)・唐津鉢・近世陶磁器・土器・瓦片等が出土しており，出土遺物からも近世中心に機能したことが推測できる。

ＳＤ－０１４（第102図）

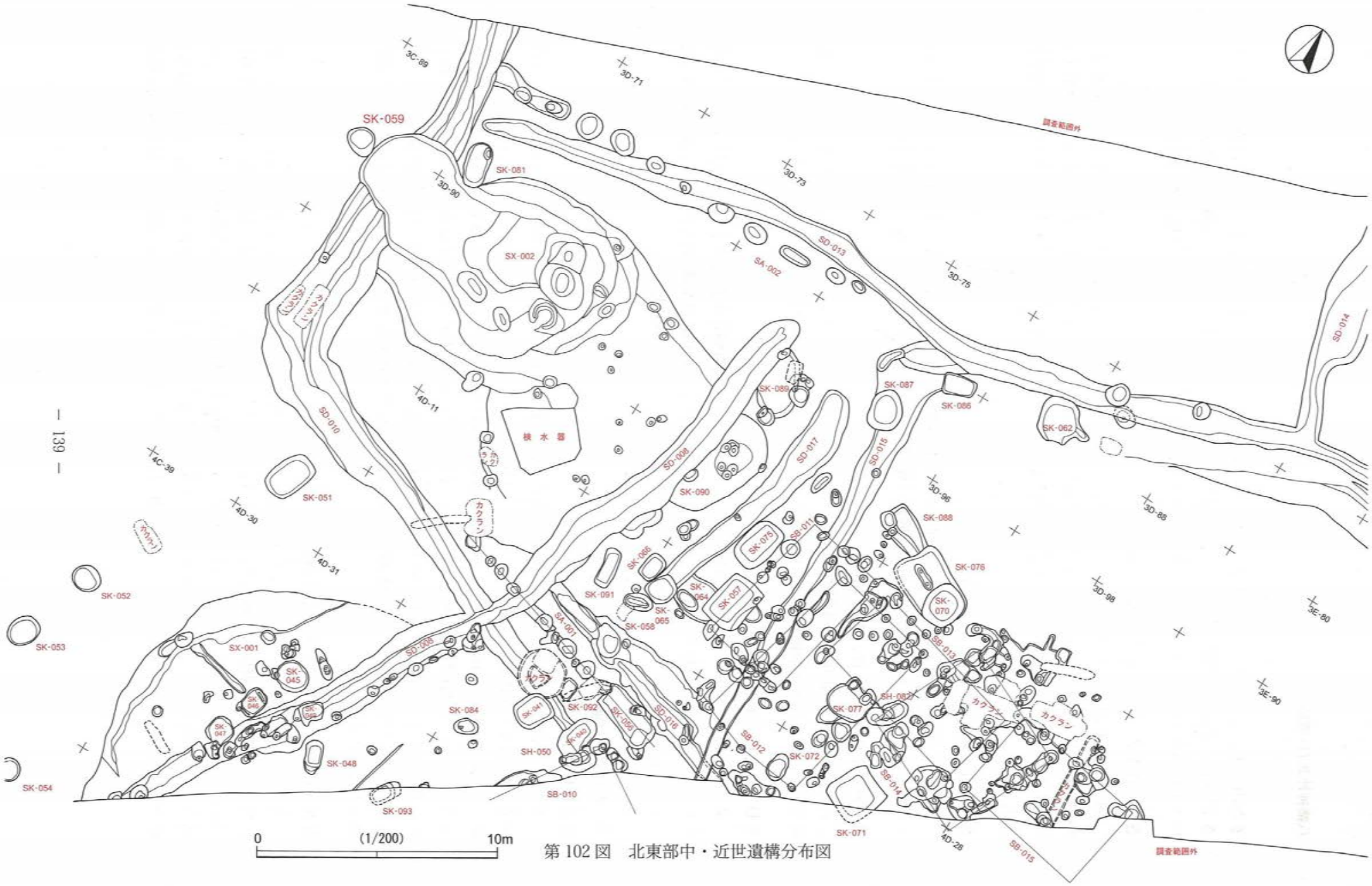
調査区東端部3D-58グリッドあたりを南北に走り南端部でSD-013に接続する。主軸はN-10°-W，規模は調査区内長さ10ｍ程・上端幅0.9ｍ～2.1ｍ・下端幅0.2ｍ～1.5ｍ・深さ0.1ｍ～0.2ｍである。

ＳＤ－０１５（第102・104図，図版42）

調査区東部で南北に走り，SD-016や中世掘立柱建物跡を切る。主軸はほぼ南北軸，規模は調査区内検出長さ20ｍ程・上端幅0.5ｍ～2.5ｍ・平均0.8ｍ・下端幅0.3ｍ～0.8ｍ・深さ0.2ｍほどである。北部で接するSD-013に近い部分ほど幅広く，南側は狭くなる。

ＳＤ－０１６（第102図，図版34）

調査区北東部南側で東西に走り，中世掘立柱建物跡群の南側境界をなし，南北溝SD-015に切られている。中央部は2条であるが，両側で1条となり，北側の浅い溝の底部形成された硬化面は西側は1条とな



第 102 図　北東部中・近世遺構分布図

る西側に連続し，通路として使用されていたことが確認できる。主軸はN-71°-W，規模は調査区内検出長さ10.8m，北側溝上端幅1.3m・下端(硬化面)幅0.7m～0.9m・深さ数cm，南側溝上端幅0.7m～1.1m・下端幅0.2m～0.6m・深さ0.1m～0.2mである。覆土中から常滑甕片(42，48，50)が出土した。

ＳＤ－０１７（第102～105図，図版42）

調査区北東部で3D・4Dグリッドにまたがり，主軸はN-9°-Eで，SD-008とSD-015の間を南北に，SD-008に平行し，掘立柱建物跡群の西側を区切る様に走る。規模は調査区内検出長さ11m・上端幅1.0m～1.6m・下端幅0.4m～1.2mで，北部ほど広く，深さ0.2mである。覆土中から常滑甕片・鉄滓が出土した。

ＳＤ－０１８（第106図，図版45）

調査区北端部で北東方向に弧状に屈曲する。規模は調査区内検出長さ13m・上端幅1.5m～1.8m・下端幅0.3m～1.0m・深さ0.3mで，底部に硬化面が形成されていることから，道路跡である。

ＳＤ－０１９（第106図，図版45）

調査区北端部でSD-018の外側で検出された。主軸はN -17°-W，規模は調査区内検出長さ4m程・上端幅0.4m～0.8m・下端幅0.3m～0.4mで，SD-018同様底部に硬化面が形成される道路跡である。

ＳＤ－０２０（第106図，図版45）

調査区北端部でSD-019の外側に隣接して検出されたが，反対側は調査区外である。規模は調査区内検出長さ1.8m程・上端幅0.5m以上・下端幅0.3m以上で，SD-019の側溝或いは重複する道路跡の可能性が考えられる。覆土中から常滑片口鉢・甕片(35)(13世紀後葉)が出土した。

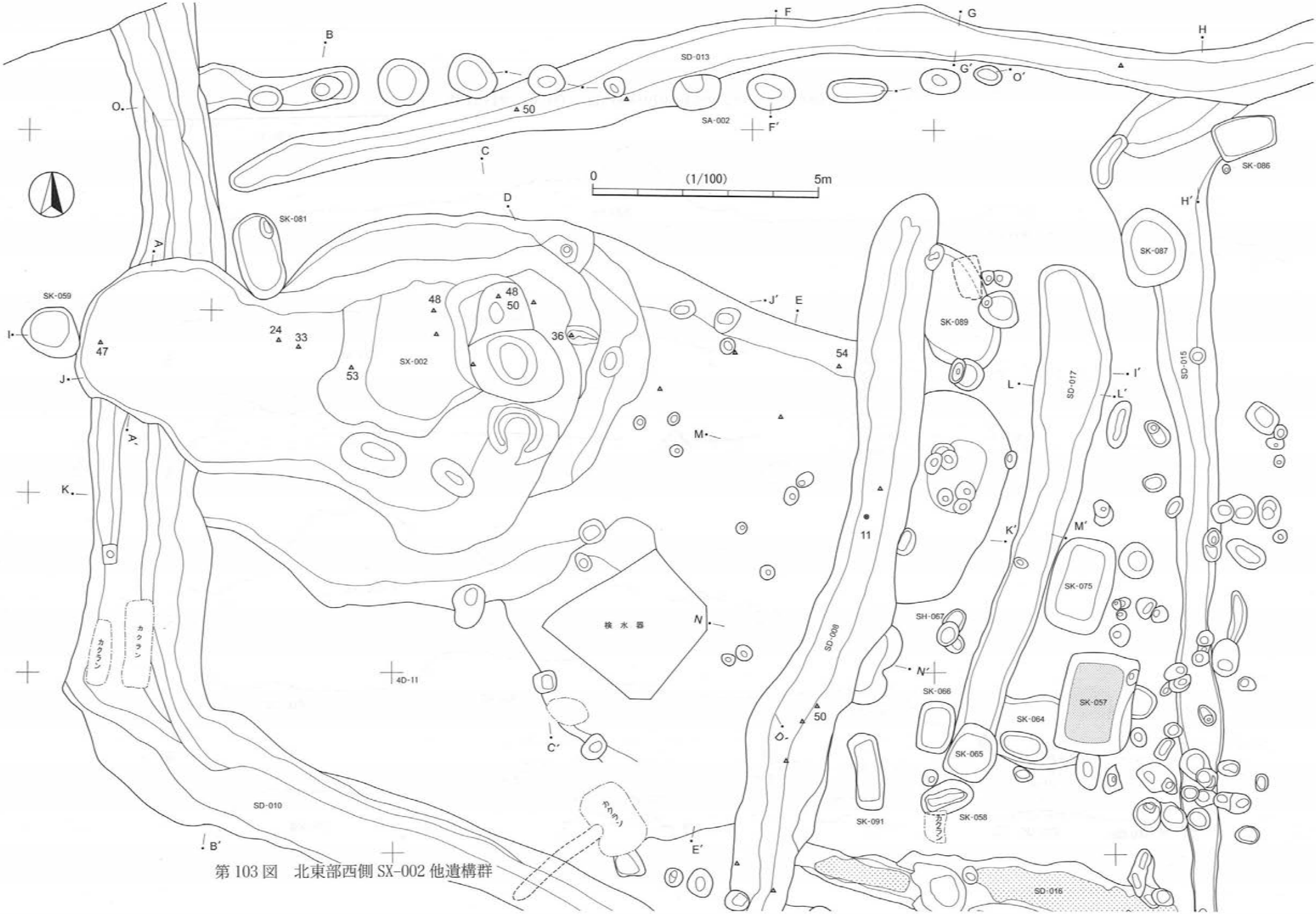
(2) 台地整形区画

ＳＸ－００１（第111図，図版35・41）

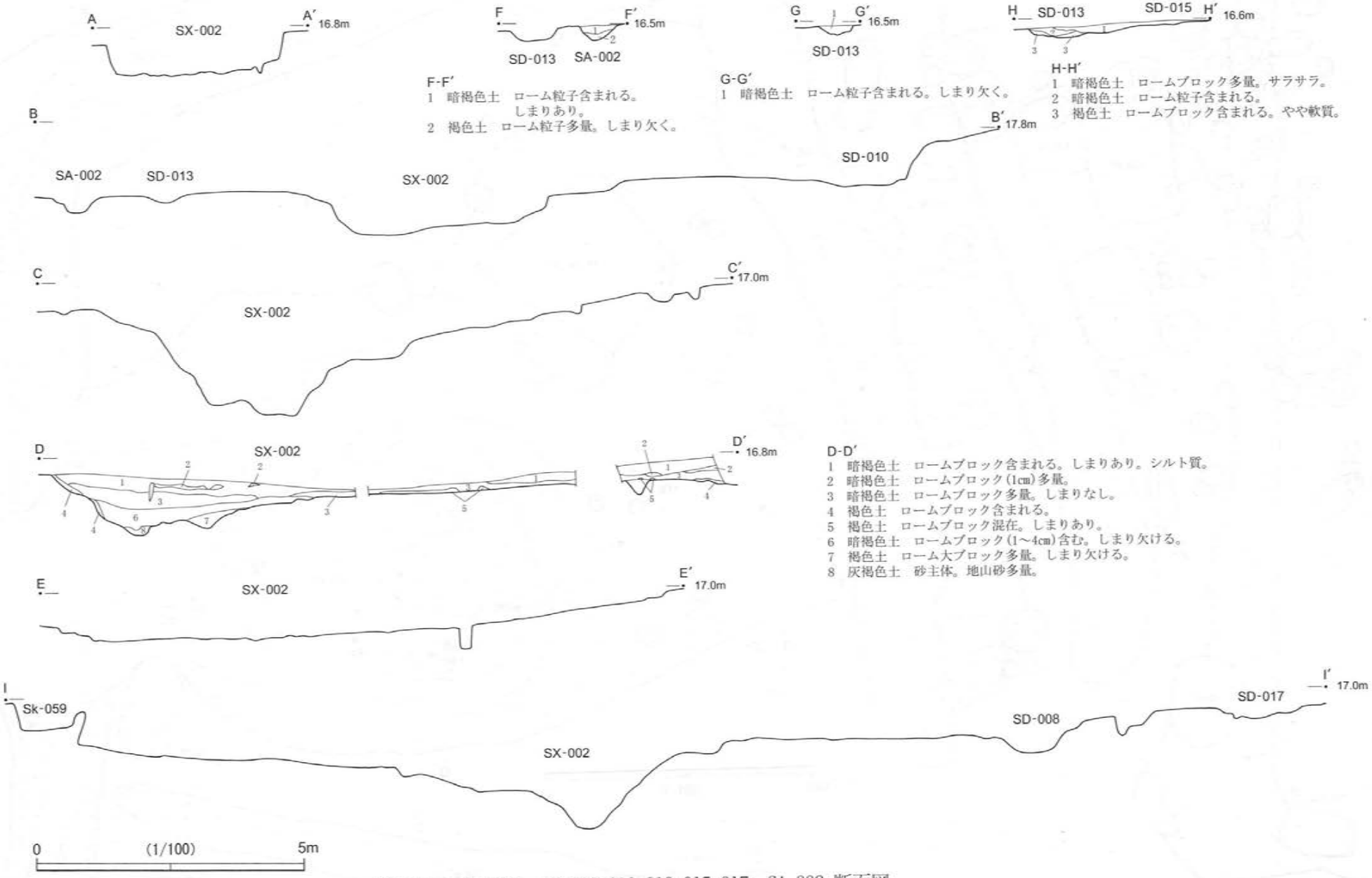
調査区中央部東側に位置する半円形の区画で，南東側はSD-008に接する。短軸5m・長軸15m，残存面積約60㎡で，全体的には段状に整形された円形の浅い掘り込みとなるようである。この区画内には土坑3基(SK-045・046・047)，ピット群(12～16基)，溝1条が確認できる。溝SD-008と区画SX-001の切り合いについては調査時には確認できなかったが，おそらく同時期のものではなく，概ね溝のほうが新しいと考えられる。と仮定すると，SD-008内に検出された土坑1基(SK-049)・ピット群(23基ほど)も，本来はSX-001に伴う遺構であり，SD-008の南東側の土坑(SK-048・SK-084)・ピット6基等も関連する可能性が考えられる。

ＳＸ－００２（第103～105図，図版36～38・43）

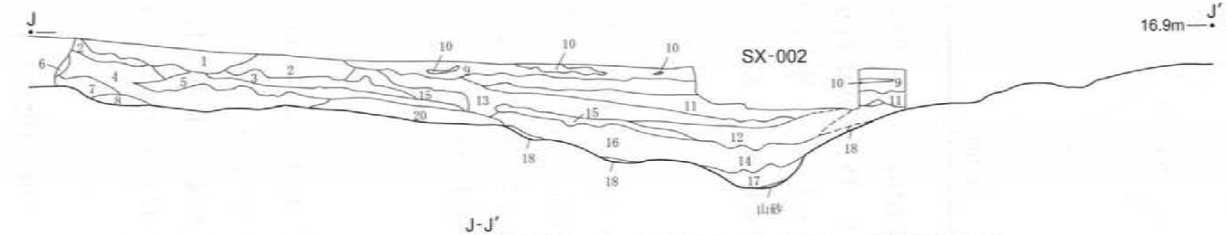
調査区北東部西寄り3D・4Dにかかり，屈曲するSD-010の外側の段整形とSD-008・013に囲まれた地山整形区画である。規模は，短軸9.5m～13m・長軸17m・深さ0.5m～1.5mである。西端部はSD-010と切り合い，中心部には短軸6.5m・長軸12.5mの不整楕円形の落ち込みが存在し，内部には土坑状の穴が複数存在する。覆土はロームブロックを多く含む人為的埋土の様相である。また，東側平坦面は細かい凹凸が多く，17基ほどの小ピットが検出されたが，明確には並ばない。遺物は，覆土中から須恵



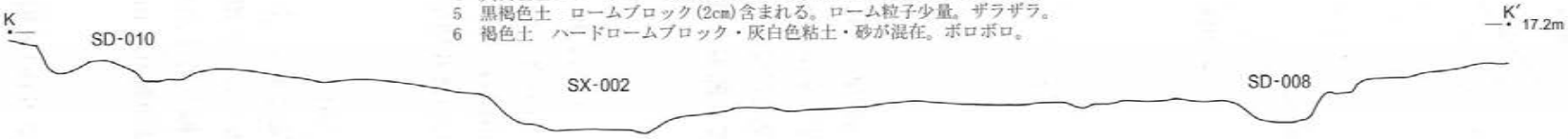
第 103 図　北東部西側 SX-002 他遺構群



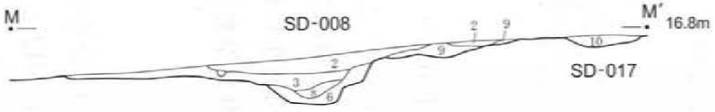
第104図 SX-002, SD-008・010・013・015・017, SA-002 断面図



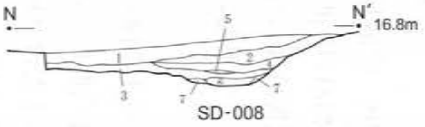
J-J′
1 黒褐色土　ローム粒子多量。しまりあり。ザラザラした感じ。
2 黒褐色土　ハードロームブロック(1～5cm)含む。しまりあり。
3 褐色土　ローム粒子・ハードロームブロック主体。しまりあり。(SD-010覆土)
4 黄褐色土　ハードローム大ブロック主体。黒色土含まれる。ボロボロ。
5 黒褐色土　ロームブロック(2cm)含まれる。ローム粒子少量。ザラザラ。
6 褐色土　ハードロームブロック・灰白色粘土・砂が混在。ボロボロ。
7 灰褐色土　灰色砂質ローム主体。しまり弱い。
8 黄褐色土　ハードローム大ブロック主体。黒褐色土含まれる。しまり弱い。
9 暗褐色土　ロームブロック多量。しまり・粘性あり。
10 暗褐色土　ロームブロック(2cm)多量。
11 暗褐色土　ロームブロック(5mm)多量。しまり欠ける。
12 暗褐色土　11層に比べ明るい。
13 暗褐色土　ロームブロック(5mm)多量。しまり欠ける。
14 褐色土　ロームブロック多量。
15 褐色土　14層に比べロームブロック多量。
16 褐色土　ロームブロック(～10mm)多量。
17 褐色土　ロームブロック(～5cm)多量。
18 灰褐色土　明灰褐色砂多量。
19 暗褐色土　ロームブロック(1～3cm)含まれる。しまりあり。
20 黒褐色土　ローム粒混在。しまりあり。

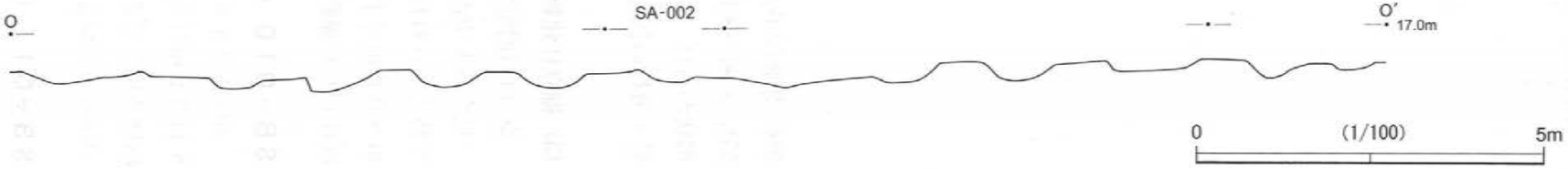


L-L′
1 黒褐色土　ローム粒子含まれる。しまりふつう。
2 褐色土　ローム粒子・ハードロームブロック含まれる。しまりふつう。

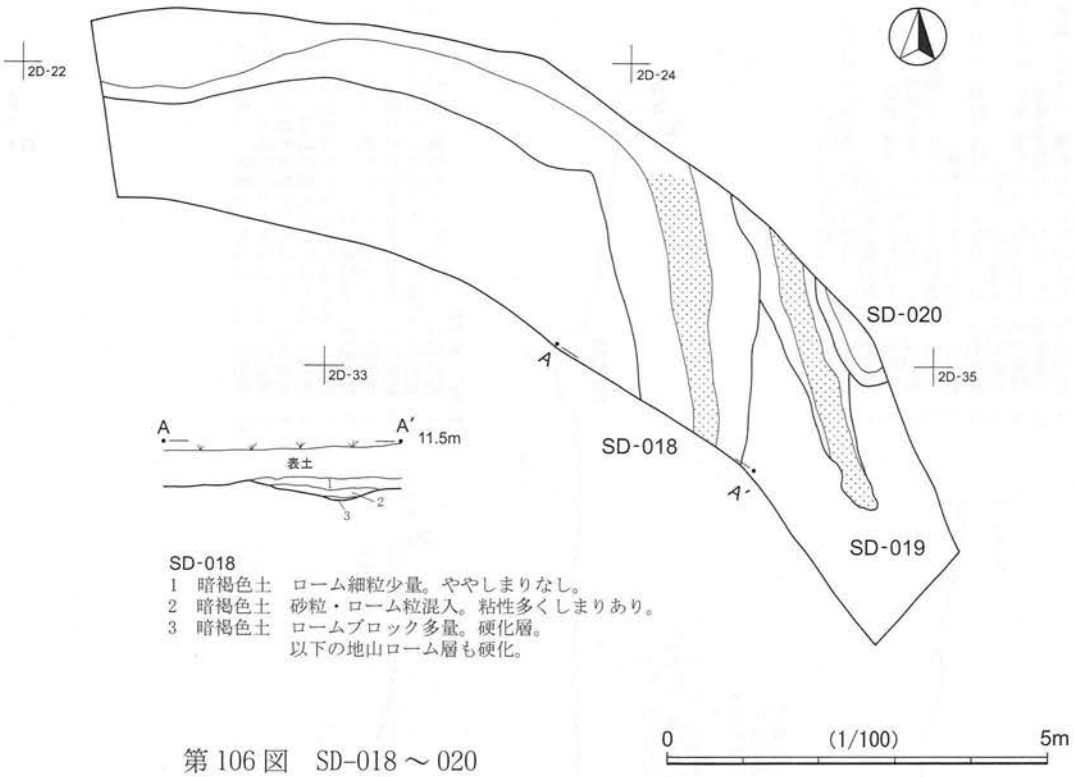


N-N′，M-M′
1 暗褐色土　ロームブロック多量。粘性あり。しまりあり。
2 褐色土～暗褐色土　ロームブロック多量。しまりあり。
3 暗褐色土　ロームブロック含まれる。
4 暗褐色土　ロームブロック多量。しまり欠ける。
5 暗褐色土　炭含まれる。
6 褐色土　ロームブロック・砂含まれる。
7 褐色土　ロームブロック含まれる。
8 暗褐色土　ロームブロック含まれる。
9 褐色土　ロームブロック含まれる。しまり欠ける。
10 褐色土　ロームブロック多量。しまりあり。





第105図　SX-002，SD-008・010・017，SA-002 断面図



第106図 SD-018～020

器転用砥石(60～69)，常滑片口鉢(24～26，32，33)・甕(36，45，50)(14世紀前半)・転用砥石(52～55)，古瀬戸後期擂鉢(8)(15世紀後半)，近世陶器(12)，刀子等(84，87)が出土し，特に転用砥石は数多い。形状からは，粘土採掘坑或いは井戸の可能性があり，埋没過程で遺物が投棄されたことが考えられる。遺構・遺物の状況から，平坦部のピット群は作業小屋としての簡易な建物の存在も推測できる。

(3) 掘立柱建物跡（第107図）

掘立柱建物跡の柱穴群は，西はSD-017を境に，グリッドでは4D-05・15ラインから東側に集中する。一見すると東西2群または2棟(SB-011・012とSB-014・015)として捉えられるが，いずれも幾度もの立て替えが行われ，調査区境でもあることから，柱間も個々の組み合わせは判然としない。各柱穴の径は0.3m～0.6mで平均0.5m程が多い。組まれると推定できたのは6棟であるが，推定線外の柱穴については間仕切りや縁側等の張り出し部の柱等が考えられる。

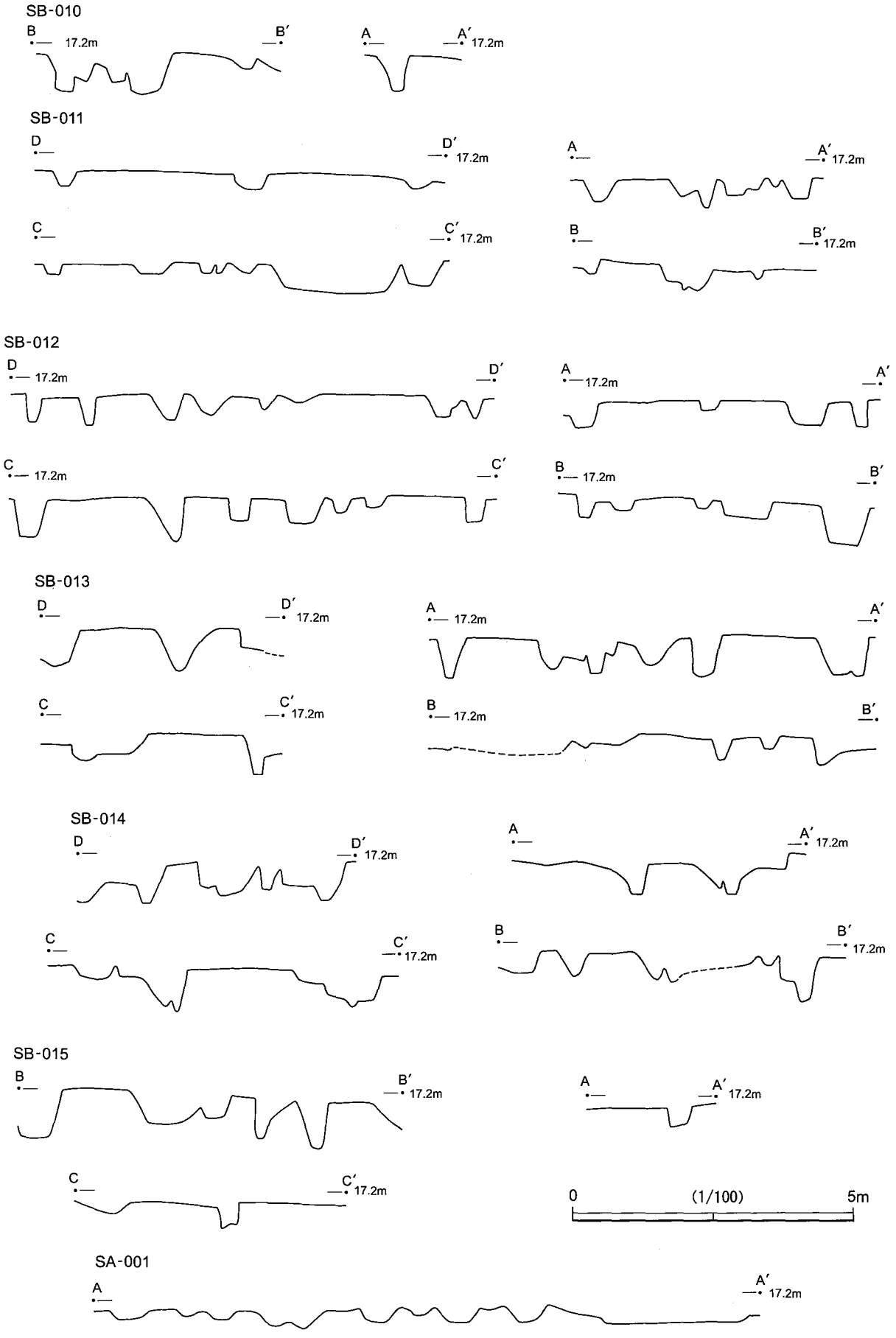
ＳＢ－０１０（含：ＳＨ－０５０）(第107・108図，図版34)

4D-34グリッドに一部がかかるが，殆どが調査区外に推定される。主軸はN-57°-E，またはN -33°-W，梁行・桁行3.9m以上の方形で，柱穴の深さ0.7mである。北辺のピット覆土はロームブロックを多く含む人為的埋め戻しである。なお，SH-050は，左右に段差を有し掘り方または柱を抜き取りが推測され，SB-010の柱穴の一つと考えられる。平面形は不整楕円形，規模は短軸0.8m・長軸2.07m・深さ0.7mである。

ＳＢ－０１１（第107・108図，図版34・42）

建物群の西端部に位置する。主軸N-13°-E，梁行2間(3.6m)×桁行2間(6.2m)の縦長方形で，柱穴の深さは0.2m～0.5m，平均0.4mである。南側に東西に並ぶピット群は庇或いは縁側部の可能性が考えられる。

第 107 図　北東部東側掘立柱建物跡他遺構群



第 108 図　SB-010 ～ 015, SA-001 断面図

ＳＢ－０１２（第107・108図，図版34）

SB-011の東側に重複する。主軸はN-14°-E，梁行2間(4.6～4.9m)×桁行4間か(7.8～7.9m)の縦長方形で，柱穴の深さは0.2m～07m，平均0.5mである。南側に東西に並ぶピット群は庇或いは縁側部，内部のピット群は間仕切りの柱穴の可能性も考えられるが判然とせず，やや小規模な桁行6m程の規模も考えられる。

ＳＢ－０１３（第107・108図，図版34）

SB-012の北東部に重複する。主軸はN-75°-W，梁行2間(3.5m)×桁行4間(7.2m)の横長方形で，柱穴の深さは0.2m～0.7m，平均0.7mである。内部のピット群は間仕切りの柱穴の可能性も考えられるが判然としない。

ＳＢ－０１４（含：**ＳＨ－０８２**）(第107・108・113図，図版34)

SB-013の東部に重複する。主軸はN-65°-W，梁行3間(5.2m)×桁行3間(5.5m)のほぼ正方形で，柱穴の深さは0.5m～0.8m，平均0.7mである。内部のピット群は間仕切りの柱穴の可能性も考えられるが判然としない。周辺の建物と主軸がややずれるが，柱穴の並びからは確実に存在した建物である。なお，SH-082は，SB-014の南西隅に位置し，内部に段差があることから，掘り方または柱を抜き取られた柱穴と考えられる。平面形は楕円形，規模は短軸0.8m・長軸1.8m・深さ0.62mである。覆土上層から古墳時代後期土師器甕(第97図32)の大型破片が出土していることから，概期の遺構の可能性もある。

ＳＢ－０１５（第107・108図，図版34）

SB-014の東部に重複する形で，東部は調査区外に推定できる。主軸はN -80°-W，梁行2間(3.9m)×桁行3間か(6.0m)の横長方形で，柱穴の深さは0.4m～0.9m，平均0.7mである。内部のピット群は間仕切りの柱穴の可能性も考えられるが判然としない。

(4) 柵列

ＳＡ－００１（第102・107・108図，図版43）

４Ｄグリッド内にあり，長さ9～11m，深さは0.15m～0.3mと浅い。主軸はN-73°-Wで，その方向は併走するSD-010や中世掘立柱建物跡群と軸をほぼ同じにする。屋敷周縁部に設けられた柵列の痕跡と考えられる。しかし，現状では掘り込みが非常に浅く，最も深いのは南東端のピット(径0.8m・深さ0.32m，黒褐色土主体)で西方向のピットほど浅くなり，最後は自然消滅する。溝同様，本来の掘り込み時の地山を調査時に削平したためと考えられる。

ＳＡ－００２（第102～105図，図版44）

調査区北東部北側3D-70ラインでSD-013と交差する様に検出された長さ12mほどのピット列である。各ピットの径は0.6m～1.0m，深さは0.2mほどであるが，浅い理由はSA-001と同様と考えられる。

(5) その他の柱穴・ピット

ＳＨ－０６７（第103・107・112図）

4D-04グリッドに位置する。SD-017の西側で検出された重複する3基のピットまたは抜き取り痕跡である。規模は短軸0.42ｍ・長軸0.9ｍ・深さ0.34ｍである。覆土は上層がロームブロックを多く含む黒褐色土，下層はしまりのある黒褐色土である。

他に調査区内で無番号の柱穴・ピットは，掘立柱建物域を除き約50基検出された。

(6) 土　坑

南西部はSD-002の東側に沿って複数の土坑が検出され，中央部は中・近世遺構が希薄な地区であるが，原始・古代竪穴住居跡の覆土に掘り込まれた浅い土坑が存在したことが推測され，北東部は建物域を中心とした中世遺構の集中区である。土坑には，方形竪穴遺構(SK-056・075・076)・粘土貼土坑(SK-057・070・071)を含むが，遺構番号順に説明することとする。

ＳＫ－００１（第100・109図，図版46）

調査区南西部で4C-50・51グリッドに位置する。平面形は不整楕円形，規模は短軸1.5ｍ・長軸2.8ｍで，全体では数cmの浅い掘り込みで凹凸があり，覆土はしまりがある。また，端部に径0.9ｍ・深さ0.68ｍの土坑状の穴が掘られている。SK-001・002，008～013は，SD-002に接する様に検出された。

ＳＫ－００２（第100・109図）

4C-60グリッドに位置する。平面形は楕円形，規模は短軸0.7ｍ・長軸0.95ｍ・深さ0.23ｍである。覆土中から常滑甕片(48)が出土した。

ＳＫ－００８（第100・109図，図版39・46）

4C-32グリッドに位置する。平面形は2基が重複した不整長方形，規模は短軸1.2ｍ・長軸2.1ｍ・深さ0.87ｍである。覆土観察から，円形土坑埋没後に方形土坑が掘り込まれたことが判明した。

ＳＫ－００９（第100・109図，図版39・46）

4C-32グリッドに位置し，SK-008の北側に隣接する。平面形は円形，規模は径1.0ｍ程・深さ0.58ｍである。覆土はロームブロックを多く含む黒褐色土である。

ＳＫ－０１０（第100・109図，図版46）

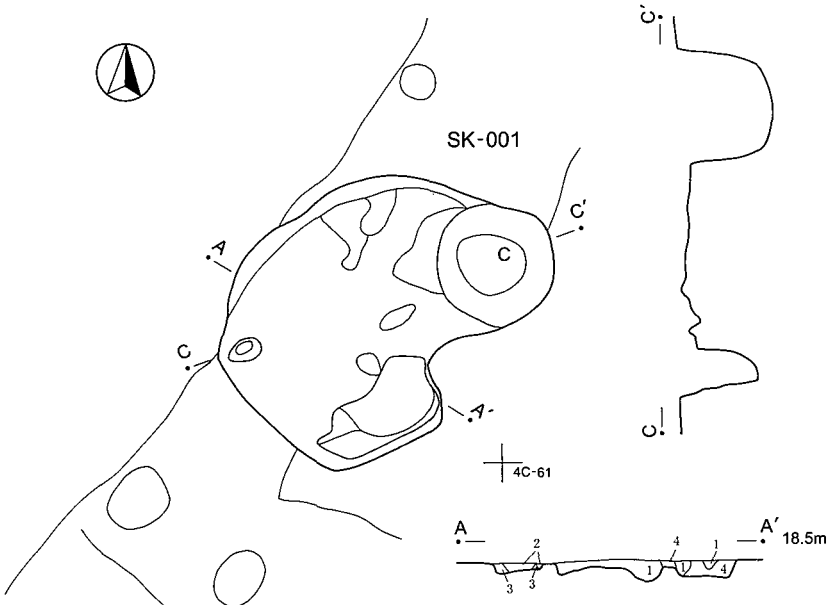
4C-41グリッドに位置する。平面形は円形，規模は短軸0.96ｍ・長軸1.04ｍ・深さ0.64ｍである。覆土はロームブロックを多く含む黒褐色土である。

ＳＫ－０１１（第100・109図，図版39・46）

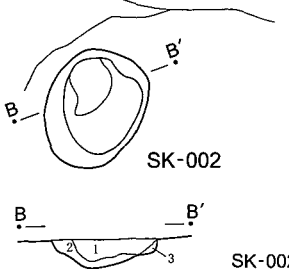
4C-22グリッドに位置する。平面形は方形，規模は短軸1.23ｍ・長軸1.44ｍ・深さ0.64ｍである。覆土はしまりの弱いロームブロック主体で人為的埋土の様相である。中・近世擂鉢片が出土した。

ＳＫ－０１２（第100・109図，図版39・46）

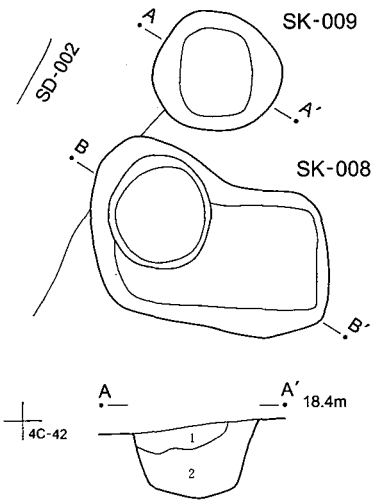
4C-13グリッドに位置する。平面形は円形，規模は短軸0.97ｍ・長軸1.1ｍ・深さ0.5ｍである。



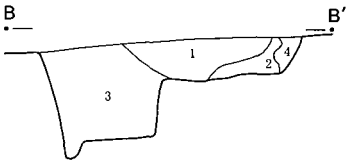
SK-001
1 褐色土　ロームブロック含まれる。硬くしまる。
2 褐色土　ローム粒子少量。しまりあり。
3 明褐色土　ローム粒子多量。硬くしまる。
4 黄褐色土　ロームブロック含まれる。しまりなし。



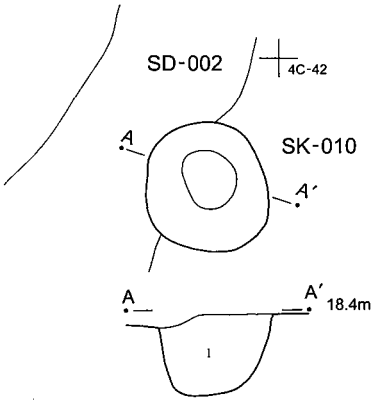
SK-002
1 暗褐色土　ローム粒子含まれる。しまりあり。
2 黄褐色土　ローム粒子多量。
3 明黄褐色土　ローム粒子多量。暗褐色土斑点状に含まれる。



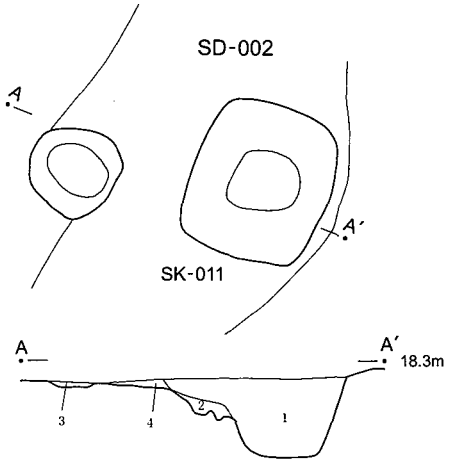
SK-008
1 黒褐色土　ロームブロック多量。
2 黒褐色土　ロームブロック多量。



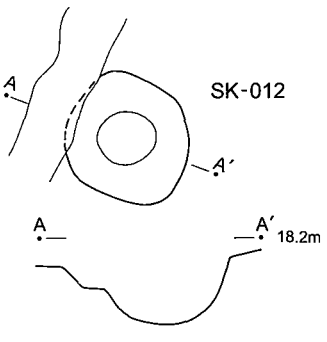
SK-008
1 暗褐色土　ロームブロック多量。しまりあり。
2 黒褐色土　ロームブロック少量。
3 黒褐色土　ロームブロック多量。
4 褐色土　　ロームブロック多量。

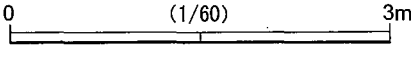


SK-010
1 黒褐色土　ロームブロック多量。



SK-011
1 暗褐色土　ロームブロック多量。軟質。
2 黄褐色土　ロームブロック多量。(SD002覆土)
3 明黄褐色土　ロームブロック含まれる。
4 褐色土　　しまりあり。





第109図　SK-001・002・008・009～012

ＳＫ－０１３（第100・110図，図版47）

4C-02グリッド他で，SD-002の調査区北端部に位置する。平面形は楕円形で北部が調査区外で切れ，内部は溝の中に土坑或いはピット状の穴がある。規模は短軸2.15ｍ以上・長軸5.55ｍ以上，深さ0.37ｍである。覆土はロームブロックの多い暗褐色土主体である。その先が台地縁辺部なので，SD-013の排水施設の可能性も想定できる。

ＳＫ－０２２（第100・110図，図版40）

4C-73グリッド他に位置し，SD-009と重複する。平面形は不整長方形，規模は短軸0.8ｍ・長軸2.9ｍ・深さ0.3ｍである。北宋銭(111)が出土した。

ＳＫ－０３０（第110図，図版16）

4C-25グリッドに位置する。規模は短軸0.9ｍ・長軸1.5ｍ・深さ0.67ｍである。古墳時代竪穴住居跡SI-020を切る。覆土はロームブロックを多く含む暗褐色土主体である。

ＳＫ－０４０（第107・110図）

4D-34グリッドに位置し，SH-050に接する。平面形は不整楕円形，規模は短軸1.03ｍ・長軸1.9ｍ・深さ0.46ｍである。覆土はロームブロックを多く含む褐色土で，常滑片口鉢(27，28)・甕片(39，50)(14世紀後半)，砥石(74)が出土した。

ＳＫ－０４１（第107・110図，図版48）

4D-33グリッドに位置する。SD-010と切り合い，平面形は隅丸方形である。上端は短軸1.3ｍ・長軸1.5ｍ，床面は平坦で短軸0.9ｍ・長軸1.2ｍ・深さ0.4ｍである。覆土はロームブロックを多く含む褐色土である。

ＳＫ－０４５（第111図，図版49）

調査区北東部の4D-41グリッドで，台地整形区画SX-001内に位置する。平面形は不整円形，規模は短軸1.25ｍ・長軸1.35ｍ・深さ0.5ｍである。SK-045・046・047はほぼ等間隔で直線的に並ぶ。

ＳＫ－０４６（第111図，図版49）

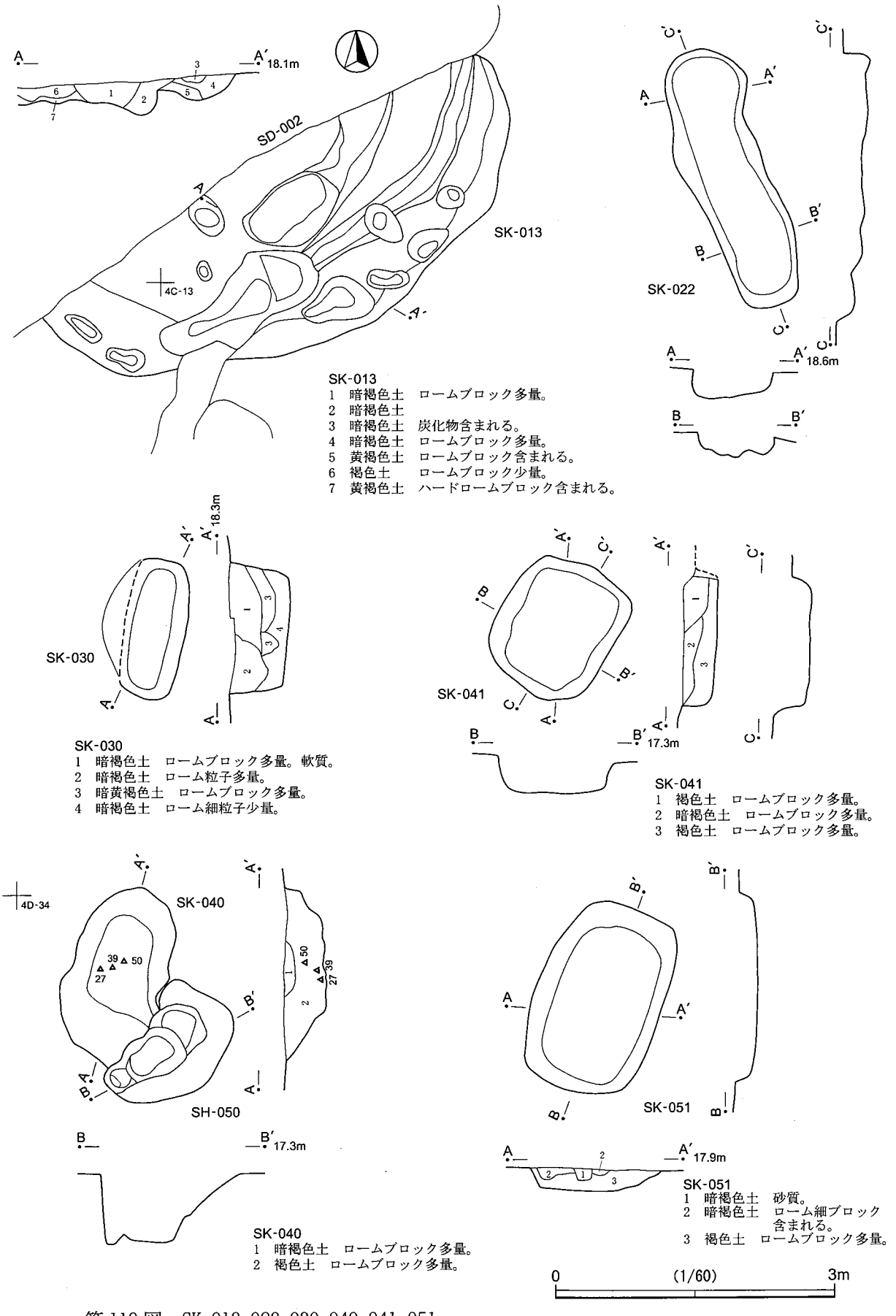
4D-41グリッドで，SX-001内に位置する。平面形は隅丸方形，規模は短軸0.9ｍ・長軸1.2ｍ・深さ0.4ｍである。短辺両端には浅い溝状の掘り込みが認められる。底面は平坦でしっかりしている。

ＳＫ－０４７（第111図，図版49）

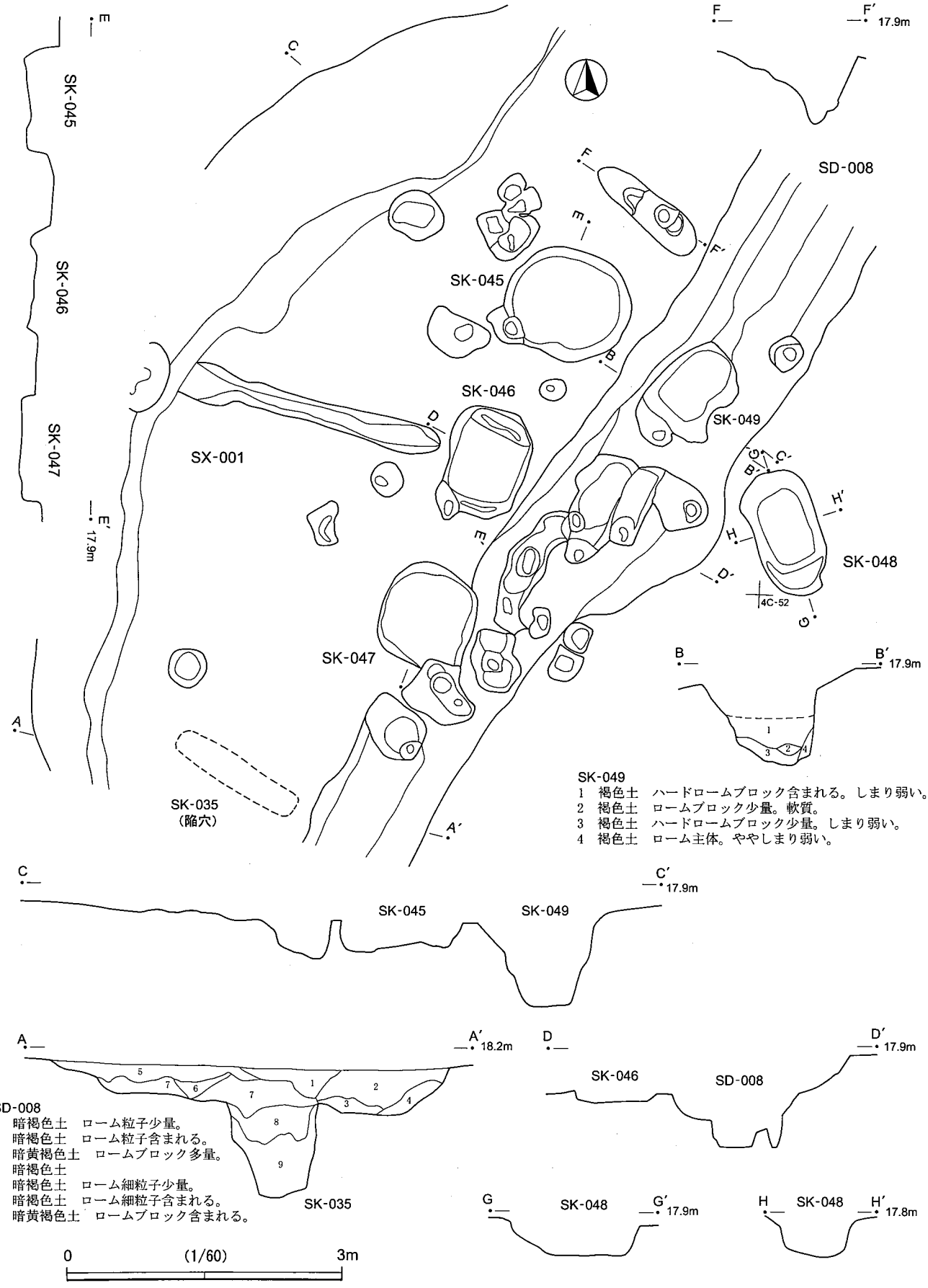
4D-51グリッドで，SX-001内に位置し，一部SD-008と重複する。平面形は隅丸方形で，規模は長軸1.1ｍ・短軸1.0ｍ・深さ0.5ｍである。

ＳＫ－０４８（第111図，図版49）

4D-42グリッドで，SX-001からSD-008を挟んで東側に位置する。平面形は隅丸方形，短軸0.7ｍ・長軸1.42ｍ・深さ0.4ｍであるが，土坑2基が切り合う。



第110図 SK-013・022・030・040・041・051



第 111 図 SX-001, SK-045 ～ 049, SD-008

ＳＫ－０４９（第111図）

4D-41グリッドで，SD-008内に位置する。平面形は不整形，短軸0.67ｍ・長軸1.27ｍ・深さ0.97ｍである。

ＳＫ－０５１（第110図，図版49）

4D-20グリッドで，SD-010のコーナー外側付近に位置し，平面形は隅丸長方形，規模は短軸1.32ｍ・東軸2.07ｍ・深さ0.22ｍである。覆土はロームブロックを多く含む暗褐色土主体である。

ＳＫ－０５２（第102図，図版49）

調査区中央部の4C-49グリッドに位置し，竪穴住居跡SI-034・035を切る。平面形は円形，規模は短軸1.1ｍ・長軸1.2ｍ・深さ0.36ｍである。覆土状況はしまりが弱く近世・近代の可能性がある。

ＳＫ－０５３（第102図，図版50）

4C-58グリッドに位置し，竪穴住居跡SI-035･036を切る。平面形は楕円形，規模は短軸1.1ｍ･長軸1.4ｍ･深さ0.73ｍで，断面形は袋状である。覆土はSK-052同様，しまりが弱く近世・近代の可能性がある。

ＳＫ－０５４（第102図，図版50）

4C-69グリッドに位置する。平面形は円形，規模は短軸0.96ｍ・長軸1.0ｍ・深さ0.5ｍである。断面は袋状で覆土はしまりが弱く，近世・近代の可能性がある。

ＳＫ－０５６（第107・112図，図版50）

4D-24グリッドでSD-016の南側に位置する方形竪穴遺構である。平面形は長方形，規模は短軸1.4ｍ・長軸3.77ｍ・深さ0.3ｍである。覆土はロームブロックを多く含み軟質である。

ＳＫ－０５７（第103・107・112図，図版50）

4D-04グリッド他に位置する粘土貼土坑である。SK-075に隣接し，SB-011西側にかかる。平面形は長方形，上端は短軸1.3ｍ・長軸2.3ｍ，下端は短軸1.3ｍ・長軸1.45ｍ・深さ0.5ｍである。覆土は最下層に灰白色砂とロームブロックを混ぜたものを床面に薄く敷き，中層はロームブロック層，上層は黒色土である。唐銭(105)が出土した。

ＳＫ－０５８（第103図）

調査区北東部の4D-13･14グリッドで，SD-017南端部付近に位置する。平面形は長楕円形，規模は短軸0.7ｍ・長軸1.2ｍ・深さ0.6ｍである。常滑甕(50)，近世磁器・土器が出土した。

ＳＫ－０５９（第103・112図）

3C-99グリッドに位置し，SX-002の西端部に接する。平面形は楕円形，規模は短軸1.1ｍ･長軸1.28ｍ･深さ0.47ｍである。覆土はロームブロックを多く含み軟質である。

ＳＫ－０６２（第102図）

調査区東部3D-76グリッドでSD-013に接し，古墳時代後期竪穴住居跡SI-042を切る。平面形は不整円形，規模は短軸0.77ｍ・長軸2.65ｍ・深さ0.3ｍである。覆土中から常滑転用砥石(59)が出土した。

ＳＫ－０６３（第99図，図版50）

調査区北東端の3E-63グリッドに位置し，SD-013内で検出された。平面形は隅丸方形，規模は短軸0.8m・長軸1.4m・深さ0.6mである。

ＳＫ－０６４（第103・112図）

調査区北東部の4D-14グリッドで，SD-017とSK-057の間に位置する。平面形は楕円形，規模は短軸0.56m・長軸1.06m・深さ0.13m，覆土はロームブロックを多く含み軟質である。その周囲は楕円形で短軸1.6m・長軸1.9m以上の浅い落ち込みがあり，一体の土坑の可能性もある。

ＳＫ－０６５（第103・112図）

4D-14グリッドでSD-017の南端部に接する。平面形は隅丸方形，規模は短軸1.02m・長軸1.24m・深さ0.45mである。覆土はロームブロックを多く含む黒褐色土主体で，常滑甕片(41, 43, 50)が出土した。

ＳＫ－０６６（第103・112図）

4D-13･14グリッドに位置し，SD-017の南端部西側に接する。平面形は隅丸長方形，規模は短軸0.88m・長軸1.1m・深さ0.28mである。覆土はロームブロックを多く含む黒色土で常滑甕片が出土した。

ＳＫ－０７０（第107・113図，図版50・51）

3D-96・4D-06グリッドに位置する粘土貼土坑で，SK-076に切られる。平面形は隅丸方形，上端は短軸1.55m・長軸1.8m・深さ0.65mである。覆土には粘土・ロームブロックを多く含む暗灰褐色土で，板碑片と推測される雲母片岩(74)が出土した。

ＳＫ－０７１（第107・112図）

4D-16グリッド他に位置する粘土貼土坑である。SB-014南側に隣接し，一部は調査範囲外である。平面形は方形，上端は短軸1.9m・長軸2.0m，下端は一辺1.30m，粘土底面までの深さ0.55mである。底面から壁面に粘土を貼り付けている。褐色系の粘土で厚さは均一でおよそ10cmである。非常に締まりがある。覆土はローム粒やロームブロックを含む明褐色土で，人為的埋没と考えられる。

ＳＫ－０７２（第107図）

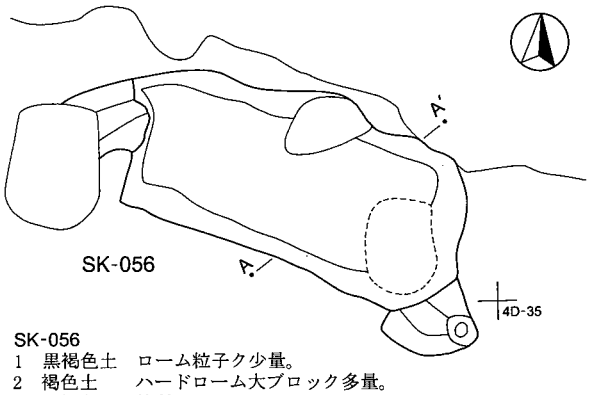
4D-26グリッドに位置し，SB-012の南辺に重複する。平面形は不整楕円形，規模は短軸0.8m･長軸1.2m・深さ0.4mである。

ＳＫ－０７５（第103・107・113図）

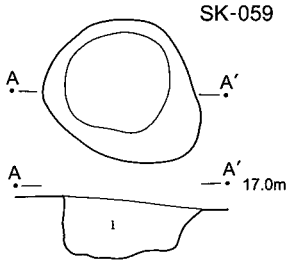
4D-04グリッドでSD-017とSB-011の間に位置する方形竪穴遺構である。平面形は長方形，上端は短軸1.4m・長軸2.1m，下端は短軸0.8m・長軸1.6m，深さ0.6mである。覆土はロームブロックを多く含む黒褐色及び褐色土である。

ＳＫ－０７６（第107・113図，図版51）

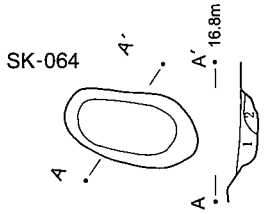
3D-96・4D-06グリッドに位置する方形竪穴遺構である。SB-012・013の北側に隣接し，SK-070を切って掘り込まれている。平面形は隅丸方形，規模は短軸2.1m･長軸3.2m･深さ0.27mで，床面に長さ1.2m・深さ0.4mの溝状の掘り込みが存在する。覆土はローム・粘土ブロックを多く含む。



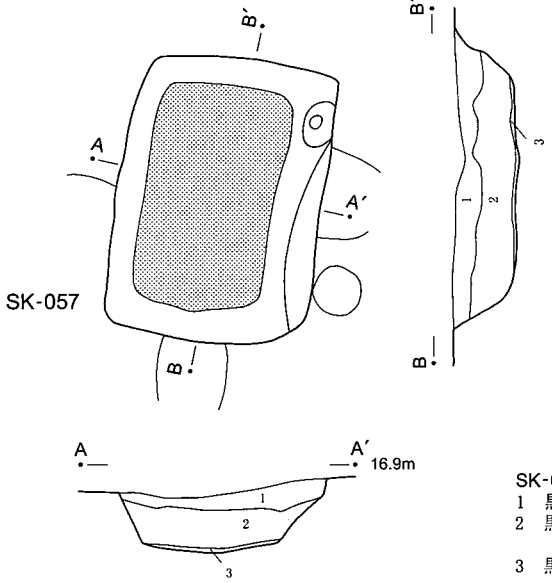
SK-056
1 黒褐色土 ローム粒子ク少量。
2 褐色土 ハードローム大ブロック多量。
3 黒褐色土 軟質。
4 黒褐色土 ローム粒子多量。しまり弱い。



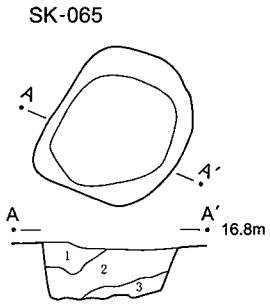
SK-059
1 黒色土 褐色土・ローム粒子・ローム
ブロック含まれる。しまりやや
弱い。



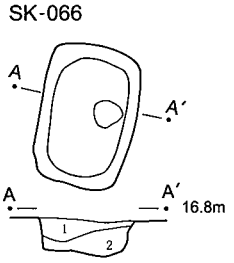
SK-064
1 黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック含まれる。
しまり弱い。



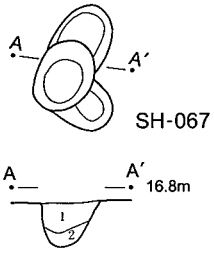
SK-057
1 黒色土 ローム粒子・ローム小ブロック含まれる。しまりあり。
2 黄褐色土 ローム粒子・ハードロームブロック多量。
3 灰白色砂 砂・ロームブロック含まれる。



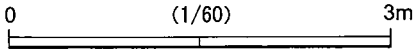
SK-065
1 黒褐色土 ローム粒子・ブロック少量。
2 黒褐色土 ローム粒子・ハードローム
大ブロック多量。
3 黒褐色土 ローム粒子含まれる。

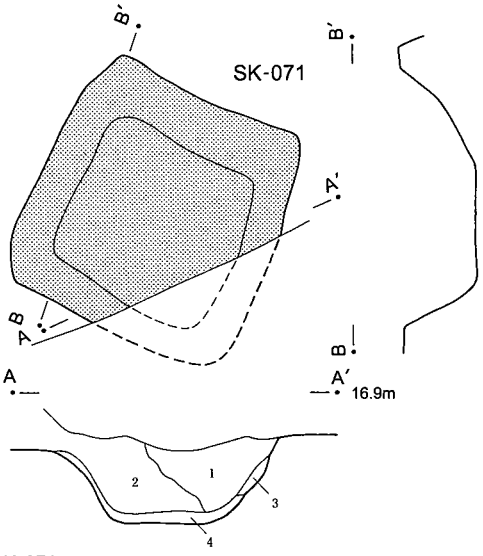


SK-066
1 黒色土 ローム小ブロック少量。
2 黒色土 ハードローム大ブロック
多量。



SH-067
1 黒褐色土 ローム粒子・ハードロームブロック多量。
2 黒褐色土 軟質。しまりあり。





SK-071
1 明褐色土 ロームブロック・ローム粒子・粘土含まれる。
2 褐色土 ローム粒子・粘土ブロック含まれる。
3 灰褐色土 砂多量。
4 褐色土 粘土多量。しまりあり。

第112図 SK-056・057・059・064～066・071, SH-067

ＳＫ－０７７（第107・113図）

4D-16グリッドでSB-012内部に重複する。平面形は楕円形，規模は短軸1.6ｍ・長軸2.0ｍ・深さ0.24ｍである。覆土はロームブロックを多く含む暗褐色土である。SB-012・013の柱穴が重複している。

ＳＫ－０８１（第103・113図，図版51）

3D-80グリッドで，SX-002の北辺のくびれ部に位置する。平面形は長楕円形，規模は短軸0.96ｍ・長軸1.88ｍ・深さ0.74ｍである。北西隅にピットが存在する。SX-002はSK-081を避けて掘削された様相である。

ＳＫ－０８４（第113図）

4D-33グリッドで，SX-001のSD-008を隔てた反対側に位置する。平面形は不整楕円形，規模は短軸0.68ｍ・長軸1.04ｍ・深さ0.47ｍである。南西隅が深くなることから，柱が抜き取られた柱穴の可能性も考えられる。

ＳＫ－０８６（第103図）

3D-75･76グリッドで，SD-015の北端部に位置する。平面形は長方形，規模は短軸0.9ｍ･長軸1.32ｍ･深さ0.2ｍである。浅いことから，近世以降の比較的新しい土坑の可能性がある。

ＳＫ－０８７（第103図）

3D-85グリッドで，SD-015の北端部近くに位置する。平面形は楕円形，規模は短軸1.35ｍ･長軸1.7ｍ･深さ0.1ｍである。SK-086同様浅いことから，比較的新しい土坑の可能性がある。

ＳＫ－０８８（第107図）

3D-95・96グリッドに位置する。SK-076の西側に隣接し，溝状遺構的である。平面形は長方形，規模は短軸1.3ｍ・長軸2.1ｍ・深さ0.1ｍである。或いは，方形竪穴SK-076の出入口施設の可能性も考えられる。

ＳＫ－０８９（第103図）

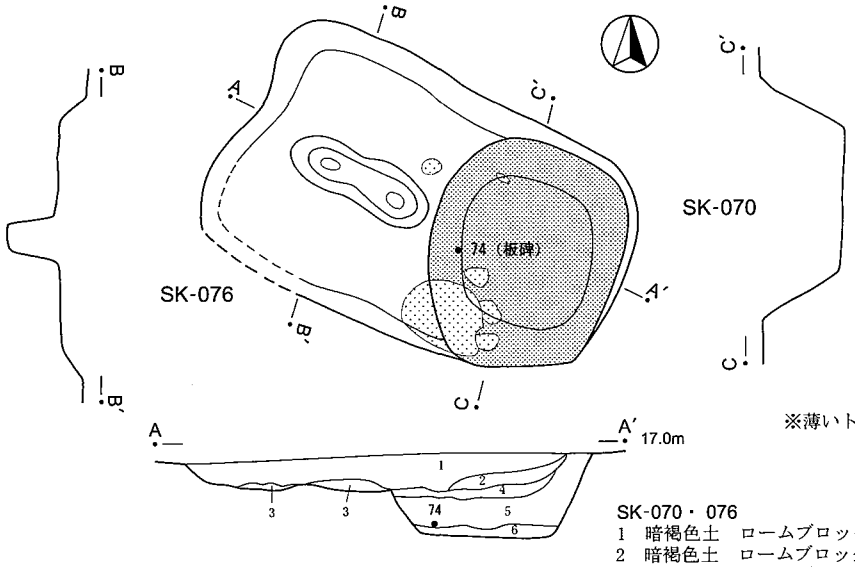
3D-84･94グリッドに位置し，SD-008北部で東側に接する。平面形は楕円形，規模は短軸1.6ｍ･長軸3.0ｍ・深さは0.15ｍと浅い。周囲に小土坑状の穴やピットが掘られている。なお，覆土上層で比較的新しいと判断された馬頭骨が出土したことから，近世以降の馬の埋葬墓の可能性もある。

ＳＫ－０９０（第103図）

3D-93グリッド他に位置し，SK-089の南側でSD-008に接する。平面形は楕円形，規模は短軸2.5ｍ・長軸4.8ｍ・深さは0.25ｍと浅い擂鉢状である。底部を中心に深さ0.7ｍほどのピット群が存在する。

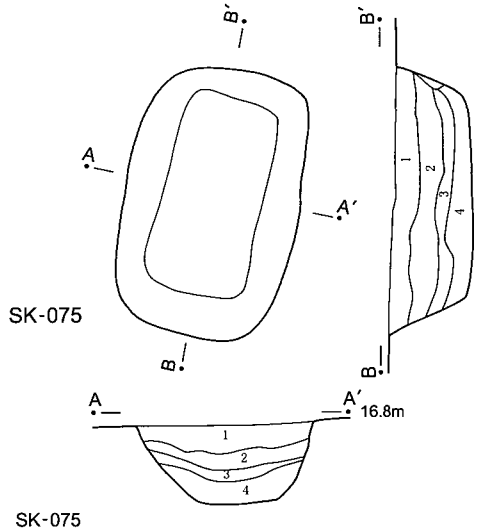
ＳＫ－０９１（第103図）

4D-13グリッドで，SD-008とSD-017南端部の間に位置する。平面形は長方形，規模は短軸0.65ｍ・長軸1.7ｍ・深さは0.5ｍである。形状としては芋穴の可能性もある。

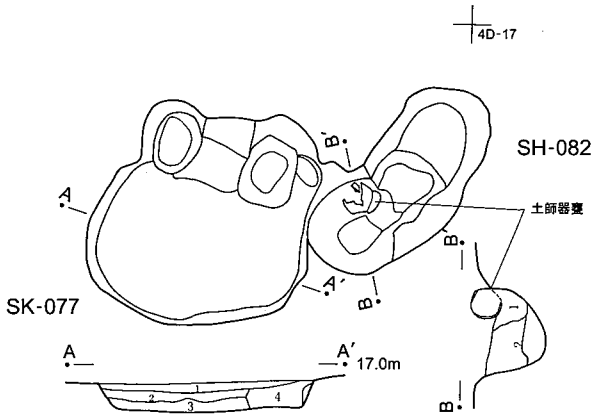


※薄いトーン部分は粘土・焼土塊。

SK-070・076
1 暗褐色土 ロームブロック多量。
2 暗褐色土 ロームブロック・粘土ブロック含まれる。
3 褐色土 ロームブロック主体。
4 暗褐色土 ロームブロック・粘土ブロック多量。硬くしまる。
5 暗灰褐色土 ロームブロック・粘土ブロック多量。粘性強い。
6 暗灰褐色土 粘土ブロック・砂・ローム粒子多量。しまり弱い。

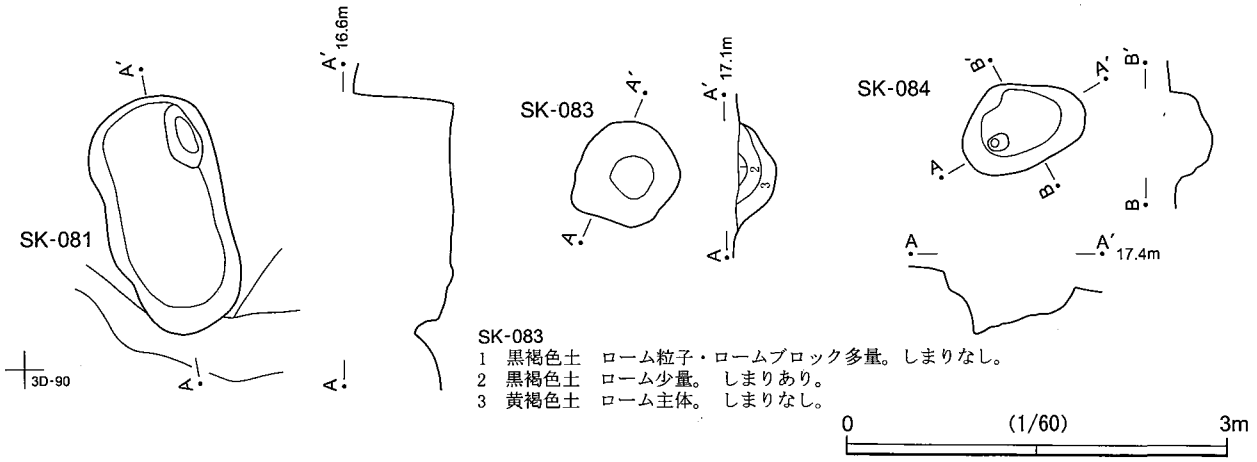


SK-075
1 黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック含まれる。硬質。
2 褐色土 ローム粒子・ハードローム大ブロック多量。
3 黒褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量。
4 褐色土 ローム粒子・ハードローム大ブロック多量。



SK-077
1 黒褐色土 ローム粒子含まれる。
2 褐色土 ロームブロック含まれる。
3 暗褐色土 ロームブロック多量。

SH-082
1 暗褐色土 ロームブロック含む。しまり弱い。
2 褐色土 ロームブロック主体。しまりあり。



SK-083
1 黒褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量。しまりなし。
2 黒褐色土 ローム少量。 しまりあり。
3 黄褐色土 ローム主体。 しまりなし。

0 (1/60) 3m

第113図 SK-070・075～077・081・083・084

ＳＫ－０９２（第102図）

4D-23グリッドで，SD-010とSA-001の間に位置する。平面形は隅丸方形，規模は短軸0.6ｍ・長軸0.9ｍ・深さは0.13ｍである。

ＳＫ－０９３（第102図）

4D-42グリッドに位置し，SX-001の東側で調査区境で一部検出された。平面形は推定楕円形，規模は推定短軸0.7ｍ・長軸1.2ｍ・深さは0.55ｍである。SK-048と同様な土坑に推測されるが，柱穴の可能性もある。

2 遺物

遺物は，遺構の覆土上面からの出土が圧倒的で，同一個体が広域に分布するなど大きく動いており，遺構使用時期のものは極端に少ない。しかし，遺構の集中する北東部(4D グリッド他)には中世遺物が，遺構の空白地区の中央部西寄り(4C グリッド)には近世遺物が多い傾向がある。時期は 13 世紀から 14 世紀にかけてが主体で，近世遺物は 17 世紀前葉以降 19 世紀まであるが小破片が多く，遺構の主体は中世段階と考えられる。なお，個々の遺物の詳細については，各遺物観察表(第 2 分冊第 23～27 表)を参照されたい。

(1) 陶磁器・土器 (第 23 表)

中世陶磁器類は、溝の覆土中から多く出土している。全体的様相としての種類別接合前破片数(割合)は、貿易陶磁 3 点(1.8%)，瀬戸・美濃 4 点(2.4%)，渥美 1 点(0.6%)，常滑 157 点(92.9%)，土器 4 点(在地 3，東海 1)(2.4%)の計 169 破片である。常滑の内訳は，片口鉢 24 点(15.3%)，壺・甕 133 点(84.7%)である。また，近世陶磁器類は 121 点であるが，中世遺跡が後にどう改変を受けたかを推測するためにも，代表的な遺物を図化し写真を掲載した。

貿易陶磁器 (第 114 図，巻頭図版 5，図版 77)

1 は中央部東寄りで出土した中国龍泉窯系青磁蓮弁文碗(太宰府〈横田・森田〉編年Ⅲ類・横地城〈小野〉編年 B0 類)で 13 世紀後半から 14 世紀前半，2 は南西部で出土した同系稜花皿で 15 世紀後半に比定される。他に，貿易陶磁とみられる褐釉壺が中央部東寄りで 1 点出土している。

瀬戸・美濃産陶器 (第 114 図，巻頭図版 5，図版 77)

3 は灰釉縁釉皿で古瀬戸後期Ⅲ期段階(15 世紀前葉)、4・6 は志野丸皿(17 世紀中葉)、5・7 は灰釉輪禿皿(17 世紀代)，8 は鉄釉擂鉢で古瀬戸後Ⅳ期新段階(15 世紀後半)，9 は鉄釉擂鉢(17 世紀後葉)，11 は灰釉瓶子で古瀬戸中期Ⅰ～Ⅱ期(13 世紀末～14 世紀初頭)，12 は鉄釉油徳利(18 世紀)である。また，図化していないもので巻頭カラー図版に掲載したものは，志野丸皿(17 世紀)・錆釉灯明皿(18 世紀後半～19 世紀前半)・灰釉碗(18 世紀)，天目茶碗(18 世紀)・鉄釉壺(時期不明)である。他に，透明釉の碗・皿，鉄釉・灰釉掛分碗，徳利，瓶類，鉄釉壺等があり，近世のものは 4D グリッド出土のものが多い。

常滑産片口鉢 (第 115 図，巻頭図版 6，図版 78)

22～24 は山茶碗同様のロクロ成形と還元炎焼成のⅠ類(全破片 5 点)，25～33 は甕同様の成形技法とほぼ酸化炎焼成のⅡ類(全破片 19 点)である。主に口縁部の形態から，22・26 は 5～6a 型式(13 世紀前葉～13 世紀後葉)，23 は 5 型式(13 世紀前葉)，25 は 6a 型式(13 世紀後葉)，27～29 は 8 型式(14 世紀前半)に推定される。SX-002 からの出土が多い。

常滑産壺・甕 (第 116～118 図，巻頭図版 7・8，図版 79・80・83)

34～39 は口縁 b 部から肩部，40～50 は肩部～胴部破片を図示した。折り返し口縁端部と内面の突出の形態から、34 は 5 型式(13 世紀前葉)，38 は 6a 型式(13 世紀後葉)，35 は 6b 型式(13 世紀末葉)，36・37 は 7 型式(14 世紀前半)，39 は 8 型式(14 世紀後半)に推定される。SX-002，SD-008・016 等からの出土が多い。大甕 50 の同一個体破片は広範囲から出土した。

陶器等転用砥石（第 119・120 図，第 24 表，図版 76・81）

51 は渥美甕，52 ～ 59 は常滑甕，30・32 は常滑片口鉢，60 ～ 71 は須恵器甕，72 は土師器の各破片を再利用した転用砥石で，破損した断面部を使用している。須恵器は 5 ㎝程度のものが多く，陶器は 8 ㎝前後のものが多い。SX-002 から集中して 15 点，SD-008 は 4 点，SD-013 は 2 点出土している。

その他の陶磁器（巻頭図版 5）

図化していないものは主に近世陶磁器であるが，巻頭カラー図版，観察表（第 2 分冊第 23 表），地点別中・近世遺物出土量（第 8 表）を参照されたい。陶器では近世唐津碗・鉢，近世志戸呂壺・瓶類，信楽産灯明皿（19 世紀），堺産擂鉢（18 世紀）等，肥前磁器は 18 世紀中心の白磁皿・染付厚手碗・丸碗・胴張碗，瀬戸・美濃磁器は 19 世紀前半中心で染付碗・皿である。4D グリッド出土のものが多い。

内耳土鍋（第 114 図，図版 82）

16 ～ 18 は，内耳部分の破片を図示した。比較的緻密な胎土と浅い器形から，18 世紀代の所産と考えられる。

カワラケ（第 114 図，図版 82）

量的に僅か 3 点と少量で，13 ～ 15 は胴部から底部のみである。陶磁器同様，中世前半の年代が推定できる。

南伊勢系土鍋（第 114 図，図版 82）

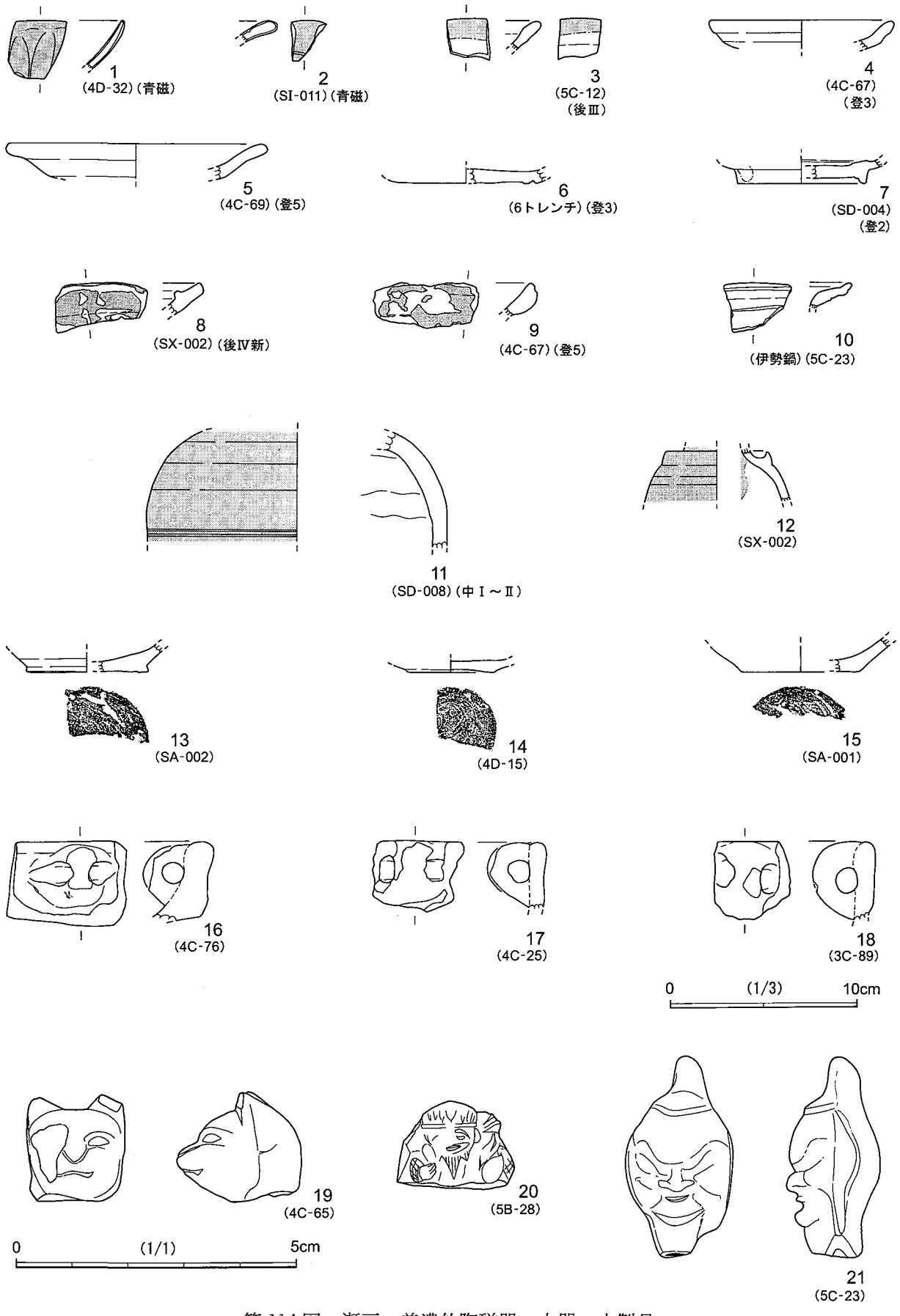
10 は口縁端部が内側に折り返される土鍋の口縁部破片で，胎土は東海系である。15 世紀後半に位置づけられるものである。調査区南西端部で出土した。

土人形（第 114 図，図版 82）

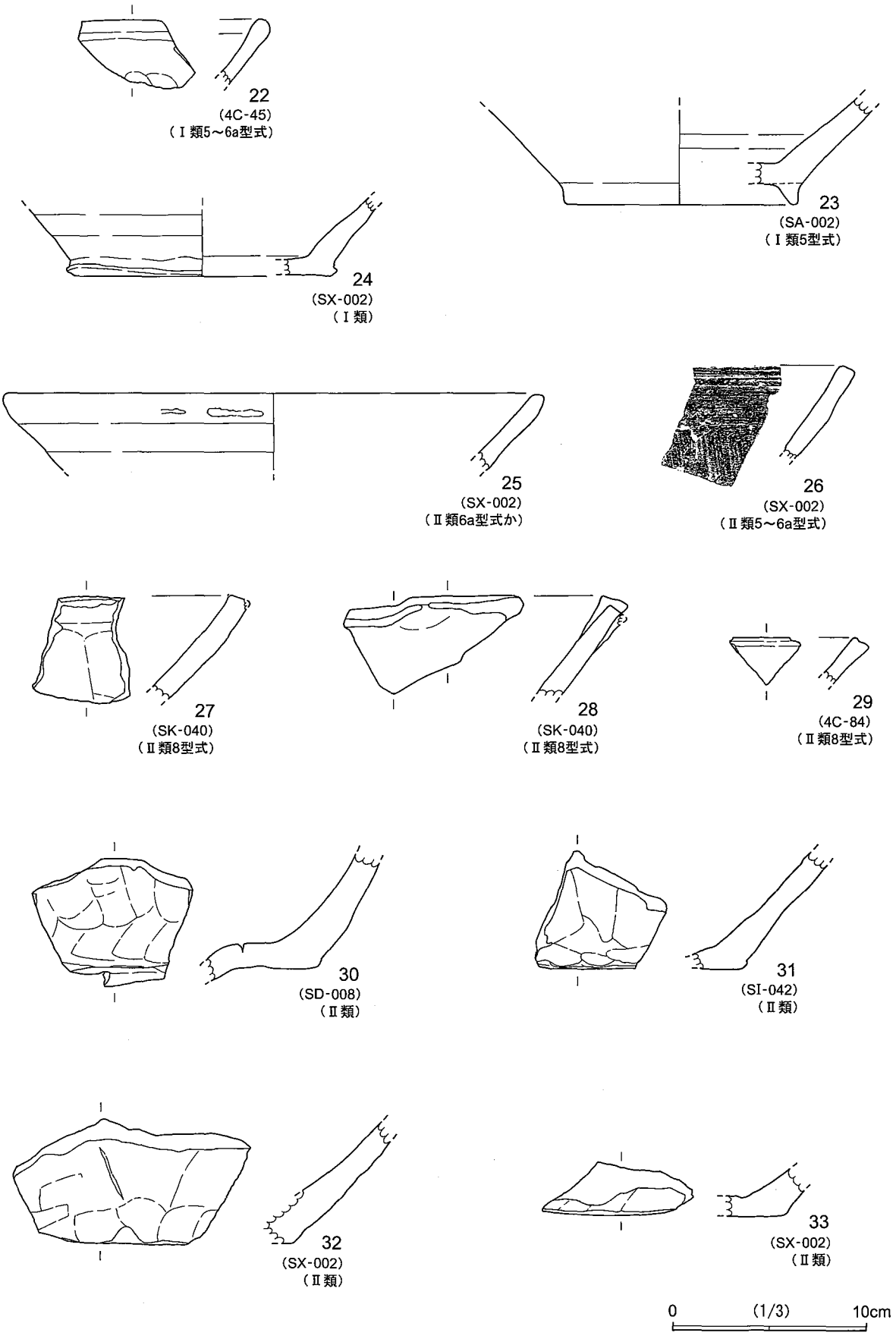
19 は犬の顔部，20 は七福神の一人，21 は異人に推測される。21 の首部は中空で木軸をはめ込むものと想像できる。いずれも型押しして前面と後面を貼り合わせており，18 世紀代の製品と推測される。4C・5B・5C グリッド出土である。

瓦

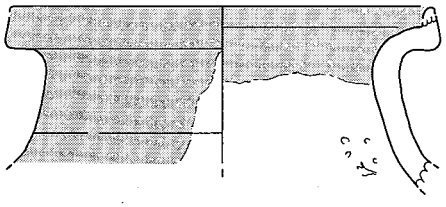
図化していないが，近世後期から近代の所産と考えられる焼成のやや弱い平瓦片が，4C グリッド等で計 15 点出土した。簡易な建物が存在したことが推測される。



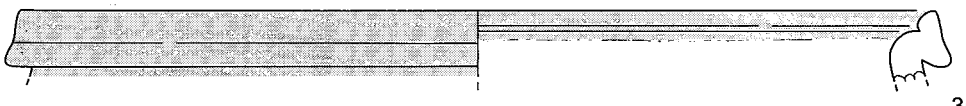
第 114 図　瀬戸・美濃他陶磁器，土器，土製品


22
(4C-45)
(Ⅰ類5～6a型式)
23
(SA-002)
(Ⅰ類5型式)
24
(SX-002)
(Ⅰ類)
25
(SX-002)
(Ⅱ類6a型式か)
26
(SX-002)
(Ⅱ類5～6a型式)
27
(SK-040)
(Ⅱ類8型式)
28
(SK-040)
(Ⅱ類8型式)
29
(4C-84)
(Ⅱ類8型式)
30
(SD-008)
(Ⅱ類)
31
(SI-042)
(Ⅱ類)
32
(SX-002)
(Ⅱ類)
33
(SX-002)
(Ⅱ類)
0
(1/3)
10cm

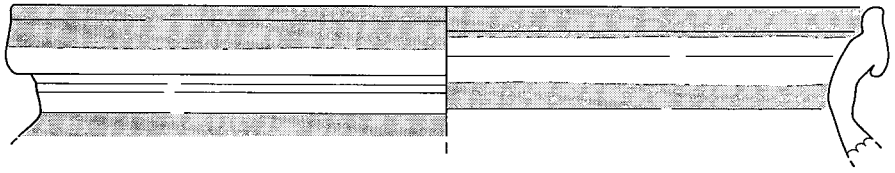
第115図　常滑片口鉢



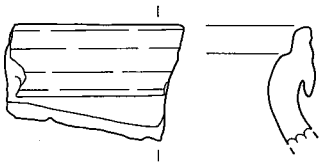
34 (SD-008)(5型式)



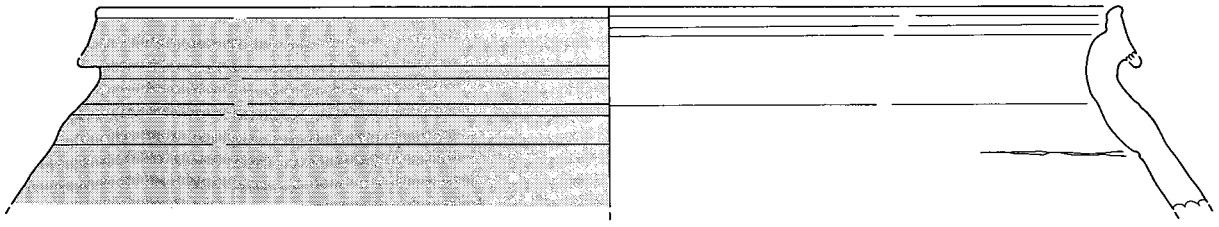
35
(SD-020)(6a型式)



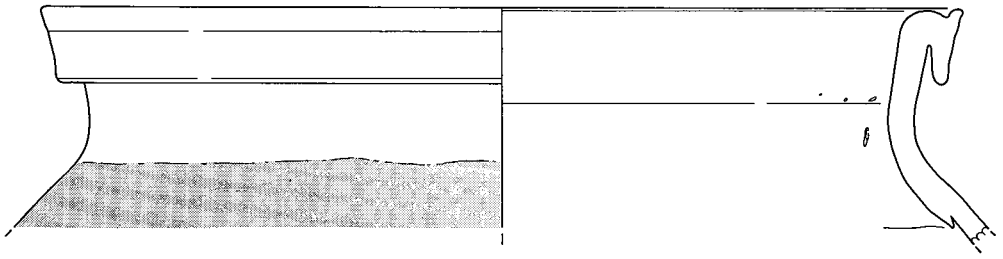
36
(SX-002)(7型式)



37 (SX-002)(7型式)



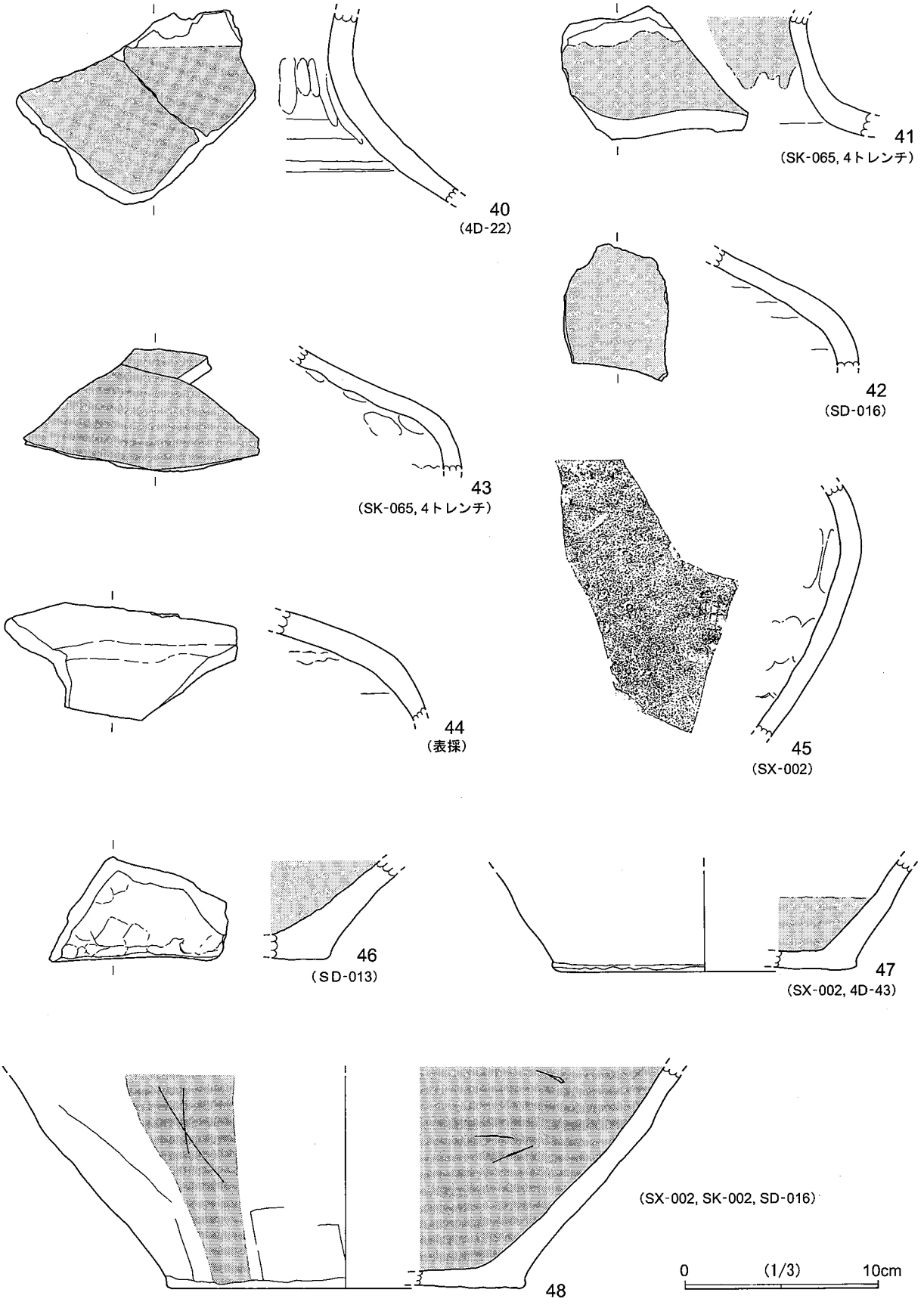
38
(SA-002)
(6a型式)



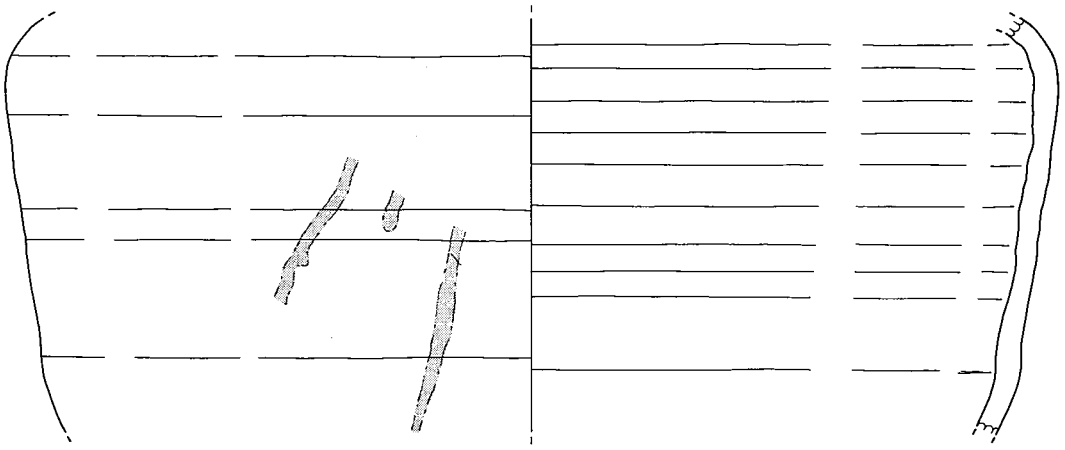
39
(SK-040)
(8型式)

0 (1/3) 10cm

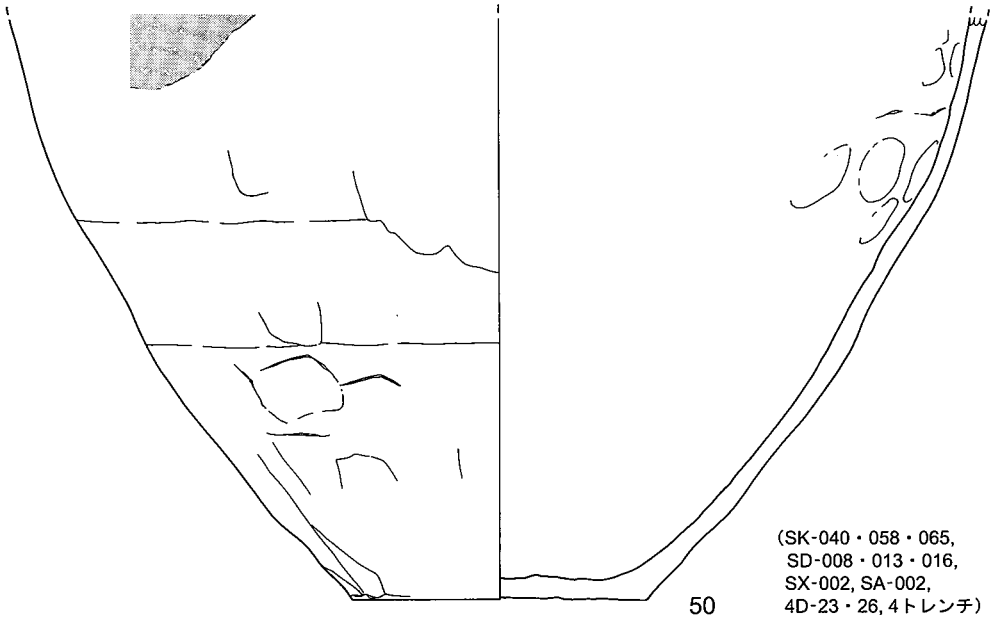
第116図　常滑壺・甕(1)


40
(4D-22)
41
(SK-065, 4トレンチ)
42
(SD-016)
43
(SK-065, 4トレンチ)
44
(表採)
45
(SX-002)
46
(SD-013)
47
(SX-002, 4D-43)
48
(SX-002, SK-002, SD-016)
0
(1/3)
10cm

第117図　常滑壺・甕 (2)



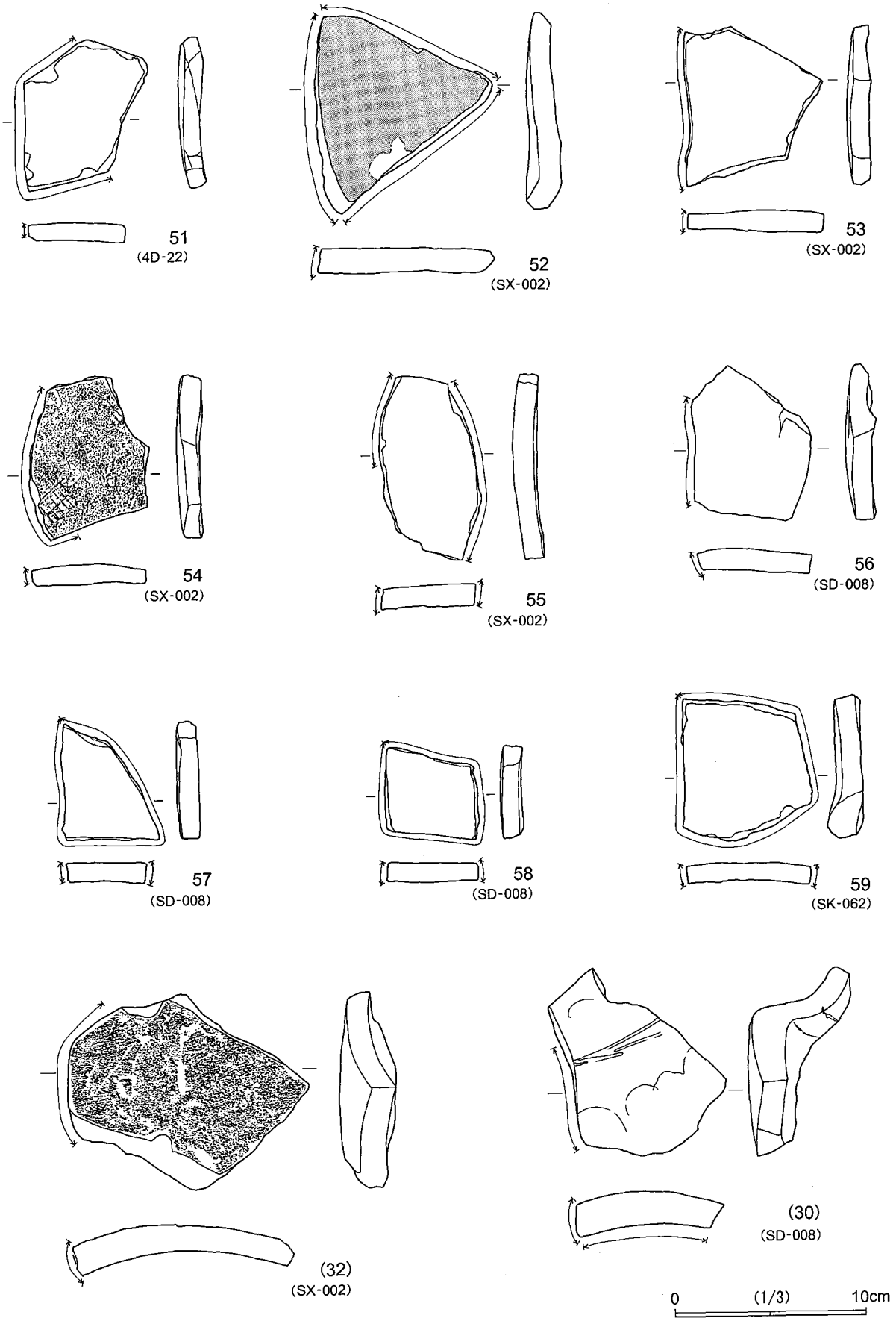
49
(SD-008, SD-010)



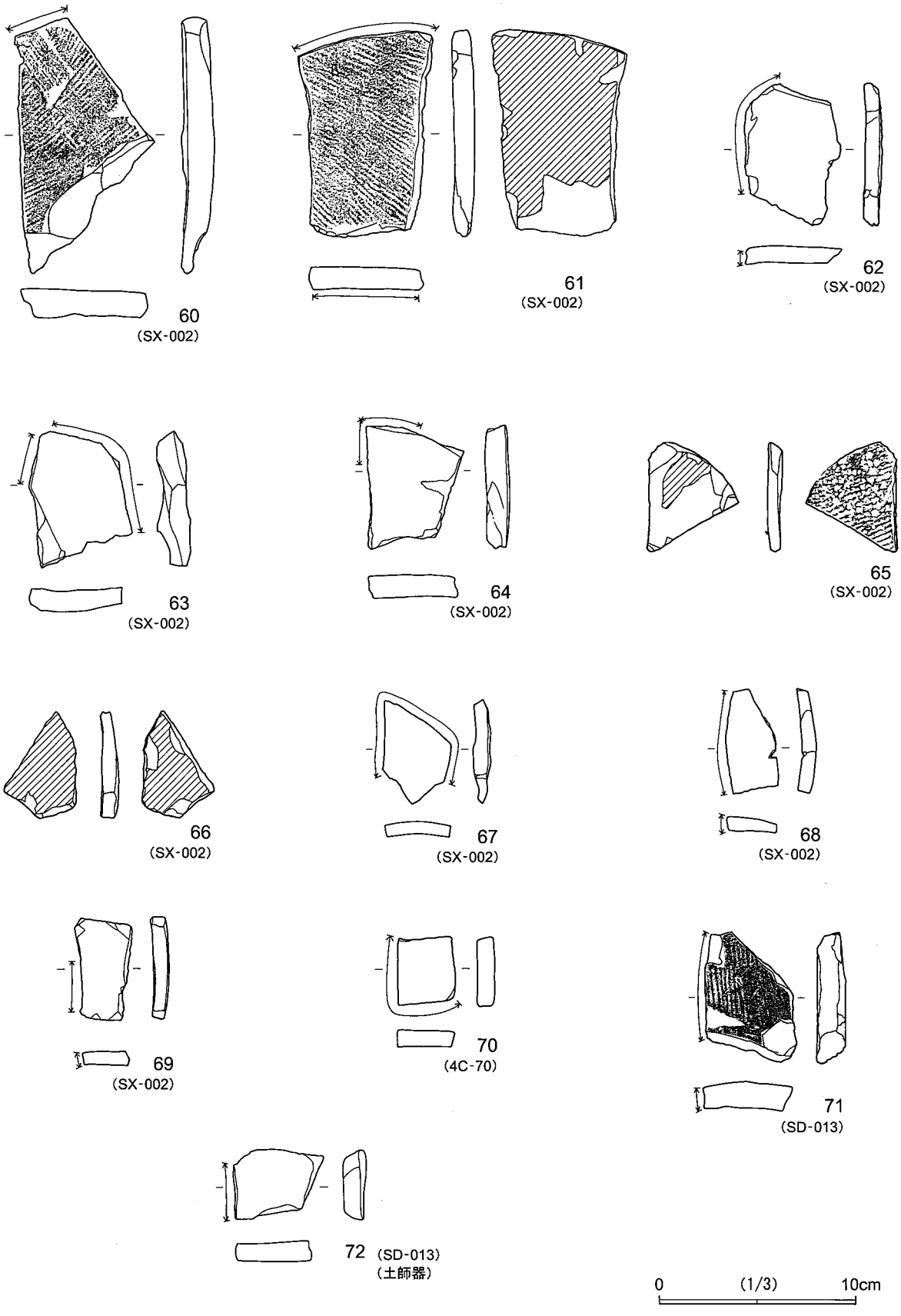
50
(SK-040・058・065,
SD-008・013・016,
SX-002, SA-002,
4D-23・26, 4トレンチ)

0 (1/4) 20cm

第118図　常滑壺・甕 (3)



第 119 図　陶器転用砥石



第120図　須恵器・土師器転用砥石

陶磁器・土器については，一部を巻頭カラー図版に掲載した。下記は挿図番号及び実測外遺物の出土遺構等である。陶磁器類観察表(第2分冊第23表)と合わせて参照されたい。

巻頭図版5　中・近世(1)上　瀬戸・美濃他

1段目　青磁(碗1，皿2)，瀬戸美濃陶器(縁釉小皿3，輪禿皿5，志野丸皿4，6，輪禿皿7，志野皿4C60-1)

2段目　瀬戸美濃陶器(灰釉碗5B-07-1)，唐津碗(4C-31-1)，瀬戸美濃陶器(灯明皿SI-016-3，擂鉢8，9)，堺擂鉢(SI-021-11)，伊勢鍋(10)

3段目　瀬戸美濃瓶子(11)，産地不明陶器(灰釉瓶類SK-033-1)，
瀬戸美濃陶器(油徳利12，天目茶碗4トレンチ-1，鉢SI-009-1)，産地不明陶器(行平SX-002-54)

4段目　肥前白磁輪禿皿4C-60-1，肥前染付磁器(梅樹文厚手碗SD-013-1，
二重網目文厚手碗SD-013-1，胴張碗4C-57-1，不明碗4C-57-1，厚手碗4C-66-1)
瀬戸美濃染付磁器(牡丹唐草文碗SI-37-6，皿4C-60-1)

巻頭図版6　中・近世(2)上　常滑片口鉢

1段目　Ⅰ類口縁部～底部(22，23，24，SX-002-13)

2段目　Ⅱ類口縁部(25，26，27，28，29)

3段目　Ⅱ類胴部～底部(30，31，32，SD-008-12)

巻頭図版7　中・近世(3)上　常滑壺・甕(口縁部～胴部)

1段目　口縁部(31，35，36，37)

2段目　口縁部(38，39，40，41)

3段目　肩部～胴部(42，43，44，SX-002-7，45)

巻頭図版8　中・近世(4)上　常滑壺・甕(胴部～底部)

1段目　常滑壺・甕(49 (SD-008-9・SD-010-2)，SD-013-6，4D-33-2・SD-008-11)

2段目　常滑壺・甕(46)

3段目　常滑壺・甕(47，SX-002-12，48)

(2) 石製品（第2分冊第25表）

板碑（第121図，図版82)

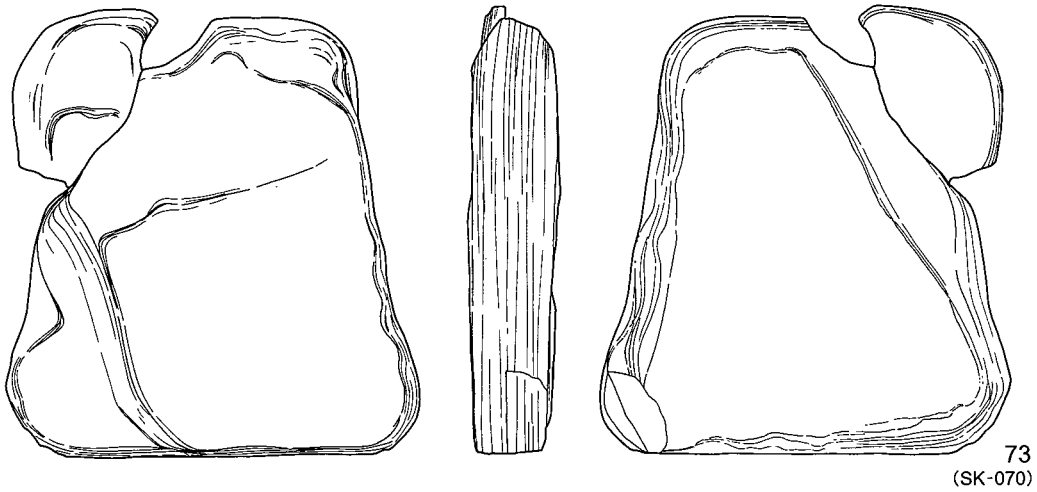
73は現状の厚さ2.4cm・一辺10cm前後の雲母片岩の加工品である。表面は剥離のため不確実であるが，板碑の可能性があるものとして図化した。SK-070土坑出土である。

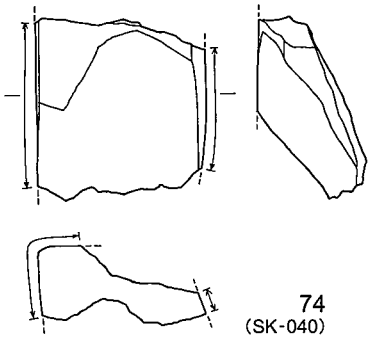
砥石（第121図，図版82)

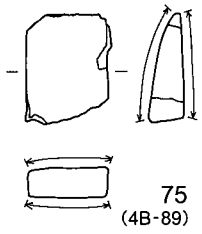
74～80は凝灰岩製で，本来は長さ10cm程度の板状製品であったものが消耗して小型化している。4Cグリッド出土のものが多いことから，近世の可能性が高い。また，SX-002出土の81は安山岩製であり，用途が異なる可能性がある。

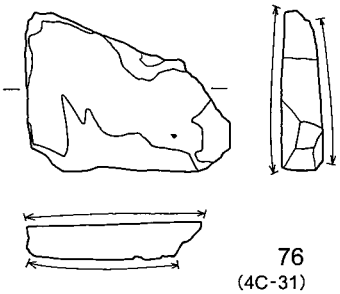
火打ち石（第121図)

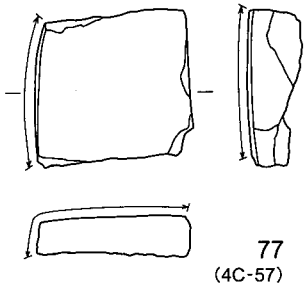
82は石英製である。SD-010，SX-002の付近出土であるが，時期は不明である。

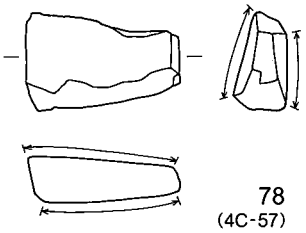


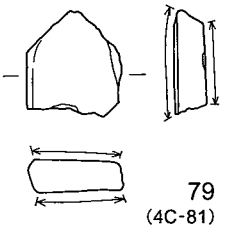


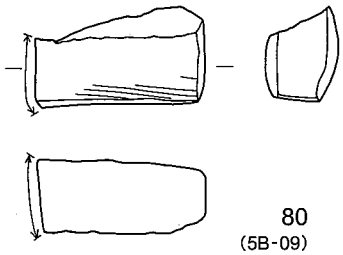


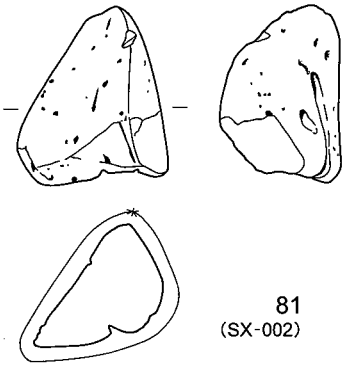


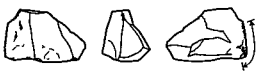


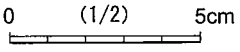












第 121 図　石製品（板碑，砥石他）

(3) 金属製品

鉄製品・鉄滓（第 123 図，第 2 分冊第 26 表，図版 83・85）

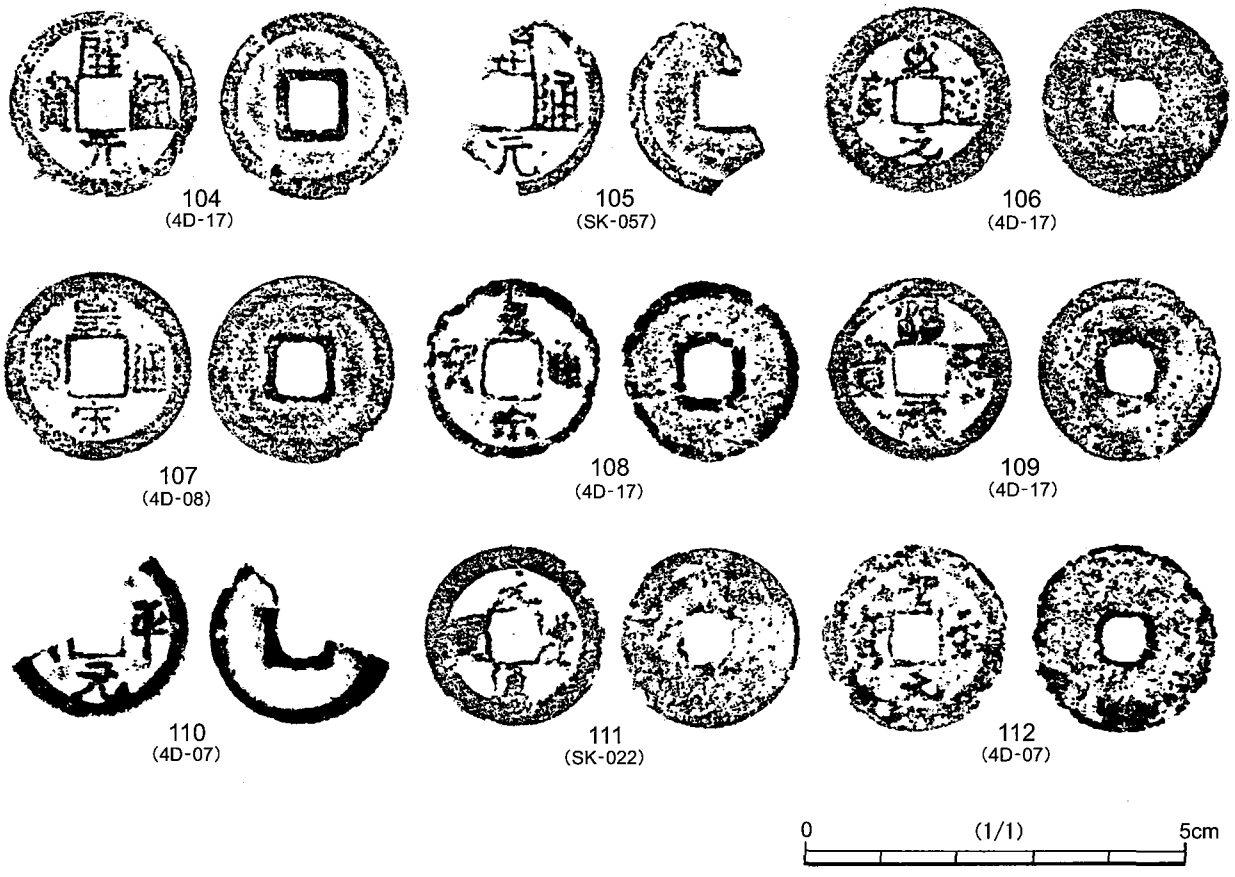
83・84 は刀子，85・86・88・89 は不明板状製品，87 は不明棒状製品，90 は鉄鍋蓋のつまみ部分の可能性のあるもの，91 は不明金具，92 ～ 94 は鉄釘である。また，95 ～ 98 は鉄滓で全て椀形滓である。84，87，90 は SX-002，85 は SD-010，86 は SD-005，94 は SK-063，鉄滓は SD-008・017，SK-028 等から出土しており，中世の可能性が高い。

銅合金製品（第 123 図，第 2 分冊第 26 表，図版 83・85）

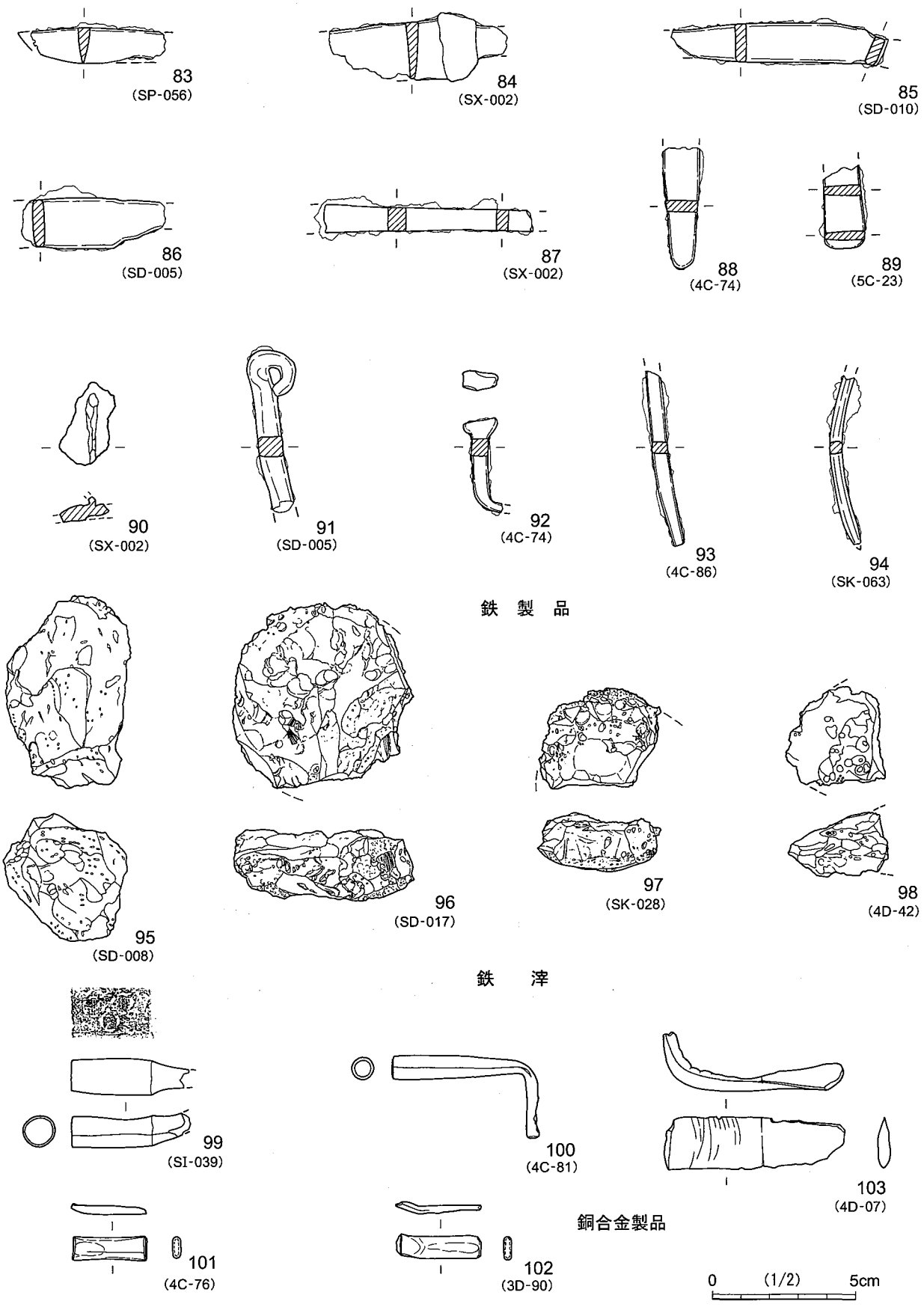
99 ～ 101 はキセルで，99 が雁首部，100 は吸口部，101 は吸口部をつぶした或いはつぶれたものである。102 は 101 と同様であるが袋状のもの，103 は不明板状片である。102，103 は 3D・4D グリッド出土であることから近世の所産であろう。

銭貨（第 122 図，第 2 分冊第 27 表，図版 84）

中国製銅銭 9 枚と鉄銭 1 枚の計 10 枚が出土している。104・105 は開元通寶(唐 621 年初鋳)，106 は至道元寶(北宋 995 年初鋳)，107・108 は皇宋通寶(北宋 1038 年初鋳)，109・110 は治平元寶(北宋 1064 年初鋳)，111 は元豊通寶(北宋 1078 年初鋳)，112 は聖宋元寶(北宋 1101 年初鋳)である。銅銭は 6 枚が掘立柱建物跡域，2 枚は SK-022・057 から出土し，江戸期後半の寛永通宝と推定される鉄銭は 4C グリッドから出土した。銅銭は唐銭・北宋銭で，明銭がないことは 15 世紀には下らない点，陶磁器類の年代観に合致する。



第 122 図　銭貨



第123図　金属製品，鉄滓

第３章
八幡神社北(2)遺跡

第3章　八幡神社北(2)遺跡

第1節　旧石器時代（第125図）

旧石器時代の確認調査は対象面積4,391㎡のうち262㎡について実施した。調査対象地域内に2m×2mの確認グリッドを46か所設定した。確認調査は重機(クラムシェル)によって立川ローム層を少しずつ掘削し，地上で遺物の有無を確認する方法を採用した。確認調査によって，ローム層中から旧石器時代の遺物が確認された4地点について周囲を拡張した結果，2地点で石器集中地点が検出され，266㎡の本調査が実施された(石器集中1・2)。残る2か所については，周囲を拡張したが，単独出土であったため確認調査のみで終了した。

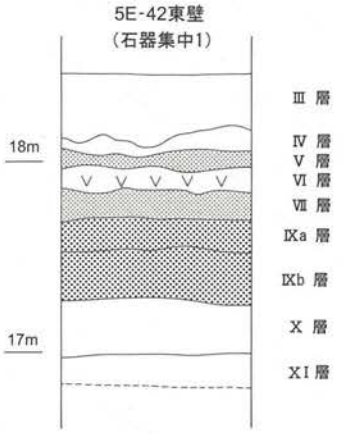
石器集中1は調査区北東側の5E-41グリッドを中心に分布する小規模なブロックで，出土層位はⅥ層～Ⅶ層を中心とする。石器集中2は調査区南西側の6D-20グリッドを中心に分布するブロックで，出土層位はⅢ層～Ⅴ層を中心とする。礫群を主体とし，わずかに剥片石器が伴う。

単独出土地点として5D-76グリッドではⅨ層から，5D-52グリッドではⅥ層から剥片が出土した。

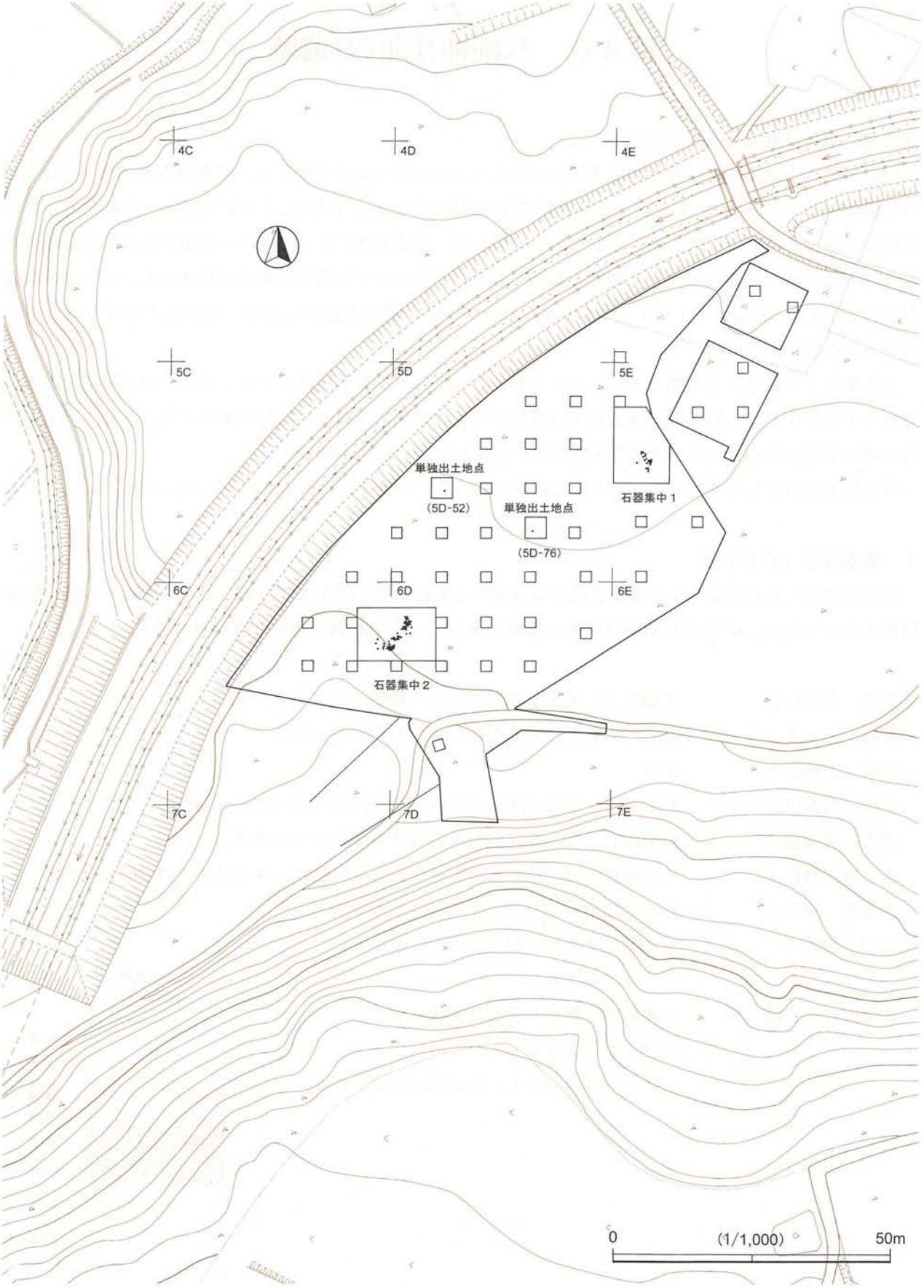
1　基本層序（第124図）

表土を除去した石器集中1の本調査範囲の東壁の土層柱状図を第124図に示した。立川ローム層の層厚は約1.5mである。ATを含むⅥ層は明瞭に識別できる。以下に，調査時の土層説明を記す。

Ⅲ層　黄褐色土	上面は少し黒くよごれている　軟質・ソフトローム
Ⅳ層　褐色土	部分的に軟質　やや黒色によごれた部分あり
Ⅴ層　黒褐色土	硬質
Ⅵ層　黄褐色土	最も硬質　ATを含む　乾燥すると白色となりクラックが入る
Ⅶ層　黄褐色土	最も硬質　スコリア含む　乾燥するとクラックが入る
Ⅸa層　褐色土	やや軟質　Ⅶ・Ⅸb層に比べやや黒みが強い　スコリア・白色微粒子含む
Ⅸb層　褐色土	砂を含みややザラザラする　スコリア含む
Ⅹ層　褐色土	やや粘性をもつ　砂含みザラザラする スコリア含まない
武蔵野ローム最上層	灰褐色土　粘性が非常に強くベタベタした感じ　しまりあり ※Ⅸa層以下，次第に粘性が強くなる



第124図　立川ロームの土層柱状図



第125図　旧石器確認グリッド配置図と本調査範囲

2　石器集中地点

(1) 石器集中1（第126～129図，第29・31表，図版86・138・139）

分　布　5E-41グリッドを中心に4ｍ×3ｍの狭い範囲に分布する小規模な石器集中地点である。南側の谷から約50ｍ離れた台地の平坦部に石器群は分布する。出土層位はⅥ層を中心とし，一部Ⅶ層に及ぶものもある。

器　種　石刃3点，剥片28点の合計31点が出土した。ほとんどが同一母岩で構成され，一連の剥片剥離の工程で残されたものと推測される。1～3は石刃で，端部にはいずれも微細剥離痕が観察される。唯一単独母岩を用いる2については，大型石刃を素材としたナイフ形石器の先端部の調整である可能性もある。4～18は剥片である。剥片の形状からトゥールの素材剥片というよりは，石核を成形するために剥離されたものと考えられる。打面は自然面もしくは平坦剥離のものが主体で，打面調整が施されたものはほとんどみられない。また，1の小石刃や11・14などの剥片は，この時期に特徴的な大型石刃を素材とした小石刃生産(新田技法・千田台技法)に伴う資料と類似する。

石　材　焦げ茶色を呈した珪質頁岩で占められ，31点中30点を母岩№1とした。残る1点のみ単独母岩を用いた資料である。母岩№1は滑らかな自然面(転石面)を残し，剥離面は光沢のある焦げ茶色を呈した珪質頁岩で帯状にうす茶色が混じる母岩である。資料によってはこの帯状の模様が入らないため，すべてが同一母岩である保証はないが，同一母岩の中にも場所によって変異することを考えれば同一母岩である範囲を超えるものではない。ただし，これだけ狭い範囲に残された資料で，大半が同一母岩の割には接合資料が少なく，一連の剥片剥離の工程を追えるような資料群でないことが注意される。

(2) 石器集中2（第130～132図，第30・32表，図版87・138・139）

分　布　6D-10・6D-20・6C-29グリッドを中心に6ｍ×7ｍの範囲に分布する。台地の平坦地に立地するが，南側に谷を望む傾斜面に接する縁辺に石器群は分布する。出土層位はⅢ層～Ⅴ層にまとまる。剥片石器は極僅かで，比熱礫・礫片が礫群を構成し，径2ｍ前後の3か所の礫群が隣接して並んでいる。

器　種　削器1点，剥片4点，石核1点，礫・礫片80点の合計86点が出土した。

1は削器で板状の剥片の縁辺に鋸歯状の刃部を形成する。縦位に欠損しているため全体の形状は不明である。2は横長の剥片で，扁平礫または分厚い剥片を素材とした石核の小口を，横位に輪切りにするような剥片剥離が伺える。3は剥片で，打面・端部は折面で構成される。4は扁平礫を利用した石核で，自然面を直接敲打して横長の剥片を剥離している。

石　材　剥片石器は安山岩5点，凝灰岩1点，礫・礫片は流紋岩20点，チャート17点，砂岩17点，凝灰岩18点，蛇紋岩4点，頁岩1点で構成される。剥片石器に用いられる安山岩はいわゆる「黒色緻密質安山岩」で剥離面は風化が著しく，母岩分類は困難である。出土遺物から，本地点での剥片剥離は極めて消極的であったことが分かる。

礫　群　石器集中2の主体を形成する礫群は，径2ｍ前後の3か所の集中域に分離できる。集中域は東から集中域ａ・ｂ・ｃと呼称し，各集中域について比較しながら検討してみたい。

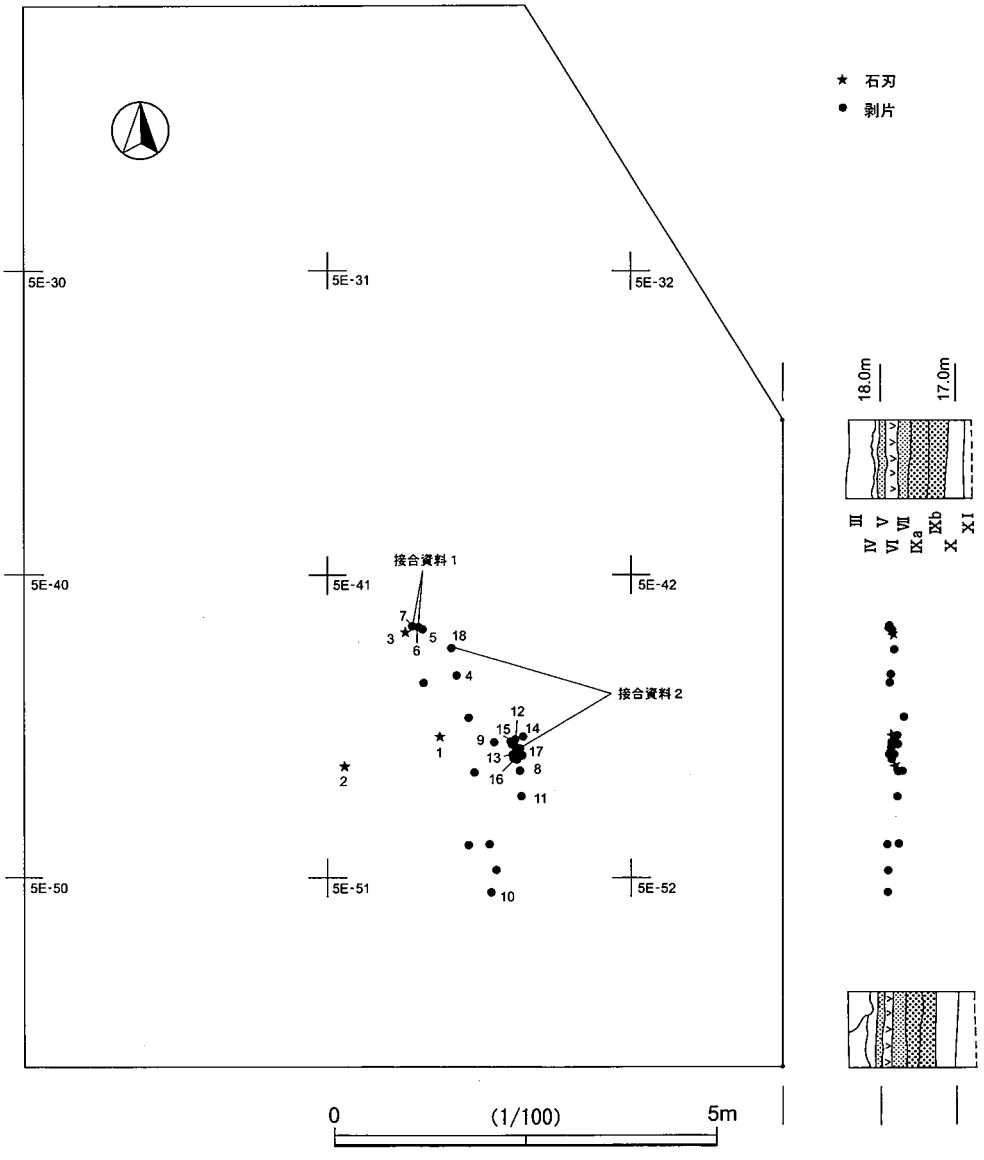
・分布状況　集中域ａは32点(2276g)，集中域ｂは15点(341.2ｇ)，集中域ｃは33点(2059.8ｇ)の礫・礫片で構成される。集中域ａ・集中域ｃと比べて，集中域ｂは小規模である。

・接合関係　各集中域は分布が稠密な部分がみられ，それらには接合関係が顕著に認められる。各集中域

間の接合関係はあまりみられず，集中域ａと集中域ｂ，集中域ｂと集中域ｃ間にそれぞれ１～２母岩の接合関係がみられるのみである。母岩別の分布では唯一母岩№２が集中域ａ・ｂ・ｃに点在する。

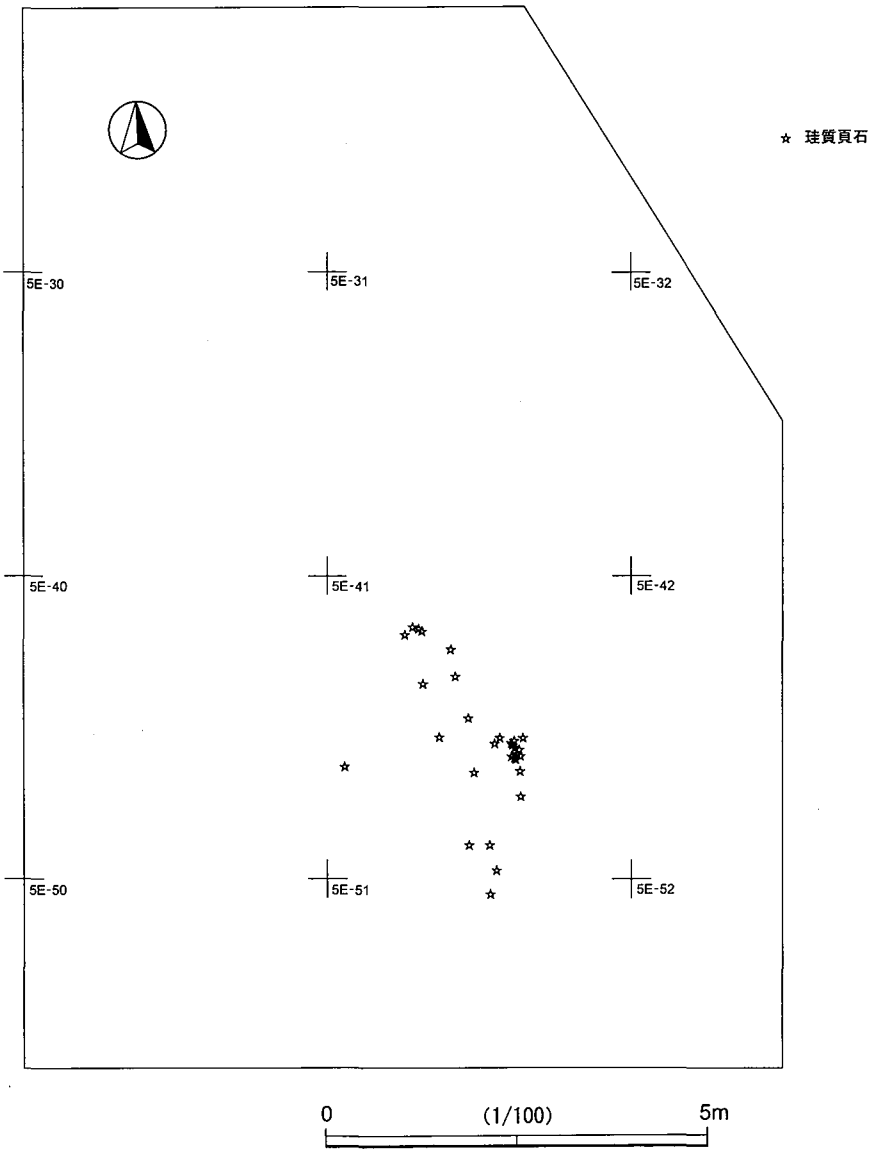
・完形率　集中域ｃは33点中９点が完形礫で，集中域ａ・集中域ｂと比べて突出して完形礫の比率が高い。完形率に関係して同様に単独母岩も集中域ｃに多い。

・構成礫の大きさ　重複散布図から見る構成礫の大きさの傾向は，集中域ｃに大きな礫，集中域ｂに小さな礫が目立ち，集中域ａはどちらに偏ることなく平均的な分布状況を示している。破砕する前の礫の大きさは集中域ａがかなり大きい印象で，その多くが抜き取られている状況なのであろうか。

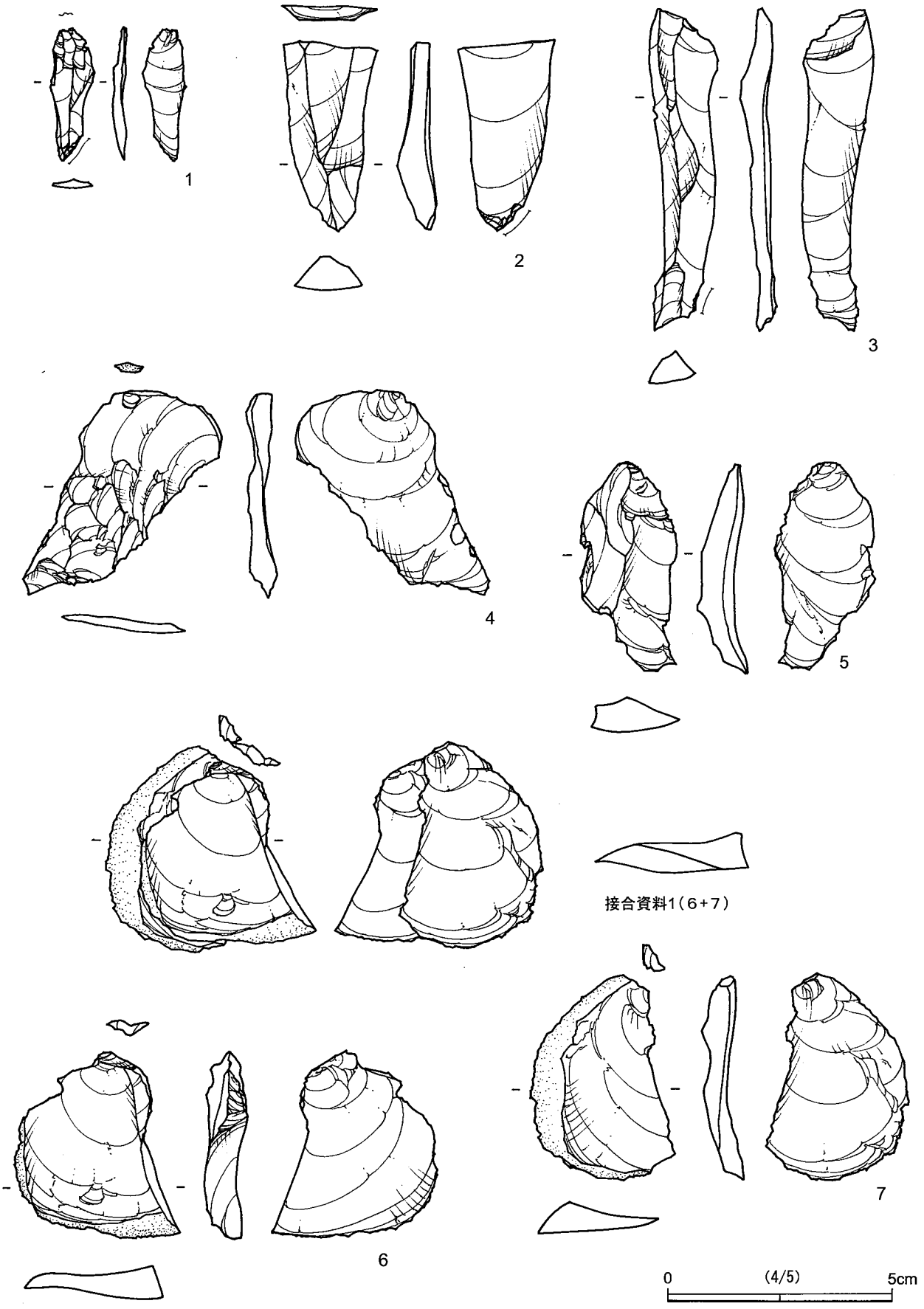


第126図　石器集中１ 器種別出土状況

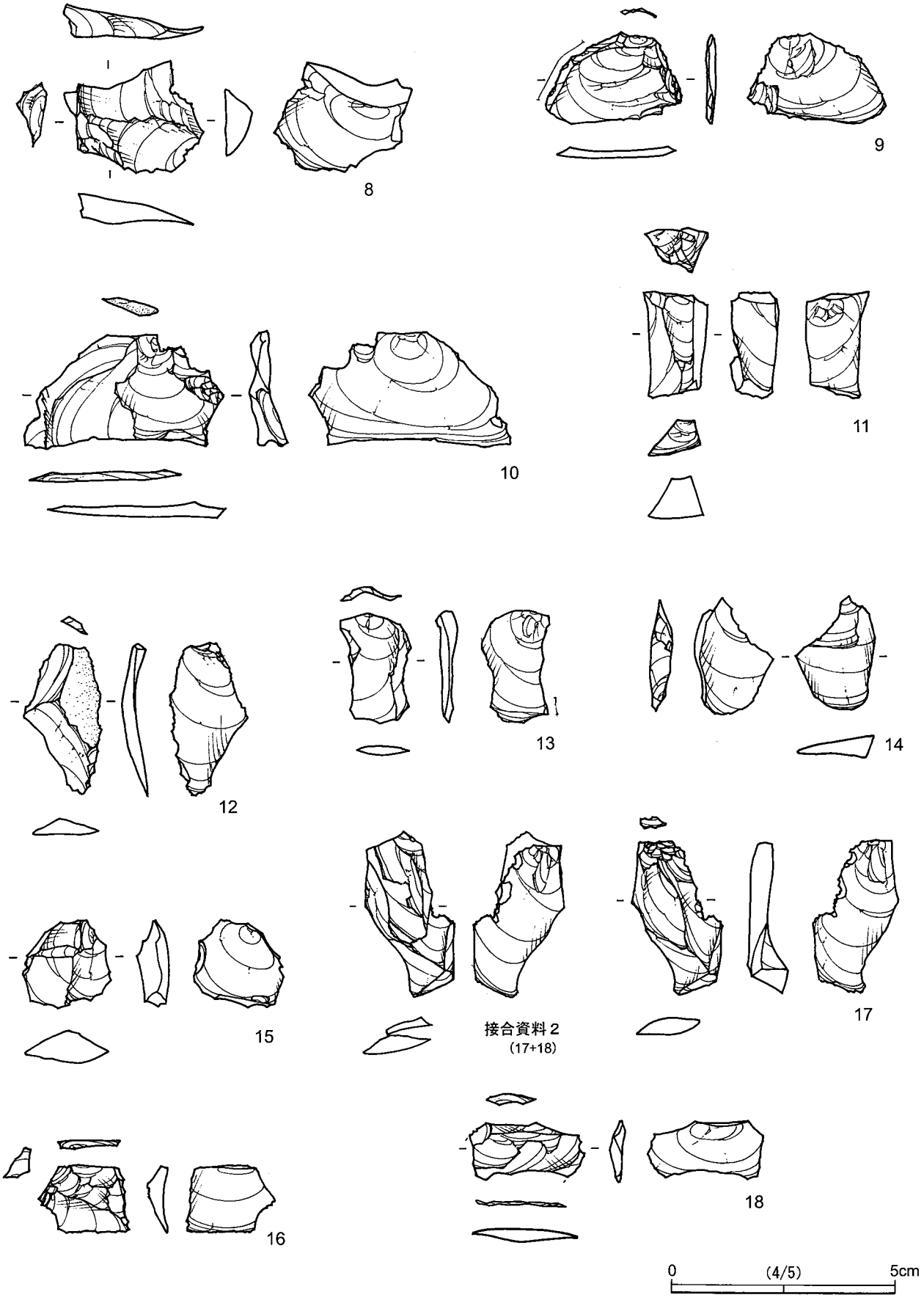
・石材　石材は点数比だと各集中域で偏在性が目立つが，重量比に目を転じると各集中域にはチャート・流紋岩・凝灰岩をベースとしてその他の石材が加わるといった状況である。
・被熱の状況　程度の差はあるが，ほぼすべての構成礫に被熱による赤化がみられる。ほぼ同規模の集中域ａと集中域ｃを見比べると後者の方が赤化の度合いが強く見えるが，構成礫の大きさ，完形率の違いに大きく影響されていると推測される。



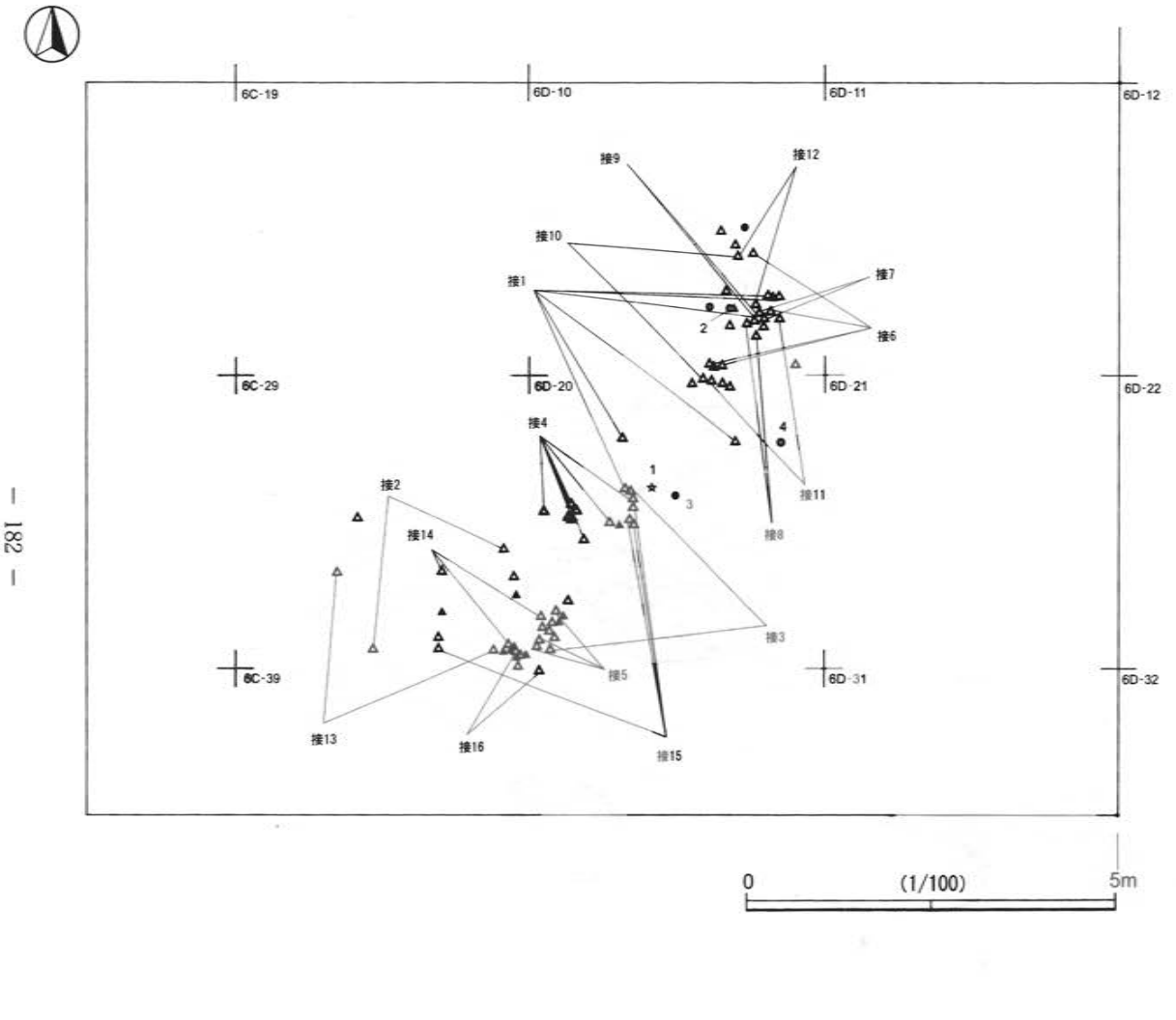
第 127 図　石器集中 1 石材別出土状況



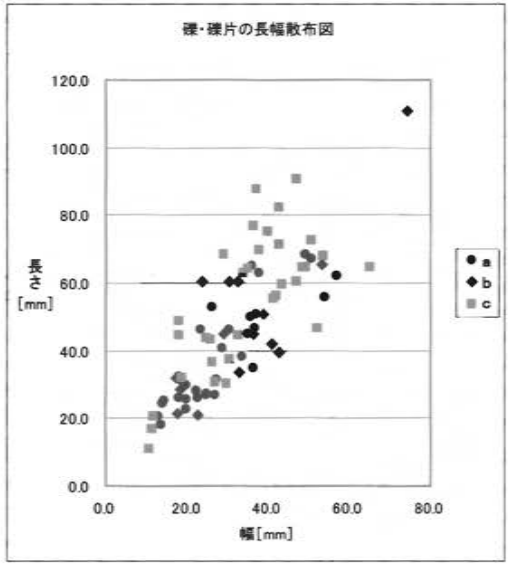
第128図　石器集中1 出土石器 (1)



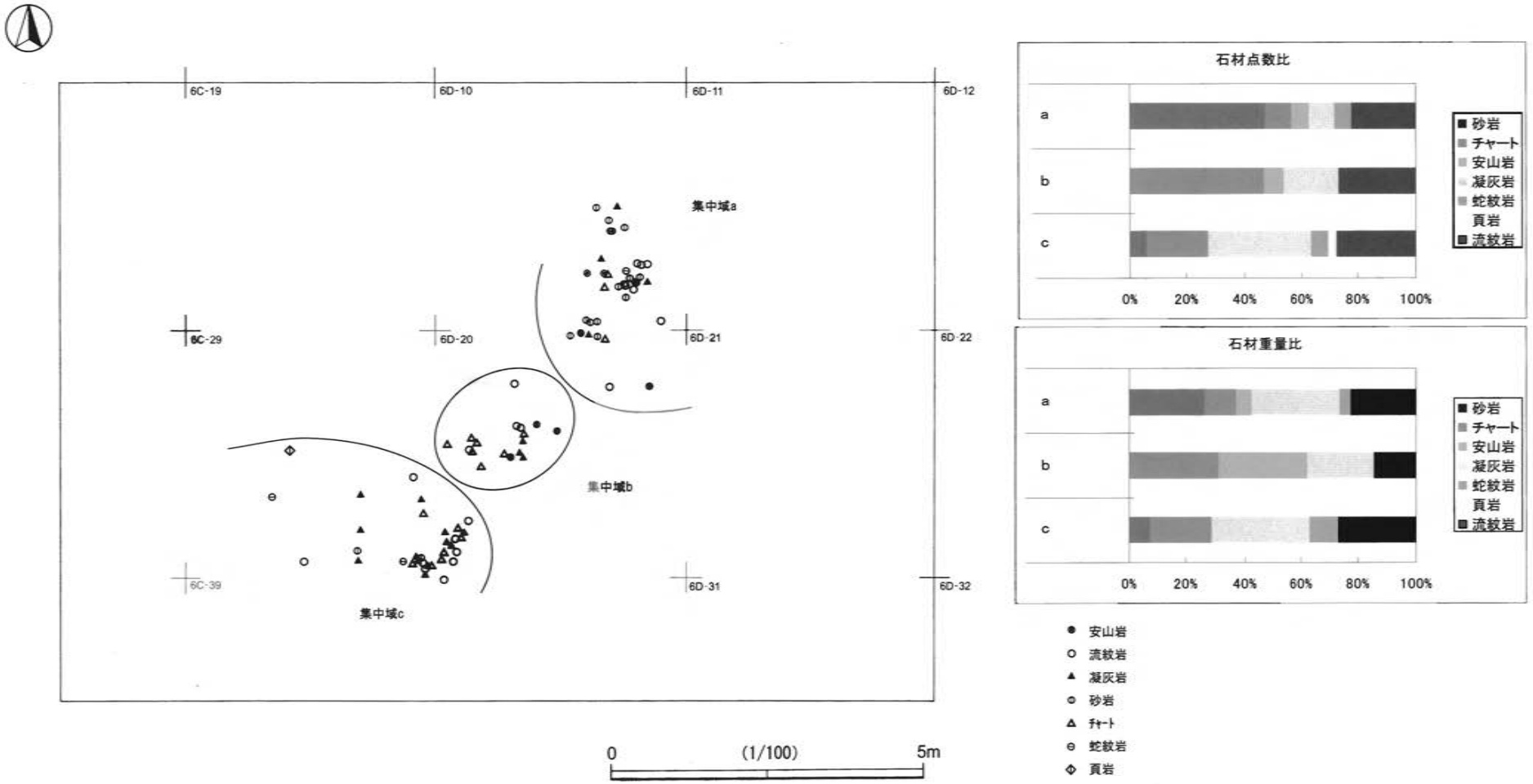
第129図　石器集中1 出土石器 (2)



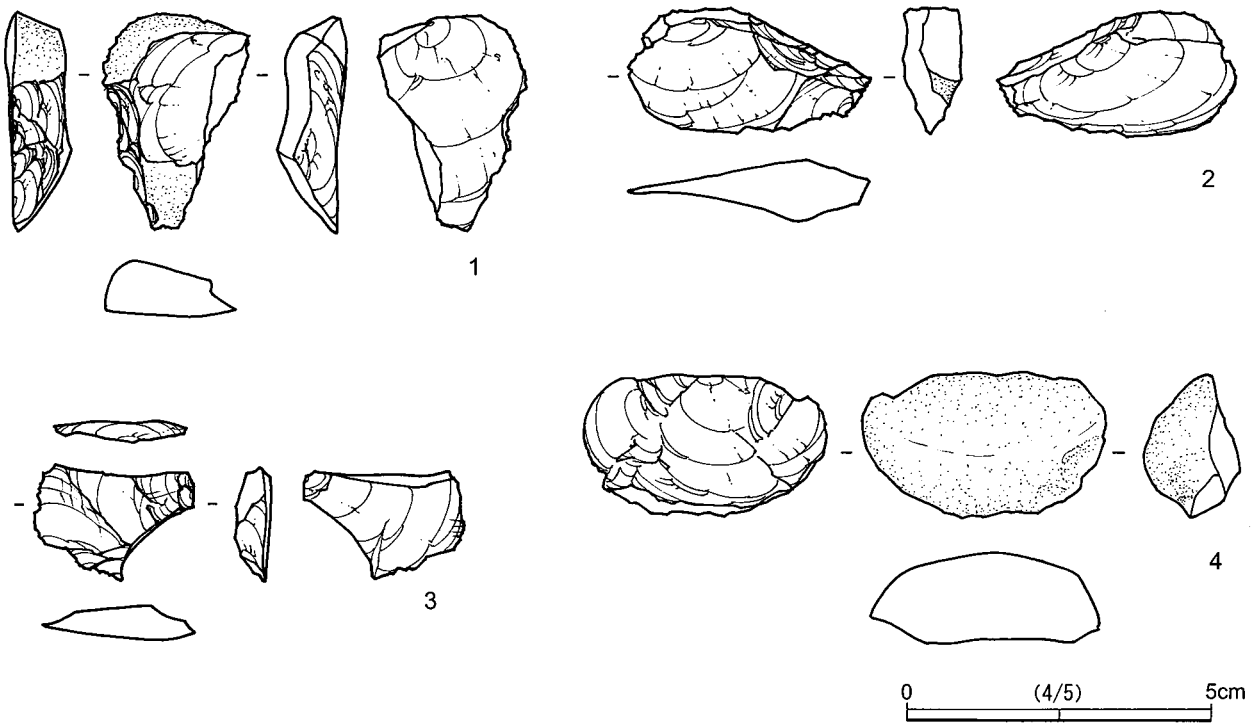
集中域			礫	礫片	合計
a	点数		1	31	32
	重量(g)		67.6	2208.4	2276.0
	平均	重量(g)	67.6	71.2	71.1
		最大長(mm)	68.6	50.0	50.6
		最大幅(mm)	29.0	34.6	34.4
		最大厚(mm)	21.7	28.0	27.8
b	点数		1	14	15
	重量(g)		105.1	236.1	341.2
	平均	重量(g)	105.1	16.9	22.7
		最大長(mm)	64.5	34.5	36.5
		最大幅(mm)	65.0	27.4	29.9
		最大厚(mm)	22.5	15.7	16.2
c	点数		9	24	33
	重量(g)		983.5	1076.3	2059.8
	平均	重量(g)	109.3	44.8	62.4
		最大長(mm)	67.9	41.3	48.6
		最大幅(mm)	38.9	29.1	31.7
		最大厚(mm)	29.2	22.3	24.2
a～c	点数		11	69	80
	重量(g)		1156.2	3520.7	4676.9
	平均	重量(g)	105.1	51.0	58.5
		最大長(mm)	67.7	43.9	47.1
		最大幅(mm)	40.4	31.2	32.5
		最大厚(mm)	27.9	23.5	24.1



第130図　石器集中2 器種別出土状況



第 131 図　石器集中 2 石材別出土状況



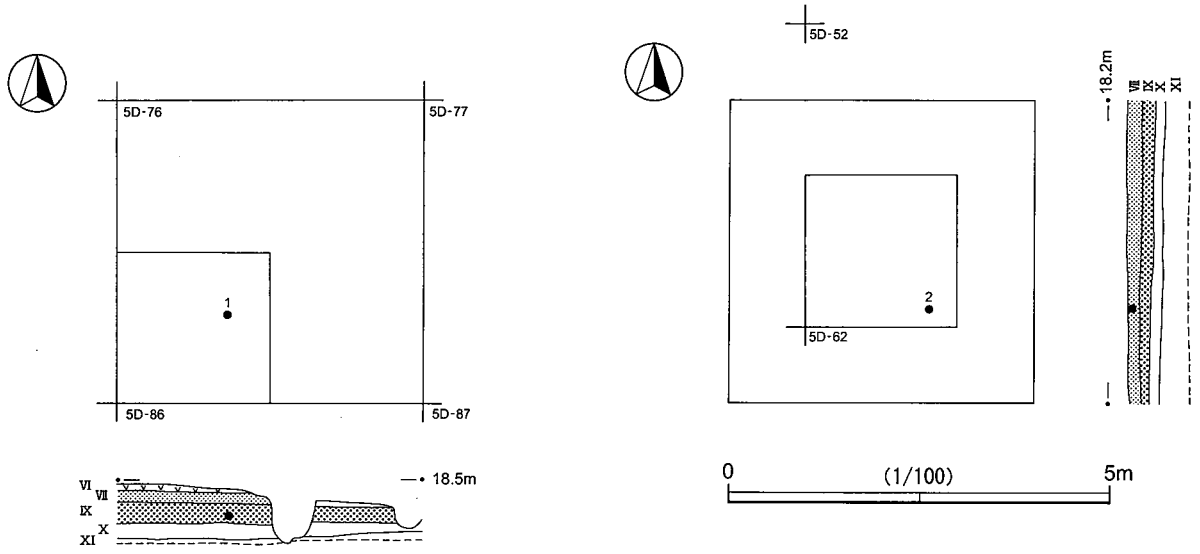
第132図　石器集中2 出土石器

3　石器集中地点外

(1) **単独出土石器**（第133・134図1・2，第28表，図版87・138・139）

1は5D-76の確認グリッドから出土した黒曜石製の微細剥離痕のある剥片である。出土層位はIX層である。打面・端部が折りとられた剥片の縁辺に微細剥離痕が観察される。背面には自然面が残っている。

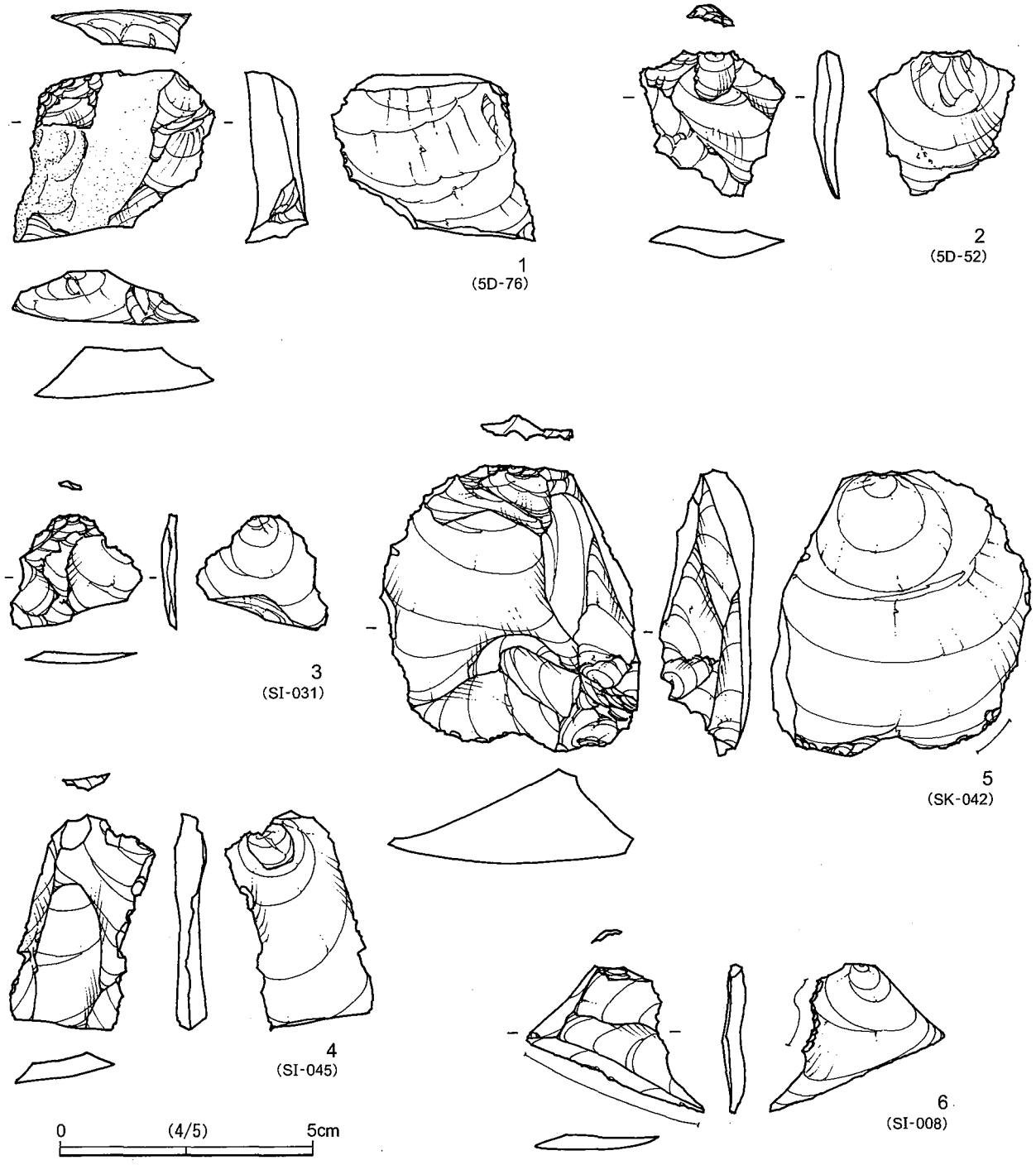
2は5D-52の確認グリッドから出土した黒曜石製の剥片である。出土層位はVI層である。



第133図　単独出土石器出土状況

(2) 上層出土石器 (第 134 図 3 ～ 6, 図版 140)

上層遺構の調査中に旧石器時代の資料が出土したものをまとめた。3 ～ 6 は珪質頁岩製の剥片で, 5・6 には縁辺に微細剥離痕が観察される。重量は 3 は 1.40 g, 4 は 6.60 g, 5 は 45.24 g, 6 は 2.41 g である。



第 134 図　単独出土石器と上層出土石器

第2節　縄文時代

縄文時代の遺構は中世遺構に紛れて陥穴の可能性のある土坑が検出された。遺物の出土もほとんどない。

1　土　坑

ＳＫ－００４の一部（第220図）

5C-97グリッド周辺に位置する。SK-004は中世遺構群として調査されたが，南側に張り出す土坑部分については形状から縄文時代の陥穴の可能性が考えられたため，ここでも取り上げた。細長い平面形で，長軸2.8ｍ以上・短軸0.7ｍ・深さ0.96ｍである。溝状に深く，壁面は下部でオーバーハングする形状である。なお，実測図は第4節の土坑の部分に掲載した。

2　遺構外出土遺物

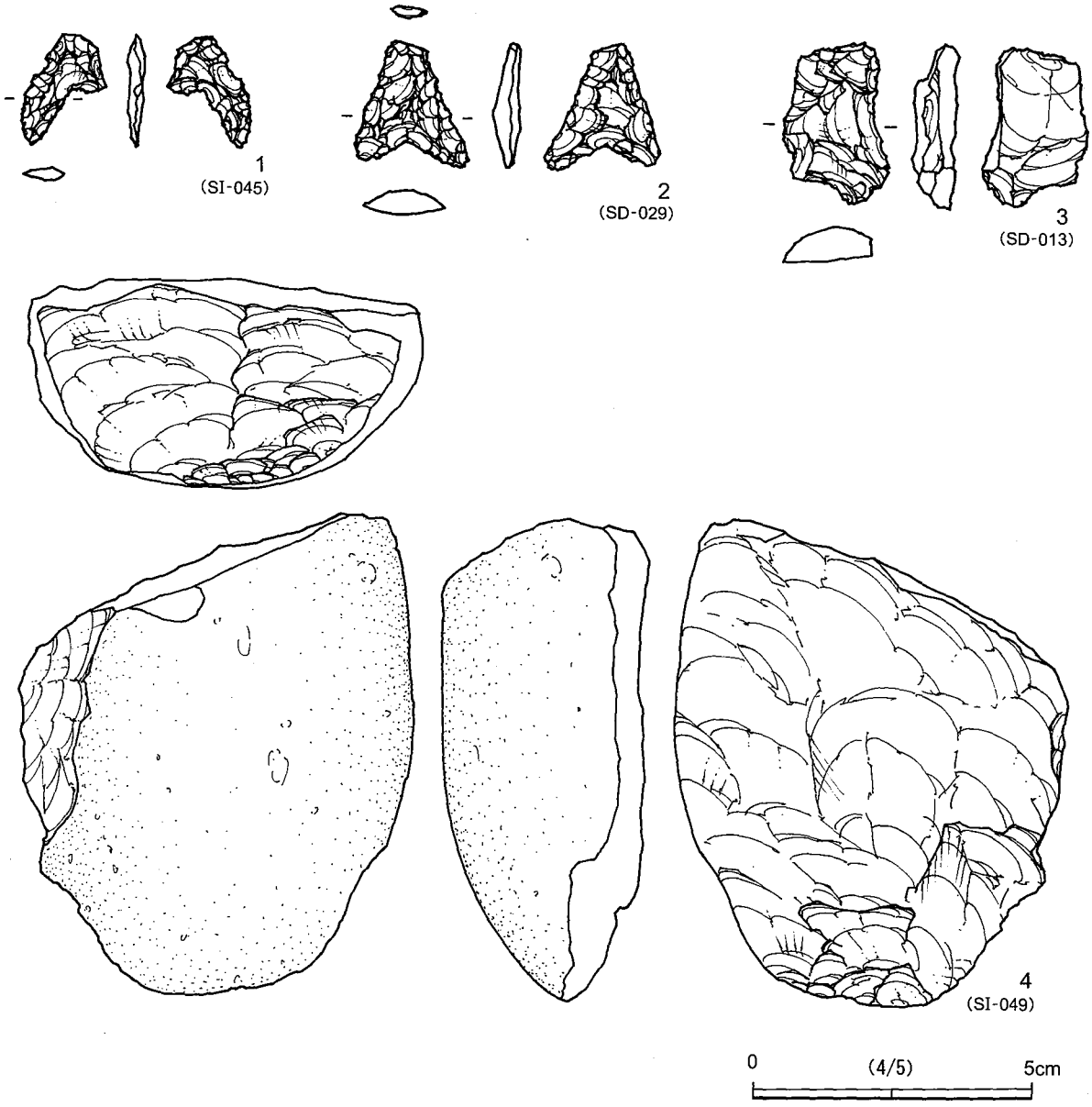
土　器（第135図）

1は早期の井草Ⅱ式の深鉢口縁部破片である。口縁部は肥厚して緩やかに外反する。口縁端部には縄文が刻み状に施される。胴部の文様は明瞭ではない。胎土には微少砂礫が多く含まれる。2は早期の茅山式の深鉢破片である。胎土には多量の繊維が含まれる。3は後期の加曽利Ｂ式の浅鉢破片である。胎土には白色微砂粒が含まれる。胴部屈曲部に横位沈線と刻み，その下位には斜位の浅い沈線が施される。

第135図　縄文土器

石　器（第136図，図版140）

1はチャート製の石鏃で大きく抉りがはいるが，先端と片方の脚部は欠損している。重量は0.65ｇである。2はチャート製の凹基の石鏃で，先端と脚部の一部が欠損している。重量は1.64ｇである。3はチャート製の剥離の進行した楔形石器である。重量は3.95ｇである。8は安山岩製の礫器である。分割面の稜はかなり潰れた状態である。重量は274.73ｇである。



第 136 図　縄文時代石器

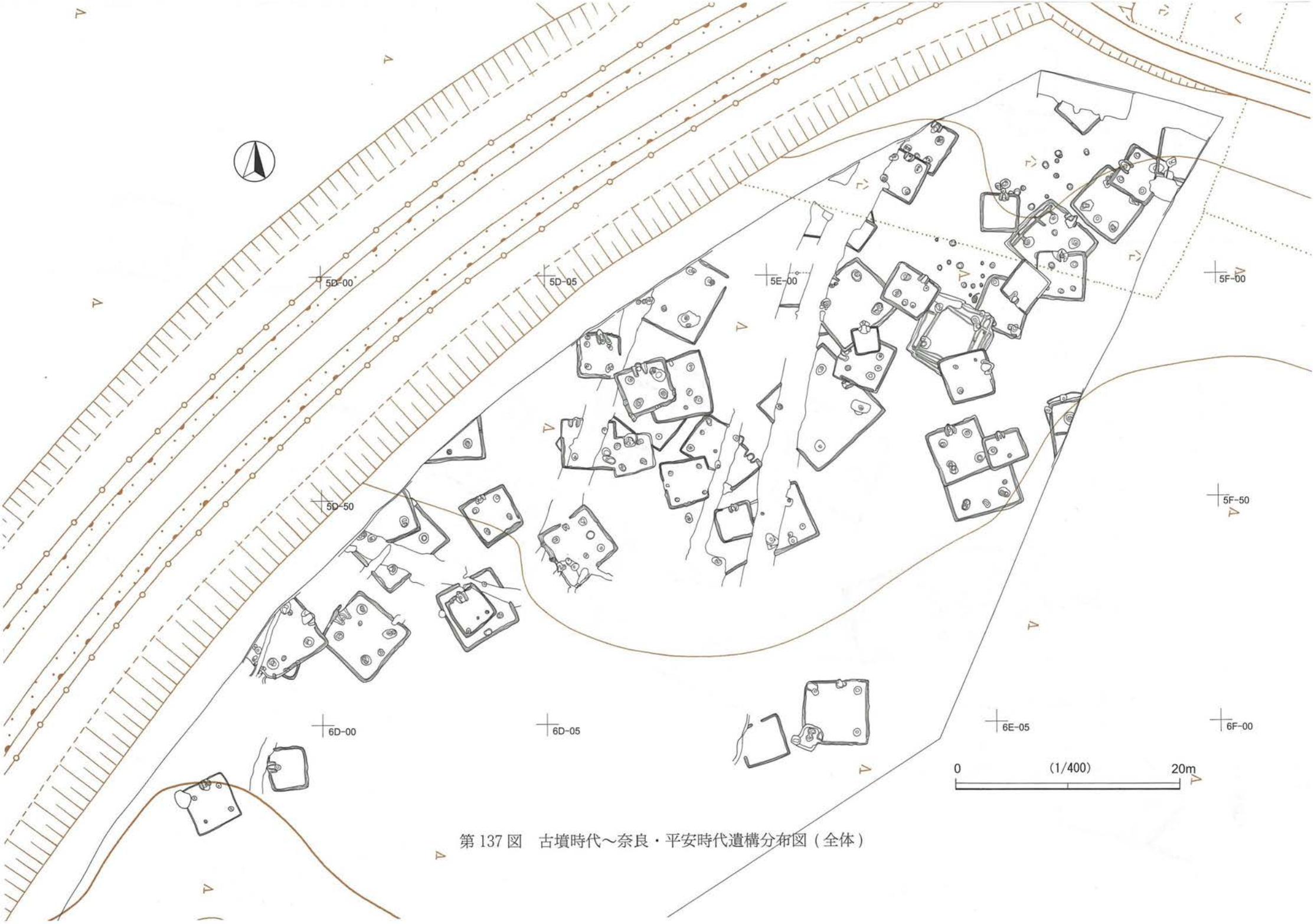
第3節　古墳時代～奈良・平安時代（第137～139図，第4・33～36表）

八幡神社北(1)遺跡と同様に古墳時代後期～奈良・平安時代にかけての竪穴住居跡を中心とする集落を確認することができた。ここでは八幡神社北(1)遺跡と同様に，遺構番号順に説明を行う。遺構としては竪穴住居跡54軒・掘立柱建物跡3棟が検出された。縄文時代～古墳時代中期までの遺物はほとんどなく，遺構も確認されなかった。

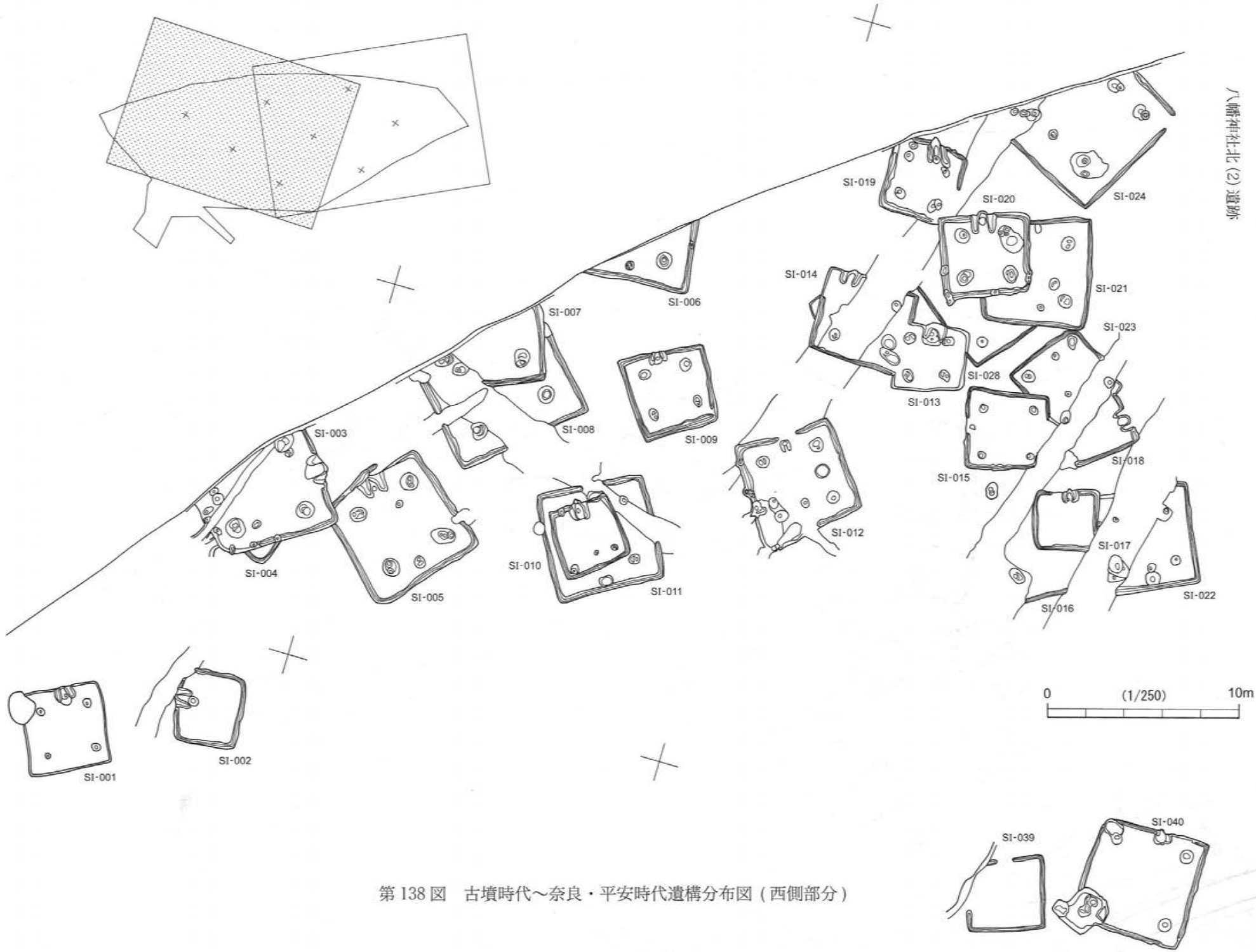
また，土坑については時期が明瞭でなく，中世に属するものが主体と考えられたため，中世の節にてまとめて説明を行う。

第4表　八幡神社北(2)遺跡 古墳時代～奈良・平安時代 遺構一覧表

遺構No.	種類	位置(グリッド)	備考
SI-001	竪穴住居跡	6C-17	
SI-002	竪穴住居跡	6C-09	
SI-003	竪穴住居跡	5C-89	
SI-004	竪穴住居跡	5C-89	
SI-005	竪穴住居跡	5D-70	
SI-006	竪穴住居跡	5D-33	
SI-007	竪穴住居跡	5D-51	
SI-008	竪穴住居跡	5D-61	
SI-009	竪穴住居跡	5D-53	
SI-010	竪穴住居跡	5D-73	
SI-011	竪穴住居跡	5D-73	
SI-012	竪穴住居跡	5D-65	
SI-013	竪穴住居跡	5D-36	
SI-014	竪穴住居跡	5D-35	
SI-015	竪穴住居跡	5D-48	
SI-016	竪穴住居跡	5D-69	
SI-017	竪穴住居跡	5D-59	
SI-018	竪穴住居跡	5D-49	
SI-019	竪穴住居跡	5D-16	
SI-020	竪穴住居跡	5D-27	
SI-021	竪穴住居跡	5D-28	
SI-022	竪穴住居跡	5E-50	
SI-023	竪穴住居跡	5D-38	
SI-024	竪穴住居跡	5D-08	
SI-025	竪穴住居跡	5E-22	
SI-026	竪穴住居跡	5E-03	
SI-027	竪穴住居跡	4E-85	
SI-028	竪穴住居跡	5D-37	
SI-029	竪穴住居跡	5D-35	SI-014と同挿図
SI-030	竪穴住居跡	5E-12	
SI-031	竪穴住居跡	5E-31	
SI-032	竪穴住居跡	5E-01	
SI-033	竪穴住居跡	5E-00	
SI-034	竪穴住居跡	4E-73	
SI-035	竪穴住居跡	4E-73	
SI-036	竪穴住居跡	4E-92	
SI-037	竪穴住居跡	4E-81	
SI-038	竪穴住居跡	5E-01	
SI-039	竪穴住居跡	6D-09	
SI-040	竪穴住居跡	5E-91	
SI-041	竪穴住居跡	5E-44	
SI-042	竪穴住居跡	5E-34	
SI-043	竪穴住居跡	5E-35	
SI-044	竪穴住居跡	5E-36	
SI-045	竪穴住居跡	5E-24	
SI-046 A	竪穴住居跡	5E-14	
SI-046 B	竪穴住居跡	5E-13	
SI-046 C	竪穴住居跡	5E-13	
SI-047	竪穴住居跡	5E-05	
SI-048	竪穴住居跡	4E-96	
SI-049	竪穴住居跡	4E-96	
SI-050	竪穴住居跡	5E-05	
SI-051	竪穴住居跡	4E-87	
SI-052	竪穴住居跡	4E-78	
SI-053	欠番		
SI-054	竪穴住居跡	4E-66	
SI-055	竪穴住居跡	4E-79	
SB-001	掘立柱建物跡	5E-04	
SB-002	掘立柱建物跡	4E-76	
SB-003	掘立柱建物跡	5D-25	



第 137 図　古墳時代～奈良・平安時代遺構分布図（全体）



第 138 図　古墳時代～奈良・平安時代遺構分布図（西側部分）

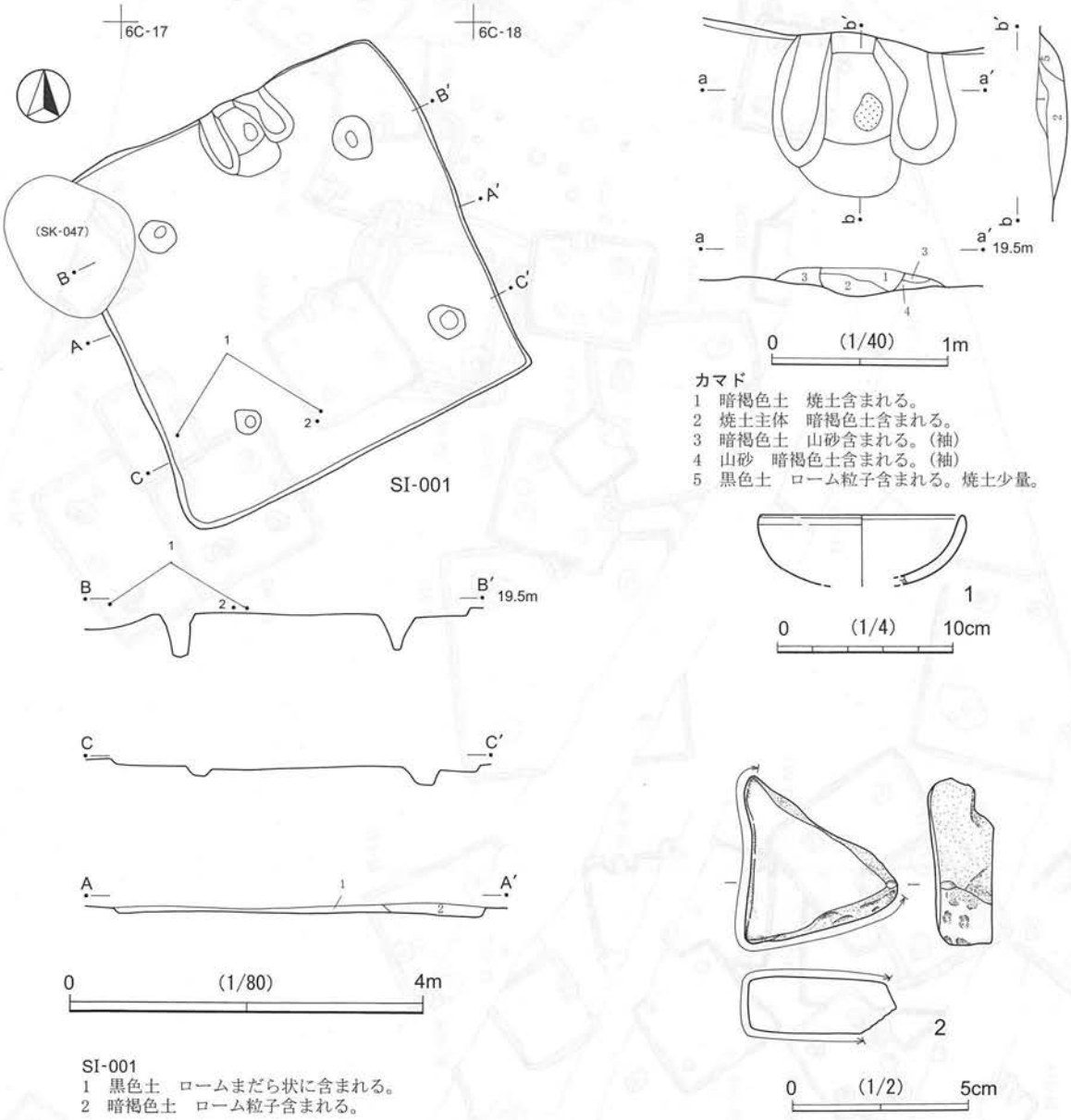
第139図　古墳時代～奈良・平安時代遺構分布図（東側部分）

1　竪穴住居跡

ＳＩ－００１（第140図，図版88・93・141）

6C-17グリッドに位置する。平面形は方形で，規模は主軸長4.18ｍ・幅4.1ｍである。主軸はN-27°-Wである。北西部壁がSK-047に切られている。掘り込みは確認面から平均８㎝である。カマドは北壁中央に付設される。火焼部床面は顕著に硬化している。カマド奥壁は緩やかに立ち上がる。ピットは主柱穴が4基である。掘り込みは北側の２本はしっかりしているが，南側の２本は浅い。床面には，硬化面・壁周溝は確認されなかった。

遺物はほとんど出土せず。実測可能な土器は１点のみである。１は土師器坏で，口縁部～体部の1/3の遺存である。色調は内外面共に浅黄橙色である。焼成はやや不良で，胎土にはスコリアが多量に含まれる。器面はかなり摩滅しており，内面はナデ，外面はヘラケズリ後ナデ調整である。短い口縁部を丁寧なヨコナデで作り出している。２は砂岩製の砥石である。欠損部以外は非常になめらかであるが，欠損部も若干の摩滅痕がみられる。重量は129.9ｇである。

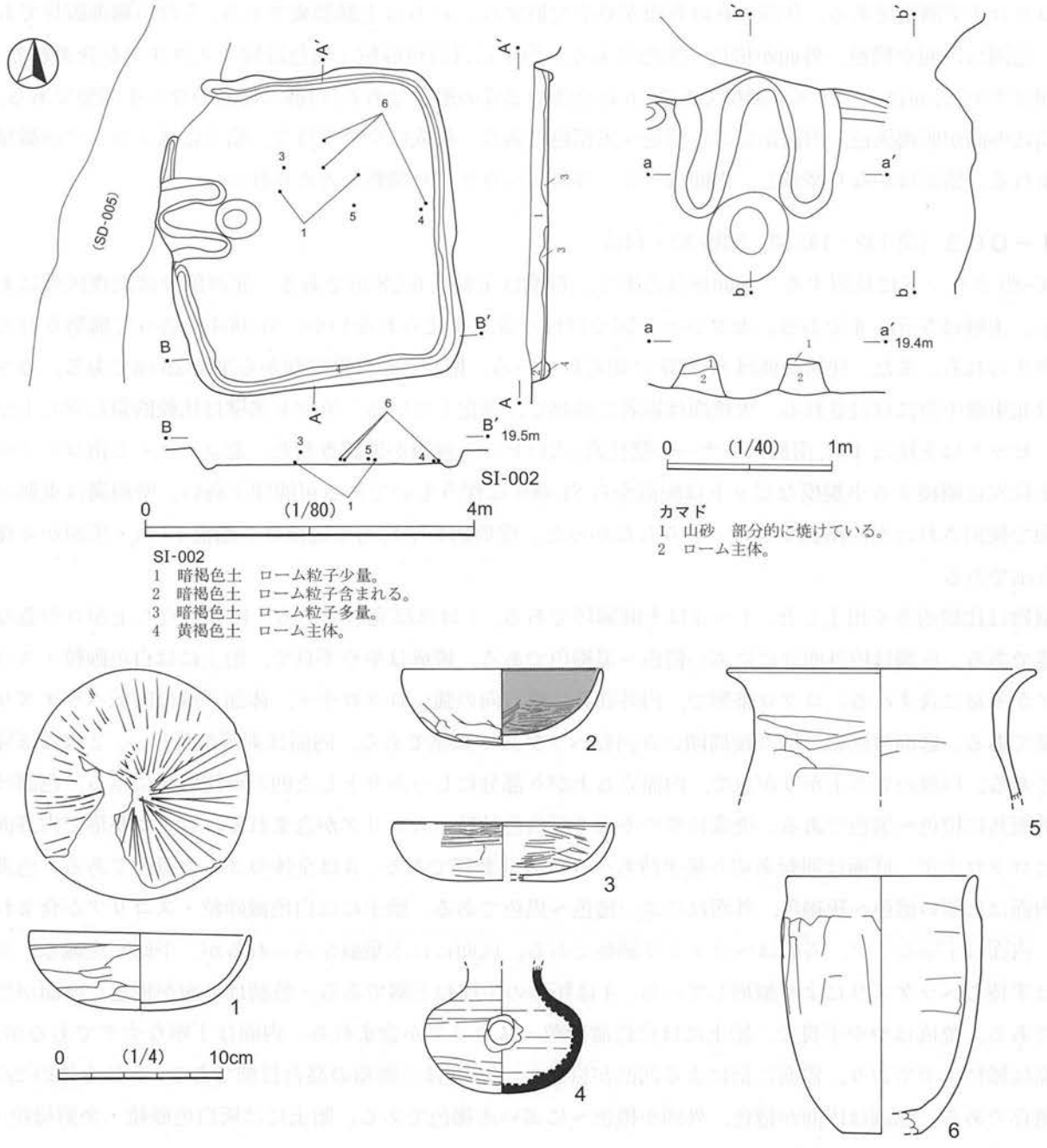


第140図　SI-001

ＳＩ－００２（第 141 図，図版 88・93・141）

6C-09 グリッドに位置する。平面形はやや横長の方形で，規模は主軸長 3.28 m・幅 3.62 mである。主軸は N-96°-W である。北西隅壁が SD-005 に切られている。掘り込みは確認面から平均 20 cmである。カマドは西壁中央に付設される。煙道部側も溝によって削平され，遺存が悪い。焚き口部分と思われる部分が若干掘り込まれ低くなっている。床面にピット・硬化面は確認されなかった。壁周溝は切り合い部分以外は全周し，平均的な規模は下端幅 6 cm・床面から深さ 5 cmである。

遺物はほとんど出土しなかった。1 ～ 3 は土師器坏である。1 は全体の 4/5 の遺存である。色調は内外面共に赤橙色である。焼成はやや不良で，胎土は精緻であるが，スコリアが多量に含まれる。器面は摩滅



SI-002
1 暗褐色土 ローム粒子少量。
2 暗褐色土 ローム粒子含まれる。
3 暗褐色土 ローム粒子多量。
4 黄褐色土 ローム主体。

カマド
1 山砂 部分的に焼けている。
2 ローム主体。

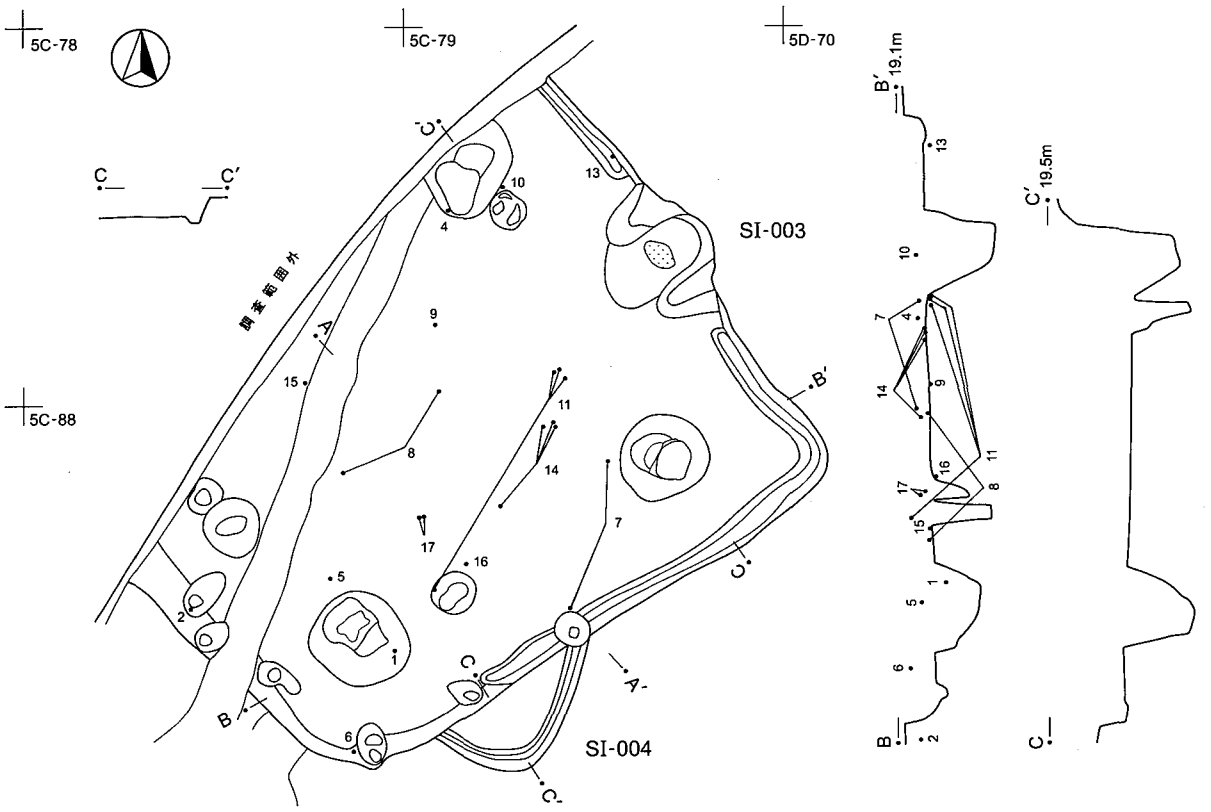
第 141 図 SI-002

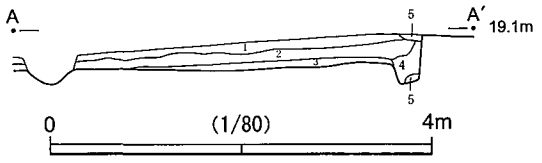
気味である。内面はナデ後放射状に暗文が施される。暗文部分は黒色で残存する。外面はヘラケズリ調整で，底部との境界はやや平底を意識したように整形される。2は全体の1/2の遺存である。色調は内外面共ににぶい黄橙色～黒色である。内面は黒色処理(漆)されていたと思われるが，ほとんど遺存しない。胎土には白色微砂粒が含まれる。内面は丁寧な直線的なヘラミガキ，外面はヘラケズリ調整である。底部は平底を若干意識してヘラケズリ整形される。3は全体の1/4の遺存である。色調は内面がにぶい橙色，外面がにぶい橙色～褐灰色である。焼成はやや不良で，胎土には白色微砂粒・スコリアが含まれる。口縁部は横方向のヘラミガキ，内面も丁寧なヘラミガキ調整である。外面はヘラケズリ調整で，底面は平底を明確に作り出している。4は須恵器甕である。体部～底部の遺存である。色調はオリーブ灰色で，部分的に自然釉が付着する。胎土には白色砂粒が多く含まれる。内面はナデ，外面下部は回転ヘラケズリで，上部はロクロナデ調整である。体部の孔は外面がやや欠損する。5・6は土師器甕である。5は口縁部破片である。色調は内面が橙色，外面が橙色～黒色である。胎土には白色砂粒・黒色砂粒・スコリアが含まれる。内面はナデ,外面はヘラケズリ調整である。6は全体の2/5の遺存である。口縁に屈曲のない小型甕である。色調は外面が明褐灰色，内面がにぶい橙色～黒褐色である。焼成はやや不良で，胎土にはスコリアが微量含まれる。器面はかなり摩滅し，内面はナデ，外面はヘラケズリ調整と考えられる。

ＳＩ－００３（第142・143図，図版89・141）

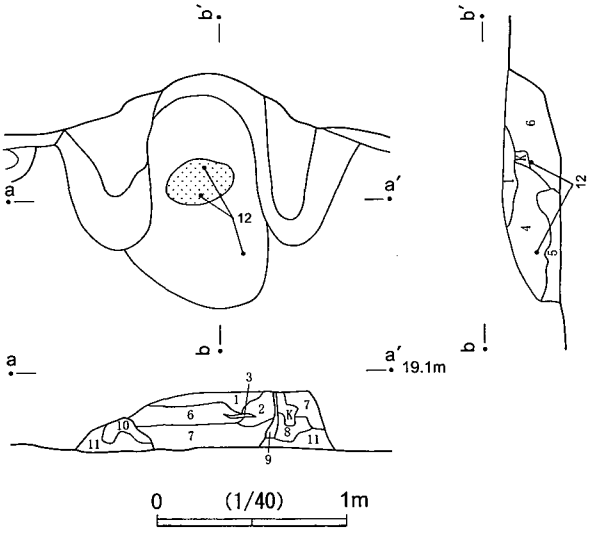
5C-89グリッドに位置する。平面形は方形で，規模は主軸長6.28ｍである。北西部分は調査区外にあたる。主軸はN-51°-Wである。セクション図でははっきり捉えられないが，SI-004を切って構築されたと考えられる。また，住居西側はSD-037に切られている。掘り込みは確認面から平均25㎝である。カマドは北東壁中央に付設される。火焼面は顕著に被熱し，赤化している。カマド奥壁は比較的急に立ち上がる。ピットは主柱穴4基,南側コーナーの壁柱穴,入口ピット複数が確認された。北コーナーと南コーナーの主柱穴に隣接する小規模なピットは配置からSI-004に伴うものである可能性が高い。壁周溝は東側の床面で検出されたが，南側でははっきりしなかった。壁周溝の平均的な規模は下端幅10㎝・床面から深さ5㎝である。

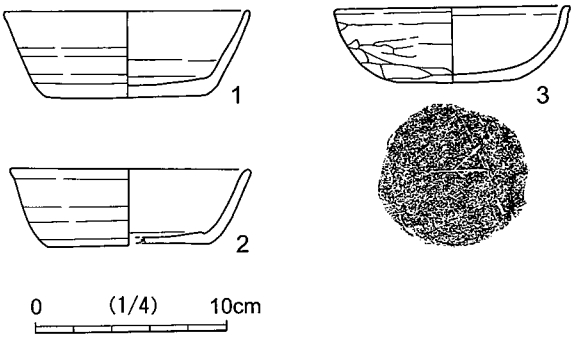
遺物は比較的多く出土した。1～3は土師器坏である。1はほぼ完形である。口縁の立ち上がりが急な形態である。色調は内外面共ににぶい橙色～黒褐色である。焼成はやや不良で，胎土には白色砂粒・スコリアが多量に含まれる。ロクロ整形で，内外面共に横方向の強いロクロナデ，体部下端は回転ヘラケズリ調整である。底面は回転糸切り後周囲のみ回転ヘラケズリ調整である。内面は剥落が著しい。2はほぼ完形である。口縁の立ち上がりが急で，内面立ち上がり部分にしっかりとした凹みが沈線状に巡る。色調は内外面共に橙色～黒色である。焼成はやや不良で灰白色砂粒・スコリアが含まれる。ロクロ整形で内外面共にロクロナデ，底面は回転糸切り後手持ちヘラケズリ調整である。3は全体の3/4の遺存である。色調は内面はにぶい橙色～灰褐色，外面はにぶい橙色～黒色である。胎土には白色微砂粒・スコリアが含まれる。内面は丁寧なナデ，外面はヘラケズリ調整である。底面には木葉痕がみられるが，平底を意識し，周辺は手持ちヘラケズリにより整形している。4は坏形の手捏ね土器である。色調は外面が橙色，内面が黒色である。焼成はやや不良で，胎土には白色微砂粒・スコリアが含まれる。内面は丁寧なナデであるが，外面は雑にナデており，器面に指による凹凸が目立つ。5・6は土師器の高台付椀である。5は全体の2/3の遺存である。色調は内面が橙色，外面が橙色～にぶい赤褐色である。胎土には灰白色砂粒・金雲母粒・





SI-003
1 暗褐色土　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子含まれる。
2 黒褐色土　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子含まれる。
3 暗褐色土　ローム粒子・ロームブロック多量。
4 暗褐色土　ローム粒子含まれる。
5 黄褐色土　ローム粒子主体。

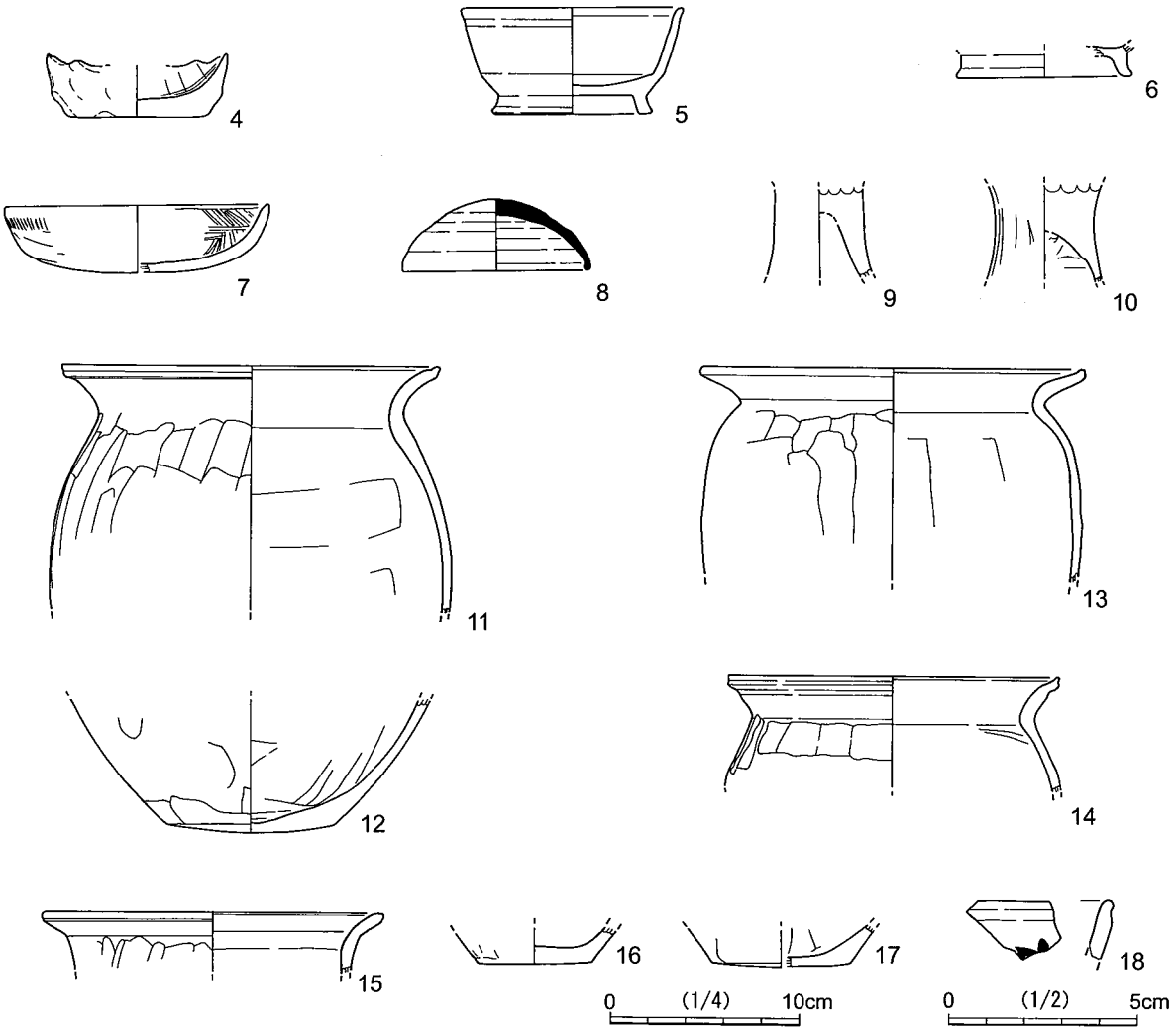




カマド
1 暗褐色土　山砂・焼土含まれる。
2 褐色土　山砂多量。焼土含まれる。
3 山砂
4 暗褐色土　焼土ブロック多量。
5 黒色土　山砂・焼土・炭化物含まれる。
6 山砂・焼土ブロック多量。
7 山砂主体　焼土含まれる。(袖)
8 山砂主体　焼土多量。(袖)
9 被熱面　山砂が焼土化したもの。(袖)
10 山砂主体(袖)
11 暗褐色土　ロームブロック含まれる。(袖)

第142図　SI-003・004(1)

スコリアが含まれる。ロクロ整形で，外面下位に明瞭な稜が作り出され，金属器の影響が考えられる形態である。内面立ち上がり部分もしっかりした凹みが，沈線状に巡る。底面は回転糸切り後周囲回転ヘラケズリ調整である。8は須恵器坏蓋で，全体の1/2の遺存である。色調は内外面共に灰白色である。焼成はやや不良で軟質である。胎土には白色微砂粒・白色砂粒が含まれる。口縁端部がやや肥厚する。11～17は土師器甕である。11は口縁部～胴部上半部の遺存である。色調は内面がにぶい赤褐色～赤黒色，外面は橙色である。器壁薄く，硬質である。胎土には白色微砂粒が多く，スコリアも含まれる。内面は丁寧なナデ，外面がヘラケズリ調整である。口縁端部は端正に整形している。12は底部の1/3の遺存である。色調は内面は橙色～黒褐色，外面はにぶい橙色～灰褐色である。胎土には白色微砂粒が多く，大きめのスコリアも含まれる。内面はユビナデ，外面もナデ調整であるが，胴部下端と底面はヘラケズリ調整である。13は口縁部～胴部上半部の1/5の遺存である。口縁の屈曲が急である。色調は内面がにぶい橙色～褐灰色，外面はにぶい橙色～黒色である。胎土には灰白色砂粒が多く，スコリアも微量含まれる。内面はヘラナデ，外面はヘラケズリ調整である。14は口縁部～肩部の1/2の遺存である。色調は内外面共ににぶい褐色である。胎土には白色微砂粒・スコリアが多く含まれる。口縁部はやや調整が雑であるが，ヨコナデ，内面はナデ，外面はヘラケズリ調整である。15は口縁部破片である。色調は内外面共ににぶい褐色である。



第143図　SI-003・004(2)

胎土は緻密で重量感がある。灰白色砂粒・金雲母細粒・スコリアが多量に含まれる。内面はナデ，外面はヘラケズリ調整である。16は底部の2/3の遺存である。色調は内面が褐灰色，外面がにぶい赤褐色である。胎土には白色砂粒・金雲母粒が多く含まれる。底部内面中央がやや厚い。内面はナデ，外面は底面も含めてヘラケズリ調整である。18は土師器坏の口縁部破片で墨書の一部が遺存している。部分のため漢字は判読できない。色調は内外面共ににぶい褐色である。胎土には白色微砂粒が含まれる。ロクロ整形である。

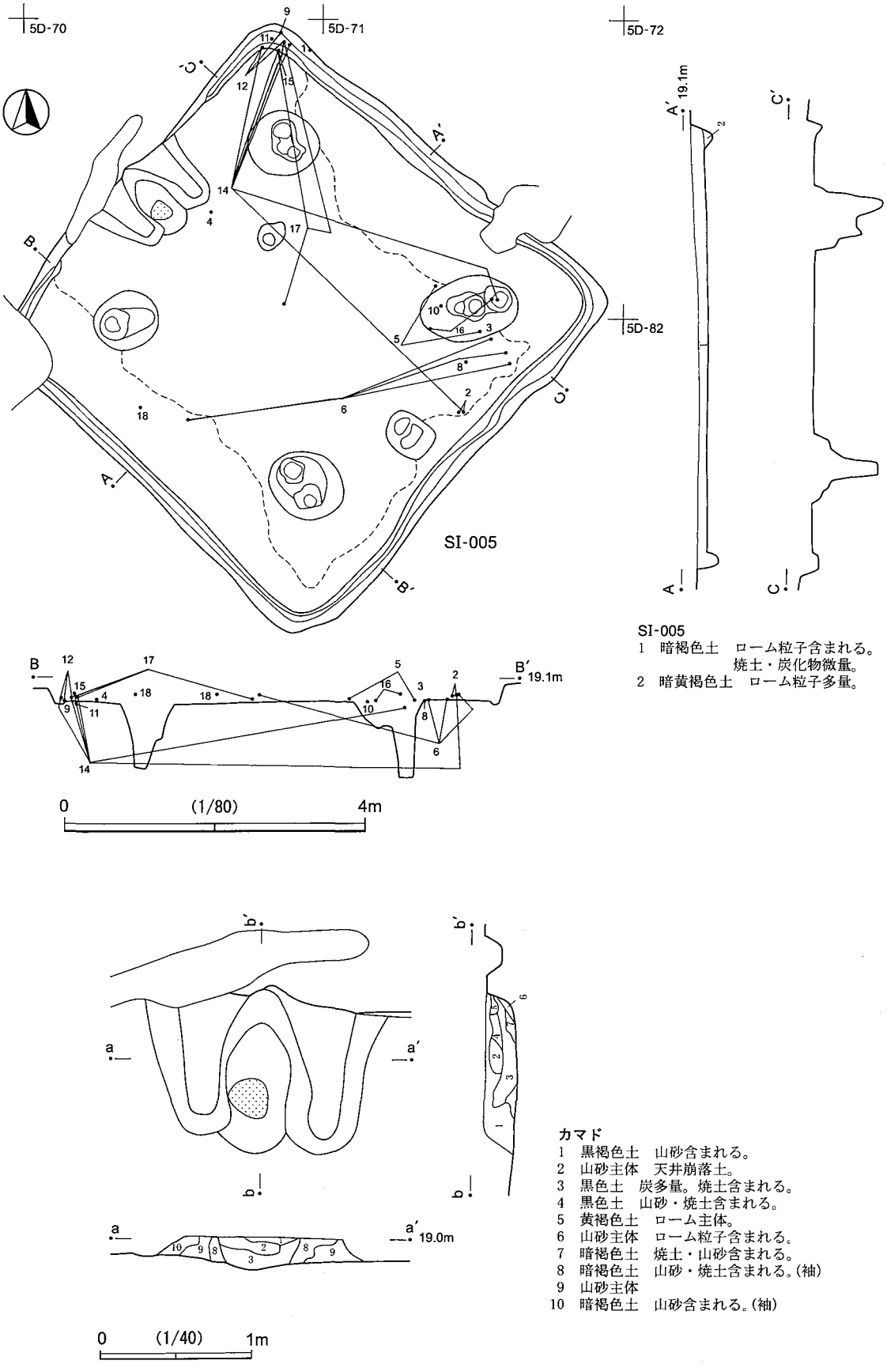
ＳＩ－００４（第142・143図，図版89）

5C-89グリッドに位置する。SI-003に切られ，南側のコーナー部分のみが検出された。平面形は方形で，規模は不明である。主軸はN-10°-Eであると考えられる。掘り込みは確認面から平均20㎝である。カマドはSI-003に削平され，遺存しない。ピットは小型の主柱穴が2基で，SI-003の主柱穴に沿って確認された。他の2基は調査範囲外に所在すると考えられる。壁周溝は遺存部では全周し，平均的な規模は下端幅5㎝・床面から深さ5㎝である。覆土内から遺物は1点も出土しなかった。

ＳＩ－００５（第144・145図，図版90・93・141～143）

5D-70グリッドに位置する。平面形は方形で，規模は主軸長5.82ｍ・幅5.74ｍである。主軸はN-49°-Wである。西コーナー壁がSI-003，北西壁の一部がSD-023，北東壁の一部がSK-016に切られている。掘り込みは確認面から平均14㎝である。カマドは北西壁中央に付設される。掛け口の直下に当たる床面は被熱が著しく，硬化している。カマド奥壁は比較的急に立ち上がる。ピットは主柱穴が4基で，掘り込みはしっかりしている。入口部には深さ25㎝のピットが掘り込まれている。カマド近くにも小規模な浅いピットが1基検出された。住居中央部の床面の広い範囲で硬化が顕著であった。壁周溝はカマド周辺ではっきりしないが，ほぼ全周し，平均的な規模は下端幅8㎝・床面から深さ4㎝である。

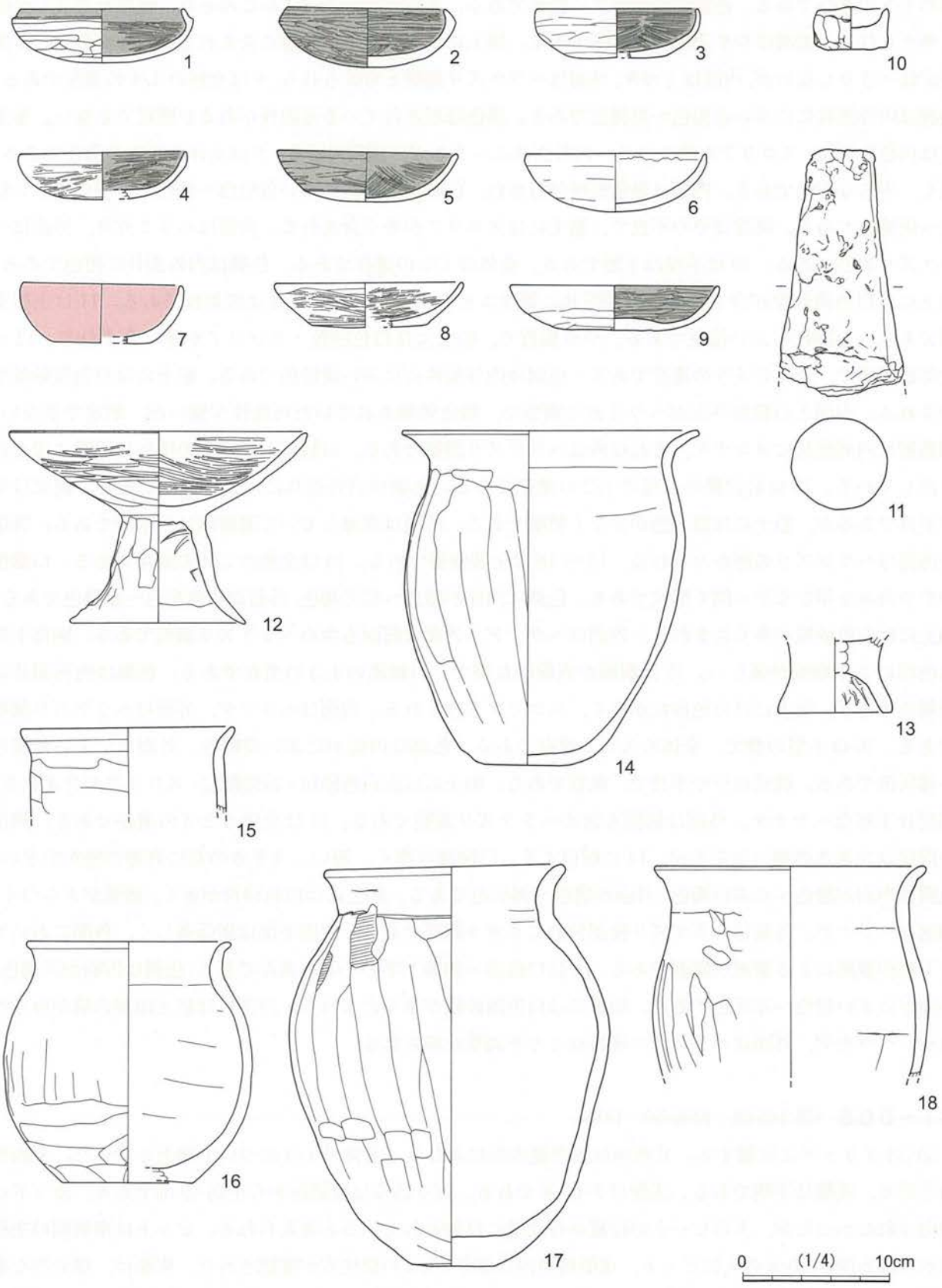
遺物は比較的壁際のコーナーを中心に多く出土した。1～9は土師器坏である。1は全体の5/6の遺存である。内面は灰褐色，外面はにぶい橙色である。内面と，口縁部外面は確実に黒色処理(漆)されていた痕跡を残すが，体部外面は判然としない。胎土には白色微砂粒・スコリアが含まれる。口縁部はヨコナデ・ミガキ，内面は丁寧なミガキ，外面はヘラケズリ調整である。2は全体の3/4の遺存である。1とほぼ同形態である。色調は内外面とも全面黒色処理(漆)で，黒色を呈する。胎土にはスコリアが含まれる。内外面共に全面丁寧なヘラミガキ調整である。外面が特に光沢をもつ。3は全体の1/2の遺存である。色調は内面が黒褐色，外面は浅黄橙色である。内面は黒色処理(漆)されるが，外面は摩滅により判然としない。焼成はやや不良で，胎土にはスコリアが多量に含まれる。内面は細かいヘラミガキ，体部外面はヘラケズリ調整である。底面は平底を意識し，ヘラケズリが行われている。4は全体の1/4の遺存である。口縁端部が黒色を呈し，内面は黒色処理(漆)されていたと考えられる。外面は確定できない。色調は内外面共ににぶい黄橙色である。体部下端に非常にわずかであるが，段差がある。胎土にはスコリアが微量含まれる。内面は丁寧なヘラミガキ，外面はヘラケズリ後ミガキ調整である。5は全体の1/4の遺存である。色調は内外面共ににぶい橙色～黒色である。口縁端部は特に黒色で，黒色処理されていた痕跡を残す。処理されていた範囲は内面全面と外面口縁部と考えられる。胎土には白色微砂粒・スコリア粒が含まれる。内外面共に全面丁寧なヘラミガキ調整である。6は全体の5/6の遺存である。口縁端部は使用によるためか，摩滅している。色調は内外面共ににぶい褐色である。全体的に赤みがあり，赤彩されている可能性もあるが断定できない。焼成はやや不良で，外面は器面が摩滅している。胎土は緻密でほとんど混入物がみられない。



SI-005
1 暗褐色土　ローム粒子含まれる。
　焼土・炭化物微量。
2 暗黄褐色土　ローム粒子多量。

カマド
1 黒褐色土　山砂含まれる。
2 山砂主体　天井崩落土。
3 黒色土　炭多量。焼土含まれる。
4 黒色土　山砂・焼土含まれる。
5 黄褐色土　ローム主体。
6 山砂主体　ローム粒子含まれる。
7 暗褐色土　焼土・山砂含まれる。
8 暗褐色土　山砂・焼土含まれる。(袖)
9 山砂主体
10 暗褐色土　山砂含まれる。(袖)

第144図　SI-005(1)

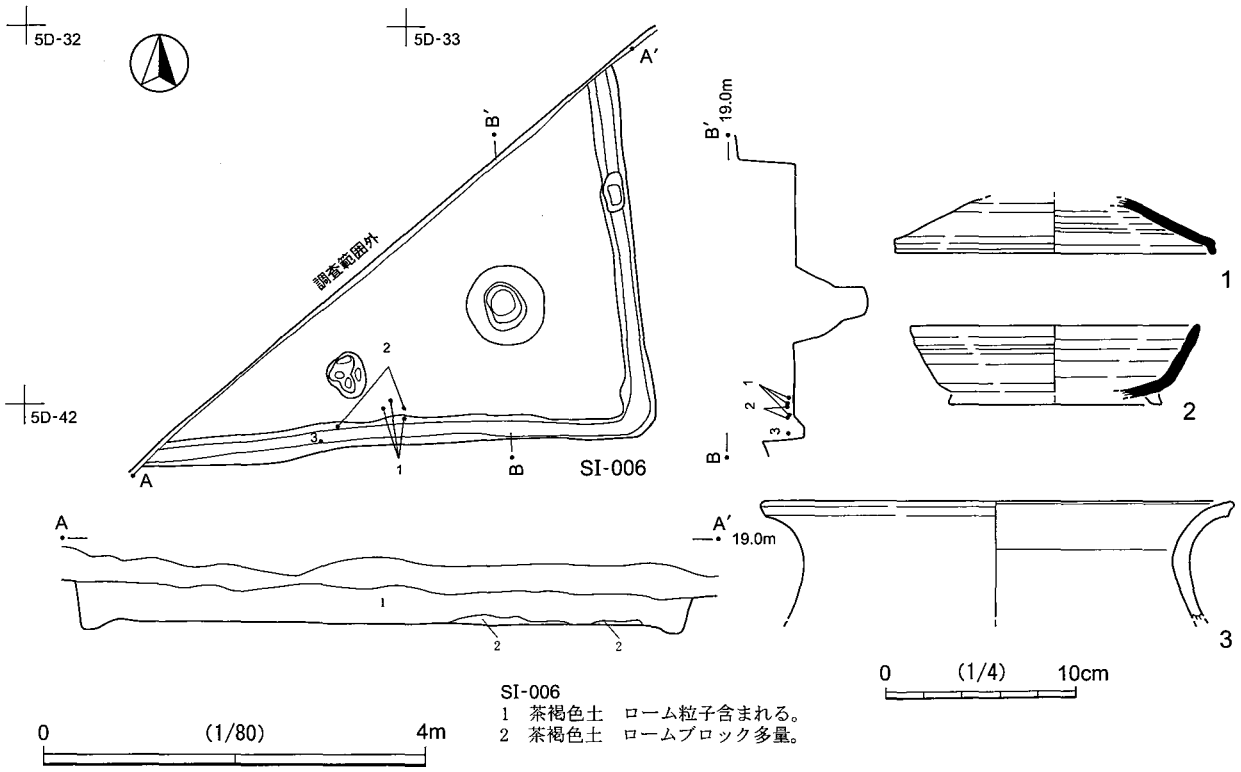


第 145 図　SI-005 (2)

内面は丁寧なミガキ，外面は摩滅してはっきりしないが，ヘラケズリ後ナデ調整である。7は口縁部～体部の1/5の遺存である。色調は内外面共に橙色である。赤彩の痕跡がわずかにみられ，範囲は恐らく全面と考えられる。焼成はやや不良で，軟質である。胎土にはスコリアが多量に含まれる。器面が摩滅して調整がはっきりしないが，内面はミガキ，外面はヘラケズリ調整と考えられる。8は全体の1/4の遺存である。色調は内外面共ににぶい赤褐色～黒褐色である。黒色処理されている可能性があるが断定できない。胎土には白色微砂粒・スコリアが含まれる。内外面共にヘラミガキ調整である。9は全体の3/5の遺存である。浅く，平らな形状である。内面は黒色処理(炭)され，色調は内面がにぶい黄橙色～黒色，外面がにぶい橙色～灰褐色である。焼成はやや不良で，胎土にはスコリアが多く含まれる。内面はヘラミガキ，外面はヘラケズリ調整である。10は手捏ね土器である。全体の1/2の遺存である。色調は内外面共に橙色である。胎土には白色微砂粒が含まれる。内外面共に雑なユビナデ痕が残り，底面は無調整である。11は土製支脚である。色調はにぶい橙色である。やや軟質で，胎土には白色砂粒・スコリアが多く含まれる。12は土師器高坏で，全体の4/5の遺存である。色調は内外面共ににぶい黄橙色である。胎土には白色微砂粒が含まれる。内面と口縁部外面がヘラミガキ調整で，黒色処理されていた可能性が強いが，断定できない。脚部裾は内外面共にヨコナデ，それ以外はヘラケズリ調整である。口縁部と坏体部の境には明瞭に段を作り出している。13は台付甕の台部の1/2の遺存である。色調は内外面共ににぶい橙色である。焼成はやや不良であるが，胎土には混入物が少なく精緻である。器面は摩滅していて調整痕は不明瞭である。脚部の内面はヘラケズリの跡がみられる。14～18は土師器甕である。14は全体の3/4の遺存である。口縁部がやや丸みを帯びながら開く形状である。色調は内面が橙色～明赤褐色，外面が明赤褐色～赤黒色である。胎土には白色砂粒が多く含まれる。内面はヘラナデ，外面は底面も含めヘラケズリ調整である。胴部下端は使用による摩滅が著しい。15は胴部が直線的な甕で，口縁部の1/3の遺存である。色調は内外面共に黒褐色である。胎土には白色砂粒が多く，スコリアも含まれる。内面はヘラナデ，外面はヘラケズリ調整である。16は小型の甕で，全体の3/5の遺存である。色調は内面がにぶい黄橙色，外面はにぶい黄橙色～褐灰色である。焼成はやや不良で，軟質である。胎土には灰白色砂粒・雲母細粒・スコリアが含まれる。内面は丁寧なヘラナデ，外面は底面も含めヘラケズリ調整である。17は全体の2/3の遺存である。胴部の形状は大きさの違いはあるが，14に類似する。口縁部は厚く，短い。大きさの割に底部の径が小さい。色調は内面が橙色～にぶい褐色，外面が橙色～褐灰色である。胎土には白色砂粒が多く，器面がざらつく。内面はヘラナデ，外面はヘラケズリ後部分的にミガキ調整である。内面下部は剥落著しく，外面においても下部が被熱による摩滅が顕著である。18は口縁部～胴部上半の1/6の遺存である。色調は内面が灰褐色，外面がにぶい橙色～赤灰色である。胎土には白色微砂粒が多く含まれる。内面には粘土紐接合痕がみられるが，ヘラナデ，外面はヘラケズリ後雑なミガキ調整が施される。

ＳＩ－００６（第146図，図版90・143）

5D-33グリッドに位置する。北西側は調査範囲外にあたり，全体の1/3について調査を行った。平面形は方形で，規模は不明である。主軸はN-6°-Wである。掘り込みは確認面から平均40㎝である。カマドは検出されなかったが，入口ピットの位置から北壁に付設されていると考えられる。ピットは南東側の主柱穴が1基と深さ20㎝の入口ピット，東側周溝内に深さ10㎝の壁柱穴が確認された。床面は，部分的な調査であるため硬化の範囲を明確にできなかった。壁周溝は全周し，平均的な規模は下端幅10㎝・床面か



第 146 図 SI-006

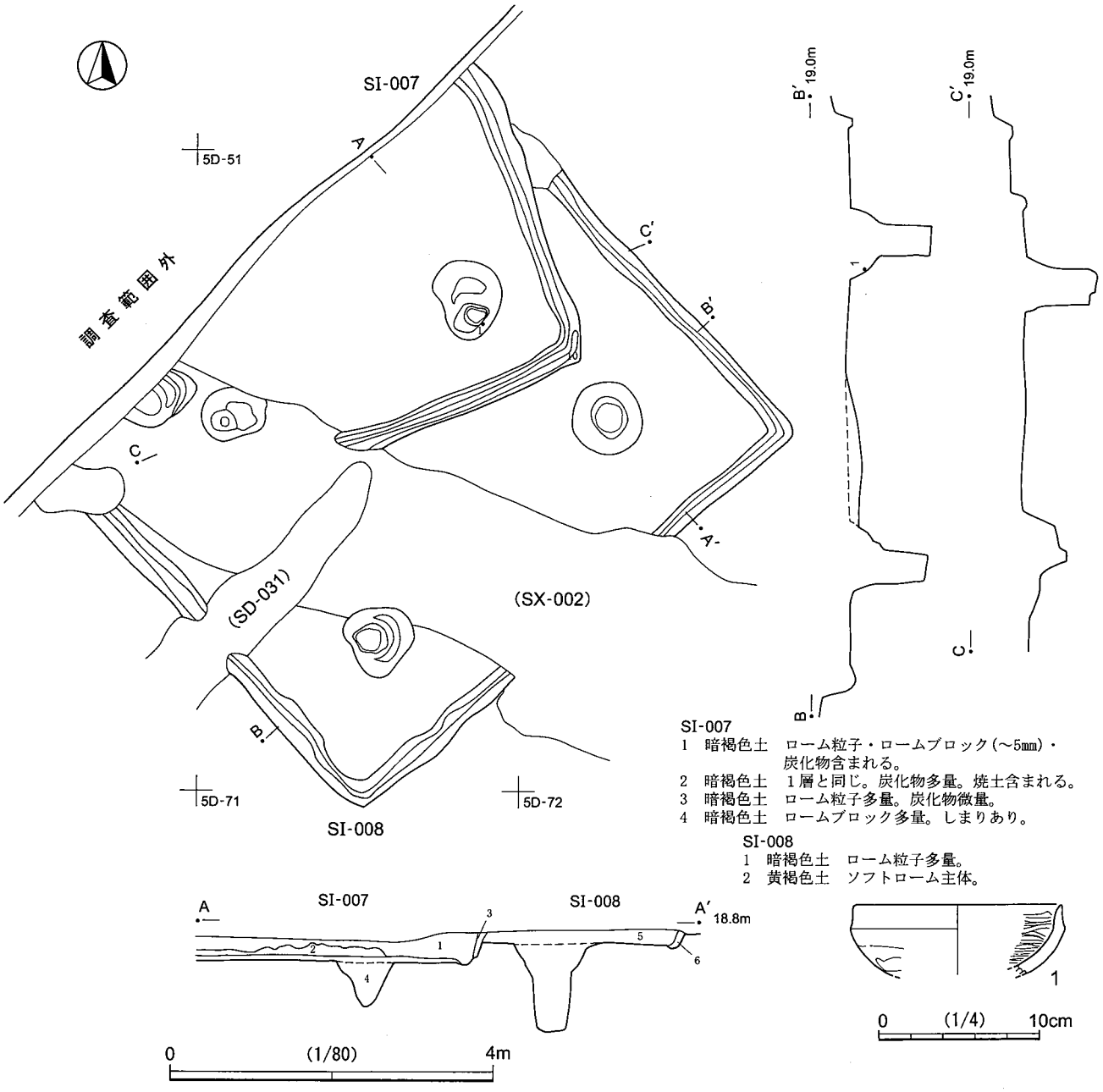
ら深さ 9 cmである。

1・2 は須恵器坏・蓋である。それぞれ全体の 1/3 の遺存である。色調は内外面共に灰白色である。焼成はやや不良で，軟質である。胎土は精緻で混入物はほとんど含まれない。1・2 とも胎土・焼成の特徴が酷似するため同じ窯で焼かれたものであろう。1 はかえりのない蓋で，つまみ部分は欠損する。器面は摩滅気味である。ロクロ整形で，つまみに近い部分はヘラケズリ調整である。2 は高台付坏であるが，高台は剥がれて欠損している。底部は体部との境界に面をヘラケズリによって作り出している。底面は下にやや膨らむ形態である。器面は特に内面の剥落が顕著である。3 は大型の土師器甕の口縁部破片である。内外面共ににぶい褐色である。胎土には灰白色砂粒・銀雲母細粒が多量に含まれ，他のものとは異質である。口縁端部の整形は端正である。

ＳＩ－００７（第 147 図，図版 91）

5D-51 グリッドに位置する。平面形は方形で，規模は北西部分が調査区外に当たるため，不明である。主軸は N-21°-W である。SI-008 を切って構築され，南部壁が SX-002 に切られている。掘り込みは確認面から平均 28 cmである。カマドは調査区外に当たるため確認されなかった。ピットは南側の主柱穴が 2 基確認された。掘り込みはしっかりしている。壁周溝は切り合う部分以外は全周し，平均的な規模は下端幅 10 cm・床面から深さ 4 cmである。

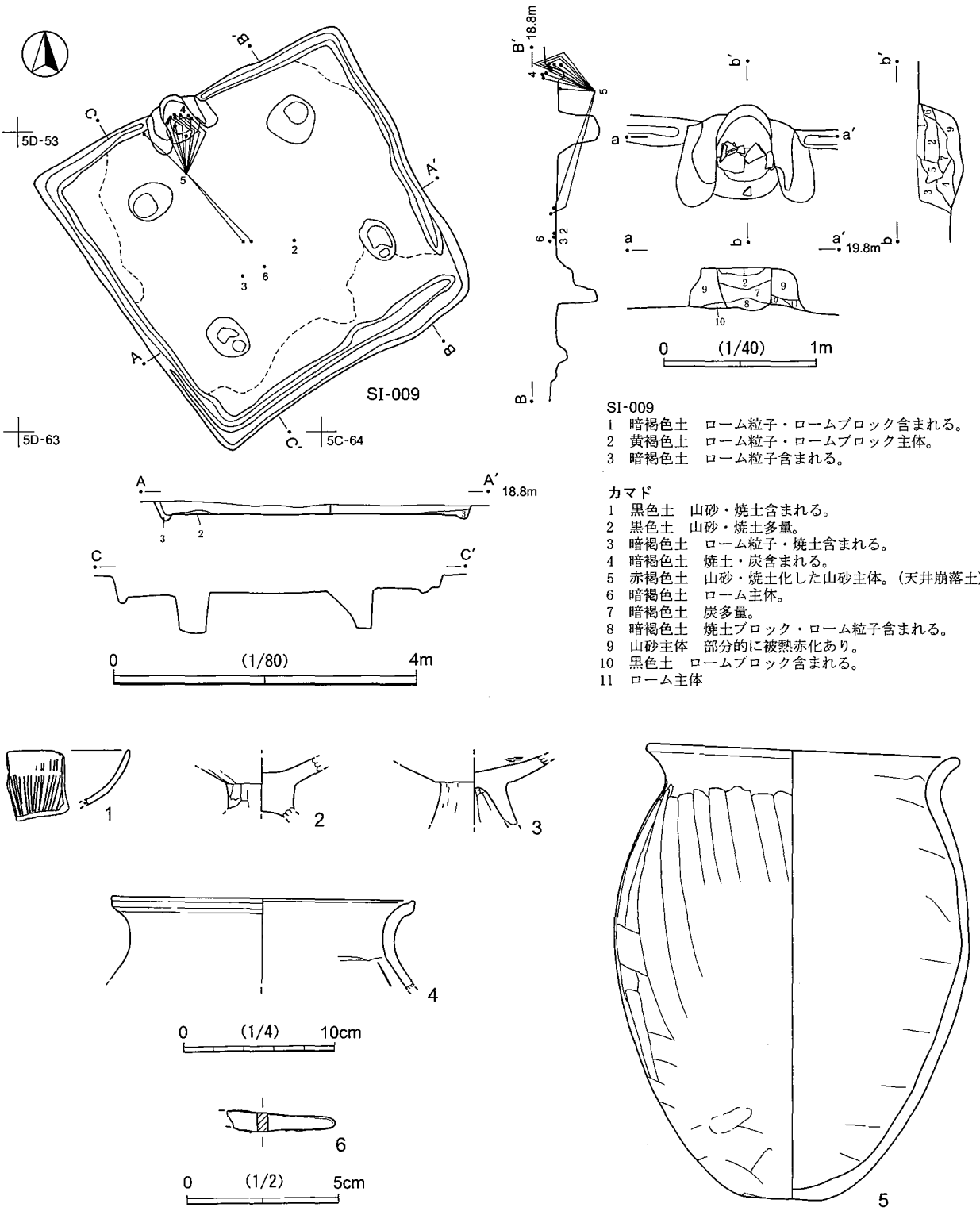
1 は SI-007 の柱穴から出土した土師器坏である。全体の 1/7 の遺存である。色調は内面が橙色，外面が橙色～赤灰色である。胎土には白色微砂粒が多量に含まれる。内面は非常に丁寧なミガキ，外面はヘラケズリ後ミガキ調整である。



第147図 SI-007・008

SI－008（第147図，図版91）

5D-61グリッドに位置する。平面形は方形で，規模は1辺7.0mである。主軸はN-44°-Wである。北西部分がSI-007，住居中央がSX-002によって切られている。掘り込みは確認面から平均15cmである。カマドは北西壁に付設されたものと考えられるが，削平され遺存はない。ピットは北コーナーの主柱穴を除く3基が確認された。掘り込みはしっかりしている。床面の硬化面は中央部のSX-002による攪乱のため，確認されなかった。壁周溝は切り合う部分以外全周し，平均的な規模は下端幅10cm・床面から深さ6cmである。遺物はほとんど出土せず，小破片のため実測可能な個体はなかった。



SI-009
1 暗褐色土　ローム粒子・ロームブロック含まれる。
2 黄褐色土　ローム粒子・ロームブロック主体。
3 暗褐色土　ローム粒子含まれる。

カマド
1 黒色土　山砂・焼土含まれる。
2 黒色土　山砂・焼土多量。
3 暗褐色土　ローム粒子・焼土含まれる。
4 暗褐色土　焼土・炭含まれる。
5 赤褐色土　山砂・焼土化した山砂主体。（天井崩落土）
6 暗褐色土　ローム主体。
7 暗褐色土　炭多量。
8 暗褐色土　焼土ブロック・ローム粒子含まれる。
9 山砂主体　部分的に被熱赤化あり。
10 黒色土　ロームブロック含まれる。
11 ローム主体

第148図　SI-009

ＳＩ－００９（第148図，図版91・93・143）

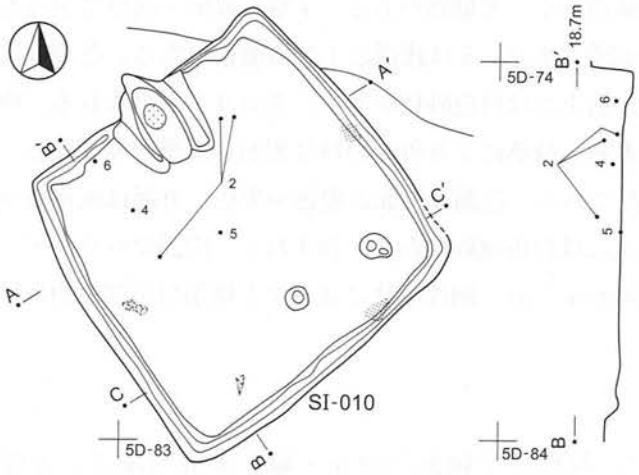
5D-53グリッドに位置する。平面形は方形で，規模は主軸長4.22ｍ・幅4.16ｍである。主軸はN-32°-Wである。掘り込みは確認面から平均12㎝である。カマドは北西壁中央に付設される。掛け口に土師器甕が割れた状態で出土した。カマド奥壁は比較的急に立ち上がる。火焼面・側壁は被熱により顕著に赤化している。ピットは主柱穴が4基で，掘り込みはしっかりしている。床面は，壁周辺以外は硬化し，広い範囲に及ぶ。壁周溝は東コーナーでとぎれてしまうが，ほぼ全周する。壁周溝の平均的な規模は下端幅8㎝・床面から深さ8㎝である。

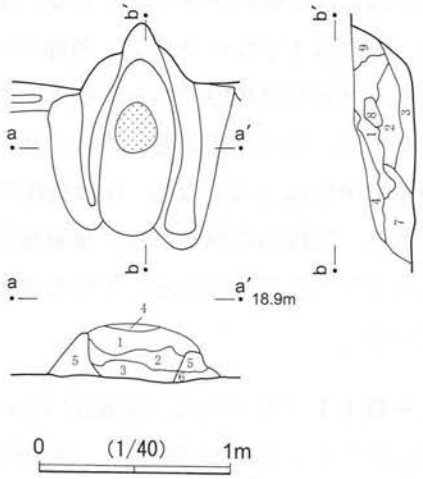
遺物はほとんど出土しなかった。1は土師器坏の口縁部破片である。色調は内外面共に橙色である。焼成はやや不良でやや軟質である。胎土には白色微砂粒が多く含まれる。内面は暗文状にミガキ，外面はヘラケズリ調整であるが，器面は摩滅気味である。2・3は土師器高坏の坏部と脚部の接合部分である。2の色調は内面が黒色，外面が赤灰色である。焼成はやや不良で，胎土には白色微砂粒･スコリアが含まれる。内面はヘラナデ，外面はヘラケズリ調整と考えられる。3の色調は，内面が灰褐色，外面が褐灰色である。焼成は不良で胎土には白色砂粒・スコリア塊が含まれる。坏部内面はヘラミガキ，外面は摩滅して単位ははっきりしないがヘラケズリ調整と考えられる。4は土師器甕(常総型？)で，口縁部の1/6の遺存である。色調は内外面共に褐灰色である。胎土には白色砂礫・銀雲母粒が多量に含まれ，特徴的である。内面はヘラナデ,外面はナデ調整である。5は土師器甕で,全体の1/2の遺存である。色調は内面が浅黄橙色～黒色,外面がにぶい黄橙色～黒色である。胎土には白色・褐色砂礫が多く含まれる。底部の周縁は角がなく，丸みを帯びる。内面はヘラナデ，外面は上半が縦，下半が横斜めのヘラケズリ調整が施される。6は鉄製の刀子の茎部または鉄鏃の茎部破片である。断面は四角で，端部ほど薄く，やや細くなっていく。重量は1.95ｇである。

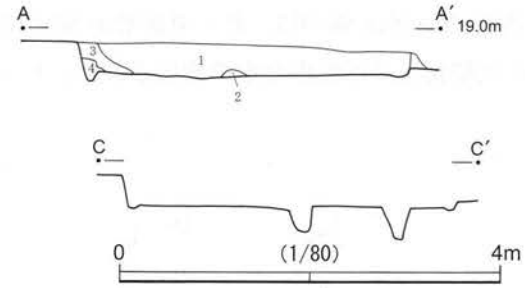
ＳＩ－０１０（第149図，図版92・93・143）

5D-73グリッドに位置する。平面形は方形で，規模は主軸長3.38ｍ・幅3.42ｍである。主軸はN-38°-Wである。SI-011を切って構築され，北コーナー壁がSD-013に切られている。掘り込みは確認面から平均30㎝である。カマドは北西壁中央に付設される。比較的袖部の遺存が良好で，手前側に張り出している。カマド奥壁は緩やかに立ち上がる。火焼部は顕著に赤化している。ピットは東コーナーと入口部に1基ずつ確認された。掘り込みは比較的しっかりしている。壁周溝は全周し，平均的な規模は下端幅8㎝・床面から深さ4㎝である。

東・南壁沿いには山砂，西側には炭化材が出土した。1は土師器坏で口縁部～体部の1/6の遺存である。色調は内外面共に黒褐色である。胎土には白色砂粒が多く，スコリアも含まれる。内面は丁寧なミガキ，外面はヘラケズリ後ミガキ調整である。底部に近づくほど器厚が薄くなる。2は土師器高坏で，坏部の1/4の遺存である。色調は内外面とも黒褐色を呈し，特に内面は黒色処理されていた可能性があるが，断定できない。焼成はやや不良で，胎土には白色砂粒・海綿骨針が含まれる。内面はヘラミガキ，外面はヘラケズリ後部分的にミガキ調整が施される。外面には粘土紐接合痕が確認できる。3は土師器甑の口縁部破片である。色調は内外面共に明赤褐色である。胎土には灰色・白色砂粒が多く，スコリアも含まれる。内面は縦方向のヘラミガキ，外面はヘラケズリ後部分的にミガキ調整である。4～6は土師器甕である。4は口縁部～胴部の1/4の遺存である。色調は内面がにぶい赤褐色～黒色,外面が赤褐色～黒色である。

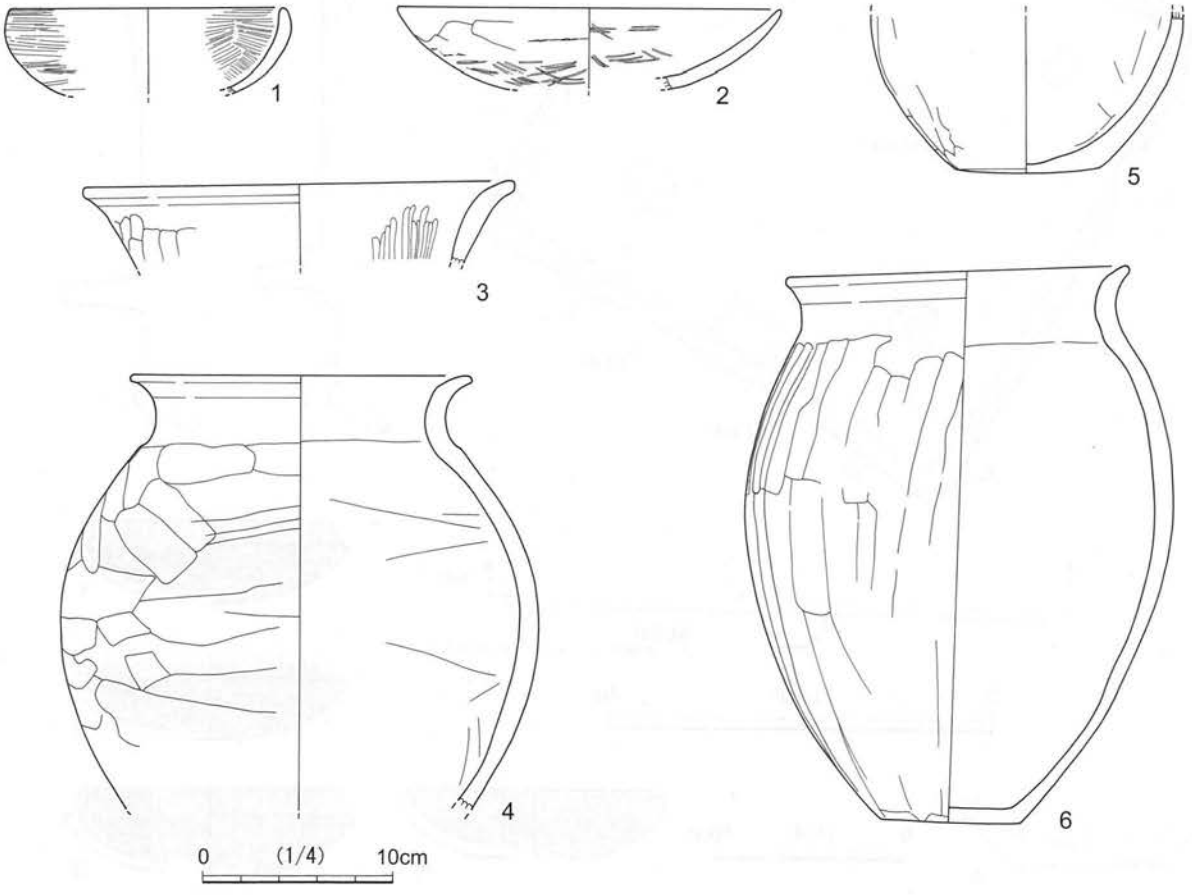






SI-010
1 暗褐色土　ローム粒子含まれる。ロームブロック微量。
2 暗褐色土　山砂含まれる。
3 黒褐色土
4 暗褐色土　ローム粒子・ロームブロック多量。

カマド
1 黒色土　山砂・焼土・炭化物含まれる。
2 黒色土　山砂・焼土含まれる。
3 暗褐色土　山砂・焼土多量。
4 暗褐色土
5 山砂主体　暗褐色土含まれる。(袖)
6 暗褐色土　ロームブロック含まれる。(袖)
7 暗褐色土　山砂多量。焼土少量。(袖)
8 暗褐色土　山砂多量。
9 暗褐色土　山砂・焼土含まれる。

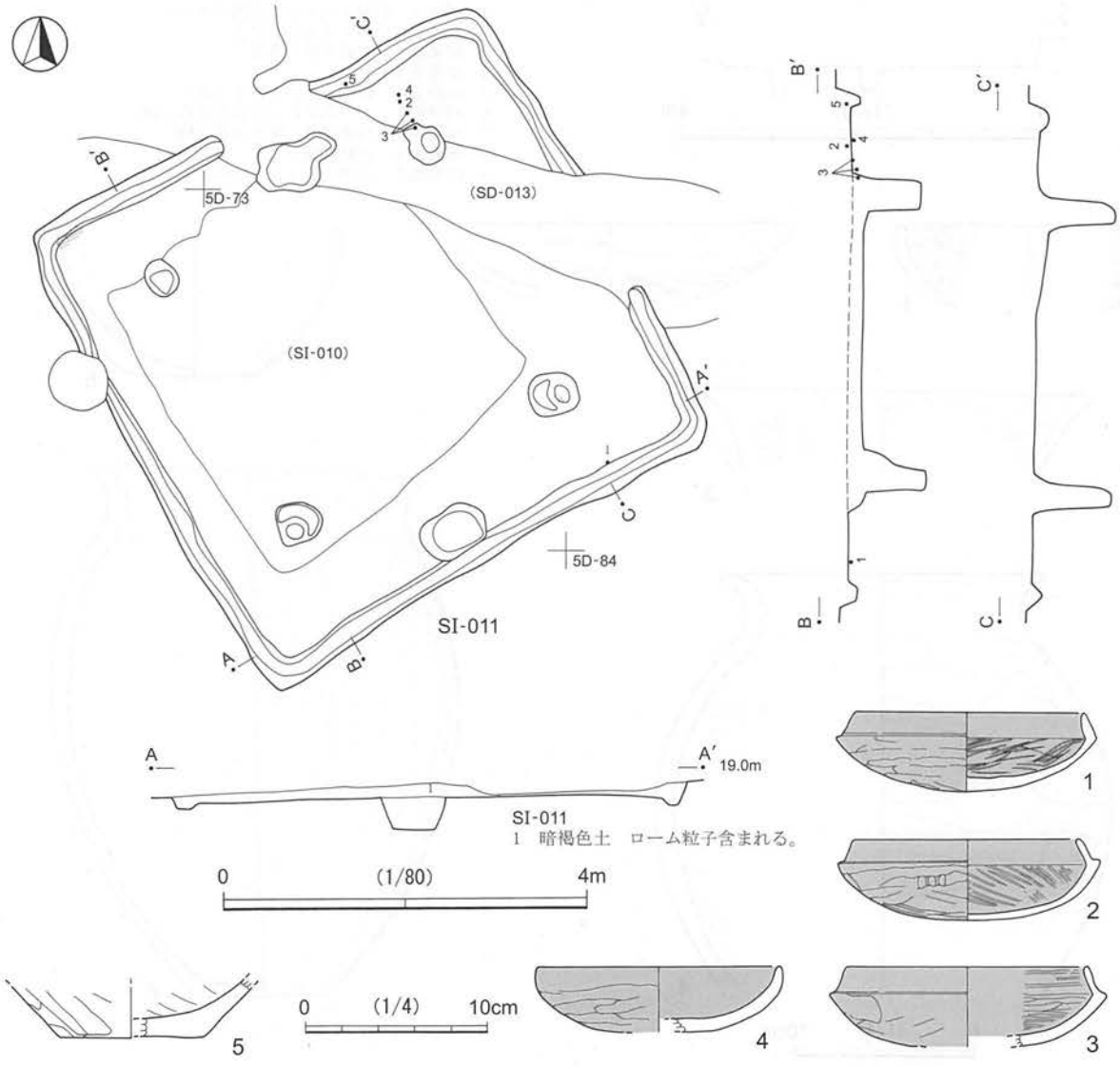


第149図　SI-010

胎土には白色微砂粒が多く含まれる。全体的に器壁が厚く，重量感がある。丁寧な成形・調整で歪みも少ない。内面は丁寧なヘラナデ，外面はヘラケズリ調整である。5は底部の1/3の遺存である。色調は内面が黒色，外面が黒褐色である。焼成はやや不良で，胎土には白色砂粒が多く，スコリアも含まれる。内面はヘラナデ，外面は底面も含めヘラケズリ調整である。被熱により外面が特に器面の剥落がみられる。底部器厚は中央ほど薄くなる。6は全体の4/5の遺存である。色調は内面が橙色～黒色，外面は灰褐色～黒色である。比較的器厚があり，重量感がある。胎土には白色微砂粒が多く含まれる。内面はヘラナデ，外面はヘラケズリ調整である。丁寧な成形のため歪みが少ない。胴部中位にはカマド構築材が部分的に付着している。

ＳＩ－０１１（第150図，図版92・143・144）

5D-73グリッドに位置する。平面形は方形で，規模は主軸長5.44ｍ・幅5.58ｍである。主軸はN-30°-Wである。掘り込みは確認面から平均10㎝である。西壁の一部はSK-013，北・東部壁がSD-013に切られ，カマドも削平されている。わずかに火焼部の掘方が北壁付近で不整形な形で検出された。ピット



第150図 SI-011

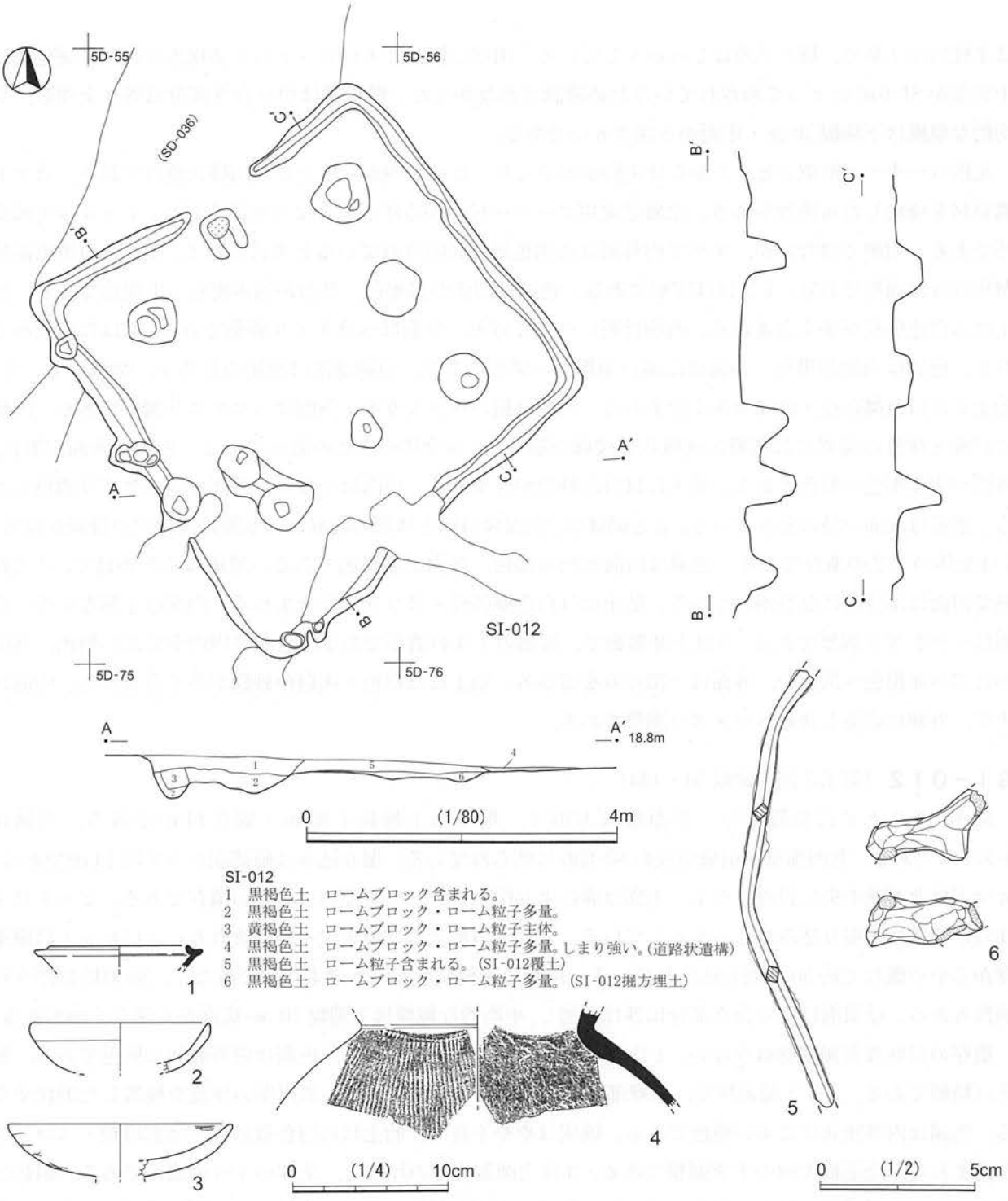
は主柱穴が4基で，掘り込みはしっかりしている。南壁に接して入口ピットも1基検出された。硬化面は中央部がSI-010によって壊されているため確認されなかった。壁周溝は切り合う部分以外は全周し，平均的な規模は下端幅10㎝・床面から深さ8㎝である。

北西コーナーと南東のピットからは山砂が出土した。ピット内から出土した山砂は焼けており，カマド構築材を廃棄した可能性がある。土器は北東コーナー付近から坏がまとまって出土した。1～4は土師器坏である。明確ではないが，すべて内外面共に黒色処理(漆)されていると考えられる。1～3の須恵器模倣坏はほぼ同型である。1はほぼ完形である。色調は内面が黒褐色，外面が明赤褐色～黒褐色である。胎土には白色砂粒が多く含まれる。内面は粗いヘラミガキ，外面はヘラケズリ調整である。2はほぼ完形である。色調は内面が黒色，外面はにぶい赤褐色～黒色である。口縁端部は使用のためか，摩滅している。胎土には白色微砂粒・砂礫が多く含まれる。内面は粗いヘラミガキ，外面はヘラケズリ調整である。内面の口縁と体部の境界には明瞭に沈線状の稜線が巡る。3は全体の1/2の遺存である。色調は内面が黒色，外面が明赤褐色～黒色である。胎土には白色砂粒が含まれる。内面はミガキ，外面はヘラケズリ調整である。器面は内面が特に荒れている。2と同様に，内面の口縁と体部の境界には明瞭に沈線状の稜線が巡る。4は全体の1/2の遺存である。色調は内面が明赤褐色，外面が赤黒色である。焼成はやや不良で，2次被熱で器面は部分的にひび割れている。胎土には白色微砂粒・スコリアが含まれる。内面は丁寧なナデ，外面はヘラケズリ調整である。5は土師器甕で，底部の1/4の遺存である。色調は内面がにぶい橙色，外面がにぶい赤褐色～黒色で，外面は一部赤みを帯びる。胎土には白色・灰白色砂礫が多く含まれる。内面はナデ，外面は底面も含めヘラケズリ調整である。

ＳＩ－０１２（第151図，図版94・144）

5D-65グリッドに位置する。平面形は方形で，規模は主軸長4.86ｍ・幅5.14ｍである。主軸はN-37°-Wである。北西部壁～南壁が浅いSD-036に切られている。掘り込みは確認面から平均14㎝である。カマドは北西壁中央に付設される。上部は溝により削平され，火焼部周辺のみの遺存である。ピットは主柱穴が4基で，掘り込みはしっかりしている。ピットの覆土には焼土粒子が含まれる。入口ピットは南東壁からやや離れて約50㎝掘り込まれている。南側の小規模なピットは本住居ではなく，SD-036に伴う可能性もある。壁周溝は切り合う部分以外は全周し，平均的な規模は下端幅10㎝・床面から深さ5㎝である。

遺存の良好な実測遺物は少ない。1は須恵器坏の口縁部破片である。色調は内外面共に灰色である。胎土は精緻である。2は土師器坏で，口縁部～体部の1/4の遺存である。須恵器の坏蓋を模倣した形状である。色調は内外面共ににぶい橙色である。焼成はやや不良で，胎土には白色微砂粒・金雲母粒・スコリアが含まれる。全面横方向のナデ調整である。3は土師器高坏の坏部で，全体の1/6の遺存である。黒色処理されていた可能性があるが断定できない。色調は内面が黒色～にぶい黄橙色，外面は褐灰色である。焼成は不良で，軟質である。胎土にはスコリアが多量に含まれる。器面はかなり摩滅している。内面はミガキ，外面はヘラケズリ後ミガキ調整である。4は須恵器甕の肩部破片である。色調は内面が灰色，外面は灰白色である。外面は自然釉が付着していたが摺られたように剥落している。灰白色砂粒が含まれる。内面は当て具痕をナデ消しており，外面にはタタキ目がみられる。5は棒状鉄製品である。断面は方形で，紡錘車の心棒の可能性ある。重量は13.5ｇである。6は土馬である。頭部・左前足・右後足の先端を欠損する。色調は橙色で，やや赤みを帯びる。胎土には赤褐色スコリアが目立つ。調整はヘラナデで，あまり丁寧な

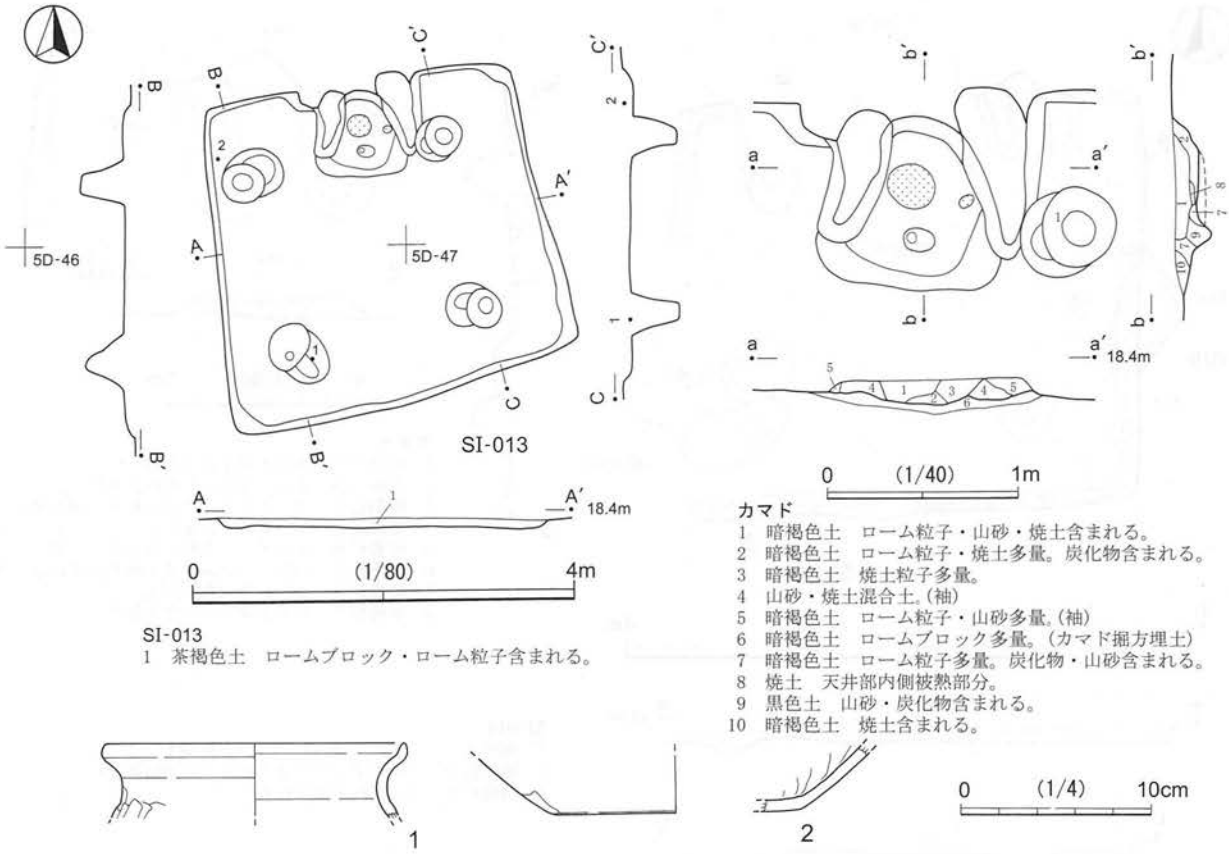


第151図 SI-012

仕上げではない。重量は7.3ｇである。

ＳＩ－０１３（第152図，図版94・98・101）

5D-36グリッドに位置する。平面形はやや不整形な方形で，規模は主軸長3.38ｍ・幅3.36ｍである。主軸はN-9°-Wである。SI-014を切って構築されている。掘り込みは確認面から平均8㎝である。カマドは北壁中央に付設される。右袖には接するように主柱穴の掘方が位置する。火焼部手前に小規模なピット



SI-013
1 茶褐色土 ロームブロック・ローム粒子含まれる。

カマド
1 暗褐色土 ローム粒子・山砂・焼土含まれる。
2 暗褐色土 ローム粒子・焼土多量。炭化物含まれる。
3 暗褐色土 焼土粒子多量。
4 山砂・焼土混合土。(袖)
5 暗褐色土 ローム粒子・山砂多量。(袖)
6 暗褐色土 ロームブロック多量。(カマド掘方埋土)
7 暗褐色土 ローム粒子多量。炭化物・山砂含まれる。
8 焼土 天井部内側被熱部分。
9 黒色土 山砂・炭化物含まれる。
10 暗褐色土 焼土含まれる。

第 152 図 SI-013

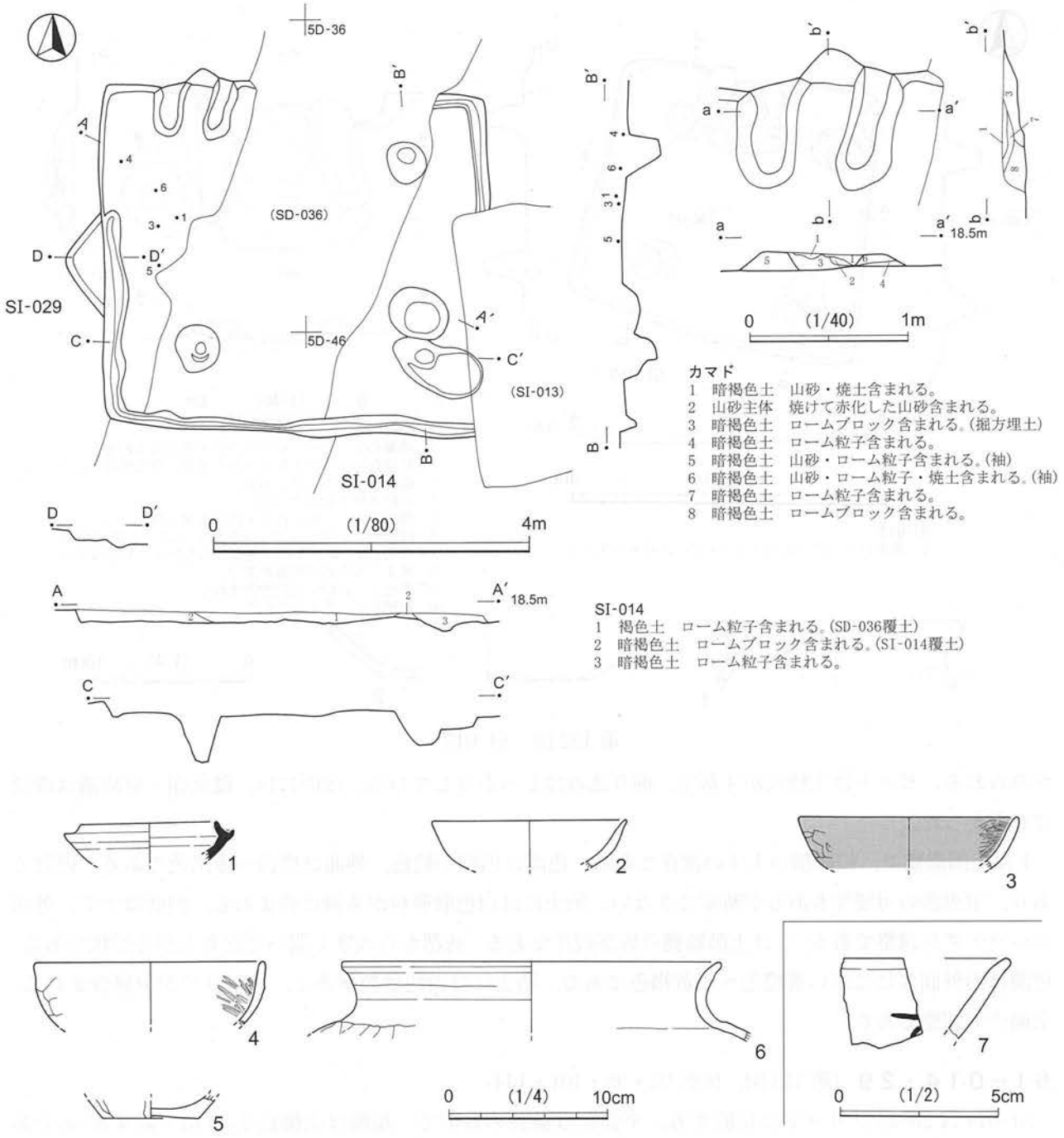
がみられる。ピットは主柱穴が 4 基で，掘り込みはしっかりしている。床面には，硬化面・壁周溝は確認されなかった。

1 は土師器甕で，口縁部の 1/4 の遺存である。色調は内面が橙色，外面は橙色～赤黒色である。硬質であり，須恵器の可能性もあるが断定できない。胎土には白色微砂粒が多量に含まれる。内面はナデ，外面はヘラケズリ調整である。2 は土師器甕の底部破片である。底部から大きく開いて立ち上がる形状である。色調は内外面共ににぶい黄橙色～灰黄褐色である。胎土には白色砂粒が多く，スコリアが少量含まれる。全面ナデ調整である。

ＳＩ－０１４・２９（第 153 図，図版 95・98・101・144）

SI-014 は 5D-35 グリッドに位置する。平面形は横長の方形で，規模は主軸長 4.34 m・幅 4.85 mである。主軸は北である。住居中央を SD-036 に切られている。掘り込みは確認面から平均 14 cmである。カマドは北壁西寄りに付設される。カマド奥壁はなだらかに立ち上がる。ピットは主柱穴が 3 基で，掘り込みはしっかりしているが，深さが一定しない。カマド正面に当たるピットは検出されなかった。横長のプランとも合わせ，この集落においては独特な様相を示している。床面は，中央部が広く SD-036 により削平され，硬化面は確認されなかった。壁周溝はカマド周辺以外は検出され，平均的な規模は下端幅 8 cm・床面から深さ 4 cmである。

SI-029 は SI-014 に大部分が切られており，西側コーナー部のみの遺存で，詳細は判然としない。ピットなどの痕跡もみられない。



第153図 SI-014・029

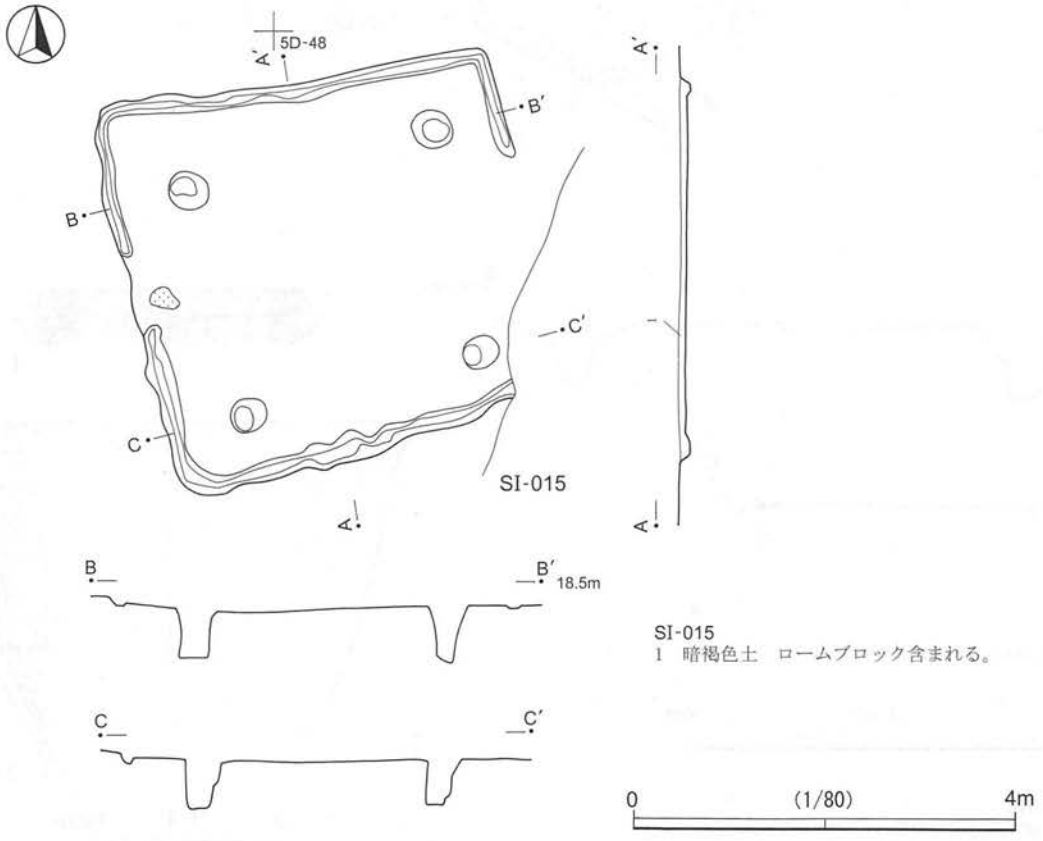
1～6はSI-014からの出土である。1は須恵器坏で，口縁部の1/5の遺存である。色調は内外面共に灰色で，体部外面にはゴマ降り状に自然釉が付着する。断面はセピア色に発色する。硬質である。胎土は緻密で，白色微砂粒が少量含まれる。2～4は土師器坏である。2は口縁部の1/8の遺存である。色調は内外面共ににぶい橙色である。焼成はやや不良で，胎土には白色微砂粒・スコリアが含まれる。器面は摩滅して調整は不明瞭である。内面はミガキ，外面はヘラケズリ調整である。3は口縁部破片である。色調は内外面共に黒褐色であり，黒色処理(漆)されていると考えられる。胎土には白色微砂粒・スコリアが含まれる。内面は丁寧なミガキ，外面はヘラケズリ調整である。4は口縁部の1/4の遺存である。色調は内面

がにぶい橙色～黒褐色，外面はにぶい黄橙色～黒褐色である。胎土には灰白色砂粒が多く含まれる。内面はヘラミガキ，外面はヘラケズリ調整である。5・6は土師器甕である。5は小型甕で，底部の1/2の遺存である。色調は内面が黒色，外面は褐灰色である。胎土には白色微砂粒が多く含まれる。底部中央ほど器壁は薄い。内面は丁寧なナデ，外面は底面も含めヘラケズリ調整である。6は口縁部の1/4の遺存である。色調は内外面共に橙色である。胎土には白色微砂粒が多く，金雲母粒・スコリアも含まれる。内面はヘラナデ，外面はヘラケズリ調整である。

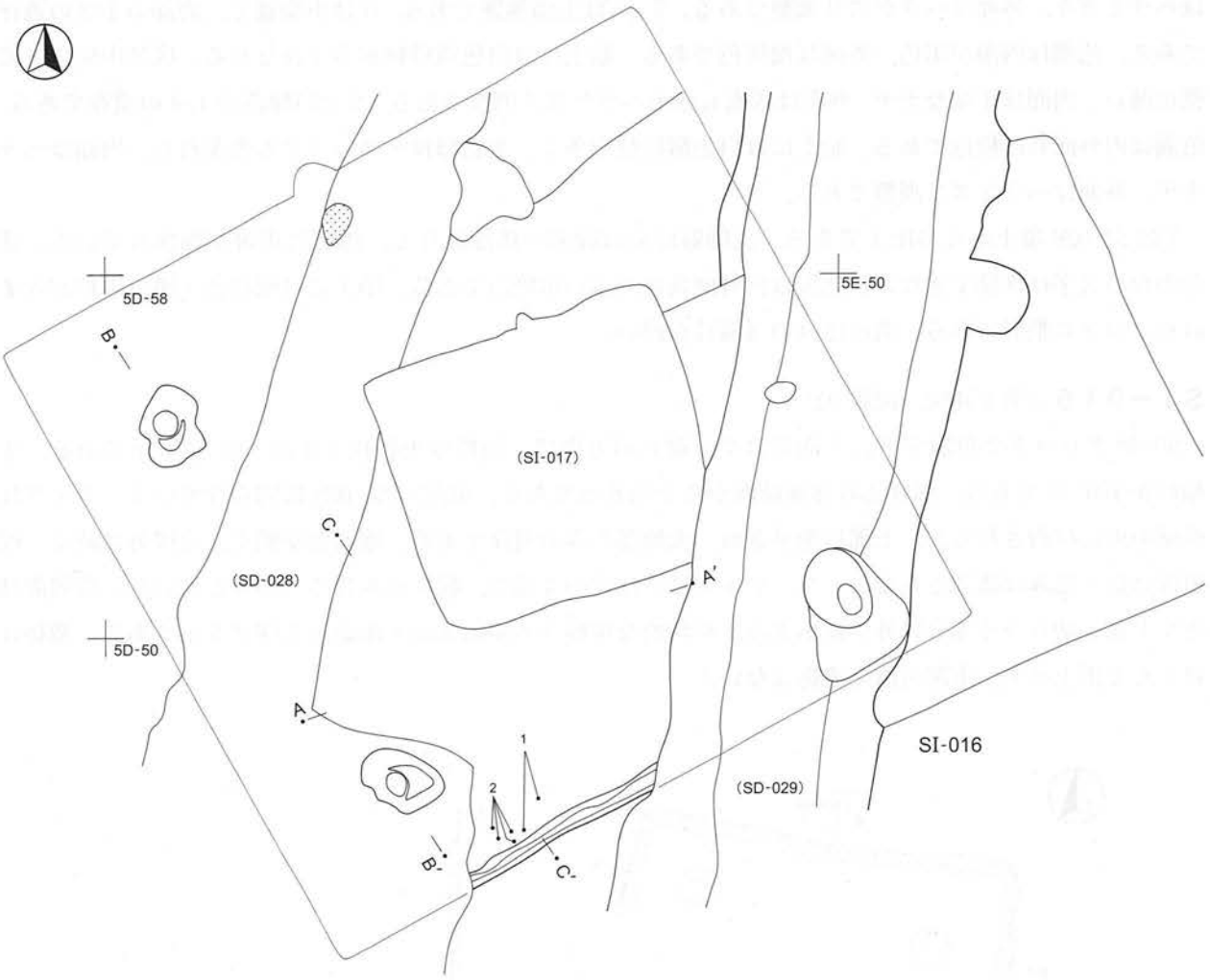
7はSI-029覆土からの出土である。土師器坏の口縁部～体部破片で，体部に墨書が施されている。部分のため文字は判読できない。色調は内外面共ににぶい黄橙色である。胎土には灰白色・黒色砂粒が含まれる。ロクロ整形である。流れ込みの可能性が高い。

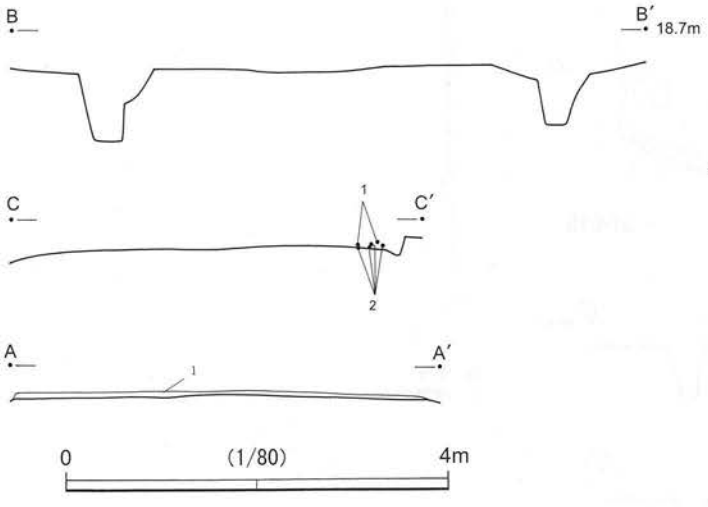
ＳＩ－０１５（第154図，図版95）

5D-48グリッドに位置する。平面形はやや縦長の方形で，規模は主軸長4.2ｍ・幅3.76ｍである。主軸はN-104°-Wである。掘り込みは確認面から平均8㎝である。東部でSD-028に切られている。カマドは西壁中央に付設されるが，上部は削平され，火焼部のみの遺存である。確認面が低く，住居外に続く，煙道部の掘り込みは確認されなかった。ピットは主柱穴が4基で，掘り込みはしっかりしている。壁周溝はカマド部と切り合う部分以外で検出され，平均的な規模は下端幅8㎝・床面から深さ5㎝である。遺物はほとんど出土せず，実測可能な遺物はない。

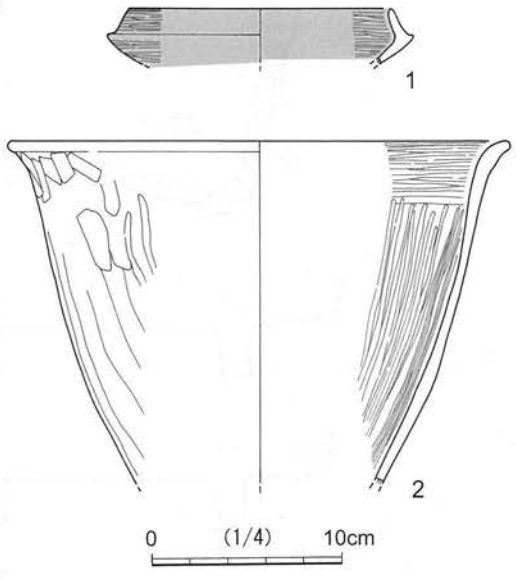


第154図　SI-015





SI-016
1　暗褐色土　ロームブロック含まれる。



第155図　SI-016

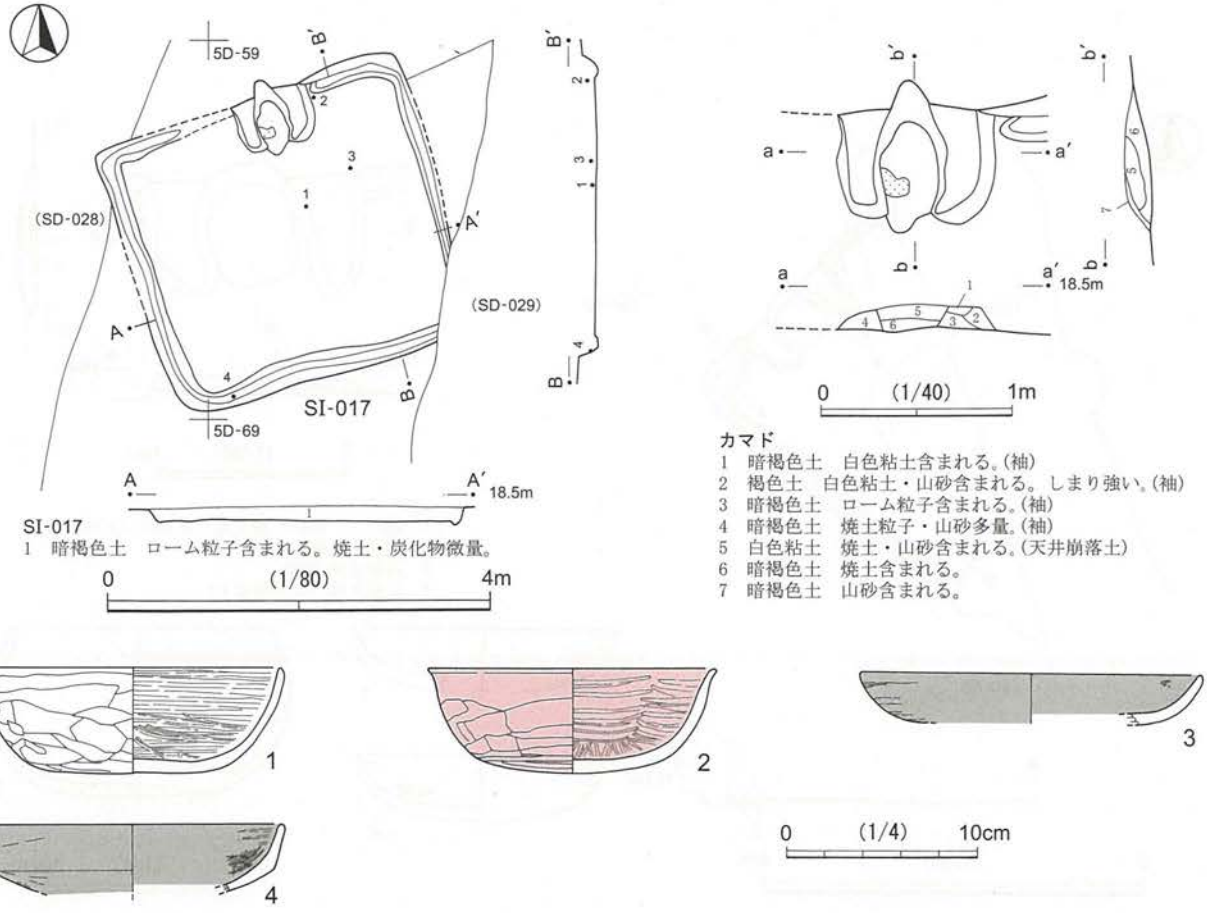
ＳＩ－０１６（第 155 図，図版 96・144）

5D-69 グリッドに位置する。壁面は南側の一部で検出されているのみで，規模は判然としない。平面形は方形で，主軸は N-30°-W である。SI-015・017・SD-028 に切られている。掘り込みは確認面から平均 12 ㎝である。カマドは火焼部のみ遺存し，北西壁中央に付設されていたことが分かる。ピットは主柱穴が 3 基確認された。掘り込みはしっかりしている。壁周溝は遺存した南側の床面でのみ検出され，平均的な規模は下端幅 8 ㎝・床面から深さ 5 ㎝である。

切り合いが多く，確実に SI-016 に帰属する遺物はほとんどなく，南壁沿いから出土した遺物 2 点について実測を行うことができた。1 は土師器坏で，口縁部の 1/3 の遺存である。内外面共に黒色処理(漆)で，色調は黒褐色である。胎土には白色微砂粒・スコリアが含まれる。調整は全面丁寧な横方向のヘラミガキである。2 は土師器甑で，口縁部～胴部の 1/6 の遺存である。色調は内外面共ににぶい橙色である。胎土には白色微砂粒が多く含まれる。内面は口縁部が横方向のヘラミガキ，胴部は縦方向のヘラミガキ調整である。外面は口縁端部がナデ，それ以下胴部はヘラケズリ後部分的にヘラミガキ調整である。

ＳＩ－０１７（第 156 図，図版 96・144）

5D-59 グリッドに位置する。平面形は方形で，規模は主軸長 2.89 m・幅 3.3 mである。主軸は N-23°-W である。北西コーナーで SD-028，南東コーナーで SD-029 に切られている。掘り込みは確認面から平均 12 ㎝である。カマドは北壁のやや北寄に付設される。カマド奥壁はかなり緩やかに立ち上がる。ピットや床



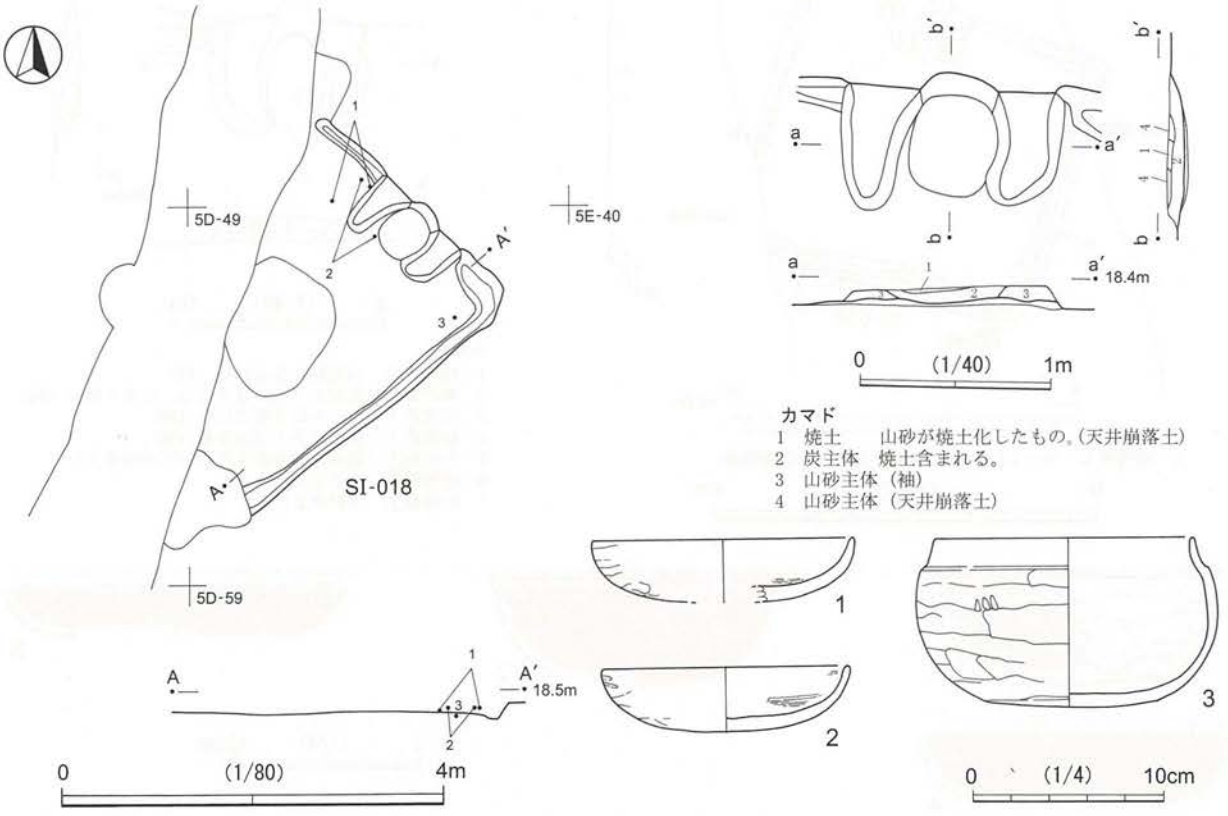
第 156 図　SI-017

面の硬化面は検出されなかった。壁周溝は全周し,平均的な規模は下端幅10㎝・床面から深さ5㎝である。

1～4は土師器坏である。1はほぼ完形である。平底を意識して整形している。口縁は急角度で立ち上がる。色調は内外面共ににぶい橙色である。胎土は緻密で,白色微砂粒・スコリアが多く含まれる。内面は丁寧なヘラミガキ,外面は底面を含めヘラケズリ調整である。2は全体の1/2の遺存である。平底を意識して整形し,口縁部はやや外反する。内外面とも赤彩され,内面は赤褐色～黒色,外面は赤色～暗赤褐色である。内面にはカーボンが付着する。胎土には白色微砂粒が多く,スコリアも微量含まれる。内面はヘラミガキ,外面は底面を含めヘラケズリ調整である。3は口縁部～体部の1/8の遺存である。器高が低く,口径が大きい形状である。色調は内面が褐灰色～灰褐色,外面は黒色で,内外面共に黒色処理(漆)されていたと考えられる。胎土には白色微砂粒が含まれる。内面はナデ・ミガキ,外面はヘラケズリ後ミガキ調整である。4は口縁部の1/8の遺存である。色調は内外面共に灰褐色で,黒色処理(漆)されていたと考えられる。胎土には白色微砂粒が多く含まれる。口縁部内部はヨコナデ,胴部内面はミガキ,外面はヘラケズリ後ナデ・ミガキで器面を整えている。

SI-018 (第157図,図版95～97・101・144)

5D-49グリッドに位置する。平面形は方形で,規模は切り合いなどにより不明である。主軸はN-48°-Wである。掘り込みは確認面から平均10㎝である。カマドは北東壁やや東寄りに付設される。カマド奥壁は緩やかに立ち上がる。ピット・硬化面は遺存した床面からは検出されなかった。壁周溝は切り合う部分以外では全周し,平均的な規模は下端幅8㎝・床面から深さ5㎝である。



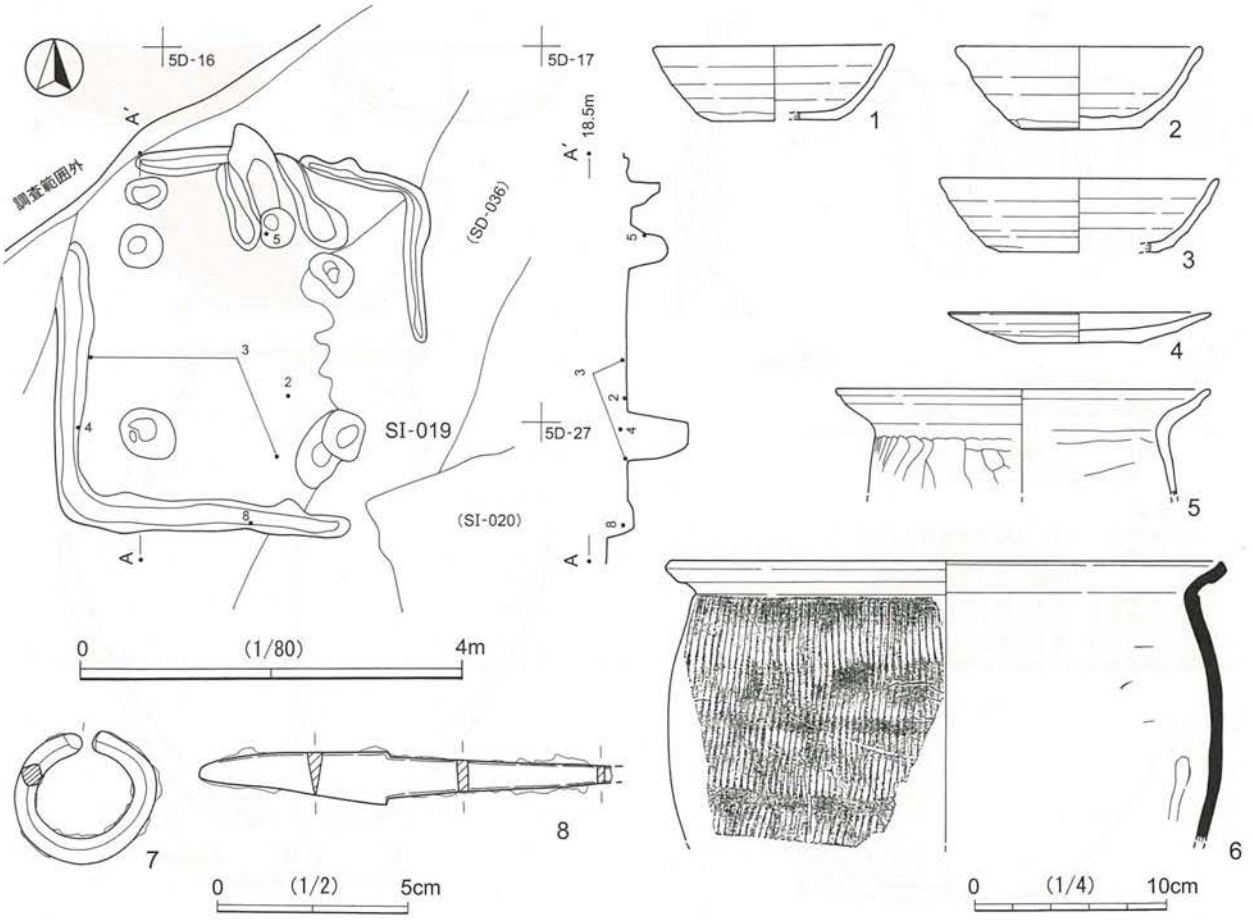
第157図 SI-018

遺物はほとんど出土しなかった。1・2は土師器である。焼成はいずれもやや不良である。1は全体の1/8の遺存である。色調は口縁端部が黒色，それ以外は内外面共に浅黄橙色である。胎土には灰白色・白色微砂粒が含まれる。内面はヘラミガキ，外面はヘラケズリ調整である。2は全体の1/5の遺存である。色調は内外面共ににぶい橙色である。胎土には白色微砂粒・スコリアが多く含まれる。底部内面は器面の剥落が著しい。内面はヘラミガキ，外面はヘラケズリ後粗いヘラミガキ調整である。3は土師器椀形坏である。ほぼ完形で，口縁部をはっきりと作り出し，やや内傾する。底面は平底を意識してヘラケズリされている。色調は内外面共に灰褐色である。焼成はやや不良で，胎土にはスコリアが多く含まれる。口縁部は丁寧なヨコナデ，内面はナデ，外面はヘラケズリ調整である。底部内面に茶褐色の物質が付着する。

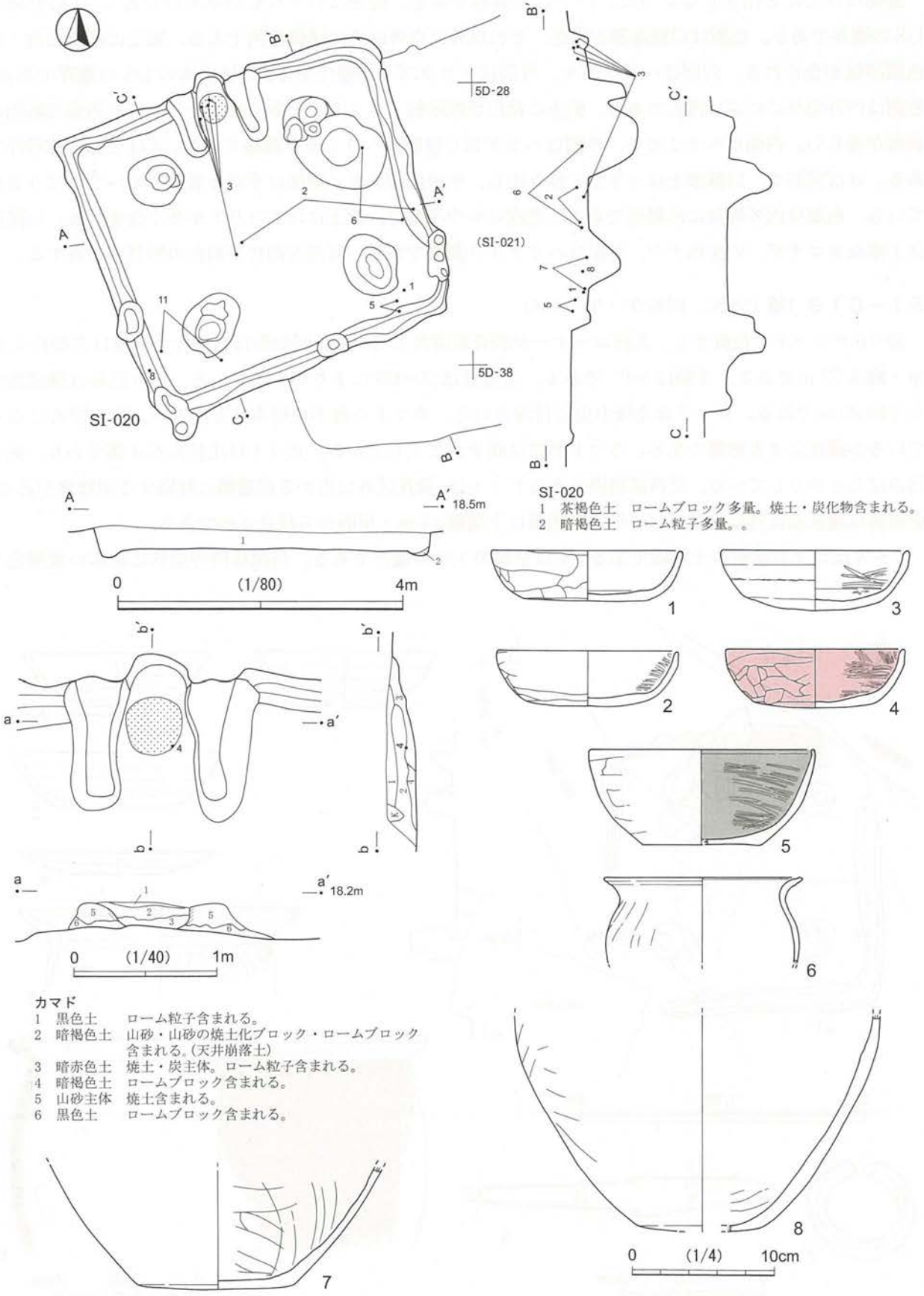
ＳＩ－０１９（第158図，図版97・98・144）

5D-16グリッドに位置する。北西コーナーが調査範囲外に当たる。平面形は方形で，規模は主軸長3.88m・幅3.73mである。主軸はN-0°である。南東部はSD-036により切られている。掘り込みは確認面から平均20cmである。カマドは北壁中央に付設される。カマドの軸が住居本体と異なり，やや斜めになっているが攪乱による影響である。カマド奥壁は緩やかに立ち上がる。ピットは主柱穴が4基であり，掘り込みはしっかりしている。北西部壁際にあるピットは，調査区外に広がる別遺構に帰属する可能性がある。壁周溝は攪乱部以外は全周し，平均的な規模は下端幅14cm・床面から深さ5cmである。

1～3はロクロ整形の土師器である。1は全体の1/4の遺存である。色調は内外面共ににぶい黄褐色で



第158図　SI-019


SI-020
SI-021
5D-28
5D-38
A
A′
B
B′
C
C′
a
a′
b
b′
18.5m
18.2m
0 (1/80) 4m
0 (1/40) 1m
0 (1/4) 10cm
SI-020
1 茶褐色土 ロームブロック多量。焼土・炭化物含まれる。
2 暗褐色土 ローム粒子多量。。
カマド
1 黒色土 ローム粒子含まれる。
2 暗褐色土 山砂・山砂の焼土化ブロック・ロームブロック含まれる。(天井崩落土)
3 暗赤色土 焼土・炭主体。ローム粒子含まれる。
4 暗褐色土 ロームブロック含まれる。
5 山砂主体 焼土含まれる。
6 黒色土 ロームブロック含まれる。

第159図 SI-020

ある。胎土には灰白色砂粒が多く含まれる。体部下端・底面は手持ちヘラケズリ調整である。2は全体の1/3の遺存である。口縁部直下に大きく稜が作り出される。色調は内外面共に灰褐色である。胎土には白色微砂粒が多く，スコリアも含まれる。体部下端・底面は手持ちヘラケズリ調整である。底部器厚が体部に比べ厚みがある。3は全体の1/6の遺存である。色調は内外面共ににぶい赤褐色である。胎土には白色微砂粒・スコリアが含まれ，硬質である。体部下端・底面はヘラケズリ調整である。4は土師器皿である。全体の1/2の遺存である。色調は内面がにぶい橙色，外面はにぶい橙色～褐灰色である。焼成はやや不良で，胎土には白色・灰白色砂粒が多く，他にはスコリアが含まれる。体部下端・底面は回転ヘラケズリ調整である。5は土師器甕で，口縁部～頸部の1/6の遺存である。色調は内面がにぶい赤橙色～赤黒色，外面が灰赤色～赤黒色である。胎土には白色微砂粒が多く，雲母粒・スコリア粒も含まれ，硬質である。内面はナデ，外面はヘラケズリ調整である。胴部はあまり膨らまない形状である。6は褐色系須恵器甕で，口縁部～胴部の1/6の遺存である。色調は内外面共ににぶい橙色である。胎土には白色・灰白色砂粒が多く，スコリア塊も含まれ，硬質である。内面はナデ，外面にはタタキ目が明瞭に残る。口縁部は2重口縁状に厚くなっている。7は鉄製の環状鉄製品である。耳環の可能性もあるが，表面に箔などの処理がされていたかは不明である。稜線が確認でき，断面は菱形である。重量は12.7ｇである。8は鉄製の刀子で，端部が少し欠損するがほぼ完形である。両関で，茎部が刃部より長い。重量は12.0ｇである。

ＳＩ－０２０（第159図，図版98・144）

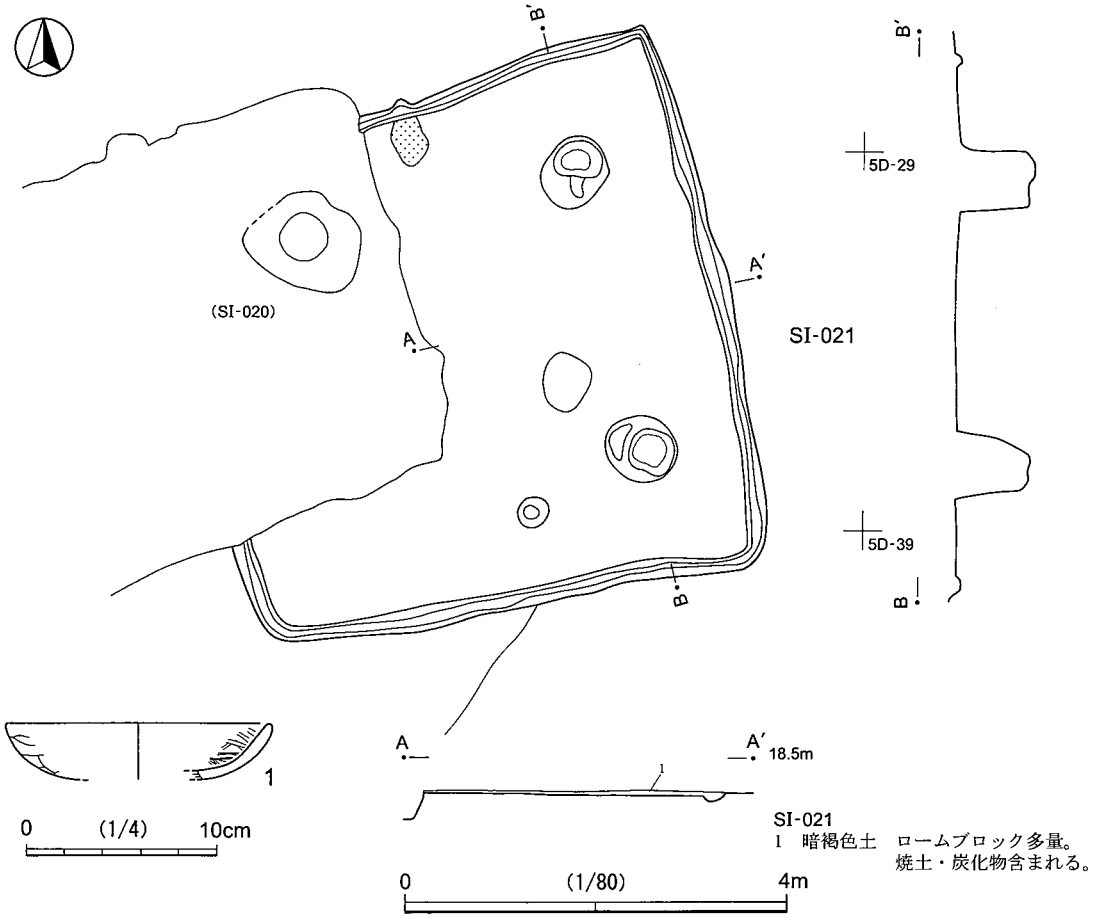
5D-27グリッドに位置する。平面形は方形で，規模は主軸長4.03ｍ・幅4.32ｍである。主軸はN-22°-Wである。掘り込みは確認面から平均20㎝である。SI-021・028を切って構築され，北西コーナーではSD-036に切られている。カマドは北壁中央に付設され，火焼部は被熱で顕著に赤化している。カマド奥壁は緩やかに立ち上がる。ピットは主柱穴が4基で，掘り込みはしっかりしている。北東部の土坑状の掘り込みはSI-021に伴うものである可能性がある。南壁沿い中央のピットは入口施設に伴うものであろうが，西側の壁溝内のピットはSI-028に伴う可能性がある。壁周溝は全周し，平均的な規模は下端幅10㎝・床面から深さ6㎝である。

遺物は比較的多く出土した。1～4は土師器坏で平底を意識した形状である。1はほぼ完形である。色調は内外面共に橙色である。焼成はやや不良で，胎土には灰色砂粒・スコリアが多く含まれる。内面の剥落が著しい。内面はミガキ，外面は底面も含めヘラケズリ調整である。2は全体の1/2の遺存である。色調は内面がにぶい橙色～黒褐色，外面はにぶい橙色である。内面は黒色処理されていた可能性があるが，断定できない。胎土には白色微砂粒･スコリア粒が多く含まれる。底部内面中央が，やや凹む形態である。内面はミガキ，外面は底面も含めヘラケズリ調整である。3は全体の1/2の遺存である。底部は平底を意識されるが，中心はやや丸みを帯びる。色調は内面がにぶい橙色～灰褐色，外面はにぶい橙色である。焼成は不良で，胎土は白色砂粒・スコリア粒が多く含まれる。器面が全体的に荒れて摩滅している。内面はミガキ，外面はヘラケズリ調整である。4は全体の1/3の遺存である。内外面共に赤彩されていると考えられる。色調は内面が橙色～暗赤灰色，外面はにぶい橙色～灰赤色である。焼成はやや不良で，胎土には白色微砂粒が多く含まれる。内面はミガキ，外面はヘラミガキ調整である。底部内面中央が，やや凹む形態である。5は土師器椀状の坏で，全体の1/4の遺存である。色調は内面が黒色処理(炭)で黒色，外面はにぶい橙色～黒褐色である。胎土には白色微砂粒が多く含まれる。内面には炭化物が微量付着する。内面

はヘラミガキ，外面は底面も含めヘラケズリ調整である。ヘラケズリによって底部をしっかりと平底に仕上げている。6～8は土師器甕である。6は小型甕で，口縁部～胴部の1/6の遺存である。色調は内面が黒色，外面がにぶい赤褐色～黒色である。器厚は全体に薄く，丁寧な作りである。焼成はやや不良で，胎土には白色微砂粒が多く含まれる。内面は丁寧なナデ，外面はヘラケズリ調整である。7は底部～胴部下半の1/3の遺存である。色調は内面が浅黄橙色，外面が橙色～黒色である。胎土には白色砂粒が多く，スコリア塊も含まれる。内面はユビナデ，外面はヘラケズリ後丁寧なナデ調整である。底面の周縁は使用により摩滅が著しい。8は底部～胴部下半の1/5の遺存である。色調は内外面共に赤色～黒色である。胎土自体が赤色に発色している。焼成はやや不良で，胎土には白色微砂粒が多く，スコリア塊も含まれる。器面は剥落しており，特に内面が著しい。内面がナデ，外面はヘラケズリ後ナデ調整である。

ＳＩ－０２１（第160図，図版98）

5D-28グリッドに位置する。平面形は方形で，規模は主軸長5.3ｍ・幅は5.45ｍである。主軸はN-12°-Wである。南側ではSI-028を切って構築され，西側でSI-020に切られている。掘り込みは確認面から平均5㎝である。カマドは北壁中央に付設されていたと考えられるが，火焼部と奥壁の張り出しがわずかに確認されたのみである。ピットは主柱穴が3基で，掘り込みはしっかりしているが，南西部に当たるべきピットは確認されなかった。入口ピットが1基南側で検出された。壁周溝は切り合い部分以外は全周し，平均的な規模は下端幅8㎝・床面から深さ5㎝である。



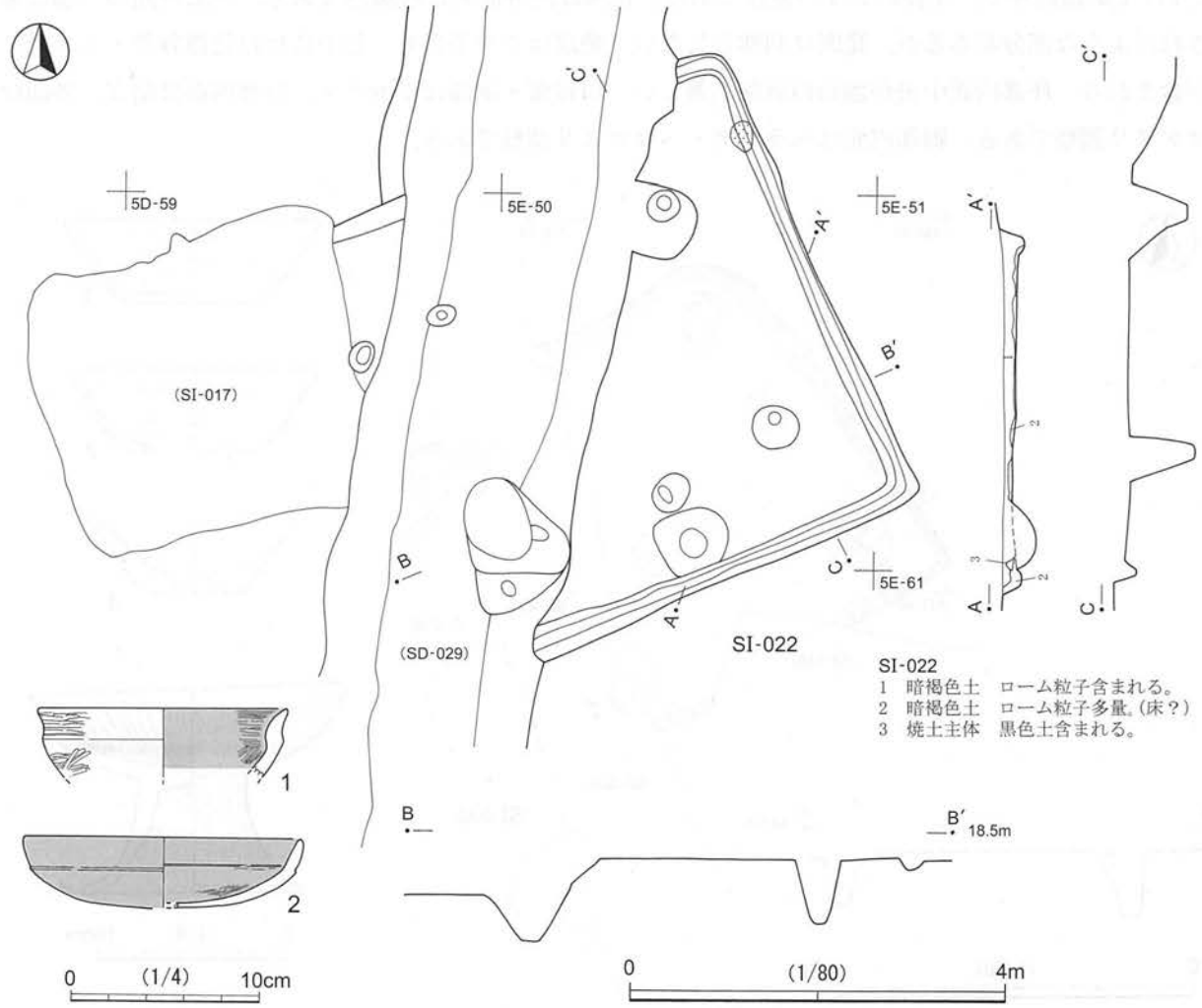
第160図 SI-021

遺物はほとんど出土しなかった。1は土師器坏の口縁部～体部破片である。色調は内面が橙色で，外面は明赤褐色である。胎土自体が赤く発色する。胎土には白色・灰色砂粒が多く，スコリア粒も含まれる。内面はヘラミガキ，外面はヘラケズリ調整である。

ＳＩ－０２２（第161図，図版99）

5E-50グリッドに位置する。平面形は方形で，規模は主軸長4.58ｍである。主軸はN-23°-Wである。中央部でSD-029，西側でSI-017に切られている。掘り込みは確認面から平均12㎝である。カマドは北西壁に付設されていたと思われるが，SD-029によって削平される。ピットは主柱穴が4基で，掘り込みはしっかりしている。入口部分には2基ピットを確認した。北側の小規模なピットは深さ23㎝である。壁周溝は遺存する東側で検出され，平均的な規模は下端幅8㎝・床面から深さ10㎝である。

1・2は土師器坏である。1は口縁部～体部破片である。内面は黒色処理(漆)され，黒色で，外面はにぶい橙色～黒褐色である。胎土には白色微砂粒が多く，スコリア粒も含まれる。口縁部外面と内面全面はミガキ，体部外面はヘラケズリ後部分的にミガキ調整である。2は全体の1/4の遺存である。内外面共に黒色処理(漆？炭？)されており，色調は黒褐色である。焼成はやや不良で，胎土には白色微砂粒が多く含まれる。口縁端部はかなり摩滅している。体部外面も器面の剥落が著しい。内面はヘラミガキ，体部外面はヘラケズリ調整である。

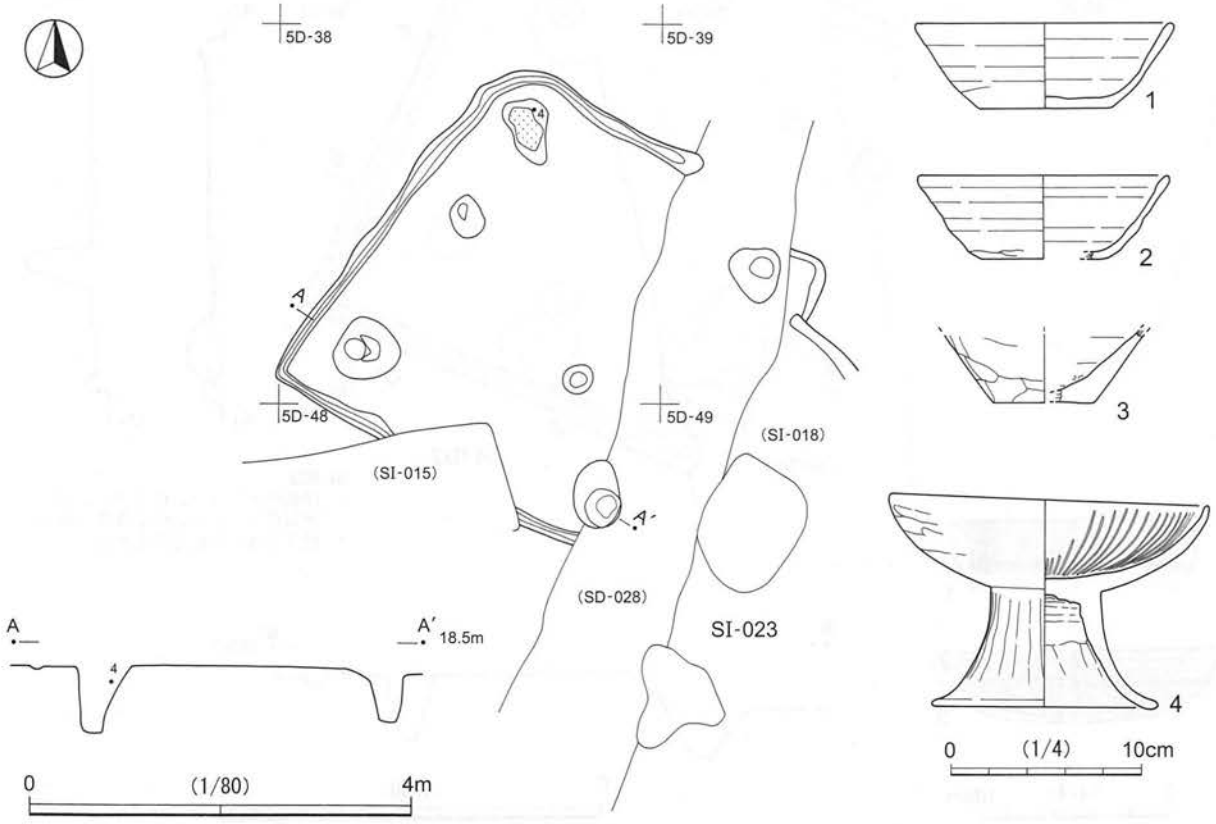


第161図 SI-022

ＳＩ－０２３（第162図，図版95・96・98・99・145）

5D-38グリッドに位置する。平面形は方形で，規模は主軸長4.1ｍ・幅4.05ｍである。主軸はN-33°-Eである。後世の削平のため掘り込みははっきりしないが，壁溝の存在によりプランが確認された。SI-015・018・SD-028によって切られる。カマドは確認されなかったが，北コーナーに被熱した硬化面が確認された。ピットは主柱穴が3基で，赤化した硬化面がある北コーナーを除いて配置される。主柱穴は掘り込みはしっかりしている。北コーナーに近い場所で，深さ47㎝のピット，中央寄りに深さ約20㎝のピットが検出された。床面の硬化面ははっきりとは確認されなかった。壁周溝は切り合っている東側以外では全周する。平均的な規模は下端幅6㎝・床面から深さ4㎝である。

覆土がほとんど遺存しないため，遺物の出土は微量である。1・2はロクロ整形の土師器坏である。1は全体の1/4の遺存である。色調は内外面共ににぶい赤褐色～黒褐色である。胎土自体が赤みを帯びる。胎土には白色砂粒・スコリア粒が多く含まれる。特にスコリアが目立つ。体部下端・底面は回転ヘラケズリ調整である。2は全体の1/6の遺存である。口縁端部が比較的肥厚する。色調は内外面共ににぶい橙色である。胎土には白色砂粒・スコリア粒が多く，金雲母細粒も含まれる。体部下端・底面は手持ちヘラケズリ調整である。3は土師器甕の底部破片である。色調は内面がにぶい橙色，外面はにぶい橙色～黒色である。胎土には白色砂粒・スコリア粒が多く含まれる。内面はナデ，外面は底面も含めヘラケズリ調整である。4は土師器高坏で，全体の3/4の遺存である。色調は内外面共に浅黄色である。坏部外面の一部に赤彩されたような部分があるが，範囲は判然としない。焼成はやや不良で，胎土には白色微砂粒・スコリア粒が含まれる。坏部内面中央が器面の剥落が著しい。口縁部・裾部はヨコナデ，坏部内面は暗文，外面はヘラケズリ調整である。脚部内面はヘラナデ・ヘラケズリ調整である。

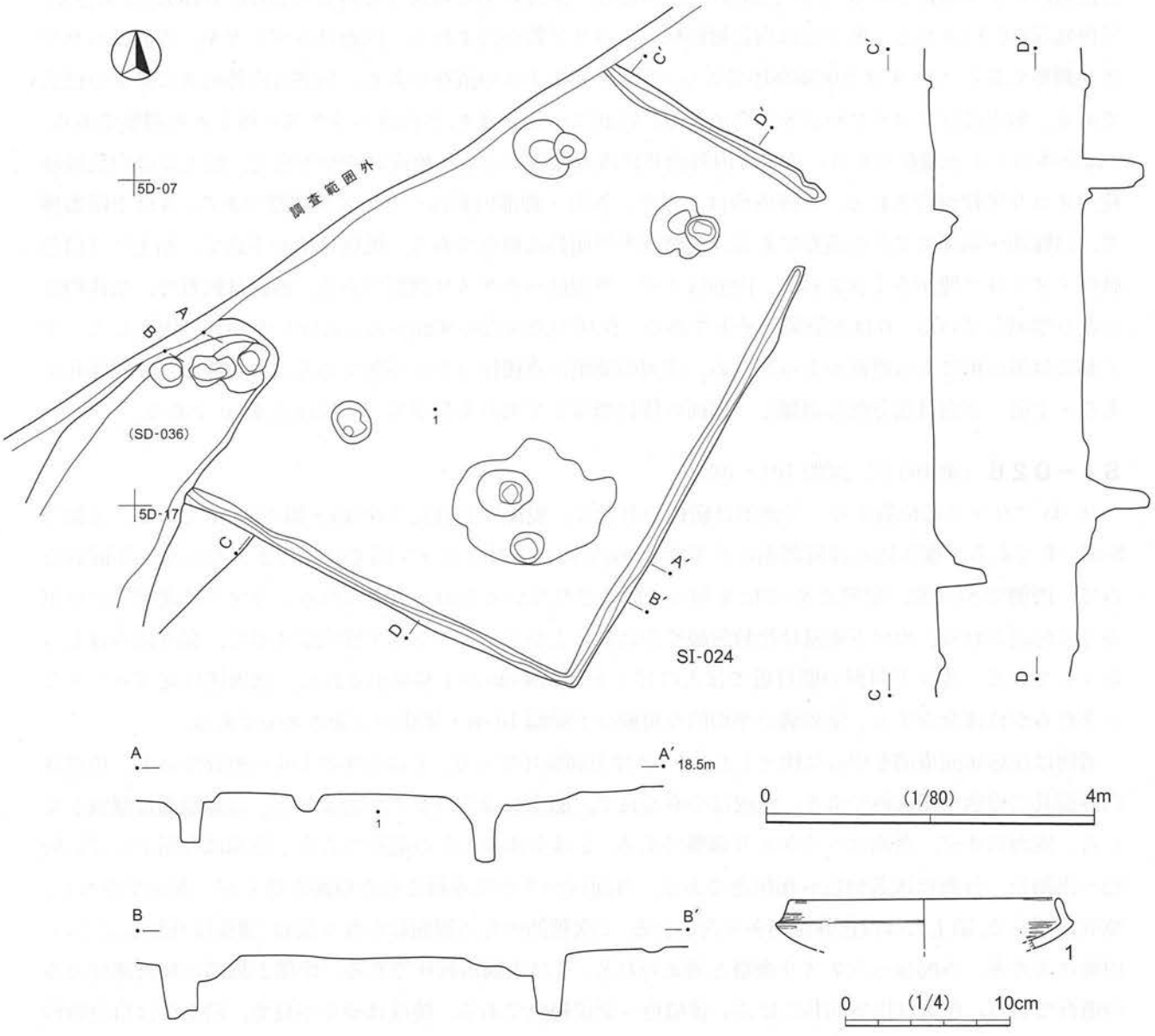


第162図　SI-023

ＳＩ－０２４（第 163 図，図版 98・100）

5D-08 グリッドに位置する。平面形は方形で，規模は主軸長 7.03 ｍである。主軸は N-28°-E である。南側以外は壁の遺存はほとんどなく，壁溝の存在によりプランが確定した。西側は調査範囲外に当たる。西コーナー部分は SD-036 に切られている。カマドは調査範囲内では確認されなかった。恐らく北東壁に付設されていたと考えられる。ピットは主柱穴が調査区外を除く各コーナー 3 か所で検出された。その内側にも 1 基ずつ確認されたことから，補助柱穴か拡張による建て替えの可能性がある。主柱穴の掘り込みはしっかりしている。また，ほぼ主軸上にピットが壁寄りに確認された。周溝は北東コーナーが一部削平によりとぎれるだけで，ほぼ全周する。周溝の平均的な規模は下端幅 8 ㎝・床面から深さ 3 ㎝である。

覆土の遺存が少なく，遺物は少量の出土であった。実測可能な個体は 1 点のみである。1 は土師器坏で，口縁部～体部の 1/8 の遺存である。色調は内面がにぶい黄橙色，外面がにぶい黄橙色～黒色である。胎土には白色砂粒が多く含まれる。外面・体部内面はヘラミガキ調整である。



第 163 図　SI-024

ＳＩ－０２５（第164図，図版100～102・145）

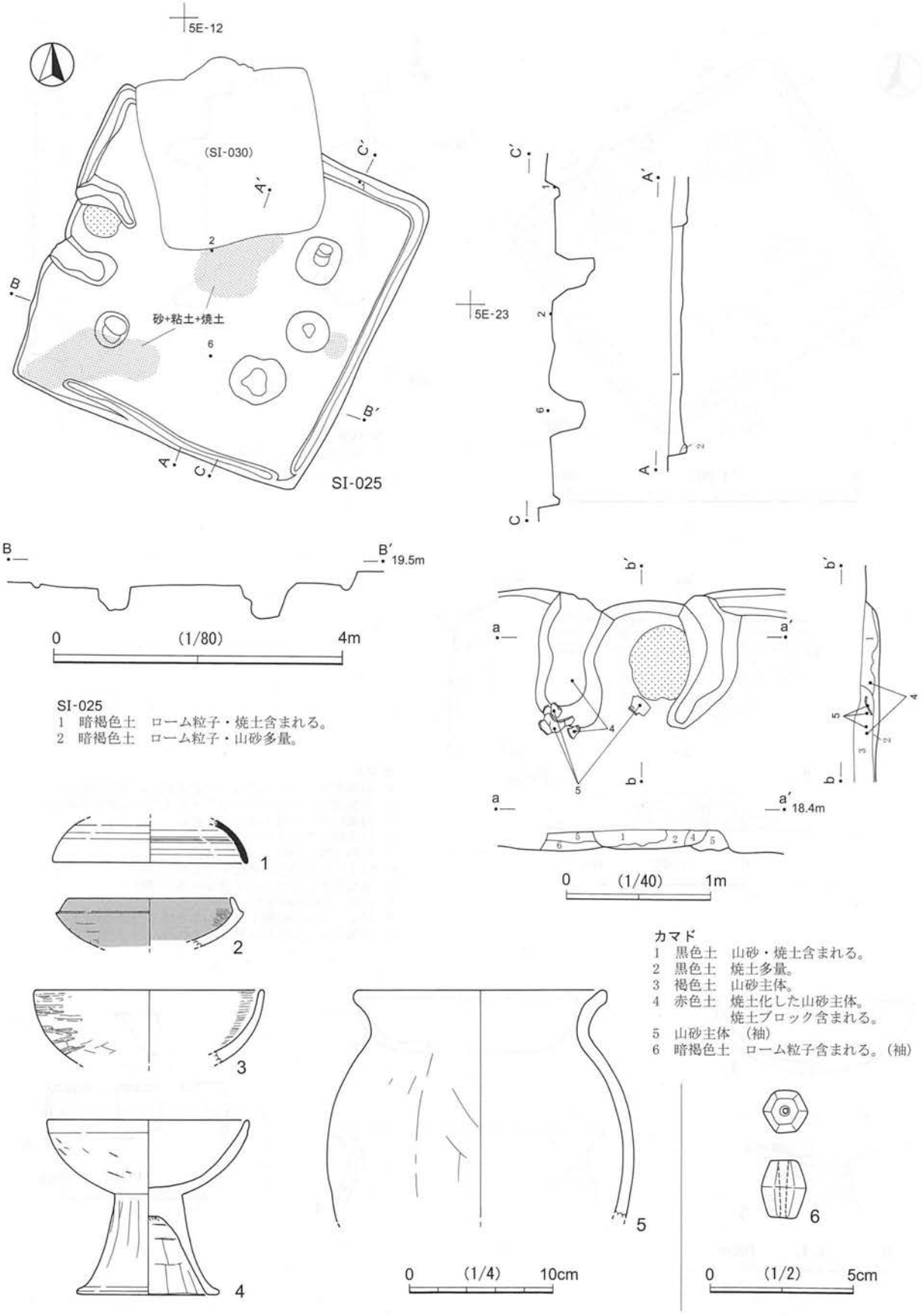
5E-22グリッドに位置する。平面形は方形で，規模は主軸長4.38ｍ・幅4.38ｍである。主軸はN-67°-Wである。SI-031・032を切って構築され，北部側はSI-030に切られている。掘り込みは確認面から平均16㎝である。カマドは西壁中央に付設される。確認面が低く，住居外に続く，煙道部の掘り込みは確認されなかった。火焼部は顕著に赤化して検出された。左袖周辺では割れた土師器甕がまとまって出土した。ピットは主柱穴が3基で，SI-030と切り合う部分のピットは検出されなかった。SI-030の掘り込みはそれほど深いものではなく，ピットが削平されたものではない。3基の主柱穴の掘り込みはしっかりしている。東壁寄りで入口ピット(深25㎝)が1基確認された。床面にトーンで示した部分からは砂質粘土と焼土の広がりがみられた。壁周溝は部分的にとぎれるが，ほぼ全周する。壁周溝の平均的な規模は下端幅10㎝・床面から深さ8㎝である。

1は須恵器坏蓋で，口縁部～体部の1/5の遺存である。色調は内外面共に灰色である。胎土は緻密で，白色微砂粒が少量含まれる。2は土師器坏で，口縁部～体部の1/6の遺存である。色調は内外面共に黒色で，黒色処理(炭？)される。胎土には白色微砂粒・スコリア粒が含まれる。内面はヘラミガキ，外面はヘラケズリ調整である。3・4は土師器高坏である。3は坏部の1/5の遺存である。色調は内外面共ににぶい橙色である。胎土にはスコリア粒が多く含まれる。内面はヘラミガキ，外面はヘラケズリ後ミガキ調整である。4は全体の1/4の遺存である。色調は内外面共に浅黄橙色である。焼成はやや不良で，胎土には白色微砂粒・スコリア粒が含まれる。坏部内面はミガキ，外面・脚部内面はヘラケズリ調整である。5は土師器甕で，口縁部～胴部の2/3の遺存である。色調は内外面共に橙色である。焼成はやや不良で，胎土には白色砂粒・スコリア塊が多く含まれる。内面はナデ，外面はヘラケズリ調整である。器面は軟質で，全体的にかなり摩滅している。6は水晶製切子玉である。住居中央付近の床面から3㎝浮いた高さで出土した。すぐ脇には木の根による攪乱があったため，住居の廃棄に直接伴うかは不明である。六角錘で，片側穿孔である。上面・下面は部分的に剥離し，側面の稜は摩滅して丸みを帯びる。重量は6.45ｇである。

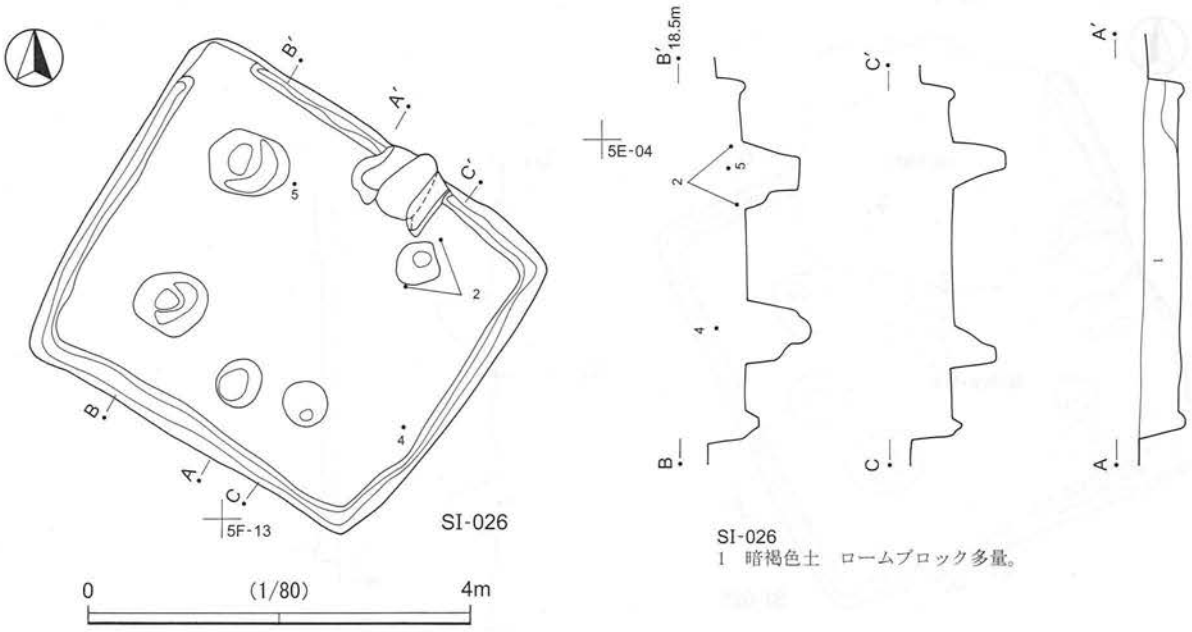
ＳＩ－０２６（第165図，図版101・102）

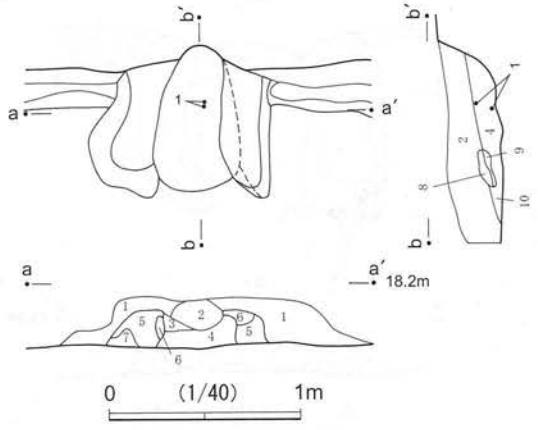
5E-03グリッドに位置する。平面形は横長の方形で，規模は主軸長3.68ｍ・幅4.27ｍである。主軸はN-35°-Eである。掘り込みは確認面から平均40㎝である。セクション図では捉えきれないが，平面的にみて，西側でSI-032，東側でSI-042を切って構築されているものと考えられる。カマドは北東壁やや東寄りに付設される。カマド奥壁は比較的緩やかに立ち上がる。ピットは主柱穴が4基で，掘り込みはしっかりしている。カマド対面の壁付近では入口ピット(深24㎝)が1基検出された。壁周溝は北コーナーでとぎれるがほぼ全周する。壁周溝の平均的な規模は下端幅10㎝・床面から深さ8㎝である。

遺物は住居床面東側を中心に出土した。1・2は土師器坏である。1は全体の1/4の遺存である。色調は内外面共に橙色～褐灰色である。焼成はやや不良で，胎土にはスコリアが含まれる。口縁端部は摩滅している。内面はナデ，外面はヘラケズリ調整である。2は全体の1/5の遺存である。色調は内面がにぶい橙色～黒褐色，外面は浅黄橙色～褐灰色である。外面はかすかに赤彩された痕跡が残るが，断定できない。焼成は不良で，胎土には白色砂粒が多く含まれる。2次被熱のため器面はかなり荒れ，調整は判読しにくい。内面はミガキ，外面はヘラケズリ調整と考えられる。3は土師器高坏である。坏部と脚部の接合部分のみの遺存である。色調は内外面共ににぶい黄橙色～灰黄褐色である。焼成はやや不良で，胎土には白色微砂

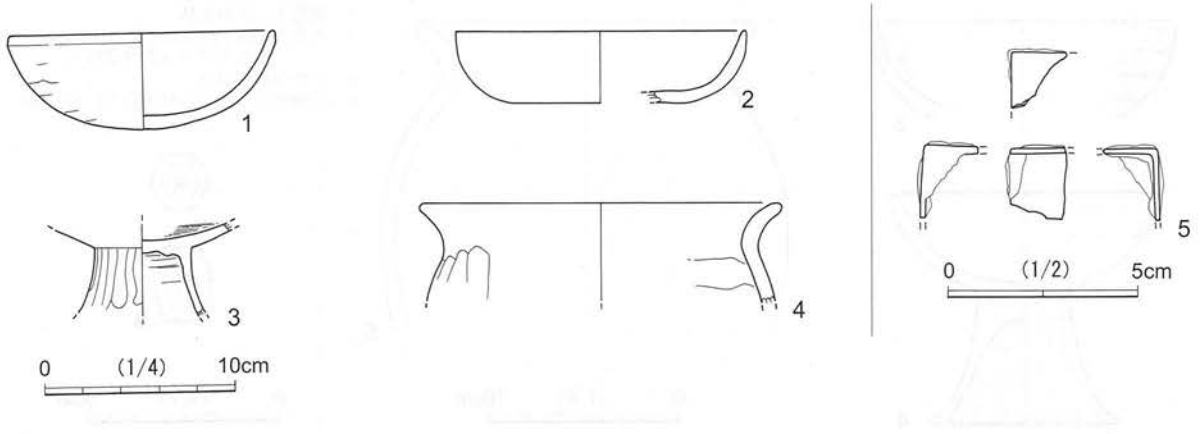

5E-12
(SI-030)
砂+粘土+焼土
SI-025
5E-23
19.5m
0 (1/80) 4m
SI-025
1 暗褐色土 ローム粒子・焼土含まれる。
2 暗褐色土 ローム粒子・山砂多量。
18.4m
0 (1/40) 1m
カマド
1 黒色土 山砂・焼土含まれる。
2 黒色土 焼土多量。
3 褐色土 山砂主体。
4 赤色土 焼土化した山砂主体。
焼土ブロック含まれる。
5 山砂主体 (袖)
6 暗褐色土 ローム粒子含まれる。(袖)
0 (1/4) 10cm
0 (1/2) 5cm

第164図 SI-025

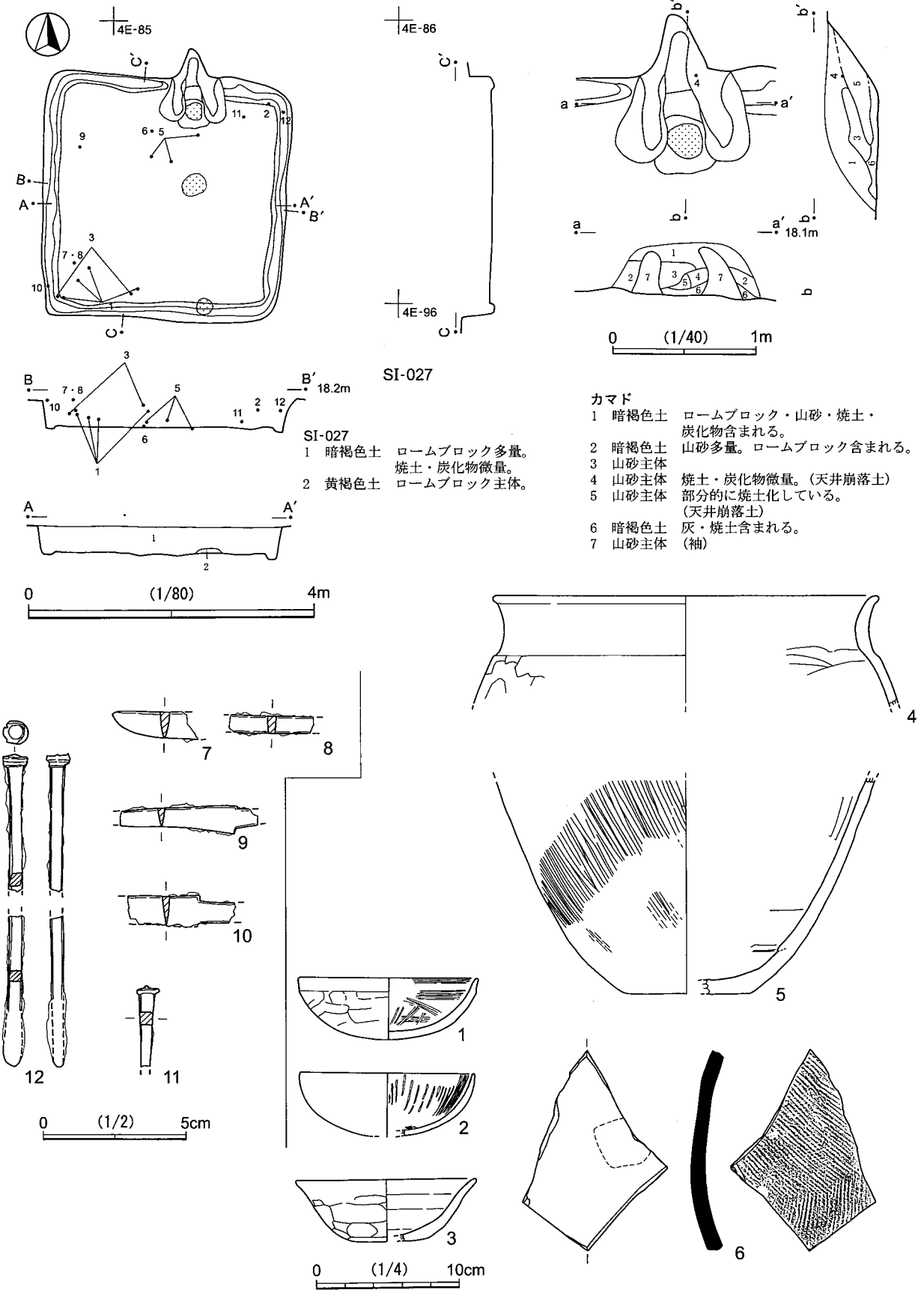




カマド
1 暗褐色土 ロームブロック含まれる。(住居覆土)
2 暗褐色土 ロームブロック・焼土ブロック含まれる。
3 暗褐色土 山砂・焼土含まれる。
4 炭主体 焼土ブロック含まれる。
5 山砂主体 (袖)
6 焼土 山砂被熱し赤化したもの。(袖)
7 暗褐色土 ローム粒子含まれる。(袖)
8 山砂 (天井崩落土)
9 焼土 山砂が被熱し赤化したもの。(天井崩落土)
10 暗褐色土 炭化物・焼土含まれる。(天井崩落土)



第165図 SI-026



SI-027
1 暗褐色土 ロームブロック多量。
焼土・炭化物微量。
2 黄褐色土 ロームブロック主体。

カマド
1 暗褐色土 ロームブロック・山砂・焼土・
炭化物含まれる。
2 暗褐色土 山砂多量。ロームブロック含まれる。
3 山砂主体
4 山砂主体 焼土・炭化物微量。(天井崩落土)
5 山砂主体 部分的に焼土化している。
(天井崩落土)
6 暗褐色土 灰・焼土含まれる。
7 山砂主体 (袖)

第166図 SI-027

粒が含まれる。坏部内面はミガキ，外面・脚部内面はヘラケズリ調整である。4は土師器甕である。口縁部の1/4の遺存である。色調は内面が黄灰色，外面が黒色である。胎土には白色砂粒が多量に含まれ，硬質である。外・内面共にヘラケズリ調整である。5は不明鉄製品である。薄い板状のものを直角に折り曲げて成形している。重量は2.11ｇである。

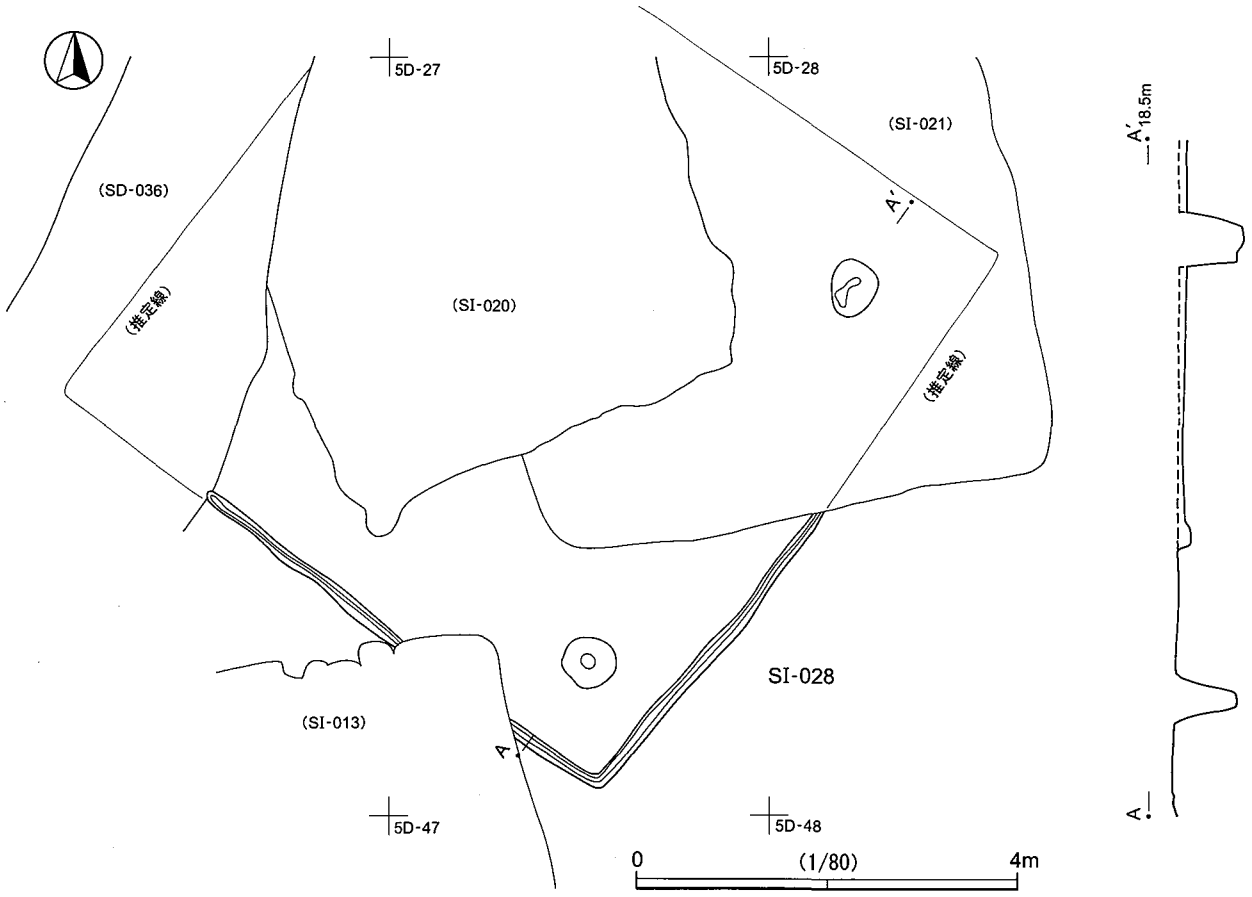
ＳＩ－０２７（第166図，図版105・145）

4E-85グリッドに位置する。平面形は方形で，規模は主軸長3.26ｍ・幅3.28ｍである。主軸はN-2°-Eである。南東コーナーでSI-049と接するように構築されている。恐らくこちらの方が新しい。掘り込みは確認面から平均40㎝で，覆土は暗褐色土で，ほぼ1層である。カマドは北壁やや東寄りに付設される。遺存が良好で，煙道部もはっきり確認され，火焼部の赤化も著しい。ピットは確認されなかった。床面中央部と南壁際には山砂のブロックが出土した。壁周溝は全周し，平均的な規模は下端幅10㎝・床面から深さ5㎝である。

1～3は土師器坏である。1は全体の2/3の遺存である。色調は内外面共に浅黄橙色～黒色である。焼成はやや不良で，胎土には白色微砂粒・スコリア粒が含まれる。内面は丁寧なヘラミガキ，外面はヘラケズリ後部分的にヘラミガキ調整である。2は全体の1/4の遺存である。色調は内面が橙色，外面が橙色～にぶい赤褐色である。焼成はやや不良で，胎土には白色微砂粒・スコリア粒が含まれる。内面には暗文状の放射状のヘラミガキ，外面はヘラケズリ調整である。3は全体の1/3の遺存である。色調は内面がにぶい褐色～黒褐色，外面が橙色～褐灰色である。胎土には白色微砂粒・スコリアが含まれる。内面はナデ，外面は粗いヘラケズリ調整である。4・5は土師器甕である。4は口縁部の1/8の遺存である。色調は内面が黒褐色，外面が灰黄褐色である。胎土には白色微砂粒が含まれ，硬質である。内面はケズリ状の強いヘラナデ，外面はヘラケズリ調整である。5は底部～胴部下半の1/4の遺存である。色調は内面が黄橙色，外面が褐灰色～橙色である。焼成はやや不良で，胎土には白色砂礫・雲母粒が多く目立つ。いわゆる常総型の甕である。内面はナデ，外面は斜め方向の長い密のヘラミガキ調整である。底面はヘラケズリ調整である。胴部下位は器面がかなり摩滅し，砂礫の露出が顕著である。6は須恵器甕胴部破片である。かすかに内面に擦った痕があり，再利用していた可能性がある。色調は内面が灰黄色，外面が灰白色である。胎土は精緻である。内面はヘラナデ・ヘラケズリ，外面はタタキ目が残る。7～12は鉄製品である。7～10は刀子の破片である。すべて両関で茎部分の断面は刃側がやや薄い台形となっている。重量は7が1.92ｇ，8が2.22ｇ，9が2.55ｇ，10が4.1ｇである。11･12は釘で断面は方形である。重量は11が1.53ｇ，12が8.97ｇである。

ＳＩ－０２８（第167図，図版98）

5D-37グリッドに位置する。平面形は方形であるが，SI-013・020・021に切られ，規模ははっきりしない。主軸はN-37°-Eである。削平され，ほとんど覆土は遺存せず，壁周溝・ピットの位置からプランを推定した。カマドは削平され位置は不明である。ピットは東側の主柱穴が2基で，掘り込みはしっかりしている。西側の2基は確認されなかった。床面は，切り合いのためほとんどはっきりせず，硬化面も確認されなかった。壁周溝は切りあう部分以外では全周し，平均的な規模は下端幅6㎝・床面から深さ4㎝である。遺物はほとんど出土せず，実測可能個体はない。

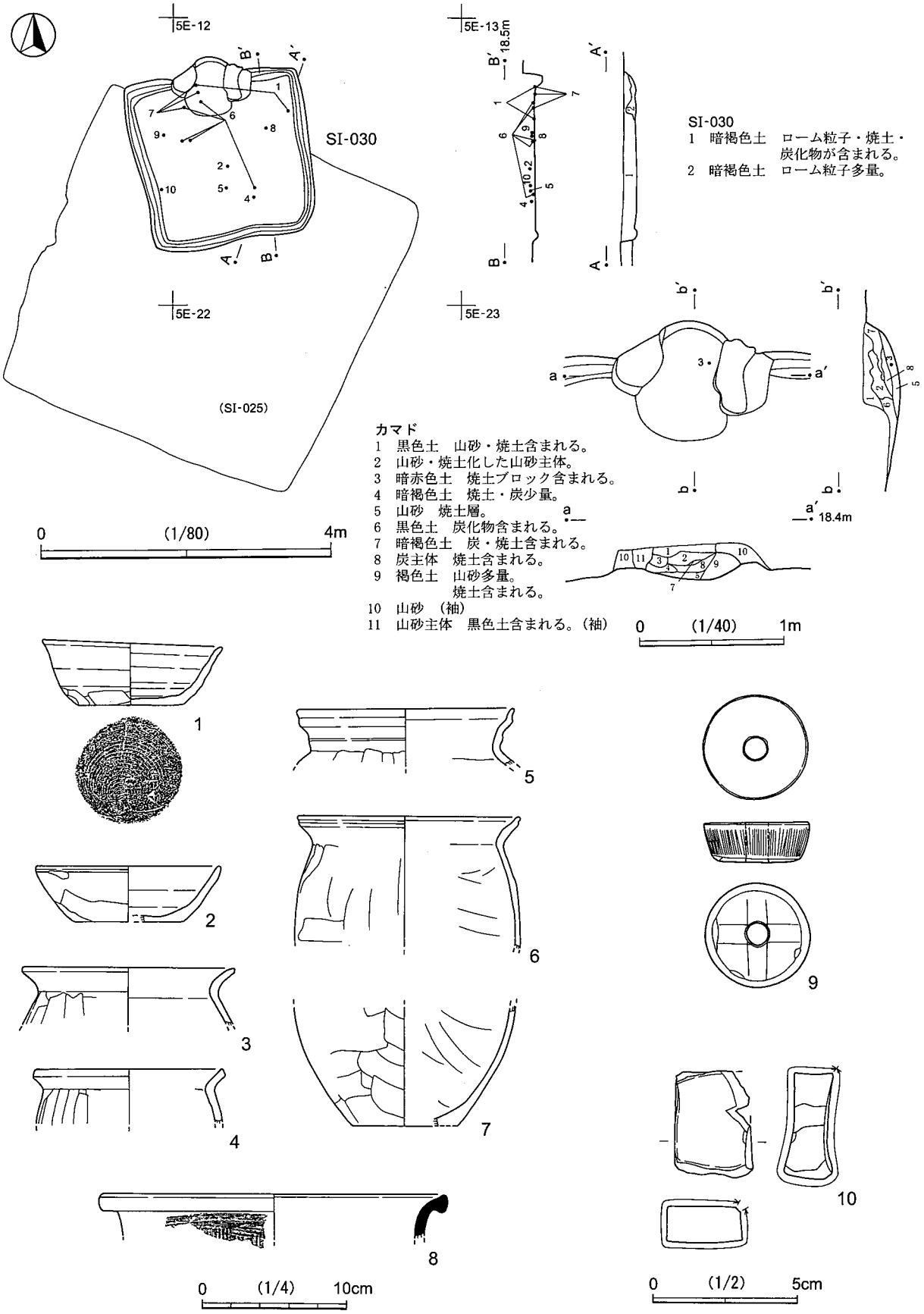


第167図　SI-028

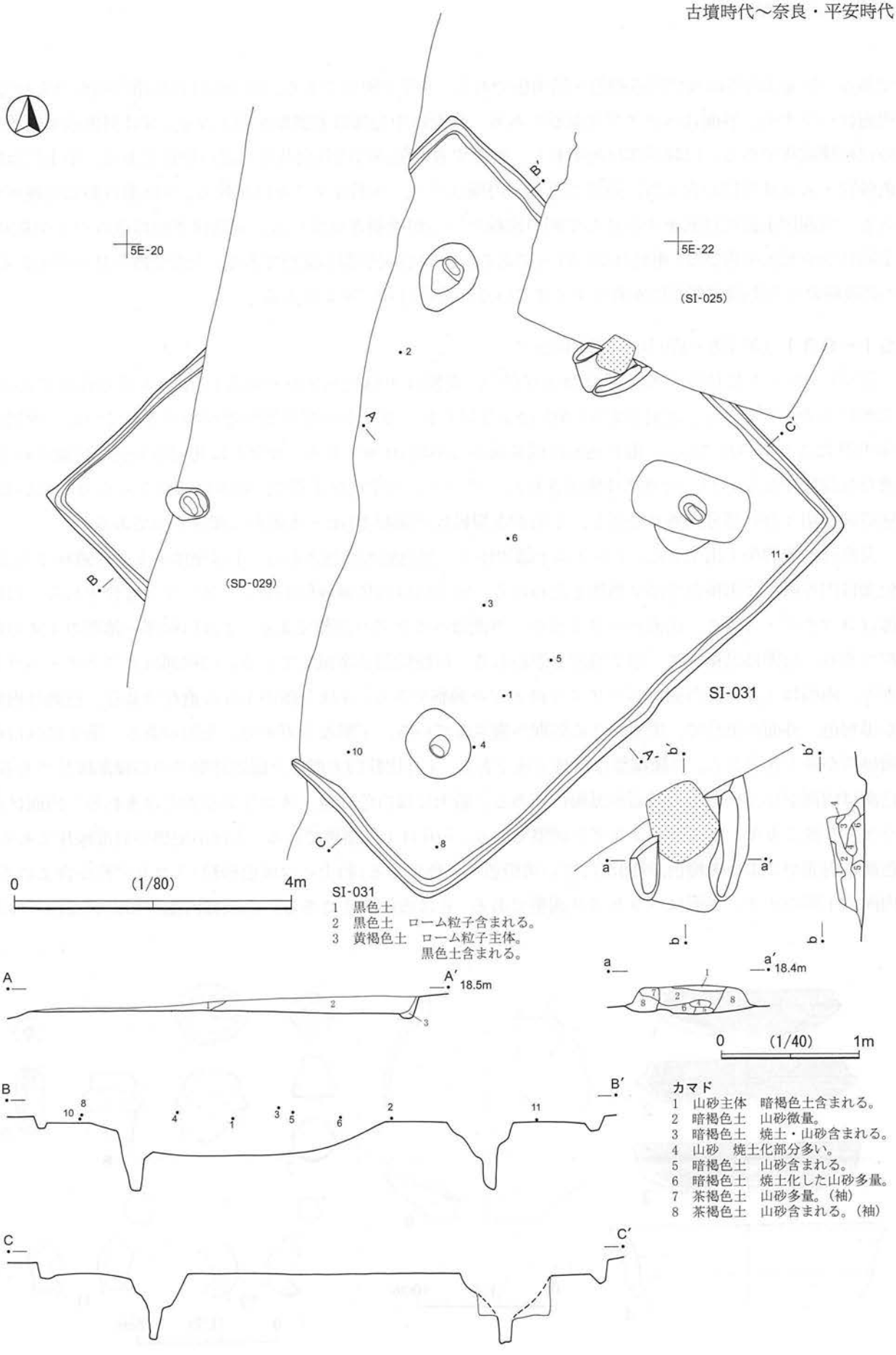
ＳＩ－０３０（第168図，図版100・102・105・145）

5E-12グリッドに位置する。平面形は方形で，規模は主軸長2.32ｍ・幅2.28ｍである。主軸はN-10°-Wである。SI-025・032を切って構築されている。掘り込みは確認面から平均20㎝である。カマドは北壁中央に付設される。火焼部が周辺よりなだらかに低くなっている。ピット･硬化面は確認されなかった。壁周溝は全周し，平均的な規模は下端幅7㎝・床面から深さ3㎝である。

1・2はロクロ整形の土師器坏である。1は全体の9/10の遺存である。色調は内外面共に灰褐色～黒色である。胎土には白色砂粒が含まれる。口縁端部はざらついて摩滅している。外面は体部下端が手持ちヘラケズリ調整，底面が回転糸切り後無調整である。2は全体の1/4の遺存である。色調は内面が明赤褐色～灰赤色，外面が明赤褐色である。胎土自体が赤く発色している。胎土には白色・灰色微砂粒・スコリア粒が多く含まれる。外面体部下端と底面は手持ちヘラケズリ調整である。3～7は土師器甕である。3は口縁部～肩部の1/4の遺存である。色調は内外面共に橙色であり，胎土自体が赤みを帯びる。非常に薄手で，口縁部などの整形は丁寧である。胎土には白色砂粒･スコリア粒が含まれ，硬質である。内面はナデ，外面は縦方向のヘラケズリ調整である。4は口縁部～肩部の1/4の遺存である。色調は内外面共に黒褐色である。胎土は緻密で，白色砂粒・スコリア粒が少量含まれる。薄手で硬質である。外面は縦方向のヘラケズリ調整である。5は口縁部～肩部の1/7の遺存である。口縁部が段状に立ち上がる形態である。色調は内外面共ににぶい赤褐色である。薄手で硬質である。胎土には白色微砂粒が含まれる。内面はナデ，外面は縦方向のヘラケズリ調整である。6・7は同一個体である。口縁部～胴部上半2/3と底部1/6の遺存


5E-12
5E-13
5E-22
5E-23
SI-030
(SI-025)
18.5m
18.4m
SI-030
1 暗褐色土 ローム粒子・焼土・炭化物が含まれる。
2 暗褐色土 ローム粒子多量。
カマド
1 黒色土 山砂・焼土含まれる。
2 山砂・焼土化した山砂主体。
3 暗赤色土 焼土ブロック含まれる。
4 暗褐色土 焼土・炭少量。
5 山砂 焼土層。
6 黒色土 炭化物含まれる。
7 暗褐色土 炭・焼土含まれる。
8 炭主体 焼土含まれる。
9 褐色土 山砂多量。
焼土含まれる。
10 山砂 (袖)
11 山砂主体 黒色土含まれる。(袖)
0 (1/80) 4m
0 (1/40) 1m
0 (1/4) 10cm
0 (1/2) 5cm

第168図 SI-030



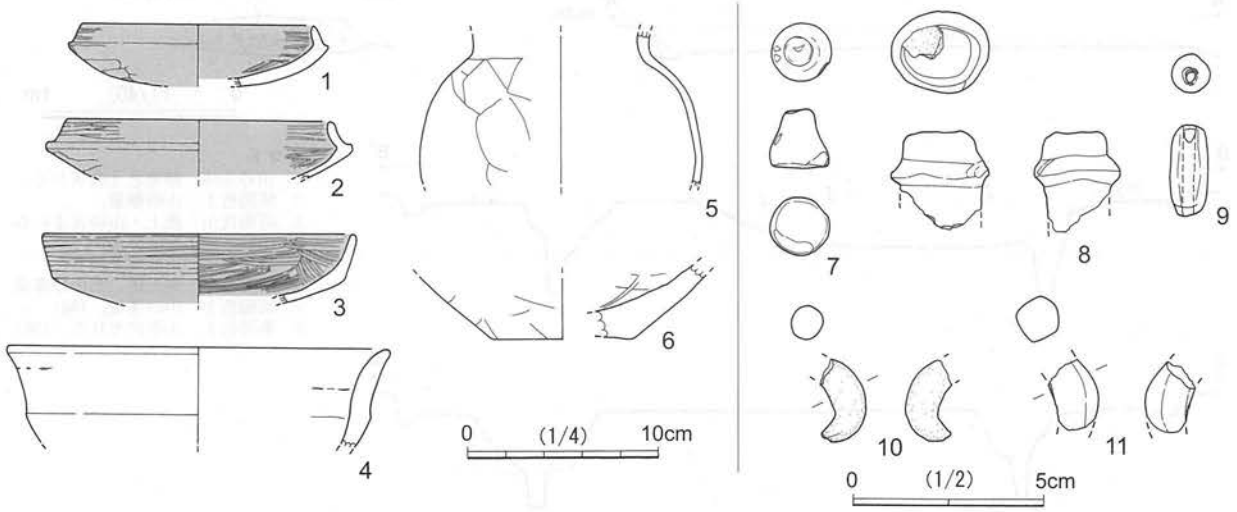
第169図 SI-031 (1)

である。色調は内外面共に明赤褐色～黒褐色である。薄手で硬質である。胎土には白色微砂粒が含まれる。内面はヘラナデ，外面はヘラケズリ調整である。底面は中央部ほど器厚が薄くなる。8は褐色系須恵器甕の口縁部破片である。口縁端部は角を有し，肥厚する。色調は内外面共ににぶい橙色である。胎土には白色砂粒・スコリア粒が含まれ，硬質である。内面はナデ，外面はタタキ目が残る。9は滑石製の紡錘車である。実測図上面には孔を中心にして細い沈線で「＋」が線刻されている。実測図下面はざらつきがあり，上面はやや光沢を帯びる。重量は33.45 gである。10は凝灰岩製の砥石である。全面で擦られた跡がある。2次被熱のため実測図下面以外黒くすすけている。重量は68.28 gである。

ＳＩ－０３１（第169・170図，図版102）

5E-31グリッドに位置する。平面形は方形で，規模は主軸長8.3 m・幅8.15 mの大型の住居である。主軸はN-48°-Eである。北東部がSI-025により切られ，カマドの煙道部付近が削平されている。西側はSD-029により切られている。掘り込みは確認面から平均20 cmである。カマドは北東壁中央に付設される。遺存は良好ではないが，火焼部は確認された。ピットは主柱穴が4基で，掘り込みはしっかりしている。壁周溝は切り合い部分以外は全周し，平均的な規模は下端幅10 cm・床面から深さ8 cmである。

遺物は比較的多く出土した。1～3は土師器坏で，黒色処理が施される。1は全体の1/8の遺存である。色調は内外面共に黒褐色で漆？処理と思われる。胎土には白色微砂粒が多く，スコリアも含まれる。口縁部はヨコナデ・ミガキ，内面はヘラミガキ，外面はヘラケズリ調整である。2は口縁部～体部の1/4の遺存である。色調は黒褐色で，漆？処理と思われる。口縁端部は摩滅している。口縁部はヨコナデ・ヘラミガキ，内面はミガキ，外面はヘラケズリ後ミガキ調整である。3は全体の1/5の遺存である。色調は内面が黒褐色，外面が黒色で，炭素による処理が施されている。丁寧なミガキで，光沢がある。胎土には白色微砂粒が多く含まれる。口縁端部は摩滅気味である。4は比較的大型の土師器鉢形？の口縁部破片である。色調は内面がにぶい橙色，外面が黒褐色である。胎土には白色砂粒・スコリアが多く含まれる。内面はヘラケズリ後ミガキ，外面はヘラケズリ調整である。5･6は土師器甕である。5は小型甕の肩部破片である。色調は内面がにぶい黄橙色，外面がにぶい黄橙色～黒色である。胎土には灰色砂粒･スコリア粒が含まれる。内面は丁寧なナデ，外面はヘラケズリ調整である。6は底部破片である。色調は内面がにぶい橙色，外面



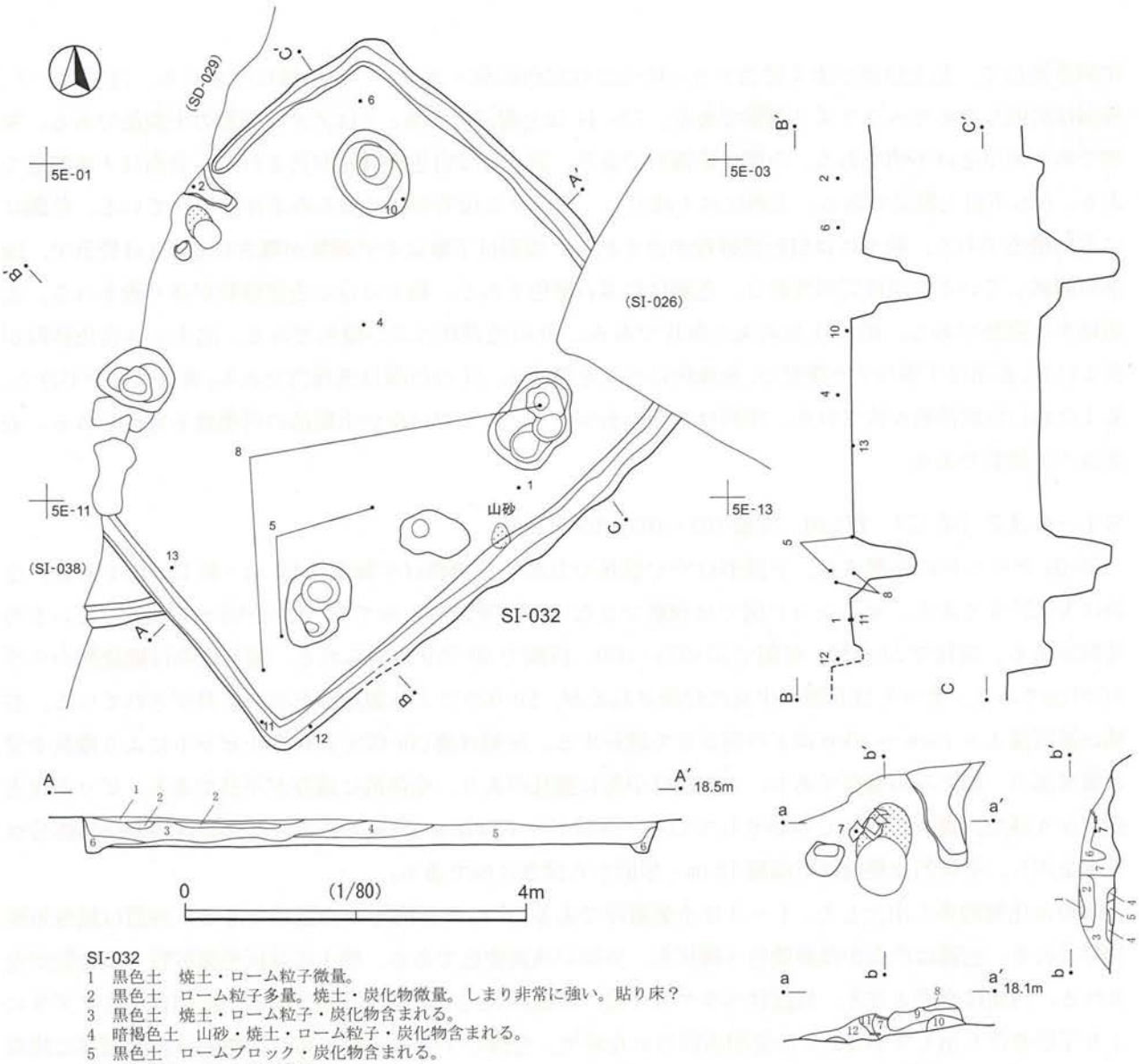
第170図　SI-031(2)

が明赤褐色で，胎土自体が赤く発色する。胎土には白色砂粒・スコリアが多量に含まれる。内面はナデ，外面は底面も含めてヘラケズリ調整である。7～11は土製品である。7はスタンプ形の土製品である。完形であるが用途は不明である。色調は赤褐色である。胎土には白色微砂粒が含まれる。表面はナデ調整である。8も不明土製品である。上面は丸く成形し，その下には突帯状に膨らみを作り出している。色調はにぶい橙色である。胎土には白色微砂粒が含まれる。表面は丁寧にナデ調整が施される。9は管玉で，端部が摩滅しているがほぼ完形である。色調はにぶい橙色である。胎土には白色微砂粒が多く含まれる。表面はナデ調整である。10・11は勾玉の破片である。10の色調はにぶい橙色である。胎土には白色砂粒が含まれる。表面は丁寧なナデ調整で，全体的に丸みを帯びる。11の色調は黒褐色である。焼成はやや不良で，胎土には白色微砂粒が含まれる。側面は平らな面があり，勾玉ではない土製品の可能性も考えられる。表面はナデ調整である。

ＳＩ－０３２（第171・172図，図版103・105・106・146）

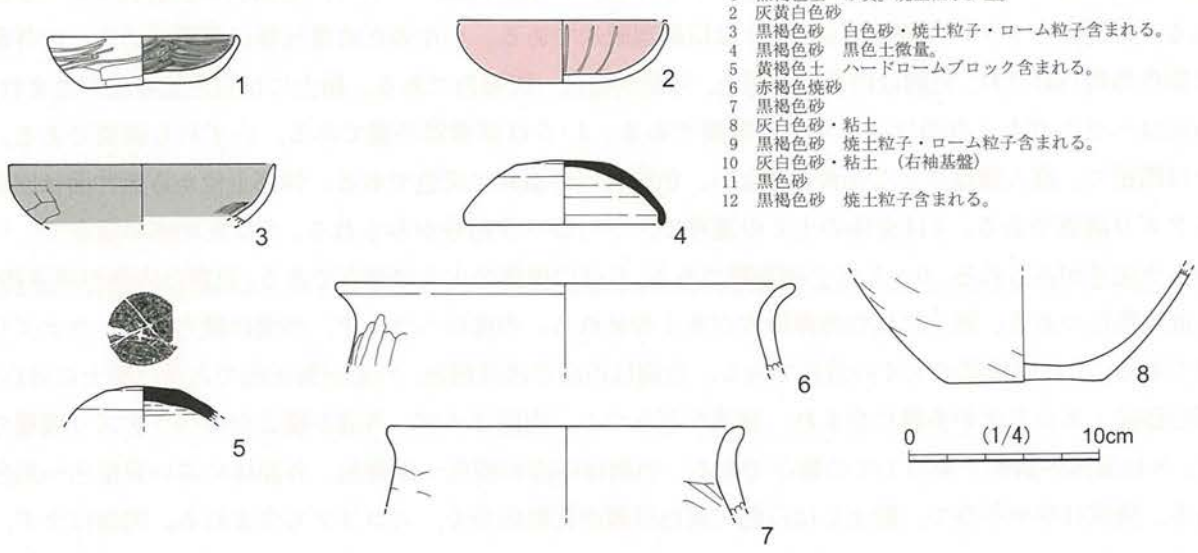
5E-01グリッドに位置する。平面形はやや横長の方形で，規模は主軸長5.96ｍ・幅6.5ｍである。主軸はN-42°-Wである。セクション図では判断できないが，平面的にみてSI-038を切って構築している可能性がある。東側でSI-026，南側でSI-025・030，西側でSD-029に切られる。掘り込みは確認面から平均20㎝である。カマドは北西壁中央に付設されるが，SD-029により煙道部を中心に削平されている。右袖は基底部より10cm～20cmほどの高さまで遺存する。左袖は溝(SD-029)に伴う小ピットにより攪乱を受け基底部の一部のみの遺存である。火焼部は手前に攪乱があり，全体的に遺存が不良である。ピットは主柱穴が4基で，掘り込みはしっかりしている。入口ピットは深さ28cmである。壁周溝は切り合い部分以外は全周し，平均的な規模は下端幅13㎝・床面から深さ8㎝である。

遺物は比較的多く出土した。1～3は土師器坏である。1はほぼ完形の小型坏である。内面は黒色処理(漆)される。色調は内面が浅黄橙色～褐灰色，外面が浅黄橙色である。胎土には灰色微砂粒・雲母粒が含まれる。内面は全面ミガキ，外面はヘラケズリ後，口縁部付近はミガキ調整である。底面はヘラケズリにより平底を作り出している。2は全面赤彩された坏で，全体の1/3の遺存である。色調は内外面共に浅黄橙色～にぶい赤褐色である。焼成はやや不良で，器面が軟質のため摩滅し，赤彩はほとんど剥がれている。胎土は比較的精緻で，灰白色微砂粒・スコリアが含まれる。内面はナデで，暗文状に放射状ミガキが施される。外面はヘラケズリ調整である。3は口縁部破片である。小片のため復元径は参考である。内外面共に黒色処理(漆)され，色調は内面が灰褐色，外面が橙色～灰褐色である。胎土には白色微砂粒が含まれる。内面はヘラミガキ，外面はヘラケズリ調整である。4・5は須恵器坏蓋である。いずれも硬質である。胎土は緻密で，混入物はほとんど含まれない。色調は内外面共に灰色である。体部上位から天井面は回転ヘラケズリ調整である。4は全体の1/2の遺存で，「－」のヘラ記号がみられる。5は天井部の遺存で，「＋」のヘラ記号がみられる。6～8は土師器甕である。6は口縁部の1/6の遺存である。色調は内面が明赤褐色，外面は黒色である。胎土には白色微砂粒が多く含まれる。内面はヘラナデ，外面は縦方向のヘラケズリ調整である。7は口縁部の1/4の遺存である。色調は内面が浅黄橙色，外面が褐灰色である。胎土には白色・灰色砂粒・スコリアが多量に含まれ，器面がざらつく。内面はナデ，外面が横方向のヘラケズリ調整である。8は底部～胴部下半の1/4の遺存である。色調は内面が橙色～黒褐色，外面はにぶい黄橙色～黒色である。焼成はやや不良で，胎土には白色・灰色砂礫が比較的多く，スコリアも含まれる。内面はナデ，外



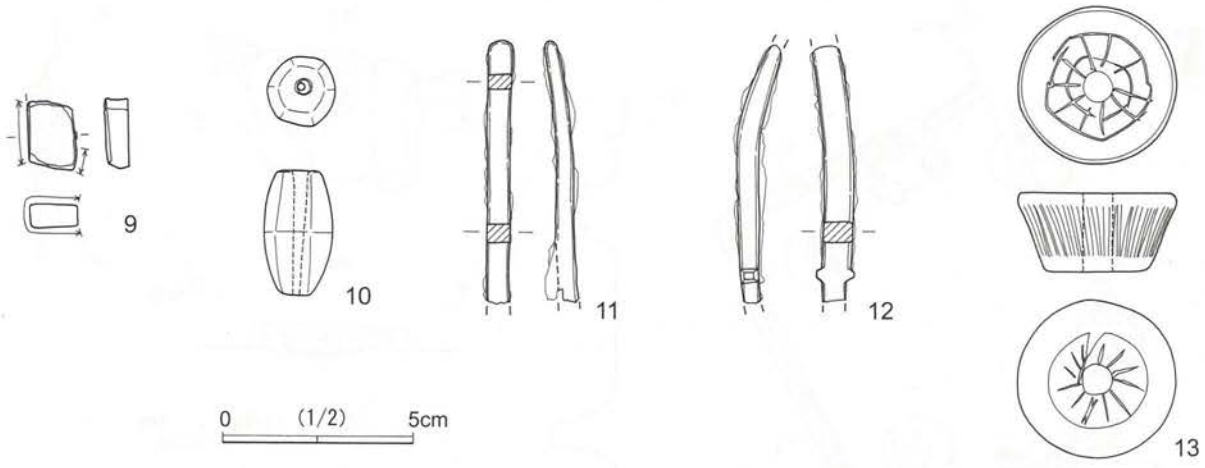
SI-032
1 黒色土　焼土・ローム粒子微量。
2 黒色土　ローム粒子多量。焼土・炭化物微量。しまり非常に強い。貼り床？
3 黒色土　焼土・ローム粒子・炭化物含まれる。
4 暗褐色土　山砂・焼土・ローム粒子・炭化物含まれる。
5 黒色土　ロームブロック・炭化物含まれる。
6 暗褐色土　ローム粒子多量。

カマド
1 黒褐色土　砂質。焼土粒子少量。
2 灰黄白色砂
3 黒褐色砂　白色砂・焼土粒子・ローム粒子含まれる。
4 黒褐色砂　黒色土微量。
5 黄褐色土　ハードロームブロック含まれる。
6 赤褐色焼砂
7 黒褐色砂
8 灰白色砂・粘土
9 黒褐色砂　焼土粒子・ローム粒子含まれる。
10 灰白色砂・粘土　(右袖基盤)
11 黒色砂
12 黒褐色砂　焼土粒子含まれる。



第171図　SI-032(1)

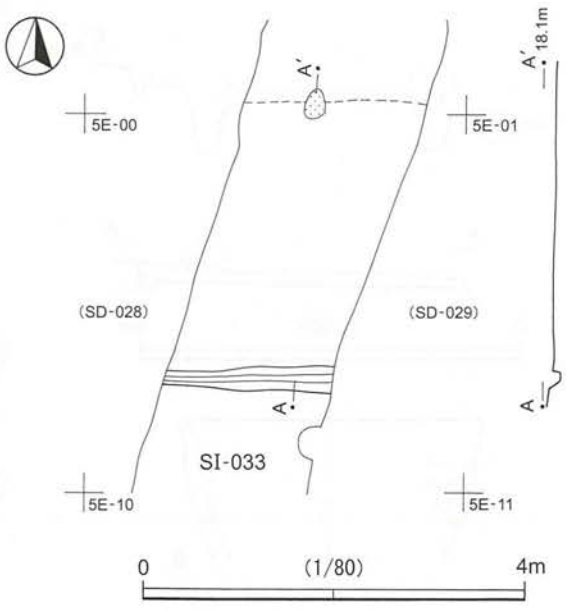
面は底面も含めヘラケズリ調整である。底部周縁は摩滅気味である。9は凝灰岩製の砥石である。破面以外は全面使用されて摩滅している。重量は7.90 gである。10は水晶製の切子玉である。六角錘で，片側穿孔である。実測図下部裏面は破損し，側面の稜はかなり摩滅して丸みを帯びる。重量は14.93 gである。11・12は棒状鉄製品である。12は側面に突起部分があり，長頸鏃の頸部篦被部分の可能性がある。重量は11が5.23 g，12が7.19 gである。12は滑石製の紡錘車である。実測図上面にはやや乱れた放射状に浅い線刻が施される。側面は縦方向に粗い擦痕がみられる。実測図下面には2重の雑な不整形の円と上面と同様にやや乱れた放射状の浅い線刻が施される。上面と側面の光沢が著しい。重量は51.4 gである。



第172図　SI-032(2)

SI－033（第173図）

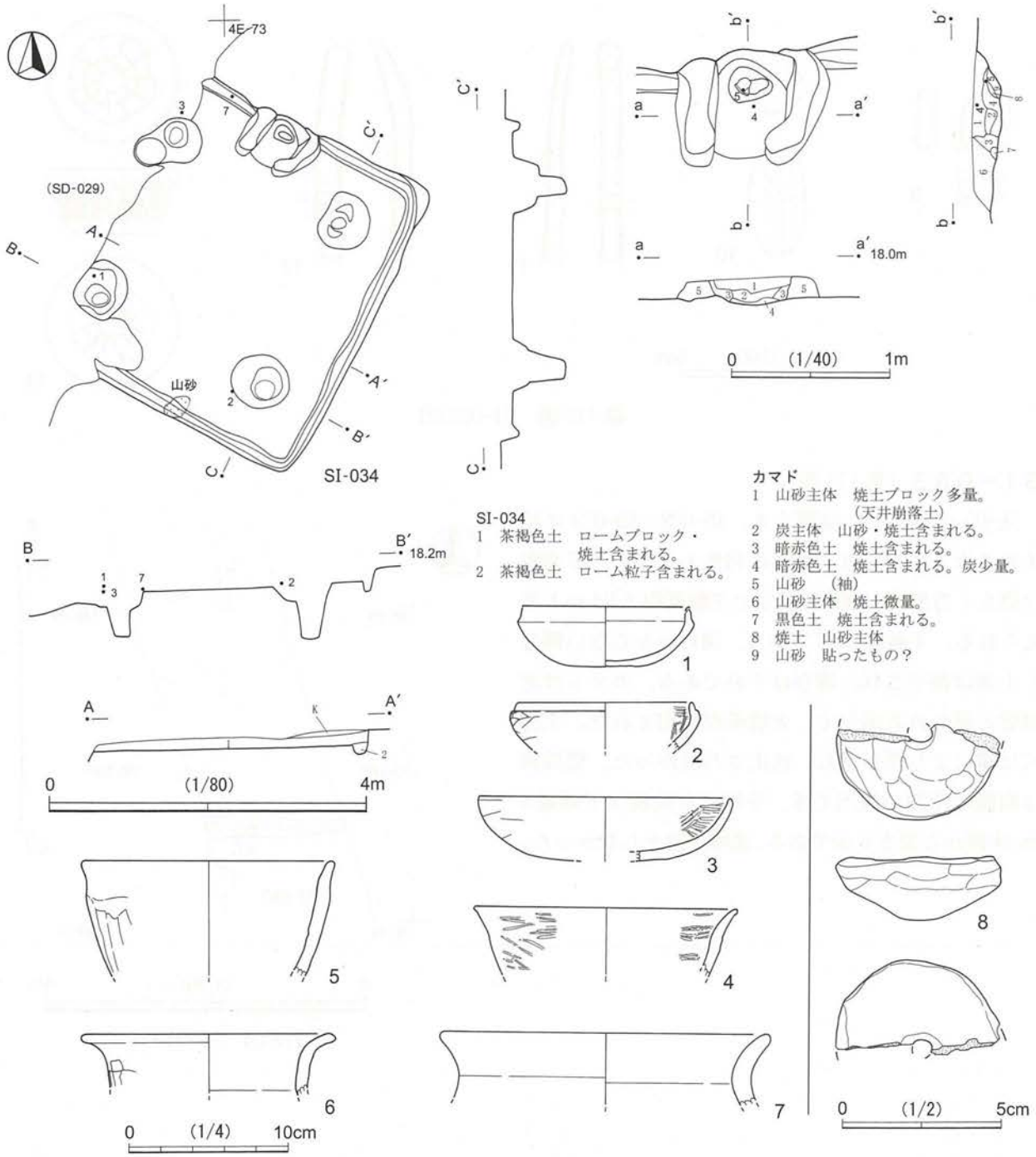
5E-00グリッドに位置する。SD-028・SD-029に挟まれるように切られ，規模は判然としない。平面形は恐らく方形で，規模は推定で主軸長約2.94 mと考えられる。主軸はN-0°である。溝にかからない部分も上部は削平され，遺存は不良である。カマドは北側壁と思われる部分で，火焼部が検出された。主柱穴は溝により削平され，検出されなかった。壁周溝は南側の床面で検出でき，平均的な規模は下端幅8 cm・床面から深さ6 cmである。遺物は出土しなかった。



第173図　SI-033

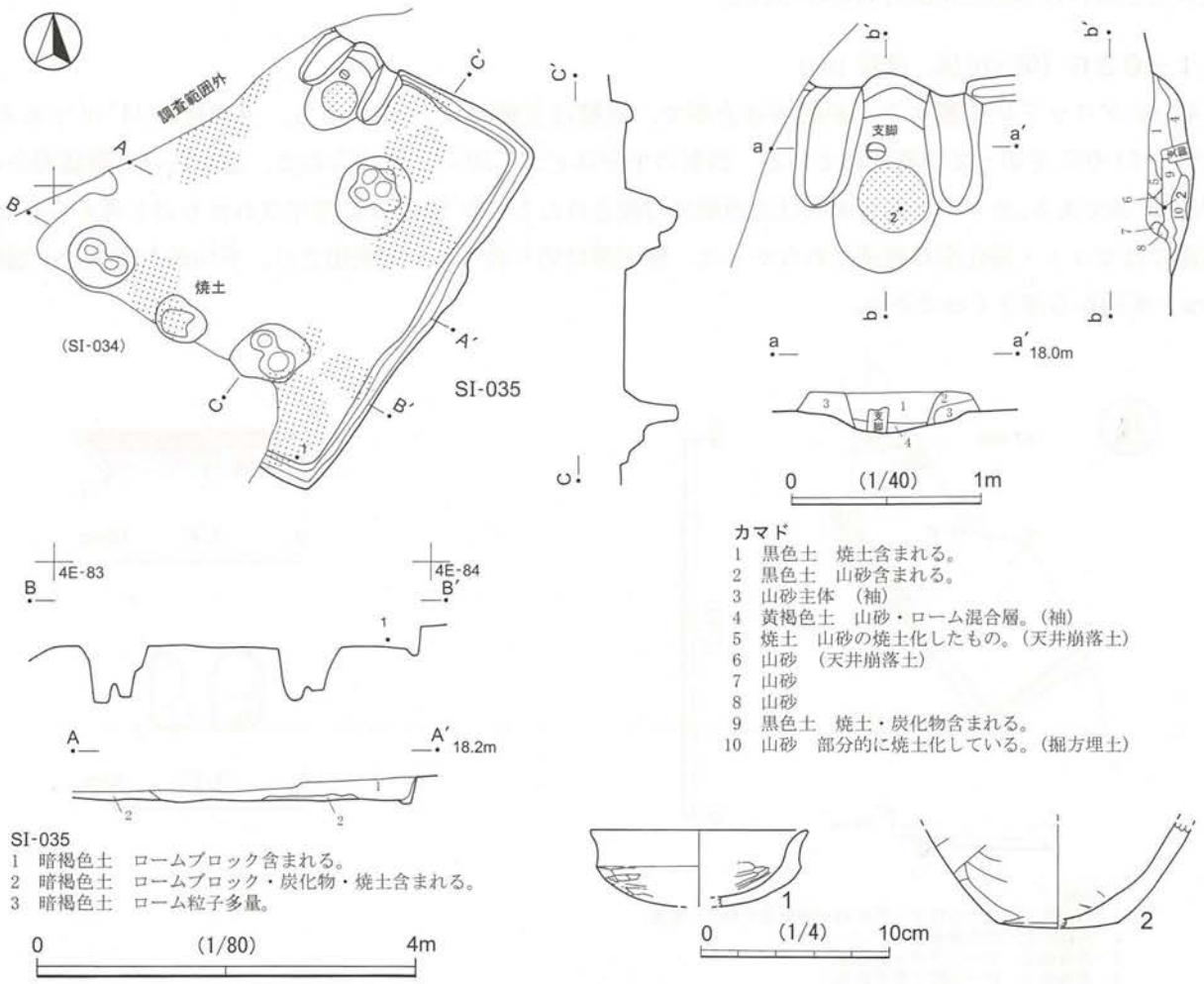
ＳＩ－０３４（第 174 図，図版 103 ～ 105）

4E-73 グリッドに位置する。平面形は方形で，規模は主軸長 3.94 ｍである。主軸は N-28°-E である。掘り込みは確認面から平均 12 ㎝である。北側で SI-035 を切って構築されている。西側は SD-029 により切られている。カマドは北東壁中央に付設される。カマド奥壁は緩やかに立ち上がる。奥壁近くでは床面から山砂を貼って支脚状に盛り上げている部分が確認された。ピットは主柱穴が 4 基で，掘り込みはしっかりしている。壁周溝は切り合い部分以外は検出され，平均的な規模は下端幅 10 ㎝・床面から深さ 8 ㎝である。



第 174 図　SI-034

南壁際からは山砂が出土した。1～3は土師器坏である。1は全体の1/5の遺存である。色調は内面が黒色，外面が橙色である。焼成は不良である。胎土は精緻で，スコリア粒が微量含まれる。器面は摩滅しており，内面・外面はミガキ調整であると考えられる。2は口縁部の1/8の遺存である。色調は内面がにぶい黄橙色，外面はにぶい黄橙色～黒色である。焼成はやや不良である。胎土は精緻で，砂粒はほとんど含まれない。内面はヘラミガキ，外面はヘラケズリ調整である。3は全体の1/5の遺存である。色調は内面がにぶい黄橙色～灰黄褐色，外面は浅黄橙色～黒褐色である。口縁部が内外面共にやや黒みを帯びる。焼成はやや不良で，やや軟質である。胎土には白色微砂粒・スコリア粒が含まれる。内面はヘラミガキ，外面はヘラケズリ調整である。外面の器面はざらざらしている。4は大型の鉢形の坏で，口縁部の1/4の遺存である。色調は内面がにぶい橙色，外面は黒色である。胎土には白色微砂粒・スコリアが含まれる。内面は横方向のミガキ，外面はヘラケズリ後ミガキ調整である。5～7は土師器甕である。5は口縁部～胴部上半の1/6の遺存である。色調は内面が明赤褐色，外面が黒色である。胎土自体が赤く発色している。胎土には灰色・白色砂礫が多く含まれる。内面はヘラナデ，外面はヘラケズリ調整である。6は口縁部の1/8の遺存である。色調は内外面共ににぶい褐色である。胎土には白色微砂粒が多く含まれる。内面はヘラナデ，外面はヘラケズリ調整である。7は口縁部の1/6の遺存である。色調は内面が橙色～灰褐色，外面が橙色で，一部黒色である。胎土は白色砂粒が多く，スコリアも含まれる。8は土製紡錘車である。色



カマド
1 黒色土 焼土含まれる。
2 黒色土 山砂含まれる。
3 山砂主体 (袖)
4 黄褐色土 山砂・ローム混合層。(袖)
5 焼土 山砂の焼土化したもの。(天井崩落土)
6 山砂 (天井崩落土)
7 山砂
8 山砂
9 黒色土 焼土・炭化物含まれる。
10 山砂 部分的に焼土化している。(掘方埋土)

SI-035
1 暗褐色土 ロームブロック含まれる。
2 暗褐色土 ロームブロック・炭化物・焼土含まれる。
3 暗褐色土 ローム粒子多量。

第175図 SI-035

調はにぶい黄橙色である。胎土には白色砂粒・海綿骨針が少量含まれる。重量は23.2ｇである。実測図上面は雑な調整で，下面は比較的丁寧なナデ調整である。使用のためか孔内部は光沢がある。

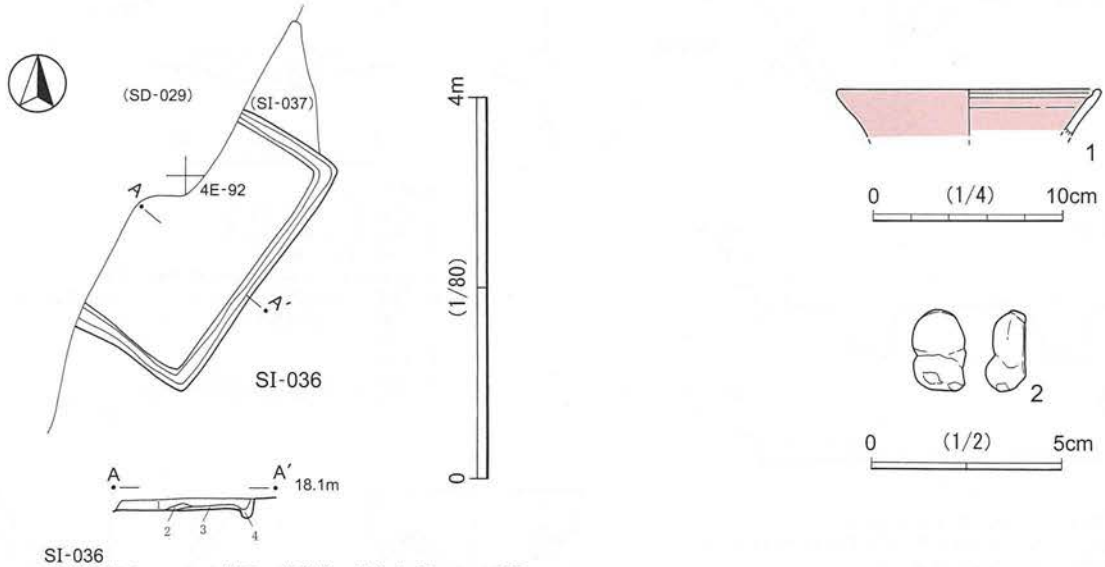
ＳＩ－０３５（第175図，図版104・105）

4E-73グリッドに位置する。北西側は調査範囲外にあたる。平面形は方形で，規模は主軸長4.34ｍである。主軸はN-33°-Eである。南西壁はSI-034に，北東部壁がSD-005，南東壁の一部がSD-006と切り合っている。掘り込みは確認面から平均18㎝である。カマドは北東壁中央に付設される。火焼部からは支脚が使用した位置で出土した。ピットは主柱穴が3基検出され，掘り込みはしっかりしている。もう1基は調査範囲外にあると考えられる。入口ピットは深さ10cmである。床面には，顕著な硬化面は確認されなかったが，床面直上から焼土が多く出土し，焼失住居であると考えられる。壁周溝は切り合う部分以外は全周し，平均的な規模は下端幅8㎝・床面から深さ8㎝である。

焼失住居であったが，遺物は少量の出土である。1は土師器坏で，全体の1/5の遺存である。色調は内面が暗赤褐色，外面がにぶい赤褐色～黒褐色である。胎土には白色微砂粒が多く含まれる。雑な整形で，口縁に歪みがある。内外面共にヘラケズリ後部分的にミガキ調整である。2は土師器甕で，底部～胴部下半の1/5の遺存である。色調は内面が明赤褐色～にぶい褐色，外面が赤灰色である。胎土には白色砂粒・スコリアが多く含まれる。内面はヘラナデ，外面は底面も含めヘラケズリ調整である。内面には付着して焼けたと思われる粘土が部分的にみられる。

ＳＩ－０３６（第176図，図版104）

4E-92グリッドに位置する。平面形は方形で，規模は主軸長2.74ｍである。主軸はN-33°-Eである。北側でSI-037を切って構築されている。西側の半分ほどが，SD-029に切られる。掘り込みは確認面から平均10㎝である。カマドは北東または北西壁に付設されたものがSD-029に削平されたものと考えられる。床面にはピット・硬化面は確認されなかった。壁周溝は切り合う部分は検出され，平均的な規模は下端幅8㎝・床面から深さ6㎝である。



SI-036
1　暗褐色土　ローム粒子・炭化物・焼土含まれる。砂質。
2　茶褐色土　炭化物多量。
3　茶褐色土　ロームブロック多量。
4　茶褐色土　ローム粒子含まれる。

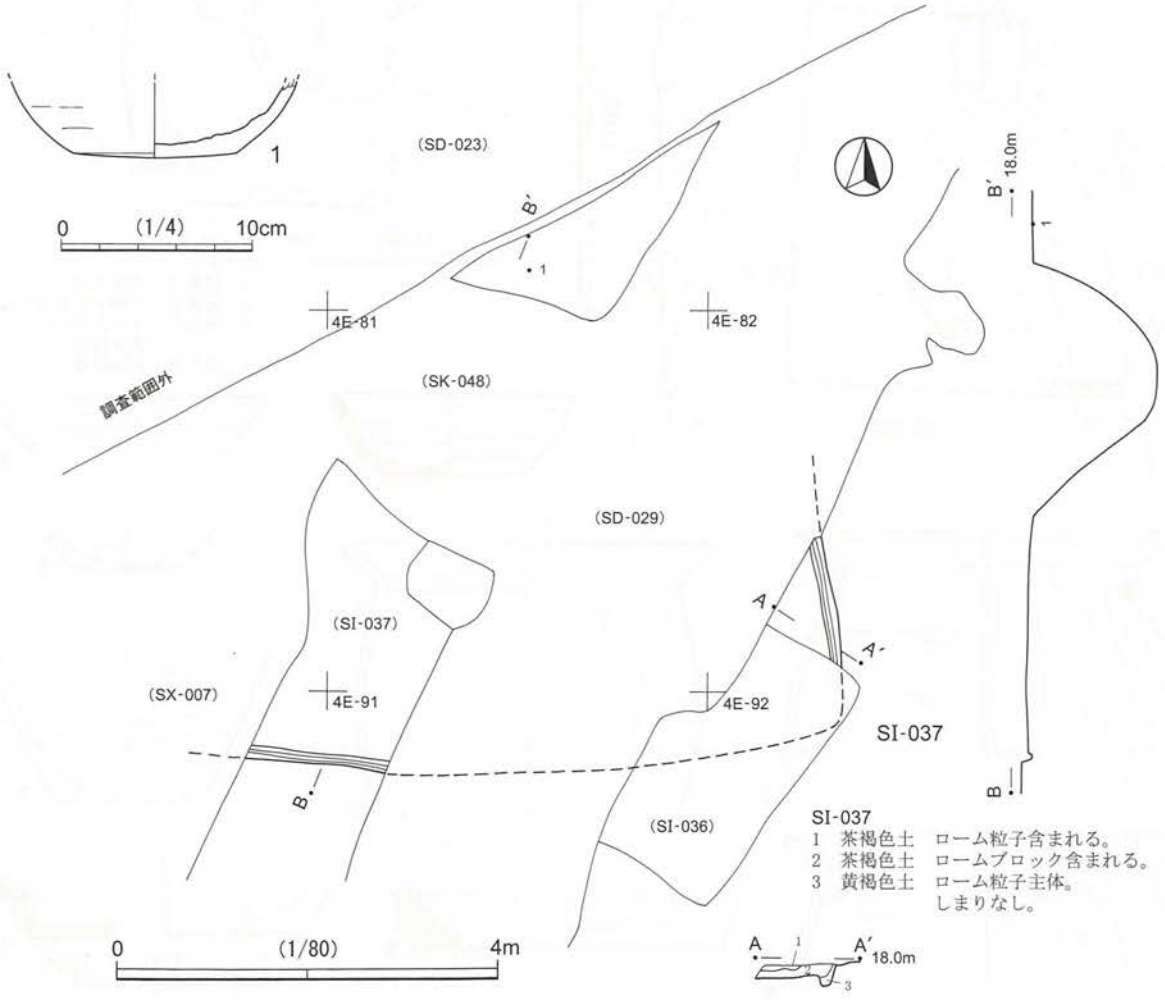
第176図　SI-036

遺物はほとんど出土せず，実測可能な個体は土器1点と不明鉄製品1点のみであった。1は土師器坏で，口縁部の1/10の遺存である。内外面共に赤彩されるが，残存は悪い。色調は地が浅黄橙色，赤彩部分は橙色である。焼成はやや不良である。胎土は精緻で，ほとんど混入物は含まれない。ロクロ整形と考えられ，口縁端部の内面には浅い横位の沈線が巡る。2は不明鉄製品である。大きさの割に重量がある。裏面はほぼ平らで，側面と上面は中心でややくびれる形状である。重量は7.47 gである。

ＳＩ－０３７（第177図）

4E-81グリッドに位置する。平面形は方形であるが，規模は判然としない。北西側は調査範囲外にあたる。南東コーナー部分で，SI-036に切られている。掘り込みは確認面から平均10 cmである。カマドは恐らく調査区外に位置するものと考えられる。床面にはピット・硬化面は確認されなかった。壁周溝は切り合い部分以外は検出され，平均的な規模は下端幅4 cm・床面から深さ3 cmである。

遺物はほとんど出土せず，実測可能な個体は土器1点のみであった。1は土師器甕の底部の2/3の遺存である。色調は内外面共ににぶい黄橙色である。焼成は不良で，胎土は精緻であるが，スコリアが目立ち，白色微砂粒も含まれる。内面は剥落が著しく，外面も摩滅している。内面はナデ，外面はヘラケズリ調整と考えられる。

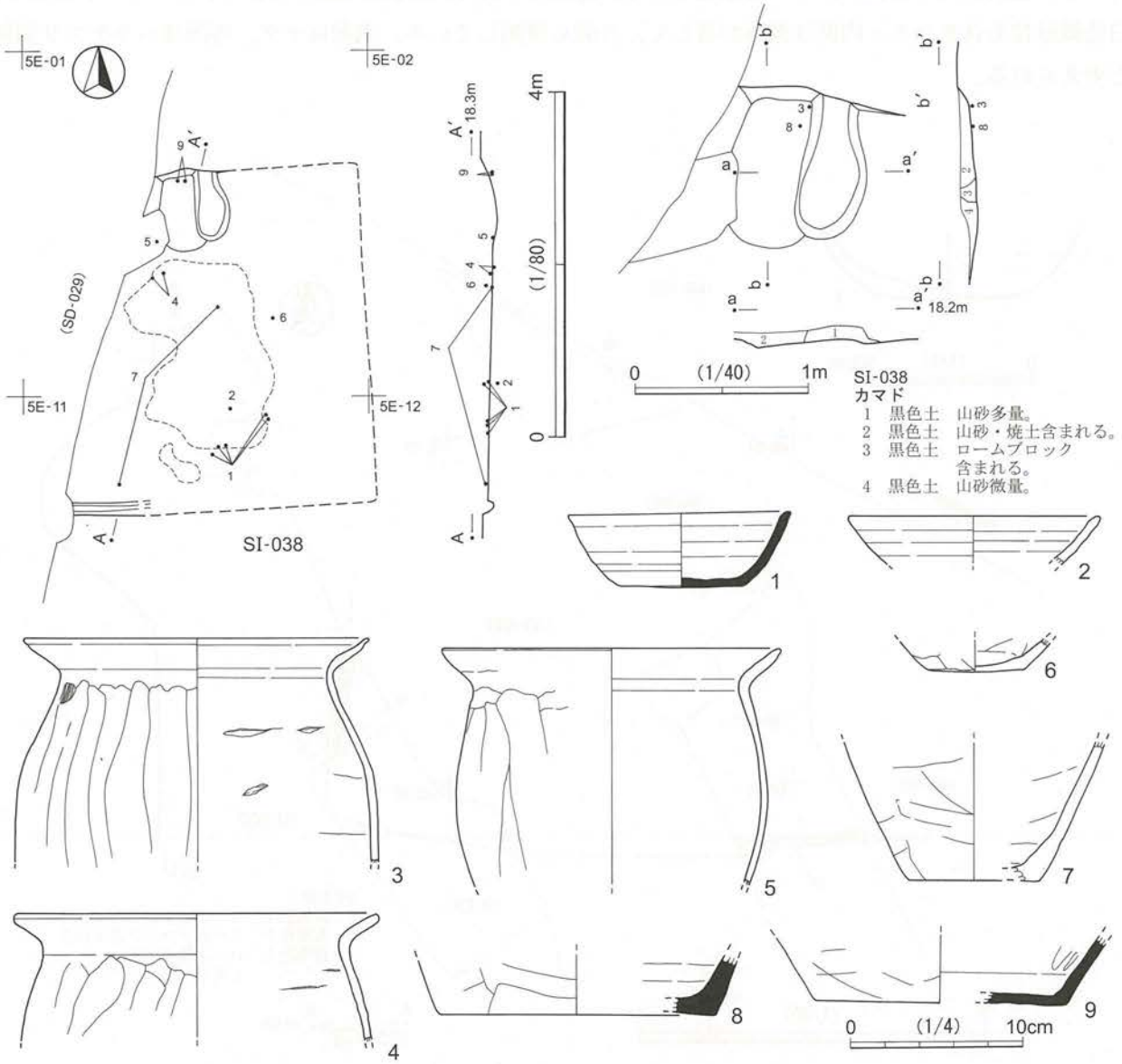


第177図 SI-037

ＳＩ－０３８（第178図，図版106・110・146）

5E-01グリッドに位置する。平面形は方形で，規模は主軸長3.95ｍである。主軸はN-3°-Wである。SI-032の覆土を掘り込んで構築されているが，SI-032の床面までは達していないため，東側のプランは検出することが難しく，規模などは不明な点が多い。西側はSD-029に切られる。掘り込みは確認面から平均10㎝である。カマドは北壁に付設されるが，左袖は木の根の攪乱により確認されなかった。ピットは確認されなかった。床面は，中央部の硬化が顕著であった。壁周溝は南西側の床面で検出されたが，他ははっきりしない。平均的な規模は下端幅6㎝・床面から深さ5㎝である。

1は須恵器坏で，全体の2/3の遺存である。色調は内外面共に灰色である。胎土には灰白色砂粒が多く目立つ。体部下端と底面は回転ヘラケズリ調整である。2はロクロ整形の土師器坏で，口縁部～体部の1/3の遺存である。色調は内外面共ににぶい橙色である。胎土には白色・灰白色砂粒が多く，スコリア・金雲母粒も含まれる。3～7は土師器甕で，すべて器壁が薄い作りである。調整はすべて共通で，口縁部



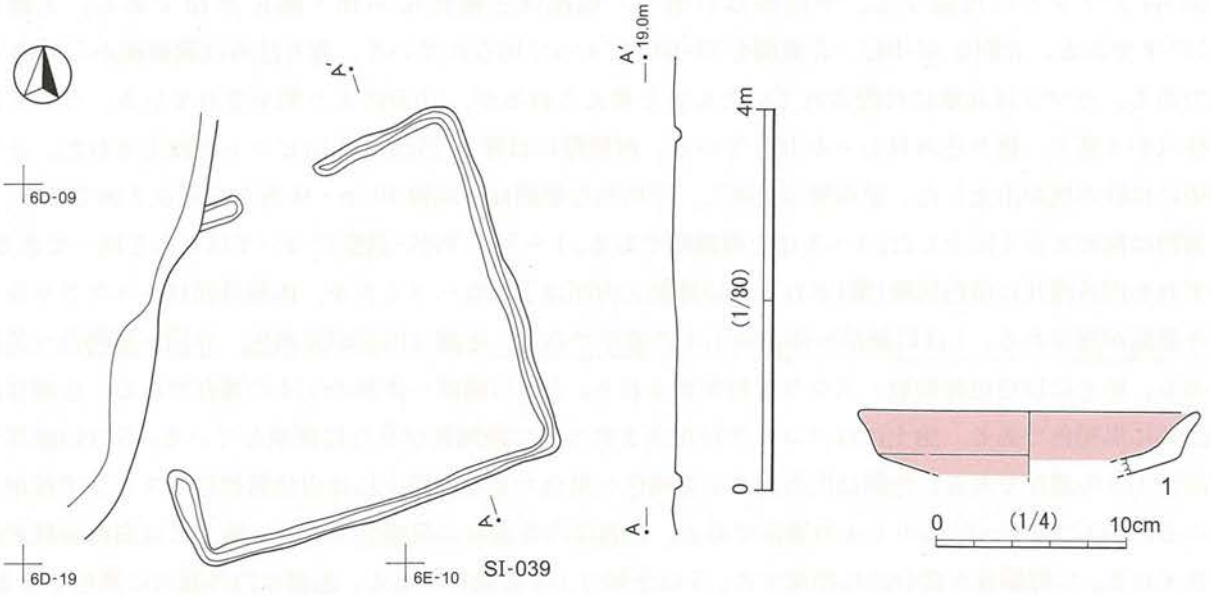
第178図　SI-038

がヨコナデ，内面がナデ，外面が底面を含めてヘラケズリ調整である。3は口縁部～胴部上半の1/4の遺存である。色調は内面がにぶい褐色～黒褐色，外面がにぶい赤褐色～黒褐色である。胎土には白色微砂粒・スコリアが含まれる。口縁部直下にタタキ目の跡が確認できる。須恵器とするにはあまりにも軟質である。4は口縁部～肩部の1/5の遺存である。色調は内外面共に黒褐色である。胎土には白色微砂粒が多く，スコリアも含まれる。硬質である。5は口縁部～胴部上半の1/8の遺存である。色調は内外面共に灰褐色である。胎土には白色微砂粒・スコリアが含まれる。6は底部のみの遺存である。色調は内外面共に橙色～暗赤灰色である。かなり硬質である。胎土には白色微砂粒が含まれる。7は底部～胴部下半の1/6の遺存である。色調は内面がにぶい黄橙色～黒色，外面はにぶい褐色である。焼成はやや不良で，胎土には白色微砂粒・スコリアが含まれる。器面は2次被熱のためにざらついている。8・9は褐色系の須恵器の甕の底部である。底面は無調整で，内面はナデ，外面は横方向のヘラケズリ調整である。かなり硬質である。胎土には白色微砂粒・スコリアが含まれる。8は底部の1/10の遺存で，色調は内面が黒色，外面がにぶい赤褐色～褐灰色である。9は底部の1/6の遺存である。色調は内外面共ににぶい赤褐色～黒色である。

ＳＩ－０３９（第179図，図版106）

6D-09グリッドに位置する。平面形は方形で，規模は主軸長3.69ｍ・幅3.95ｍである。主軸はN-19°-Wである。掘り込みはほとんど確認できず，壁周溝の存在により，プランを検出した。周溝が北壁中央でとぎれていることから，この部分にカマドが付設されたと考えられる。床面にはピットや硬化面は確認されなかった。壁周溝は西側で一部とぎれるが，ほぼ全周する。壁周溝の平均的な規模は下端幅6㎝・床面から深さ6㎝である。

遺物はほとんど出土せず，実測可能な個体は1点のみであった。1は土師器高坏で，口縁部の1/8の遺存である。赤彩されていたと考えられるが，ほとんど剥がれている。色調は内面が黄橙色，外面が橙色である。焼成はやや不良で，胎土には白色・灰白色砂粒が多く，スコリアも多く含まれる。内面の器面は著しく剥落している。内面は恐らくナデ，外面はヘラケズリ後部分的にミガキ調整である。



第179図　SI-039

ＳＩ－０４０（第180図，図版107・110・146）

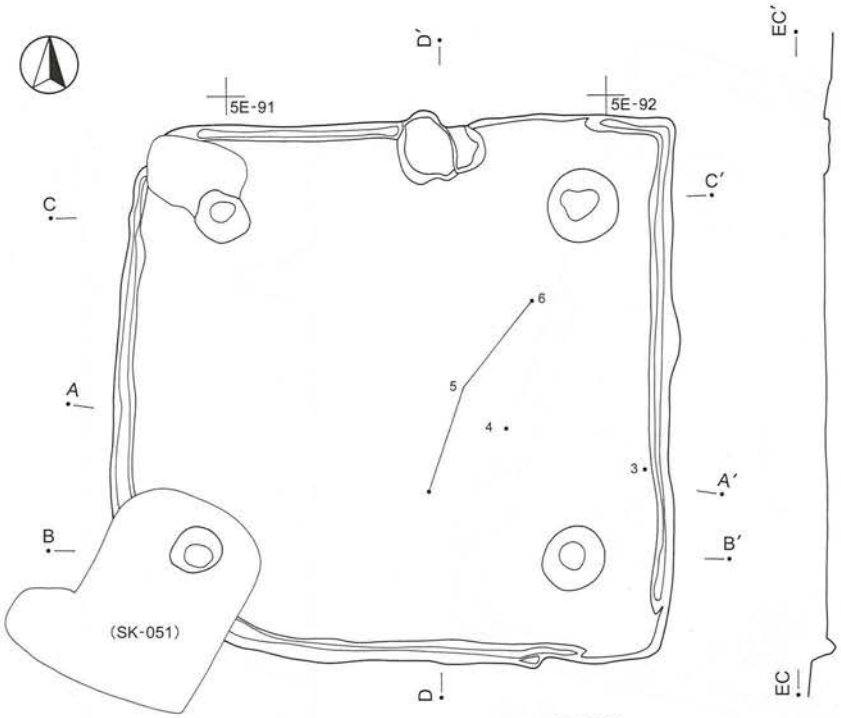
5E-91グリッドに位置する。平面形は方形で，規模は主軸長5.52ｍ・幅5.62ｍである。主軸はN-0°である。掘り込みは確認面から平均12㎝である。北西コーナーでは攪乱，南西部コーナーでSK-051に切られている。カマドは北壁中央に付設される。地山は黒色土で，左袖部分は攪乱され，プランがはっきりと検出されなかった。ピットは主柱穴が4基で，掘り込みはしっかりしている。壁周溝は部分的にとぎれるが，ほぼ全周する。壁周溝の平均的な規模は下端幅7㎝・床面から深さ6㎝である。

1～4は土師器高坏である。1は坏部の口縁部の1/10の遺存である。内面は黒色処理(炭)され黒色，外面は赤彩されており，明赤褐色である。胎土には白色微砂粒が含まれる。口縁部・内面はヘラミガキ，外面はヘラケズリ後ミガキ調整である。2は高坏坏部の口縁部の1/8の遺存である。内面が赤彩され，にぶい赤褐色～褐灰色，外面が黒色処理(漆？)され，黒色である。内面は口縁部も含め丁寧なヘラミガキ，外面は口縁部はヨコナデ後ミガキ，体部はヘラケズリ後ミガキ調整である。胎土には白色微砂粒・スコリアが含まれる。3は脚部上半の4/5の遺存である。色調は内面がにぶい褐色，外面はにぶい橙色である。胎土には白色･灰白色砂粒が多く含まれる。外面は縦方向の細かいヘラケズリ調整，内面はナデ調整である。4は坏部と脚部の接合部分である。外面の色調は赤彩され赤色である。内面は不明瞭であるが，黒色処理(漆)されていると考えられ，色調はにぶい黄橙色である。胎土には白色･透明砂粒，スコリアが含まれる。坏部内面は細かなヘラミガキ，脚部内面は雑なナデ，外面はヘラケズリ後丁寧なナデ調整である。5は土師器の口縁が直立する形状の短頸壺で，口縁部～胴部の3/4の遺存である。色調は内外面共ににぶい赤褐色～黒色である。胎土には白色砂粒が多く含まれる。内外面ともヘラケズリ後ミガキ調整で，比較的丁寧な調整である。6は土師器甕で，底部の2/3の遺存である。色調は内外面共ににぶい褐色である。胎土には白色砂粒が多く含まれる。内面はナデ，外面は底面も含めヘラケズリ調整である。器厚があり，重量感がある。7は土師器甕で，口縁部の1/10の遺存である。色調は内外面共ににぶい褐色である。胎土には白色微砂粒が極多量に含まれ目立つ。

ＳＩ－０４１（第181・182図，図版107・112・146・147）

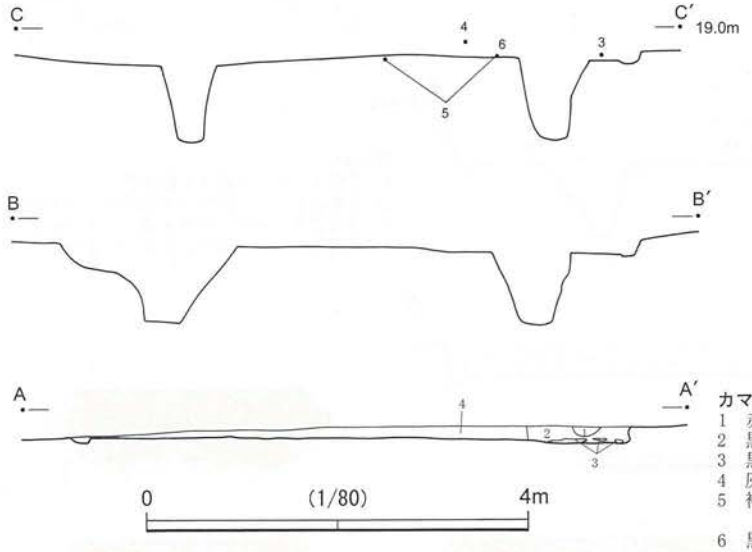
5E-44グリッドに位置する。平面形は方形で，規模は主軸長6.36ｍ・幅6.28ｍである。主軸はN-19°-Wである。北側をSI-042，北東側をSI-043によって切られている。掘り込みは確認面から平均24㎝である。カマドは北壁に付設されていたものと考えられるが，SI-042より削平されている。ピットは主柱穴が4基で，掘り込みはしっかりしている。南壁際には深さ25㎝の入口ピットが検出された。その周辺には砂の塊が出土した。壁周溝は全周し，平均的な規模は下端幅10㎝・床面から深さ8㎝である。

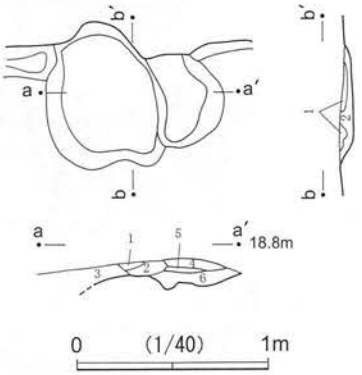
遺物は極めて多く出土した。1～8は土師器坏である。1～5は，形状･調整についてほとんど同一である。いずれも内外面共に黒色処理(漆)される。口縁部と内面は丁寧なヘラミガキ，体部外面はヘラケズリ後ミガキ調整が施される。1は口縁部～体部の1/4の遺存である。色調は内面が黒褐色，外面が黒褐色～黒色である。胎土には白色微砂粒・スコリア粒が含まれる。2は口縁部～体部の1/4の遺存である。色調は内外面共に黒褐色である。胎土にはスコリア粒が含まれる。口縁端部が平らに摩滅している。3は口縁部～体部の1/8の遺存である。色調は内外面共に黒褐色～黒色である。胎土には白色微砂粒・スコリア粒が含まれる。4は口縁部～体部の1/4の遺存である。色調は内外面共に黒褐色である。胎土には白色砂粒が多く含まれる。口縁端部が部分的に摩滅する。5は全体の1/4の遺存である。色調は内外面共に黒色である。



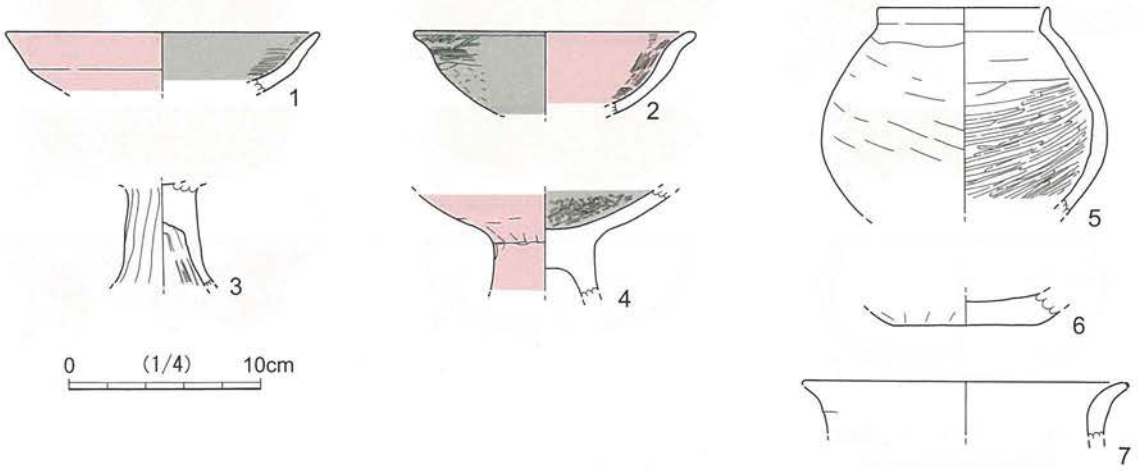
SI-040

SI-040
1 暗黒褐色土　ローム粒子含まれる。しまりあり。
2 黒色土　焼土粒子・ローム粒子微量（1層より多い）。撹乱？
3 黄褐色土　ローム貼っている可能性。しまりは弱い。
4 暗黒褐色土　ローム粒子微量。しまりふつう。1層に近い土質。

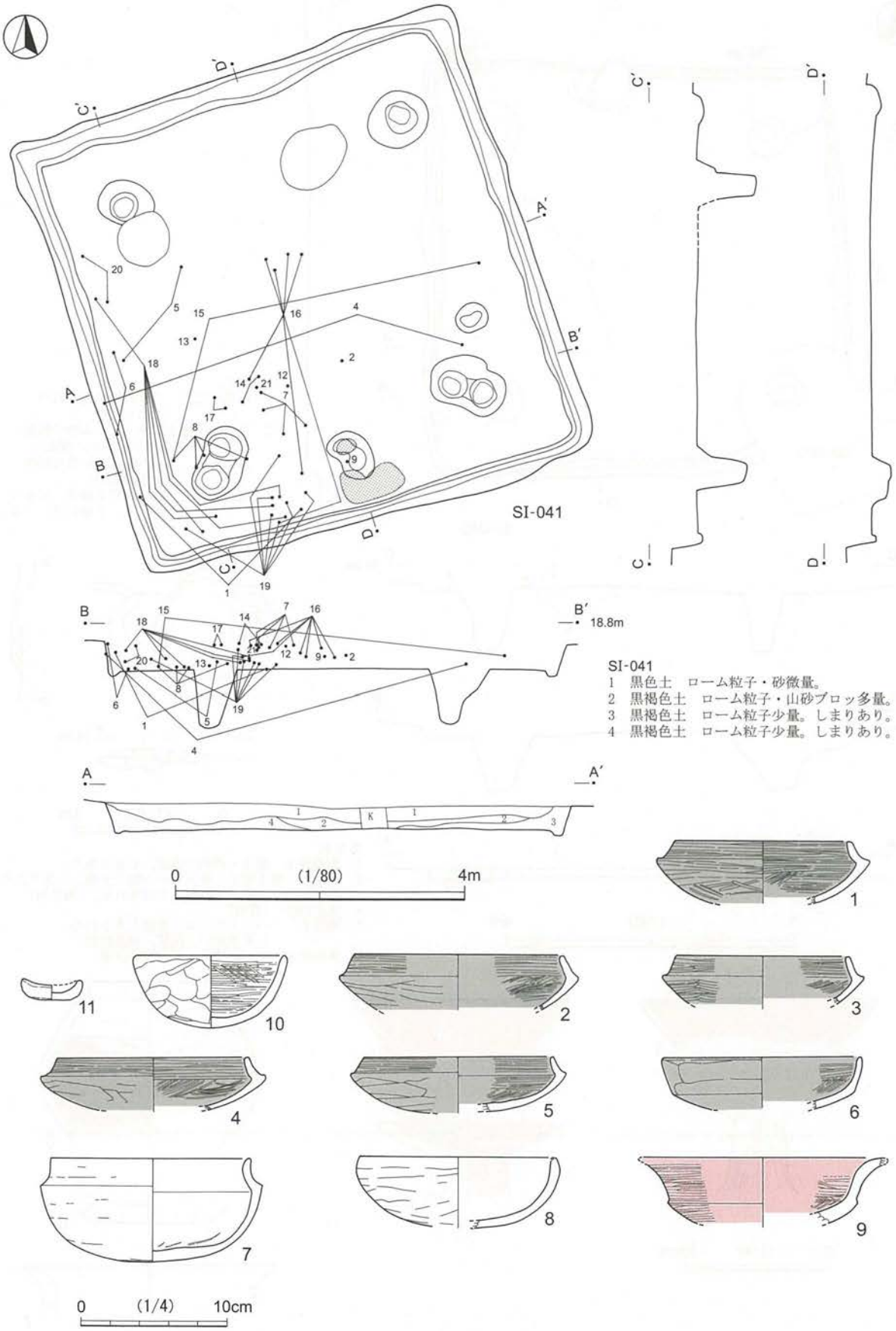




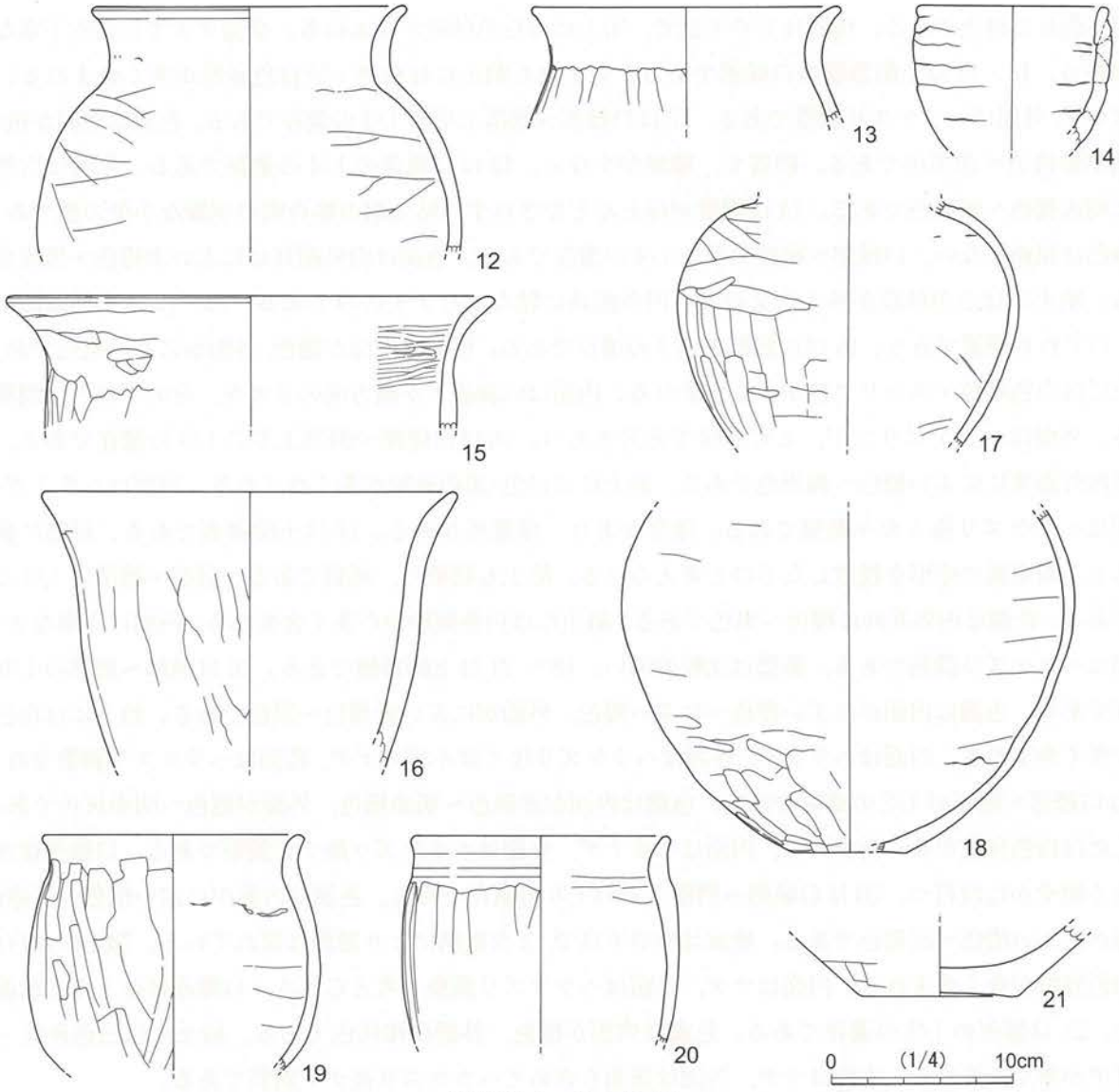
カマド
1 赤褐色土　焼土・砂粒子多量。しまりあり。
2 黒色土　焼土粒子・砂・ローム粒子少量。しまりあり。
3 黒褐色土　ローム・黒褐色土含まれる。（撹乱層）
4 灰白色砂　（右袖）
5 褐色土　ハードローム・黒色土含まれる。しまり強い。硬質。袖基底部。
6 黒褐色土　ローム粒子・焼土粒子少量。



第180図　SI-040



第181図 SI-041(1)



第 182 図　SI-041 (2)

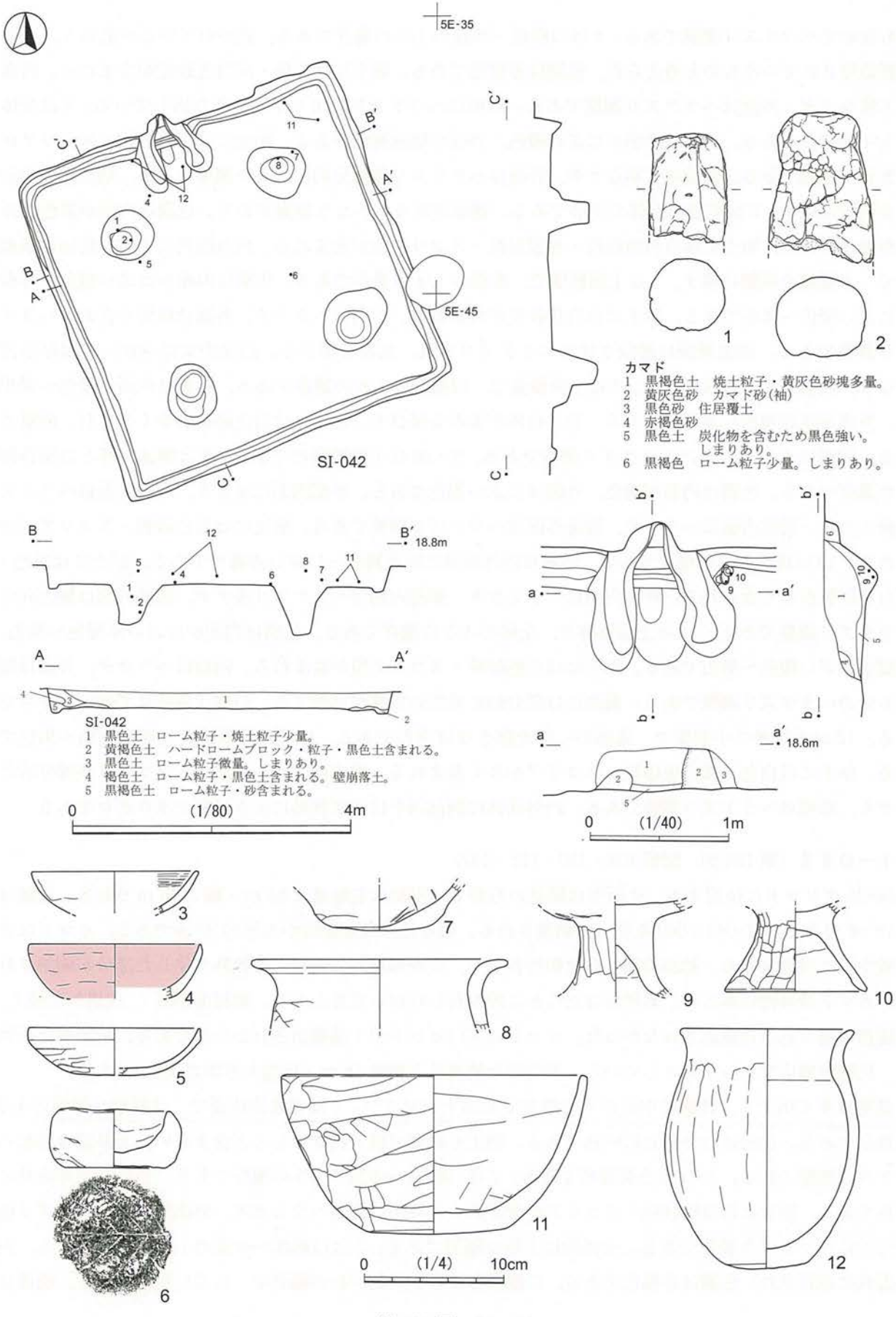
焼成はやや不良で，胎土にはスコリア粒が含まれる。口縁端部と口縁下位の張り出した部分が摩滅気味である。6 は口縁部～体部の 1/4 の遺存である。内外面共に黒色処理(漆)され，色調は灰褐色である。胎土には白色微砂粒が多く含まれる。内面は全面ヘラミガキ，外面も口縁部も含めヘラケズリ後ミガキ調整である。7 は全体の 4/5 の遺存である。色調は内面がにぶい橙色～赤褐色，外面が橙色～赤色である。胎土には白色・灰白色砂粒が多く，スコリアも含まれる。内面はナデ・ミガキ，外面はヘラケズリ後ミガキ調整である。8 は全体の 1/2 の遺存である。色調は内面が橙色，外面が橙色～黒色である。胎土には白色微砂粒が多く含まれる。口縁部端部内面が摩滅している。内面はナデ，外面はヘラケズリ後部分的にミガキ調整である。9 は土師器高坏で，口縁部～体部の 1/6 の遺存である。口縁端部は削られるように欠損している。内外面とも赤彩され，色調は灰赤色，胎土自体が赤く発色する。胎土には白色微砂粒が多く含まれる。内外面共に丁寧なヘラミガキ調整が施され，光沢がある。10 は土師器の小型の椀形坏である。色調は内外面共ににぶい橙色～黒色である。胎土には白色微砂粒が多く含まれる。内面はやや雑なヘラミガキ，外面はヘラケズリ調整である。11 は坏形のミニチュア土器である。全体の 1/2 の遺存である。色調

は内外面共に橙色である。焼成はやや不良で，胎土には白色砂粒が含まれる。全面ナデで比較的丁寧な作りである。12・13は土師器甕の口縁部である。いずれも胎土には白色・灰白色砂粒が多く含まれる。内面はナデ，外面はヘラケズリ調整である。12は口縁部～胴部上半の1/5の遺存である。色調は内面が橙色，外面が赤橙色～赤黒色である。硬質で，摩滅が少ない。13は口縁部の1/4の遺存である。色調は内外面共に明赤褐色～赤黒色である。14は調整がほとんどなされず，粘土紐の接合痕の明瞭な小型の甕である。口縁部は屈曲しない。口縁部～胴部上半の1/4の遺存である。色調は内外面共ににぶい赤褐色～黒灰色である。胎土には白色砂粒が多く含まれる。内外面共に雑なユビナデのみである。15・16は土師器甑である。いずれも硬質である。15は口縁部の1/4の遺存である。色調は内面が橙色，外面がにぶい橙色である。胎土には白色砂粒・スコリア粒が多く含まれる。内面は口縁直下が横方向のミガキ，その下はナデ調整である。外面はヘラケズリだが，ミガキ状で光沢をもつ。16は口縁部～胴部上半の1/5の遺存である。色調は内外面共ににぶい橙色～褐灰色である。胎土には白色・黒色砂粒が多く含まれる。内面はヘラミガキ，外面はヘラケズリ後ミガキ調整である。器厚があり，重量感がある。17は土師器壺である。肩部に張りがあり，須恵器の壺形を模倣したものと考えられる。胎土も精緻で，硬質である。肩部～胴部の1/3の遺存である。色調は内外面共に橙色～黒色である。胎土には白色微砂粒が多く含まれる。内面は丁寧なナデ，外面はヘラケズリ調整である。器壁は比較的薄い。18～21は土師器甕である。18は胴部～底部の1/6の遺存である。色調は内面がにぶい橙色～にぶい褐色，外面がにぶい赤褐色～黒色である。胎土には白色砂粒が多く含まれる。内面はヘラナデ，外面はヘラケズリ後ミガキ状のナデ，底面はヘラケズリ調整である。19は口縁部～胴部の1/2の遺存である。色調は内面が赤黒色～明赤褐色，外面が橙色～明赤灰色である。胎土には白色砂粒が多く含まれる。内面はヘラナデ，外面はヘラケズリ後ナデ調整である。口縁部は水平でなく緩やかに波打つ。20は口縁部～胴部上半の1/6の遺存である。色調は内面がにぶい橙色～灰赤色，外面がにぶい橙色～灰褐色である。焼成はやや不良で，2次被熱により器面は荒れている。胎土には白色・灰白色砂粒が多く含まれる。内面はナデ，外面はヘラケズリ調整と考えられる。口縁部はほとんど屈曲しない。21は底部の1/3の遺存である。色調は内面が橙色，外面は褐灰色である。胎土には白色砂粒・スコリアが多く含まれる。内面はナデ，外面は底面も含めてヘラケズリ後ナデ調整である。

ＳＩ－０４２（第183図，図版108・110・112・147）

5E-34グリッドに位置する。平面形は方形で，規模は主軸長4.8ｍ・幅4.79ｍである。主軸はN-22°-Wである。掘り込みは確認面から平均28㎝である。SI-041を切って構築される。東側はSI-043に切られている。カマドは北西壁中央に付設される。比較的遺存がよく，周辺から遺物も多く出土している。火焼部や袖の内壁も被熱により顕著に赤化している。カマド奥壁下部は立ち上がりが急で，上部は段をもち緩やかに立ち上がる形状である。ピットは主柱穴が4基で，掘り込みはしっかりしている。壁周溝はカマド部分も含み全周し，平均的な規模は下端幅10㎝・床面から深さ8㎝である。

遺物は比較的多く出土した。主柱穴からは土製支脚が出土した。1・2は土製支脚である。どちらも軟質である。1の色調は浅黄橙色である。胎土にはほとんど砂礫が含まれない。2の色調はにぶい橙色である。胎土には白色微砂粒が多く含まれる。3～5は土師器坏である。3は口縁部～体部の1/5の遺存である。色調は内外面共に橙色～黒褐色である。口縁部は意図的かは不明であるが，黒色である。焼成はやや不良で，やや軟質である。胎土には白色砂粒・スコリアが含まれる。内面は全面ヘラミガキ，外面は口縁


5E-35
5E-45
SI-042
カマド
1 黒褐色土 焼土粒子・黄灰色砂塊多量。
2 黄灰色砂 カマド砂(袖)
3 黒色砂 住居覆土
4 赤褐色砂
5 黒色土 炭化物を含むため黒色強い。しまりあり。
6 黒褐色 ローム粒子少量。しまりあり。
18.8m
SI-042
1 黒色土 ローム粒子・焼土粒子少量。
2 黄褐色土 ハードロームブロック・粒子・黒色土含まれる。
3 黒色土 ローム粒子微量。しまりあり。
4 褐色土 ローム粒子・黒色土含まれる。壁崩落土。
5 黒褐色土 ローム粒子・砂含まれる。
0 (1/80) 4m
18.6m
0 (1/40) 1m
0 (1/4) 10cm

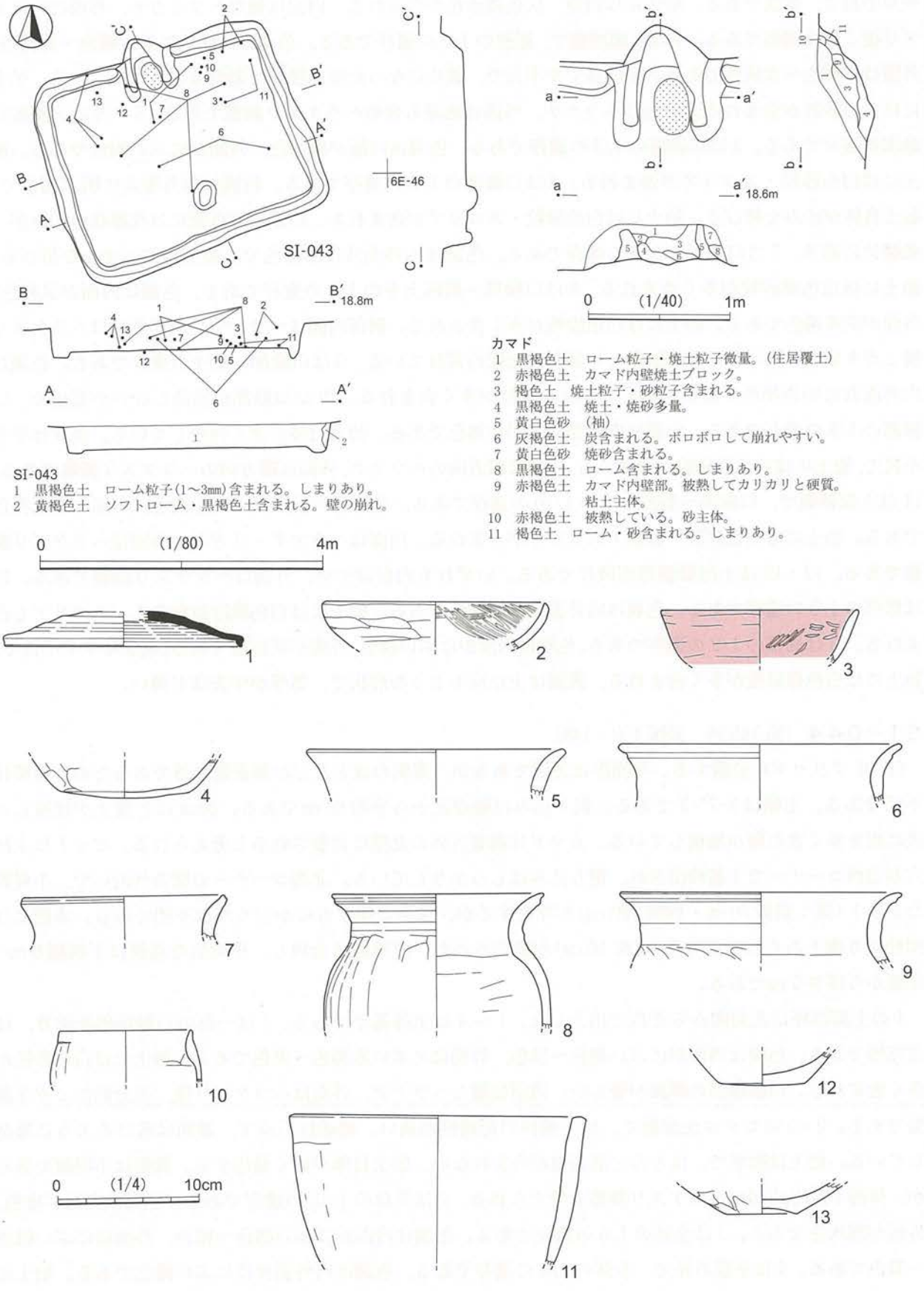
第183図 SI-042

部も含めてヘラケズリ調整である。4は口縁部～体部の1/2の遺存である。剥がれているが恐らく，全面赤彩処理されていたものと考えられ，色調は赤橙色である。胎土には白色・灰白色砂粒が含まれる。内面は丁寧なナデ，外面はヘラケズリ調整である。底面はヘラケズリにより平底を作り出している。5は全体の1/4の遺存である。色調は内面がにぶい橙色，外面が明赤褐色である。胎土には白色砂粒・スコリアが含まれ，硬質である。内面は丁寧なナデ，外面はヘラケズリ後部分的にミガキ調整である。粘土紐の接合痕を明瞭に残す。6は手捏ね土器の完形である。器厚があり，かなり重量がある。色調は内面が黒色，外面が橙色である。胎土には白色微砂粒・金雲母粒・スコリア粒が含まれる。内外面共にナデ，底面は無調整で，木葉痕を明瞭に残す。7は土師器甕で，底部の1/2の遺存である。色調は内面がにぶい橙色，外面がにぶい橙色～黒色である。胎土には白色砂粒が含まれる。内面はヘラナデ，外面は底面も含め，ヘラケズリ調整である。底部周縁は面取り状にヘラケズリされ，丸みを帯びる。底部中央に向かって器厚が薄くなり，内面はすり鉢状である。8は土師器甕で，口縁部の1/6の遺存である。色調は内面が橙色～黒褐色，外面が明赤褐色～黒褐色である。胎土自体が赤みを帯びる。胎土には白色砂粒が多く含まれ，硬質である。内面はナデ，外面はヘラケズリ調整である。9・10は土師器高坏である。9は脚部～坏との接合部分の遺存である。色調は内面が橙色，外面はにぶい褐色である。坏部内面はミガキ，坏部外面はヘラケズリ後ミガキ，脚部内面はヘラナデ，脚部外面はヘラケズリ調整である。胎土には白色砂粒・スコリアが含まれる。10は脚部のみの遺存である。色調は内外面共に明赤褐色～にぶい赤褐色である。胎土には白色・灰白色砂粒が多く含まれる。坏部内面はヘラミガキ，脚部内面はヘラケズリ後ナデ，脚部外面は縦方向のヘラケズリ調整である。11は土師器鉢で，全体の4/5の遺存である。色調は内面がにぶい赤褐色～黒色，外面がにぶい橙色～黒色である。胎土には白色砂粒・スコリア粒が含まれる。内面はヘラナデ，外面は底面も含めヘラケズリ調整である。器面には部分的に黒色の物質が付着する。口縁は屈曲せず端部も平らである。12は土師器の小型甕で，底部の一部を除きほぼ完形である。色調は内外面共に明赤褐色～黒色である。胎土には白色・灰白色砂粒・スコリアが多く含まれる。内面はナデ，外面はヘラケズリ後部分的にミガキ，底面はヘラケズリ調整である。内外面共に胴部過半は2次被熱により器面がボロボロである。

ＳＩ－０４３（第184図，図版108・110・112・147）

5E-35グリッドに位置する。平面形は横長の方形で，規模は主軸長2.85ｍ・幅3.45ｍである。主軸はN-19°-Wである。SI-041・042を切って構築される。掘り込みは確認面から平均32㎝である。カマドは北西壁中央に付設される。袖部の遺存は比較的良好で，火焼部以外に内壁にも被熱赤化した部分が確認された。カマド最奥部は幅広い。奥壁はなだらかに段を有しながら立ち上がる。確認面が低く，住居外に続く，煙道部の掘り込みは確認されなかった。ピットは入口ピットが1基検出されたのみである。壁周溝は全周し，比較的幅広でしっかりとしている。平均的な規模は下端幅12㎝・床面から深さ10㎝である。

遺物は多く出土し，比較的中心から北寄りでの出土が目立つ。1は須恵器坏蓋で，口縁部～体部の1/5の遺存である。色調は内外面共に灰色である。胎土も緻密で混入物をほとんど含まない。天井部は回転ヘラケズリ調整である。2・3は土師器坏である。2は口縁部～体部の1/5の遺存である。色調は内外面共に橙色である。胎土には白色砂粒・スコリアが含まれる。内面は全面ヘラミガキ，外面体部はヘラケズリ後部分的にヘラミガキ調整である。全体的に丁寧な整形である。3は口縁部～体部の1/5の遺存である。内外面共に赤彩され，色調は赤褐色である。口縁端部は赤彩の剥がれが顕著で，にぶい橙色である。焼成は



SI-043
1 黒褐色土　ローム粒子(1～3mm)含まれる。しまりあり。
2 黄褐色土　ソフトローム・黒褐色土含まれる。壁の崩れ。

カマド
1 黒褐色土　ローム粒子・焼土粒子微量。(住居覆土)
2 赤褐色土　カマド内壁焼土ブロック。
3 褐色土　焼土粒子・砂粒子含まれる。
4 黒褐色土　焼土・焼砂多量。
5 黄白色砂　(袖)
6 灰褐色土　炭含まれる。ボロボロして崩れやすい。
7 黄白色砂　焼砂含まれる。
8 黒褐色土　ローム含まれる。しまりあり。
9 赤褐色土　カマド内壁部。被熱してカリカリと硬質。粘土主体。
10 赤褐色土　被熱している。砂主体。
11 褐色土　ローム・砂含まれる。しまりあり。

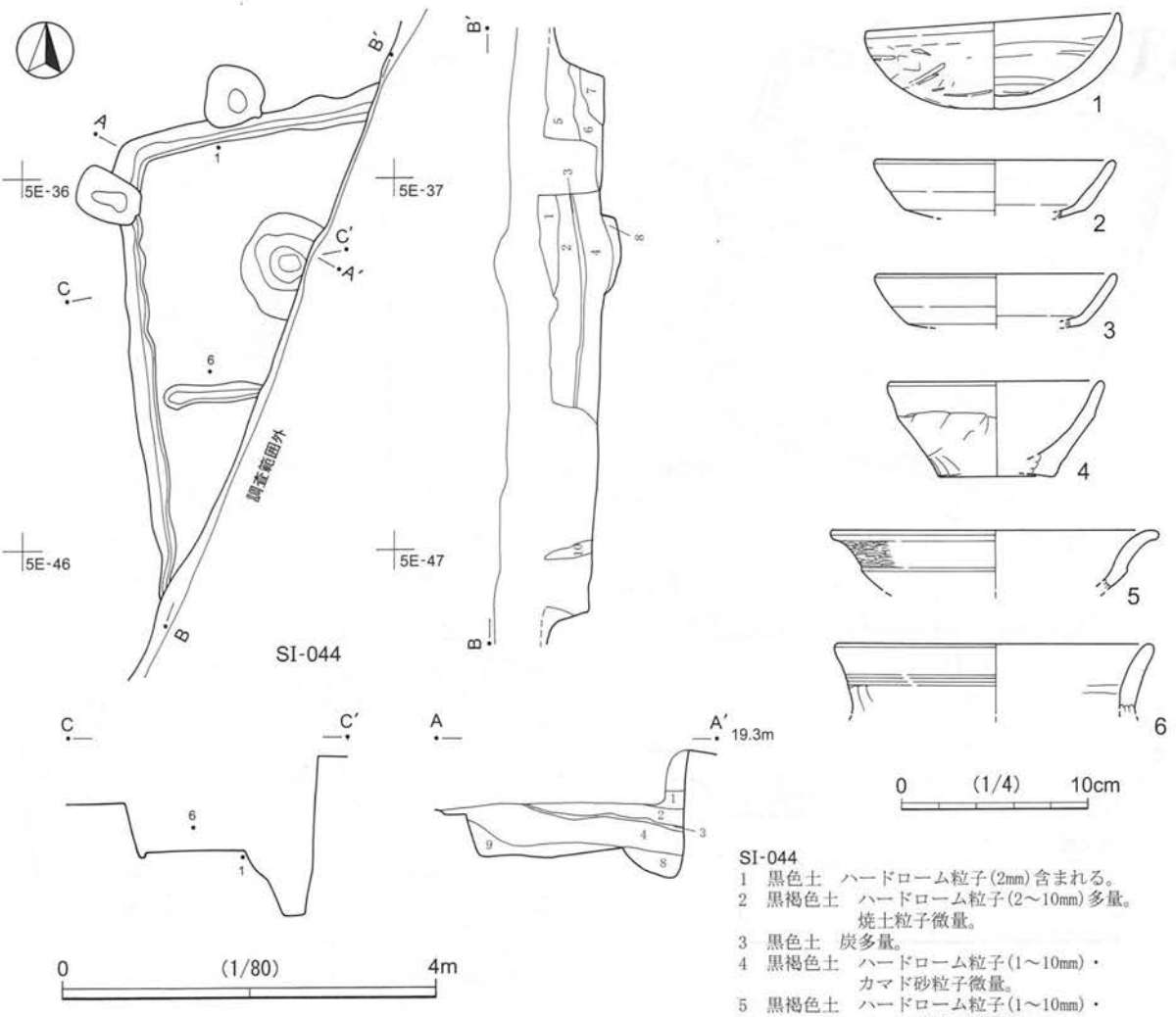
第184図　SI-043

やや不良で，軟質である。胎土には白色・灰色微砂粒が含まれる。内面は雑なヘラミガキ，外面はヘラケズリ後ミガキ調整である。4は土師器甕で，底部の1/2の遺存である。色調は内面はにぶい橙色～黒褐色，外面は赤褐色～赤灰色である。焼成はやや不良で，破片になった後の被熱で器面はざらついている。胎土には白色砂粒が含まれる。内面はヘラナデ，外面は底面も含めヘラケズリ調整である。5～9は土師器口縁部の破片である。5は口縁部の1/8の遺存である。色調は内面が黒褐色，外面がにぶい褐色である。胎土には白色砂粒・スコリアが含まれる。6は口縁部の1/5の遺存である。色調は内外面共に明赤褐色で，胎土自体が赤みを帯びる。胎土には白色砂粒・スコリアが含まれる。口縁端部外面には沈線状の凹みが一条横位に巡る。7は口縁部の1/6の遺存である。色調は内外面共に赤褐色で，胎土自体が赤みを帯びる。胎土には白色微砂粒が多く含まれる。8は口縁部～胴部上半の1/2の遺存である。色調は内面が黒褐色，外面が明赤褐色である。胎土には白色砂粒が多く含まれる。胴部内面はヘラナデ，胴部外面はヘラケズリ後ミガキ調整である。2次被熱により器面は比較的荒れている。9は口縁部の1/4の遺存である。色調は内外面共に明赤褐色である。胎土には白色砂粒が多く含まれる。10は口縁部が屈曲しない小型甕で，口縁部の1/8の遺存である。色調は内外面共に明赤褐色である。胎土自体が赤く発色している。焼成はやや不良で，胎土には白色微砂粒が含まれる。内面は横方向のヘラナデ，外面は縦方向のヘラケズリ調整である。11は土師器甑で，口縁部～胴部上半の1/10の遺存である。色調は内面がにぶい赤褐色，外面が明赤褐色である。胎土には白色砂粒・砂礫・スコリアが含まれる。内面はヘラナデ・ミガキ，外面はヘラケズリ調整である。12・13は土師器甕底部破片である。いずれも内面はナデ，外面はヘラケズリ調整である。12は底部の1/3の遺存である。色調は内外面共に赤褐色である。胎土には白色微砂粒が多く，スコリアも含まれる。13は底部の1/2の遺存である。色調は内面がにぶい橙色，外面が灰赤色である。焼成はやや不良で，胎土には白色微砂粒が多く含まれる。底面は上に反るような形状で，器厚が中央ほど薄い。

ＳＩ－０４４（第185図，図版109・148）

5E-36グリッドに位置する。平面形は方形であるが，東側のほとんどが調査範囲外であるため，規模は不明である。主軸はN-7°-Wである。掘り込みは確認面から平均60㎝である。20㎝ほど覆土が堆積した後に炭を多く含む層が堆積している。カマドは調査区外の北壁に付設されると考えられる。ピットは主柱穴が北西コーナーで1基検出され，掘り込みはしっかりしている。北西コーナーの壁の外沿いで，小規模なピット(深：東側70㎝・西側120㎝)が存在するが，住居に伴うものかどうかは不明である。床面には間仕切り溝とみられる掘り込み(深16㎝)が検出された。壁周溝は全周し，平均的な規模は下端幅6㎝・床面から深さ5㎝である。

1の土師器坏は北壁際から正位で出土した。1～4は土師器坏である。1は一部の口縁端部を除き，ほぼ完形である。色調は内面がにぶい褐色～黒色，外面はにぶい赤褐色～黒色である。胎土には白色砂粒が多く含まれる。口縁端部の摩滅が著しい。内面は雑なヘラナデ，外面はヘラケズリ後，部分的にミガキ調整である。2・3はロクロ土師器で，同一個体の可能性が高い。焼成は不良で，器面は溶けるように摩滅している。胎土は緻密で，ほとんど混入物が含まれない。胎土自体が赤く発色する。調整は不明瞭であるが，体部下端と底面はヘラケズリ調整と考えられる。2は全体の1/12の遺存である。色調は内面が橙色，外面が褐灰色である。3は全体の1/6の遺存である。色調は内面がにぶい橙色～橙色，外面はにぶい橙色～黒色である。4は平底の坏で，全体の1/3の遺存である。色調は内外面共ににぶい橙色である。胎土に



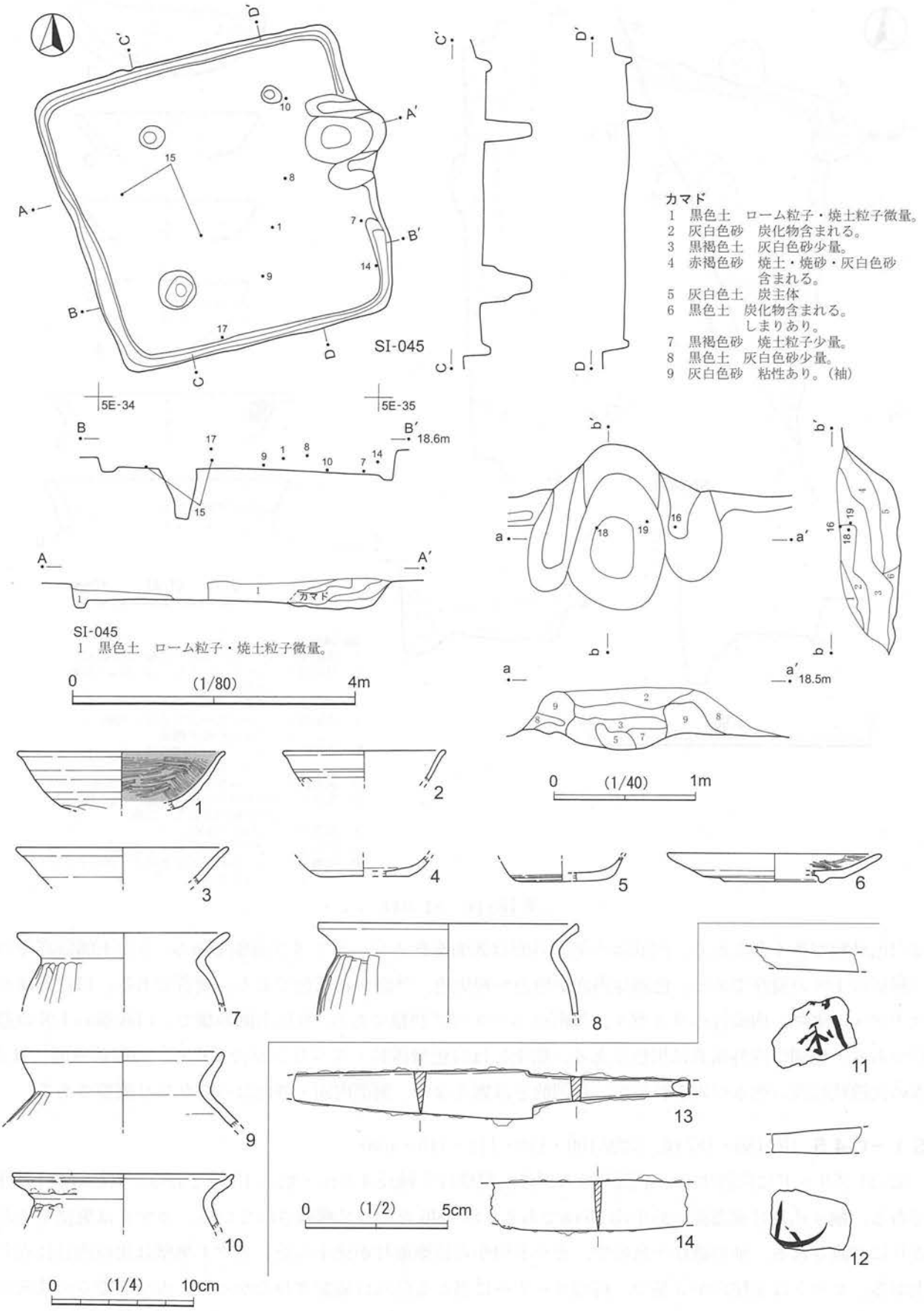
SI-044
1 黒色土 ハードローム粒子(2㎜)含まれる。
2 黒褐色土 ハードローム粒子(2～10㎜)多量。焼土粒子微量。
3 黒色土 炭多量。
4 黒褐色土 ハードローム粒子(1～10㎜)・カマド砂粒子微量。
5 黒褐色土 ハードローム粒子(1～10㎜)・カマド砂粒子微量。
6 黄褐色土 ローム粒子多量。しまりあり。
7 黒色土 ハードローム粒子(1㎜)・焼土粒子・カマド砂含まれる。砂質。
8 黒色土 ローム粒子微量。
9 黒色土 ローム(10㎜)少量。しまりあり。
10 黒褐色土 ローム粒子・焼土粒子・砂粒子含まれる。しまりあり。

第185図 SI-044

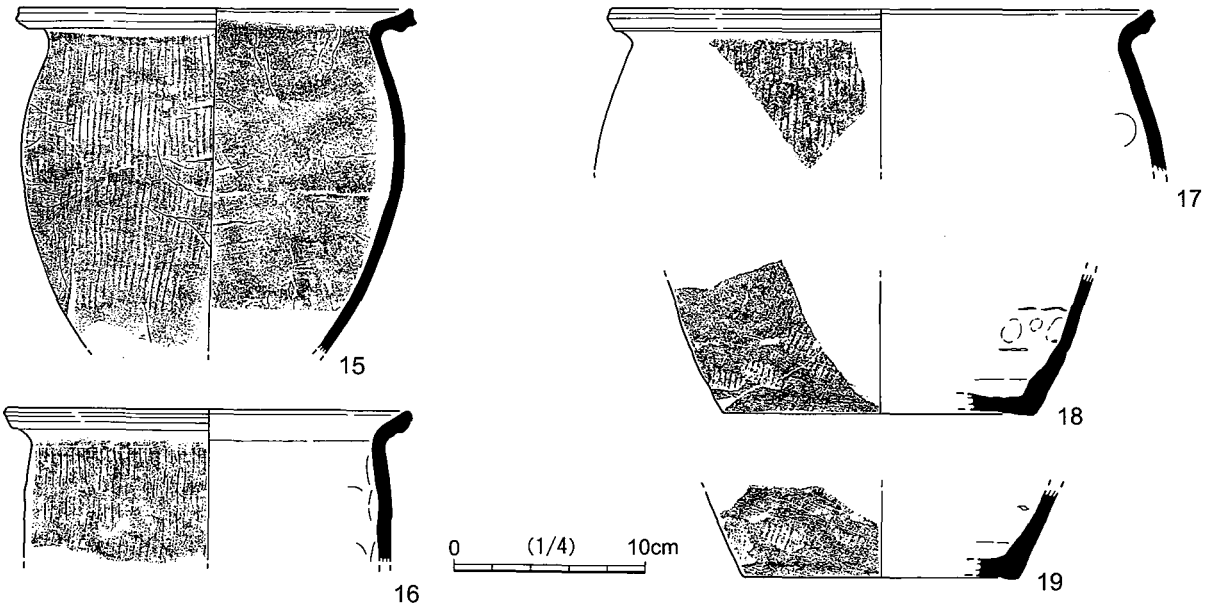
は白色砂粒が多く含まれる。内面はナデ，外面は底面を含めてヘラケズリ調整である。5は土師器高坏の口縁部の1/8の遺存である。色調は内面が橙色～褐灰色，外面が褐灰色である。硬質である。口縁部はヨコナデ・ミガキ，内面はヘラミガキ，外面はヘラケズリ調整である。6は土師器甕で，口縁部の1/8の遺存である。色調は内外面共に黒色である。胎土には白色微砂粒・スコリアが含まれる。口縁部外面には2本の沈線状に浅い凹みがみられるが，意図的とは思えない。胴部内面・外面はヘラケズリ調整である。

ＳＩ－０４５（第186・187図，図版109・110・112・115・148）

5E-24グリッドに位置する。平面形は方形で，規模は主軸長4.5ｍ・幅4.15ｍである。主軸はN-74°-Eである。掘り込みは確認面から平均26㎝である。SI-046を切って構築されている。カマドは東壁やや北寄りに付設される。袖の遺存が良好で，カマド内からは甕破片が出土した。カマド奥壁は比較的急に立ち上がる。ピットは主柱穴が3基で，南東コーナーに当たる柱穴は確認されなかった。カマド寄りの柱穴以



第186図 SI-045(1)



第187図　SI-045(2)

外は掘り込みがしっかりしている。壁周溝はほぼ全周し，平均的な規模は下端幅8㎝・床面から深さ8㎝である。

遺物は多く出土し，特に住居南側での出土が目立つ。1～5はロクロ整形の土師器の坏である。1は口縁部～体部の1/2の遺存である。内面は黒色処理され黒色，外面は橙色～黒色である。胎土には白色微砂粒が含まれる。内面は丁寧なヘラミガキ，体部下端は手持ちヘラケズリ調整である。2は口縁部の1/6の遺存である。色調は内外面共に橙色である。非常に薄手で，胎土には白色微砂粒が含まれる。3は口縁部の1/10の遺存である。色調は内外面共ににぶい赤褐色である。胎土には白色微砂粒が含まれる。4は底部の1/5の遺存である。色調は内面が灰色，外面がにぶい黄橙色である。胎土には白色微砂粒・スコリアが含まれる。体部下端と底面は手持ちヘラケズリ調整である。5は底部の2/3の遺存である。色調は内外面共ににぶい黄橙色である。胎土には比較的大きめのスコリアが含まれる。体部下端は面取りするようにヘラケズリ調整され，底面は一方向の直線的な手持ちヘラケズリ調整である。6はロクロ整形の土師器の高台付皿である。全体の1/3の遺存である。色調は内外面共に明赤褐色で，胎土自体が赤く発色する。胎土には白色微砂粒･スコリアが含まれる。内面はヘラミガキ，体部下端と底面は回転ヘラケズリ調整である。7～10は土師器甕の口縁部破片である。調整は共通し，内面はヘラナデ，外面はヘラケズリ調整である。7は口縁部～肩部の1/6の遺存である。口縁部の屈曲が急である。色調は内外面共に黒色である。胎土には白色微砂粒・スコリアが含まれる。8は口縁部～胴部上半の1/10の遺存である。色調は内外面共に明赤褐色～灰褐色である。硬質で，薄手の作りである。胎土には白色微砂粒・スコリアが含まれる。9は口縁部～肩部の1/15の遺存である。色調は内外面共ににぶい橙色である。胎土には白色砂粒・スコリアが含まれる。10は口縁部の1/4の遺存である。色調は内面がにぶい赤褐色～黒褐色，外面が橙色～黒褐色である。胎土には白色微砂粒が多く含まれる。口縁端部は丁寧に調整されるが，その下は雑なナデの痕跡がみられる。11・12は墨書土器である。11は土師器坏の底面の中央部に「口利」と書かれている。色調は内面が明黄褐色，外面が橙色である。胎土には白色砂・雲母細粒が多く含まれる。底面は手持ちヘラケ

ズリ調整である。12も土師器坏の底面に墨書されるが，部分的で判読できない。色調は内面が浅黄橙色，外面が橙色である。胎土には白色砂・雲母細粒が多く含まれる。底面は2方向の手持ちヘラケズリ調整である。13・14は鉄製刀子である。13は切先を欠損するのみである。両関で，茎端部は折れ曲がっている。14は刃部の破片と思われるが，背側の厚みもあまりない。重量は13は25.23ｇ，14は10.94ｇである。15～19は須恵器甕である。調整は共通し，内面はナデで，当て具痕がみられ，外面は胴部がタタキ目で，底部付近はヘラケズリ調整である。底面はざらついていて明確な調整痕は確認できない。16～19は褐色系の須恵器である。15は底部付近を中心にやや褐色化している。15は底部を除いて9/10の遺存である。色調は内外面共に灰色である。胎土には白色微砂粒・スコリアが含まれる。胴部上半部は内外面共に被熱のため器面の剥落がみられる。16は口縁部～胴部上半の1/8の遺存である。色調は内外面共に赤褐色～黒色である。胎土には白色砂粒・スコリアが含まれる。17は口縁部～胴部上半の1/15の遺存である。色調は内外面共ににぶい橙色である。胎土には白色微砂粒・スコリアが含まれる。18・19は底部破片である。色調は内外面共に褐灰色である。胎土には白色微砂粒・スコリアが含まれる。内面には粘土紐の接合痕が確認できる。外面はタタキ目と雑なヘラケズリ調整である。

ＳＩ－０４６Ａ・Ｂ・Ｃ（第188～191図，図版111・112・115・148・149）

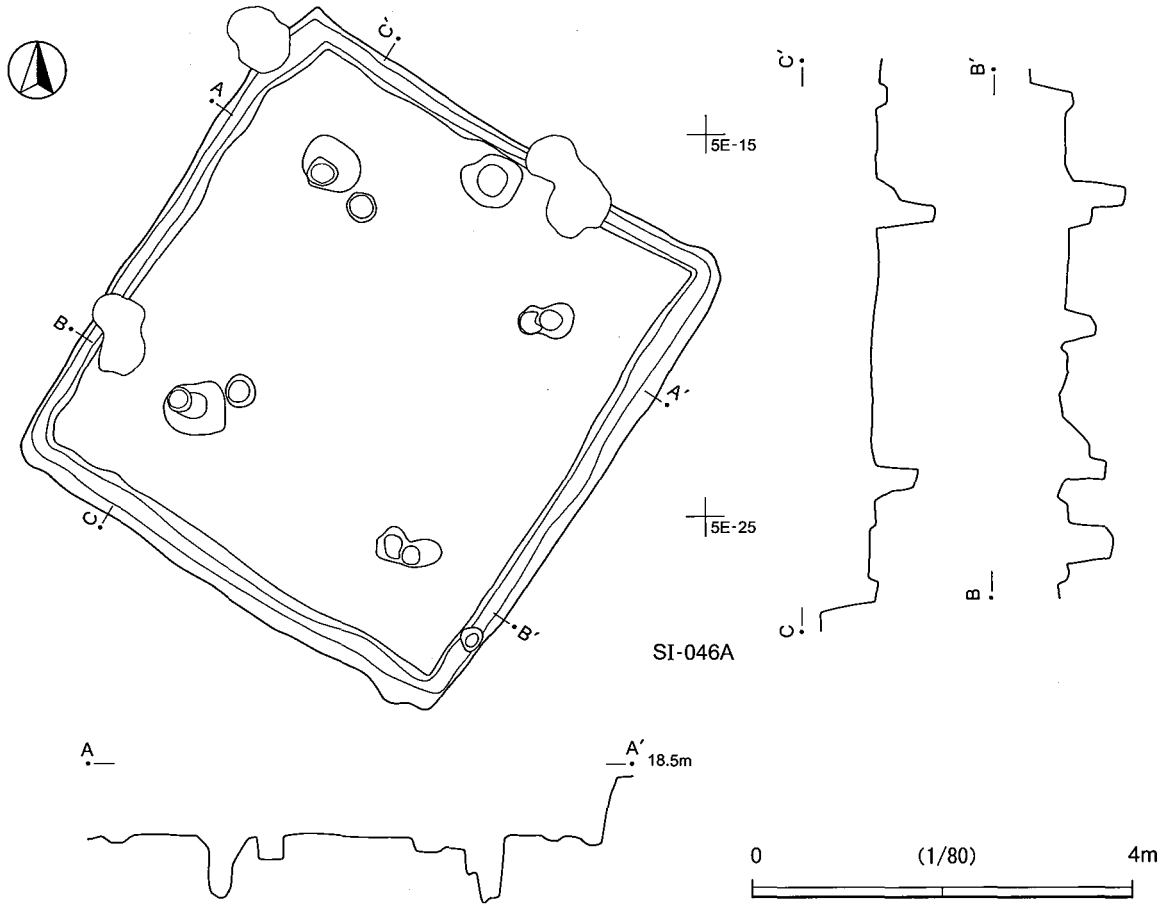
5E-13・14グリッドに位置する。ほぼ同じ場所で，建て替えを行ったと考えられる3軒が検出された。SI-047を切って構築されている。構築順序としてはＡ→Ｂ→Ｃと新しくなる。平面形は方形である。掘り込みは確認面から平均20㎝である。

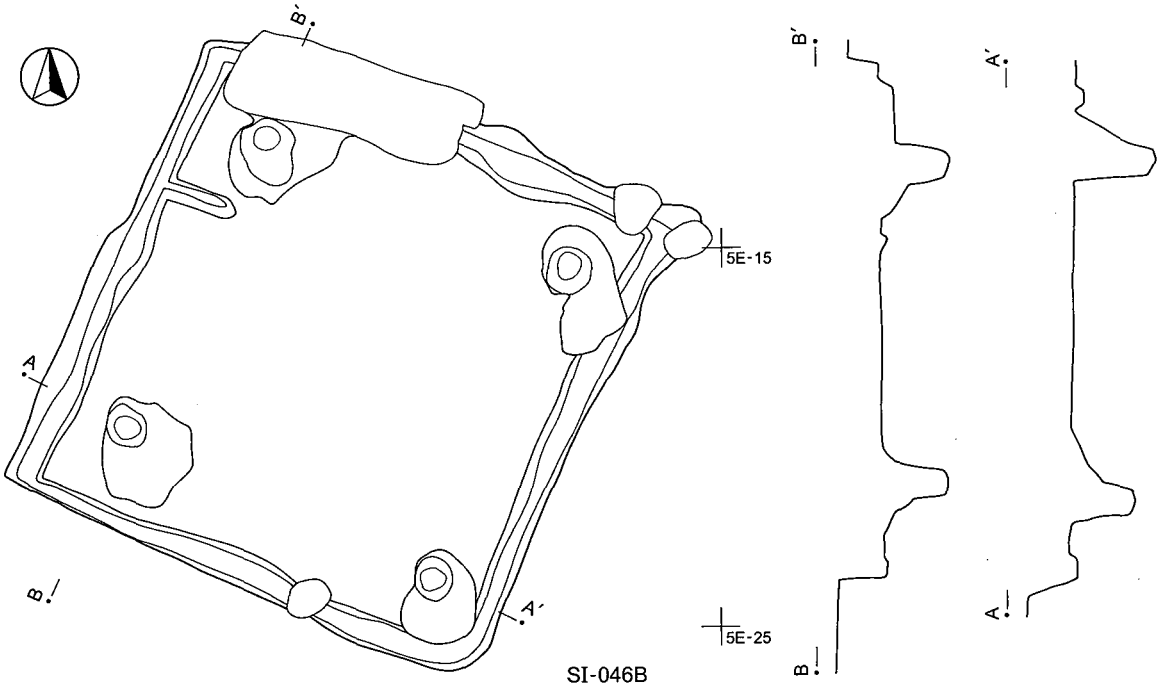
SI-046Aの規模は主軸長5.46ｍ・幅5.25ｍである。主軸はN-32°-Eである。カマドは遺存しないが，伴う浅い掘り込みがみられるため，北東壁に付設されていたものと考えられる。ピットは主柱穴が4基で，掘り込みはしっかりしている。床面を剥がした際，溝状の掘り込みが検出された(色刷り部分)。壁周溝は全周し，平均的な規模は下端幅14㎝・床面から深さ7㎝である。

SI-046Bの規模は主軸長5.26ｍ・幅5.08ｍである。主軸はN-25°-Eである。カマドは遺存しないが，他の時期と同様に，北東壁に付設されていたものと考えられる。ピットは主柱穴が4基で，掘り込みはしっかりしており，比較的壁沿いに配置されている。壁周溝は全周し，平均的な規模は下端幅15㎝・床面から深さ11㎝である。また，北東寄りに間仕切り溝が1か所確認された。

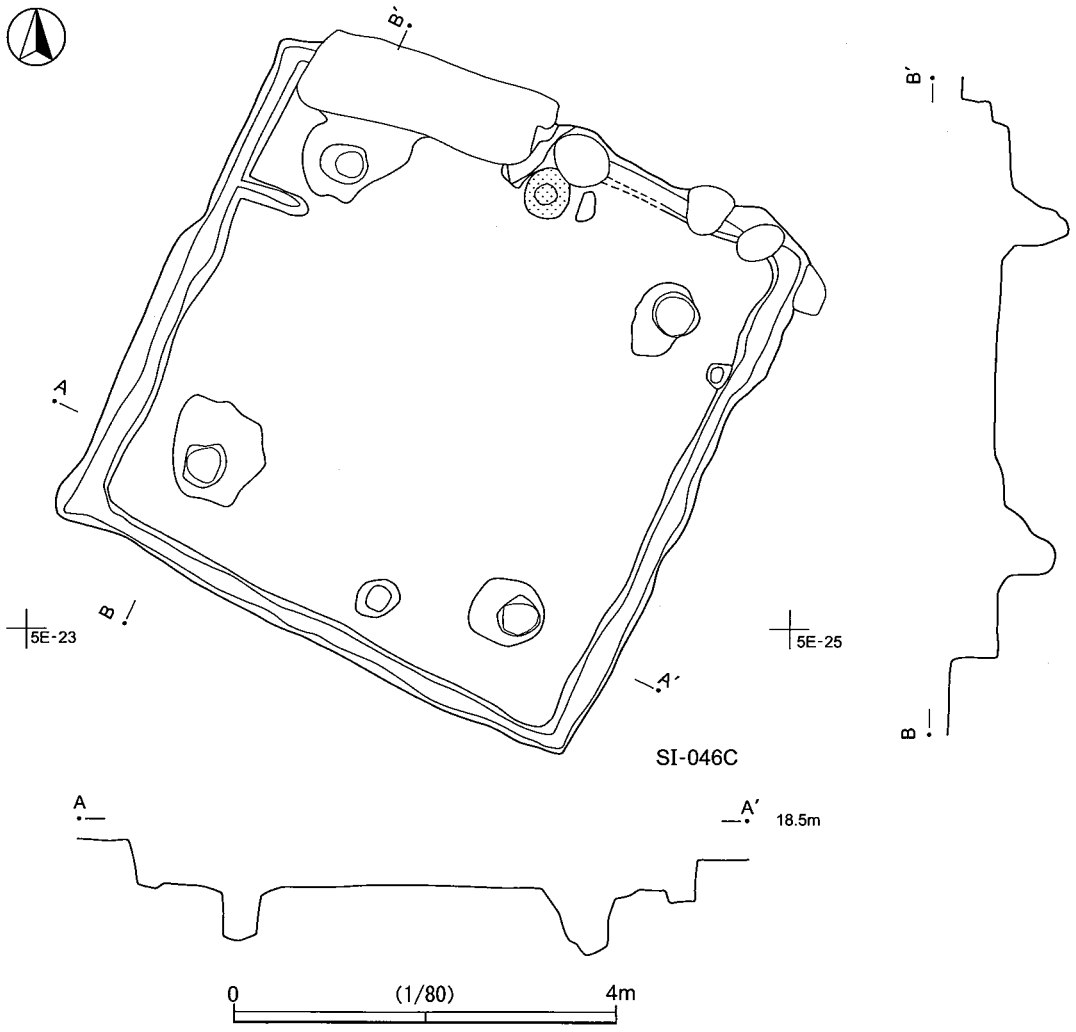
SI-046Cの規模は主軸長5.76ｍ・幅5.75ｍである。主軸はN-25°-Eである。カマドは，北東壁中央に付設される。カマド中央部を後世のピットにより攪乱され，遺存が不良である。特に奥壁・右袖部分は遺存が少ない。火焼部は被熱して赤化がみられる。ピットは主柱穴が4基で，掘り込みはしっかりしている。入口ピット(深40㎝)が1基確認された。壁周溝は全周し，平均的な規模は下端幅15㎝・床面から深さ8㎝である。また，北東寄りに間仕切り溝が1か所確認された。

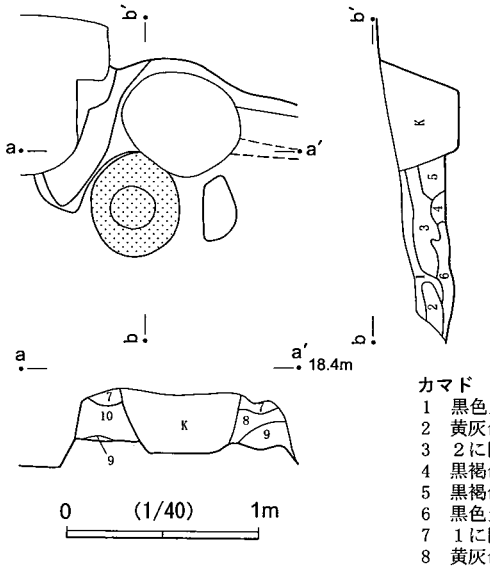
遺物は比較的多く出土した。帰属のはっきりとした個体は少ないため，まとめて説明する。1・3は土師器坏である。1は口縁部～体部の1/5の遺存である。色調は内面はにぶい褐色～黒褐色，外面はにぶい黄橙色～黒褐色である。外面口縁部と内面全面が黒色処理(漆)されている。胎土にはスコリア粒が多く含まれる。内面はヘラミガキ，外面はヘラケズリ後部分的にミガキ調整である。3は口縁部～体部の1/6の遺存である。内外面共に黒色処理(漆)され，色調は内面が黒褐色，外面が黒色である。胎土は精緻で，混入物がほとんど含まれない。内面はヘラミガキ，外面はヘラケズリ後部分的にミガキ調整である。2・4・





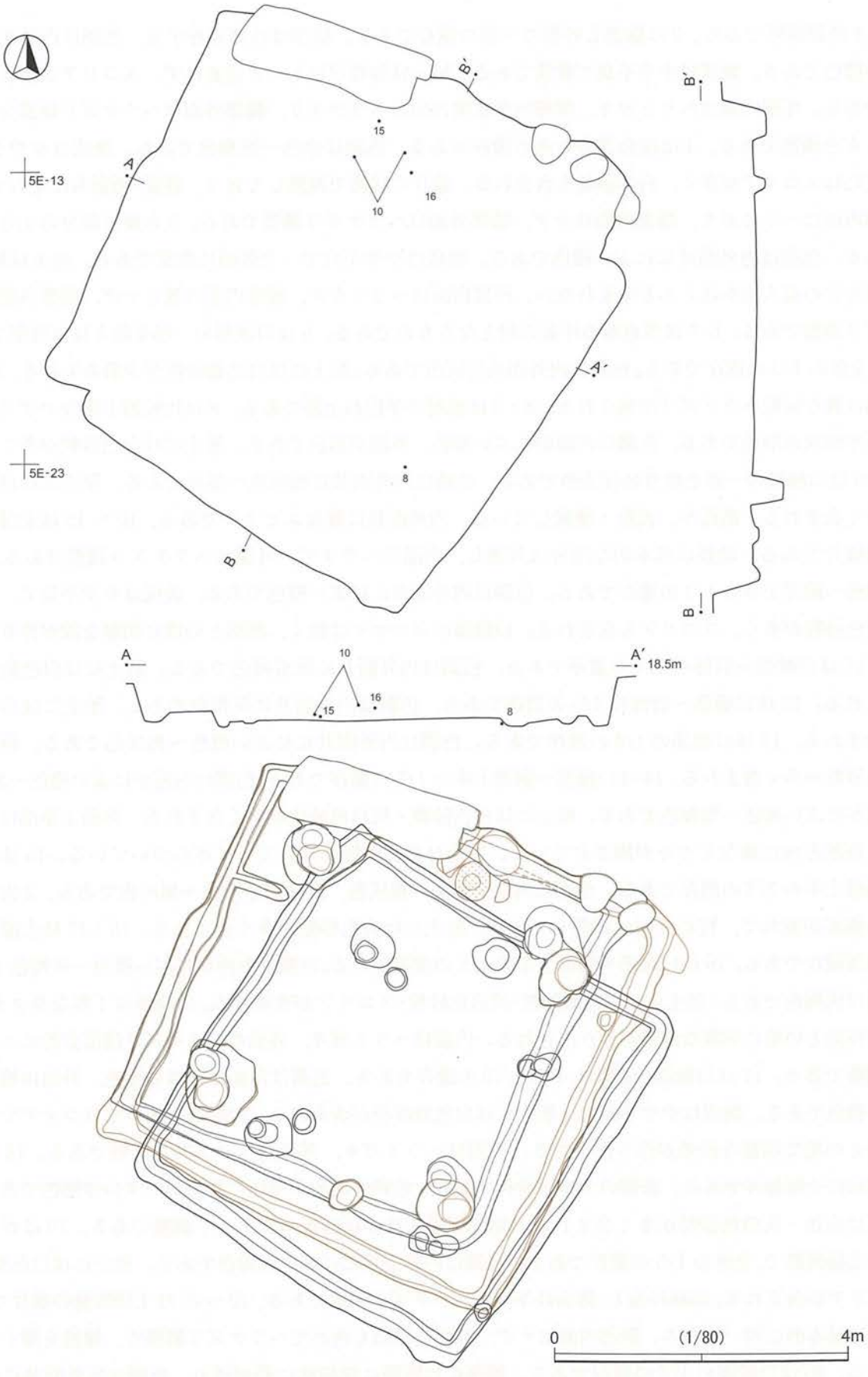
第188図　SI-046A･B





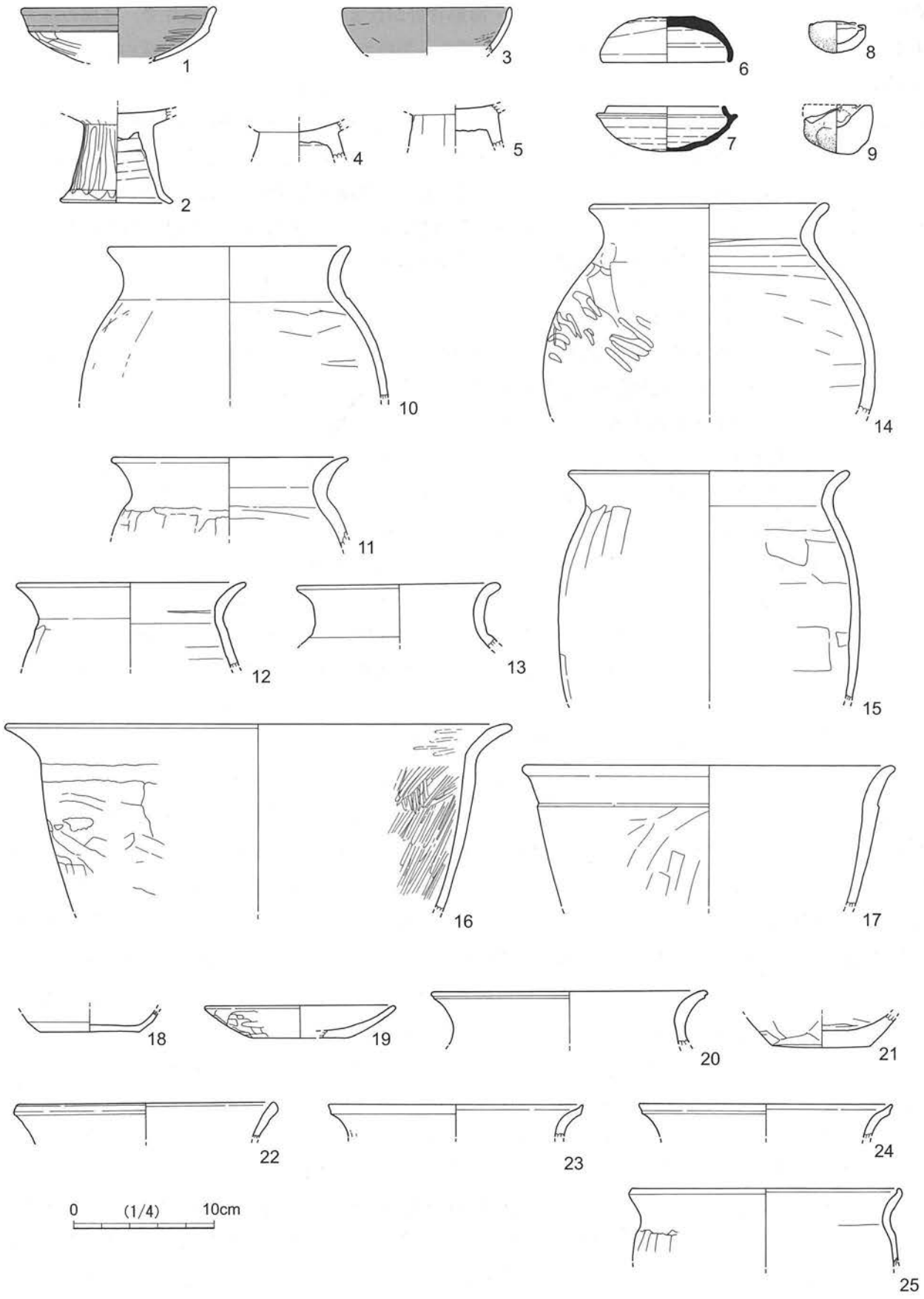
カマド
1　黒色土　砂質(住居覆土)
2　黄灰色砂　被熱し、赤化部分あり。壁の崩れ。粘性弱い。
3　2に同じ。
4　黒褐色砂　焼砂含まれる。軟質。
5　黒褐色砂　黄灰色砂小ブロック少量。
6　黒色土　しまりあり。
7　1に同じ。
8　黄灰色砂
9　黒褐色土　ローム粒子・ハードロームブロック含まれる。しまり強い。
10　黄灰色砂　内壁側被熱により赤化。(袖)

第189図　SI-046C



第 190 図　SI-046A･B･C(1)

5は土師器高坏である。2は脚部と坏部の一部の遺存である。脚部はほぼ完存する。色調は内外面共ににぶい橙色である。焼成はやや不良で軟質である。胎土は砂粒がほとんど含まれず，スコリアが含まれるのみである。坏部内面はヘラミガキ，脚部内面は横方向のヘラケズリ，脚部外面はヘラケズリ後部分的にヘラミガキ調整である。4は接合部分のみの遺存である。色調は赤色～黒褐色である。焼成はやや不良で，胎土にはスコリアが多く，白色砂粒も含まれる。破片の状態で被熱しており，器面・断面共に荒れている。坏部内面はヘラミガキ，脚部内面はナデ，脚部外面はヘラケズリ調整である。5も接合部分の1/2の遺存である。色調は内外面共ににぶい橙色である。焼成はやや不良で，全体的に軟質である。胎土は精緻で，砂粒などの混入物がほとんど含まれない。坏部内面はヘラミガキ，脚部内面は雑なナデ，脚部外面はヘラケズリ調整である。6・7は須恵器の坏蓋の対となるものである。6は口縁部の一部を除きほぼ完形である。7は全体の1/3の遺存である。色調は内外面共に灰色である。胎土には白色微砂粒が少量含まれる。天井部・底部は雑な回転ヘラケズリが施される。8・9は椀形の手捏ね土器である。8は比較的丁寧なナデで，角のない半球状の形態である。色調は内面がにぶい褐色，外面が黒色である。胎土には白色砂粒が多く含まれる。9は口縁部の一部を除きほぼ完形である。色調は内外面共に褐灰色～黒色である。胎土には白色砂粒が多く含まれる。断面が，被熱・摩滅している。内外面共に雑なユビナデである。10～15は土師器甕の口縁破片である。調整は基本的な部分は共通し，内面はヘラナデ，外面はヘラケズリ調整である。10は口縁部～胴部上半の1/3の遺存である。色調は内外面共ににぶい橙色である。焼成はやや不良で，胎土には白色砂粒が多く，スコリアも含まれる。口縁部のヨコナデは強く，胴部との境に明瞭な段が作り出される。11は口縁部～肩部の1/4の遺存である。色調は内外面共に灰黄褐色である。胎土には白色微砂粒が含まれる。12は口縁部～肩部の1/5の遺存である。色調は内外面共に灰褐色である。胎土には白色砂粒が含まれる。13は口縁部の1/4の遺存である。色調は内外面共ににぶい橙色～褐灰色である。胎土には白色砂粒が多く含まれる。14は口縁部～胴部上半の1/6の遺存である。色調は内面がにぶい橙色～黒褐色，外面がにぶい褐色～黒褐色である。胎土には白色砂礫・灰白色砂粒が多く含まれる。外面上半部はヘラケズリ後横方向に雑なミガキが施されている。器面は外面が特に荒れていてざらついている。15は口縁部～胴部上半の2/3の遺存である。色調は内面が橙色～褐灰色，外面が赤橙色～褐灰色である。2次被熱のため器面が荒れて，特に外面は剥落している。胎土には白色砂粒が多く含まれる。16・17は土師器甑の口縁部破片である。16は口縁部～胴部上半の1/5の遺存である。色調は内面がにぶい橙色～灰褐色である。外面は灰褐色である。胎土には白色微砂粒・灰白色砂粒・スコリアが含まれる。口縁部は丁寧なヨコナデで，胴部外面との境に明瞭な段差が作り出される。内面はヘラミガキ，外面はヘラケズリ後部分的にヘラミガキ調整である。17は口縁部～胴部上半の1/10の遺存である。色調は内面がにぶい橙色，外面は橙色～にぶい橙色である。焼成はやや不良で，胎土には白色微砂粒が含まれる。口縁部は丁寧なヨコナデで，胴部外面との境に明瞭な段差が作り出される。内面はヘラミガキ，外面はヘラケズリ調整である。18はロクロ整形の土師器坏である。底部の3/5の遺存である。色調は内面が黒色，外面がにぶい赤褐色である。胎土には白色・灰白色砂粒が多く含まれる。体部下端と底面は回転ヘラケズリ調整である。19はロクロ整形の土師器皿で，全体の1/5の遺存である。色調は内外面共ににぶい赤褐色である。胎土には白色微砂粒・スコリアが含まれる。体部外面と，底面は手持ちヘラケズリ調整である。20～25は土師器甕の破片である。調整は基本的に同一である。胴部内面はナデ，外面は底面も含めてヘラケズリ調整で，器壁を薄く仕上げている。20は口縁部の1/6の遺存である。端部には明瞭に沈線状に筋が巡る。色調は内外面共ににぶい



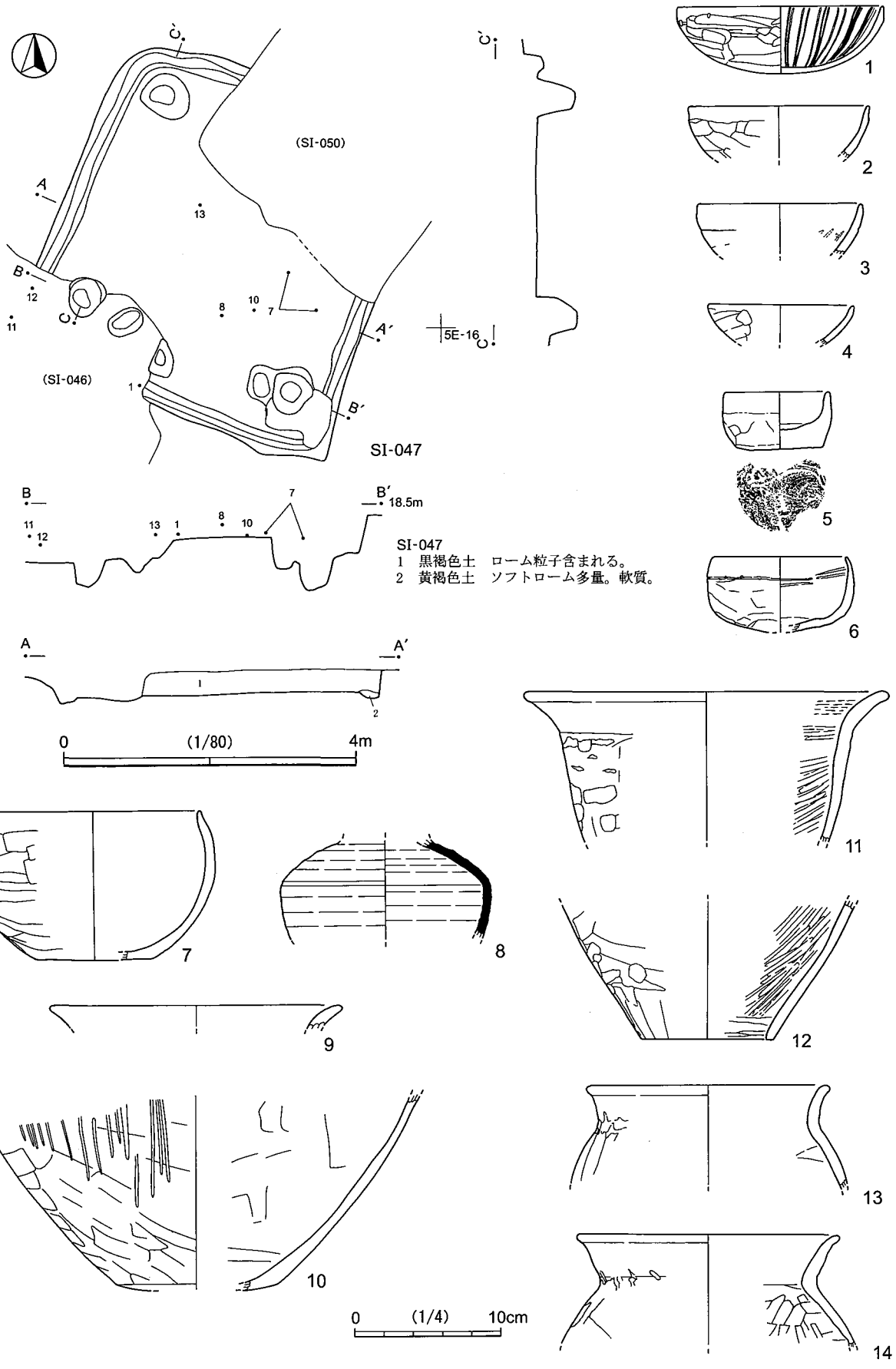
第191図　SI-046A・B・C(2)

橙色で，胎土には白色・灰白色砂粒・スコリア・海綿骨針が含まれる。21は底部破片で，底部のみ完存する。色調は内面が灰黄褐色～黒色，外面がにぶい橙色～黒色である。胎土には白色・灰白色砂粒が多く含まれる。底面はヘラケズリされるが平らではなく，雑である。2次被熱により器面が荒れている。22は口縁部の1/5の遺存である。色調は内外面共に橙色である。胎土には白色砂粒が多く，スコリアも含まれる。口縁端部は分厚く整形されている。23・24は同一個体の可能性が高い。23が口縁部の1/10，24が1/8の遺存である。口縁端部をつまむように立ち上げた形状である。色調は内外面共ににぶい褐色～灰褐色である。胎土には白色砂粒が多く含まれる。25は口縁部～肩部の1/2の遺存である。色調は内外面共ににぶい赤褐色である。胎土には白色砂粒・透明砂粒が多く含まれる。

ＳＩ－０４７（第192図，図版113・149）

5E-05グリッドに位置する。平面形は方形で，規模は推定主軸長4.6ｍ・幅4.32ｍである。主軸はN-24°-Eである。掘り込みは確認面から平均30㎝である。北側をSI-050，南側をSI-046に切られている。カマドは北壁に付設されていたと考えられるが，SI-050によって削平されている。ピットは主柱穴が3基確認された。北東コーナーに当たる1基はSI-050との切り合いにより判然としない。主柱穴は掘り込みはしっかりしているが，深さが一定しない。南側の入口ピットが1基(深21㎝)検出された。壁周溝は切り合い部分以外は全周し，平均的な規模は下端幅10㎝・床面から深さ7㎝である。

1～4は土師器坏である。1は全体の5/6の遺存である。色調は内外面共ににぶい黄橙色～黒色である。器壁が薄く丁寧な整形である。胎土は精緻，スコリアが含まれる。内面はナデ後放射状の暗文が施され，外面はヘラケズリ調整である。2は口縁部から体部の1/3の遺存である。内面は橙色～黒褐色，外面はにぶい褐色である。胎土にはスコリア粒が多く含まれ，ヘラケズリによってかなり目立つ。内面はナデ，外面はヘラケズリ調整である。3は口縁部～体部の1/6の遺存である。色調は内外面共に橙色～にぶい橙色である。胎土には白色微砂粒・スコリアが含まれる。内面はヘラミガキ，外面はヘラケズリ調整である。外面には粘土紐接合痕が明瞭に確認できる。4は口縁部～体部の1/5の遺存である。色調は内外面共ににぶい橙色である。焼成はやや不良で，胎土には白色微砂粒・スコリアが含まれる。内面は摩滅していてはっきりしないがナデ，外面はヘラケズリ調整である。5は口縁の直立する小型坏形の手捏ね土器で，全体の2/3の遺存である。底部厚があり，重量感がある。胎土には白色微砂粒が含まれる。その他はナデ調整である。底面は雑にナデ付けられており筋が付く。6は椀状の土師器坏で，全体の1/2の遺存である。色調は内面がにぶい橙色，外面がにぶい橙色～灰褐色である。焼成は不良で，軟質で器面は溶けるように摩滅している。胎土は比較的精緻で，白色微砂粒が微量含まれる。口縁部と体部との境に粘土紐の接合痕を明瞭に残す。内面は粗いナデ，外面はヘラケズリ調整である。外面のヘラケズリ調整は雑で，凹凸があり，底面も安定しない。7は土師器鉢形土器で，全体の1/5の遺存である。色調は内面が橙色，外面が浅黄橙色～橙色である。胎土にはスコリア粒が多く含まれる。内面はナデ・ミガキ，外面は底面も含めてヘラケズリ調整である。8は須恵器長頸瓶で，肩部の1/3の遺存である。色調は内面が灰白色，外面は自然釉が掛かり，灰オリーブ色である。胎土は緻密で混入物はほとんど含まれないが，部分的に細かな気泡がみられる。硬質である。9は土師器甕で，口縁の1/10の遺存である。色調は内面がにぶい橙色，外面は黒色である。胎土には白色砂粒・スコリアが含まれる。内外面共にヨコナデ調整である。10は土師器甕で，底部～胴部下半の遺存である。底部に丸みをもち，復元実測のため胴部が大きく開くが，もっと立ち


(SI-050)
(SI-046)
SI-047
5E-16
18.5m
SI-047
1 黒褐色土 ローム粒子含まれる。
2 黄褐色土 ソフトローム多量。軟質。
0 (1/80) 4m
0 (1/4) 10cm

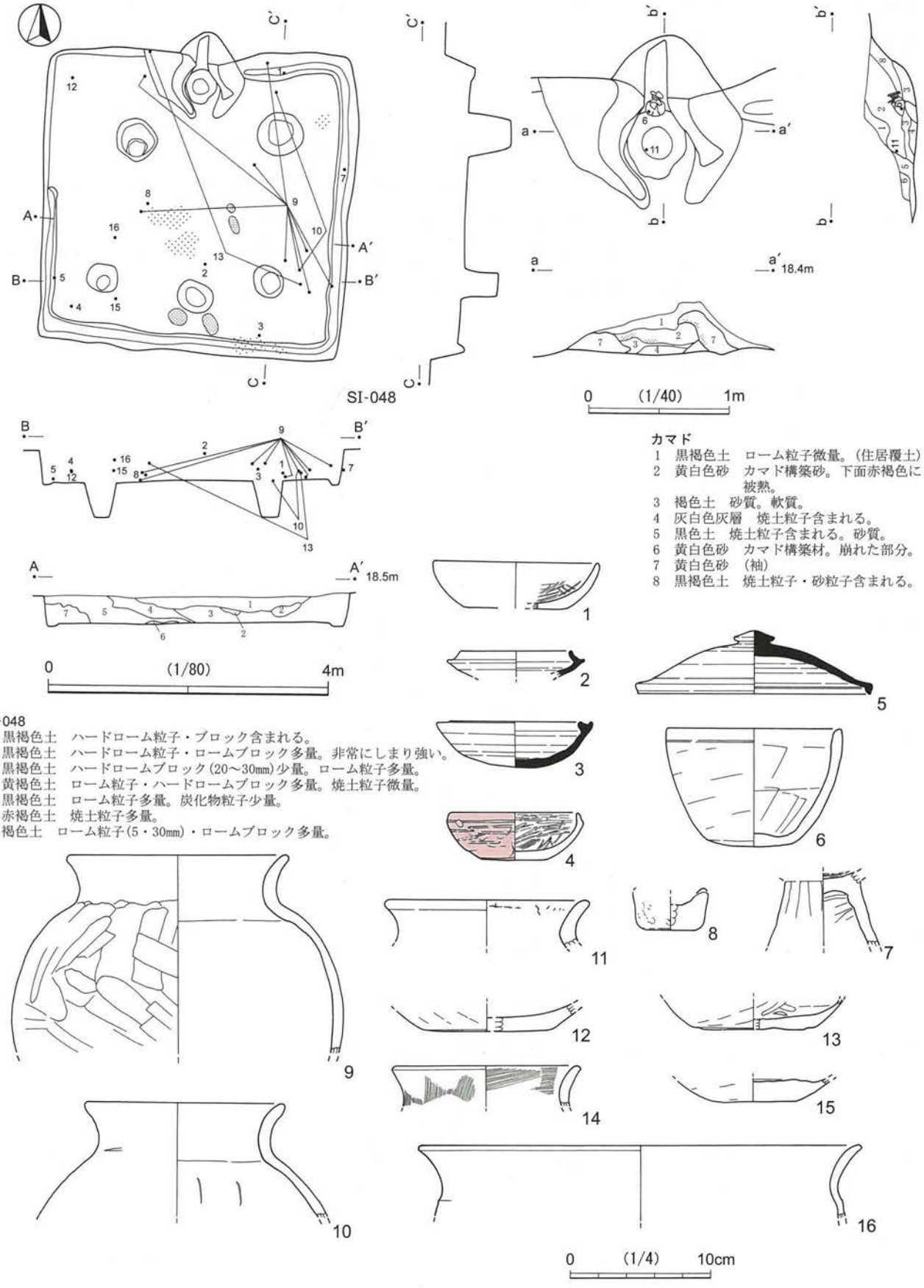
第192図 SI-047

上がる可能性もある。色調は内面がにぶい黄橙色～黒褐色，外面がにぶい橙色～黒褐色である。胎土には白色微砂粒・スコリアが含まれる。底部が規模の割りに器壁が薄い。内面はヘラナデ，外面はヘラケズリ後部分的にミガキ調整である。底面はヘラケズリであるが，使用により摩滅しざらついている。胎土から常総型甕とは異なる。11･12は土師器甑で同一個体の可能性が強い。色調は内外面共ににぶい橙色である。胎土には白色微砂粒・スコリアが含まれる。内面はミガキ，底部付近の内面はヘラケズリ，外面・底部はヘラケズリ調整である。11は口縁部～胴部上半の1/8，12は底部～胴部下半の1/3の遺存である。13・14は土師器甕の口縁破片である。13は口縁部～肩部の1/10の遺存である。色調は内外面共ににぶい赤褐色である。胎土には白色微砂粒が含まれる。内面はヘラナデ，外面はヘラケズリ調整である。14は口縁部～肩部の1/8の遺存である。色調は内面がにぶい黄橙色，外面がにぶい黄橙色～黒色である。胎土には白色微砂粒が含まれる。内面は雑なヘラケズリ，外面もヘラケズリ調整である。頸部屈曲部のナデつけが雑である。

ＳＩ－０４８（第193図，図版112・113・115・149）

4E-96グリッドに位置する。平面形は方形で，規模は主軸長4.06ｍ・幅4.24ｍである。主軸はN-4°-Eである。SI-049・050を切って構築されている。掘り込みは確認面から平均36㎝である。覆土が良好に遺存する。床面直上，壁面近くに焼土・焼土粒子がブロック状にみられる。覆土は人為的に埋められた土であり，自然堆積ではない。カマドは北壁中央に付設される。袖の遺存は比較的良好で，袖内壁が被熱して赤化している。煙道へ立ち上がる部分で，土師器甕底部が支脚としてではなく煙道部をふさぐかのように検出された。ピットは主柱穴が4基で，掘り込みはしっかりしている。入口ピットが1基(深15㎝)検出された。床面には，顕著な硬化面は検出されなかったが，部分的に直上で，焼土や山砂のブロックを検出した。壁周溝は切り合い部分以外では全周し，平均的な規模は下端幅10㎝・床面から深さ8㎝である。

遺物は比較的多く出土した。1・4は土師器坏で，底面は平底にヘラケズリされている。1は全体の1/4の遺存である。色調は内外面共ににぶい黄橙色である。焼成はやや不良で軟質である。胎土には白色微砂粒・スコリア粒が含まれる。口縁内面と外面は溶けたように摩滅している。内面はヘラミガキ，外面はヘラケズリ調整である。4は全体の2/3の遺存である。口縁部がやや内傾する形状である。色調は内面がにぶい橙色，外面がにぶい橙色～赤褐色である。剥がれていて判断が難しいが，外面は赤彩されていたと考えられる。胎土にはスコリアが多く含まれ目立つ。口縁部と内面はヘラミガキ，外面はヘラケズリ後ミガキ調整である。2・3は須恵器坏である。色調は全面灰色，焼成は良好である。胎土は緻密で，白色砂粒が微量含まれる。2は口縁部の1/8，3は完形である。3の底部は回転ヘラケズリで，その後雑になでつけている。口縁部の立ち上がりがわずかである。5は須恵器の坏蓋である。やや扁平化したつまみをもつ。かえりはない。色調は内外面共に灰色である。胎土には白色砂礫が微量含まれる。天井部は回転ヘラケズリ調整である。6は土師器鉢で，完形である。色調は内外面共に赤褐色である。胎土には白色砂粒が多量に含まれる。2次被熱により器面が摩滅し，ざらついている。内面はヘラナデ・ミガキ，外面は底面も含めヘラケズリ調整である。外面には砂質の粘土が部分的に付着する。底面はやや丸みを帯びる。7は土師器高坏の脚部上半部である。色調は内外面共ににぶい橙色である。焼成はやや不良で，やや軟質である。胎土は比較的緻密で，スコリア塊が含まれる。坏部内面はヘラミガキ，脚部内面は雑なナデ，外面はヘラケズリ調整である。8は手捏ね土器で，全体の1/2である。色調は内面が黒色，外面が灰褐色である。胎土には白色微


SI-048
0 (1/40) 1m
0 (1/80) 4m
0 (1/4) 10cm
18.4m
18.5m
カマド
1 黒褐色土 ローム粒子微量。(住居覆土)
2 黄白色砂 カマド構築砂。下面赤褐色に被熱。
3 褐色土 砂質。軟質。
4 灰白色灰層 焼土粒子含まれる。
5 黒色土 焼土粒子含まれる。砂質。
6 黄白色砂 カマド構築材。崩れた部分。
7 黄白色砂 (袖)
8 黒褐色土 焼土粒子・砂粒子含まれる。
SI-048
1 黒褐色土 ハードローム粒子・ブロック含まれる。
2 黒褐色土 ハードローム粒子・ロームブロック多量。非常にしまり強い。
3 黒褐色土 ハードロームブロック(20～30㎜)少量。ローム粒子多量。
4 黄褐色土 ローム粒子・ハードロームブロック多量。焼土粒子微量。
5 黒褐色土 ローム粒子多量。炭化物粒子少量。
6 赤褐色土 焼土粒子多量。
7 褐色土 ローム粒子(5・30㎜)・ロームブロック多量。

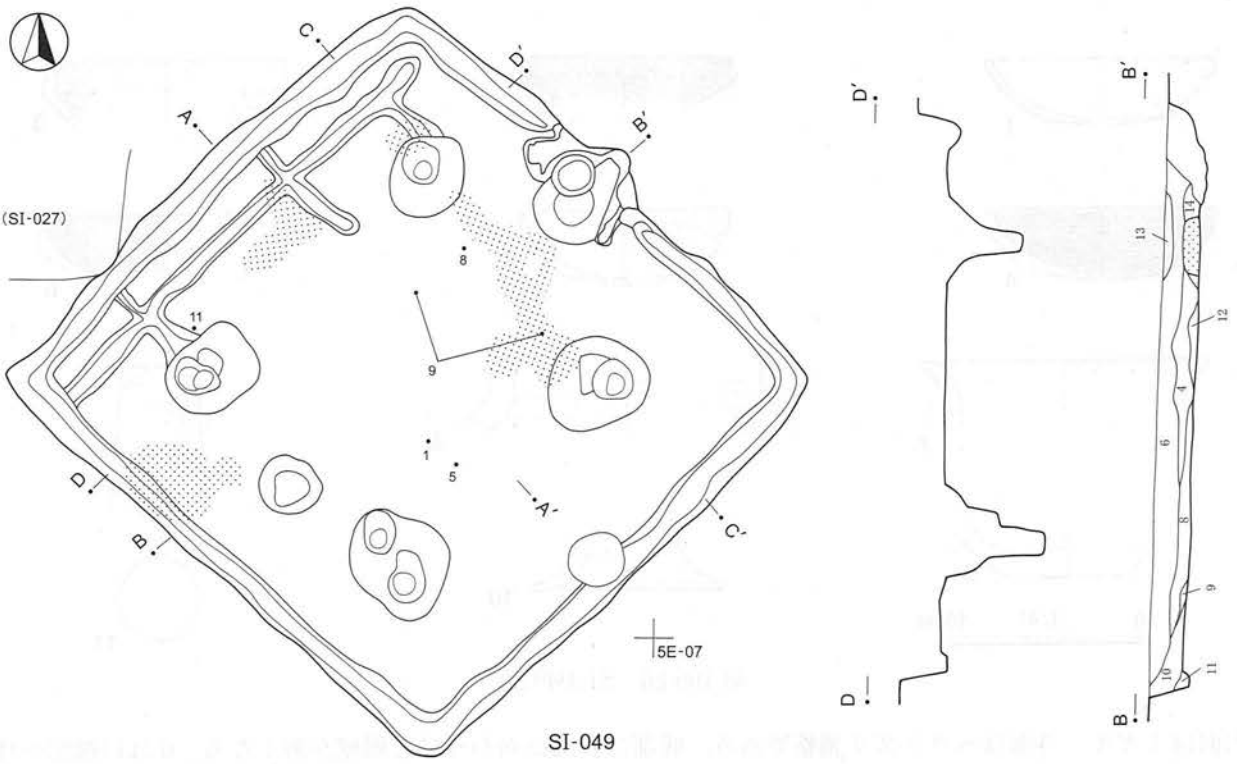
第193図 SI-048

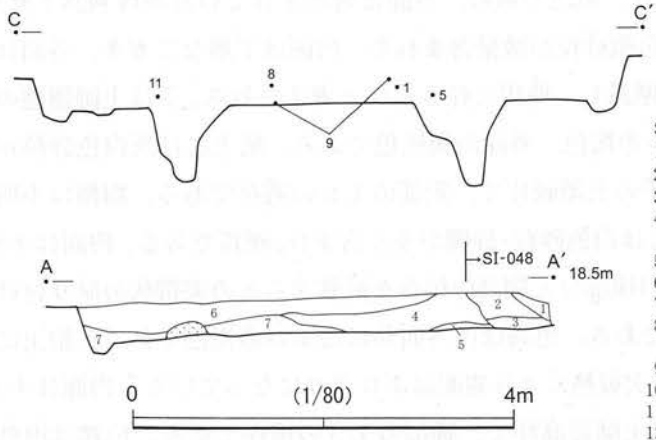
砂粒が含まれる。内外面共にナデ調整である。9～16は土師器甕である。14を除いて基本的に調整は共通し，内面は丁寧なナデ，外面はヘラケズリ調整である。9は口縁部～胴部上半の1/2の遺存である。色調は内面がにぶい赤褐色，外面がにぶい赤褐色～黒色である。胎土には白色砂粒・スコリアが多く含まれる。10は口縁部～肩部の1/5の遺存である。色調は内外面共ににぶい橙色である。焼成は良好であるが，2次被熱により器面が外面共に剥がれてしまっている。胎土には白色・灰白色砂粒が多く含まれる。口縁端部の摩滅が著しい。11は口縁部の1/3の遺存である。色調は内外面共に橙色～黒褐色である。胎土には白色・灰白色砂粒が多く含まれる。12は底部の1/3の遺存である。色調は内面が浅黄橙色，外面が橙色である。胎土には白色微砂粒が含まれる。13は底部の1/2の遺存である。色調は内面がにぶい橙色，外面が褐灰色である。2次被熱により外面の器面も脆く，内面は雑なナデで，平滑ではない。14は口縁部の1/3の遺存である。胎土・調整共に異質である。古墳時代前期の甕口縁部破片であろう。色調は内外面共に灰褐色である。胎土には白色砂礫が多く含まれ，目立つ。内外面ともハケ目調整である。15は底部の1/2の遺存である。2次被熱により，内部まで黒色化している。色調は内面は黒色，外面はにぶい赤褐色である。胎土には灰白色砂粒・雲母粒が多量に含まれる。底部と胴部の境には稜がなく，丸みを帯びる。16は口縁部破片で，色調は内面が浅黄橙色，外面が灰褐色である。胎土には白色微砂粒・スコリア塊が多く含まれる。口縁部は丁寧なヨコナデ調整で，外面胴部との境に明瞭な稜が作り出される。

ＳＩ－０４９（第194・195図，図版112～114・150）

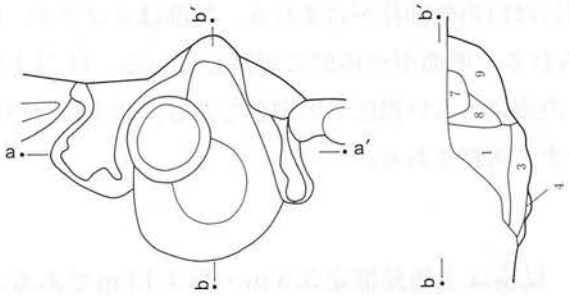
4E-96グリッドに位置する。平面形は方形で，規模は主軸長5.75ｍ・幅6.04ｍである。主軸はN-46°-Eである。掘り込みは確認面から平均38㎝である。SI-048に切られ，SI-050を切って構築されている。また，北西部ではSI-027と接している。カマドは北東壁中央に付設される。カマド中央やや西側は別遺構の新しいピットによって壊されている。カマド奥壁は比較的急に立ち上がる。ピットは主柱穴が4基で，掘り込みはしっかりしている。入口部に当たる位置には深さ15㎝のピットが検出された。床面には顕著な硬化面は確認されなかったが，直上で部分的に焼土ブロックを検出した。また，北西部分には間仕切り溝を検出した。壁周溝は全周し，平均的な規模は下端幅13㎝・床面から深さ11㎝である。

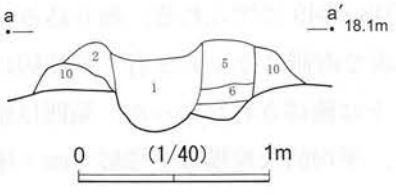
遺物は比較的多く出土した。1～6は土師器坏である。1は全体の1/4の遺存である。色調は内外面共ににぶい黄橙色である。焼成は不良で，軟質である。胎土は精緻で，白色微砂粒が微量含まれる。器面は溶けるように摩滅している。内面はナデ，外面はヘラケズリ調整である。底部付近に段をヘラケズリによって作り出している。2は口縁部～体部の1/8の遺存である。内外面共に黒色処理(漆？)されていたと考えられる。色調は内面が灰黄褐色，外面はにぶい黄橙色である。胎土にはスコリアが含まれる。内面は口縁部も含めてヘラミガキ，外面は口縁部はヘラミガキ，体部はヘラケズリ後ミガキ調整である。3は口縁部～体部の1/7の遺存である。色調は内外面共に橙色～褐灰色である。胎土には白色微砂粒が含まれ，硬質である。内面は口縁部も含めヘラミガキ，外面体部外面はヘラケズリ調整である。4は全体の1/2の遺存である。底面は平底を意識してヘラケズリにより作り出している。内外面とも黒色処理(漆？)されており，外面は器面が摩滅し剥がれている。色調は内面は黄灰色，外面はにぶい黄橙色である。焼成は不良で，軟質である。胎土は比較的精緻で，砂粒をほとんど含まれない。内面はヘラミガキ，外面はヘラケズリ後ミガキ調整である。5は全体の1/3の遺存である。底部はやや丸みを帯びるが，体部とは意識的に分けたヘラケズリ調整を行っている。色調は内外面共に明赤褐色～黒褐色である。胎土には白色砂粒が含まれる。





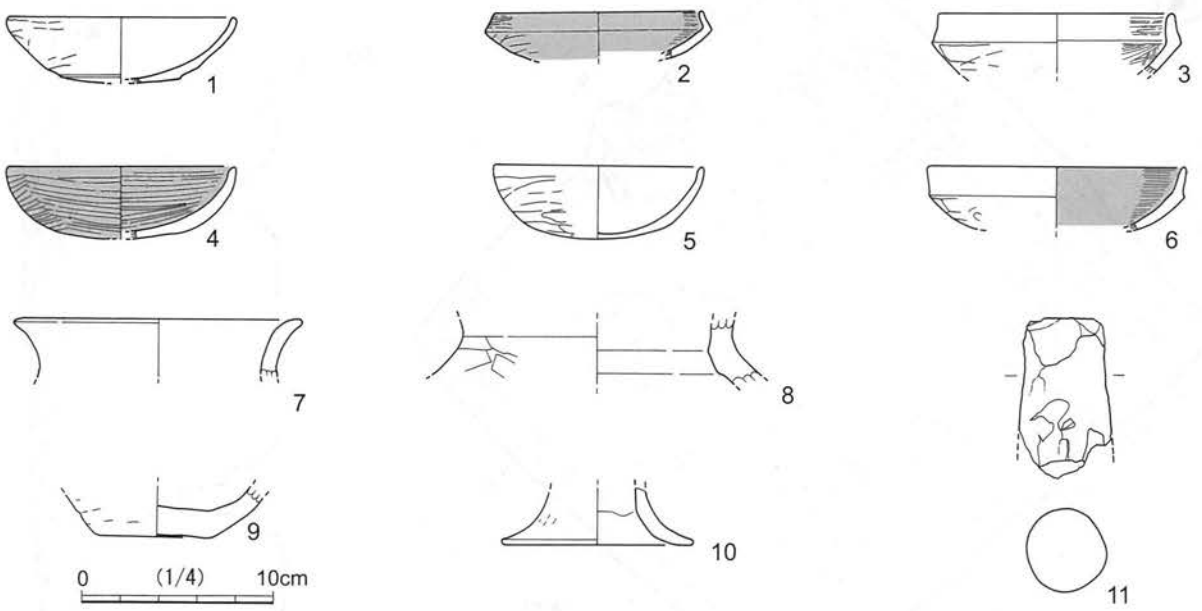
SI-049
1 黄白色砂 カマド構築材。(SI-048)
2 黄白色砂 カマド構築材。(SI-048)
3 灰褐色砂 カマド構築材。(SI-048)
4 黒褐色土 ロームブロック・灰白色砂ブロック・赤褐色焼土ブロック含まれる。
5 黄褐色土 ロームブロック(床面直上に敷き詰めたように堆積)
6 黒褐色土 ローム粒子・炭化物・灰白色砂粒子少量。
7 黒褐色土 ローム粒子含まれる。しまりあり。
8 黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック含まれる。しまりあり。
9 赤褐色土 焼土ブロック。
10 黒色土 ローム粒子・ 焼土粒子少量。しまりあり。
11 黄褐色土 ローム粒子多量。
12 灰白色砂 山砂ブロック(カマド構築材)。
13 灰白色砂 山砂主体(カマド構築材)。
14 黒褐色土 灰白色砂・焼土粒子多量。





カマド
1 黒褐色砂 黄灰色砂ブロック・赤褐色砂ブロック多量。
2 黒褐色砂 砂含まれる。
3 薄黄灰色砂 ローム含まない純粋な砂層。
4 薄赤褐色土 カマド被熱面。硬質。
5 黒褐色砂 砂・赤褐色砂ブロック少量。
6 黒色砂 炭化物・焼土粒子含まれる。ボロボロして崩れやすい。
7 黄灰色砂ブロック
8 黒褐色土 ハードロームブロック・砂・ローム粒子含まれる。
9 黒褐色土 砂ブロック多量。
10 灰褐色砂 (袖)

第194図 SI-049(1)



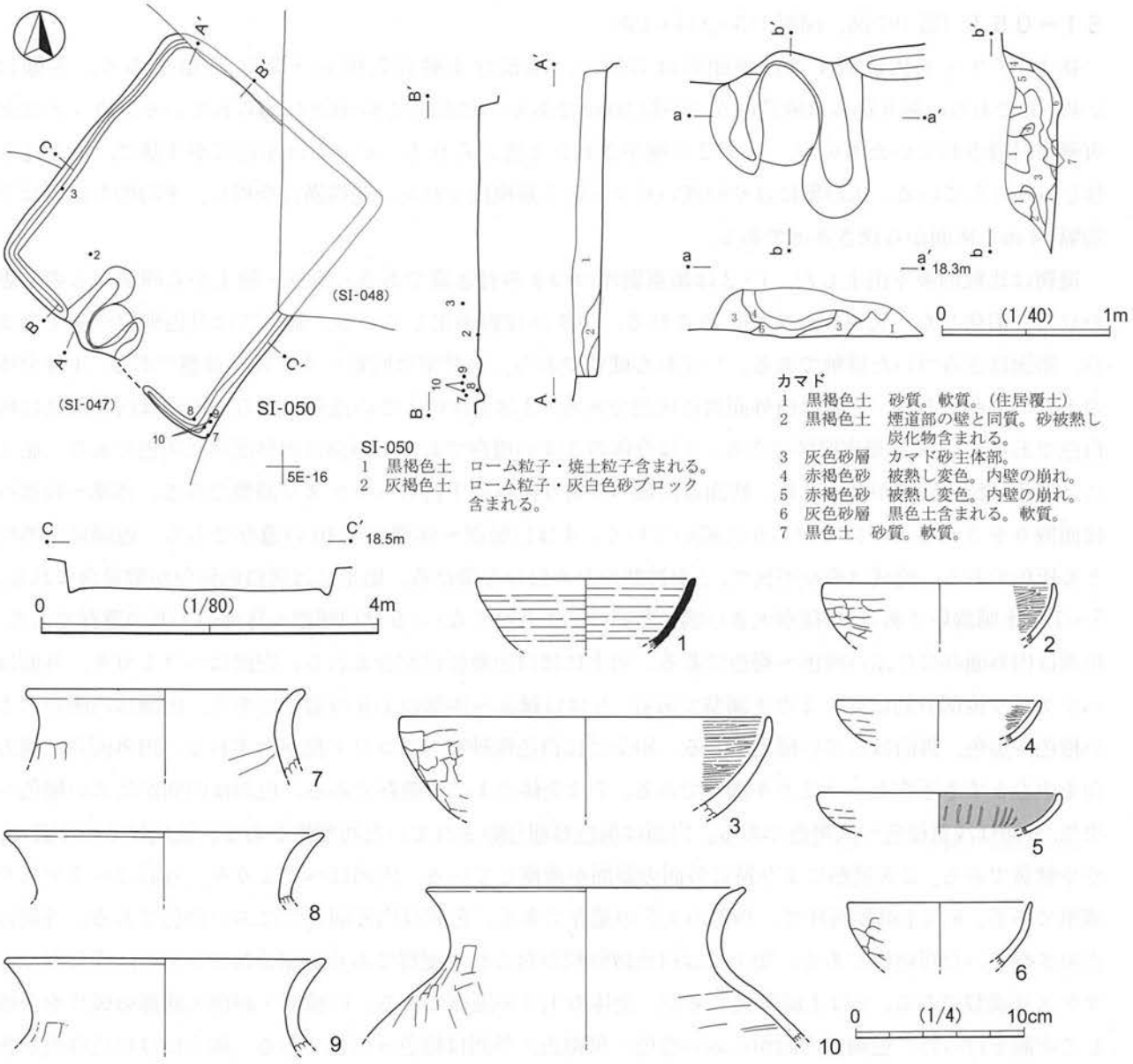
第195図　SI-049(2)

内面はミガキ，外面はヘラケズリ調整である。底部は中央に向かうほど器壁が薄くなる。6は口縁部～体部の1/6の遺存である。内面は黒色処理(炭)され，黒色である。外面は処理されていたかは判然とせず，黒褐色である。焼成はやや不良で，胎土には白色微砂粒が微量含まれる。内面は丁寧なミガキ，外面はヘラケズリ調整である。口縁端部と内面は顕著に摩滅し，使用に伴うものと考えられる。7は土師器甕の口縁部の1/10の遺存である。色調は内面がにぶい赤褐色，外面が褐灰色である。胎土には灰白色砂粒が含まれる。口縁部はヨコナデ調整である。8は厚手の土器破片で，頸部の1/6の遺存である。器種は不明である。色調は内外面共に明赤褐色である。胎土には白色砂粒・砂礫が多く含まれ，硬質である。内面はナデ，外面はナデ・ヘラケズリ調整である。内面には口縁部分と胴部の接合を補強するため突帯状の貼り付けがみられる。9は土師器甕で，底部の2/3の遺存である。色調は内外面共ににぶい赤褐色である。胎土には白色砂粒・砂礫が多く，スコリアも含まれる。2次被熱により器面はボロボロになっている。内面はナデ，外面は底面も含めヘラケズリ調整である。10は土師器高坏で，脚部の1/3の遺存である。色調は内外面共ににぶい橙色である。焼成はやや不良で，胎土には白色微砂粒が含まれる。裾部はヨコナデ，内面はヘラケズリ，外面はヘラケズリ後ナデ調整と考えられる。器面が全体的に剥落している。11は土製支脚である。直径は4.0cmで，上部のみの遺存である。色調はにぶい褐色～黒褐色である。胎土には白色砂粒が多く含まれる。表面は凹凸が少なく比較的丁寧なナデ調整である。

ＳＩ－０５０（第196図，図版113）

5E-05グリッドに位置する。平面形は方形で，規模は主軸長推定3.5ｍ・幅3.13ｍである。主軸はN-142°-Wである。南側でSI-047を切って構築し，東側でSI-048・049に切られる。掘り込みは確認面から平均30㎝である。カマドは南西壁中央に付設され，この集落で南側にカマドを有する住居はこの1軒のみで特異である。カマド奥壁は比較的急に立ち上がる。ピットは確認されなかった。範囲は確定できないが，住居中央部は比較的硬化していた。壁周溝はほぼ全周し，平均的な規模は下端幅6㎝・床面から深さ5㎝である。

1は須恵器坏で，口縁部～体部の1/10の遺存である。色調は内外面共に灰色である。硬質である。胎土には白色微砂粒が含まれ，全体に砂っぽく，ざらざらしている。2～6は土師器坏である。2は口縁部～体部の1/5の遺存である。色調は内外面共ににぶい黄橙色である。口縁部周辺は内外面共にやや暗く，黒色処理した可能性がある。胎土には白色微砂粒・スコリアが含まれる。内面は丁寧なヘラミガキ，外面はヘラケズリ調整である。3は口縁部～体部の1/5の遺存である。色調は内面が橙色，外面が橙色～灰褐色である。焼成はやや不良で，器面がやや溶けたように摩滅している。胎土には白色砂粒・スコリアが含まれる。内面は丁寧なヘラミガキ，外面はヘラケズリ調整である。器面には気泡が多く，外面には部分的に粘土紐の接合痕が確認できる。4は口縁部の1/10の遺存である。色調は内外面共ににぶい黄橙色である。胎土には白色微砂粒が含まれる。口縁外面は横方向のヘラミガキで，内面もヘラミガキ，外面はヘラケズリ調整である。5は口縁部の1/6の遺存である。内面は黒色処理(漆？)され，黒色を呈し，外面はにぶい



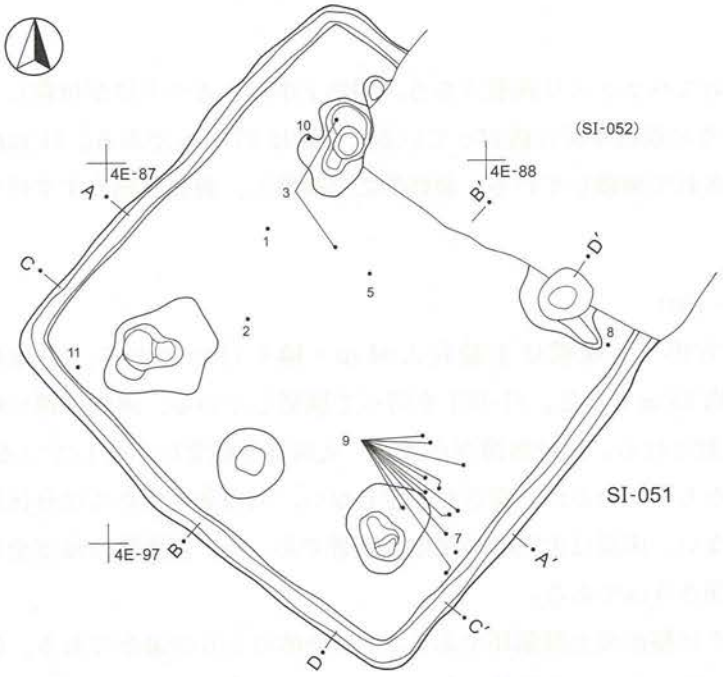
第196図 SI-050

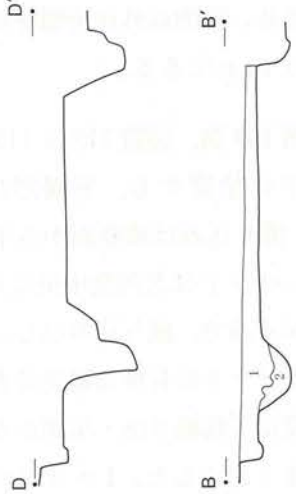
橙色である。焼成はやや不良で，軟質である。特に外面の器面が溶けるように摩滅している。胎土は比較的精緻で，砂粒はほとんど含まれないが，スコリアが多く目立つ。内面はミガキで，その後暗文を放射状に施している。外面ははっきりしないがヘラケズリ調整と考えられる。6は口縁部～体部の1/6の遺存である。色調は内面が橙色～灰褐色，外面が橙色である。胎土にはスコリアが粒子状に多く含まれている。内面はミガキ，外面はヘラケズリ調整である。7～10は土師器甕の口縁破片である。7は口縁部の1/5の遺存である。色調は内外面共に明赤褐色～黒色である。胎土には白色砂粒・スコリア・灰白色砂礫が多く含まれる。頸部は内外面共にヘラケズリ調整である。8・10は同一個体の可能性が強い。胎土には白色砂粒・スコリアが含まれ，硬質である。内面はヘラナデ，外面はヘラケズリ調整である。8は口縁部の1/5，10は口縁部～肩部の1/10の遺存である。色調は8の内外面がにぶい橙色である。10は内面が浅黄色～黒色，外面が黒色である。9は口縁部の1/5の遺存である。色調は内外面共ににぶい黄橙色で，外面に黒班がある。

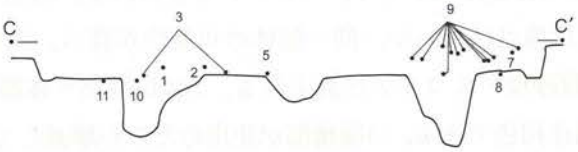
ＳＩ－０５１（第197図，図版113・114・150）

4E-87グリッドに位置する。平面形は方形で，規模は主軸長5.08ｍ・幅5.16ｍである。主軸はN-40°-Eである。掘り込みは確認面から平均20㎝である。北東側はSI-052に切られている。カマドは北東壁に付設されていたものが，SI-052に削平されたと考えられる。ピットは主柱穴が4基で，掘り込みはしっかりしている。入口部にはやや浅いピットが1基検出された。壁周溝は全周し，平均的な規模は下端幅14㎝・床面から深さ8㎝である。

遺物は比較的多く出土した。1・2は須恵器坏のつまみ付き蓋である。形態・胎土から同窯のものと思われる。退化したかえりがわずかにみられる。つまみは扁平化している。胎土には白色砂粒が多く含まれ，器面はざらついた感触である。いずれも硬質である。天井部は回転ヘラケズリ調整である。1は全体の1/8の遺存である。色調は内外面共に灰色である。2は全体の1/2の遺存である。色調は内外面共に灰白色である。3・4は須恵器坏である。3は全体の3/4の遺存である。色調は内外面共に灰色である。胎土には白色砂粒・砂礫が含まれる。底面は回転ヘラ切り後雑に手持ちヘラケズリ調整である。体部～底部へは面取りをされるようになだらかに続いていく。4は口縁部～体部の1/10の遺存である。色調は内外面とも灰色である。焼成はやや不良で，2次被熱のため白みを帯びる。胎土には灰白色砂粒が微量含まれる。5～7は土師器坏である。口径が大きい割に器高はあまり高くない。5は口縁部～体部の1/6の遺存である。色調は内外面共ににぶい橙色～褐色である。胎土には白色微砂粒が含まれる。内面はヘラミガキ，外面はヘラケズリ後部分的にヘラミガキ調整である。6は口縁部～体部の1/6の遺存である。色調は内面がにぶい橙色～黒色，外面はにぶい橙色である。胎土には白色微砂粒・スコリア粒が含まれる。内外面共に横方向を中心とする丁寧なヘラミガキ調整である。7は全体の1/2の遺存である。色調は内面がにぶい橙色～黒色，外面は浅黄橙色～灰褐色である。内面は黒色処理(漆)されていた可能性がある。焼成はやや不良で，やや軟質である。2次被熱により特に外面の器面が剥落している。内面はヘラミガキ，外面はヘラケズリ調整である。8は土師器高坏で，脚部の1/5の遺存である。色調は内外面共ににぶい橙色である。外面は赤彩されていた可能性がある。胎土には白色微砂粒が含まれ，硬質である。裾部はヨコナデ，内外面はヘラケズリ調整である。9は土師器甕である。全体の1/3の遺存である。口縁部・胴部・底部の破片を合成して実測を行った。色調は内面がにぶい橙色～黒褐色，外面は橙色～黒色である。胎土には白色砂粒が含

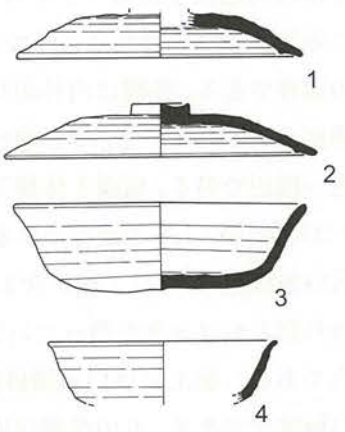


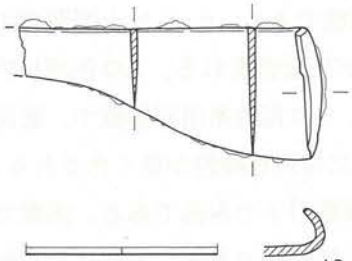


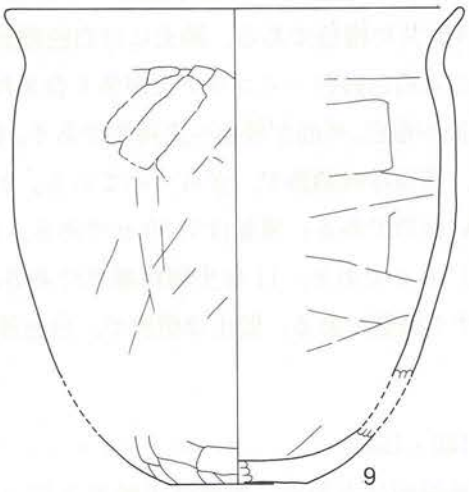


0 (1/80) 4m

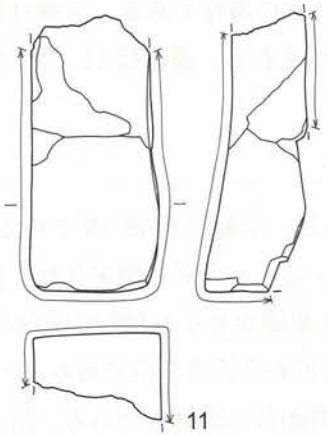
SI-051
1 黒色土　焼土粒子・炭化物ブロック多量。
2 黒褐色土　ローム粒子多量。しまりなし。
3 黄褐色土　ハードロームブロックしまりあり。
4 黒褐色土　ローム粒子含まれる。しまり弱い。
5 黒褐色土　ローム粒子含まれる。軟質。







0 (1/4) 10cm



第197図　SI-051

まれる。内面はヘラナデ，外面は底面も含めてヘラケズリ調整である。胴部下半にはカマド砂が付着している。10は鉄製鎌である。柄に装着するように端部が折れ曲がっている。重量は27.3ｇである。11は凝灰岩製の砥石である。破面以外は全面使用されて摩滅している。最終的には被熱し，表面は黒くすすけている。重量は236.13ｇである。

ＳＩ－０５２（第198図，図版113～115・150）

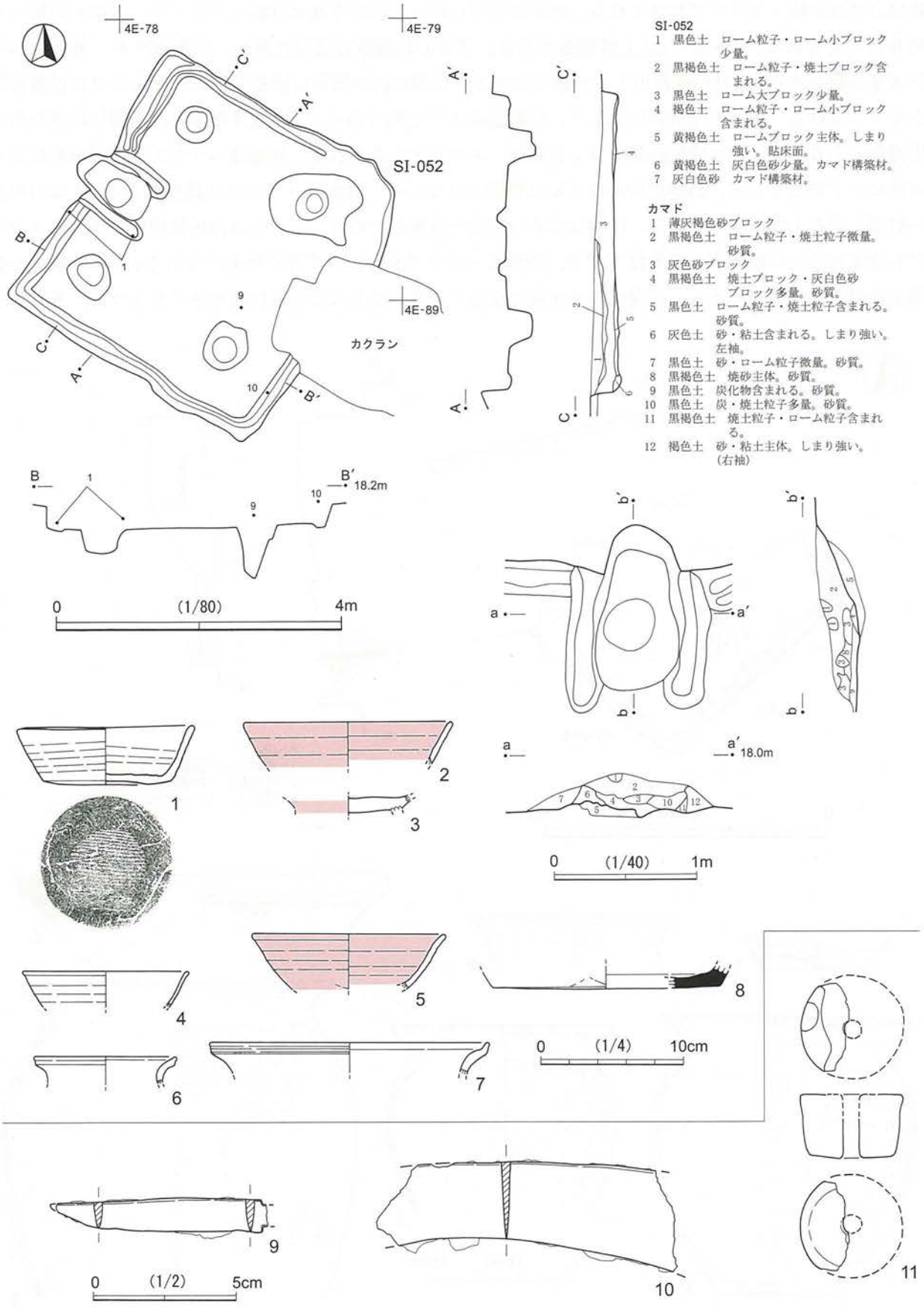
4E-78グリッドに位置する。平面形は方形で，規模は主軸長3.84ｍ・幅4.11ｍである。主軸はN-57°-Wである。掘り込みは確認面から平均28㎝である。SI-051を切って構築している。東側は深い攪乱を受けている。カマドは北西壁中央に付設される。比較的遺存がよく，火焼部も顕著に赤化している。ピットは主柱穴が4基で，掘り込みはしっかりしているが，深さが一定しない。入口部に当たる部分は攪乱により壊され，ピットの有無は確認できない。床面は中央部の硬化が顕著であった。壁周溝はほぼ全周し，平均的な規模は下端幅9㎝・床面から深さ5㎝である。

遺物は比較的多く出土した。1～5はロクロ整形の土師器坏である。1は全体の5/6の遺存である。色調は内外面共ににぶい橙色～黒褐色である。胎土には白色砂粒が多く，スコリアも含まれる。底面中央はくぼみ周辺は手持ちヘラケズリ調整である。2・3は接点はないが，同一個体の可能性が高い。内外面共に赤彩された高台付きの坏である。胎土には白色微砂粒・スコリアが含まれる。2は口縁部～体部の1/8の遺存である。色調は内外面共ににぶい黄橙色～明赤褐色である。口縁端部が使用のためか摩滅しており，赤彩が剥がれている。3は底部の1/4の遺存である。高台が剥がれて欠損する。色調は内外面共に浅黄橙色～橙色である。底面と体部下端は回転ヘラケズリ調整と考えられる。底部は中央ほど器厚が増していく。4は口縁部の1/8の遺存である。色調は内面が橙色，外面がにぶい橙色である。器壁が薄い。胎土には白色・灰白色砂粒・スコリア粒が含まれる。口縁端部がわずかに外反する。5は口縁部～体部の1/3の遺存である。内外面ともはっきり残っていないが赤彩されていたと考えられる。色調は内外面共ににぶい橙色～明赤褐色である。胎土には白色微砂粒が多く含まれる。体部下端はヘラケズリ調整である。6・7は土師器甕の口縁破片である。6の色調は内外面共に橙色である。胎土には白色微砂粒が少量含まれる。7の色調は内外面共に明赤褐色である。胎土には白色砂粒・スコリア粒が多く含まれる。8は褐色系須恵器甕で，底部の1/10の遺存である。色調は内面が橙色，外面が橙色～灰褐色である。胎土には白色砂粒が多く含まれる。内面はナデ，外面はヘラケズリ，底面は無調整で，ざらついている。9は鉄製刀子の刃部である。両関である。茎部断面は刃側がやや薄い台形である。重量は7.59ｇである。10は鉄製鎌である。刃部はやや緩やかに曲がっている。重量は39.18ｇである。11は土製紡錘車である。約1/2の遺存である。色調は橙色～黒色である。表面は丁寧なナデ調整である。胎土は緻密で，白色砂粒が含まれる。重量は11．2ｇである。

ＳＩ－０５４（第199図，図版150・151）

4E-66グリッドに位置する。平面形は方形で，規模は主軸長3.52ｍである。主軸はN-48°-Wである。掘り込みは確認面から平均30㎝である。北側半分をSD-039により切られている。カマドは削平され，付設された位置は不明である。主柱穴は遺存部では確認できない。壁周溝に小規模なピット(深20㎝)が1基検出されたのみである。壁周溝は全周し，平均的な規模は下端幅14㎝・床面から深さ6㎝である。

1はロクロ整形の土師器坏で，底部～体部の1/3の遺存である。色調は内外面共に黒褐色である。胎土

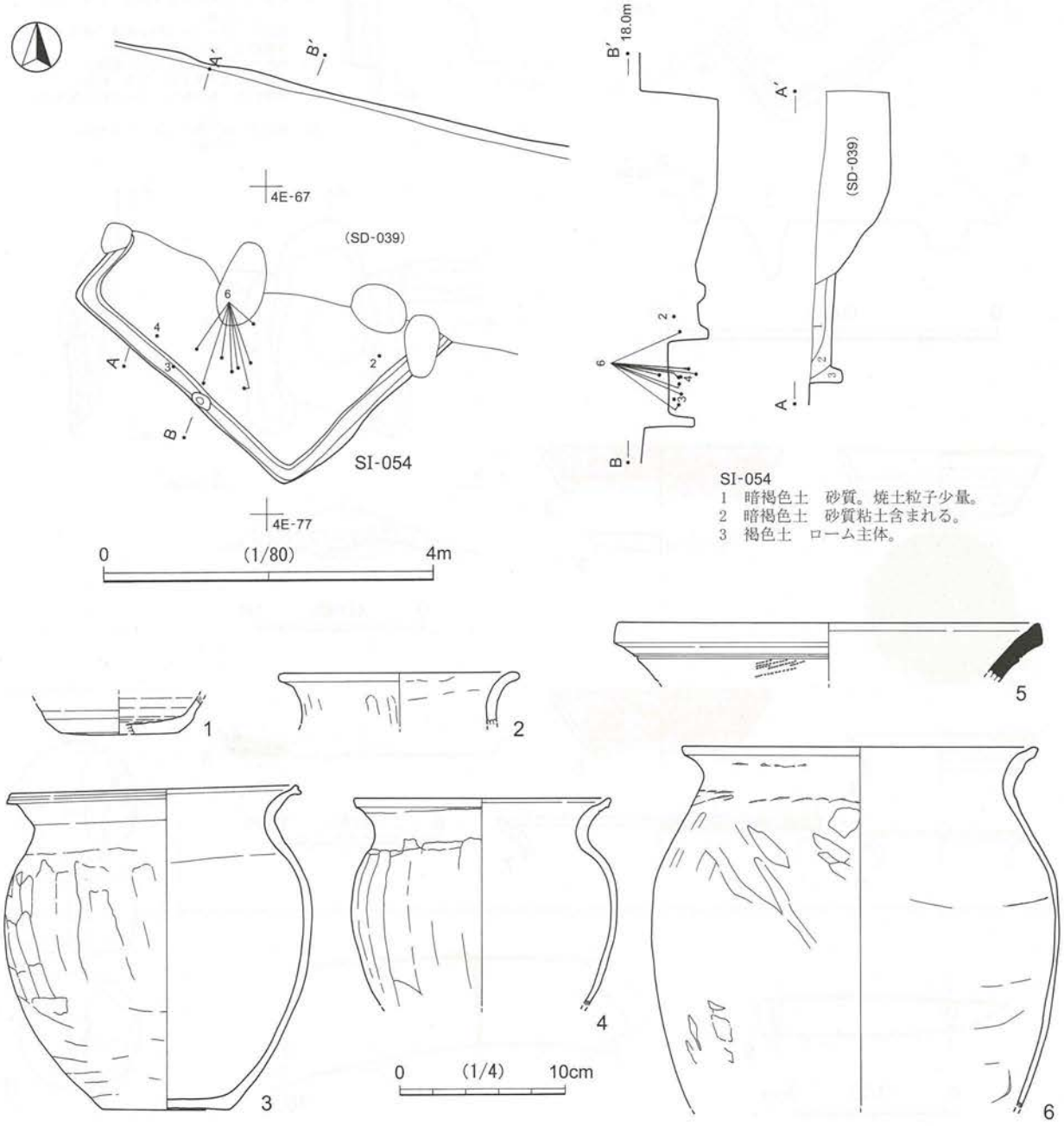


SI-052
1 黒色土 ローム粒子・ローム小ブロック少量。
2 黒褐色土 ローム粒子・焼土ブロック含まれる。
3 黒色土 ローム大ブロック少量。
4 褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック含まれる。
5 黄褐色土 ロームブロック主体。しまり強い。貼床面。
6 黄褐色土 灰白色砂少量。カマド構築材。
7 灰白色砂 カマド構築材。

カマド
1 薄灰褐色砂ブロック
2 黒褐色土 ローム粒子・焼土粒子微量。砂質。
3 灰色砂ブロック
4 黒褐色土 焼土ブロック・灰白色砂ブロック多量。砂質。
5 黒色土 ローム粒子・焼土粒子含まれる。砂質。
6 灰色土 砂・粘土含まれる。しまり強い。左袖。
7 黒色土 砂・ローム粒子微量。砂質。
8 黒褐色土 焼砂主体。砂質。
9 黒色土 炭化物含まれる。砂質。
10 黒色土 炭・焼土粒子多量。砂質。
11 黒褐色土 焼土粒子・ローム粒子含まれる。
12 褐色土 砂・粘土主体。しまり強い。(右袖)

第198図 SI-052

には白色微砂粒・スコリアが含まれる。底部の器厚が厚い。体部下端は回転ヘラケズリ，底部も回転ヘラ切りと考えられる。2～4・6は土師器甕である。基本的に調整方法は共通し，内面はナデ，外面はヘラケズリ調整である。2は口縁部の1/3の遺存である。色調は内外面共に橙色である。胎土には白色微砂粒が多く含まれる。歪みが全体的に著しく，口縁部のナデも雑である。3はほぼ完形で，色調は内外面共に黒褐色である。胎土には白色砂粒が多く含まれ，スコリアも含まれる。外面はヘラケズリ後部分的にミガキ状にナデ消している。口縁部端部は丁寧に整形されている。底面はヘラケズリ調整である。4は口縁部～胴部上半の1/2の遺存である。色調はにぶい橙色～黒褐色である。胎土には白色微砂粒が多く，スコリアも含まれる。口縁端部の整形は丁寧で，器壁もヘラケズリによって薄く仕上げている。6は口縁部～胴部上半の2/3の遺存である。色調は内外面共に橙色である。胎土には白色砂粒が多く含まれる。外面はヘ



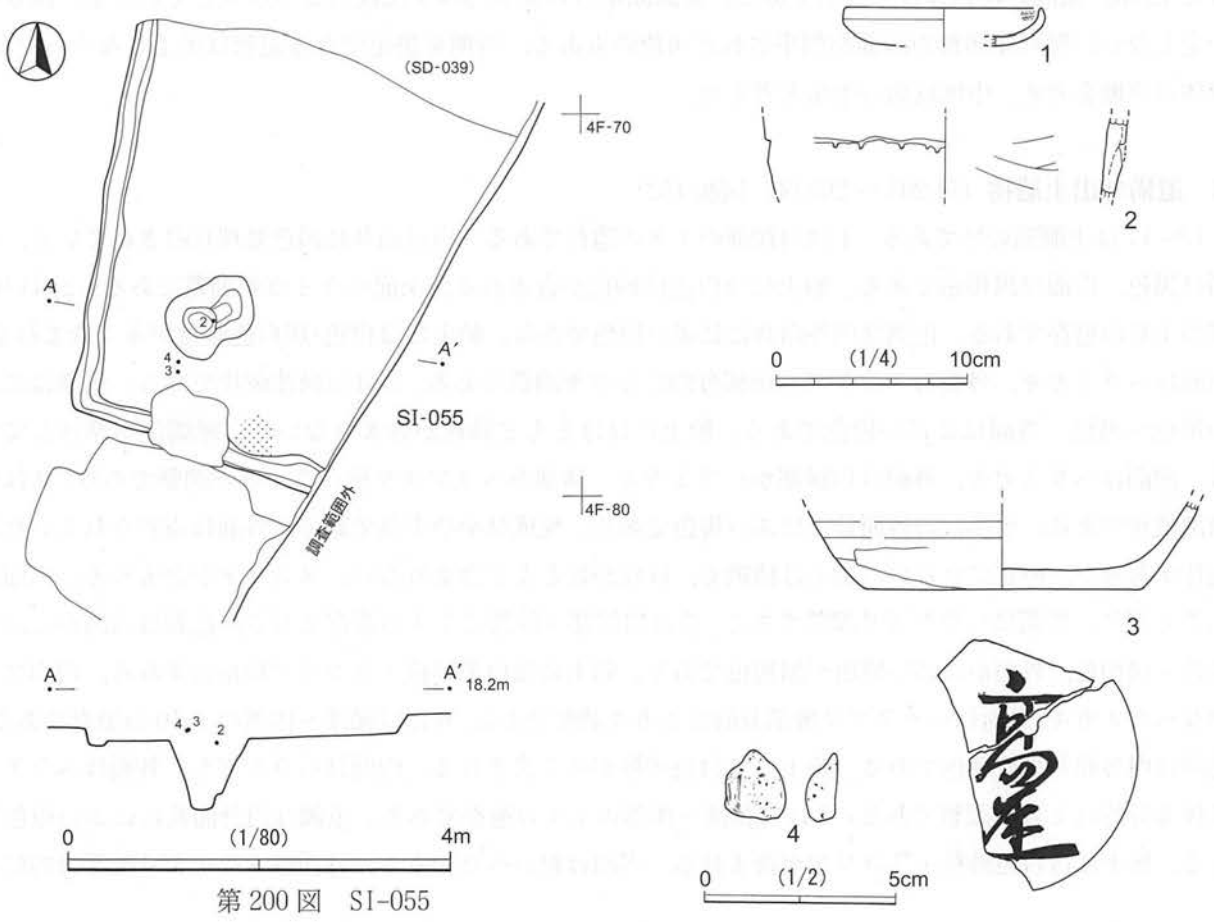
第199図 SI-054

ラケズリ後全面ではないがミガキ状にナデが行われている。5は須恵器大型甕の口縁破片である。色調は内外面共に灰色である。口縁部直下には櫛歯による刺突が斜位に施される。硬質である。胎土は精緻で，白色微砂粒がわずかに含まれるのみである。口縁端部から内面の自然釉が付着する。

ＳＩ－０５５（第200図，図版114・151）

4E-79グリッドに位置する。平面形は方形であるが，北側でSD-039，南側で攪乱を受けて，規模は不明である。主軸はN-11°-Eである。掘り込みは確認面から平均18㎝である。カマドはSD-039により削平されたと考えられる。ピットは南西コーナーに当たる主柱穴が1基検出された。掘り込みはしっかりしている。壁周溝は切り合い部分以外では全周し，平均的な規模は下端幅13㎝・床面から深さ6㎝である。

1は土師器坏で，口縁部～体部の1/10の遺存である。色調は内外面共ににぶい橙色である。調整はやや不良で，胎土には白色微砂粒が微量含まれる。内面はヘラミガキ，外面は器面が溶けるように摩滅して判然としないが，ヘラケズリ調整と考えられる。2は土師器甕の胴部破片であるが，器面が剥離していて外形は判然としない。色調は内面がにぶい赤褐色～黒褐色である。外面は橙色である。焼成はやや不良で，胎土には白色砂粒が多く，その他砂礫・スコリアが含まれる。内面はナデ，外面はヘラケズリ調整である。粘土紐の上側が部分的に剥離し，等間隔に刻みを入れて接合している様子が確認できる。3はロクロ整形の土師器坏で，底面に墨書が施されている。底部～体部の1/3の遺存である。色調は内外面共に淡黄色である。胎土には白色砂粒が多く，スコリアも含まれる。体部下端と底面は手持ちヘラケズリ調整で，底面は一方向である。墨書は「高屋」と考えられる。4は軽石である。破片のため本来の形状は不明である。重量は0.42ｇである。



第200図　SI-055

2　掘立柱建物跡

ＳＢ－００１（第201図，図版116）

5E-04グリッド周辺に位置する。SI-026・046・047と近接する。掘立柱建物跡としたが，規格的に柱穴を組み合わせることはできず，５×６ｍの範囲にピットの集中する地点を示す。住居跡との重複により確認されなかったピットも存在すると考えられる。それぞれのピットは確認面からの掘り込みがまばらで，一定しない。時期を決定できる遺物は出土しなかったが，全体の立地を考え，中世以前の所産と考えた。

ＳＢ－００２（第201図，図版116）

4E-76グリッド周辺に位置する。SI-027・049・051と近接する。掘立柱建物跡としたが，規格的に柱穴を組み合わせることはできず，４×９ｍの範囲にピットの集中する地点を示す。住居跡との重複により確認されなかったピットも存在すると考えられる。それぞれのピットは確認面からの掘り込みがまばらで，一定しない。

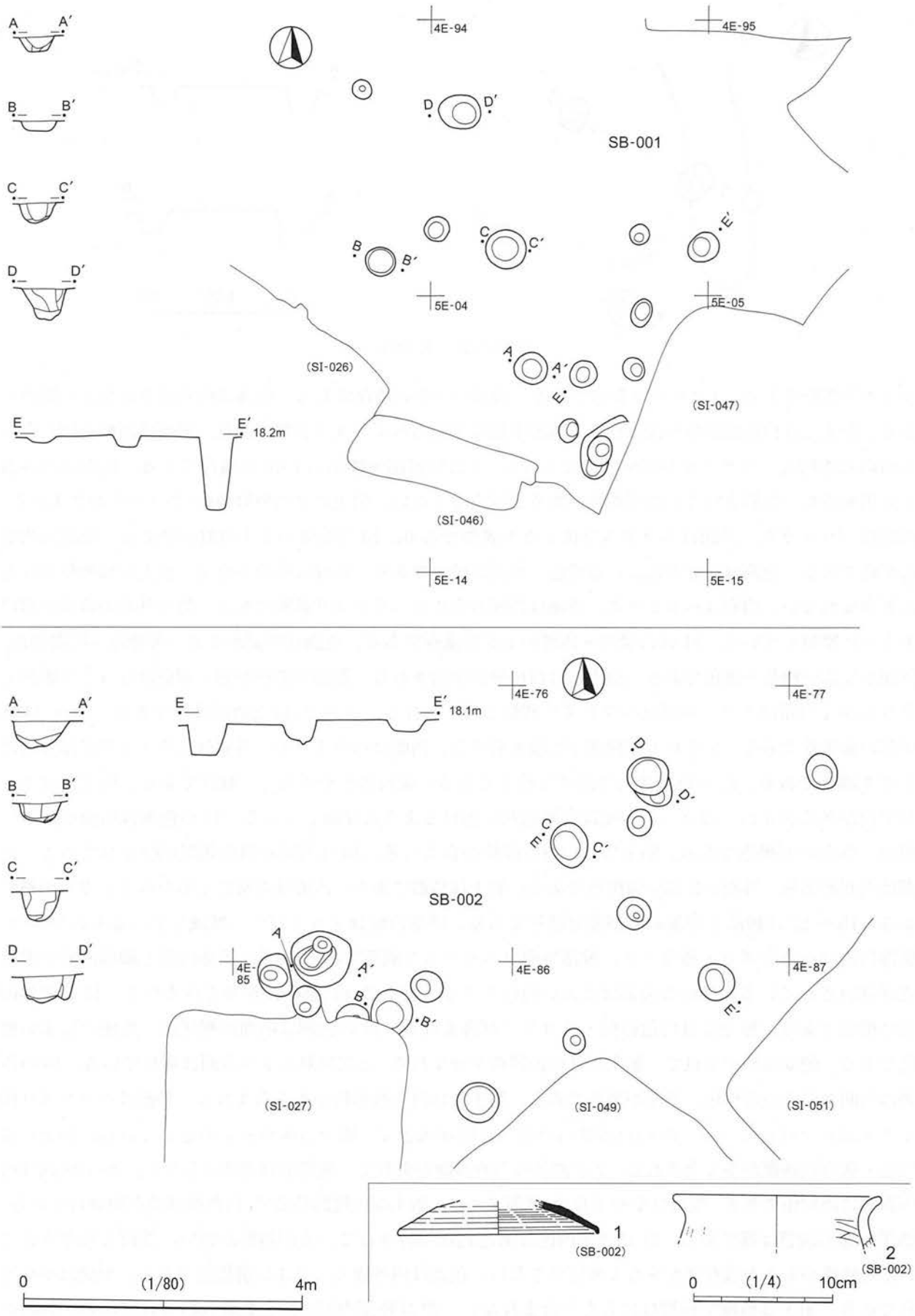
1は須恵器の坏蓋である。口縁部～体部の1/6の遺存である。色調は内外面共に灰白色である。硬質である。胎土は精緻で，やや砂っぽい。鉄分の吹き出しがみられる。表面には全体的に自然釉が付着する。かえりは消失している。2は土師器甕で，口縁部の1/10の遺存である。色調は内面が明赤褐色～黒褐色，外面は赤褐色である。2次被熱により外面器面は摩滅気味である。内外面共にヘラケズリ調整である。

ＳＢ－００５（第202図，図版118・119）

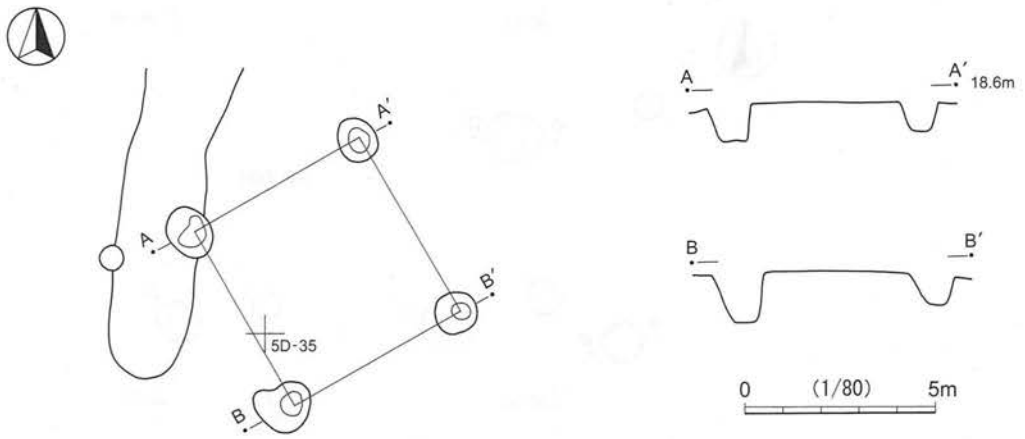
5D-25グリッド周辺に位置する。規模は桁行1間×梁間1間で，主軸はN-°29-Wである。桁行の柱列長は2.12ｍ，梁間の柱列長は2.0ｍである。確認面からの掘り込みが比較的しっかりしているが，深さは一定しない。竪穴住居跡の床面が削平された可能性もある。時期を決定できる遺物は出土しなかったが，全体の立地を考え，中世以前の所産と考えた。

3　遺構外出土遺物（第203～205図，図版152）

1～11は土師器の坏である。1は口縁部の1/8の遺存である。内外面共に黒色処理(炭)されている，外面は黒色，内面は黒褐色である。胎土には白色微砂粒が含まれる。全面ヘラミガキ調整である。2は口縁部の1/6の遺存である。色調は内外面共ににぶい橙色である。胎土には白色･灰白色砂粒が多く含まれる。内面はヘラミガキ，外面はヘラケズリ後部分的にミガキ調整である。3は口縁部破片である。色調はにぶい褐色～黒色，外面はにぶい橙色である。胎土にはほとんど砂粒が含まれない。口縁端部が摩滅している。内面はヘラミガキ，外面は口縁部がヘラミガキ，体部がヘラケズリ後ヘラミガキ調整である。4は口縁部破片である。色調は内外面共ににぶい褐色である。焼成はやや不良である。外面は赤彩されていた可能性があるが，断定できない。胎土は精緻で，砂粒がほとんど含まれない。スコリアが含まれる。内面はヘラミガキ，外面はヘラケズリ調整である。5は口縁部～体部の1/4の遺存である。色調は内面がにぶい橙色～灰褐色，外面がにぶい橙色～黒褐色である。胎土には白色砂粒・スコリア粒が含まれる。内面は丁寧なヘラミガキ,外面はヘラケズリ後部分的にミガキ調整である。6は口縁部～体部の1/10の遺存である。色調は内外面共に灰褐色である。胎土には白色砂粒が多く含まれる。内面はヘラミガキ，外面はヘラケズリ後部分的にミガキ調整である。7は口縁部～体部の1/4の遺存である。色調は内外面共ににぶい橙色である。胎土には白色砂粒・スコリアが含まれる。内面は粗いヘラミガキ，外面はヘラケズリ後部分的にヘ

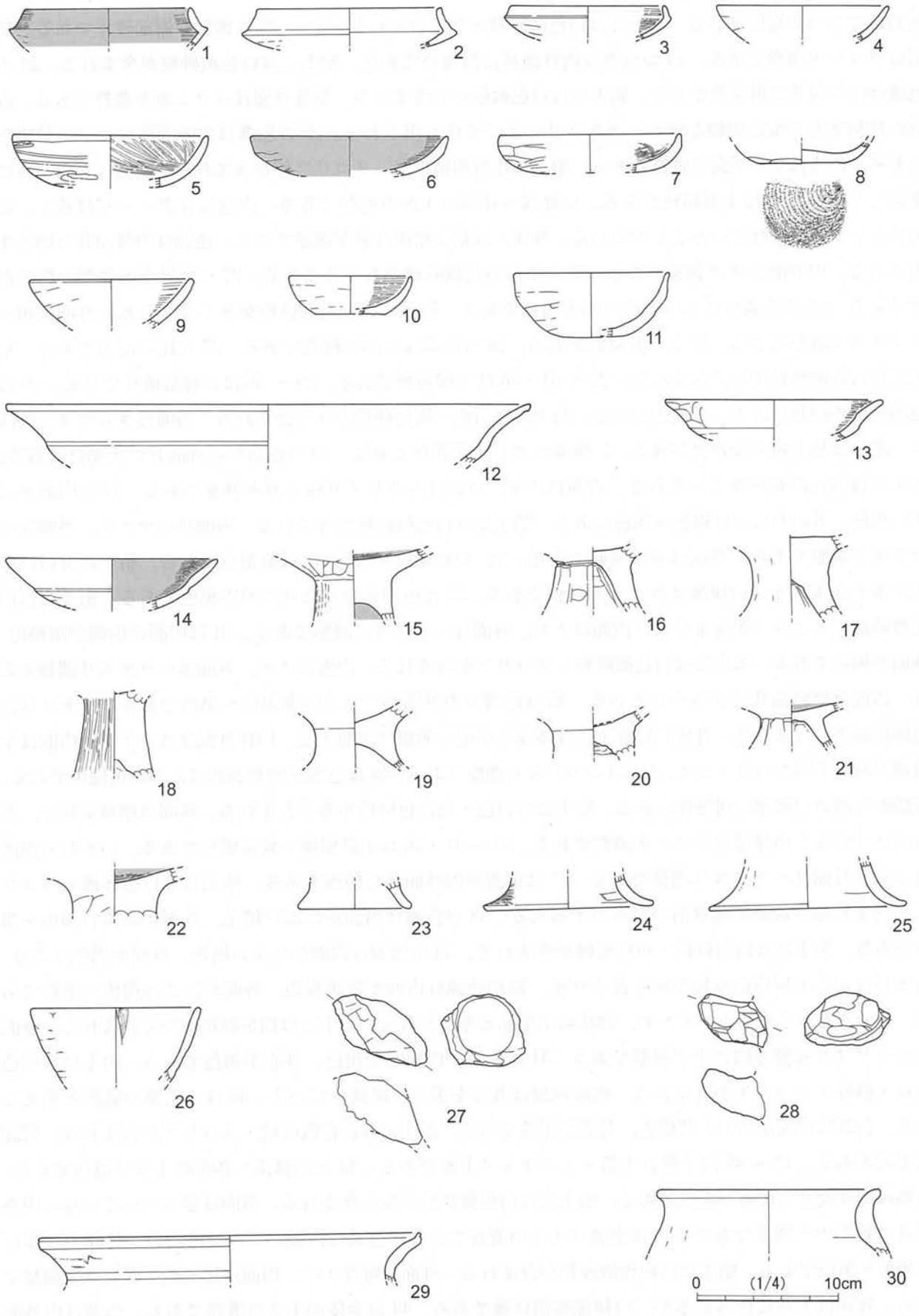


第 201 図　SB-001・002



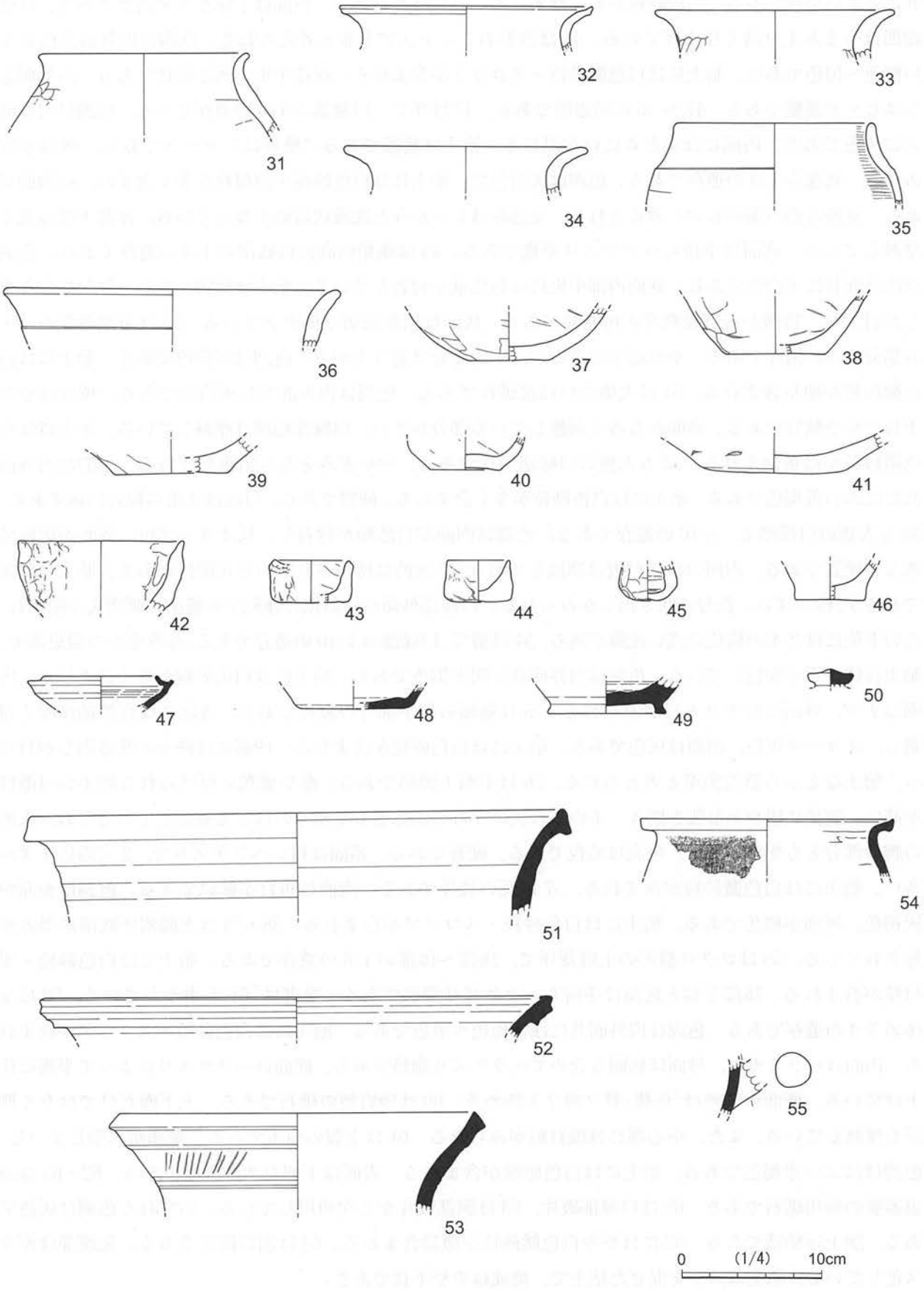
第202図　SB-005

ラミガキ調整である。8はロクロ整形である。底部の4/5の遺存である。色調は内外面共ににぶい褐色である。胎土には白色微砂粒が含まれる。体部下端は手持ちヘラケズリ調整である。底面は回転糸切り後一方向の直線的なヘラケズリが部分的になされる。9は口縁部～体部の1/10の遺存である。色調は内外面とも黒褐色で，黒彩されていた可能性があるが断定できない。胎土には白色微砂粒・スコリアが含まれる。内面はヘラミガキ，外面はヘラケズリ後ミガキ調整である。10は全体の1/4の遺存である。底面は明確に平底である。色調は内面がにぶい黄橙色，外面が橙色である。焼成はやや不良で，胎土には砂粒がほとんど含まれない。内面はヘラミガキ，外面は底面も含めてヘラケズリ調整である。特に外面の器面が溶けるように摩滅している。11は口縁部～体部の1/5の遺存である。色調は内面がにぶい黄橙色～灰黄褐色，外面がにぶい橙色～黒色である。胎土には白色砂粒が含まれる。器面の遺存が悪く調整ははっきり観察できないが，内面はナデ，外面はヘラケズリ調整と考えられる。12～25は土師器高坏である。12～14は坏部口縁破片である。いずれも口縁部下に段を有する。内面はヘラミガキ，外面はヘラケズリ後部分的にミガキ調整である。12の色調は内外面共に橙色である。焼成はやや不良で，軟質である。胎土にはスコリア粒が多く含まれ，目立つ。器面は内外面共に溶けるように摩滅している。13の色調は内面がにぶい橙色，外面が黒褐色である。胎土には白色微砂粒が含まれる。14は内面が黒色処理(炭)されている。色調は内面が黒色，外面がにぶい黄橙色である。胎土は精緻である。内面は非常に丁寧なヘラミガキ調整である。15～22は脚部と坏部の接合部分破片である。坏部内面はミガキだが，摩滅しているものが多い。脚部内面はヘラケズリ・雑なナデ，脚部外面はヘラケズリ調整である。15は坏部内面と脚部内面が黒色処理(炭)されている。外面の色調はにぶい橙色である。胎土には白色砂粒が多く含まれる。16は内外面共に橙色である。胎土には白色砂粒・スコリアが含まれる。17の色調は内面が褐灰色，外面がにぶい橙色である。焼成はやや不良で，胎土には白色砂粒が含まれる。2次被熱により器面は荒れている。18の色調は内面がにぶい黄橙色，外面が黒色である。胎土には白色微砂粒が多く含まれる。外面はヘラケズリ後ミガキ調整を行っている。19の色調は内外面共に明赤褐色で，胎土自体が赤く発色している。胎土には白色・灰白色砂礫が多く含まれる。2次被熱のため器面が荒れて，調整痕は判然としない。20の色調は内外面共に淡黄色である。焼成はやや不良で，軟質である。胎土は比較的精緻で，白色微砂粒が微量含まれる。脚部内面の調整は雑である。21は坏部内面は黒色処理(炭)されているが遺存が悪い。外面も処理されていた可能性があるが残存部が少なく断定できない。色調は内外面共ににぶい黄橙色である。焼成はやや不良である。胎土は精緻で砂粒はほとんど含まれない。22は坏部内面が黒色処理(炭)されている。外面の



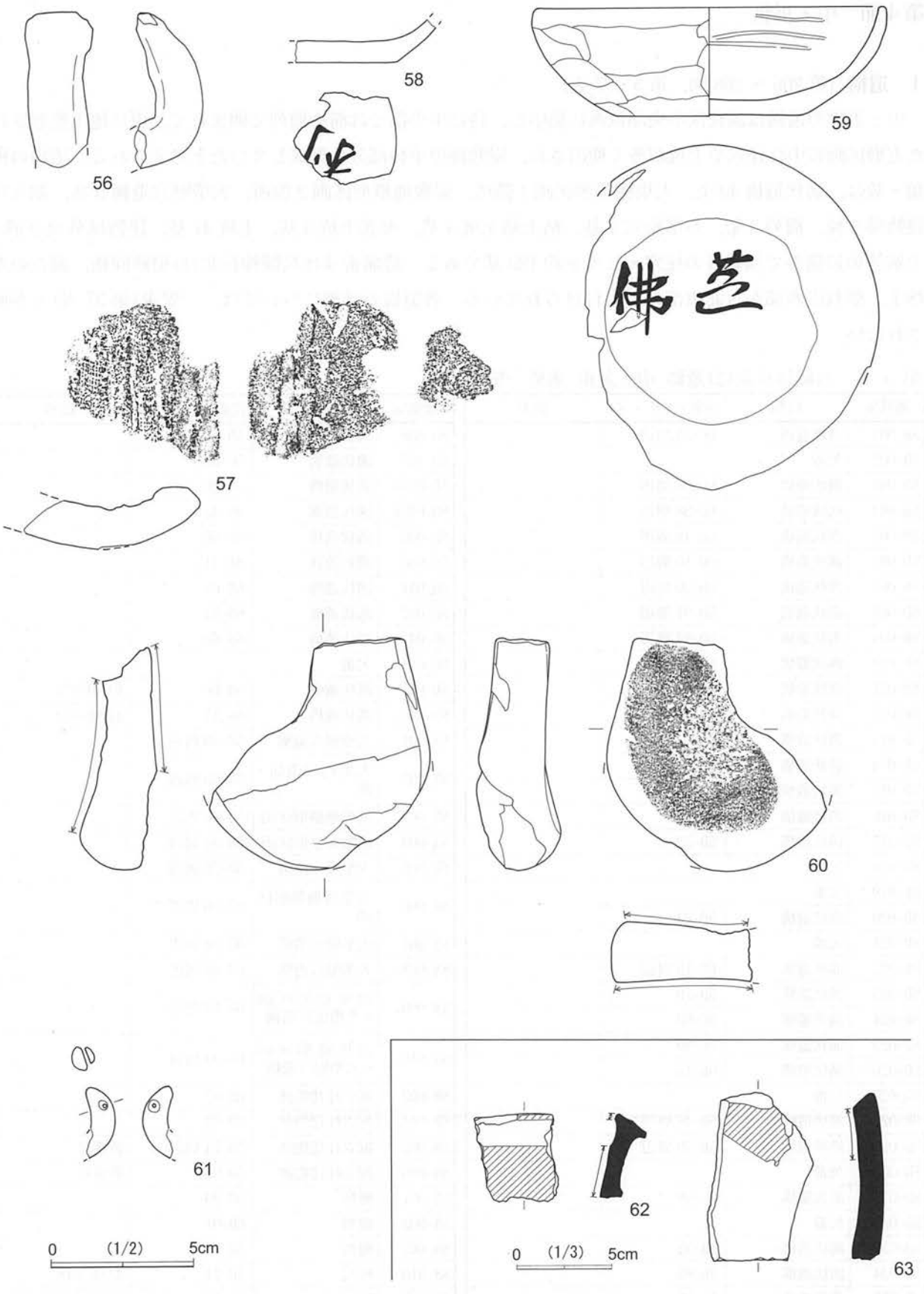
第 203 図　遺構外出土遺物 (1)

色調はにぶい赤褐色である。胎土には白色微砂粒が多く含まれる。23～25は脚部の裾部破片である。裾部はヨコナデ調整である。23の色調は内外面共に黒褐色である。胎土には白色微砂粒が含まれる。24の色調は内外面共に黒褐色である。胎土には白色微砂粒が含まれる。裾部外面はヘラミガキ調整である。内面には裾部との境に明瞭な稜がヘラケズリによって作り出される。25の色調は内外面共ににぶい黄橙色である。焼成はやや不良で軟質である。胎土は比較的精緻で，スコリア粒が含まれる。器面は底面が特に摩滅している。26は土師器鉢である。口縁部～体部の1/8の遺存である。内面にはタールが付着し，灯明具として使用されていたことが分かる。外面には粘土紐接合痕が確認できる。色調は内外面共に明赤褐色である。内外面はナデ調整である。胎土には白色微砂粒が多く含まれる。27・28は土師器甑の把手部分である。27の色調はにぶい褐色～明赤褐色である。胎土には白色微砂粒が多く含まれる。外面は粗いヘラケズリ調整である。厚く，重量感がある。28の色調はにぶい橙色である。27に比べ扁平である。胎土には白色微砂粒が多く含まれる。29～41・46は土師器甕である。29～36は口縁部破片である。29は色調が内外面共ににぶい赤褐色である。胎土には白色・灰色砂粒が多く含まれる。器面はざらつき，外面の一部には粘土紐の接合痕が残る。口縁部はヨコナデ調整である。30は色調が内外面共に灰褐色である。胎土には白色砂粒が多く含まれる。内面はナデ，外面はヘラケズリ後ミガキ調整である。31は内面がにぶい褐色，外面がにぶい褐色～黒色である。胎土には白色微砂粒が含まれる。内面はヘラナデ，外面はヘラケズリ調整である。外面は剥落気味である。32は色調が内外面共に灰黄褐色である。胎土には白色砂粒が多く含まれる。口縁部はヨコナデ調整である。33は色調が内外面共に明赤褐色である。胎土には白色微砂粒・スコリアが含まれる。内面はナデ，外面はヘラケズリ調整である。34は内面の色調が暗褐色，外面が褐色である。胎土には白色微砂粒・スコリアが含まれる。内面はナデ，外面はヘラケズリ調整である。器面は摩滅気味でざらついている。35は色調が内外面共ににぶい赤褐色～黒色である。胎土には白色砂粒が多く含まれる。外面口縁部下には体部との境が明瞭に屈曲する。口縁外面はヨコナデ，内面は全面横方向の丁寧なヘラミガキ，外面はヘラケズリ調整である。36は色調が内外面共ににぶい黄橙色である。特徴から甑の口縁部の可能性がある。胎土には白色・灰白色砂粒が多く含まれる。器面は摩滅気味で，ざらついている。口縁部はヨコナデ調整である。37～41・46は土師器甕の底部破片である。いずれも内面はナデ，外面はヘラケズリ調整である。37は色調が内外面共に橙色である。胎土には白色砂礫・スコリアが含まれる。底面に焼成前の刻みが1本入る。38の色調は内面がにぶい橙色，外面がにぶい褐色～黒色である。胎土には白色砂粒・白色砂礫が含まれる。39の色調は内面がにぶい橙色，外面が黒色である。胎土には白色・灰白色砂粒が多く含まれる。40の色調は内面が灰黄褐色，外面がにぶい褐色～黒色である。丸みをもって立ち上がるため，鉢状の小型品と考えられる。胎土には白色砂粒が多く含まれる。外面はヘラケズリ後部分的にナデ調整である。41は色調が内面が暗褐色，外面が褐色である。胎土には白色砂粒・砂礫・スコリアが含まれる。底面周縁は丸みを帯び，摩滅している。46は小型甕の底部と考えられる。色調は内面がにぶい黄橙色，外面が黒色である。胎土には白色微砂粒・スコリアが含まれる。底面は光沢がある。42～45は手捏ね土器・ミニチュア土器である。42は口縁部～体部の1/6の遺存である。色調は内外面共ににぶい褐色である。胎土には白色微砂粒が多く含まれる。器面はざらついている。内外面共に雑なナデ調整である。43は全体の1/4の遺存である。色調は内面がにぶい赤褐色，外面がにぶい赤褐色～黒色である。胎土には白色微砂粒が含まれる。外面は雑なナデ，内面は比較的丁寧なナデ調整である。底面は平らに作られるが，口縁部端部は雑である。44は全体の1/2の遺存である。色調は内外面



第 204 図　遺構外出土遺物 (2)

共ににぶい橙色である。白色砂粒が多く含まれる。外面は雑なナデ，内面は丁寧なナデ調整である。口縁端部はつまみ上げ薄く仕上げている。45は壺形のミニチュア土器と考えられる。色調は内外面共ににぶい橙色～橙色である。胎土には白色微砂粒・スコリアが含まれる。底部中央が凹む形状である。内外面ともユビナデ調整である。47～55は須恵器である。47は坏で，口縁部の1/8の遺存である。色調は内外面共に灰色である。内面にはまだらに白が混じる。胎土は精緻である。整形はシャープである。48は平底の坏で，底部が1/3の遺存である。色調は灰白色で，胎土には白色砂粒・雲母粒が多く含まれ，特徴的である。常陸方面の窯のものと考えられる。見込みはしっかりと沈線状に低くなっている。体部下端は丸く摩滅している。底面は手持ちヘラケズリ調整である。49は瓶類の高台付底部の1/4の遺存である。色調は内外面共に灰白色である。底面内部中央には自然釉が付着している。胎土は緻密である。鉄分の吹き出しが目立つ。特徴から猿投窯産の可能性がある。底面は回転糸切り後ナデている。50は須恵器蓋のつまみ部分のみの遺存である。やや扁平であるが，中央部分は盛り上がる。色調は灰白色である。胎土には白色微砂粒が微量含まれる。51は大甕の口縁部破片である。色調は内外面共に灰白色である。焼成はやや不良でやや軟質である。器面がもろく剥離している部分が多い。口縁部端部は摩滅している。胎土には白色微砂粒が微量含まれる。52も大甕の口縁部破片である。やや赤みをもつ須恵器である。色調は内外面共ににぶい黄褐色である。胎土には白色砂粒が多く含まれる。硬質である。口縁は2重の複合口縁である。53も大甕の口縁部で，1/10の遺存である。色調は内面が自然釉が付着し，灰オリーブ色，外面が灰色である。硬質である。内面の頸部付近は摩滅しており，2次的に使用されていた可能性がある。胎土は緻密であるが，砂っぽい。鉄分の吹き出しがみられる。口縁部外面には斜位に連続する櫛歯の刺突文が施され，その下位には2本の横位の浅い沈線が巡る。54は甕で，口縁部の1/10の遺存である。赤みをもつ須恵器で，胎土自体が赤く発色している。色調は内外面共に明赤褐色である。胎土には白色砂粒が多く含まれる。内面はナデ，外面にはタタキ目がみられる。55は瓶類の把手部分の破片である。外面には自然釉が厚く付着し，オリーブ灰色，内面は灰色である。胎土には白色砂粒が含まれる。内面には鉄分の吹き出しが目立つ。胎土などから猿投窯産と考えられる。56は不明土製品である。甑や甕類に付けられる把手の可能性が高い。腕状に緩やかな弧を描き，手のひら状に一方の端部をやや薄くのばして整形しているため，人形の腕の部分とも想定される。色調は橙色である。硬質である。器面は粗いヘラケズリで，2次的にキズが多い。胎土には白色微砂粒が含まれる。57は瓦の破片である。内面に布目が確認できる。色調は表面が灰褐色，断面が橙色である。胎土には白色砂粒・スコリアが含まれる。58・59は土師器坏底部に墨書が施されている。58はロクロ整形の土師器坏で，底部～体部の1/6の遺存である。胎土には白色砂粒・雲母粒が含まれる。体部下端と底面は手持ちヘラケズリ調整である。墨書は「利」と書かれている。59は全体の3/4の遺存である。色調は内外面共に浅黄橙色～黒色である。胎土には白色砂粒・スコリアが含まれる。内面はヘラミガキ，外面は底面も含めてヘラケズリ調整である。底面はヘラケズリによって平底に仕上げている。底面の墨書は「仏苞」葛？蓮？と読める。60は砂岩製の砥石である。上下面だけではなく側面も摩滅している。また，中心部には敲打痕がみられる。61は土製の勾玉である。端部が欠損している。色調はにぶい赤褐色である。胎土には白色砂粒が含まれる。表面は丁寧なナデ調整である。62・63は須恵器甕の転用砥石である。62は口縁部破片，63は胴部破片を2次利用している。いずれも色調は灰色である。胎土は精緻である。62にはやや白色微砂粒が微量含まれる。64は羽口破片である。先端部はガラス化している。胎土はスサを混ぜた粘土で，焼成はやや不良である。



第 205 図　遺構外出土遺物 (3)

第4節　中・近世

1　遺構（第206～208図，第5・37表）

中・近世の遺構は調査区中央部以西に集中し，特に中央部では溝や柵列で囲まれて，更に地山整形された方形区画の中に柱穴や土坑が多く検出され，屋敷跡の中核部分を形成していたと考えられる。遺構の種類・数は，溝状遺構40条，大規模整形区画1箇所，屋敷地整形区画2箇所，大型竪穴遺構5基，掘立柱建物跡2棟，柵列3条，方形竪穴1基，粘土貼土坑4基，火葬土坑3基，土坑41基，建物域外及び溝・土坑等の遺構外で無番号の柱穴・ピット約120基である。遺構番号は八幡神社北(1)遺跡同様，調査の進捗上，概ね南西部から北東部の順に付けられている。各遺構の詳細については，一覧表(第37表)も参照されたい。

第5表　八幡神社北(2)遺跡 中・近世 遺構一覧表

遺構No.	種類	位置(グリッド)	備考
SD-001	溝状遺構	6C-34周辺	
SD-002	欠番		
SD-003	溝状遺構	6C-35周辺	
SD-004	溝状遺構	6C-38周辺	
SD-005	溝状遺構	6C-18周辺	
SD-006	溝状遺構	6D-10周辺	
SD-007	溝状遺構	6D-20周辺	
SD-008	溝状遺構	5D-91周辺	
SD-009	溝状遺構	5D-94周辺	
SD-010	溝状遺構	5D-82	
SD-011	溝状遺構	5D-72	
SD-012	溝状遺構	5D-72周辺	
SD-013	溝状遺構	5D-62	
SD-014	溝状遺構	5D-62	
SD-015	溝状遺構	5D-53	
SD-016	溝状遺構	5D-42	
SD-017	溝状遺構	5D-33	
SD-018	欠番		
SD-019	欠番		
SD-020	溝状遺構	5D-24	
SD-021	欠番		
SD-022	溝状遺構	6C-15周辺	
SD-023	溝状遺構	5D-70	
SD-024	溝状遺構	5C-99	
SD-025	溝状遺構	5C-99	
SD-026	溝状遺構	6D-15	
SD-027	欠番		
SD-028	溝状遺構	5D-48周辺	
SD-029	溝状遺構	5D-59周辺	
SD-030	欠番		
SD-031	溝状遺構	6C-09	
SD-032	欠番		
SD-033	溝状遺構	6D-32	
SD-034	溝状遺構	5D-88	
SD-035	溝状遺構	5D-88	

遺構No.	種類	位置(グリッド)	備考
SD-036	溝状遺構	5D-55	
SD-037	溝状遺構	5C-78	
SD-038A	溝状遺構	6D-26	
SD-038B	溝状遺構	6D-42	
SD-039	溝状遺構	4E-56	
SD-040	溝状遺構	6E-11	
SD-041	溝状遺構	6E-01	
SD-042	溝状遺構	6D-61	
SD-043	溝状遺構	6D-60	
SD-044	欠番		
SD-045	溝状遺構	5D-60	旧SD-031
SD-046	溝状遺構	6D-17	旧SD-039
SX-001	大型竪穴遺構	5C-99周辺	
SX-002	大型竪穴遺構・溝	5D-60周辺	
SX-003	屋敷地整形区画	5D-86周辺	
SX-004	屋敷地整形区画	5D-84周辺	
SX-005	大型竪穴遺構	5E-70周辺	
SX-006	大型台地整形区画	6D-50周辺	
SX-007	大型竪穴遺構	4D-99周辺	
SX-008	大型竪穴遺構	6D-08周辺	
SX-009	台地整形区画・大型竪穴遺構	6D-19周辺	
SX-010	台地整形区画・大型竪穴遺構	6D-83周辺	
SB-003	掘立柱建物跡	6D-67	
SB-004	掘立柱建物跡	6D-66	
SB-005	掘立柱建物跡	5D-74周辺	新番号
SB-006	掘立柱建物跡	5D-96	新番号
SA-001	柵列	5D-93	
SA-002	柵列	6D-01	
SA-003	柵列	5E-00	
SH-016	柱穴	5D-71	旧SK-016
SH-017	柱穴	5D-71	旧SK-017

遺構No.	種類	位置(グリッド)	備考
SH-018	柱穴	5D-72	旧 SK-018
SH-022	ピット２基か	6D-02 周辺	
SH-023	ピット２基か	6D-02	
SH-024	ピットか	6D-02	
SK-001	土坑	6C-06	
SK-002	土坑	6C-16	
SK-003	土坑	6C-16 周辺	
SK-004	土坑(群)	5C-97 周辺	
SK-005	土坑	6D-00	
SK-006	火葬土坑	6C-29	
SK-007	土坑	6D-00	
SK-008	土坑	6D-02 周辺	
SK-009	土坑・ピット	6D-11 周辺	
SK-010	土坑・ピット	6D-12	
SK-011	土坑・ピット	6D-22 周辺	
SK-012	土坑	6D-01	
SK-013	土坑	5D-72	
SK-014	土坑	5C-99	
SK-015	土坑	5D-92	
SK-019	土坑	5D-72	
SK-020	土坑	5D-83	
SK-021	土坑	5D-44	
SK-025	欠番		
SK-026	土坑	5D-61	
SK-027	土坑	5D-62	
SK-028	土坑・ピット	6D-13	
SK-029	土坑	5D-92	
SK-030	土坑	5D-83	
SK-031	土坑	5D-83 周辺	
SK-032	土坑	5D-84	

遺構No.	種類	位置(グリッド)	備考
SK-033	土坑	5D-95	
SK-034	土坑	6D-13	
SK-035	土坑	6D-15	
SK-036	火葬土坑	6D-33	
SK-037	土坑	6D-24	
SK-038	土坑	6D-24	
SK-039	土坑	5D-86	
SK-040	土坑	5D-86	
SK-041	土坑	5D-86	
SK-042	土坑	5D-55	
SK-043	土坑	5D-85	
SK-044	土坑	5D-66 周辺	
SK-045	火葬土坑	6C-39	
SK-046	土坑	6C-25	
SK-047	土坑	6C-16	
SK-048	土坑	4E-81	
SK-049	土坑	4E-90	
SK-050	土坑	4E-90	
SK-051	土坑	6E-00	
SK-052	欠番		
SK-053	粘土貼土坑	6D-81 周辺	
SK-054	土坑	6D-65	
SK-055	粘土貼土坑	6E-12	
SK-056	粘土貼土坑	6E-02	
SK-057	欠番		
SK-058	欠番		
SK-059	欠番		
SK-060	欠番		
SK-061	粘土貼土坑	6D-61	

(1) 溝状遺構

ＳＤ－００１（第 207・209 図，図版 122）

調査区南東隅の 6C-34 ～ 36・44 ～ 46 グリッドに位置する。主軸は東西方向(N-84°-W)，規模は調査区内長さ 8.5 m・上端幅 0.6 m～ 0.7 m・底幅 0.5 m～ 0.9 m・深さ 0.4 m～ 0.6 mである。羽口(117)が出土した。

ＳＤ－００３（第 207・209 図，図版 123）

SD-001 の北側，6C-35･36 グリッドに位置する。主軸は東西方向(N-76°-W)，規模は調査区内長さ 10 m・上端幅 3 m～ 4 m・底幅 1.5 m～ 2.3 m・深さ 0.15 m～ 0.25 mである。覆土はローム粒を含む暗褐色土である。

ＳＤ－００４（第 207・209 図，図版 123）

調査区南東部 6C-38・39 グリッドに位置する。主軸はほぼ東西方向(N-72°-W)，規模は長さ 8 m・上端幅 1.0 m～ 1.8 m・底幅 0.7 m～ 0.9 m・深さ 0.2 m～ 0.4 mである。須恵器転用砥石(82)，常滑甕片が出土した。

第 206 図　中・近世遺構全体図

ＳＤ－００５・０２３・０４５（第207・209・210図，図版117・124）

6Cグリッド北東部に位置する。SD-005は調査区南部でSD-004と直行する。主軸はほぼ南北方向(N-13°-E)，規模は長さ18ｍ・上端幅0.9ｍ～1.2ｍ・底幅0.3ｍ～0.5ｍ・深さ0.25ｍ～0.5ｍである。覆土は黒褐色土主体で，常滑甕，中世カワラケ片(26)，西夏銭(125)が出土した。途切れて北部に位置するSD-023・025・045は本来一体の溝であったことが推測される。SD-023は長さ2.5ｍ・上端幅0.3ｍ～0.4ｍ・底幅0.2ｍ～0.3ｍ・深さ0.2ｍ，覆土は黒色土である。SD-025は長さ2ｍ・上端幅0.4ｍ・底幅0.2ｍ・深さ0.2ｍである。SD-045は，調査時に遺構番号SD-031が重複していたので，改めて付けた番号である。SX-002内部で，主軸はN-44°-E，規模は長さ5.2ｍ・上端幅0.7ｍ～0.9ｍ・底幅0.3ｍ～0.4ｍ・深さ0.35ｍ～0.5ｍである。

ＳＤ－００６（第207・209図，図版124）

調査区南部6D-10・20グリッドに位置し，SK-008と重複する。主軸はほぼ南北方向(N-23°-E)，規模は長さ5ｍ・上端幅0.9ｍ～1.4ｍ・底幅0.5ｍ～0.7ｍ・深さ数cmである。近世陶器片が出土した。

ＳＤ－００７（第207・209図）

6D-20・21グリッドに位置し，SD-006に並走する短い溝である。主軸はほぼ南北方向(N-26°-E)で，規模は長さ3ｍ・上端幅0.7ｍ～1.6ｍ・底幅0.4ｍ～1.3ｍ・深さ0.1ｍである。

ＳＤ－００８（第209・213図，図版125）

調査区中央部よりやや南西の5D-90・91グリッド他に位置し，SD-009に斜めに連続する。主軸はN-60°-E，規模は長さ9ｍ・上端幅0.6ｍ～1ｍ・底幅0.2ｍ～0.5ｍ・深さ0.15ｍである。覆土はロームブロックを含む黒色土である。

ＳＤ－００９（第209・213図，図版119・125・129）

調査区中央部の5D-92～96グリッド他に位置し，主軸はほぼ東西方向(N-74°-W)でSX-003・004の南辺に平行する。規模は長さ20ｍ・上端幅0.7ｍ～0.8ｍ・底幅0.2ｍ～1.2ｍ・深さ0.1ｍ～0.2ｍ。覆土はロームブロックを含む暗褐色土である。

ＳＤ－０１０（第209・213図，図版119）

5D-82グリッドに位置し，SD-009とSD-012を南北に結ぶ。主軸はN-18°-E，規模は長さ4ｍ・上端幅0.6ｍ～0.7ｍ・底幅0.2ｍ～0.3ｍ・深さ0.1ｍである。

ＳＤ－０１１（第213図，図版119）

5D-72グリッドに位置し，SD-012とSD-013を南北に結ぶ。主軸はN-20°-W～N-40°-E，規模は長さ4ｍ・上端幅0.6ｍ～0.7ｍ・底幅0.2ｍ～0.3ｍ・深さ0.1ｍ前後である。

ＳＤ－０１２（第209・213図，図版119）

5D-72・82グリッド他で，SX-004の西側に位置し，主軸はほぼ東西方向(N-74°-W)，規模は長さ9ｍ・上端幅0.6ｍ～0.9ｍ・底幅0.4ｍ～0.5ｍ・深さ0.05ｍである。

ＳＤ－０１３（第209・213図，図版118・119・125・126）

5D-62・63・73～77グリッド他で，SX-003・004の北辺に位置し，主軸はほぼ東西方向(N-77°-W)，規模は長さ24.5ｍ・上端幅1.3ｍ～2.1ｍ・底幅0.3ｍ～0.7ｍ・深さ0.5ｍ～0.6ｍである。覆土はローム粒・ブロックを多く含む黄暗褐色土主体で，青磁碗(2)，常滑片口鉢(40,41)(13世紀)・甕・転用砥石(80)，古瀬戸縁釉皿(4)(15世紀後半)・擂鉢(15)(15世紀後半)，近世唐津鉢，近世陶磁器，瀬戸磁器，近代磁器，刀子(100)，鉄釘(103)，北宋銭(126)が出土した。

ＳＤ－０１４（第209・213図，図版126）

5D-62～64グリッドに位置し，SD-013の西端付近と北部のSD-036を結ぶ。主軸はほぼ東西方向(N-89°-W)，規模は長さ10ｍ・上端幅0.7ｍ～1.1ｍ・底幅0.4ｍ～0.7ｍ・深さ0.2ｍ～0.3ｍである。覆土はローム粒・ブロック主体の暗黄褐色土の人為的埋土で，近代磁器片が出土した。

ＳＤ－０１５（第213図，図版117・126）

5D-53グリッドに位置し，SD-014同様SD-013から北側へ入り，２本に枝分かれし，１本はSD-014に入る短い溝である。規模は長さ５ｍ・３ｍ・２ｍ，上端幅0.5ｍ，底幅0.1ｍ～0.3ｍ，深さ0.1ｍ前後である。

ＳＤ－０１６（第207図）

調査区北西部5D-42～44グリッドに位置し，調査区境に接する。主軸は東西方向(N-85°-E)，規模は調査区内長さ９ｍ・上端幅0.6ｍ～0.8ｍ・底幅0.3ｍ～0.5ｍ・深さ数cmである。

ＳＤ－０１７（第207図）

5D-33～35グリッドに位置し，SD-016から北東へ延びSD-020とも接続する。主軸の主体はN-69°-E，規模は長さ７ｍ・上端幅0.9ｍ～1.1ｍ・底幅0.5ｍ～0.9ｍ・深さ数cmである。

ＳＤ－０２０（第207・209図）

5D-24グリッドに位置する。SD-017に接続し，調査区境に接する。主軸はほぼ南北方向(N-11°-E)，規模は調査区内長さ3.5ｍ・上端幅0.5ｍ～1.2ｍ・底幅0.4ｍ～0.8ｍ・深さ0.1ｍである。覆土はローム粒を含む黒褐色土である。

ＳＤ－０２２（第207・210図，図版124）

調査区南西部の6C-15・25グリッド他に位置し，両端部にSK-046・047が存在する。主軸はN-58°-E，規模は長さ4.6ｍ・上端幅1.4ｍ～1.9ｍ・底幅0.5ｍ～0.7ｍ・深さ0.15ｍである。覆土はローム粒を含む暗褐色土である。

ＳＤ－０２４（第207図）

5C-99グリッドに位置する。調査区西部のSX-001と重複する，ほぼ東西方向の短い溝である。規模は長さ1.7ｍ・上端幅0.4ｍ・底幅0.2ｍ～0.3ｍ・深さ0.2ｍである。

ＳＤ－０２６（第213図）

調査区南部6D-15・25に位置するほぼ南北方向の短い溝である。主軸はN-33°-E，規模は長さ4.5ｍ・上端幅0.6ｍ～1ｍ・底幅0.2ｍ～0.6ｍ・深さ数cmである。

ＳＤ－０２８（第208図，図版121・126）

5D-68・78グリッド他で，調査区北部をほぼ南北に走り，北端部はSX-007に接する。主軸はN-17°-E，規模は長さ31ｍ・上端幅1.1ｍ～1.6ｍ・底幅0.4ｍ～1ｍ・深さ0.1ｍ程であるが，南端部は広がり幅3.8ｍ・底幅3.4ｍである。瀬戸擂鉢(16世紀)，志野皿(1600年頃)・鉄絵皿(17世紀初頭)，近世陶器等が出土した。地形は北部へ傾斜するので，南端部は屋敷区画付近からの水溜め，北端部のSX-007は排水施設の可能性が推測できる。

ＳＤ－０２９（第208・210・213図，図版127）

4D-59・69グリッド他で，SD-028の東側を併走し，南端部はSX-008に接する。主軸はN-11°-E，規模は調査区内長さ57ｍ・上端幅2.3ｍ～2.6ｍ・底幅0.9ｍ～1.4ｍである。覆土はロームブロックを含む暗褐色土主体で，渥美甕(12～13世紀)・転用砥石(69,70)，常滑片口鉢(39,43,44)(13世紀，15世紀前半)・壺・甕(59,60,65)(13世紀多量)・転用砥石(76,77)，中世カワラケ，近世陶磁器，五輪塔(84)，砥石(97)，脇差(99)，鉄滓(111,112)等が出土した。SX-008はSD-028南端部と同様な機能が考えられる。

ＳＤ－０３１（第207・210図）

調査区南西部の6C-09グリッドに位置する。SD-004同様，SD-005の北端部に接続し屈曲する短い溝である。主軸は東西方向がN-75°-W，規模は長さ4.8ｍ・上端幅0.7ｍ～1.3ｍ・底幅0.4ｍ～0.7ｍ・深さ0.3ｍである。覆土はローム粒・ブロックを多く含む黄褐色土主体で人為的埋土である。

ＳＤ－０３３（第207図，図版128）

調査区南部の6D-32～35グリッドで，SD-038Aの北側に位置し，主軸は東西方向(N-17°-E)，規模は長さ9ｍ・上端幅1.5ｍ～2.3ｍ・底幅1ｍ～1.9ｍ・深さ0.1ｍ前後である。北側と内部にピット群が形成されている。常滑壺・甕片が出土した。

ＳＤ－０３４（第210・213図，図版118・119）

屋敷区画の東側，5D-88・97グリッド他に位置し，併行するSD-035を切る。主軸はN-20°-E，規模は長さ15.6ｍ・上端幅2.2ｍ～2.6ｍ・底幅1.4ｍ～1.6ｍ・深さ0.4ｍ～0.8ｍである。さらに南側の西壁寄りには長さ7.6ｍ・上端幅1.0ｍ・底幅0.4ｍ・深さ0.1ｍ程の溝が存在する。覆土は埋め戻しによるロームブロック主体の暗黄褐色土で，部分的に焼土が検出された。遺物は，常滑片口鉢・甕片(67)，近世磁器が出土した。

ＳＤ－０３５（第210・213図，図版119）

屋敷区画の東側，5D-88・98他に位置し，併行するSD-034に切られる。主軸はN-17°-E，規模は長さ15.4ｍ・検出部分上端幅1.5ｍ～2.7ｍ・検出底幅0.7ｍ～2.1ｍ・深さ0.3ｍ～0.4ｍである。覆土はローム粒を多く含む黒褐色土で，近世磁器片が出土した。

ＳＤ－０３６（第208・210・213図）

調査区北西部5D-55・66グリッド他に位置し，直角に屈曲する。主軸は南北方向N-20°-E，東西方向N-66°-W，規模は検出部分の長さ南北27.5ｍ・東西10ｍで，上端幅2.1ｍ～2.6ｍ内に，上端幅0.5ｍ～1ｍ・底幅0.2ｍ～0.7ｍ・深さ0.15ｍの2条の溝が走る。覆土はロームブロックを多く含む暗褐色土で人為的埋土である。遺物は，須恵器甕転用砥石，常滑片口鉢(45)(13世紀)・壺，近世陶磁器・瀬戸磁器，近代磁器，鉄鍋の可能性ある鉄片(102)が出土した。

ＳＤ－０３７（第207図，図版117）

調査区南西部の5C-78～98グリッドに位置する。南端部はSX-001内に入り，北側は調査区外に続く。主軸はほぼ南北方向(N-20°-E)，規模は調査区内長さ9ｍ・上端幅0.4ｍ～0.6ｍ・底幅0.2ｍ～0.3ｍ・深さ0.2ｍである。

ＳＤ－０３８Ａ（第207・211図，図版127・128）

調査区南部の6D-26・36グリッド他に位置し，SX-006の北側に沿って東西方向に走る。主軸はN-80°-E前後である。南側に段差となって下がり，上端幅0.8ｍ～4.6ｍ・長さ25ｍであるが，南辺に溝2条が沿う。上端幅0.8ｍ～1.2ｍ・底幅0.3ｍ・深さ0.3ｍ～0.7ｍ，南側溝は上端幅0.4ｍ～0.7ｍ・底幅0.15ｍ～0.4ｍ・深さ0.2ｍ～0.4ｍである。覆土観察では，南辺の溝が埋められた後，粘性ある暗褐色土が堆積し，SD-038Aが埋められた様相である。遺物は，渥美甕(12～13世紀)，常滑片口鉢(50)・壺(61)・甕(57,58)(13世紀多量)・転用砥石(78)，瀬戸皿(7)(17世紀)，近世陶器，銅製鈴(10)，北宋銭(119,121)などが出土した。

ＳＤ－０３８Ｂ（第207・211図，図版128）

6D-42～46グリッドに位置し，SD-033の東端部に接する。底部にピット列が掘られている。主軸はほぼ南北方向(N-24°-E)で，規模は長さ8ｍ・上端幅1.1ｍ～3ｍ・底幅0.3ｍ～1ｍ・深さ0.2ｍ～0.6ｍである。ピットの深さは0.25ｍ～0.3ｍである。常滑片口鉢，近世陶器片，北宋銭(118)が出土した。

ＳＤ－０３９（第208・210図）

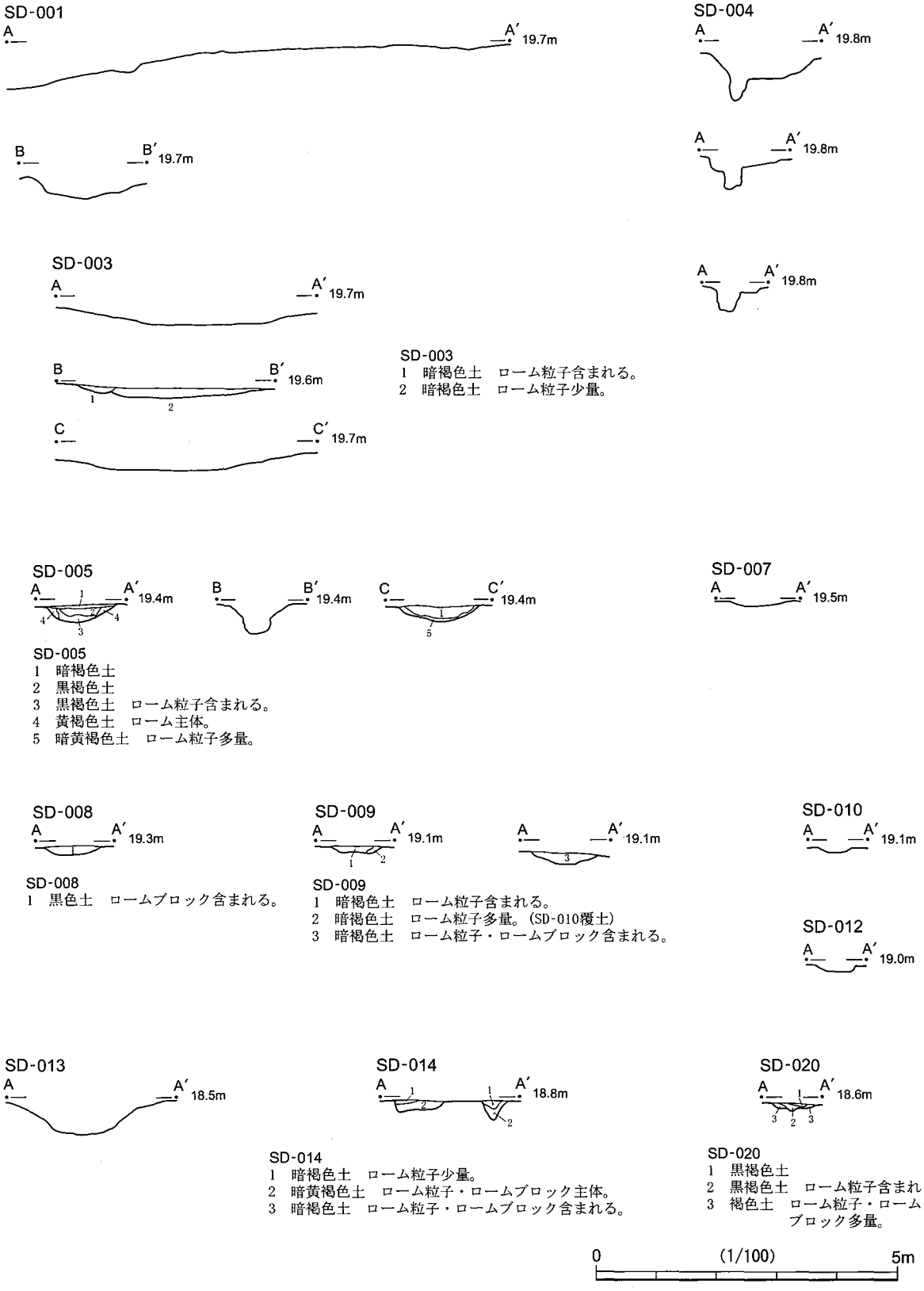
調査区北東端部の4E-67～69グリッド他に位置する。主軸はほぼ東西方向でN-75°-W，規模は調査区検出長さ19ｍ・上端幅2.3ｍ以上・底幅1.3ｍ以上・深さ0.9ｍである。覆土はローム粒・ブロックを含む暗褐色である。SD-039は調査時に遺構番号が重複していたため，SD-046出土遺物の中に本溝のものが混入している可能性がある。

ＳＤ－０４０・０４１（第207・217図）

調査区東側境に接する6E-11グリッド他に位置し，南北・東西方向に屈曲する。SD-040は，南北方向の主軸N-18°-E，規模は長さ4.5ｍ・上端幅0.8ｍ・底幅0.2ｍ・深さ0.4ｍ～0.5ｍ，SD-041は主軸N-21°-E，規模は長さ6ｍ・上端幅0.6ｍ～0.8ｍ・底幅0.3ｍ～0.4ｍ・深さ0.2ｍで，近世唐津鉢が出土した。周辺の内部にはピット群が形成されており，溝は布堀で建物跡の可能性も推測される。

第 207 図　南部中・近世遺構分布図

第 208 図　北部中・近世遺構分布図

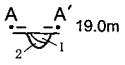


第 209 図 SD-001・003 ～ 010・012 ～ 014・020 断面図

SD-022

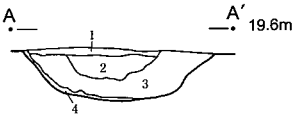
SD-022
1 黒褐色土 ローム粒子含まれる。
2 暗褐色土 ローム粒子含まれる。
3 暗褐色土 ロームブロック含まれる。

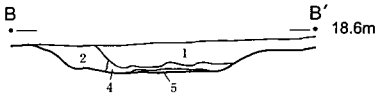
SD-023



SD-023
1 黒色土
2 黒色土 ローム粒子含まれる。

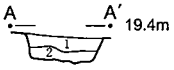
SD-029





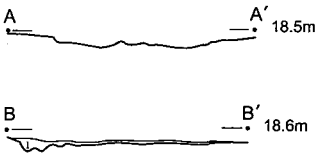
SD-029
1 暗褐色土
2 暗褐色土 ロームブロック含まれる。
3 暗褐色土 ローム粒子含まれる。
4 暗褐色土 ローム粒子多量。
5 暗黄褐色土 ローム粒子主体。

SD-031



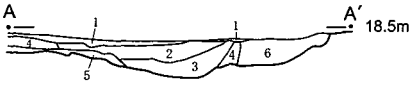
SD-031
1 褐色土 ローム粒子多量。
2 黄褐色土 ローム粒子・ローム
ブロック主体。

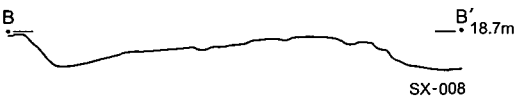
SD-036



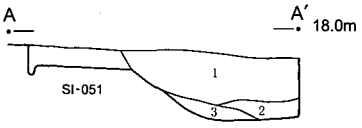
SD-036
1 暗褐色土 ロームブロック多量。

SD-034・035



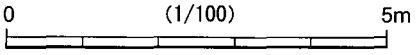


SD-039

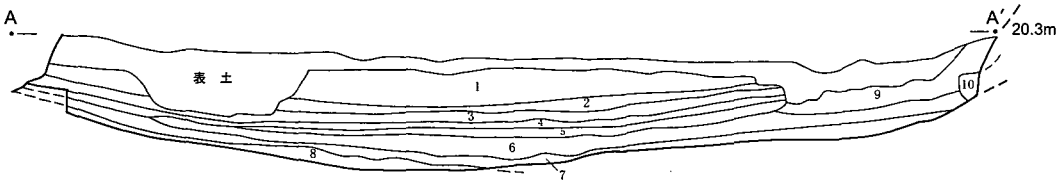


SD-039
1 暗褐色土 ソフトローム大粒含まれる。炭化粒含まれる。
2 暗褐色土 1層よりハードロームブロック多く含まれる。
3 褐色土 ソフト・ハードロームの流れ込み。

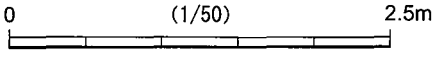
SD-034・035
1 暗褐色土 ローム粒子含まれる。
2 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック主体。黒色土少量。
(埋め戻しによる整地土。SX-003・004土層の8層に対応)
3 黒色土 (SD-034覆土。SX-003・004土層の9層に対応)
4 黒色土 ローム粒子を含む(SD-035覆土。SX-003・004土層の10層に対応)
5 黒色土 ロームブロック含まれる。(SD-035覆土)
6 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック主体。茶褐色土含まれる。(SD-035覆土)



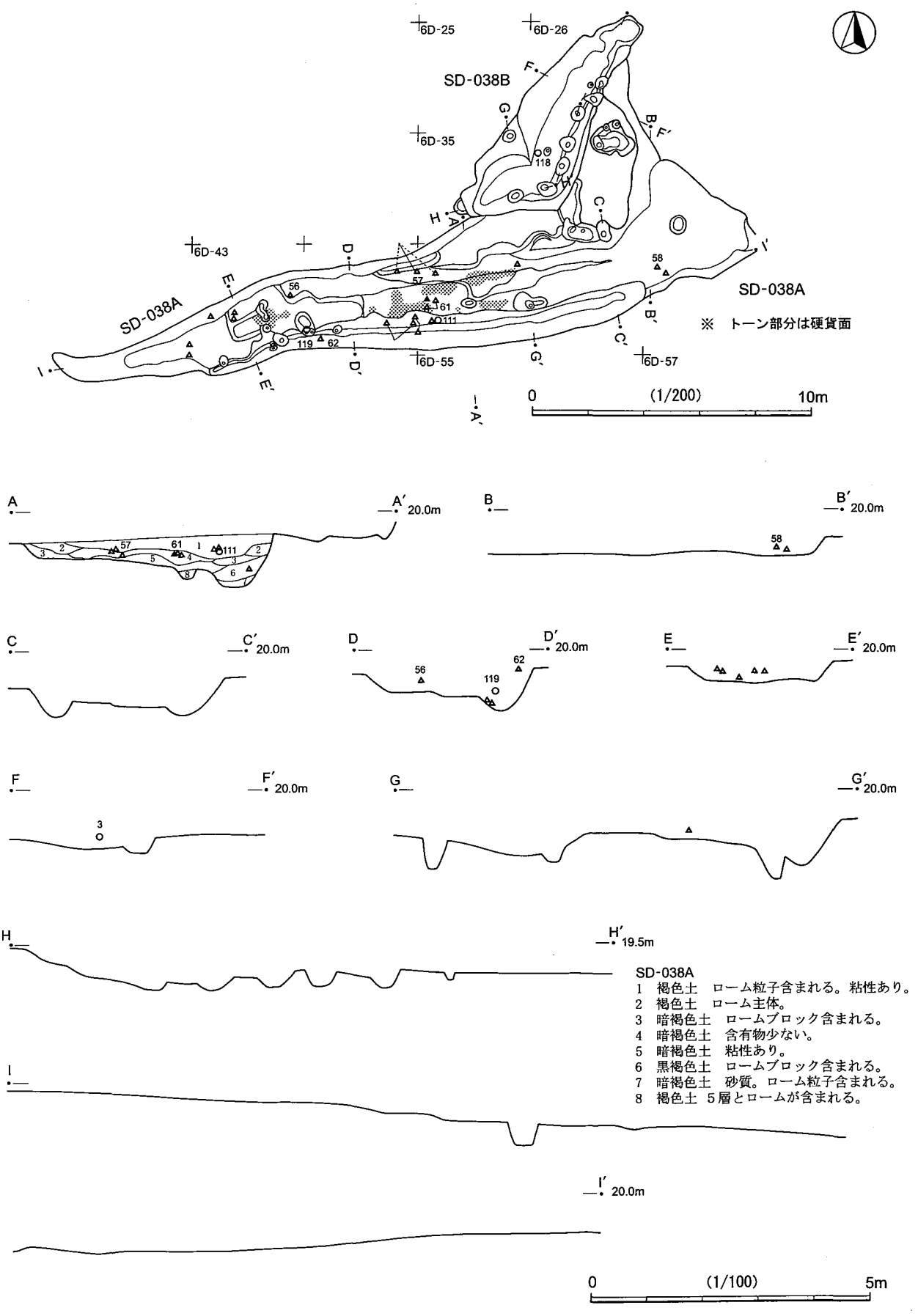
SX-010



SX-010
1 黒褐色砂質土 焼土・混入物なし。(以下同様)
2 褐色砂質土
3 灰褐色砂質土
4 褐色砂質土
5 灰色砂質土
6 黒褐色砂質土 粘性あり。
7 灰褐色砂質土 粘性あり。
8 灰褐色砂質土
9 黒色砂質土



第210図 SD-022・023・029・031・034～036・039, SX-010 断面図



SD-038A
1 褐色土　ローム粒子含まれる。粘性あり。
2 褐色土　ローム主体。
3 暗褐色土　ロームブロック含まれる。
4 暗褐色土　含有物少ない。
5 暗褐色土　粘性あり。
6 黒褐色土　ロームブロック含まれる。
7 暗褐色土　砂質。ローム粒子含まれる。
8 褐色土 5層とロームが含まれる。

第211図　SD-038A・B

ＳＤ－０４２・０４３（第207図）

調査区南端部の6D-60～91グリッドに位置し，一段高い面で北端部が検出されているが，SD-042の南側が北(3)遺跡のSD-007,SD-043の南側が北(3)遺跡のSD-006とその続きが硬化面を伴い検出されており，道路として機能したことが推定される。内容は第4章第4節を参照されたい。北(2)遺跡側のSD-042では，渥美甕(12～13世紀)片が出土した。

ＳＤ－０４６（第213・216図）

屋敷区画の東側6D-17～19グリッドに位置し，SD-034・035・SX-008に接するほぼ東西方向の溝である。調査時に遺構番号SD-039が重複していたので，改めて付けた番号であるが，遺物が多いことから，SD-039出土記録の遺物の多くは,本遺構出土と考えたい。主軸N-33°-E,長さ11.8ｍ・上端幅0.4ｍ～0.5ｍ・底幅0.15ｍ・深さ0.1ｍである。渥美甕(12～13世紀)・転用砥石(71)，常滑片口鉢(46)(14世紀)・甕，瀬戸擂鉢(16)(15世紀末～16世紀初頭)，五輪塔片(85)，砥石(90,91)などが出土した。

ＳＤ－０４７（第213図，図版119）

屋敷区画の南東部5C-96，6D-06に位置して，主軸は主軸N-23°-EでSD-034・035と併行する。長さ6.2ｍ・上端幅0.5ｍ・底幅0.3ｍ・深さ数cmである。SD-034内の溝と規模が近く併行し，間が2.1ｍとなることから，屋敷区画内外を結ぶ通路的な機能も考えられる。

(2) 大型竪穴遺構・整形区画

ＳＸ－００１（第212図，図版117・124・126）

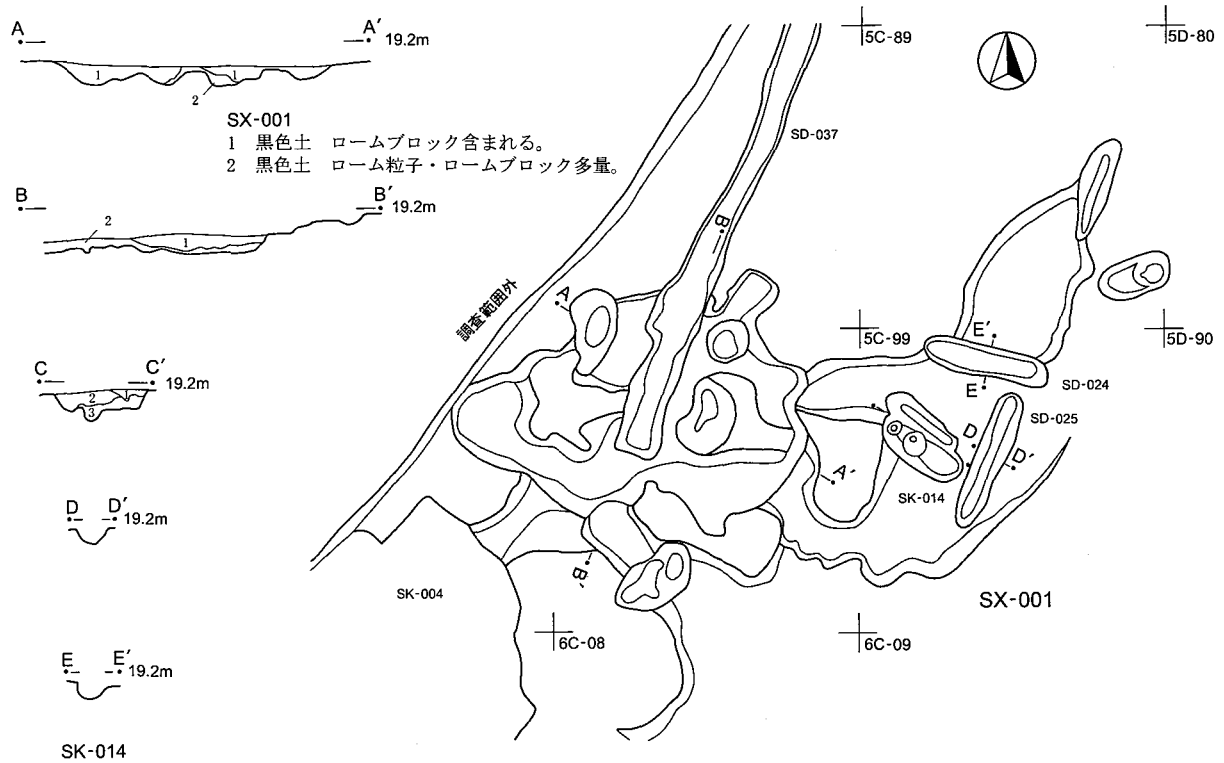
西部の調査区境5C-97～99グリッドに位置する浅い窪みの集合体的な遺構で，大型竪穴遺構としておく。平面形は不整形，規模は短軸5.6ｍ・長軸8ｍ・深さ0.2ｍ～0.3ｍである。覆土は黒色土主体である。キセル(108)が出土した。

ＳＸ－００２（第212図，図版117・118）

西側の調査区境5D-60～62グリッドに位置する。SD-013からつながるが，幅広くなる部分で大型竪穴遺構としておく。平面形は不整形，規模は短軸6ｍ・長軸は検出長7.6ｍ・深さ0.1ｍ～0.3ｍである。覆土はローム粒を含む暗褐色土，常滑壺，近世陶器，鉄滓(113)が出土した。基本的にはSD-013の連続であるが，機能的差異は不明である。

ＳＸ－００３・００４（第213・214図，図版118・119・125）

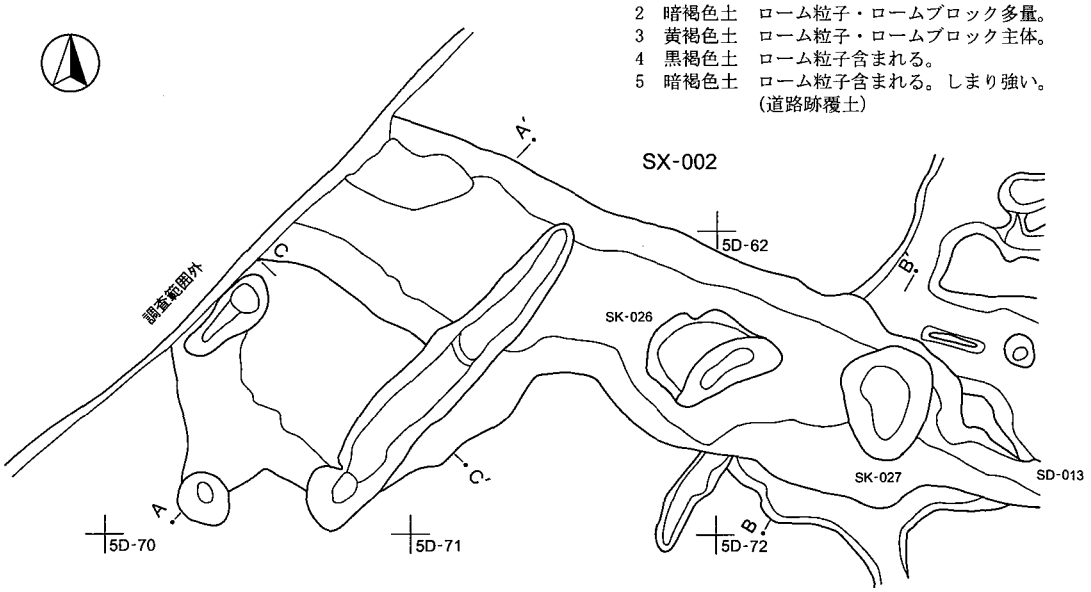
調査区中央部の5D-70代～90代に位置し，溝SD-009～013・034・035で方形に囲まれた内部に形成される整形区画である。SX-003・004共，平面形は不整台形であるが，合わせて長方形となる。SX-004の規模は短軸7.5ｍ・長軸14ｍで，南辺はSD-009に沿って北側に下がる段差であり，内部に掘立柱建物跡SB-005や土坑群が造られている。常滑片口鉢・甕片・転用砥石(72)，北宋銭が出土した。SX-003の規模は短軸6.8ｍ・長軸7ｍで，内部に土坑・ピット群が存在する。常滑甕片・転用砥石(79)が出土した。SX-003は，SX-004を削りSD-034を埋めて整形され，その上に掘立柱建物跡SB-006が建てられている。SD-035が埋められSD-034が掘られてSX-004・SB-005が併行し，次にSD-034が埋められてSX-003・SD-013・SB-006が併行したことが推測される。

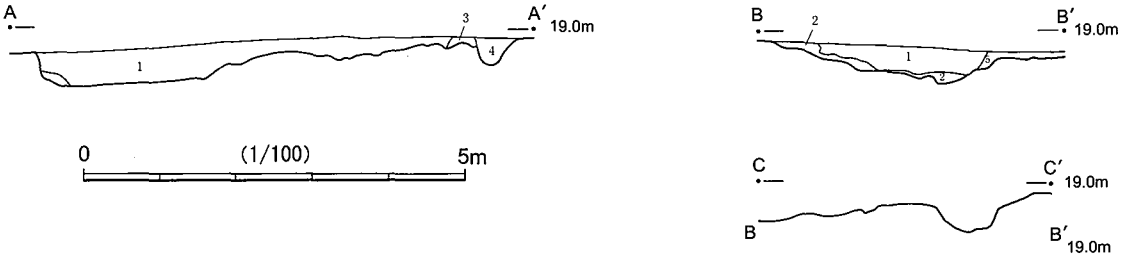


SX-001
1　黒色土　ローム粒子・ローム粒子多量。
2　黒色土　ローム粒子・ローム粒子多量。

SK-014
1　暗褐色土　ローム粒子含まれる。
2　黒褐色土　ローム粒子含まれる。
3　暗褐色土　ローム粒子・ローム粒子含まれる。

SX-002
1　暗褐色土　ローム粒子・ローム粒子含まれる。
2　暗褐色土　ローム粒子・ローム粒子多量。
3　黄褐色土　ローム粒子・ローム粒子主体。
4　黒褐色土　ローム粒子含まれる。
5　暗褐色土　ローム粒子含まれる。しまり強い。
（道路跡覆土）





第 212 図　SX-001・002

ＳＸ－００５（第215図，図版120）

調査区中央部東寄り5E-70・80グリッド他に位置する大型竪穴遺構である。平面形は不整方形，規模は短軸6.6ｍ・長軸7.4ｍで北側は緩やかに上がる。内部に短軸2.7ｍ・長軸4.9ｍ・SX-005上端からの深さ0.7ｍの不整長方形土坑があり，壁面に階段状のピット列が造られている。覆土は最下層が黒色土であるが，他はロームブロックを多く含む暗褐色土で人為的埋土である。

ＳＸ－００６（第207図，図版120・121）

6C-50～55グリッド他で，調査区南辺に沿って長さ46ｍ，南側から北側に落ちる高さ1ｍ前後の段差であり，北側つまり調査区全体が削平・整地されている。段差直下には底幅0.2ｍ～0.3ｍ・深さ0.1ｍの溝が沿う。段差近辺の土中から，常滑壺(13世紀)(53)・甕(64)・転用砥石(73)，古瀬戸深皿(13)(14世紀前半)，染付碗(16世紀末～17世紀初頭の明製品または肥前磁器)，瀬戸菊皿(15)(17世紀)，近世陶磁器，瀬戸磁器，カワラケ(27)，近代磁器，砥石(73)，火打ち石などが出土した。

ＳＸ－００７（第216図，図版121）

北部の調査区境4D-99・4E-80グリッド他に位置する大型竪穴遺構である。平面形は不整方形，規模は調査区内短軸6.8ｍ・長軸12.6ｍ・深さ0.3ｍ～0.4ｍで北側に徐々に下がる。内部に溝3条，土坑SK-049・050・ピットが存在する。溝は幅0.3ｍ～0.4ｍ・深さ0.1ｍである。覆土は黒色土主体で，常滑壺・甕(66)(多量)，近世陶磁器，近代磁器片が出土した。

ＳＸ－００８（第216図，図版119）

6D-08･09グリッド他で，SD-029の南端部に位置する大型竪穴遺構である。規模は短軸4.3ｍ･長軸6ｍ･深さ0.6ｍである。内部にピットが2基存在する。常滑片口鉢(51)・壺・甕片・転用砥石(74)が出土した。屋敷周りの排水を溜めてSD-029に流す一体の遺構に推測でき，形状が類似するSD-028南端部も同様な機能と考えられる。

ＳＸ－００９（第217図）

南東部調査区境6D-19・6E-10グリッド他に位置する整形区画で，東・北方向が低くなる。規模は調査区内短軸6ｍ・長軸9.4ｍ・深さ0.25ｍである。東側に溝SD-040・041・ピット群からなる恐らく掘立柱建物跡が推測できる。常滑壺片が出土した。

ＳＸ－０１０（第207・210図）

調査区境南端部6D-72・82・92他に位置する緩やかな擂鉢状整形区画である。平面形は不整楕円形，規模は調査区内短軸8ｍ・長軸15ｍ・深さ0.75ｍである。内部に遺構は検出されなかった。覆土は砂質土を重ねて整地されている。渥美甕(12～13世紀)，瀬戸鉢(14)(17世紀前葉)，近世陶器片が出土した。

(3) 掘立柱建物跡

ＳＢ－００３・００４（第218図，図版122）

調査区南端の6D-67・68グリッドの現道下で検出された。覆土はロームとやや暗い褐色土が混在し，精査途中で柱痕が幾重にも重複していることが判明した。標高は20ｍ地点で、すぐ北側で1～2ｍ近く下

がる段差(SX-006)がある。大半が調査エリア外でいずれも柱痕のうち北端の一部を検出したにすぎず，規模はかなり不正確である。SB-003とした柱穴群では5回から6回ほど建て替えた痕跡が認められる。規模は梁行1間×桁行1間以上・梁間2.8m，主軸はN-10°-Wである。柱穴の深さは最大0.7mでしっかりした掘り込みである。

ＳＢ－００５（第213・214図，図版118・119・125）

SX-004の北部の5D-74・75・84・85グリッドで5m×8mの範囲で柱穴が集中しており，複数回の建て替えが推測できるが，並びは判然としない。規模は梁行2間(3.6m)×桁行3間(5.4m)，主軸はN-78°-Wに推定でき，柱の深さは0.2m～0.6mである。しかし，SX-003はSX-004を削平し，SD-013と同時期であることが推測できることから，北側のSD-013内や北側のピット群がSB-005に関連する柱穴である可能性もある。

ＳＢ－００６（第213・214図，図版118・119）

SX-003の南部5D-96･97,6D-06･07でSD-034に重複して検出された。柱の深さは0.2m～0.7mである。主軸はN-68°-W，規模は梁行2間(3.6m)×桁行2間(4.1m)に推定できるが，南側のピット群も関係する可能性が考えられる。

(4) 柵列

ＳＡ－００１（第213・214図，図版129）

調査区中央部南寄り5D-93，6D-03～05グリッド他で，内部に土坑状の穴が並ぶ溝がSD-009にほぼ沿って南側に東西に延びる。主軸はN-67°-W，規模は長さ18.6m・柱穴の径0.9m程・深さ0.25m～0.35m，柱間は1.3m程である。覆土はしまりの弱い茶褐色土で，常滑壺・甕，中世カワラケ(28)が出土した。

ＳＡ－００２（第213・214図，図版130）

SA-001の西端近く6D-01・02グリッドで交差する様に径0.7m前後のピットが並ぶ。主軸はN-88°-W，規模は長さ4.3m・柱穴の深さ0.25m～0.4m・柱間は1.2m前後である。覆土はローム粒・ブロックを含む暗褐色土である。

ＳＡ－００３（第208・219図，図版130）

調査区北部の5E-00・10グリッドで，SD-029の西肩にやや交差する様に並ぶピット列である。主軸はN-18°-Eで，規模は長さ6.4m，柱穴は径0.3m前後・深さ0.3mである。

(5) その他の柱穴・ピット（第207・208図）

北部では，溝や土坑内以外では，SD-036とSD-013の間で30基程，SD-036の内側南寄りやSD-017周辺で10基程，SD-009とSA-001間を中心に10基程，計約50基が確認されている。南部では遺構内以外のピットは随所に見られるが，特にSD-033・038Bが形成する区画の北及び西側とSX-006の段上は顕著である。前者は掘立柱建物跡の可能性もあるが，並びが判然としないことから植栽痕の可能性も考えられる。以下は調査時に土坑(SK)とされた遺構で整理時にSHとしたが，他に後述するSK-009～011等は内部にピットが並び柵列的な区画が推測される。南部で番号のないピットは約70基，調査区内計約120基である。

ＳＨ－０１６（第213・222図，図版133）

SD-012の西端部5D-71グリッドに位置する。平面形は楕円形，規模は短軸0.81ｍ・長軸1.25ｍ・深さ0.45ｍである。覆土にはドーナツ状に山砂が入り込むことから，柱穴跡と考えられる。

ＳＨ－０１７（第213・222図，図版133）

SD-011内部5D-71グリッドに位置する。平面形は楕円形，規模は短軸0.66ｍ・長軸0.87ｍ・深さ0.6ｍである。覆土には山砂が入り込むことから，SK-016同様に柱穴跡と考えられる。

ＳＨ－０１８（第213・222図，図版134）

SD-011の西端部5D-72グリッドに位置する。平面形は楕円形で，内部に長楕円形ピットが2基存在する。規模は短軸0.65ｍ・長軸0.85ｍ・深さ0.3ｍ，覆土はローム粒を含む黒褐色土である。

ＳＨ－０２２（第213図）

SK-009の北側6D-02･03グリッドに位置するピット2基の重複である。平面形は楕円形，規模は短軸0.4ｍ・長軸0.56ｍ・深さ0.3ｍである。

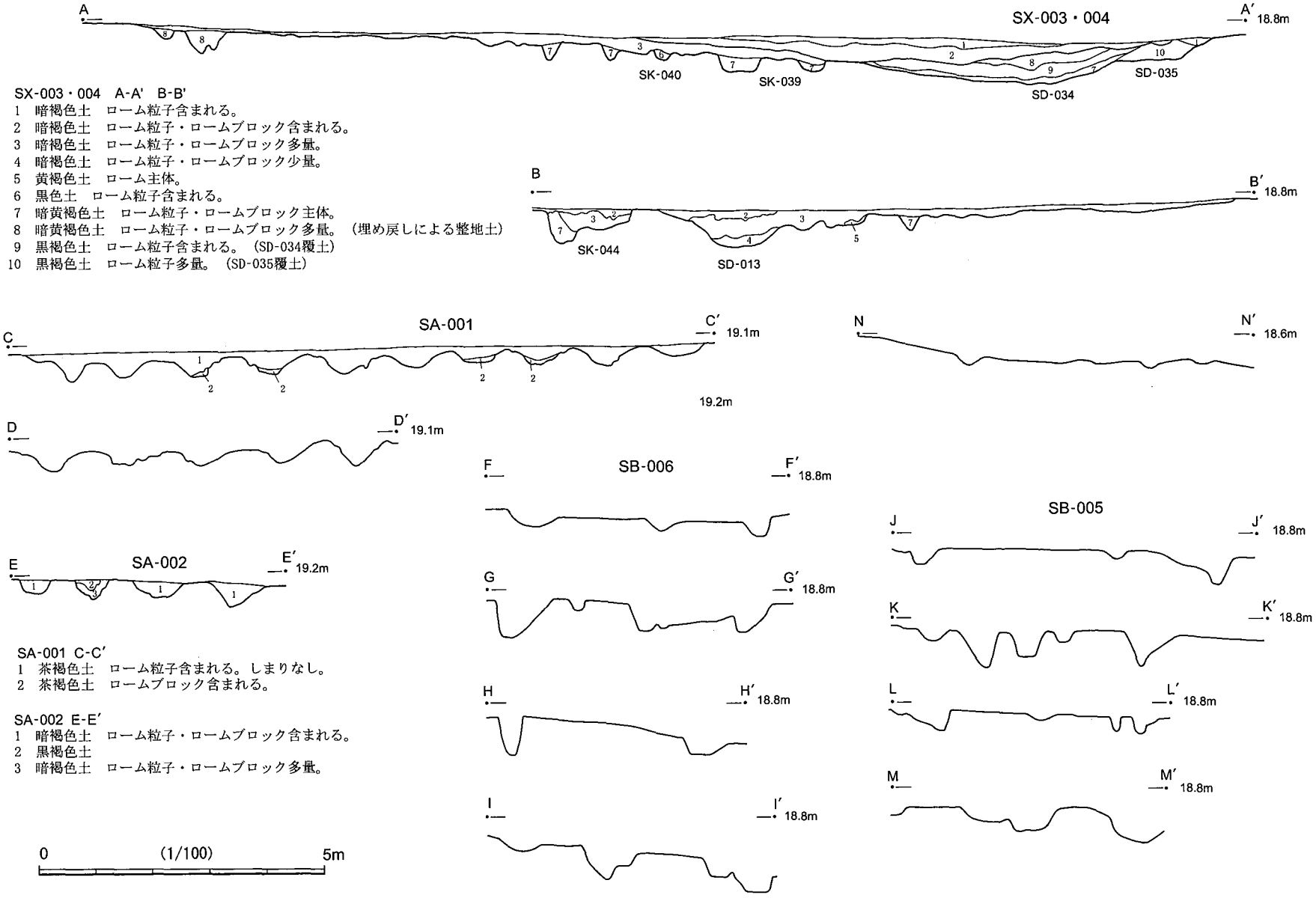
ＳＨ－０２３（第213図）

SH-022の北東6D-02グリッドに位置し，ピット2基の重複である。平面形は楕円形，規模は短軸0.34ｍ・長軸0.55ｍ・深さ0.57ｍである。

ＳＨ－０２４（第213図）

SH-023の北東6D-02グリッドに位置する。平面形は円形，規模は短軸0.55ｍ・長軸0.6ｍ・深さ0.25ｍのピットである。

第 213 図　中央部遺構群

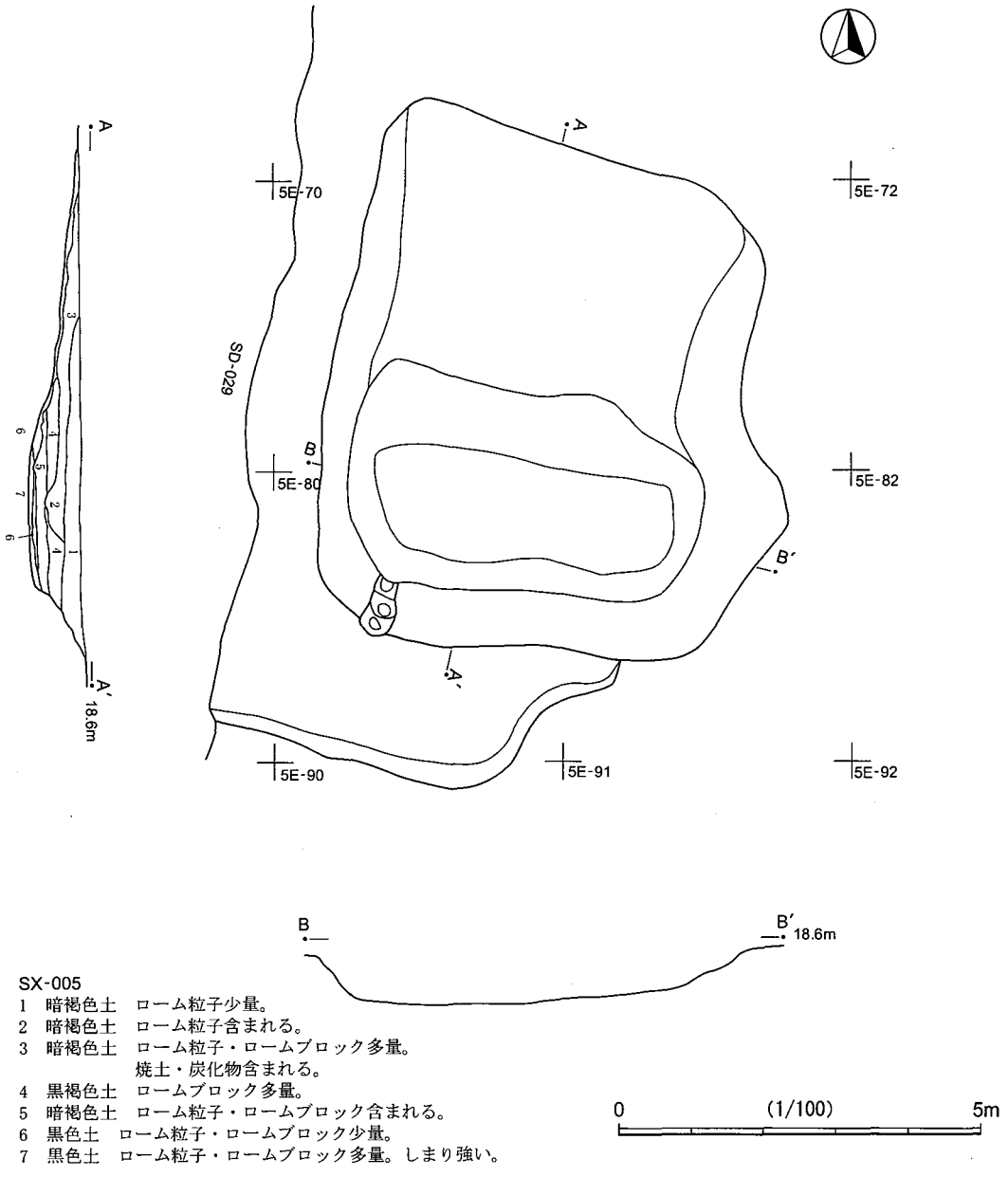


SX-003・004 A-A' B-B'
1 暗褐色土 ローム粒子含まれる。
2 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック含まれる。
3 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量。
4 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量。
5 黄褐色土 ローム主体。
6 黒色土 ローム粒子含まれる。
7 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック主体。
8 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量。（埋め戻しによる整地土）
9 黒褐色土 ローム粒子含まれる。（SD-034覆土）
10 黒褐色土 ローム粒子多量。（SD-035覆土）

SA-001 C-C'
1 茶褐色土 ローム粒子含まれる。しまりなし。
2 茶褐色土 ロームブロック含まれる。

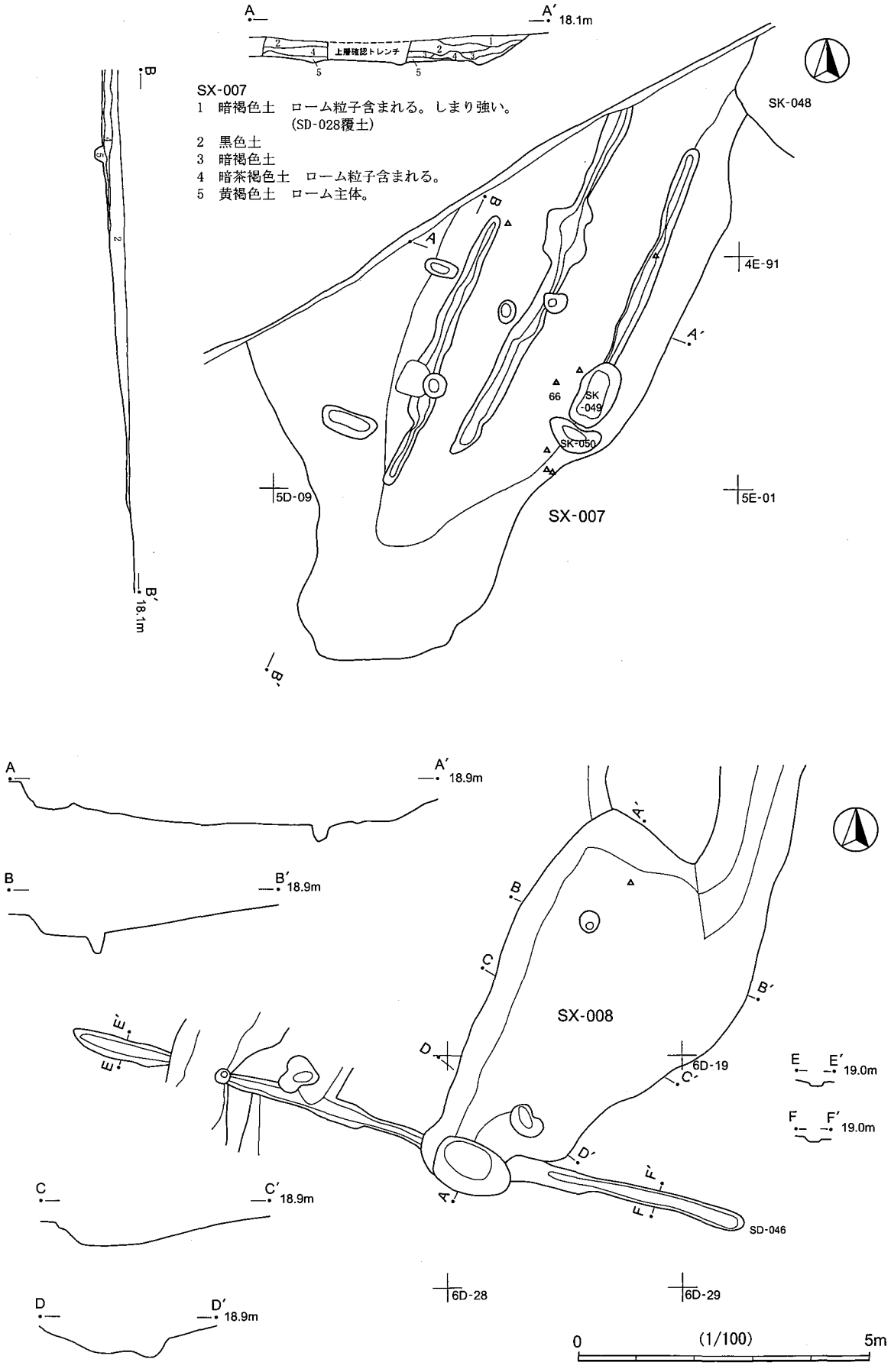
SA-002 E-E'
1 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック含まれる。
2 黒褐色土
3 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量。

第214図 SX-003・004, SB-005・006, SA-001・002 断面図

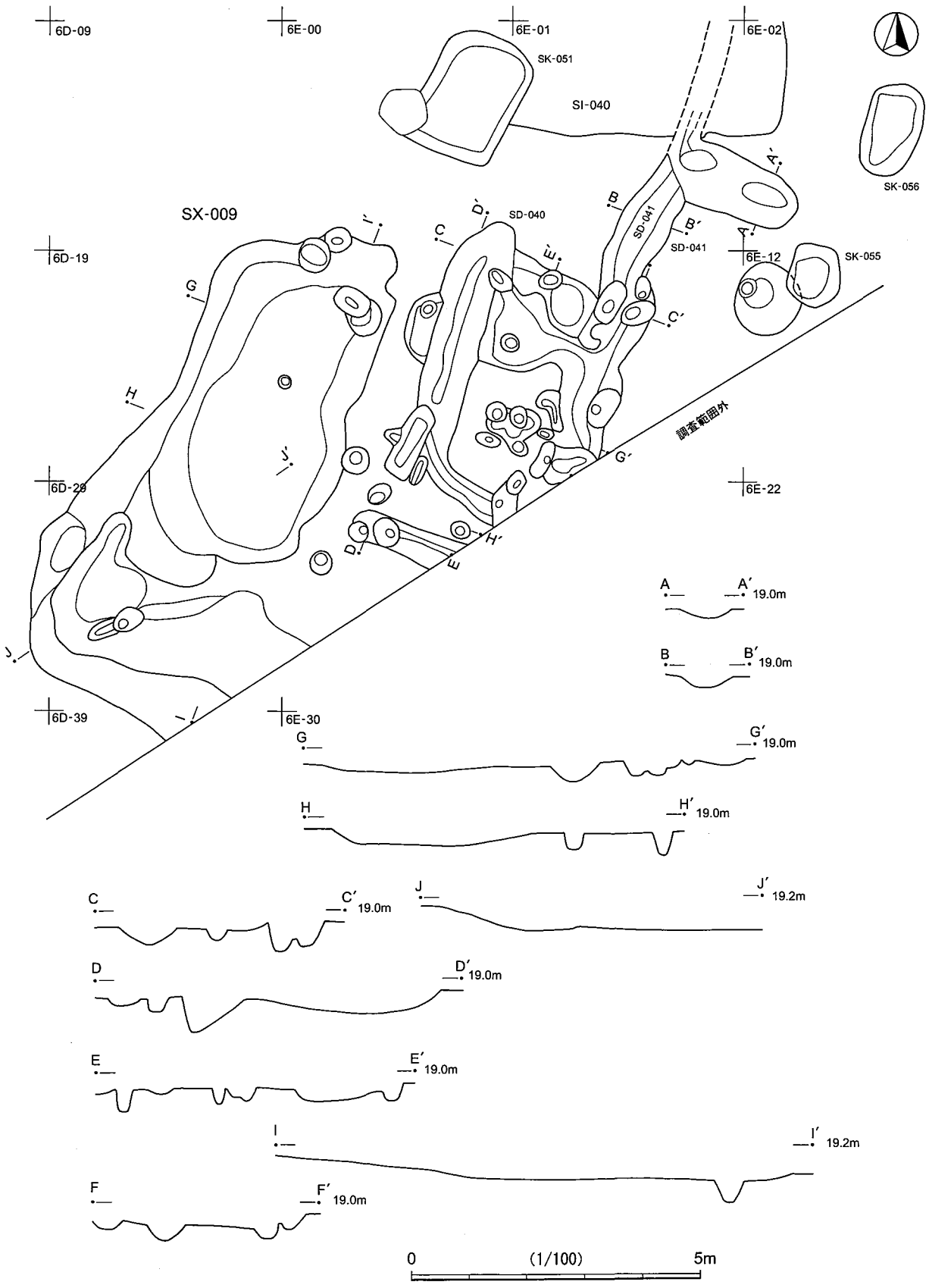


SX-005
1 暗褐色土　ローム粒子少量。
2 暗褐色土　ローム粒子含まれる。
3 暗褐色土　ローム粒子・ロームブロック多量。
　　焼土・炭化物含まれる。
4 黒褐色土　ロームブロック多量。
5 暗褐色土　ローム粒子・ロームブロック含まれる。
6 黒色土　ローム粒子・ロームブロック少量。
7 黒色土　ローム粒子・ロームブロック多量。しまり強い。

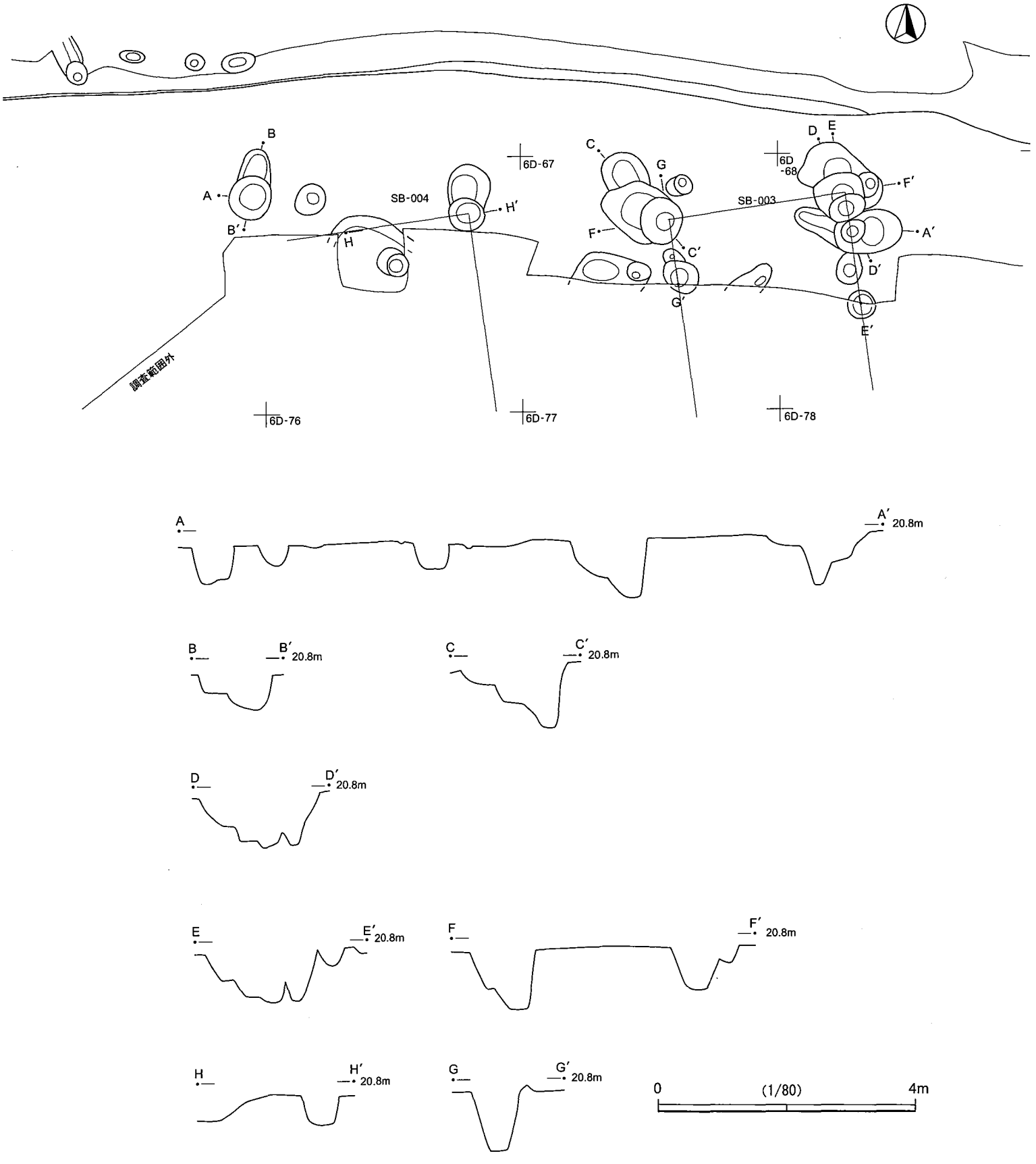
第215図　SX-005



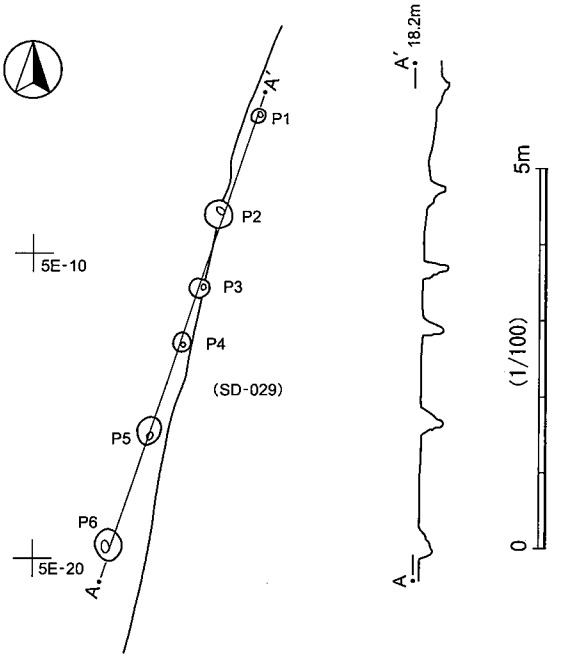
第 216 図　SX-007・008, SD-039



第217図　SX-009周辺



第218図　SB-003・004



第219図　SA-003

(6) 土坑

方形竪穴遺構(SK-051)・粘土貼土坑(SK-053・055・056・061)・火葬土坑(SK-006・036・045)を含むが，遺構番号順に説明することとする。

ＳＫ－００１（第220図，図版131）

調査区南西部の調査区境6C-06グリッドに位置する。平面形は長方形，規模は短軸0.54ｍ・長軸1.08ｍ・深さ0.3ｍである。覆土はローム粒を含む暗褐色土である。

ＳＫ－００２（第220図，図版131）

6C-16グリッドに位置する。平面形は楕円形，規模は短軸0.64ｍ・長軸0.82ｍ・深さ0.37ｍである。覆土はローム主体の黄褐色土である。

ＳＫ－００３（第220図，図版131）

6C-16・17グリッドに位置する。土坑2基が重複し，平面形は不整楕円形，規模は短軸1.0ｍ・長軸2.2ｍ・深さ0.54ｍである。覆土はローム粒を含む暗褐色土である。

ＳＫ－００４（第220図，図版131）

5C-97，6C-07グリッドに位置する複数の土坑の重複箇所である。全体規模は短軸3.2ｍ・長軸4.8ｍ・深さ1.5ｍである。覆土は中層にロームブロックを含む黒色土，その上下にロームブロック主体の黄褐色土があり，最上層は天井崩落土とも推測できることから，地下式坑の可能性もあるが，底部の凹凸や竪坑が明確ではないことなどから不確実である。また，南側の深い溝状遺構は縄文時代陥穴の可能性がある。

ＳＫ－００５（第221図，図版131）

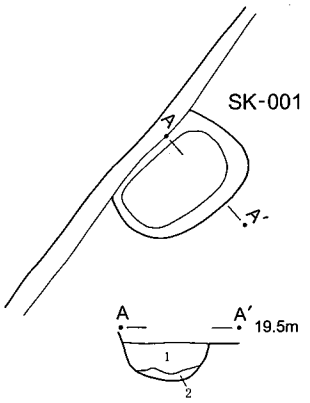
調査区南部6D-00グリッドでSD-008先端部に位置する。平面形は円形，規模は短軸0.68ｍ・長軸0.74ｍ・深さ0.4ｍである。内部にピットが複数存在する。

ＳＫ－００６（第221図，図版131）

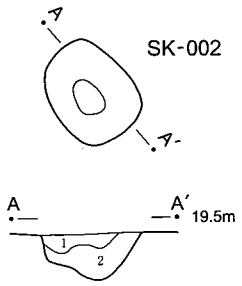
調査区南西部6C-29グリッドに位置する火葬土坑である。平面形は円形と長方形が接するＴ字形，規模は短軸1.5ｍ・長軸1.94ｍ・深さ0.4ｍである。覆土は，溝状の窪みに焼土があり，上層はロームブロックが堆積し，円形部に掻き出したと考えられる黒色土があることから，方形部が燃焼部で天井と円形部の作業場所をつなぐトンネルが崩落したものと推測される。

ＳＫ－００７（第221図，図版132）

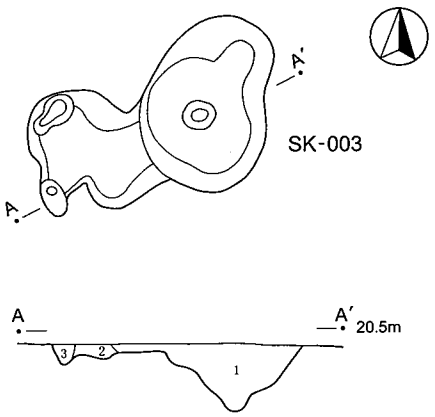
6D-00・10グリッドでSD-006の北西部に接する。平面形は円形，規模は短軸0.9ｍ・長軸1ｍ・深さ0.38ｍである。覆土はローム粒・炭化物を含む黒褐色土主体である。東側の不整形な落ち込みの覆土は黒色土である。



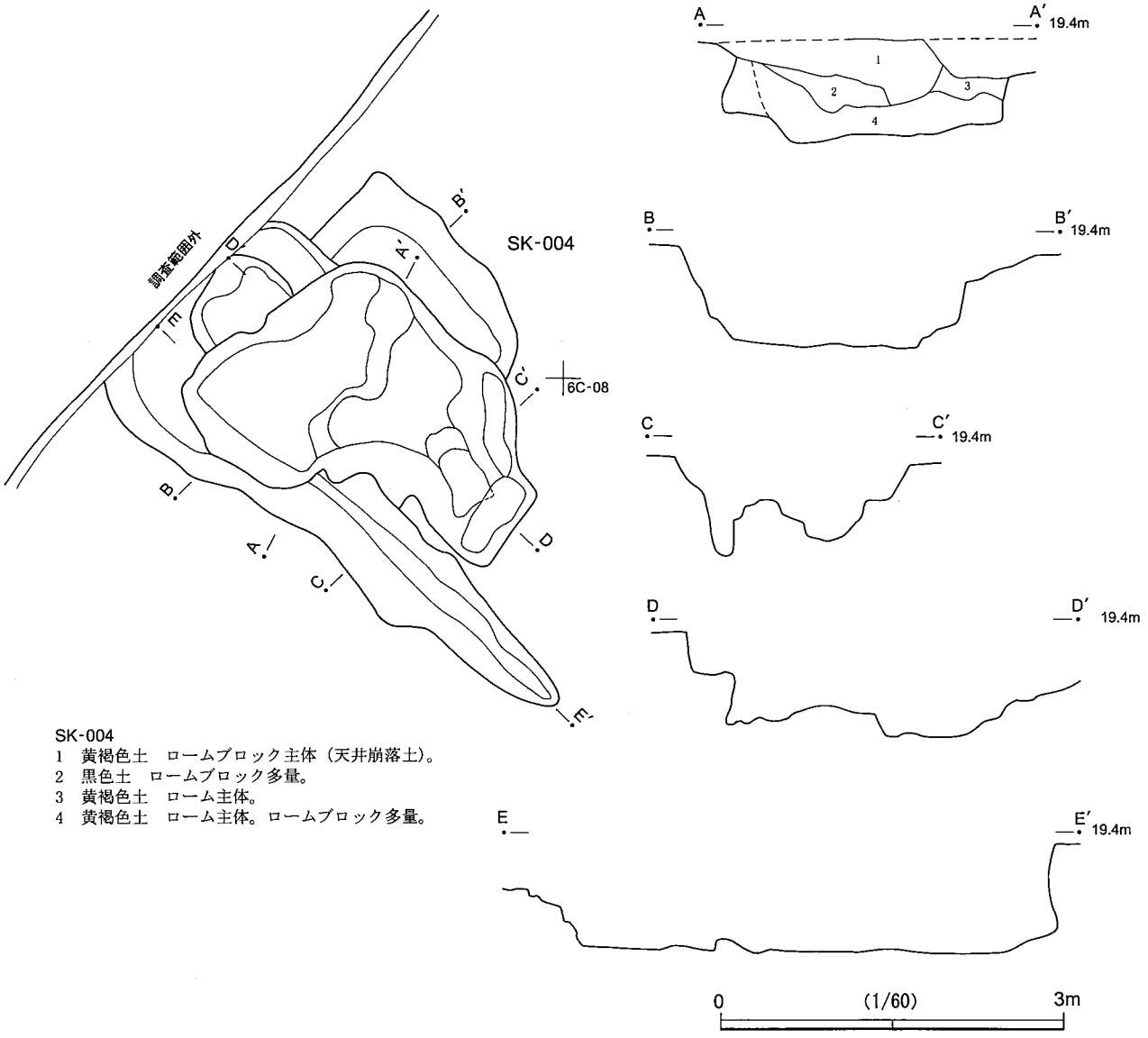
SK-001
1　暗褐色土　ローム粒子含まれる。
2　黄褐色土　ローム主体。黒色土少量。



SK-002
1　暗褐色土　ローム粒子含まれる。
2　黄褐色土　ローム主体。黒色土少量。

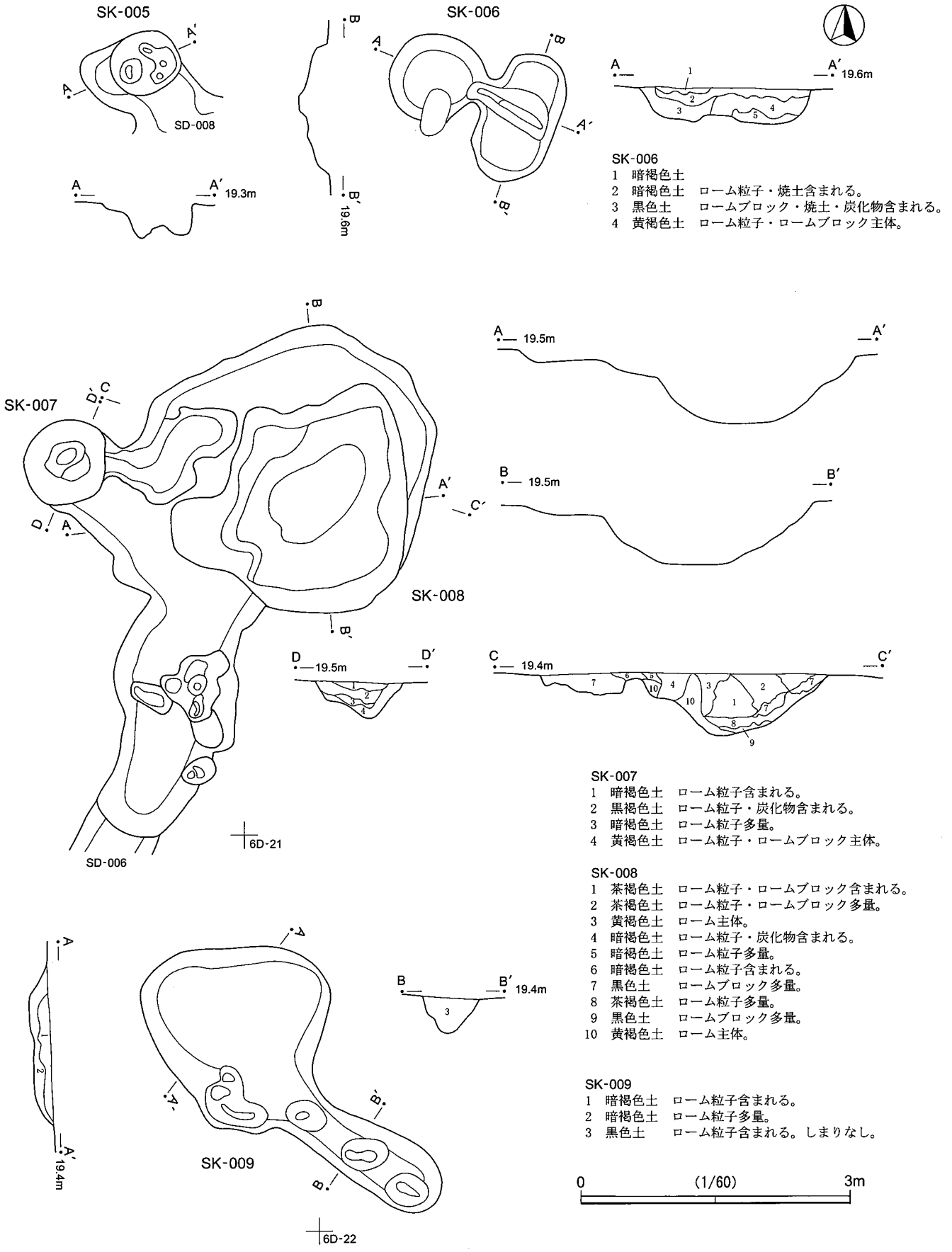


SK-003
1　暗褐色土　ローム粒子含まれる。
2　黄褐色土　ローム主体。
3　暗褐色土



SK-004
1　黄褐色土　ロームブロック主体（天井崩落土）。
2　黒色土　ロームブロック多量。
3　黄褐色土　ローム主体。
4　黄褐色土　ローム主体。ロームブロック多量。

第 220 図　SK-001 ～ 004



第221図 SK-005～009

ＳＫ－００８（第221図，図版132）

6D-00・10グリッド他でSD-006の北東端に位置する。平面形は不整楕円形，断面は擂鉢状である。規模は短軸2.1ｍ・長軸2.73ｍ・深さ0.8ｍである。覆土はローム粒を多く含む茶褐色土主体で黒色土層も含み，常滑甕・近世磁器が出土した。倒木痕の可能性も考えられる。

ＳＫ－００９（第221図，図版132）

6D-11・12グリッドでSK-008の東側に位置する。平面形は不整楕円形に溝状の突出部があり，溝内部にピット列がある。規模は短軸0.5ｍ・長軸4.05ｍ・深さ0.4ｍである。本体部の覆土はローム粒を多く含む暗褐色土主体で，溝状遺構は黒色土主体である。白磁皿(1)(14世紀)が出土した。

ＳＫ－０１０（第222図，図版132）

6D-12･22グリッドに位置し，SK-009の東側に隣接する。平面形は楕円形で内部にピットが2基存在する。規模は短軸0.67ｍ・長軸1.12ｍ・深さ0.54ｍ。覆土はローム粒・ブロックを多く含む黒色土主体である。柱穴の可能性も考えられる。

ＳＫ－０１１（第222図，図版132）

6D-22・23グリッドでSK-010の東側に位置する。平面形は長方形で，内部にピットが4基存在する。規模は短軸1.06ｍ・長軸2.04ｍ・深さ0.78ｍである。覆土はローム粒・ブロックを多く含む黒褐色土主体である。SD-005とほぼ平行するSD-006とSK-009～011の方向が直角に交わり，内部にピットを有することから，西側のSD-004・005・SD-031が形成する区画に関連して，その東側に区画を形成していることも推測される。

ＳＫ－０１２（第213図）

6D-01グリッドに位置する。平面形は楕円形，規模は短軸0.9ｍ・長軸1.25ｍ・深さ0.95ｍである。

ＳＫ－０１３（第213・222図，図版133）

調査区中央部西寄りの5D-72グリッドに位置し，SD-011に重複する。平面形は円形，規模は短軸0.6ｍ・長軸0.67ｍ・深さ0.33ｍである。覆土はローム粒・ブロックを含む黒褐色土である。

ＳＫ－０１４（第212図，図版117）

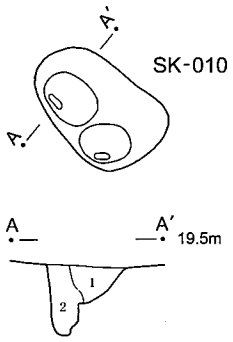
調査区南西部の5C-99グリッドでSX-001内に位置する。平面形は2条の浅い溝状で内部に2基のピットが存在する。規模は短軸0.7ｍ・長軸1.4ｍ・深さ0.25ｍである。

ＳＫ－０１５（第213・222図，図版133）

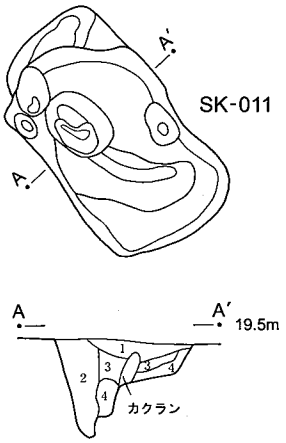
調査区中央部の5D-92グリッドでSD-008とSA-001の間に位置する。平面形は楕円形，規模は短軸0.84ｍ・長軸1.27ｍ・深さ0.24ｍである。覆土はローム粒を含むしまりの弱い黒色土である。

ＳＫ－０１９（第213・222図，図版134）

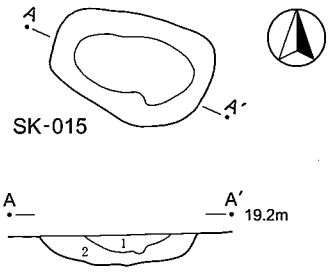
調査区中央部西寄りの5D-72グリッドでSD-011内部に位置する。平面形は楕円形，規模は短軸0.7ｍ・長軸0.8ｍ・深さ0.33ｍ，覆土はローム粒・ブロックを含む暗褐色土である。



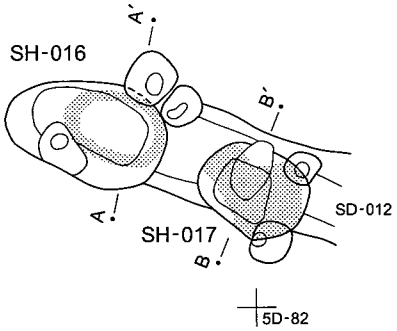
SK-010
1 黒色土
2 黒色土 ローム粒子・ロームブロック多量。

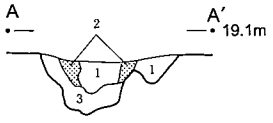


SK-011
1 黒褐色土
2 黒褐色土 ローム粒子・ロームブロック含まれる。
3 黒褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量。
4 黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック主体。

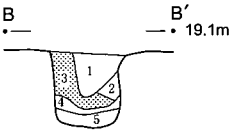


SK-015
1 黒色土 ローム粒子含まれる。しまりなし。
2 黒色土 ローム粒子・ロームブロック含まれる。
しまりなし。

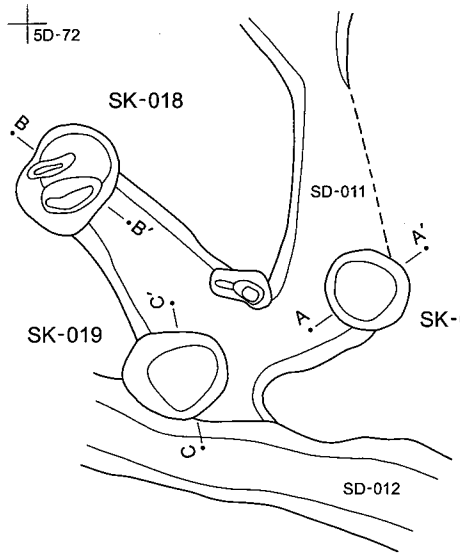


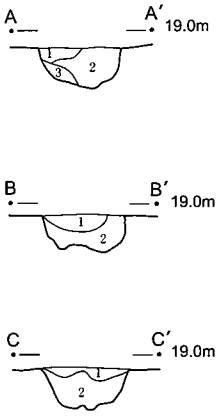


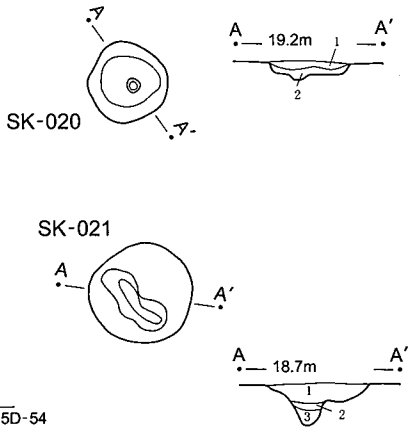
SH-016
1 褐色土
2 山砂
3 暗褐色土



SH-017
1 暗褐色土
2 暗褐色土 ローム粒子含まれる。
3 山砂
4 黒色土
5 黄褐色土 ローム主体。







SK-013
1 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック含まれる。
2 黒褐色土 ローム粒子・ロームブロック含まれる。
3 黄褐色土 ローム粒子主体。

SK-018
1 黒褐色土 ローム粒子含まれる。
2 黒褐色土 ロームブロック含まれる。

SK-019
1 黒褐色土 ロームブロック含まれる。
2 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック含まれる。

SK-020
1 暗褐色土 ローム粒子含まれる。
2 黄褐色土 ローム主体。

SK-021
1 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック含まれる。
2 黒褐色土 ローム粒子含まれる。
3 黄褐色土 ローム粒子・ロームブロック主体。
しまりなし。

0 (1/60) 3m

第222図 SK-010・011・013・015・018～021, SH-016・017

ＳＫ－０２０（第213・222図）

5D-83グリッドでSD-012とSD-009の間に位置する。平面形は円形で，内部に小ピットが存在する。規模は短軸・長軸とも0.63ｍ・深さ0.14ｍ，覆土下層はローム粒主体の黄褐色土である。

ＳＫ－０２１（第222図）

5D-44グリッドでSD-014とSD-016の間に位置する。平面形は円形で，内部に長楕円形のピットが存在する。規模は短軸･長軸とも0.78ｍ･深さ0.32ｍ，覆土下層はローム粒･ブロック主体の黄褐色土である。

ＳＫ－０２６（第212・223図，図版117・134）

5D-61・62グリッドでSX-002内に位置する。平面形は不整楕円形，規模は短軸1.12ｍ・長軸1.76ｍ・深さ0.36ｍである。覆土はローム粒・ブロックを多く含む暗褐色土である。

ＳＫ－０２７（第212・223図，図版117・134）

5D-62グリッドでSX-002の底部に位置する。平面形は不整楕円形，規模は短軸1.05ｍ・長軸1.56ｍ・深さ0.43ｍである。

ＳＫ－０２８（第213図）

調査区南部の6D-13グリッドに位置する。平面形は楕円形，規模は短軸0.85ｍ･長軸0.9ｍ･深さ0.45ｍである。

ＳＫ－０２９（第213・223図，図版134）

5D-92グリッドに位置し，SA-001の西端部に隣接する。平面形は不整円形，規模は短軸0.74ｍ･長軸0.85ｍ・深さ0.18ｍである。

ＳＫ－０３０（第213・223図）

調査区中央部5D-83グリッドでSX-004の西側境界に接する。平面形は円形，規模は短軸0.94ｍ・長軸1.14ｍ・深さ0.13ｍである。覆土はローム粒を含む茶褐色土である。

ＳＫ－０３１（第213・223図）

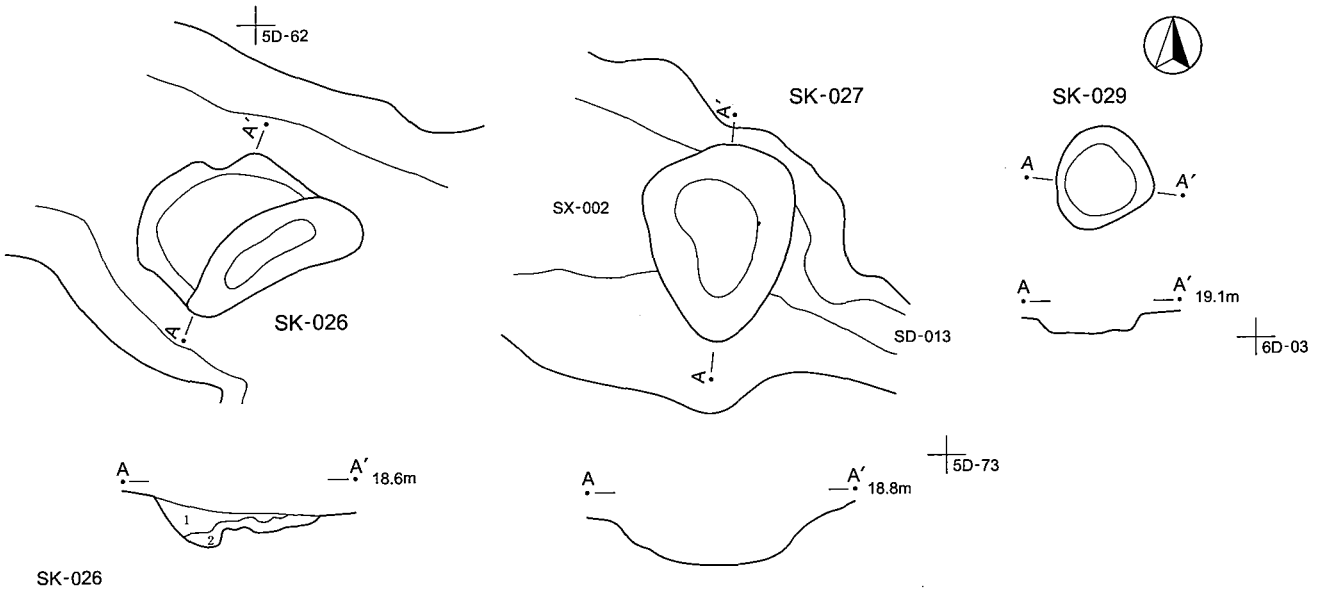
5D-83･84グリッド他でSX-004の南西隅に位置する。平面形は不整楕円形，規模は短軸1.0ｍ･長軸1.14ｍ・深さ0.08ｍである。

ＳＫ－０３２（第213・223図）

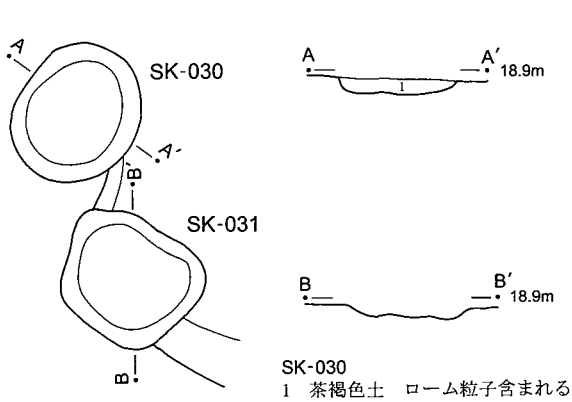
5D-84グリッドに位置し，SX-004内でSB-005の西辺に接する。平面形は楕円形，規模は短軸0.99ｍ・長軸1.09ｍ・深さ0.5ｍである。覆土はローム粒・ブロックを含む黒褐色土・暗褐色土で人為的埋土と見られる。

ＳＫ－０３３（第213・223図，図版118・135）

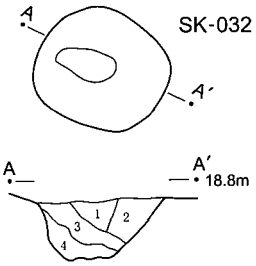
5D-95グリッドでSX-004内のSB-005南側に位置する。平面形は不整楕円形，規模は短軸1.35ｍ・長軸3.0ｍ・深さ0.4ｍである。覆土はローム粒・ブロックを多く含む暗褐色土・黄褐色土で人為的埋土である。



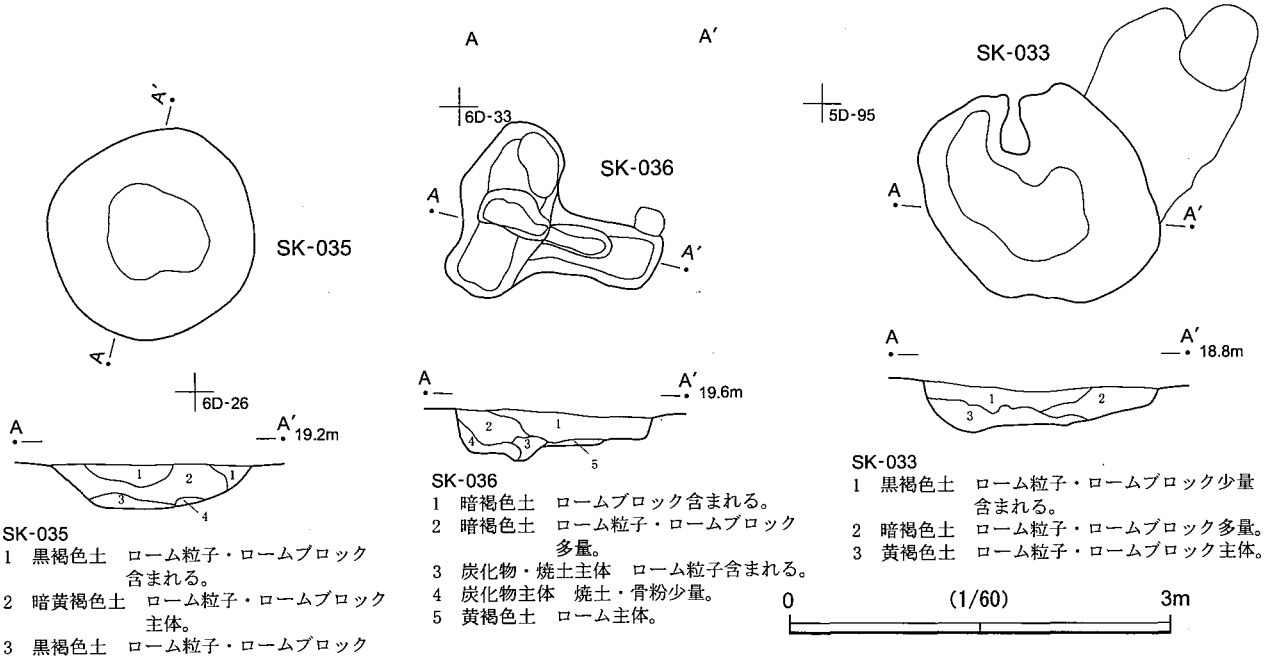
SK-026
1 暗褐色土　ローム粒子・ロームブロック含まれる。
2 暗褐色土　ローム粒子・ロームブロック多量。



SK-030
1 茶褐色土　ローム粒子含まれる。



SK-032
1 暗褐色土　ローム粒子含まれる。
2 暗黄褐色土　ローム粒子・ロームブロック主体。
3 黒褐色土　ローム粒子・ロームブロック含まれる。
4 黄褐色土　ローム粒子・ロームブロック主体。



SK-035
1 黒褐色土　ローム粒子・ロームブロック含まれる。
2 暗黄褐色土　ローム粒子・ロームブロック主体。
3 黒褐色土　ローム粒子・ロームブロック含まれる。
4 黄褐色土　ローム粒子・ロームブロック主体。

SK-036
1 暗褐色土　ロームブロック含まれる。
2 暗褐色土　ローム粒子・ロームブロック多量。
3 炭化物・焼土主体　ローム粒子含まれる。
4 炭化物主体　焼土・骨粉少量。
5 黄褐色土　ローム主体。

SK-033
1 黒褐色土　ローム粒子・ロームブロック少量含まれる。
2 暗褐色土　ローム粒子・ロームブロック多量。
3 黄褐色土　ローム粒子・ロームブロック主体。

第223図　SK-026・027・029～033・035・036

ＳＫ－０３４（第213図）

調査区南部の6D-13グリッドに位置する。平面形は楕円形，規模は短軸0.7ｍ・長軸0.88ｍ・深さ0.45ｍである。常滑片口鉢片(38)(13世紀)が出土した。

ＳＫ－０３５（第213・223図）

6D-15グリッドでSD-026とSD-038Bの間に位置する。平面形は円形，規模は短軸1.65ｍ・長軸1.7ｍ・深さ0.34ｍである。

ＳＫ－０３６（第223図，図版135）

調査区南部6D-33グリッドでSD-033の西側に位置する火葬土坑である。平面形はＴ字形で推定作業場空間が長方形である。規模は短軸1.4ｍ・長軸1.64ｍ・深さ0.4ｍである。覆土状況はSK-006と同様で，骨粉や炭化物が出土した。

ＳＫ－０３７（第224図，図版135）

6D-24グリッドでSD-033の北側に位置する。平面形は不整隅丸長方形，規模は短軸1.22ｍ・長軸2.1ｍ・深さ1.45ｍである。覆土は下層がローム粒・ブロックが多い人為的埋土であるが，上層は黒褐色土である。

ＳＫ－０３８（第224図）

6D-24グリッドに位置し，SD-006の南端部に接する。平面形は楕円形，規模は短軸0.84ｍ・長軸1.1ｍ・深さ0.14ｍである。

ＳＫ－０３９（第224図，図版118・135）

調査区中央部5D-86グリッドでSX-003内に位置する。平面形は長方形，規模は短軸0.8ｍ・長軸1.35ｍ・深さ0.28ｍである。覆土はローム粒・ブロック主体の暗黄褐色土で，人為的埋土である。

ＳＫ－０４０（第224図，図版118・135）

5D-86グリッドでSX-003内に位置する。平面形は長方形，規模は短軸0.94ｍ・長軸1.32ｍ・深さ0.32ｍである。覆土はローム粒・ブロック主体の黄褐色土で，人為的埋土である。

ＳＫ－０４１（第224図，図版118・135）

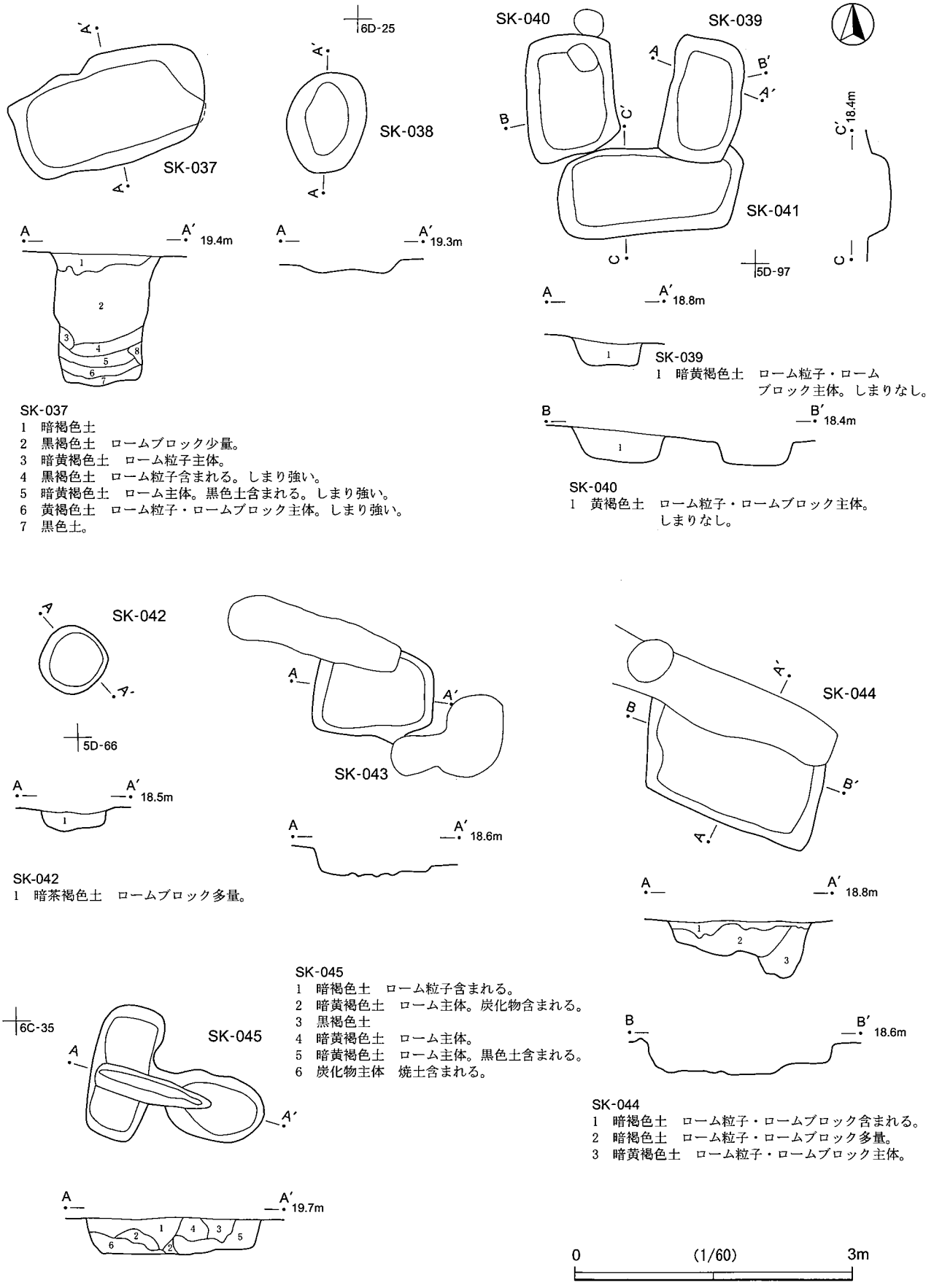
5D-86グリッドに位置し，SX-003内でSK-039・040と重複する。平面形は長方形，規模は短軸0.92ｍ・長軸1.94ｍ・深さ0.24ｍである。

ＳＫ－０４２（第224図）

調査区中央部北寄りの5D-55グリッドでSD-036の南辺肩部に位置する。平面形は円形，規模は短軸0.74ｍ・長軸0.75ｍ・深さ0.2ｍである。覆土はロームブロックを多く含む暗茶褐色土である。

ＳＫ－０４３（第224図，図版118・135）

調査区中央部5D-85グリッドに位置し，SX-004内でSB-005の東辺に接する。平面形は隅丸方形，規模は短軸0.98ｍ・長軸1.3ｍ・深さ0.28ｍである。



SK-037
1 暗褐色土
2 黒褐色土　ロームブロック少量。
3 暗黄褐色土　ローム粒子主体。
4 黒褐色土　ローム粒子含まれる。しまり強い。
5 暗黄褐色土　ローム主体。黒色土含まれる。しまり強い。
6 黄褐色土　ローム粒子・ロームブロック主体。しまり強い。
7 黒色土。

SK-039
1 暗黄褐色土　ローム粒子・ローム
ブロック主体。しまりなし。

SK-040
1 黄褐色土　ローム粒子・ロームブロック主体。
しまりなし。

SK-042
1 暗茶褐色土　ロームブロック多量。

SK-045
1 暗褐色土　ローム粒子含まれる。
2 暗黄褐色土　ローム主体。炭化物含まれる。
3 黒褐色土
4 暗黄褐色土　ローム主体。
5 暗黄褐色土　ローム主体。黒色土含まれる。
6 炭化物主体　焼土含まれる。

SK-044
1 暗褐色土　ローム粒子・ロームブロック含まれる。
2 暗褐色土　ローム粒子・ロームブロック多量。
3 暗黄褐色土　ローム粒子・ロームブロック主体。

第224図　SK-037～045

ＳＫ－０４４（第224図，図版118・135）

5D-66･76グリッドでSD-036とSD-013の間に位置する。平面形は長方形，規模は短軸0.86ｍ･長軸2.0ｍ・深さ0.51ｍである。覆土はロームブロックを多く含む暗褐色土主体で，人為的埋土である。

ＳＫ－０４５（第224図，図版123・136）

6C-39グリッドでSK-006の南側に位置する火葬土坑である。平面形はSK-006と同様なＴ字形である。規模は短軸1.45ｍ・長軸1.9ｍ・深さ0.4ｍである。覆土状況・使用方法もSK-006・045と同様である。

ＳＫ－０４６（第225図，図版136）

調査区南西部6C-25グリッドでSD-022の南端部に位置する。平面形は隅丸方形，規模は短軸1.35ｍ・長軸2.7ｍ・深さ0.6ｍである。

ＳＫ－０４７（第225図）

6C-16グリッドでSD-022の北端部に位置する。平面形は楕円形，規模は短軸1.38ｍ・長軸1.74ｍ・深さ0.26ｍである。

ＳＫ－０４８（第225図，図版127・136）

調査区北部の4E-81グリッドでSD-029とSX-007にまたがる大型の掘り込みである。平面形は楕円形，底部は方形である。規模は短軸2.82ｍ・長軸3.62ｍ・深さ1.36ｍである。覆土はローム粒・ブロックを多く含む暗褐色土と黒色土の互層で人為的埋土である。鉄製工具が出土した。

ＳＫ－０４９（第226図，図版121・136）

4E-90グリッドでSX-007内に位置する。平面形は長方形，規模は短軸0.64ｍ･長軸1.15ｍ･深さ0.26ｍである。覆土はロームブロックを含むしまりの弱い暗褐色土である。

ＳＫ－０５０（第226図，図版121）

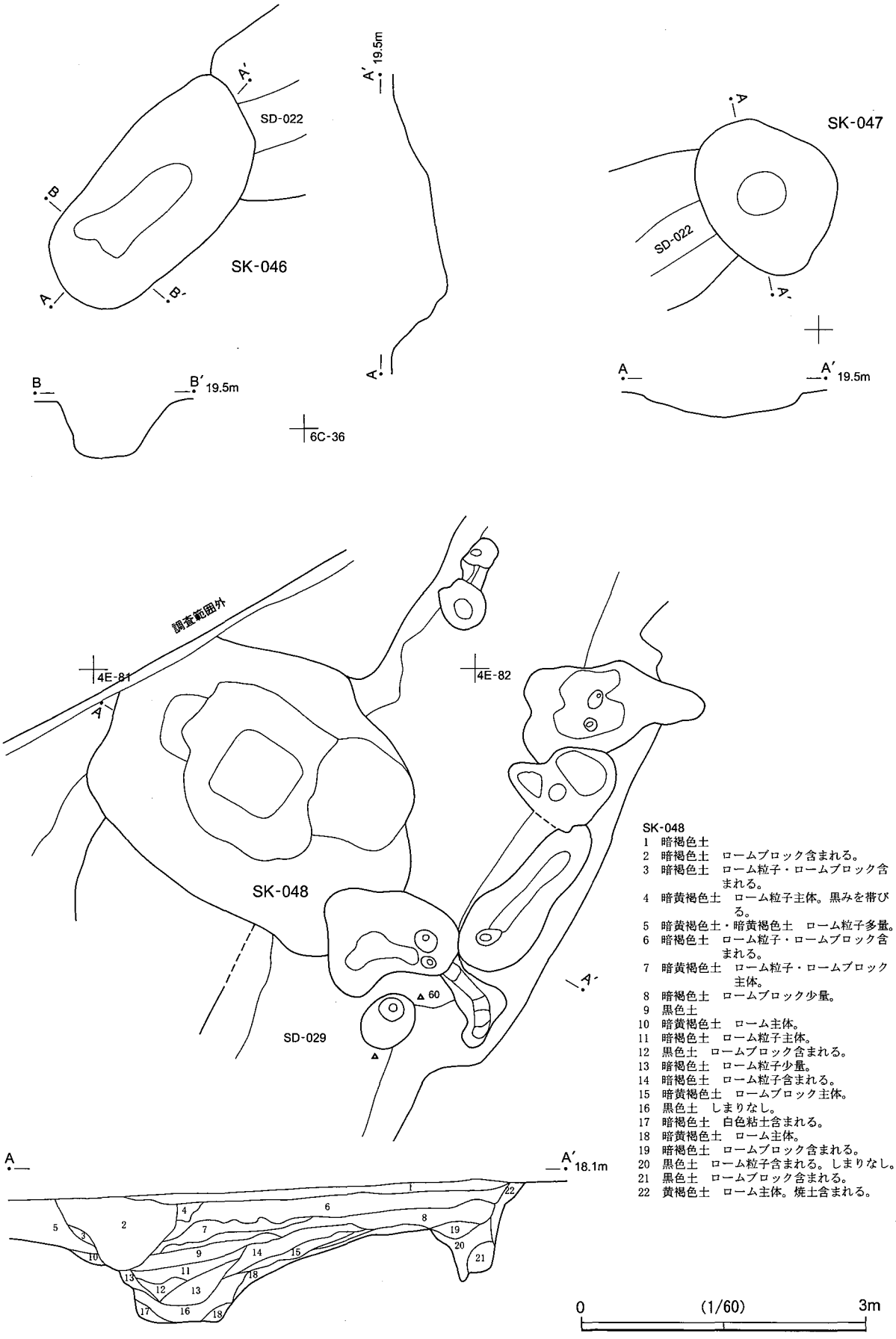
4E-90グリッドでSK-049に隣接する。平面形は不整長方形，規模は短軸0.44ｍ･長軸0.9ｍ･深さ0.22ｍである。覆土はロームブロックを含むしまりの弱い暗褐色土である。

ＳＫ－０５１（第226図，図版137）

調査区南東部のSX-009北側6E-00グリッドに位置する方形竪穴遺構である。平面形は隅丸方形で，内部に径0.5ｍ・深さ0.4ｍのピットが2基掘り込まれている。規模は短軸1.8ｍ・長軸2.3ｍ・深さ0.3ｍである。

ＳＫ－０５３（第226図，図版137）

調査区南端部の6D-81･82グリッドに位置する粘土貼土坑である。平面形は隅丸方形，規模は短軸1.8ｍ･長軸1.85ｍ・深さ0.25ｍ～0.4ｍである。底から壁面に厚さ10㎝で粘土が貼り付けられ，その上は人為的埋土のローム主体黄褐色土である。



第225図 SK-046～048

ＳＫ－０５４（第 226 図，図版 137）

調査区南側境 6D-65 グリッドに位置する。平面形は隅丸方形，規模は短軸 2.15 m・長軸 2.4 m・深さ 0.9 mである。掘り込みは表土に近く，覆土はしまりの弱い黒褐色土・褐色土で，端には柱穴が掘り込まれている。古瀬戸深皿(12)(14 世紀前半)が出土したが，覆土状況から近世以降の遺構の可能性がある。

ＳＫ－０５５（第 227 図，図版 137）

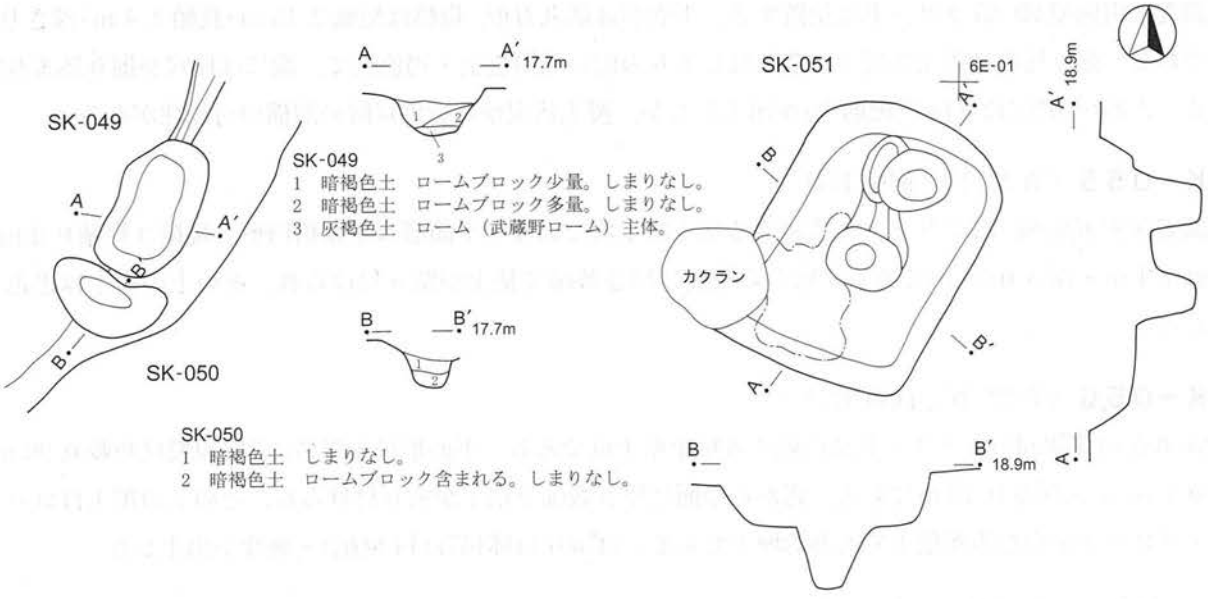
調査区南東端 6E-12 グリッドに位置する粘土貼土坑である。平面形は不整楕円形，規模は短軸 0.9 m・長軸 1.1 m・深さ 0.25 mである。底から壁面に厚さ数㎝で粘土が貼り付けられ，その上の覆土は黒色土である。

ＳＫ－０５６（第 227 図，図版 137）

SK-055 の北側 6E-02 グリッドに位置する粘土貼土坑である。平面形は不整楕円形，規模は短軸 0.96 m・長軸 1.65 m・深さ 0.18 mである。底から壁面に厚さ数㎝で粘土が貼り付けられ，その上の覆土はローム粒・ブロックを含む黒褐色土で人為的埋土である。常滑片口鉢(47)(14 世紀)・甕片が出土した。

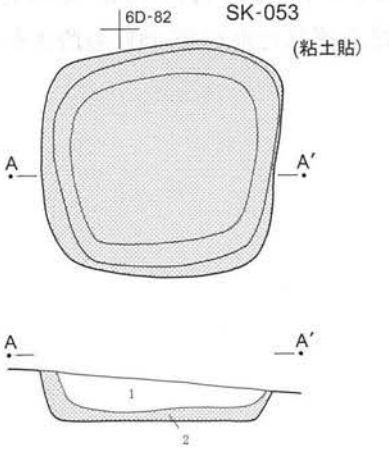
ＳＫ－０６１（第 227 図，図版 137）

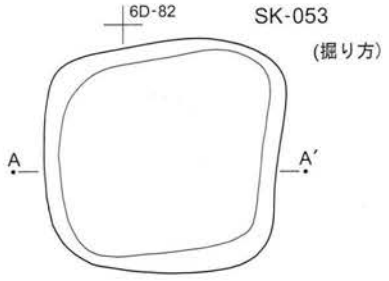
調査区南端部 6D-61 グリッドで SD-042 の北端部に位置する粘土貼土坑である。。平面形は隅丸方形，規模は短軸 1.8 m・長軸 2.32 m・深さ 0.6 mである。底面に厚さ 10 ㎝で粘土が貼り付けられ，その上はロームブロックを多く含む人為的埋土で，常滑甕片が出土した。SD-042 を流れた水が SX-006 の段差から北へ流れ落ちないための水溜め機能が推定できる。



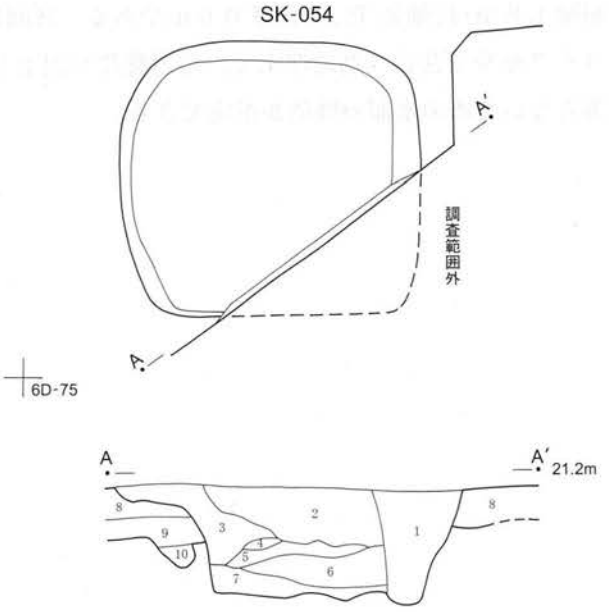
SK-049
1 暗褐色土 ロームブロック少量。しまりなし。
2 暗褐色土 ロームブロック多量。しまりなし。
3 灰褐色土 ローム(武蔵野ローム)主体。

SK-050
1 暗褐色土 しまりなし。
2 暗褐色土 ロームブロック含まれる。しまりなし。

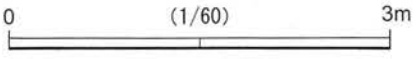




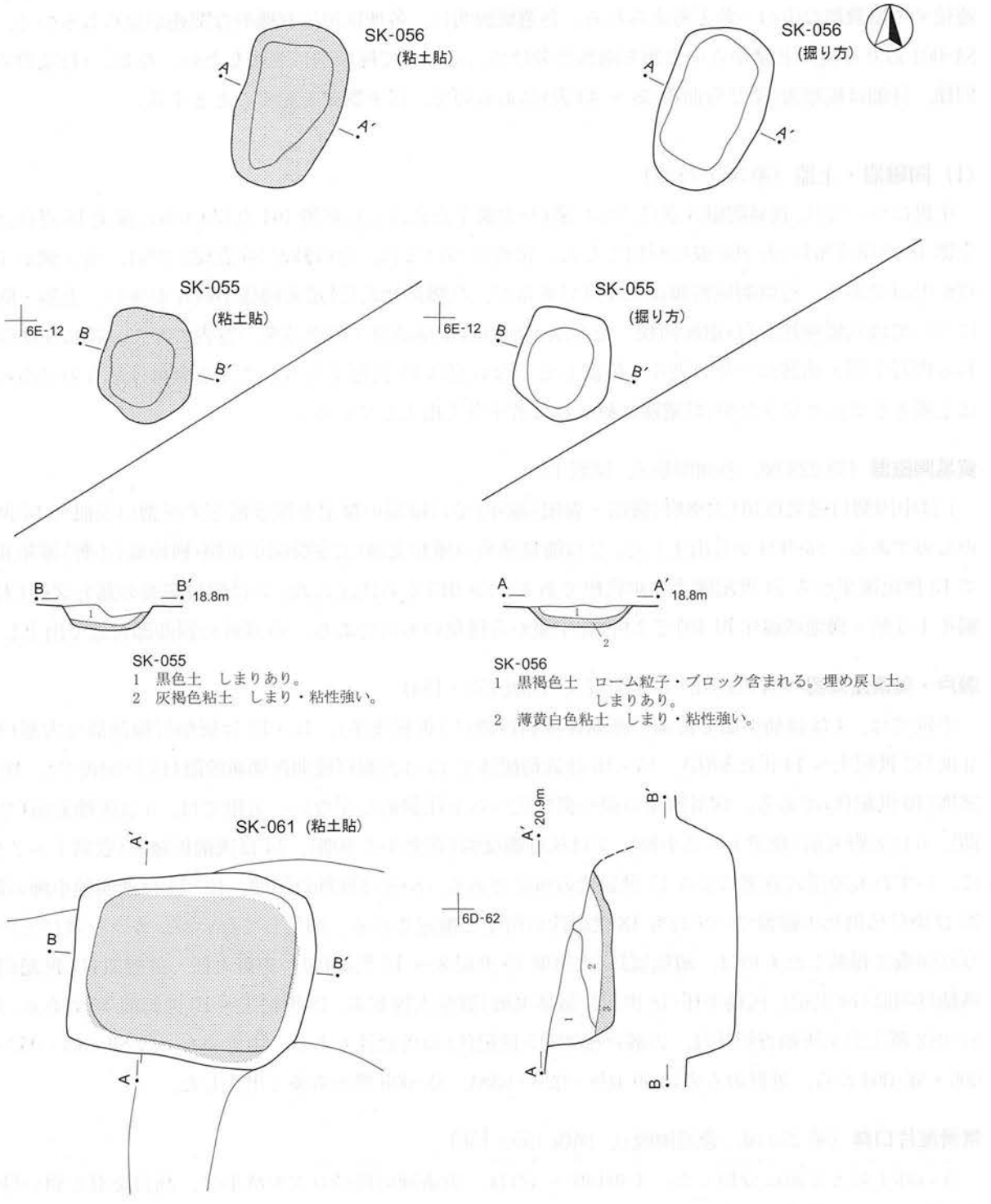
SK-053
1 黄褐色土 ローム主体均質土。
2 灰褐色粘土 しまり強い。



SK-054
1 黒褐色土 ローム粒子・ブロック含まれる。しまり弱い。(柱穴)
2 黄褐色土 ローム小ブロック主体。しまりやや弱い。
3 黒褐色土 ローム粒子少量。しまりやや弱い。
4 褐色土 黒色土とローム粒子・小ブロック含まれる。しまりやや弱い。
5 褐色土 黒色土とローム粒子・小ブロック含まれる。しまりやや弱い。
6 黒褐色土 ローム粒子少量。しまりやや弱い。
7 黄褐色土 ローム粒子・ブロック主体。しまりやや弱い。
8 黒褐色土 しまりあり。
9 黒褐色土 しまりあり。やや硬化する
10 黄褐色土 ローム粒子・ブロック含まれる。しまりあり。(柱穴)



第226図 SK-049～051・053・054



SK-055
1　黒色土　しまりあり。
2　灰褐色粘土　しまり・粘性強い。

SK-056
1　黒褐色土　ローム粒子・ブロック含まれる。埋め戻し土。
　　しまりあり。
2　薄黄白色粘土　しまり・粘性強い。

SK-061
1　黒褐色土　ローム粒子・黒色土多量。ハードロームブロック含まれる。しまりあり。
2　黄褐色土　ハードロームブロック主体。しまりあり。
3　灰白色粘土　非常にしまり強い。

0　(1/60)　3m

第227図　SK-055・056・061

2 遺物

出土遺物の様相は，(1)遺跡とほぼ同様，13世紀から14世紀を中心としたもので，(1)遺跡の東部から連続する屋敷群の中の一角と考えられる。各遺構説明は，各地区毎に有機的な関連が見られるので，柵列SA-001辺りを境に北部から中央部と南部で分けて，その中で種類別に説明したい。なお，(1)遺跡の遺物同様，詳細は観察表(第2分冊第38～43表)にあるので，以下概要を記すこととする。

(1) 陶磁器・土器（第38・39表）

中世については，貿易陶磁3点(1.5%)，瀬戸・美濃7点(3.4%)，常滑164点(79.6%)，渥美14点(6.8%)，土器18点(8.7%)の計206破片が出土した。常滑については，片口鉢が36点(22.0%)，壺・甕が128点(78.0%)である。近世陶磁器類は129点であるが，八幡神社北(1)遺跡同様小破片が多い。土器・陶磁器については八幡神社北(1)遺跡同様，その出土地点および産地・時期等を一覧表にした。特に在地産とされる内耳土器・擂鉢は一片の破片も確認していない点は15世紀より古いことを裏付けるものである。逆に土器としてはカワラケが(1)遺跡に較べれば若干多く出土している。

貿易陶磁器（第228図，巻頭図版5，図版153）

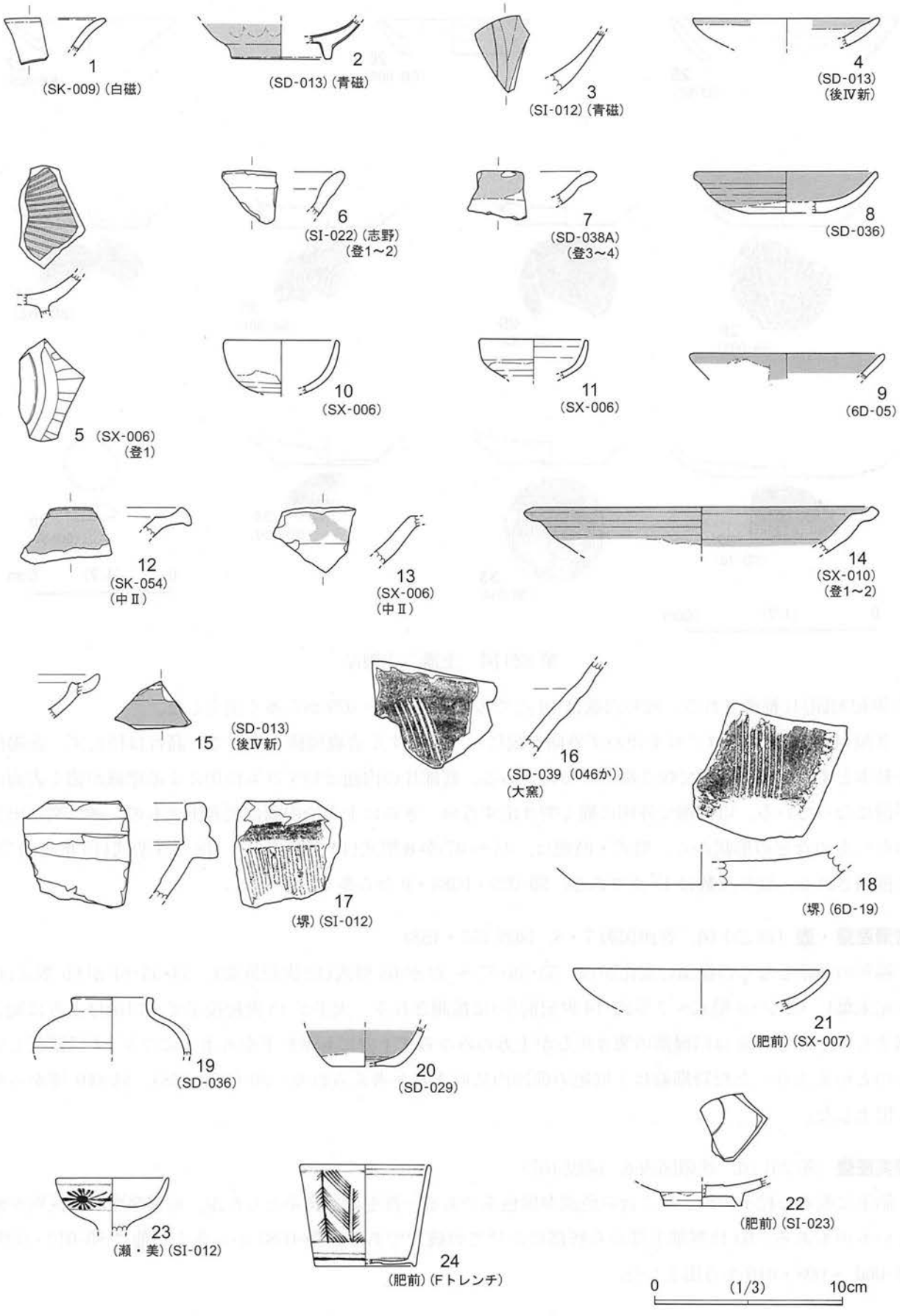
1は中国製白磁皿IX類(太宰府〈横田・森田〉編年)で口縁端の釉薬を削ぎ落とす所謂口禿皿で14世紀代のものである。SK-009から出土した。2は龍泉窯系の蓮弁文碗(太宰府編年III類・横地城〈小野〉編年B0類)で13世紀後半から14世紀前半の年代観である。SD-013から出土した。3は龍泉窯系の蓮弁文碗(太宰府編年I-5類・横地域編年B1類)で13世紀中葉から後葉のものである。SD-036の屈曲部付近で出土した。

瀬戸・美濃産陶器（第228図，巻頭図版5，図版153・154）

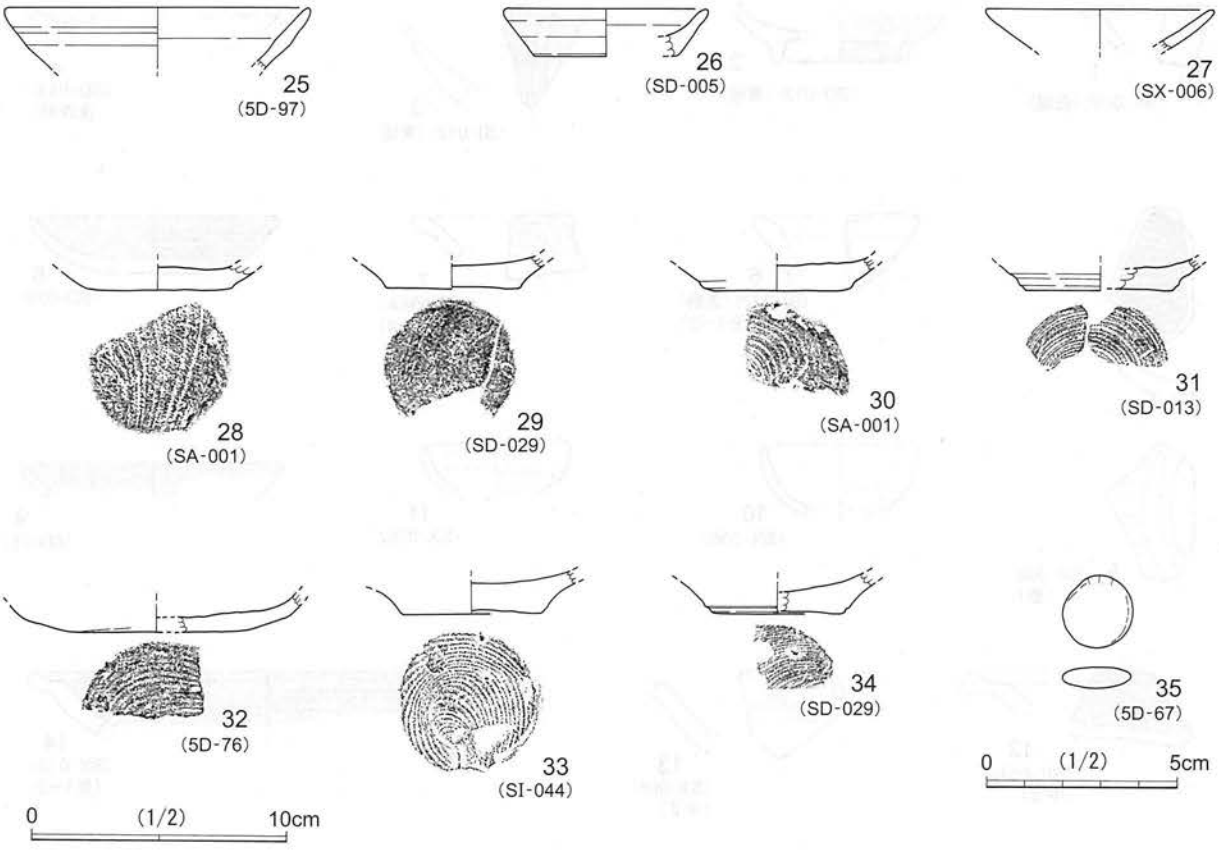
中世では，4は縁釉小皿で古瀬戸後期IV期新段階(15世紀後半)，12・13は灰釉折縁深皿で古瀬戸中期II期(13世紀末～14世紀初頭)，15・16は鉄釉擂鉢で15は古瀬戸後期IV期新段階(15世紀後半)，16は大窯期(16世紀代)である。常滑窯産の壺や甕に比べると圧倒的に少ない。近世では，5は灰釉菊皿(登窯初期)，6は志野丸皿(登窯1～2小期)，7は灰釉端反皿(登窯3･4小期)，14は灰釉折縁皿(登窯1～2小期)で，いずれも連房式登窯による17世紀代の所産である。8･9は鉄釉灯明皿，10･11は透明釉小碗の陶器，23は染付仏供具の磁器でいずれも18世紀代の所産と推定される。図化してないが，カラー及びモノクロ写真図版に掲載したものは，錆釉擂鉢(大窯期15世紀末～16世紀代)，志野丸皿・鉄絵皿(17世紀前葉)，錆釉灯明皿(18世紀)，灰釉小杯(18世紀)，磁器丸碗(簑傘人物並ぶ。18世紀末～19世紀前半)である。また，SI-012覆土出土灰釉香炉片は，古瀬戸後期(15世紀代)の可能性もある。中世のものはSD-013・039・SX-006・SK-054から，近世のものはSD-028・029・038A，SX-006等から多く出土した。

常滑産片口鉢（第230図，巻頭図版6，図版155・156）

片口鉢I類とII類に分類した。I類(36～42)は，山茶碗同様のロクロ成形で，高台を有し粗い砂礫片を多量に含み，還元炎焼成で灰色の須恵器質である。口縁端は丸みを帯びている。外面体部下半には明瞭な回転ヘラ削り痕を残す。41は口縁端の片口部分で，指で外面に若干押し出している。43は高台(付高台)が完全に剥離している。本来は42のような細く高い高台を有していたものである。型式・時期は，36～39は5型式(13世紀前葉)，40・41は5～6a型式(13世紀前葉～13世紀後葉)，42は4型式(12世紀末～



第 228 図　瀬戸・美濃他陶磁器



第229図　土器，土製品

13世紀初頭)に推測される。破片点数は19点である。SD-013・029から多く出土した。

Ⅱ類(44～52)は，ロクロを使わず外面を縦にヘラ削りする壺甕同様の成形で，高台は持たず，茶褐色を基本とする酸化炎焼成で焼き締めたものである。底部片の内面はいずれも使用による摩滅が強く表面が平滑になっている。口縁端で外側に細く突き出すもの，さらに上方や内面に突き出すもの，逆に突き出しのないものなどの形状から，型式・時期は，44～47が8型式(14世紀後半)，48が9型式(15世紀前半)に推測される。破片点数は17点である。SD-029・038A・Bから多く出土した。

常滑産甕・壺（第231図，巻頭図版7・8，図版157・158）

編年の基準となる口縁部の変化から，53・56・57～59が6a型式(13世紀後葉)，54・55・61が6b型式(13世紀末葉)，62が6b型式～7型式(14世紀前半)に推測される。大半が13世紀後半で，口縁は上方に突き出すものである。62は口縁端の突き出しが上方のみならず下方にも垂れ下がるようになり，1段階新しいものといえよう。ただ時期幅は1世紀の範囲内に収まると考えられる。SD-029・038A，SA-001等から多く出土した。

渥美産甕（第231図，巻頭図版8，図版157）

胎土に細かな粒子の砂を多く含み色調が黒色系である一群を渥美窯系としたが，常滑窯産との区別が難しいものもある。63は胴部下部から底部にかけての破片である。SD-038Aから多く，他にSD-013・029，SX-006～008・010から出土した。

陶器転用砥石（第 232 図，図版 158）

69 ～ 71 は渥美，72 ～ 80 は常滑，81・82 は須恵器の壺や甕・片口鉢の破片を再利用し，断面が摩滅している。その破片は 8 ㎝前後と，壺・甕・鉢などを恣意的に手に持ってちょうどよい大きさに調整加工していると考えられる。SD-013・019・029，SX-004・006・008 等で出土した。

その他の陶磁器（第 228 図，図版 153・154）

17・18 は堺産擂鉢(17：19 世紀代，18：18 ～ 19 世紀)，19・20 は産地・時期不明の鉄釉小壺である。19 は被熱で器面が荒れている。21 は白磁皿(18 世紀)，22 は染付輪禿皿(17 世紀後半)，24 は染付そば猪口(18 世紀)でいずれも肥前磁器である。

図化していないが，カラー及びモノクロ写真図版に掲載したものは，堺産擂鉢，産地不明鉄釉壺(21 同様被熱)，肥前染付三角高台皿，瀬戸産と見られる染付磁器皿(文様印刷 19 世紀後半)である。肥前皿は，底部に「富貴銘器」の銘があり，明の 16 世紀末～ 17 世紀初頭の染付皿の可能性も考えられる。

他には，瀬戸・美濃陶器は灰釉碗，緑釉碗，小杯，灰釉徳利等，他陶器は唐津鉢，堺擂鉢等，肥前磁器は白磁皿，染付丸碗・厚手碗・筒茶碗，青磁小杯等，瀬戸・美濃磁器は染付碗・皿等である。これらの近世陶磁器は，SD-028・029・036，SX-006・007 等で多く出土した。

カワラケ（第 229 図，図版 153）

総数 19 点になる。口縁部の破片も何点か見られるが，小片のため図化できたものは底部片が多い。底面は回転糸切り離し痕が残る。ロクロの回転方向はすべて右回転である。形態は皿型と杯型に分かれるが、皿型の方が圧倒する。27（SX-006 出土）は薄く硬質なことから 18 世紀代，他(SD-005・013・029，SA-001 出土)は 13 世紀から 14 世紀代と考えられる。

低火度土器

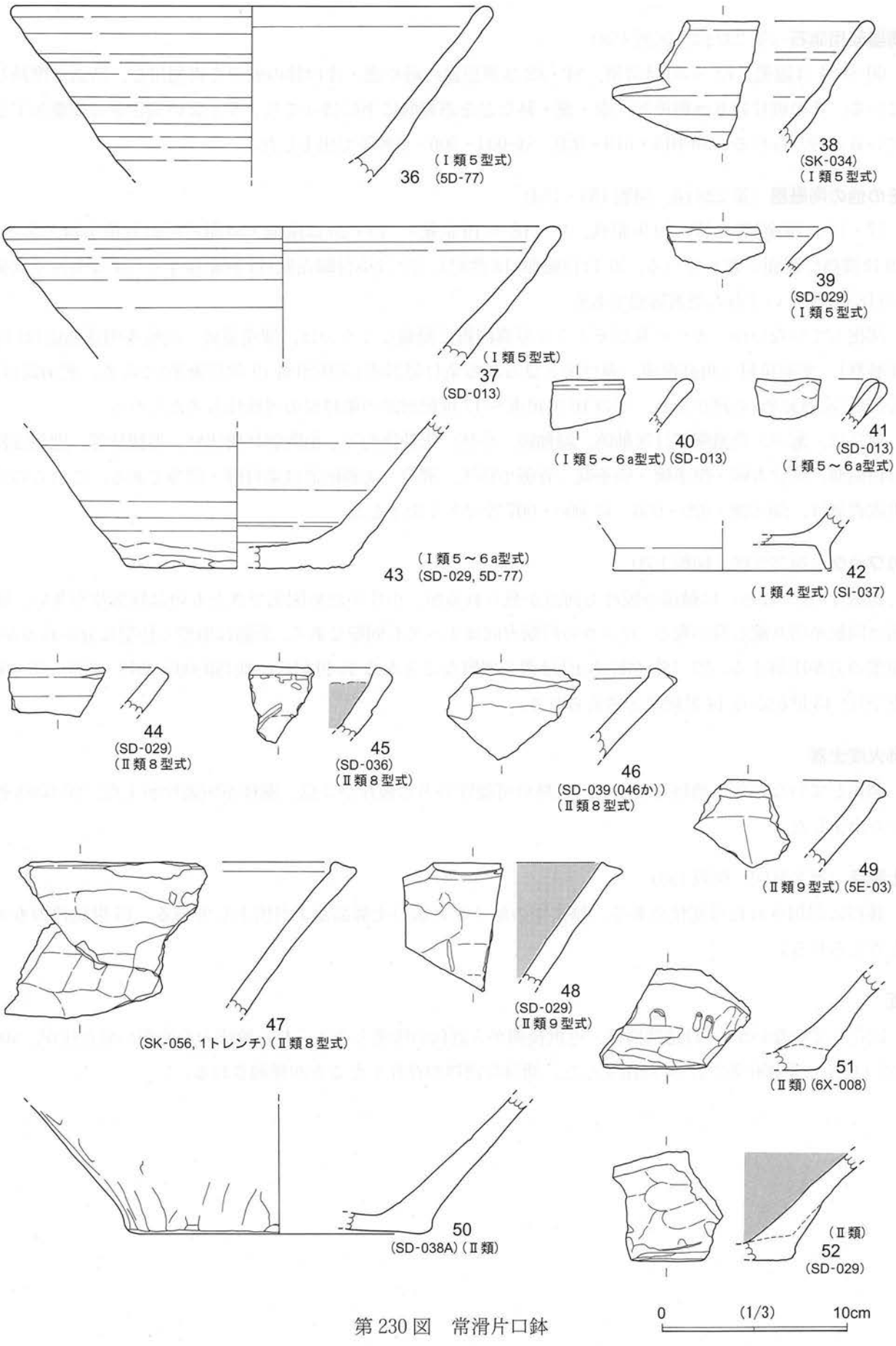
図化していないが，焙烙片が 1 点，火鉢の可能性のある破片が 3 点，器種不明破片が 1 点，SD-038A 他から出土した。

土製品（第 229 図，図版 153）

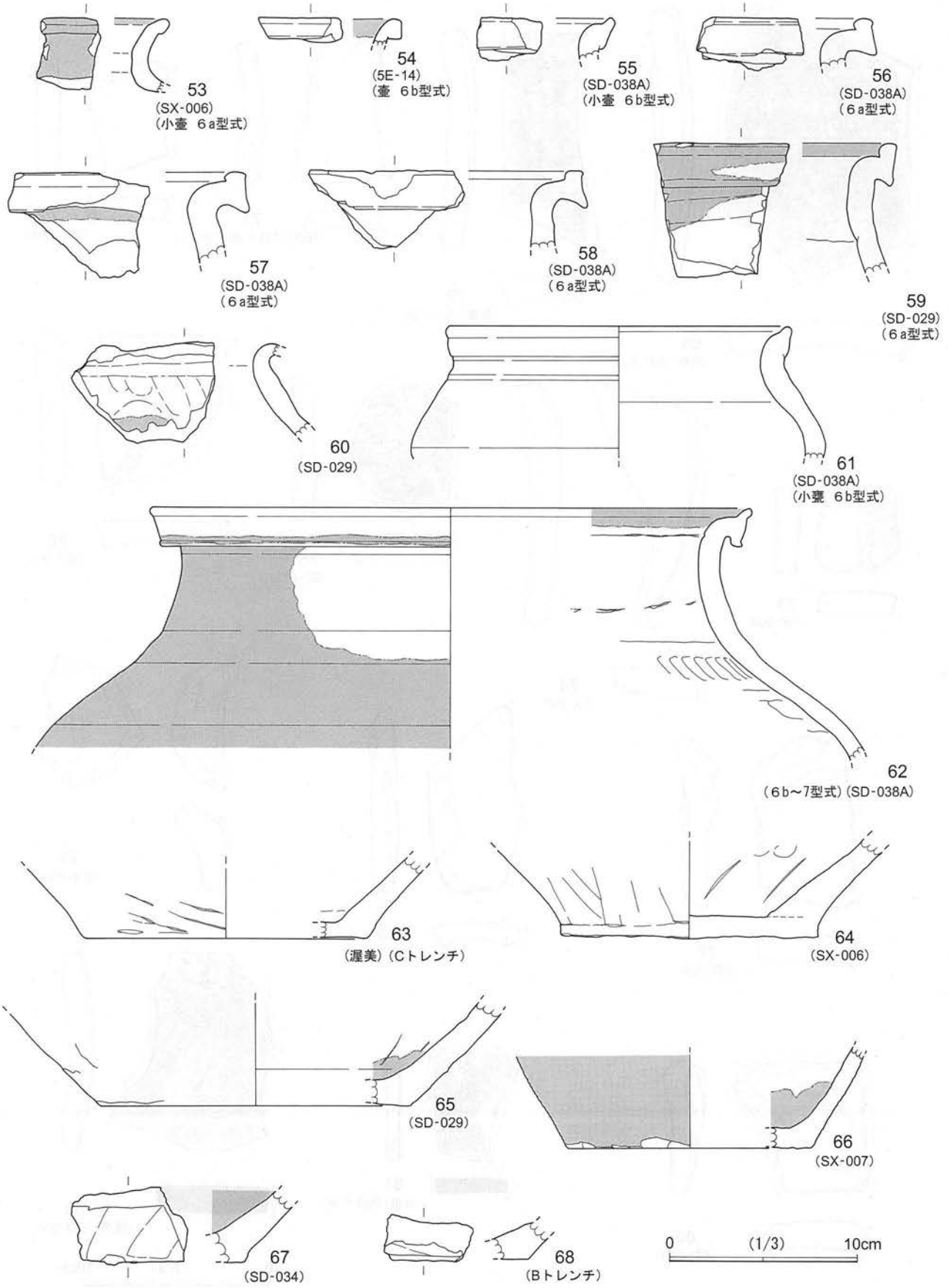
碁石に利用された可能性のある，無文様の泥メンコ状の土製品が 1 点出土している。18 世紀代のものと考えられる。

瓦

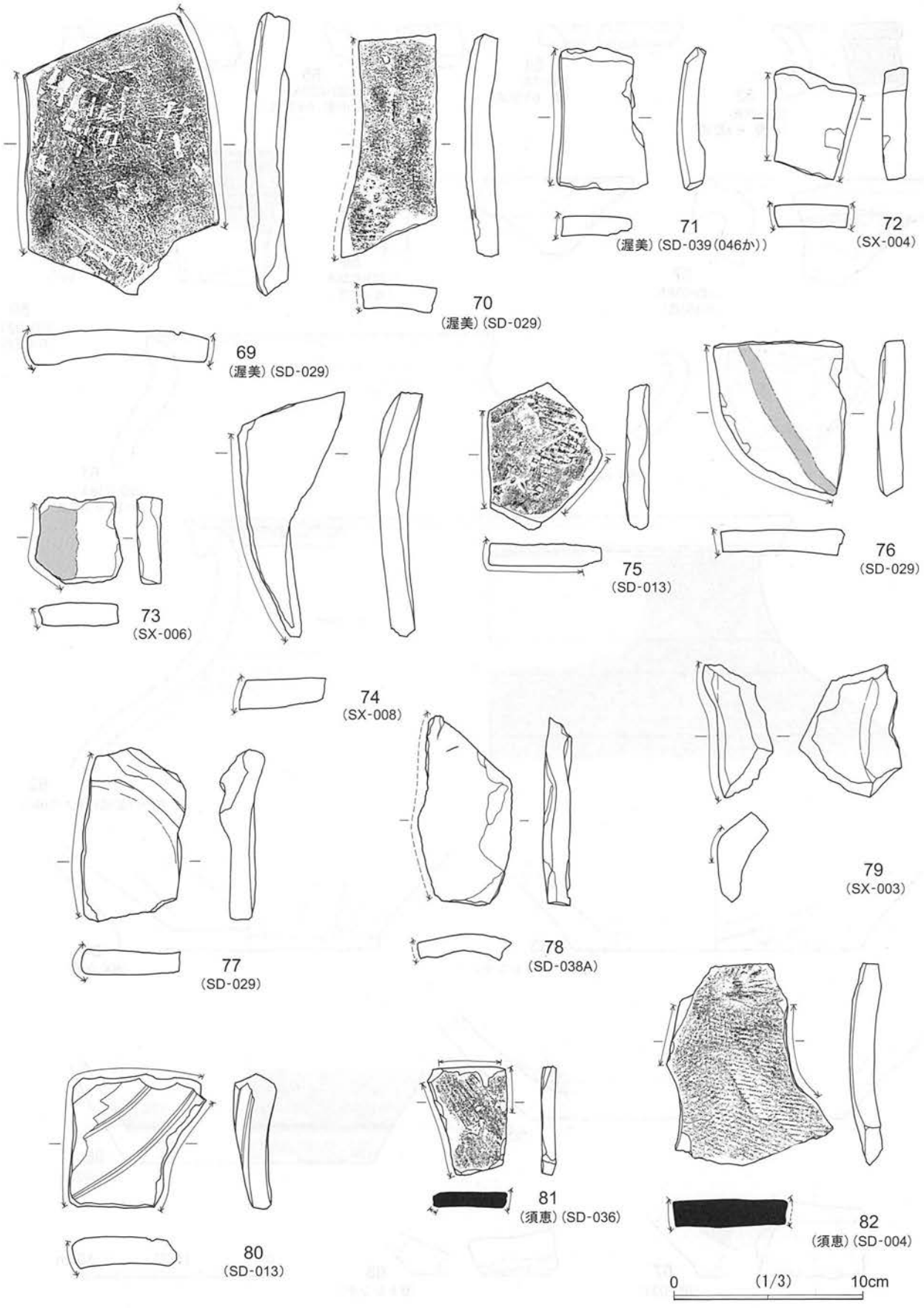
図化していないが，(1)遺跡同様，近世後期から近代の所産と考えられる焼成のやや弱い平瓦片が，SD-028・036，SX-006 等で計 24 点出土した。簡易な建物が存在したことが推測される。


36 (Ⅰ類5型式) (5D-77)
38 (SK-034) (Ⅰ類5型式)
39 (SD-029) (Ⅰ類5型式)
37 (Ⅰ類5型式) (SD-013)
40 (Ⅰ類5～6a型式) (SD-013)
41 (SD-013) (Ⅰ類5～6a型式)
43 (Ⅰ類5～6a型式) (SD-029, 5D-77)
42 (Ⅰ類4型式) (SI-037)
44 (SD-029) (Ⅱ類8型式)
45 (SD-036) (Ⅱ類8型式)
46 (SD-039(046か)) (Ⅱ類8型式)
49 (Ⅱ類9型式) (5E-03)
47 (SK-056, 1トレンチ) (Ⅱ類8型式)
48 (SD-029) (Ⅱ類9型式)
51 (Ⅱ類) (6X-008)
50 (SD-038A) (Ⅱ類)
(Ⅱ類) 52 (SD-029)
0 (1/3) 10cm

第230図　常滑片口鉢



第231図　渥美，常滑壺・甕



第 232 図　陶器・須恵器転用砥石

陶磁器・土器については，一部を巻頭カラー図版に掲載した。下記は挿図番号及び実測外遺物の出土遺構等である。陶磁器類観察表(第38表)と合わせて参照されたい。

巻頭図版5　中・近世(1)下　瀬戸・美濃他

1段目　白磁皿1，青磁碗2，3，瀬戸美濃陶器(縁釉皿4，菊皿5，志野皿6，鉄絵皿SD-028-1，灰釉皿7)

2段目　瀬戸美濃陶器(灯明皿8，9，小杯10，折縁深皿12，13，鉢14)

3段目　瀬戸美濃陶器錆釉擂鉢(15，16)，堺擂鉢(17，18)，産地不明陶器鉄釉壺(20)

4段目　肥前磁器(白磁皿21，染付皿22)，瀬戸美濃染付磁器仏花具23，
肥前染付磁器(そば猪口24，三角高台皿SX-006-3)，瀬戸美濃染付磁器碗(SX-006-3)

巻頭図版6　中・近世(2)下　常滑片口鉢

1段目　Ⅰ類口縁部(36，37，38，43)，Ⅰ類胴部～底部(43)

2段目　Ⅱ類口縁部(47，48)，Ⅱ類胴部～底部(50)

巻頭図版7　中・近世(3)下　常滑壺・甕(口縁部～胴部)

1段目　口縁部(53，54，55，56，57)

2段目　口縁部(58，60，59)，口縁部～胴部(62)

3段目　口縁部～胴部(61)，八幡神社北(3)遺跡出土1

巻頭図版8　中・近世(4)下　渥美・常滑壺・甕(胴部～底部)

1段目　常滑壺・甕肩部(SD-04-1，八幡神社北(3)遺跡出土2，SD-038A-1・4・9・10・30)

2段目　常滑壺・甕肩部(SX-007-13)，渥美甕転用砥石(69)

3段目　常滑壺・甕底部(68，66，64)

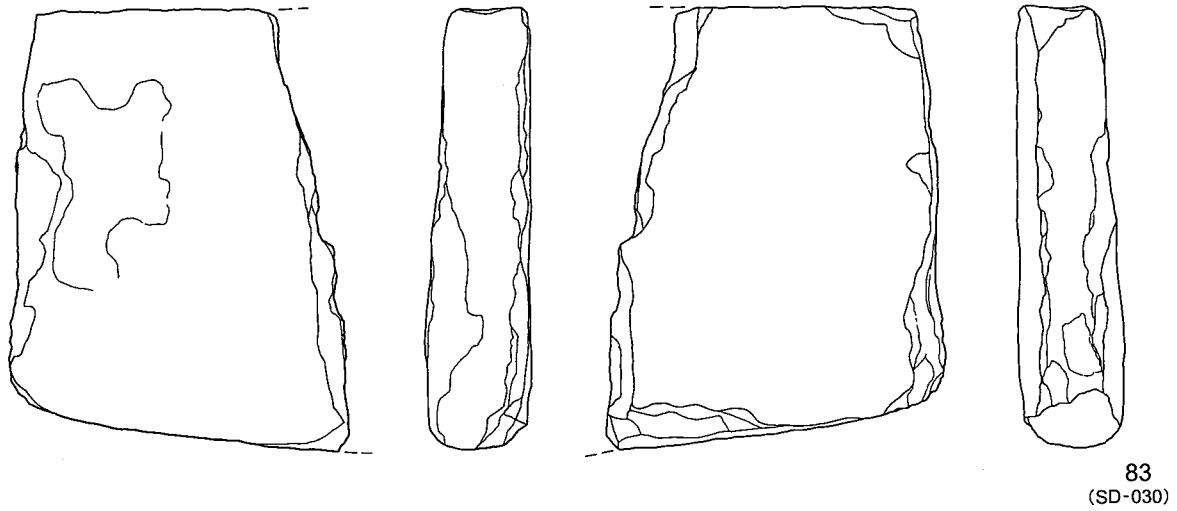
(2) 石製品

石造物（第233図，第40表，図版159)

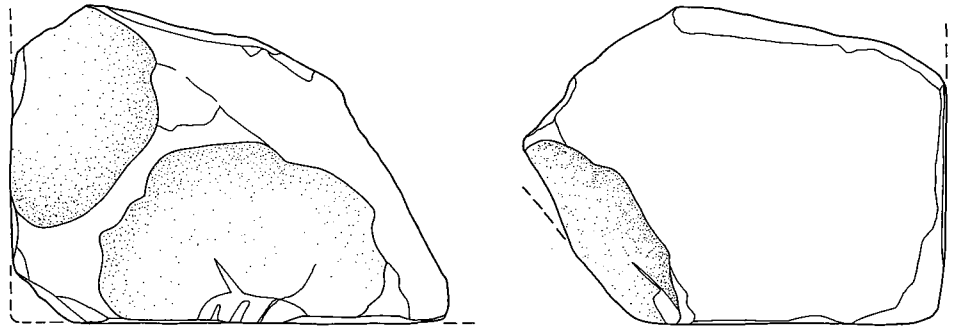
83の図は横位置であるが，板碑と考えられる厚さ2.8cm・幅11.5cm・残存長9.0cmの砂岩製である。文字は刻まれた痕跡は確認できない。SD-030で出土した。84は砂岩製の五輪塔地輪部の破片で，SD-029で出土している。85は砂岩製五輪塔の水輪または空風輪部の破片と考えられる。SD-039（046か)で出土した。

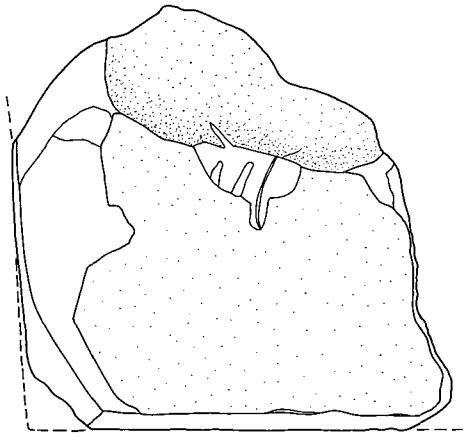
砥石他（第234図，第41表，図版159)

86～96は凝灰岩製で，86・88・96は使用が浅く本来の大きさ・形をある程度保つもので，87は両先端部が欠損し，他は小片である。97は軽石製であるが欠損していて本来の形状は不明である。凝灰岩製砥石は刃物を対象にしたものであろうが，目的が異なるものと考えられる。SD-029・039（046か)，SX-006等で出土した。98はSX-006出土の火打ち石である。これらの時期は，中世を中心に古代から近世の所産と考えられる。他に，遺存状況が悪いため図化していないが，方形石硯片と考えられる粘板岩製品が出土した。

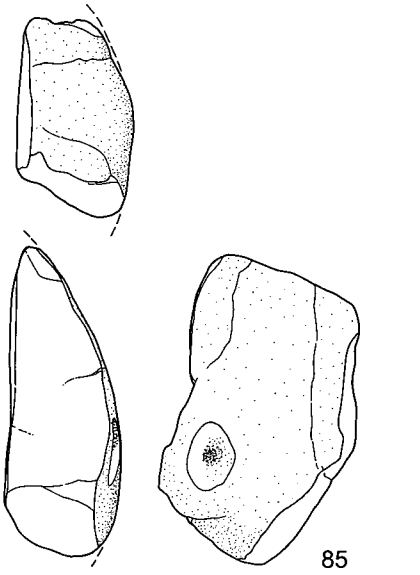


83
(SD-030)





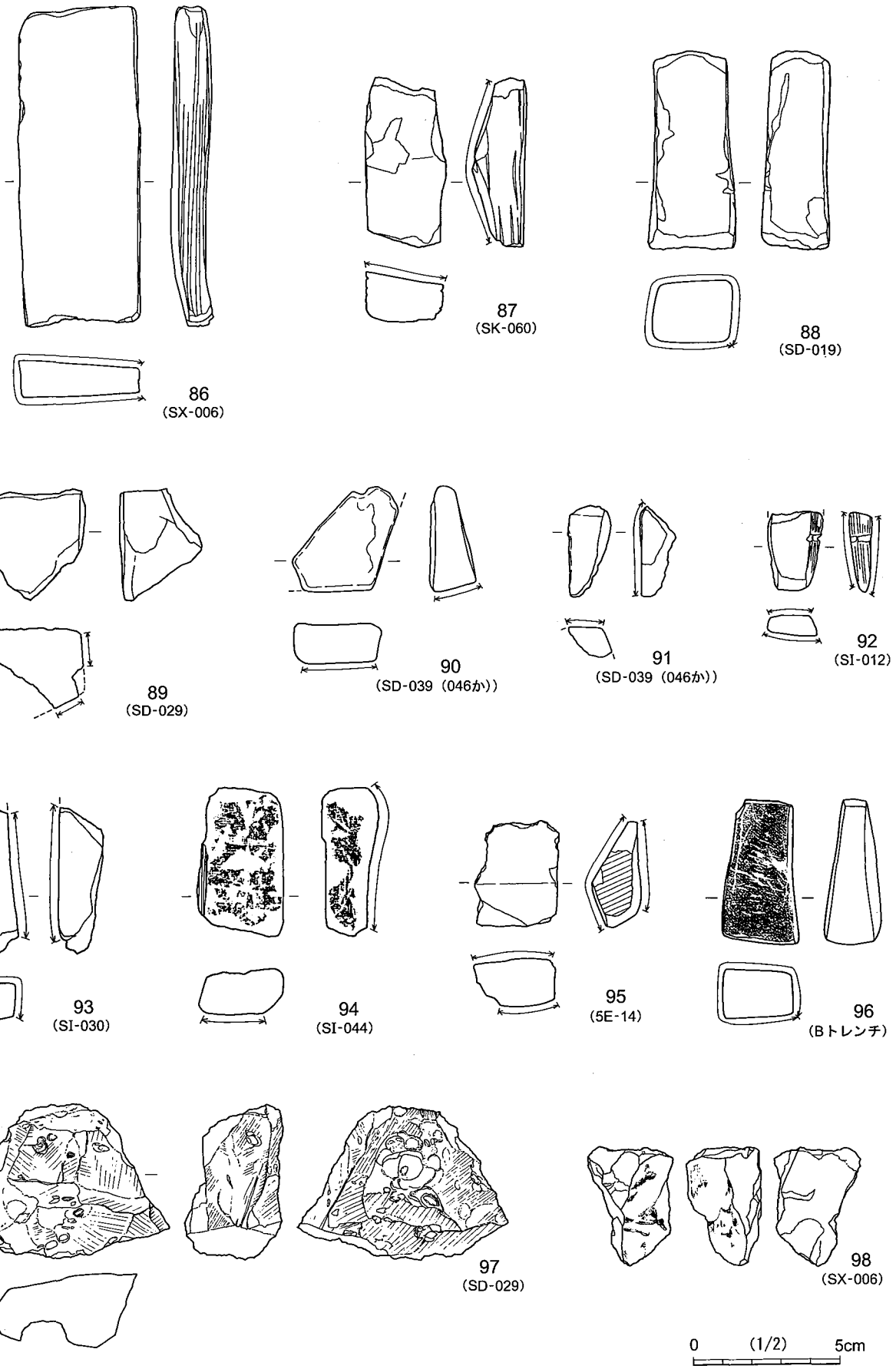
84
(SD-029)



85
(SD-039 (046か))

0 (1/2) 10cm

第 233 図　石造物 (板碑, 五輪塔)



第 234 図　石製品（砥石他）

(3) 金属製品

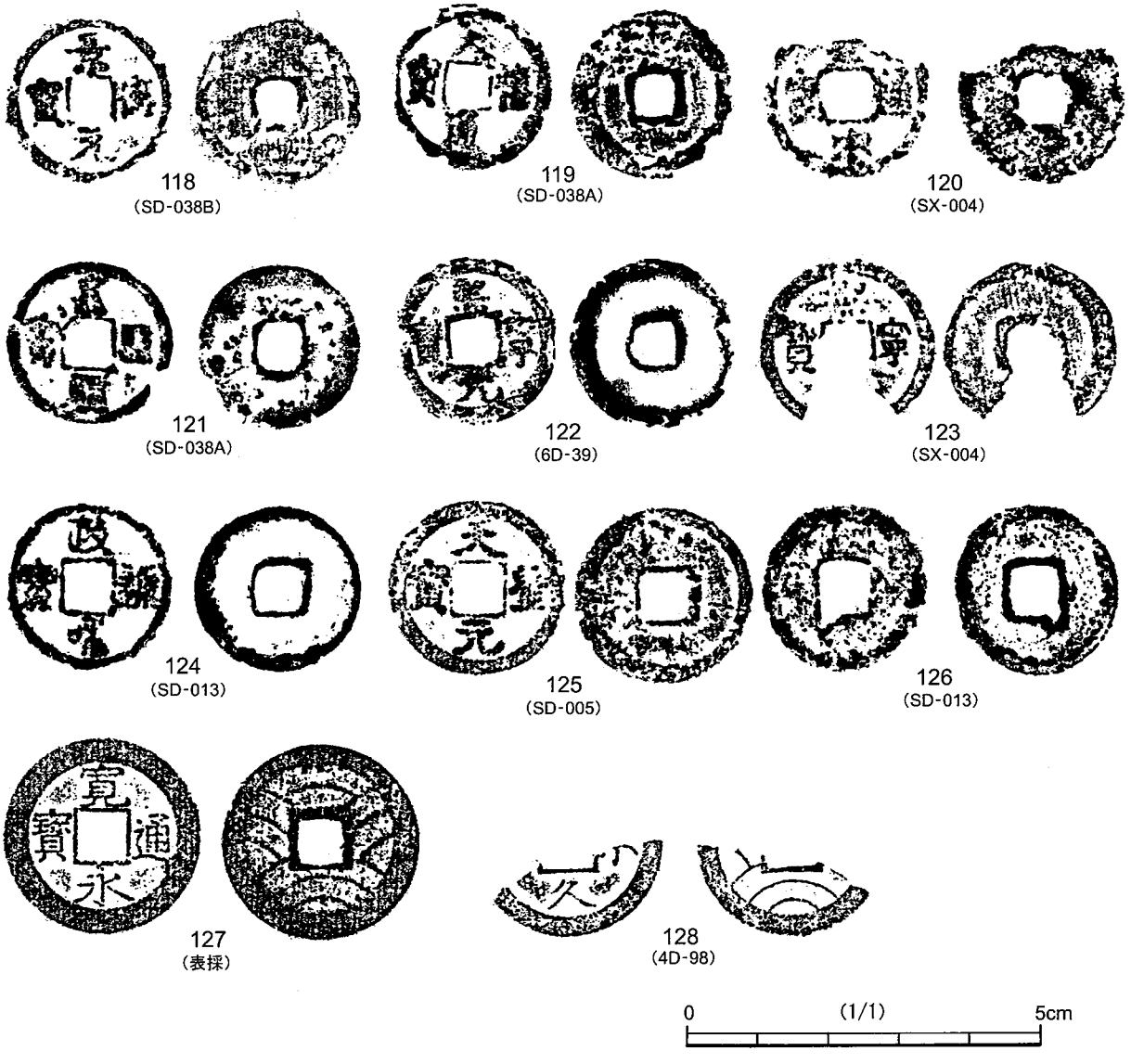
鉄製品・鉄滓他（第236図，第42表，図版159・161）

99（SD-029出土）は刃渡り17.2㎝の直刀で，目釘穴が確認できる。100（SD-013出土）は直刀または刀子の先端部で，102（SD-036出土）は鉄鍋の一部の可能性が考えられる。103（SD-003出土）は先端が大きく曲がった鉄釘、105はヘラ状工具に推測される。

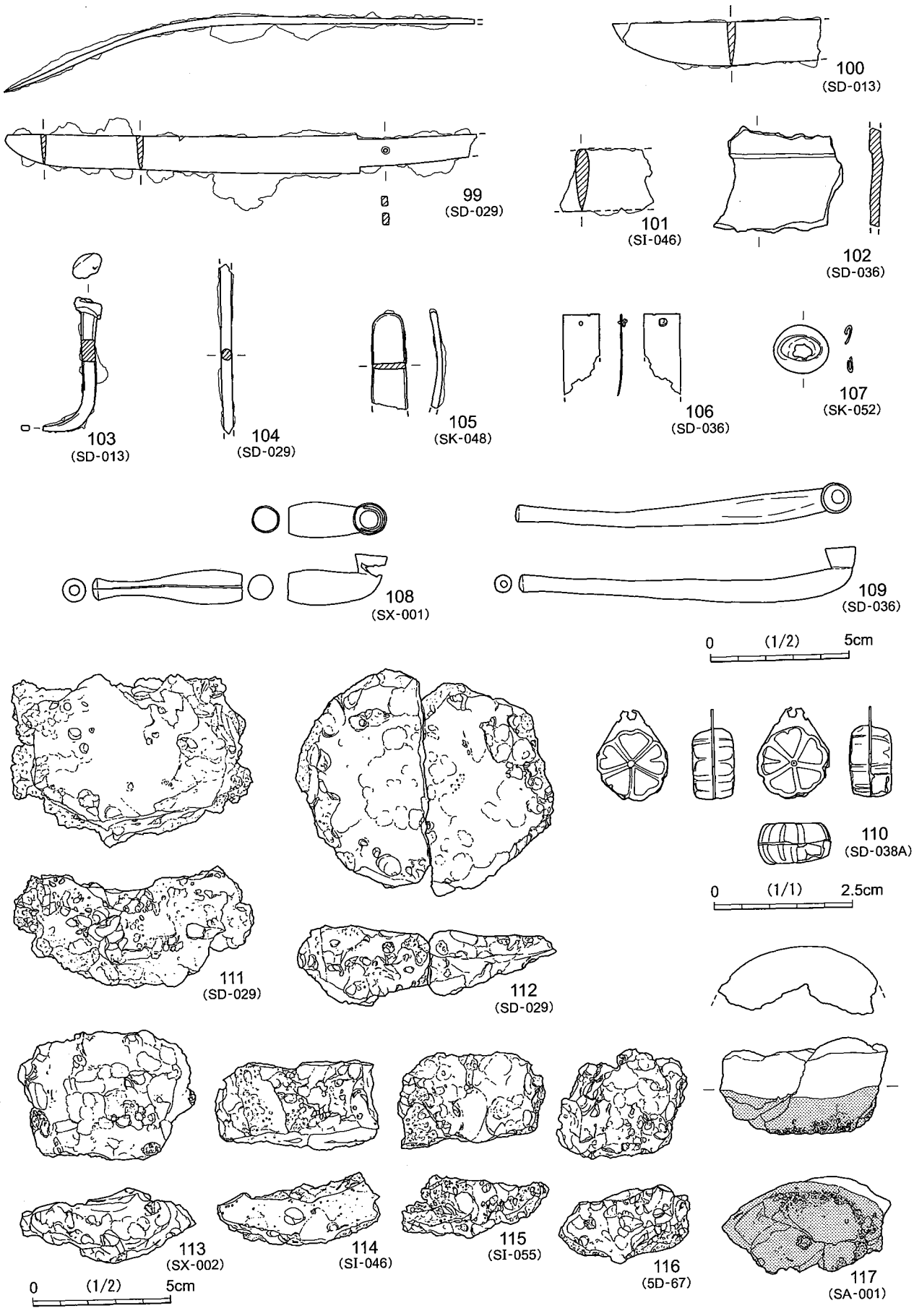
111～116は鉄滓であり，111と112は椀型滓である。SD-029・SX-002等で出土した。また，117（SD-001出土）は鍛冶炉内に挿入された送風管である羽口片であり，下方には金属化合物が付着している。本遺跡では鍛冶炉は検出されていないが，恐らく，一般村落でも小鍛冶が普及した中世以降の所産と考えられる。

銅合金製品（第236図，第42表，図版160・161）

106は短冊状の飾り金具で，あまり腐食が進んでおらず鉄製ではない。110は花模様が成形された銅合金製の鈴である。上部に穴をあけてあり，飾り金具の一部である。X線写真撮影の結果，内部に径2.4mm・



第235図　銭貨



第 236 図　金属製品，鉄滓他

長さ4.8㎜の金属片が入れられていることが確認された(図版161)。SD-038Aの調査中に床面直上から出土した。所属時期は不明である。107はキセルの火皿を潰したいわゆるキセル銭と呼ばれるもので，108(SX-001出土)と109（SD-036出土)は銅合金製のキセルである。雁首の形状から18世紀代と考えられる。

銭貨（第235図，第43表，図版160)

中国銭9点，日本銭3点の総数12点が出土しているが，中国銭は腐食が進み脆いものが多い。118は景徳元寶(北宋1004年初鋳)，119は天禧通寶(北宋1017年初鋳)，120は皇宋通寶(北宋1039年初鋳)か，121は嘉祐通寶(北宋1056年初鋳)，122・123は熙寧元寶(北宋1068年初鋳)，124は政和通寶(北宋1111年初鋳)，125は天盛元寶(西夏1158年初鋳)，126は腐食が激しく不明である。120・123は中世屋敷跡SX-004地点，他の中国銭は中世溝SD-013，038A・Bから出土した。土坑や火葬土坑などの墓関連の遺構からは出土していない。127は寛永通寶，128は文久永寶で，表土中から出土し，他に寛永通寶に推定される鉄銭がSI-012覆土(5D-55・65グリッド)から出土した。

第４章
八幡神社北(3)遺跡

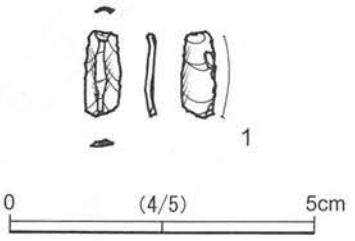
第4章　八幡神社北(3)遺跡

第1節　旧石器時代・縄文時代

1　旧石器時代（第237・238図，図版167）

旧石器時代の確認調査は対象面積1,398㎡のうち48㎡について実施した。調査対象地域内に2m×2mのグリッドを13か所設定した。SD-002調査中に，ソフトローム層中から黒曜石製の細石刃が1点出土していたため，周辺にも確認グリッドを設定した。結果として，どの確認グリッドからも石器は検出されなかった。

旧石器時代の出土遺物は細石刃1点のみである。細石刃は透明度の高い黒曜石製で，末端部は欠損し，裏面右側縁に微細剥離痕が観察される。大きさは13.5×5.8×1.8㎜，重量は0.10gである。



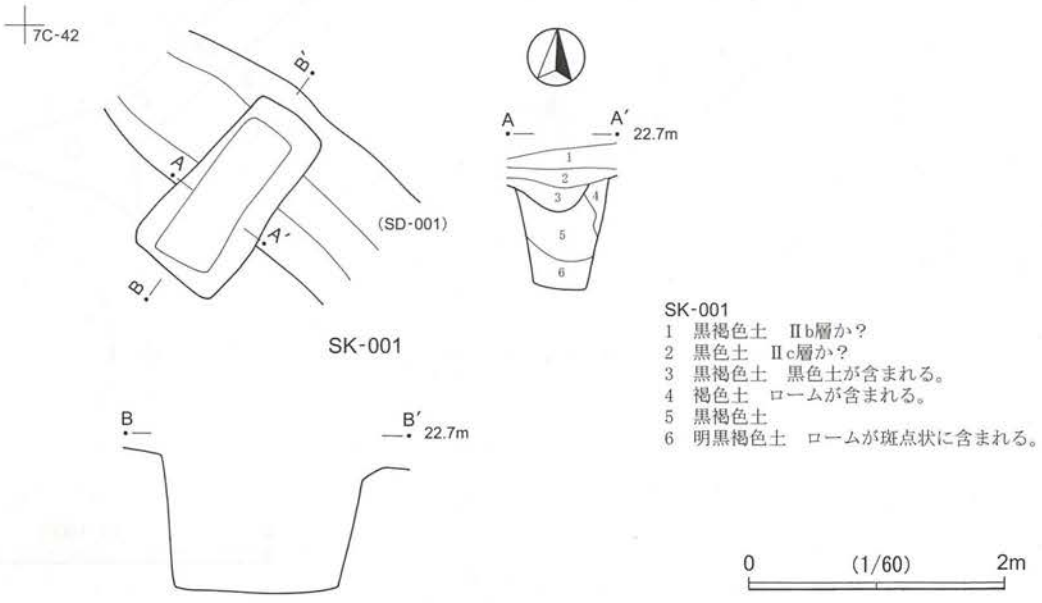
第237図　単独出土石器

2　縄文時代

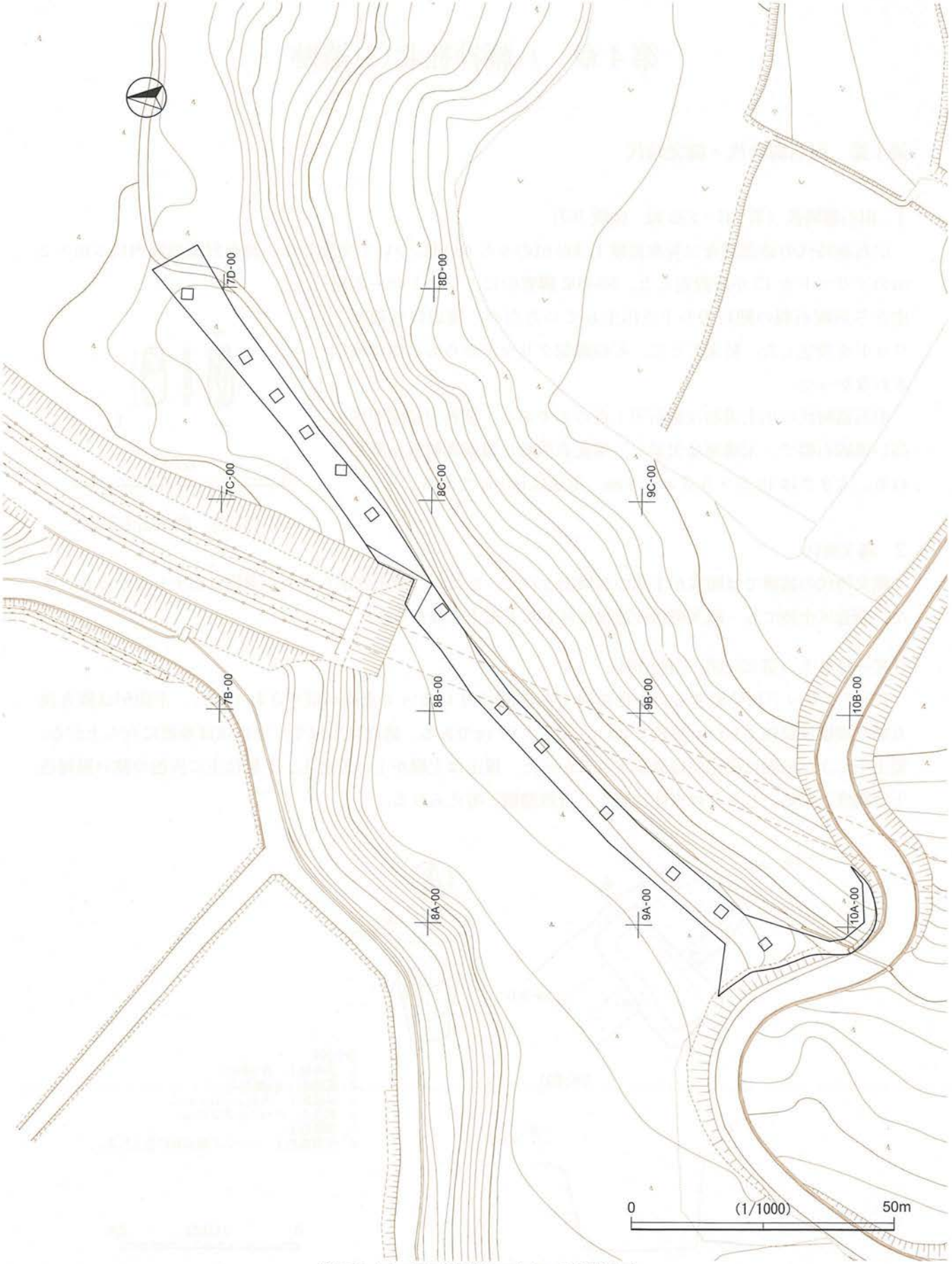
縄文時代の遺構では陥穴が1基のみ検出された。ただし，覆土内からは全く遺物は出土しなかった。また，調査区全体でも，縄文時代の遺物はほとんど出土しなかった。

SK－001（第239図，図版164）

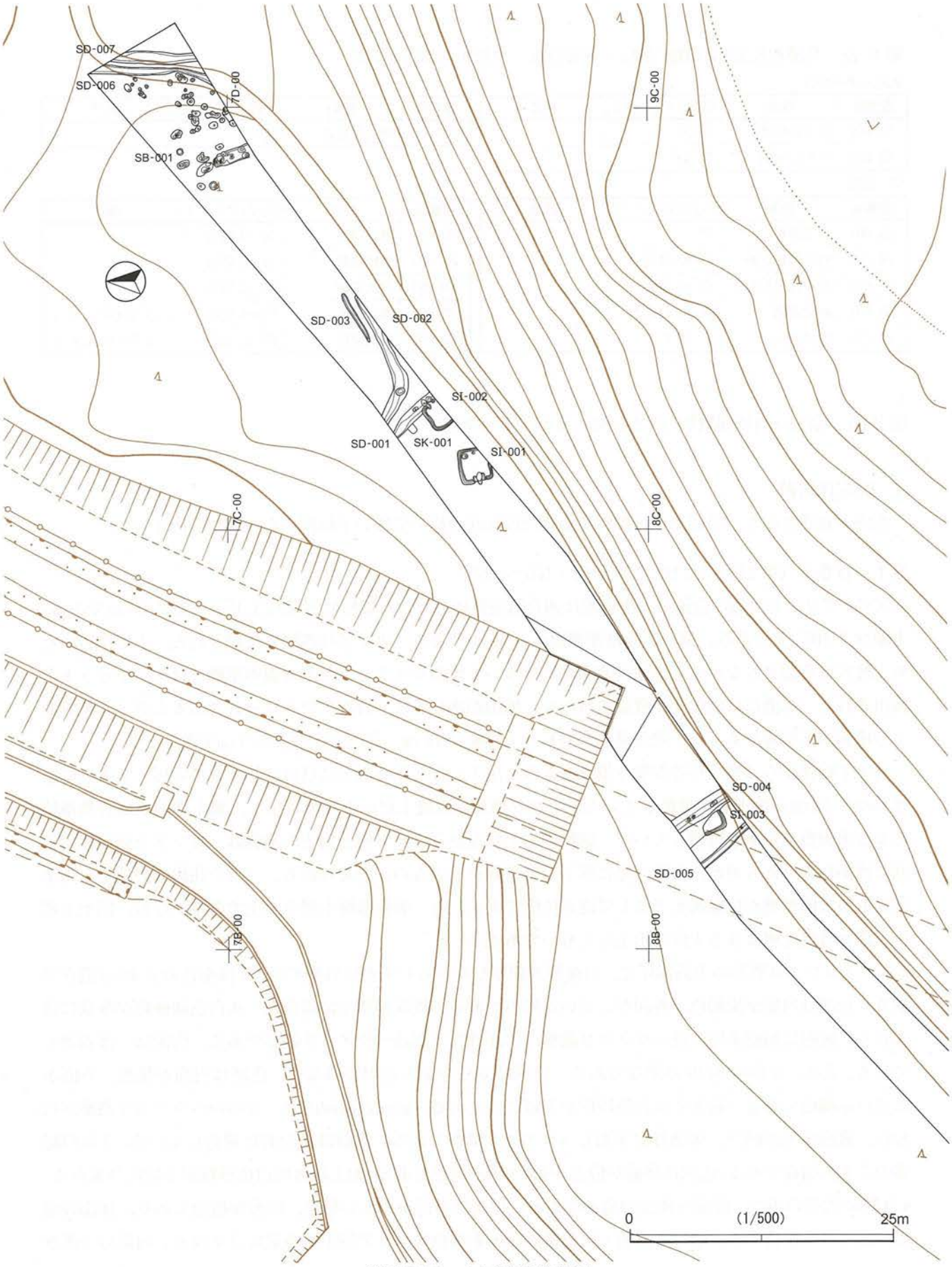
7C-42グリッドに位置する。中世の溝であるSD-001によって上面が削平されていた。平面形は隅丸長方形で規模は長軸1.60m・短軸0.80m・深さ1.07mである。底面は平坦で，壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土中および底面に硬化面は確認されなかった。覆土は上層が主に黒色土，下層は主に灰色の強い黒褐色土で構成される。しまりは全体に強く，自然堆積と考えられる。



第238図　SK-001



第 239 図　旧石器確認グリッド配置図



第 240 図　上層遺構分布図

第 6 表　八幡神社北(3)遺跡 奈良・平安時代，中近世 遺構一覧表

奈良・平安時代

遺構No.	種類	位置(グリッド)	備考
SI-001	竪穴住居跡	7C-51	
SI-002	竪穴住居跡	7C-42	

遺構No.	種類	位置(グリッド)	備考
SI-003	竪穴住居跡	8B-13	

中・近世

遺構No.	種類	位置(グリッド)	備考
SX-001	台地整形	7C	
SB-001	掘立柱建物跡	6C-88 周辺	
SB-002	掘立柱建物跡	6C-99 周辺	
SD-001	溝状遺構	7C-42 周辺	
SD-002	溝状遺構	7C-33 周辺	

遺構No.	種類	位置(グリッド)	備考
SD-003	溝状遺構	7C-24 周辺	
SD-004	溝状遺構	8B-03 周辺	
SD-005	溝状遺構	8B-12 周辺	
SD-006	溝状遺構	6D-80 周辺	(2) SD-043 に続く
SD-007	溝状遺構	6D-81 周辺	(2) SD-042 に続く

第 2 節　奈良・平安時代（第 240 図，第 6・44 ～ 46 表）

1　竪穴住居跡

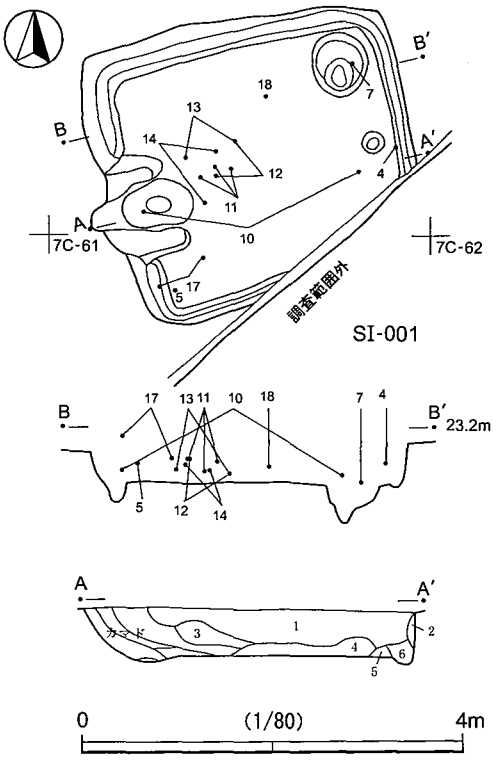
西側の谷津に向かって緩やかに傾斜する低位段丘面の極めて狭い平坦面上から 3 軒検出された。

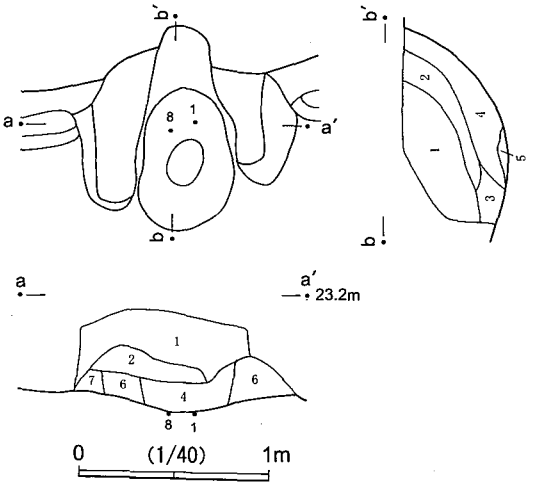
ＳＩ－００１（第 241・242 図，図版 162・165 ～ 167）

7C-51 グリッド周辺に位置し，南東端は調査範囲外にあたる。規模は主軸長 3.15 m・幅 3.00 mである。主軸は N-105°-W である。掘り込みは確認面から 45 cmである。カマドは西壁に付設される。小型住居のため主柱穴は確認されなかった。住居北東際には浅い 2 段のピット，カマド対面の壁際には入口小ピットが検出された。床面には硬化面が確認されたが，地山が水分を多く含むソフトロームであるためか，軟質面との境界が不明瞭であった。壁周溝は全周し，下端幅は 12 cm，深さは床面から 5 cmである。

カマド内部からは甕，坏等が折り重なるように出土した。床面直上にはほぼ住居を覆い尽くすように厚さ 5 cm～ 15 cmの焼土層が堆積していた。カマド構築砂は焼土層の上に流れ出し，焼土層の上は自然堆積による黒褐色土が厚く堆積していた。遺物の出土状況からカマド内と周辺の遺物は，カマド上面の住居壁面に置かれていたものが，火災の際に落下した状態を示すものと考えられる。一方で住居中央部から上半部完形の土師器甕が口縁部を下にして逆さ位置で出土した。層位は焼土層の直上である。なお，出土土器の大部分は焼土層よりも上位で出土したものである。

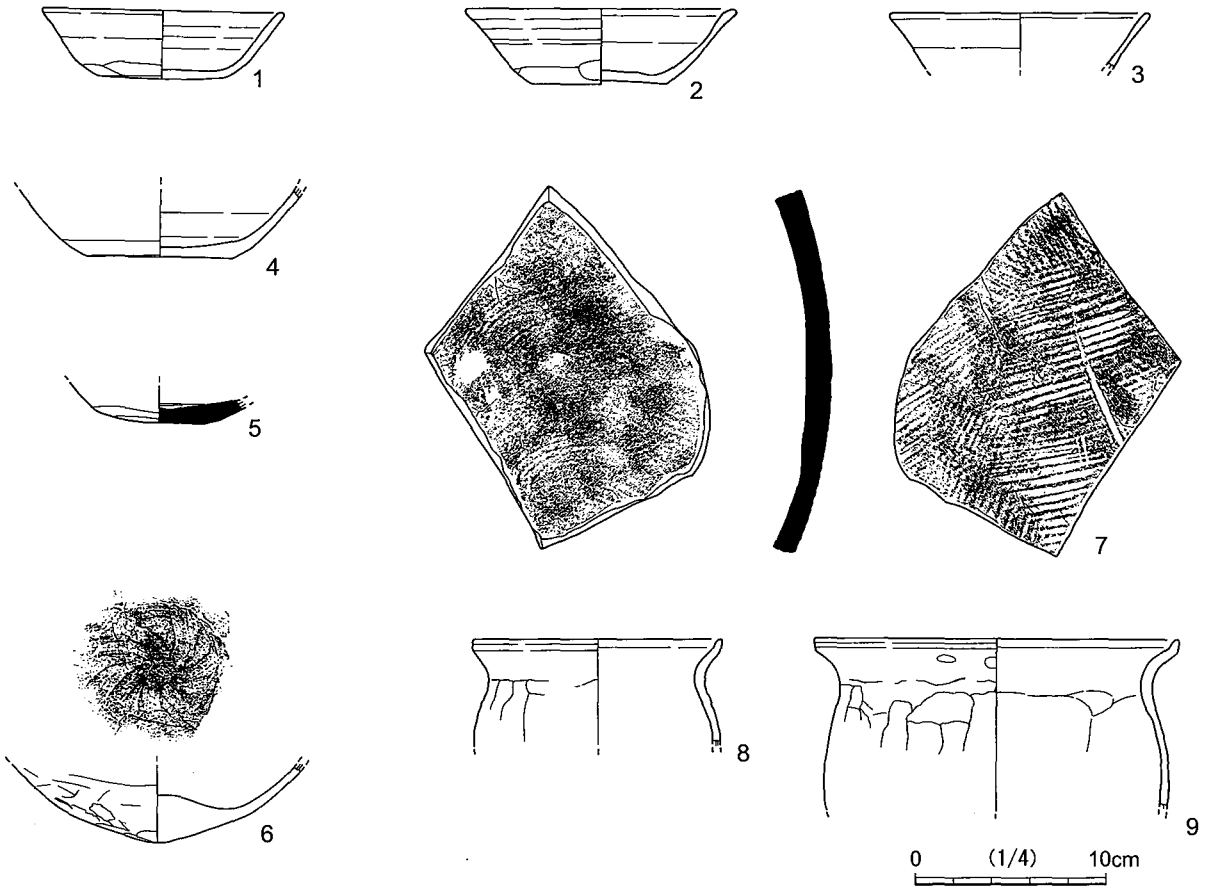
1 ～ 4 はロクロ整形の土師器坏で，口縁端が肥厚しながらわずかに外反する。1 は全体の 9/10 の遺存である。色調は内面が黒褐色，外面がにぶい赤褐色である。焼成は胎土には白色・灰白色微砂粒が多量に含まれる。底面は回転糸切り後ヘラケズリ調整，体部外面下端はヘラケズリ調整である。内面は一部剥落している。2 は，全体の 9/10 の遺存である。口縁はややゆがみ正円ではない。色調は内面が黒色，外面がにぶい赤褐色である。胎土には白色砂粒が多量に含まれる。底面は直線的な一方向のヘラケズリ調整が行われ，底面中央が凹む。体部外面下端もヘラケズリ調整である。内面は部分的に剥落している。3 は口縁部の 3/5 の遺存である。色調は外面が橙色，内面が暗赤褐色である。胎土には灰白色砂粒が多量に含まれる。4 は特に大型の坏で，底部～体部の遺存である。色調は外面がにぶい橙色，内面が橙色である。体部外面に一部ススが付着する。胎土に白色・灰色微砂粒・赤褐色スコリア粒子が多量に含まれる。内面の一部が





SI-001
1 黒褐色土　焼土粒微量。
2 黄褐色土　ソフトローム壁が崩れたもの。軟質。
3 灰褐色土　カマド構築材多量。しまりあり。
4 赤褐色土　焼土が含まれる。
5 黄褐色土　ソフトローム主体。
6 黒褐色土　ロームが含まれる。軟質。

カマド
1 黒褐色土　砂質。しまりあり。
2 灰白色砂
3 黒色土　焼土粒子少量。砂質。しまりあり。
4 褐色砂　焼土・灰（白色）が含まれる。
5 褐色土　ローム粒子が含まれる。しまりあり。
6 灰白色砂・粘土　カマド袖。しまり強い。
7 黒褐色砂　カマド袖。粘性あり。しまり強い。

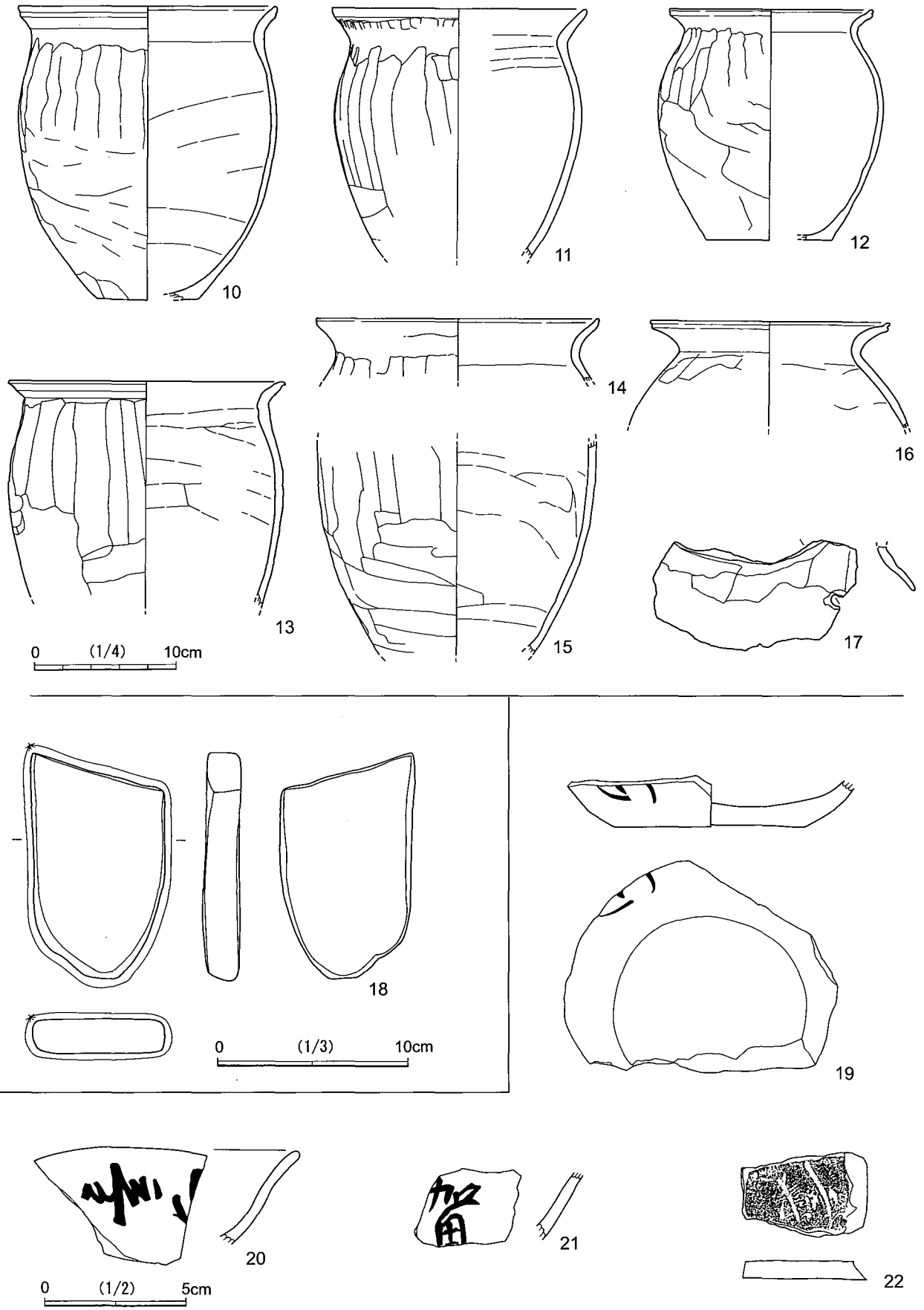


第241図　SI-001 (1)

剥落している。底面は回転ヘラケズリ，体部外面下端はヘラケズリ調整である。5は須恵器の底部破片である。瓶類と考えられるが，詳細器種は不明である。色調は内外面共に灰白色である。表面には黒色の吹き出しが目立つ。胎土は緻密である。底部外面は回転ヘラケズリである。6は土師器の鉄鉢形土器の底部と考えられる。底面が極端に内面側に肥厚し，内面には指による放射状の調整痕がはっきりと残る。同一個体の破片は確認できなかった。色調は内外面共に明赤褐色である。胎土に白色・灰白色砂粒が多量に含まれる。外面はヘラケズリ後ナデ調整，内面はナデ調整である。7は須恵器甕胴部片を再利用した転用硯である。内面には摩滅痕がみられるが，はっきりとした墨痕はない。外面にはタタキ，内面には当て具痕がみられる。外面にはヘラ刻みがある。色調は内外面共に灰白色である。胎土は緻密である。

8～17はすべて土師器甕である。口縁端部が上方につまみ上げられるものが多い。薄手で，調整は共通し，口縁部がナデ調整，胴部外面は上半分が縦方向，下半分が横方向のヘラケズリ調整，胴部内面は比較的丁寧なナデ調整である。8は口縁部の2/5の遺存で，色調は内外面とも明赤褐色である。胎土に灰白色・白色微砂粒が多く含まれる。内外面とも二次的な被熱により，器面がボロボロして脆い状態である。9は口縁部の1/4の遺存で，色調は内外面共に黒褐色である。胎土に白色砂粒が多量に含まれる。口縁端部内面にはしっかりと屈曲が作り出される。また，頚部外面には粘土紐接合痕がみられる。10は全体の7/10の遺存である。色調は外面がにぶい褐色，内面がにぶい橙色である。胎土には白色・灰白色砂粒が多量，スコリア粒子が少量含まれる。内外面共に使用に伴う摩滅がみられる。11は甕上半部の1/2の遺存である。色調は外面がにぶい褐色～黒色，内面が褐色～黒色である。胎土に灰白色・ガラス質微砂粒が多量に含まれる。口縁部外面中央にヘラによる押引き状の痕跡が残される。12は全体の7/10の遺存である。色調は外面が淡橙色～灰褐色，内面が灰褐色である。胎土に白色・黒色砂粒が多く含まれ，赤褐色スコリアも含まれる。口縁端部外面はしっかりと作り出され，沈線状になっている。13は甕上半部の遺存である。色調は外面が橙色～黒色，内面は暗褐色である。胎土には白色微砂粒が多量，赤褐色スコリア粒子が微量含まれる。全体的にゆがみの少ない形状である。14は口縁部の1/4の遺存である。色調は外面が暗赤褐色，内面が黒色である。胎土には灰白色微砂粒多量，ガラス質微粒子が含まれる。15は甕胴部下半の7/10の遺存である。色調は内外面共に明赤褐色である。硬質である。胎土には灰白色砂粒が多量に含まれる。16・17は同一個体と考えられる。口縁部周辺の1/5の遺存である。色調は内外面共ににぶい橙色である。胎土は緻密で，白色微砂粒子が多く含まれる。17は肩部で，小さな穴が一つ穿たれている。

18は砂岩製の砥石で，全面が使用により摩滅している。上面・下面には黒色の物質が付着する。19～21はロクロ整形による土師器坏破片で，墨書がみられる。19は底部の3/4の遺存である。色調は内外面共ににぶい赤褐色である。胎土には各種砂粒・スコリア粒が含まれる。体部下端と底面は手持ちヘラケズリ調整である。体部外面に墨書されるが，破片のため一部のみで，判読できない。20は口縁部破片で，色調は内外面共ににぶい黄橙色である。胎土には白色砂粒が含まれる。体部外面に「□　立　万」とみえる。21は体部破片で，色調は内外面共に淡黄色である。胎土には各種微砂粒が含まれる。体部外面に「加　□」とみえる。22は破片のため確定できないが，土師器坏底部破片で，恐らく内面にあたる部分で，ヘラ書きがみられる。字は不明である。底面はヘラケズリ調整である。色調は内外面共ににぶい赤褐色である。胎土には白色砂粒・スコリア粒が含まれる。

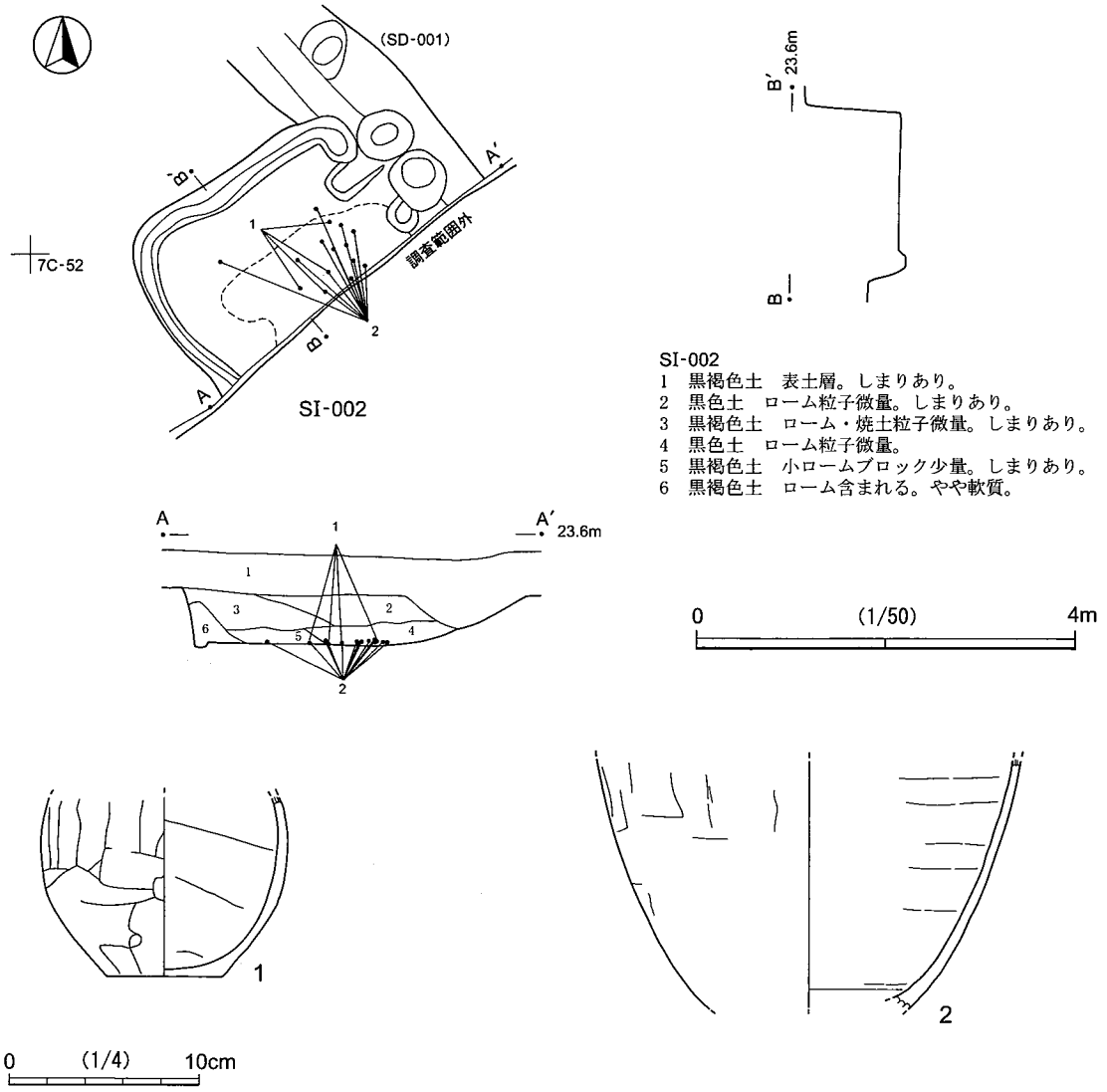


第 242 図　SI-001 (2)

ＳＩ－００２（第243図，図版163・165・166）

SI-001から北東方向に6m離れた7C-42グリッド周辺に位置する。南東側1/3は調査範囲外にあたる。規模は主軸長2.80m・幅推定2.80mである。主軸はN-55°-Eである。掘り込みは確認面から深さ0.50mである。覆土の状態は自然堆積で，全体的に締まりが強い。斜面部に近く，表土は40cmと比較的厚い。表土(黒色土)が平坦面を広く覆っていたため，住居覆土上面との識別が困難であった。カマドは北東面にあるが，中世溝SD-001により，上部はほとんど削平される。床面中央部には硬化面が確認された。壁周溝はカマドを除き全周し，下端幅は平均10cm，深さは床面から約10cmである。

遺物は極めて少ない。床面の一部には土器片があたかもタイルをはめ込むように敷かれていた。1は土師器の小型甕で，胴部下半の1/2の遺存である。色調は，内面がにぶい赤褐色，外面が黒褐色である。胎土には白色微砂粒子が多量に含まれる。外面はヘラケズリ，内面がヘラナデ調整である。2は土師器甕で胴部下半の7/10の遺存である。色調は外面がにぶい橙色～黒色，内面が明灰褐色～灰褐色である。胎土には灰白色微砂粒多量，赤褐色スコリア・雲母細粒が微量含まれる。外面はヘラケズリ後ナデ調整，内面はナデ調整である。

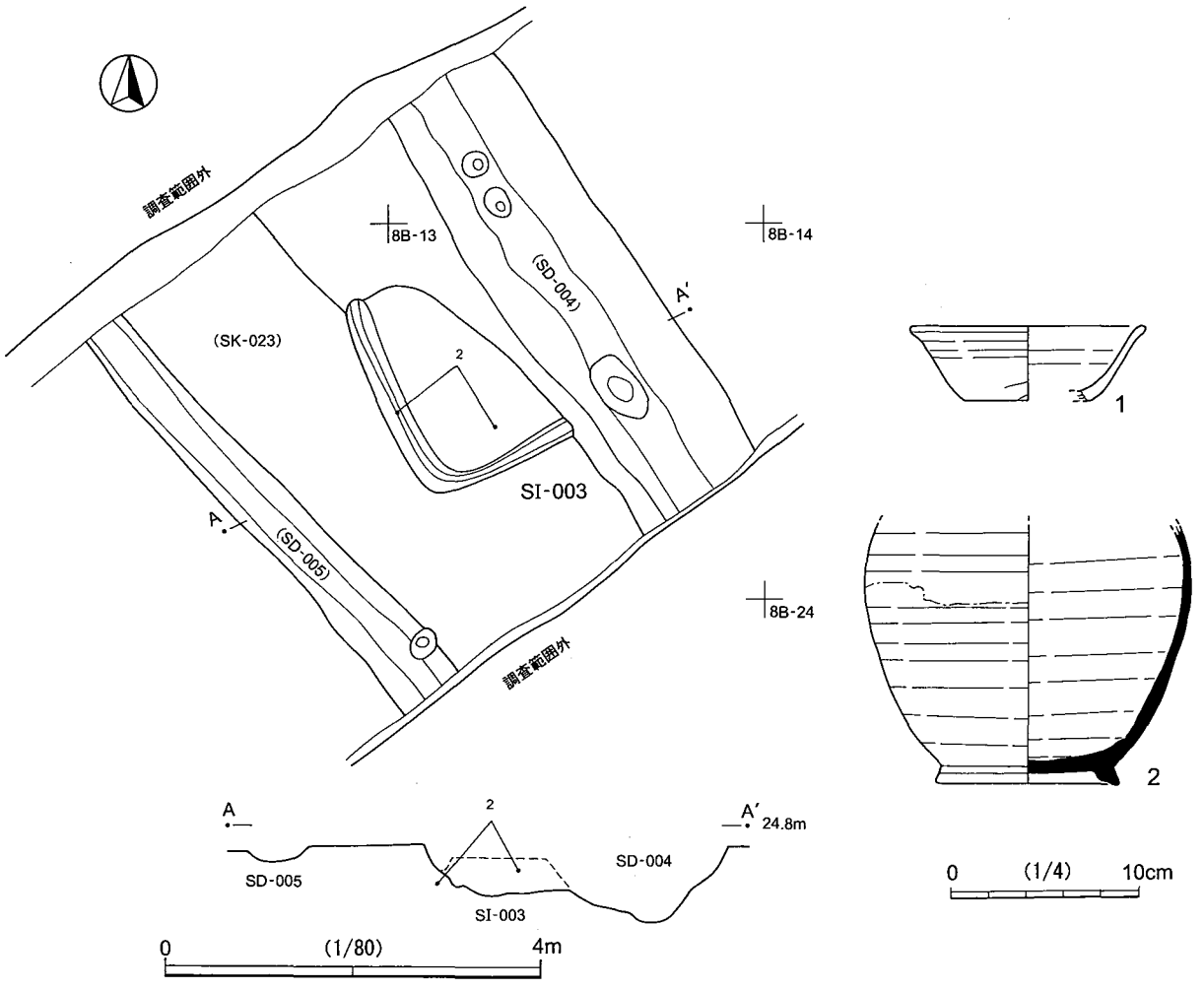


第243図 SI-002

ＳＩ－００３（第 244 図，図版 163・165・167）

他の 2 軒の竪穴住居跡とは若干離れ，8B-13 グリッド周辺に位置する。中世の溝(SD-004)により北半分が削平され，カマドは遺存しない。覆土は黒色の単一層である。北東コーナー付近に住居の覆土が確認でき，規模は推定で 3.0 m四方の正方形であったと考えられる。主軸は N-20°-W である。カマド構築材の山砂が出土し，カマドは北東側にあったものと推定される。床面は貼り床であるが，極めて軟質であり，調査では掘り方地山面まで達する。壁周溝は残存部分で全周する。

遺物は極めて少ない。1 はロクロ整形の土師器坏で，口縁端が肥厚し大きく外反する。口縁部～体部の 1/5 の遺存である。色調は内外面共に黒褐色である。胎土には灰白色微砂粒が多量に含まれる。体部下端は，ヘラケズリ調整である。2 は須恵器長頸瓶である。胴部下半～底部の 1/2 の遺存である。色調は内面は灰色，外面は黒褐色，外面上部には灰釉がかかり，やや緑を帯びた灰色である。底部内面中央にも降灰がみられる。細かな気泡に伴う火ぶくれがみられる。胎土は精緻で，灰白色の砂礫(3mm)が含まれる。底面には木葉痕がみられる。外面胴部下位は回転ヘラケズリ，底面には回転糸切りの痕跡がみられる。胎土・形状から猿投窯産と考えられる。



第 244 図　SI-003

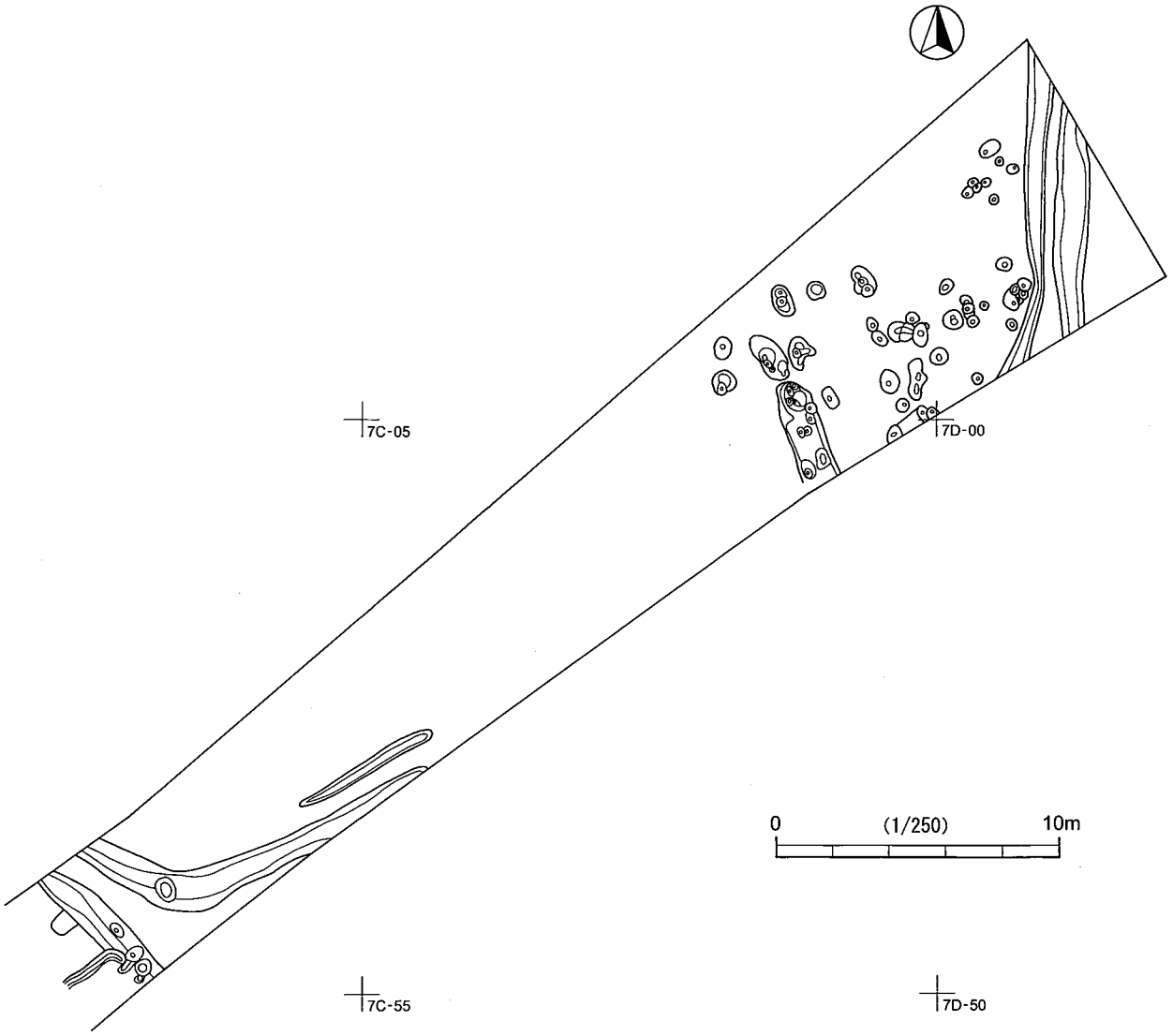
第3節　中・近世（第204図，第6・44～46表）

検出された中・近世の遺構は，台地整形区画1か所で，その中に掘立柱建物跡2棟以上，外縁の区画溝2条，その他の溝5条である。いずれも調査区北側で検出され，八幡神社北(2)遺跡の中・近世遺構群の一角であると考えられる。

1　台地整形区画

ＳＸ－００１（第245図）

調査区北辺の溝(SD-002)を南端とする段整形された範囲である。掘り込みは八幡神社北(2)遺跡につながる。地山のソフトロームを削っているが，ハードローム面までは及んでいない。この地点は元来，低位段丘面で平坦であったため，段整形は必要最低限に行われたものと考えられる。



第245図　SX-001(台地整形部分)

2　溝状遺構

ＳＤ－００１（第246図，図版163・165）

7C-42・43グリッドに位置する。周辺地形は地山改変のない北西方向へ緩やかに傾斜する狭小な台地端部である。溝はこの傾斜に沿うようにほぼ南東から北西に延びる。主軸はN-45°-Wである。北西側は谷に落ち，南東側は急斜面を等高線に直角に延びていくと考えられる。調査範囲内での長さは4.90ｍ，幅は上端で1.40ｍ～0.65ｍ，下端で0.70ｍ～0.30ｍである。底部は平坦ではなく緩やかに弧を描く。底面には硬化面はみられない。底部からはややずれたところに計3個の小ピットが確認できた。いずれも浅く広いため柱穴や柵列とは考えにくい。

1・2は共にピット覆土最下層から出土した。1は常滑壺口縁部片である。口縁端が下方に垂れ下がる形状である。色調は内外面共に灰色で，ゴマ振り状に自然釉が掛かる。硬質で須恵質である。胎土は緻密で，灰白色砂粒が多く含まれる。6a型式(13世紀第3四半期)とみられる。2は常滑甕肩部破片である。色調は外面が分厚く自然釉(灰釉)が掛かり緑灰色，内面がにぶい橙色である。胎土には長石・石英・灰白色砂礫・鉄分粒が多く含まれる。破片であるが，2次加工痕はみられない。。

ＳＤ－００２・００３（第246図）

7C-34グリッド周辺に位置する。SD-002はSD-003とセットをなす台地整形端部の溝である。掘り込みは浅いが，その台地整形側と整形を受けていない側との段差はおよそ0.4ｍ～0.5ｍである。覆土は黒褐色土で混入物を含まない単一層である。溝は一直線ではなく，東北東から北西へと大きく屈曲して延びる。調査範囲北側では谷津方向に落ち，東側では山裾に沿って近代以降にも使われていた道路に重なっていくと考えられる。覆土中・底面には硬化面は全くみられなかった。溝中心部に直径0.8ｍ～0.9ｍ，深さ0.6ｍの小ピットがみられるが，溝より古く埋没していた。

この地点から北東の掘立柱建物跡SB-002の間は，台地整形区画内にも関わらず，全く遺構確認できない空白エリアである。

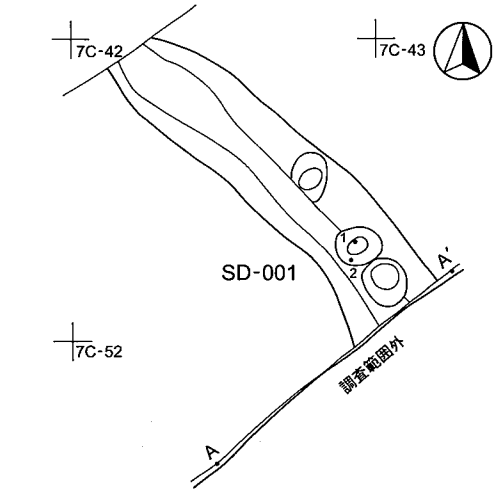
ＳＤ－００４（第247図，図版163・165）

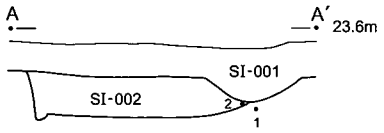
8B-03・13グリッドに位置する。主軸はNW-33°-Wで，すぐ南側は急な登り斜面に当たる。溝はこの急斜面を等高線に直行するように延びていく。上端は東側は1段であるが，西側では傾斜を変えて2段となり，SI-003を削平しながら幅を広げてゆく。上端で1.50ｍ～3.85ｍ，下端で0.60ｍ前後である。深さは表土除去後の地山から0.95ｍで，断面形は概ね逆台形状である。覆土のうち褐色土はしまりがやや弱いが，黒色土はそれに比べるとややしまりがある。大きなロームブロックは全く含まれない。各層とも焼土・混入物はほとんどなく，硬化面は確認できなかった。底面には3か所に小ピットが確認できた。ただし，掘り方は浅く明瞭ではなく，溝に伴うものかどうかは判然としない。

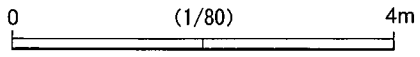
砥石が2点出土した。1は砂岩製で上面・下面が特に摩滅している。側面は1面のみ摩滅している。2は凝灰岩製で，稜線に斜め方向に線状痕がみられる。側面は炭化して黒色である。SI-003の範囲とも出土位置が重なっており，住居に伴う可能性もある。

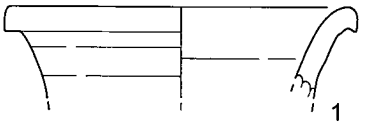
ＳＤ－００５（第247図）

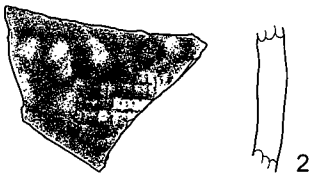
SD-004から直近で3.50ｍ西側(8B-12・22グリッド)に位置する。延びる方向はSD-004とほぼ同じであ

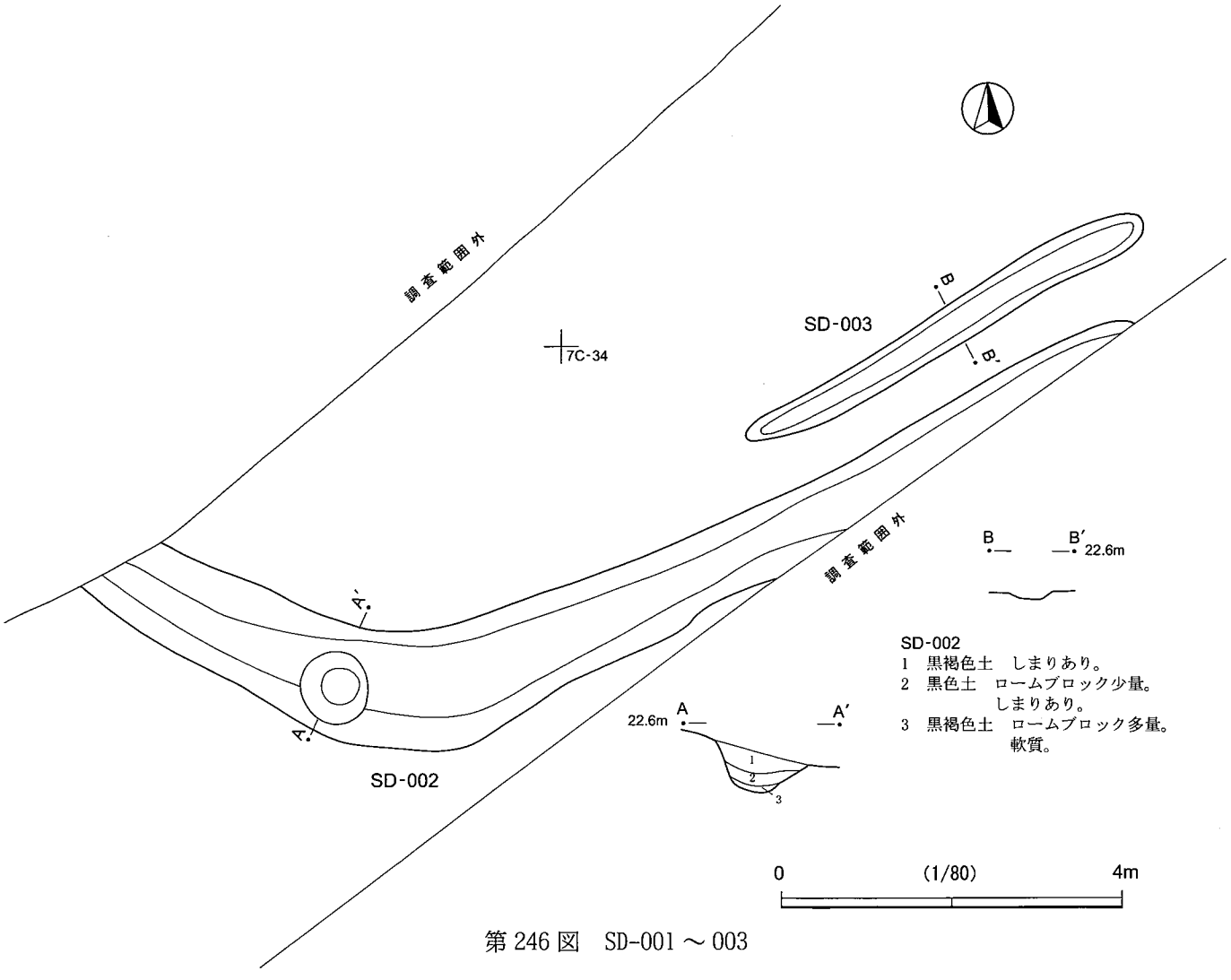




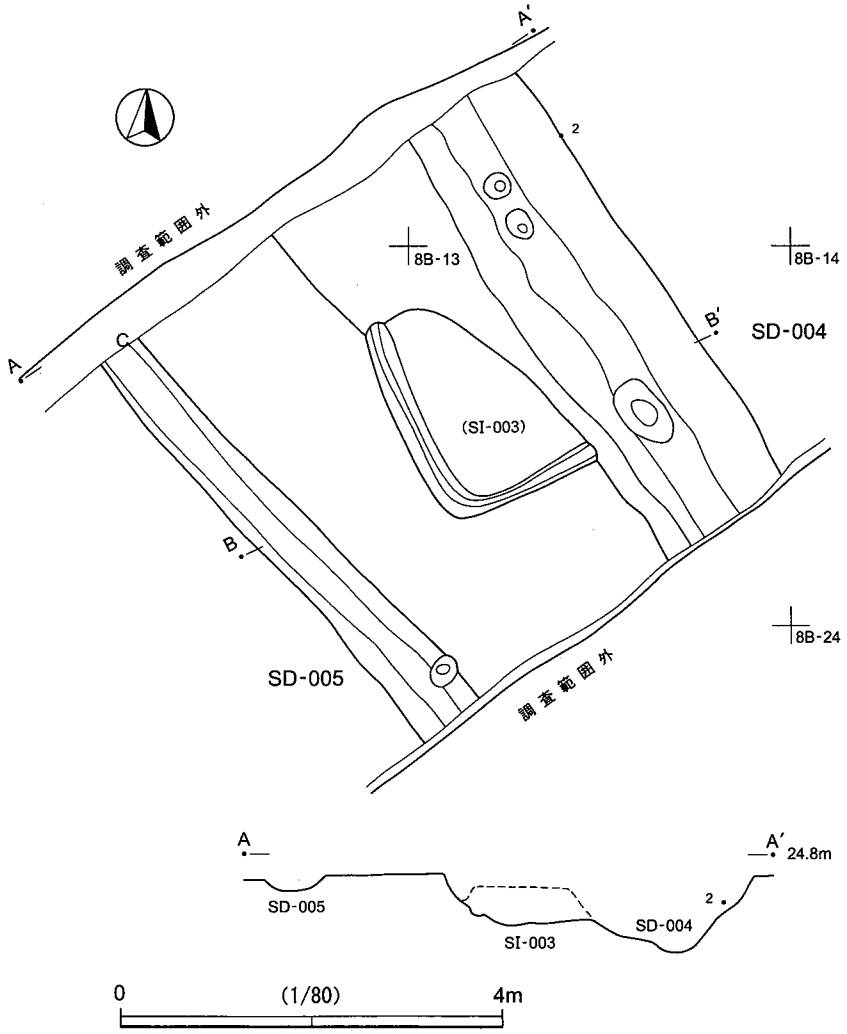


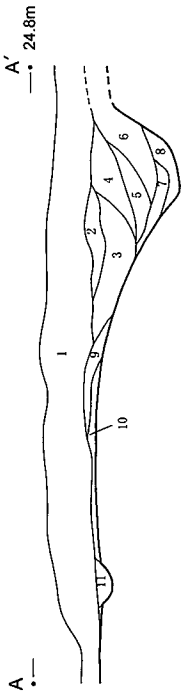




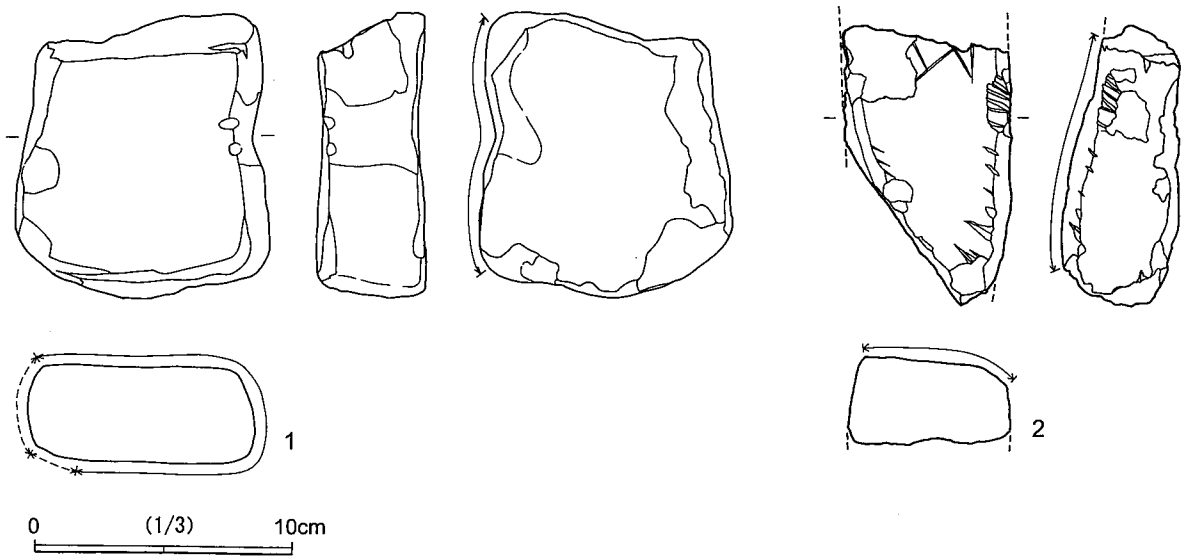


第246図 SD-001～003





SD-004・005
1　黒褐色土　表土層。
2　黒色土　しまりややあり。
3　褐色土　ローム多量。
4　黒色土　しまりややあり。
5　褐色土　φ1cmのロームブロック主体。
6　黒色土　しまり弱い。
7　褐色土　小ロームブロック少量。
8　黒色土　ローム粒子少量。
9　黒色土　旧表土？しまり・粘性あり。
10　黒褐色土　しまりあり。
11　黒褐色土　しまりあり。



第247図　SD-004・005

るが，主軸はN-43°-Wで，若干開きがある。幅は上端で0.50 m～0.75 m，深さは0.40 m～0.60 mである。底面と立ち上がりの差は不明瞭である。硬化面は確認できなかった。

ＳＤ－００６・００７（第248図）

SD-006・007は調査区北西端(6D-80付近)に位置し，平行してほぼ南北方向に延びる道路状遺構である。八幡神社北(2)遺跡南端部検出のSD-043・042に続く遺構である。幅はそれぞれ0.4 m～0.8 m，0.8 m～1.2 mである。掘り込みは浅いが(SD-006：深12 cm，SD-007：深20 cm)，覆土下部には硬化面がみられた。南側では山裾に沿って近代以降にも使われていた道路に重なっていく。

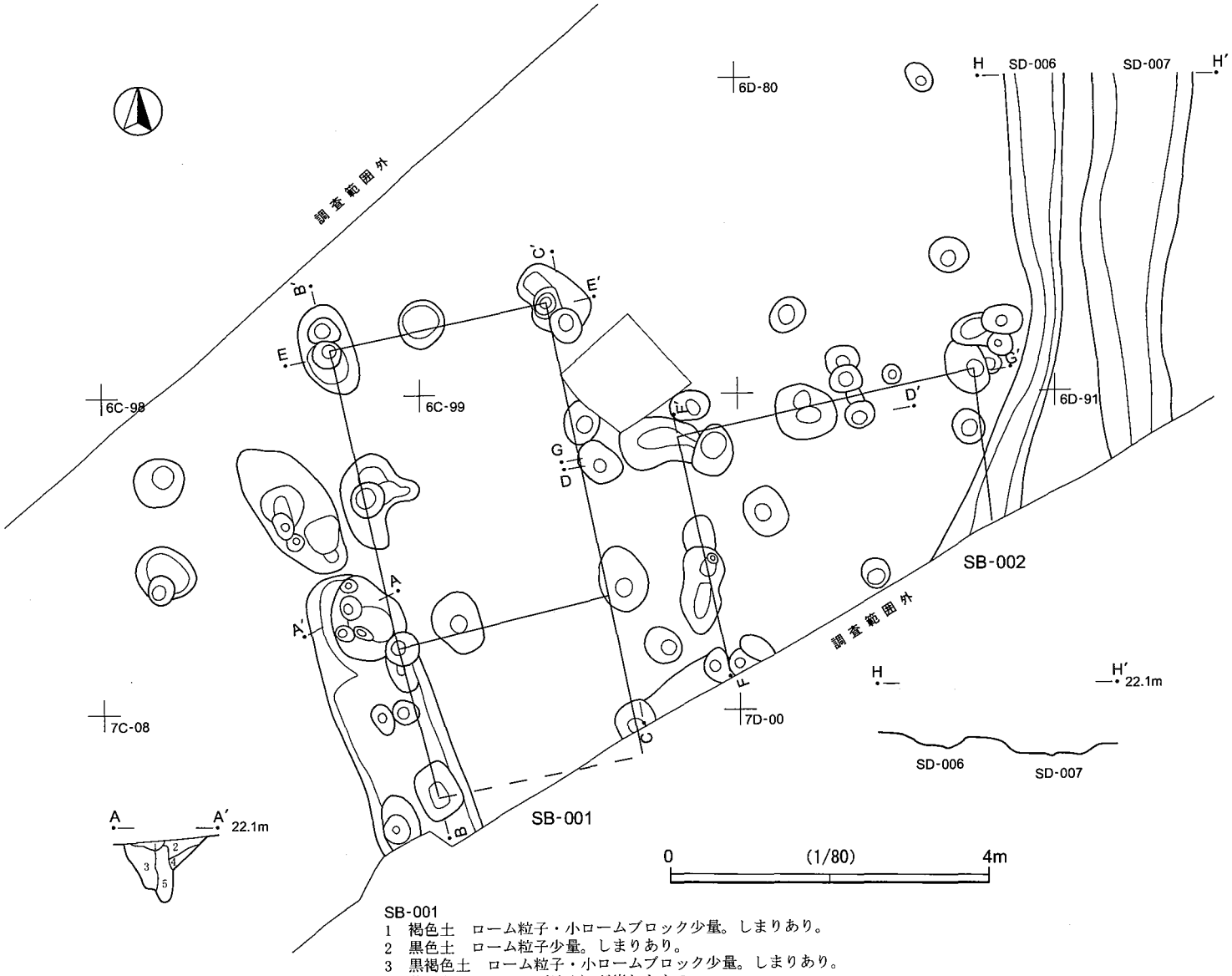
3　掘立柱建物跡

ＳＢ－００１（第248図，図版164）

6C-88・89・98・99グリッドに位置する。その南側は急傾斜の登り斜面が迫っているため，これ以上南側に広がることはないと考えられる。主軸はN-14°-Wで，規模は推定梁行1間(2.80 m)×桁行3間(5.70 m)である。SB-002と主軸がほぼ一致するが，新旧関係は不明である。西側では地山への掘り込みが幅1.30 m，深さ8 cm～10 cmの溝状となる。数度の建て替えに伴い柱穴が重複するところも多い。柱穴の掘り方は南北方向に細長い長楕円形で，段差を有する。すべて抜き取り痕であると考えられる。柱穴の深さは0.8 m～1.0 mで，掘り込みはしっかりとしている。柱の当たりが硬化しているところも確認できた。覆土中から遺物は出土しなかった。

ＳＢ－００２（第248図）

6C-99，6D-90グリッドに位置する。その南側は急傾斜の登り斜面が迫っているためSB-001と同様に，これ以上南側に広がることはないと考えられる。主軸はN-14°-Wで，規模は梁行2間(3.80 m)×桁行推定2間(3.80 m)である。数度の建て替えに伴い柱穴が重複するところも多い。柱穴の掘り方は南北方向に細長い長楕円形で，段差を有する。すべて抜き取り痕であると考えられる。柱穴の深さは　0.42 m～0.76 mで，掘り込みはSB-001に比べて浅い。覆土中から遺物は出土しなかった。



SB-001
1　褐色土　ローム粒子・小ロームブロック少量。しまりあり。
2　黒色土　ローム粒子少量。しまりあり。
3　黒褐色土　ローム粒子・小ロームブロック少量。しまりあり。
4　黄褐色土　ローム（地山）が崩れたもの。
5　黒褐色土　柱痕跡。しまり弱い。

第248図　SB-001・002, SD-006・007

第5章
まとめ

第5章　まとめ

第1節　旧石器時代（第249図）

八幡神社北(1)・(2)・(3)遺跡からは旧石器時代の石器集中地点が合計5地点と単独出土地点3地点が検出された。これらは5つの文化層に分離される。

第1文化層は八幡神社北(1)遺跡の石器集中1と石器集中2が該当し，両石器群は西側に低地を望む台地の縁辺に隣接して立地する。出土層位はIX層下部で，主な出土遺物には局部磨製石斧・石斧調整剥片・楔形石器などを含む。石器集中地点は帯状分布をなし，出土層位や局部磨製石斧などの出土遺物の状況をみると，環状ブロックを呈していた可能性がある。

出土石器は，比較的単純な様相を示し，石斧と石斧調整剥片，楔形石器と両極剥離により剥がされた剥片(楔形石器剥片)が点数比で7割を超えることから，当地では主に石斧のメンテナンスと両極剥離に伴う作業が実施されたことを物語っている。ただし，楔形石器剥片が集中するのは石器集中1のさらに狭い地点であることから，各集中地点の場の機能は均一ではないものと考えれば，捕捉できなかった地点では新たな機能が推測される石器群が検出される可能性のあることを付け加えておく。

さて，周辺に目を転じると，第2黒色帯中から石斧が出土した遺跡には大網白里町大網山田台№8地点，山武市(旧松尾町)赤羽根遺跡・四ッ塚遺跡などがある。四ツ塚遺跡では2地点で環状ブロックが検出され，一般的に石斧と環状ブロックの密接な関連性が指摘されているところである。小規模な石斧の調整と両極剥離に特化した本文化層が，これらの規模の大きな遺跡とどのような関係にあるのか，遺跡立地との関連が気になるところである。

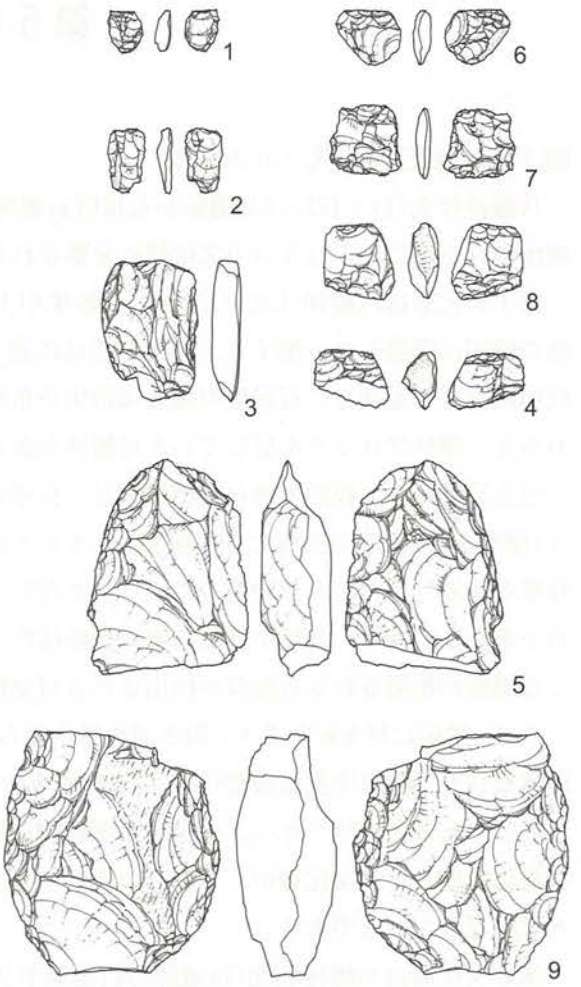
第2文化層は八幡神社北(1)遺跡の石器集中3が該当する。出土層位はVII層を主体とし，一部IX～X層に広がる。台形様石器や石斧未製品を伴い，剥片剥離にはチャートが主に用いられている。出土石器は合計21点の小規模な石器集中地点である。

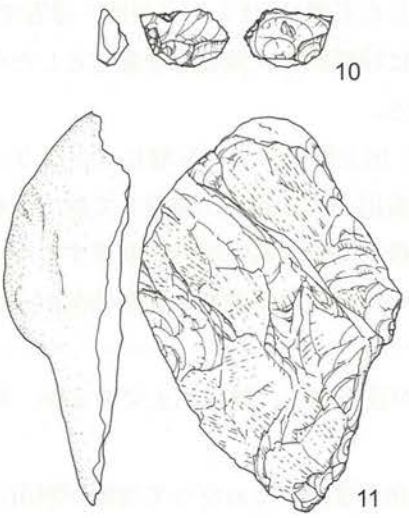
第3文化層は八幡神社北(2)遺跡の石器集中1が該当する。出土層位はVI層を中心とし一部VII層に及ぶものもある。台地中央部の平坦地に立地する本地点から出土した石器は，ほとんどが同一母岩で構成され，狭い範囲に集中して検出された。資料の一部には，この時期に特徴的な大型石刃を素材とした小石刃生産(新田技法・千田台技法)に伴う資料と類似するものもみられる。

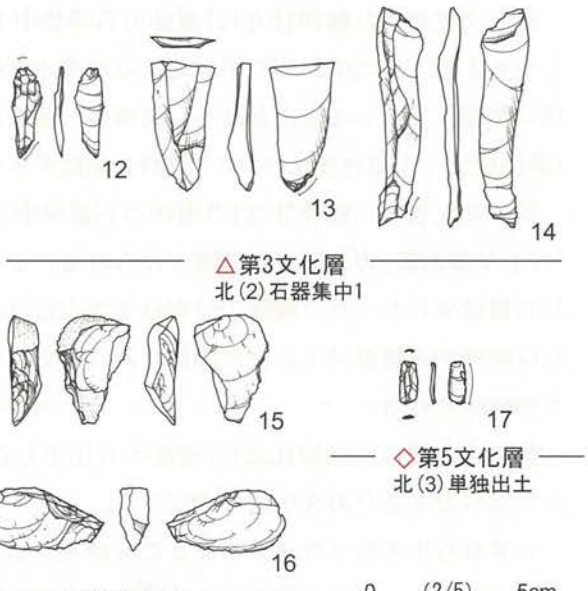
第4文化層は八幡神社北(2)遺跡の石器集中2が該当する。出土層位はIII～V層にまとまり，いわゆる「IV下V層段階」の石器群に位置づけられる。この時期に多く検出される礫群が隣接して検出されたが，剥片石器は少なかった。礫群の分布は3地点に分かれ，多くの接合関係が集中域内に収束するが，その一部には隣接する礫群同士に接合関係がみられた。各礫群集中域の比較から各礫群の廃棄状況が一様でないことが推測される。

第5文化層は八幡神社北(3)遺跡から出土した細石刃1点が該当する。単独出土であるが，時期が明らかな資料であるため文化層を設定した。

いずれも小さなブロックであることから，短い滞在期間ながら各時期にわたって当地が利用され続けたことがわかる。独立丘陵上にある遺跡の立地は狩猟場としての良好な環境にあったのかもしれない。







第 249 図　八幡神社北遺跡の旧石器時代

第2節　縄文時代・弥生時代

1　縄文時代

縄文時代の遺構については，八幡神社北(1)・(2)・(3)遺跡を合わせても陥穴を4基検出したのみで，竪穴住居跡は検出されず，集落として定住した痕跡を確認することはできなかった。検出された陥穴から遺物は出土せず，また，それぞれの検出位置に意図的な配置を想定することは難しい。時期については形状・覆土から考えて縄文時代早期である可能性が考えられる。

出土遺物は縄文土器小破片と石器で，調査区に対して非常に少数である。縄文土器の時期は早期～後期まで確認でき，特に前期の繊維土器の点数が多い。この繊維土器はほとんどが，道路拡幅に伴い調査を行った細長い調査区(八幡神社北(1)遺跡北側)から，現在の水田面に近い高さで出土した。恐らく台地上に縄文時代前期の包含層・遺構があったものが後世の遺構による削平を受け，台地北側の低い地点に流れ込んだものと考えられる。総点数からみても，大規模な集落を想定することは不可能である。台地南側の八幡神社北(2)・(3)遺跡からは縄文時代の遺物はほとんど出土していないため，小規模な縄文時代前期の集落があったとすれば，台地北側で，より縁辺部に近い地点であろう。

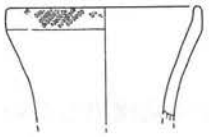
2　弥生時代（第250・251図）

弥生時代の遺構については，八幡神社北(1)遺跡でのみ検出された。遺構の種類の内訳は竪穴住居跡2軒，土坑5基である。いずれも後世の遺構により削平を受け，遺構の遺存は良好ではない。八幡神社北(1)遺跡で検出された竪穴住居跡は調査区南側の台地平坦面，土坑は調査区北側の緩やかに傾斜しはじめる台地縁辺部にみられる。出土土器から竪穴住居跡の時期は弥生時代中期後半の宮ノ台式期に相当すると考えられる。また，土坑の内3基(SK-031・032・033)については，積極的に弥生時代とできる遺物は出土していないが，発掘時の所見を優先し弥生時代の帰属とした。この3基の土坑は平面形が長方形の浅い土坑であり，分布は比較的密集する。その内2基では床面に被熱痕が確認できた。遺物が少なく，掘り込み以外の特徴がほとんどなく，用途は不明であるが，同一の目的で使用していたものと考えられる。

八幡神社北(2)遺跡では，遺構は検出されず，遺物は胎土や器面調整から宮ノ台式期と考えられる土器小破片が数点出土した。八幡神社北(3)遺跡では遺構・遺物ともに確認することはできなかった。また，八幡神社北(1)遺跡の古墳時代以後のほとんどの遺構覆土中からは，小片ではあるが，数点～数十点単位で弥生時代中期の土器片が出土している状況を考えると，弥生時代中期の集落は同台地上でも八幡神社北(1)遺跡のある北側に偏って営まれていたと考えて良いであろう。そして，いずれの地点からも弥生時代後期の土器片はほとんど確認できないため，この台地は弥生時代においては，中期後半に限定される集落のみが営まれていたことになる。

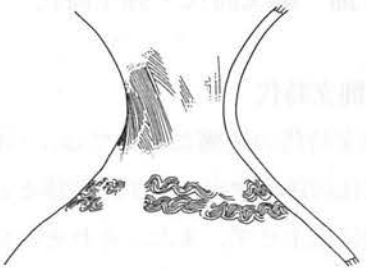
なお，本遺跡の南に位置する八幡神社南遺跡では竪穴住居跡8軒，方形周溝墓が3基検出され，比較的多くの遺物が出土した。いずれも宮ノ台式期であり，八幡神社北遺跡との強い関係を想定することができる。しかし，八幡神社北(1)遺跡との間にほとんど弥生土器の出土がない八幡神社北(2)遺跡が存在することと，八幡神社北遺跡と八幡神社南遺跡には同一台地とはいえ20m以上の比高差があることから，当時同一集落として機能したかは積極的に言及できない。八幡神社南遺跡では墓域(方形周溝墓群)と生活域(竪穴住居群)が確認されているが，八幡神社北遺跡では墓域を明らかにすることができなかった。八幡神社

八幡神社北遺跡

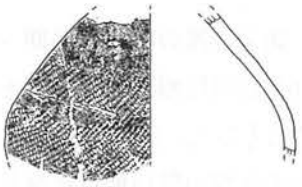


(1) SI-032-10

(1) SI-032-5

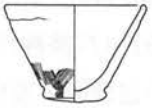


(1) SK-023-1



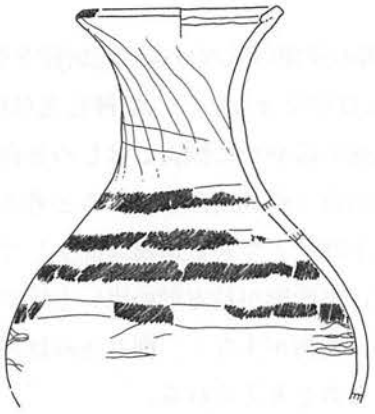
(1) SI-032-9

(1) SI-032-6

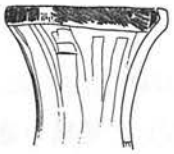


(1) SK-023-2

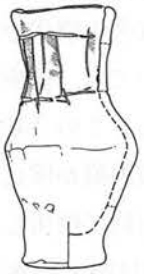
八幡神社南遺跡



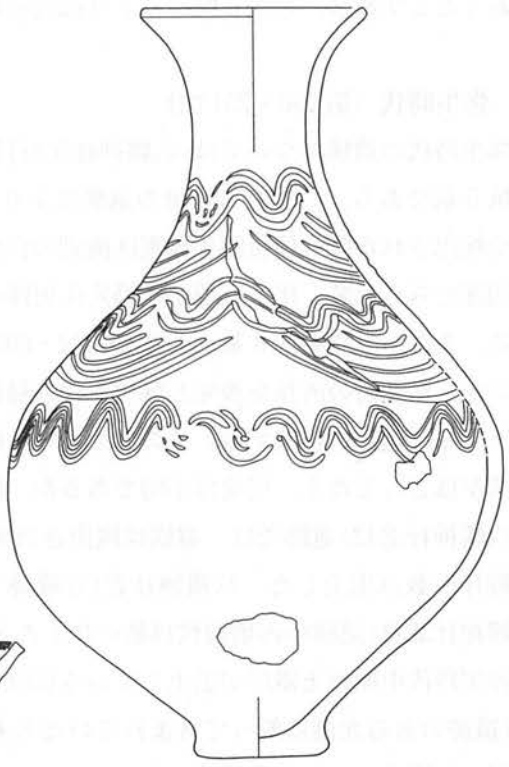
(2) SI-006-7



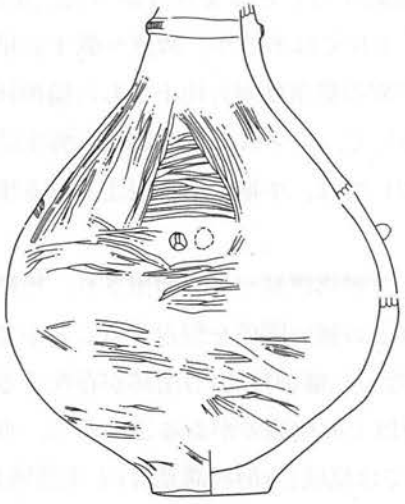
(2) SI-010-20



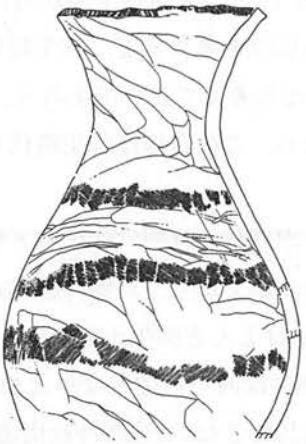
(2) SI-010-21



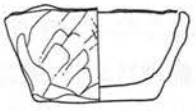
(1) SS-001-1



(2) SI-009-13



(2) SI-006-6

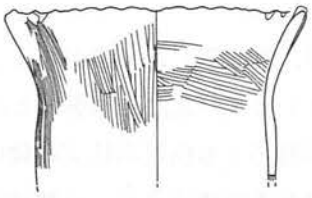


(2) SI-009-17

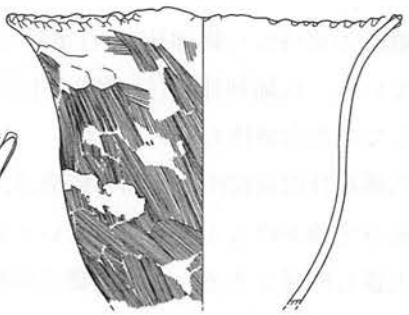
第 250 図　八幡神社北・南遺跡出土弥生土器比較（壺）（S = 1/4）

八幡神社北遺跡

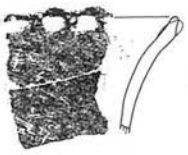
(1) SI-032-1



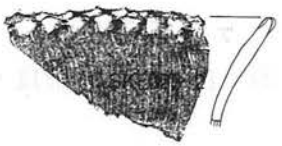
(1) SI-032-3



(1) SI-032-2

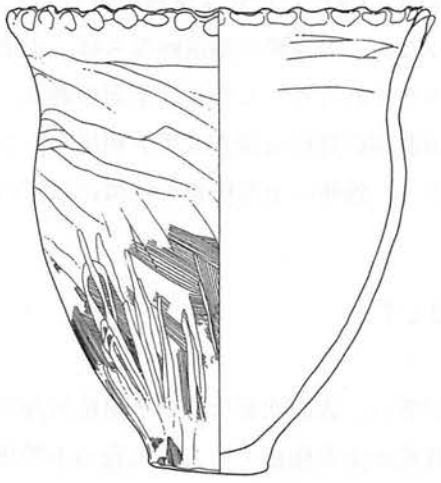


(1) SI-040-2

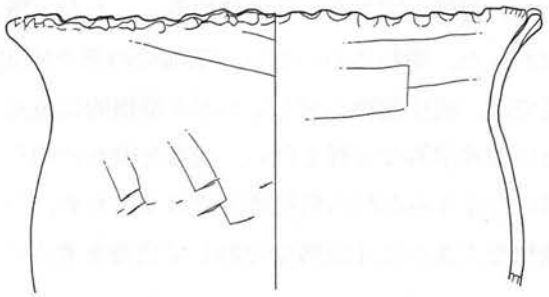


(1) SI-040-1

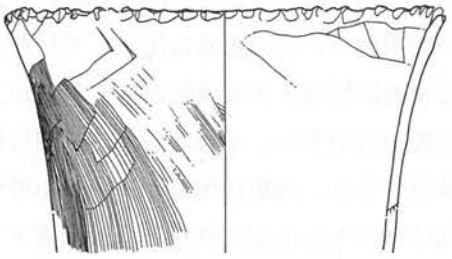
八幡神社南遺跡



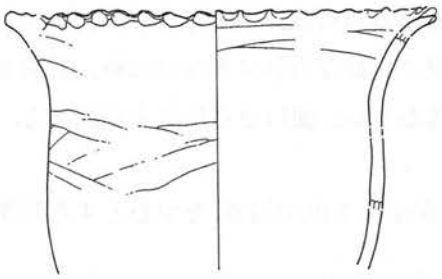
(2) SI-010-23



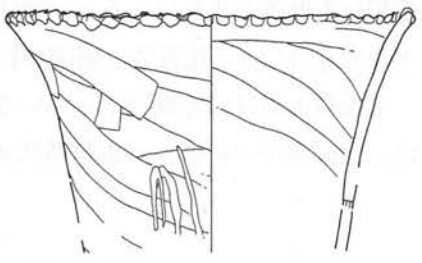
(2) SI-011-26



(2) SI-012-31



(2) SI-009-15



(2) SI-006-11

第 251 図　八幡神社北・南遺跡出土弥生土器比較（甕）（S = 1/4）

南遺跡の墓域は八幡神社南(1)遺跡にのみ確認され，生活域から離れた台地の高い部分に意識的に造営されている。八幡神社北(1)遺跡の生活域に対応する墓域もやや離れた位置にあるか，同一集落とすれば共有していた可能性も考えられる。

八幡神社南遺跡出土土器の特徴は，在地化した要素が強く，斜縄文を多条に施文する個体があり，北関東系の土器がほとんどみられないという[1]。北関東系をほとんど含まないという点では八幡神社北遺跡出土土器も同様である。また，甕は両遺跡とも横走羽状文の個体はみられない。壺は八幡神社南遺跡出土のものは単純な流水文や斜縄文など単要素で構成され，八幡神社北遺跡出土のものは複数の文様を組み合わせた文様構成である。以上の特徴から本遺跡の土器群は，八幡神社南遺跡と同様に宮ノ台式でも新段階の資料と捉えて良いであろう。

第3節　古墳時代～奈良・平安時代

1　土器と集落の変遷

(1) 土器の様相（第252・253図）

古墳時代～奈良・平安時代における遺構については中・近世の遺構群に部分的に削平されており，遺存状態が悪い。遺構の切り合いは比較的多かったが，覆土が浅く発掘時に明確に新旧関係を捉えられたものは多くなかった。遺物については，遺構の時期を決定する床面直上の遺存が良好な遺物が極めて少なく，整理作業では，破片遺物に対してかなり積極的に復元実測を行った。この規模の集落跡ならば、出土土器を器種毎に型式学的な分析を行い，変遷を細かに明らかにするべきであろう。しかし、上記の通り，土器編年分析にたえうるだけの資料状況ではないため，ここでは周辺遺跡の良好な調査成果を利用し，本遺跡の土器様相を大まかに4段階に分期して変遷を考えることにする[2]。各期の土器様相の特徴は以下の通りである。

第Ⅰ期　(1) SI-009・011・(2) SI-041から出土した土器を指標とする。

この時期の住居跡からは須恵器は出土していない。

土師器坏は須恵器坏蓋・坏身模倣がみられるが，坏身の模倣が多い。表面塗彩は赤彩と黒色処理が混在するが黒色処理の方が多い。赤彩から黒色処理に移り変わる過渡期の土器様相である。丸底の小型坏も少量であるが確認できる。新相は坏の扁平化，小型化を目安にして分離した。坏の形態は多様で，椀形坏もみられる。高坏は大型と小型が併存し，口縁直下に段を有する。内面は丁寧なミガキが施され，黒色処理される。しかし，高坏の出土は少なく，坏のように古相・新相による形状差は明確ではない。

土師器甕・甑類は本遺跡全体にいえるが，総体的に遺存率が低く良好な資料は少ないため，Ⅱ期と明確に分離することができない[3]。比較的，胴部の膨らみが強い個体が多い。甑はさらに出土が少なく，傾向がつかめない。手捏ね土器は一定量出土している。

年代としては，土師器坏の特徴から古墳時代後期後半(6世紀後半～7世紀初頭)を中心とする時期と捉えられる。

第Ⅱ期　(1) SI-015・(2) SI-005，(2) SI-032・047から出土した土器を指標とする。

須恵器は少数ではあるが，この段階からみられ，口径の小さい坏蓋・坏身のセットが出土した。

土師器坏は引き続き古相では須恵器坏身模倣がみられるが口縁の立ち上がりが小さくなり，口縁端部が薄く短く直角に立ち上がる形態が増加する。Ⅰ期新相より小型化が進む。器面処理には赤彩はほとんど行われなくなり，黒色処理が圧倒的に多い。器面内面を特に丁寧に磨き，黒色処理は炭素吸着より漆処理が主体である。底部は丸底の他に平底を意識した器高の低い個体が含まれるようになる。新相は完全に須恵器模倣坏がなくなる段階を目安にした。平底傾向で立ち上がりが急なものと，丸底で小型のものと大きく2系統が存在する。内面に暗文状のミガキを施すものがみられ，金属器や畿内の影響を受けた形状と考えられる。また，大型の平底の鉢もみられる。高坏はⅠ期に比べ量が少なく，坏部は稜がなく，丸底坏状となる。新相段階にはほとんど出土していない。

土師器甕は胴部の張りが前段階より弱く，より長胴化傾向が進んでいる。球胴の甕は比較的小型のものが残存する。甑の良好な資料は少ない。手捏ね土器は一定量出土している。

年代としては，幅は広いが土師器坏・須恵器坏の特徴から古墳時代終末期(7世紀台)を中心とする時期と考えられる。

第Ⅲ期　(1) SI-003・051，(2) SI-052から出土した土器を指標とする。

須恵器つまみ付き坏蓋，坏身のセットがみられる。蓋のかえりが退化している段階である。須恵器の出土総量は少ない。

土師器坏はロクロ未使用の浅い丸底・平底のものとロクロ整形によるものが混在する。ロクロ土師器坏は箱形で，赤彩されるものが含まれる。

甕は遺存が良好な資料が少ない。中型の甕の口縁部の整形は丁寧で端部を鋭く立ち上げている。また，頸部が直立する形態や常総甕など多種類がみられる。甑はこの時期も出土が少なく，傾向がつかめない状況である。この時期から手捏ね土器は出土していない。

年代としては，幅は広いが土師器坏・須恵器坏の特徴から奈良時代(8世紀台)を中心とする時期と考えられる。

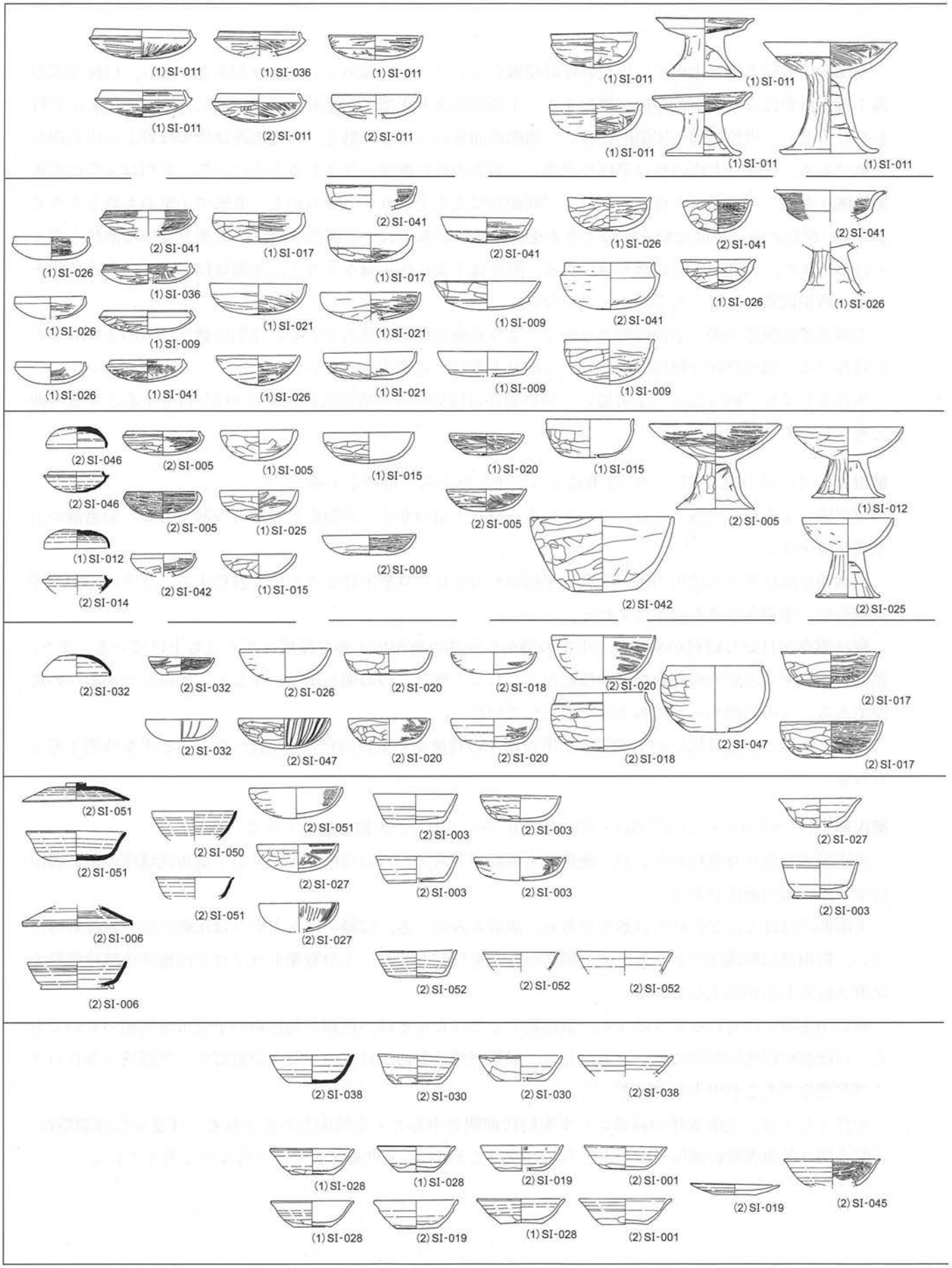
第Ⅳ期　(1) SI-028・(2) SI-038・(3) SI-001から出土した土器を指標とする。

須恵器では良好な資料がないが，硬質な土師器坏と考えたものの中に褐色系の千葉市地域産の須恵器が含まれている可能性がある。

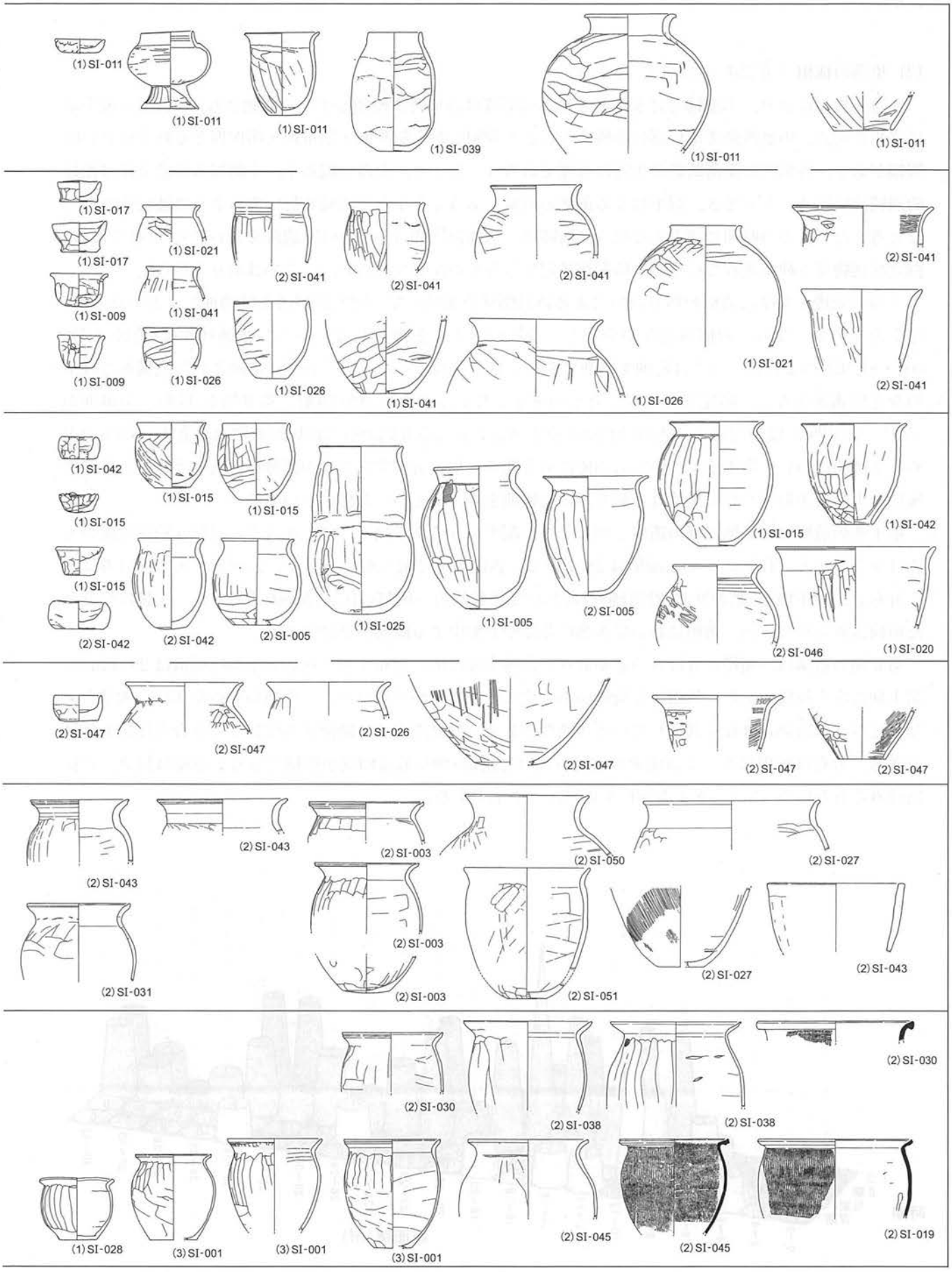
土師器坏はほとんどがロクロ整形であり，皿形もみられる。口縁の立ち上がりは比較的緩やかなものが多い。新相は口縁端部がより外反する傾向のものを目安とした。この時期のロクロ土師器坏の破片資料で墨書されるものが出土している。

甕に須恵器が含まれるようになる。須恵器としたほとんどは，色調が褐色系の千葉市地域産のものである。口縁部の屈曲が非常に強い特徴をもち，器壁が薄いものが目立つ。甑も須恵質で，平底状の多孔のタイプが破片であるが出土している。

年代としては，土師器坏の特徴から平安時代前期を中心とする時期と考えられる。坏部の底部調整に，回転糸切り後無調整の個体がほとんどみられないことから，9世紀末までは下らないと考えている。



第 252 図　土器の変遷①



(S=1/8・甕類は1/10)

第 253 図　土器の変遷②

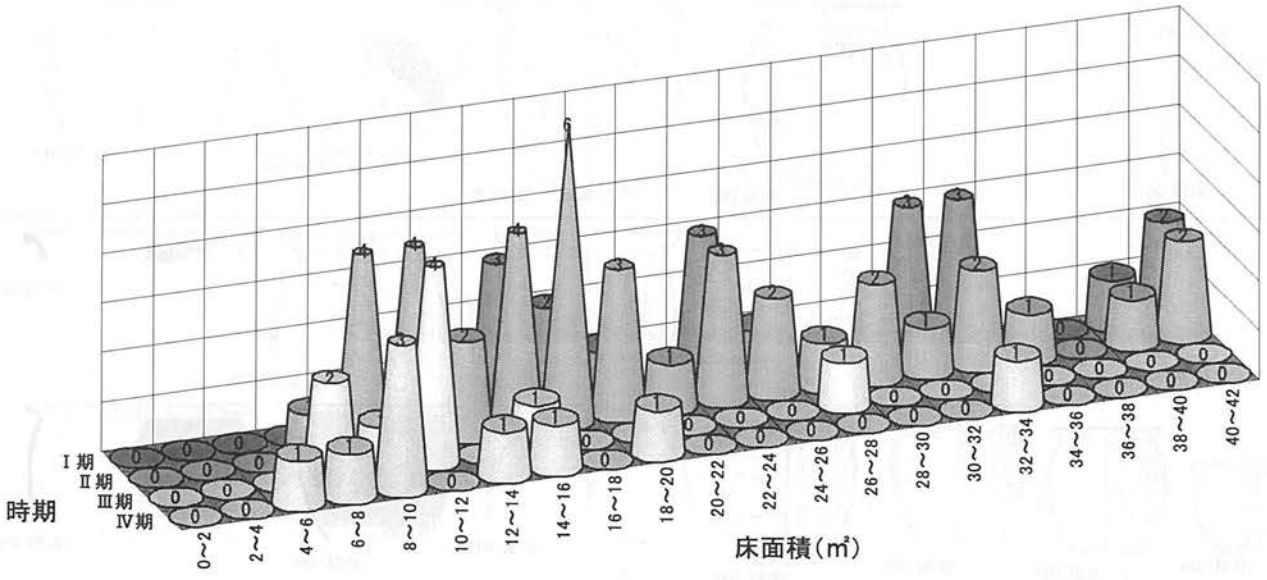
(2) 集落の様相（第 254 ～ 256 図，第 7 表）

土器の検討により，本遺跡では本格的な集落の形成は古墳時代後期後半から開始され，9 世紀の後半頃に終焉を迎え，中世段階まで集落は中断することが判明した。第Ⅱ期・第Ⅲ期・第Ⅳ期とそれぞれ長い時間幅があり，各期内に集落断絶の想定は可能であろう。しかし，土器の編年上，土師器の形態変化は比較的連続的に追うことができ，削平による遺構の消滅もあることから，断続を想定するよりは連続性があったと考えたい。この時期に該当する竪穴住居跡は，八幡神社北(1)・(2)・(3)遺跡をあわせて 99 軒である。掘立柱建物跡も検出されているが，時期が特定できるものが少ないため，ここでは取り上げない。

土器の変遷を基準に遺構の切り合いによる新旧関係を加味して，竪穴住居跡を時期別にまとめたのが，第 7 表である。なお，遺構の遺存が少なく，遺物がほとんど出土しなかった八幡神社北(2)遺跡の SI-004・SI-029 の 2 軒については時期を判断することはできなかった。表の右側に区画された遺構番号は遺物など情報が少なく，断定できなかったものを示している。第Ⅰ期が 25 軒，第Ⅱ期が 45 軒，第Ⅲ期が 15 軒，第Ⅳ期が 12 軒である。古墳時代終末期と考えられる第Ⅱ期の竪穴住居跡の検出が全体の 46％を占め，圧倒的に多い。第Ⅰ期についても明確に第Ⅱ期の古相と分期することが困難な遺構も多く，古墳時代後期後半～終末期にかけて集落は形成と共に全盛期を迎えるといった様相といえる[4]。

第Ⅰ期の遺構は第Ⅱ期以降の遺構と切り合い，削平される率が高く，覆土が浅く，良好な遺存状況のものは少なかった。住居の平均床面積は 28.1 ㎡で，各期の中で最大規模である。台地の北・南端以外に広く分布し，南東側(八幡神社北(2)遺跡側)において比較的古い段階の住居跡が確認できた。主軸は目立った傾向はみられないが，新相においては N-20°-E にやや集中する傾向が指摘できる。

第Ⅱ期の遺構は，規模にもばらつきがあり，台地全体に広く分布する。住居の平均床面積は 20.4 ㎡で，第Ⅰ期に次ぐ規模である。新相ほど規模が小型化するというわけではなく，中型のものが多い。大型と小型の住居には時期差はなく共存している可能性がある。同時期内で，隣接する住居や切り合う住居も確認できる。分布は新相においては南東(八幡神社北(2)遺跡)側に偏る傾向が指摘できる。主軸は目立った傾向はみられないが，N-27°-E と N-40°-W 周辺にやや集中する。

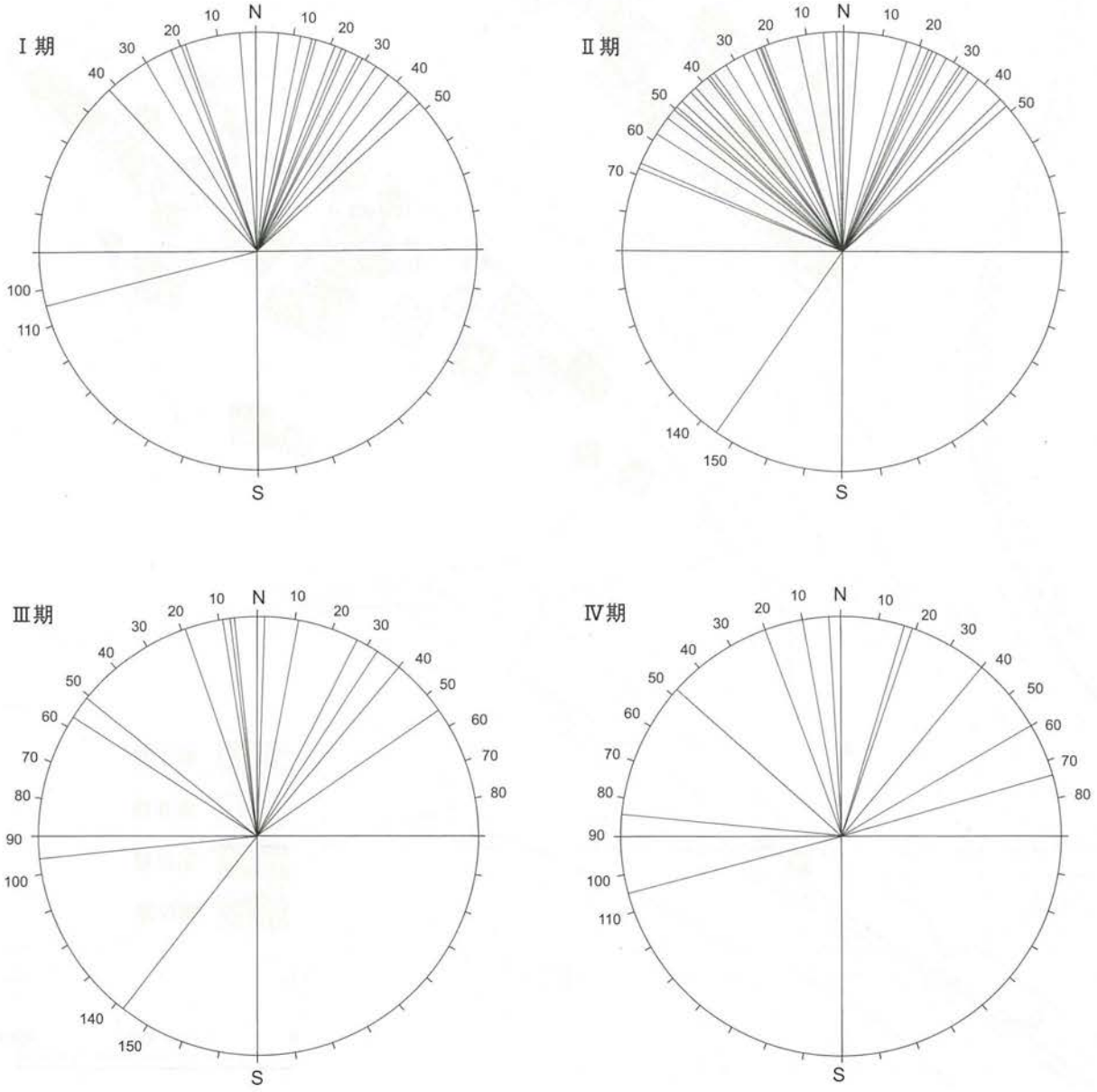


第 254 図　時期別竪穴住居跡床面積分布

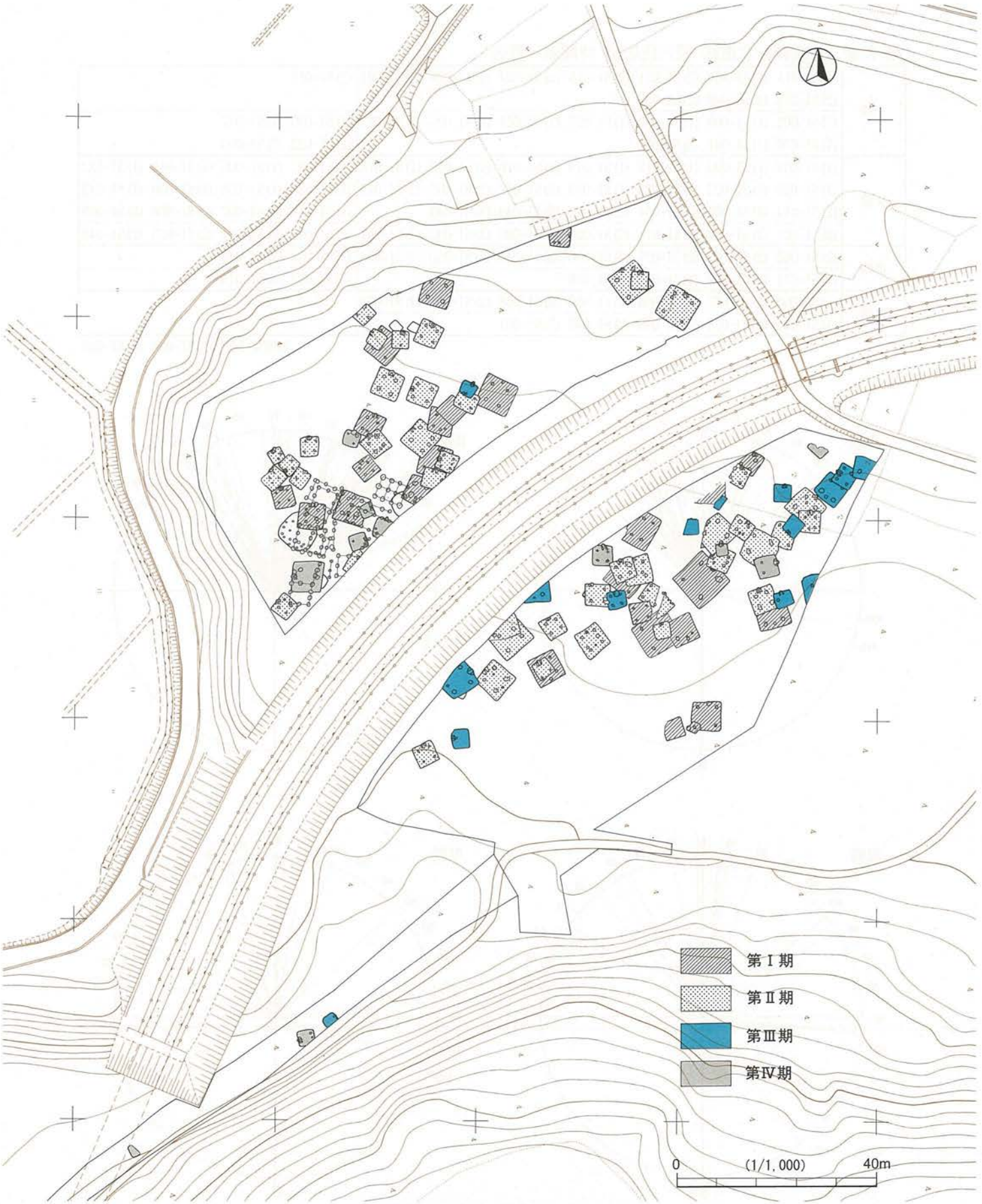
第 7 表　八幡神社北遺跡 竪穴住居跡 時期別一覧表

Ⅰ期	(1) SI-011 (1) SI-036 (2) SI-011 (2) SI-016 (2) SI-024 (2) SI-028 (2) SI-031	(2) SI-015
	(2) SI-039 (2) SI-040 (2) SI-037	
	(1) SI-002 (1) SI-009 (1) SI-010 (1) SI-017 (1) SI-021 (1) SI-026 (1) SI-035	(1) SI-030 (1) SI-037
	(1) SI-039 (1) SI-041 (2) SI-041	(2) SI-022 (2) SI-035
Ⅱ期	(1) SI-003 (1) SI-005 (1) SI-012 (1) SI-014 (1) SI-015 (1) SI-016 (1) SI-019	(1) SI-001 (1) SI-006 (1) SI-013 (1) SI-022
	(1) SI-020 (1) SI-023 (1) SI-025 (1) SI-033 (1) SI-042 (2) SI-005 (2) SI-012	(1) SI-024 (1) SI-034 (1) SI-038 (1) SI-043
	(2) SI-014 (2) SI-025 (2) SI-034 (2) SI-042 (2) SI-046 (2) SI-049	(1) SI-044 (2) SI-007 (2) SI-008 (2) SI-009
	(2) SI-001 (2) SI-017 (2) SI-018 (2) SI-020 (2) SI-026 (2) SI-032 (2) SI-047	(2) SI-010 (2) SI-021 (2) SI-023 (2) SI-048
Ⅲ期	(2) SI-002 (2) SI-003 (2) SI-027 (2) SI-036 (2) SI-043 (2) SI-050 (2) SI-051	(2) SI-033 (2) SI-044
	(1) SI-031 (2) SI-006 (2) SI-052 (2) SI-055	(3) SI-002 (2) SI-013
Ⅳ期	(1) SI-004 (1) SI-007 (1) SI-008 (2) SI-030 (2) SI-038 (2) SI-054 (3) SI-003	
	(1) SI-018 (1) SI-028 (2) SI-019 (2) SI-045 (3) SI-001	

※時期不明 (2) SI-004 (2) SI-029



第 255 図　時期別竪穴住居跡主軸方位



第 256 図　竪穴住居時期別変遷図

第Ⅲ期の遺構は，台地北側(八幡神社北(1)遺跡)では1軒のみの検出である。台地東寄りに分布の集中がみられる。住居の平均床面積は12.5㎡である。住居の主軸方向に目立った傾向はみられない。

第Ⅳ期の遺構は，散漫な分布を示し，集落規模が縮小しながら集落が終焉を迎える様相を示している。住居の平均床面積は13.3㎡と第Ⅲ期と同様に小型の住居が主体であり，住居の主軸方向に目立った傾向はみられない。第Ⅲ・Ⅳ期の遺構は台地南側の狭い平坦地(八幡神社北(3)遺跡部分)でも確認されていることから，集落の範囲がその南の台地平坦面～緩斜面まで広がる可能性がある。

2　文字資料・金属製品など（第257・258図，図版76・83・85・151・159・161）

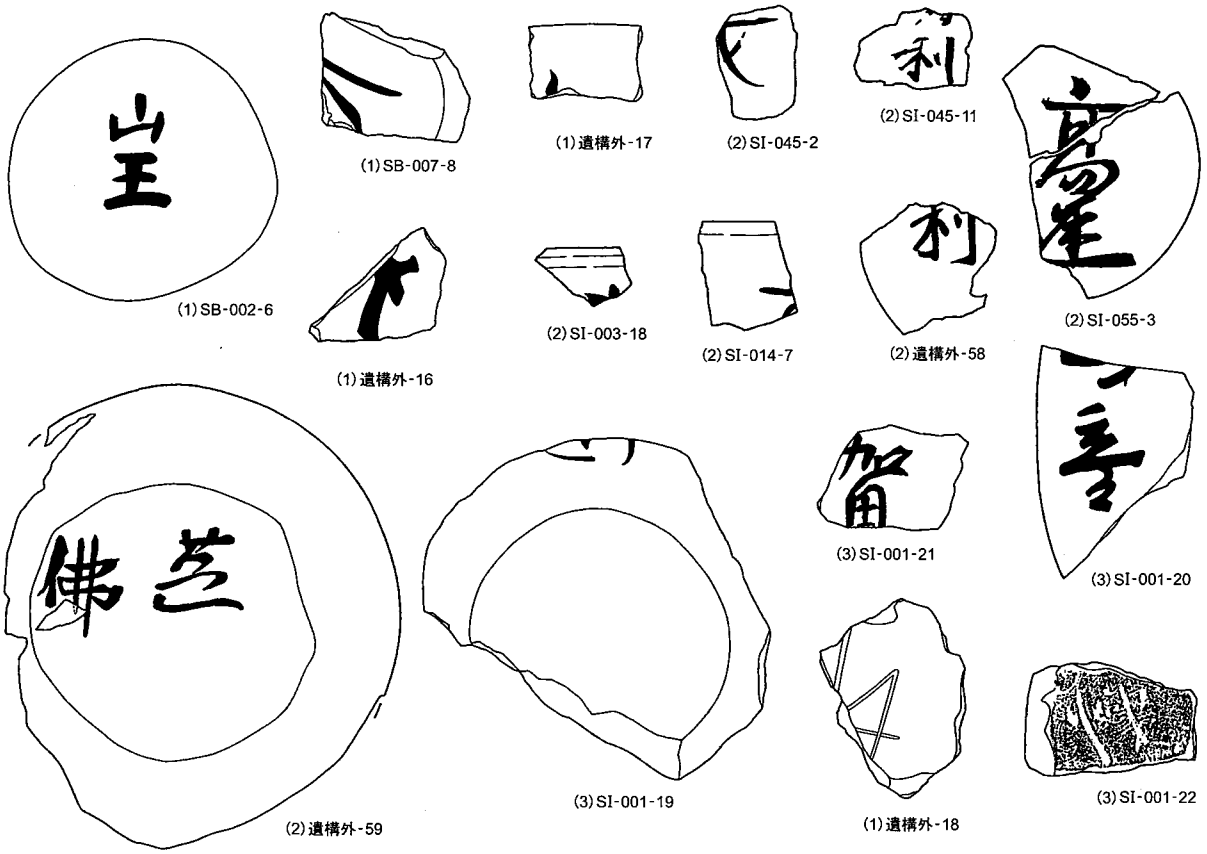
本遺跡出土の墨書・ヘラ描き土器による文字資料は，5軒の竪穴住居跡((2) SI-003・014・045・055，(3) SI-001)と掘立柱建物跡2棟((1) SB-002・007)，遺構外からの合計16点が出土している。ほとんどが小破片のため詳細な土器の時期は決定できない。出土遺構の位置関係に傾向はみられないが，集落の南端で本体からやや離れて立地する(3) SI-001の竪穴住居跡からは墨書土器類が複数と鉄鉢形土器や須恵器の転用硯破片などが一緒に出土しているため，特殊な住居として指摘できる。これらの文字資料はすべて，ロクロ整形による土師器坏に描かれている。描かれている部位は体部外面が8点，底面が8点である。この内一文字以上判読可能なものは8点(「山王」・「■利」・「利」・「大？」・「髙屋」・「■立万」・「仏苞」または「仏葛」または「仏蓮」・「小■」)あり，その他に記号が1点ある。

文字資料の他に特殊遺物としては大型台付鉢や鉄鉢形土器，石帯，転用硯が出土している。集落の規模に比べ出土点数は決して多くはないが，地域での仏教文化や律令制度の浸透を知る上で貴重な資料である。大型台付鉢は胎土・焼成とも他の土器類に比べ異質であり，周辺での類例が少なく注目される。

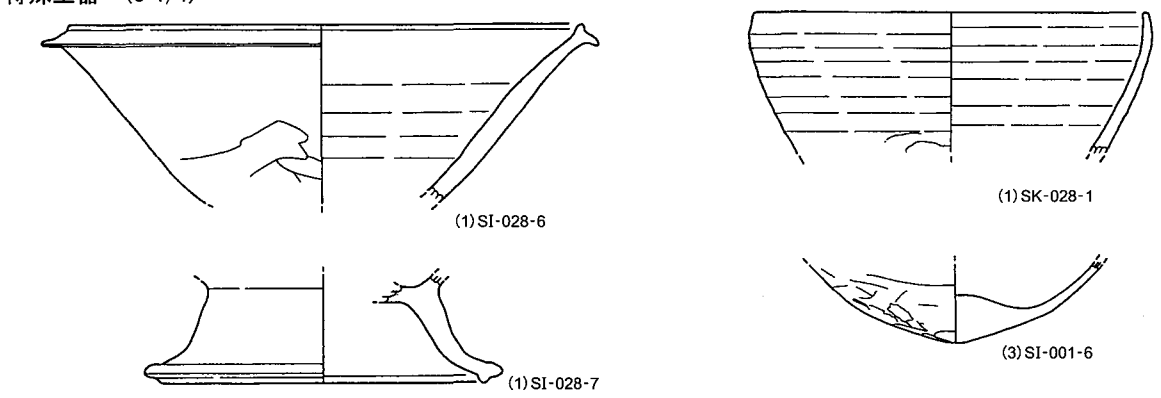
また，18軒の竪穴住居跡から金属製品が31点(実測個体分)出土した。その内訳は刀子類11点，鎌類4点，釘3点，棒状鉄製品5点，紡錘車1点，不明鉄製品1点，銅製品4点，鉄滓類2点である。刀子の出土比率が高く，次いで鎌となり，この時期の一般的な集落と同様の出土傾向である。出土遺構の時期や分布に大きな傾向はみられない。金属製品は，生活用具・生産用具・武器用具と大まかに用途が分類できるが，確実に断定できる鉄鏃などの武器用具は出土していない。金属製品の総数も集落規模に比べ少数であり，土器類と同様に中世の台地整形によって失われたのであろうか。銅製品で特殊な形状の金具((1) SI-003-4)が出土しているが，一部欠損し，実際の用途・形状が不明であり，類例をまちたい。

一方，遺構が検出されなかったため時期は特定できないが，椀形滓などの鍛冶関連遺物も実測個体以外にも出土しており，集落の中で鍛冶作業を行っていたと考えられる。

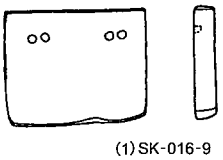
墨書土器・ヘラ描き土器　(S=1/2)



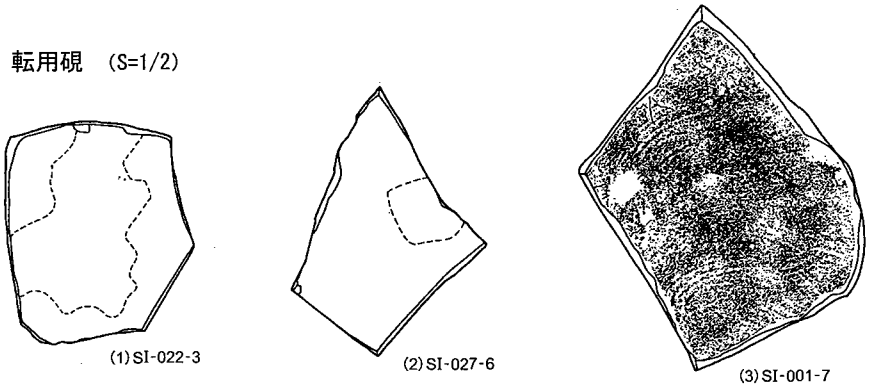
特殊土器　(S=1/4)



石帯　(S=1/2)

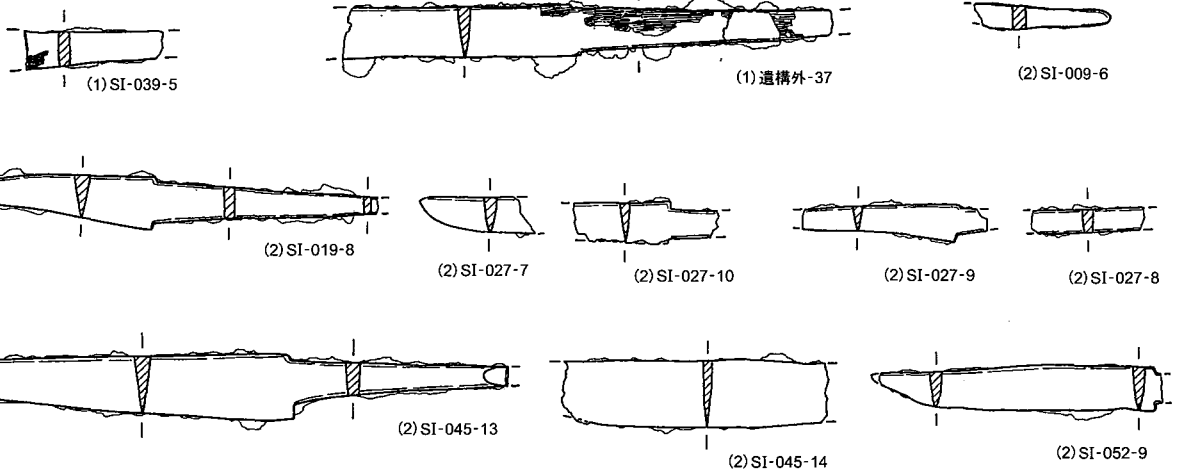


転用硯　(S=1/2)

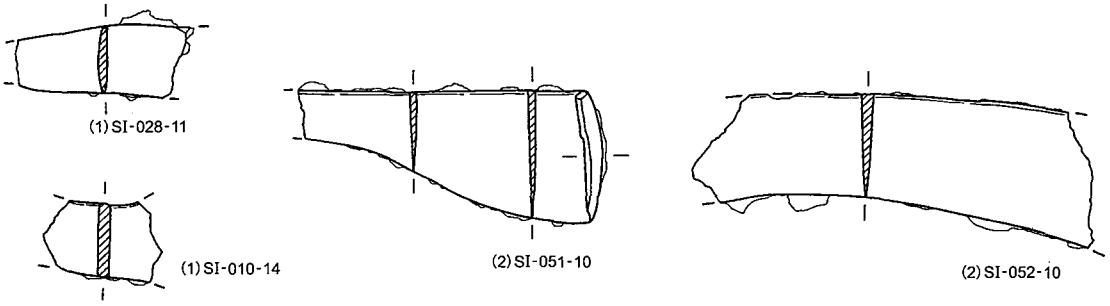


第257図　文字資料と特殊遺物

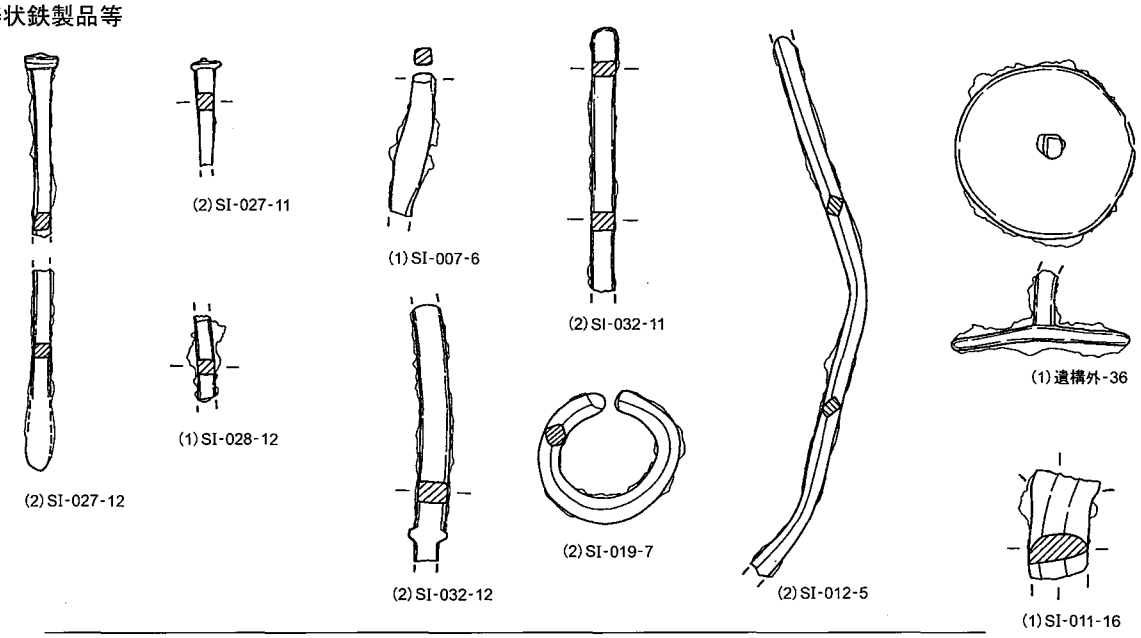
刀子類



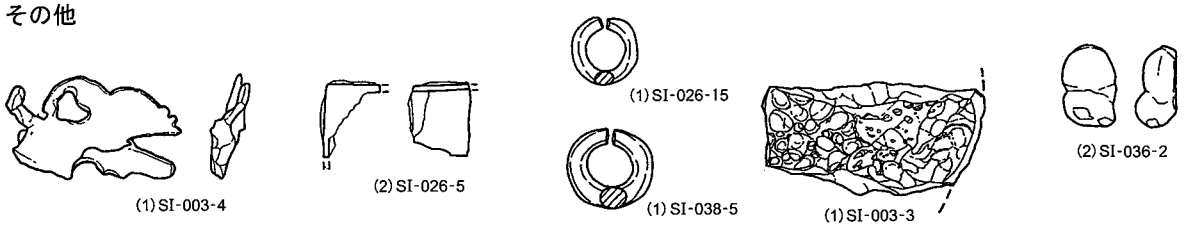
鎌類



棒状鉄製品等



その他



第 258 図　金属製品他（S = 1/2）

第4節　中・近世

中・近世の遺構は，溝・柵列・低い台地整形による区画内に掘立柱建物跡や土坑を主体とする遺構群が展開する。八幡神社北(1)遺跡では北東部，八幡神社北(2)遺跡では中央部から南部，八幡神社北(3)遺跡では，八幡神社北(2)遺跡と接する北端部が屋敷跡となると考えられる。本節では，各地区毎に景観復元を試み，次に本遺跡全体の出土遺物の様相を千葉県内の中世遺跡と比較することによって性格を明らかにしたい。

1　遺構について（第261図）

(1) 八幡神社北(1)遺跡

中・近世遺構は北東部に集中し，中央部は希薄で，南西部は溝が主である。以下，地区毎に概観する。

北端部

台地の埋没谷斜面を下った縁辺部に位置する狭小な調査区内で，道路としても機能した溝状遺構が接して検出された。中世遺物が出土していることから，台地上の集落と沖積地の耕地をつなぐ道と考えられる。

北東部

以下の調査区は，南西から北東にかけて緩やかに傾斜する。中世段階の主な遺構群は溝SD-018・010・016・017や柵列SA-001・002や整形区画SX-001・002等で区画された掘立柱建物跡群や土坑群と推測される。SD-008は方向は一致するが，先の遺構群と重複し，出土遺物は中世遺物のみであることから，中世でも先の遺構群を切る溝であることが想像される。また，中世後期以降に造られ近世にも継続した，或いは近世の可能性のある遺構は，方向や出土遺物等からSD-013～015が推測できる。

掘立柱建物跡群については6棟を想定したが，集中する5棟については，並びが判然としないので或いは2棟程の建て替えの結果の可能性も考えられるが，仮に5棟として説明する。これらは一定のエリア内でのみ建て替えられている。北側は遺構が空白の空間が存在し，西側は溝SD-017が区画し，南側は硬化面(通路)と溝SD-016と柵列SA-001がある。これらが屋敷の区画を形成したものと考えられる。掘立柱建物跡は，粘土貼土坑または方形竪穴を1基伴うことが想定できる。粘土貼土坑は，手洗い場的なものか馬の水飲み場的なもの，方形竪穴遺構は主に貯蔵機能が推測されている。掘立柱建物跡群は東側の調査区外にも存在することから，明確ではないが仮に組み合わせると，SB-011と方形竪穴SK-075，SB-012と粘土貼土坑SK-057，SB-013と粘土貼土坑SK-070・方形竪穴SK-076，SB-014と粘土貼土坑SK-071が想定できる。組み合わせは不正確の可能性もあるが，屋敷単位としては，「掘立柱建物跡＋粘土貼土坑・方形竪穴＋通路・溝＋柵列＋台地整形による平坦面造成」と考えられる。

西側のSX-002は井戸または粘土採掘坑の可能性が推測できるが，出土遺物に転用砥石が多いことや，ピット群のある東側の屋敷地寄りの整形区画空間等から，この区画に作業小屋と作業空間があった可能性が考えられる。なお，SX-002の北側の区画が，柵列SA-002の可能性がある。

南側の台地整形区画SX-001は，SD-008が横切り，大半が調査区外と考えられるが，内部に土坑・ピット群が展開することから，作業空間か墓域が想定される。

中央部から南西部

古代の竪穴住居跡・掘立柱建物跡が集中し，中・近世遺構は中央部で空白，南西部で溝が主体である。遺物は，中央部では近世陶磁器類の小破片が多く出土し，南西部では中世遺物も出土した。竪穴住居跡に

第 259 図　中世遺物グリッド別出土位置図

重複する中・近世土坑も若干検出されたが，覆土中に掘り込まれた浅い遺構も存在した可能性がある。重複する土坑の内，近世以降の可能性の高いものは欠番とされているが，番号を付けられたものも覆土の状況から近世以降の芋穴の可能性が高い。中世段階としては，東西・南北に走る細い溝 SD-003 ～ 006・009，中・近世に継続したものは SD-005，近世以降はやや広い溝 SD-001・002 が想像できる。SD-003・004 等は方形区画を造り出しているが，内部に中・近世の遺構は検出されていない。若干の土坑や近世以降として欠番としたものも中世に遡る芋穴等の可能性も考えられ，中央部から南西部は，区画する溝は一部は道路としても機能し，遺構の希薄な部分は中・近世段階では恐らく畑地空間であったことが想像できる。

(2) 八幡神社北(2)遺跡

八幡神社北(1)遺跡の南東側に幅約 20 mの導水路を挟んで位置し，北から南に傾斜する緩斜面である。中・近世の遺構は調査区南辺部の段整形 SX-006 によって 1 m余りも削平された中で展開し，中央部以西に集中する。以下，地区毎に概観する。

北部

北側と中央以西に溝が走る。出土遺物は南の遺構集中区の関係で，北側には少なくなるが，中世から近世まである。中世から近世にかけて継続或いは，近世以降機能した遺構として，SD-028・029・036・039 が推測される。北東部の遺構の空白がある地区は畑地であったことが考えられる。

中央部

溝 SD-003・009 ～ 012・034・035 や柵列 SA-001 等で囲まれた中に，地山整形された区画 SX-003・004 があり，内部に掘立柱建物跡や土坑群が形成されている。当初は東側溝 SD-035 が存在したが，埋められてその西側に溝 SD-034 が掘られ，整形区画 SX-004・掘立柱建物跡 SB-005 が併行し，その後に溝 SD-034 が埋められて，溝 SD-013 と整形区画 SX-003 と掘立柱建物跡 SB-006 が併行したことが推測される。

屋敷区画の東側には，台地整形区画 SX-009 があり，その東側に溝・土坑・ピット群が存在する。調査区境であるので不確実であるが，溝は掘立柱建物跡の布堀状基礎の可能性があり，方形竪穴遺構の存在もここに屋敷区画が存在したことを推測させる。

南部

北側は柵列 SA-001・溝 SD-008，西側は溝 SD-004・005，南東側は溝 SD-033・038A・B，南側は台地整形段差 SX-006 で区画された地区がある。内部には火葬土坑 3 基の他，土坑・ピット群が展開する。ピット群は屋敷地に所属する小作人居住空間或いは作業空間等が想定される。T 字形火葬土坑は，千葉県内では一般的には 15 世紀以降の集落に多く検出される例が多いことから，本遺跡では集落が途絶えた後に形成された墓域の可能性が考えられる。

SX-006 の段上は，狭小な調査区であるが，東部に掘立柱建物跡 SB-003・004 や方形竪穴が展開する屋敷跡，西部に作業場的な機能が推測される整形区画 SX-010 があり，隣接して区画する様に溝 2 条 SD-042・043 が走る。SD-042 の北端部と SX-010 に接して粘土貼土坑が存在するが，水溜め機能の中でも前者が段の下へ落ちるのを防ぐ機能，後者が作業或いは馬の飲料等用と考えられる。

(3) 八幡神社北(3)遺跡

八幡神社北(2)遺跡の南側に隣接する狭小な調査区であり，溝 SD-006 は八幡神社北(2)遺跡の SD-043, SD-007 は八幡神社北(2)遺跡の SD-042 の続きである。その南西側に台地整形区画 SX-001 が形成され，内部に掘立柱建物跡 SB-001・002 やピットが展開し，屋敷跡が造られている。遺物は常滑甕 2 点と少量であるが，八幡神社北(2)遺跡南側に展開する中世遺構群の一部である。

以上の遺構群の状況をまとめると，溝を中心に区画されて，屋敷地は少なくとも 6 か所が確認でき，その内，主体が調査区外にあるものは不明であるが，名主層に推測されるものは 2 か所で，作業場的空間・墓域・小作人居住区的な空間も想定できる。また，遺構の希薄な空間は畑地と考えられる。SX-006 以外は明確な高低差を有する台地整形や土手もなく，方形竪穴遺構は少なく，地下式坑も検出されないことから，千葉県内の他遺跡の状況と比較すると，中世前期 13 世紀～ 14 世紀前後の様相である。これは，次に述べる遺物群の様相とも一致している。

2 出土遺物について（第 259・260 図，第 8 ～ 10 表）

中世の陶磁器類については，第 259 図にグリッド別の出土状況を示したが，同一個体が離れた箇所に散在することから，台地整形，溝の埋め戻し，建物建て替え等により，大きく土が動いたことが推定されるが，恐らく近世以降の畑耕作による土の動きが大きいであろう。組成については，第 8 表に示した通りであるが，貿易陶磁 6 点(1.6%)，瀬戸・美濃 11 点(2.9%)，渥美 15 点(4.0%)，常滑 323 点(85.7%)，土器 22 点(5.8%)，計 377 点である。内訳は，貿易陶磁は青磁碗 3（13 世紀～ 14 世紀）・皿 1（15 世紀後半），白磁皿 1（14 世紀），褐釉壺 1。瀬戸・美濃は縁釉小皿 2（15 世紀代），折縁深皿 3（14 世紀前葉），瓶子 1（14 世紀末～ 15 世紀前葉），鉄釉擂鉢 3（15 世紀後半～ 16 世紀代）。常滑は片口鉢 60 点（Ⅰ類 24，Ⅱ類 36），壺・甕 263 点で 4 型式～ 9 型式前半(12 世紀末～ 15 世紀前半，主体は 7 ～ 8 型式(14 世紀代))。土器はカワラケ 21 点，南伊勢系土鍋 1 点(15 世紀後半)である。渥美や常滑の壺甕は大形なので，食器類の瀬戸・美濃等に比べ破片も数多くなり，個体数を表す訳ではないが，他遺跡との比較においては有効である。近世の陶磁器類については，瀬戸・美濃陶器 98 点(39.2%)，他陶器 32 点(12.8%)，肥前磁器 82 点(32.8%)，瀬戸・美濃磁器 21 点(8.4%)，土器 17 点(9.1%)，器類の合計は 250 点である。主体は 18 世紀代であるが，瀬戸・美濃，志野等 17 世紀の製品や 19 世紀に入る瀬戸・美濃磁器も多く，近代磁器も若干存在する[5]。近世遺物は細片が多く，遺構の主体を占めるものではないと考えられる。

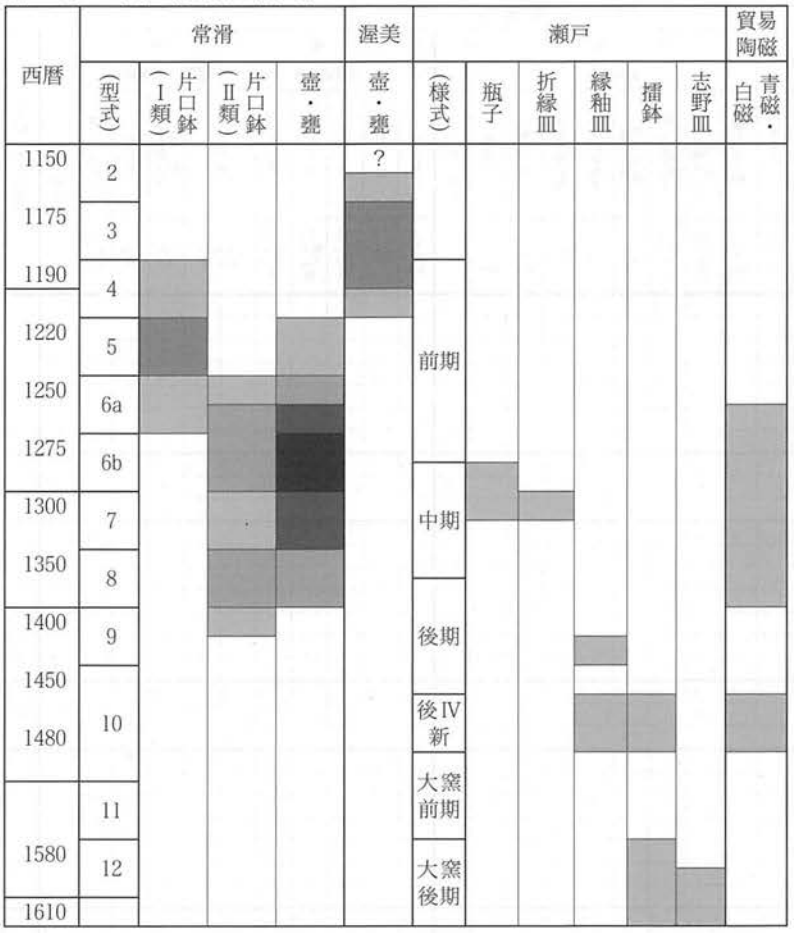
中世銭貨については，計 18 点出土したが，ほとんどが北宋銭で明銭はなく，16 世紀以降多くみられる六文銭副葬もみられないことから，遺構や陶磁器同様中世前半のあり方を示す。

参考に，千葉県内の代表的な中世遺跡の出土遺物組成(第 10 表，第 260 図)を時期・性格別に提示した[6]。中世前期～中期(12 世紀前半～ 15 世紀前半)では，木更津市芝野遺跡(沖積地農村)・長南町岩川館跡(沖積地領主居館跡)・袖ケ浦市山谷遺跡(台地上街村)，中世後期では，千葉市西屋敷遺跡(15 世紀前半～ 16 世紀初頭中心の台地上集落)・酒々井町本佐倉城跡(15 世紀後半～ 16 世紀末の台地上千葉氏宗家本城)の例をあげた。各遺跡の調査面積が異なるので，単純に 100 ㎡あたりの出土点数をあげると，芝野遺跡 3.3 点，岩川遺跡 6.0 点，山谷遺跡 6.5 点，西屋敷遺跡 14.3 点，本佐倉城跡 34.6 点，八幡神社北遺跡 3.6 点であり，面積の割に少ない状況がわかる。また，同時期の遺跡との比較では，日常雑器の常滑が多く，

第 8 表　地点別中・近世遺物出土量

時代	種類	生産地	釉等	器種等	時　期	出土地点			小計1	小計2
						北(1)	北(2)	北(3)		
中世	貿易陶磁	龍泉窯系	青磁	蓮弁文碗 Ⅰ-5類	13世紀中葉～後半		1		1	6
				蓮弁文碗 Ⅲ類	13世紀後半～14世紀前半	1	1		2	
				稜花皿	15世紀	1			1	
			白磁	皿Ⅸ類	14世紀		1		1	
			褐釉	壺		1			1	
	陶器	瀬戸・美濃(古瀬戸窖窯)	灰釉	縁釉皿	15世紀後半	1	1		2	11
				折縁深皿	14世紀前葉		2		2	
			鉄釉	擂鉢	15世紀後半		1		1	
			灰釉	瓶子	13世紀末～14世紀前葉	1			1	
				香炉	15世紀		1		1	
		瀬戸・美濃(大窯)	鉄釉	擂鉢	15世紀末～16世紀	2	2		4	
		常滑	無釉	片口鉢Ⅰ類	12世紀末～13世紀	5	19		24	323
				片口鉢Ⅱ類	13世紀～15世紀前半	19	17		36	
				壺・甕	13世紀～14世紀	133	128	2	263	
		渥美	無釉	甕	12世紀後半～13世紀	1	14		15	15
	土師質土器	在地	無釉	カワラケ	13世紀～14世紀	3	18		21	22
		伊勢湾沿岸		南伊勢系土鍋	15世紀後半	1			1	
					陶磁器類　計	169	206	2	377	377
	銭貨	中国		唐銭		1			1	17
				北宋銭		7	7		14	
				西夏銭			1		1	
				(判読できず)			1		1	
近世	磁器	肥前	染付・白磁・青磁・透明釉	皿	17世紀～18世紀	2	10		11	82
				碗または皿			1		1	
				碗		24	36		59	
				小杯			4		4	
				瓶類		4	1		5	
		瀬戸・美濃		皿	19世紀前半中心	4	2		6	21
				碗		8	4		11	
				小杯			1		1	
				鉢類			1		1	
				仏供具			1		1	
	陶器	瀬戸・美濃(連房式登窯)	灰釉・志野釉・透明釉他	皿	17世紀～18世紀	9	8		17	98
				碗または皿	17世紀～18世紀		3		3	
				碗	17世紀～18世紀	14	18		31	
				小杯	18世紀中心		5		5	
			灰釉・鉄釉	大皿・鉢類		2	3		6	
				徳利		7	4		9	
			灰釉	瓶類		2			2	
			鉄釉	壺類		6			6	
				灯明皿		4	7		11	
			鉄釉	香炉			1		1	
				不明		5			5	
		唐津	透明釉	鉢類	17世紀～18世紀	3	3		6	32
		志戸呂	無釉	瓶・壺類	18世紀中心	5			5	
		信楽	透明釉	灯明皿		1			1	
		堺	無釉	擂鉢		2	3		5	
		産地不明	鉄釉他	瓶・壺類		8	7		15	
	土師質土器	在地	無釉	カワラケ	18世紀中心		1		1	17
				焙烙	18世紀中心	4	1		5	
				その他(火鉢等)	18世紀中心	7	4		11	
					陶磁器類　計	121	129	0	250	250
	燻し瓦	日本			18世紀～19世紀	15	24		39	39
	銭貨	日本		寛永通寶	18世紀	1	2		3	4
				文久永寶	19世紀後半		1		1	

第9表　中世陶磁器消長表



中世前期では高級品の瀬戸・美濃が少ない点は共通するが，貿易陶磁器やカワラケが少ない点があげられる。貿易陶磁器や儀式で使用されるカワラケは領主階級の拠点で多いので，階層的にはやや低いことが推測できる。なお，中世後期では西屋敷遺跡や本佐倉城跡の様に日常雑器に瀬戸・美濃が増え，本佐倉城の様な城郭では染付や白磁，カワラケが多く使用される傾向である。

八幡神社北遺跡は，一見して街道沿いの村落「宿」に推定される袖ケ浦市山谷遺跡に近い様相ではあるが，同遺跡は集村形態で地下式坑も検出され15世紀前半も機能していることから，単純には比較できないが，八幡神社北遺跡の方が優品が少ないことから，より一般的村落の様相であろう。なお，本遺跡では，カワラケは少量ではあるが，八幡神社北(1)遺跡では微量で八幡神社北(2)遺跡で若干出土している点は，八幡神社北(1)遺跡よりも八幡神社北(2)遺跡の屋敷の方が階級的にやや上級であることも想像できる。八幡神社北(1)遺跡では屋敷区画の一部しか検出されていないが，八幡神社北(2)遺跡の屋敷区画の方が地山整形・周囲を巡る溝・柵列等でより充実し，隣接する墓域や小作人等居住区推定地区等の存在もあるからである。ただし，これらの屋敷は，一般村落内の有力農民層であって，土豪層まではいかない階層であろう。

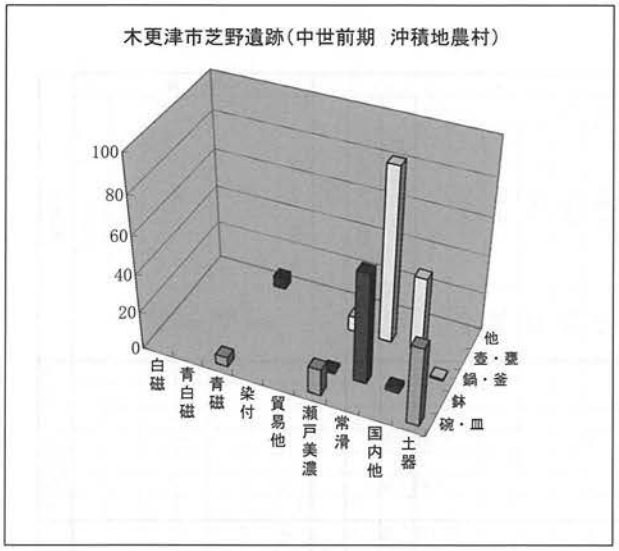
総じて，八幡神社北遺跡の中・近世の景観は，平安時代末期12世紀後半から北側の谷津内の水田開発に伴い台地上集落の形成が始まり，鎌倉時代後半(13世紀後半)から南北朝時代前半(14世紀前半)をピークとして村落内有力農民層(恐らく名主層)が散村的に屋敷を形成し，周囲に小作人等の居住区や畑地が展開していたことが想像される。この時期には，未だ東側の広大な沖積地の大規模水田開発は進展していなかったものと考えられる。その後室町時代後半から戦国時代の15世紀～16世紀には，集落がほとんど途絶えてしまったようであるが，火葬施設がつくられたことが推測できる。しかし，六文銭を伴う土坑墓は検出されていないので，この時期は墓域が形成されたとはいえないと思われる。15世紀後半以降の村落は，一般的には山谷遺跡の様に集村化，或いは横芝光町篠本城跡の様に空堀等が巡る防御構造へ発展，或いは城下集落等へ移住したものと考えられるが，本遺跡の人々は，東金酒井氏の城や成東城の城下或いは街道沿い等へ移住したことも推測される。江戸時代初期には集落は若干復活した様であるが，台地上では畑主体の細々とした散村形態が営まれたと考えられる。この本遺跡の15世紀後半から16世紀末の空白後

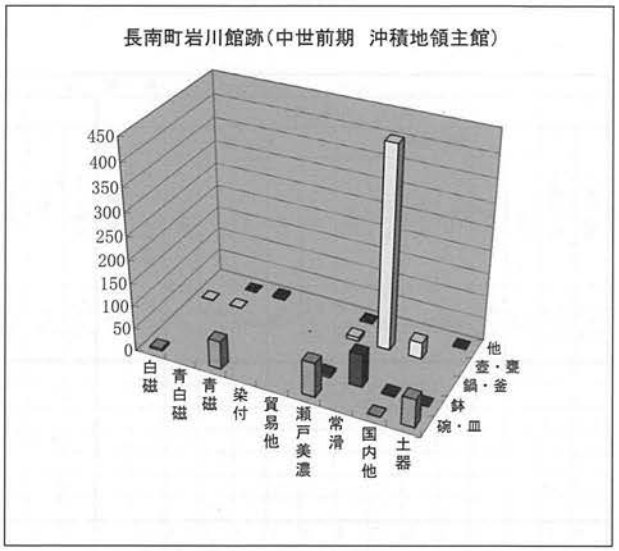
第 10 表　千葉県内中世遺跡出土陶磁器類組成表

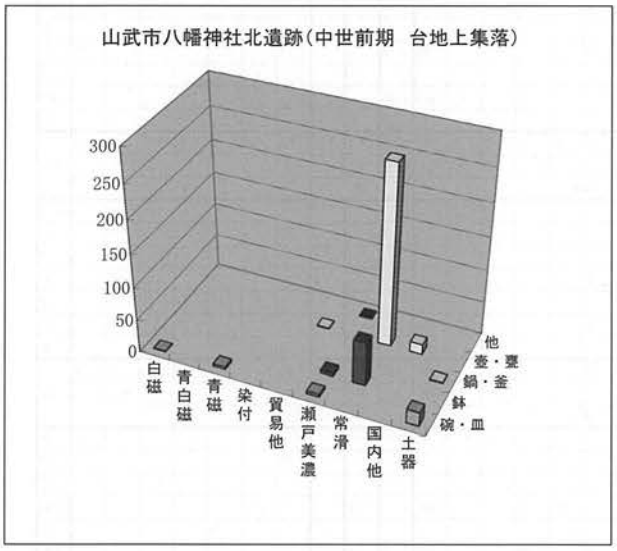
遺跡	分類		貿易陶磁																												
			白磁					青白磁	青磁											染付											他(緑・褐釉陶器等)
											龍泉窯系									景徳鎮窯系						漳州窯	景徳鎮窯系				
			碗IV・皿IX類等	碗・皿B群等	皿C群等	皿D群等	他・不明	梅瓶等	越州窯系	同安窯系	劃花文A類	蓮弁文碗B0・I類・皿	無文碗D類等	蓮弁文碗B2・3類	無文碗E類等	蓮弁文碗C類	端反皿等	稜花皿	他・不明	碗A群	碗B1群	皿B1群	碗C群	碗D群	皿C群		碗E群・皿B2群	皿E群	碗F・皿F群	他・不明	
	時期		12～14c	15c	15後～16c後	16c後			8～12c	12～13c	12～13c	13中～14c前	14後～15c前	15c前	15c	15後～16c中	15～16c	15～16c		13～14c	15c	15後～16c中	15後～16c後	15後～16c後	15後～16c後		16c後	16c末	16末～17c		
木更津市	食膳具	碗										4	1																		
芝野遺跡		小皿																													
		大皿・盤																													
	調理具	鉢																													
		鍋・釜																													
中世前期、微高地の農村跡	貯蔵具	壺・甕																													
	仏具等	他																	6												
8,100㎡		小計1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		小計2	0	0			0	0	0		5		0			0			6	0	0		0				0	0		0	0
		小計3	0					0	11											0											0
長南町	食膳具	碗								4	16	37																			
岩川館跡		小皿	3							2		1																			
		大皿・盤	2									1																			
	調理具	鉢																													
		鍋・釜																													
中世前期の有力領主層の館跡	貯蔵具	壺・甕	1					1																							
	仏具等	他						1				5																			
約13,000㎡		小計1	6	0	0	0	0	2	0	6	16	44	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		小計2	6	0			0	2	6		60		0			0			0	0	0		0				0	0		0	0
		小計3	6					2	66											0											0
山武市	食膳具	碗										3																			
八幡神社北遺跡		小皿	1															1													
		大皿・盤																													
	調理具	鉢																													
		鍋・釜																													
中世前期、台地上村落跡	貯蔵具	壺・甕																													1
	仏具等	他																													
10,539㎡		小計1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		小計2	1	0			0	0	0		3		0			1			0	0	0		0				0	0		0	1
		小計3	1					0	4											0											1
袖ケ浦市	食膳具	碗	2									16		1																	
山谷遺跡		小皿	1	2									1				1														
		大皿・盤											2																		
	調理具	鉢																													
		鍋・釜																													
中世中期、台地上道路と街村(宿)跡	貯蔵具	壺・甕						2											5												7
	仏具等	他																	4												
18,200㎡		小計1	3	2	0	0	0	2	0	0	0	16	3	1	0	0	1	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
		小計2	3	2			0	2	0		19		1			1			9	0	0		0				0	0		0	7
		小計3	5					2	30											0											7
千葉市若葉区	食膳具	碗		2							1	6		1					2												
西屋敷遺跡		小皿		1																											
		大皿・盤																													
	調理具	鉢																													
		鍋・釜																													
中世後期中心の台地上集落	貯蔵具	壺・甕																													
	仏具等	他																													
4,000㎡		小計1	0	3	0	0	0	0	0	0	1	6	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		小計2	0	3			0	0	0		7		1			0			2	0	0		0				0	0		0	0
		小計3	3					0	10											0											0
酒々井町	食膳具	碗			1		9												13		17		12	3					2	5	
本佐倉城跡		小皿		1	47	8	9	7										8	5			133			6	1	48			1	
		大皿・盤																	10												
	調理具	鉢																	1												
		鍋・釜																													
中世後期の広域領主。戦国末後北条氏直轄下。	貯蔵具	壺・甕						7											1												1
	仏具等	他						8											42												
確認調査		小計1	0	1	48	8	18	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	72	0	17	133	12	3	6	1	48	0	2	6	1
10,178㎡		小計2	0	57			18	22	0		0		0			8			72	0	150		22				48	2		6	1
		小計3	75					22	80											228											1

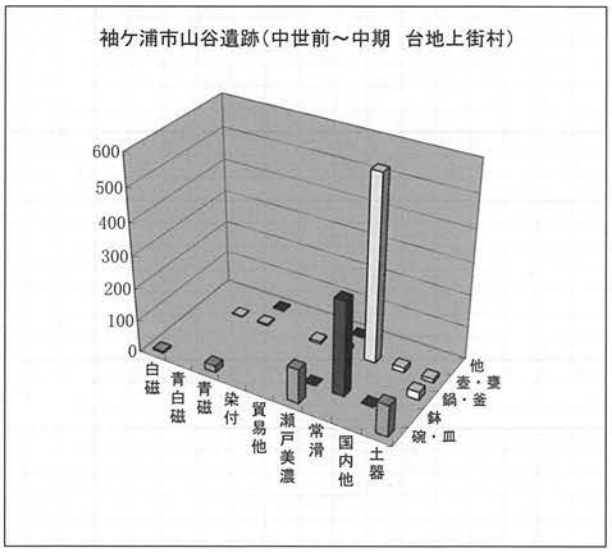
※卸皿・卸目付大皿は本来調理具であるが，実際は食膳具としての使用の可能性あり，また擂鉢と明確化するため，器形として小皿・大皿に入れた。

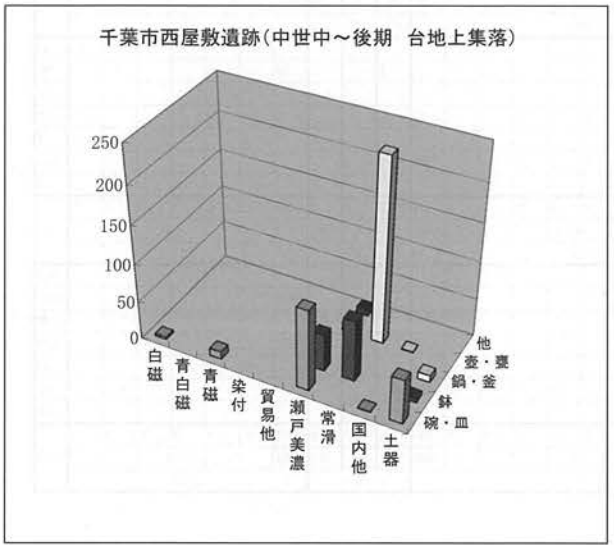
瀬戸・美濃 古瀬戸前期 12後~13末	古瀬戸中期 13末~14中	古瀬戸後期 後I 14後	後II 14末~15初	後III 15前	後IV古 15中	後IV新 15後	不明 14後~15後	大窯 1 15末~16前	2 16前	3 16後	4 16末~17初	不明 16c	不明中世	登窯初期 17c前	常滑 1~4型式 12~13c初	5型式 13c前	6型式 13c後	7型式 14c前	8型式 14c後	9型式 15c前	10型式 15c後	11型式 16c前	12型式 16c後	不明	渥美・知多・東播 12~13c	志戸呂・初山・備前 15後~16c	唐津 16末~17前	土器 カワラケ・擂鉢・壺など	鍋 在地	鍋 東海系	釜 在地	釜 東海系	火鉢	香炉他	総破片数
国産陶器																												土器							
						1																													6
	1	1	1	1		1	1																					41							47
	1		1				5																												7
						1									1	4	6	2	1					44	2										61
																														1					1
	8														1	1	1		1					87	39										138
																																			6
0	10	1	2	1	0	3	6	0	0	0	0	0	0	0	2	5	7	2	2	0	0	0	0	131	41	0	0	41	0	1	0	0	0	0	
10		4				3	6	0	0	0	0	0	0	0	16				2		0		0	131	41	0	0	41	1		0		0		266
23														0	149										41			42							
	2						1						20																						80
	4						9						3												1			61							84
	11			5									20																						39
													6			20	24	3	12	3				10	2	1		1							82
																																			0
	8														2	6	7	1		2	1			417	36										482
	1												2																				2		11
0	26	0	0	5	0	0	10	0	0	0	0	0	51	0	2	26	31	4	12	5	1	0	0	427	39	1	0	62	0	0	0	0	2	0	
26		5				0	10	0	0	0	0	0	51	0	63				17		1		0	427	39	1	0	62	0		0		2		778
92														0	508										40			64							
																											1								4
				1		1																						21							25
	2																																		2
						1						4			1	10	5	1	4	3				36			5								70
																														1					1
															1	1	7	3	1					250	15										279
	1						1																												1
0	3	0	0	1	0	2	1	0	0	0	0	4	0	0	2	11	12	4	5	3	0	0	0	286	15	0	6	21	0	1	0	0	0	0	
3		1				2	1	0	0	0	0	4	0	0	29				8		0		0	286	15	0	6	21	1		0		0		383
11														0	323										21			22							
			3	5	2		20																												49
	1		2	4	5	2	22																					96							137
		1		3			36																												42
								1							4	7	19	24	4	53	35			146		2									295
																														24					24
							9								10	14	15	2	2	4	80			444	8	7		11							620
				1	1																														6
0	1	1	5	13	8	2	87	1	0	0	0	0	0	0	14	21	34	26	6	57	115	0	0	590	8	9	0	107	0	24	0	0	0	0	
1		27				2	87	1	0	0	0	0	0	0	95				63		115		0	590	8	9	0	107	24		0		0		1173
118														0	863										17			131							
			2	17	4		8		1																										44
			2	4	17	6			1		1	1													1			58							92
		4	8	5	9																														26
			2	3	5	25	1	9		2	1				3	3	3	12	1	12	6			40				5							133
																													9						9
1	1		1	1	2		5								1		7		1	2	26			204	1										253
			2	4	2																														8
1	1	4	17	34	39	31	14	9	2	2	2	1	0	0	4	3	10	12	2	14	32	0	0	244	2	0	0	63	9	0	0	0	0	0	
2		94				31	14	9	2	2	2	1	0	0	29				16		32		0	244	2	0	0	63	9		0		0		565
157														0	321										2			72							
						1	10	18	75	13	22																								201
						13	20	64	20	15	5	48																1728							2187
																																			10
						26		118	62	24	12													9		2		345							599
																													81	4					85
																	2			10	3	4	3	271											302
						13	41			1		26	7																						138
0	0	0	0	0	0	53	71	200	157	53	39	74	7	0	0	0	2	0	0	10	3	4	3	280	0	2	0	2073	81	4	0	0	0	0	
0		0				53	71	200	210	53	39	74	7	0	2				10		7		3	280	0	2	0	2073	85		0		0		3522
654														0	302										2			2158							

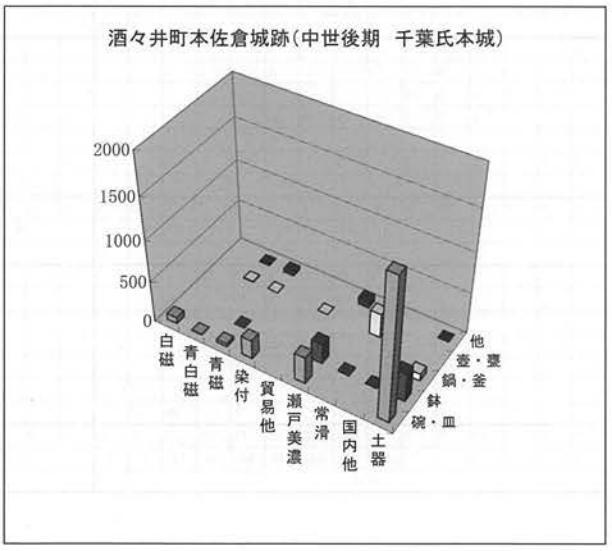




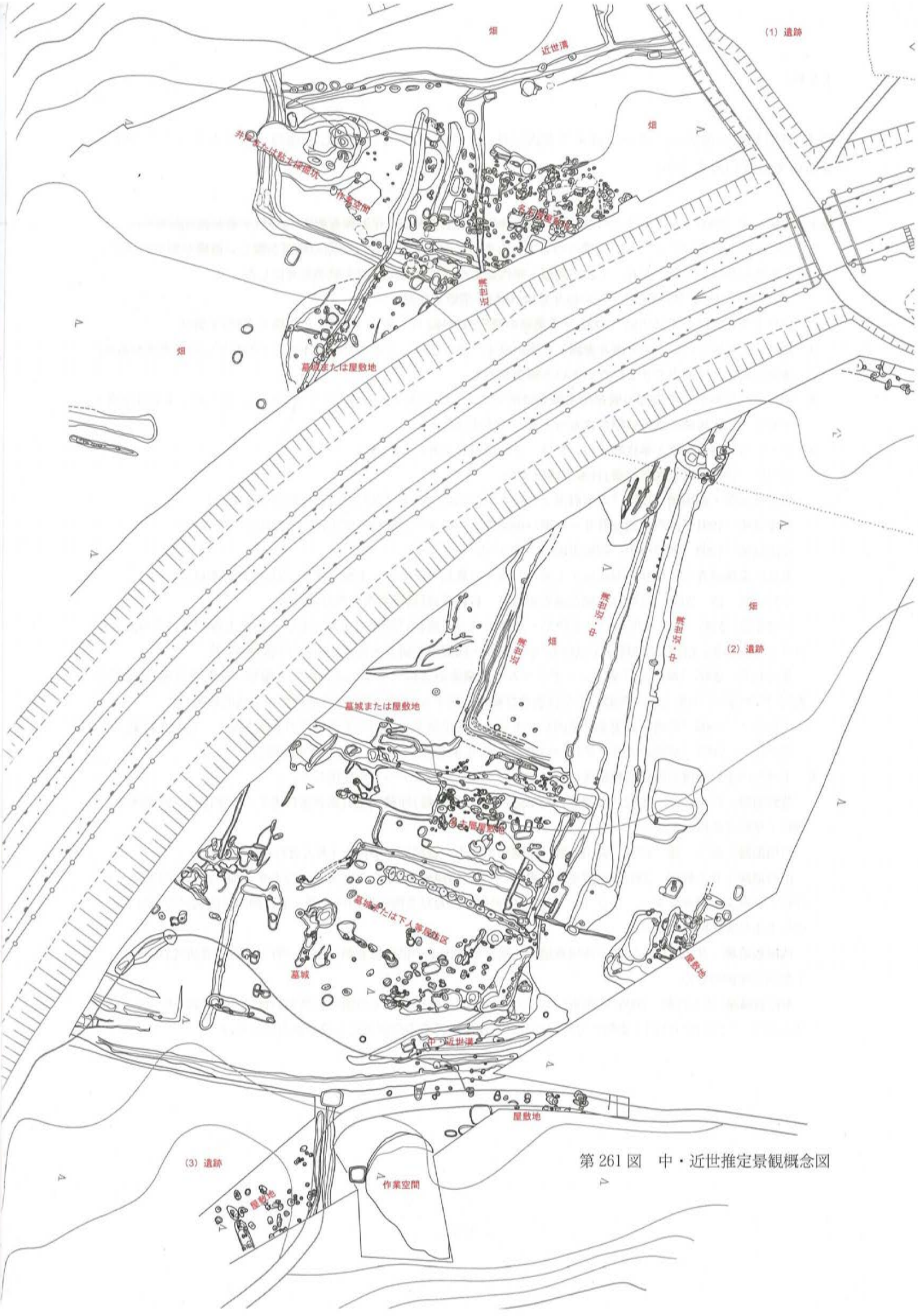








第 260 図　千葉県内中世遺跡種類・器種別陶磁器類組成



第 261 図　中・近世推定景観概念図

の17世紀初頭の復活は，或いは成東千葉氏に仕えた中小武士層が帰農した地の一つであることも想像できるのではないだろうか。

注1　今泉　潔　2006『両総農業水利事業第3揚水機場建設工事埋蔵文化財調査報告1』(財)千葉県教育振興財団

2　これ以上の分期はいくつかの遺構についてはもちろん可能であるが，時期の帰属が難しい遺構が相当数増加するため行わなかった。なお，土器の変遷・年代観については特に下記文献を参考にした。

糸川道行　1994『妙経遺跡・井戸谷9号墳』(財)千葉県文化財センター

(財)千葉県史料研究財団編　2006『千葉県の歴史 資料編12　考古4　遺跡・遺構・遺物』千葉県

3　甕類は，小破片においても復元実測した率が高く，流れ込みによる別の時期の型式が紛れている可能性があり，厳密に編年図に抽出できていないという懸念がある。

4　中世の台地整形や中央部の既存用水部分の削平によって集落全体の約1/3が失われているため，本来は奈良・平安時代の住居跡の占める割合はもっと高い可能性はある。

5　中・近世遺物の編年・年代等については，下記文献を参考にした。

小川浩　1972『寛永通宝銭譜』日本古銭研究会

横田賢次郎・森田勉　1978「太宰府出土の輸入陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集』4

藤澤良祐　1991「瀬戸古窯址群II－古瀬戸後期様式の編年－」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要』X

藤澤良祐　1998『瀬戸市史　陶磁史編』六　瀬戸市

豊島区遺跡調査会　1998「陶磁器・土器　分類・計数基準」『伝中・上富士前II』豊島区教育委員会

小野正敏　他　2000『横地城跡総合調査報告書　資料編』静岡県菊川町教育委員会

伊藤裕偉　2005「中世後期における伊勢・志摩地域の土器相」『関東，東海における中世土器(煮炊具)の最近における研究成果』文部科学省特定領域研究「中世土器・陶器編年研究と流通様相の年代的解明」班

藤澤良祐　2005「瀬戸系」『全国シンポジウム中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年　発表要旨集』文部科学省特定領域研究「中世土器・陶器の生産技術及び編年に関する全国的研究と流通様相の年代的解明」班

中野晴久　2005「常滑・渥美系」『全国シンポジウム中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年　発表要旨集』

簗瀬裕一　2007「房総のカワラケについて」『2007.9.8東国中世考古学研究会交流集会レジメ』

6　千葉県内中世遺跡の陶磁器類組成については，下記文献掲載データを使用した。

芝野遺跡：笹生　衛　2002『東関東自動車道(千葉・富津線)埋蔵文化財調査報告書7－木更津市芝野遺跡－』(財)千葉県文化財センター

岩川館跡：笹生　衛　1998「岩川館跡」『千葉県の歴史　資料編　中世1（考古資料）』千葉県

山谷遺跡：井上哲朗　2002『東関東自動車道(千葉・富津線)埋蔵文化財調査報告書9－袖ケ浦市山谷遺跡－』(財)千葉県文化財センター，及び 同　2005「中世房総における陶磁器類の流通・消費動向」『研究紀要』24 (財)千葉県文化財センター

西屋敷遺跡：井上哲朗　2006「西屋敷遺跡・松子城跡出土中世陶磁器類の組成」『町とむら調査研究』第8号 千葉県立房総のむら

本佐倉城跡:井上哲朗　2005「南関東における城館跡出土陶磁器－その傾向と歴史的背景－」『城郭と中世の東国』高志書院　（本佐倉城跡出土遺物の分類・集計は房総中近世考古学研究会会員の協力による。）

報告書抄録

ふりがな	りょうそうのうぎょうすいりじぎょうだい3ようすいきじょうけんせつこうじまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ2
書名	両総農業水利事業第3揚水機場建設工事埋蔵文化財調査報告書2
副書名	山武市八幡神社北(1)・(2)・(3)遺跡
巻次	2
シリーズ名	千葉県教育振興財団調査報告
シリーズ番号	第608集
編著者名	黒沢崇　井上哲朗　永塚俊司　鳴田浩司
編集機関	財団法人 千葉県教育振興財団
所在地	〒284-0003　千葉県四街道市鹿渡809-2　TEL043-422-8811
発行年月日	西暦2009年2月25日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
はちまんじんじゃきた 八幡神社北 (1)	さんむしなるとうあざはちまんだい 山武市成東字八幡台 3301-1 他	12404	011	35度 35分 53秒	140度 23分 26秒	20040506 ～ 20041029	4,726	揚水機場建設に伴う事前調査
はちまんじんじゃきた 八幡神社北 (2)	さんむしなるとうあざはちまんだい 山武市成東字八幡台 3303-1 他	12404	010	35度 35分 49秒	140度 23分 31秒	20040405 ～ 20041116	4,474	
はちまんじんじゃきた 八幡神社北 (3)	さんむしなるとうあざはちまんだい 山武市成東字八幡台 3287 他	12404	012	35度 35分 48秒	140度 23分 23秒	20041001 ～ 20041015 20041117 ～ 20041130	1,393	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
八幡神社北 (1)	集落跡	旧石器時代 縄文時代 弥生時代 古墳時代後期～ 奈良・平安時代 中・近世	旧石器集中地点　3地点 陥穴　4基 竪穴住居跡　2軒 竪穴住居跡　43軒 掘立柱建物跡　9棟 柵列5条　土坑　10基 台地整形区画　2か所 掘立柱建物跡　6棟 柵列2条　方形竪穴　3基 粘土貼土坑3基　土坑　40基 ピット　約50基 溝状遺構　17条	旧石器 縄文土器・石器 弥生土器 土師器・須恵器・金属製品・土製品・石製品 陶磁器・土器・石製品・金属製品	古墳時代後期後半に開始された集落が平安時代前半まで継続、変遷する様相が明らかとなった。 中世の13世紀から14世紀は、台地整形や溝で区画された、名主層の屋敷群を中心とした村落景観が復元できる。
八幡神社北 (2)		旧石器時代 古墳時代後期～ 奈良・平安時代 中・近世	旧石器集中地点　2地点 竪穴住居跡　53軒 掘立柱建物跡　3棟 大規模台地整形区画　1か所 屋敷地整形区画　2か所 大型竪穴遺構　5基 掘立柱建物跡　2棟 方形竪穴　1基 火葬土坑　3基 粘土貼土坑4基　土坑　41基 ピット　約120基 溝状遺構　40条	旧石器 土師器・須恵器・金属製品・土製品・石製品 陶磁器・土器・石製品・金属製品	
八幡神社北 (3)		奈良・平安時代 中・近世	竪穴住居跡　3軒 台地整形区画　1か所 掘立柱建物跡　2棟 溝状遺構　7条	土師器・須恵器・ 石製品 陶磁器・石製品	

要約

旧石器時代では小さなブロックであるが，石器集中地点が5地点が検出され，時期は5つの文化層（Ⅸ層下部・Ⅶ層・Ⅵ層・Ⅳ～Ⅴ層・Ⅲ層）にわたる。縄文時代の遺構は陥穴のみで，出土遺物も調査面積に比して非常に少量である。弥生時代では小規模であるが、中期後半宮ノ台式期の集落が確認された。隣接する八幡神社南遺跡では同時期の方形周溝墓と竪穴住居跡が検出されており、強い関連が考えられる。古墳時代後期後半から平安時代前半には継続的に集落が形成された。遺構は竪穴住居跡（約100軒）が主体で，古墳時代終末期に集落は拡大し，奈良から平安時代前半にかけて住居軒数は減少する。中世の台地整形により遺物の遺存状況は不良だが，一般土器類の他に銅製品，墨書土器、鉄鉢形・大型台付鉢，石帯，転用硯、土馬等特殊遺物も出土した。中世では台地上が地山整形・溝・柵列等によって区画され，内部の各種遺構のあり方は区画によって異なる。常滑を中心とする中世陶磁器類の組成は主に13世紀後半から14世紀前半であり，点在する名主層（有力農民層）の複数の屋敷を核として周囲に墓域や畑地が展開する村落景観が復元できる。また，一部の溝は中・近世を通して機能したことが推測される。

千葉県教育振興財団調査報告第608集

両総農業水利事業第3揚水機場建設工事
埋蔵文化財調査報告書2
－山武市八幡神社北(1)・(2)・(3)遺跡－
第1分冊（本文編）

平成21年2月25日発行

編　集　　財団法人　千葉県教育振興財団
発　行　　関東農政局両総農業水利事務所
東金市松之郷2,333
財団法人　千葉県教育振興財団
四街道市鹿渡809-2
印　刷　　株式会社 東 プ リ
船橋市咲が丘1-11-9

両総農業水利事業第３揚水機場建設工事
埋蔵文化財調査報告書２

―山武市八幡神社北(1)・(2)・(3)遺跡―

第２分冊
(附表・写真編)

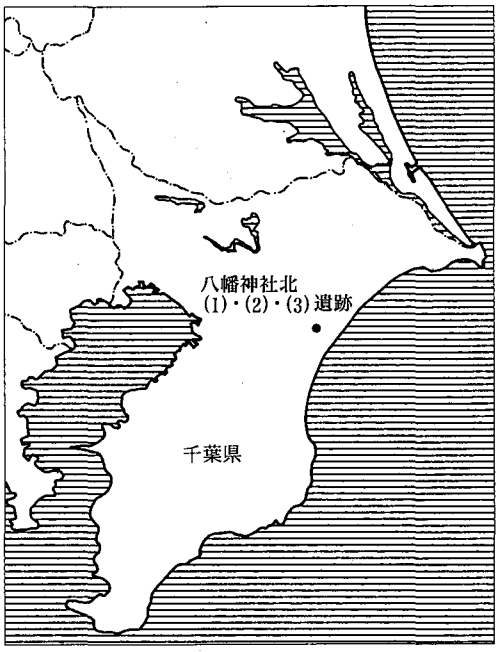
平成21年２月

関東農政局両総農業水利事業所
財団法人　千葉県教育振興財団

両総農業水利事業第３揚水機場建設工事
埋蔵文化財調査報告書２

―山武市八幡神社北(1)・(2)・(3)遺跡―

第２分冊
（附表・写真編）



凡　　例

1　本書は，両総農業水利事業第3揚水機場建設工事に伴う埋蔵文化財調査報告書2の附表・写真編である。

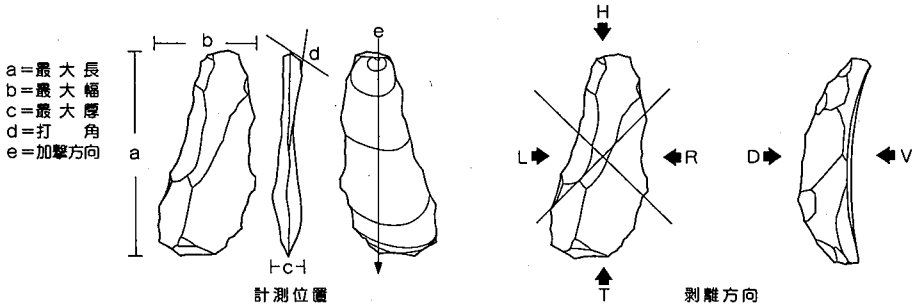
2　表の記号表記は下記のとおりである。なお，単位は表毎に記載した。

（　）推定値　　＜　＞　現存値　　－　計測不能

3　報告書本文に掲載した遺構・遺物については原則としてすべて写真図版を掲載するように努めたが，完全ではない。また，本文には掲載していないが，表に記載した遺物を写真掲載した場合がある。

4　旧石器の観察表についての凡例は以下の通りである。

・挿図No.　実測図を掲載した挿図の番号。
・遺物No.　実測図を掲載した遺物の通し番号。平面分布図に付した番号，写真図版の番号と一致する。実測図を掲載しなかったものについては原則グリッド・遺物No.順に並べた。
・大グリッド・小グリッド　出土したグリッド名を記した。
・遺物No.　発掘調査時の遺物取り上げNo.を記した。
・標高・出土層位　出土位置の標高と取り上げ時に記録された出土層位を記した。
・器種　砕片は最大長・最大幅の両者が10mm以下の剥片とした。剥片のうち石斧の調整剥片と両極剥離によって剥がされた剥片と判断されるものについてのみ，石斧調整剥片・楔形石器剥片と分類した。
・石材・母岩　同一母岩と判断されるものについて，原則石器集中地点ごとにNo.を付した。単独母岩や細別不能のものについては母岩No.を付していない。
・接合　接合資料について，原則石器集中地点ごとにNo.を付した。
・最大長・最大幅・最大厚・打角　計測方法については下図に示した。
・打面形状　Cは自然面，Pは点状打面，Lは線状打面，1は平坦打面，2以上は複剥離打面を示し，括弧内はそのうちネガティブバブルの残る剥離面の数を示している。空欄は欠損等による打面なし，計測不可を示す。
・打面・頭部調整　観察されるものについて「○」で示した。
・背面構成　主要剥離面の剥離方向を基準とし，背面を構成する剥離面の加撃方向と剥離面の数を記した。ただし，変形度の高いもの(楔形石器等)については記さなかった。砕片はわかる範囲で記した。H＝頭部側，T＝尾部側，R＝背面を正面にして右側，L＝左側，D＝背面側，V＝腹面側からの加撃方向を示す。自然面(C)，節理面(S)を有する資料については「○」で示した。
・末端　F＝フェザーエンド，H＝ヒンジフラクチャー，O＝ウートラパッセ，S＝ステップフラクチャーを示す。
・折面部位　主要剥離面の剥離方向を基準とした折れ面の部位。H＝頭部側，T＝尾部側，R＝背面を正面にして右側，L＝左側を示す。



総　目　次

第１分冊(本文編)

巻頭図版
第１章　事業の概要
　第１節　調査の経緯と経過 …… 1
　第２節　遺跡の位置と歴史的環境 …… 1
　第３節　調査方法と経過 …… 7
　第４節　調査の成果概要 …… 9
第２章　八幡神社北(1)遺跡
　第１節　旧石器時代 …… 17
　第２節　縄文時代・弥生時代 …… 30
　第３節　古墳時代～奈良・平安時代 …… 43
　第４節　中・近世 …… 132
第３章　八幡神社北(2)遺跡
　第１節　旧石器時代 …… 175
　第２節　縄文時代 …… 186
　第３節　古墳時代～奈良・平安時代 …… 188
　第４節　中・近世 …… 280
第４章　八幡神社北(3)遺跡
　第１節　旧石器時代・縄文時代 …… 333
　第２節　奈良・平安時代 …… 336
　第３節　中・近世 …… 342
第５章　まとめ
　第１節　旧石器時代 …… 351
　第２節　縄文時代・弥生時代 …… 353
　第３節　古墳時代～奈良・平安時代 …… 356
　第４節　中・近世 …… 366

第2分冊　(附表・写真編)

附　表 …… 1
写真図版

附 表 目 次

八幡神社北(1)遺跡

第11表　石器集中1 出土石器一覧表 …… 1
第12表　石器集中2 出土石器一覧表 …… 1
第13表　石器集中3 出土石器一覧表 …… 2
第14表　石器集中1 組成表 …… 3
第15表　石器集中2 組成表 …… 3
第16表　石器集中3 組成表 …… 3
第17表　弥生時代，古墳時代～奈良・平安時代竪穴住居跡計測表 …… 4
第18表　古墳時代～奈良・平安時代 柵列・掘立柱建物跡計測表 …… 5
第19表　弥生時代，古墳時代～奈良・平安時代土坑計測表 …… 5
第20表　古墳時代～奈良・平安時代 土器観察表 …… 6
第21表　古墳時代～奈良・平安時代 土器以外観察表 …… 20
第22表　中・近世 遺構一覧表 …… 21
第23表　中・近世 陶磁器類観察表 …… 24
第24表　中・近世 陶器等転用砥石観察 … 31
第25表　中・近世 石造物・石製品観察表 … 31
第26表　中・近世 金属製品計測表 …… 32
第27表　中・近世 銭貨計測表 …… 32

八幡神社北(2)遺跡

第28表　単独出土石器一覧表 …… 33
第29表　石器集中1 出土石器一覧表 …… 33
第30表　石器集中2 出土石器一覧表 …… 34
第31表　石器集中1 組成表 …… 36
第32表　石器集中2 組成表 …… 36
第33表　古墳時代～奈良・平安時代 竪穴住居跡 計測表 …… 37
第34表　奈良・平安時代 掘立柱建物跡計測表 …… 37
第35表　古墳時代～奈良・平安時代 土器観察表 …… 38
第36表　古墳時代～奈良・平安時代 土器以外観察表 …… 56
第37表　中・近世 遺構一覧表 …… 57
第38表　中・近世 陶磁器類観察表 …… 60
第39表　中・近世 陶器転用砥石観察表 … 68
第40表　中・近世 石造物観察表…… 69
第41表　中・近世 石製品観察表 …… 69
第42表　中・近世 金属製品他観察表 …… 70
第43表　中・近世 銭貨計測表 …… 71

八幡神社北(3)遺跡

第44表　奈良・平安時代 竪穴住居跡計測表 …… 71
第45表　奈良・平安時代，中世 土器類観察表 …… 70
第46表　奈良・平安時代，中・近世 土器以外観察表 …… 72

図版目次

図版1　航空写真(S=1/5,000)

八幡神社北(1)遺跡

図版2　石器集中1(北から)
石器集中2(北から)
図版3　石器集中3(西から)
石器集中1確認グリッド(4B-79)
4B-79遺物出土(北から)
図版4　SI-001(南から)
SI-003(南東から)
図版5　SI-001カマド(南から)
SI-002カマド(南東から)
SI-003カマド(南東から)
SI-004カマド(東から)
SI-005カマド(南東から)
SI-005セクション(南東から)
図版6　SI-004(北東から)
SI-007(南西から)
図版7　SI-008(南西から)
SI-008・009(南西から)
図版8　SI-007カマド(南西から)
SI-008カマド(南西から)
SI-009カマド(南から)
SI-009遺物出土(南西から)
SI-009遺物出土(北東から)
図版9　SI-010(南から)
SI-011カマド周辺(南西から)
図版10　SI-011遺物出土(東から)
SI-011遺物出土(東から)
SI-011遺物出土(北から)
SI-011遺物出土(北から)
SI-011遺物出土(北から)
SI-011遺物出土(北から)
図版11　SI-012(西から)
SI-013・015 SK-038・039(南東から)
図版12　SI-014(南東から)
SI-014カマド遺物出土(南西から)
図版13　SI-012カマド(南東から)
SI-013カマド(北東から)
SI-014カマド遺物出土(南西から)
SI-015カマド(南東から)
SI-016カマド(南東から)
SI-017遺物出土(南から)
図版14　SI-015遺物出土(西から)
SI-016(北西から)
図版15　SI-017(南西から)
SI-019(東から)
図版16　SI-020(北から)
SI-021・022・023(南西から)
図版17　SI-017カマド(南西から)
SI-018カマド(南から)
SI-019カマド(東から)
SI-020カマド(南から)
SI-022カマド(南から)
SI-023カマド(南東から)
図版18　SI-022(南東から)
SI-023(南東から)
図版19　SI-024(南東から)
SI-025(南から)
図版20　SI-026(南から)
SI-028(北から)
図版21　SI-025カマド(南から)
SI-025遺物出土(西から)
SI-026柱穴内遺物出土
SI-026遺物出土

SI-028カマド遺物出土(南から)
図版22 SI-030(北西から)
SI-031・034・035・036(南西から)
図版23 SI-031(西から)
SI-032(北東から)
図版24 SI-031カマド遺物出土(南西から)
SI-031カマド(南西から)
SI-032(西から)
SI-032遺物出土
SI-032遺物出土
図版25 SI-033(西から)
SI-031・034・035(北西から)
図版26 SI-035・036(北西から)
SI-033・037・038(南から)
図版27 SI-038(西から)
SI-039(北西から)
図版28 SI-040(北から)
SI-041(南から)
図版29 SI-041遺物出土(南東から)
SI-042・044(南東から)
図版30 SI-043(南西から)
SI-044(南から)
図版31 SI-033カマド(東から)
SI-033遺物出土
SI-038遺物出土
SI-039遺物出土
SI-043カマド(南西から)
SI-044カマド(南東から)
図版32 SB-002(西から)
SB-003(西から)
SB-005・006(北から)
図版33 SB-007(北から)
4D-16ピット群遺物出土(南から)
4D-16ピット群遺物出土(東から)
ピット群遺物出土(東から)
図版34 SB-010～012 他(北から)
SB-013～015 他(北から)
図版35 SX-001 SD-008(南西から)
SX-001 SD-008 (北西から)
図版36 SX-002(東から)
SX-002(北東から)
図版37 SX-002(西から)
SX-002(北から)
図版38 SX-002セクション(西から)
SX-002セクション(北から)
図版39 SD-001・003・004(北から)
SD-002北部 SK-008 他(南から)
図版40 SD-003・004(北西から)
SD-005・006・009(東から)
図版41 SD-008・010 SX-001(北から)
SD-008セクション(南から)
図版42 SD-008セクション(北から)
SD-008・015・017 SB-011(北から)
図版43 SD-008 SX-002 建物域(北西から)
SX-002 SA-001 SD-010(南東から)
図版44 SD-010(北西から)
SD-013 SA-002(南西から)
図版45 SD-018～020(南から)
道路拡幅部の調査区(北から)
図版46 SK-001(東から)
SK-008・009・011(南から)
SK-010(南から)
SD-002 SK-011セクション(北から)
SK-011(南から)
SK-012(南から)
図版47 SD-002 SK-013セクション(南から)
SK-013(南から)
SK-018遺物出土(北から)
SK-018セクション(北から)
SK-018(北西から)
SK-023・024(東から)
図版48 SK-031(南東から)
SK-041(北から)
SK-033(北東から)

SK-033遺物出土(北から)
SK-035(南東から)
SK-035周辺セクション(北から)
図版49 SK-045(北西から)
SK-046(北西から)
SK-047(西から)
SK-048(南から)
SK-051(南東から)
SK-052(北から)
図版50 SK-053(北から)
SK-054(北から)
SK-056周辺(北から)
SK-057(南から)
SK-063(東から)
SK-070セクション(南から)
図版51 SK-070・076セクション(南から)
SK-070・076(南から)
SK-079(北東から)
SK-080(北東から)
SK-081(東から)
図版52 石器集中1・2(表面)
図版53 石器集中1・2(裏面)
図版54 石器集中3
図版55 遺構外 縄文時代石器
図版56 遺構外 縄文土器
図版57 SI-032 弥生土器
図版58 SI-040 弥生土器
SK-023 弥生土器
遺構外 弥生土器(1)
図版59 遺構外 弥生土器(2)
図版60 SI-001 ～ SI-005 出土遺物
図版61 SI-005 ～ SI-009 出土遺物
図版62 SI-009 ～ SI-011 出土遺物
図版63 SI-011 ～ SI-013 出土遺物
図版64 SI-013 ～ SI-015 出土遺物
図版65 SI-015 ～ SI-017 出土遺物
図版66 SI-017 ～ SI-019 出土遺物
図版67 SI-019 ～ SI-021 出土遺物
図版68 SI-022 ～ SI-025 出土遺物
図版69 SI-026 ～ SI-028 出土遺物
図版70 SI-028 ～ SI-031 出土遺物
図版71 SI-033 ～ SI-038 出土遺物
図版72 SI-038 ～ SI-042 出土遺物
図版73 SI-042 ～ SI-044 出土遺物
SB・SK 出土遺物(1)
図版74 SK・遺構外 出土遺物(2)
図版75 SK・遺構外 出土遺物(3)
図版76 遺構外出土遺物 墨書土器 転用砥石
図版77 瀬戸・美濃他 陶磁器
図版78 常滑 片口鉢
図版79 常滑 壺・甕
図版80 常滑 甕肩部
図版81 転用砥石
図版82 中・近世土器, 土製品
中・近世石製品
図版83 常滑 甕 鉄滓 金属製品
図版84 土製品 石製品 銭貨
図版85 金属製品X線写真

八幡神社北(2)遺跡

図版86 石器集中1(北から)
石器集中1セクション(西から)
図版87 石器集中2(東から)
5D-52単独出土(東から)
5D-76単独出土(北から)
図版88 SI-001(南から)
SI-002(南から)
図版89 SI-003(南東から)
SI-004(北から)
図版90 SI-005(南東から)
SI-006(南東から)
図版91 SI-007・008(北東から)

SI-009(北東から)
図版92 SI-010(南東から)
SI-010・011(南西から)
図版93 SI-001カマド(南から)
SI-002カマド(東から)
SI-005カマド(南東から)
SI-009カマド遺物出土(南東から)
SI-010カマド(南東から)
SI-010遺物出土(南から)
図版94 SI-012(北東から)
SI-013(南から)
図版95 SI-014(南から)
SI-015・018・023(東から)
図版96 SI-017(西から)
SI-016・017・018・023(北東から)
図版97 SI-018(南西から)
SI-019(南から)
図版98 SI-013・014・019 ～ 021・028(南東から)
SI-013・019 ～ 021・023・024・028(南から)
図版99 SI-022(北東から)
SI-023(南西から)
図版100 SI-024(南東から)
SI-025・030(南東から)
図版101 SI-013カマド(南から)
SI-014カマド(南から)
SI-018カマド(南西から)
SI-026カマド(南西から)
SI-025カマド(南東から)
SI-025遺物出土(東から)
図版102 SI-026(南東から)
SI-025・030・031(南西から)
図版103 SI-032(南東から)
SI-034(南西から)
図版104 SI-034・035(東から)
SI-036(北西から)
図版105 SI-027カマド(南から)
SI-027カマド(西から)
SI-030カマド(南から)
SI-032遺物出土(東から)
SI-034カマド(南西から)
SI-035カマド(南西から)
図版106 SI-032・038(南から)
SI-039(南から)
図版107 SI-040(南から)
SI-041(西から)
図版108 SI-042(南から)
SI-043(南から)
図版109 SI-044(北西から)
SI-045(西から)
図版110 SI-038カマド(南から)
SI-040カマド(南から)
SI-042遺物出土(東から)
SI-042カマド遺物出土(南東から)
SI-043カマド(南から)
SI-045カマド遺物出土(南から)
図版111 SI-046(南西から)
SI-046貼床除去後(北西から)
図版112 SI-041 ～ 043・045・046(北から)
SI-048・049(北西から)
図版113 SI-047 ～ 050(北西から)
SI-051・052(北東から)
図版114 SI-049・051・052・055(南西から)
SI-052(北西から)
図版115 SI-045カマド(西から)
SI-046カマド(北東から)
SI-046(南から)
SI-046(南から)
SI-048カマド(南から)
SI-052カマド(南東から)
図版116 SB-001(北西から)
SB-002(西から)
図版117 SX-001 SD-037他(北東から)
SX-002 SD-015他(北東から)
図版118 SX-002(南東から)

SX-003 SD-013・034(北から)
図版119 SX-003・004 SD-009・034 他(南東から)
SX-003・004 SD-013・034 他(東から)
図版120 SX-005(東から)
SX-006(北東から)
図版121 SX-006(西から)
SX-007 SD-028(北から)
図版122 SB-003・004(東から)
SD-001(東から)
図版123 SD-003(東から)
SD-004・005(南東から)
図版124 SD-005 SX-001他(北から)
SD-006(北から)
図版125 SD-008・009他(北東から)
SD-013 SX-003・004(南東から)
図版126 SD-013 ～ 015 SX-002(東から)
SD-028(南から)
図版127 SD-029(北東から)
SD-038Aセクション(西から)
図版128 SD-038遺物出土(東から)
SD-033・038(東から)
図版129 SD-045(北から)
SA-001 SD-009(南東から)
図版130 SA-002他(南東から)
SA-003(南から)
図版131 SK-001(東から)
SK-002(東から)
SK-003(北から)
SK-004(南東から)
SK-005(西から)
SK-006(西から)
図版132 SK-007(北から)
SK-008(東から)
SK-009(東から)
SK-010(南から)
SK-011(南東から)
SK-011・010・009(南東から)
図版133 SK-013(東から)
SK-015(北から)
SH-016山砂出土(北から)
SH-016(北から)
SH-017山砂出土(北から)
SH-017(北から)
図版134 SH-018(南東から)
SK-019(東から)
SK-026(北東から)
SK-027(東から)
SK-029(北から)
図版135 SK-033(南東から)
SK-036(東から)
SK-037(東から)
SK-040・041・039(南から)
SK-043(東から)
SK-044(北東から)
図版136 SK-045(東から)
SK-046(北東から)
SK-048(南東から)
SK-048セクション(北東から)
SK-049セクション(北から)
図版137 SK-051(北東から)
SK-053(北から)
SK-054(北西から)
SK-055(東から)
SK-056遺物出土(東から)
SK-061(東から)
図版138 石器集中1・2 地点外(表面)
図版139 石器集中1・2 地点外(裏面)
図版140 上層出土旧石器 遺構外縄文時代石器
図版141 SI-001 ～ SI-005 出土遺物
図版142 SI-005 出土遺物
図版143 SI-005 ～ SI-011 出土遺物
図版144 SI-011 ～ SI-020 出土遺物
図版145 SI-023 ～ SI-030 出土遺物
図版146 SI-032 ～ SI-041 出土遺物

図版147　SI-041～SI-043 出土遺物
図版148　SI-044～SI-046 出土遺物
図版149　SI-046～SI-048 出土遺物
図版150　SI-049～SI-054 出土遺物
図版151　SI-054・055出土遺物 石造物 墨書土器
図版152　遺構外 出土遺物
図版153　瀬戸・美濃 他陶磁器，土器，土製品
図版154　近世陶器
図版155　常滑 片口鉢Ⅰ類
図版156　常滑 片口鉢Ⅱ類
図版157　渥美・常滑 壺・甕
図版158　常滑 壺・甕　須恵器・陶器転用砥石
　　渥美
図版159　石製品　鉄滓・金属製品
図版160　石製品・土製品・銭貨・キセル
図版161　金属製品X線写真

八幡神社北(3)遺跡

図版162　SI-001(北から)
　　SI-001 遺物出土(北東から)
　　SI-001カマド(東から)
　　SI-001カマド 遺物出土(東から)
図版163　SI-002 SD-001(北西から)
　　SI-003 SD-004(北西から)
図版164　SB-001(東から)
　　SK-001(南西から)
図版165　SI-001～003 SD-001・4 出土遺物
図版166　SI-001・002 出土遺物
図版167　旧石器
　　SI-001・003 出土遺物
　　SI-001 墨書土器

附　表

第11表　八幡神社北(1)遺跡 石器集中１ 出土石器一覧表

挿図No.	遺物No.	石器集中	大グリッド	小グリッド	遺物No.	標高(m)	出土層位	器種	石材	母岩	接合	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	打面形状	打面調整	打角(°)	頭部調整	背面構成 C	S	H	T	R	L	D	V	末端	折面部位	備考
12	1	1	4B	88	6	17.311	X	楔形石器	粘板岩	1		21.3	12.0	4.5	1.20															
12	2	1	4B	97	4	17.543	IX	(楔形石器)剥片	チャート	2	1	12.4	7.8	1.7	0.21	L						3	1					0		
12	3	1	4B	98	7	17.456	IX	楔形石器	チャート	2	1	14.0	12.0	5.5	0.82															
13	4	1	4B	89	3	17.359	X	局部磨製石斧	ホルンフェルス			45.8	31.4	9.4	18.20															
13	5	1	4B	97	3	17.641	IX	石斧片	凝灰岩	4		18.8	25.2	11.4	5.06															
13	6	1	4B	78	2	17.445	IX	石斧片	凝灰岩			70.2	53.3	23.4	94.70															
13	7	1	4B	98	3	17.632	IX	(石斧調整)剥片	凝灰岩	5	2	18.2	29.0	6.2	3.10	5 (4)	○	122				3		1	1			F	R	背面に研磨痕あり
13	8	1	4B	97	7	17.499	IX	砕片	凝灰岩	5	2	7.4	5.5	1.5	0.07									1				F	H･R･L	
13	9	1	4B	98	4	17.443	IX	(石斧調整)剥片	凝灰岩			15.7	18.3	2.9	0.82	L						1			1			S		背面に研磨痕あり
13	10	1	4B	89	4	17.479	IX	(石斧調整)剥片	凝灰岩	6		36.1	17.1	7.7	4.53	L						3								背面に研磨痕あり
13	11	1	4B	97	8	17.441	IX	(石斧調整)剥片	凝灰岩			25.8	31.8	10.5	10.55	1		123		○			1		1	4		S		自然面に研磨？による光沢あり
13	12	1	4B	98	6	17.419	IX	(石斧調整)剥片	凝灰岩			38.6	41.2	8.4	12.61	L						5	2		1	4		S		背面に研磨痕あり
		1	4B	78	3	17.285	X	(石斧調整)剥片	凝灰岩	7		12.9	25.1	4.9	1.74	L			○			3		1				S		
		1	4B	79	2	17.635	IX	(石斧調整)剥片	凝灰岩	6		8.1	12.0	2.5	0.25	L			○			2			1			F		
		1	4B	88	2	17.554	IX	(楔形石器)剥片	粘板岩	3		18.4	8.4	2.2	0.41					○		2						F	H	
		1	4B	88	3	17.555	IX	(楔形石器)剥片	粘板岩	3		20.1	12.4	3.5	0.97	L				○		2							T	
		1	4B	88	4	17.554	IX	(楔形石器)剥片	粘板岩	3		19.4	12.0	2.4	0.48	L			○			3						F		
		1	4B	88	5	17.551	IX	(楔形石器)剥片	粘板岩	3		14.0	6.8	2.3	0.24	L			○	○		2		1				F		
		1	4B	88	7	17.481	IX	(楔形石器)剥片	粘板岩	1		18.5	13.4	12.9	0.67	L						2							T	
		1	4B	97	2	17.406	IX	(石斧調整)剥片	凝灰岩	4		18.2	14.8	8.0	1.77															
		1	4B	97	5	17.433	IX	礫片	チャート			15.0	10.3	7.6	1.09															
		1	4B	97	6	17.382	IX	礫片	チャート			10.0	8.6	0.5	0.41															
		1	4B	98	2	17.400	IX	礫片	チャート			15.8	11.7	9.4	2.40															
		1	4B	98	5	17.264	X	礫片	砂岩			28.7	16.2	13.0	8.60															
		1	4B	98	8	17.599	IX	剥片	ホルンフェルス			14.3	8.2	3.5	0.42	2 (1)		121				2		1				F		
		1	5B	7	2	17.333	X	礫片	チャート			32.0	20.6	12.0	8.32															

第12表　八幡神社北(1)遺跡 石器集中２ 出土石器一覧表

挿図No.	遺物No.	石器集中	大グリッド	小グリッド	遺物No.	標高(m)	出土層位	器種	石材	母岩	接合	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	打面形状	打面調整	打角(°)	頭部調整	背面構成 C	S	H	T	R	L	D	V	末端	折面部位	備考
16	1	2	5C	20	10	17.528	IX	楔形石器	ホルンフェルス			18.3	21.4	5.6	2.51															
16	2	2	5C	10	5	17.727	IX	楔形石器	黒色頁岩			23.5	23.4	5.1	3.24															
16	3	2	5C	30	2	17.495	X	楔形石器	ホルンフェルス	10		24.1	23.3	9.6	5.73															
16	4	2	5C	30	3	17.600	IX	石斧片	凝灰岩			79.0	70.8	32.9	210.90															
16	5	2	5C	10	4	17.647	IX	(石斧調整)剥片	凝灰岩	8		36.9	45.0	8.0	12.00	L			○			5	1		1			F	R	背面に研磨痕あり
16	6	2	5C	30	4	17.840	Ⅶ	(石斧調整)剥片	凝灰岩	9		20.5	30.4	5.4	3.31	L						4						F		背面に研磨痕あり
17	7	2	5C	20	16	17.594	IX	(石斧調整)剥片	ホルンフェルス	10	3	31.3	26.1	8.0	5.82							2		1				S	H	背面に研磨痕あり
17	8	2	5C	20	14	17.642	IX	(石斧調整)剥片	ホルンフェルス	10	3	29.3	29.8	8.2	6.40	L						2		2		1		F		背面に研磨痕あり
17	9	2	5C	10	3	17.477	X	(石斧調整)剥片	凝灰岩	7	4	17.3	34.6	5.0	3.52	L			○			4						S		
17	10	2	5C	20	8	17.610	IX	(石斧調整)剥片	凝灰岩	7	4	25.6	15.9	4.4	1.56	L			○			1			3			S		
17	11	2	5C	20	2	17.532	X	(石斧調整)剥片	凝灰岩	9		28.5	24.2	9.6	5.39	L			○			4			2				T	
17	12	2	5C	20	4	17.555	X	剥片	チャート	11		30.7	20.8	21.0	11.00					○				1					H	
		2	5B	19	2	17.432	X	(石斧調整)剥片	凝灰岩	7		13.9	16.3	3.0	0.46	L			○	○		1							T	背面に研磨痕あり
		2	5C	10	2	17.777	Ⅶ	(石斧調整)剥片	凝灰岩			9.4	13.7	4.0	0.54	1		105							1			F		
		2	5C	11	3	17.705	IX	剥片	凝灰岩	9		17.2	22.0	3.2	0.95	L						3						H		
		2	5C	11	4	17.798	IX	礫片	流紋岩			18.2	14.5	9.4	2.43															
		2	5C	11	5	17.622	IX	礫片	チャート			15.3	10.0	7.4	1.17															

		2	5C	20	3	17.617	IX	(石斧調整)剥片	凝灰岩	9		20.9	24.5	3.0	1.68	P			○			3					F		背面に研磨痕あり
		2	5C	20	6	17.605	IX	剥片	チャート	11		23.4	14.1	8.4	2.25	2		89							2	1	F		
		2	5C	20	7	17.488	X	(石斧調整)剥片	凝灰岩	8		16.9	21.4	3.2	1.01	2	○	135					1	2			F		
		2	5C	20	9	17.582	IX	剥片	ホルンフェルス	10		11.8	12.0	1.7	0.28	L						2					H		
		2	5C	20	11	17.627	IX	剥片	粘板岩	3		29.0	15.5	2.3	1.54					○								H・T・R	
		2	5C	20	12	17.813	VII	剥片	チャート			19.9	13.3	5.1	1.17	1		119				1				2	F		
		2	5C	20	13	17.842	VII	剥片	凝灰岩			16.3	21.4	4.9	1.50	1		90				3					S		
		2	5C	20	15	17.638	IX	(石斧調整)剥片	ホルンフェルス	10		13.9	14.8	4.0	0.55	1		109				3			1		F		
		2	5C	20	17	17.552	IX	礫片	チャート			15.5	12.2	4.8	1.00														
		2	5C	21	2	17.550	X	(石斧調整)剥片	凝灰岩	7		14.3	10.7	2.7	0.49	P						1					S		背面に研磨痕あり
		2	5C	21	3	17.560	X	(石斧調整)剥片	凝灰岩	9		24.7	28.4	3.8	3.56	L						2	1		1			T	
		2	5C	21	4	17.542	X	(石斧調整)剥片	凝灰岩	6		15.8	20.6	4.7	1.55	L			○			3					S		背面に研磨痕あり
		2	5C	21	5	17.685	IX	(石斧調整)剥片	粘板岩	3		11.0	18.0	2.7	0.56							2		1			S	H	背面に研磨痕あり
		2	5C	21	6	17.787	IX	(石斧調整)剥片	凝灰岩	6		9.9	11.7	2.4	0.24	1		122				1						T	
		2	5C	21	7	17.585	X	(石斧調整)剥片	凝灰岩	7		17.6	21.5	2.5	0.89	P						1	1				F	R	背面に研磨痕あり

第13表　八幡神社北(1)遺跡 石器集中３ 出土石器一覧表

挿図No.	遺物No.	石器集中	大グリッド	小グリッド	遺物No.	標高(m)	出土層位	器種	石材	母岩	接合	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	打面形状	打面調整	打角(°)	頭部調整	背面構成 C	S	H	T	R	L	D	V	末端	折面部位	備考
20	1	3	4C	87	3	17.413	X	台形様石器	チャート			19.4	27.1	9.7	5.23	1		123					1		5		1	F		
20	2	3	4C	76	15	17.923	VII	剥片	チャート			29.0	36.0	9.4	9.93							3		1	1			H	H	出土位置記録なし
20	3	3	4C	77	2	17.595	IX	剥片	チャート	1	1	12.3	9.6	3.6	0.39	2		112				2						F	L	
20	4	3	4C	76	9	17.546	VII	剥片	チャート	1	1	14.0	14.1	5.2	1.06	2		112				3						F	R	
20	5	3	4C	76	8	17.675	VII	剥片	チャート			30.8	43.5	15.2	16.68	P					○		1					F		
20	6	3	4C	76	4	17.904	VII	剥片	チャート			52.3	59.2	16.4	36.10								6					S	H	
20	7	3	4C	76	7	17.857	VII	剥片	チャート			26.4	22.5	9.0	4.21							3			2	1		F	H	
20	8	3	4C	76	3	17.885	VII	剥片	チャート			35.8	16.5	8.4	3.02	1		99				2						H		
20	9	3	4C	76	12	17.650	VII	石核	チャート			17.2	46.2	14.3	11.63															
21	10	3	4C	87	2	17.726	IX	剥片	安山岩			30.1	43.4	13.9	13.67	1		104		○		1	2					F		
21	11	3	4C	76	10	17.457	VII	剥片	安山岩			22.7	26.5	10.0	4.58	1		109				2	1					S		
21	12	3	4C	77	3	17.272	X	剥片	ホルンフェルス			28.4	27.6	5.2	4.45	L						2	1	1				S		
21	13	3	4C	76	14	17.625	VII	石斧未製品	ホルンフェルス			130.2	85.5	39.8	334.28															出土位置記録なし
		3	4C	65	2	17.848	VII	礫片	チャート			25.1	15.6	9.5	4.31															
		3	4C	75	2	17.988	VII	礫片	砂岩			18.2	9.4	4.5	0.96															
		3	4C	75	3	17.679	IX	剥片	チャート			13.3	21.5	4.9	1.15	1		116				2						H	L	
		3	4C	76	5	17.876	VII	剥片	チャート			19.7	21.1	10.9	4.77	1		125			○	1	1					F		
		3	4C	76	6	17.765	IX	剥片	チャート			16.0	19.8	5.8	1.84	1		100				2						F	L	
		3	4C	76	11	17.688	VII	剥片	黒曜石			16.3	11.8	4.6	0.74	1		118				1		1				S	L	
		3	4C	76	13	17.576	VII	剥片	チャート	1		16.9	15.1	4.1	0.77	1		111				2						F	R	出土位置記録なし
		3	4C	78	2	17.360	X	剥片	凝灰岩			11.5	10.7	3.0	0.32	P						3						F		

第14表　八幡神社北(1)遺跡 石器集中１ 組成表

[上段：点数 下段：重量]

	局部磨製石斧	石斧片	石斧調整剥片	楔形石器	楔形石器剥片	剥片	砕片	礫片	合計	%
凝灰岩		2 99.76	8 35.37				1 0.07		11 135.2	42.3 75.3
粘板岩				1 1.20	5 2.77				6 3.97	23.1 2.2
ホルンフェルス	1 18.20					1 0.42			2 18.62	7.7 10.4
砂岩								1 8.6	1 8.6	3.8 4.8
チャート				1 0.82	1 0.21			4 12.22	6 13.25	23.1 7.4
合計	1 18.2	2 99.76	8 35.37	2 2.02	6 2.98	1 0.42	1 0.07	5 20.82	26 179.64	100.0 100.0
%	3.8 10.1	7.7 55.5	30.8 19.7	7.7 1.1	23.1 1.7	3.8 0.2	3.8 0.0	19.2 11.6	100.0 100.0	

第15表　八幡神社北(1)遺跡 石器集中２ 組成表

	石斧片	石斧調整剥片	楔形石器	剥片	礫片	合計	%
凝灰岩	1 210.9	14 36.2		2 2.45		17 249.55	53.1 84.5
粘板岩		1 0.56		1 1.54		2 2.1	6.3 0.7
ホルンフェルス		3 12.77	2 8.24	1 0.28		6 21.29	18.8 7.2
黒色頁岩			1 3.24			1 3.24	3.1 1.1
チャート				3 14.42	2 2.17	5 16.59	15.6 5.6
流紋岩					1 2.43	1 2.43	3.1 0.8
合計	1 210.9	18 49.53	3 11.48	7 18.69	3 4.6	32 295.2	100.0 100.0
%	3.1 71.4	56.3 16.8	9.4 3.9	21.9 6.3	9.4 1.6	100.0 100.0	

第16表　八幡神社北(1)遺跡 石器集中３ 組成表

	台形様石器	石斧未成品	剥片	石核	礫片	合計	%
チャート	1 5.23		11 79.92	1 11.63	1 4.31	14 101.09	66.7 22.0
ホルンフェルス		1 334.28	1 4.45			2 338.73	9.5 73.6
安山岩			2 18.25			2 18.25	9.5 4.0
凝灰岩			1 0.32			1 0.32	4.8 0.1
黒曜石			1 0.74			1 0.74	4.8 0.2
砂岩					1 0.96	1 0.96	4.8 0.2
合計	1 5.23	1 334.28	16 103.68	1 11.63	2 5.27	21 460.09	100.0 100.0
%	4.8 1.1	4.8 72.7	76.2 22.5	4.8 2.5	9.5 1.1	100 100	

第17表　八幡神社北(1)遺跡 弥生時代，古墳時代～奈良・平安時代 竪穴住居跡計測表

弥生時代

遺構No.	位置 (主グリッド)	平面形	炉の 有無・位置	主軸方向	規模(m)	床面積(㎡)	床面 標高(m)	主柱穴	補助柱穴 (入口など)
SI-032	5C-01	隅丸方形	なし	N-51°-E	(7.30)×(6.70)	(37.7)	18.30	4	壁11
SI-040	4C-96	楕円形	なし	N-52°-W	5.40×4.70	19.30	18.25	2	なし

古墳時代～奈良・平安時代

遺構No.	位置 (主グリッド)	平面形	カマドの 有無・位置	主軸方向	規模(m)	床面積(㎡)	床面 標高(m)	主柱穴	補助柱穴 (入口など)
SI-001	4C-61	方形	北壁中央	N-5°-W	3.52×(3.34)	(11.75)	18.29	4	なし
SI-002	4C-74	方形	北西壁中央	N-42°-W	3.92×3.97	15.56	18.30	4	なし
SI-003	4C-65	方形	北西壁中央	N-47°-W	4.39×4.42	19.40	18.17	4(新・旧)	入口1，中央1
SI-004	5C-22	方形	西壁中央	N-84°-W	5.81×5.76	33.47	18.29	4	入口2
SI-005	5C-40	方形	北西壁中央	N-49°-W	3.74×3.83	14.32	18.29	4	入口1
SI-006	5C-14	方形	－	N-35°-E	4.9×－	－	18.36	(4)	なし
SI-007	5C-04	方形	北東壁中央	N-40°-E	3.14×2.91	9.14	18.33	2？	なし
SI-008	4C-94	方形	北東壁中央	N-60°-E	2.58×2.4	6.19	18.20	なし	なし
SI-009	4C-93	方形	北壁中央	N-21°-E	5.72×5.93	33.92	18.23	4	入口1
SI-010	4C-92	方形	北壁中央	N-6°-E	5.2×4.89	25.43	18.28	4	入口1
SI-011	4C-80	方形	北壁中央	N-20°-W	4.17×3.94	16.43	18.39	4	入口1
SI-012	4C-70	横長方形	北西壁北寄	N-47°-W	3.5×4.29	15.02	18.22	4	なし
SI-013	4C-70	方形	南西壁中央	N-143°-W	2.94×(3.18)	(9.34)	18.23	1？	入口1
SI-014	4C-71	縦長方形	北東壁中央	N-38°-E	3.33×2.6	8.66	18.32	2？	1？
SI-015	4C-60	方形	北西壁中央	N-36°-W	2.59×2.56	6.63	18.28	－	入口1，その他3
SI-016	4C-67	方形	北西壁中央	N-53°-W	5.62×5.68	31.92	17.00	4	入口1
SI-017	4C-54	方形	北壁中央	N-24°-E	4.79×4.81	23.04	18.15	4	入口1
SI-018	4C-53	方形	北壁中央	N-17°-E	2.9×3.03	8.79	18.21	3	-
SI-019	4C-37	方形	西壁中央	N-68°-W	4.85×4.75	23.04	17.89	4	入口2
SI-020	4C-35	方形	北壁中央	N-21°-E	5.2×4.95	25.74	18.05	4	入口2，その他1
SI-021	4C-15	方形	削平	N-29°-E	5.62×5.52	31.02	17.84	4	なし
SI-022	4C-16	方形	北壁東寄	N-0°	3.31×3.23	10.69	17.65	なし	入口1
SI-023	4C-15	方形	北西壁北寄	N-58°-W	3.06×2.98	9.12	17.70	4	なし
SI-024	3C-94	方形	(北西壁？)	N-50°-W	(3.62)×3.51	(12.70)	17.46	3(4)	入口1
SI-025	4C-07	方形	北壁中央	N-23°-E	4.87×4.53	22.06	17.45	4	入口1
SI-026	3C-87	方形	削平	N-16°-E	(5.7)×5.79	(33.00)	16.85	4	なし(撹乱)
SI-028	5C-05	方形	北壁中央	N-19°-E	3.67×(3.77)	(13.84)	18.35	2	(なし)
SI-030	4D-30	方形	北東壁中央	N-23°-E	6.48×(6.48)	(41.99)	17.73	3(4)	なし(削平)
SI-031	4C-39	方形	北壁中央やや東	N-27°-E	2.6×2.9	7.54	17.75	なし	入口1
SI-033	4C-78	方形	西壁中央	N-68°-W	3.7×3.58	13.25	17.99	4	入口1
SI-034	4C-49	横長方形	北壁中央	N-21°-E	3.74×4.32	16.16	17.73	4	なし
SI-035	4C-48	方形	北東壁中央	N-44°-E	4.38×4.24	18.57	17.65	0	なし
SI-036	4C-58	方形	削平(北壁)	N-12°-E	4.86×4.8	23.33	17.90	3(4)	入口1
SI-037	4C-77	方形	北壁やや東寄	N-15°-E	5.8×5.75	33.35	18.00	4	なし
SI-038	4C-77	方形	北壁中央	N-17°-E	3.71×3.91	14.51	18.00	なし	なし
SI-039	4C-87	方形	削平(北壁)	N-23°-E	5.13×(4.45)	(22.83)	18.09	4	入口2
SI-041	3D-63	方形	(北壁？)	N-4°-W	(4.08)×4.0	(16.32)	15.71	1？	入口1
SI-042	3D-87	方形	北西壁中央	N-38°-W	6.44×6.35	40.89	16.61	4	なし
SI-043	3D-99	方形	北東壁中央	N-32°-E	A 6.48×6.7 B 5.7×5.65	A 43.416 B 32.205	16.92	4	入口1
SI-044	3D-87	方形	北壁中央	N-2°-W	3.3×3.28	10.82	16.68	なし	なし

第18表　八幡神社北(1)遺跡 古墳時代～奈良・平安時代 柵列・掘立柱建物跡計測表

遺構No.	位置(グリッド)	規模	主軸	桁行長(m)	梁行長(m)	柱間寸法(m)	柱穴径(m)
SA-003	5C-22	3Pit	N-23°-E	4.4	—	2.0～2.2	0.6～1
SA-004	5C-14	3Pit	N-38°-E	2.2	—	1.0～2.0	0.5～0.6
SA-005	5C-13	4Pit	N-2°-E	4.7	—	1.5～1.7	0.6～0.9
SA-006	4C-95	5Pit	N-69°-W	7.4	—	1.5～2.4	0.7～0.9
SA-007	5C-22	3Pit	N-6°-E	3.2	—	1.5～1.8	0.4～0.5
SB-001	5C-01	3×3	N-17°-E	5.4	4.8	1.7～1.8	0.7～1.0
SB-002	5C-31	2(3)×2	N-8°-E	4.2	4.1	1.3～2.2	0.7～1.0
SB-003	5C-23	2+×2	N-5°-E	4.0+	4.0	2.0	0.7～1.0
SB-004	4C-93	−×3	N-27°-E	—	5.2	1.6～1.9	0.7～0.9
SB-005	4C-82	3×2	N-22°-E	5.8	4.0	1.8～2.1	0.6～0.8
SB-006	4C-82	3×2	N-25°-E	6.0	3.8	1.8～2.1	0.6～0.8
SB-007	4C-85	3×2	N-23°-E	5.4	4.2	1.8～2.1	0.6～0.9
SB-008	4C-94	5×2	N-23°-W	8.0	3.2	1.6～2.0	0.4～0.9
SB-009	5C-12	2×2	N-20°-E	3.6	3.6	1.2～2.4	0.5～0.7

第19表　八幡神社北(1)遺跡 弥生時代，古墳時代～奈良・平安時代 土坑計測表

弥生時代

遺構No.	位置(グリッド)	平面形	規模(m)		深さ(m)	遺構形状ほか
			長軸	短軸		
SK-023	4B-59	円形	0.66	0.56	0.24	ピット状
SK-024	4B-59	楕円形	0.75	0.52	0.72	ピット状
SK-031	4C-05・06	長方形	2.38	1.85	0.30	被熱面あり
SK-032	4C-06・07	長方形	(1.93)	1.79	0.13	
SK-033	3C-86・96	長方形	2.17	1.69	0.32	

古墳時代～奈良・平安時代

遺構No.	位置(グリッド)	平面形	規模(m)		深さ(m)	遺構形状ほか
			長軸	短軸		
SK-004	4C-60	円形	1.52	1.26	1.22	
SK-016	5B-19	不整形	2.00	1.40	0.32	被熱面あり
SK-018	5C-00	楕円形	2.42	1.56	0.58	遺物多数出土
SK-019	5C-30	楕円形	0.82	0.63	0.59	ピット状
SK-020	5C-40	円形	0.69	0.62	0.18	
SK-027	4C-84	楕円形	1.19	0.70	0.46	
SK-028	4C-84	楕円形	1.85	1.10	0.4	
SK-038	4C-70	円形	1.07	0.95	0.86	ピット状
SK-039	4C-71	円形	0.90	0.78	0.58	ピット状

第20表　八幡神社北(1)遺跡 古墳時代～奈良・平安時代 土器観察表

竪穴住居跡(SK-085含)

遺構No.	No.	種別	器種	遺存度	法量(cm)			胎土	焼成
					口径	器高	底径		
SI-001	1	土師器	小型甕	口縁部～底部の1/3	(17.2)	18.8	6.9	白色砂粒・黒色粒多量	良好
SI-002	1	土師器	高坏	全体の2/3	－	－	－	白色灰白色砂粒・砂礫多量	良好
SI-002	2	土師器	甕	胴部破片	－	－	－	白色・灰白色砂粒・スコリア粒多量	やや不良
SI-002	3	土師器	小型甕	胴部～底部の1/2	－	－	6.2	白色微砂粒，スコリア	良好
SI-003	1	土師器	坏	全体の4/5	(10.4)	3.5	－	白色・透明微砂粒多量，スコリア粒子，海綿骨針	良好
SI-003	2	土師器	坏	口縁部の1/4	(10.6)	－	－	白色微砂粒，海綿骨針	良好
SI-004	1	土師器	坏	全体の1/8	(8.8)	2.8	－	雲母粒，スコリア，海綿骨針	やや不良
SI-004	2	土師器	坏	全体の3/5	(9.6)	2.9～3.4	5.0	スコリア粒，海綿骨針	やや不良
SI-004	3	須恵器	坏	全体の2/5	(13.4)	3.7～4.1	6.6	白色砂粒・スコリア粒多量	良好
SI-004	4	土師器	坏	底部の1/2	－	－	(7.6)	スコリア粒多量	良好
SI-004	5	須恵器	蓋	全体の1/3	(10.4)	－	－	砂粒微量	やや不良
SI-004	6	須恵器	坏	全体の1/6	(12.6)	3.9	(7.4)	白色微砂粒	良好
SI-004	7	須恵器	坏	底部の3/4	－	－	5.9	白色砂礫多量	良好
SI-004	8	土師器	高台付皿	全体の1/5	(13.6)	(2.8)	(6.6)	白色微砂粒，スコリア粒	良好
SI-004	9	土師器	高坏	杯部の1/3	(15.2)	－	－	白色微砂粒・スコリア多量	良好
SI-004	10	土師器	甕	口縁部の1/4	(12.6)	－	－	白色微砂粒	やや不良
SI-004	11	土師器	甑	口縁部～胴部の1/5	(14.4)	－	－	白色微砂粒，スコリア粒子	やや不良
SI-004	12	土師器	鉢	全体の2/3	15.2	7.4～7.9	8.0	白色砂粒	良好
SI-004	13	土師器	甕	底部～胴部下半の1/4	－	－	7.8	白色粒少量，砂礫少量	良好
SI-004	14	須恵器	甕	底部破片	－	－	－	スコリア粒多量	良好
SK-085	15	土師器	坏	口縁部～体部の1/4	(10.6)	－	－	白色微砂粒	良好
SK-085	16	土師器	坏	底部の1/4	－	－	(5.4)	スコリア粒	良好
SK-085	17	土師器	皿	全体の1/4	(13.6)	1.9	(6.8)	白色微砂粒	良好
SK-085	18	須恵器	甕	底部～胴部下半の1/6	－	－	(13.6)	白色微砂粒，スコリア塊	良好
SK-085	19	須恵器	甑	底部破片	－	－	－	白色砂粒	良好
SI-005	1	土師器	坏	全体部の3/4	(11.3)	4.7	－	灰白色砂粒多量	良好
SI-005	2	土師器	坏	口縁部～体部の1/3	(12.6)	－	－	白色砂粒，スコリア粒子	やや不良
SI-005	3	土師器	坏	底部の3/4	－	－	－	白色微砂粒，スコリア・雲母粒	良好
SI-005	4	土師器	高台付坏	高台付底部のみ	－	－	8.5	スコリア，金雲母粒	不良
SI-005	5	土師器	小型甕	口縁部～胴部の1/4	(14.5)	－	－	白色砂粒，透明砂粒	良好
SI-006	1	土師器	大型坏	口縁部の1/3	(13.0)	－	－	白色砂粒，スコリア	良好
SI-006	2	土師器	甕	底部～胴部下半の1/4	－	－	8.0～8.8	雲母粒，白色粒，スコリア	良好
SI-007	1	須恵器	蓋	口縁部の1/8	(14.8)	－	－	白色微砂粒(長石)	良好
SI-007	2	土師器	坏	ほぼ完形	(11.0)	4.2	－	白色微砂粒	良好
SI-007	3	土師器	坏	口縁部～体部の1/4	(12.6)	－	－	白色微砂粒，スコリア粒子	良好
SI-007	4	土師器	甕	頸部の1/5	－	－	－	白色微砂粒，スコリア多量	やや不良
SI-007	5	土師器	甑	底部破片	－	－	(19.6)	白色微砂粒，スコリア	良好
SI-008	1	土師器	坏	全体の1/6	(11.2)	3.8	(5.4)	白色微砂粒，スコリア粒子	良好
SI-008	2	土師器	坏	全体の1/8	(10.2)	－	－	砂粒微量	良好
SI-008	3	土師器	坏	全体の1/10	(10.7)	3.4	(5.2)	白色微砂粒，スコリア	良好
SI-008	4	土師器	坏	底部の1/3	－	－	(6.4)	白色微砂粒，スコリア	良好
SI-008	5	土師器	坏	底部～体部の1/5	－	－	(6.0)	白色微砂粒，スコリア粒子	良好
SI-009	1	土師器	坏	口縁部破片	(14.6)	－	－	スコリア粒子	やや不良
SI-009	2	土師器	坏	全体の1/5	(15.0)	(3.8)	－	スコリア粒子	不良
SI-009	3	土師器	坏	全体の3/4	15.9	4.4	－	白色微砂粒，スコリア粒子，雲母	良好

色調		技法			備考
内面	外面	内面	外面	底外面	
明褐色	赤褐色～黒褐色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ	ケズリ	
赤色	灰赤色	ミガキ，ケズリ	ヨコナデ，ケズリ後ナデ・ミガキ	－	
にぶい橙色～橙色	にぶい橙色～橙色	ナデ	ケズリ	－	底面：筋状痕跡
明赤褐色～赤黒色	明赤褐色～赤黒色	ケズリ後ナデ・ミガキ	ケズリ後ミガキ	ケズリ	
にぶい赤褐色(赤彩)	にぶい橙色(赤彩)	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ後ナデ	－	
にぶい橙色～赤色(赤彩)	にぶい橙色～赤色(赤彩)	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ後ナデ	－	
にぶい橙色	にぶい橙色	ナデ後ミガキ	ヨコナデ，ケズリ後ミガキ	－	
灰黄色～黒色(黒色・漆)	にぶい黄橙色～黒色(黒色・漆)	ミガキ	ケズリ後ミガキ	ミガキ	
にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	回転ケズリ	褐色系須恵器
黒色(黒色・炭)	にぶい橙色	ミガキ	ケズリ後ミガキ	ケズリ後ミガキ	
灰色	灰色	ロクロナデ	ロクロナデ	－	
暗灰黄色	暗灰黄色	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ	褐色系須恵器
灰色	灰色	ロクロナデ	ロクロナデ，回転ケズリ	回転ヘラ切り	
にぶい橙色～黒褐色	にぶい橙色	ナデ	ヨコナデ，ケズリ	ナデ	
黒色(黒色・炭)	にぶい赤褐色	ミガキ	ヨコナデ，ケズリ後ミガキ	－	
橙色	橙色	ナデ	ケズリ	－	
橙色	橙色	ナデ，ヘラナデ	ヨコナデ，ケズリ	－	
赤褐色	赤褐色～褐色	ナデ，ミガキ	ヨコナデ，ケズリ後ミガキ	木葉痕	
赤褐色～褐色	にぶい赤褐色～黒褐色	ナデ，ヘラナデ，ミガキ	ケズリ後ミガキ	ケズリ	
褐灰色	明赤褐色～赤灰色	ナデ	タタキ目，ケズリ	無調整	褐色系須恵器
にぶい橙色～灰褐色(黒色・漆)	にぶい橙色～灰褐色(黒色・漆)	ミガキ	ヨコナデ，ケズリ後ミガキ	－	
淡黄色	淡黄色	ナデ	ケズリ	回転糸切り離し	
にぶい橙色	にぶい橙色	ナデ	ヨコナデ，ケズリ	ケズリ	
褐灰色	にぶい赤褐色	ナデ	タタキ目，ナデ，ケズリ	無調整	褐色系須恵器
灰色	灰色	ナデ	－	無調整	
にぶい橙色～黒色	にぶい橙色～明赤褐色(赤彩)	ナデ	ヨコナデ，ケズリ後ナデ	－	
にぶい橙色～黒褐色	にぶい橙色～黒褐色	ナデ	ヨコナデ，ケズリ	－	
にぶい橙色	にぶい橙色	ナデ後ミガキ	ケズリ	－	
橙色	橙色	器面剥落	ヨコナデ	ナデ	
にぶい赤褐色	にぶい橙色～暗褐色	ヨコナデ，ナデ，ミガキ	ヨコナデ，ケズリ後ミガキ	－	
にぶい橙色	にぶい橙色～黒色(赤彩)	ナデ	ヨコナデ，ナデ	－	
褐色～黒褐色	褐色～黒褐色	ナデ	ケズリ	ケズリ	底面：筋状痕跡
灰色	灰色	ロクロナデ	ロクロナデ	－	
にぶい橙色～黒色	にぶい橙色～黒色	ナデ	ヨコナデ，ケズリ	－	
橙色	橙色	ロクロナデ	ロクロナデ	－	
橙色～黒褐色	黒褐色	ナデ	ヨコナデ，ケズリ	－	
褐灰色	にぶい橙色	ナデ	ケズリ		
にぶい黄橙色	橙色～にぶい褐色	ロクロナデ	ロクロナデ，ケズリ	ケズリ	
にぶい橙色・明赤褐色(赤彩)	にぶい橙色・明赤褐色(赤彩)	ミガキ	ケズリ後ミガキ	－	
灰赤色	明赤褐色	ヨコナデ	ヨコナデ，ケズリ	ケズリ	
にぶい赤褐色～灰褐色	にぶい赤褐色～灰褐色	ナデ	ケズリ	ナデ	
にぶい褐色	褐灰色	ヨコナデ	ヨコナデ，ケズリ	ケズリ	
にぶい褐色	褐灰色(黒色・漆)	ナデ	ケズリ，ナデ	－	
にぶい褐色	褐灰色(黒色・漆)	ナデ	ケズリ，ナデ	－	
にぶい橙色(黒色・漆)	にぶい褐色～黒褐色(黒色・漆)	ヨコナデ	ケズリ	ケズリ	

遺構No.	No.	種別	器種	遺存度	法量(cm)			胎土	焼成
					口径	器高	底径		
SI-009	4	土師器	坏	ほぼ完形	13.2	3.5	—	微砂粒，スコリア粒子	良好
SI-009	5	土師器	坏	口縁部破片	(13.0)	—	—	白色微砂粒，スコリア粒子，雲母粒子	良好
SI-009	6	土師器	坏	ほぼ完形	13.4	6.9	—	白色微砂粒，雲母粒	良好
SI-009	7	土師器	甕	口縁部の1/6	(18.2)	—	—	白色微砂粒，スコリア粒子	良好
SI-009	8	土師器	甕	口縁部～肩部の1/6	(17.5)	—	—	白色砂礫多量	良好
SI-009	9	ミニチュア土器		全体の1/3	(8.4)	5.15	3.4	白色微砂粒多量，海綿骨針	良好
SI-009	10	ミニチュア土器		全体の4/5	(6.7)	5.0	4.0	白色微砂粒	良好
SI-009	11	須恵器	甑	胴部破片	—	—	—	白色微砂粒・スコリア粒子多量	良好
SI-010	1	土師器	坏	口縁部～体部の1/4	(14.6)	(4.1)	(7.8)	白色微砂粒	良好
SI-010	2	土師器	坏	口縁部～体部1/4	(12.6)	(4.0)	(6.4)	白色微砂粒，スコリア粒	良好
SI-010	3	土師器	坏	全体の1/3	(17.2)	5.6	8.2	白色微砂粒多量	良好
SI-010	4	須恵器	坏	全体の1/3	(12.6)	4.4	(7.0)	白色砂粒，スコリア粒子	良好
SI-010	5	ミニチュア土器		全体の1/8	(6.7)	3.15	(4.6)	白色・灰白色微砂粒	良好
SI-010	6	土師器	坏	全体の1/2	(13.0)	5.0	—	白色微砂粒，スコリア粒子，海綿骨針	良好
SI-010	7	土師器	坏	口縁部～体部の1/6	(11.6)	—	—	白色微砂粒，スコリア粒子，海綿骨針	良好
SI-010	8	土師器	坏	全体の1/2	(12.6)	(3.2)	—	白色微砂粒，スコリア粒子，金雲母多量	良好
SI-010	9	土師器	坏	口縁部～体部の1/5	(14.6)	—	—	白色微砂粒	良好
SI-010	10	土師器	甕	口縁部～胴部上半の1/6	(17.7)	—	—	白色・灰白色砂粒	良好
SI-010	11	須恵器	甕	胴部破片	—	—	—	白色・透明砂粒多量	良好
SI-010	12	須恵器	甕	口縁部の1/5	(20.8)	—	—	白色微砂粒・スコリア粒子多量	良好
SI-010	13	土師器	小型甕	口縁部～肩部の1/4	(11.0)	—	—	白色微砂粒，スコリア粒子	良好
SI-011	1	土師器	坏	完形	13.15	5.45	—	白色微砂粒多量，海綿骨針	良好
SI-011	2	土師器	坏	全体の1/2	14.35	4.75	—	白色微砂粒多量	良好
SI-011	3	土師器	坏	完形	12.8	4.05	—	白色・灰白色砂礫多量	良好
SI-011	4	土師器	坏	完形	14.2	5.2	—	白色微砂粒	良好
SI-011	5	ミニチュア土器：坏		全体の1/2	7.6	2.1	5.6	白色微砂粒，海綿骨針	良好
SI-011	6	土師器	坏	全体の9/10	14.65	4.5	—	白色微砂粒，スコリア粒子，雲母粒子	良好
SI-011	7	土師器	高坏	脚部の1/4	27.2	—	(18.4)	スコリア微量	不良
SI-011	8	土師器	高坏	全体の4/5	20.3	17.3～18.0	14.0	白色砂粒多量，雲母・黒色粒少量	良好
SI-011	9	土師器	高坏	ほぼ完形	14.9	9.7	12.0	白色微砂粒	良好
SI-011	10	土師器	高坏	口縁部の1/3欠損のみ	15.1	9.0	11.4	白色微砂粒，黒色粒子	良好
SI-011	11	土師器	高坏	完形	15.4	9.9	11.2	白色微砂粒	良好
SI-011	12	土師器	甑	底部の1/6	—	—	8.95	白色微砂粒，スコリア	良好
SI-011	13	土師器	甕	全体の2/3	(17.4)	—	—	白色微砂粒多量，海綿骨針・雲母粒少量	良好
SI-011	14	土師器	甕	ほぼ完形	14.3	15.8	6.3	石英，砂礫(1～1.5mm)少量	良好
SI-011	15	土師器	台付甕	全体の2/3	9.9	14.9	10.95	白色微砂粒	良好
SI-012	1	須恵器	蓋	完形	9.6	2.9	—	白色砂粒	良好
SI-012	2	土師器	高坏	杯部の1/3欠損のみ	(16.6)	10.8	10.9	スコリア粒子・白色砂粒目立つ	やや不良
SI-013	1	土師器	坏	口縁部～体部の1/6	(12.2)	—	—	白色微砂粒	良好
SI-013	2	土師器	小型甕	底部～胴部下半の1/3	—	—	(5.8)	白色微砂粒，スコリア粒子	良好
SI-014	1	土師器	坏	全体の4/5	9.2	3.3	—	スコリア粒子多量	良好
SI-014	2	ミニチュア土器		口縁部～体部の1/2	(7.3)	—	—	白色微砂粒，金雲母粒子	やや不良
SI-014	3	土師器	小型甕	全体の1/3	(12.8)	(11.0)	5.0	白色微砂粒，雲母粒，海綿骨針	良好
SI-015	1	土師器	坏	全体の1/2	(11.2)	3.7	—	白色微砂粒	良好
SI-015	2	土師器	坏	ほぼ完形	13.8	4.7	—	白色・灰色砂粒・スコリア粒子多量	良好
SI-015	3	土師器	坏	全体の2/3	13.2	5.9	—	白色砂粒多量	良好
SI-015	4	ミニチュア土器		全体の1/2	(5.6)	2.7～3.05		白色微砂粒	良好

色調		技法			備考
内面	外面	内面	外面	底外面	
にぶい黄橙色～黒色(黒色・漆)	にぶい黄橙色(黒色・漆)	ナデ	ヨコナデ，ケズリ	ケズリ	
黒褐色(黒色・漆)	黒褐色(黒色・漆)	ナデ	ヨコナデ，ケズリ	―	
にぶい赤褐色～褐灰色	にぶい赤褐色～褐灰色	ナデ，ミガキ	ヨコナデ，ケズリ	―	
橙色	橙色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ	―	
橙色～黒褐色	明赤褐色～黒褐色	ヨコナデ，ヘラナデ	ヨコナデ，ヘラナデ	―	
にぶい赤褐色～褐灰色	にぶい赤褐色～褐灰色	ナデ	ヨコナデ，ケズリ	ケズリ	
橙色	橙色	ナデ	ケズリ	ケズリ	
灰褐色	灰褐色	ナデ	タタキ	―	
黒色(黒色・炭)	浅黄橙色(黒色・炭)	ミガキ	ロクロナデ	―	
にぶい橙色	にぶい赤褐色	ヨコナデ	ヨコナデ，ケズリ	―	
橙色～褐灰色	にぶい赤褐色	ナデ，ヨコナデ	ヨコナデ，ケズリ	回転ヘラ切り後手持ちケズリ	
にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ヨコナデ	ヨコナデ，回転ケズリ	回転ケズリ	褐色系須恵器
橙色	橙色	ナデ	ユビナデ	ユビナデ	
橙色	橙色	ナデ後ミガキ	ヨコナデ，ケズリ後ミガキ	―	
にぶい橙色	橙色～黒色	ヨコナデ	ヨコナデ，ケズリ	―	
黒色(黒色・漆)	にぶい橙色～灰褐色(黒色・漆)	ミガキ	ヨコナデ，ケズリ後ミガキ	―	
灰黄褐色(黒色・漆)	黒色(黒色・漆)	ミガキ	ヨコナデ，ケズリ	―	
明赤褐色～暗赤灰色	橙色～にぶい赤褐色	ナデ	ヨコナデ，ケズリ	―	
にぶい橙色～灰褐色	橙色～赤灰色	ナデ・当て具痕	タタキ	―	褐色系須恵器
明赤褐色	明赤褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	―	褐色系須恵器
にぶい橙色	褐灰色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ	―	
黒色(黒色・炭)	黒色(黒色・炭)	ミガキ	ケズリ後ミガキ	―	
灰褐色	灰褐色	ミガキ	ケズリ後ミガキ	―	
にぶい赤褐色～黒色	灰褐色～黒色(黒色・炭)	ミガキ	ケズリ後ミガキ	―	
黒色(黒色・炭)	にぶい赤褐色～黒色	ミガキ	ケズリ後ミガキ	―	
橙色	橙色	ナデ	無調整	―	
黒褐色(黒色？)	黒褐色(黒色・炭)	放射状ミガキ	ケズリ後ミガキ	―	
黄橙色(黒色・炭)	黄橙色(赤彩)	ミガキ，ヨコナデ，ナデ	ミガキ，ケズリ後ナデ	―	
黒色(黒色・炭)	赤色(赤彩)	細かなミガキ	ケズリ後ナデ	―	
杯部:黒色(黒色・炭)，脚部:にぶい褐色	赤色(赤彩)	ミガキ，ケズリ	ケズリ後ナデ	―	
杯部:黒色(黒色・炭)，脚部:にぶい橙色	赤色(赤彩)	ミガキ，ケズリ	ケズリ	―	
杯部:黒色(黒色・炭)，脚部:にぶい橙色	赤色(赤彩)	ミガキ，ケズリ，ナデ	ケズリ	―	
にぶい赤褐色	にぶい橙色～橙色(赤彩)	ケズリ後ナデ・ミガキ	ケズリ後ミガキ	ケズリ	
にぶい褐色～黒色	にぶい褐色～黒色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ	―	
明赤褐色～にぶい赤褐色	明褐色～黒色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ後ナデ	ケズリ後ナデ	
灰褐色	にぶい褐色～灰褐色	ヨコナデ，ヘラナデ	ヨコナデ，ケズリ後ミガキ，ケズリ	―	
灰色	灰色	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り	
橙色(黒色・炭)	橙色	ナデ，ケズリ後ヨコナデ	ケズリ後ナデ	―	
灰褐色	黒色	ミガキ	ヨコナデ，ケズリ後ミガキ	―	
橙色	橙色	ナデ	ケズリ後ミガキ	ケズリ	
橙色+黒色	橙色～黒褐色	ミガキ	ケズリ後ミガキ	―	
にぶい褐色	黒色	ナデ	ユビナデ	―	
灰褐色+橙色	灰褐色+橙色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ後ナデ	ケズリ	
にぶい赤褐色～黒褐色	にぶい赤褐色～にぶい橙色	ナデ，ミガキ	ヨコナデ，ケズリ	―	
にぶい赤褐色～黒色	にぶい褐色～赤色	ナデ後ミガキ	ヨコナデ，ケズリ後ミガキ	―	
橙色	橙色	ナデ？	ヨコナデ，ケズリ	―	
にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	

遺構No.	No.	種別	器種	遺存度	法量(cm)			胎土	焼成
					口径	器高	底径		
SI-015	5	ミニチュア土器		全体の4/5	(6.8)	4.4	4.6	白色微砂粒多量	やや不良
SI-015	6	土師器	高坏	杯と脚の接合部のみ	−	−	−	白色砂粒多量	良好
SI-015	7	土師器	甕	ほぼ完形	17.9	23.7	6.8	白色砂粒多量	良好
SI-015	8	土師器	小型甕	全体の3/4	(13.9)	10.5	4.9～5.8	白色砂粒多量	良好
SI-015	9	土師器	小型甕	ほぼ完形	12.9	12.5～13.0	6.6	白色砂粒，スコリア	良好
SI-015	10	土師器	小型甕	全体の1/2	13.0	14.5	(6.8)	白色砂粒多量	良好
SI-015	11	土師器	甑	全体の3/4	18.1	−	−	白色砂粒多量	良好
SI-016	1	土師器	坏	口縁部の1/4	(13.2)	−	−	白色微砂粒	良好
SI-016	2	土師器	坏	口縁部～体部の1/4	(13.6)	−	−	スコリア粒多量	良好
SI-016	3	須恵器	蓋	全体の1/2	(9.6)	3.4	−	緻密	良好
SI-016	4	ミニチュア土器：坏		全体の1/5	(6.0)	3.6	(4.2)	各種砂礫・スコリア粒多量，海綿骨針･金雲母粒少量	良好
SI-016	5	土師器	甑	底部破片	−	−	−	スコリア	良好
SI-016	6	土師器	甑	底部の1/8	−	−	(8.8)	白色微砂粒，スコリア粒	不良
SI-017	1	土師器	坏	全体の3/4	(13.5)	4.4	−	白色砂粒多量	良好
SI-017	2	土師器	坏	全体の1/2	(12.4)	4.2	−	白色・灰白色砂粒多量，海綿骨針	良好
SI-017	3	土師器	坏	全体の1/4	(14.4)	3.6	−	白色砂粒	良好
SI-017	4	土師器	坏	全体の1/4	(11.6)	(5.0)	−	白色砂礫多量	良好
SI-017	5	土師器	坏	ほぼ完形	11.8	4.5	−	白色微砂粒	良好
SI-017	6	土師器	坏	口縁部～体部の1/5	(14.2)	−	−	精緻	良好
SI-017	7	土師器	坏	全体の3/4	(12.4)	4.4	−	白色・灰白色砂・スコリア粒多量，砂礫	良好
SI-017	8	土師器	坏	全体の1/4	(11.6)	3.5	−	白色砂礫多量	良好
SI-017	9	土師器	坏	全体の1/5	(13.0)	−	−	白色砂礫多量	良好
SI-017	10	土師器	高坏	杯部の1/4	(14.6)	−	−	白色微砂粒，スコリア粒	良好
SI-017	11	土師器	甕	底部破片	−	−	−	白色微砂粒，スコリア	やや不良
SI-017	12	土師器	甕	底部の1/2	−	−	7.2	白色・灰白色砂礫多量	やや不良
SI-017	13	土師器	小型鉢	完形	9.8	7.9～8.2	7.0	白色砂粒多量	良好
SI-017	14	土師器	小型鉢	完形	7.9	4.4～4.8	5.2	砂礫，スコリア塊	良好
SI-017	15	土師器	小型鉢	完形	6.3	3.0～3.2	5.6	白色微砂粒	良好
SI-017	16	土師器	甑	胴部破片	−	−	−	白色砂礫多量	やや不良
SI-018	1	土師器	小型甕	口縁部の1/4	(13.0)	−	−	白色微砂粒，スコリア粒	良好
SI-018	2	土師器	甕	胴部破片	−	−	−	白色微砂粒	良好
SI-018	3	須恵器	甑	口縁部～胴部上半の1/6	(25.8)	−	−	白色微砂粒，スコリア粒	良好
SI-018	4	須恵器	甕	底部破片	−	−	(10.0)	白色微砂粒	良好
SI-019	1	土師器	坏	口縁部～体部の1/4	(11.6)	−	−	白色微砂粒，スコリア粒，海綿骨針	良好
SI-019	2	土師器	坏	口縁部～体部の1/3	(12.2)	−	−	精緻	やや不良
SI-019	3	土師器	甑	口縁部～胴部上半の2/3	17.6	−	−	白色微砂粒多量	良好
SI-020	1	土師器	坏	完形	11.0	3.3	−	白色微砂粒，スコリア	良好
SI-020	2	土師器	坏	口縁部～体部の1/2	(10.9)	−	−	白色微砂粒多量，スコリア	良好
SI-020	3	ミニチュア土器：坏		全体の1/4	−	−	(5.4)	白色微砂粒，スコリア	良好
SI-020	4	土師器	甕	口縁部の1/6	(14.6)	−	−	白色微砂粒，スコリア粒	やや不良
SI-020	5	土師器	甕	口縁部～胴部の3/4	17.4	−	−	白色砂粒	やや不良
SI-020	6	土師器	甑	口縁部～胴部の1/8	(30.0)	−	−	白色砂礫多量	良好
SI-021	1	土師器	坏	全体の3/4	14.0	4.2	−	白色砂粒，スコリア粒	良好
SI-021	2	土師器	坏	全体の1/2	(14.9)	−	−	微砂粒	良好
SI-021	3	土師器	坏	全体の1/2	(14.6)	4.7	−	白色砂粒多量	良好
SI-021	4	土師器	小型甕	口縁部～胴部上半の1/6	(10.6)	−	−	白色微砂粒	良好
SI-021	5	土師器	甕	口縁部～胴部の1/3	(12.8)	−	−	白色砂粒・スコリア粒多量	良好

色調		技法			備考
内面	外面	内面	外面	底外面	
にぶい赤褐色～灰褐色	にぶい赤褐色～灰褐色	ユビナデ	ナデ	－	
橙色～黒色，脚部：褐灰色	橙色～黒褐色	ミガキ，ナデ	ケズリ	－	
赤褐色	明赤褐色～黒褐色	ヨコナデ，ヘラナデ	ケズリ後ナデ	ケズリ後ナデ	
黒褐色～褐色	黒褐色	ヨコナデ，ヘラナデ	ヨコナデ，ケズリ	－	
明赤褐色	明赤褐色	ヨコナデ，ヘラナデ	ヨコナデ，ケズリ後ミガキ	－	
明赤褐色	にぶい橙～褐色	ヨコナデ，ヘラナデ	ヨコナデ，ケズリ後ナデ	－	
明褐色	褐色	ナデ・ミガキ	ヨコナデ，ケズリ	－	
にぶい橙色(黒色・漆)	にぶい橙色(黒色・漆)	ミガキ	ヨコナデ，ケズリ後ミガキ	－	
褐灰色(黒色・漆)	にぶい褐色	ミガキ	ヨコナデ，ケズリ	－	
灰色	灰色	ロクロナデ	回転ケズリ，ロクロナデ	回転ヘラ切り後無調整	
橙色	橙色	ナデ	ナデ	－	
にぶい橙色	にぶい橙色	ナデ，ケズリ	ナデ	－	
橙色	橙色	ヘラナデ，ケズリ	ケズリ	－	
にぶい橙色～黒褐色	にぶい赤褐色～黒褐色	ミガキ	ヨコナデ，ケズリ後ミガキ	－	
にぶい赤褐色	黒色	ヨコナデ，ナデ後ミガキ	ヨコナデ，ケズリ後ミガキ	－	
赤黒色	赤黒色	ヨコナデ，ケズリ	ケズリ後ナデ	－	
橙色	橙色	ナデ後ミガキ	ナデ，ケズリ後ミガキ	－	
灰褐色～黒色(黒色・漆)	灰褐色～黒色(黒色・漆)	ミガキ	ヨコナデ後ミガキ，ケズリ後ナデ	－	
にぶい橙色+黒色(黒色・漆)	にぶい橙色+黒色(黒色・漆)	ナデ後ミガキ	ヨコナデ，ケズリ後一部ミガキ	－	
にぶい橙色～にぶい赤褐色	にぶい橙色～にぶい赤褐色	ナデ，ミガキ	ヨコナデ，ケズリ後ミガキ	－	
にぶい橙色	にぶい橙色	ナデ	ヨコナデ，ケズリ	－	
橙色	橙色	ヨコナデ，ナデ後ミガキ	ヨコナデ，ケズリ後ミガキ	－	
にぶい褐色	にぶい褐色～灰褐色	ヨコナデ，ミガキ	ヨコナデ，ケズリ後ナデ	－	
橙色	にぶい褐色	不明	ケズリ	－	
橙色～灰褐色	橙色～灰褐色	ナデ	ケズリ	－	
橙色	橙色	ヨコナデ，ヘラナデ	ヨコナデ，ナデ	木葉痕	
橙色	橙色	ヨコナデ	ヨコナデ，ユビ圧痕	木茎(葉)痕	
にぶい橙色	にぶい橙色，底面：黒褐色	ヨコナデ	ヨコナデ，ユビ圧痕	木葉痕	
にぶい橙色	灰褐色	ナデ・ミガキ	ケズリ後ミガキ	－	
灰褐色	灰褐色	ヨコナデ，ナデ，	ヨコナデ，ケズリ	－	
灰褐色	黒褐色	ナデ	ケズリ	－	
灰色	灰色	ナデ，ユビ圧痕	ヨコナデ，タタキ目	－	断面赤みあり
淡赤橙色	にぶい赤褐色	ナデ	タタキ，ケズリ	無調整	褐色系須恵器
褐灰色～黒色	にぶい橙色～黒色	ナデ，ミガキ(暗文状)	ケズリ後ナデ	－	
にぶい褐色～黒色(黒色・漆)	にぶい褐色～黒色(黒色・漆)	ミガキ	ヨコナデ，ケズリ後ミガキ	－	
赤褐色	にぶい赤褐色～黒色	ヨコナデ，ケズリ	ヨコナデ，ナデ	－	
にぶい橙色～黒色(黒色・漆)	橙色～黒色(黒色・漆)	ミガキ	ケズリ後ミガキ	－	
明赤褐色～黒色	橙色	粗いナデ	ヨコナデ，ケズリ	－	
灰褐色	灰褐色～黒色	ユビ圧痕	ユビナデ圧痕	茎痕	
黒色	橙色～黒褐色	ヨコナデ，ケズリ	ヨコナデ，ケズリ？	－	
明褐色	にぶい赤褐色～黒褐色	ナデ	ヨコナデ，ケズリ	－	
明赤褐色	黒色	ヨコナデ，ヘラナデ	ヨコナデ，ケズリ	－	
にぶい赤褐色～黒色(黒色・漆)	にぶい赤褐色～黒色(黒彩・漆)	ナデ後ミガキ	ヨコナデ，ケズリ後ミガキ	－	
明赤褐色～黒色(赤彩)	明赤褐色～黒色(赤彩)	ミガキ	ケズリ後ミガキ	－	
にぶい赤褐色～黒褐色(黒色・漆)	黒褐色～黒色(黒色・漆)	ヨコナデ，ミガキ	ヨコナデ，ケズリ後ミガキ	－	
黒褐色	灰褐色～黒褐色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ	－	
にぶい橙色	黄橙色，にぶい橙色	ナデ，ヘラナデ	ヨコナデ，ケズリ	－	

遺構No.	No.	種別	器種	遺存度	法量(cm)			胎土	焼成
					口径	器高	底径		
SI-022	1	土師器	小型甕	ほぼ完形	10.7	8.8	4.85	白色砂粒多量	良好
SI-022	2	土師器	甕	胴部～底部破片	−	−	(10.3)	白色砂粒多量	良好
SI-023	1	土師器	坏	口縁部～体部の1/6	(12.4)	−	−	スコリア粒	良好
SI-023	2	須恵器	甕	口縁部破片	−	−	−	白色砂粒	良好
SI-023	4	土師器	甕	口縁部～胴部の1/6	(14.9)	−	−	白色砂礫多量，雲母粒	やや不良
SI-023	5	土師器	甕	底部～胴部下半の1/4	−	−	(8.1)	スコリア粒・塊多量	不良
SI-024	1	土師器	甑	口縁部～胴部上半の1/6	(14.6)	−	−	白色砂粒多量	良好
SI-025	1	土師器	坏	全体の1/3	(9.8)	−	−	微砂粒少量	やや不良
SI-025	2	土師器	坏	全体の1/4	(9.8)	2.8	(5.2)	スコリア多量	良好
SI-025	3	土師器	坏	全体の2/3	(11.8)	4.6	−	白色微砂粒，スコリア粒	良好
SI-025	4	土師器	甕	全体の1/2	(15.6)	32.1	8.0	白色砂粒	良好
SI-026	1	土師器	坏	完形	12.5	5.1	5.4	白色微砂粒多量	良好
SI-026	2	土師器	坏	全体の1/2	(11.0)	4.4	−	白色微砂粒，スコリア	良好
SI-026	3	土師器	坏	全体の5/6	12.5	4.6	−	白色微砂粒，スコリア粒	やや不良
SI-026	4	土師器	坏	全体の1/3	(11.0)	2.9	−	白色微砂粒	良好
SI-026	5	土師器	坏	全体の5/6	12.0	4.4	−	スコリア	良好
SI-026	6	土師器	坏	全体の1/2	(10.4)	3.4	−	白色微砂粒	不良
SI-026	7	土師器	坏	全体の1/4	(10.6)	−	−	スコリア粒	やや不良
SI-026	8	土師器	坏	全体の1/3	(11.1)	3.5	−	スコリア粒	やや不良
SI-026	9	土師器	小型甕	口縁部～胴部の3/5	(10.8)	−	−	白色微砂粒多量	良好
SI-026	10	土師器	小型甕	底部～胴部下半のみ	−	−	6.5	白色砂礫，スコリア	良好
SI-026	11	土師器	高坏	脚部の3/4	−	−	−	白色砂粒多量	良好
SI-026	12	土師器	甕	口縁部～肩部1/4	(20.0)	−	−	砂礫(1mmφ前後)多量	良好
SI-026	13	土師器	小型甕	全体の2/3	14.2	14.7～14.9	5.7～6.2	白色粒多量，小砂利(φ2mm)少量	良好
SI-026	14	土師器	甕	全体の2/3	(12.8)	(13.4)	5.9	白色微砂粒多量	良好
SI-028	1	土師器	坏	完形	12.2	4.05	6.2	白色微砂粒・スコリア粒多量	良好
SI-028	2	土師器	坏	全体の3/4	13.5	3.8	6.1	白色微砂粒・スコリア粒多量	良好
SI-028	3	土師器	坏	全体の1/4	(11.9)	3.95	(5.4)	白色微砂粒・スコリア粒多量	良好
SI-028	4	土師器	坏	全体の2/3	12.6	3.0	5.75	白色微砂粒・スコリア粒多量	良好
SI-028	5	灰釉陶器	皿	口縁部の1/8	(14.1)	−	−	精緻	良好
SI-028	6	土師器？	大型台付鉢	口縁部～体部1/5	(27.3)	−	−	白色砂粒，スコリア粒，黒色斑	良好
SI-028	7	土師器？	大型台付鉢	脚部の1/8	−	−	(16.9)	白色砂粒・スコリア粒多量	良好
SI-028	8	土師器	甕	ほぼ完形	13.3	11.8～12.0	6.9	白色砂粒多量，スコリア粒	良好
SI-028	9	須恵器	甕	口縁部～胴部上半の1/2	17.4	−	−	白色微砂粒，スコリア	良好
SI-030	1	土師器	高坏	杯部と脚部の接合部のみ	−	−	−	白色微砂粒	良好
SI-031	1	土師器	甕	口縁部～胴部上半の1/2	(15.2)	−	−	スコリア・白色砂粒多量	良好
SI-033	1	土師器	坏	ほぼ完形	10.6	3.8	5.8	精緻	良好
SI-033	2	土師器	甕	口縁部～胴部上半1/4	(16.8)	−	−	白色砂粒，スコリア	良好
SI-034	1	土師器	甕	口縁部～胴部上半の1/10	(14.2)	−	−	砂礫少量	良好
SI-035	1	土師器	坏	全体の1/8	(10.8)	−	−	精緻・スコリア粒少量	良好
SI-035	2	土師器	高坏	杯部の1/6	(18.8)	−	−	精緻，スコリア粒少量	良好
SI-035	3	土師器	椀	口縁部～胴部1/6	(14.6)	−	−	白色微砂粒，砂礫	良好
SI-035	4	土師器	甕	口縁部～胴部上半の3/4	14.6	−	−	白色粒砂多量	良好
SI-036	1	土師器	坏	全体の1/4	(13.2)	(3.0)	−	白色砂粒，スコリア塊	良好
SI-036	2	土師器	坏	全体の1/8	(14.1)	−	−	スコリア粒	良好
SI-036	3	土師器	坏	全体の1/8	(12.4)	−	−	白色砂粒，スコリア粒	良好
SI-036	4	土師器	高坏	杯部の1/3	(15.8)	−	−	白色砂粒多量	良好
SI-036	5	ミニチュア土器：椀		全体の1/6	(10.5)	3.8	(7.0)	砂礫	良好

色調		技法			備考
内面	外面	内面	外面	底外面	
赤色～黒色	赤橙色～黒色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ	ケズリ	
にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	ナデ	ケズリ	ケズリ	
黄灰色(黒色・漆)	黄灰色(黒色・漆)	ミガキ	ケズリ	－	
灰色	灰色	ナデ	ナデ	－	
にぶい橙色	黒褐色	ヘラナデ	ケズリ？	－	
浅黄橙色	にぶい橙色	ナデ	ケズリ	ケズリ	
明赤褐色～黒褐色	にぶい赤褐色～黒色	ナデ	ヨコナデ，ケズリ	－	
灰黄褐色(黒色・漆)	浅黄橙色(黒色・漆)	ミガキ	ヨコナデ，ケズリ	－	
灰黄褐色	浅黄橙色	ミガキ	ヨコナデ，ケズリ？	－	
浅黄橙色	浅黄橙色	ナデ後ミガキ	ヨコナデ，ケズリ	－	
褐色～黒褐色	黒褐色	ナデ	ケズリ後ナデ	－	
にぶい橙色～黒褐色	灰褐色	ヨコナデ，ヘラナデ	ヨコナデ，ケズリ後ミガキ	ケズリ	
明赤褐色～褐色	にぶい橙色～黒色	粗いナデ	ヨコナデ，ケズリ	－	
黒色(黒色・炭)	橙色～にぶい褐色	ミガキ	ヨコナデ，ケズリ	ケズリ	
にぶい橙色～橙色	にぶい橙色～橙色	ミガキ	ヨコナデ，ケズリ後ミガキ	－	
浅黄橙色～にぶい橙色	浅黄橙色～にぶい橙色	ミガキ	ヨコナデ，ケズリ	－	
黄灰色～灰色(黒色・漆)	黄灰色(黒色・漆)	ミガキ	ヨコナデ，ケズリ後ナデ	－	
褐灰色(黒色・漆)	にぶい褐色(黒色・漆)	ミガキ	ヨコナデ，ケズリ	－	
にぶい橙色～灰褐色(黒色・漆)	にぶい橙色～灰褐色(黒色・漆)	ミガキ	ヨコナデ	－	
にぶい褐色	にぶい赤褐色～黒褐色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ	－	
橙色	にぶい橙色～黒色	ナデ	ケズリ後ナデ	ケズリ	
杯部:黒色(黒色・炭)，脚部:にぶい褐色	にぶい褐色	ミガキ，ナデ，ヨコナデ	ケズリ，ヨコナデ	－	
浅黄橙色	浅黄橙色	ヨコナデ，ヘラナデ	ヨコナデ，ケズリ	－	
明赤褐色	暗赤褐色	ナデ	ケズリ	ケズリ	
にぶい赤褐色～暗赤灰色	にぶい赤褐色～暗赤灰色	ヨコナデ，ヘラナデ	ヨコナデ，ケズリ	ケズリ	
灰褐色	にぶい赤褐色	ロクロナデ	ロクロナデ，ケズリ	回転糸切り離し後ケズリ	
にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	ロクロナデ	ロクロナデ，ケズリ	回転糸切り離し後ケズリ	
明赤褐色	明赤褐色	ロクロナデ	ロクロナデ，ケズリ	ケズリ	
にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	ロクロナデ	ロクロナデ，ケズリ	ケズリ	
灰色	灰色	ロクロナデ	ロクロナデ	－	
灰褐色	にぶい赤褐色	ヨコナデ	ヨコナデ，ケズリ，タタキ目	－	須恵器？
橙色～褐灰色	橙色～褐灰色	ナデ	ナデ	－	須恵器？
にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ	無調整	
橙色～明赤褐色	橙色～明赤褐色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ	－	
黒色(黒色・炭)	にぶい赤褐色(赤彩)	ミガキ	ケズリ	－	
暗褐色	赤褐色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ	－	
にぶい黄橙色～黒色(黒色・漆)	浅黄色(黒色・漆)	ミガキ	ヨコナデ，ケズリ	ケズリ	
にぶい赤褐色～黒褐色	にぶい赤褐色～黒褐色	ヨコナデ，ヘラナデ	ヨコナデ，ケズリ後ナデ	－	
黒色(黒色・炭)	橙色	ヨコナデ，ミガキ	ヨコナデ，ケズリ後ミガキ	－	
にぶい黄色～黒褐色(黒色・漆)	にぶい黄色～黒褐色(黒色・漆)	ミガキ	ヨコナデ，ケズリ後ミガキ	－	
にぶい黄橙色～褐灰色(黒色・漆)	にぶい黄橙色～褐灰色(黒色・漆)	ナデ後ミガキ	ケズリ後ミガキ	－	
にぶい黄橙色+黒色斑	にぶい黄橙色～褐灰色	ヨコナデ，ヘラナデ	ヨコナデ，ケズリ後ナデ	－	
黒色	赤褐色～黒色	ナデ	ヨコナデ，ケズリ	－	
にぶい橙色(黒色・漆)	にぶい黄橙色+黒色(黒色・漆)	ミガキ	ケズリ後ミガキ	－	
にぶい黄橙色	にぶい黄橙色～橙色	ミガキ	ケズリ後ミガキ	－	
黒色(黒色・炭)	にぶい褐色～黒褐色(黒色・漆)	ミガキ	ミガキ，ケズリ後ナデ	－	
黒色(黒色・炭)	にぶい橙色+橙色(赤彩)	ヨコナデ	ヨコナデ，ケズリ	－	
橙色	橙色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ユビ圧痕	無調整	

遺構No.	No.	種別	器種	遺存度	法量(cm)			胎土	焼成
					口径	器高	底径		
SI-036	6	土師器？	甕？	底部の1/2	－	－	(8.3)	白色砂粒	不良
SI-036	7	土師器	甑	把手部のみ	－	－	－	白色砂粒	良好
SI-038	1	土師器	甕	口縁部～肩部の1/4	(22.2)	－	－	白色砂粒・雲母粒・砂礫多量	良好
SI-038	2	土師器	甕	口縁部～胴部上半の1/6	(19.6)	－	－	白色微砂粒多量	良好
SI-038	3	土師器	甕	口縁部～胴部3/5	21.9	－	－	スコリア多量，白色砂粒(φ1mm)，金雲母	良好
SI-039	1	土師器	坏	全体の1/5	(11.6)	－	－	白色砂粒スコリア	良好
SI-039	2	土師器	坏	全体の2/3	(12.4)	4.2	－	白色砂粒多量	良好
SI-039	4	土師器	甕	全体の4/5	(10.1)	22.7	6.0	白色砂粒多量	良好
SI-041	1	土師器	坏	全体の3/4	(13.8)	3.9	－	白色微砂粒	良好
SI-041	2	土師器	坏	ほぼ完形	11.0	3.4	－	精緻，スコリア粒	良好
SI-041	3	土師器	坏	口縁部～体部の1/4	(13.5)	－	－	精緻，スコリア	やや不良
SI-041	4	土師器	甕	底部～胴部下半の1/3	－	－	(7.4)	白色微砂粒，スコリア粒	良好
SI-041	5	土師器	甕	口縁部～胴部上半のみ	(9.9)	－	－	白色微砂粒	良好
SI-041	6	土師器	鉢	全体の1/3	(9.7)	－	－	白色微砂粒	良好
SI-041	7	ミニチュア土器：椀		ほぼ完形	5.3	3.0～3.4	3.1	白色微砂粒	良好
SI-042	1	須恵器	蓋	口縁部～体部1/5	(9.0)	－	－	精緻，白色微砂粒微量	良好
SI-042	2	土師器	坏	口縁部～体部1/4	(12.8)	－	－	白色微砂粒	良好
SI-042	3	土師器	坏	全体の1/2	(9.6)	－	－	精緻	やや不良
SI-042	4	ミニチュア土器：椀		全体の1/4	(5.2)	3.4	(5.2)	白色微砂粒	不良
SI-042	5	土師器	甕	口縁部～胴部の1/6	(22.6)	－	－	砂礫・銀雲母粒多量	良好
SI-042	6	土師器	甕	口縁部～肩部の1/3	(16.6)	－	－	白色微砂粒，スコリア粒	良好
SI-042	7	土師器	甑	全体の1/4	(19.6)	19.2	(7.0)	白色砂粒多量	良好
SI-043	1	土師器	坏	口縁部～体部1/5	(11.5)	－	－	白色砂粒	良好
SI-043	2	土師器	坏	口縁部～体部1/8	(10.6)	－	－	精緻	良好
SI-043	3	土師器	甑	把手部のみ	－	－	－	微砂粒多量	良好
SI-044	1	土師器	坏	口縁部～体部1/4	(12.2)	－	－	精緻	やや不良
SI-044	2	土師器	甑	把手部のみ	－	－	－	白色微砂粒	良好
SI-044	3	土師器	高坏	脚部の1/2	－	－	11.05	スコリア粒多量	良好
SI-044	4	土師器	高坏	脚部の3/4	－	－	10.85	スコリア粒・塊	やや不良

掘立柱建物跡

遺構No.	No.	種別	器種	遺存度	法量(cm)			胎土	焼成
					口径	器高	底径		
SB-002	1	土師器	坏	口縁部～体部の1/8	(13.2)	－	－	白色微砂粒微量	良好
SB-007	2	土師器	坏	全体の1/6	(12.2)	(3.5)	(5.0)	白色微砂粒	良好
SB-002	3	土師器	坏	口縁部～体部の1/6	(13.4)	－	－	灰白色砂粒・スコリア粒多量	良好
SB-005	4	土師器	坏	体部～底部の1/3	－	－	(7.8)	白色・灰色砂粒多量	良好
SB-002	5	土師器	坏	口縁部の1/8	(13.6)	－	－	白色砂粒	良好
SB-002	6	土師器	坏	体部～底部の2/3	－	－	7.0	スコリア	良好
SB-002	7	土師器	坏	体部～底部の1/4	－	－	(7.2)	白色微砂粒，スコリア	良好
SB-007	8	土師器	坏	底部破片	－	－	－	砂粒	良好
SB-002	9	須恵器	長頸瓶	底部の1/6	－	－	(13.0)	砂粒少量	良好
SB-005	10	土師器	甕	口縁部破片	(11.7)	－	－	白色微砂粒，スコリア粒	良好
SB-005	11	土師器	甕	口縁部破片	(16.8)	－	－	白色微砂粒，スコリア粒	良好
SB-002	12	土師器	甕	口縁部～肩部の1/6	(18.3)	－	－	白色微砂粒，スコリア塊	良好
SB-002	13	土師器	甕	口縁部～肩部の1/6	(18.3)	－	－	白色微砂粒多量，スコリア粒	良好
SB-002	14	土師器	甕	口縁部の1/8	(22.9)	－	－	白色微砂粒多量，スコリア粒	良好
SB-002	15	土師器	甕	胴部下半～底部の1/8	－	－	(7.0)	白色微砂粒，スコリア粒	良好

色調		技法			備考
内面	外面	内面	外面	底外面	
橙色	にぶい黄橙色	ナデ	ケズリ後ミガキ	無調整	
にぶい橙色～灰褐色	にぶい橙色～灰褐色	―	ナデ	―	
橙色	暗赤褐色	ナデ	ヨコナデ，ケズリ	―	
赤灰色	灰褐色	ナデ	ヨコナデ，ケズリ	―	
暗褐色	暗褐色	ヨコナデ，ヘラナデ	ヨコナデ，ケズリ	―	
にぶい橙色(黒色・漆)	黒色(黒色・炭)	ミガキ	ヨコナデ，ケズリ後ミガキ	―	
灰褐色(黒色・漆)	灰褐色(黒色・漆)	ヘラナデ後ミガキ	ケズリ後ミガキ	―	
にぶい褐色	にぶい黄褐色～明褐色	ナデ，ケズリ	ケズリ	ケズリ	
褐色～黒褐色(黒色・漆)	褐色～黒褐色(黒色・漆)	ミガキ	ヨコナデ，ケズリ後ミガキ	―	
にぶい橙色～黒褐色(黒色・漆)	にぶい橙色～黒褐色(黒色・漆)	ミガキ	ヨコナデ後ミガキ，ケズリ後ミガキ	―	
にぶい黄褐色(黒色・漆)	にぶい黄褐色(黒色・漆)	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ	―	
にぶい橙色	にぶい褐色	ナデ	ケズリ後一部ミガキ	ケズリ	
黒色	にぶい橙色～黒色	ナデ	ヨコナデ，ケズリ	―	
にぶい赤褐色～黒褐色	にぶい赤褐色～黒褐色	ナデ	ヨコナデ，粗いケズリ	―	
橙色～灰褐色	橙色～灰褐色	ナデ	ナデ	ナデ	
灰色	黒色	ロクロナデ	ロクロナデ	―	
にぶい赤褐色(黒色・漆)	にぶい橙色	ナデ	ヨコナデ，ケズリ	―	
にぶい褐色(黒色・漆)	橙色～褐灰色(黒色・漆)	ヨコナデ，ミガキ	ヨコナデ，ケズリ	―	
にぶい褐色～褐灰色	灰褐色	ナデ	ナデ	無調整	
橙色～褐灰色	橙色～黒色	ナデ	ヨコナデ，ケズリ後ナデ	―	
明赤褐色	明赤褐色	ナデ	ヨコナデ，ケズリ	―	
明赤褐色	にぶい褐色～黒色	丁寧なナデ後ミガキ	ヨコナデ，ケズリ	―	
にぶい褐色	黒色	ミガキ	不明	―	
にぶい橙色	にぶい橙色	丁寧なミガキ	ミガキ，ケズリ後ミガキ	―	
―	にぶい赤褐色	―	ケズリ	―	
赤褐色	赤褐色	ヨコナデ，ミガキ	ヨコナデ，ケズリ後ナデ	―	
―	赤色	―	ナデ	―	
にぶい褐色	にぶい褐色	ヨコナデ，ケズリ	ケズリ，ヨコナデ	―	
にぶい橙色	にぶい橙色	ヨコナデ，ケズリ，ミガキ	ケズリ，ヨコナデ	―	

色調		技法			備考
内面	外面	内面	外面	底外面	
にぶい橙色	にぶい橙色	ロクロナデ	ロクロナデ	―	
にぶい橙色～灰褐色	にぶい橙色～灰褐色	ロクロナデ	ロクロナデ，ケズリ	ケズリ	
橙色	にぶい橙色～黒色	ロクロナデ	ロクロナデ	―	
にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	ロクロナデ	ロクロナデ，ケズリ	ケズリ	
橙色	橙色	ロクロナデ	ロクロナデ	―	
にぶい橙色	にぶい橙色	ロクロナデ	ロクロナデ，手持ちケズリ	手持ちケズリ	墨書
にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	ロクロナデ	ロクロナデ，回転ケズリ	回転ケズリ	
浅黄橙色	にぶい橙色	ナデ	―	ケズリ	墨書
灰白色	灰白色	ロクロナデ	回転ケズリ	―	
明赤褐色	にぶい赤褐色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ	―	
にぶい赤褐色	黒褐色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ	―	
にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	ヨコナデ，ヘラナデ	ヨコナデ，ケズリ	―	
明赤褐色～暗赤灰色	明赤褐色～暗赤灰色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ	―	
にぶい橙色～灰褐色	にぶい橙色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ	―	
赤褐色～にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	ヘラナデ	ケズリ	―	

遺構No.	No.	種別	器種	遺存度	法量(cm)			胎土	焼成
					口径	器高	底径		
SB-002	16	須恵器	甕	口縁部破片	(22.8)	−	−	白色微砂粒	良好
SB-001	17	須恵器	甕	口縁部破片	(19.2)	−	−	白色微砂粒	良好
SB-002	18	須恵器	甕	底部の1/6	−	−	(16.4)	白色微砂粒多量	やや不良
SB-002	19	須恵器	甕	胴部下半破片	−	−	−	白色微砂粒，スコリア	良好
SB-002	20	須恵器	甑	口縁～胴部上半破片	−	−	−	白色微砂粒	良好

土　坑

遺構No.	No.	種別	器種	遺存度	法量(cm)			胎土	焼成
					口径	器高	底径		
SK-016	1	土師器	坏	全体の4/5	12.3	3.6～4.0	5.6	白色微砂粒，スコリア粒	良好
SK-016	2	土師器	坏	全体の1/2	(13.0)	3.8	(6.2)	白色微砂粒，スコリア粒	良好
SK-016	3	土師器	坏	全体の2/3	(13.2)	4.1	6.4	白色微砂粒，スコリア粒	良好
SK-016	4	土師器	坏	全体の2/3	(12.4)	4.1	6.0	白色微砂粒，スコリア粒	良好
SK-016	5	土師器	坏	口縁部の1/6	(12.8)	−	−	白色微砂粒，スコリア粒	良好
SK-016	6	土師器	甕	口縁部～肩部の1/4	(22.6)	−	−	白色砂粒，スコリア粒	良好
SK-016	7	土師器	甕	口縁部破片	(18.2)	−	−	白色微砂粒多量	良好
SK-016	8	土師器	甕	口縁部破片	(18.2)	−	−	白色微砂粒多量	良好
SK-018	1	土師器	坏	全体の5/6	(13.5)	5.6	−	白色微砂粒，スコリア粒	良好
SK-018	2	土師器	坏	口縁部の1/4	(12.4)	−	−	白色微砂粒，スコリア粒	良好
SK-018	3	土師器	高坏	口縁部の1/6	(16.2)	−	−	白色微砂粒	良好
SK-018	4	土師器	台付甕	台部のみ	−	−	8.2	白色微砂粒	良好
SK-018	5	ミニチュア土器：コップ形		完形	3.3	5.8～6.2	4.0	白色微砂粒	良好
SK-018	6	土師器	甕	口縁部の1/4	(14.8)	−	−	白色微砂粒	良好
SK-018	7	土師器	甕	口縁部の1/4	(11.4)	−	−	白色微砂粒，スコリア多量	良好
SK-018	8	土師器	小型甕	口縁部～胴部上半の1/2	(11.2)	−	−	砂礫多量	良好
SK-018	9	土師器	甕	胴部の1/8	−	−	−	白色砂礫，スコリア多量	良好
SK-018	10	土師器	甕	胴部の1/8	−	−	−	白色微砂粒，スコリア粒	良好
SK-018	11	土師器	甕	底部～胴部下半の1/3	−	−	4.5	白色微砂粒	良好？
SK-018	12	土師器	甕	胴部の1/5	−	−	−	白色砂粒，スコリア粒	良好
SK-018	13	土師器	甕	底部～胴部下半の1/4	−	−	(5.6)	砂礫，金雲母粒	良好
SK-018	14	土師器	小型甕	底部のみ	−	−	5.2	白色微砂粒	良好
SK-028	2	須恵器	大甕	口縁部の1/8	(20.0)	−	−	白色微砂粒，スコリア粒	良好
SK-028	1	土師器	鉢	口縁部～体部の1/10	(20.0)	−	−	白色・透明砂礫，スコリア	良好

遺構外

遺構No.	No.	種別	器種	遺存度	法量(cm)			胎土	焼成
					口径	器高	底径		
(SI-032)	1	土師器	坏	全体の4/5	15.2	5.5	−	精緻，砂粒微量	やや不良
(SX-002)	2	土師器	坏	口縁部～体部の1/5	(13.4)	−	−	白色微砂粒・スコリア粒少量	良好
(SX-002)	3	土師器	坏	口縁部～体部の1/8	(11.2)	−	−	白色微砂粒	良好
(SI-032)	4	土師器	坏	口縁部～体部の1/6	(14.0)	−	−	白色微砂粒	良好
(SK-073)	5	土師器	坏	完形	10.2	2.7～3.1	5.8	精緻	やや不良
4D-17他	6	土師器	坏	体部～底部の1/3	−	−	(11.0)	白色微砂粒	良好
(SX-002)	7	土師器	坏	全体の1/6	(12.6)	−	−	スコリア粒	良好
(SP-042)	8	土師器	坏	全体の2/3	13.0	3.5	9.2	白色微砂粒，スコリア	良好
5C-40	9	土師器	坏	全体の1/8	(12.6)	3.65	(7.2)	白色微砂粒	良好
(SD-001)	10	土師器	坏	底部の1/3	−	−	(9.3)	白色微砂粒	良好
(SB-002他)	11	土師器	坏	底部の1/3	−	−	(7.6)	白色砂粒，スコリア	良好
(SI-032)	12	土師器	坏	底部の1/4	−	−	(6.8)	白色微砂粒多量	良好

色調		技法			備考
内面	外面	内面	外面	底外面	
灰色	灰色	ヨコナデ	ヨコナデ	—	
灰色	灰色	ナデ	ナデ	—	
灰色	灰色	ナデ	ケズリ	無調整	
黒色	黒色	ナデ	ケズリ，タタキ	—	褐色系須恵器
にぶい橙色	にぶい橙色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，タタキ目	—	褐色系須恵器

色調		技法			備考
内面	外面	内面	外面	底外面	
にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	ロクロナデ	ロクロナデ，ケズリ	ケズリ	
橙色～赤色	橙色～赤色	ロクロナデ	ロクロナデ，ケズリ	ケズリ	
明赤褐色～黒褐色	明赤褐色	ロクロナデ	ロクロナデ，ケズリ	ケズリ	
黒色	橙色～黒色	ロクロナデ	ロクロナデ，ケズリ	ケズリ	
橙色	灰褐色	ロクロナデ	ロクロナデ，ケズリ	—	
にぶい橙色	にぶい橙色	ヨコナデ，ヘラナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
黒褐色	黒色	ナデ	ヨコナデ	—	
橙色～黒褐色	橙色～黒色	ヨコナデ，ユビ圧痕	ヨコナデ	—	
にぶい橙色～黒色	にぶい橙色～黒色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ後ミガキ	—	
灰褐色	橙色	ヨコナデ，ミガキ	ヨコナデ，ケズリ後ミガキ	—	
橙色	橙色	ミガキ	ミガキ	—	
橙色	橙色	ナデ，ハケ目	ミガキ	—	
にぶい橙色～黒色	にぶい橙色～黒色	ナデ	ヨコナデ，ケズリ	ナデ	
橙色～黒色	橙色～黒色	ナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
赤褐色～黒褐色	赤褐色～黒褐色	ナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
にぶい橙色～黒色	にぶい橙色～黒色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
赤褐色～黒褐色	赤褐色～黒褐色	ナデ	ケズリ	—	
にぶい橙色	橙色～黒色	ナデ	ケズリ後ナデ	—	
淡赤橙色～にぶい赤褐色	明赤褐色～黒褐色	ナデ	ケズリ後ナデ	ケズリ	
橙色黒色	橙色黒色	ナデ	ケズリ？	—	
浅黄橙色	橙色～黒色	ナデ	ケズリ	ケズリ	
黒色	橙色	ヘラナデ	ケズリ	ケズリ	
にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ヨコナデ	ヨコナデ	—	褐色系須恵器
橙色	橙色	ヨコナデ	ヨコナデ	—	

色調		技法			備考
内面	外面	内面	外面	底外面	
赤色(赤彩)	口縁：(赤彩)，体部:にぶい橙色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
黒褐色(黒色・漆)	黒褐色(黒色・漆)	ヨコナデ，ナデ後ミガキ	ヨコナデ，ケズリ後ミガキ	—	
灰黄褐色	橙色～灰褐色	ヨコナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
にぶい橙色	灰褐色	ヨコナデ	ヨコナデ，ケズリ後ナデ	—	
褐灰色(黒色・漆)	にぶい黄橙色	ミガキ	ケズリ？	ケズリ	
褐灰色(黒色・漆)	褐灰色(黒色・漆)	ミガキ	ケズリ後ミガキ	ケズリ後ミガキ	
明赤褐色	明赤褐色	ミガキ	ヨコナデ，ケズリ	—	
にぶい橙色	にぶい橙色	ヨコナデ後放射状ミガキ	ケズリ後部分的ミガキ	ケズリ後部分的ミガキ	
にぶい赤褐色	黒褐色	ロクロナデ	ロクロナデ，回転ケズリ	回転ケズリ	
灰白色～にぶい黄橙色	灰白色～にぶい黄橙色	ロクロナデ	ケズリ	ケズリ	
暗赤褐色	暗赤褐色	ロクロナデ	回転ケズリ	回転ケズリ	
橙色	橙色	ロクロナデ	ケズリ	ケズリ	

遺構No.	No.	種別	器種	遺存度	法量(cm)			胎土	焼成
					口径	器高	底径		
(SD-003)	13	土師器	坏	底部～体部の1/8	−	−	(7.8)	白色微砂粒	良好
(SP-058)	14	土師器	坏	底部の2/3	−	−	7.3	白色微砂粒，スコリア	良好
4C-70	15	須恵器	高台付坏	高台部破片	−	−	(8.8)	精緻	やや不良
5C-23	16	土師器	坏	体部破片	−	−	−	白色微砂粒	良好
4C-84	17	土師器	坏	口縁部～体部破片	−	−	−	白色微砂粒	良好
5C-11	18	土師器	坏	底部破片	−	−	−	白色微砂粒・スコリア粒多量	良好
(SD-004)	19	灰釉陶器	皿	口縁部破片	(15.6)	−	−	精緻	良好
(SX-002)	20	土師器	高坏	脚部の1/6	−	−	(12.2)	白色砂粒	良好
(SI-010他)	21	土師器	高坏	杯部の1/4	−	−	−	白色微砂粒多量	良好
6トレンチ	22	土師器	高坏	脚部の1/2	−	−	(12.6)	白色砂礫	良好
4C-68	23	ミニチュア土器：坏		全体の1/4	(5.3)	−	−	白色微砂粒	良好
(SP-046)	24	ミニチュア土器：坏		全体の1/4	(7.1)	3.3	(5.4)	白色微砂粒，スコリア	良好
4C-92	25	ミニチュア土器：坏		全体の1/4	−	−	2.2	スコリア微量	良好
4D-32	26	土師器	甑	把手部のみ	−	−	−	白色微砂粒	良好
4D-43	27	土師器	甑	把手部のみ	−	−	−	白色微砂粒	良好
(SP-043)	28	土師器	甕	口縁部の1/8	(18.0)	−	−	白色微砂粒	良好
(SD-004)	29	土師器	甕	口縁部の1/6	(18.2)	−	−	白色微砂粒多量	良好
(SD-003)	30	土師器	甕	底部の1/4	−	−	(6.9)	白色微砂粒，スコリア	良好
(SI-009他)	31	土師器？	甕	口縁部～胴部上半の1/4	(11.2)	−	−	白色砂粒，スコリア	良好
(SK-082)	32	土師器	甕	口縁部～胴部下半のみ	(18.5)	−	−	スコリア，白色砂粒多量	良好

※ 種別のミニチュア土器は，通常の土器に比べ極端に小型の土器を手捏土器を含めて広義に使用している。

色調		技法			備考
内面	外面	内面	外面	底外面	
にぶい褐色	灰褐色	ロクロナデ	ケズリ	ケズリ	
黒色	黒色	ロクロナデ	回転ケズリ	回転ケズリ	
灰白色	灰白色	ロクロナデ	ロクロナデ	—	
浅黄橙色	浅黄橙色	ロクロナデ	ロクロナデ	—	墨書
橙色	橙色	ロクロナデ	ロクロナデ	—	墨書
にぶい橙色	にぶい橙色	ナデ	—	ケズリ	ヘラ描き
灰白色(灰釉)	灰白色	ロクロナデ	ロクロナデ	—	
橙色黒色	にぶい橙色，明赤褐色(赤彩)	ケズリ	ケズリ後ナデ	—	
黒色(黒色・炭)	赤色	ミガキ	ナデ	—	
橙色	橙色～灰褐色	ナデ，ケズリ	ケズリ後ミガキ	—	
にぶい橙色	にぶい橙色	ナデ	ナデ	—	
赤色	赤色	ヨコナデ	ヨコナデ，ユビ圧痕	無調整	
にぶい橙色	にぶい橙色	ナデ	ナデ	—	
—	にぶい橙色	—	雑なナデ	—	
—	灰褐色	—	雑なナデ	—	
にぶい褐色～黒褐色	にぶい褐色～黒褐色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ	—	
赤～灰褐色	明赤褐色～黒色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ナデ	—	
にぶい橙色	にぶい褐色	ナデ	ケズリ	ケズリ	
浅黄橙色	橙色	ヨコナデ，ハケ目，ナデ	ヨコナデ，ハケ目	—	
暗赤褐色	明赤褐色～黒褐色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ後ナデ	—	

第21表　八幡神社北(1)遺跡 古墳時代～奈良・平安時代土器以外観察表

土製品

遺構No.	No.	種類	法量(cm・g)				胎土	色調
			長	幅	厚	重		
SI-001	2	支脚	15.9	6.0	－	352.9	白色砂粒多量	にぶい黄褐色～橙色
SI-005	6	支脚	〈5.7〉	4.9	－	101.9	白色微砂粒 スコリア	にぶい褐色
SI-005	7	支脚	〈12.4〉	6.7	－	364.7	白色微砂粒 スコリア	にぶい黄橙色
SI-008	6	支脚	〈16.1〉	7.6	－	419.1	粘土主体	橙色
SI-009	12	支脚	〈11.6〉	6.0	－	257.7	白色微砂粒 スコリア多量	にぶい橙色
SI-009	13	土師器転用砥石	3.2	2.3	5.8	4.4	白色微砂粒	黒色・橙色
SI-009	14	土師器転用砥石	3.0	2.5	9.0	5.8	白色微砂粒	黒色・橙色
SI-009	15	勾玉	3.0	1.8	1	4.4	白色微砂粒	橙色
SI-010	15	紡錘車	－	4.1	1.3	30.8	スコリア粒多量	橙色
SI-013	3	支脚	16.6	9.7	－	942.2	粘土主体	橙色
SI-014	4	支脚	16.4	10.2	－	1049.8	粘土主体	橙色
SI-015	12	支脚	〈7.6〉	6.6	－	158.9	白色微砂粒 スコリア多量	にぶい黄橙色
SI-017	17	紡錘車	－	4.9	2.0	44.8	白色微砂粒	にぶい赤褐色
SI-019	4	支脚	〈12.8〉	6.2	－	425.9	粘土主体	にぶい黄橙色
SI-022	3	須恵器転用硯	11.7	9.8	1.0	161.4	白色礫微量	灰色
SI-023	3	支脚	〈8.7〉	5.5	－	109.9	白色微砂粒 スコリア多量	橙色
SI-024	2	須恵器転用砥石	5.0	2.5	1.4	21.6	スコリア	灰色
SI-024	3	須恵器転用砥石	5.1	1.8	1.9	11.3	スコリア	灰色
SI-025	5	土師器転用砥石	9.4	4.9	3.1	61.4	白色微砂粒多量	黒褐色・にぶい赤褐色～黒色
SI-025	6	須恵器転用硯	7.8	5.6	1.6	31.4	白色砂粒	灰色
SI-028	10	須恵器転用砥石	9.9	16.2	1.2	237.9	白色砂礫	灰色
SI-033	3	支脚	〈19.6〉	〈11.6〉	－	1404.3	粘土主体	にぶい橙色
SI-035	5	支脚	〈12.8〉	6.0	－	396.1	金雲母細粒	にぶい橙色
SI-035	6	支脚	〈9.6〉	5.9	－	293.7	白色微砂粒多量	にぶい橙色
SI-038	4	羽口	5.3	1.9	2.0	15.4	白色砂粒	黄灰色
SI-039	3	支脚	〈10.7〉	5.9	－	304.9	白色微砂粒多量	にぶい橙色
遺構外	34	瓦	3.6	3.0	0.7	8.7	白色微砂粒	黒褐色
遺構外	35	勾玉	0.9	0.9	0.8	2.6	白色微砂粒	にぶい赤褐色

石製品

遺構No.	No.	種類	法量(cm・g)				石材
			長	幅	厚	重	
SI-001	3	不明	2.9	3.0	3.5	26.1	安山岩
SI-016	7	砥石	5.6	4.1	2.5	75.6	凝灰岩
SI-022	4	砥石	6.3	5.8	5.3	157.7	凝灰岩
SI-025	7	砥石	7.0	6.2	4.6	242.2	凝灰岩
SI-033	4	砥石	5.9	7.0	3.9	115.9	砂岩
SI-035	7	砥石	6.8	4.5	3.9	123.4	凝灰岩
SK-016	9	石帯	3.6	2.9	0.6	15.4	花崗閃緑岩？

金属製品

遺構No.	No.	種類	法量(cm・g)				材質
			長	幅	厚	重	
SI-003	3	椀型滓	3.6	5.8	3.0	94.9	鉄滓
SI-003	4	装飾金具?	4.5	2.2	1.1	12.6	銅
SI-007	6	棒状鉄製品	3.8	0.7	0.8	3.3	鉄
SI-010	14	不明	〈3.1〉	2.1	0.3	7.6	鉄
SI-011	16	不明	〈2.9〉	1.7	0.7	10.3	鉄
SI-026	15	耳環	1.8	1.7	0.6	4.0	銅
SI-028	11	刀子	4.5	2.2	0.3	7.2	鉄
SI-028	12	不明	2.2	0.5	0.4	1.3	鉄
SI-038	5	耳環	2.1	2.2	0.7	4.0	鉄
SI-039	5	刀子	3.1	1.1	0.3	3.7	銅
遺構外	36	紡錘車	4.5	4.7	2.2	25.3	鉄
遺構外	37	刀子	12.4	1.4	0.4	14.9	鉄

第22表　八幡神社北(1)遺跡 中・近世 遺構一覧表 (原始・古代は除くが,撹乱等で欠番となったものは参考のため含む。)

遺構No.	調査時No.	種類	時期	位置(グリッド)	平面形	規模(m)			特記事項・遺物等
						短軸(幅)	長軸(長さ)	深さ	
SD-001	同	溝状遺構	近世以降か	4B-99・5B-09～29		0.9～2.2,底0.15～1.0	〈20〉	0.4～0.7	N-10°-W。SD-001と002は連続するものとみられる。
SD-002	同	溝状遺構	近世以降か	4C-12・22・32・41・50・60・4B-79・89		主溝1.0～1.7,平均1.6,底0.4～1.0,枝溝0.8～1.2	主溝〈37〉,枝溝15,4.3	0.2～0.3	南部はN-17°-E,北部はN-30°-E。SD-001との境で東西に枝別れし,西側溝は更に北に曲がり(N-5°-E)10m程伸びる。
SD-003	同	溝状遺構	中・近世	4C-08・91・5C-01・11・20・30・40		0.4～1.1,平均0.8,底0.15～0.55	〈34〉	0.4	N-8°-E。常滑甕,近世磁器
SD-004	同	溝状遺構	中・近世	5B-18・19		0.6～0.8,底0.2～0.5	〈12〉	0.25	N-87°-W。常滑片口鉢・瀬戸輪禿皿(17c)
SD-005	同	溝状遺構	中・近世	4C-60～64・75・76		1.0～2.1,平均1.8,底0.7～1.6	26.5	0.25	N-79°-W。中近世瀬戸皿,近世陶器・土器,鉄製品(板・金具)
SD-006	同	溝状遺構	中・近世	4C-74～76		0.5～0.6,底0.2～0.4	8	0.1～0.15,ピット0.25	N-77°-W。常滑甕
欠番	SD-007	溝状遺構	近・現代	4C-95・96				0.2	
SD-008	同	溝状遺構	中・近世	3D-83・93・4D-03・13・22・32・41・51		1.2～1.9,平均1.5	〈35〉	0.6	北部N-15°-E,南部N-31°-E。古瀬戸瓶子(13c末～14c初),常滑片口鉢・甕(13c)・転用砥石,鉄滓
SD-009	同	溝状遺構	中・近世	4C-72・73		0.4～0.6,底0.1～0.4	7.8	0.1～0.15,ピット0.15～0.2	N-78°-W
SD-010	同	溝状遺構	中・近世	3C-79～99・4C-09・19・4D-10・11・21～23・34		西側1.6～2.6,南側0.5～2.6,底0.3～0.7	北西部〈16〉,南部〈20〉	西辺:西側0.5,東側0.2,南辺:南側0.8,北側0.2	北西部N-2°-E,南部N-67°-W。西側溝は2条。常滑甕,近世瀬戸磁器,板状鉄製品
欠番	SD-011	溝状遺構	近・現代	4C-29・39他					
欠番	SD-012	溝状遺構	近・現代	4C-28・38他					
SD-013	同	溝状遺構	中・近世	3D-70列		0.8～1.6,平均1.4,底0.25～0.8	〈44〉	0.2	西部N-75°-E,中央部N-82°-E,東部N-72°-E。常滑甕,唐津鉢,近世陶磁器・土器・瓦
SD-014	同	溝状遺構	中・近世	3D-58～78		0.9～2.1,底0.2～1.5	〈10〉	0.1～0.2	N-10°-W
SD-015	同	溝状遺構	中・近世	3D-85～4D-25		0.5～2.5,底0.3～0.8,平均0.8	〈20〉	0.2	ほぼ南北軸。北部で広がる。
SD-016	同	溝状遺構。一部道路	中・近世	4D-23～25		0.7～1.7,底0.3～0.8	10	0.1～0.2	N-71°-W。中央部は2条で,北側底部には硬化面。常滑甕
SD-017	同	溝状遺構	中・近世	3D-84・85・4D-04・14		1.0～1.6,底0.4～1.2	11	0.2	N-9°-E。北部ほど幅広。常滑甕,鉄滓
SD-018	同	道路	中・近世	2D		1.5～1.8,底0.3～1.0以上	〈13〉	0.3	底部に硬化面。
SD-019	同	道路	中・近世	2D		0.4～0.8,底0.3～0.4	〈4〉		N-17°-W。底部に硬化面。
SD-020	同	溝状遺構	中・近世	2D		0.5以上,底0.3以上	〈1.8〉		SD-019とほぼ平行。常滑片口鉢・甕(14c)
SX-001	同	台地整形区画	中世	4D-30～32・40～42・50～51・60	不整形	5	15	0.25～0.35	内部に土坑・柱穴群。SD-008に切られるか。
SX-002	同	台地整形区画(粘土採掘坑または井戸)	中世	3C-89・99・3D-80～82・90～94・4D-00～04・11～13	楕円形	9.5	14～17	0.5～1.5	須恵器転用砥石(多量),常滑片口鉢・甕(14c前)・転用砥石(多量),古瀬戸擂鉢(15c後),近世陶磁器,刀子等
SB-010	無	掘立柱建物跡	中世	4D-34	方形	梁行3.9以上	桁行3.9以上	0.7	殆ど調査区外。N-57°-E または N-33°-W。SH-050を含む。
SB-011	無	掘立柱建物跡	中世	4D-05・15周辺	長方形	3.6	6.2	0.2～0.5,0.4主	N-13°-E
SB-012	無	掘立柱建物跡	中世	4D-05・06・15・16・25・26周辺	長方形	4.6～4.9	7.8～7.9	0.3～0.7,0.5主	N-14°-E
SB-013	無	掘立柱建物跡	中世	4D-06・07・16・17周辺	長方形	3.5	7.2	0.2～0.7,0.7主	N-75°-W
SB-014	無	掘立柱建物跡	中世	4D-07・08・16～18周辺	ほぼ正方形	5.2	5.5	0.5～0.8,0.7主	N-65°-W
SB-015	無	掘立柱建物跡	中世	4D-08・09・18・19周辺	長方形	3.9	6.0	0.4～0.9,0.7主	N-80°-W

遺構No.	調査時No.	種類	時期	位置(グリッド)	平面形	規模(m)			特記事項・遺物等
						短軸(幅)	長軸(長さ)	深さ	
SA-001	同	柵列	中・近世	4D-22・23・24	やや蛇行		9or11	0.15～0.3	N-73°-W。常滑甕，カワラケ，近世陶器
SA-002	同	柵列	中・近世	3D-80・71～74	ほぼ直線		12	0.2	N-89°-E (ほぼ東西軸)。常滑片口鉢(13c)・甕(13c)，カワラケ
SH-050	SK-050	柱穴	中・近世	4D-34	不整楕円形	0.8	1.5	0.7	SB-010内
SH-067	SK-067	柱穴	中・近世	4D-04	不整円形	0.42	0.90	0.34	柱抜き取りか。
SH-082	SK-082	柱穴	中・近世	4D-16	楕円形	0.79	1.79	0.62	SB-014
欠番	無	柱穴・ピット	中・近世	全域					建物域以外
SK-001	同	土坑	中・近世	4C-50・51	不整楕円形	1.50	2.80	0.68	
SK-002	SK-060	土坑	中・近世	4C-60	楕円形	0.70	0.95	0.23	SI-015 (住居跡)を切る。常滑甕
欠番	SK-003	撹乱	近・現代	4C-70	円形				SI-013 (住居跡)を切る。
欠番	SK-005	撹乱	近・現代	4C-41	円形	0.96	1.02	0.16	炭化物多い。
欠番	SK-006	撹乱	近・現代	4B-68	不整円形	0.82	0.97	0.2	
欠番	SK-007	撹乱	近・現代	4B-68	円形	1.0	1.05	0.36	
SK-008	同	土坑	中・近世	4C-32	不整長方形	1.21	2.11	0.87	
SK-009	同	土坑	中・近世	4C-32	円形	0.99	1.03	0.58	
SK-010	同	土坑	中・近世	4C-41	円形	0.96	1.04	0.64	
SK-011	同	土坑	中・近世	4C-22	方形	1.23	1.40	0.64	中近世擂鉢
SK-012	同	土坑	中・近世	4C-13	円形	0.97	1.10	0.51	
SK-013	同	土坑	中・近世	4C-02・03・12・13	楕円形？	2.15以上	5.54	0.37	
欠番	SK-014	撹乱	近・現代	5B-09	円形	0.72	0.86	0.31	
欠番	SK-015	撹乱	近・現代	5B-09	楕円形	0.87	1.15	0.17	
欠番	SK-017	撹乱	近・現代	5B-29	円形	0.98	1.17	0.37	
欠番	SK-021								近世陶器
SK-022	同	土坑	中・近世	4C-73・74	不整長方形	0.79	2.93	0.30	北宋銭
欠番	SK-025	撹乱	近・現代	5C-31	楕円形	0.76	1.45	0.30	
欠番	SK-026	撹乱	近・現代	4C-66	長楕円形？	0.60	2.92	0.22	
欠番	SK-029	撹乱	近・現代						
SK-030	同	土坑	中・近世	4C-25		0.89	1.51	0.67	SI-020 (住居跡)を切る。
欠番	SK-034	撹乱	近・現代						
欠番	SK-036	撹乱	近・現代						
欠番	SK-037	撹乱	近・現代						
SK-040	同	土坑	中・近世	4D-34	不整楕円形	1.03	1.89	0.46	常滑片口鉢(14c後)・甕(14c後)，砥石
SK-041	同	土坑	中・近世	4D-33	隅丸方形	1.26	1.50	0.40	SD-010肩部
欠番	SK-042	撹乱	近・現代	4C-67	長方形	0.69	1.57	0.52	SI-016 (住居跡)を切る。芋穴か。
欠番	SK-043	撹乱	近・現代	4C-67	長方形	0.64	1.11	0.40	SI-016 (住居跡)を切る。芋穴か。
欠番	SK-044	撹乱	近・現代	4D-60	長方形	0.62	1.77	0.75	短軸断面袋状。芋穴か。
SK-045	同	土坑	中・近世	4D-41	不整円形	1.24	1.56	0.34	SX-001内
SK-046	同	土坑	中・近世	4D-41	隅丸方形	0.83	1.19	0.12	SX-001内
SK-047	同	土坑	中・近世	4D-51	不整方形	0.43	1.76	0.20	SX-001内。SD-008肩部。
SK-048	同	土坑	中・近世	4D-42	隅丸長方形	0.72	1.42	0.40	SX-001内か。
SK-049	同	土坑	中・近世	4D-41	不整形	0.67	1.27	0.97	SD-008内
SK-051	同	土坑	中・近世	4D-20	隅丸長方形	1.32	2.07	0.22	
SK-052	同	土坑	中・近世以降	4C-49	円形	1.10	1.20	0.36	SI-031・035 (住居跡)を切る。覆土新しく近・現代撹乱の可能性。
SK-053	同	土坑	中・近世以降	4C-58	楕円形	1.12	1.39	0.73	SI-035・036 (住居跡)を切る。覆土新しく近・現代撹乱の可能性。
SK-054	同	土坑	中・近世以降	4C-69	円形	0.96	0.99	0.50	近・現代の撹乱の可能性。
欠番	SK-055	撹乱	近・現代	4C-49	楕円形	0.87	1.53	0.82	断面袋状。覆土新しい。
SK-056	同	方形竪穴か	中・近世	4D-24	長方形	1.39	3.77	0.29	
SK-057	同	粘土貼土坑	中・近世	4D-04・05・14・15	長方形	1.60	2.29	0.49	唐銭
SK-058	同	土坑	中・近世	4D-13・14	楕円形	0.7	1.2	0.6	常滑甕，近世磁器・土器
SK-059	同	土坑	中・近世	3C-99	楕円形	1.11	1.28	0.47	
欠番	SK-060		中・近世						SX-002内

遺構No.	調査時No.	種類	時期	位置(グリッド)	平面形	規模(m)			特記事項・遺物等
						短軸(幅)	長軸(長さ)	深さ	
欠番	SK-061	撹乱	近・現代						
SK-062	同	土坑	中・近世	3D-76	不整円形	0.77	2.66	0.3	S1-042（住居跡）を切る。常滑転用砥石
SK-063	同	土坑	中・近世	3E-60	隅丸方形	0.8	1.4	0.6	SD-013内。鉄釘
SK-064	同	土坑	中・近世	4D-14	楕円形	0.56	1.06	0.13	
SK-065	同	土坑	中・近世	4D-14	隅丸方形	1.02	1.24	0.45	常滑甕
SK-066	同	土坑	中・近世	4D-13・14	隅丸長方形	0.77	1.11	0.28	常滑甕
欠番	SK-068	撹乱	近・現代	5B-08	楕円形	1.01	1.23	0.28	
欠番	SK-069	撹乱	近・現代	5B-08	楕円形	0.84	1.22	0.40	
SK-070	同	粘土貼土坑	中・近世	3D-96・4D-06	隅丸方形	1.55	1.8	0.65	板碑片
SK-071	同	粘土貼土坑	中・近世	4D-16・17・26・27	方形	1.91	2.00	0.60	
SK-072	同	土坑	中・近世	4D-26	不整楕円形	0.8	1.2	0.4	
欠番	SK-073	撹乱	近・現代			0.47	0.93		
欠番	SK-074	撹乱	近・現代						
SK-075	同	方形竪穴か	中・近世	4D-04	長方形	1.38	2.15	0.65	
SK-076	同	方形竪穴	中・近世	3D-96・4D-06	隅丸方形	2.1	3.2	0.27	SK-070と重複
SK-077	同	土坑	中・近世	4D-12	楕円形	1.61	2.00	0.24	SB-012・013の柱穴が重複。
SK-081	同	土坑	中・近世	3D-80	長楕円形	0.96	1.88	0.74	
欠番	SK-083	土坑	中・近世	4D-23・24	不整円形	0.78	0.87	0.32	SA-001の一部
SK-084	同	土坑	中・近世	4D-33	不整楕円形	0.68	1.04	0.47	SX001内
SK-086	無	土坑	中・近世	3D-75・85	長方形	0.9	1.32	0.2	以下，新番号
SK-087	無	土坑	中・近世	3D-85	楕円形	1.35	1.7	0.1	
SK-088	無	土坑または溝	中・近世	3D-95・96	長方形	1.3	2.1	0.1	
SK-089	無	土坑または窪み	中・近世	3D-84・94	楕円形	1.6	3.0	0.15	上層に馬頭骨
SK-090	無	擂鉢状土坑	中・近世	3D-93・94・4D-03・04	楕円形	2.5	4.8	0.25	底部にピット群
SK-091	無	土坑	中・近世	4D-13	長方形	0.65	1.7	0.5	
SK-092	無	土坑	中・近世	4D-23	隅丸方形	0.6	0.9	0.13	
SK-093	無	土坑または柱穴	中・近世	4D-42	楕円形	(0.7)	(1.2)	0.55	

第23表　八幡神社北(1)遺跡 中・近世 陶磁器類観察表

貿易陶磁器

挿図番号等	器種	部位	時代	型式・時期	胎土・整形・焼成・色調・釉等	出土地点	遺物番号
1, カラー, 白黒	青磁蓮弁文碗	口縁	中世	Ⅲ類(B0類)。13世紀後半～14世紀前半	龍泉窯系。胎土:緻密。釉:緑灰色, 厚い, 大きな貫入あり。	4D-32	1
2, カラー, 白黒	青磁稜花皿	口縁	中世	15世紀中～後半	龍泉窯系。内面に沈線による文様。胎土:緻密。釉:オリーブ色, 厚い, 大きな貫入あり。	SI-011 (14C-80・90)	1
	褐釉壺か	肩	中世	不明	胎土:灰色, 緻密。	4D-40	1

国産陶器

瀬戸・美濃

挿図番号等	器種	部位	時代	型式・時期	胎土・整形・焼成・色調・釉等	出土地点	遺物番号
3, カラー, 白黒	緑釉小皿	口縁	中世	古瀬戸後期Ⅲ期(15世紀前葉)	胎土:細かな砂粒含む。色調:灰釉部 オリーブ色, 外面 橙色, 内面 浅黄橙色	5C-12	2
4, カラー, 白黒	志野丸皿	口縁	近世	連房式登窯第3小期(17世紀中葉)	志野。口径(10.0)。胎土:1㎜前後の灰白色砂を多量に含む。整形:胴部下半ヘラ削り。色調:内外面 灰色, 断面 赤みがかった灰白色。	4C-67	1
5, 白黒	輪禿皿	口縁	近世	連房式登窯第5小期(17世紀末)	胎土:白色・灰色微砂粒含む。整形:胴部下部回転ヘラ削り。色調:内外面・断面も灰白色。釉:灰釉(透明)。微細な鉄分の吹き出しあり。	4C-69	1
6, カラー, 白黒	志野丸皿	底	近世	連房式登窯第3小期(17世紀中葉)	底径(6.8)。胎土:砂粒殆どなし。細かな気泡あり。整形:底部回転ヘラ削り。釉を若干剥ぎ。色調:内外面 灰色, 断面 黒色～灰白色。	6トレンチ	1
7, カラー, 白黒	輪禿皿	底	近世	連房式登窯第2小期(17世紀前葉)	底径(6.9)。胎土:灰色微砂粒多く含む。整形:削りだし高台。色調:釉薬は灰釉(やや濁った透明)。断面 若干赤みがかった灰白色。	SD-004	1
8, カラー, 白黒	擂鉢	口縁	中世	古瀬戸後期Ⅳ期新(15世紀後半)	胎土:白色砂粒と1～2㎜の白色砂礫を多く含む。色調:内外面 錆釉 明褐色, 断面 浅黄橙色。	SX-002	54
9, カラー, 白黒	擂鉢	口縁	近世	連房式登窯第5小期(17世紀後葉)	胎土:白色砂粒含む。色調:内外面 鉄釉 暗赤褐色, 断面 灰白色。	4C-67	1
11, カラー	瓶子	肩(1/6)	中世	古瀬戸中期Ⅰ期～Ⅱ期(13世紀末～14世紀前葉)	胎土:砂礫含まず緻密。鉄分の吹き出しが若干見られる。外面に沈線2条。色調:外面釉 オリーブ色, 内面 にぶい黄橙色, 断面 にぶい黄橙色	SD-008	17
12, カラー, 白黒	油徳利	肩	近世	18世紀	胎土:砂粒殆ど含まない。砂の様。色調:外面 鉄釉 にぶい赤褐色, 内面 淡黄色, 断面 灰白色	SX-002	55
	皿	口縁	中・近世	17～18世紀	灰釉(白濁)	SD-005	1
	皿	体部	近世	18世紀	灰釉(白濁)	SX-002	54
カラー	皿	底	近世	登窯5～7小期(17c末～18c前半)	灰釉(透明)	4C-60	1
	皿	底	近世	登窯3～4小期(17c後半)	志野釉	4D-07	1
	皿	口縁	近世	17～18世紀	灰釉(透明)	4C-69	1
	灯明皿	底部	近世	18c後～19c前	錆釉	SD-005	1
カラー	灯明皿	口縁	近世	18c後～19c前	錆釉	SI-016	3
	灯明皿	口縁	近世	18c後～19c前	錆釉	SI-016	4
	灯明皿	口縁	近世	18c後～19c前	錆釉	SI-014	2
	碗か	胴	中・近世		錆釉	SI-025	11
	碗	底	近世	18世紀	灰釉(透明)	SI-035	1
	小碗	底	近世	18世紀	灰釉(透明)	4C-28	1
	碗	口縁	近世	18世紀	灰釉(透明)	4C-29	1
	掛分碗	口縁	近世	18世紀	灰釉(透明釉)・鉄釉	4C-31	1
	碗	胴	中・近世		鉄釉	4C-33	1
	碗	胴	近世	18世紀	灰釉(透明)	4D-08	4
	碗	口縁	近世	登窯6～7(18c前)	灰釉か	4D-20	1
	碗	胴	近世	18世紀	緑釉	4D-60	1
カラー	碗	口縁	近世	18世紀	灰釉か	5B-07	1
	筒型碗	口縁	近世	18世紀	灰釉(透明)	5B-09	1
	碗	底	中・近世		鉄釉	3トレンチ	1
カラー	天目茶碗	口縁	近世	18世紀	鉄釉	4トレンチ	1
	碗	胴	近世	18世紀	灰釉(透明)	5トレンチ	1
	片口	口縁	近世	18世紀	灰釉(透明)	SI-025	1
	擂鉢	胴	中・近世		薄い鉄釉	SK-011	1
	擂鉢	口縁	中世	後Ⅳ期新(15c後半)か	錆釉	SI-043	4
	徳利	胴	近世	18世紀	鉄釉	SI-026	1
	徳利	口縁	近世	18世紀	うのふ釉	SI-032	1
	徳利	胴	近世	18世紀	灰釉(透明)	4C-57	1

挿図番号等	器種	部位	時代	型式・時期	胎土・整形・焼成・色調・釉等	出土地点	遺物番号
	徳利	底	近世	19世紀	灰釉	4C-74	1
	徳利	底	近世	20世紀	灰釉	3ﾄﾚﾝﾁ	1
	徳利か	口縁付近	近世	18世紀	うのふ釉	4ﾄﾚﾝﾁ	1
	瓶類	胴	近世	18世紀	鉄釉	SI-016	4
	瓶類	胴	近世	18世紀	灰釉(透明)	4C-69	1
ｶﾗｰ	壺か	胴	中・近世		鉄釉	SI-009	1
	壺か	胴	中・近世		鉄釉	SI-028	45
	壺か	胴	中・近世		鉄釉	3C-99	1
	壺	胴	近世	18世紀	鉄釉	4C-06	1
						4C-93	1
	壺か	胴	近世	18世紀	鉄釉	4C-71	1
	不明	胴	近世	18世紀	灰釉？	SA-001	2
	不明	胴	近世	18世紀	灰釉(透明)	SI-016	2
	不明	胴	近世	18世紀	灰釉(透明)	SI-020	2
	不明	胴	近世	18世紀	灰釉(透明)	SD-013 (3D-69)	1
	不明	不明	中・近世		灰釉	4C-75	1

常滑

挿図番号等	器種	部位	時代	型式・時期	胎土・整形・焼成・色調・釉等	出土地点	遺物番号
22, ｶﾗｰ, 白黒	片口鉢Ⅰ類	口縁	中世	５～６a型式(13世紀中葉)	胎土：白色・灰白色砂粒，径2～3㎜の砂礫多量に含む。整形:横ナデ。口唇端部沈線状に窪む。焼成:還元，須恵器質。色調：内・外・断面とも灰色。	4C-45	1
23, ｶﾗｰ	片口鉢Ⅰ類	底(1/6)	中世	５型式(13世紀前葉)	高台径(12.0)。胎土：白色・灰白色砂礫多量含む。鉄分の浸み出し(黒色斑)多く見られる。整形：回転ヘラ削り。付け高台。焼成：還元，須恵器質。色調：内・外・断面とも灰色。内面上部ゴマ振り状自然釉，底部摩滅。	SA-002	7
24, ｶﾗｰ, 白黒	片口鉢Ⅰ類	底	中世	不明	胎土：白色微砂粒多く含む。緻密で重量感あり。整形：外面横ナデ。底部なめらか。焼成：還元，須恵器質。色調：外面 灰白色～灰褐色。内面 灰白色，オリーブ黄色の自然釉付着，断面 灰白色。内面下部から底部摩滅部分的に顕著。	SX-002	24
ｶﾗｰ・白黒	片口鉢Ⅰ類	胴	中世	不明	還元焼成	SX-002	13
	片口鉢Ⅰ類	胴	中世	不明	ロクロ成形。焼成不良。淡黄色。	4D-40	9
25, ｶﾗｰ, 白黒	片口鉢Ⅱ類	口縁	中世	６ａ型式か(13世紀後葉)	口径(27.8)。胎土：灰白色・白色微砂粒多量含む。整形：内外面横ナデ。色調：内外面 にぶい赤褐色，断面中心部黒色。(酸化焼成だが，整形としてはⅠ類の可能性もあり。)	SX-002	54
26, ｶﾗｰ, 白黒	片口鉢Ⅱ類	口縁	中世	５～６型式(13世紀中葉)	胎土:灰色微砂粒多く含む。鉄分含む。整形:内外面横ナデ。外面胴部縦ヘラ削り。色調：外面 灰褐色～にぶい橙色，内面 にぶい橙色，断面 橙色から黒色(中心部)。(酸化焼成)	SX-002	54
27, ｶﾗｰ, 白黒	片口鉢Ⅱ類	口縁	中世	８型式(14世紀後半)	胎土：白色・灰白色微砂粒多量含む。鉄分の吹き出しあり。焼成：酸化。整形：内面・外面上部横ナデ，外面胴部ナデ。色調:内外面 にぶい橙色，断面 にぶい橙色，中心部灰褐色。	SK-040	5
28, ｶﾗｰ, 白黒	片口鉢Ⅱ類	口縁(片口部)	中世	８型式(14世紀後半)	胎土・整形・焼成・色調等は27と同様だが，口縁帯幅が広い。	SK-040	1
29, ｶﾗｰ	片口鉢Ⅱ類	口縁	中世	６ｂ型式(13世紀末)または８型式(14世紀後半)	口縁端部やや窪む。胎土：白色微砂粒多量含む。焼成：酸化。整形：内外面横ナデ。色調：内外面 にぶい黄褐色，断面 橙色～褐灰色。	4C-84	1
30, ｶﾗｰ, 白黒	片口鉢Ⅱ類	底	中世	不明	転用砥石。胎土:白色・灰白色砂粒多く含む。微小気泡多い。焼成：還元，須恵器質。色調：外面 にぶい褐色，内面 褐灰色，断面 灰色，鉄分の細かな吹き出しあり。底面折れ曲がり。内面 片口鉢として使用時の摩滅。側面 砥石使用時の摩滅。	SD-008	7
31, ｶﾗｰ, 白黒	片口鉢Ⅱ類	底	中世	不明	胎土：白色・灰白色砂粒多量含む。整形：外面 斜位のヘラナデ。焼成：酸化。色調：外面 にぶい赤褐色，内面 にぶい橙色，断面 中心部黒色。内面摩滅顕著。	SI-042	2
32, ｶﾗｰ, 白黒	片口鉢Ⅱ類	底	中世	不明	転用砥石。胎土：白色・灰白色砂粒，砂礫(最大1㎝)を多量含む。色調:外面 灰褐色，内面・断面 褐灰色。(還元焼成，須恵器質)。底面折れ曲がり。内面 片口鉢として使用時の摩滅。側面 砥石使用時の摩滅。	SX-002	8
33, 白黒	片口鉢Ⅱ類	底	中世	不明	転用砥石。胎土:白色砂粒と鉄分粒を多量に含む。焼成:酸化，不良。内面摩滅。整形:外面胴部下部ヘラ調整。底部無調整。色調：内・外面・断面 橙色。	SX-002	22
	片口鉢Ⅱ類	口縁	中世	９型式(15世紀前半)	褐色系	SD-004	1
	片口鉢Ⅱ類	胴	中世	不明	薄い褐色。焼成不良。	SD-004	1
ｶﾗｰ, 白黒	片口鉢Ⅱ類	胴	中世	不明	褐色系	SD-008	12,12
	片口鉢Ⅱ類	胴	中世	不明	褐色系	SD-020	3
	片口鉢Ⅱ類	底	中世	不明	甕の可能性あり。薄い褐色	4C-74	1
	片口鉢Ⅱ類	胴	中世	不明	褐色系	4D-07	1
	片口鉢Ⅱ類	胴	中世	不明	褐色系	4D-07	2
	片口鉢Ⅱ類	胴	中世	不明	褐色系	4D-51	1

挿図番号等	器種	部位	時代	型式・時期	胎土・整形・焼成・色調・釉等	出土地点	遺物番号
	片口鉢Ⅱ類	胴	中世	不明	褐色系	6ﾄﾚﾝﾁ	1
34, ｶﾗｰ, 白黒	甕	口縁	中世	5型式(13世紀前葉)	口径(16.5)。胎土:白色・灰白色砂粒と5㎜程の砂礫多く含む。焼成:高火度, 硬質。色調:自然釉が掛かる部分 深い緑色, 内面下半 褐色, 断面 灰白色。	SD-008	4
35, ｶﾗｰ, 白黒	甕	口縁	中世	6a型式(13世紀中葉)	口径(36.0)。胎土:砂粒目立たない。径5㎜程の礫含む。気泡多い。鉄分の吹き出し多い。焼成:酸化, 硬質。色調:外面オリーブ灰色, 内面 灰オリーブ色, 断面 灰白色。 自然釉:内面薄く, 外面厚い。	SD-020	2
36, ｶﾗｰ, 白黒	甕	口縁	中世	7型式(14世紀前半)	口径(34.0)。胎土:白色砂粒多量含む。焼成:高火度酸化, 長石・石英溶解, 硬質。色調:黄灰色～黒色, 内面 黒色, 断面 灰色。	SX-002	47
37, ｶﾗｰ, 白黒	甕	口縁	中世	7型式(14世紀前半)	胎土:白色砂粒多量含む。微小気泡あり。焼成:高火度, 長石・石英分溶解, 硬質。色調:内外面 黒色, 断面 オリーブ灰色。釉:光沢ある薄い自然釉。	SX-002	21
38, ｶﾗｰ, 白黒	甕	口縁(1/15)	中世	6a型式(13世紀中葉)	口径(40.0)。胎土:砂粒目立たない。整形:内面粘土紐接合痕あり。焼成:高火度で長石・石英溶解, 硬質。色調:外面自然釉 暗オリーブ色, 内面 黒色, 断面 灰色。	SA-002	6
39, ｶﾗｰ, 白黒	甕	口縁	中世	8型式(14世紀後半)	口径(36.0)。胎土:白色・灰白色砂粒含む。2～3㎜の砂礫多く含む。整形:内面粘土紐接合痕あり。焼成:高火度, 硬質。色調:外面 黒褐色, 釉付着部 ゴマ振り状浅黄橙色, 断面 灰白色。	SK-040	4
40, ｶﾗｰ, 白黒	甕	口頚	中世	不明	胎土:白色砂粒多く含む。5～1㎝の白色砂礫多く含む。整形:内面 指頭圧痕, 横ナデ。焼成:やや不良。色調:外面 浅黄色・にぶい赤褐色, 内面 橙色, 断面 浅橙色。外面自然釉剥離。	4D-22	3, 4
41, ｶﾗｰ	甕	口頚	中世	不明	胎土:白色・透明砂粒多く含む。鉄分の微少な吹き出しあり。整形:内面 ナデ。色調:外面 自然釉 オリーブ灰色・黒褐色, 内面 オリーブ灰色・褐色, 断面 灰白色。内面にも釉だれ。	4ﾄﾚﾝﾁ	1
						SK-065	4
42, ｶﾗｰ, 白黒	甕	肩	中世	不明	胎土:微砂粒目立たない。微小気泡非常に多い。鉄分吹き出しあり。整形:内面 ナデ。焼成:高火度, 硬質。長石・石英溶解。色調:外面 自然釉 灰オリーブ色, 内面 暗灰黄色, 断面 灰白色。	SD-016	6
43, ｶﾗｰ, 白黒	甕	肩	中世	不明	胎土:白色・灰白色微砂粒多く含む。2～3㎜の砂礫含む。長石・石英の吹き出しあり。整形:手の圧痕。色調:外面 自然釉剥落 灰白色から灰オリーブ色, 内面 暗灰黄色, 断面 灰色。	4ﾄﾚﾝﾁ	2
						SK-065	1
44, ｶﾗｰ, 白黒	甕	肩	中世	不明	胎土:長石・石英溶解。鉄分浸みだし。微小気泡多い。鉄分吹き出しあり。整形:内面 指頭圧痕。焼成:高火度, 硬質。色調:外面 自然釉 暗緑灰色(黒と灰色の斑状), 内面 暗緑灰色, 断面 オリーブ灰色。	表採	
45, ｶﾗｰ, 白黒	甕	肩	中世	不明	胎土:灰白色砂・2～5㎜の砂礫含む。微小気泡あり。整形:外面 叩き目。焼成:高火度, 硬質。色調:外面 にぶい赤褐色, 内面 灰色, 断面 灰白色。	SX-002	36, 37
46, ｶﾗｰ, 白黒	甕	底	中世	不明	胎土:灰白微砂粒若干含む。灰色に変色した3㎜～1㎝の砂礫多く含む。整形:外面ヘラナデ。色調:外面 灰褐色, 内面 降灰自然釉でにぶい黄橙色, 断面 灰白色。	SD-013	11
47, ｶﾗｰ, 白黒	甕	底	中世	不明	底径(17.8)。胎土:白色・灰白色微砂粒多量含む。鉄分少々含む。2㎜～5㎜の灰白色砂礫含む。鉄分・長石・石英の吹き出しあり。整形:底部無調整。焼成:良好, 硬質。色調:外面 灰赤色, 内面 降灰自然釉で灰オリーブ色, 断面 灰白色。	4D-43	1
						SX-002	41, 53, 53
白黒	甕	肩	中世	不明	重ね焼き用の砂が自然釉でブロック状に付着。二次焼成あり。	SD-008	13
48, ｶﾗｰ, 白黒	甕	底(1/4)	中世	不明	底径(18.5)。胎土:灰白微砂粒若干含む。灰色に変色した2㎜～5㎜の砂礫多量含む。整形:内外面 ヘラナデ。底部 無調整。色調:外面 にぶい赤褐色, 内面 降灰自然釉でにぶい黄橙色, 断面 灰白色。46に近似。	SX-002	9, 14, 53, 53
						SK-002	39
						SD-016	2
49, ｶﾗｰ, 白黒	甕	胴	中世	不明	最大径(55.2)。胎土:白色砂粒若干含む。鉄分吹き出し後の気泡多い。整形:内面 ナデ。焼成:高火度。色調:外面 明褐色基調, 黒褐色の鉄分の大きなシミ状吹き出し, 自然釉だれ オリーブ黒～灰オリーブ色, 内面 明灰黄色基調, 黒褐色の鉄分の大きな吹き出し無数。断面 淡黄色。	SD-010	2
						SD-008	9
50	甕	胴～底	中世	不明	底径15.5。胎土:灰白色微砂粒多量に含む。2～5㎜の灰白色砂礫多く含む。整形:内面 指頭押す圧後横方向ヘラナデ。底部無調整。色調:外面 褐色, 内面 黒色, 断面 灰色。内面下部器壁崩落顕著(被熱か)。破片は広範囲に分布。	SK-040	1, 2, 3
						SK-058	2, 3, 4, 5
						SK-065	3, 2
						SD-013	4
						SD-016	3
						SD-008	18, 19, 20, 21
						SX-002	2, 9
						SA-002	8
						4D-26	1
						4D-23	2
						4D-33	1
						4ﾄﾚﾝﾁ	1, 1, 2, 2, 2

挿図番号等	器種	部位	時代	型式・時期	胎土・整形・焼成・色調・釉等	出土地点	遺物番号
53	甕	胴	中世	不明	褐色系　転用砥石	SX-002	18
54	甕	胴	中世	不明	褐色系　転用砥石	SX-002	38
55	甕	胴	中世	不明	褐色系　転用砥石	SX-002	23, 28
56	甕	胴	中世	不明	褐色系　転用砥石	SD-008	10
57	壺	胴	中世	不明	褐色系　転用砥石	SD-008	21
58	甕	胴	中世	不明	褐色系　転用砥石	SD-008	21
59	甕	底	中世	不明	褐色系　転用砥石	SK-062	1
	甕	肩	中世	不明	褐色系	SA-001	1
	甕	胴	中世	不明	褐色系	SD-003	21
	甕	胴	中世	不明	褐色系	SD-008	1, 1
	甕	胴	中世	不明	褐色系	SD-008	6
	甕	胴	中世	不明	褐色系	SD-008	15
	甕	肩	中世	不明	緑色系(自然釉付着による)	SD-008	5
ｶﾗｰ	甕	胴	中世	不明	褐色系	SD-008	11
						4D-33	2, 2
	甕	頸	中世	不明	褐色系	SD-013	10
ｶﾗｰ	甕	肩	中世	不明	緑色系(自然釉付着による)　叩き目	SD-013	6
	甕	胴	中世	不明	褐色系	SD-013 (3D-85)	1
	甕	胴	中世	不明	褐色系	SD013 (3D86)	1
	甕	胴	中世	不明	褐色系	SD-016	1
	甕	肩	中世	不明	褐色系	SD-016	5
	甕	胴	中世	不明	緑色系(自然釉付着による)	SD-016	7
	甕	肩	中世	不明	緑色系(自然釉付着による)	SD-017	3
	甕	胴	中世	不明	褐色系	S1-041	2
	甕	胴	中世	不明	褐色系	SK-040	1
	甕	胴	中世	不明	緑色系(自然釉付着による)	SK-066	1
	甕	胴	中世	不明	緑色系(自然釉付着による)	SK-066	1, 1
	甕	胴	中世	不明	褐色系	SX-002	35
	甕	胴	中世	不明	褐色系	SX-002	32
	甕	胴	中世	不明	褐色系	SX-002	53
	甕	胴	中世	不明	褐色系	SX-002	29
ｶﾗｰ	甕	胴	中世	不明	褐色系　叩き目	SX-002	12
	甕	胴	中世	不明	褐色系	SX-002	51
	甕	胴	中世	不明	褐色系	SX-002	34
	甕	肩	中世	不明	褐色系	SX-002	52
	甕	胴	中世	不明	褐色系	SX-002	55
	甕	胴	中世	不明	褐色系	SX-002	36
	甕	胴	中世	不明	褐色系	SX-002	53, 53, 53, 53
	甕	胴	中世	不明	褐色系	SX-002	53
	甕	胴	中世	不明	緑色系(自然釉付着による)	SX-002	55
ｶﾗｰ	甕	肩	中世	不明	緑色系(自然釉付着による)	SX-002	7
	甕	底	中世	不明	灰色系	4B-42	2
	甕	胴	中世	不明	褐色系	4D-06	1
	甕	胴	中世	不明	褐色系	4D-07	1
	甕	胴	中世	不明	褐色系	4D-14	1
						4D-23	2
	甕	胴	中世	不明	褐色系	4D-17	1
	甕	口頸	中世	不明	褐色系	4D-17	1
	甕	胴	中世	不明	褐色系	4D-23	2
	甕	胴	中世	不明	緑色系(自然釉付着による)	4D-25	1
	甕	胴	中世	不明	灰色系	4D-31	2
	甕	胴	中世	不明	褐色系	4D-32	1
	甕	肩	中世	不明	緑色系(自然釉付着による)	4D-32	1, 1
	甕	胴	中世	不明	灰色系	4D-33	1
	甕	肩	中世	不明	灰色系	4D-33	3
	甕	肩	中世	不明	褐色系	4D-33	4
	甕	胴	中世	不明	褐色系	4D-33	1
	甕	胴	中世	不明	緑色系(自然釉付着による)	4D-33	1
	甕	胴	中世	不明	灰色系	4D-43	1
	甕	胴	中世	不明	灰色系	4D-43	4
	甕	胴	中世	不明	褐色系	4D-43	1
	甕	肩	中世	不明	緑色系(自然釉付着による)	4D-43	3

挿図番号等	器種	部位	時代	型式・時期	胎土・整形・焼成・色調・釉等	出土地点	遺物番号
	甕	口頸	中世	不明	灰色系	5B-07	1
	甕	胴	中世	不明	灰色系	4ﾄﾚﾝﾁ	2
	甕	肩	中世	不明	灰色系	4ﾄﾚﾝﾁ	2
	甕	肩	中世	不明	緑色系(自然釉付着による)	4ﾄﾚﾝﾁ	1
	甕	肩	中世	不明	緑色系(自然釉付着による)	4ﾄﾚﾝﾁ	2
	甕	肩	中世	不明	緑色系(自然釉付着による)	4ﾄﾚﾝﾁ	1
	甕	胴	中世	不明	褐色系	5ﾄﾚﾝﾁ	1

志戸呂系

挿図番号等	器種	部位	時代	型式・時期	胎土・整形・焼成・色調・釉等	出土地点	遺物番号
	壺か	胴	近世	17～18世紀	胎土：灰色。鉄釉(黒褐色)。	SK-021	1
	瓶類	胴	近世	17～18世紀	胎土：にぶい黄橙色～灰色，石英粒多い。鉄釉(黒褐色)。	SD-014	2
	壺か	胴	近世	17～18世紀	胎土：灰色。鉄釉(極暗赤褐色)。	SD-005	1
	壺か	胴	近世	17～18世紀	胎土：灰色。鉄釉(灰赤色)。	2ﾄﾚﾝﾁ	1
	不明	胴	中・近世		胎土：須恵器質。無釉。	SI-016	3

唐津

挿図番号等	器種	部位	時代	型式・時期	胎土・整形・焼成・色調・釉等	出土地点	遺物番号
	鉢	小片	近世	17～18世紀	胎土：褐色。内面 灰白色釉の文様。透明釉。	SD-013	1
	鉢	胴	近世	17～18世紀	胎土：褐色。内面 灰白色釉の文様。透明釉。	SI-044	1
ｶﾗｰ	碗	口縁	近世	17～18世紀	胎土：褐色。内外面 灰白色縞文様。透明釉。	4C-31	1

信楽

挿図番号等	器種	部位	時代	型式・時期	胎土・整形・焼成・色調・釉等	出土地点	遺物番号
	体部	灯明皿	近世	19世紀	胎土：緻密。外面 露体。内面 灰釉。	3ﾄﾚﾝﾁ	1

堺

挿図番号等	器種	部位	時代	型式・時期	胎土・整形・焼成・色調・釉等	出土地点	遺物番号
ｶﾗｰ	擂鉢	胴	近世	18世紀	焼き締め。にぶい赤褐色。	SI-021	11
	擂鉢	胴	近世	18世紀	焼き締め。にぶい赤褐色。	SI-036	1

産地不明陶器

挿図番号等	器種	部位	時代	型式・時期	胎土・整形・焼成・色調・釉等	出土地点	遺物番号
ｶﾗｰ	行平	耳部	近世	18世紀	内外面 灰釉(透明)	SX-002	54
	行平	蓋	近世	18世紀	鉄釉	4C-29	1
ｶﾗｰ	瓶類	胴	近世	18～19世紀	緑釉か	SK-033	1
	瓶類	胴	近世	18～19世紀	緑釉か	SX-002	54
	壺か	胴～底	近世	18世紀	無釉	4D-20	1
	壺	胴	近世		鉄釉，灰釉垂れ	SX-002	53
	不明	不明	近世		内面 灰釉	SX-002	53
	不明	不明	近世		灰釉(透明)	4C-74	

国産磁器

肥前 磁器

挿図番号等	器種	部位	時代	型式・時期	胎土・整形・焼成・色調・釉等	出土地点	遺物番号
	皿	胴	近世	18世紀	白磁	SD-013 (3D78)	1
ｶﾗｰ	皿	底	近世	18世紀	白磁 見込み釉剥ぎ	4C-60	1
	碗か	口縁	近世	18世紀	白磁	SD-003	1
	厚手碗(くらわんか手)	口縁	近世	18世紀	染付(草花文か)	SD-005	1
	丸碗か	口縁	近世	18世紀	染付(草文か)	SD-010	6
ｶﾗｰ	厚手碗か	胴	近世	18世紀	染付(二重網目文)	SD-013	1
ｶﾗｰ	厚手碗	口縁	近世	18世紀	染付(梅樹文)	SD-013	1
	碗	胴	近世	18世紀	染付(草花文)	SD-013 (3D78)	1
	碗か	胴	近世	18世紀	染付(内面 草文か)	SK-058	1
	碗か	口縁	近世	18世紀	透明釉(文様なし)	SP-056	2

挿図番号等	器種	部位	時代	型式・時期	胎土・整形・焼成・色調・釉等	出土地点	遺物番号
	厚手碗	底	近世	18世紀	染付(草文)	SX-002	54
	碗	口縁	近世	18世紀	透明釉(文様なし)	SI-003	1
	碗	胴	近世	17世紀か	染付(草花文)	SI-016	4
	碗	胴	近世	18世紀	染付(草文)	SI-016	2
	碗	胴	近世	18世紀	白磁か	SI-025	11
	碗	口縁	近世	18世紀	染付(草文)	SI-032	1
	厚手碗	底	近世	18世紀	染付(圏線)	3C-89	1
	碗	口縁	近世	18世紀	透明釉(文様なし)	4B-88	1
	丸碗か	口縁	近世	18世紀	染付(草花文)	4C-33	1
ｶﾗｰ	胴張碗か	底	近世	18世紀後半	染付(絵柄，内面二重圏線)	4C-57	1
ｶﾗｰ	碗	底	近世	18世紀	染付(胴部下～高台圏線)	4C-57	1
	碗	胴	近世	18世紀	染付(梅樹文)	4C-60	1
ｶﾗｰ	厚手碗	底	近世	18世紀	染付(胴部下～高台圏線，底裏銘)	4C-66	1
	碗	底	近世	18世紀	染付(胴部下～高台鉄絵圏線)	1ﾄﾚﾝﾁ	1
	碗	胴	近世	18世紀	染付(唐草文)	2ﾄﾚﾝﾁ	1
	丸碗か	胴	近世	18世紀	染付(菊花)	3ﾄﾚﾝﾁ	1
	瓶類	胴	近世	18世紀	白磁か	SI-020	2B
	瓶類	胴	近世	18世紀	染付か	SI-035	1
	瓶類	胴	近世	18世紀	染付または白磁。文様無し	SI-042	
	瓶類	胴	近世	18世紀	染付(草文)	3C-99	1

瀬戸・美濃　磁器

挿図番号等	器種	部位	時代	型式・時期	胎土・整形・焼成・色調・釉等	出土地点	遺物番号
	皿か	口縁	近世	19世紀前葉	染付(口縁端部　コバルト染付)	SI-044	1
ｶﾗｰ	皿	口縁	近世	19世紀前葉	染付(草文，内面口縁 螺旋文様)	4C-60	1
	皿か	口縁	近世	19世紀前葉	染付(草花文か)	4C-69	1
	大皿	底	近世	19世紀前葉	染付(見込み　コバルト染付草花文か)	5ﾄﾚﾝﾁ	1
	碗	口縁	近世	19世紀前葉	染付(草花文か)	SD-009	1
	碗	胴	近世	19世紀前葉	染付(コバルト染付草花文)	SD-010	5
	碗	胴	近世	19世紀前葉	染付	SI-015	1
	碗	口縁	近世	19世紀前葉	染付(口縁部 雷文(コバルト))	SI-016	2
	碗	口縁	近世	19世紀前葉	白磁か	SI-032	1
ｶﾗｰ	端反碗	口縁	近世	19世紀前葉	染付(内外面 牡丹唐草文)	SI-037	6
	湯呑碗	口縁	近世	19世紀前葉	筒形碗。染付(花文)。	3C-89	1
	碗	口縁	近世	19世紀前葉	染付(草花文)	3C-89	1

土器・土製品

カワラケ

挿図番号等	器種	部位	時代	型式・時期	胎土・整形・焼成・色調・釉等	出土地点	遺物番号
13	皿	底(1/4)	中世	13～14世紀か	底径(6.4)。整形：ロクロ成形後回転糸切り，内外面横ナデ。胎土：銀色・灰色の微砂粒多量に含む。鉄分粒含む。微細な気泡あり。焼成：やや不良，全体に摩滅。色調：黄橙色	SA-002	5
14	皿	底(1/2)	中世	13～14世紀か	底径(4.6)。整形：ロクロ成形後回転糸切り，内面横ナデ。胎土：銀色の微砂粒多量に含む。鉄分粒含む。微細な気泡あり。焼成：やや不良。色調：外面 浅黄橙色，内面 灰褐色。	4D-15	1
15	皿	底(1/5)	中世	13～14世紀か	底径(6.4)。整形：ロクロ成形後回転糸切り，内外面横ナデ。胎土：銀色の微砂粒多量に含む。鉄分粒含む。微細な気泡多い。焼成：やや不良。色調：にぶい黄橙色。断面摩滅。	SA-001	1

東海系土鍋

挿図番号等	器種	部位	時代	型式・時期	胎土・整形・焼成・色調・釉等	出土地点	遺物番号
10, ｶﾗｰ	南伊勢系鍋	口縁	中世	15世紀後半	胎土：微細長石・石英粒多量含む。色調：内外面　にぶい黄橙色。部分的に鉄分のためか赤褐色。	5C-23	2

低火度土器

挿図番号等	器種	部位	時代	型式・時期	胎土・整形・焼成・色調・釉等	出土地点	遺物番号
16	焙烙	内耳	近世	18世紀代	胎土：白色・灰白色の微砂粒多く含む。5㎜大の砂礫を若干含む。整形：横ナデ。色調：外面　黒色，内面・断面　橙色～にぶい橙色。耳部先端部欠損。	4C-76	1
17	焙烙	内耳	近世	18世紀代	胎土：白色・灰白色の微砂粒多く含む。鉄分粒(スコリア)若干含む。整形：横ナデ。色調：内外面　橙色。耳部先端部欠損。	4C-25	1

挿図番号等	器種	部位	時代	型式・時期	胎土・整形・焼成・色調・釉等	出土地点	遺物番号
18	焙烙	内耳	近世	18世紀代	胎土：灰色・白色微砂粒多く含む。鉄分粒(スコリア)多く含む。整形：横ナデ。色調：内外面 にぶい黄橙色。耳部先端部欠損。	3C-89	1
19	土人形	犬	近世	18世紀代	成形：型押しし，全面と後面を側面で張り合わせ。	4C-65	1
20	土人形	七福神	近世	18世紀代	成形：背面からの型押し。顔が不鮮明。	5B-28	1
21	土人形	異人	近世	18世紀代	成形：型押しし，全面と後面を張り合わせ。首部は中空で軸が入るか。彫りの深い顔。	5C-23	3
	焙烙	底	近世	18世紀代か	雲母片含む。	4C-69	1
	鍋類	底	近世	18世紀代か	雲母片含まない。	SD-013	13
	火鉢か	口縁	近世	18～19世紀	瓦質	SD-005	1
	火鉢か	胴か	近世	18～19世紀	外面 灰白色塗布。内面 にぶい橙色。	SD-013 (3D-69)	1
	火鉢か	底	近世	18～19世紀	器表 にぶい橙色。	4C-61	1
	火鉢か	底	近世	18～19世紀	瓦質	4C-81	1
	火鉢か	口縁	近世	18～19世紀	器表 にぶい橙色。	6ﾄﾚﾝﾁ	1
	カマド敷輪		近世	18～19世紀	表面 にぶい黄橙色	SD-010	8
	カマド敷輪		近世	18～19世紀	表面 灰色	4C-67	1

瓦

挿図番号等	器種	部位	時代	型式・時期	胎土・整形・焼成・色調・釉等	出土地点	遺物番号
	平瓦	小片	近代か	19世紀	還元炎焼成。色調：表面 灰色，断面 灰色。	SD-013	14
	平瓦	小片	近世	18～19世紀	還元炎焼成。色調：表面 灰色，断面 灰色。	SK-058	1
	平瓦	小片	近世	18～19世紀	還元炎焼成。色調：表面 灰色，断面 灰色。	3C-79	1
	平瓦	小片	近世	18～19世紀	還元炎焼成。色調：表面 灰色，断面 灰色。	3D-90	1
	平瓦	小片	近世	18～19世紀	還元炎焼成。色調：表面 灰色，断面 灰色。	4C-25	1
	平瓦	小片	近世	18～19世紀	還元炎焼成。色調：表面 灰色，断面 灰色。	4C-28	1
	平瓦	小片	近世	18～19世紀	還元炎焼成。色調：表面 暗灰色，断面 灰色。	4C-28	1
	平瓦	小片	近世	18～19世紀	還元炎焼成。色調：表面 灰色，断面 灰色。	4C-31	1
	平瓦	小片	近世	18～19世紀	酸化炎焼成気味。色調：表面 灰色，断面 灰黄色，中心部灰色。焼成やや不良。	4C-65	1
	平瓦	小片	近世	18～19世紀	酸化炎焼成気味。色調:断面 灰黄色,中心部 灰色。表面摩滅。焼成やや不良。転用砥石か。	4C-74	1
	平瓦	小片	近世	18～19世紀	還元炎焼成。色調：表面 灰色，胎土 灰色。転用砥石か。	4D-22	2
	平瓦	小片	近世	18～19世紀	還元炎焼成。色調：表面 灰色，断面 灰色。	SI-020	4
	平瓦	小片	近世	18～19世紀	還元炎焼成。色調：表面 灰色，断面 灰色。	SI-026	1
	平瓦	小片	近世	18～19世紀	還元炎焼成。色調：表面 灰色，断面 灰色。	6ﾄﾚﾝﾁ	1
	平瓦	小片	近世	18～19世紀	酸化炎焼成気味。色調：表面 灰色，断面 灰黄色，中心部灰色。焼成やや不良。	6ﾄﾚﾝﾁ	2

第24表　八幡神社北(1)遺跡 中・近世 陶器等転用砥石観察表

挿図番号	材質	長さ(cm)	幅		厚さ(cm)		重量(g)	特徴等	時代	出土位置	遺物番号
			最小	最大	最小	最大					
30	常滑	10.8	3.2	8.0	1.3	1.8	156.47	片口鉢としても図化，詳細は片口鉢の観察表参照。1側面摩滅。	中・近世	SD-008	7
32	常滑	12.6	5.1	10.3	1.2	1.9	208.36	片口鉢としても図化，詳細は片口鉢の観察表参照。1側面摩滅。	中・近世	SX-002	8
51	渥美	9.1	3.9	6.4	0.9	1	67.97	甕胴部片。胎土：白色微砂粒多く含む。触感砂様。色調：内外面 緑灰色，断面 灰白色。内面に薄く光沢ある自然釉付着。3側面摩滅。	中・近世	4D-22	1
52	常滑	10.4		10.6	1.1	1.3	133.00	甕胴部片。胎土：白色微砂粒含む。微小気泡あり。鉄分の吹き出しあり。焼成：硬質。色調：外面 暗オリーブ色，内面 灰色(長石溶解)，黒色斑，断面 灰色。内面に薄く光沢ある自然釉付着。3側面摩滅。	中・近世	SX-002	49
53	常滑	8.7	4.6	7.6	0.7	1.1	74.98	甕胴部片。52と同一個体の可能性大。1側面摩滅。	中・近世	SX-002	18
54	常滑	9.1	3.4	6.4	0.7	1.2	74.10	甕胴部片。胎土：灰色砂礫・鉄分・砂礫を含む。色調：外面 にぶい赤褐色，内面 にぶい褐色，断面 灰白色。1側面摩滅。	中・近世	SX-002	38
55	常滑	10.2	2.7	4.9	1.0	1.2	79.80	甕胴部片。胎土：白色砂粒・灰色砂礫・鉄分を含む砂礫を含む。色調：外面 にぶい赤褐色，内面 にぶい黄色(自然釉)，断面 灰白色。2側面摩滅。	中・近世	SX-002	23, 28
56	常滑	8.7	2.8	6.1	0.9	1.3	74.25	甕胴部片。胎土：白色微砂粒多量含む。1cmの礫含む。色調：外面 褐灰色，内面・断面 灰オリーブ色。側面砥石使用時の摩滅。	中・近世	SD-008	10
57	常滑	7.8		4.9	0.9	1.1	42.10	甕胴部片。胎土：白色微砂粒・鉄分粒・灰色大粒砂粒多量含む。色調：外面 にぶい赤褐色，内面 黄褐色(自然釉)，断面 灰白色。3側面摩滅。	中・近世	SD-008	21
58	常滑	6.6	4.5	4.8	0.9	1.1	38.88	甕胴部片。胎土：白色微砂粒・灰色大粒砂粒多量含む。色調：外面 にぶい赤褐色，内面 黒色，断面 灰白色。4側面摩滅。	中・近世	SD-008	21
59	常滑	8.6	4.8	6.7	0.9	1.3	85.25	甕胴部片。胎土：灰色大粒砂粒多量含む。色調：外面 にぶい赤褐色，内面 にぶい黄色(自然釉)，断面 灰白色。4側面摩滅。	中・近世	SK-062	1
60	須恵器	13.0		6.9	1.2	1.4	97.74	甕胴部片	中・近世	SX-002	3
61	須恵器	11.5	5.2	6.9	0.9	1.1	13.99	甕胴部片	中・近世	SX-002	42
62	須恵器	7.5	2.8	6.1	0.7	0.8	37.71	甕胴部片	中・近世	SX-002	27
63	須恵器	6.9	3.2	5.9	0.7	1.2	45.59	甕胴部片	中・近世	SX-002	54
64	須恵器	6.2	3.4	5.0	1.1	1.2	40.33	甕胴部片	中・近世	SX-002	45
65	須恵器	5.6		5.0	0.5	0.7	18.92	甕胴部片	中・近世	SX-002	54
66	須恵器	5.5		3.6	0.6	0.8	14.64	甕胴部片	中・近世	SX-002	50
67	須恵器	5.4		3.7	0.4	0.7	14.10	甕胴部片	中・近世	SX-002	54
68	須恵器	5.3	0.8	2.5	0.4	0.7	11.52	甕胴部片	中・近世	SX-002	53
69	須恵器	5.5	2.1	2.9	0.6	0.7	14.12	甕胴部片	中・近世	SX-002	53
70	須恵器	4.2	2.6	2.9	0.7	0.9	15.77	甕胴部片	中・近世	4C-70	1
71	須恵器	7.4		4.9	1.2	1.4	40.38	甕胴部片	中・近世	SD-013	1
72	土師器	5.3	2.6	3.4	0.8	1.0	19.51	甕胴部片か。胎土：白色微砂粒含む。色調：褐灰色。1側面摩滅。	中・近世	SD-013	1

第25表　八幡神社北(1)遺跡 中・近世 石造物・石製品観察表

板碑

挿図番号	石材	長さ(cm)	幅(cm)		厚さ(cm)		重量(g)	特徴等	時代	出土位置	遺物番号
			最小	最大	最小	最大					
73	雲母片岩	〈11.9〉	〈9.0〉	〈10.8〉		〈2.4〉	481.20	破片・部位不明	中世	SK-70	2

砥石

挿図番号	石材	長さ(cm)	幅(cm)		厚さ(cm)		重量(g)	特徴等	時代	出土位置	遺物番号
			最小	最大	最小	最大					
74	凝灰岩	〈5.1〉		4.4		2.8	36.84	欠損	中近世	SK-040	1
	凝灰岩	〈4.7〉		〈3.5〉		〈1.7〉	18.75	74と同一個体。接合せず	中近世	SK-040	1
75	凝灰岩	〈2.9〉		2.2	0.3	1.0	7.12	欠損	中近世	4B-89	1
76	凝灰岩	〈4.2〉		5.3	0.8	1.0	29.70	欠損	中近世	4C-31	1
77	凝灰岩	〈2.5〉		4.0	0.6	1.5	15.70	欠損	中近世	4C-57	1
78	凝灰岩	〈3.9〉	3.9	4.1	0.5	1.5	28.40	被熱か。欠損	中近世	4C-57	1
79	凝灰岩	〈2.7〉		2.5		0.9	6.97	欠損	中近世	4C-81	1
80	凝灰岩	〈2.6〉		4.4	1.1	1.7	29.55	櫛歯状工具痕。欠損	中近世	5B-09	1
81	安山岩	〈4.7〉		4.3		2.9	49.43	欠損	中近世	SX-002	54

火打ち石

挿図番号	石材	長さ(cm)	幅(cm)		厚さ(cm)		重量(g)	特徴等	時代	出土位置	遺物番号
			最小	最大	最小	最大					
82	石英	1.34		2.16		1.04	2.75		中近世	3C-89	1

第26図　八幡神社北(1)遺跡 中・近世 金属製品 計測表

挿図番号	種類	部位	材質	長さ(cm)	幅(cm)		厚さ(mm)		重量(g)	時代	出土位置	遺物番号
					最小	最大	最小	最大				
83	刀子	刃部一部	鉄	〈4.7〉	0.7	1.2		0.4	6.83	中・近世	SP-056	2
84	刀子	刃部一部～中茎一部	鉄	〈5.7〉	1.0	2.5		0.4	13.93	中・近世	SX-002	55
85	板状製品	不明	鉄	〈7.6〉	0.9	1.6	0.3	0.4	20.66	中・近世	SD-010	4
86	板状製品	不明	鉄	〈5.1〉	0.7	1.8	0.3	0.4	16.23	中・近世	SD-005	1
87	棒状製品	不明	鉄	〈7.4〉	0.7	1.0	0.4	0.6	17.92	中・近世	SX-002	53
88	板状製品	不明	鉄	〈4.4〉		1.5		0.4	6.04	中・近世	4C-74	1
89	板状製品	不明	鉄	〈2.9〉	1.2	1.4	0.2	0.4	4.24	中・近世	5C-23	3
90	鉄鍋蓋？	つまみ部分か	鉄	〈3.0〉	1.1	1.7	0.3	0.6	4.88	中・近世	SX-002	54
91	金具	頭部	鉄	〈5.8〉	0.8	1.7		0.7	14.44	中・近世	SD-005	2
92	鉄釘	頭部～胴部一部	鉄	〈3.4〉	0.3	1.2		0.6	3.48	中・近世	4C-74	1
93	鉄釘	胴部一部	鉄	〈6.3〉	0.3	0.6		0.4	4.85	中・近世	4C-86	2
94	鉄釘	胴部一部	鉄	〈6.0〉	0.2	0.5		0.4	3.96	中・近世	SK-063	1
95	鉄滓		鉄他化合物	6.8		4.3		4.5	124.56	中・近世	SD-008	14
96	鉄滓		鉄他化合物	6.5		6.4		2.5	114.80	中・近世	SD-017	4
97	鉄滓		鉄他化合物	3.6		4.3		2.1	35.06	中・近世	SK-028	1
98	鉄滓		鉄他化合物	3.5		3.4		2.3	29.11	中・近世	4D-42	1
99	煙管	雁首	銅合金	4.1		12.7			6.21	近世	SI-034	1
100	煙管	吸口	銅合金	7.2		8.3			7.17	近世	4C-81	1
101	煙管	つぶれた	銅合金	2.6		0.8		3	1.92	近世	4C-76	2
102	不明	袋状	銅合金	2.9		0.8		2.7	16.6	近世	3D-90	1
103	不明	不明	銅合金	〈7.9〉		1.8		6.8	27.43	古代or中近世	4D-07	1

第27図　八幡神社北(1)遺跡 中・近世 銭貨計測表

挿図番号	銭貨名	書体	王朝名	初鋳年	計測値（単位：mm）					重量（g）	出土位置	備　考
					縁外径	縁内径	郭外径	郭内径	縁厚			
104	開元通寶	真書	唐	621	2.49	1.98	0.77	0.63	0.16	2.18	4D-17-7	やや脆い。
105	開元通□	真書	唐	621			0.80	0.64	0.18	〈1.2〉	SK-57-2	1/2 欠損
106	至道元寶	行書	北宋	995	2.51	1.75	0.66	0.56	0.15	3	4D-17-4	
107	皇宋通寶	真書	北宋	1038	2.52	1.92	0.87	0.67	0.15	3.01	4D-08	攪乱坑覆土中
108	皇宋通寶	真書	北宋	1038	2.41	1.96	0.81	0.67	0.15	1.73	4D-17-2	脆い。
109	治平元寶	篆書	北宋	1064	2.43	1.89	0.77	0.64	0.16	2.71	4D-17-9	
110	□平元□	真書	(北宋)	(1064)	2.44	1.91	0.73	0.60	0.15	〈1.4〉	4D-07-3	脆い。1/3 欠損。治平元寶か。
111	元豊通寶	行書	北宋	1078	2.41	1.72	0.76	0.61	0.14	2.21	SK-22-2	模鋳銭
112	聖宋元寶	行書	北宋	1101	2.53	1.84	0.77	0.59	0.16	2.17	4D-07-9	脆い。
	不明				2.47		0.67			〈1.96〉	4C-31-2	鉄銭。錆ひどく 2 分割。寛永通寶か。

〈 〉内は残存重量

第28表　八幡神社北(2)遺跡 単独出土石器一覧表

挿図No.	遺物No.	石器集中	大グリッド	小グリッド	遺物No.	標高(m)	出土層位	器種	石材	母岩	接合	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	打面形状	打面調整	打角(°)	頭部調整	背面構成 C	S	H	T	R	L	D	V	末端	折面部位	備考
134	1	単独	5D	76	3	18.043	Ⅸ	剥片	黒曜石			31.4	39.0	7.9	12.80					○		3	2						H・T	微細剥離痕あり
134	2	単独	5D	52	1	17.894	Ⅵ	剥片	黒曜石			29.0	28.9	5.0	2.89	4(3)	○	110	○	○		5						F	R・T	

第29表　八幡神社北(2)遺跡 石器集中1 出土石器一覧表

挿図No.	遺物No.	石器集中	大グリッド	小グリッド	遺物No.	標高(m)	出土層位	器種	石材	母岩	接合	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	打面形状	打面調整	打角(°)	頭部調整	背面構成 C	S	H	T	R	L	D	V	末端	折面部位	備考
128	1	1	5E	41	9	17.834	Ⅶ	石刃	珪質頁岩	1		29.6	9.6	2.6	0.50	P			○			6	1					H		微細剥離痕あり
128	2	1	5E	41	8	17.829	Ⅶ	石刃	珪質頁岩	単		42.0	21.5	9.5	5.04							3		1				F	H	微細剥離痕あり
128	3	1	5E	41	2	17.885	Ⅵ	石刃	珪質頁岩	1		72.1	12.3	6.1	5.17							4	2					F	H	微細剥離痕あり
128	4	1	5E	41	6	17.873	Ⅵ	剥片	珪質頁岩	1		46.0	31.2	5.1	4.98	C		99					4	3				RT		
128	5	1	5E	41	22	17.836	Ⅶ	剥片	珪質頁岩	1		47.0	22.4	9.2	6.53	1		97	○			2		2		3		F		
128	6	1	5E	41	4	17.914	Ⅵ	剥片	珪質頁岩	1	1	42.8	33.5	8.4	10.78	1		99	○	○		3					1	F		
128	7	1	5E	41	3	17.901	Ⅵ	剥片	珪質頁岩	1	1	45.2	29.4	4.6	7.52	1		95		○		1						F		
129	8	1	5E	41	17	17.714	Ⅶ	剥片	珪質頁岩	1		25.2	31.5	7.8	2.70	1		123					3					F	L	
129	9	1	5E	41	11	17.833	Ⅶ	剥片	珪質頁岩	1		19.2	31.0	2.3	1.73	L			○			4						H	T	微細剥離痕あり？
129	10	1	5E	51	2	17.916	Ⅵ	剥片	珪質頁岩	1		24.9	44.1	4.3	4.55	C		96				2	2	2					T	
129	11	1	5E	41	18	17.794	Ⅶ	剥片	珪質頁岩	1		23.8	13.6	10.6	4.33	5		95				4					1		T	
129	12	1	5E	41	24	17.866	Ⅵ	剥片	珪質頁岩	1		34.5	17.6	3.1	1.49	1		113		○			2		2			F		
129	13	1	5E	41	25	17.875	Ⅵ	剥片	珪質頁岩	1		24.8	14.9	2.8	0.69	1		99				3						H	L	
129	14	1	5E	41	13	17.824	Ⅶ	剥片	珪質頁岩	1		26.0	18.1	5.0	1.39							1				2		H	H	
129	15	1	5E	41	23	17.856	Ⅵ	剥片	珪質頁岩	1		18.6	20.8	6.9	2.58	1		110				1	1	3			1	0	R	
129	16	1	5E	41	28	17.864	Ⅵ	剥片	珪質頁岩	1		15.3	20.1	4.0	1.03							4		2				F	H	
129	17	1	5E	41	14	17.888	Ⅵ	剥片	珪質頁岩	1	2	34.5	15.9	8.0	2.83	1		97	○			3		2				F		
129	18	1	5E	41	5	17.828	Ⅵ	剥片	珪質頁岩	1	2	13.1	26.2	2.3	0.72							3							H・T	
		1	5E	41	7	17.898	Ⅵ	剥片	珪質頁岩	1		9.0	13.0	1.3	0.13							2						H	H	
		1	5E	41	10	17.705	Ⅶ	剥片	珪質頁岩	1		12.7	7.2	2.8	0.22	1		103				2	2						T・L	
		1	5E	41	12	17.850	Ⅶ	剥片	珪質頁岩	1		10.0	31.2	2.4	0.69							2			1				H・T	
		1	5E	41	15	17.885	Ⅵ	剥片	珪質頁岩	1		21.0	17.3	6.2	1.18							4		1				F	H	
		1	5E	41	16	17.769	Ⅶ	剥片	珪質頁岩	1		17.8	17.2	2.2	0.32							1						F	H・R・L	
		1	5E	41	19	17.777	Ⅶ	剥片	珪質頁岩	1		19.9	11.8	4.8	0.93							2				2		S	H	
		1	5E	41	20	17.929	Ⅵ	剥片	珪質頁岩	1		23.9	27.7	10.2	3.43	1		100		○						1	1		T	微細剥離痕あり
		1	5E	41	21	17.905	Ⅵ	剥片	珪質頁岩	1		18.4	12.6	1.2	0.26							3						F	H	番号重複
		1	5E	41	21	17.905	Ⅵ	剥片	珪質頁岩	1		11.3	8.4	2.4	0.15	P						2						F		番号重複
		1	5E	41	21	17.905	Ⅵ	剥片	珪質頁岩	1		13.5	12.8	2.0	0.40							2		1					H・T・L	番号重複
		1	5E	41	26	17.860	Ⅵ	剥片	珪質頁岩	1		20.5	9.8	4.3	0.54					○		2	1					F	H	
		1	5E	41	27	17.847	Ⅵ	剥片	珪質頁岩	1		10.0	21.1	1.8	0.39							2						S	H	
		1	5E	41	29	17.842	Ⅵ	剥片	珪質頁岩	1		22.9	9.2	3.2	0.37								2	1				F	H	

第30表　八幡神社北(2)遺跡 石器集中２ 出土石器一覧表

挿図No.	遺物No.	石器集中	大グリッド	小グリッド	遺物No.	標高〔m〕	出土層位	器種	石材	母岩	接合	最大長〔mm〕	最大幅〔mm〕	最大厚〔mm〕	重量〔g〕	打面形状	打面調整	打角〔°〕	頭部調整	背面構成 C	S	H	T	R	L	D	V	末端	折面部位	備考
132	1	2	6D	20	10	19.312	Ⅴ	削器	安山岩			35.7	24.8	10.1	9.15	1		121		○				1				F	R	
132	2	2	6D	10	13	19.281	Ⅲ	剥片	安山岩			21.1	40.0	9.8	7.08	1		112	○			5		1				H		
132	3	2	6D	20	9	19.274	Ⅴ下	剥片	安山岩			26.7	21.1	5.5	2.51								1	2				F	H	
132	4	2	6D	20	6	19.026	Ⅵ	石核	安山岩			23.9	40.6	15.2	16.60															
		2	6D	10	6	19.122	Ⅳ	礫片	流紋岩	1	1	44.7	35.0	39.0	61.36															
		2	6D	10	20	19.051	Ⅵ	礫片	流紋岩	1	1	55.7	54.4	36.0	110.60															
		2	6D	10	23	19.067	Ⅵ	礫片	流紋岩	1	1	50.6	37.2	24.5	40.68															
		2	6D	20	7	19.122	Ⅵ	礫片	流紋岩	1	1	26.8	24.5	29.4	21.84															
		2	6D	20	8	19.148	Ⅵ上	礫片	流紋岩	1	1	31.3	27.2	13.8	11.84															
		2	6D	20	29	19.250	Ⅴ下	礫片	流紋岩	1	1	22.5	19.7	17.1	8.62															
		2	6C	29	7	19.204	Ⅵ上	礫片	流紋岩	2	2	20.7	12.7	18.9	4.29															
		2	6C	29	15	19.171	Ⅵ上	礫片	流紋岩	2	2	30.9	18.3	31.5	15.89															
		2	6D	10	15	19.090	Ⅴ	礫片	流紋岩	2		28.0	22.2	27.4	21.79															
		2	6D	20	34	19.248	Ⅴ	礫片	流紋岩	2		18.0	13.3	17.1	3.38															
		2	6D	20	11	19.335	Ⅴ	礫片	流紋岩	3	3	34.9	36.5	24.4	25.32															
		2	6D	20	27	19.243	Ⅴ下	礫片	流紋岩	3	3	62.0	57.1	29.2	110.41															
		2	6D	20	14	19.247	Ⅴ下	礫片	チャート	4	4	27.0	26.7	10.6	8.63															
		2	6D	20	15	19.343	Ⅲ下	礫片	チャート	4	4	25.6	19.4	18.7	10.11															
		2	6D	20	17	19.353	Ⅲ下	礫片	チャート	4	4	40.5	28.5	11.2	13.60															
		2	6D	20	18	19.450	Ⅲ	礫片	チャート	4	4	25.9	22.6	11.6	5.45															
		2	6D	20	30	19.239	Ⅴ下	礫片	チャート	4	4	30.0	19.5	12.2	8.14															
		2	6D	20	33	19.139	Ⅵ	礫片	チャート	4	4	46.7	36.9	24.7	43.42															
		2	6D	20	38	19.210	Ⅵ下	礫片	チャート	4	4	38.0	33.6	13.1	16.66															
		2	6D	20	20	19.233	Ⅴ下	礫片	チャート	5	5	46.2	23.1	11.9	16.64															
		2	6D	20	25	19.228	Ⅴ下	礫片	チャート	5	5	46.2	30.3	18.0	41.46															
		2	6D	20	26	19.245	Ⅴ下	礫片	チャート	5	5	50.1	36.0	19.7	55.37															
		2	6D	10	5	19.278	Ⅲ	礫片	砂岩	6	6	32.2	17.9	16.1	11.96															
		2	6D	10	7	19.235	Ⅲ	礫片	砂岩	6	6	27.1	24.5	29.7	18.90															
		2	6D	10	16	19.135	Ⅴ	礫片	砂岩	6	6	62.9	37.9	14.7	49.45															
		2	6D	10	17	19.101	Ⅵ	礫片	砂岩	6	6	24.3	13.7	11.9	3.72															
		2	6D	10	21	19.035	Ⅵ	礫片	砂岩	7	7	26.2	17.9	14.8	6.34															番号重複
		2	6D	10	22	19.035	Ⅵ	礫片	砂岩	7	7	52.9	26.0	31.3	46.58															番号重複
		2	6D	10	10	19.089	Ⅴ	礫片	砂岩	7	8	67.1	51.1	28.8	109.24															
		2	6D	10	11	19.077	Ⅴ	礫片	砂岩	7	8	68.3	49.6	17.5	70.10															
		2	6D	10	20	19.051	Ⅵ	礫片	砂岩	7	9	25.2	14.2	17.4	5.61															番号重複
		2	6D	10	22	19.045	Ⅵ	礫片	砂岩	7	9	64.9	36.2	23.8	44.93															
		2	6D	10	4	19.104	Ⅴ	礫片	安山岩	8	10	60.3	30.3	33.1	60.12															番号重複
		2	6D	20	28	19.111	Ⅵ	礫片	安山岩	8	10	39.3	43.2	36.6	57.33															
		2	6D	10	2	19.027	Ⅵ	礫片	砂岩	9		45.0	36.6	25.0	32.40															
		2	6D	10	18	19.118	Ⅵ	礫片	砂岩	9		45.1	28.8	23.3	16.83															
		2	6D	10	27	19.033	Ⅵ	礫片	砂岩	9		60.3	32.5	27.8	81.30															
		2	6D	10	8	19.076	Ⅴ	礫片	凝灰岩	10	11	110.6	74.3	56.1	600.13															端部に敲打痕あり
		2	6D	20	4	19.126	Ⅴ下	礫片	凝灰岩	10	11	60.6	23.6	23.8	48.67															
		2	6D	10	4	19.104	Ⅴ	礫片	蛇紋岩	11	12	50.9	39.1	29.1	63.02															番号重複
		2	6D	10	9	19.060	Ⅳ	礫片	蛇紋岩	11	12	33.6	33.0	20.8	29.37															
		2	6C	29	3	19.286	Ⅴ下	礫片	蛇紋岩	12	13	65.3	53.7	40.3	189.79															
		2	6C	29	10	19.224	Ⅵ上	礫片	蛇紋岩	12	13	31.9	17.0	13.0	7.99															

		2	6C	29	4	19.375	Ⅲ	礫片	凝灰岩	13	14	20.8	22.3	32.3	16.57																	
		2	6C	29	19	19.242	Ⅴ下	礫片	凝灰岩	13	14	21.2	17.2	21.7	11.32																	
		2	6D	20	21	19.225	Ⅴ下	礫片	凝灰岩	13	14	41.8	41.2	33.1	55.82																	
		2	6D	20	23	19.231	Ⅴ下	礫片	凝灰岩	13	14	28.6	18.2	17.0	8.12																	
		2	6C	29	9	19.235	Ⅵ上	礫片	凝灰岩	14	15	20.6	11.5	23.5	6.12																	
		2	6D	20	12	19.248	Ⅴ下	礫片	凝灰岩	14	15	37.2	30.3	17.0	24.58																	
		2	6D	20	13	19.236	Ⅴ下	礫片	凝灰岩	14	15	32.0	18.5	13.3	10.00																	
		2	6D	20	31	19.198	Ⅴ下	礫片	凝灰岩	14	15	72.7	51.1	15.2	46.36																	
		2	6C	29	20	19.231	Ⅵ	礫片	流紋岩	15	16	30.2	29.6	13.5	11.61																	
		2	6D	30	2	19.214	Ⅵ上	礫片	流紋岩	15	16	43.2	25.6	22.5	21.77																	
		2	6D	10	12	19.092	Ⅴ	礫片	チャート	単		43.8	24.6	35.5	41.90																	
		2	6D	10	19	19.045	Ⅵ	礫片	流紋岩	単		56.2	42.4	41.0	132.77																	
		2	6D	10	24	19.050	Ⅵ	礫片	流紋岩	単		59.7	43.8	40.2	115.90																	
		2	6D	10	25	19.058	Ⅵ	礫	チャート	単		68.6	29.0	21.7	67.57																	
		2	6D	10	26	19.001	Ⅵ	礫片	凝灰岩	単		62.9	34.2	29.2	71.30																	
		2	6C	29	2	19.201	Ⅵ下	礫片	頁岩	単		30.5	26.8	7.5	5.89																	
		2	6C	29	6	19.201	Ⅵ上	礫	凝灰岩	単		90.7	47.6	23.1	167.89																	
		2	6C	29	8	19.225	Ⅵ上	礫片	砂岩	単		44.4	32.4	22.5	29.68																	
		2	6C	29	11	19.270	Ⅴ	礫片	凝灰岩	単		60.4	47.5	26.9	97.45																	
		2	6C	29	12	19.316	Ⅴ	礫	凝灰岩	単		69.6	38.0	30.6	108.14																	
		2	6C	29	13	19.487	Ⅲ	礫	チャート	単		76.7	36.5	28.4	97.41																	
		2	6C	29	16	19.215	Ⅵ上	礫	チャート	単		55.5	41.8	34.4	111.59																	
		2	6C	29	17	19.237	Ⅴ下	礫	流紋岩	単		87.8	37.4	34.4	132.88																	
		2	6C	29	18	19.215	Ⅴ上	礫	チャート	単		48.7	17.9	15.0	15.60																	
		2	6C	29	22	19.200	Ⅵ上	礫	砂岩	単		46.5	52.4	25.8	122.11																	
		2	6D	20	2	19.118	Ⅴ下	礫片	チャート	単		64.7	49.0	35.9	134.15																	
		2	6D	20	3	19.125	Ⅴ下	礫片	砂岩	単		36.7	26.1	20.4	16.44																	
		2	6D	20	5	19.119	Ⅴ下	礫片	砂岩	単		64.7	49.5	28.4	83.65																	
		2	6D	20	19	19.226	Ⅴ下	礫片	流紋岩	単		44.4	17.8	27.5	22.02																	
		2	6D	20	22	19.255	Ⅴ下	礫片	流紋岩	単		74.9	40.3	24.3	83.49																	
		2	6D	20	24	19.240	Ⅴ下	礫片	流紋岩	単		82.3	42.9	35.0	151.38																	
		2	6D	20	32	19.196	Ⅴ下	礫	安山岩	単		64.5	65.0	22.5	105.10																	
		2	6D	20	35	19.201	Ⅵ上	礫	凝灰岩	単		71.3	43.2	36.2	130.96																	
		2	6D	20	36	19.224	Ⅵ上	礫	チャート	単		64.3	35.2	34.6	96.93																	
		2	6D	20	37	19.225	Ⅵ上	礫片	凝灰岩	単		67.8	54.1	23.2	110.20																	
		2	6C	29	14	19.440	Ⅲ	礫片	凝灰岩	単		16.7	11.2	11.5	1.64																	
		2	6C	29	21	19.160	Ⅵ	礫片	凝灰岩	単		11.0	10.6	11.2	1.33																	
		2	6D	10	3	19.290	Ⅲ	剥片	凝灰岩	単		18.7	9.5	3.4	0.64	1		145			1					F	RT					
		2	6D	10	14	19.322	Ⅲ	剥片	安山岩			9.3	12.6	2.5	0.27	P					3											

第31表　八幡神社北(2)遺跡 石器集中1 組成表

	石刃	剥片	合計	%
珪質頁岩	3 10.71	28 62.86	31 73.57	100.0 100.0
合計	3 10.71	28 62.86	31 73.57	100 100
%	9.7 14.6	90.3 85.4	100.0 100.0	

[上段：点数
下段：重量]

第32表　八幡神社北(2)遺跡 石器集中2 組成表

	削器	剥片	石核	礫	礫片	合計	%
安山岩	1 9.15	3 9.86	1 16.6	1 105.1	2 117.45	8 258.16	9.3 5.5
流紋岩				1 132.88	19 974.96	20 1107.84	23.3 23.5
凝灰岩		1 0.64		3 406.99	15 1109.61	19 1517.24	22.1 32.2
砂岩				1 122.11	16 627.13	17 749.24	19.8 15.9
チャート				5 389.1	12 395.53	17 784.63	19.8 16.6
蛇紋岩					4 290.17	4 290.17	4.7 6.2
頁岩					1 5.89	1 5.89	1.2 0.1
合計	1 9.15	4 10.5	1 16.6	11 1156.18	69 3520.74	86 4713.17	100.0 100.0
%	1.2 0.2	4.7 0.2	1.2 0.4	12.8 24.5	80.2 74.7	100.0 100.0	

第33表　八幡神社北(2)遺跡 古墳時代～奈良・平安時代 竪穴住居跡計測表

遺構No.	位置(主グリッド)	平面形	カマドの有無・位置	主軸方向	規模(m)	床面積(㎡)	床面標高(m)	主柱穴	補助柱穴(入り口など)
SI-001	6C-17	方形	北壁中央	N-27°-W	4.18×4.1	17.14	18.91	4	なし
SI-002	6C-09	横-長方形	西壁中央	N-96°-W	3.28×3.62	11.87	19.16	なし	なし
SI-003	5C-89	方形	北東壁中央	N-51°-W	6.28×－	－	18.65	3(4)	壁・入口複数
SI-004	5C-89	方形	－	N-10°-E	－	－	18.81	2(4)	(なし)
SI-005	5D-70	方形	北西壁中央	N-49°-W	5.82×5.74	33.41	18.57	4	入口1
SI-006	5D-33	(方形)	－	N-6°-W	－	－	18.27	1(4)	入口1
SI-007	5D-51	(方形)	－	N-21°-W	－	－	18.31	2(4)	(なし)
SI-008	5D-61	方形	削平(北西壁)	N-44°-W	－×7.0	－	18.51	3(4)	なし
SI-009	5D-53	方形	北西壁中央	N-32°-W	4.22×4.16	17.56	18.43	4	なし
SI-010	5D-73	方形	北西壁中央	N-38°-W	3.38×3.42	11.56	18.48	1	1
SI-011	5D-73	方形	削平	N-30°-W	5.44×5.58	30.36	18.57	4	入口1
SI-012	5D-65	方形	北西壁中央	N-37°-W	4.86×5.14	24.98	18.35	4	入口1
SI-013	5D-36	不整方形	北壁中央	N-9°-W	3.38×3.36	11.36	18.24	4	なし
SI-014	5D-35	横長方形	北壁西寄	N-0°	4.34×4.85	21.05	18.26	3	なし
SI-015	5D-48	縦長方形	削平(西壁中央)	N-104°-W	4.2×3.76	15.79	18.19	4	なし
SI-016	5D-69	(方形)	削平(北西壁中央)	N-30°-W	－	－	18.37	3(4)	(なし)
SI-017	5D-59	方形	北壁やや北寄	N-23°-W	2.89×3.3	9.54	18.24	なし	なし
SI-018	5D-49	(方形)	北東壁やや東寄	N-48°-E	－	－	18.24	(なし)	(なし)
SI-019	5D-16	方形	北壁中央	N-0°	3.88×3.73	14.47	18.10	4	なし
SI-020	5D-27	方形	北壁中央	N-22°-W	4.03×4.32	17.41	17.91	4	入口1 ?
SI-021	5D-28	方形	削平(北壁中央)	N-12°-W	5.3×5.45	28.89	18.13	3	入口1
SI-022	5D-50	方形	削平(北西壁)	N-23°-W	4.58×－	－	18.22	4	入口2
SI-023	5D-38	方形	無	N-33°-E	4.1×4.05	16.61	18.21	4	2
SI-024	5D-08	方形	(北東壁?)	N-28°-E	7.03×－	－	17.95	3(4)	入口1
SI-025	5E-22	方形	西壁中央	N-67°-W	4.38×4.38	19.18	18.14	3	入口1
SI-026	5E-03	横長方形	北東壁やや東寄	N-35°-E	3.68×4.27	15.71	17.81	4	1
SI-027	4E-85	方形	北壁やや東寄	N-2°-E	3.26×3.28	10.69	17.66	なし	なし
SI-028	5D-37	方形	削平	N-37°-E	－	－	18.23	2(4?)	(なし)
SI-029	5D-35	(方形)	無	－	－	－		－	－
SI-030	5E-12	方形	北壁中央	N-10°-W	2.32×2.28	5.29	18.08	なし	なし
SI-031	5E-31	方形	北東壁中央	N-48°-E	8.3×8.15	67.65	18.14	4	(なし)
SI-032	5E-01	横長方形	北西壁中央	N-42°-W	5.96×6.5	38.74	17.83	4	(入口) 1
SI-033	5E-00	(方形)	(北壁)	N-0°	(2.94)×－	－	17.96	－	－
SI-034	4E-73	方形	北東壁中央	N-28°-E	3.94×－	－	17.77	4	なし
SI-035	4E-73	方形	北東壁中央	N-33°-E	4.34×－	－	17.69	3(4)	入口1
SI-036	4E-92	方形	－	N-33°-E	2.74×－	－	17.88	(なし)	(なし)
SI-037	4E-81	方形	－	－	－	－	17.84	－	－
SI-038	5E-01	方形	北壁	N-3°-W	(3.95)×－	－	18.05	(なし)	(なし)
SI-039	6D-09	方形	削平(北壁中央)	N-19°-W	3.69×3.95	14.58	18.67	なし	なし
SI-040	5E-91	方形	北壁中央	N-0°	5.52×5.62	31.02	18.68	4	なし
SI-041	5E-44	方形	削平(北壁)	N-19°-W	6.36×6.28	39.94	18.16	4	1
SI-042	5E-34	方形	北西壁中央	N-22°-W	4.8×4.79	22.99	18.12	4	なし
SI-043	5E-35	横長方形	北西壁中央	N-19°-W	2.85×3.45	9.83	18.15	なし	入口1
SI-044	5E-36	方形	(北壁)	N-7°-W	－	－	18.09	1(4)	－
SI-045	5E-24	方形	東壁やや北寄	N-74°-E	4.5×4.15	18.68	18.14	3	なし
SI-046A	5E-14	方形	(北東壁)	N-32°-E	5.46×5.25	28.67	17.74	4	なし
SI-046B	5E-13	方形	(北東壁)	N-25°-E	5.26×5.08	26.72	17.76	4	なし
SI-046C	5E-13	方形	北東壁中央	N-25°-E	5.76×5.75	33.12	17.76	4	入口1
SI-047	5E-05	方形	削平(北壁)	N-24°-E	(4.6)×4.32	(19.87)	17.96	3(4)	1
SI-048	4E-96	方形	北壁中央	N-4°-E	4.06×4.24	17.21	17.84	4	入口1
SI-049	4E-96	方形	北東壁中央	N-46°-E	5.75×6.04	34.73	17.72	4	入口1
SI-050	5E-05	方形	南西壁中央	N-142°-W	(3.5)×3.13	(10.95)	17.94	なし	なし
SI-051	4E-87	方形	削平(北東壁)	N-40°-E	5.08×5.16	26.21	17.82	4	1
SI-052	4E-78	方形	北西壁中央	N-57°-W	3.84×4.11	15.78	17.63	4	(なし)
SI-054	4E-66	方形	－	N-48°-W	3.52×－	－	17.50	(なし)	(なし)
SI-055	4E-79	方形	－	N-11°-E	－	－	17.66	1(4)	(なし)

第34表　八幡神社北(2)遺跡 奈良・平安時代 掘立柱建物跡計測表

遺構No.	位置(グリッド)	規模	主軸	桁行長(m)	梁行長(m)	柱間寸法(m)	柱穴径(m)
SB-001	5E-04	－	－	－	－	－	0.3～0.6
SB-002	4E-76	－	－	－	－	－	0.3～0.84
SB-005	5D-25	1×1	N-29°-W	2.1	2.0	2.0	0.4～0.45

第35表　八幡神社北(2)遺跡 古墳時代～奈良・平安時代 土器観察表

竪穴住居跡

遺構No.	No.	種別	器種	遺存度	法量(cm)			胎土	焼成
					口径	器高	底径		
SI-001	1	土師器	坏	口縁部～体部の1/3	(11.6)	－	－	スコリア多量	やや不良
SI-002	1	土師器	坏	全体の4/5	13.6～14.1	4.9	8.4	スコリア多量	やや不良
SI-002	2	土師器	坏	全体の1/2	(12.2)	4.55	－	白色微砂粒	良好
SI-002	3	土師器	坏	全体の1/4	(13.4)	3.6	(7.6)	白色微砂粒・スコリア	やや不良
SI-002	4	須恵器	甕	体部～底部のみ	－	－	－	白色砂粒(1～4㎜φ)多量	良好
SI-002	5	土師器	甕	口縁部破片	(18.7)	－	－	白色・黒色微砂粒・スコリア	良好
SI-002	6	土師器	小型甕	全体の2/5	11.5	15.7	(4.8)	スコリア微量	やや不良
SI-003	1	土師器	坏	ほぼ完形	12.8	4.6	8.6	白色砂粒・スコリア多量	やや不良
SI-003	2	土師器	坏	ほぼ完形	12.6	4.1	8.3	灰白色砂,スコリア	やや不良
SI-003	3	土師器	坏	全体の3/4	(12.0)	3.95	7.4	白色微砂粒・スコリア	良好
SI-003	4	ミニチュア土器		全体の1/4	(9.6)	(3.3)	(7.2)	白色微砂粒・スコリア	やや不良
SI-003	5	土師器	高台付坏	全体の2/3	11.8	5.6	8.5	灰白色微砂粒，金雲母細粒，スコリア	良好
SI-003	6	土師器	高台付坏	高台部の1/3	－	－	(9.2)	白色微砂粒多量，スコリア微量	良好
SI-003	7	土師器	坏	全体の1/4	(14.0)	3.6	－	黒色砂粒，スコリア多量	良好
SI-003	8	須恵器	坏蓋	全体の1/2	(10.0)	3.8	－	白色微砂粒，灰色砂粒	やや不良
SI-003	9	土師器	高坏	脚部破片	－	－	－	白色微砂粒，スコリア	不良
SI-003	10	土師器	高坏	脚部破片	－	－	－	白色微砂粒，スコリア	やや不良
SI-003	11	土師器	甕	口縁部～胴部上半	20.0	－	－	白色微砂粒多量，スコリア少量	良好
SI-003	12	土師器	甕	底部の1/3	－	－	(8.8)	白色微砂粒多量，スコリア	良好
SI-003	13	土師器	甕	口縁部～胴部上半の1/5	20.4	－	－	灰白色砂粒多量，スコリア微量	良好
SI-003	14	土師器	甕	口縁部～肩部の1/2	(17.6)	－	－	白色微砂粒・スコリア多量	良好
SI-003	15	土師器	甕	口縁部破片	18.0	－	－	灰白色砂粒・金雲母細粒・スコリア多量	良好
SI-003	16	土師器	甕	底部の2/3	－	－	6.0	白色砂粒・金雲母細粒多量	良好
SI-003	17	土師器	甕	底部の1/2	－	－	(7.2)	白色微砂粒多量	良好
SI-003	18	土師器	坏	口縁部破片	－	－	－	白色微砂粒	良好
SI-005	1	土師器	坏	全体の5/6	11.0	3.7	－	白色微砂粒・スコリア	良好
SI-005	2	土師器	坏	全体の3/4	10.7	4.0	－	スコリア	良好
SI-005	3	土師器	坏	全体の1/2	(11.0)	3.4	7.5	スコリア多量	やや不良
SI-005	4	土師器	坏	全体の1/4	(11.2)	3.2	－	スコリア微量	良好
SI-005	5	土師器	坏	全体の1/4	(12.2)	3.4	(8.4)	白色微砂粒・スコリア粒	良好
SI-005	6	土師器	坏	全体の5/6	12.2	3.9	－	精緻	やや不良
SI-005	7	土師器	坏	口縁部～体部の1/5	(10.8)	4.0	(6.6)	スコリア多量	やや不良
SI-005	8	土師器	坏	全体の1/4	(12.8)	3.1	(8.0)	白色微砂粒・スコリア	良好
SI-005	9	土師器	坏	全体の3/5	14.2	3.1	10.3	スコリア多量	やや不良
SI-005	10	ミニチュア土器		全体の1/2	(4.8)	3.0	(3.2)	白色微砂粒	良好
SI-005	12	土師器	高坏	全体の4/5	20.3	13.05	11.9	白色微砂粒，スコリア	良好
SI-005	13	土師器	台付甕	台部の1/2	－	5.1	7.7	精緻	やや不良
SI-005	14	土師器	甕	全体の3/4	20.0	22.9	6.0	白色砂粒多量	良好
SI-005	15	土師器	甕	口縁部の1/3	(14.5)	－	－	白色砂粒多量，スコリア	良好
SI-005	16	土師器	小型甕	全体の3/5	(13.9)	16.5	8.8	灰白色砂粒，雲母細粒，スコリア	やや不良
SI-005	17	土師器	甕	全体の2/3	16.0	27.35	5.7	白色砂粒多量	良好
SI-005	18	土師器	甕	口縁部～胴部上半の1/6	(18.6)	－	－	白色微砂粒多量	良好
SI-006	1	須恵器	坏蓋	全体の1/3	(16.8)	－	－	精緻	やや不良
SI-006	2	須恵器	高台付坏	全体の1/3	(15.2)	4.2	－	精緻	やや不良

色調		技法			備考
内面	外面	内面	外面	底外面	
浅黄橙色	浅黄橙色	ナデ	ヨコナデ，ケズリ後ナデ	―	
赤橙色	赤橙色	ナデ後ミガキ(暗文状)	ケズリ	ケズリ	
にぶい黄橙色～黒色(黒色・漆)	にぶい黄橙色～黒色	ミガキ	ケズリ	ケズリ	
にぶい橙色	にぶい橙色～褐灰色	ミガキ	ミガキ，ケズリ	ケズリ	
オリーブ灰色(自然釉)	オリーブ灰色	ナデ	回転ケズリ，ロクロナデ	回転ケズリ	
橙色	橙色～黒色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ	―	
明褐灰色	にぶい橙色～黒褐色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ	―	
にぶい橙色～黒褐色	にぶい橙色～黒褐色	ヨコナデ	ヨコナデ，回転ケズリ	回転糸切り後 周囲回転ケズリ	
橙色～黒色	橙色～黒色	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り後ケズリ	
にぶい橙色～黒色	にぶい橙色～灰褐色	丁寧なナデ	丁寧なナデ，ケズリ	ケズリ，木葉痕	
黒色	橙色	ヘラナデ	指痕	―	
橙色	橙色～にぶい赤褐色	ロクロナデ	回転ケズリ	回転糸切り	
明赤褐色	明赤褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	―	
橙色	橙色	粗いミガキ	回転ケズリ，ケズリ後ミガキ	ケズリ後粗いミガキ	
灰白色	灰白色	ロクロナデ	ロクロナデ	―	
にぶい橙色	にぶい橙色	不明	ナデ？	―	
黒色	灰黄褐色	ヘラナデ	ケズリ	―	
にぶい赤褐色～赤黒色	橙色(黒色斑有)	ヨコナデ，ヘラナデ	ヨコナデ，ケズリ	―	
橙色～黒褐色	にぶい橙色～灰褐色	ユビナデ	ナデ後部分的にケズリ	ケズリ	
にぶい橙色～褐灰色	にぶい橙色～黒色	ヨコナデ，ヘラナデ	ヨコナデ，ケズリ	―	
にぶい褐色	にぶい褐色	ヨコナデ，ヘラナデ	ヨコナデ，ケズリ	―	
にぶい褐色	にぶい褐色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ	―	
褐灰色	にぶい赤褐色	ナデ	ケズリ	ケズリ	
灰褐色	明赤褐色～灰褐色	ヘラナデ	ケズリ	ケズリ	
にぶい褐色	にぶい褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	―	墨書
灰褐色(黒色・漆)	にぶい橙色(黒色・漆)	ミガキ	ミガキ，ケズリ	―	
黒色(黒色・漆)	黒色(黒色・漆)	ミガキ	ミガキ	―	
黒褐色(黒色・漆)	浅黄橙色	細かなミガキ	ケズリ	ケズリ	
にぶい黄橙色，黒色(黒色・漆)	にぶい黄橙色，口縁端：黒色	ミガキ	ケズリ後ミガキ	―	
にぶい橙色～黒色(黒色・漆)	にぶい橙色～黒色(黒色・漆)	細かなミガキ	ケズリ後粗いミガキ	―	
にぶい褐色	にぶい褐色	丁寧なミガキ	ケズリ後ナデ	―	
橙色(赤彩)	橙色(赤彩)	ミガキ	ケズリ	―	
にぶい赤褐色～黒褐色	にぶい赤褐色～黒褐色	ミガキ	ヨコナデ，ミガキ	ミガキ	
にぶい黄橙色，黒色(黒色・炭)	にぶい橙色～灰褐色	ミガキ	ケズリ	ケズリ	
橙色	橙色	ユビナデ	ユビナデ	無調整	
にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ミガキ，ケズリ，ヨコナデ	ミガキ，ケズリ，ヨコナデ	―	
にぶい橙色	にぶい橙色	ナデ，ケズリ	ケズリ	―	
橙色～明赤褐色	明赤褐色～赤黒色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ	ケズリ	
黒褐色	黒褐色	ヨコナデ，ヘラナデ	ヨコナデ，ケズリ	―	
にぶい黄橙色	にぶい黄橙色～褐灰色	ヨコナデ，ヘラナデ	ヨコナデ，ケズリ	ケズリ	
橙色～にぶい褐色	橙色～褐灰色	ヨコナデ，ヘラナデ	ヨコナデ，ケズリ	不明	
灰褐色	にぶい橙色～赤灰色	ヨコナデ，ヘラナデ	ヨコナデ，ケズリ後ミガキ	―	
灰白色	灰白色	ロクロナデ	ケズリ，ロクロナデ	―	No.3とセット
灰白色	灰白色	ロクロナデ	ロクロナデ，ケズリ	―	No.2とセット

遺構No.	No.	種別	器種	遺存度	法量(cm)			胎土	焼成
					口径	器高	底径		
SI-006	3	土師器	甕	口縁部破片	(24.8)	—	—	灰白色砂粒・銀雲母細粒多量	良好
SI-007	1	土師器	坏	全体の1/7	(12.9)	—	—	白色微砂粒多量	良好
SI-009	1	土師器	坏	口縁部破片	—	—	—	白色微砂粒多量	やや不良
SI-009	2	土師器	高坏	脚と杯の接合部	—	—	—	白色微砂粒，スコリア	やや不良
SI-009	3	土師器	高坏	脚と杯の接合部	—	—	—	白色砂粒，スコリア塊	不良
SI-009	4	土師器	甕	口縁部の1/6	(20.0)	—	—	白色砂礫・銀雲母粒多量	良好
SI-009	5	土師器	甕	全体の1/2	20.1	29.9	—	白色・褐色砂礫多量	良好
SI-010	1	土師器	坏	体部の1/6	(14.2)	—	—	白色砂粒多量，スコリア	良好
SI-010	2	土師器	高坏	杯部の1/4	(20.0)	—	—	白色微砂粒・海綿骨針	やや不良
SI-010	3	土師器	甑	口縁部破片	(22.6)	—	—	白色・灰白色砂粒多量，スコリア	良好
SI-010	4	土師器	甕	口縁部～体部の1/4	(17.9)	—	—	白色微砂粒多量	良好
SI-010	5	土師器	甕	底部の1/3	—	—	(7.8)	白色微砂粒多量，スコリア	やや不良
SI-010	6	土師器	甕	全体の4/5	18.1	29.4	7.3	白色微砂粒多量	良好
SI-011	1	土師器	坏	ほぼ完形	12.6	4.4	—	白色砂粒多量	良好
SI-011	2	土師器	坏	ほぼ完形	12.7	4.4	—	白色微砂粒・砂礫多量	良好
SI-011	3	土師器	坏	全体の1/2	(13.3)	(4.5)	—	白色砂粒	良好
SI-011	4	土師器	坏	全体の1/2	(13.4)	(3.6)	—	白色微砂粒，スコリア	やや不良
SI-011	5	土師器	甕	底部の1/4	—	—	(7.8)	白色・灰白色砂礫多量	良好
SI-012	1	須恵器	坏	口縁部破片	(9.0)	—	—	精緻	良好
SI-012	2	土師器	坏	口縁部～体部の1/4	(11.6)	—	—	白色微砂粒，金雲母細粒，スコリア	やや不良
SI-012	3	土師器	高坏	杯部の1/6	(14.4)	—	—	スコリア多量	不良
SI-012	4	須恵器	甕	肩部破片	—	—	—	灰白色砂粒	良好
SI-013	1	土師器	甕	口縁部の1/4	(16.0)	—	—	白色微砂粒多量	良好
SI-013	2	土師器	甕	底部破片	—	—	(13.0)	白色微砂粒多量，スコリア粒少量	良好
SI-014	1	須恵器	坏	口縁部の1/5	(14.6)	—	—	白色微砂粒少量	良好
SI-014	2	土師器	坏	口縁部の1/8	(12.2)	—	—	白色微砂粒，スコリア	やや不良
SI-014	3	土師器	坏	口縁部破片	(13.8)	—	—	白色微砂粒，スコリア	良好
SI-014	4	土師器	坏	口縁部の1/5	(14.6)	—	—	灰白色砂粒多量	良好
SI-014	5	土師器	小型甕	底部の1/2	—	—	(6.2)	白色微砂粒多量	良好
SI-014	6	土師器	甕	口縁部の1/4	(23.9)	—	—	白色微砂粒多量，金雲母粒，スコリア	良好
SI-014	7	土師器	坏	口縁部～体部破片	—	—	—	灰白色・黒色砂粒	良好
SI-016	1	土師器	坏	口縁部の1/3	(13.8)	—	—	白色微砂粒，スコリア	良好
SI-016	2	土師器	甑	口縁部～胴部1/6	(26.4)	—	—	白色微砂粒多量	良好
SI-017	1	土師器	坏	ほぼ完形	15.7	5.6	11.2	白色微砂粒・スコリア多量	良好
SI-017	2	土師器	坏	全体の1/2	(15.2)	5.6	10.2	白色微砂粒多量，スコリア微量	良好
SI-017	3	土師器	盤	口縁部～体部の1/8	(18.0)	—	—	白色微砂粒多量	良好
SI-017	4	土師器	坏	口縁部の1/8	(16.0)	—	—	白色微砂粒多量	良好
SI-018	1	土師器	坏	全体の1/8	(13.8)	—	—	灰白色微砂粒，白色微砂粒	やや不良
SI-018	2	土師器	坏	全体の1/5	(13.0)	3.4	—	白色微砂粒・スコリア粒多量	やや不良
SI-018	3	土師器	椀	ほぼ完形	13.6	8.9	9.5	スコリア粒多量	やや不良
SI-019	1	土師器	坏	全体の1/4	(12.6)	3.9	(6.6)	灰白色砂粒多量	良好
SI-019	2	土師器	坏	全体の1/3	(13.0)	4.4	(6.2)	白色微砂粒多量，スコリア	良好
SI-019	3	土師器	坏	全体の1/6	(14.6)	3.8	(8.2)	白色微砂粒，スコリア粒	良好
SI-019	4	土師器	皿	全体の1/2	(13.8)	1.6	6.4	白色・灰白色砂粒多量，スコリア塊	やや不良
SI-019	5	土師器	甕	口縁部～頸部の1/6	(19.6)	—	—	白色微砂粒多量，スコリア粒，雲母	良好
SI-019	6	須恵器	甕	口縁部～胴部の1/6	(29.4)	—	—	白色・灰白色砂粒多量，スコリア塊	良好
SI-020	1	土師器	坏	ほぼ完形	13.7	3.6	8.7	灰色砂粒・スコリア粒多量	やや不良

色調		技法			備考
内面	外面	内面	外面	底外面	
にぶい褐色	にぶい褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	—	
橙色	橙色～赤灰色	ヨコナデ，ミガキ	ヨコナデ，ケズリ後ミガキ	—	
橙色	橙色	ミガキ(暗文状)	ヨコナデ，ケズリ	—	
黒色	赤灰色	ヘラナデ	ケズリ	—	
灰褐色	褐灰色	ミガキ	ケズリ	—	
褐灰色	褐灰色	ヨコナデ，ヘラナデ	ヨコナデ，ナデ	—	
浅黄橙色～黒色	にぶい黄橙色～黒色	ヨコナデ，ヘラナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
黒褐色	黒褐色	ミガキ	ヨコナデ，ケズリ後ミガキ	—	
黒褐色	黒褐色	ミガキ	ヨコナデ，ケズリ後ミガキ	—	
明赤褐色	明赤褐色	ヨコナデ，ミガキ	ヨコナデ，ケズリ後一部ミガキ	—	
にぶい赤褐色～黒色	赤褐色～黒色	ヨコナデ，ヘラナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
黒色	黒褐色	ヘラナデ	ケズリ	ケズリ	
橙色～黒色	灰褐色～黒色	ヨコナデ，ヘラナデ	ヨコナデ，ケズリ	ケズリ	
黒褐色(黒色・漆)	明赤褐色～黒褐色(黒色・漆)	ヨコナデ，粗いミガキ	ヨコナデ，ケズリ	—	
黒色(黒色・漆)	にぶい赤褐色～黒色(黒色・漆)	ヨコナデ，粗いミガキ	ヨコナデ，ケズリ	—	
黒色(黒色・漆)	明赤褐色～黒色(黒色・漆)	ミガキ	ヨコナデ，ケズリ	—	
明赤褐色(黒色・漆)	赤黒色(黒色・漆)	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
にぶい橙色	にぶい赤褐色～黒色	ナデ	ケズリ	ケズリ	
灰色	灰色	ロクロナデ	ロクロナデ	—	
にぶい橙色	にぶい橙色	ヨコナデ	ヨコナデ	—	
黒色～にぶい黄橙色	褐灰色	ミガキ	ヨコナデ，ケズリ後ミガキ	—	
灰色	灰白色	ヨコナデ，タタキ目，ナデ	ヨコナデ，タタキ目	—	
橙色	橙色～赤黒色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
にぶい黄橙色～灰黄褐色	にぶい黄橙色～灰黄褐色	ナデ	ナデ	ナデ	
灰色	灰色	ロクロナデ	ロクロナデ	—	
にぶい橙色	にぶい橙色	ミガキ	ヨコナデ，ケズリ	—	
黒褐色(黒色・漆)	黒褐色(黒色・漆)	ヨコナデ，ミガキ	ヨコナデ，ケズリ	—	
にぶい橙色～黒褐色	にぶい黄橙色～黒褐色	ヨコナデ，ミガキ	ヨコナデ，ケズリ	—	
黒色	褐灰色	ナデ	ケズリ	ケズリ	
橙色	橙色	ヨコナデ，ヘラナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ロクロナデ	ロクロナデ	—	
黒褐色(黒色・漆)	黒褐色(黒色・漆)	丁寧なミガキ	ミガキ	—	
にぶい橙色	にぶい橙色	ミガキ	ナデ，ケズリ，部分的ミガキ	—	
にぶい橙色	にぶい橙色	丁寧なミガキ	ヨコナデ，ケズリ	ケズリ	
赤褐色～黒色(赤彩)	赤色～暗赤褐色(赤彩)	ミガキ	ヨコナデ，ケズリ	ケズリ	
褐灰色～灰褐色(黒色・漆)	黒色(黒色・漆)	ナデ，ミガキ	ヨコナデ，ケズリ後部分ミガキ	—	
灰褐色(黒色・漆)	灰褐色(黒色・漆)	ヨコナデ，ミガキ	ケズリ後ナデ・ミガキ	—	
浅黄橙色	浅黄橙色	ヨコナデ，ミガキ	ヨコナデ，ケズリ	—	
にぶい橙色	にぶい橙色	ミガキ	ヨコナデ，ケズリ後粗いミガキ	ケズリ後粗いミガキ	
灰褐色	灰褐色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ	ケズリ	
にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ロクロナデ	ロクロナデ，ケズリ	ケズリ	
灰褐色	灰褐色	ロクロナデ	ヨコナデ，ケズリ	ケズリ	
にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	ロクロナデ	ロクロナデ，ケズリ	ケズリ	
にぶい橙色	にぶい橙色～褐灰色	ロクロナデ	ロクロナデ，回転ケズリ	回転ケズリ	
にぶい赤橙色～赤黒色	灰赤色～赤黒色	ヨコナデ，ヘラナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
にぶい橙色	にぶい橙色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，タタキ目	—	褐色系須恵器
橙色	橙色	ミガキ	ヨコナデ，ケズリ	ケズリ	

遺構No.	No.	種別	器種	遺存度	法量(cm)			胎土	焼成
					口径	器高	底径		
SI-020	2	土師器	坏	全体の1/2	(12.8)	3.9	8.5	白色微砂粒・スコリア粒多量	良好
SI-020	3	土師器	坏	全体の1/2	13.2	4.3	9.5	白色砂粒・スコリア粒多量	不良
SI-020	4	土師器	坏	全体の1/3	(12.4)	4.1	(8.7)	白色微砂粒多量	やや不良
SI-020	5	土師器	坏	全体の1/4	(16.0)	6.7	(8.4)	白色微砂粒多量	良好
SI-020	6	土師器	甕	口縁部～胴部の1/6	(13.8)	−	−	白色微砂粒多量	やや不良
SI-020	7	土師器	甕	底部～胴部下半の1/3	−	−	(10.6)	白色砂粒多量，スコリア塊	良好
SI-020	8	土師器	甕	底部～胴部下半の1/5	−	−	(8.8)	白色微砂粒多量，スコリア塊	やや不良
SI-021	1	土師器	坏	口縁部～体部破片	(13.9)	−	−	白色灰色砂粒多量，スコリア粒	良好
SI-022	1	土師器	坏	口縁部～体部破片	(13.4)	−	−	白色微砂粒多量，スコリア粒	良好
SI-022	2	土師器	坏	全体の1/4	(15.0)	−	−	白色微砂粒多量	やや不良
SI-023	1	土師器	坏	全体の1/4	(13.5)	4.4	7.0	白色砂粒・スコリア粒多量	良好
SI-023	2	土師器	坏	全体の1/6	(13.2)	4.4	(6.6)	白色砂粒・スコリア粒多量，金雲母細粒	良好
SI-023	3	土師器	甕	底部破片	−	−	(5.4)	スコリア粒・白色砂礫粒多量	良好
SI-023	4	土師器	高坏	全体の3/4	(16.8)	(11.2)	11.8	白色微砂粒，スコリア粒	やや不良
SI-024	1	土師器	坏	口縁部～体部の1/8	(16.4)	−	−	白色微砂粒多量	良好
SI-025	1	須恵器	坏蓋	口縁部～体部の1/5	(13.6)	−	−	白色微砂粒少量	良好
SI-025	2	土師器	坏	口縁部～体部の1/6	(11.6)	−	−	白色微砂粒，スコリア粒	良好
SI-025	3	土師器	高坏	杯部の1/5	(16.0)	−	−	スコリア粒多量	良好
SI-025	4	土師器	高坏	全体の1/4	(14.0)	12.2	(9.8)	白色微砂粒，スコリア粒	やや不良
SI-025	5	土師器	甕	口縁部～胴部の2/3	(17.6)	−	−	白色砂粒・スコリア塊多量	やや不良
SI-026	1	土師器	坏	全体の1/4	(14.0)	5.1	−	スコリア	やや不良
SI-026	2	土師器	坏	全体の1/5	(15.2)	3.8	(9.5)	白色砂粒多量	不良
SI-026	3	土師器	高坏	杯と脚の接合部	−	−	−	白色微砂粒	やや不良
SI-026	4	土師器	甕	口縁部の1/4	(18.7)	−	−	白色砂粒多量	良好
SI-027	1	土師器	坏	全体の2/3	12.6	4.3	−	白色微砂粒，スコリア粒	やや不良
SI-027	2	土師器	坏	全体の1/4	(12.2)	−	−	白色微砂粒，スコリア粒	やや不良
SI-027	3	土師器	坏(椀？)	全体の1/3	(12.6)	4.3	(4.4)	白色微砂粒，スコリア	良好
SI-027	4	土師器	甕	口縁部の1/8	(26.9)	−	−	白色微砂粒	良好
SI-027	5	土師器	甕	底部～胴部下半の1/4	−	−	(8.8)	白色砂礫(2～5mmφ)・雲母粒多量	やや不良
SI-030	1	土師器	坏	全体の9/10	12.5	4.6	7.35	白色砂粒	良好
SI-030	2	土師器	坏	全体の1/4	(12.8)	3.9	(7.6)	白色・灰色微砂粒・スコリア粒多量	良好
SI-030	3	土師器	甕	口縁部～肩部の1/4	(14.6)	−	−	白色砂粒・スコリア粒	良好
SI-030	4	土師器	甕	口縁部～肩部の1/4	(12.8)	−	−	白色砂・スコリア粒少量	良好
SI-030	5	土師器	甕	口縁部～肩部の1/7	(15.0)	−	−	白色微砂粒	良好
SI-030	6	土師器	甕	口縁部～胴部の2/3	15.9～16.4	−	−	白色微砂粒	良好
SI-030	7	土師器	甕	底部の1/6	−	−	(7.3)	白色・黒色微砂粒	良好
SI-030	8	須恵器	甕	口縁部破片	(24.0)	−	−	白色砂粒，スコリア粒	良好
SI-031	1	土師器	坏	全体の1/8	(12.3)	−	−	白色微砂粒多量，スコリア	良好
SI-031	2	土師器	坏	口縁部～体部の1/4	(13.8)	−	−	白色微砂粒多量	良好
SI-031	3	土師器	坏	全体の1/5	(16.4)	−	−	白色微砂粒多量	良好
SI-031	4	土師器	鉢？	口縁部破片	(20.0)	−	−	白色砂粒・スコリア多量	良好
SI-031	5	土師器	小型甕	肩部破片	−	−	−	灰色砂粒，スコリア粒	良好
SI-031	6	土師器	甕	底部破片	−	−	(7.4)	白色砂粒・スコリア多量	良好
SI-032	1	土師器	坏	ほぼ完形	10.0	2.7	6.1	灰色微砂粒，雲母粒	良好
SI-032	2	土師器	坏	全体の1/3	(11.0)	3.3	4.6	灰白色微砂粒，スコリア粒	やや不良
SI-032	3	土師器	坏	口縁部破片	(14.0)	−	−	白色微砂粒	良好
SI-032	4	須恵器	坏蓋	全体の1/2	(10.2)	3.4	(4.7)	精緻	良好

色調		技法			備考
内面	外面	内面	外面	底外面	
にぶい橙色～黒褐色	にぶい橙色	ミガキ	ケズリ	ケズリ	
にぶい橙色～灰褐色	にぶい橙色	ヨコナデ，ミガキ	ヨコナデ，ケズリ	ケズリ	
橙色～暗赤灰色(赤彩)	にぶい橙色～灰赤色(赤彩)	ミガキ	ヨコナデ，ケズリ	ケズリ	
黒色(黒色・炭)	にぶい橙色～黒褐色	ヨコナデ	ヨコナデ，ケズリ	ケズリ	
黒色	にぶい赤褐色～黒色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
浅黄橙色	橙色～黒色	ユビナデ	ケズリ後丁寧なナデ	ケズリ	
赤色～黒色	赤色～黒色	ナデ	ナデ，ケズリ	—	
橙色	明赤褐色	ミガキ	ヨコナデ，ケズリ	—	
黒色(黒色・炭)	にぶい橙色～黒褐色	ミガキ	ミガキ，ケズリ後部分的ミガキ	—	
黒褐色(黒色・漆？)	黒褐色(黒色・漆？)	ミガキ	ヨコナデ，ケズリ	ケズリ	
にぶい赤褐色～黒褐色	にぶい赤褐色～黒褐色	ヨコナデ	ヨコナデ，回転ケズリ	回転ケズリ	
にぶい橙色	にぶい橙色	ヨコナデ	ヨコナデ，ケズリ	ケズリ	
にぶい橙色	にぶい橙色～黒色	ナデ	ケズリ	ケズリ	
浅黄色	浅黄色	ミガキ(暗文状)，ケズリ，ヘラナデ，ヨコナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
にぶい黄橙色	にぶい黄橙色～黒色	ヨコナデ，ミガキ	ミガキ	—	
灰色	灰色	ロクロナデ	ロクロナデ	—	
黒色(黒色・炭？)	黒色(黒色・炭？)	ヨコナデ，ミガキ	ヨコナデ，ケズリ	—	
にぶい橙色	にぶい橙色	丁寧なミガキ	ヨコナデ，ケズリ後ミガキ	—	
浅黄橙色	浅黄橙色	ミガキ，ケズリ	ケズリ	—	
橙色	橙色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
橙色～褐灰色	橙色～褐灰色	ヨコナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
にぶい橙色～黒褐色	浅黄橙色～褐灰色	ミガキ？	ケズリ	—	
にぶい黄橙色～灰黄褐色	にぶい黄橙色～灰黄褐色	ミガキ，ケズリ	ケズリ	—	
黄灰色	黒色	ヨコナデ，ケズリ	ヨコナデ，ケズリ	—	
浅黄橙色～黒色	浅黄橙色～黒色	ミガキ	ヨコナデ，ケズリ後部分的ミガキ	—	
橙色	橙色～にぶい赤褐色	ミガキ(暗文状)	ヨコナデ，ケズリ	—	
にぶい褐色～黒褐色	橙色～褐灰色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，粗いケズリ	—	
黒褐色	灰黄褐色	ヨコナデ，ヘラナデ(ケズリ状)	ヨコナデ，ケズリ	—	
にぶい黄橙色	褐灰色～橙色	ヘラナデ	ミガキ	—	常総型
灰褐色～黒色	灰褐色～黒色	ロクロナデ	ロクロナデ，ケズリ	回転糸切り後無調整	
明赤褐色～灰赤色	明赤褐色	ロクロナデ	ロクロナデ，ケズリ	ケズリ	
橙色	橙色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
黒褐色	黒褐色	ヨコナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	ヨコナデ，ヘラナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
にぶい橙色	赤褐色～黒色	ヨコナデ，ヘラナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	№7と同一個体
にぶい橙色	赤褐色～黒色	ヘラナデ	ケズリ	—	№6と同一個体
にぶい橙色	にぶい橙色	ヨコナデ	ヨコナデ，タタキ目	—	褐色系須恵器
黒褐色(黒色・漆？)	黒褐色(黒色・漆？)	ミガキ	ヨコナデ，ミガキ，ケズリ	—	
黒褐色(黒色・漆？)	黒褐色(黒色・漆？)	ヨコナデ，ミガキ	ヨコナデ，ミガキ，ケズリ後ミガキ	—	
黒褐色(黒色・炭)	黒色(黒色・炭)	ヨコナデ，ミガキ	ヨコナデ，ミガキ	—	
にぶい橙色	黒褐色	ヨコナデ，ケズリ後ミガキ	ヨコナデ，ケズリ	—	
にぶい黄橙色	にぶい黄橙色+黒色	ナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
にぶい橙色	明赤褐色	ユビナデ	ケズリ	ケズリ	
浅黄橙色～褐灰色(黒色・漆)	浅黄橙色	ミガキ	ヨコナデ，ケズリ後粗いミガキ	ケズリ	
浅黄橙色～にぶい赤褐色(赤彩)	浅黄橙色～にぶい赤褐色(赤彩)	ナデ，ミガキ(暗文状)	ケズリ	—	
灰褐色(黒色・漆)	橙色～灰褐色(黒色・漆)	ヨコナデ，ミガキ	ヨコナデ	—	
灰色	灰色	ロクロナデ	回転ケズリ	回転ケズリ	

遺構No.	No.	種別	器種	遺存度	法量(cm)			胎土	焼成
					口径	器高	底径		
SI-032	5	須恵器	坏蓋	天井部破片	—	—	(3.9)	精緻	良好
SI-032	6	土師器	甕	口縁部の1/6	(24.0)	—	—	白色微砂粒多量	良好
SI-032	7	土師器	甕	口縁部の1/4	(18.6)	—	—	白色・灰色・スコリア砂礫多量	良好
SI-032	8	土師器	甕	底部～胴部下半の1/4	—	—	(8.4)	白色・灰色砂礫多量，スコリア	やや不良
SI-034	1	土師器	坏	全体の1/5	(10.4)	(3.8)	(4.5)	緻密，スコリア粒微量	不良
SI-034	2	土師器	坏	口縁部の1/8	(10.9)	—	—	精緻	やや不良
SI-034	3	土師器	坏	全体の1/5	(16.0)	(4.1)	—	白色微砂粒，スコリア粒	やや不良
SI-034	4	土師器	坏(鉢)	口縁部の1/4	(16.6)	—	—	白色微砂粒，スコリア	良好
SI-034	5	土師器	甕	口縁部～胴部上半の1/6	(15.7)	—	—	灰色・白色砂礫多量	良好
SI-034	6	土師器	甕	口縁部の1/8	(16.0)	—	—	白色微砂粒多量	良好
SI-034	7	土師器	甕	口縁部の1/6	(20.8)	—	—	白色砂粒多量，スコリア	良好
SI-035	1	土師器	坏	全体の1/5	(11.4)	—	—	白色微砂粒多量	良好
SI-035	2	土師器	甕	底部～胴部下半の1/5	—	—	(6.4)	白色砂粒・スコリア多量	良好
SI-036	1	土師器	坏	口縁部の1/10	(14.0)	—	—	精緻	やや不良
SI-037	1	土師器	甕	底部の2/3	—	—	8.4	スコリア粒多量，白色砂粒	不良
SI-038	1	須恵器	坏	全体の2/3	12.9	4.4	7.2	灰白色砂粒多量	良好
SI-038	2	土師器	坏	口縁部～体部の1/3	(14.6)	—	—	白色・灰白色砂粒多量，スコリア・金雲母粒	良好
SI-038	3	土師器	甕	口縁部～胴部上半の1/4	(20.0)	—	—	白色微砂粒，スコリア	良好
SI-038	4	土師器	甕	口縁部～肩部の1/5	(21.1)	—	—	白色微砂粒多量，スコリア	良好
SI-038	5	土師器	甕	口縁部～胴部上半の1/8	(19.6)	—	—	白色微砂粒，スコリア	良好
SI-038	6	土師器	甕	底部のみ	—	—	5.4	白色微砂粒	良好
SI-038	7	土師器	甕	底部～胴部下半の1/6	—	—	(7.5)	白色微砂粒，スコリア	(やや不良)
SI-038	8	須恵器？	甕	底部の1/10	—	—	(16.0)	白色微砂粒，スコリア	良好
SI-038	9	須恵器？	甕	底部の1/6	—	—	(14.3)	白色微砂粒，スコリア	良好
SI-039	1	土師器	高坏	口縁部の1/8	(18.0)	—	—	白色・灰白色砂粒多量，スコリア	やや不良
SI-040	1	土師器	高坏	杯部の1/10	(16.4)	—	—	白色微砂粒	良好
SI-040	2	土師器	高坏	口縁部の1/8	(15.8)	—	—	白色微砂粒，スコリア	良好
SI-040	3	土師器	高坏	脚部上半の4/5	—	—	—	白色・灰白色砂粒多量	良好
SI-040	4	土師器	高坏	脚と杯の接合部	—	—	—	白色・透明砂粒，スコリア	良好
SI-040	5	土師器	短頸壷	口縁部～胴部の3/4	9.0	—	—	白色砂粒多量	良好
SI-040	6	土師器	甕	底部の2/3	—	—	7.4	白色砂粒多量	良好
SI-040	7	土師器	甕	口縁部の1/10	(17.2)	—	—	白色微砂粒多量	良好
SI-041	1	土師器	坏	口縁部～体部の1/4	(12.0)	—	—	白色微砂粒，スコリア粒	良好
SI-041	2	土師器	坏	口縁部～体部の1/4	(14.4)	—	—	スコリア粒	良好
SI-041	3	土師器	坏	口縁部～体部の1/8	(12.0)	—	—	白色微砂粒，スコリア粒	良好
SI-041	4	土師器	坏	口縁部～体部の1/4	(13.1)	—	—	白色砂粒多量	良好
SI-041	5	土師器	坏	全体の1/4	(13.0)	—	—	白色微砂粒，スコリア粒	やや不良
SI-041	6	土師器	坏	口縁部～体部の1/4	(13.7)	—	—	白色微砂粒多量	良好
SI-041	7	土師器	坏	全体の4/5	13.6	7.15	—	白色砂粒・灰白色砂粒多量，スコリア	良好
SI-041	8	土師器	坏	全体の1/2	13.5	(4.9)	—	白色微砂粒多量	良好
SI-041	9	土師器	高坏	口縁部～体部の1/6	(16.6)	—	—	白色微砂粒多量	良好
SI-041	10	土師器	坏	口縁2/3欠損	(10.2)	5.0	—	白色微砂粒多量	良好
SI-041	11	ミニチュア土器		全体の1/2	(4.0)	1.4	(2.0)	白色砂粒	やや不良
SI-041	12	土師器	甕	口縁部～胴部上半の1/5	(16.8)	—	—	白色・灰白色砂粒多量	良好
SI-041	13	土師器	甕	口縁部の1/4	(16.6)	—	—	白色・灰白色砂粒多量	良好
SI-041	14	土師器	小型甕	口縁部～胴部の1/4	(10.0)	—	—	白色砂粒多量	良好
SI-041	15	土師器	甑	口縁部の1/4	(26.4)	—	—	白色砂粒・スコリア粒多量	良好

色調		技法			備考
内面	外面	内面	外面	底外面	
灰色	灰色	ロクロナデ	回転ケズリ	回転ケズリ	ヘラ記号「＋」
明赤褐色	黒色	ヨコナデ，ヘラナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
浅黄橙色	褐灰色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
橙色～黒褐色	にぶい黄橙色～黒色	ナデ	ケズリ	ケズリ	
黒色	橙色	ヨコナデ，ミガキ	ヨコナデ，ミガキ	—	
にぶい黄橙色	にぶい黄橙色～黒色	ヨコナデ，ミガキ	ヨコナデ，ケズリ	—	
にぶい黄橙色～灰黄褐色	浅黄橙色～黒褐色	ミガキ	ケズリ	—	
にぶい橙色	黒色	ミガキ	ヨコナデ，ケズリ，ミガキ	—	
明赤褐色	にぶい赤褐色～褐灰色	ヨコナデ，ヘラナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
にぶい褐色	にぶい褐色	ヨコナデ，ヘラナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
橙色～灰褐色	橙色，黒斑	ヨコミガキ，ナデ	ミガキ	—	
暗赤褐色	にぶい赤褐色～黒褐色	ヨコナデ，ケズリ，ミガキ	ヨコナデ，ケズリ，ミガキ	—	
明赤褐色～にぶい橙色	赤灰色	ヘラナデ	ケズリ	ケズリ	
浅黄橙色～橙色(赤彩)	浅黄橙色～橙色(赤彩)	ロクロナデ	ロクロナデ	—	
にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ナデ	ケズリ	ナデ？	
灰色	灰色	ロクロナデ	ロクロナデ，回転ケズリ	回転ケズリ	
にぶい橙色	にぶい橙色	ロクロナデ	ロクロナデ	—	
にぶい褐色～黒褐色	にぶい赤褐色～黒褐色	ヘラナデ	タタキ目，ケズリ	—	
黒褐色	黒褐色	ヨコナデ，ヘラナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
灰褐色	灰褐色	ヨコナデ，ヘラナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
橙色～暗赤灰色	橙色～暗赤灰色	ヘラナデ	ケズリ	ケズリ	
にぶい黄橙色・黒色	にぶい褐色	ヘラナデ	ケズリ	ケズリ	
黒色	にぶい赤褐色～褐灰色	ナデ	ケズリ	—	褐色系須恵器？
にぶい赤褐色～黒色	にぶい赤褐色～黒色	ナデ	ケズリ	—	褐色系須恵器？
黄橙色(赤彩)	橙色(赤彩)	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ後ミガキ	—	
黒色　炭(黒色・炭)	明赤褐色(赤彩)	ミガキ	ミガキ，ケズリ後ミガキ	—	
にぶい赤褐色～褐灰色(赤彩)	黒色(黒色・漆)	ミガキ	ケズリ後ミガキ	—	
にぶい褐色	にぶい橙色	ナデ	ケズリ	—	
にぶい黄橙色(黒色・漆)	赤色(赤彩)	細かなミガキ，ナデ	ケズリ後ナデ	—	
にぶい赤褐色～黒色	にぶい赤褐色～黒色	ヨコナデ，ケズリ後ミガキ	ヨコナデ，ケズリ後ナデ	—	
にぶい褐色	にぶい褐色	ナデ	ケズリ	ケズリ	
にぶい褐色	にぶい褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	—	
黒褐色(黒色・漆)	黒褐色～黒色(黒色・漆)	ミガキ	ミガキ，ケズリ後ミガキ	—	
黒褐色(黒色・漆)	黒褐色(黒色・漆)	ミガキ	ミガキ，ケズリ後ナデ？ミガキ	—	
黒褐色～黒色(黒色・漆)	黒褐色～黒色(黒色・漆)	ミガキ	ミガキ，ケズリ後ミガキ	—	
黒褐色(黒色・漆)	黒褐色(黒色・漆)	ミガキ	ミガキ，ケズリ後ミガキ	—	
黒色(黒色・漆)	黒色(黒色・漆)	ミガキ	ミガキ，ケズリ後ナデ？	—	
灰褐色(黒色・漆)	灰褐色(黒色・漆)	ミガキ	ケズリ後ミガキ	—	
にぶい橙色～赤褐色	橙色～赤色	ヨコナデ，ナデ，ミガキ	ケズリ後ミガキ	—	
橙色	橙色～黒色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ後部分的ミガキ	—	
灰赤色(赤彩)	灰赤色(赤彩)	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ	—	
にぶい橙色～黒色	にぶい橙色～黒色	ヨコナデ，ミガキ	ヨコナデ，ケズリ	—	
橙色	橙色	ナデ	ナデ	—	
橙色	赤橙色～赤黒色	ヨコナデ，ヘラナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
明赤褐色～赤黒色	明赤褐色～赤黒色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
にぶい赤褐色～黒灰色	にぶい赤褐色～黒灰色	ユビナデ	ユビナデ	—	
橙色	にぶい橙色	ヨコナデ，ミガキ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	

遺構No.	No.	種別	器種	遺存度	法量(cm)			胎土	焼成
					口径	器高	底径		
SI-041	16	土師器	甑	口縁部～胴部上半の1/5	(22.6)	－	－	白色・黒色砂粒多量	良好
SI-041	17	土師器	壷	肩部～胴部の1/3	－	－	－	白色微砂粒多量	良好
SI-041	18	土師器	甕	胴部～底部の1/6	－	－	(6.0)	白色砂粒多量	良好
SI-041	19	土師器	小型甕	口縁部～胴部の1/2	14.0	－	－	白色砂粒多量	良好
SI-041	20	土師器	甕	口縁部～胴部上半の1/6	(14.4)	－	－	白色・灰白色砂多量	やや不良
SI-041	21	土師器	甕底部	底部の1/3	－	－	(8.4)	白色砂粒・スコリア多量	良好
SI-042	3	土師器	坏	口縁部～体部の1/5	(11.8)	－	－	白色砂粒・スコリア	やや不良
SI-042	4	土師器	坏	口縁部～体部の1/2	(12.3)	3.9	－	白色・灰白色砂粒	良好
SI-042	5	土師器	坏	全体の1/4	(12.2)	3.4	－	白色砂粒・スコリア	良好
SI-042	6	ミニチュア土器：坏		完形	7.7	4.1～4.3	7.1	白色微砂粒，金雲母粒，スコリア粒	良好
SI-042	7	土師器	甕	底部の1/2	－	－	7.0	白色砂粒	良好
SI-042	8	土師器	甕	口縁部の1/6	(17.6)	－	－	白色砂粒多量	良好
SI-042	9	土師器	高坏	脚部～坏の接合部	－	－	－	白色砂粒，スコリア	良好
SI-042	10	土師器	高坏	脚部のみ	－	－	10.0	白色・灰白色砂粒多量	良好
SI-042	11	土師器	鉢	全体の4/5	(21.4)	11.4	10.1	白色砂粒，スコリア粒	良好
SI-042	12	土師器	甕	底部一部欠損	12.2	17.3	5.8	白色・灰白色砂粒・スコリア粒多量	良好
SI-043	1	須恵器	蓋	口縁部～体部1/5	(16.6)	－	－	緻密	良好
SI-043	2	土師器	坏	口縁部～体部の1/5	(15.4)	－	－	白色砂粒，スコリア	良好
SI-043	3	土師器	坏	口縁部～体部の1/5	(13.6)	－	－	白色・灰色微砂粒	やや不良
SI-043	4	土師器	甕	底部の1/2	－	－	9.0	白色砂粒	やや不良
SI-043	5	土師器	甕	口縁部の1/8	(17.8)	－	－	白色砂粒，スコリア	良好
SI-043	6	土師器	甕	口縁部の1/5	(19.6)	－	－	白色微砂粒，スコリア	良好
SI-043	7	土師器	甕	口縁部の1/6	(14.0)	－	－	白色微砂粒多量	良好
SI-043	8	土師器	甕	口縁部～胴部上半の1/2	14.7	－	－	白色砂粒多量	良好
SI-043	9	土師器	甕	口縁部の1/4	(19.6)	－	－	白色砂粒多量	良好
SI-043	10	土師器	甕	口縁部の1/8	(9.2)	－	－	白色微砂粒	やや不良
SI-043	11	土師器	甑	口縁部～胴部上半の1/10	(20.2)	－	－	白色砂粒，スコリア，砂礫	良好
SI-043	12	土師器	甕	底部の1/3	－	－	(6.0)	白色微砂粒多量，スコリア	良好
SI-043	13	土師器	甕	底部の1/2	－	－	(5.0)	白色微砂粒多量	やや不良
SI-044	1	土師器	坏	ほぼ完形	13.8	5.1	－	白色砂粒多量	良好
SI-044	2	土師器	坏	全体の1/12	(12.6)	2.9	－	精緻	不良
SI-044	3	土師器	坏	全体の1/6	(12.6)	3.1	－	精緻	不良
SI-044	4	土師器	坏	全体の1/3	(11.2)	5.1	(6.2)	白色砂粒多量	良好
SI-044	5	土師器	高坏	口縁部の1/8	(17.3)	－	－	白色微砂粒	良好
SI-044	6	土師器	甕	口縁部の1/8	－	－	－	白色微砂粒，スコリア	良好
SI-045	1	土師器	坏	口縁部～体部の1/2	(14.6)	－	－	白色微砂粒	良好
SI-045	2	土師器	坏	口縁部の1/6	(11.6)	－	－	白色微砂粒	良好
SI-045	3	土師器	坏	口縁部の1/10	(15.0)	－	－	白色微砂粒	良好
SI-045	4	土師器	坏	底部の1/5	－	－	(6.3)	白色微砂粒，スコリア	良好
SI-045	5	土師器	坏	底部の2/3	－	－	6.5	スコリア塊	良好
SI-045	6	土師器	高台付皿	全体の1/3	(15.2)	2.0	(7.0)	白色微砂粒，スコリア	良好
SI-045	7	土師器	甕	口縁部～肩部の1/6	(14.8)	－	－	白色微砂粒，スコリア	良好
SI-045	8	土師器	甕	口縁部～胴部上半の1/10	(18.4)	－	－	白色微砂粒，スコリア	良好
SI-045	9	土師器	甕	口縁部～肩部の1/15	(14.4)	－	－	白色砂粒，スコリア	良好
SI-045	10	土師器	甕	口縁部の1/4	(15.5)	－	－	白色微砂粒多量	良好
SI-045	11	土師器	坏	底部破片	－	－	－	白色砂・雲母細粒多量	良好
SI-045	12	土師器	坏	底部破片	－	－	－	白色砂・雲母細粒多量	良好

色調		技法			備考
内面	外面	内面	外面	底外面	
にぶい橙色～褐灰色	にぶい橙色～褐灰色	ヨコナデ，ミガキ	ヨコナデ，ケズリ後部分的ミガキ	—	
橙色～黒色	橙色～黒色	ヘラナデ	ケズリ	—	
にぶい橙色～にぶい褐色	にぶい赤褐色～黒色	ヘラナデ	ケズリ後ナデ	ケズリ	
赤黒色～明赤褐色	橙色～明赤灰色	ヨコナデ，ヘラナデ	ヨコナデ，ケズリ後ナデ	—	
にぶい橙色～灰赤色	にぶい橙色～灰褐色	ヨコナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
橙色	褐灰色	ヘラナデ	ケズリ後ナデ	ケズリ後ナデ	
橙色～黒褐色	橙色～黒褐色	ミガキ	ケズリ	—	
赤橙色(赤彩)	赤橙色(赤彩)	ヨコナデ，ナデ	ケズリ	ケズリ	
にぶい橙色	明赤褐色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ後部分的ミガキ	—	
黒色	橙色	ナデ	ナデ	無調整(木葉痕)	
にぶい橙色	にぶい橙色～黒色	ヘラナデ	ケズリ	ケズリ	
橙色～黒褐色	明赤褐色～黒褐色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
橙色	にぶい褐色	ミガキ，ヘラナデ	ケズリ後ミガキ，ケズリ	—	
明赤褐色～にぶい赤褐色	明赤褐色～にぶい赤褐色	ミガキ，ケズリ後ナデ	ケズリ	—	
にぶい赤褐色～黒色	にぶい橙色～黒色	ヘラナデ	ケズリ	ケズリ	
明赤褐色～黒色	明赤褐色～黒色	ヨコナデ，丁寧なヘラナデ	ヨコナデ，ケズリ後部分的ミガキ	ケズリ	
灰色	灰色	ロクロナデ	ロクロナデ，回転ケズリ	—	
橙色	橙色	丁寧なミガキ	ヨコナデ，ケズリ後部分的ミガキ	—	
赤褐色(赤彩)	赤褐色(赤彩)	ミガキ	ケズリ後ミガキ	—	
にぶい橙色・黒褐色	赤褐色～赤灰色	ヘラナデ	ケズリ	ケズリ	
黒褐色	にぶい褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	—	
明赤褐色	明赤褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	—	
赤褐色	赤褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	—	
黒褐色	明赤褐色	ヨコナデ，ヘラナデ	ヨコナデ，ケズリ後部分的ミガキ	—	
明赤褐色	明赤褐色	ヨコナデ，ヘラナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
明赤褐色	明赤褐色	ヨコナデ，ヘラナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
にぶい赤褐色	明赤褐色	ヨコナデ，ヘラナデ，ミガキ	ヨコナデ，ケズリ	—	
赤褐色	赤褐色	ナデ	ケズリ	ケズリ	
にぶい橙色	灰赤色	ナデ	ケズリ	ケズリ	
にぶい褐色～黒色	にぶい赤褐色～黒色	ヨコナデ，ヘラナデ(ケズリ状)	ヨコナデ，ケズリ後部分的ナデ・ミガキ	—	
橙色	褐灰色	ロクロナデ	ロクロナデ，ケズリ	ケズリ	
にぶい橙色～橙色	にぶい橙色～黒色	ロクロナデ	ロクロナデ，ケズリ	ケズリ	
にぶい橙色	にぶい橙色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ	ケズリ	
橙色～褐灰色	褐灰色	ヨコナデ，ミガキ	ヨコナデ，ミガキ，ケズリ	—	
黒色	黒色	ヨコナデ，ケズリ	ヨコナデ，ケズリ	—	
黒色(黒色・炭？)	橙色～黒色	ミガキ	ロクロナデ，ケズリ	—	
橙色	橙色	ロクロナデ	ロクロナデ	—	
にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	—	
灰色	にぶい黄橙色	ロクロナデ	ロクロナデ，ケズリ	ケズリ	
にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ロクロナデ	ロクロナデ，ケズリ	ケズリ	
明赤褐色	明赤褐色	ミガキ	ロクロナデ，回転ケズリ	—	
黒色	黒色	ヨコナデ，ヘラナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
明赤褐色～灰褐色	明赤褐色～灰褐色	ヨコナデ，ヘラナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
にぶい橙色	にぶい橙色	ヨコナデ，ヘラナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
にぶい赤褐色～黒褐色	橙色～黒褐色	ヨコナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
明黄褐色	橙色	—	—	ケズリ	墨書
浅黄橙色	橙色	—	—	ケズリ	墨書

遺構No.	No.	種別	器種	遺存度	法量(cm)			胎土	焼成
					口径	器高	底径		
SI-045	15	須恵器	甕	底部を除く全体の9/10	20.6	—	—	白色微砂粒，スコリア	良好
SI-045	16	須恵器	甕	口縁部～胴部上半の1/8	(21.4)	—	—	白色砂粒，スコリア粒	良好
SI-045	17	須恵器	甕	口縁部～胴部上半の1/15	(28.3)	—	—	白色微砂粒，スコリア	良好
SI-045	18	須恵器	甕	底部の1/8	—	—	(16.4)	白色微砂粒，スコリア	良好
SI-045	19	須恵器	甕	底部の1/10	—	—	(14.4)	白色微砂粒多量	良好
SI-046	1	土師器	坏	口縁部～体部の1/5	(13.4)	—	—	スコリア粒多量	良好
SI-046	2	土師器	高坏	脚部のみ	—	—	7.6	スコリア粒	やや不良
SI-046	3	土師器	坏	口縁部～体部の1/6	(11.8)	—	—	精緻	良好
SI-046	4	土師器	高坏	接合部のみ	—	—	—	白色砂・スコリア多量	やや不良
SI-046	5	土師器	高坏	接合部の1/2	—	—	—	精緻	やや不良
SI-046	6	須恵器	蓋	ほぼ完形	8.9	3.3	—	白色微砂粒少量	良好
SI-046	7	須恵器	坏	全体の1/3	(8.2)	3.2	—	白色微砂粒少量	良好
SI-046	8	ミニチュア土器		口縁部以外完形	4.0	—	—	白色砂粒多量	良好
SI-046	9	ミニチュア土器		ほぼ完形	(4.6)	3.5	—	白色砂粒多量	良好
SI-046	10	土師器	甕	口縁部～胴部上半1/3	16.8	—	—	白色砂粒多量，スコリア	良好
SI-046	11	土師器	甕	口縁部～肩部の1/4	(16.4)	—	—	白色微砂粒	良好
SI-046	12	土師器	甕	口縁部～肩部の1/5	(15.8)	—	—	白色砂粒	良好
SI-046	13	土師器	甕	口縁部の1/4	(14.0)	—	—	白色砂粒多量	良好
SI-046	14	土師器	甕	口縁部～胴部上半の1/6	(17.4)	—	—	白色砂礫・灰白色砂粒多量	良好
SI-046	15	土師器	甕	口縁部～胴部上半の2/3	(19.4)	—	—	白色砂粒多量	良好
SI-046	16	土師器	甑	口縁部～胴部の1/5	(35.6)	—	—	白色微砂粒，灰白色砂粒，スコリア	良好
SI-046	17	土師器	甑	口縁部～胴部上半の1/10	(25.8)	—	—	白色砂粒多量	やや不良
SI-046	18	土師器	坏	底部の3/5	—	—	(7.0)	白色・灰白色砂粒多量	良好
SI-046	19	土師器	皿	全体の1/5	(13.6)	2.3	—	白色微砂粒，スコリア	良好
SI-046	20	土師器	甕	口縁部の1/6	(19.0)	—	—	白色・灰白色砂粒，スコリア，海綿骨針	良好
SI-046	21	土師器	甕	底部のみ	—	—	7.0	白色砂粒多量	良好
SI-046	22	土師器	甕	口縁部の1/5	(18.0)	—	—	白色砂粒多量，スコリア	良好
SI-046	23	土師器	甕	口縁部の1/10	(18.0)	—	—	白色微砂粒多量	良好
SI-046	24	土師器	甕	口縁部の1/8	(18.0)	—	—	白色砂粒多量	良好
SI-046	25	土師器	甕	口縁部～肩部1/2	(19.0)	—	—	白色砂粒・透明砂粒多量	良好
SI-047	1	土師器	坏	全体の5/6	14.0	4.6	—	精緻，スコリア微量	良好
SI-047	2	土師器	坏	口縁部～体部の1/3	(12.2)	—	—	スコリア粒多量	良好
SI-047	3	土師器	坏	口縁部～体部の1/6	(11.2)	—	—	白色微砂粒，スコリア	良好
SI-047	4	土師器	坏	口縁部～体部の1/5	(9.8)	—	—	白色微砂粒，スコリア	やや不良
SI-047	5	ミニチュア土器		全体の2/3	7.0	4.0	6.0	白色微砂粒	良好
SI-047	6	土師器	坏	全体の1/2	(9.0)	—	—	白色微砂粒微量	不良
SI-047	7	土師器	鉢	全体の1/5	(14.6)	10.2	—	スコリア粒多量	良好
SI-047	8	須恵器	瓶類	肩部の1/3	—	—	—	精緻	良好
SI-047	9	土師器	甕	口縁部の1/10	(20.0)	—	—	白色砂粒，スコリア	良好
SI-047	10	土師器	甕	底部～胴部下半の1/4	—	—	(11.0)	白色微砂粒，スコリア	良好
SI-047	11	土師器	甑	口縁部～胴部上半の1/8	(24.4)	—	—	白色微砂粒，スコリア	良好
SI-047	12	土師器	甑	底部～胴部下半1の/3	—	—	(9.0)	白色微砂粒，スコリア	良好
SI-047	13	土師器	甕	口縁部～肩部の1/10	(15.8)	—	—	白色微砂粒	良好
SI-047	14	土師器	甕	口縁部～肩部の1/8	(17.6)	—	—	白色微砂粒	良好
SI-048	1	土師器	坏	全体の1/4	(11.8)	3.3	(7.4)	白色微砂粒，スコリア粒	やや不良
SI-048	2	須恵器	坏	口縁部の1/8	(9.0)	—	—	白色微砂粒微量	良好
SI-048	3	須恵器	坏	完形	9.4	3.3	—	白色微砂粒微量	良好

色調		技法			備考
内面	外面	内面	外面	底外面	
灰色	灰色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，タタキ目	—	
赤褐色～黒色	赤褐色～黒色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，タタキ目	—	褐色系須恵器
にぶい橙色	にぶい橙色	ナデ	タタキ目	—	褐色系須恵器
褐灰色	褐灰色	ナデ	タタキ目，ケズリ	—	褐色系須恵器
褐灰色	褐灰色	ナデ	タタキ目，ケズリ	—	褐色系須恵器
にぶい褐色～黒褐色(黒色・漆)	にぶい黄橙色～黒褐色(黒色・漆)	ヨコナデ，ミガキ	ヨコナデ，ケズリ後一部ミガキ	—	
にぶい橙色	にぶい橙色	ミガキ，ケズリ，ヨコナデ	ケズリ後部分的ミガキ	—	
黒褐色(黒色・漆)	黒色(黒色・漆)	ヨコナデ，ミガキ	ヨコナデ，ケズリ後ミガキ	—	
赤色～黒褐色	赤色～黒褐色	ミガキ，ナデ	ケズリ	—	
にぶい橙色	にぶい橙色	ミガキ，ナデ	ケズリ	—	
灰色	灰色	ロクロナデ	回転ケズリ，ロクロナデ	—	
灰色	灰色	ロクロナデ	回転ケズリ	—	
にぶい褐色	黒色	ユビナデ	ナデ	—	
褐灰色～黒色	褐灰色～黒色	ナデ	ナデ	—	
にぶい橙色	にぶい橙色	ヨコナデ，ヘラナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
灰黄褐色	灰黄褐色	ヨコナデ，ヘラナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
灰褐色	灰褐色	ヨコナデ，ヘラナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
にぶい橙色～褐灰色	にぶい橙色～褐灰色	ヨコナデ，ヘラナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
にぶい橙色～黒褐色	にぶい褐色～黒褐色	ヨコナデ，ヘラナデ	ヨコナデ，ケズリ後ミガキ	—	
橙色～褐灰色	赤橙色～褐灰色	ヨコナデ，ヘラナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
にぶい橙色～灰褐色	灰褐色	ヨコナデ，ミガキ	ヨコナデ，ケズリ後部分的ミガキ	—	
にぶい橙色	橙色～にぶい橙色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
黒色	にぶい赤褐色	ロクロナデ	ロクロナデ，回転ケズリ	回転ケズリ	
にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	ロクロナデ	ケズリ	ケズリ	
にぶい橙色	にぶい橙色	ヨコナデ	ヨコナデ	—	
灰黄褐色～黒色	にぶい橙色・黒色	ユビナデ，ヘラナデ	ケズリ	ケズリ	
橙色	橙色	ヨコナデ	ヨコナデ	—	
にぶい褐色～灰褐色	にぶい褐色～灰褐色	ヨコナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
にぶい褐色～灰褐色	にぶい褐色～灰褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	—	
にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
にぶい黄橙色～黒色	にぶい黄橙色～黒色	ヨコナデ，ミガキ(暗文状)	ヨコナデ，ケズリ	—	
橙色～黒褐色	にぶい褐色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
橙色～にぶい橙色	橙色～にぶい橙色	ヨコナデ，ミガキ	ヨコナデ，ケズリ	—	
にぶい橙色	にぶい橙色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
にぶい橙色～褐灰色	にぶい橙色～褐灰色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ナデ	ナデ	
にぶい橙色	にぶい橙色～灰黄褐色	ヨコナデ，粗いナデ	ヨコナデ，ケズリ	ケズリ	
橙色	浅黄橙色～橙色	ヨコナデ，ナデ，ミガキ	ヨコナデ，ケズリ	ケズリ	
灰白色	灰オリーブ	ロクロナデ	ロクロナデ	—	
にぶい橙色	黒色	ヨコナデ	ヨコナデ	—	
にぶい黄橙色～黒褐色	にぶい橙色～黒褐色	ヘラナデ	ケズリ後部分的ミガキ	—	
にぶい橙色	にぶい橙色	ミガキ	ヨコナデ，ケズリ後部分的ミガキ	—	
にぶい橙色	にぶい橙色	ミガキ，ケズリ	ケズリ	ケズリ	
にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	ヨコナデ，ヘラナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
にぶい黄橙色	にぶい黄橙色～黒色	ヨコナデ，ケズリ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ヨコナデ，ミガキ	ヨコナデ，ケズリ	ケズリ	
灰色	灰色	ロクロナデ	ロクロナデ	—	
灰色	灰色	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ後ナデ	

遺構No.	No.	種別	器種	遺存度	法量(cm)			胎土	焼成
					口径	器高	底径		
SI-048	4	土師器	坏	全体の2/3	9.1	3.4	4.4	スコリア多量	良好
SI-048	5	須恵器	坏蓋	全体の1/2	(16.6)	4.5	−	白色砂礫少量	良好
SI-048	6	土師器	鉢	完形	12.6	8.4	6.4	白色砂粒多量	良好
SI-048	7	土師器	高坏	脚部上半のみ	−	−	−	スコリア塊	やや不良
SI-048	8	ミニチュア土器		全体の1/2	−	−	(3.4)	白色微砂粒	良好
SI-048	9	土師器	甕	口縁部～胴部上半の1/2	15.9	−	−	白色砂粒・スコリア多量	良好
SI-048	10	土師器	甕	口縁部～肩部の1/5	(13.4)	−	−	白色・灰白色砂粒多量	良好
SI-048	11	土師器	甕	口縁部の1/3	(14.6)	−	−	白色・灰白色砂粒多量	良好
SI-048	12	土師器	甕	底部の1/3	−	−	(8.6)	白色微砂粒	良好
SI-048	13	土師器	甕	底部の1/2	−	−	(7.4)	灰白色砂礫多量，スコリア粒	良好
SI-048	14	土師器	甕	口縁部の1/3	(12.8)	−	−	白色砂礫多量	良好
SI-048	15	土師器	甕	底部の1/2	−	−	(5.8)	灰白色砂粒・雲母微粒多量	良好
SI-048	16	土師器	甕	口縁部破片	(31.3)	−	−	スコリア塊・白色微砂粒多量	良好
SI-049	1	土師器	坏	全体の1/4	(11.6)	−	−	精緻，白色微砂粒微量	不良
SI-049	2	土師器	坏	口縁部～体部の1/8	(10.8)	−	−	スコリア	良好
SI-049	3	土師器	坏	口縁部～体部の1/7	(12.0)	−	−	白色微砂粒	良好
SI-049	4	土師器	坏	全体の1/2	(11.9)	−	−	精緻	不良
SI-049	5	土師器	坏	全体の1/3	(10.8)	3.9	−	白色砂粒	良好
SI-049	6	土師器	坏	口縁部～体部1/6	(13.3)	−	−	白色微砂粒微量	やや不良
SI-049	7	土師器	甕	口縁部の1/10	(14.4)	−	−	灰白色砂粒	良好
SI-049	8	土師器	不明	頸部の1/6	−	−	−	白色砂粒・砂礫多量	良好
SI-049	9	土師器	甕	底部の2/3	−	−	6.0	白色砂粒・砂礫多量，スコリア	良好
SI-049	10	土師器	高坏	脚部の1/3	−	−	(9.6)	白色微砂粒	やや不良
SI-050	1	須恵器	坏	口縁部～体部1/10	(12.9)	−	−	白色微砂粒	良好
SI-050	2	土師器	坏	口縁部～体部の1/5	(13.6)	−	−	白色微砂粒，スコリア	やや不良
SI-050	3	土師器	坏	口縁部～体部の1/5	(11.8)	−	−	白色砂粒，スコリア	やや不良
SI-050	4	土師器	坏	口縁部の1/10	(12.0)	−	−	白色微砂粒	良好
SI-050	5	土師器	坏	口縁部の1/6	(14.2)	−	−	スコリア粒多量	やや不良
SI-050	6	土師器	坏	口縁部～体部の1/6	(10.8)	−	−	スコリア粒多量	良好
SI-050	7	土師器	甕	口縁部の1/5	(16.2)	−	−	白色砂粒・スコリア・灰白色砂礫多量	良好
SI-050	8	土師器	甕	口縁部の1/5	(18.6)	−	−	白色微砂粒，スコリア	良好
SI-050	9	土師器	甕	口縁部の1/5	(18.6)	−	−	白色砂粒，スコリア	良好
SI-050	10	土師器	甕	口縁部～肩部の1/10	(18.6)	−	−	白色微砂粒，スコリア	良好
SI-051	1	須恵器	蓋	全体の1/8	(14.8)	−	−	白色砂粒多量	良好
SI-051	2	須恵器	蓋	全体の1/2	16.0	2.8	−	白色砂粒多量	良好
SI-051	3	須恵器	坏	全体の3/4	15.1	4.7	8.7	白色砂粒，砂礫	良好
SI-051	4	須恵器	坏	口縁部～体部の1/10	(11.8)	−	−	灰白色砂粒微量	やや不良
SI-051	5	土師器	坏	口縁部～体部の1/6	(15.6)	−	−	白色微砂粒	良好
SI-051	6	土師器	坏	口縁部～体部の1/6	(15.3)	−	−	白色微砂粒，スコリア粒	良好
SI-051	7	土師器	坏	全体の1/2	(14.0)	4.7	−	白色微砂粒	やや不良
SI-051	8	土師器	高坏	脚部の1/5	−	−	(14.0)	白色微砂粒	良好
SI-051	9	土師器	甕	全体の1/3	(13.4)	(25.0)	(7.2)	白色砂粒	良好
SI-052	1	土師器	坏	全体の5/6	12.0	3.8～4.15	9.0	スコリア・白色砂粒多量	良好
SI-052	2	土師器	坏	口縁部～体部の1/8	(14.3)	−	−	スコリア，白色微砂粒	良好
SI-052	3	土師器	高台付坏	底部の1/4	−	−	−	白色砂粒，スコリア粒	良好
SI-052	4	土師器	坏	口縁部の1/8	(11.3)	−	−	白色・灰白色砂粒，スコリア粒	良好
SI-052	5	土師器	坏	口縁部～体部の1/3	(13.2)	−	−	白色微砂粒	良好

色調		技法			備考
内面	外面	内面	外面	底外面	
にぶい橙色	にぶい橙色～にぶい赤褐色(赤彩)	ミガキ	ケズリ後ミガキ	ケズリ	
灰色	灰色	ロクロナデ	回転ケズリ，ロクロナデ	―	
赤褐色	赤褐色	ヨコナデ，ヘラナデ，ミガキ	ヨコナデ，ケズリ	ケズリ	
にぶい橙色	にぶい橙色	ミガキ，ナデ	ケズリ	―	
黒色	灰褐色	ナデ	ナデ	ナデ	
にぶい赤褐色	にぶい赤褐色～黒色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ	―	
にぶい橙色	にぶい橙色	ヘラナデ	不明	―	
橙色～黒褐色	橙色～黒褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	―	
浅黄橙色	橙色	ヘラナデ	ケズリ	ケズリ	
にぶい橙色	褐灰色	ユビナデ	ケズリ	ケズリ	
灰褐色	灰褐色	ハケ目	ハケ目	―	
黒色	にぶい赤褐色	ナデ	ケズリ	ケズリ	
浅黄橙色	灰褐色	ヨコナデ	ヨコナデ，ケズリ	―	
にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ	―	
灰黄褐色(黒色・漆)	にぶい黄橙色(黒色・漆)	ミガキ	ケズリ後ミガキ	―	
橙色～褐灰色	橙色～褐灰色	ミガキ	ヨコナデ，ケズリ	―	
黄灰色(黒色・漆)	にぶい黄橙色(黒色・漆)	ヨコナデ，ミガキ	ヨコナデ，ケズリ後ミガキ	ケズリ	
明赤褐色～黒褐色	明赤褐色～黒褐色	ヨコナデ，ミガキ	ヨコナデ，ケズリ	―	
黒色(黒色・炭)	黒褐色	ヨコナデ，ミガキ	ヨコナデ，ケズリ	―	
にぶい赤褐色	褐灰色	ヨコナデ	ヨコナデ	―	
明赤褐色	明赤褐色	ナデ	ナデ，ケズリ	―	
にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	ナデ	ケズリ	ケズリ	
にぶい橙色	にぶい橙色	ケズリ	ケズリ後ナデ	―	
灰色	灰色	ロクロナデ	ロクロナデ	―	
にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ミガキ	ヨコナデ，ケズリ	―	
橙色	橙色～灰褐色	ヨコナデ，ミガキ	ケズリ，ヨコナデ	―	
にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ミガキ	ミガキ，ケズリ	―	
黒色(黒色・漆？)	にぶい橙色	ヨコナデ，ミガキ(暗文状)	ヨコナデ，ケズリ	―	
橙色～灰褐色	橙色	ヨコナデ，ミガキ	ヨコナデ，ケズリ	―	
明赤褐色～黒色	明赤褐色～黒色	ヨコナデ，ケズリ	ヨコナデ，ケズリ	―	
にぶい橙色	にぶい橙色	ヨコナデ	ヨコナデ，ケズリ	―	
にぶい黄橙色	にぶい黄橙色・黒色(斑)	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ	―	
浅黄色～黒色	黒色	ヨコナデ，ヘラナデ	ヨコナデ，ケズリ	―	
灰色	灰色	ロクロナデ	ロクロナデ	天井部：回転ケズリ	
灰白色	灰白色	ロクロナデ	ロクロナデ	天井部：回転ケズリ	
灰色	灰色	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り後ケズリ	
灰色	灰色	ロクロナデ	ロクロナデ	―	
にぶい橙色～褐色	にぶい橙色～褐色	ヨコナデ，ミガキ	ケズリ後部分的ミガキ・ヨコナデ	―	
にぶい橙色～黒色	にぶい橙色	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ	―	
にぶい橙色～黒色(黒色・漆)	浅黄橙色～灰褐色	ヨコナデ，ミガキ	ヨコナデ，ケズリ	―	
にぶい橙色	にぶい橙色(赤彩)	ケズリ，ヨコナデ	ケズリ，ヨコナデ	―	
にぶい橙色～黒褐色	橙色～黒色	ヘラナデ	ヨコナデ，ケズリ	ケズリ	
にぶい橙色～黒褐色	にぶい橙色～黒褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ	
にぶい黄橙色・明赤褐色(赤彩)	にぶい黄橙色・明赤褐色(赤彩)	ロクロナデ	ロクロナデ	―	
浅黄橙色・橙色(赤彩)	浅黄橙色・橙色(赤彩)	ロクロナデ	―	回転ケズリ	
橙色	にぶい橙色	ロクロナデ	ロクロナデ	―	
にぶい橙色～明赤褐色(赤彩)	にぶい橙色～明赤褐色(赤彩)	ロクロナデ	ロクロナデ，ケズリ	―	

遺構No.	No.	種別	器種	遺存度	法量(cm)			胎土	焼成
					口径	器高	底径		
SI-052	6	土師器	甕	口縁部の1/6	(9.7)	−	−	白色微砂粒少量	良好
SI-052	7	土師器	甕	口縁部破片	(19.3)	−	−	白色砂粒・スコリア粒多量	良好
SI-052	8	須恵器	甕	底部の1/10	−	−	(16.0)	白色砂粒多量	良好
SI-054	1	土師器	坏	底部～体部の1/3	−	−	(7.0)	白色微砂粒，スコリア	良好
SI-054	2	土師器	甕	口縁部の1/3	(13.8)	−	−	白色微砂粒多量	良好
SI-054	3	土師器	甕	ほぼ完形	(17.3)	19.3～19.8	7.7	白色砂粒多量，スコリア	良好
SI-054	4	土師器	甕	口縁部～胴部上半の1/2	(15.4)	−	−	白色微砂粒多量，スコリア	良好
SI-054	5	須恵器	甕	口縁部破片	(25.4)	−	−	精緻	良好
SI-054	6	土師器	甕	口縁部～胴部上半の2/3	21.2	−	−	白色砂粒多量	良好
SI-055	1	土師器	坏	口縁部～体部の1/10	(10.2)	−	−	白色微砂粒微量	やや不良
SI-055	2	土師器	甕	胴部破片	−	−	−	白色砂粒多量，砂礫，スコリア	やや不良
SI-055	3	土師器	坏	底部～体部の1/3	−	−	(7.2)	白色砂粒多量，スコリア	良好

掘立柱建物跡

遺構No.	No.	種別	器種	遺存度	法量(cm)			胎土	焼成
					口径	器高	底径		
SB-002	1	須恵器	蓋	口縁部～体部の1/6	(14.2)	−	−	砂礫なし，鉄分粒	良好
SB-002	2	土師器	甕	口縁部の1/10	(14.6)	−	−	白色微砂粒	良好

遺構外

遺構No.	No.	種別	器種	遺存度	法量(cm)			胎土	焼成
					口径	器高	底径		
(SX-002)	1	土師器	坏	口縁部の1/8	(11.6)	−	−	白色微砂粒	良好
(SX-005)	2	土師器	坏	口縁部の1/6	(13.0)	−	−	白色・灰白色砂粒多量	良好
4E-85	3	土師器	坏	口縁部破片	(10.8)	−	−	精緻	良好
(SX-002)	4	土師器	坏	口縁部破片	(12.0)	−	−	スコリア	やや不良
(SD-029)	5	土師器	坏	口縁部～体部の1/4	(13.9)	−	−	白色砂粒，スコリア粒	良好
(SX-002)	6	土師器	坏	口縁部～体部の1/10	(13.6)	−	−	白色砂粒多量	良好
(SX-009)	7	土師器	坏	口縁部～体部の1/4	(12.6)	−	−	白色砂粒，スコリア	良好
(SD-030)	8	土師器	坏	底部の4/5	−	−	(6.0)	白色微砂粒	良好
5E-02	9	土師器	坏	口縁部～体部の1/10	(11.2)	−	−	白色微砂粒，スコリア	良好
(SX-005)	10	土師器	坏	全体の1/4	(8.5)	2.7	−	精緻	やや不良
(SX-007)	11	土師器	坏	口縁部～体部の1/5	(10.8)	(4.6)	−	白色砂粒	良好
(SD-001)	12	土師器	大型高坏	口縁部の1/20	(37.2)	−	−	スコリア粒多量	やや不良
5E-51	13	土師器	高坏	口縁部破片	(15.2)	−	−	白色微砂粒	良好
(SX-005)	14	土師器	高坏	口縁部の1/10	(14.7)	−	−	砂粒微量	良好
(SX-008)	15	土師器	高坏	接合部	−	−	−	白色砂粒多量	良好
(SD-029)	16	土師器	高坏	脚部接合部	−	−	−	白色砂粒，スコリア	良好
(SX-007)	17	土師器	高坏	接合部	−	−	−	白色砂粒	やや不良
(SX-005)	18	土師器	高坏	脚部上半の1/2	−	−	−	白色微砂粒多量	良好
5E-04	19	土師器	高坏	接合部	−	−	−	白色・灰白色砂礫多量	良好
(SD-038A)	20	土師器	高坏	接合部	−	−	−	白色微砂粒微量	やや不良
(SX-007)	21	土師器	高坏	接合部の1/2	−	−	−	精緻	やや不良
(SD-038B)	22	土師器	高坏	接合部	−	−	−	白色微砂粒多量	良好
(SX-004)	23	土師器	椀	高台部の1/6	−	−	(7.6)	白色微砂粒	良好
4E-85	24	土師器	高坏	脚部破片	−	−	(21.4)	白色微砂粒	良好
(SX-006)	25	土師器	高坏	脚部の1/5	−	−	(13.8)	スコリア粒	やや不良
(SD-005)	26	土師器	鉢	口縁部～体部の1/8	(11.8)	−	−	白色微砂粒多量	良好
(SD-029)	27	土師器	甑	把手破片	−	−	−	白色微砂粒多量	良好

色調		技法			備考
内面	外面	内面	外面	底外面	
橙色	橙色	ヨコナデ	ヨコナデ	—	
明赤褐色	明赤褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	—	
橙色	橙色～灰褐色	ナデ	ケズリ	無調整	褐色系須恵器
黒褐色	黒褐色	ロクロナデ	回転ケズリ，ロクロナデ	回転ケズリ	
橙色	橙色	ヨコナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
黒褐色	黒褐色	ヨコナデ，ヘラナデ	ヨコナデ，ケズリ後部分的ミガキ	ケズリ	
にぶい橙色～黒褐色	にぶい橙色～黒褐色	ヨコナデ，ヘラナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
灰色(自然釉)	灰色	ロクロナデ	ロクロナデ，櫛歯刺突	—	
橙色	橙色	ヨコナデ，ヘラナデ	ヨコナデ，ケズリ後ナデ	—	
にぶい橙色	にぶい橙色	ヨコナデ，ミガキ	ヨコナデ，ケズリ	—	
にぶい赤褐色～黒褐色	橙色	ナデ	ケズリ	—	
淡黄色	淡黄色	ロクロナデ	ロクロナデ，ケズリ	ケズリ	墨書

色調		技法			備考
内面	外面	内面	外面	底外面	
灰白色	灰白色(自然釉)	ロクロナデ	ロクロナデ	—	
明赤褐色～黒褐色	赤褐色	ヨコナデ，ケズリ	ヨコナデ，ケズリ	—	

色調		技法			備考
内面	外面	内面	外面	底外面	
黒褐色(黒色・炭)	黒色(黒色・炭)	ミガキ	ミガキ，ケズリ後ミガキ	—	
にぶい橙色	にぶい橙色	ヨコナデ，ミガキ	ヨコナデ，ケズリ後部分的ミガキ	—	
にぶい褐色～黒色	にぶい橙色	ミガキ	ミガキ，ケズリ後ミガキ	—	
にぶい褐色	にぶい褐色	ヨコナデ，ミガキ	ヨコナデ，ケズリ	—	
にぶい橙色～灰褐色	にぶい橙色～黒褐色	ヨコナデ，ミガキ	ヨコナデ，ケズリ後部分的ミガキ	—	
灰褐色(黒色・漆)	灰褐色(黒色・漆)	ヨコナデ，ミガキ	ヨコナデ，ケズリ後部分的ミガキ	—	
にぶい橙色	にぶい橙色	ヨコナデ，粗いミガキ	ヨコナデ，ケズリ後部分的ミガキ	—	
にぶい褐色	にぶい褐色	ロクロナデ	ケズリ	ケズリ，回転糸切り	
黒褐色	黒褐色	ミガキ	ケズリ後ミガキ	—	
にぶい黄橙色	橙色	丁寧なミガキ	ケズリ	ケズリ	
にぶい黄橙色～灰黄褐色	にぶい橙色～黒色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
橙色	橙色	ヨコナデ	ヨコナデ	—	
にぶい橙色	黒褐色	ミガキ	ヨコナデ，ケズリ後部分的ミガキ	—	
黒色(黒色・炭)	にぶい黄橙色	丁寧なミガキ	ヨコナデ，ケズリ後部分的ミガキ	—	
黒色(黒色・炭)	にぶい橙色	ミガキ，ケズリ	ケズリ，ケズリ後ナデ	—	
橙色	橙色	ミガキ，ケズリ	ケズリ	—	
脚部　褐灰色	にぶい橙色	ナデ	ケズリ	—	
にぶい黄褐色	黒色	ナデ	ケズリ後ミガキ	—	
明赤褐色	明赤褐色	ナデ	ケズリ	—	
淡黄色	淡黄色	ナデ	ケズリ	—	
にぶい黄橙色(黒色・炭)	にぶい黄橙色	ナデ	ケズリ	—	
黒色(黒色・炭)	にぶい赤褐色	ミガキ	ケズリ	—	
黒褐色	黒褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	—	
黒褐色	黒褐色	ケズリ	ミガキ	—	
にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ケズリ，ヨコナデ	ケズリ，ヨコナデ	—	
明赤褐色	明赤褐色	ナデ	ナデ	—	
にぶい褐色～明赤褐色	にぶい褐色～明赤褐色	—	ケズリ	—	

遺構No.	No.	種別	器種	遺存度	法量(cm)			胎土	焼成
					口径	器高	底径		
(SX-006)	28	土師器	甑	把手部	−	−	−	白色微砂粒多量	良好
(SX-005)	29	土師器	甕	口縁部の1/8	(26.6)	−	−	白色砂粒多量	良好
(SX-002)	30	土師器	甕	口縁部～肩部破片	(15.2)	−	−	白色砂粒多量	良好
(SX-002)	31	土師器	甕	口縁部～肩部破片	(14.4)	−	−	白色微砂粒	良好
(SX-002)	32	土師器	甕	口縁部の1/10	(17.8)	−	−	白色砂粒多量	良好
(SX-007)	33	土師器	甕	口縁部破片	(16.6)	−	−	白色微砂粒，スコリア	良好
(SX-007)	34	土師器	甕	口縁部破片	(17.0)	−	−	スコリア・白色砂粒多量	良好
5D-39	35	土師器	甕	口縁部～肩部の1/10	(13.7)	−	−	白色砂粒，ガラス質微粒子	良好
5E-04	36	土師器	甑	口縁部破片	(23.2)	−	−	白色・灰白色砂粒多量	良好
(SD-029)	37	土師器	甕	底部の1/2	−	−	(5.8)	白色砂礫，スコリア	良好
(SX-002)	38	土師器	甕	底部の1/4	−	−	(7.0)	白色砂粒，砂礫	良好
(SX-002)	39	土師器	甕	底部破片	−	−	(8.0)	白色・灰白色砂粒多量	良好
(SX-002)	40	土師器	甕	底部の9/10	−	−	5.0	白色砂粒多量	良好
(SX-007)	41	土師器	甕	底部の4/5	−	−	(10.2)	白色砂粒，スコリア	良好
(SD-038A)	42	ミニチュア土器		口縁部～体部の1/6	(11.7)	−	−	白色微砂粒多量	良好
Fﾄﾚﾝﾁ	43	ミニチュア土器		全体の1/4	(5.2)	2.7～3.0	(4.4)	白色微砂粒	良好
(SX-009)	44	ミニチュア土器		全体の1/2	(4.4)	3.0	4.0	白色砂粒多量	良好
(SD-029)	45	ミニチュア土器		胴部～底部の2/3	−	−		白色微砂粒，スコリア	良好
(SD-033)	46	土師器	小型甕	底部の1/2	−	−	(4.9)	白色微砂粒，スコリア	良好
表採	47	須恵器	坏	口縁部の1/8	(8.0)	−	−	精緻	良好
(SX-007)	48	須恵器	坏	底部の1/3	−	−	(7.2)	白色・透明砂礫多量	良好
(SX-007)	49	須恵器	瓶類	高台部の1/4	−	−	(8.2)	鉄分多量	良好
(SD-013)	50	須恵器	坏	つまみ部のみ	−	−	−	白色微砂粒微量	良好
(SD-029)	51	須恵器	大甕	口縁部破片	(38.0)	−	−	白色微砂粒微量	やや不良
(SX-007)	52	須恵器	大甕	口縁部破片	(25.6)	−	−	白色砂粒多量	良好
(SD-042)	53	須恵器	大甕	口縁部の1/10	(27.0)	−	−	鉄分	良好
(SX-007)	54	須恵器	甕	口縁部の1/10	(17.9)	−	−	白色砂粒多量	良好
(SX-005)	55	須恵器	甑	把手破片	−	−	−	白色砂粒，鉄分	良好
(SX-008)	56	土師器	甑？	把手？	−	−	−	白色微砂粒	良好
(SD-029)	58	土師器	坏	底部～体部の1/6	−	−	−	白色砂粒，雲母砂粒	良好
(SD-038A)	59	土師器	坏	全体の3/4	(12.2)	3.9	6.6	白色砂粒，スコリア	良好

※ 種別のミニチュア土器は，通常の土器に比べ極端に小型の土器を手捏土器を含めて広義に使用している。

色調		技法			備考
内面	外面	内面	外面	底外面	
—	にぶい橙色	—	ケズリ	—	
にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	—	
灰褐色	灰褐色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ後ミガキ	—	
にぶい褐色	にぶい褐色～黒色	ヨコナデ，ヘラナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
灰黄褐色	灰黄褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	—	
橙色	橙色	ヨコナデ，(ヘラ)ナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
暗褐色	褐色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
にぶい赤褐色～黒色	にぶい赤褐色～黒色	丁寧なミガキ	ヨコナデ，ケズリ	—	
にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ヨコナデ	ヨコナデ	—	
橙色	橙色	ヘラナデ	ケズリ	ケズリ	
にぶい橙色	にぶい褐色～黒色	ヘラナデ	ケズリ	ケズリ	
にぶい橙色	黒色	ナデ	ケズリ後部分的ナデ	ケズリ	
灰黄褐色	にぶい褐色～黒色	—	ケズリ後ナデ	ケズリ	
にぶい黄橙色	橙色	ナデ	ケズリ	摩滅	
にぶい褐色	にぶい褐色	ユビナデ	ユビナデ	—	
にぶい赤褐色	にぶい赤褐色～黒色	ユビナデ	ユビナデ	—	
にぶい橙色	にぶい橙色	ユビナデ	ナデ	ナデ	
にぶい橙色～橙色	にぶい橙色～橙色	ユビナデ	ユビナデ	ナデ	
にぶい黄橙色	黒色	ナデ	ケズリ	ケズリ後ナデ？	
灰色	灰色	ロクロナデ	ロクロナデ	—	
灰白色	灰白色	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ後摩滅	
灰白色(自然釉)	灰白色	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り痕，ナデ	
灰色	灰色	—	ロクロナデ	—	
灰白色	灰白色	ロクロナデ	ロクロナデ	—	
にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	—	褐色系須恵器
灰オリーブ色(自然釉)	灰色	ナデ	櫛歯，沈線	—	
明赤褐色	明赤褐色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，タタキ目	—	
灰色	オリーブ灰色	ロクロナデ	ナデ	—	
—	橙色	—	ケズリ	—	
浅黄橙色	橙色	ロクロナデ	ケズリ	ケズリ	墨書
浅黄橙色～黒色	浅黄橙色～黒色	ミガキ	ヨコナデ，ケズリ	ケズリ	墨書

第36表　八幡神社北(2)遺跡 古墳時代～奈良・平安時代 土器以外観察表

土製品

遺構No.	No.	種類	法量(cm・g)				胎土	色調
			長	幅	厚	重		
SI-005	11	支脚	〈16.9〉	8.4	－	769.2	白色砂粒・スコリア塊多量	にぶい橙色
SI-012	6	土馬	〈4.0〉	〈1.6〉	〈2.4〉	7.3	赤褐色スコリア多量	橙色
SI-027	6	須恵器転用砥石	14.0	10.2	0.8	130.6	精緻	灰黄色・灰白色
SI-031	8	不明	2.6	2.6	2.3	9.4	白色微砂粒	にぶい橙色
SI-031	7	不明	1.6	1.7	0.9	3.3	白色微砂粒	赤褐色
SI-031	11	勾玉	1.9	1.2	1.0	2.3	白色微砂粒	黒褐色
SI-031	10	勾玉	2.2	0.9	0.9	2.1	白色微砂粒	にぶい橙色
SI-031	9	管玉	2.4	1.0	1.0	2.3	白色微砂粒多量	にぶい橙色
SI-034	8	紡錘車	(径) 5.2		1.9	23.3	白色砂粒・海綿骨針少量	にぶい黄橙色
SI-042	2	支脚	〈10.8〉	7.6	－	719.5	白色微砂粒多量	にぶい橙色
SI-042	1	支脚	〈8.0〉	5.6	－	195.7	粘土主体	浅黄橙色
SI-049	11	支脚	〈8.4〉	〈4.9〉	－	171.3	白色砂粒多量	にぶい褐色～黒褐色
SI-052	11	紡錘車	－	－	2.2	11.2	白色砂粒	橙色～黒色
遺構外(SD-029)	57	布目瓦	5.5	6.2	1.5	59.4	白色砂粒・スコリア	灰褐色
遺構外(SD-029)	62	須恵器転用砥石	4.5	4.2	0.9	28.9	白色微砂粒	灰色
遺構外(SD-029)	63	須恵器転用砥石	9.0	5.7	1.2	84.7	精緻	灰色
遺構外(ﾄﾚﾝﾁ)	61	勾玉	2.6	1.0	0.8	2.2	白色砂粒	にぶい赤褐色

石製品

遺構No.	No.	種類	法量(cm・g)				石材
			長	幅	厚	重	
SI-001	2	砥石	7.1	6.3	2.6	129.9	砂岩
SI-025	6	切子玉	2.0	1.6	1.5	6.4	水晶
SI-030	9	紡錘車	(径) 3.6		1.4	33.4	滑石
SI-030	10	砥石	5.5	4.1	1.7～2.5	68.3	凝灰岩
SI-032	9	砥石	2.7	1.9	0.8～0.9	7.9	凝灰岩
SI-032	10	切子玉	3.3	1.8	1.8	14.9	水晶
SI-032	13	紡錘車	(径) 4.2		2.1	51.4	滑石
SI-051	11	砥石	11.3	4.6～5.0	3.0	236.1	凝灰岩
SI-055	4	軽石	1.8	1.6	0.8	0.4	軽石
遺構外(SD-029)	60	砥石	7.9	7.8	1.6～2.5	164.1	砂岩

金属製品

遺構No.	No.	種類	法量(cm・g)				材質
			長	幅	厚	重	
SI-009	6	刀子	(3.5)	0.7	0.4	2.0	鉄
SI-012	5	棒状鉄製品	(14.8)	5.5	0.4	15.4	鉄
SI-019	8	刀子	(10.8)	1.5	0.5	13.1	鉄
SI-019	7	環状金具	(径) 3.75		0.5	12.6	鉄
SI-026	5	不明	2.0	1.6	1.6	2.1	銅
SI-027	10	刀子	(3.9)	1.1	0.4	3.8	鉄
SI-027	7	刀子	(3.0)	0.9	0.3	1.9	鉄
SI-027	8	刀子	(3.0)	0.6	0.3	2.2	鉄
SI-027	9	刀子？	(4.9)	1.1	0.3	2.6	鉄
SI-027	11	釘	(2.8)	0.7	0.5	1.8	鉄
SI-027	12	釘	(10.1)	0.8	0.5	8.9	鉄
SI-032	11	鑿？	(6.9)	0.7	0.4	5.2	鉄
SI-032	12	鏃	(6.7)	0.8	0.6	7.2	鉄
SI-036	2	不明	(2.2)	1.4	0.1	7.4	鉄
SI-045	13	刀子	(14.1)	1.8	0.5	25.0	鉄
SI-045	14	刀子？	(6.9)	1.8	0.2	10.9	鉄
SI-051	10	鎌	(8.1)	3.5	0.3	27.1	鉄
SI-052	9	刀子	(7.4)	1.2	0.5	7.6	鉄
SI-052	10	鎌	(10.6)	3.6	0.4	38.9	鉄

第37表　八幡神社北(2)遺跡 中・近世 遺構一覧表　(原始・古代は除くが，撹乱等で欠番となったものは参考のため含む。)

遺構No.	調査時No.	種類	時期	位置(グリッド)	平面形	規模(m)			特記事項・遺物等
						短軸(幅)	長軸(長さ)	深さ	
SD-001	同	溝状遺構	中・近世	6C-34・35・36		0.7～0.6，底0.5～0.9	〈8.5〉	0.4～0.6	N-84°-W。羽口
欠番	SD-002								
SD-003	同	溝状遺構	中・近世	6C-25・26		3～4，底1.5～2.3	〈10〉	0.15～0.25	N-76°-W
SD-004	同	溝状遺構	中・近世	6C-38・39		1.0～1.8，底0.7～0.9	8	0.2～0.4	N-72°-W。須恵器甕転用砥石，常滑甕
SD-005	同	溝状遺構	中・近世	6C-08・18・28・37・38		0.9～1.2，底0.3～0.5	18	0.25～0.5	N-13°-E。常滑甕，中世カワラケ，西夏銭
SD-006	同	溝状遺構	中・近世	6D-10・20		0.9～1.4，底0.5～0.7	5	0.05	N-23°-E。近世陶器
SD-007	同	溝状遺構	中・近世	6D-20・21		0.7～1.6，底0.4～1.3	3	0.1	N-26°-E
SD-008	同	溝状遺構	中・近世	5D-90・91，6D-00		0.6～1.0，底0.2～0.5	9	0.15	N-60°-E
SD-009	同	溝状遺構	中・近世	5D-92～96，6D-05・06？		0.7～1.8，底0.2～1.2	20	0.1～0.2	N-74°-W
SD-010	同	溝状遺構	中・近世	5D-82		0.6～0.7，底0.2～0.3	4	0.1	N-18°-E
SD-011	同	溝状遺構	中・近世	5D-72		0.6～0.7，底0.2～0.3	4	0.1	N-20°-W～N-40°-E
SD-012	同	溝状遺構	中・近世	5D-72・82・83		0.6～0.9，底0.4～0.5	9	0.05	N-74°-W
SD-013	同	溝状遺構	中・近世	5D-62・63・73・74・75・76・77・87・88		1.3～2.1，底0.3～0.7	24.5	0.5～0.6	N-77°-W。青磁碗(14c)，常滑片口鉢(13c)・甕・転用砥石，古瀬戸縁釉皿(15c後)，擂鉢(15c末～16c初)，唐津鉢(17c)，近世陶磁器・瀬戸磁器，近代磁器，刀子，鉄釘，北宋銭
SD-014	同	溝状遺構	中・近世	5D-62～64		0.7～1.1，底0.4～0.7	10	0.2～0.3	N-89°-E。近代磁器
SD-015	同	溝状遺構	中・近世	5D-53		0.5，底0.1～0.3	2+5+3	0.1	枝分かれする短い溝
SD-016	同	溝状遺構	中・近世	5D-42～44		0.6～0.8，底0.3～0.5	〈9〉	0.05	N-85°-E
SD-017	同	溝状遺構	中・近世	5D-33～35		0.9～1.1，底0.5～0.9	7	0.05	主体はN-69°-E
欠番	SD-018								
欠番	SD-019								常滑片口鉢転用砥石，砥石
SD-020	同	溝状遺構	中・近世	5D-24		0.5～1.2，底0.4～0.8	〈3.5〉	0.1	N-11°-E
欠番	SD-021								
SD-022	同	溝状遺構	中・近世	6C-15・25・26		1.4～1.9，底0.5～0.7	4.6	0.15	N-58°-E
SD-023	同	溝状遺構	中・近世	5D-70		0.3～0.4，底0.2～0.3	2.5	0.2	SD-025と途切れて連続
SD-024	同	溝状遺構	中・近世	5C-99		0.4，底0.2	1.7	0.2	
SD-025	同	溝状遺構	中・近世	5C-99		0.4，底0.2	2	0.2	SD-023と途切れて連続
SD-026	同	溝状遺構	中・近世	6D-15・25		0.6～1.0，底0.2～0.6	4.5	0.05	N-33°-E
欠番	SD-027								
SD-028	同	溝状遺構	中・近世	5D-68・78他		1.1～1.6，底0.4～1.0，南端部3.8，底3.4	27+5	0.1	N-17°-E。瀬戸擂鉢(16c)，志野皿(1600年頃)・鉄絵皿(17c初)，近世陶磁器
SD-029	同	溝状遺構	中・近世	5D-59・69・79・89・99他		2.3～2.6，底0.9～1.4，南端部SX-008手前1.3，底0.3	〈57〉	0.4～0.6	N-11°-E。北部N-30°-E。渥美甕(12～13c)・転用砥石，常滑片口鉢(13c・15c前)・壺・甕(13c他多量)・転用砥石，中世カワラケ，近世陶磁器，五輪塔，砥石，脇差，鉄滓
欠番	SD-030								板碑片
SD-031	SD-031	溝状遺構	中・近世	6C-09		0.7～1.3，底0.4～0.7	4.8	0.3	N-75°-W
欠番	SD-032								
SD-033	同	溝状遺構	中・近世	6D-32～35		1.5～2.3，底1.0～1.9	9	0.1	内部にピット群。N-17°-E。常滑壺・甕
SD-034	同	溝状遺構	中・近世	5D-88・97・6D-07		2.2～2.6，底1.4～1.6	15.6	0.4～0.8	平行するSD-035を切る。N-20°-E。常滑片口鉢・甕，近世磁器
SD-035	同	溝状遺構	中・近世	5D-88・98，6D-07・08		〈1.5～2.7〉，底〈0.7～2.1〉	15.4	0.3～0.4	平行するSD-034に切られる。N-17°-E。近世磁器

遺構No.	調査時No.	種類	時期	位置(グリッド)	平面形	規模(m)			特記事項・遺物等
						短軸(幅)	長軸(長さ)	深さ	
SD-036	同	溝状遺構	中・近世	5D-55・66・67他		2.1～2.6内に溝2条・0.5～1.0,底0.2～0.7	南北〈27.5〉,東西10	0.15	直角に曲がる。南北N-20°-E,東西N-66°-W。内部に2条の溝。須恵器甕転用砥石,常滑片口鉢(13c)・壺,近世陶磁器・瀬戸磁器,近代磁器,鉄鍋,飾り金具
SD-037	同	溝状遺構	中・近世	5C-78～98		0.4～0.6,底0.2～0.3	〈9〉	0.2	南端はSX001内。N-20°-E
SD-038A	同	溝状遺構	中・近世	6D-26・36		0.8～4.6,南端の溝2条の北側0.8～1.2,底0.3,南側0.4～0.7,底0.15～0.4	20(～25)	0.3～0.7,南端の溝0.2～0.4	N-80°-E 前後。南側に段差となって下がり,南端に溝2条。渥美甕(12～13c),常滑片口鉢・壺・甕(13c他多量)・転用砥石,瀬戸皿(17c),近世陶器,銅製鈴,北宋銭
SD-038B	同	溝状遺構	中・近世	6D-42～47	屈曲	1.1～3.0,底0.3～1.0	南北8,東西4	0.2～0.6,ピット0.25～0.3	底部にピット列。南北N-24°-E。常滑片口鉢,近世陶器,北宋銭
SD-039	同	溝状遺構	中・近世	4E-56・67～69		2.3以上,底1.3以上	〈19〉	0.9	調査区北端部。N-75°-W。SD-046出土遺物の中に本遺構のもの混じる可能性あり。
SD-040	同	溝状遺構	中・近世	6E-11		0.8,底0.2	南北4.5	0.4～0.5	N-18°-E
SD-041	同	溝状遺構	中・近世	6E-01・11		0.6～0.8,底0.3～0.4	6	0.2	N-21°-E。唐津鉢(17c)
SD-042	同	溝状遺構	中・近世	6D-61～91		0.8～1.4,底0.4～0.9	〈11.6〉	数cm	殆ど(3)の範囲。N-2～3°-E。渥美甕(12～13c)
SD-043	同	溝状遺構	中・近世	6D-60～90		0.4～0.9,底0.4～0.5	〈12.4〉	数cm	殆ど(3)の範囲。N-2～3°-E
欠番	SD-044	溝状遺構	近現代	5E-06・17					畑・土地の境界溝
SD-045	SD-031	溝状遺構	中・近世	5D-60・61		0.7～0.9,底0.3～0.4	5.2	0.35～0.5	調査時で既にダブリ。SX-002内。N-44°-E。
SD-046	SD-039	溝状遺構	中・近世	6D-17～19		0.4～0.5,底0.15	11.8	0.1	SX008に接する。N-33°-E。渥美甕(12～13c)・転用砥石,常滑片口鉢(14c)・甕,瀬戸擂鉢(15c末～16c初),五輪塔,砥石(遺物はSD-039のもの混じる可能性あり)
SD-047	無	溝状遺構	中・近世	5C-96,6D-06		0.5,底0.3	6.2	数cm	N-33°-E。SD-034・035と併行。
SX-001	同	大型竪穴遺構	中・近世	5C-97～99	不整形	5.6	8	0.2～0.3	浅い窪みの集合体的様相。キセル
SX-002	同	大型竪穴遺構・溝	中・近世	5-D60・61・62	不整形	6	〈7.6〉	0.1～0.4	SD-013に関連した排水場的窪地か。常滑壺,近世陶器,鉄滓
SX-003	同	屋敷地整形区画	中・近世	5D-86・87・96・97	SX-004と合わせて長方形	6.8	7		内部にSK-039他土坑・ピット。SX003はSX004を削り？SD034を埋めて造られ,SD013・SD035とは同期か。常滑甕・転用砥石
SX-004	同	屋敷地整形区画	中・近世	5D-74・75・84・85・94・95・96	SX-003と合わせて長方形	7.5	14		内部に掘立柱建物跡SB-005・土坑群。常滑片口鉢・甕・転用砥石,北宋銭
SX-005	同	大型竪穴遺構	中・近世	5E-70・71・80・81	不整方形	6.6	7.4	0.7	内部にピット・土坑。
SX-006	同	大型台地整形区画段整形	中・近世	6C-45～50～55		1.5	〈46〉	1m程の段差で北側下がる。	段差直下に底幅0.2～0.3m・深さ0.1mの溝が沿う。調査区全体に関わる段整形の端。常滑壺(13c)・甕・転用砥石,古瀬戸深皿(14c前),染付碗(中世末),瀬戸菊皿(17c),近世陶磁器・瀬戸磁器,近世カワラケ,近代磁器,砥石,火打ち石
SX-007	同	大型竪穴遺構	中・近世	4D-99・4E-80・90・5D-09	不整形	〈6.8〉	〈12.6〉	0.3～0.4。内部の溝0.1	内部に溝3・土坑・ピット等。常滑壺・甕(多量),近世陶磁器,近代磁器
SX-008	同	大型竪穴遺構(水溜施設か)	中・近世	6D-08・09・18	不整台形	4.3	6	0.6	SD-029の南端部で一体のものか。内部土坑・ピット。常滑片口鉢・壺・甕・転用砥石
SX-009	同	台地整形区画・大型竪穴遺構	中・近世	6D-19・29,6E-10・20	不整形	〈6〉	〈9.4〉	0.25	内部に溝・ピット群。掘立柱建物跡。常滑壺,近世陶器
SX-010	同	台地整形区画・大型竪穴遺構	中・近世	6D-72・73・82～84・92～94・7D-03・04	不整楕円形	〈8〉	15	0.75	内部には遺構確認されず。渥美甕(12～13c),瀬戸鉢(17c初),近世陶器
SB-003	同	掘立柱建物跡	中・近世	6D-67・68	方形	2.8	不明	0.65～0.9	南側殆どは調査区外
SB-004	同	掘立柱建物跡	中・近世	6D-66	方形	3.3？	不明	0.3～0.6	南側殆どは調査区外
SB-005	無	掘立柱建物跡	中・近世	5D-74・75・84・85	長方形	3.6(2間)	5.4(3間)	0.2～0.6	SX-004内。柱穴は整然とは並ばない。N-78°-W。SB006とは時期違うか。
SB-006	無	掘立柱建物跡	中・近世	5D-96・97・6D-06・07	正方形に近い	3.6	4.1	0.2～0.7	SX003,004,SD034と重複。N-68°-W。
SA-001	同	柵列	中・近世	5D-93,6D-03・04・05・15・16			18.6	0.25～0.35	N-67°-W。常滑壺・甕,中世カワラケ
SA-002	同	柵列	中・近世	6D-01・02			4.3	0.25～0.4	N-88°-W
SA-003	同	柵列	中・近世	5E-00・10			6.4	0.3	N-18°-E
SH-016	SK-016	柱穴	中・近世	5D-71	楕円形	0.81	1.25	0.45	覆土にドーナツ状に山砂入る。

遺構No.	調査時No.	種類	時期	位置(グリッド)	平面形	規模(m)			特記事項・遺物等
						短軸(幅)	長軸(長さ)	深さ	
SH-017	SK-017	柱穴	中・近世	5D-71	楕円形	0.66	0.87	0.60	覆土に山砂入る。
SH-018	SK-018	柱穴	中・近世	5D-72	楕円形	0.65	0.85	0.30	
SH-022	SK-022	柱穴２基か	中・近世	6D-02・03	楕円形	0.4	0.56	0.3	
SH-023	SK-023	柱穴２基か	中・近世	6D-02	楕円形	0.34	0.55	0.57	
SH-024	SK-024	柱穴か	中・近世	6D-02	円形	0.55	0.6	0.25	
欠番	無	柱穴・ピット	中・近世	全域					建物域以外
SK-001	同	土坑	中・近世	6C-06	長方形	0.54	1.08	0.31	
SK-002	同	土坑	中・近世	6C-16	楕円形	0.64	0.82	0.37	常滑甕
SK-003	同	土坑	中・近世	6C-16・17	不整楕円形	1.00	2.20	0.54	土坑２基重複。
SK-004	同	土坑(群)	中・近世	5C-97, 6C-07	不整形	3.2	4.8	1.5	土坑多数・溝の重複。
SK-005	同	土坑	中・近世	6D-00	円形	0.68	0.74	0.40	SD-008先端部
SK-006	同	火葬土坑	中・近世	6C-29	T字形	1.5	1.94	0.39	
SK-007	同	土坑	中・近世	6D-00・10	円形	0.90	1.01	0.38	
SK-008	同	土坑	中・近世	6D-00・10・01・11	不整楕円形	2.10	2.73	0.80	近世磁器
SK-009	同	土坑・ピット	中・近世	6D-11・12	不整長楕円形	0.50	4.05	0.40	突出部にピット列。白磁皿(14c)
SK-010	同	土坑・ピット	中・近世	6D-12・22	楕円形	0.67	1.12	0.54	内部にピット
SK-011	同	土坑・ピット	中・近世	6D-22・23	長方形	1.06	2.04	0.78	内部にピット
SK-012	同	土坑	中・近世	6D-01	楕円形	0.9	1.25	0.95	
SK-013	同	土坑	中・近世	5D-72	円形	0.61	0.67	0.33	
SK-014	同	土坑	中・近世	5C-99	長楕円形	0.7	1.4	0.25	SX-001内。２条の浅い溝状。
SK-015	同	土坑	中・近世	5D-92	楕円形	0.84	1.27	0.24	
SK-019	同	土坑	中・近世	5D-72	楕円形	0.70	0.80	0.33	
SK-020	同	土坑	中・近世	5D-83	円形	0.63	0.63	0.14	
SK-021	同	土坑	中・近世	5D-44	円形	0.78	0.78	0.32	
欠番	SK-025	住居のピット	中・近世	5D-50・51	不整楕円形	0.7	〈1.4〉		SX-002内, SI-007 (住居)のピット
SK-026	同	土坑	中・近世	5D-61・62	不整楕円形	1.12	1.76	0.36	SX-002内
SK-027	同	土坑	中・近世	5D-62	不整楕円形	1.05	1.56	0.43	
SK-028	同	土坑・ピット	中・近世	6D-13	楕円形	0.85	0.9	0.45	
SK-029	同	土坑	中・近世	5D-92	不整円形	0.74	0.85	0.18	
SK-030	同	土坑	中・近世	5D-83	円形	0.94	1.14	0.13	SX-004境
SK-031	同	土坑	中・近世	5D-83・84・93・94	不整楕円形	1.00	1.14	0.08	SX-004境
SK-032	同	土坑	中・近世	5D-84	楕円形	0.99	1.09	0.51	SX-004内
SK-033	同	土坑	中・近世	5D-95	不整楕円形	1.35	3.00	0.40	SX-004内
SK-034	同	土坑	中・近世	6D-13	楕円形	0.7	0.88	0.45	常滑片口鉢(13c)
SK-035	同	土坑	中・近世	6D-15	円形	1.65	1.69	0.34	
SK-036	同	火葬土坑	中・近世	6D-33	T字形	1.4	1.64	0.40	炭化物, 焼土, 骨粉, 飾り金具
SK-037	同	土坑	中・近世	6D-24	不整隅丸長方形	1.22	2.10	1.45	
SK-038	同	土坑	中・近世	6D-24	楕円形	0.84	1.10	0.14	
SK-039	同	土坑	中・近世	5D-86	長方形	0.80	1.35	0.28	SX-003内
SK-040	同	土坑	中・近世	5D-86	長方形	0.94	1.32	0.32	SX-003内
SK-041	同	土坑	中・近世	5D-86	長方形	0.92	1.94	0.24	SX-003内
SK-042	同	土坑	中・近世	5D-55	円形	0.74	0.75	0.20	
SK-043	同	土坑	中・近世	5D-85	隅丸方形	0.98	1.30	0.28	SX-004内
SK-044	同	土坑	中・近世	5D-66・76	長方形	0.86	2.00	0.51	
SK-045	同	火葬土坑	中・近世	6C-39	T字形	1.45	1.90	0.40	
SK-046	同	土坑	中・近世	6C-25	隅丸長方形	1.35	2.70	0.60	SD-022の両端がSK-046・047
SK-047	同	土坑	中・近世	6C-16	楕円形	1.38	1.74	0.26	
SK-048	同	土坑	中・近世	4E-81	楕円形	2.82	3.62	1.36	底部方形。鉄製工具？
SK-049	同	土坑	中・近世	4E-90	長方形	0.64	1.15	0.26	
SK-050	同	土坑	中・近世	4E-90	不整長方形	0.44	0.91	0.22	
SK-051	同	土坑	中・近世	6E-00	隅丸方形	1.8	0.3		
欠番	SK-052	撹乱	近・現代	6D-63・64					雁首銭
SK-053	同	粘土貼土坑	中・近世	6D-81・82	隅丸方形	1.8	1.85	0.25～0.4	壁から底に厚さ10cmで粘土貼り付け。
SK-054	同	土坑	中・近世	6D-65	隅丸方形	2.15	2.4	0.9	古瀬戸深皿(14c前)
SK-055	同	粘土貼土坑	中・近世	6E-12	不整楕円形	0.9	1.1	0.25	壁から底に厚さ数cmで粘土貼り付け。
SK-056	同	粘土貼土坑	中・近世	6E-02	不整楕円形	0.96	1.65	0.18	壁から底に厚さ数cmで粘土貼り付け。常滑片口鉢(14c)・甕
欠番	SK-057	撹乱	近・現代	6D-81					
欠番	SK-058	撹乱	近・現代	6D-71					
欠番	SK-059	撹乱	近・現代	6D-71					
欠番	SK-060	根の掘り起こし痕	近・現代	6D-61					常滑甕, 砥石
SK-061	同	粘土貼土坑	中・近世	6D-61	隅丸方形	1.8	2.32	0.6	壁から底に厚さ10cmで粘土貼り付け。常滑甕

第38表　八幡神社北(2)遺跡 中・近世 陶磁器類観察表

貿易陶磁器

挿図番号等	器種	部位	時代	型式・時期	胎土・整形・焼成・色調・釉等	出土地点	遺物番号
1, カラー, 白黒	白磁皿	口縁	中世	皿IX類(14世紀)	胎土：うすい灰色，やや砂様で硬質。長石釉　口禿。	SK-009	1
2, カラー, 白黒	青磁蓮弁文碗	胴～底	中世	碗Ⅲ類(B0類) 13世紀後半～14世紀前半	高台径(5.4)。胎土：灰色，微小気泡含む，均質硬質。高台部のみ釉の酸化で茶褐色。色調：内外面釉 青みを帯びたオリーブ色で厚い。高台畳付 無釉。外面 小起伏の蓮弁のレリーフ下部，内面 無文。龍泉窯系。	SD-013	3
3, カラー, 白黒	青磁鎬蓮弁文碗	胴	中世	碗 I -5b類(B1類) 13世紀中葉	胎土:灰色,やや砂様,均質硬質。色調:内外面 釉 オリーブ色。外面 蓮弁のレリーフ，内面 無文。龍泉窯系。	SI-012	22

国産陶器

瀬戸・美濃

挿図番号等	器種	部位	時代	型式・時期	胎土・整形・焼成・色調・釉等	出土地点	遺物番号
4, カラー, 白黒	縁釉皿	口縁	中世	古瀬戸後期Ⅳ期新段階(1460～1480年)	口径(10.0)。胎土：灰白色，硬質。口縁部灰釉が二次被熱で火ぶくれ状。	SD-013	1
5, カラー, 白黒	菊皿	底	近世	登窯初期(17世紀)	胎土：薄い灰褐色，硬質。整形：内外面 ノミによる菊花のレリーフ。釉：灰釉。	SX-006	5
6, カラー, 白黒	志野皿	口縁	近世	登窯 I ～2小期(17世紀前葉)	胎土：非常に薄い灰白色，微小気泡含む，硬質。釉：灰色に近い志野釉。全体に摩滅顕著。	SI-022	13
7, カラー, 白黒	灰釉皿	口縁	近世	登窯3，4小期(17世紀後葉)	胎土：やや褐色を帯びた白色，硬質。釉：外面口縁端から内面全面灰釉(灰色がかったうすいオリーブ色)。	SD-038A	1
8, カラー, 白黒	灯明皿	口縁～胴	近世	18世紀	口径(9.8)，底径(4.0)，器高2.2。胎土：薄灰褐色，若干気泡あり。整形：胴部下半 回転ヘラ削り。釉：錆釉漬け掛け。見込みに輪状の重ね焼き痕。	SD-036	4
9, カラー, 白黒	灯明皿	口縁	近世	18世紀	口径(10.8)。胎土：灰色，緻密，硬質。整形：横ナデ。釉：鉄釉 胴部拭き取り。	6D-05	1
10, カラー, 白黒	小杯	口縁	近世	18世紀	口径(6.4)。胎土：砂粒なし，微小気泡あり。整形：胴部下半回転ヘラ削り。釉：灰色の釉漬け掛け。	SX-006	3
11	小杯	口縁	近世	18世紀	口径(5.8)。胎土：砂粒なし，微小気泡あり，灰色の斑な斑点あり。整形：胴部回転ヘラ削り。色調：灰釉(うすい灰褐色)。	SX-006	3
12, カラー, 白黒	折縁深皿	口縁	中世	古瀬戸中期Ⅱ期(14世紀前葉)	胎土：薄い褐色。整形：内外面横ナデ。色調：灰釉 やや灰色を帯びたオリーブ色。穴山窯。	SK-054	1
13, カラー, 白黒	折縁深皿	口縁近く	中世	古瀬戸中期Ⅱ期(14世紀前葉)	胎土：薄い灰褐色，硬質。整形：外面胴部 回転ヘラ削り。釉：内面全面から外面上部に灰釉。	SX-006	5
14, カラー, 白黒	折縁皿	口縁	近世	登窯 I ～2小期(17世紀前葉)	口径(18～20)。胎土：うすい褐色から灰白色，硬質。整形：口縁部内外から内面 横ナデ，外面回転ヘラ削り。釉：内面全体～外面上部 灰釉(まだらなオリーブ色)。口縁部上部の窪みの釉溜まり緑色。	SX-010	3
15, カラー, 白黒	擂鉢	口縁近く	中世	大窯(1480～1610年)	胎土：薄い褐色，硬質。釉：内外面 黒褐色の錆釉。	SD-013	1
16, カラー, 白黒	擂鉢	胴	中世	大窯(1480～1610年)	胎土：薄い褐色，硬質。釉：内外面 黒褐色の錆釉。	SD-039 (046か)	1
カラー・白黒	志野鉄絵皿	胴	近世	登窯 I ～2小期(17世紀前葉)	志野釉	SD-028	1
白黒	志野皿	口縁	近世	大窯4後(1600年前後)	志野釉。無高台。口縁外反。	SD-028	1
白黒	志野皿	胴	近世	登窯 I ～2小期(17世紀前葉)	志野釉。無高台。	SD-028	1
	菊皿か	胴	近世	18世紀	灰釉	SD-036	2
白黒	志野皿	胴	近世	登窯 I ～2期(17世紀前葉)	志野釉。無高台。	SI-024	9
白黒	灯明皿	底	近世	18世紀	錆釉	SD-036	2
	灯明皿	口縁	近世	18世紀	鉄釉	SD-038A	1
	灯明皿	胴	近世	18世紀	錆釉	SI-055	1
	灯明皿	胴	近世	18世紀	鉄釉	6D-05	1
白黒	灯明皿	底	近世	18世紀	錆釉	Cトレンチ	7
	碗または皿	底	近世	18世紀	内面 灰釉	SI-025	33
	碗または皿	胴	近世	18世紀	灰釉(透明)	SI-032	1
	碗または皿	口縁	近世	18世紀	灰釉(透明～白濁釉)	Bトレンチ	7
	碗	胴	近世	18世紀	緑釉～白濁釉	SD-006	1
	碗	胴	近世	18世紀	灰釉(黄瀬戸釉)	SD-028	1
	碗	口縁～胴	近世	18世紀	灰釉(透明)	SD-029	36
	碗	口縁	近世	18世紀	染付	SD-029	46
	掛分碗	胴	近世	18世紀	灰釉・鉄釉	SD-029	17
	碗	胴	近世	18世紀	灰釉(透明)	SD-029	17
	碗	口縁	近世	18世紀	緑釉，透明釉	SD-036	2

挿図番号等	器種	部位	時代	型式・時期	胎土・整形・焼成・色調・釉等	出土地点	遺物番号
	碗	口縁	近世	18世紀	緑釉，透明釉	SD-036	2
	碗	胴	近世	18世紀	灰釉(透明)	SD-036	3
	碗	胴	近世	18世紀	透明釉	SD-036	3
	碗	口縁	近世	18世紀	緑釉，灰釉(透明釉)	SD-038A	1
	碗	口縁	近世	18世紀	灰釉，鉄釉	SD-038B	1
	天目茶碗	胴	中・近世		鉄釉	SI-032	1
	碗	口縁	近世	18世紀	外面 灰釉(透明)，内面 緑釉	SX-002	3
	碗	胴	近世	18世紀	外面 白濁釉，内面 灰釉	SX-007	25
	碗	胴	近世	18世紀	灰釉(透明)	SX-010	4
	碗	胴	近世	18世紀	灰釉(透明)。赤・緑色の色絵。	5D-67	1
	碗	胴	近世	18世紀	鉄釉	5D-67	1
	小杯	口縁	近世	18世紀	灰釉(透明)	SD-036	2
白黒	小杯	口縁	近世	18世紀	灰釉(透明)	SX-009	1
	小杯か	口縁	近世	18世紀	鉄釉	5E-13	1
白黒	擂鉢	胴	中世	大窯(15c末～16c末)	鉄釉	SD-028	5
	鉢	胴	近世	18世紀	鉄釉	SI-014	13
	鉢か	胴	近世	18世紀	鉄釉	Bﾄﾚﾝﾁ	2
	徳利	口縁	近世	18世紀	灰釉	SD-013か	1
	徳利	底	近世	18世紀	灰釉	SD-038A	1
	貧乏徳利	胴	近世	18世紀	灰釉	SX-006	5
	徳利	胴	近世	18世紀	灰釉	SI-054	1
	小壺か	口縁	近世	18世紀	飴釉	SD-038A	1
	香炉か	胴	近世	18世紀	鉄釉	SD-029	17
	香炉	口縁	中世か	古瀬戸後期(15世紀)	灰釉	SI-012	22

渥美

挿図番号等	器種	部位	時代	型式・時期	胎土・整形・焼成・色調・釉等	出土地点	遺物番号
63，白黒	甕	底	中世	12c後半～13c前半	底径(15.2)。胎土:白色微粒殆ど含まず，ざらつきあり。調整:外面 ヘラナデ，底部 圧痕。焼成：良好。色調：内面 ゴマ振り状自然釉 灰色，外面 黒褐色，断面 灰白色。	Cﾄﾚﾝﾁ	13
白黒	甕	胴	中世	12c後半～13c前半	自然釉ゴマ振り状に付着。	SD-029	7
白黒	甕	肩	中世	12c後半～13c前半	肩に沈線1条あり，自然釉。	SD-038A	1
白黒	甕	胴	中世	12c後半～13c前半	無釉	SD-038A	23
白黒	甕	肩	中世	12c後半～13c前半	自然釉(黒褐色)，渥美ではない可能性あり。	SD-039 (046か)	1
	甕	胴	中世	12c後半～13c前半	内外面 叩き目あり。	SD-042	6
白黒	甕	胴	中世	12c後半～13c前半	無釉	SX-010	2
白黒	甕	肩	中世	12c後半～13c前半	自然釉ゴマ振り状に付着。	SX-010	1
白黒	甕	胴	中世	12c後半～13c前半	無釉	5D-67	1
	甕	胴	中世	12c後半～13c前半	胎土：黄橙色。自然釉。渥美ではない可能性あり。	Fﾄﾚﾝﾁ	5

常滑

挿図番号等	器種	部位	時代	型式・時期	胎土・整形・焼成・色調・釉等	出土地点	遺物番号
36，ｶﾗｰ，白黒	片口鉢Ⅰ類	口縁(1/8)	中世	5型式(13世紀前葉)	口径(26.0)。胎土:白色・灰白色砂粒，5～7㎜の砂礫多量含む，微小気泡多い。整形：横ナデ。焼成：硬質。色調：内面～口縁 灰色，外面 自然釉付着部分 黒色。内面下部摩滅。	5D-77	2
37，ｶﾗｰ，白黒	片口鉢Ⅰ類	口縁	中世	5型式(13世紀前葉)	口径(30.0)。胎土：白色・灰白色砂粒，5㎜程の砂礫多量含む，微小気泡多い。整形：横ナデ。焼成：硬質。色調：内面 灰色，外面 黒色に近い灰色。内面下部摩滅。	SD-013	5，6，7
38，ｶﾗｰ，白黒	片口鉢Ⅰ類	口縁	中世	5型式(13世紀前葉)	胎土：白色・灰白色砂粒多量含む。整形：横ナデ。焼成：硬質。色調：内外面 灰色。口唇部灰被り。内面使用痕なし。	SK-034	1，2
39，白黒	片口鉢Ⅰ類	口縁	中世	5型式(13世紀前葉)	胎土：白色・灰白色砂粒多量含む，5㎜の白色砂礫少量含む。焼成：硬質(須恵器質)。色調：内外面 灰色。	SD-029	22
40，ｶﾗｰ，白黒	片口鉢Ⅰ類	口縁	中世	5～6a型式(13世紀中葉)	胎土・焼成：高火度焼成，長石・石英熔解し器面に吹き出し。色調：やや緑を帯びた灰色。	SD-013	1
41，白黒	片口鉢Ⅰ類	口縁	中世	5～6a型式(13世紀中葉)	40と同一個体の片口部。整形：内面に指頭痕あり。	SD-013	12
42，白黒	片口鉢Ⅰ類	底(1/6)	中世	4型式？ (12世紀末～13世紀初)	高台径(11.8)。胎土：白色・灰白色砂粒多量含む。焼成：良好。色調：内外面 灰色(須恵器質)。内面摩滅。	SI-037	1
43，白黒	片口鉢Ⅰ類	底(1/4)	中世	5～6a型式(13世紀中葉)	底径(12.0)。胎土：白色砂粒多量含む。3～5㎜の白色砂礫多く含む。整形：外面 横ナデ。外面下部 ぬた痕。焼成：底面は白色でやや不良，他は良好で硬質。色調：内面 灰色，外面 黒色。内面摩滅。断面転用砥石として摩滅。	SD-029	4
						5D-77	3
77	片口鉢Ⅰ類	底	中世	不明	高台あり。石英粒多い。色調：灰色。転用砥石。	SD-029	24
79	片口鉢Ⅰ類	底	中世	不明	高台あり。色調：灰色，外面光沢あり。転用砥石。	SK-003	4

挿図番号等	器種	部位	時代	型式・時期	胎土・整形・焼成・色調・釉等	出土地点	遺物番号
80	片口鉢Ⅰ類	底	中世	不明	色調：灰色。転用砥石	SD-013	7
白黒	片口鉢Ⅰ類	口縁	中世	5型式(13世紀前葉)	色調：灰色	SD-034	8
白黒	片口鉢Ⅰ類	口縁	中世	6a型式(13世紀後葉)	色調：灰色	SD-038A	1
白黒	片口鉢Ⅰ類	胴	中世	不明	色調：灰色	SD-034	9
	片口鉢Ⅰ類	胴	中世	不明	常滑ではない可能性もあり。	SD-029	22 (一括)
44, 白黒	片口鉢Ⅱ類	口縁	中世	5～6b型式(13世紀前葉～末)	胎土：砂・礫目立たない，微小気泡有り，比較的緻密。整形：横ナデ。焼成：良好，硬質。色調：内外面 褐色，口縁端から内面 光沢あり。	SD-029	22
45, 白黒	片口鉢Ⅱ類	口縁	中世	5～6b型式(13世紀前葉～末)	胎土：白色砂粒・砂礫含む。整形：口縁部 横ナデ。焼成：良好。色調：外面 褐色，口縁端から内面 自然釉 深緑色。	SD-036	1
46, 白黒	片口鉢Ⅱ類	口縁	中世	8型式(14世紀後半)	胎土：白色砂粒・2～3㎜の砂礫多く含む。整形：口縁部 横ナデ，以下ナデ。焼成：良好，硬質。色調：外面 褐色，口縁端から内面 自然釉 茶褐色。断面 黒色。口縁端部は転用砥石として使用。	SD-039 (046か)	1
47, ｶﾗｰ, 白黒	片口鉢Ⅱ類	口縁	中世	8型式(14世紀後半)	胎土：白色砂粒・砂礫多く含む。整形：口縁部 横ナデ，以下外面指頭ナデ。焼成：良好，外面に鉄分の吹き出しあり。色調：外面 褐色，内面 褐色で光沢あり。	SK-056	2
						ｲﾄﾚﾝﾁ	4
48, ｶﾗｰ, 白黒	片口鉢Ⅱ類	口縁	中世	9型式(15世紀前半)	胎土：灰色，気泡多く含む，大粒砂粒殆どなし，微細砂粒のみ。整形：口縁部 横ナデ，以下外面指頭ナデ。焼成：良好，硬質。色調：外面 褐色，内面 自然釉 緑色を帯びた灰色。	SD-029	33
49, 白黒	片口鉢Ⅱ類	口縁	中世	9型式(15世紀前半)	胎土：白色砂粒・砂礫多量含む。整形：口縁部 横ナデ，以下外面無調整，内面 ナデ。焼成：良好。色調：黒褐色から黒灰色。自然釉掛からず。	5E-03	1
50, ｶﾗｰ, 白黒	片口鉢Ⅱ類	底部	中世	不明	胎土：白色砂粒の大粒・礫片多量含む，外面に鉄分の吹き出しあり。整形：胴部 ヘラナデ，底部 無調整。焼成：良好，硬質。色調：外面 茶褐色，内面 ゴマ振り状の自然釉付着で一部灰褐色。内面 摩滅顕著。	SD-038A	19
51, 白黒	片口鉢Ⅱ類	底部	中世	不明	胎土：白色砂粒多量含む。整形：外面胴部 棒状圧痕，底部無調整。焼成：良好。色調：黒色が強い灰色。内面摩滅顕著。	SX-008	2
52, 白黒	片口鉢Ⅱ類	底部	中世	不明	胎土：白色微砂粒含む。整形：外面胴部 指頭調整か，底部無調整。焼成：良好，硬質。色調：外面 茶褐色，内面 ゴマ振り状自然釉付着。内面摩滅少々。	SD-029	5
白黒	片口鉢Ⅱ類	口縁	中世	7～8型式(14世紀代)	褐色系	SX-004	10
白黒	片口鉢Ⅱ類	胴	中世	不明	褐色系	SD-038A	1, 16, 18
	片口鉢Ⅱ類	胴	中世	不明	褐色系	SD-013	2
	片口鉢Ⅱ類	胴	中世	不明	褐色系	SD-038B	2
	片口鉢Ⅱ類	胴	中世	不明	褐色系	SD-038B	1
53, ｶﾗｰ, 白黒	壺	口縁	中世	6a型式(13世紀中葉)	胎土：白色微砂粒含む，緻密。調整：内面 叩き目あり。焼成：良好，硬質。色調：黒色。自然釉付着，外面剥落。	SX-006	2
54, ｶﾗｰ, 白黒	壺	口縁	中世	5～6b型式(13世紀前葉～末)	口縁端部折り返し玉縁状口縁か。胎土：白色微砂粒多く含む。調整：横ナデ。焼成：良好。色調：外面 光沢ある褐色，口縁端～内面 自然釉付着 深緑色，断面 黒色。	5E-14	1
55, ｶﾗｰ, 白黒	甕	口縁	中世	6b型式(13世紀末)	口縁端部折り返し上へへつまみ出し。胎土：白色・灰白色砂粒多く含む。調整：横ナデ。焼成：良好。色調：褐色。	SD-038A	1
56, ｶﾗｰ, 白黒	甕	口縁	中世	6a型式(13世紀中葉)	胎土：白色・灰白色微砂粒多量含む，重量感あり。調整：横ナデ。焼成：良好，硬質，須恵器風。色調：灰黒色。	SD-038A	1, 12
57, ｶﾗｰ, 白黒	甕	口縁	中世	6a型式(13世紀中葉)	胎土：白色微砂粒，2㎜大砂礫多量含む，大きな気泡あり，粗い。焼成：良好，硬質，須恵器風。色調：外面 灰色，内面 黒色。外面の自然釉剥落。	SD-038A	27
58, ｶﾗｰ, 白黒	甕	口縁	中世	6a型式(13世紀中葉)	胎土：白色微砂粒多量含む。焼成：良好，硬質。色調：口縁～外面 光沢ある茶褐色，内面 黒褐色。ゴマ振り状自然釉。	SD-038A	34
59, ｶﾗｰ, 白黒	甕	口縁	中世	6a型式(13世紀中葉)	胎土：砂粒目立たず，微小気泡あり。焼成：高火度焼成，長石・石英溶解，鉄分浸みだし，硬質。色調：口縁端～外面 自然釉付着 光沢ある深緑色，内面 褐色，断面 灰色。	SD-029	23
60, ｶﾗｰ, 白黒	甕	口頸	中世	不明	折り返し部欠損。胎土：白色微砂粒・5㎜大砂礫多く含む。調整：横ナデ。焼成：良好。色調：内外面 褐色。断面 黒色。	SD-029	42
61, ｶﾗｰ, 白黒	小型甕	口縁～肩 (1/5)	中世	6b型式(13世紀末)	口径(18.4)，胴径(22.0)。胎土：白色砂粒・3㎜大砂礫多量含む。整形：口辺部から外面 横ナデ，内面 指頭による横ナデ。焼成：表面は良，芯部やや不良。色調：内外面 褐色，外面 薄い光沢。	SD-038A	1, 24
62, ｶﾗｰ	甕	口縁～肩	中世	6b～7型式(13世紀末～14世紀前葉)	口径(32.0)。胎土：5㎜大砂粒含む，1㎜程の灰白色砂粒多く含む。整形：内面 指頭圧痕。焼成：良好，硬質，長石・石英溶解し表面に吹き出し。色調：外面緑灰色～灰色，内面 黒褐色，断面 灰白色。口縁端～外面自然釉，上部剥離。	SD-038A	15
64, ｶﾗｰ, 白黒	甕	底	中世	不明	底径(13.8)。胎土：微砂粒目立たず，大粒砂粒少量含む。調整：外面 縦方向ヘラナデ，内面 横方向ヘラナデ。底部 無調整，砂付着。焼成：良好，硬質，長石・石英熔解し，器表に光沢ある白色・灰白色の粒状物質多くあり。色調：灰黒色，外面自然釉 深緑色。底部に粘土塊(トチン)融着し，底部ゆがみ大。	SX-006	5
65, 白黒	甕	底	中世	不明	底径(16.4)。胎土：白色微砂粒多く含む。調整：外面 ナデ，内面 ヘラナデ。底部 無調整，砂付着。焼成：良好，硬質。色調：外面 褐色，内面 黒褐色～自然釉による深緑色，断面 灰色(須恵器色)。	SD-029	43
66, ｶﾗｰ, 白黒	甕	底	中世	不明	底径(12.8)。胎土：白色微砂粒多く含む。調整：底部 無調整，砂付着。焼成：良好，硬質，長石・石英溶解。色調：外面 褐色，内面 自然釉付着 深緑色，断面 灰白色。	SX-007	12
67, 白黒	甕	底	中世	不明	胎土：4㎜大の灰色砂粒少量含む，微砂粒あまり含まず。調整：外面 ヘラナデ。底部 無調整。焼成：良好。色調：外面 茶褐色～黒色，内面 自然釉 深緑，断面 いぶし瓦色。	SD-034	9

挿図番号等	器種	部位	時代	型式・時期	胎土・整形・焼成・色調・釉等	出土地点	遺物番号
68, ｶﾗｰ, 白黒	小型甕	底	中世	不明	胎土:白色微砂粒含む。調整:内面 ナデ。底部 無調整,砂付着。焼成：やや不良。色調：内外面 薄い褐色。	Bﾄﾚﾝﾁ	12
	壺	胴	中世	不明	灰色系	SA-001	9
	甕	肩	中世	不明	緑色系(自然釉付着による)	SA-001	4
	甕	胴	中世	不明	緑色系(自然釉付着による)	SA-001	4
	甕	胴	中世	不明	緑色系(自然釉付着による)	SA-001	4
ｶﾗｰ・白黒	甕	肩	中世	不明	緑色系(自然釉付着による)	SD-004	1
白黒	甕	肩	中世	不明	緑色系(自然釉付着による)	SD-005	14
	甕	胴	中世	不明	灰色系	SD-013	6
	甕	胴	中世	不明	灰色系	SD-013	5
	甕	胴	中世	不明	褐色系	SD-013	2
75	甕	胴	中世	不明	褐色系。転用砥石	SD-013	3
白黒	甕	肩	中世	不明	緑色系(自然釉付着による) 21と同一か	SD-013	4
	甕	胴	中世	不明	灰色系	SD-029	3
	甕	胴	中世	不明	灰色系	SD-029	46
白黒	壺	肩	中世	不明	褐色系	SD-029	40
	甕	胴	中世	不明	褐色系	SD-029	11
76	甕	胴	中世	不明	褐色系。転用砥石	SD-029	20
白黒	甕	胴	中世	不明	緑色系(自然釉付着による)	SD-029	37
	甕	肩	中世	不明	緑色系(自然釉付着による)	SD-029	46
	甕	胴	中世	不明	灰色系	SD-033	1
	壺	胴	中世	不明	褐色系	SD-033	1
	甕	胴	中世	不明	褐色系	SD-034	9
						6D-06	1
	壺	肩	中世	不明	褐色系	SD-036	4
	壺	胴	中世	不明	緑色系(自然釉付着による)	SD-038	3
78	甕	肩	中世	不明	灰色系。転用砥石	SD-038A	1
	甕	頚	中世	不明	灰色系	SD-038A	22
	甕	胴	中世	不明	灰色系	SD-038A	11
	甕	胴	中世	不明	灰色系	SD-038A	17
	甕	肩	中世	不明	灰色系	SD-038A	35
	甕	胴	中世	不明	灰色系	SD-038A	1
	甕	胴	中世	不明	灰色系	SD-038A	1
	壺	頚	中世	不明	灰色系	SD-038A	1
	甕	胴	中世	不明	灰色系	SD-038A	1
	甕	胴	中世	不明	灰色系。同一個体	SD-038A	1
						SD-038A	1
						SD-038A	6
白黒	壺	胴	中世	不明	褐色系	SD-038A	1
白黒	壺	胴	中世	不明	褐色系	SD-038A	1
	壺	肩	中世	不明	褐色系	SD-038A	1
	甕	胴	中世	不明	褐色系	SD-038A	33
	甕	胴	中世	不明	褐色系	SD-038A	1
	甕	胴	中世	不明	褐色系	SD-038A	26
	甕	胴	中世	不明	褐色系	SD-038A	1
	甕	胴	中世	不明	褐色系	SD-038A	1
	甕	肩	中世	不明	褐色系	SD-038A	1
	壺	胴	中世	不明	褐色系	SD-038A	1
	壺	胴	中世	不明	褐色系	SD-038A	?
ｶﾗｰ・白黒	甕	肩	中世	不明	褐色系。同一個体	SD-038A	4
						SD-038A	9
						SD-038A	30
						SD-038A	10
						SD-038A	1
	甕	胴	中世	不明	褐色系。同一個体	SD-038A	1
						SD-038A	1
						SD-038A	1
						SD-038A	1
						SD-038A	1
	壺	胴	中世	不明	褐色系。同一個体	SD-038A	1
						SD-038A	1
白黒	甕	肩	中世	不明	緑色系(自然釉付着による)	SD-038A	20
	甕	胴	中世	不明	緑色系(自然釉付着による)	SD-038A	1
	甕	胴	中世	不明	緑色系(自然釉付着による)	SD-038A	28

挿図番号等	器種	部位	時代	型式・時期	胎土・整形・焼成・色調・釉等	出土地点	遺物番号
	甕	肩	中世	不明	緑色系(自然釉付着による)	SD-038A	1
	甕	胴	中世	不明	褐色系	SD-038B	1
	甕	胴	中世	不明	灰色系	SK-008	1
	甕	胴	中世	不明	褐色系	SK-056	3
	甕	胴	中世	不明	灰色系。同一個体	SK-060	1
						SD-038A	2
	甕	胴	中世	不明	灰色系	SK-061	1
	甕	肩	中世	不明	灰色系	SK-061	1
	甕	肩	中世	不明	灰色系	SX-002	4
	壺	胴	中世	不明	灰色系	SX-002	6
	甕	胴	中世	不明	灰色系	SX-003	3
	甕	胴	中世	不明	緑色系(自然釉付着による)	SX-003	2
	甕	肩	中世	不明	緑色系(自然釉付着による)	SX-004	4
72	甕	胴	中世	不明	灰色系。転用砥石	SX-004	3
	甕	胴	中世	不明	灰色系	SX-006	5
	甕	肩	中世	不明	褐色系	SX-006	1
	甕	胴	中世	不明	褐色系	SX-006	5
73	甕	胴	中世	不明	緑色系。転用砥石	SX-006	5
	甕	胴	中世	不明	緑色系(自然釉付着による)	SX-006	5
	甕	胴	中世	不明	灰色系。同一個体	SX-006	5
						SD-038A	1
	甕	胴	中世	不明	灰色系	SX-007	25
白黒	甕	肩	中世	不明	褐色系	SX-007	13
白黒	壺	肩	中世	不明	褐色系	SX-007	23
	甕	胴	中世	不明	褐色系	SX-007	9
	甕	胴	中世	不明	褐色系	SX-007	20
	壺	肩	中世	不明	褐色系	SX-007	25
白黒	甕	胴	中世	不明	緑色系(自然釉付着による)	SX-007	3
白黒	甕	肩	中世	不明	緑色系(自然釉付着による)沈線あり	SX-007	2
	甕	胴	中世	不明	灰色系	SX-008	3
74	甕	胴	中世	不明	灰色系。転用砥石	SX-008	3
	壺	胴	中世	不明	褐色系	SX-008	1
	甕	肩	中世	不明	緑色系(自然釉付着による)	SX-008	1
	壺	胴	中世	不明	褐色系	SX-009	1
	壺	胴	中世	不明	褐色系	SX-009	1
	甕	肩	中世	不明	灰色系	SI-003	1
	甕	胴	中世	不明	褐色系	SI-047	1
	甕	胴	中世	不明	緑色系(自然釉付着による)	SI-055か	1
	甕	胴	中世	不明	灰色系	5E-14	1
白黒	甕	肩	中世	不明	褐色系	6D-48	1
	甕	底	中世	不明	褐色系	6D-48	1
ｶﾗｰ・白黒	甕	口縁	中世	不明	褐色系	6D-49	1
	甕	胴	中世	不明	褐色系	Aﾄﾚﾝﾁ	6
	甕	胴	中世	不明	灰色系	Bﾄﾚﾝﾁ	10
	壺	胴	中世	不明	褐色系	Bﾄﾚﾝﾁ	10
	甕	胴	中世	不明	褐色系	Cﾄﾚﾝﾁ	8
	甕	胴	中世	不明	褐色系	Cﾄﾚﾝﾁ	8
	甕	胴	中世	不明	緑色系(自然釉付着による)	Cﾄﾚﾝﾁ	12
	甕	肩	中世	不明	緑色系(自然釉付着による)沈線あり	Cﾄﾚﾝﾁ	8

唐津

挿図番号等	器種	部位	時代	型式・時期	胎土・整形・焼成・色調・釉等	出土地点	遺物番号
	鉢	小片	近世	17～18世紀	胎土：褐色。内面 灰白色釉の文様。透明釉。	SD-013	10
	鉢	小片	近世	17～18世紀	胎土：褐色。内外面 灰白色釉の文様。透明釉。	SD-041	1
	鉢	小片	近世	17～18世紀	胎土：褐色。外面 鉄釉，内面 灰白色釉の文様。透明釉。	SI-012	22

堺

挿図番号等	器種	部位	時代	型式・時期	胎土・整形・焼成・色調・釉等	出土地点	遺物番号
17，ｶﾗｰ，白黒	擂鉢	口縁	近世	19世紀	胎土:白色微砂粒多く含む,礫殆どなし。焼成:焼き締め。色調:口縁端部 黒褐色，体部 褐色。卸目摩滅少ない。	SI-012	22
18，ｶﾗｰ，白黒	擂鉢	底	近世	18～19世紀	底径(13.4)。胎土：白色微砂粒・3㎜の砂礫含む，緻密。底部砂付着,簀の子状圧痕。焼成:焼き締め。色調:内外面 黒褐色,内面に光沢あり，断面 茶褐色(レンガ色)。見込み摩滅顕著。底部端部摩滅。	6D-19	2
白黒	擂鉢	胴	近世	18～19世紀	色調：胎土 橙色，内外面 赤灰色	SI-034	2

産地不明陶器

挿図番号等	器種	部位	時代	型式・時期	胎土・整形・焼成・色調・釉等	出土地点	遺物番号
19, ｶﾗｰ, 白黒	小壺	口縁～肩	中・近世	不明	産地不明。胎土:白色微砂粒多量含む。3㎜の白色砂を1点含む。二次被熱で器面荒れる。色調：黒色。施釉か否か不明。	SD-036	4
20, ｶﾗｰ, 白黒	壺か	底	近世末？	不明	底径(3.6)。産地不明。胎土：プラスチック状の非常に緻密な土，硬質。整形：底部 回転糸切り。釉：ペンキ状の黒褐色の鉄釉。内面灰被る。	SD-029	38
白黒	壺	胴	不明	不明	鉄釉，被熱 産地不明	SX-007	25
白黒	壺か	胴	不明	不明	内外面 鉄釉，被熱	SD-028	1
白黒	壺	胴	不明	不明	鉄釉	SD-028	1
	壺	胴	不明	不明	鉄釉，灰釉垂れ，胎土須恵器質	SD-029	32
	壺または瓶	底	不明	不明	内面底 灰釉垂れ，胎土磁器質的	SI-047	1

国産磁器

肥前　磁器

挿図番号等	器種	部位	時代	型式・時期	胎土・整形・焼成・色調・釉等	出土地点	遺物番号
21, ｶﾗｰ, 白黒	白磁皿	口縁	近世	18世紀	口径(13.6)。胎土：緻密。色調：灰白色釉。	SX-007	25
22, ｶﾗｰ, 白黒	染付輪禿皿	底	近世	17世紀後半	高台径(4.2)。胎土：精選，緻密。整形：底部 回転ヘラ削り。色調：白色透明釉漬け掛け，その他は灰白色。見込み蛇の目釉剥ぎ。高台畳付に微細砂付着。	SI-023	2
24, ｶﾗｰ	そば猪口	口縁～底	近世	18世紀	口径(7.0)，底径(5.4)，器高5.4。胎土：やや青みがかった白色。整形：蛇の目凹型高台。染付：やや黒ずんだ青。釉：若干青みを帯びる。底部釉はぎ取り。	Fﾄﾚﾝﾁ	7
	皿	胴～底	近世	18世紀	染付(見込 編目文か) 5D-67-1と同一個体。	Bﾄﾚﾝﾁ	8
	皿か	小片	中・近世		白磁	SD-013	13
	紅皿	小片	近世	18～19世紀	白磁	SD-034	9
	皿	口縁	近世	18世紀	染付(内面 草文)	SD-036	3
ｶﾗｰ	三角高台皿か	底	近世	17世紀後半	見込み花弁文か。底部銘「富貴銘器」か。明染付E群(16世紀末～17世紀初頭)の可能性もあり。	SX-006	3
	皿	底	近世	18世紀	染付(鳥等？文様，見込 花文)	SX-007	25
	皿	胴	近世	18世紀	染付(外面 唐草文，内面 絵柄か) Bトレンチ-8と同一個体。	5D-67	1
	輪禿皿	胴	近世	17～18世紀	染付または白磁	Eﾄﾚﾝﾁ	4
	碗または皿	底部	近世	不明	白磁(長石釉)	SD-013	12
	丸碗か	口縁	近世	18世紀	染付(外面 二重網目文，内面 網目文)	SD-028	1
	碗	底	近世	18世紀	染付(外面 胴～高台横縞，見込 線画)	SD-028	5
	碗か	胴	近世	18世紀	白磁 被熱	SD-028	1
	碗	胴	近世	18世紀	染付	SD-028	1
	丸碗か	口縁	近世	18世紀	染付(草花文か)	SD-029	46
	丸碗か	胴	近世	18世紀	染付(圏線)	SD-029	47
	碗	底	近世	18世紀	染付(横縞状文様)	SD-035	2
	厚手碗	底	近世	18世紀	染付(胴下～高台 圏線)	SD-036	2
	筒茶碗	口縁	近世	18世紀	染付(格子文他絵柄)	SD-036	3
	碗	口縁	近世	18世紀	染付(内外面 薄い圏線)	SD-036	3
	碗	口縁	近世	18世紀	染付(草文か)	SD-036	2
	筒茶碗	口縁	近世	18世紀	染付(内外面 網目文)	SD-036	3
	碗	胴	近世	18世紀	染付または白磁	SD-036	3
	碗	胴	近世	18世紀	染付(草文か)	SK-008	1
	碗	胴	近世	18世紀	染付(花文)	SX-006	3
	碗	口縁	近世	18世紀	染付(草文)	SX-006	3
	丸碗か	口縁	近世	18世紀	染付(内外面 篆書連続文)	SX-007	25
	厚手碗	口縁	近世	18世紀	染付(草文か)	SX-007	25
	丸碗	底	近世	18世紀	染付(外面胴下部～高台 圏線，底裏銘「枠渦福」,)	SI-012	22
	碗	胴	近世	18世紀	染付(内外面 草文か)	SI-012	22
	碗	胴	近世	18世紀	染付(内面 草花文か)	SI-012	22
	碗	胴	近世	18世紀	染付(内外面 圏線)	SI-012	22
	碗	胴	近世	18世紀	染付	SI-012	22
	碗	胴	近世	18世紀	染付または白磁	SI-012	22
	碗	口縁	近世	18世紀	染付(口縁外面 圏線)	SI-032	1
	碗	胴	近世	18世紀	染付(草花文か)	SI-032	1
	碗	口縁	近世	18世紀	染付(梅樹文か)	SI-038	1
	碗	底	近世	18世紀	染付(高台境 圏線)	SI-040	1
	小碗	底	近世	18世紀	染付(山水文か)	SI-040	1
	碗	胴	近世	18世紀	染付(草花文か)	5E-10	1
	碗か	胴	近世	18世紀	白磁 被熱	5E-10	1
	丸碗か	口縁	近世	18世紀	染付(草文)	5D-67	1
	碗	胴	近世	18世紀	染付(草文か)	5D-67	1

挿図番号等	器種	部位	時代	型式・時期	胎土・整形・焼成・色調・釉等	出土地点	遺物番号
	厚手碗か	胴	近世	18世紀	染付(梅樹文)	Bﾄﾚﾝﾁ	9
	碗	胴	近世	18世紀	染付(花文)	Dﾄﾚﾝﾁ	10
	小杯	口縁	近世	18世紀	青磁。端反。	SD-013	1
	小杯か	底	近世	18世紀	白磁。被熱か。	SX-007	25
	青磁小杯か	底	近世	18～19世紀	青磁釉	SI-007	12
	小杯	口縁	近世	18世紀	白磁。外面 微隆起横細線。	SI-032	1
	瓶	胴	近世	18世紀	染付(一条線)	Eﾄﾚﾝﾁ	1

瀬戸・美濃　磁器

挿図番号等	器種	部位	時代	型式・時期	胎土・整形・焼成・色調・釉等	出土地点	遺物番号
23, ｶﾗｰ	仏供具	杯部	近世	18世紀末～19世紀前半	口径(6.0)。胎土：白色，緻密。釉：染付(若干青み，全体として明るく透明，発色明るい。)	SI-012	22
	皿	胴	近世	18世紀末～19世紀前半	染付(外面 網文か，内面 不明)	SI-012	22
	皿	胴	近世	18世紀末～19世紀前半	無文か	SI-012	22
	碗	胴	近世	18世紀末～19世紀前半	染付(草花文か)	SD-036	4
ｶﾗｰ	丸碗か	口縁	近世	18世紀末～19世紀前半	染付(簑傘人物並ぶ)	SX-006	5
	端反碗	口縁	近世	18世紀末～19世紀前半	染付(捻子花文か)	SI-013	5
	湯呑碗か	口縁	近世	18世紀末～19世紀前半	染付(人物か)	5D-67	1
	小杯	口縁	近世	18世紀末～19世紀前半	染付(飛鳥文か)	SD-013	12
	鉢	胴	近世	18世紀末～19世紀前半	染付(内外面 蓮池文)	SX-006	3

近代磁器

挿図番号等	器種	部位	時代	型式・時期	胎土・整形・焼成・色調・釉等	出土地点	遺物番号
	皿か	胴	近代	19世紀後半	草花文	SD-013	12
	皿	口縁～底	近代	19世紀後半	印刷染付(草文)	SX-006	3
	皿	口縁～底	近代	19世紀後半	型紙印刷(緑色　草花文)	Dﾄﾚﾝﾁ	7
	皿	口縁	近代	19世紀後半	型紙印刷(外面　C字密集文様，内面 Y字並び)	Cﾄﾚﾝﾁ	2
	碗または皿	胴	近代	19世紀後半	白磁	SX-006	3
	杯か	口縁	近代	19世紀後半	緑色　草文	SD-036	4
	碗	口縁	近代	19世紀後半	外面口縁端より下塗りつぶし的文様。	SD-014	2
	碗	口縁	近代	19世紀後半	型紙印刷(多色　幾何学文，花文か)	SX-007	3

土器・土製品

カワラケ

挿図番号等	器種	部位	時代	型式・時期	胎土・整形・焼成・色調・釉等	出土地点	遺物番号
25, 白黒	坏か	口縁(1/4)	中世	13～14世紀	口径(12.0)。胎土：金色・銀色・灰色の微砂粒多く含む。整形：横ナデ。焼成：良好。色調：薄い褐色。	5D-97	1
26, 白黒	小皿	胴	中世	13～14世紀	口径(8.0)，底径(5.6)，器高1.8。胎土：銀色・灰色微砂粒多く含む。断面中に植物繊維痕跡。整形:体部 横ナデ，底部(外周) 回転ヘラ削り。焼成：良好。底部調整不明。	SD-005	1
27, 白黒	皿	口縁(1/6)	近世	18世紀後半	口径(9.0)。胎土:白色微砂粒・鉄分粒含む。焼成:良好，硬質。色調：やや赤みを帯びた褐色。	SX-006	2
28, 白黒	皿	底(3/4)	中世	13～14世紀	底径5.8。胎土：銀色・灰色の微砂粒含む，鉄分粒非常に多く含む，微小気泡多く含む。整形：見込みにリング状窪み，底部 静止糸切り。焼成：不良。色調：赤みを帯びた褐色。	SA-001	6
29, 白黒	坏か	底(4/5)	中世	13～14世紀	底径5.1。胎土：白色・灰色微砂粒多く含む，微小気泡含む。整形:内面なめらか,底部 回転糸切り。焼成:やや不良。色調:やや赤みを帯びた褐色，部分的に二次被熱で灰色に変色。	SD-029	36
30, 白黒	皿	底	中世	13～14世紀	底径(5.8)。胎土：銀色・灰色微砂粒多量含む，微小気泡多く含む。整形：見込み リング状に窪み，仕上げに横方向ナデ，底部 回転糸切り。焼成:やや不良。色調:外面 茶褐色，内面・断面 薄い褐色。	SA-001	1
31, 白黒	坏か	底(1/3)	中世	13～14世紀	底径(5.8)。胎土：銀色・灰色微砂粒多量含む，微小気泡多く含む。整形：内面 同心円状窪み，仕上げに横方向ナデ，底部 回転糸切り。焼成：やや不良。色調：外面 茶褐色，内面・断面 薄い褐色。	SD-013	1，12
32, 白黒	皿	底	中世	13～14世紀	底径(5.8)。胎土：銀色・灰色微砂粒，鉄分微粒多く含む，微小気泡少量含む。整形：底部 回転糸切り。色調：薄い褐色。	5D-76	2
33, 白黒	坏か	底	中世	13～14世紀	底径5.6。胎土：銀色・白色微砂粒多量含む。2㎜大の白色砂粒若干含む。整形：見込み・外面 横ナデ，底部 回転糸切り。焼成：良好。色調：表面 黒褐色，断面 薄い褐色。	SI-044	6
34, 白黒	坏か	底(1/4)	中世	13～14世紀	底径(5.2)。胎土：銀色微砂粒非常に多く含む，白色微砂粒含む，鉄分微粒若干含む，微小気泡少量含む。整形：見込み リング状に窪む，底部 回転糸切り右回転。焼成：良好。色調：褐色～黒褐色。	SD-029	8
	皿か	口縁	中世	13～14世紀	胎土：赤色赤色粒多い。色調：にぶい黄橙色。	SA-001	1
	皿か	底	中世	13～14世紀	底部 回転糸切り。色調：にぶい橙色。	SD-013	12
	皿か	底	中世	13～14世紀	色調：浅黄橙色	SD-028	5

挿図番号等	器種	部位	時代	型式・時期	胎土・整形・焼成・色調・釉等	出土地点	遺物番号
	皿か	底	中世	13～14世紀	底部 回転糸切り。色調：浅黄橙色。	SD-029	47
	皿か	底	中世	13～14世紀	底部 回転糸切り。色調：灰黄色。	SD-029	47
	皿か	胴	中世	13～14世紀	色調：浅黄橙色。	SD-029	36
	皿か	口縁	中世	13～14世紀	色調：にぶい橙色。	5E-02	1
	皿か	胴	中世	13～14世紀	色調：浅黄橙色。	5E-13	1
白黒	皿か	底	中世	13～14世紀	底部 回転糸切り。色調：浅黄橙色。	6D-23	1

低火度土器・土製品

挿図番号等	器種	部位	時代	型式・時期	胎土・整形・焼成・色調・釉等	出土地点	遺物番号
35，白黒	碁石	完形	近世	18～19世紀	径1.8～1.9。厚さ0.5。整形：粘土塊を指で押さえて手づくね(指紋残存)。色調：赤みを帯びた褐色。	5D-67	1
	焙烙か	胴	近世	18～19世紀	色調：にぶい橙色。	Eﾄﾚﾝﾁ	4
	火鉢か	胴	近世	18～19世紀	胎土：灰色，色調：外面灰色，にぶい橙色。	SX-005	1
	火鉢か	底	近世	18～19世紀	胎土：にぶい橙色，色調：器表灰色。	SD-038A	1
	火鉢か	胴	近世	18～19世紀	色調：にぶい赤褐色。	Cﾄﾚﾝﾁ	7
	カマド敷輪か	胴	近世	18～19世紀	色調：にぶい橙色。	SD-038A	1

瓦

挿図番号等	器種	部位	時代	型式・時期	胎土・整形・焼成・色調・釉等	出土地点	遺物番号
	平瓦		近世	18～19世紀	還元炎焼成。色調：表面・断面 灰色。	SD-014	2
	平瓦		近世	18～19世紀	還元炎焼成。色調：表面・断面 灰色。	SD-028	1
	平瓦		近世	18～19世紀	還元炎焼成。色調：表面・断面 灰色。	SD-028	4
	平瓦		近世	18～19世紀	還元炎焼成。色調：表面・断面 灰色。	SD-028	5
	平瓦		近世	18～19世紀	還元炎焼成。色調：表面・断面 灰色。	SD-036	2
	平瓦		近世	18～19世紀	還元炎焼成。色調：表面・断面 灰色。	SD-036	4
	平瓦		近世	18～19世紀	還元炎焼成。色調：表面・断面 灰色。	SD-036	4
	平瓦		近世	18～19世紀	還元炎焼成。色調：表面・断面 灰色。	SD-036	4
	平瓦		近世	18～19世紀	還元炎焼成。色調：表面・断面 灰色。	SD-036	4
	平瓦		近世	18～19世紀	還元炎焼成。色調：表面・断面 灰色。	SD-038A	1
	平瓦		近世	18～19世紀	焼成やや不良。酸化焼成。色調：表面 黄灰色，断面 灰黄色。	SK-048	1
	平瓦		近世	18～19世紀	焼成やや不良。酸化焼成。色調：表面 黄灰色，断面 灰黄色。	SX-006	1
	平瓦		近世	18～19世紀	還元炎焼成。色調：表面・断面 灰色。	SX-006	2
	平瓦		近世	18～19世紀	還元炎焼成。色調：表面・断面 灰色。	SX-006	5
	平瓦		近世	18～19世紀	還元炎焼成。色調：表面・断面 灰色。	SX-007	15
	平瓦		近世	18～19世紀	還元炎焼成。色調：表面・断面 灰色。	SX-009	1
	平瓦		近世	18～19世紀	酸化炎焼成気味。色調：表面 灰色，断面 灰黄色。	SI-021	2
	平瓦		近世	18～19世紀	還元炎焼成。色調：表面・断面 灰色。	SI-023	2
	平瓦		近世	18～19世紀	還元炎焼成。色調：表面・断面 灰色。	SI-045	1
	平瓦		近世	18～19世紀	還元炎焼成。色調：表面・断面 灰色。	4E-73	1
	平瓦		近世	18～19世紀	焼成やや不良。酸化焼成。色調：表面 灰黄色，断面 灰黄色。	5D-67	1
	平瓦		近世	18～19世紀	焼成やや不良。酸化炎焼成気味。色調：表面 灰色，表面直下灰黄色，中心 灰色。	5D-77	3
	平瓦		近世	18～19世紀	還元炎焼成。色調：表面・断面 灰色。	6D-05	1
	平瓦		近世	18～19世紀	還元炎焼成。色調：表面・断面 灰色。	Cﾄﾚﾝﾁ	4

第39表　八幡神社北(2)遺跡 中・近世 陶器転用砥石観察表

挿図番号	材質	長さ(cm)	幅(cm)		厚さ(cm)		重量(g)	特徴等	時代	出土位置	遺物番号
			最小	最大	最小	最大					
69	渥美	15.2	8.7	10	1.1	1.6	300.84	甕胴部片。胎土：砂様ざらつき，微砂粒主体，灰白色土塊若干含む。調整：格子状叩き目。焼成：良好，硬質。色調：灰黒色。２側面摩滅。	中・近世	SD-029	9
70	渥美	11.1	3.9	4.9	1	1	106.08	甕胴部片。胎土:砂様ざらつき,微砂粒のみ。調整:格子状叩き目。焼成：良好。色調：外面 自然釉により緑色を帯びた黒色，内面 灰色，断面 灰白色。１側面摩滅。	中・近世	SD-029	13
71	渥美	7.6	3.6	4.7	0.8	1.1	44.81	甕胴部片。胎土：砂様ざらつき，砂粒主体，灰白色砂礫若干含む。焼成：良好。色調：灰色。２側面摩滅。	中・近世	SD-039	1
	渥美	7.6		6.6	0.8	1.8		甕底部片	中・近世	Cトレンチ	13
72	常滑	5.9	3.2	4.4	1	1.1	39.54	甕胴部片。胎土：灰白色砂粒含む，微小気泡顕著。焼成：高火度，硬質，長石・石英溶解。色調：内・外・断面 黒色が強い灰色(まだら模様)。内面に自然釉付着。２側面摩滅(１面主体)。	中・近世	SX-004	3
73	常滑	4.7	2.4	4.5	0.9	1.3	34.60	甕胴部片。胎土：微砂粒目立たず，灰色砂礫含む。焼成：良好，硬質。色調：外面 褐色・緑色(自然釉)，内面 褐色，断面 灰色。１側面摩滅。	中・近世	SX-006	5
74	常滑	12.9		5.5	1	1.7	82.49	甕胴部片。胎土:白色微砂粒含む,気泡顕著。焼成:高火度，石英・長石溶解，硬質。色調:外面 黒色，内面 自然釉で黒色，断面 灰色。１側面摩滅。	中・近世	SX-008	3
75	常滑	7.3	2.7	6	1.1	1.3	65.92	甕胴部片。胎土:白色微砂粒～砂礫多く含む。調整:外面に叩き目。焼成：良好。色調：内・外・断面 褐色。２側面・内面摩滅。	中・近世	SD-013	3
76	常滑	8.1		6.9	1	1.3	84.65	甕胴部片。胎土:灰白色微砂粒少量含む。気泡顕著。焼成：高火度，器表に鉄分・長石・石英の溶解吹き出し顕著。色調：外面 自然釉で茶褐色，内面 緑色を帯びた灰色。断面 灰色。１側面摩滅。	中・近世	SD-029	20
77	常滑	9.3	2.0	5.3	1.2	2.0	88.03	片口鉢Ⅰ類底部破片。胎土：白色・灰色微砂粒多量含む，気泡多い。焼成:良好，硬質。色調:灰色。摩滅：２側面(内面 鉢使用時)。	中・近世	SD-029	24
78	常滑	9.9		4.9	0.9	1.2	66.44	甕肩部片。胎土：白色微砂粒多量含む，２～3mmの白色砂礫少量含む。焼成：良好，硬質。色調：外面・断面 灰黒色，内面 黒色。１側面若干摩滅。	中・近世	SD-038A	1
79	常滑	7.0	3.2	5.5	0.6	1.9	63.49	片口鉢Ⅰ類底部破片。胎土：白色・灰白色砂粒多量含む。焼成：良好，硬質。色調：灰色。摩滅：高台部(内面 鉢使用時)。	中・近世	SX-003	4
80	常滑	9.2	4.8	7.0	1.0	1.9	90.64	片口鉢Ⅰ類胴部破片。胎土：白色・灰白色砂粒多量含む。鉄分吹き出しあり。焼成：良好，硬質。色調：灰色。摩滅：３側面(内２面は顕著)(内面鉢使用時)。	中・近世	SD-013	7
81	須恵器	6.1	2.6	4.1	0.7	0.8	27.33	甕胴部破片。胎土：大粒砂・礫含まず，微小粒子。焼成：良好。色調：灰色。３側面部分的摩滅。	中・近世	SD-036	4
82	須恵器	10.6	3.1	8.3	0.9	1.4	140.78	甕胴部破片。胎土：大粒砂・礫含まず，微小粒子。焼成：良好。色調：灰色。２側面部分的摩滅。	中・近世	SD-004	2

第40表　八幡神社北(2)遺跡 中・近世 石造物観察表

挿図番号	種類	部位	材質	状態	特徴等	時期	出土位置	遺物番号
83	板碑？		雲母片岩	破片	両側面は残存の小型板碑か。〈長さ116.5，幅88.5，厚さ28.1㎜，重量480.70g〉	中世	SD-030（撹乱）	2
84	五輪塔	火輪	砂岩	破片	〈長さ111.2，幅115.8，厚さ83.6㎜，重量1,058.3g〉	中世	SD-029	41
85	五輪塔	水 輪or空輪	砂岩	破片	〈長さ81.1，幅51.1，厚さ30.3㎜，重量117.1g〉	中世	SD-039 (046か)	1
	不明	不明	砂岩	破片		中世か	SD-013	10
	不明	不明	不明	破片			SD-013	8
	不明	不明	不明	破片	焼けている。軽い		SX-006	1
	不明	不明	不明	破片	焼けている		SD-036	2
	不明	不明	砂岩	破片	表面完全に剥離		SD-027	29
	石臼？	下臼？	不明	破片			SX-007	11
	不明	不明	火山岩質	破片	多孔質。軽い。14と接合		SX-007	19
	不明	不明	火山岩質	破片	多孔質。軽い。19と接合		SX-007	14

第41表　八幡神社北(2)遺跡 中・近世 石製品観察表

砥石

挿図番号	石材	長さ(cm)	幅(cm)		厚さ(cm)		重量(g)	特徴等	時代	出土位置	遺物番号
			最小	最大	最小	最大					
86	凝灰岩	11		4.2		14.2	108.5	欠損	中・近世	SX-006	1
87	凝灰岩	〈5.8〉	2.1	2.7	0.5	1.7	34.64	欠損	中・近世	SK-060	2
88	凝灰岩	〈6.7〉	2.4	3	1.5	2.4	67.94	欠損	中・近世	SD-019	12
89	凝灰岩	〈3.8〉	3.7	3.9			31.38	欠損	中・近世	SD-029	19
90	凝灰岩	〈3.6〉	1.7	〈2.9〉	0.6	1.5	19.6	欠損	中・近世	SD-039 (046か)	1
91	凝灰岩	〈4.7〉		〈2.3〉		1.8	14.87	欠損	中・近世	SD-039 (046か)	1
92	凝灰岩	〈4.2〉		2.8		1.2	17.45	欠損。櫛歯状工具痕	中・近世	SI-012	22
93	凝灰岩	〈5.1〉	1	1.7		1.6	15.05	欠損	中・近世	SI-030	1
94	凝灰岩	〈5.1〉		2.8		1.9	39.33	欠損。櫛歯状工具痕	中・近世	SI-044	1
95	凝灰岩	〈3.5〉	2.5	2.7	0.4	1.6	19.89	欠損	中・近世	5E-14	1
96	凝灰岩	5.0	2	2.7	0.7	1.9	31.08	欠損	中・近世	Bﾄﾚﾝﾁ	6
97	軽石	5.3		7.3		3.3	19.43		中・近世	SD-029	10

火打ち石

挿図番号	石材	長さ(cm)	幅(cm)		厚さ(cm)		重量(g)	特徴等	時代	出土位置	遺物番号
			最小	最大	最小	最大					
98	石英	4.05		2.96㎜		2.58㎜	2.83㎜		中近世	SX-006	1

石硯

挿図番号	石材	長さ(cm)	幅(cm)		厚さ(cm)		重量(g)	特徴等	時代	出土位置	遺物番号
			最小	最大	最小	最大					
	粘板岩	〈5.8〉		〈3.7〉		〈0.75〉	24.06	2側面の一部と表面の一部が残存し，石硯の可能性あり。	中近世	5E-10	10

第42表　八幡神社北(2)遺跡 中・近世 金属製品他観察表

挿図番号	種類	部位	材質	長さ(cm)	幅(cm)		厚さ(mm)		重量(g)	特徴等	時代	出土位置	遺物番号
					最小	最大	最小	最大					
99	脇差し？	基部欠損	鉄製品	〈17.2〉		1.5		4	22.48	湾曲している	中世	SD-029	6
100	直刀or刀子	先端部片	鉄製品	〈7.2〉					11.97		古代or中近世	SD-013	2
101	刀子？	破片	鉄製品	〈3.4〉		2.3		〈5.5〉	20.29		古代か	SI-046	1
102	鉄鍋？	破片	鉄製品	〈3.9〉		4.8		4.3	14.16	段あり	中近世	SD-036	2
103	釘	完形	鉄製品	6.1		0.52		6.7	6.98	先端湾曲	古代or中近世	SD-013	9
104	棒状	両端欠損	鉄製品	〈6.1〉				4	3.72		不明	SD-029	39
105	ヘラ状工具？	端部欠損	鉄製品	〈3.6〉		1.3		2.8	3.19	湾曲している	不明	SK-048	7
106	飾り金具	破片	銅合金？	〈3.0〉		1.35		0.4	0.7	鋲あり	中近世	SD-036	2
107	雁首銭		銅合金	0.31	1.74	2			2.07		近世	SK-052	2
108	煙管	吸口	銅合金	5.4	0.5	1.3			9.09	同一の個体。中央にラウ竹残る	近世	SX-001	1
108	煙管	雁首	銅合金	3.6	0.87	1.3			8.68		近世	SX-001	1
109	煙管	一体	銅合金	12.5					17.69		近世	SD-036	3
110	装飾金具(鈴)	完形	銅合金	1.67		1.31		0.75	1.16		中近世か	SD-038A	41
111	鉄滓		鉄化合物	6.4		8.8		4.2	256.01		中近世か	SD-029	15
112	鉄滓		鉄化合物	8.4		9.4		3.0	205.87		中近世か	SD-029	14
113	鉄滓		鉄化合物	4.6		6.5		3.7	88.97		中近世か	SX-002	6
114	鉄滓		鉄化合物	3.3		6.0		2.5	54.84		中近世か	SI-046	1
115	鉄滓		鉄化合物	3.5		5.4		2.4	36.02		中近世か	SI-055	4
116	鉄滓		鉄化合物	4.1		4.8		2.9	48.06		中近世か	SD-067	1
117	羽口		土製品	3.4		6.0		3.5	135.20		中近世か	SA-001	7,9

第45表　八幡神社北(3)遺跡 奈良・平安時代，中世 土器類観察表

遺構No.	No.	種別	器種	遺存度	法量			胎土	焼成
					口径	器高	底径		
SI-001	1	土師器	坏	全体の9/10	12.8	3.6	6.8	白色・灰白色微砂粒多量	良好
SI-001	2	土師器	坏	口縁部一部欠損	14.3	4.1	6.9	白色砂粒多量	良好
SI-001	3	土師器	坏	口縁部の2/5	(13.6)	−	−	灰白色砂粒多量	良好
SI-001	4	土師器	坏	口縁部欠損	−	−	7.4	白色・灰色微砂粒・スコリア多量	良好
SI-001	5	須恵器	長頸瓶	底部破片	−	−	−	黒色粒子多量，白色砂粒微量	良好
SI-001	6	土師器	鉄鉢	底部破片	−	−	−	白色・灰白色砂粒多量	良好
SI-001	8	土師器	甕	口縁部の2/5	(13.0)	−	−	灰白色・白色微砂粒多量	良好
SI-001	9	土師器	甕	口縁部の1/4	(19.1)	−	−	白色微砂粒多量	良好
SI-001	10	土師器	甕	全体の7/10	18.2	21.0	7.1	白色・灰白色砂粒多量，スコリア少量	良好
SI-001	11	土師器	甕	口縁部～胴部上半部の1/2	(17.9)	−	−	灰白色微砂粒，ガラス質微砂粒多量	良好
SI-001	12	土師器	甕	全体の7/10	14.6	16.4	(9.0)	白色・黒色砂粒多量，スコリア	良好
SI-001	13	土師器	甕	口縁部～胴部上半	19.4	−	−	白色微砂粒多量，スコリア微量	良好
SI-001	14	土師器	甕	口縁部の1/4	(20.0)	−	−	灰白色微砂粒多量	良好
SI-001	15	土師器	甕	底部～胴部下半の7/10	−	−	−	灰白色砂粒多量	良好
SI-001	16	土師器	甕	口縁部の1/5	(17.0)	−	−	白色微砂粒多量	良好
SI-001	17	土師器	甕	肩部破片	−	−	−	白色微砂粒多量	良好
SI-001	5	土師器	坏	底部の3/4	−	−	6.7	砂粒・スコリア粒	良好
SI-001	5	土師器	坏	口縁部破片	−	−	−	白色砂粒	良好
SI-001	5	土師器	坏	体部破片	−	−	−	微砂粒	良好
SI-001	5	土師器	坏	底部？破片	−	−	−	白色砂粒・スコリア粒	良好
SI-002	1	土師器	甕	胴部下半の1/2	−	−	6.2	白色微砂粒多量	良好
SI-002	2	土師器	甕	胴部下半の7/10	−	−	−	灰白色微砂粒多量，スコリア・雲母細粒微量	良好
SI-003	1	土師器	坏	口縁部～体部の1/5	(12.4)	(4.0)	(6.8)	灰白色微砂粒多量	良好
SI-003	2	灰釉陶器	長頸瓶	底部～胴部の1/2	−	−	9.9	灰褐色砂礫	良好
SD-001	1	陶磁器	壷	口縁部破片	(13.4)	−	−	灰白色砂粒多量	良好
SD-001	2	陶磁器	甕	肩部破片	−	−	−	長石・石英・灰白色砂粒・鉄分粒子多量	良好

第43表　八幡神社北(2)遺跡 中・近世 銭貨計測表

挿図番号	銭貨名	書体	王朝名	初鋳年	計測値(単位：mm)					重量(g)	出土位置	備　考
					縁外径	縁内径	郭外径	郭内径	縁厚			
118	景徳元寶	真書体	北宋	1004	2.39	2.09	0.75	0.61	0.12	1.61	SD-038B-3	
119	天禧通寶	真書体	北宋	1017	2.45	1.93	0.73	0.59	0.18	2.33	SD-038A-14	脆い。
120	□宋通寶	真書体	北宋	1039	2.41	2.03	0.85	0.68	0.14	〈1.11〉	SX-004-7	脆い。上部欠損。皇宋通寶か。
121	嘉祐通寶	真書体	北宋	1056	2.38	1.96	0.80	0.66	0.15	2.04	SD-038A-21	脆い。２分割
122	熙寧元寶	真書体	北宋	1068	2.45	1.89	0.83	0.62	0.12	2.52	6D-39-1	脆い。
123	熙寧□寶	真書体	(北宋)	(1068)					1.50	〈1.62〉	SX-004-6	２分割。熙寧元寶か。
124	政和通寶	真書体	北宋	1111	2.40	2.05	0.82	0.64	0.16	2.30	SD-013-11	表面腐食で脆い。
125	天盛元寶	真書体	西夏	1158	2.52	2.02	0.85	0.68	0.13	3.04	SD-005-12	
126	不明				2.47	1.93	0.90	0.73	0.19	2.62	SD-013-11	表面腐食で脆い。
127	寛永通寶	行書体	日本	1768	2.81	2.10	0.83	0.65	0.12	4.89	表採-2	青海波(11波)
128	文久永寶	行書体	日本						0.11	〈1.11〉	4D-98-1	3/4欠損
	不明		(日本)							〈2.02〉	SI-012-7	鉄銭。寛永通寶か。

〈 〉内は残存重量

第44表　八幡神社北(3)遺跡 奈良・平安時代 竪穴住居跡計測表

遺構No.	位置(グリッド)	平面形	カマドの有無・位置	主軸方向	規模(m)	床面積(㎡)	床面標高(m)	主柱穴	補助柱穴(入り口など)
SI-001	7C-51	方形	西壁中央	N-105°-W	3.15×3.00	9.45	22.64	なし	2
SI-002	7C-42	方形	北東壁中央	N-55°-E	2.80×(2.80)	(7.84)	22.44	(なし)	(なし)
SI-003	8B-13	方形	削平(北壁)	N-20°-W	—	—	24.07	(なし)	(なし)

色調		技法			備考
内面	外面	内面	外面	底外面	
黒褐色	にぶい赤褐色	ヨコナデ	ヨコナデ，下端ケズリ	回転糸切り後ケズリ	
黒色	にぶい赤褐色	ヨコナデ	ヨコナデ，下端ケズリ	直線的なケズリ	
暗赤褐色	橙色	ヨコナデ	ヨコナデ	—	
橙色	にぶい橙色	ヨコナデ	ヨコナデ，下端回転ケズリ	回転ケズリ	
灰白色	灰白色	ナデ	—	回転ケズリ	
明赤褐色	明赤褐色	ユビナデ，ナデ	—	ケズリ後ナデ	
明赤褐色	明赤褐色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
黒褐色	黒褐色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
にぶい橙色	にぶい褐色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
褐色～黒色	にぶい褐色～黒色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
灰褐色	淡橙色～灰褐色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ	ケズリ	
暗褐色	橙色～黒色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
黒色	暗赤褐色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ	—	
明赤褐色	明赤褐色	ナデ	ケズリ	—	
にぶい橙色	にぶい橙色	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ケズリ後ナデ	—	
にぶい橙色	にぶい橙色	ナデ	ケズリ	—	No.16と同一個体
にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	ロクロナデ	ロクロナデ，ケズリ	ケズリ	墨書
にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	ロクロナデ	ロクロナデ	—	墨書
淡黄色	淡黄色	ロクロナデ	ロクロナデ	—	墨書
にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	ナデ	—	ケズリ	ヘラ描き
にぶい赤褐色	黒褐色	ヘラナデ	ケズリ	ケズリ	
明灰褐色～灰褐色	にぶい橙色～黒色	ナデ	ケズリ後ナデ調整	—	
黒褐色	黒褐色	ヨコナデ	ヨコナデ，ケズリ	ケズリ	
灰色	黒褐色～緑灰色	ヨコナデ	ヨコナデ，回転ケズリ	回転糸切り	
灰色自然釉	灰色自然釉	—	—	—	常滑窯６ａ型式
にぶい橙色	自然釉(灰釉)	—	—	—	常滑

第46表　八幡神社北(3)遺跡 奈良・平安時代，中・近世 土器以外観察表

土製品

遺構No.	No.	種類	法量(cm・g)				胎土	色調
			長	幅	厚	重		
SI-001	7	須恵器転用硯	11.2	14.2	1.0	161.7	緻密	灰白色

石製品

遺構No.	No.	種類	法量(cm・g)				石材
			長	幅	厚	重	
SI-001	18	砥石	11.9	7.1	1.9	261.9	砂岩
SD-004	1	砥石	11.1	9.9	3.8	760.4	砂岩
SD-004	2	砥石	10.9	6.6	4.6	336.7	凝灰岩

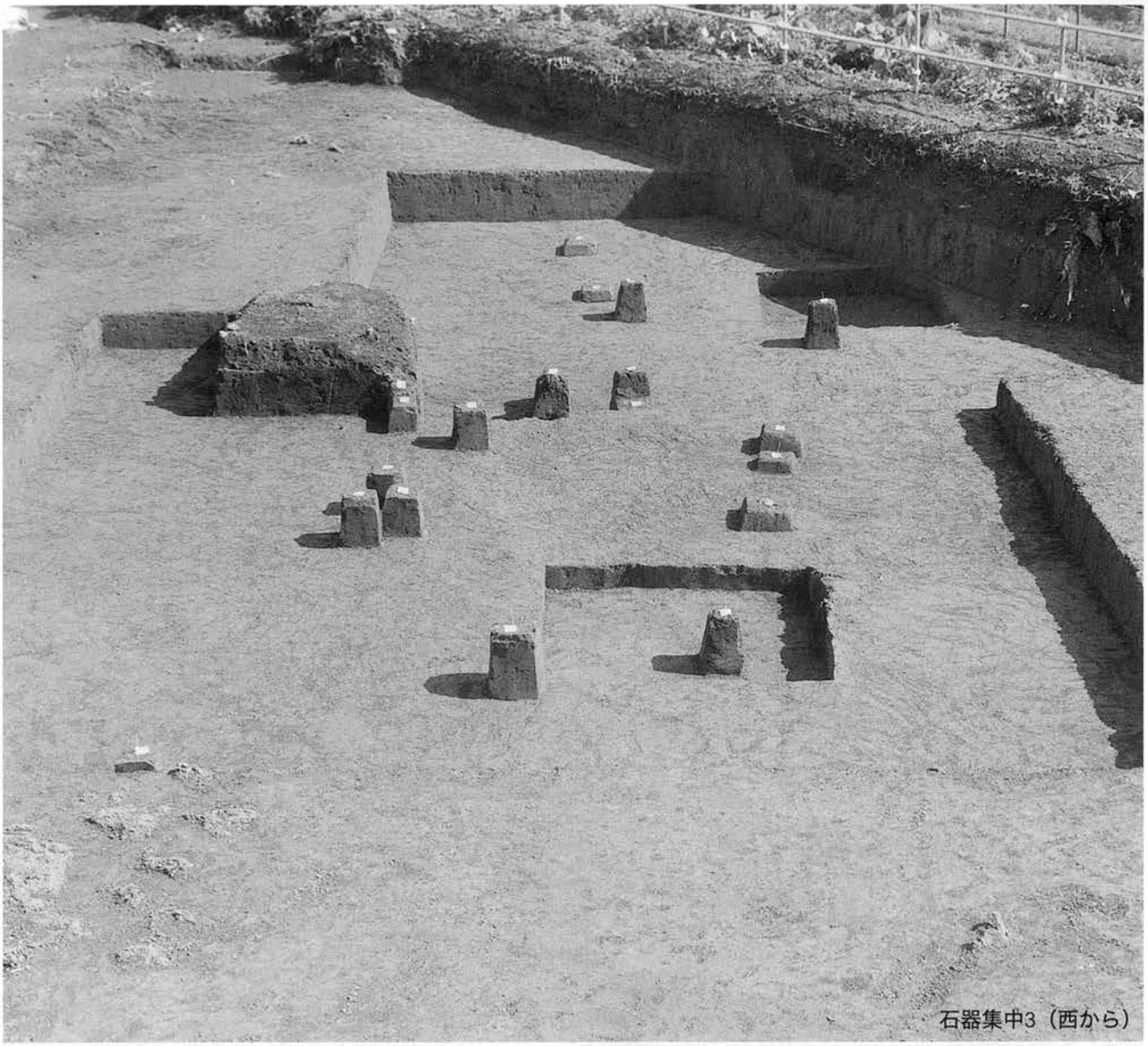
写 真 図 版

図版 1
八幡神社北(1)遺跡
八幡神社北(2)遺跡
八幡神社北(3)遺跡
八幡神社前(1)・(2)遺跡
航空写真（S＝1/5,000）

八幡神社北（１）

石器集中1（北から）

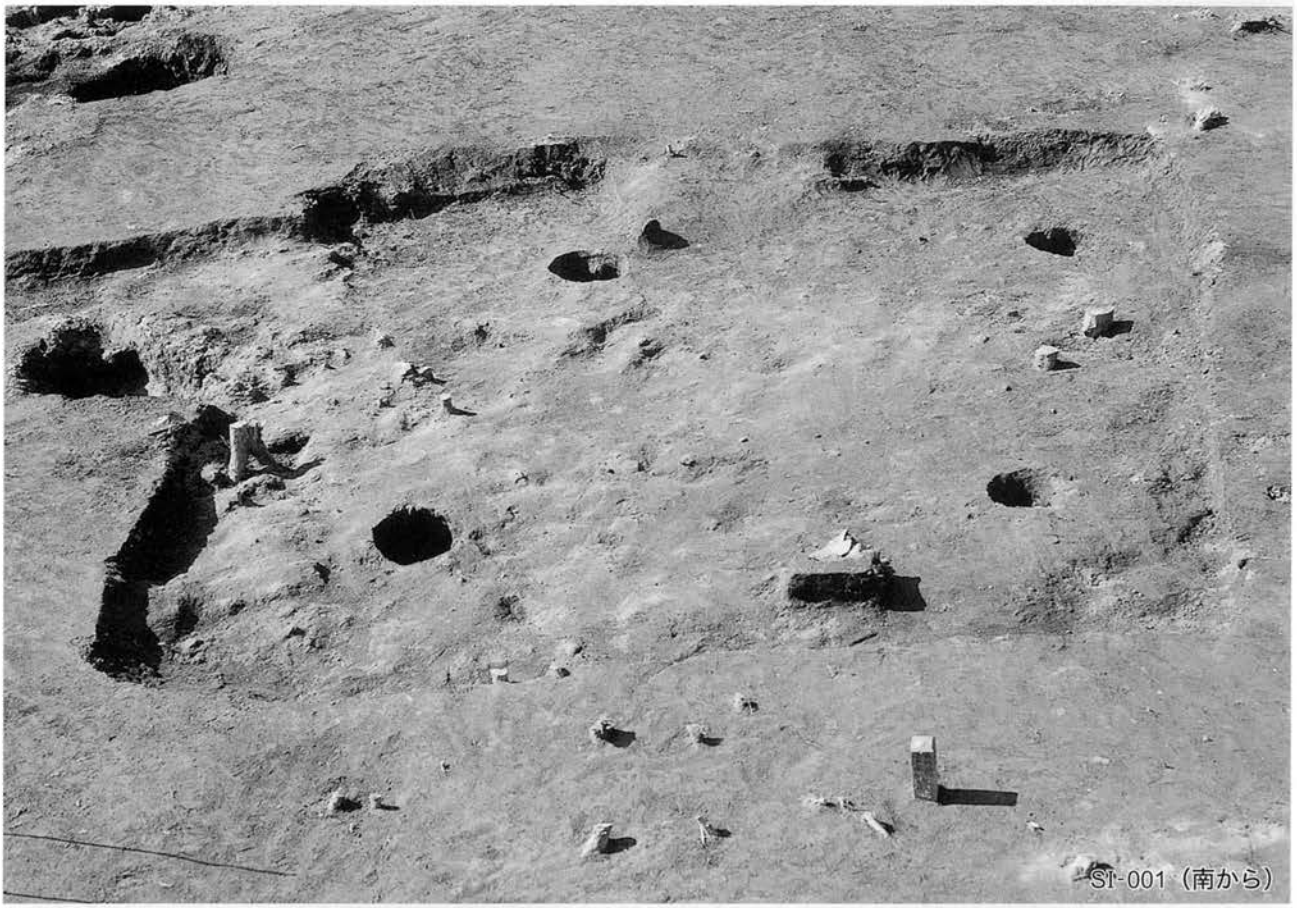
石器集中2（北から）



石器集中3（西から）

石器集中1確認グリッド（4B-79）

4B-79遺物出土（北から）

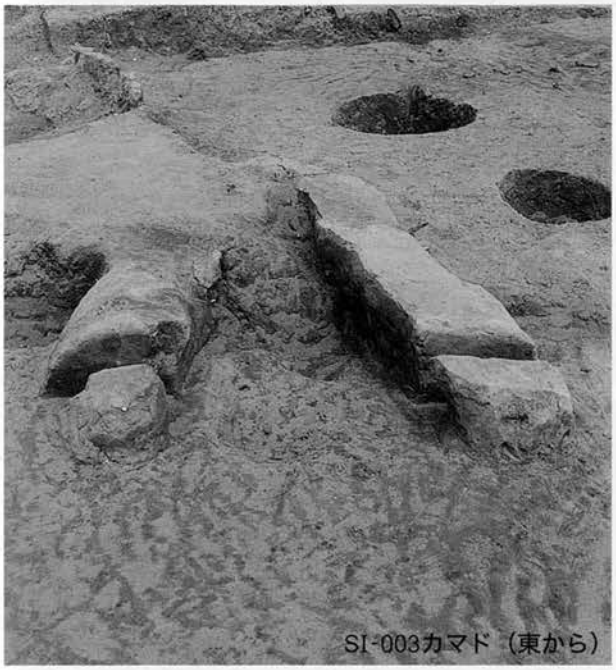


SI-001（南から）

SI-003・017・018（南東から）

SI-001カマド（南から）

SI-002カマド（南東から）

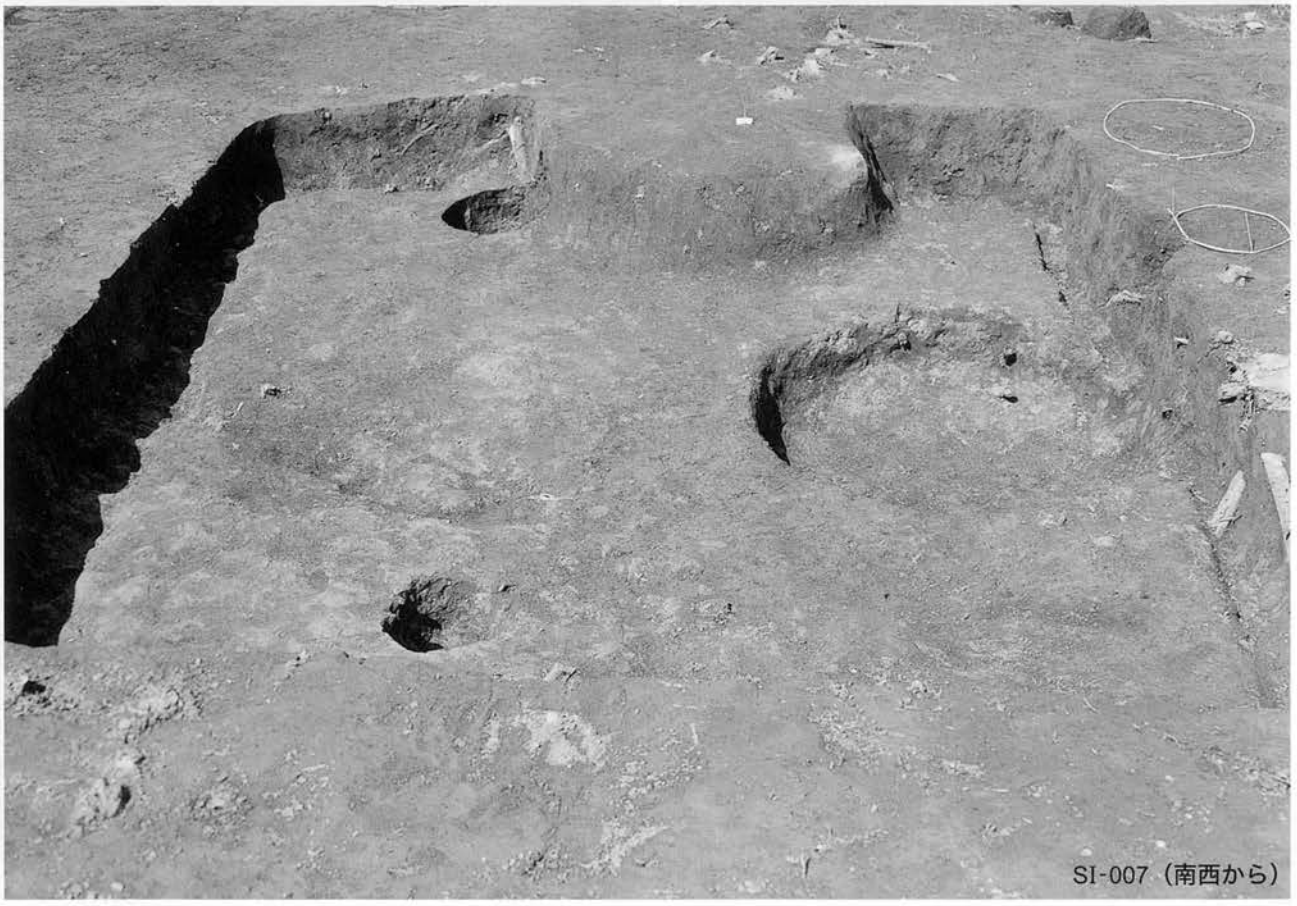

SI-003カマド（東から）

SI-004カマド（東から）

SI-005カマド（南東から）

SI-005セクション（南東から）

SI-004（北東から）



SI-007（南西から）

SI-008（南西から）

SI-008・009（南西から）

SI-007カマド（南西から）

SI-008カマド（南西から）

SI-009カマド（南から）

SI-009遺物出土（南西から）

SI-009遺物出土（北東から）

SI-010（南から）

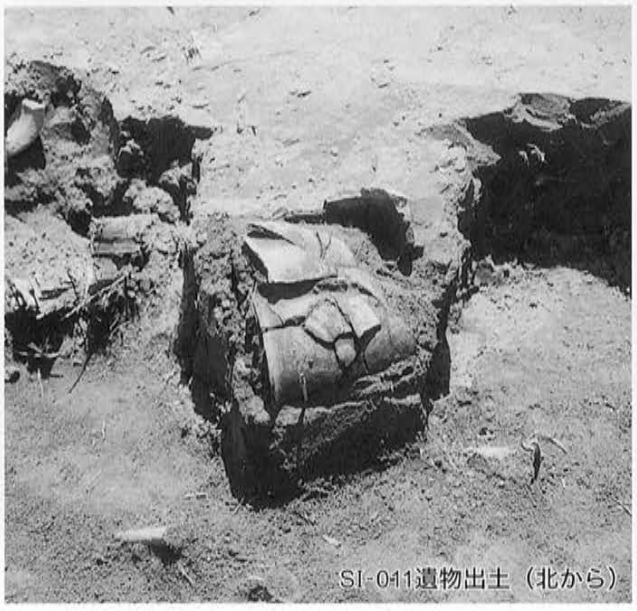
SI-011カマド周辺（南西から）

SI-011遺物出土（東から）

SI-011遺物出土（東から）

SI-011遺物出土（北から）

SI-011遺物出土（北から）


SI-011遺物出土（北から）

SI-011遺物出土（北から）

SI-012（西から）

SI-013・015　SK-038・039（南東から）

SI-014（南東から）

SI-014カマド遺物出土（南西から）

SI-012カマド（南東から）

SI-013カマド（北東から）

SI-014カマド遺物出土（南西から）

SI-015カマド（南東から）

SI-016カマド（南東から）

SI-017遺物出土（南から）

SI-015遺物出土（西から）

SI-016（北西から）

SI-017（南西から）

SI-019（東から）

SI-020（北から）

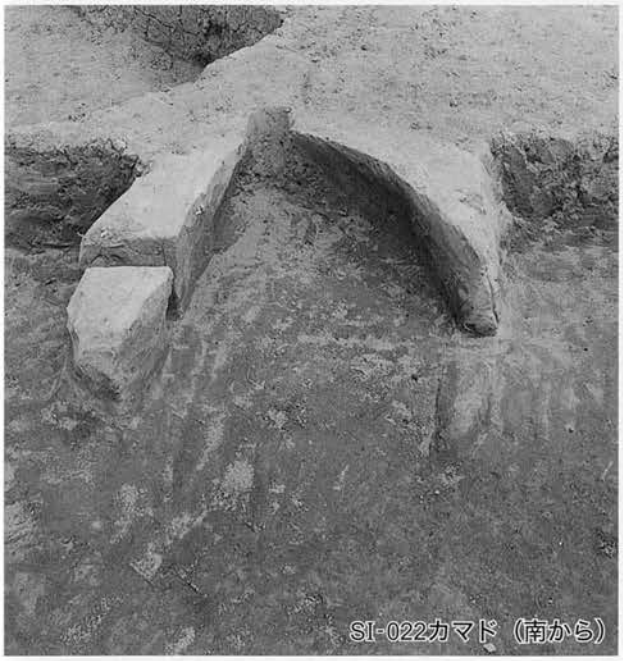
SI-021・022・023（南西から）

SI-017カマド（南西から）

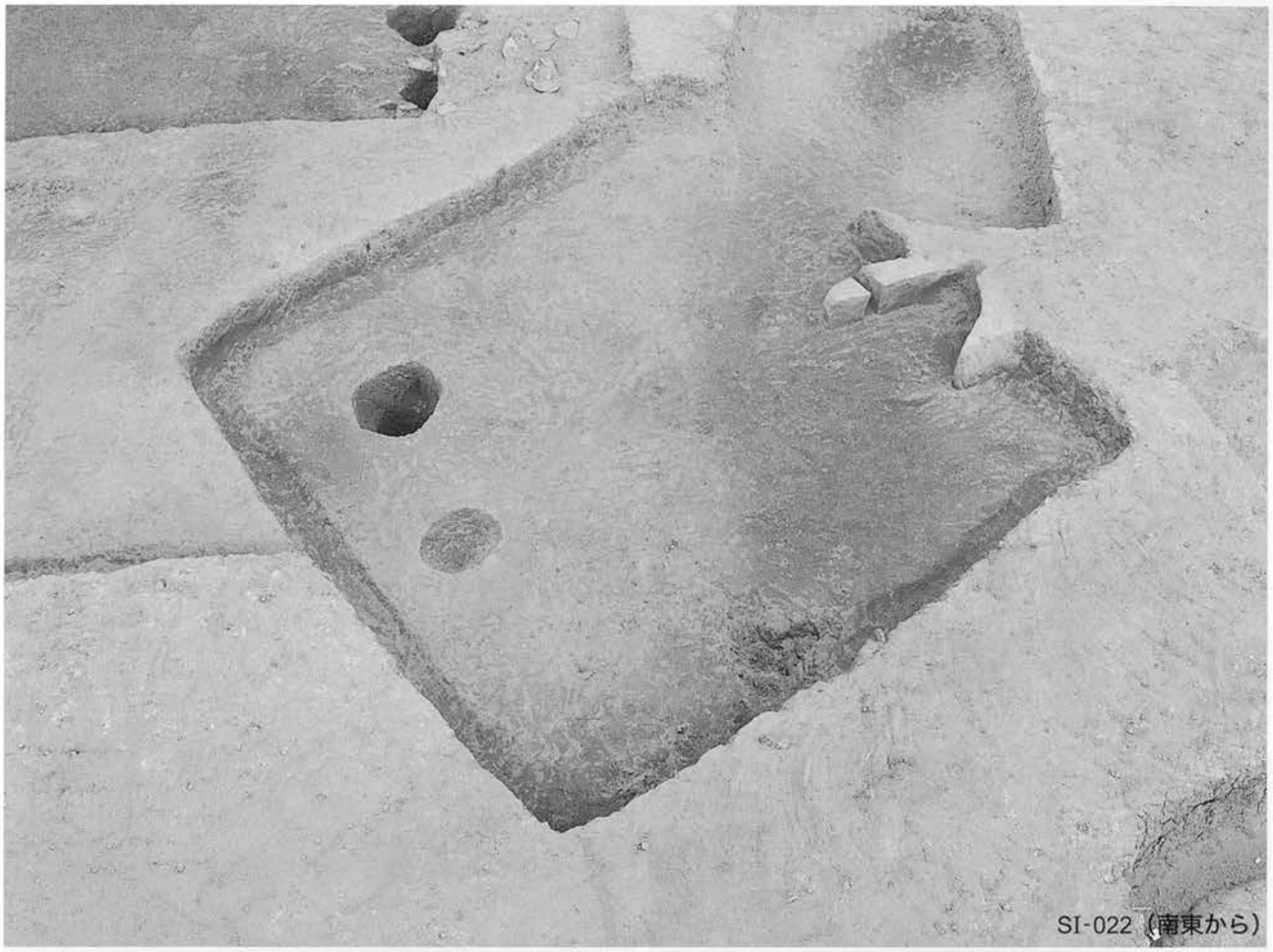
SI-018カマド（南から）

SI-019カマド（東から）

SI-020カマド（南から）


SI-022カマド（南から）

SI-023カマド（南東から）



SI-022（南東から）

SI-023（南東から）

SI-024（南東から）

SI-025（南から）

SI-026（南から）

SI-028（北から）

SI-025カマド（南から）

SI-025遺物出土（西から）

SI-026柱穴内遺物出土

SI-026遺物出土

SI-028カマド遺物出土（南から）

SI-030（北西から）

SI-031・034・035・036（南西から）

SI-031（西から）

SI-032（北東から）

SI-031カマド遺物出土（南西から）

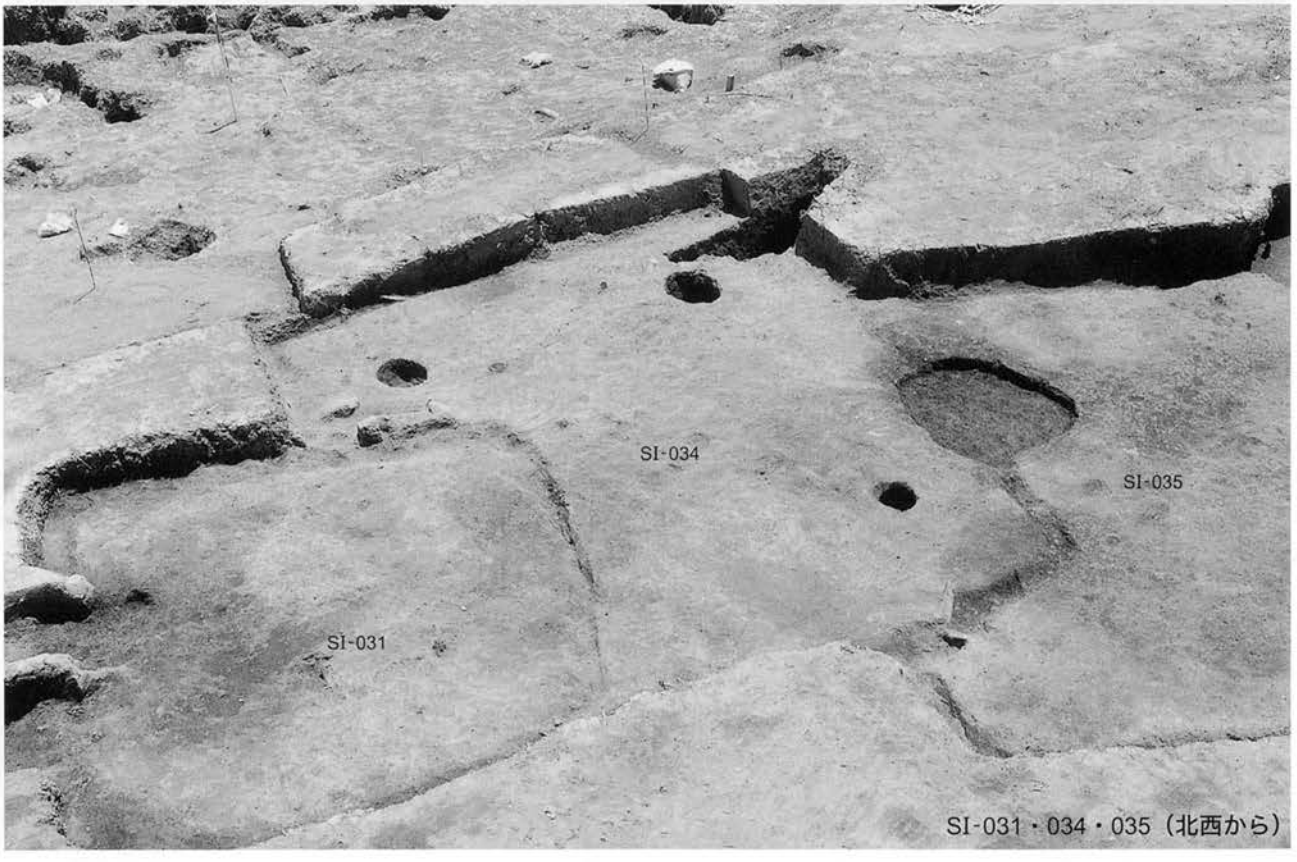
SI-031カマド（南西から）

SI-032（西から）

SI-032遺物出土

SI-032遺物出土

SI-033（西から）


SI-034
SI-035
SI-031
SI-031・034・035（北西から）

SI-035・036（北西から）

SI-033・037・038（南から）

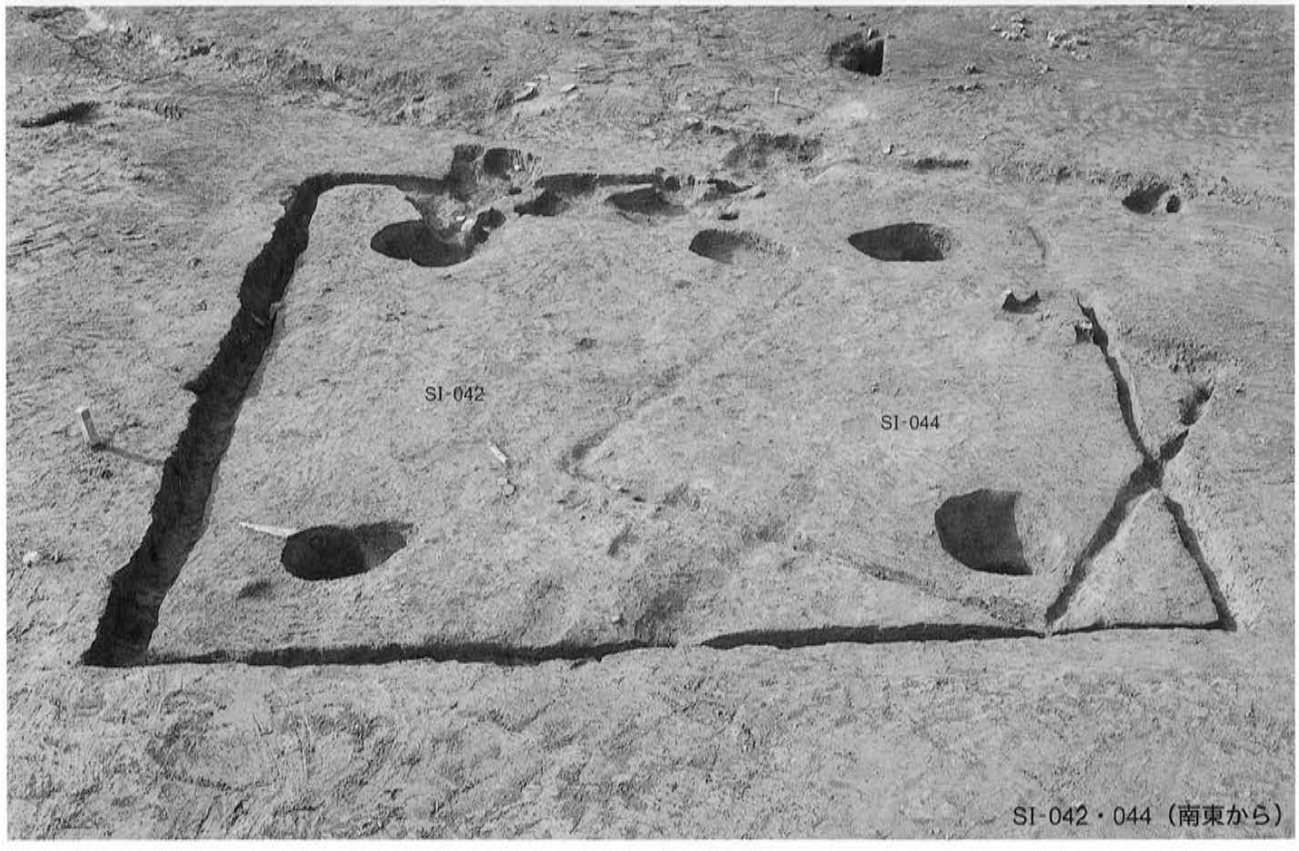
SI-038（西から）

SI-039（北西から）

SI-040（北から）

SI-041（南から）

SI-041遺物出土（南東から）



SI-042・044（南東から）

SI-043（南西から）

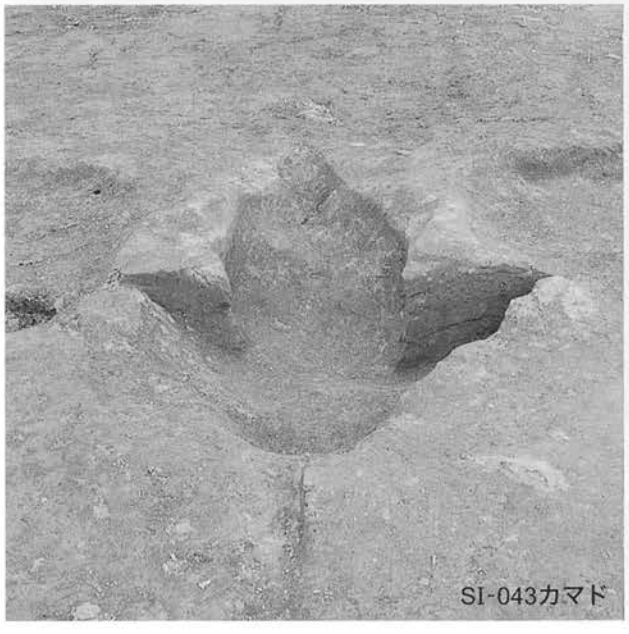
SI-044（南から）

SI-033カマド（東から）

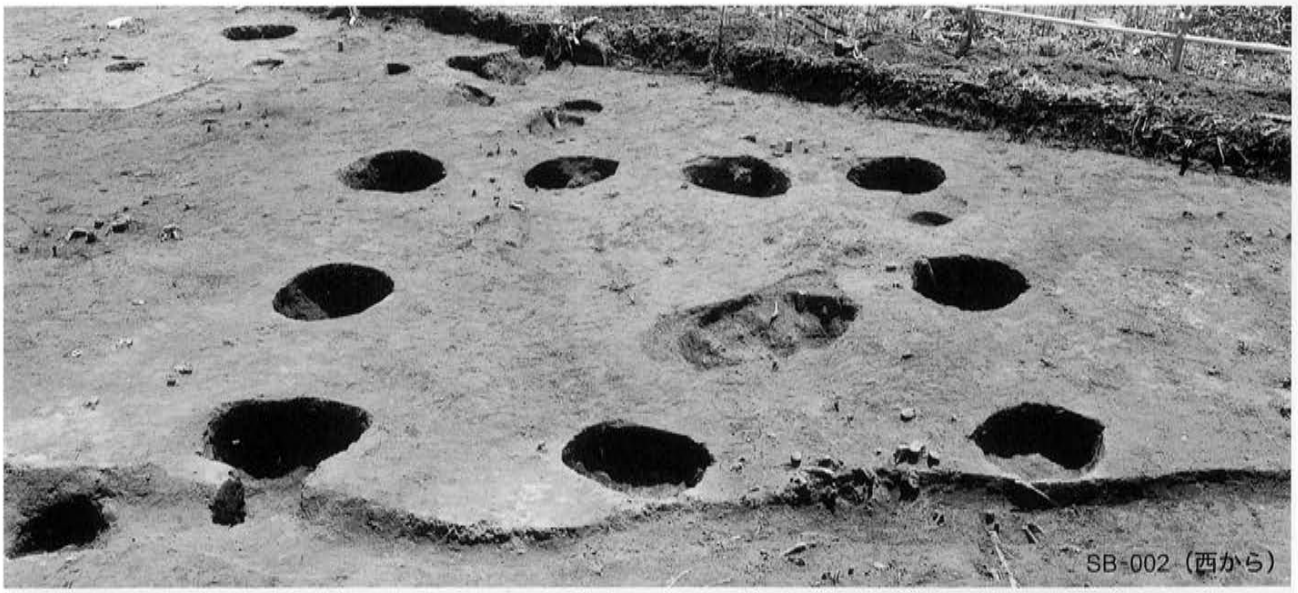
SI-033遺物出土

SI-038遺物出土

SI-039遺物出土


SI-043カマド

SI-044カマド


SB-002（西から）

SB-003（西から）

SB-005・006（北から）

SB-007（北から）

4D-16グリッド ピット群遺物出土（南から）

4D-16グリッド ピット群遺物出土（東から）

4D-06グリッド ピット群遺物出土（東から）

八幡神社北（１）

SB-010～012他（北から）

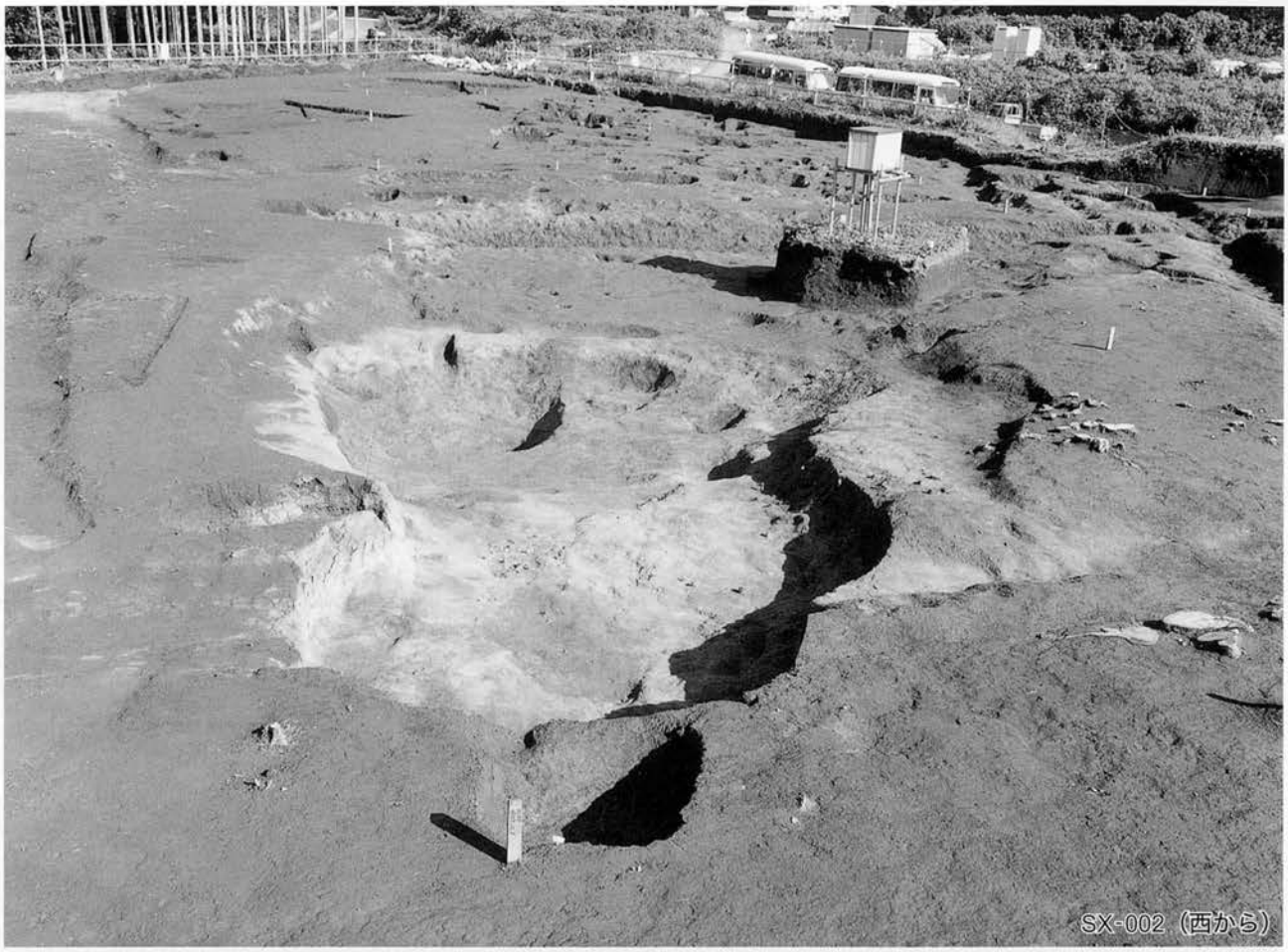
SB-013～015他（北から）

SX-001　SD-008（南西から）

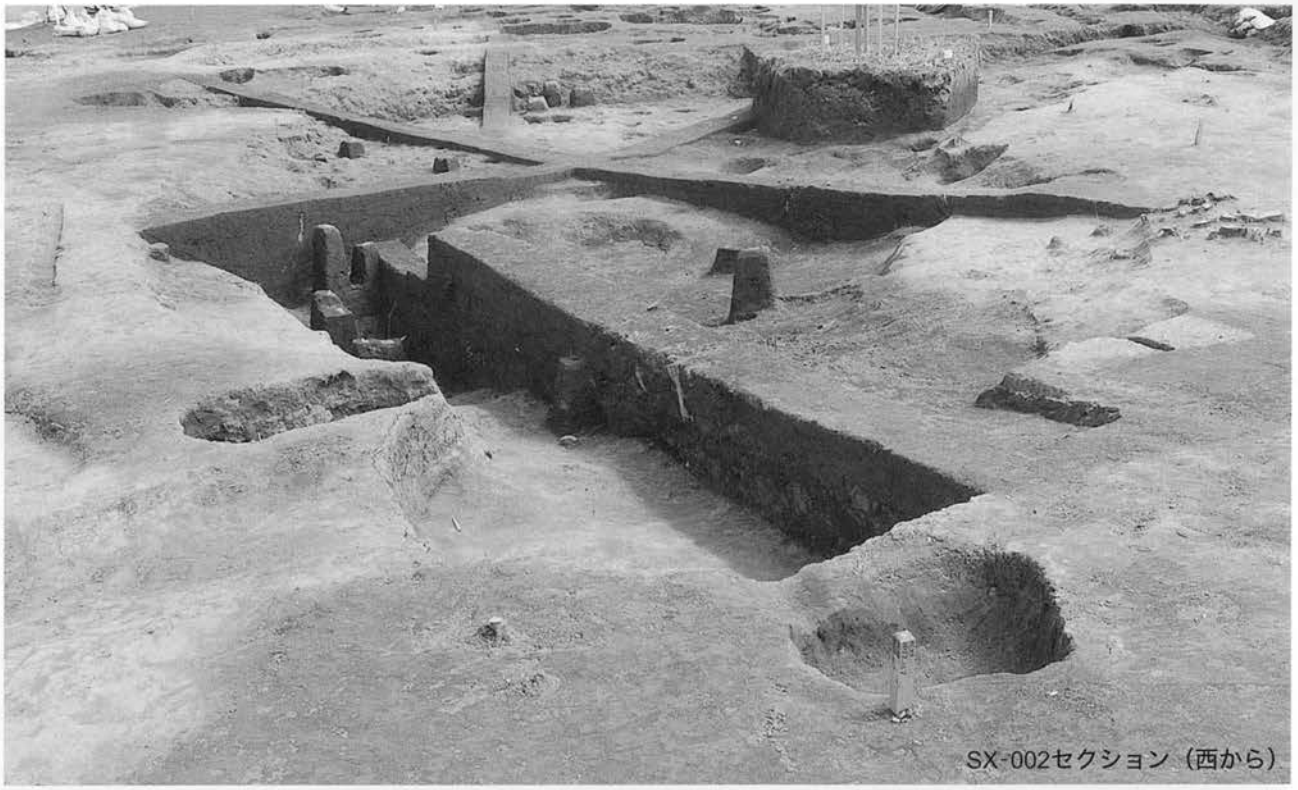
SX-001　SD-008（北西から）

SX-002（東から）

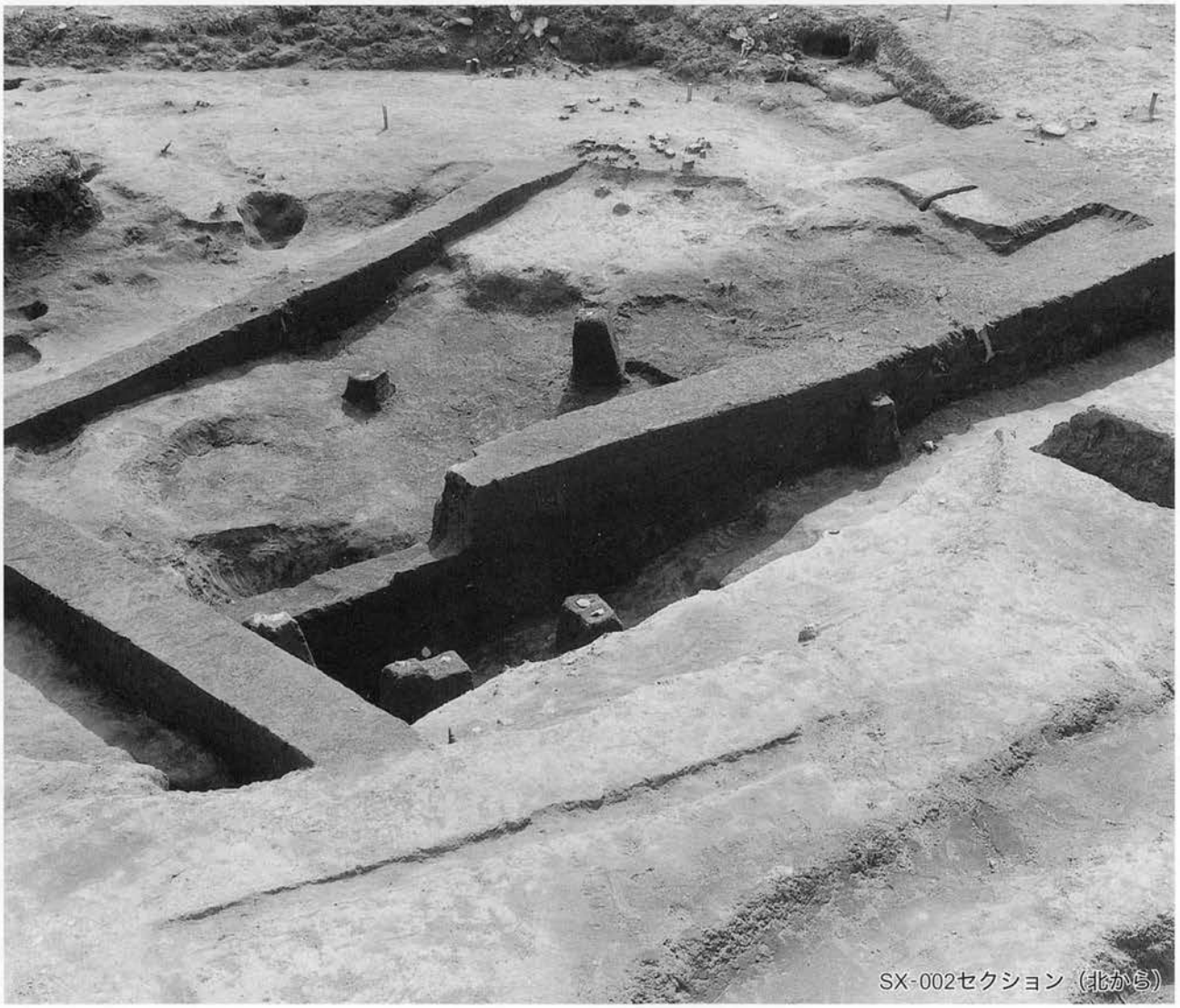
SX-002（北東から）


SX-002（西から）

SX-002（北から）



SX-002セクション（西から）



SX-002セクション（北から）

SD-001・003・004（北から）

SD-002北部　SK-008 他（南から）

SD-003・004（北西から）

SD-005・006・009（東から）

SD-008・010　SX-001（北から）

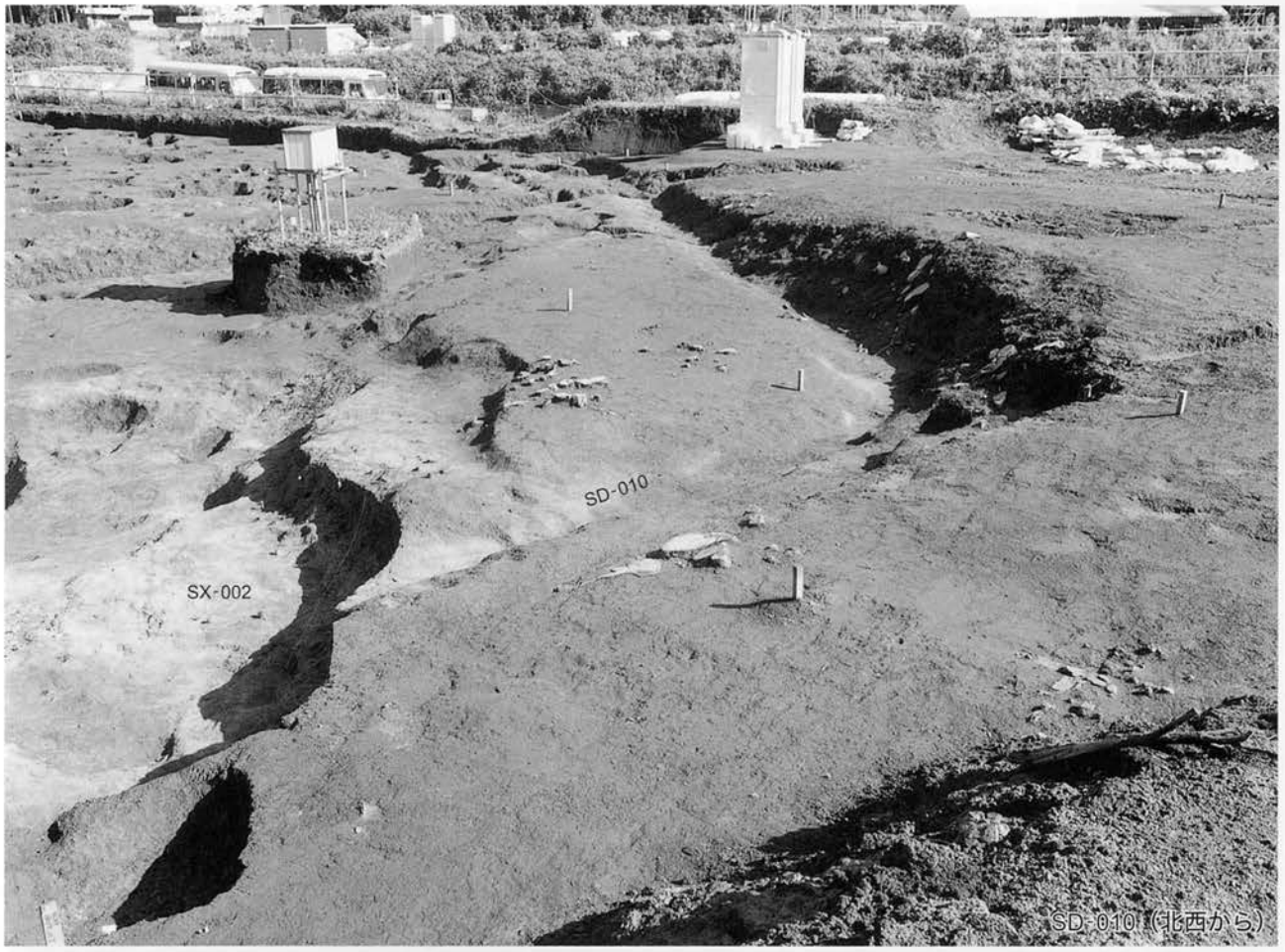
SD-008セクション（南から）

SD-008セクション（北から）

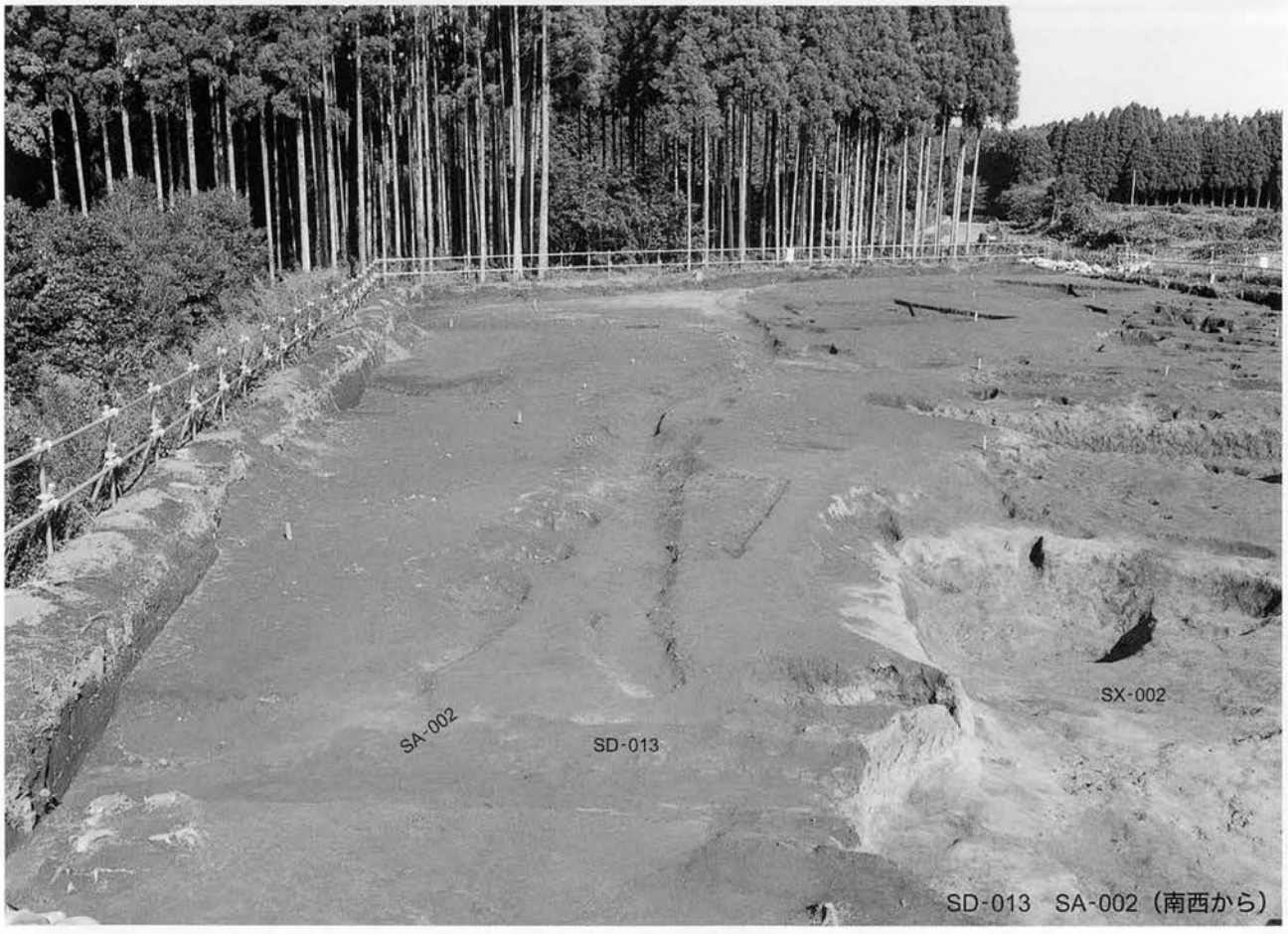
SD-008・015・017　SB-011（北から）

SD-008　SX-002　建物域（北西から）

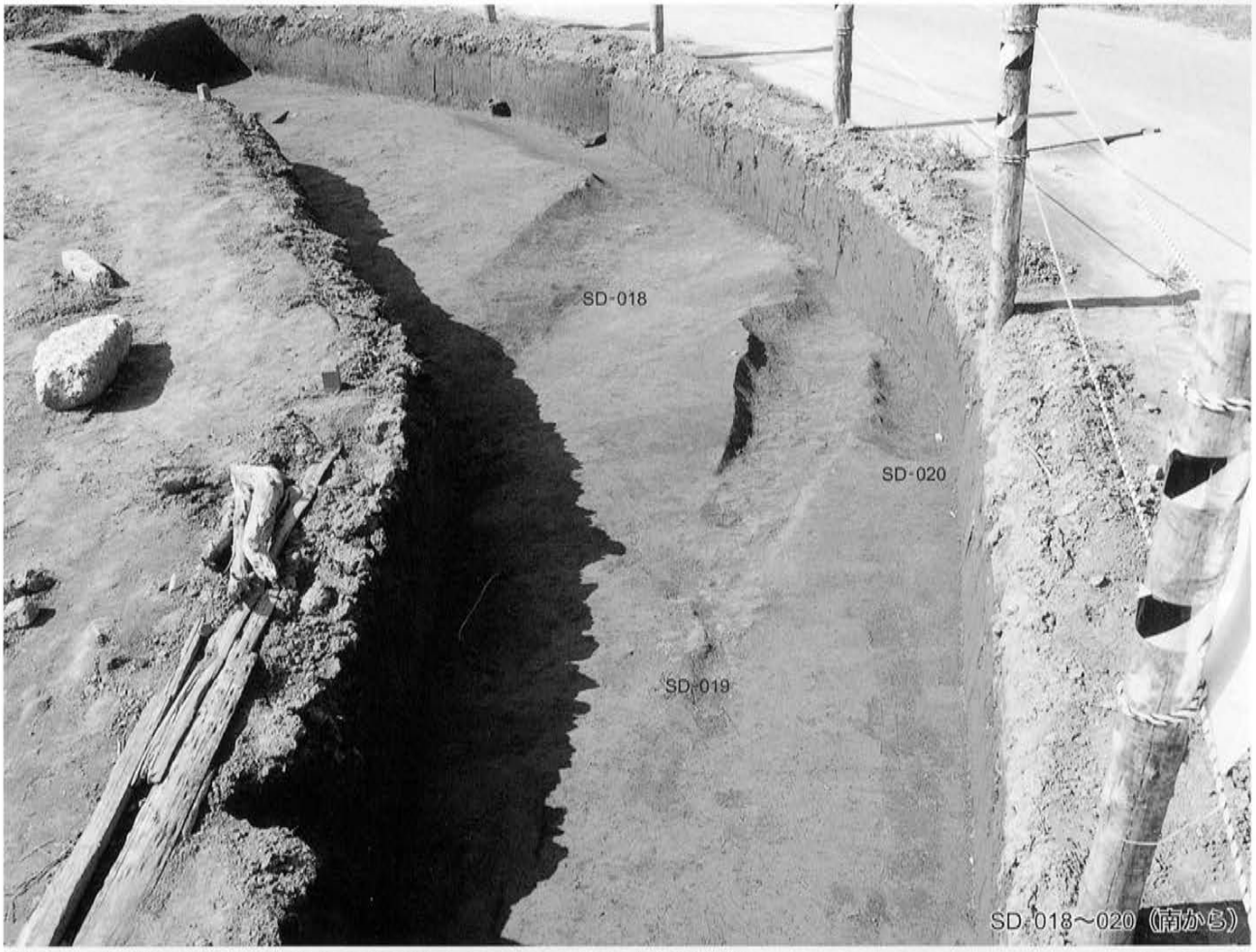
SX-002　SA-001・SD-010（南東から）



SD-010（北西から）



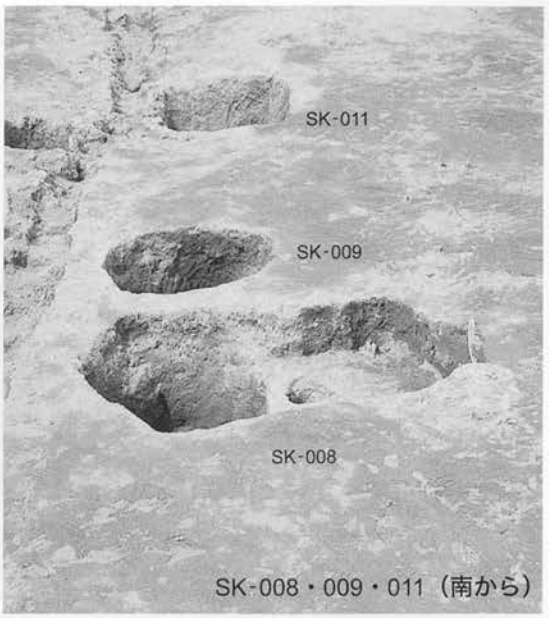
SD-013　SA-002（南西から）



SD-018～020（南から）

道路拡幅部の調査区（北から）

SK-001（東から）



SK-008・009・011（南から）

SK-010（南から）

SD-002　SK-011セクション（北から）

SK-011（南から）

SK-012（南から）

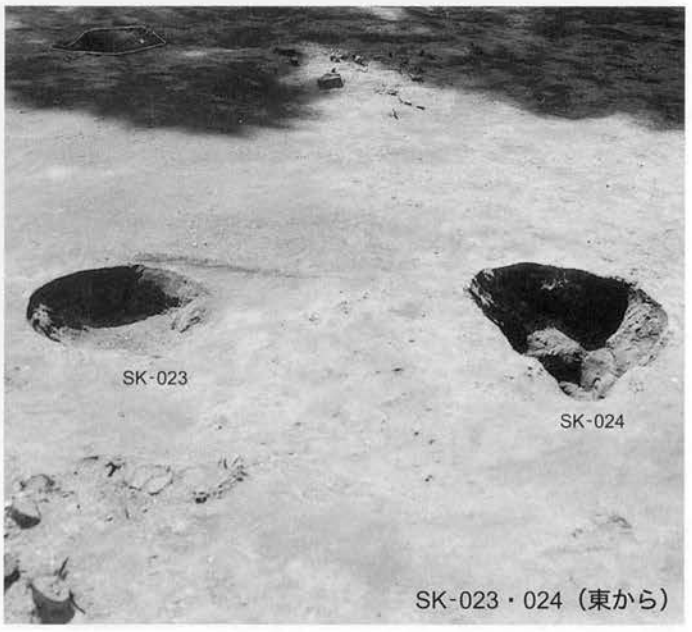
SD-002　SK-013セクション（南から）

SK-013（南から）

SK-018遺物出土（北から）

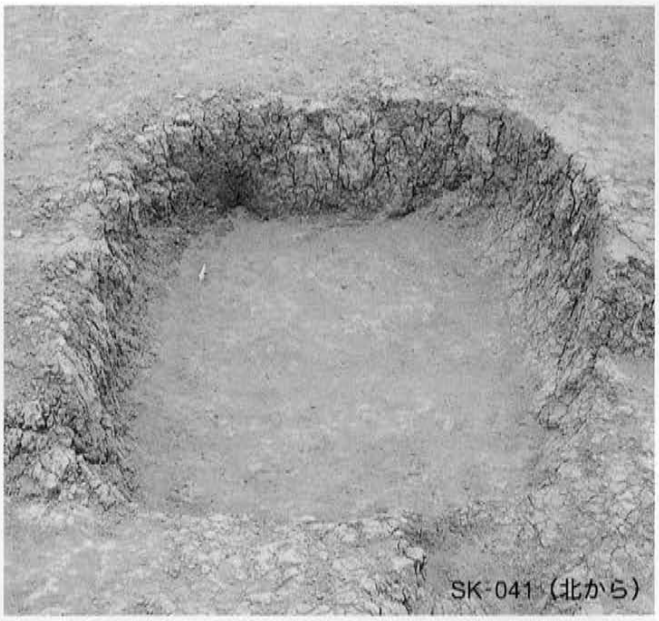
SK-018セクション（北から）

SK-018（北西から）



SK-023・024（東から）

SK-031（南東から）


SK-041（北から）

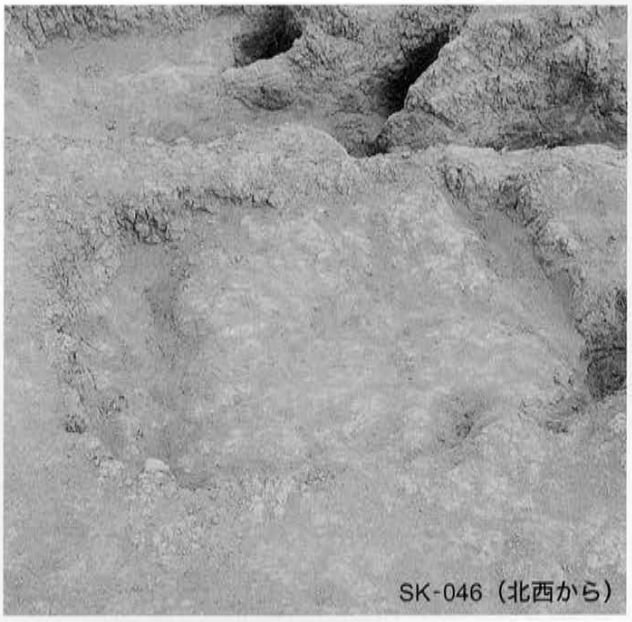
SK-033（北東から）

SK-033遺物出土（北から）

SK-035（南東から）

SK-035周辺セクション（北から）

SK-045（北西から）


SK-046（北西から）

SK-047（西から）

SK-048（南から）

SK-051（南東から）

SK-052（北から）

SK-053（北から）

SK-054（北から）

SK-056周辺（北から）

SK-057（南から）

SK-063（東から）

SK-070セクション（南から）

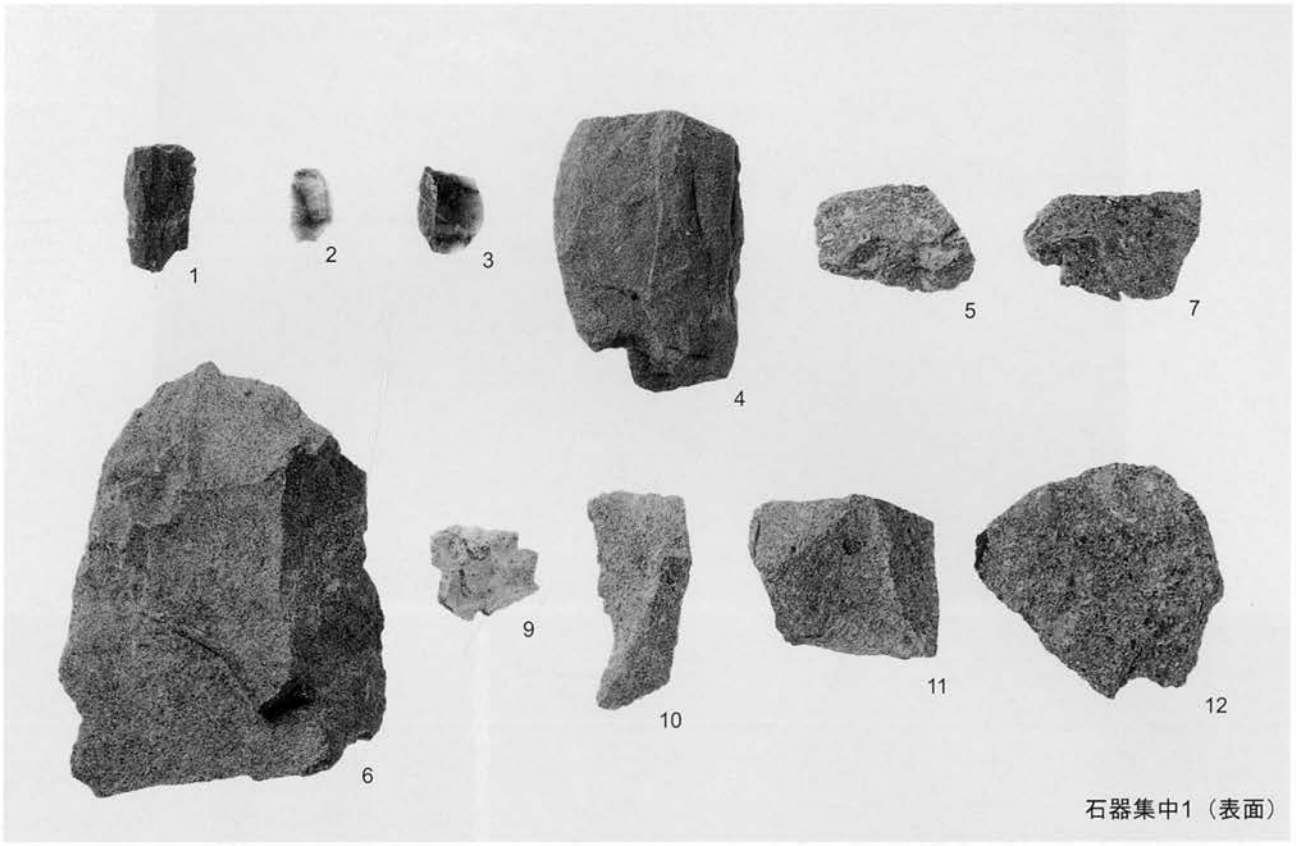
SK-070・076セクション（南から）

SK-070・076（南から）

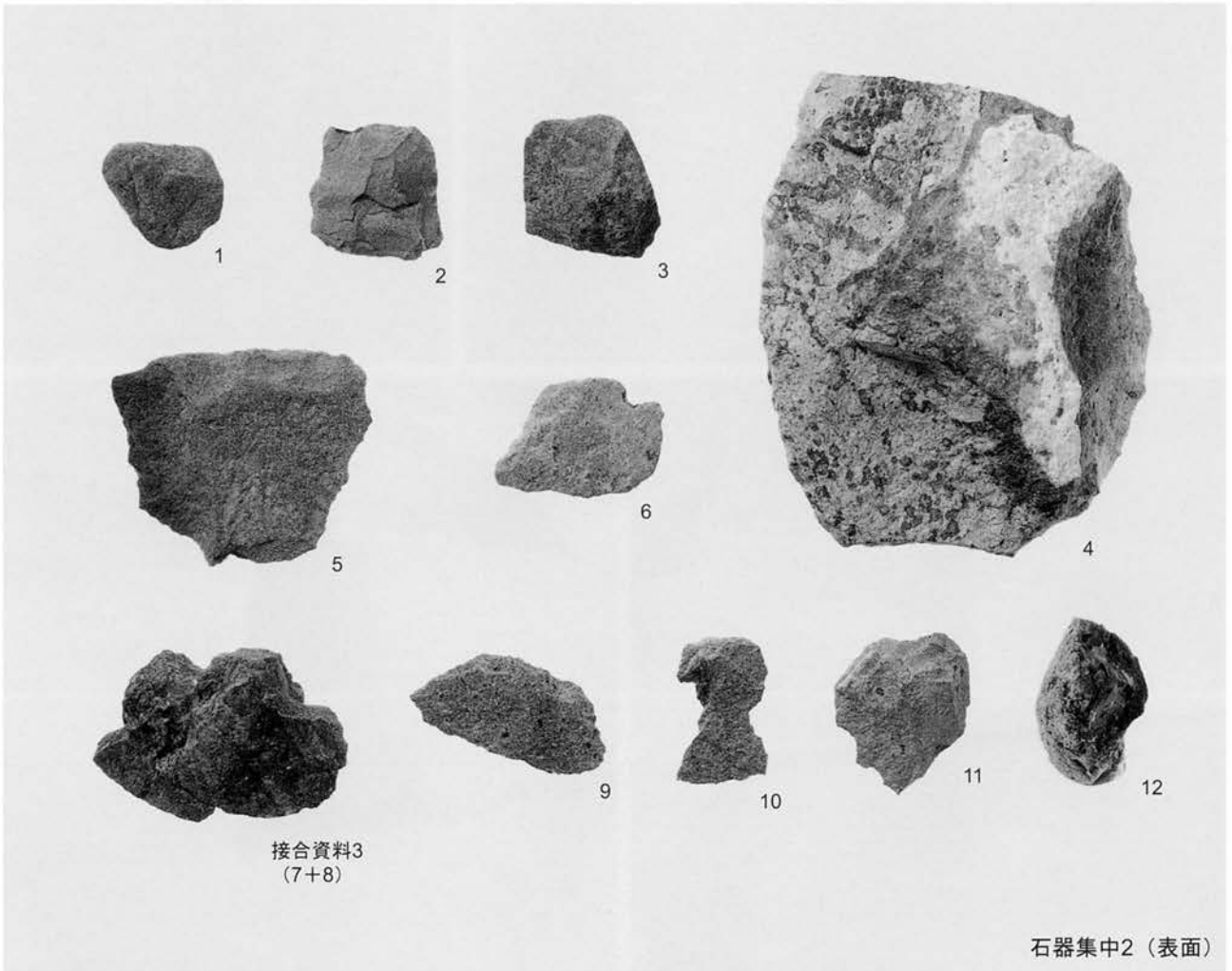
SK-079（北東から）

SK-080（北東から）

SK-081（東から）

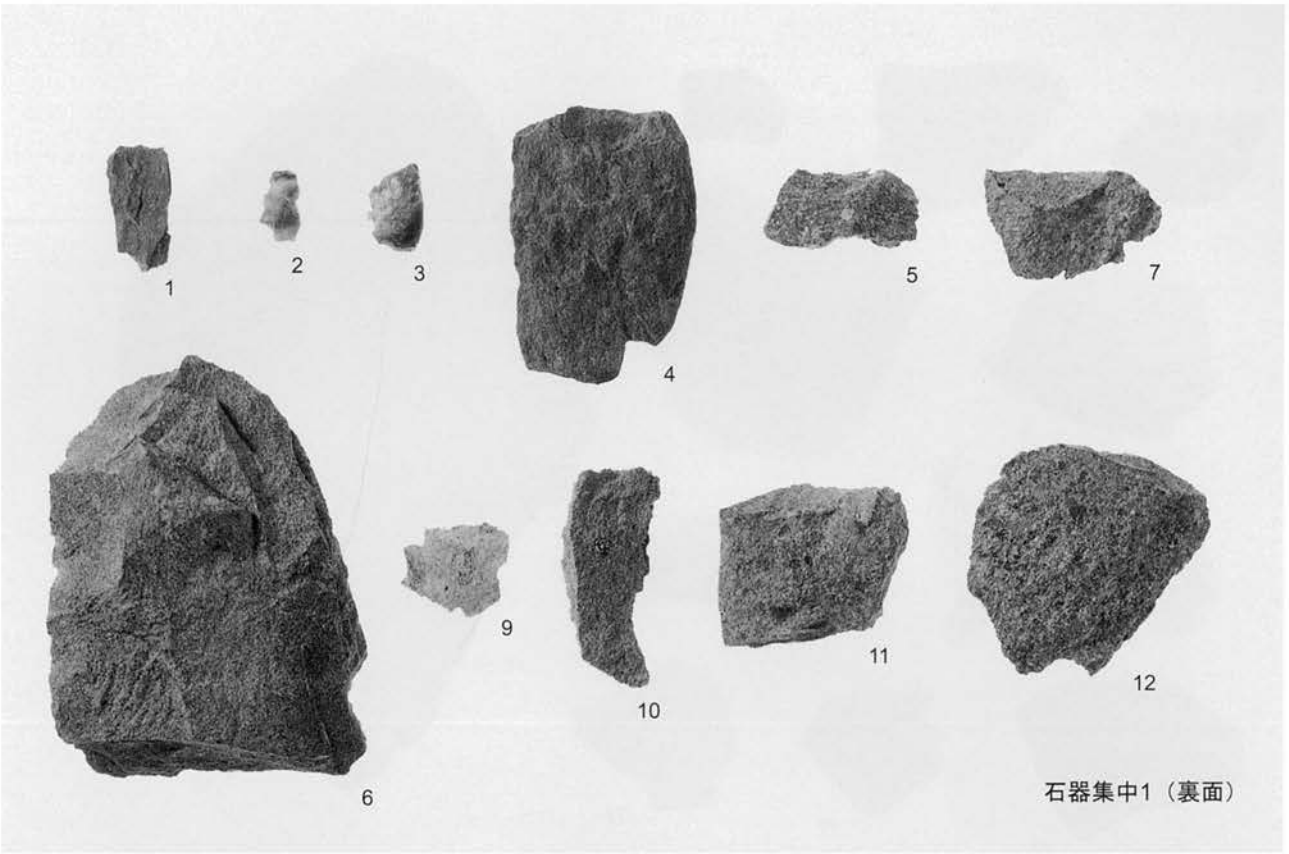


石器集中1（表面）

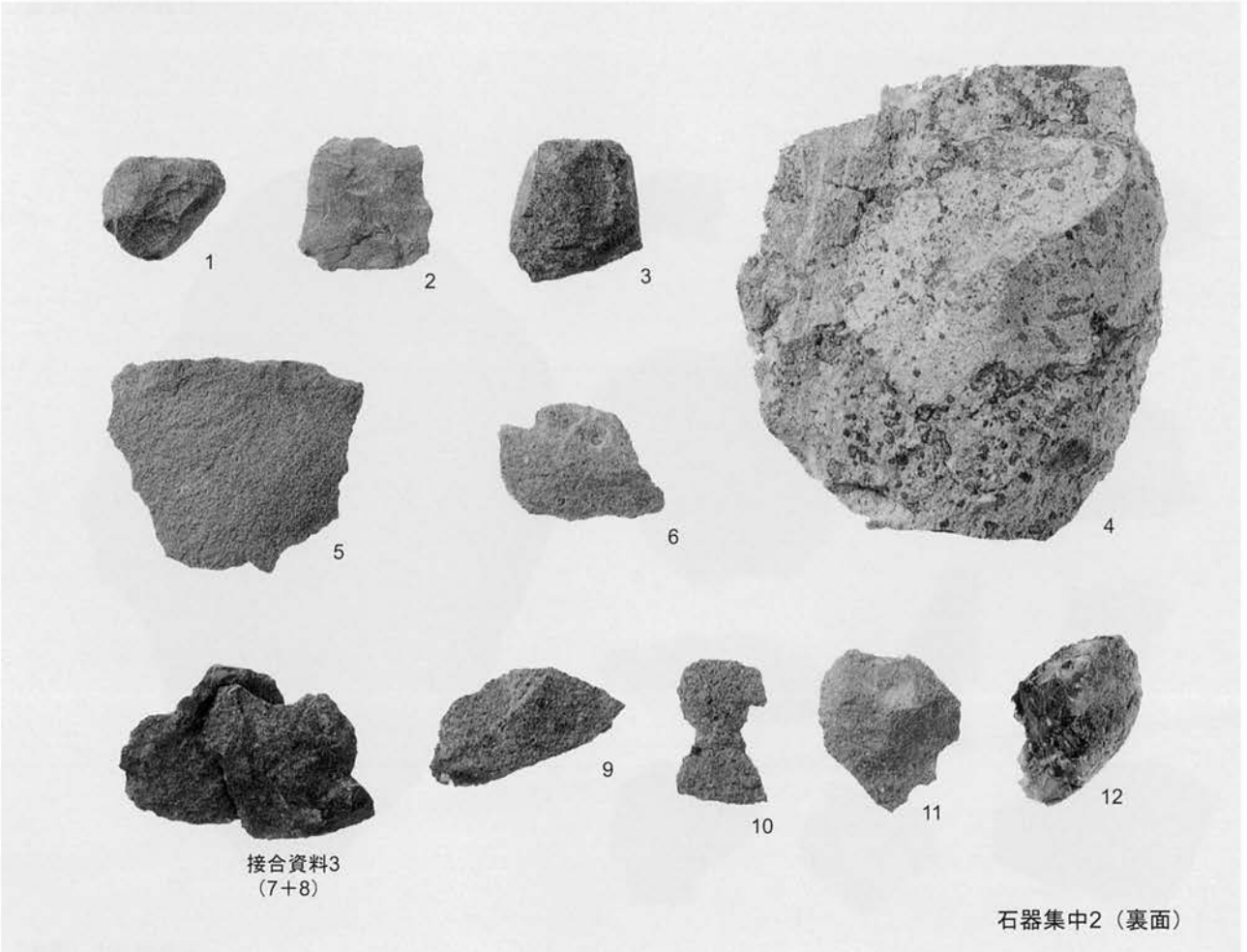


接合資料3
（7＋8）

石器集中2（表面）

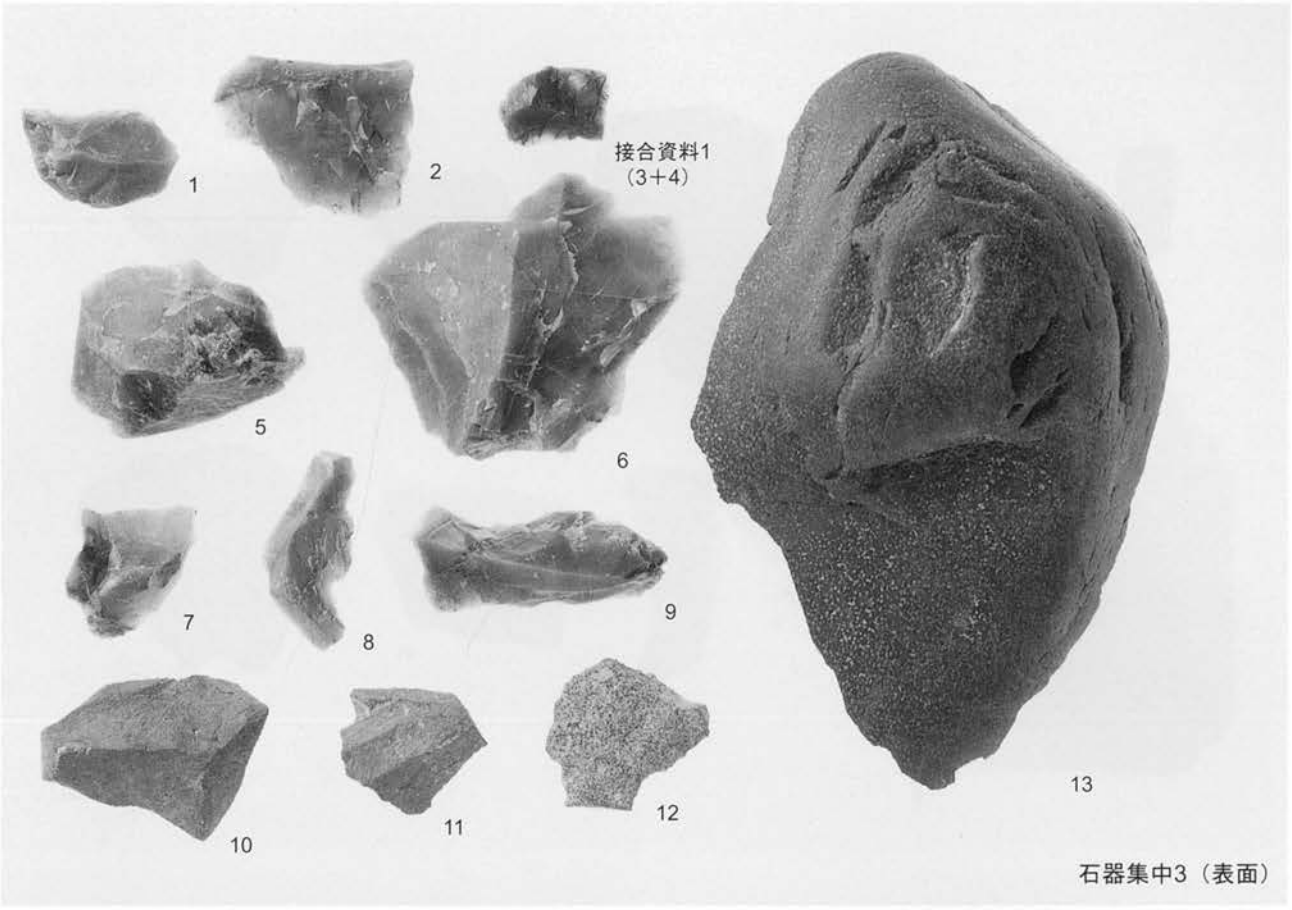


石器集中1（裏面）

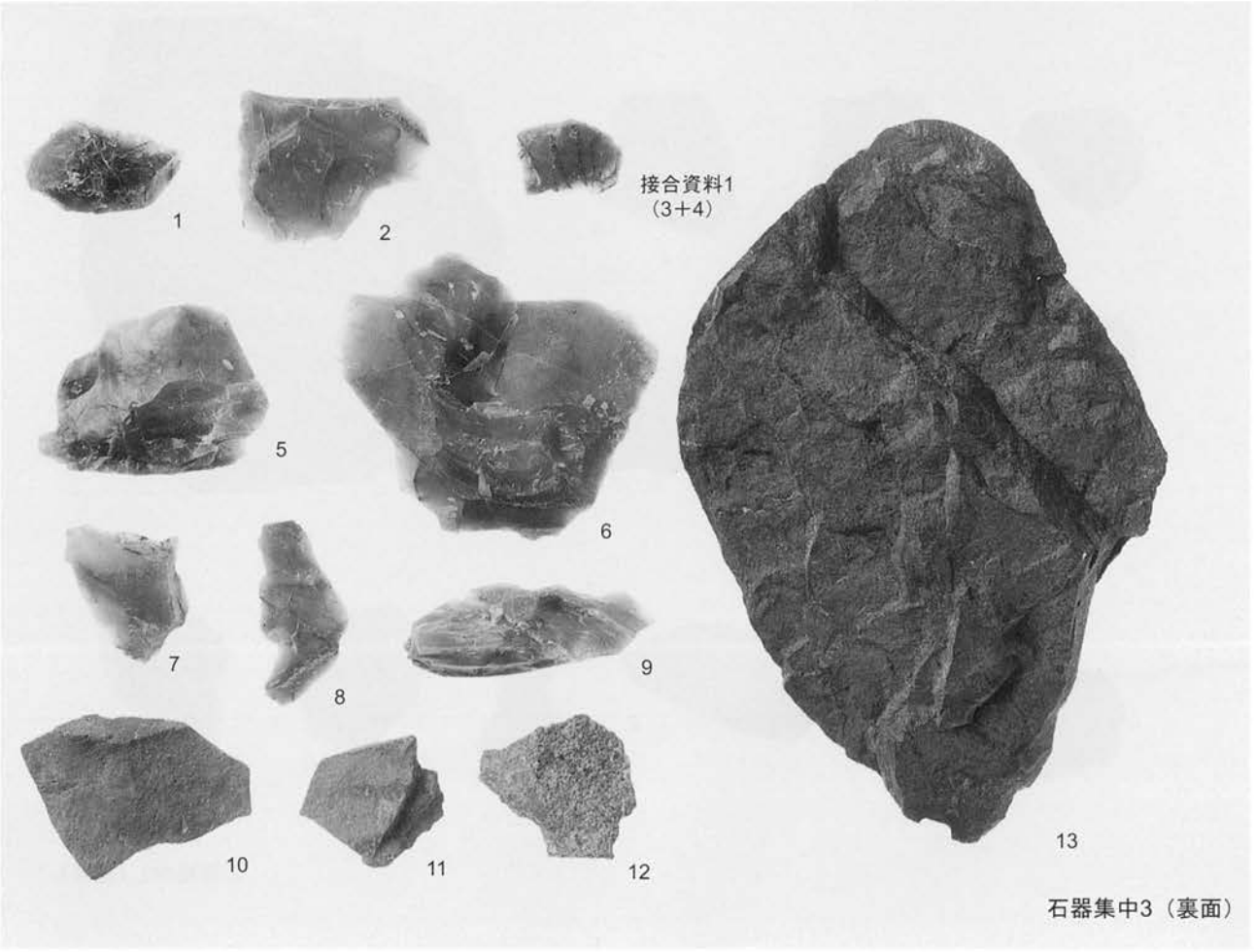


接合資料3
（7＋8）

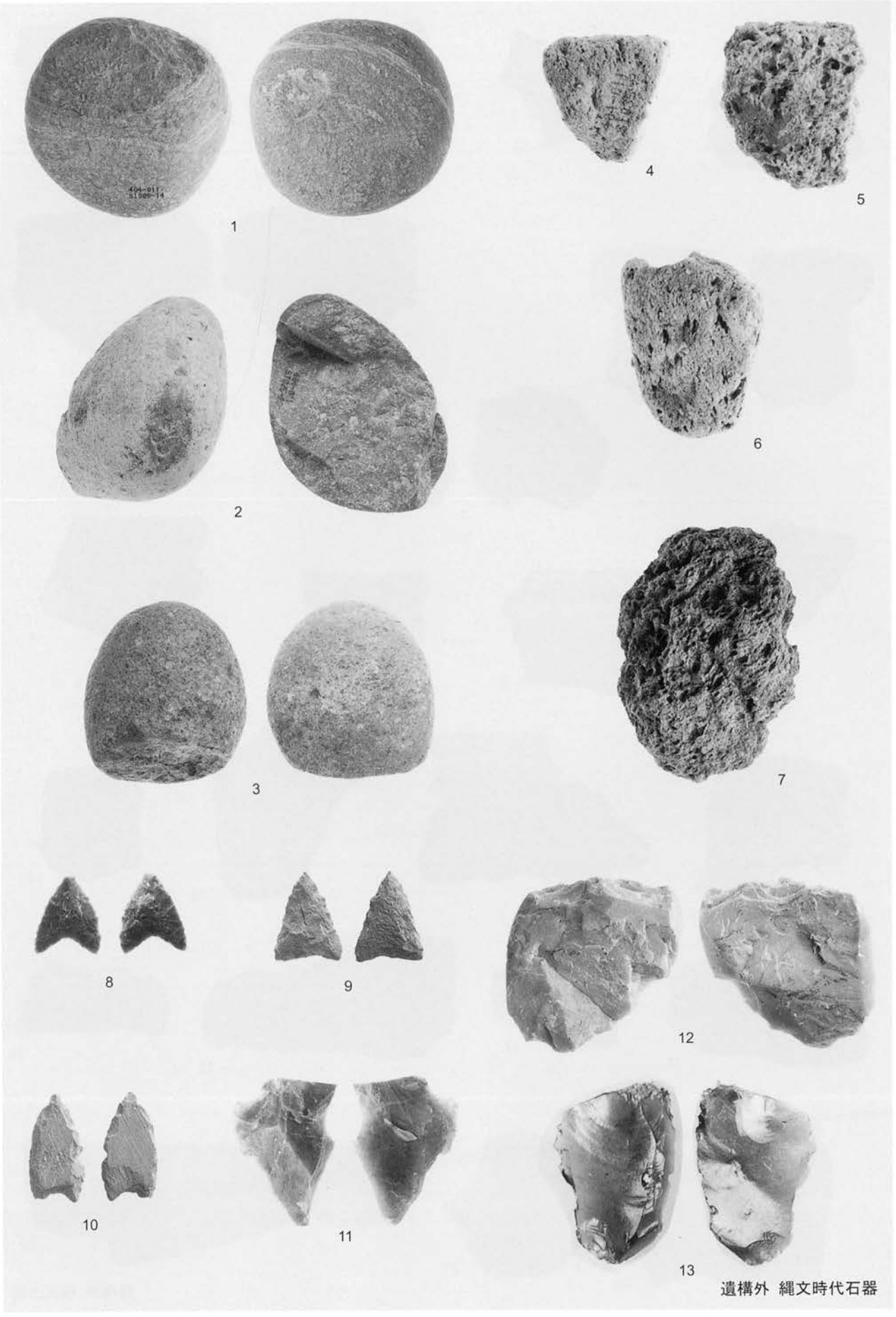
石器集中2（裏面）



石器集中3（表面）



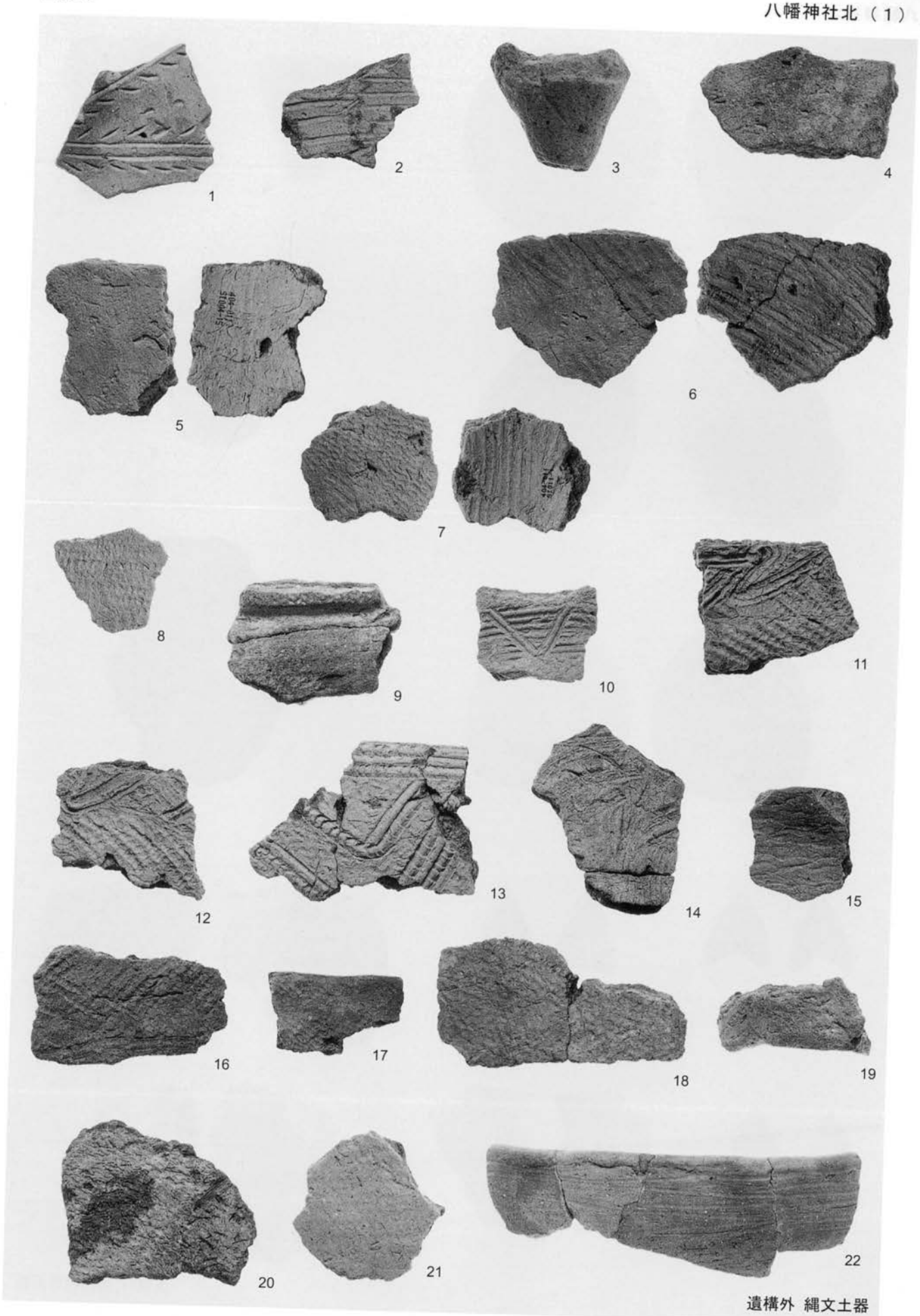
石器集中3（裏面）



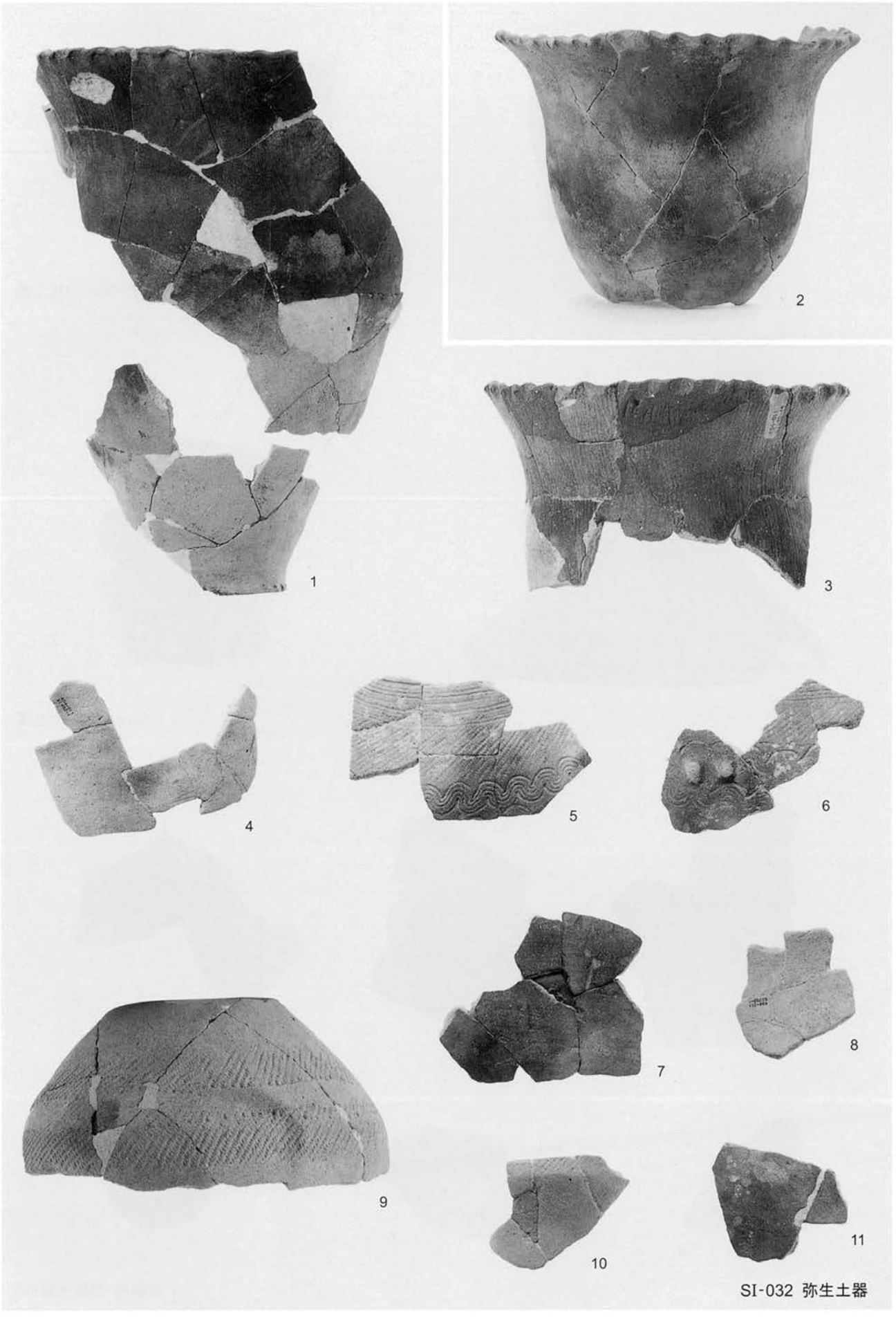
遺構外　縄文時代石器

図版56

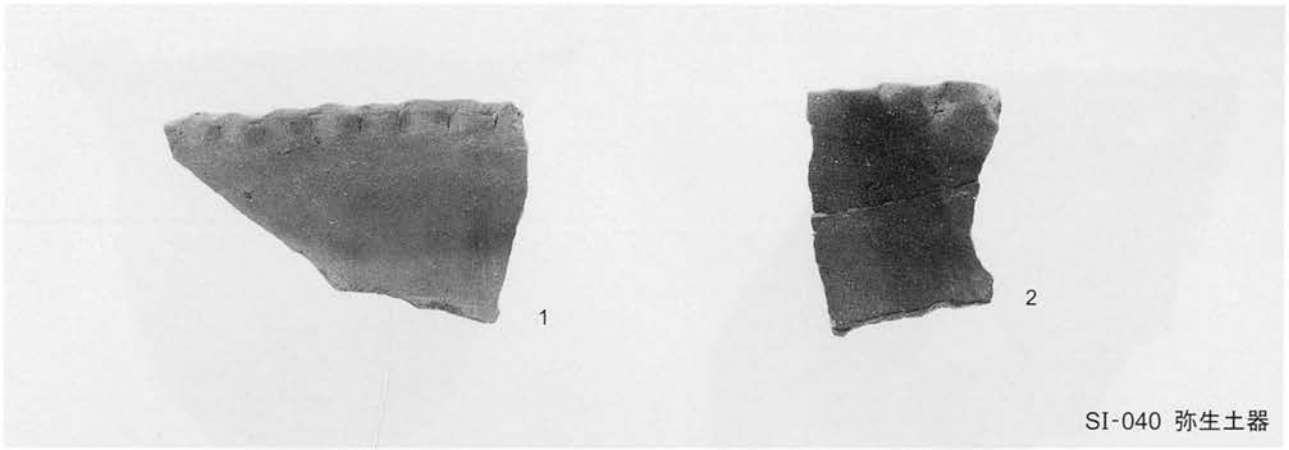
八幡神社北（1）



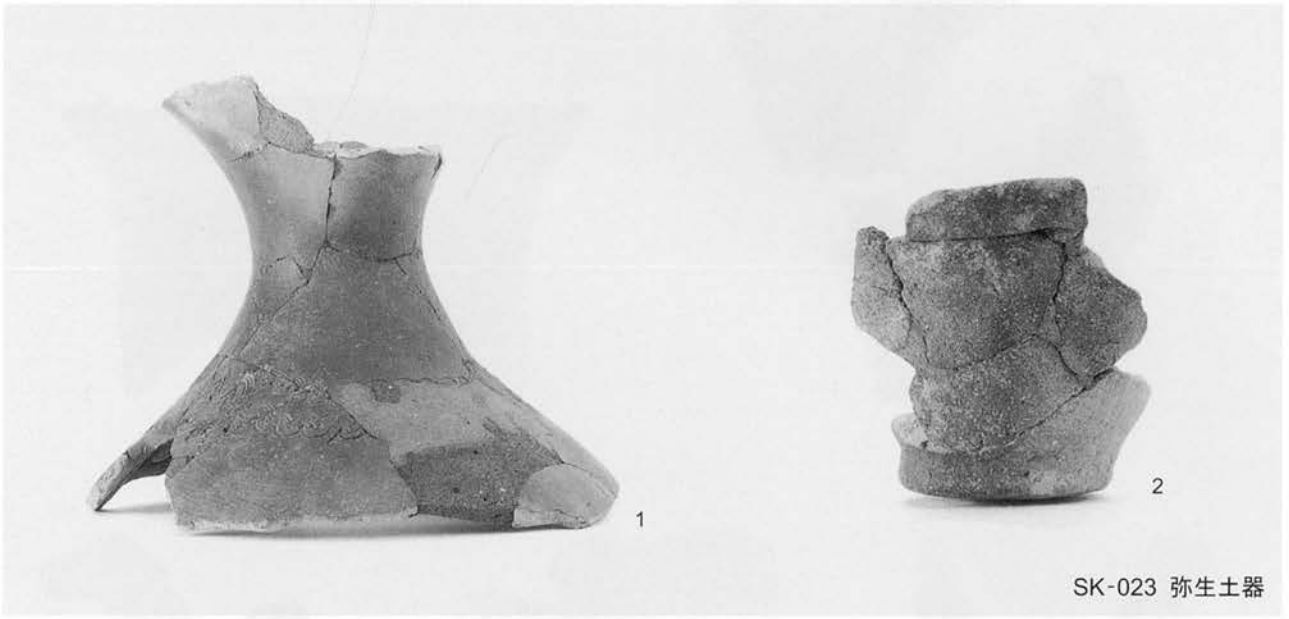
遺構外 縄文土器



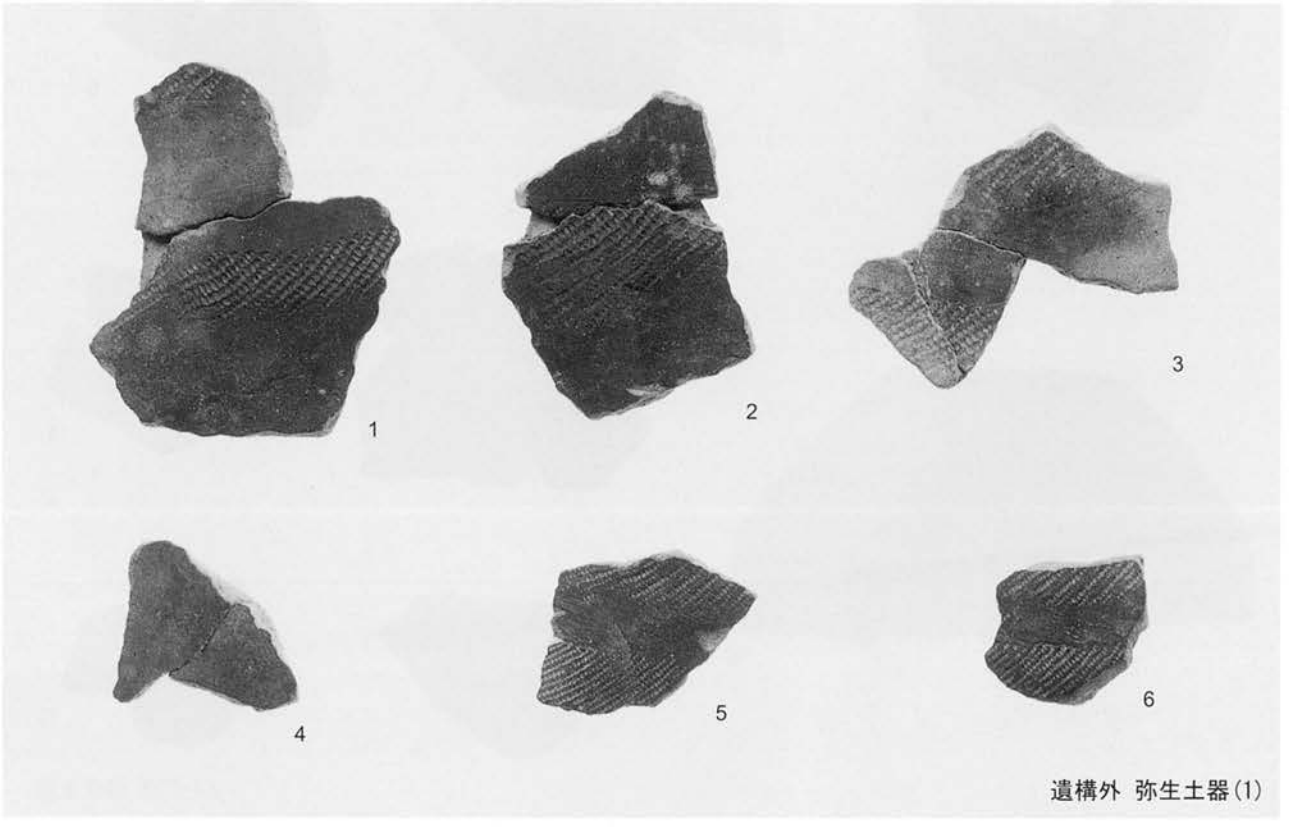
SI-032 弥生土器



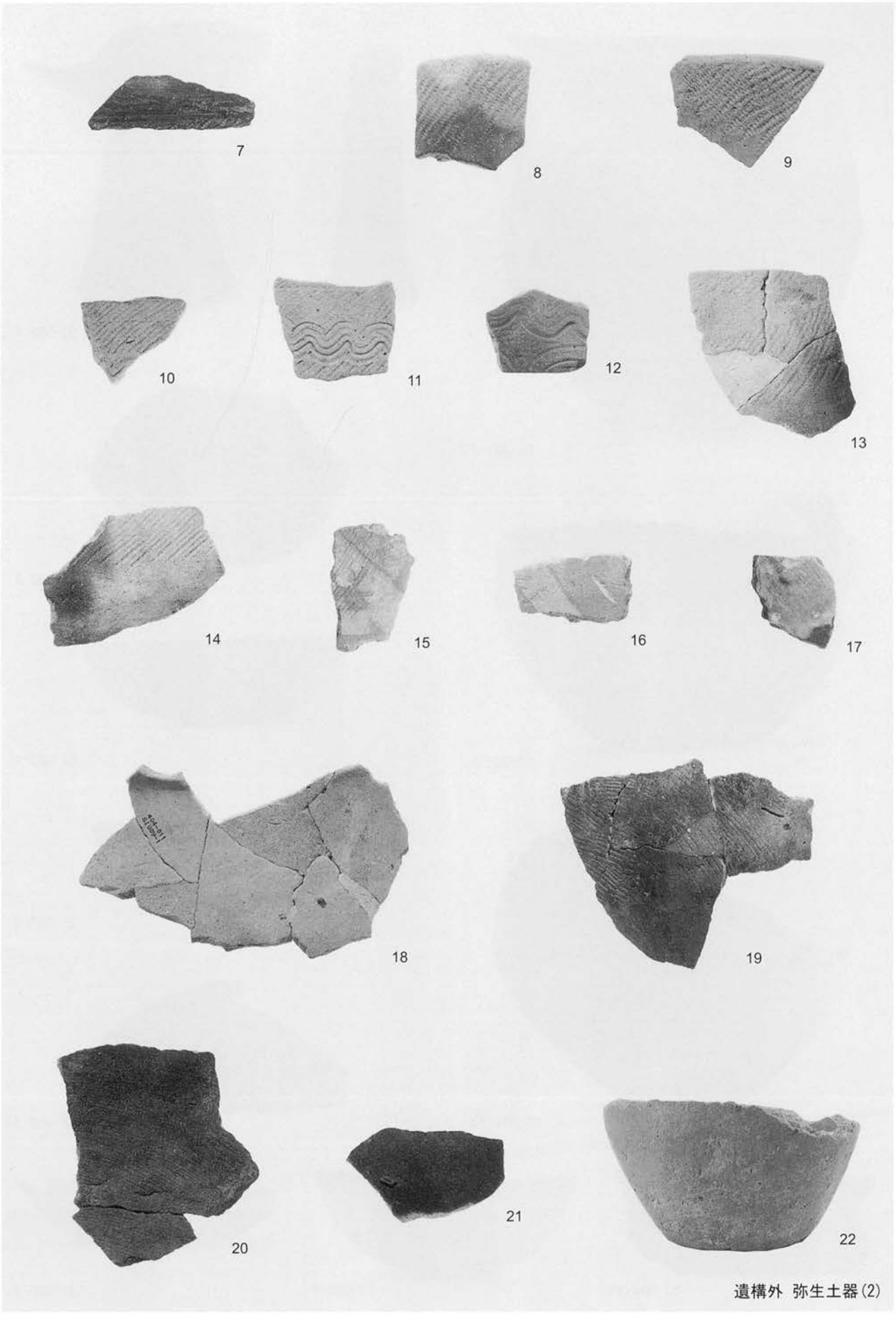
SI-040 弥生土器



SK-023 弥生土器



遺構外 弥生土器(1)

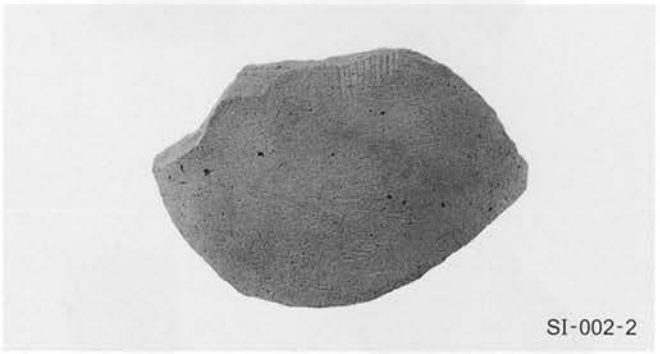


遺構外　弥生土器(2)

SI-001-1

SI-001-2

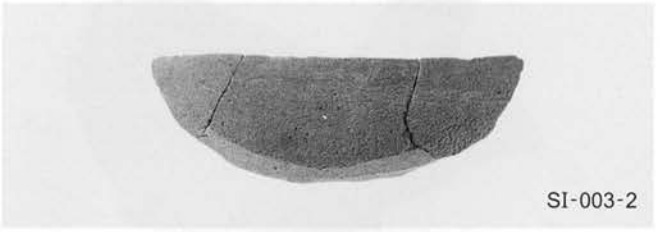
SI-002-1

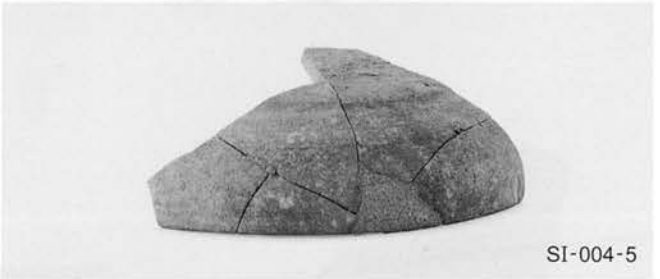

SI-002-2

SI-002-3

SI-003-1

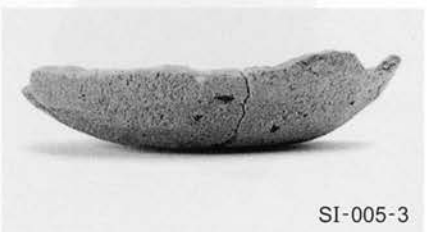
SI-004-13


SI-003-2


SI-004-5

SI-004-10

SI-005-1


SI-005-3

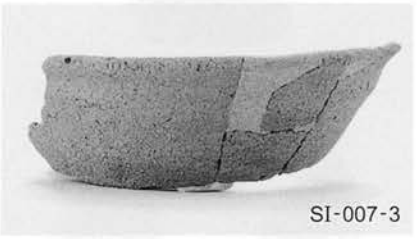
SI-005-4

SI-005-7

SI-005-6

SI-005-5

SI-007-2

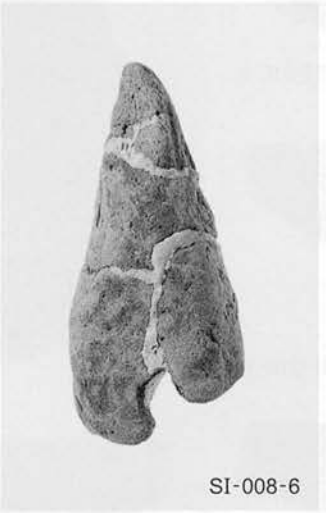

SI-007-3

SI-009-3

SI-007-4

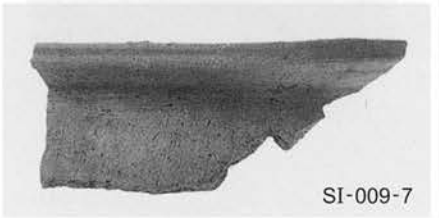
SI-009-4

SI-006-2


SI-008-6

SI-009-12

SI-009-6

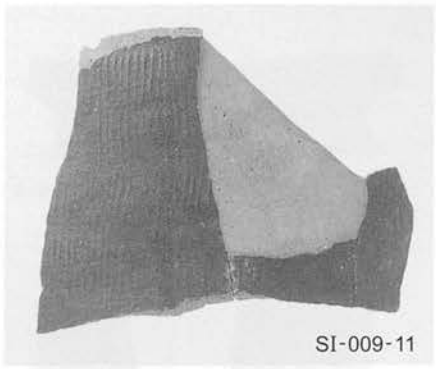

SI-009-7

SI-009-9

SI-009-10

SI-009-1

SI-009-8

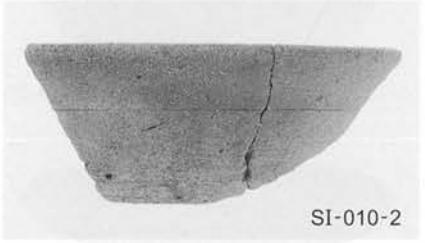

SI-009-11

SI-009-13

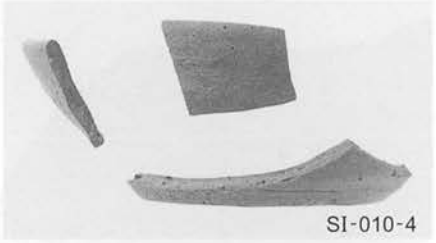
SI-009-14

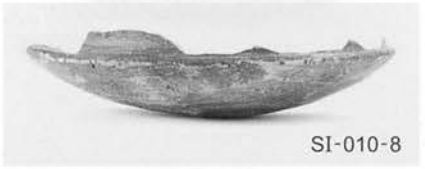
SI-010-1

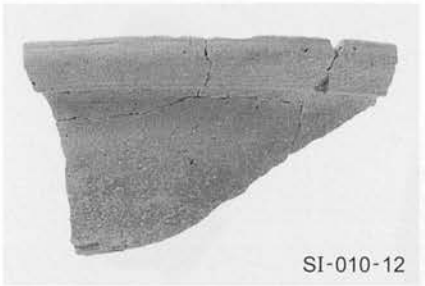
SI-010-3

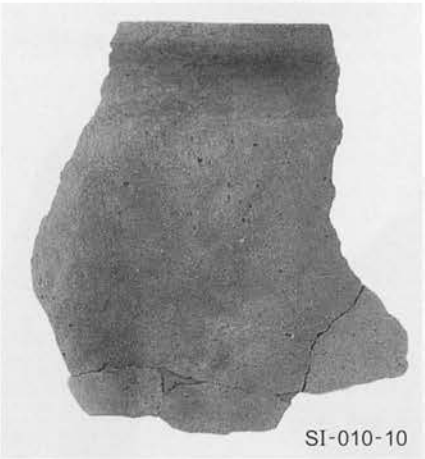

SI-010-2

SI-010-6

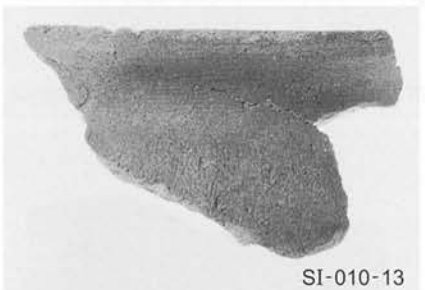

SI-010-4


SI-010-8


SI-010-12


SI-010-10

SI-010-11


SI-010-13

SI-011-2

SI-011-4

SI-010-5

SI-011-3

SI-011-6

SI-011-1

SI-011-14

SI-011-13

SI-011-7

SI-011-15

SI-011-9

SI-011-8

SI-011-5

SI-011-10

SI-011-11

SI-012-1

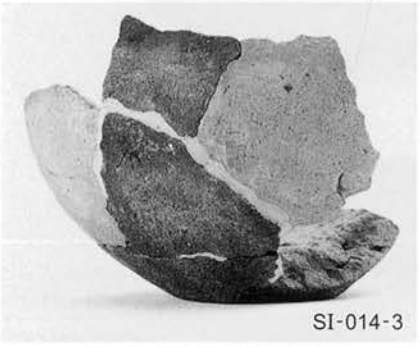
SI-012-2

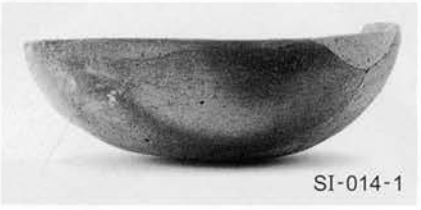
SI-013-2

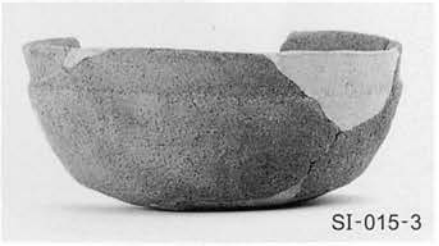
SI-013-1

SI-013-3

SI-014-4


SI-014-3


SI-014-1


SI-015-3

SI-015-1

SI-015-2

SI-015-9

SI-015-8

SI-015-6

SI-015-7

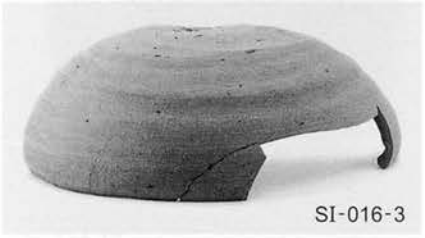
SI-015-10

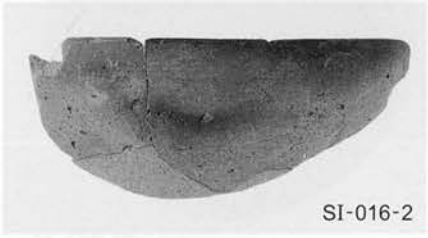
SI-015-11

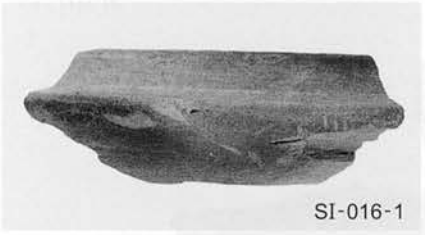
SI-015-4

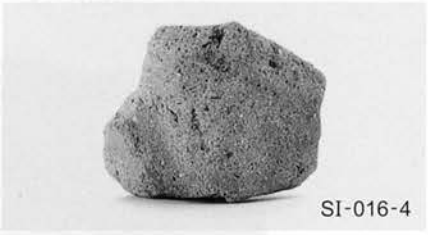
SI-015-12

SI-015-5


SI-016-3


SI-016-2

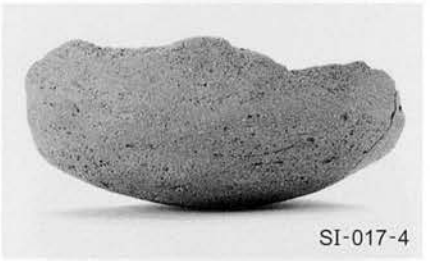

SI-016-1

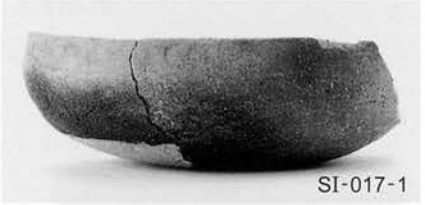

SI-016-4

SI-016-6

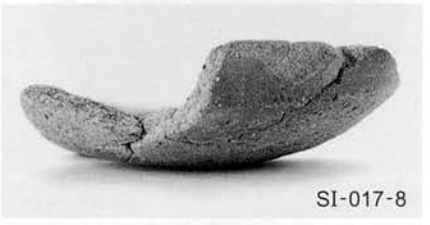
SI-017-5

SI-017-6

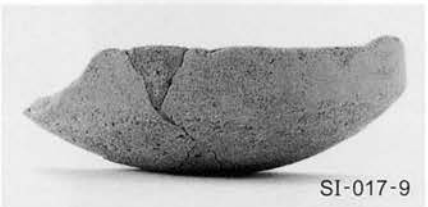

SI-017-4


SI-017-1

SI-017-3


SI-017-8

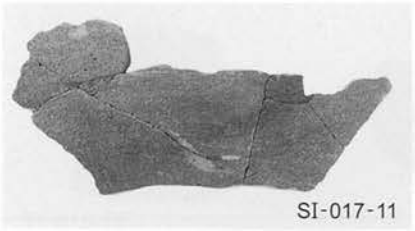
SI-017-7


SI-017-9

SI-017-12

SI-017-10

SI-017-2

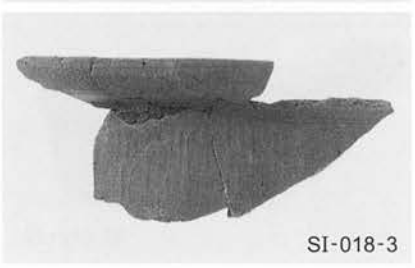

SI-017-11

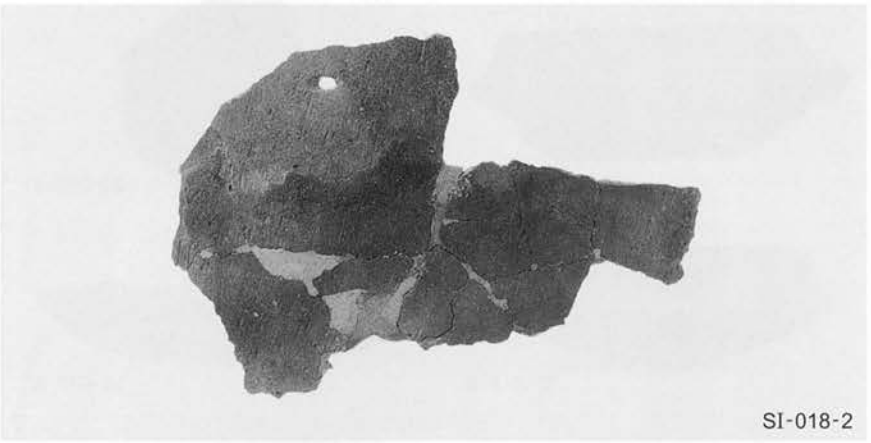
SI-017-16

SI-017-13

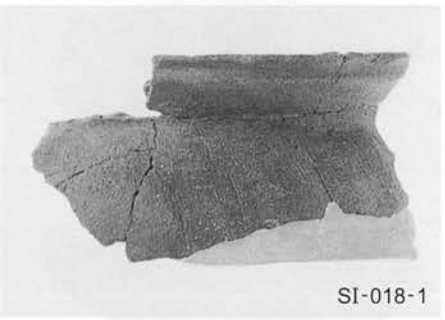
SI-017-15

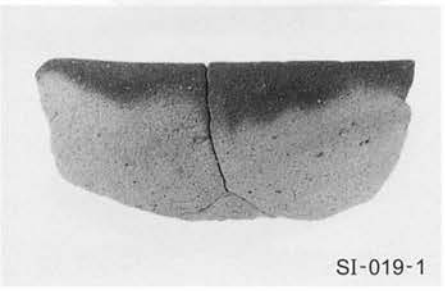
SI-017-14

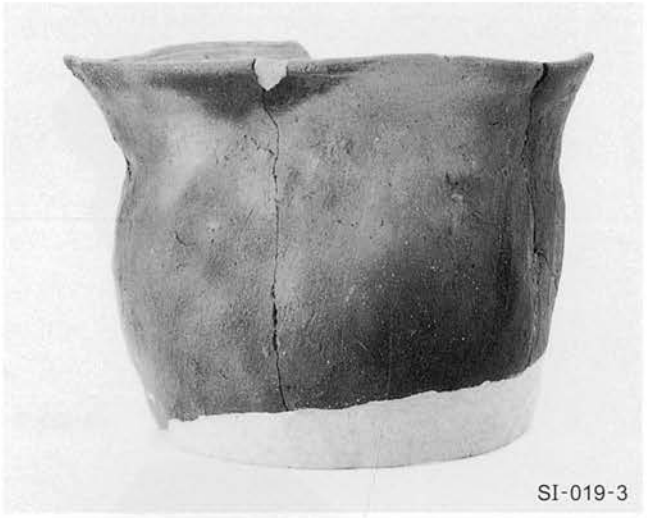

SI-018-3

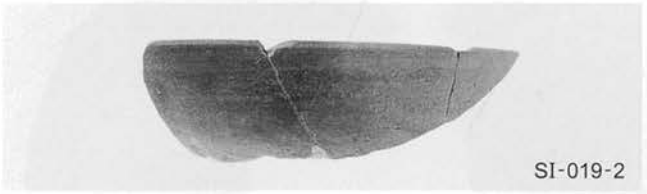

SI-018-2

SI-018-4


SI-018-1


SI-019-1


SI-019-3


SI-019-2

SI-020-5

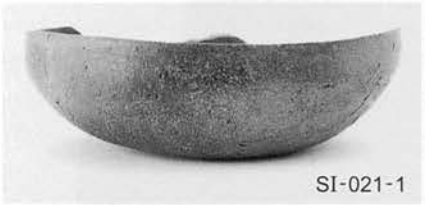
SI-009支脚

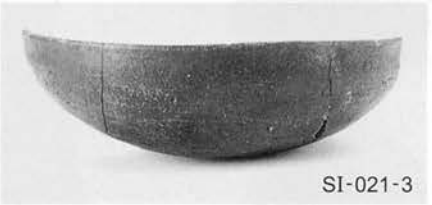
SI-020-1

SI-020-6

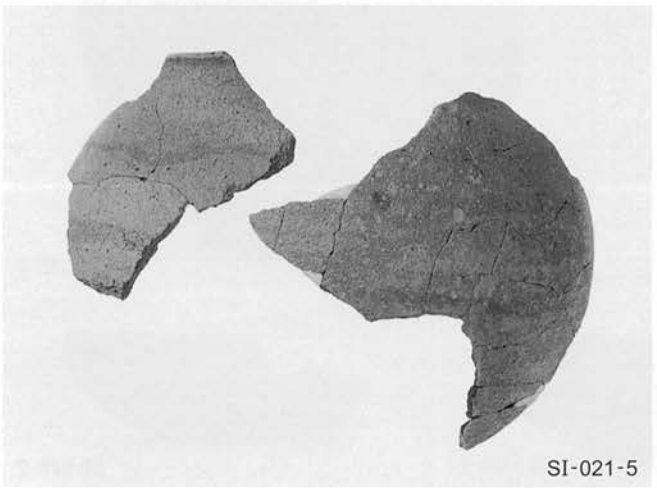
SI-020-3

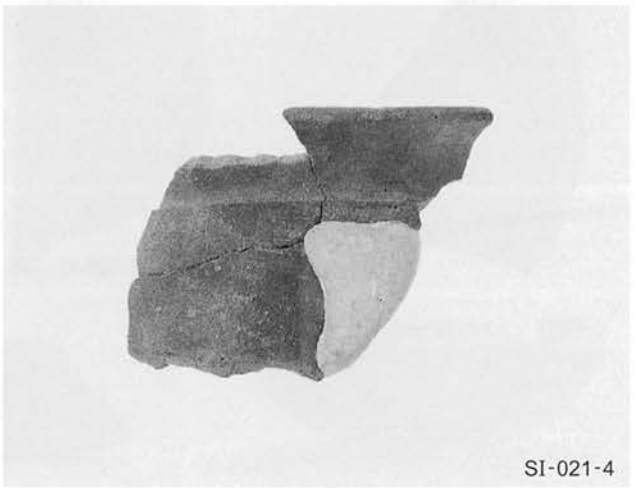
SI-020-2

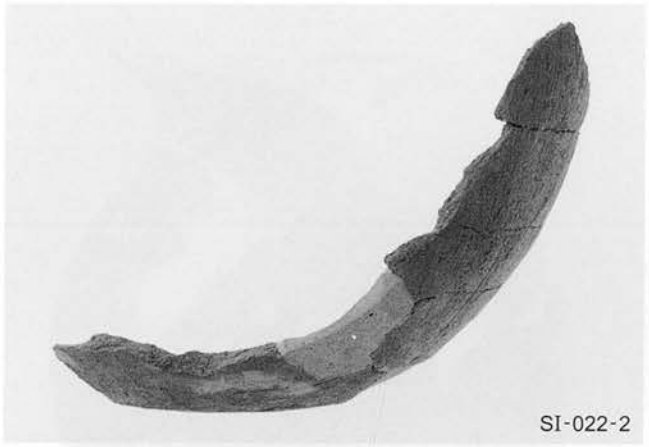

SI-021-1


SI-021-3

SI-021-2


SI-021-5


SI-021-4


SI-022-2

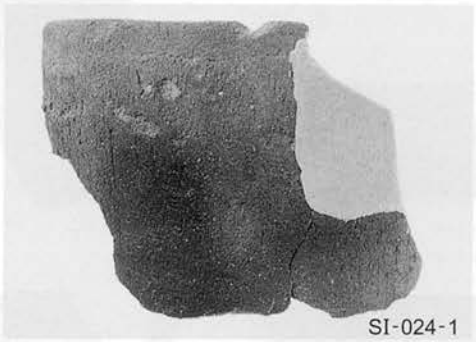
SI-023-5

SI-022-3

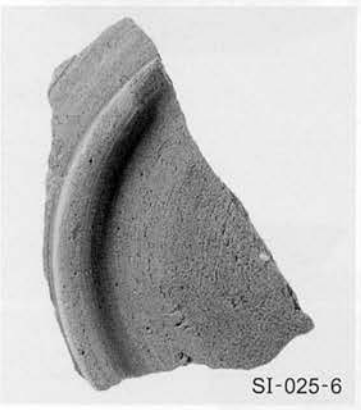
SI-022-1

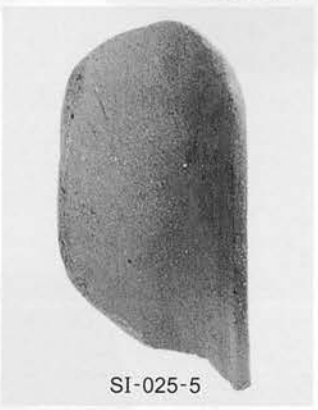
SI-023-4

SI-023-3


SI-024-1

SI-025-4


SI-025-6

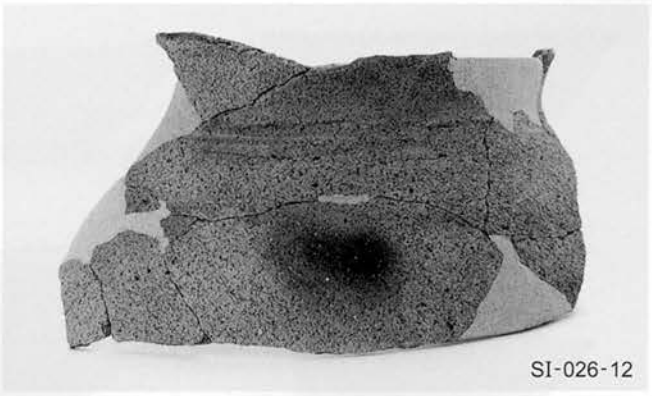

SI-025-5

SI-025-3

SI-025-1

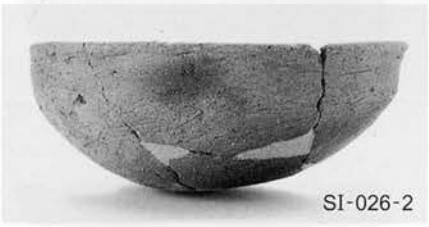
SI-025-2

SI-026-13


SI-026-12

SI-026-1

SI-026-7

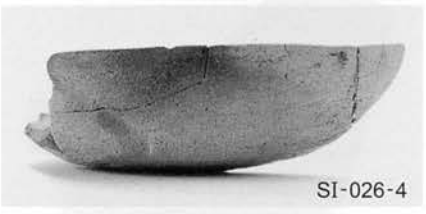

SI-026-2

SI-026-6

SI-026-3

SI-026-5

SI-026-8


SI-026-4

SI-026-9

SI-026-11

SI-026-14

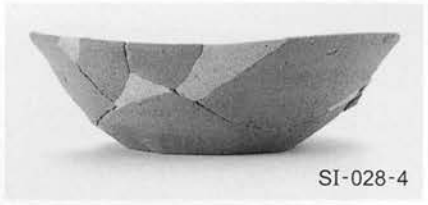
SI-026-10

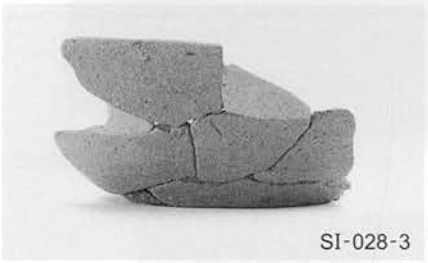
SI-028-8

SI-028-9

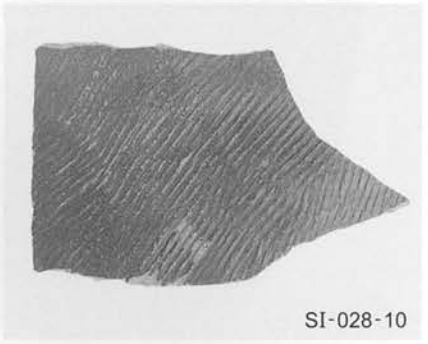
SI-028-1

SI-028-2

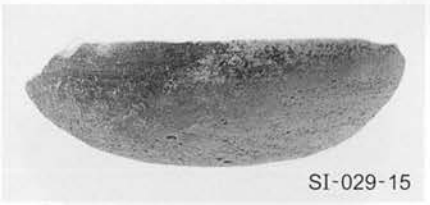

SI-028-4


SI-028-3

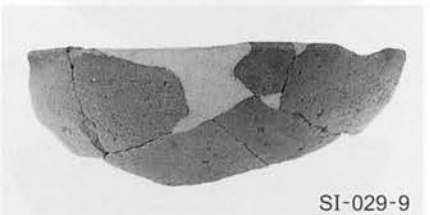
SI-028-6


SI-028-10

SI-029-2

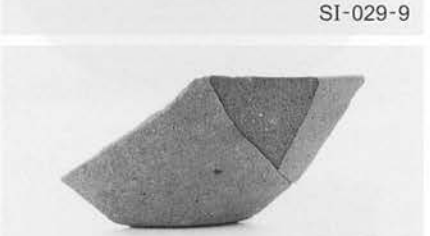

SI-029-15

SI-029-3


SI-029-9

SI-029-4

SI-029-12


SI-029-6

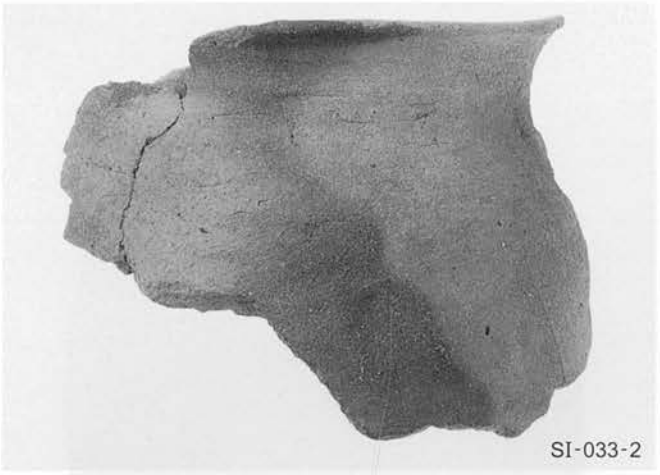
SI-029-16

SI-029-18

SI-029-8

SI-030-1

SI-031-1


SI-033-2

SI-034-1

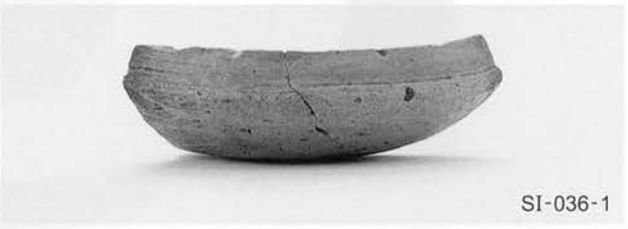
SI-033-1

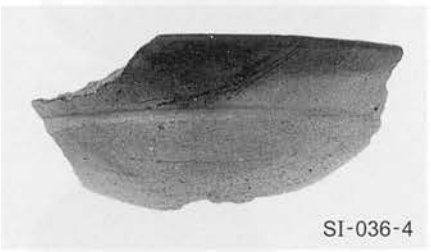
SI-035-5

SI-035-4

SI-033-3

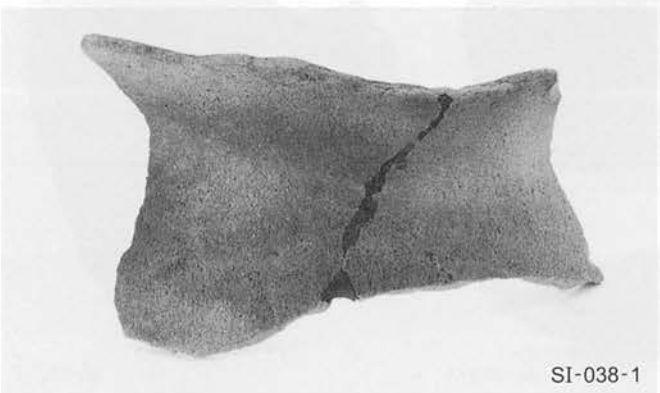
SI-035-6


SI-036-1


SI-036-4

SI-036-6

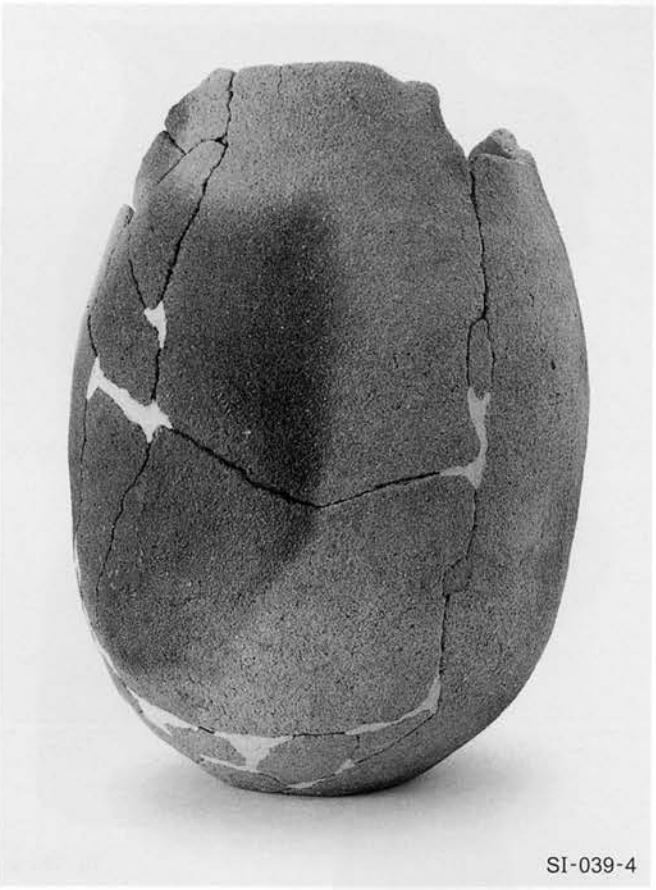
SI-036-7


SI-038-1

SI-038-2

SI-038-3

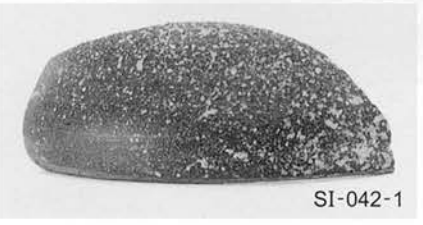
SI-039-2


SI-039-4

SI-039-3

SI-041-2

SI-041-5

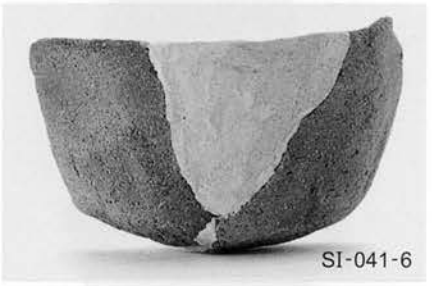

SI-042-1

SI-041-7

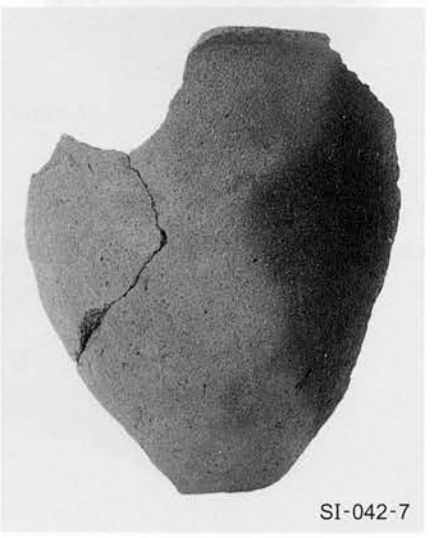
SI-041-3

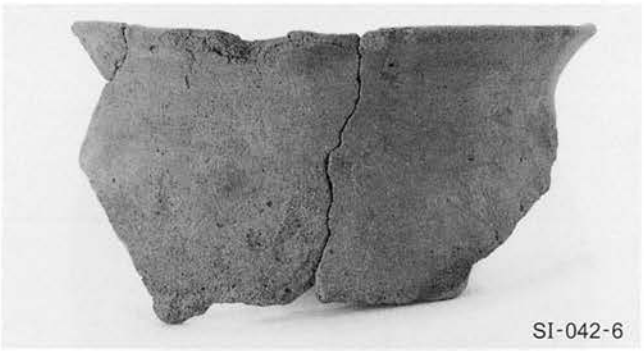
SI-041-4

SI-042-3


SI-041-6

SI-041-1


SI-042-7


SI-042-6

SI-043-3

SI-044-2

SI-042-5

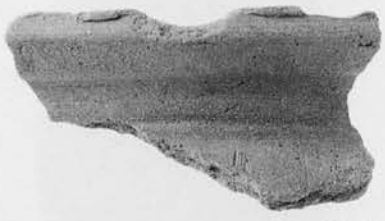
SI-044-3

SI-044-4

SB-9

SB-4

SB-20


SB-14

SB-12

SB-13

SB-18

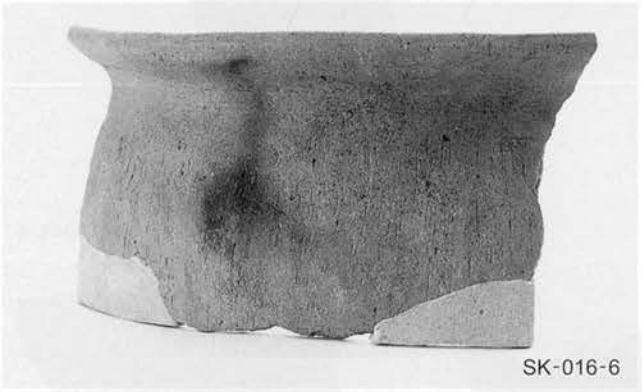
SK-018-11

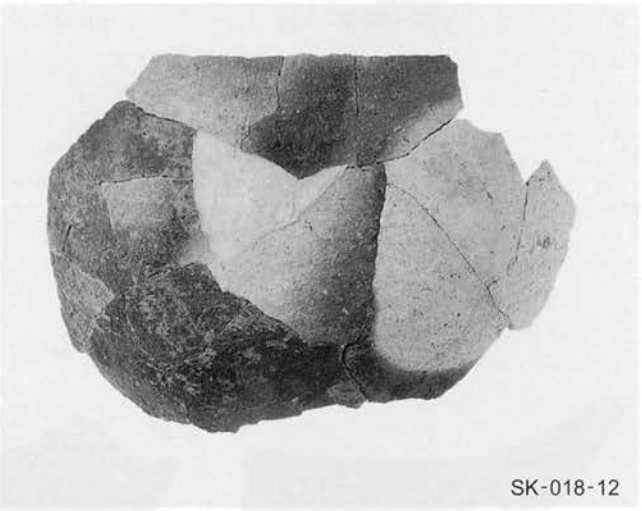
SK-016-1

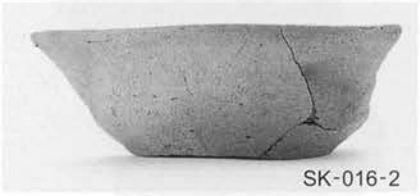
SK-016-3

遺構外-32

SK-018-8


SK-016-6

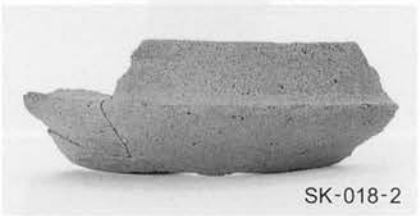

SK-018-12

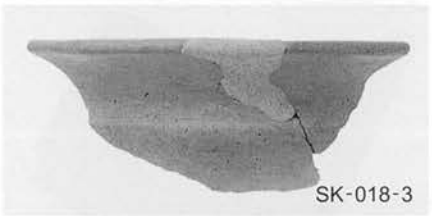

SK-016-2

SK-016-4

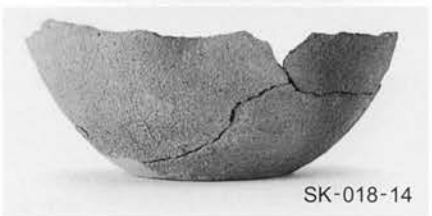
SK-018-1

遺構外-5


SK-018-2


SK-018-3

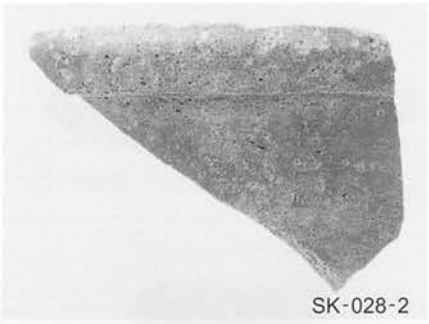
SK-016-8


SK-018-14

SK-018-5

SK-018-4

SK-018-6


SK-028-2

SK-018-7

SK-018-13

SK-018-9

SK-018-10

SK-028-1

遺構外-10

遺構外-29

遺構外-30

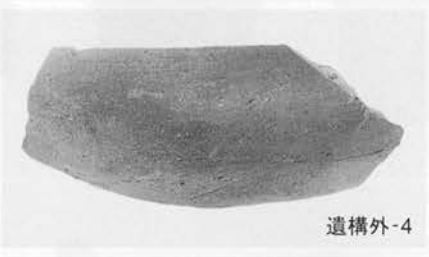
遺構外-28

遺構外-1

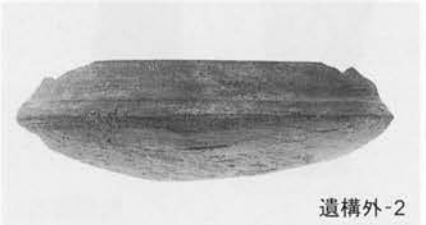
遺構外-14

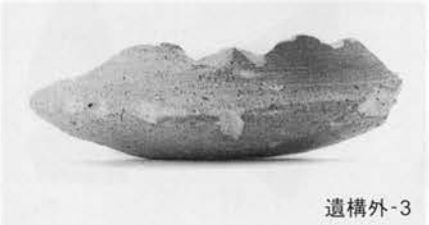
遺構外-18

遺構外-8

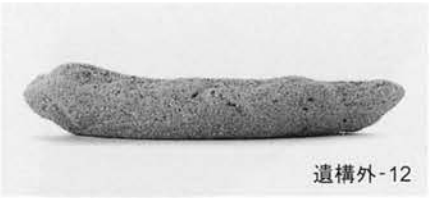

遺構外-4

遺構外-31


遺構外-2


遺構外-3

遺構外-6

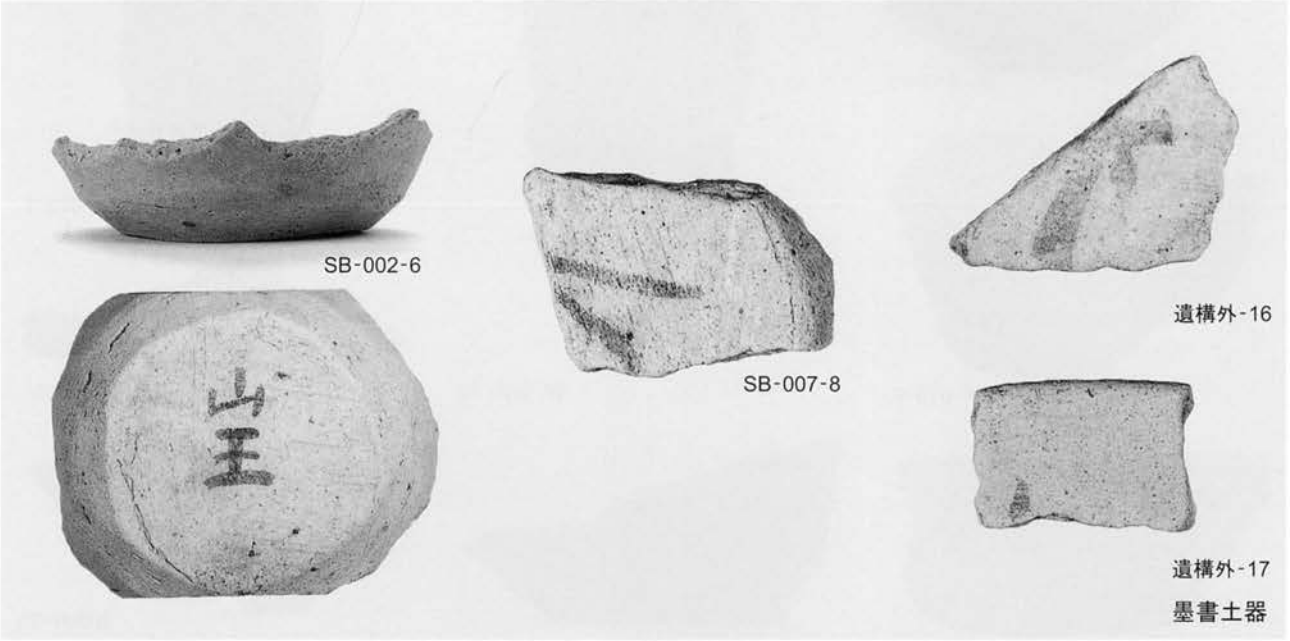

遺構外-12

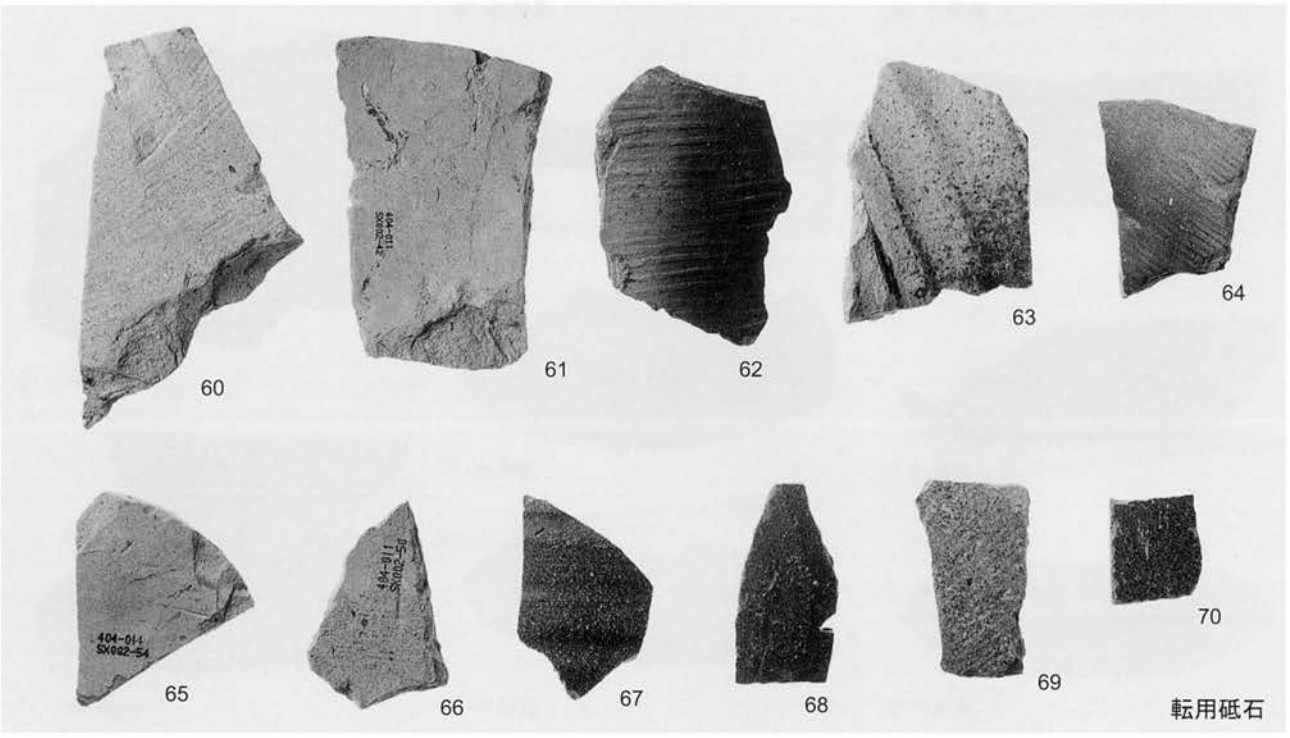
遺構外-21

遺構外-22

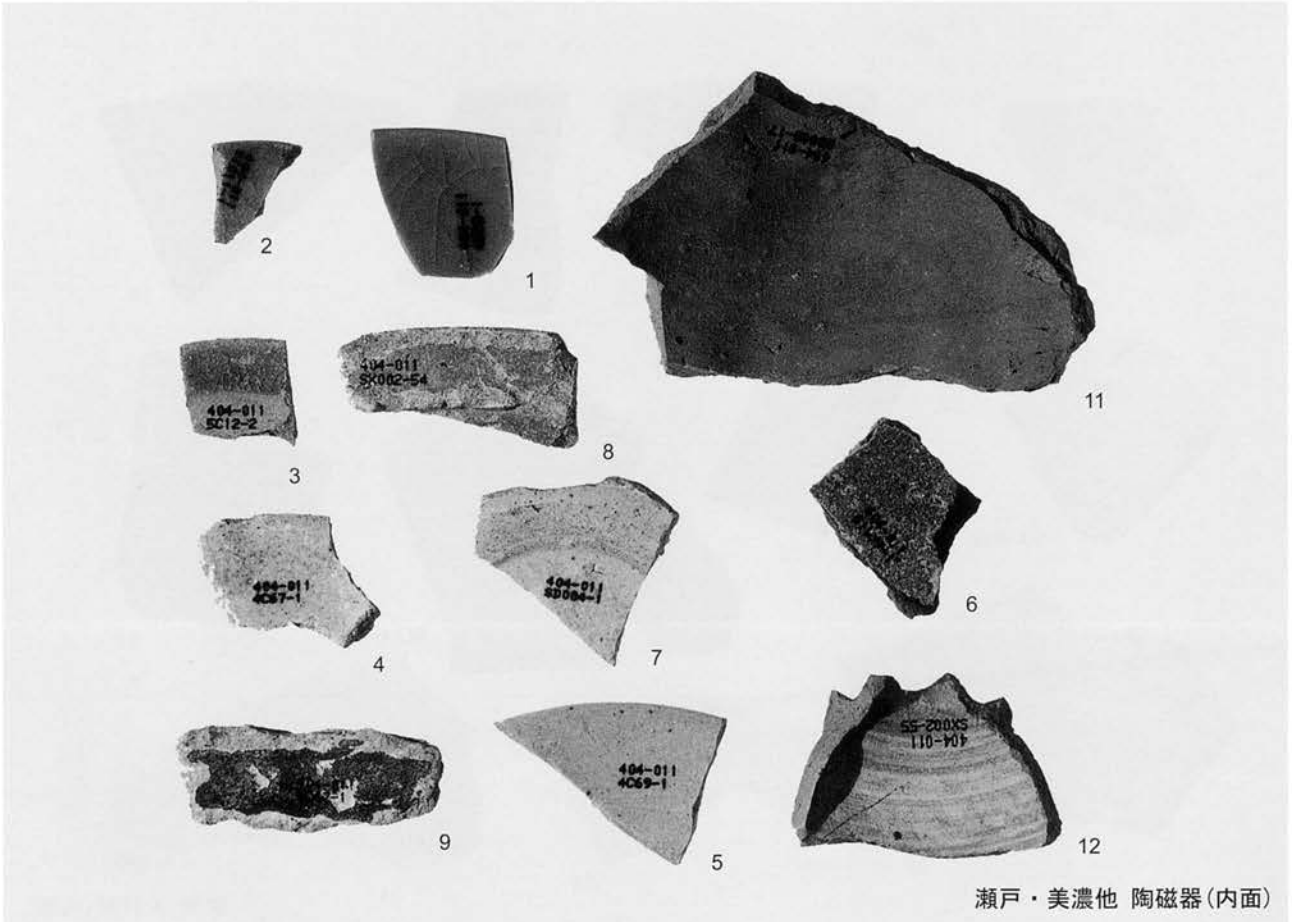
遺構外-26

遺構外-27

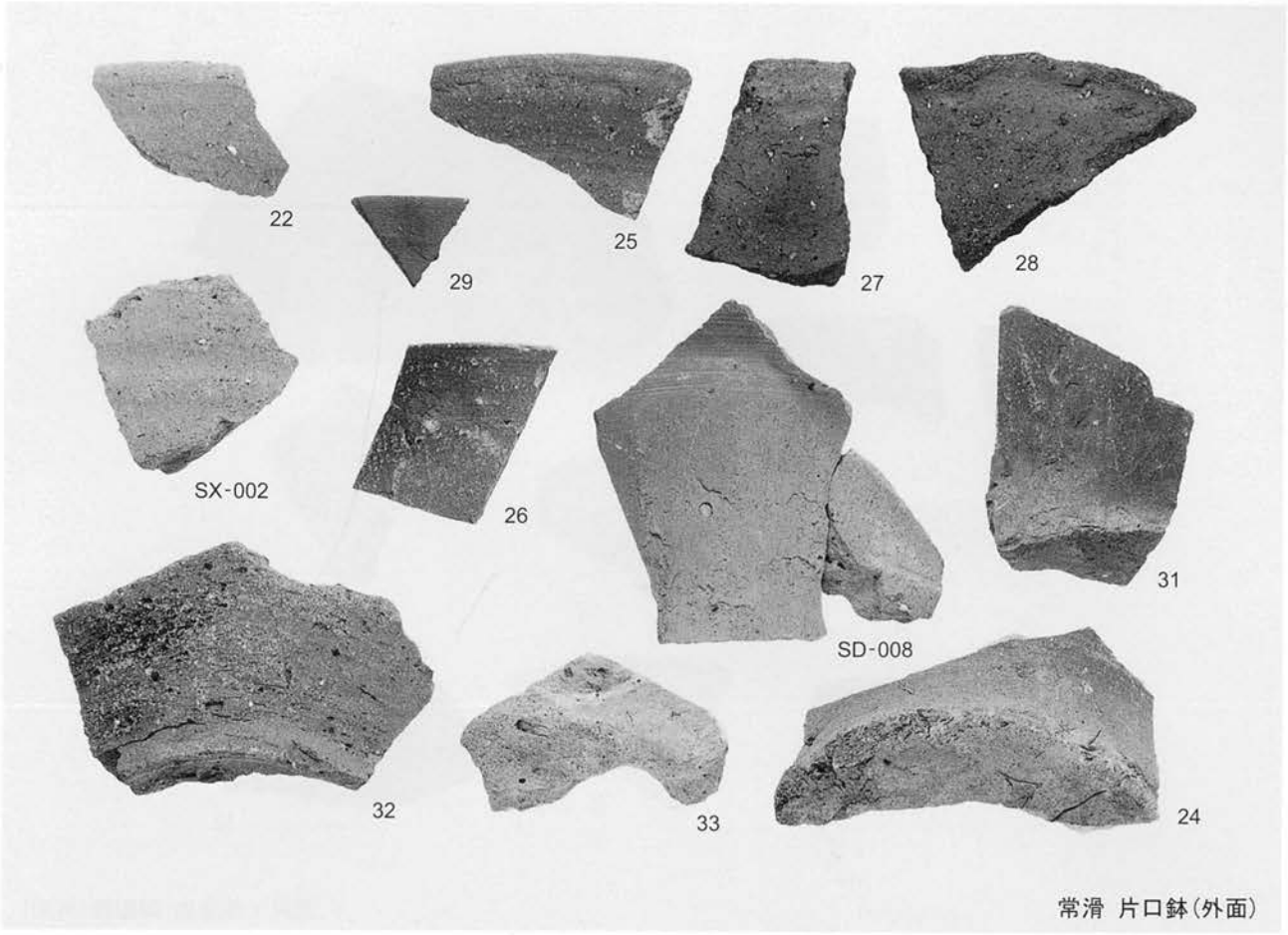




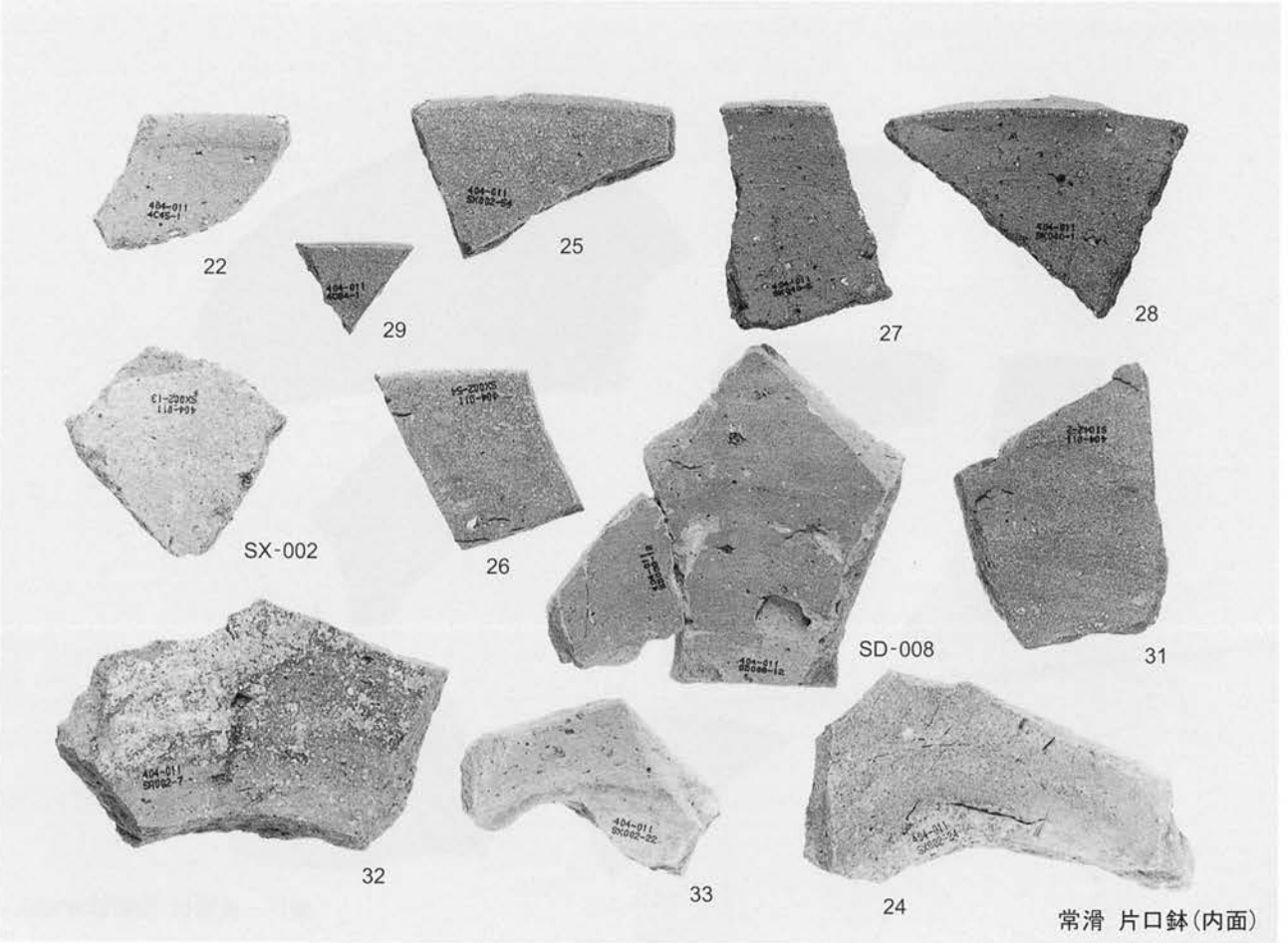
瀬戸・美濃他 陶磁器(外面)



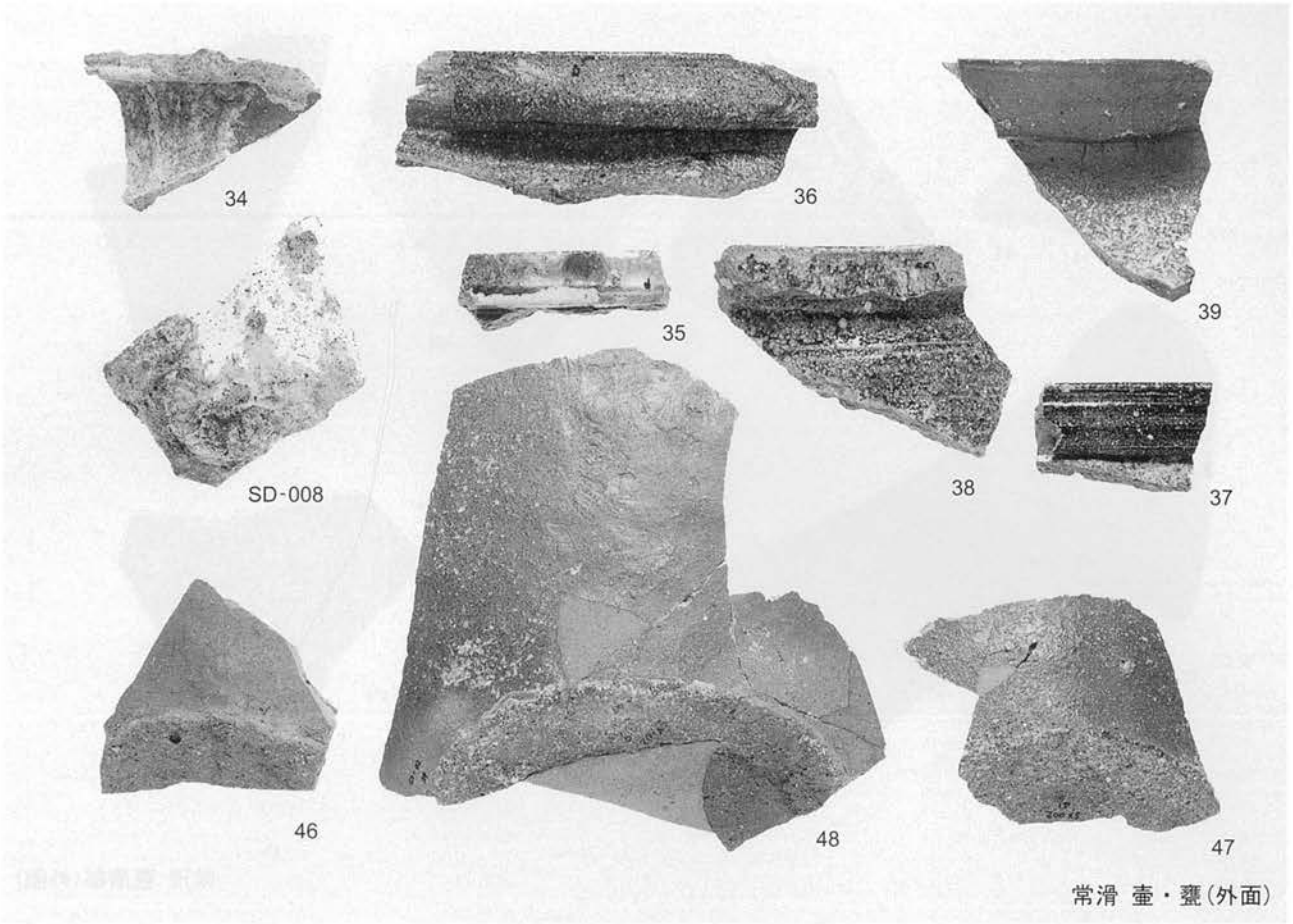
瀬戸・美濃他 陶磁器(内面)



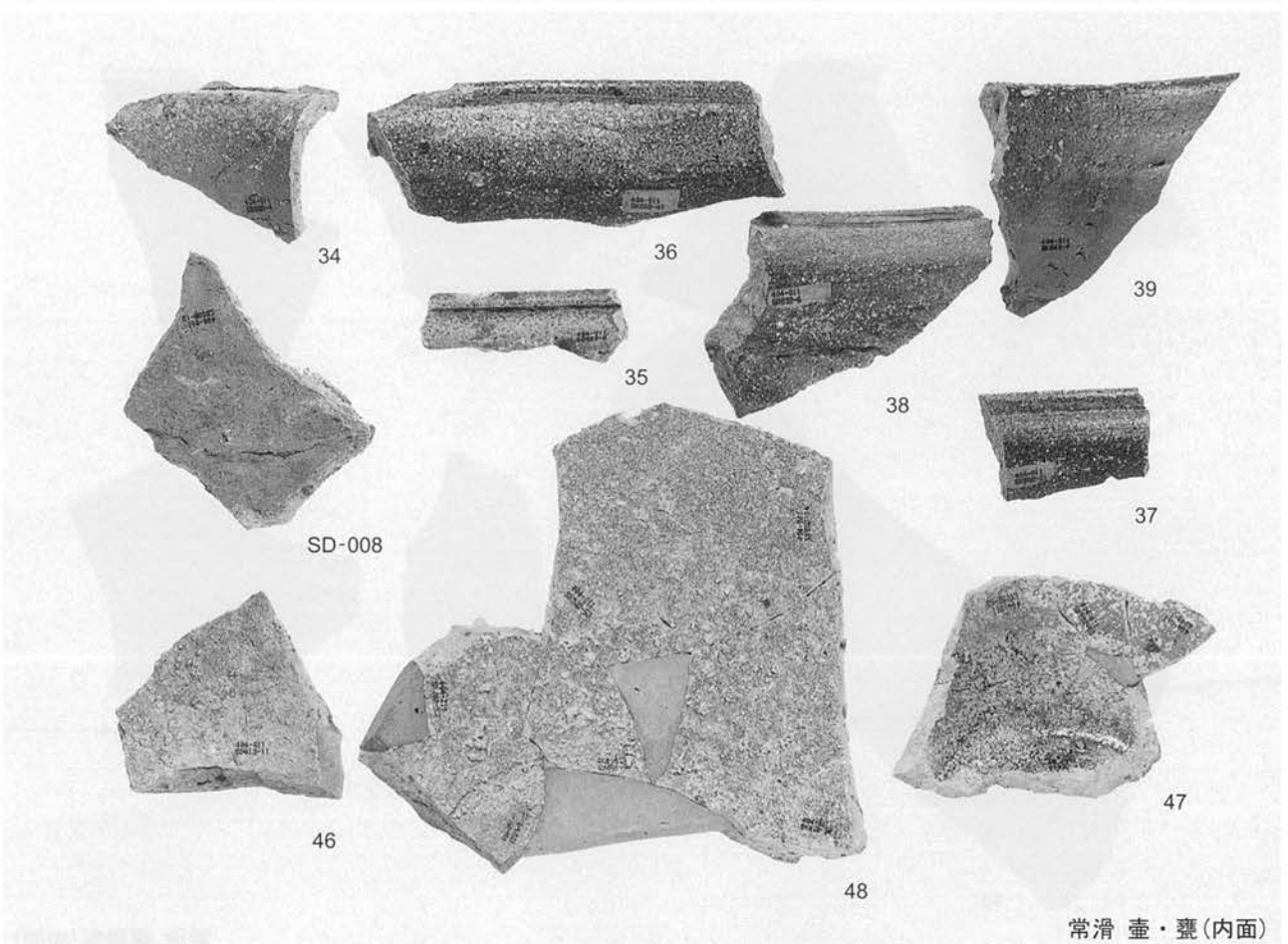
常滑 片口鉢(外面)



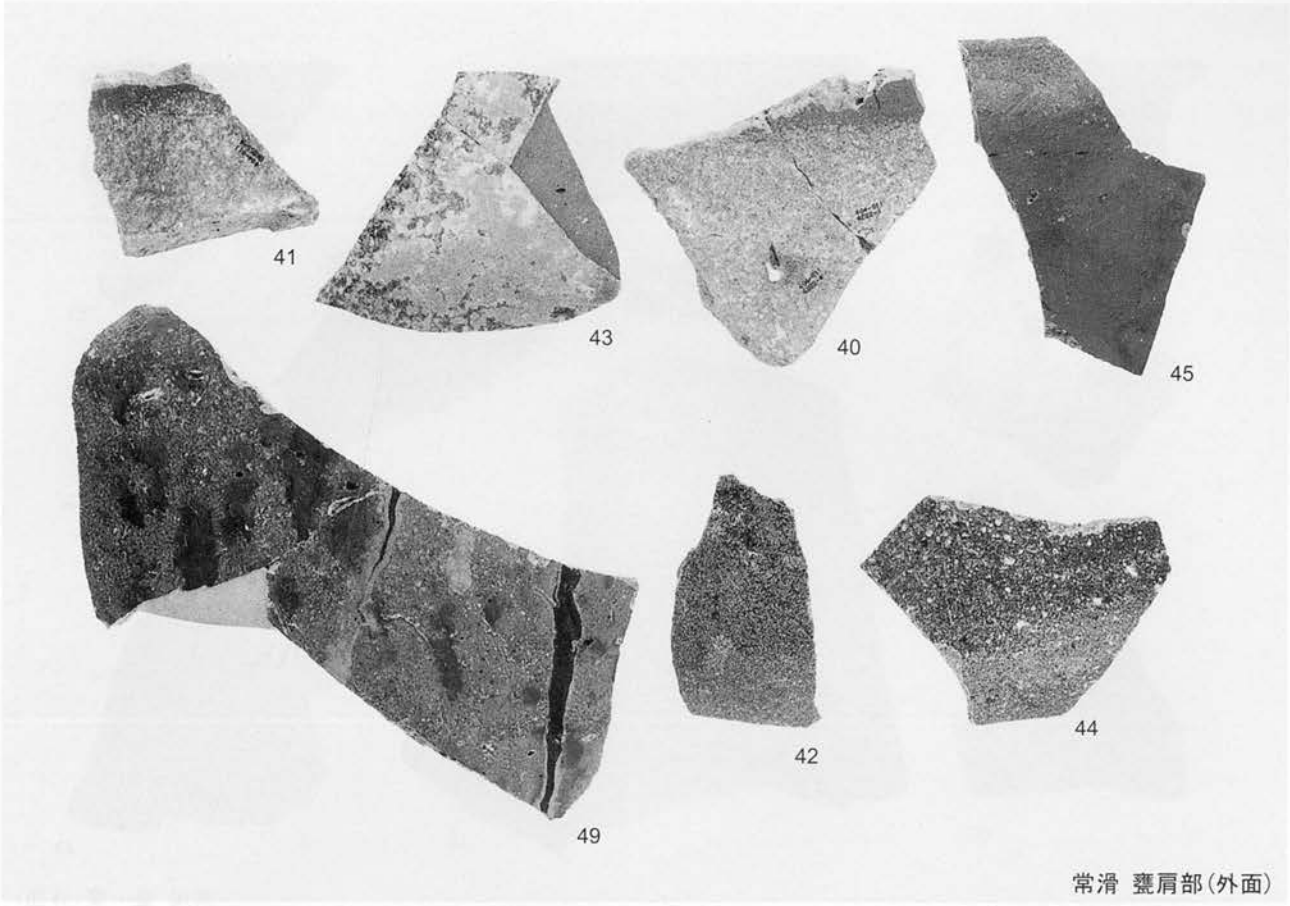
常滑 片口鉢(内面)



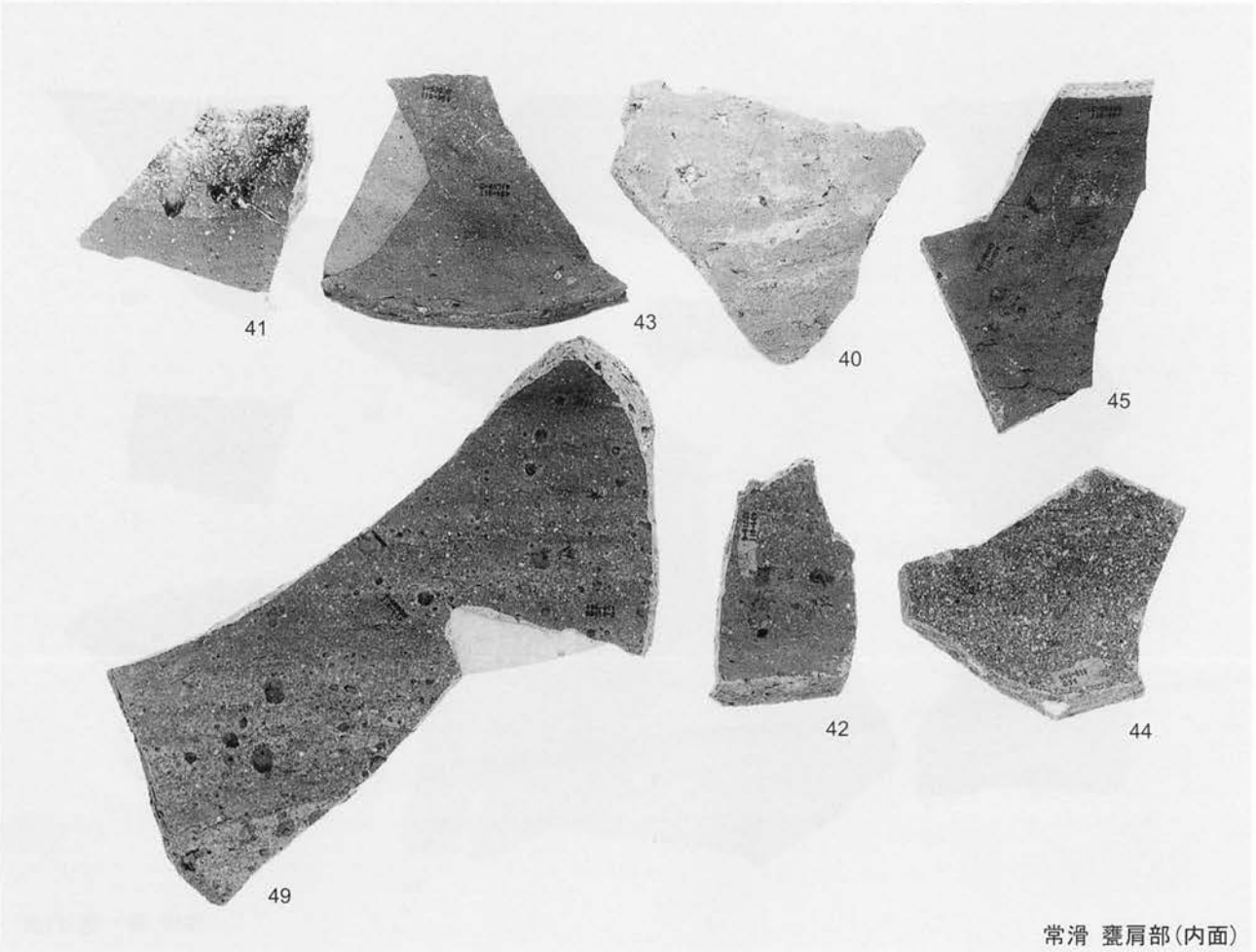
常滑 壷・甕(外面)



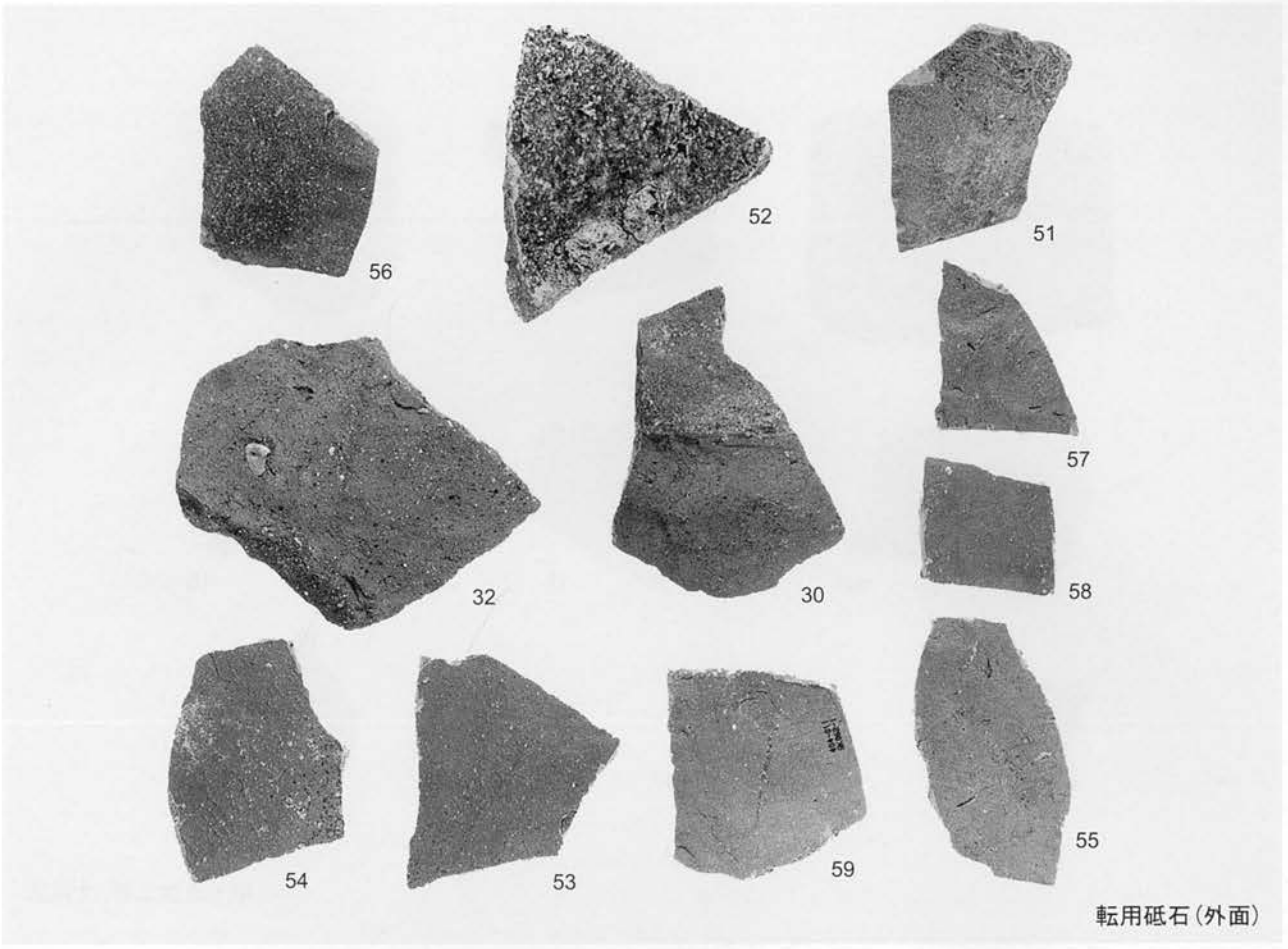
常滑 壷・甕(内面)



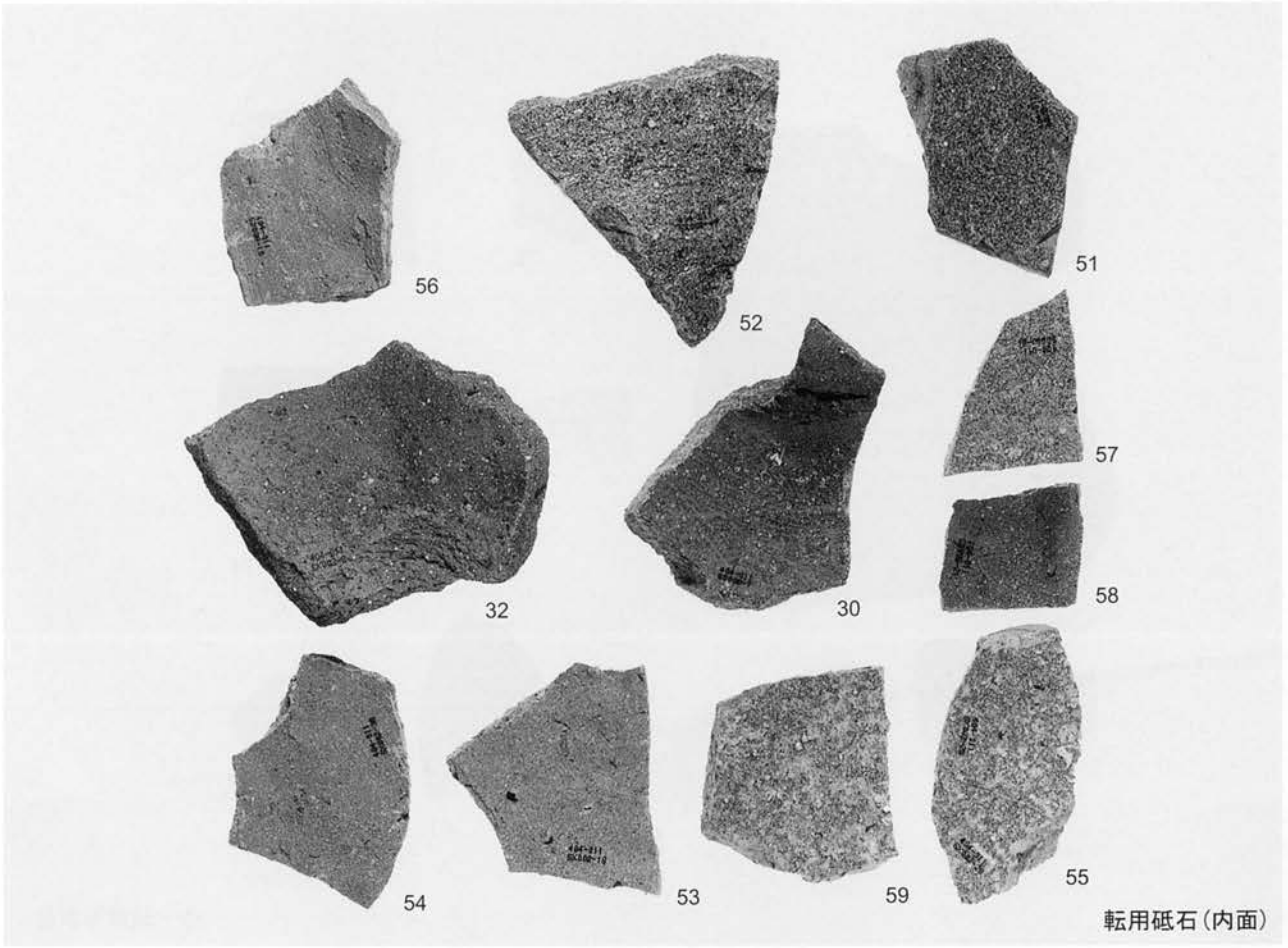
常滑 甕肩部(外面)



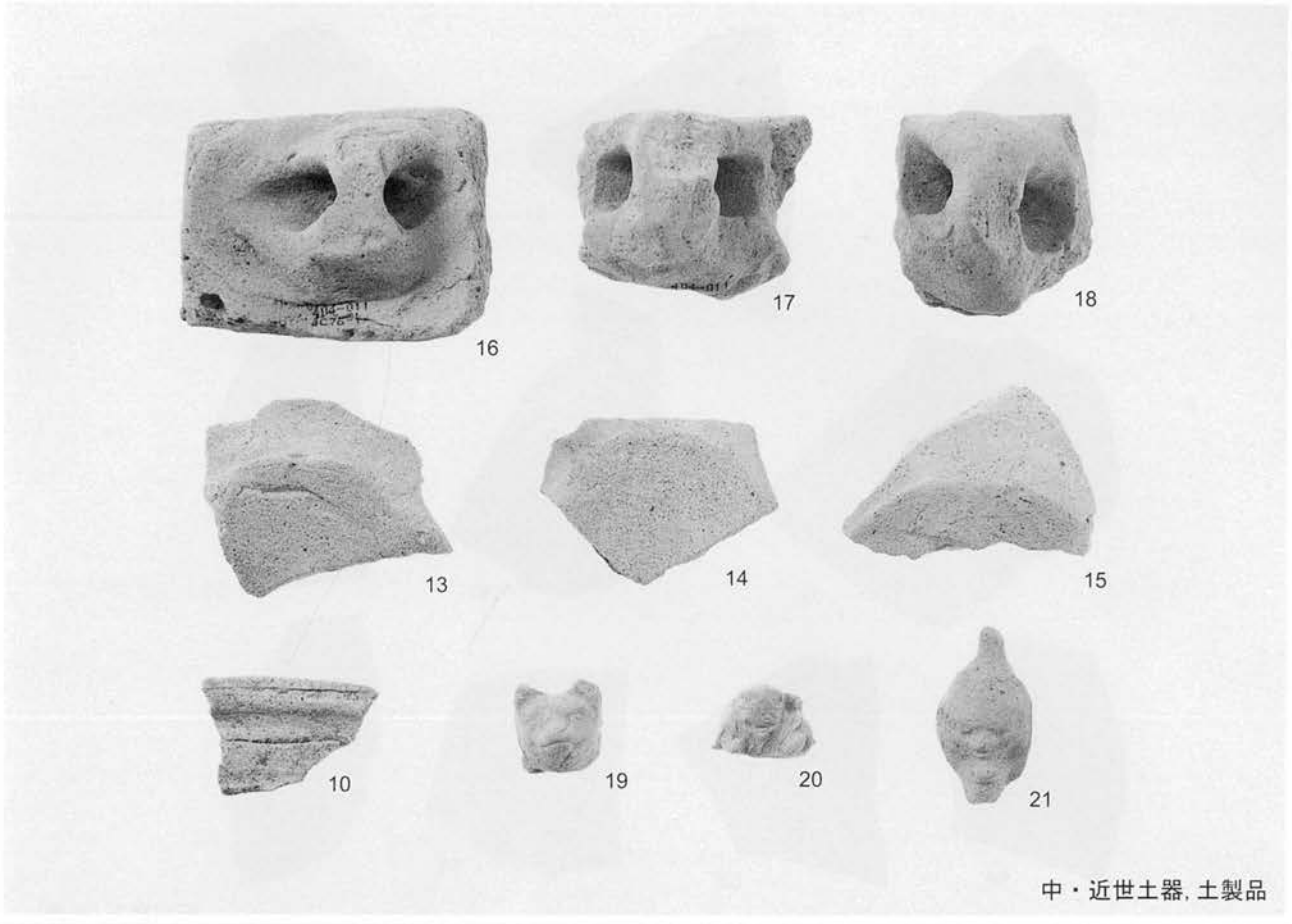
常滑 甕肩部(内面)



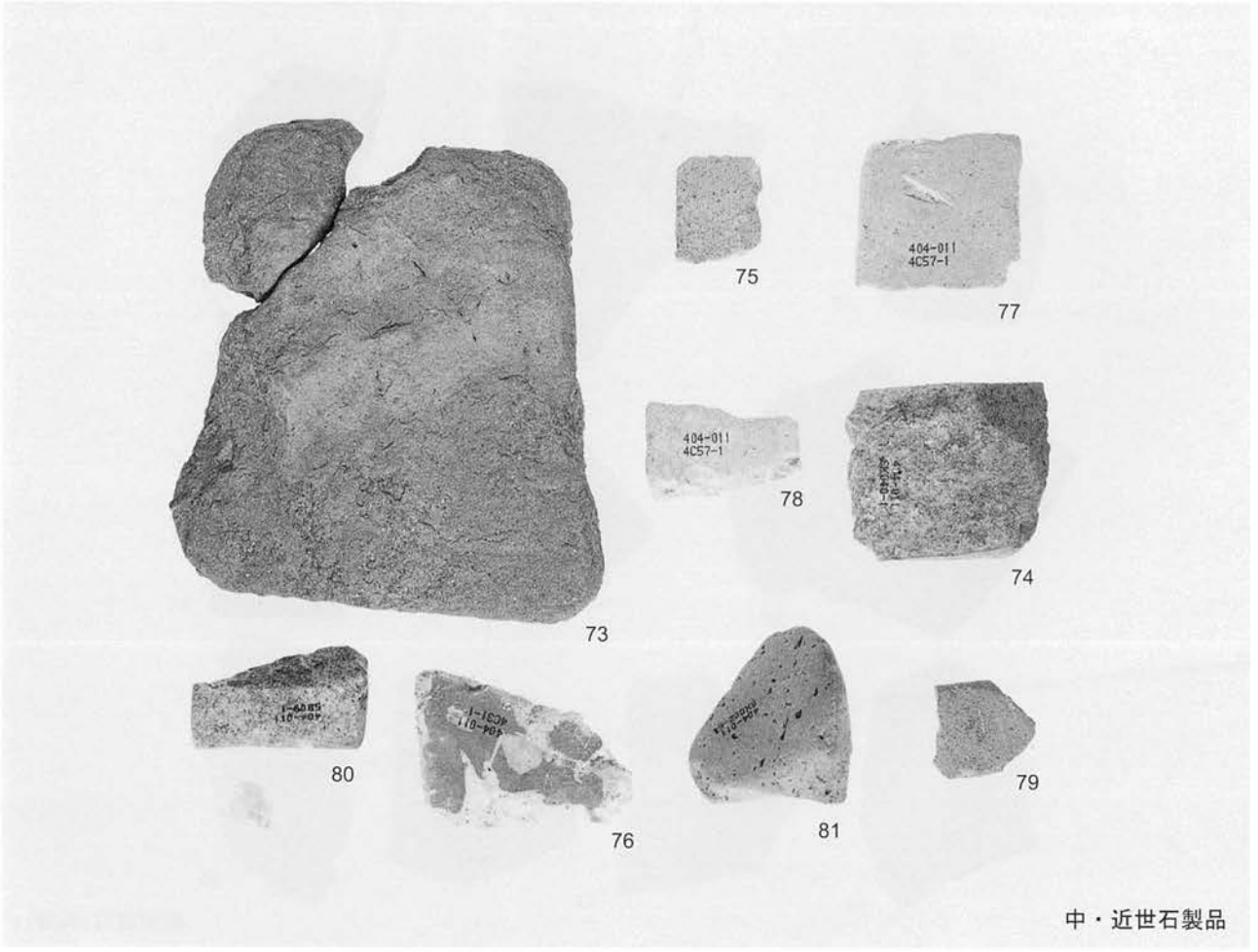
転用砥石（外面）



転用砥石（内面）

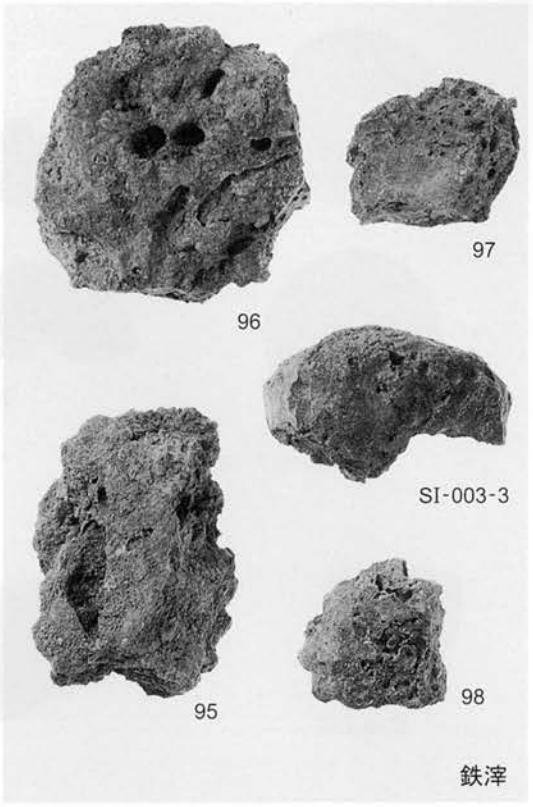


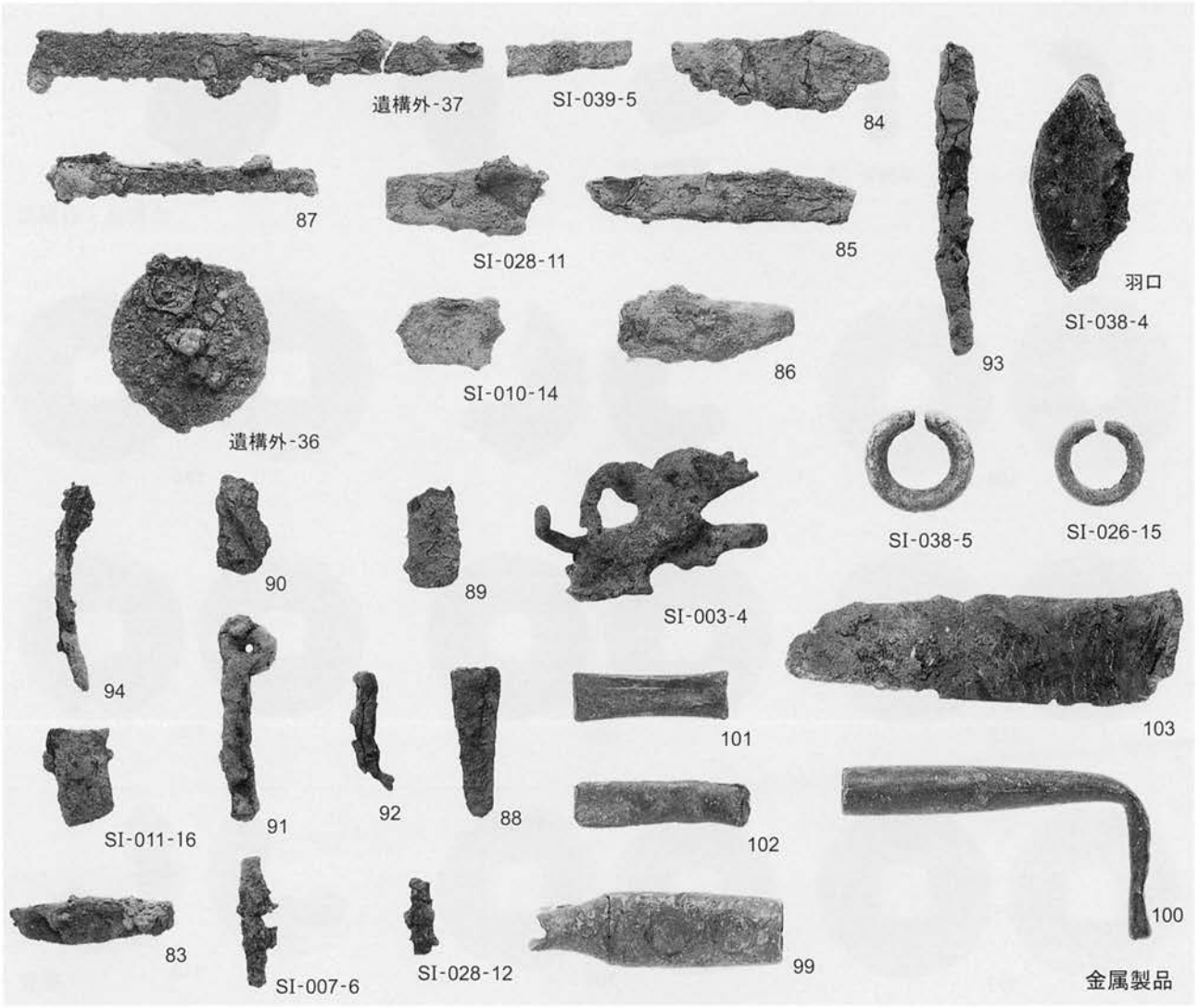
中・近世土器, 土製品

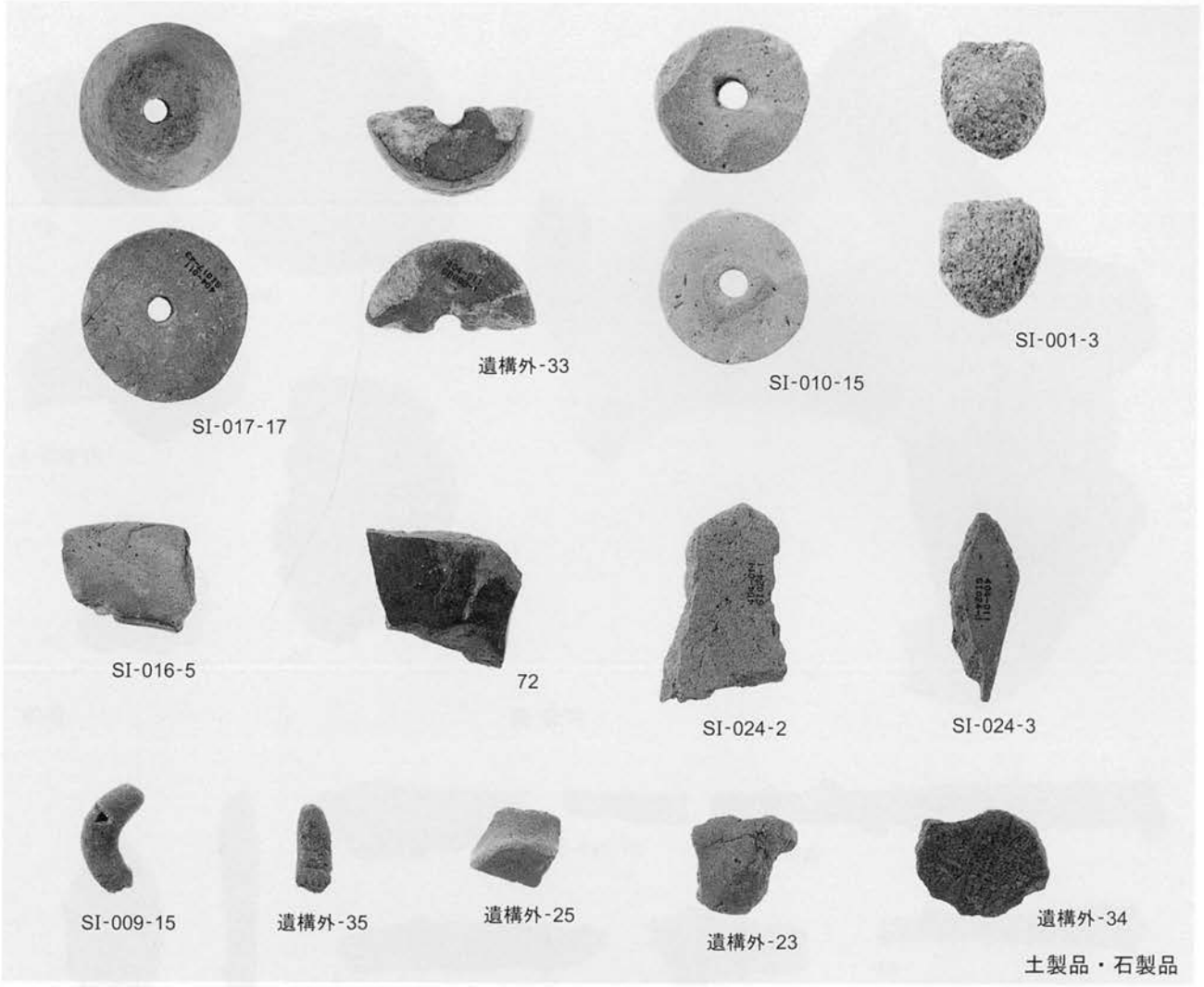


中・近世石製品

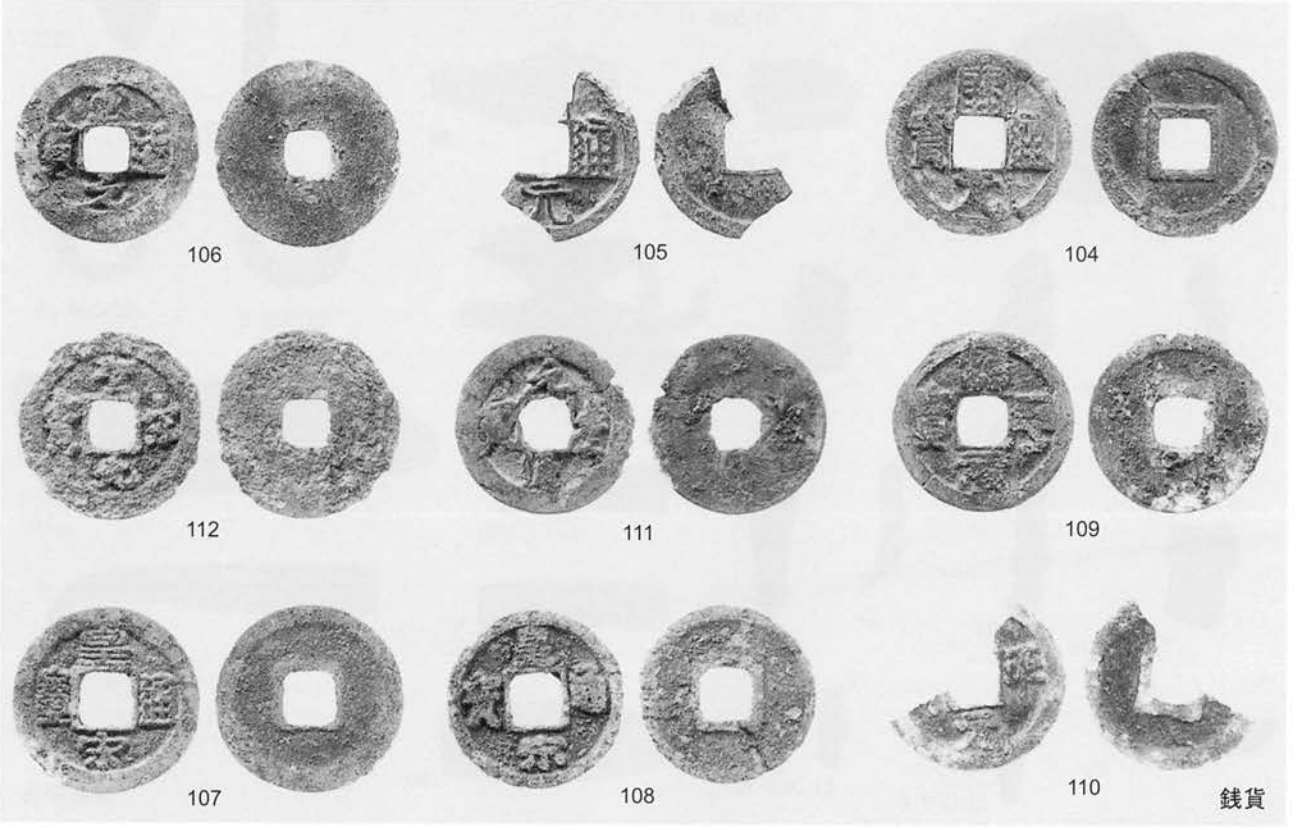
50
常滑 甕


96
97
SI-003-3
95
98
鉄滓


遺構外-37
SI-039-5
84
87
SI-028-11
85
羽口
SI-038-4
93
SI-010-14
86
遺構外-36
SI-038-5
SI-026-15
90
89
SI-003-4
94
103
101
SI-011-16
91
92
88
102
100
83
SI-007-6
SI-028-12
99
金属製品

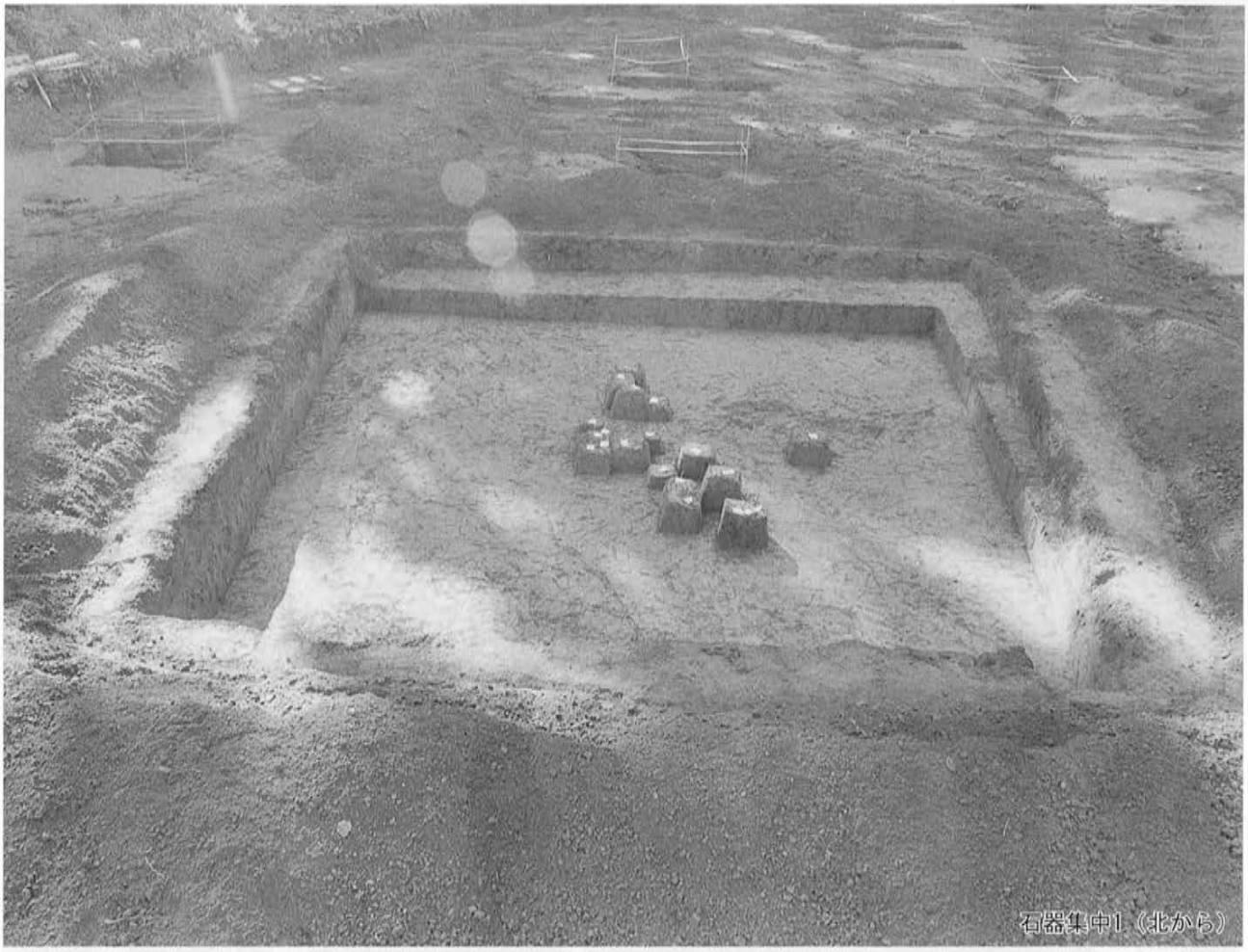

SI-017-17
遺構外-33
SI-010-15
SI-001-3
SI-016-5
72
SI-024-2
SI-024-3
SI-009-15
遺構外-35
遺構外-25
遺構外-23
遺構外-34

土製品・石製品


106
105
104
112
111
109
107
108
110

銭貨

SI-007-6
SI-010-14
SI-011-16
遺構外-37
中世-83
中世-84
SI-028-11
中世-86
中世-87
中世-91
中世-89
中世-94
SI-028-12
中世-85
中世-90
中世-88
中世-92
中世-100
中世-102
中世-103
SI-039-5
中世-93
中世-99
中世-101
遺構外-36



石器集中1（北から）

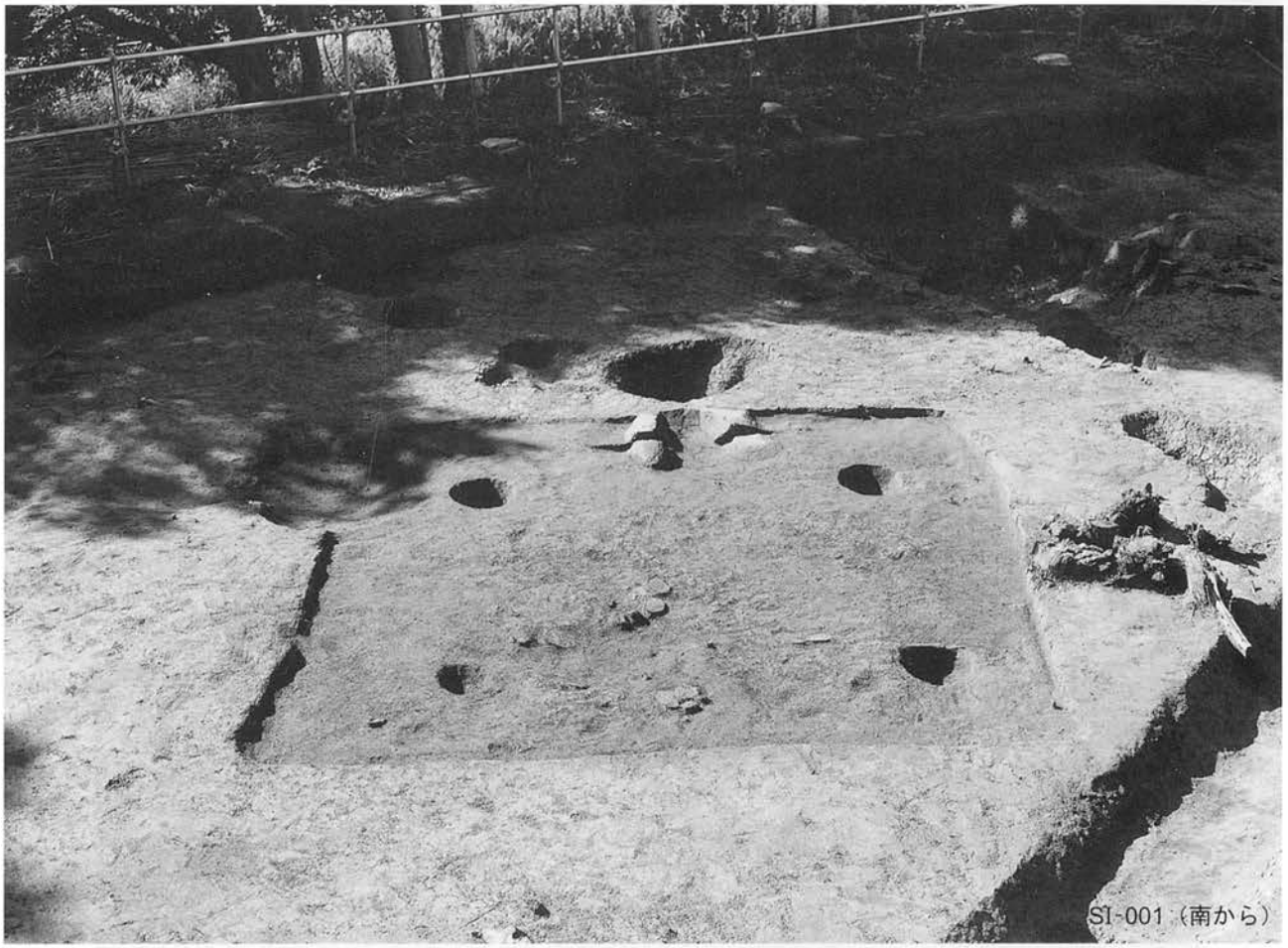
石器集中1セクション（西から）

石器集中2（東から）

5D-52単独出土（東から）

5D-76単独出土（北から）

八幡神社北（２）



SI-001（南から）

SI-002（南から）

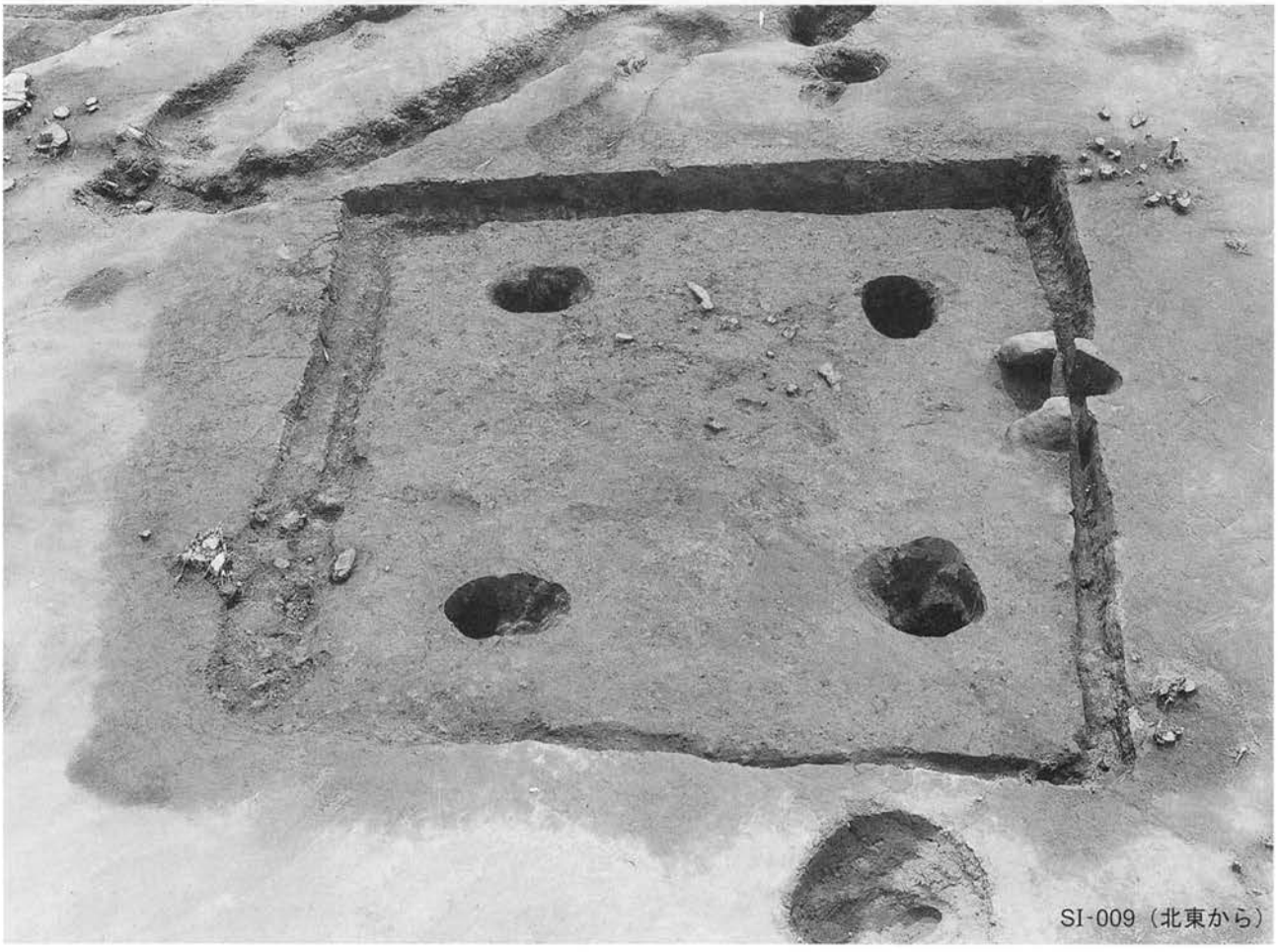
SI-003（南東から）

SI-004（北から）

SI-005（南東から）

SI-006（南東から）

SI-007・008（北東から）

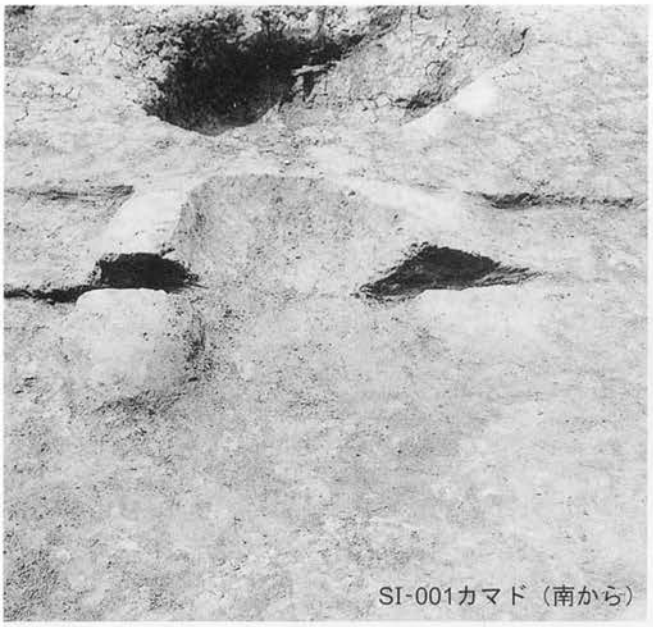


SI-009（北東から）

八幡神社北（２）

SI-010（南東から）

SI-010・011（南西から）


SI-001カマド（南から）

SI-002カマド（東から）

SI-005カマド（南東から）

SI-009カマド遺物出土（南東から）

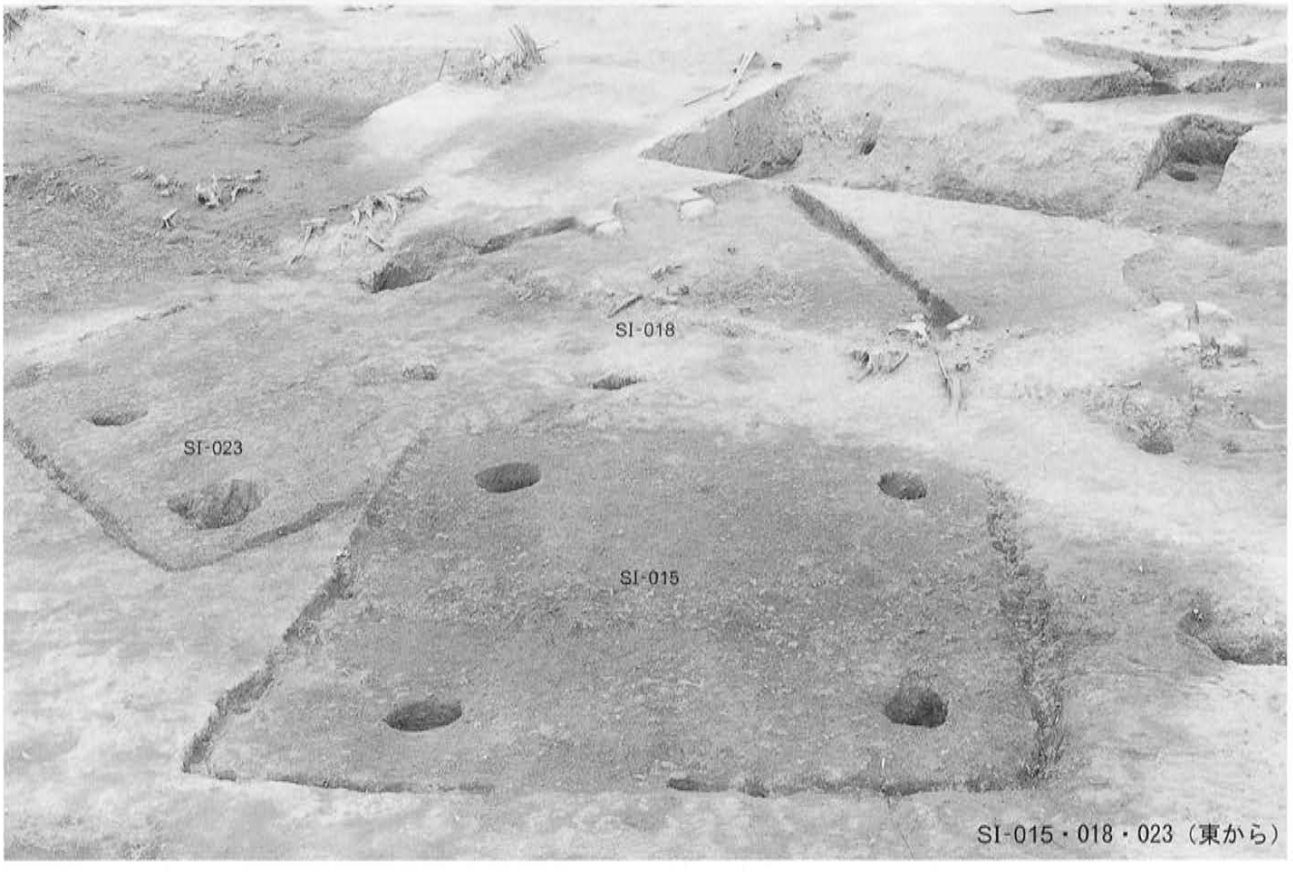
SI-010カマド（南東から）

SI-010遺物出土（南から）

SI-012（北東から）

SI-013（南から）

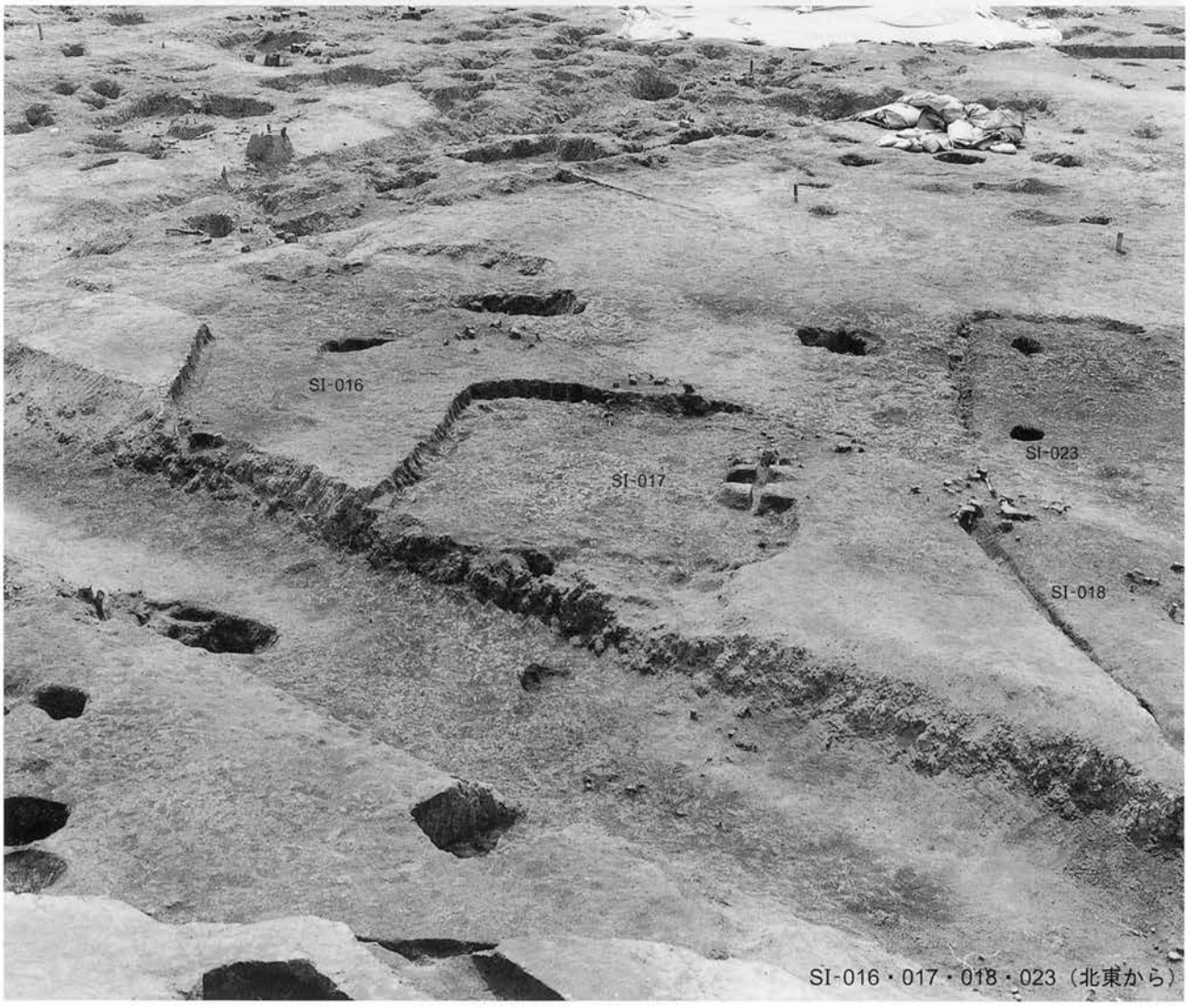
SI-014（南から）



SI-015・018・023（東から）

八幡神社北（２）

SI-017（西から）



SI-016・017・018・023（北東から）

SI-018（南西から）

SI-019（南から）

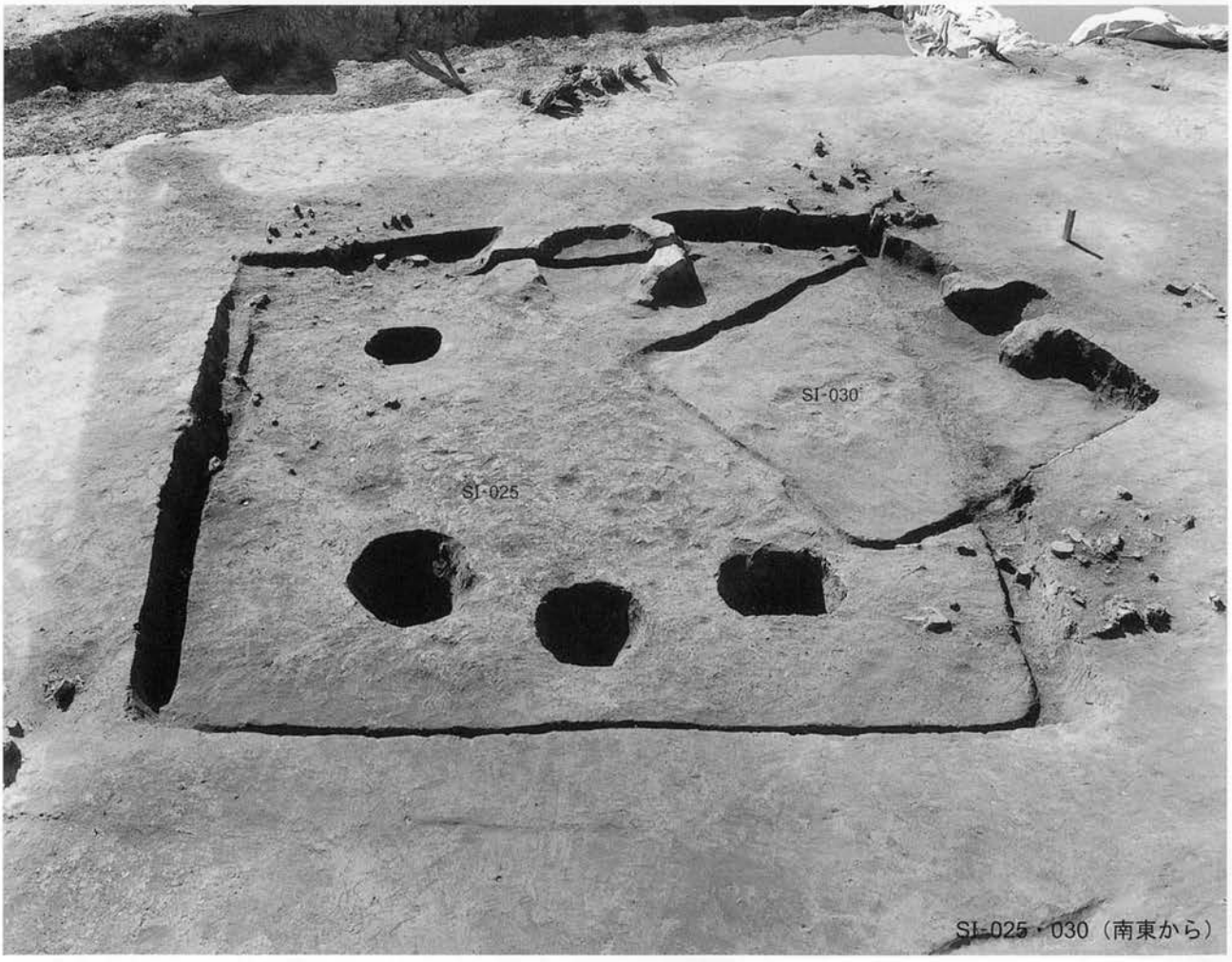
SI-013・014・019・020・021・028（南東から）

SI-013・019・020・021・023・024・028（南から）

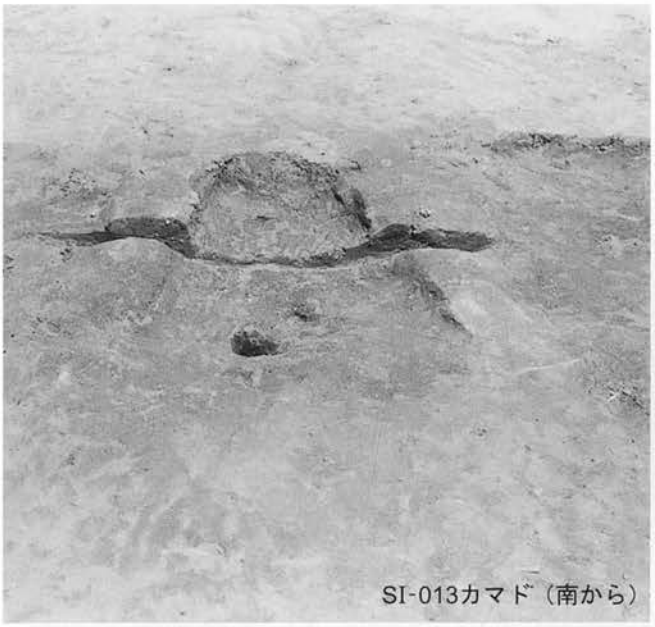
SI-022（北東から）

SI-023（南西から）

SI-024（南東から）



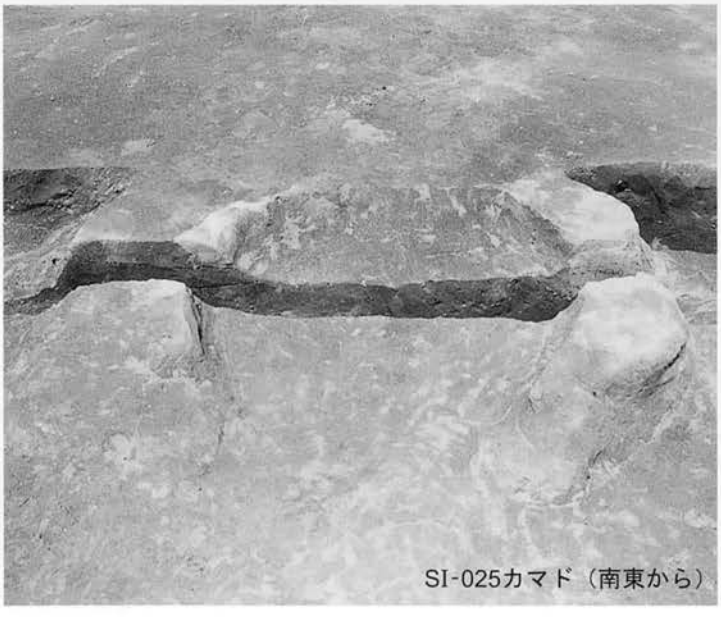
SI-025・030（南東から）


SI-013カマド（南から）

SI-014カマド（南から）

SI-018カマド（南西から）

SI-026カマド（南西から）


SI-025カマド（南東から）

SI-025遺物出土（東から）

SI-026（南東から）

SI-025・030・031（南西から）

SI-032（南東から）

SI-034（南西から）

SI-034・035（東から）

SI-036（北西から）

SI-027カマド（南から）

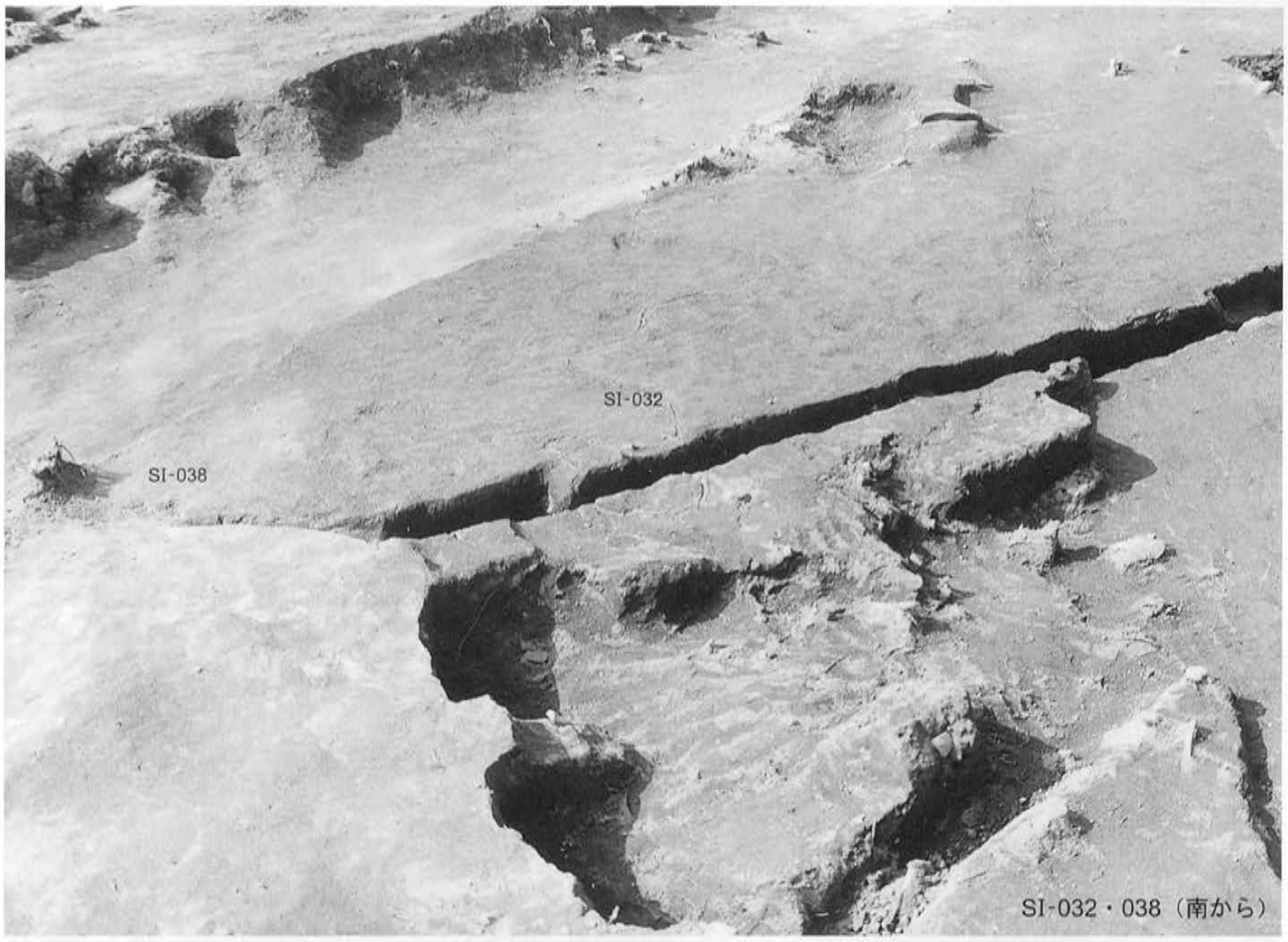
SI-027カマド（西から）

SI-030カマド（南から）

SI-032遺物出土（東から）

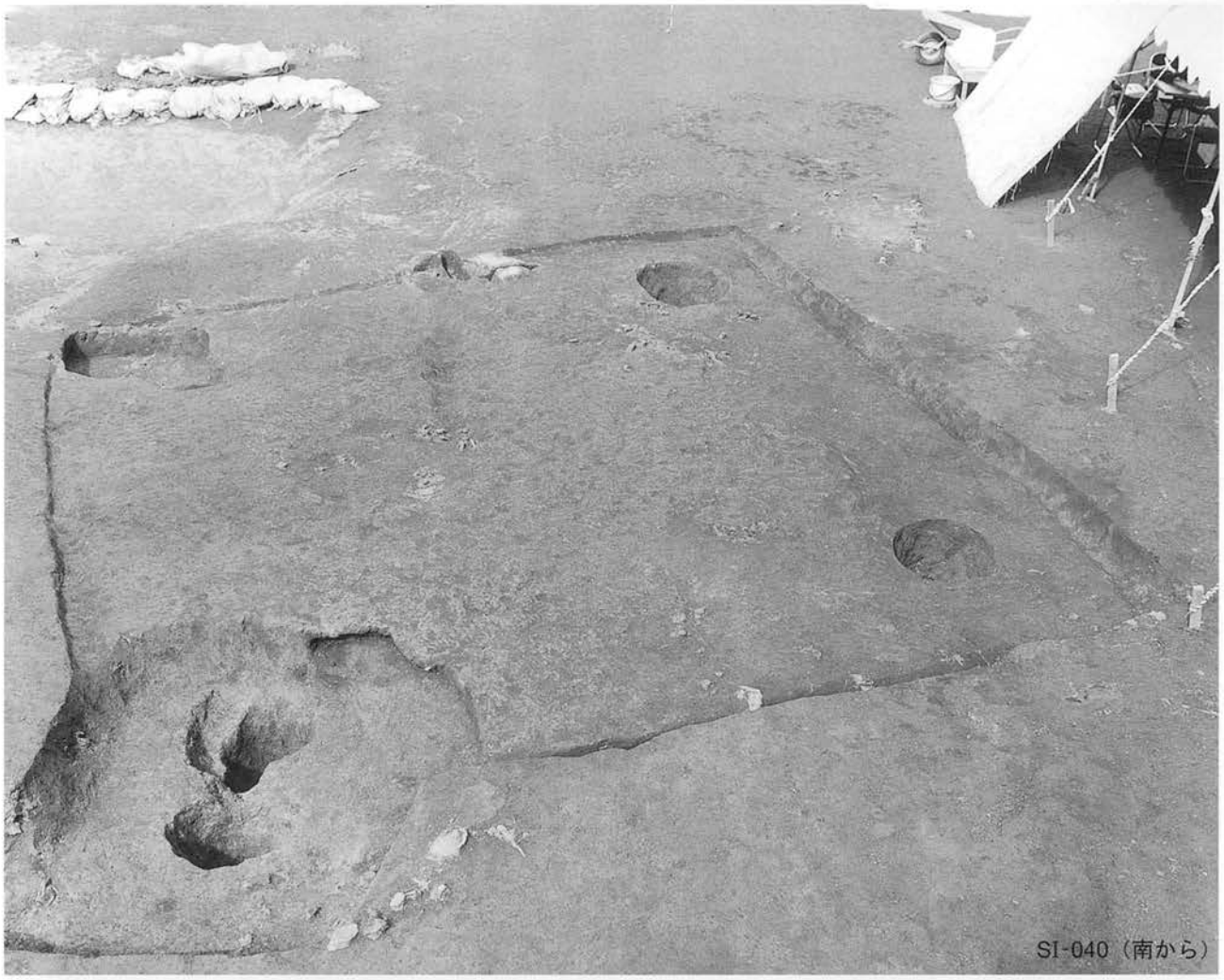
SI-034カマド（南西から）

SI-035カマド（南西から）

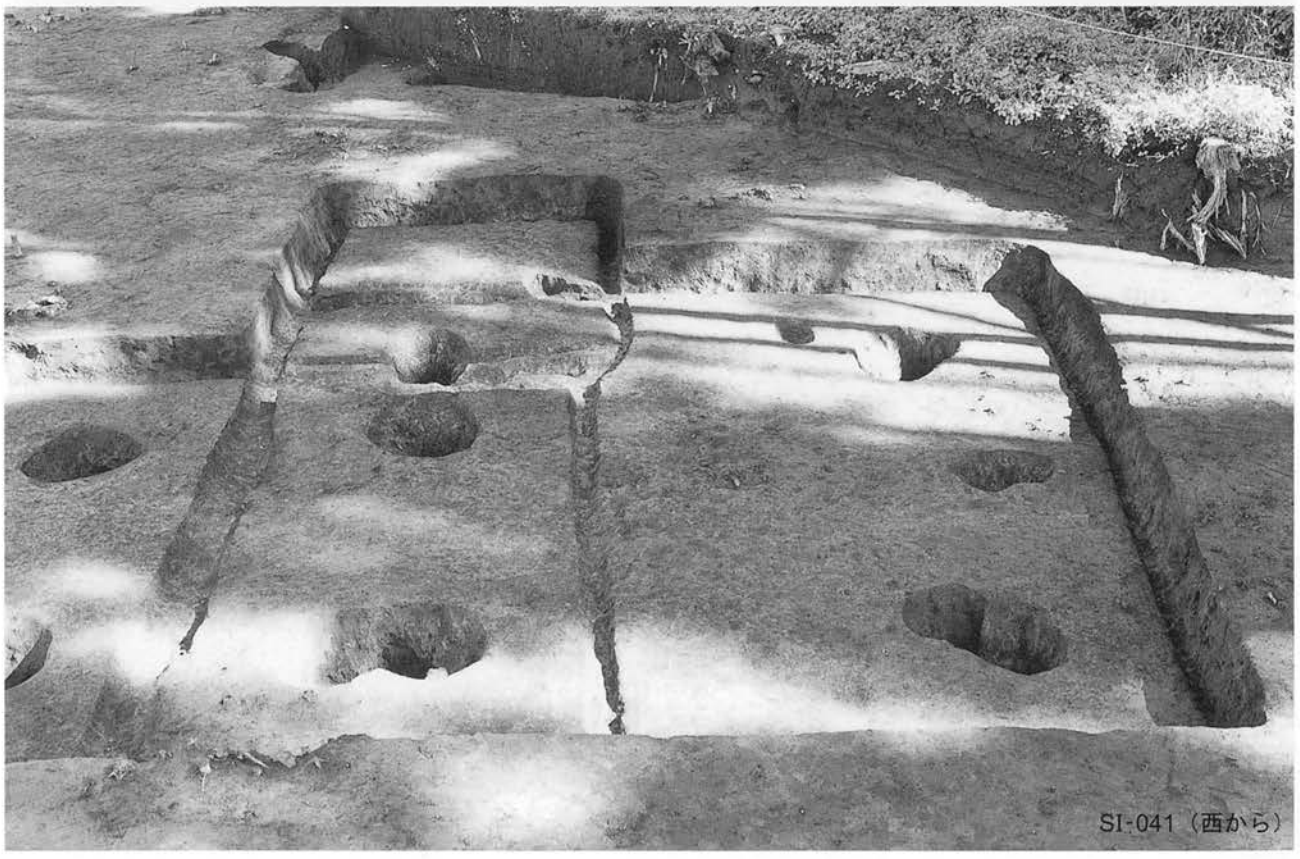


SI-032・038（南から）

SI-039（南から）

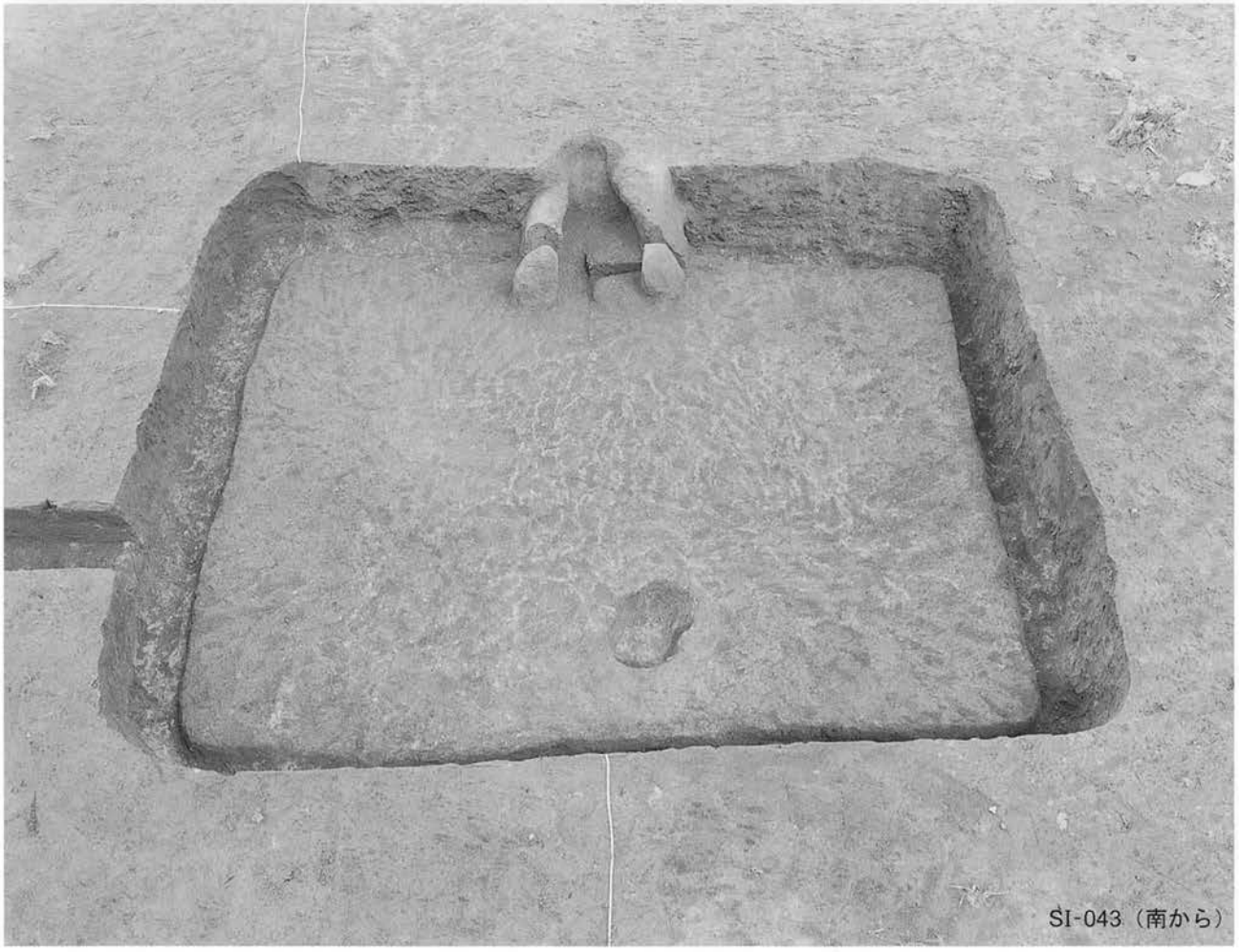


SI-040（南から）



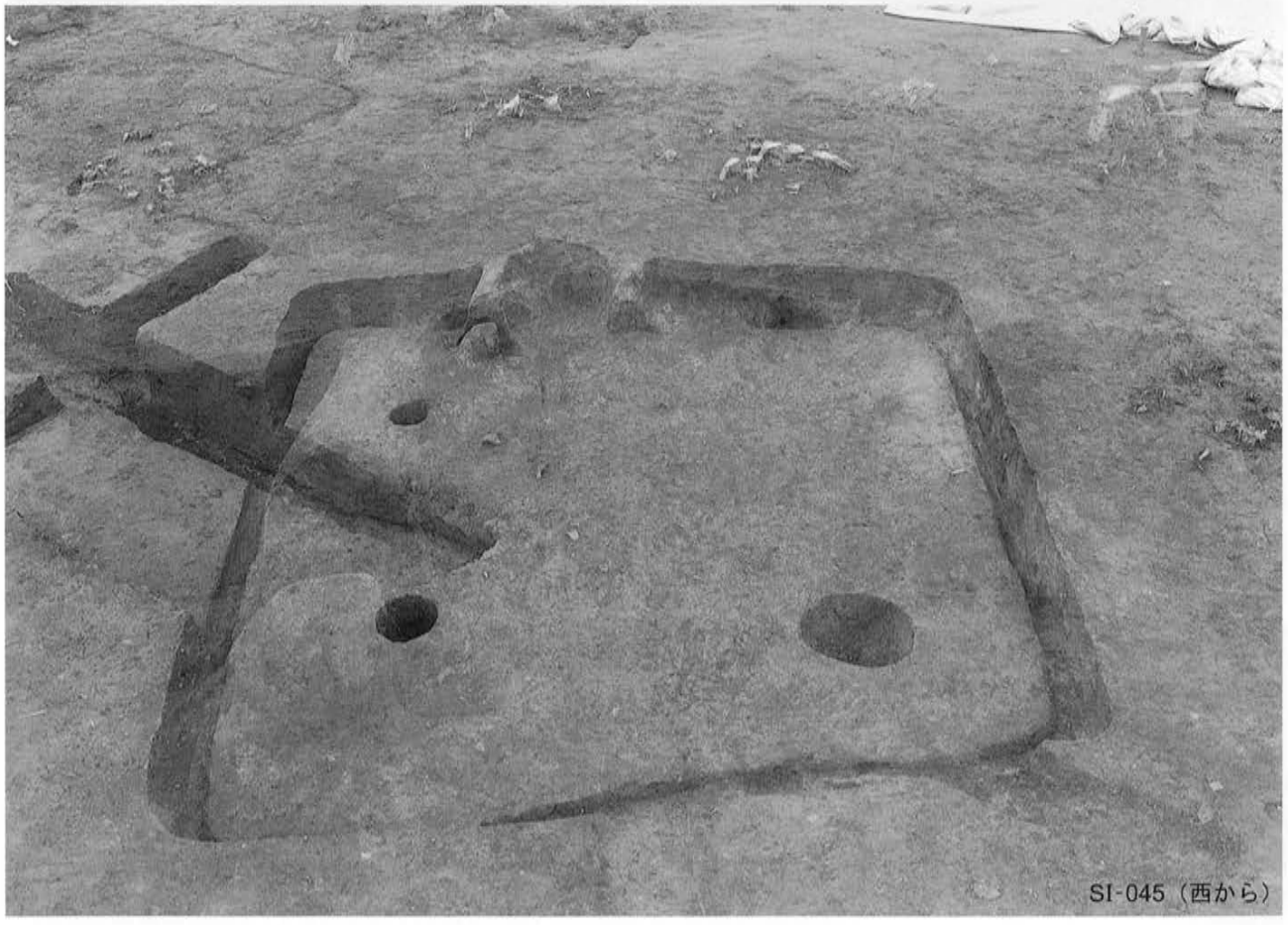
SI-041（西から）

SI-042（南から）

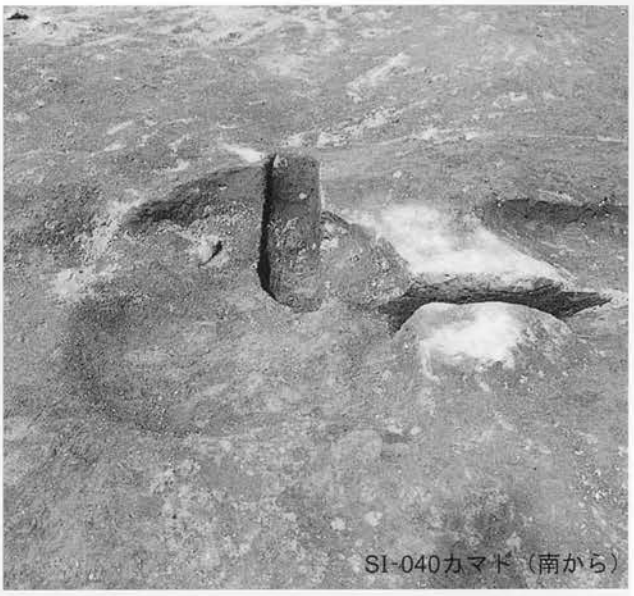


SI-043（南から）

SI-044（北西から）


SI-045（西から）

SI-038カマド（南から）


SI-040カマド（南から）

SI-042遺物出土（東から）

SI-042カマド遺物出土（南東から）

SI-043カマド（南から）

SI-045カマド遺物出土（南から）

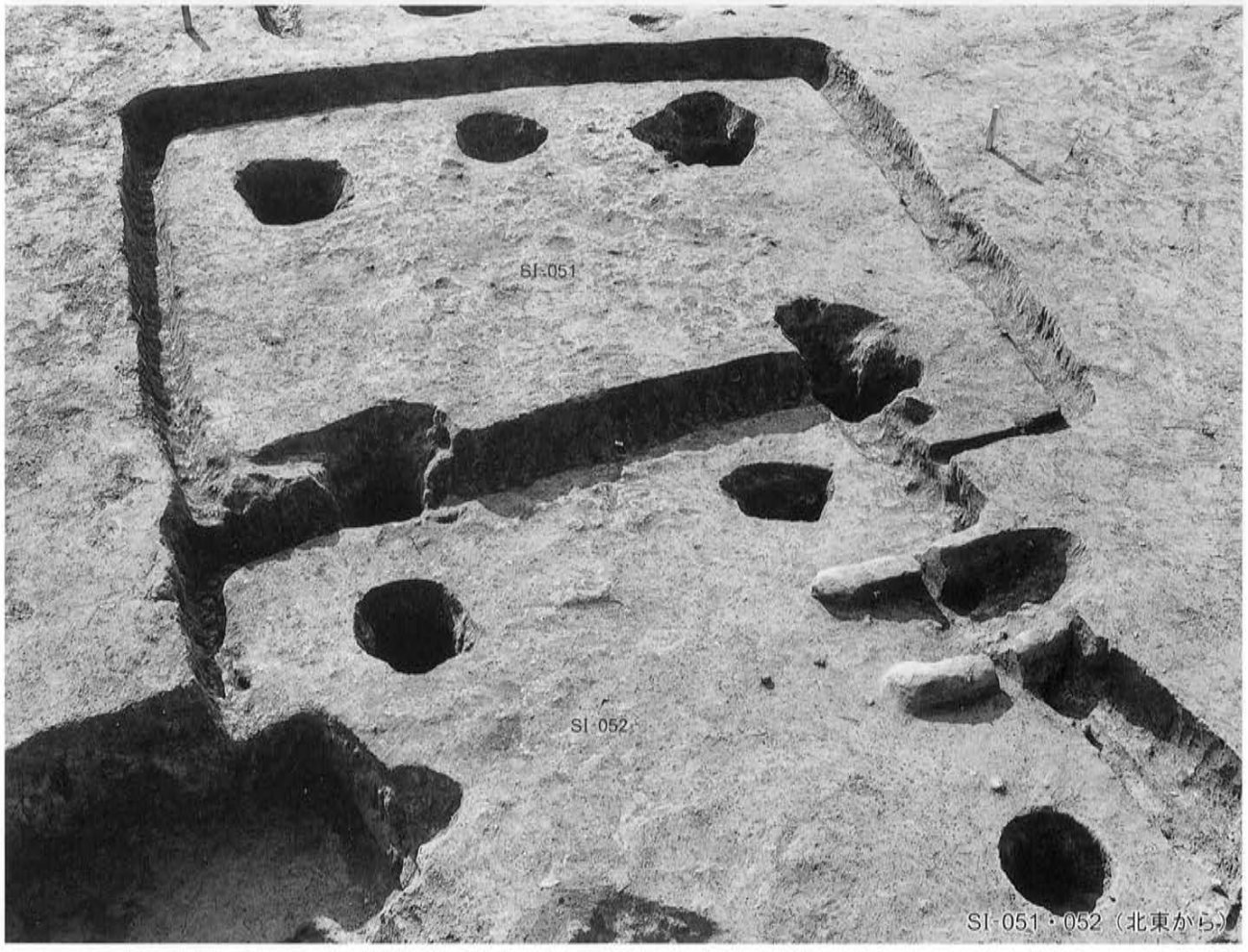
SI-046（南西から）

SI-046貼床除去後（北西から）

SI-041・042・043・045・046（北から）

SI-048・049（北西から）

SI-047・048・049・050（北西から）



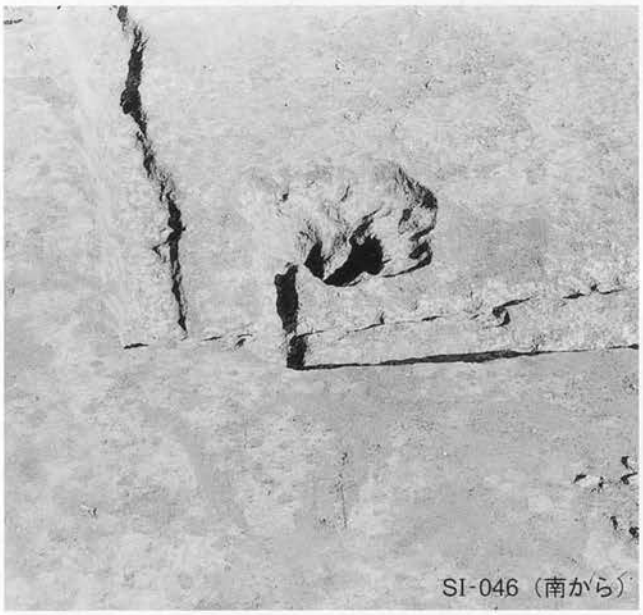
SI-051・052（北東から）

SI-049・051・052・055（南西から）

SI-052（北西から）

SI-045カマド（西から）

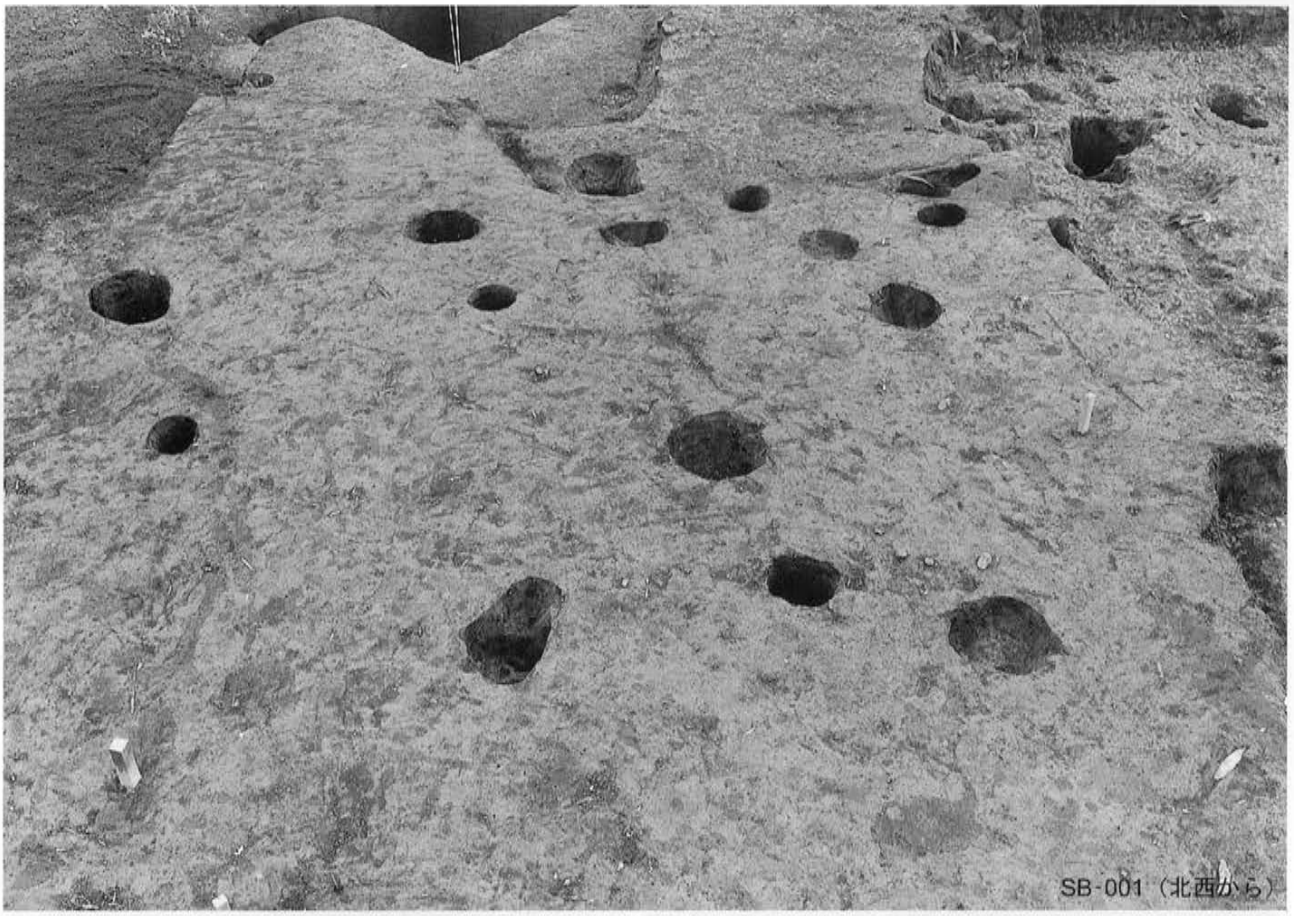
SI-046カマド（北東から）


SI-046（南から）

SI-046（南から）

SI-048カマド（南から）

SI-052（南東から）

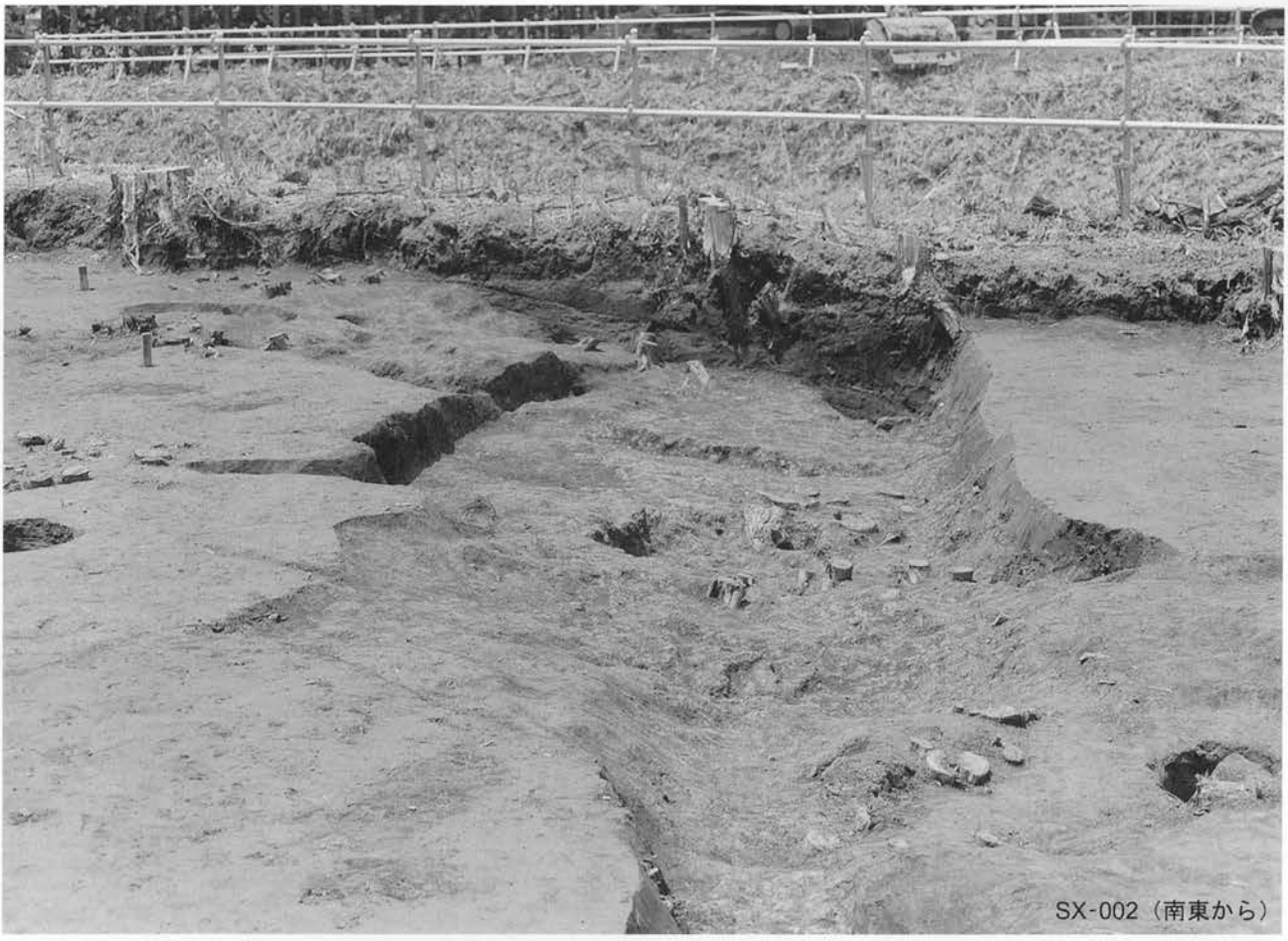


SB-001（北西から）

SB-002（西から）

SX-001 SD-037 他（北東から）

SX-002 SD-015 他（北東から）



SX-002（南東から）

SX-003・SD-013・034（北から）

SX-003・004　SD-009・034他（南東から）

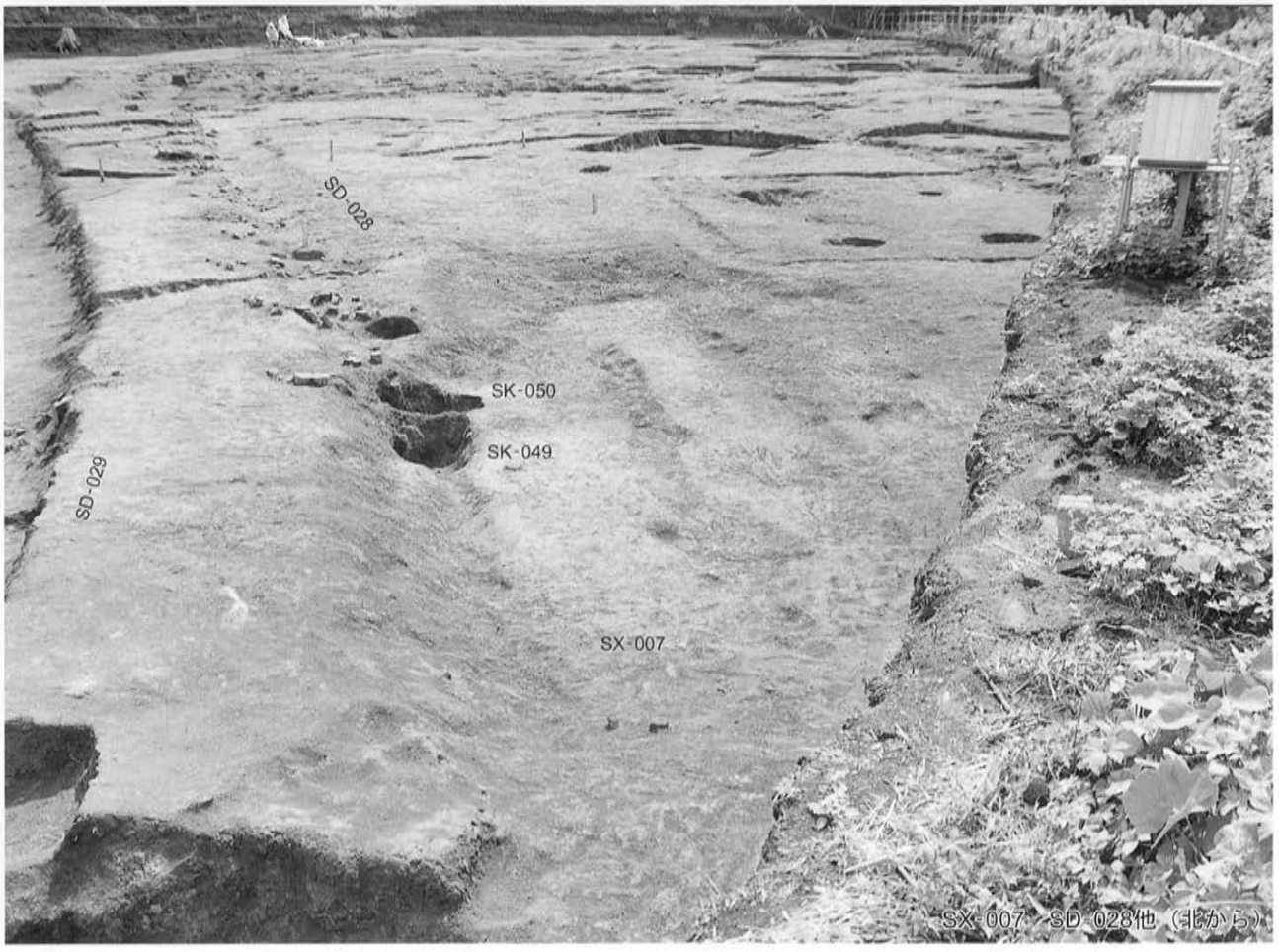
SX-003・004　SD-013・034他（東から）

八幡神社北（２）

SX-005（東から）

SX-006（北東から）

SX-006（西から）



SX-007・SD-028他（北から）

SB-003・004（東から）

SD-001（東から）

SD-003（東から）

SD-004・005（南東から）

SK-006
SD-005
SD-031
SX-001
SD-005　SX-001他（北から）

SD-006（北から）

SD-008・009他（北東から）

SD-013　SX-003・004（南東から）

SD-013～015　SX-002（東から）

SD-028（南から）

SD-029（北東から）

SD-038Aセクション（西から）

SD-038遺物出土（東から）

SD-033・038（東から）

SD-045（北から）

SA-001 SD-009（南東から）

SA-002他（南東から）

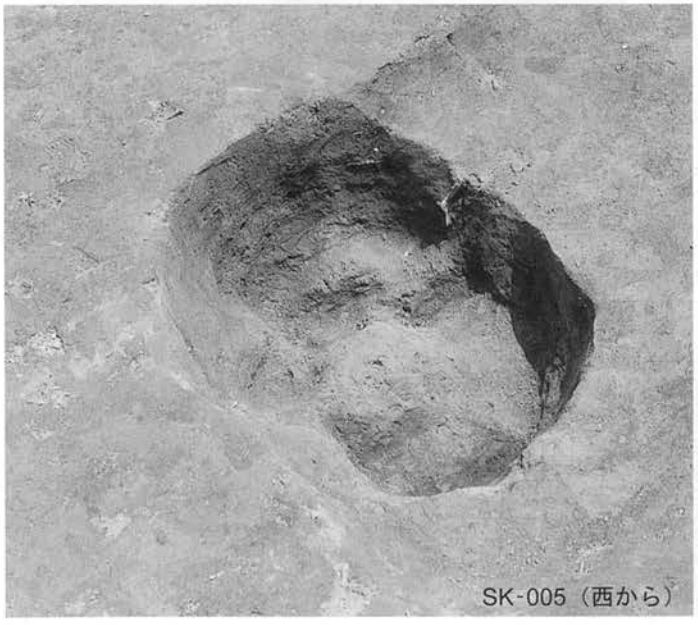
SA-003 SD-029（南から）

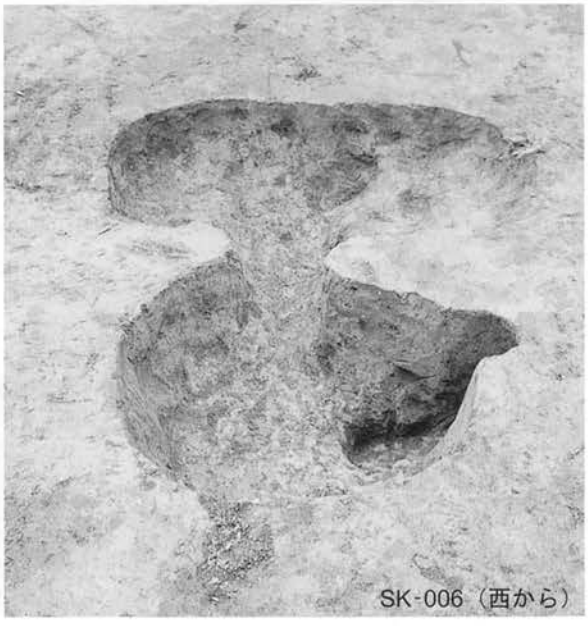
SK-001（東から）

SK-002（東から）

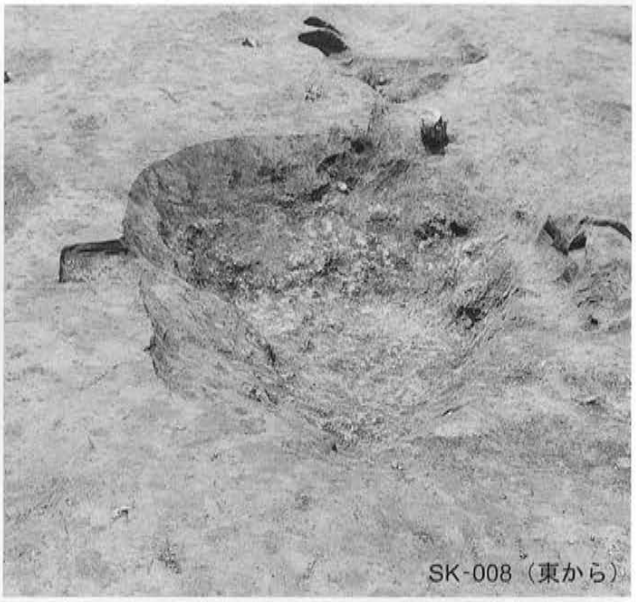
SK-003（北から）

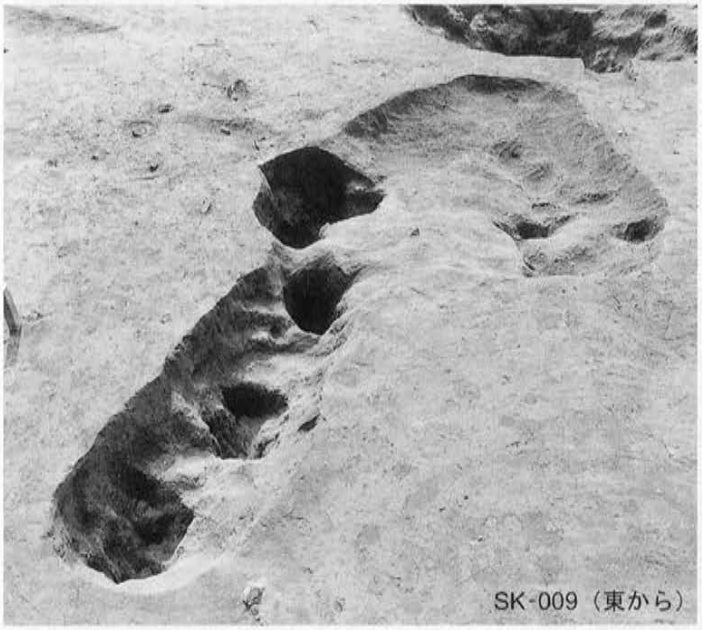
SK-004（南東から）


SK-005（西から）


SK-006（西から）

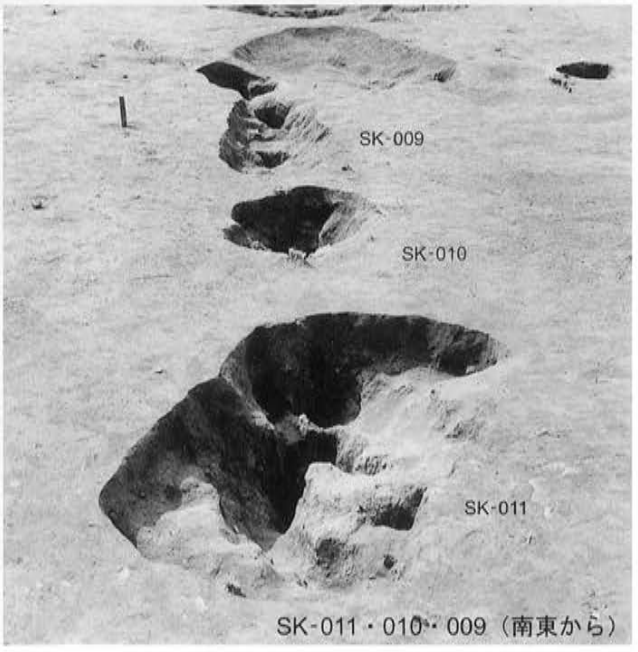
SK-007（北から）


SK-008（東から）


SK-009（東から）

SK-010（南から）

SK-011（南東から）

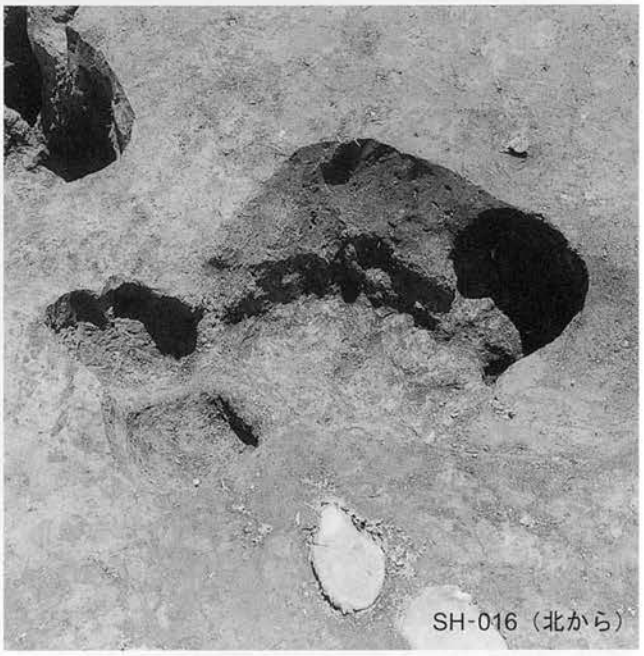


SK-011・010・009（南東から）

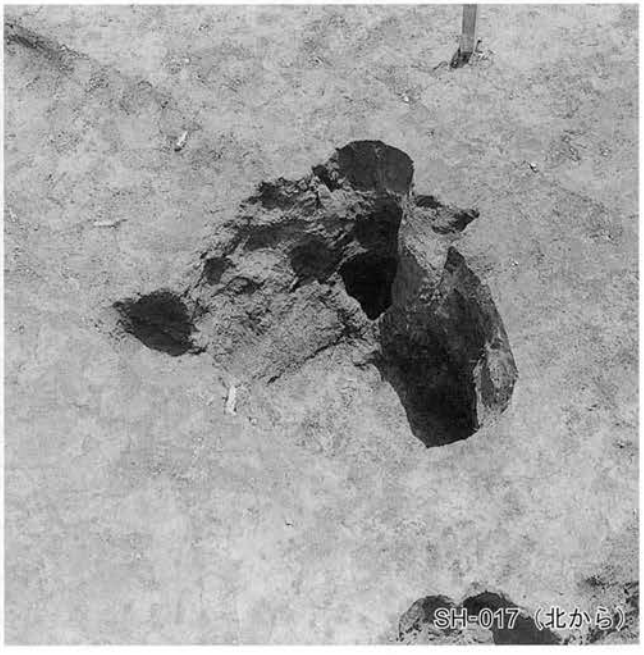
SK-013（東から）

SK-015（北から）

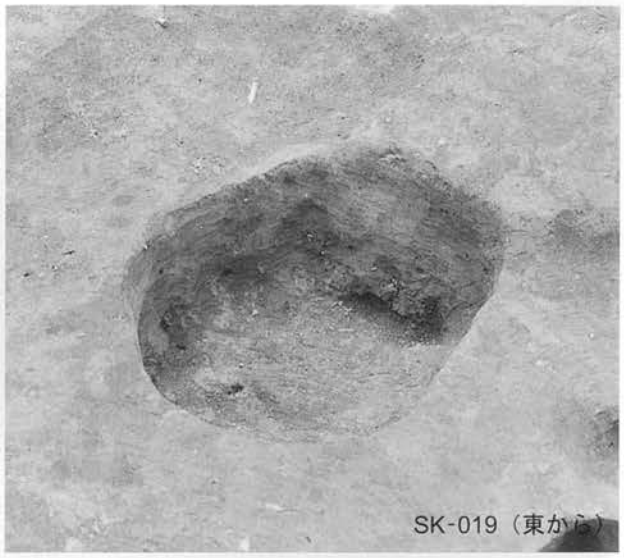
SH-016山砂出土（北から）


SH-016（北から）

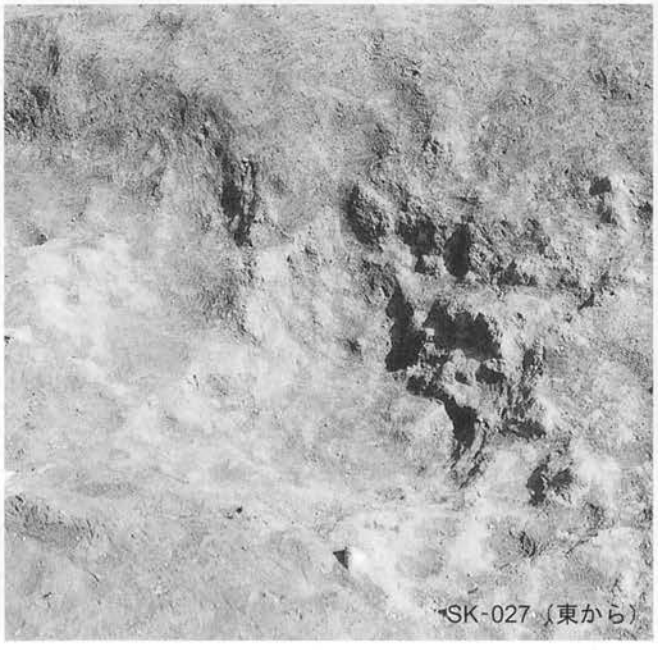
SH-017山砂出土（北から）


SH-017（北から）

SH-018（南東から）


SK-019（東から）

SK-026（北東から）


SK-027（東から）

SK-029（北から）

SK-033（南東から）

SK-036（東から）

SK-037（東から）

SK-040・041・039（南から）

SK-043（東から）

SK-044（北東から）

SK-045（東から）

SK-046（北東から）

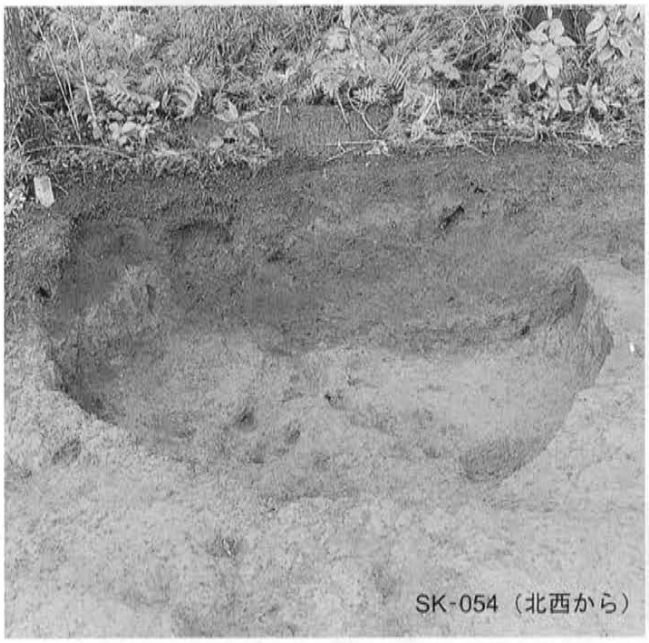
SK-048（南東から）

SK-048セクション（北東から）

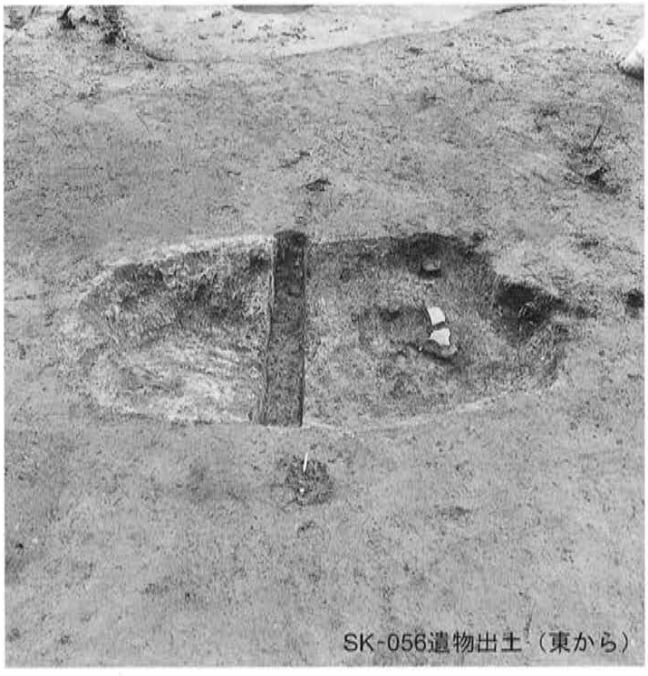
SK-049セクション（北から）

SK-051（北東から）

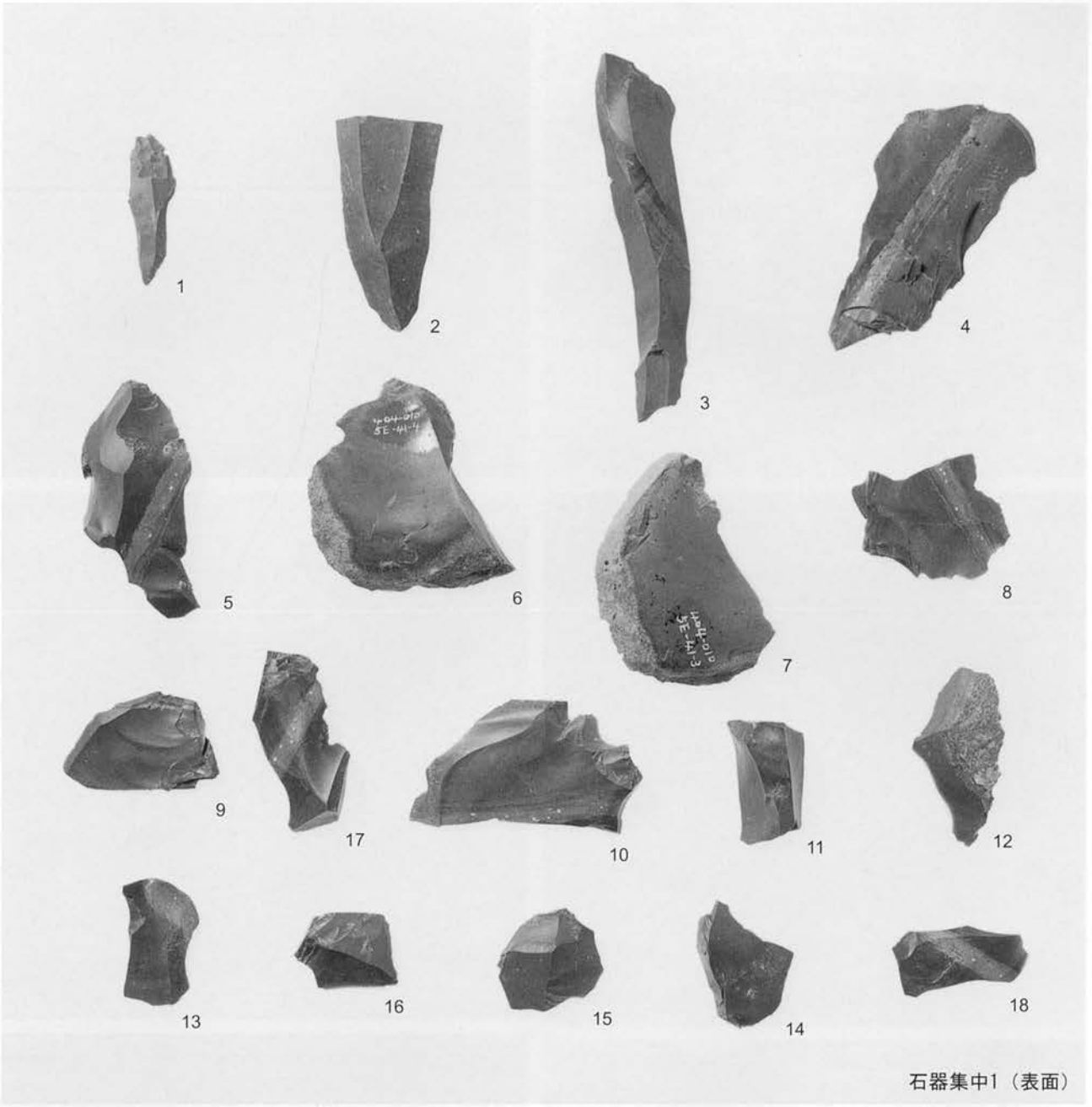
SK-053（北から）


SK-054（北西から）

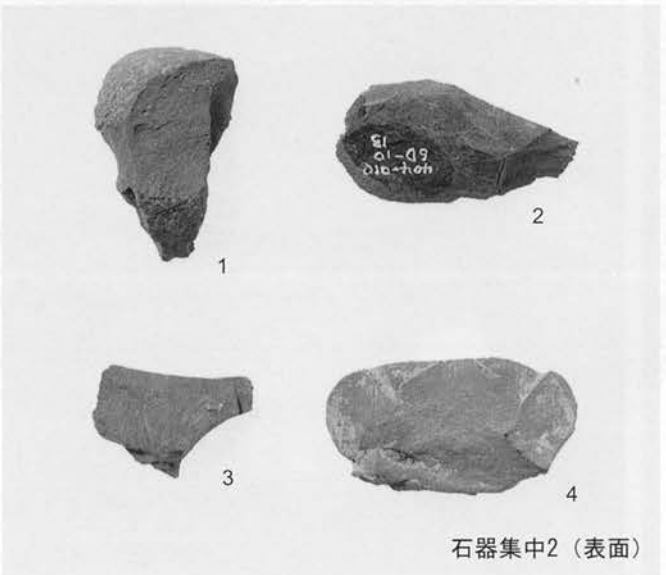
SK-055（東から）


SK-056遺物出土（東から）

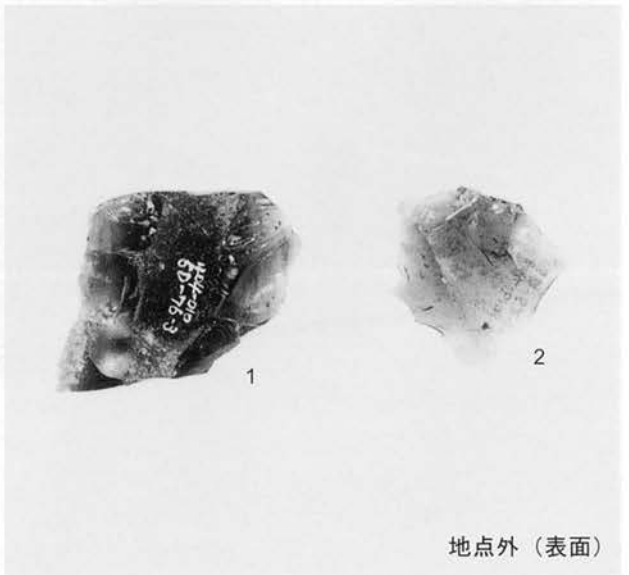
SK-061（東から）



石器集中1（表面）

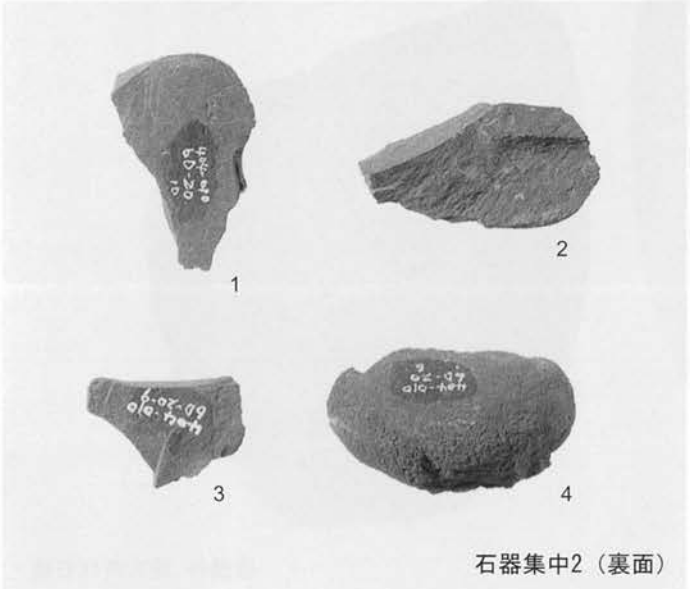


石器集中2（表面）

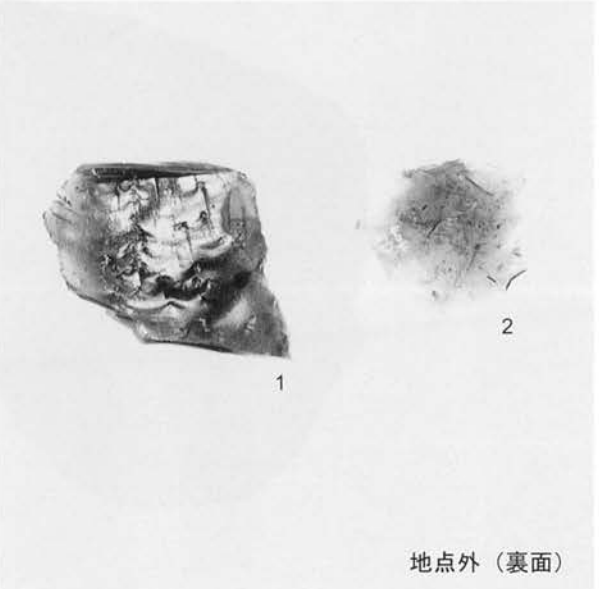


地点外（表面）

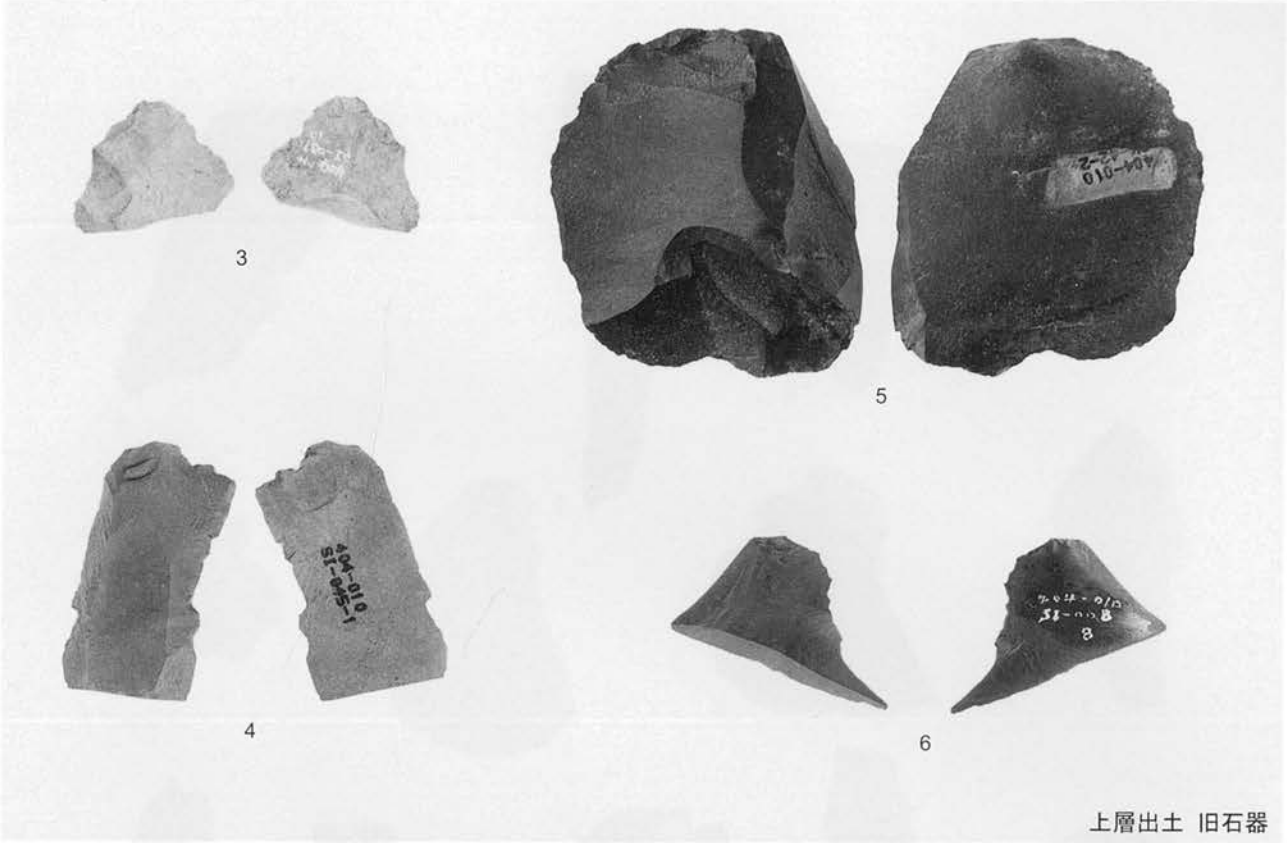
石器集中1（裏面）



石器集中2（裏面）

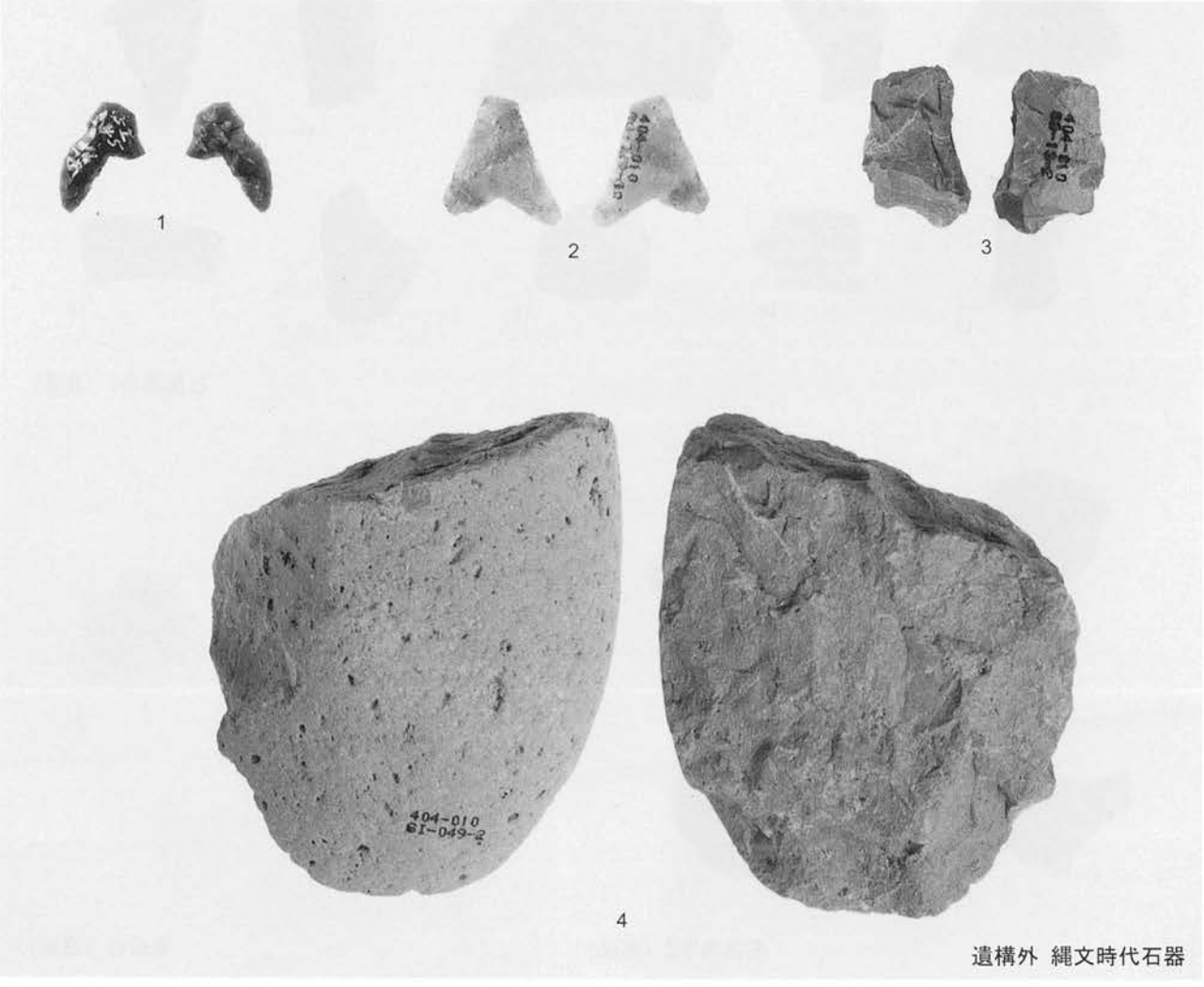


地点外（裏面）



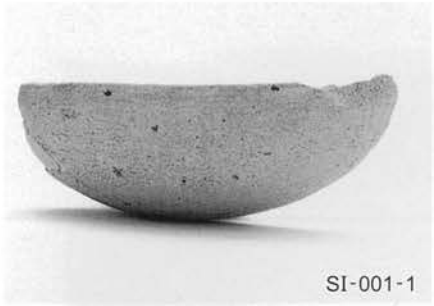
3　5　4　6

上層出土　旧石器



1　2　3　4

遺構外　縄文時代石器


SI-001-1

SI-002-4

SI-002-6

SI-002-1

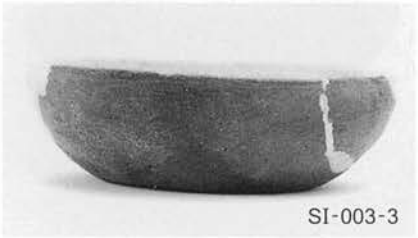
SI-002-2

SI-003-8

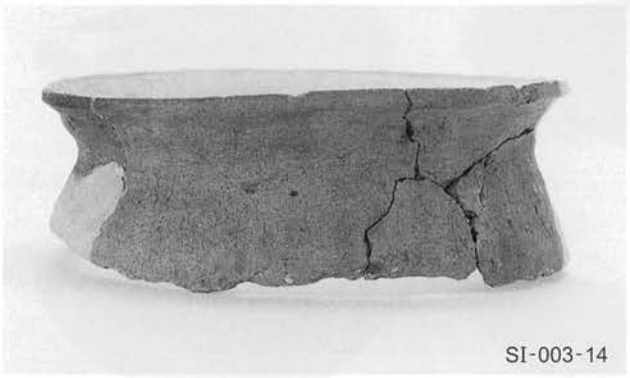
SI-003-5

SI-003-1

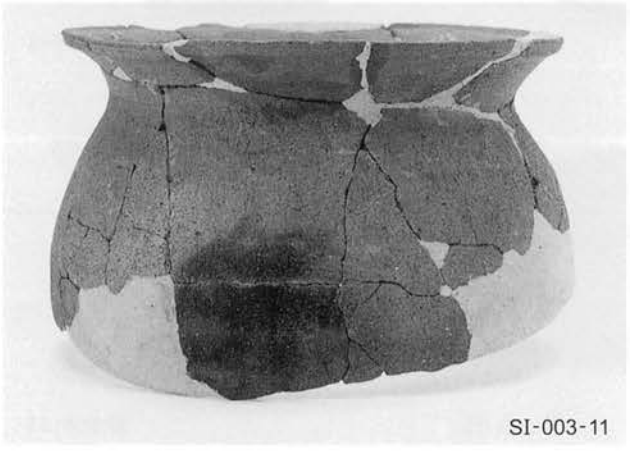
SI-003-2


SI-003-3

SI-003-4


SI-003-14

SI-003-12


SI-003-11

SI-005-16

SI-005-17

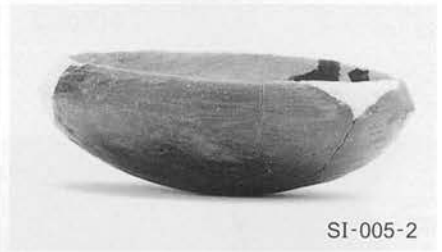
SI-005-14

SI-005-18

SI-005-6

SI-005-3

SI-005-1


SI-005-2

SI-005-9

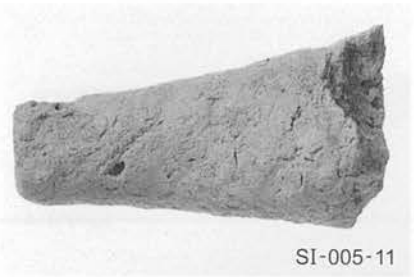
SI-005-5

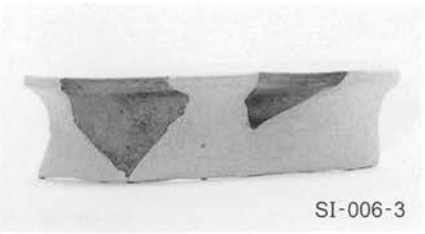
SI-005-8

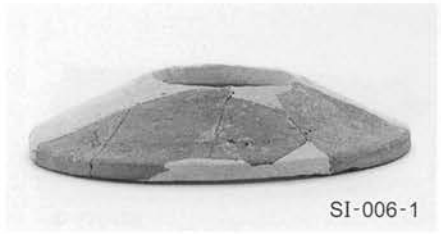
SI-005-12

SI-005-10

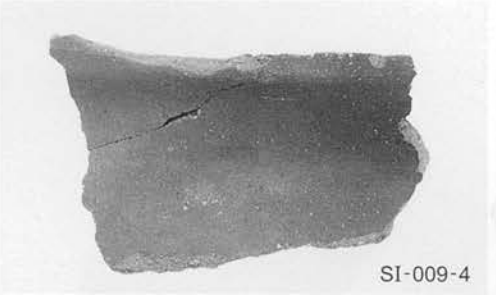
SI-005-13


SI-005-11

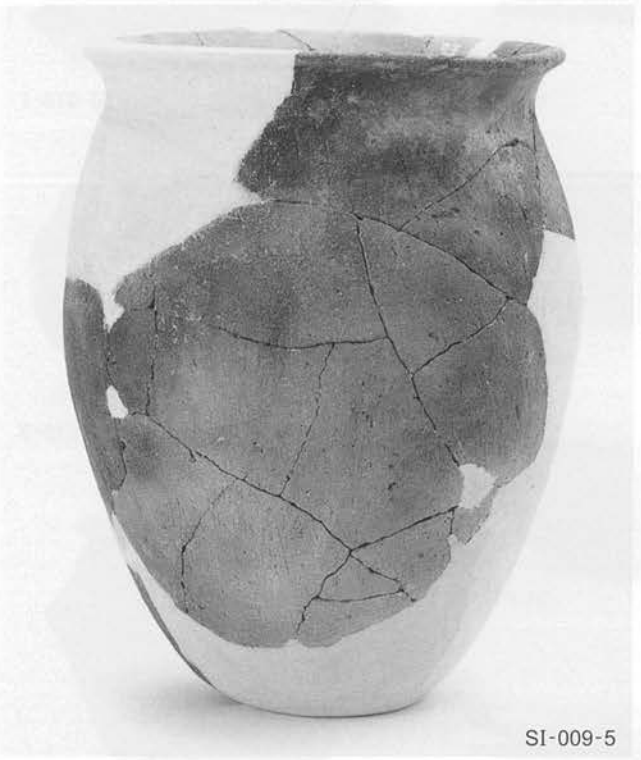

SI-006-3


SI-006-1

SI-006-2


SI-009-4

SI-009-1

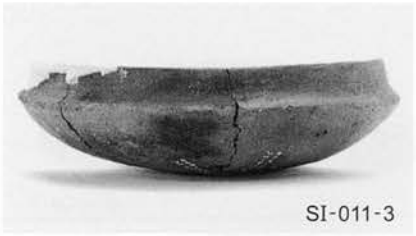

SI-009-5

SI-009-3

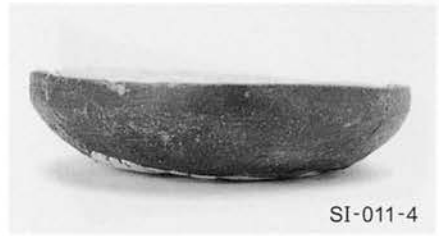
SI-010-6

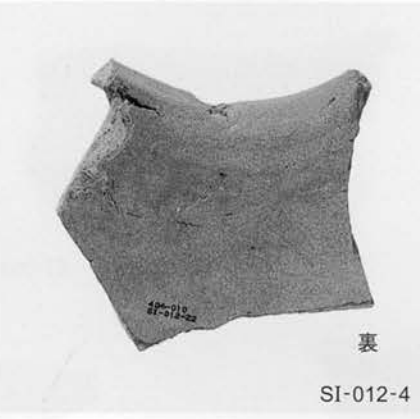
SI-010-4

SI-011-1

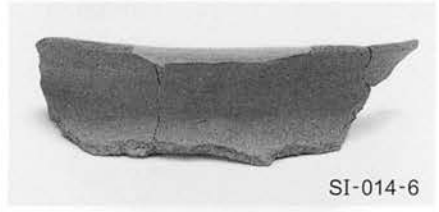

SI-011-3

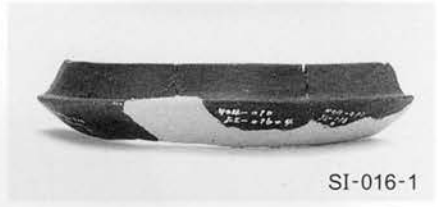
SI-011-2

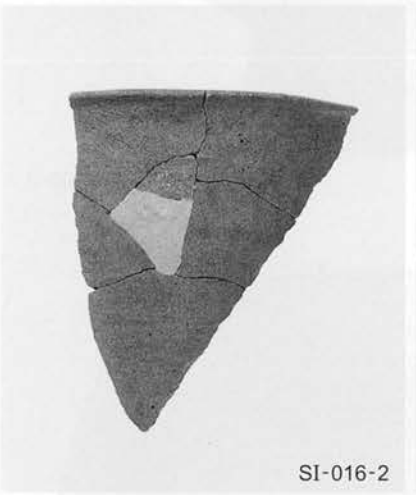

SI-011-4



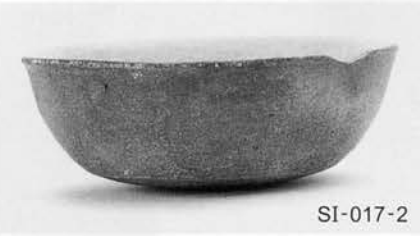
SI-012-4


SI-014-6


SI-016-1


SI-016-2

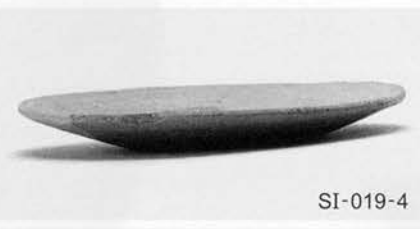
SI-017-1


SI-017-2

SI-018-3

SI-019-6

SI-019-2


SI-019-4

SI-020-1

SI-020-2

SI-020-4

SI-020-3

SI-020-5

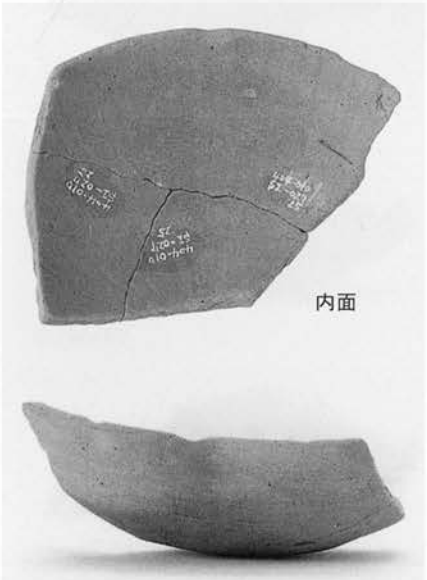
SI-020-7

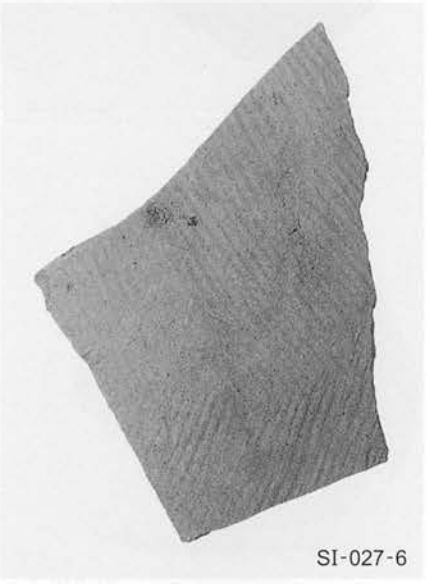
SI-023-1

SI-023-4

SI-025-5

SI-025-4


内面


SI-027-6

SI-027-1

SI-027-3

外面
SI-027-2

SI-027-5

SI-027-4

SI-030-6

SI-030-1

SI-032-4

SI-032-1

SI-032-2

SI-032-5

SI-038-3

SI-038-1

SI-040-4

SI-040-5

SI-041-5

SI-041-6

SI-041-7

SI-041-10

SI-041-8

SI-041-11

SI-041-19

SI-041-16

SI-041-17

SI-041-12

SI-041-14

SI-041-18

SI-042-4

SI-042-6

SI-042-12

SI-042-9

SI-042-10

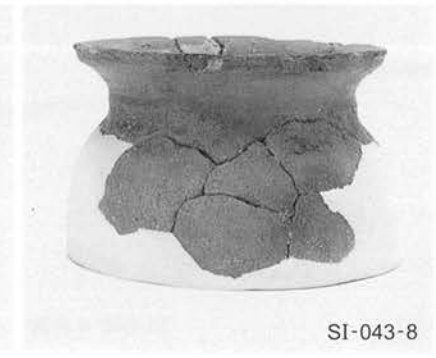
SI-042-11

SI-042-2

SI-042-1

SI-043-3

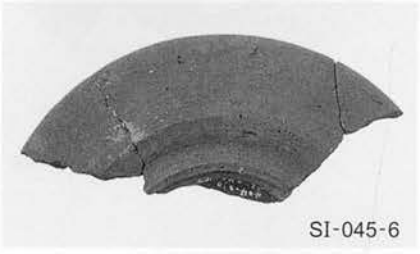
SI-043-2


SI-043-8

SI-044-1

SI-044-4

SI-045-15

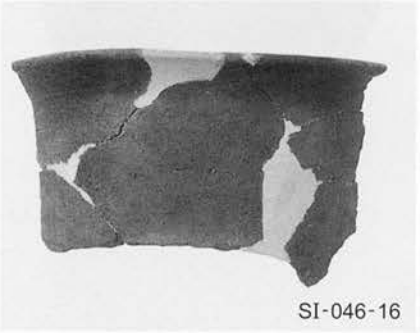

SI-045-6

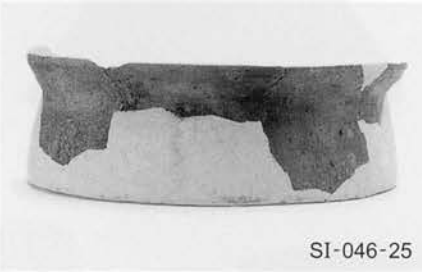
SI-045-1

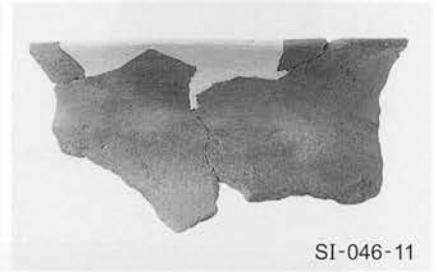
SI-046-10

SI-046-14

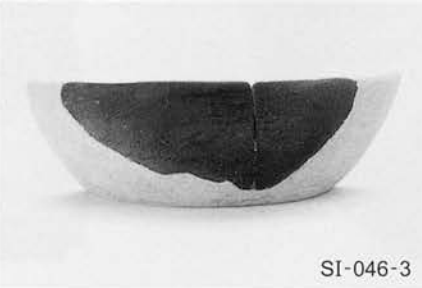
SI-046-15


SI-046-16


SI-046-25


SI-046-11

SI-046-7


SI-046-3

SI-046-6

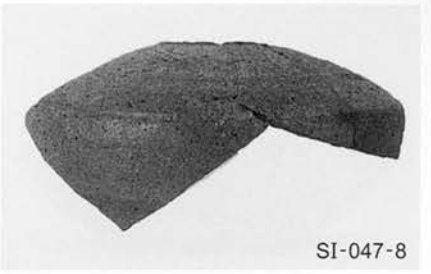
SI-046-9 内面

SI-046-4

SI-046-2

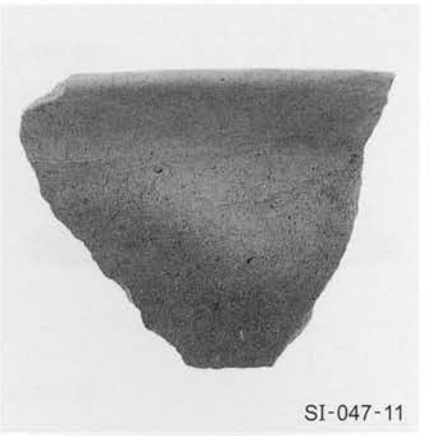
SI-046-8

SI-047-1


SI-047-8

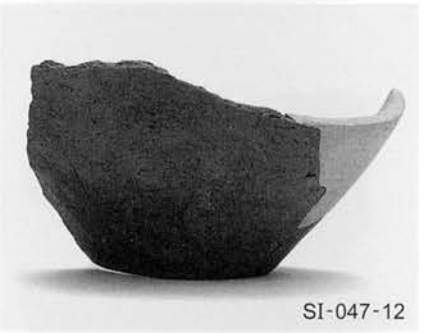
SI-047-3

SI-047-5


SI-047-11

SI-047-7

SI-047-10


SI-047-12

SI-048-5

SI-048-3

SI-048-4

SI-048-9

SI-048-8

SI-048-6

SI-049-4

SI-049-1

SI-049-11

SI-051-2

SI-051-3

SI-051-7

SI-051-9

SI-052-5

SI-052-1

SI-052-2

SI-052-3

SI-052-11

SI-054-6

SI-054-3

SI-054-4

SI-055-2

84

石造物

SI-045-11

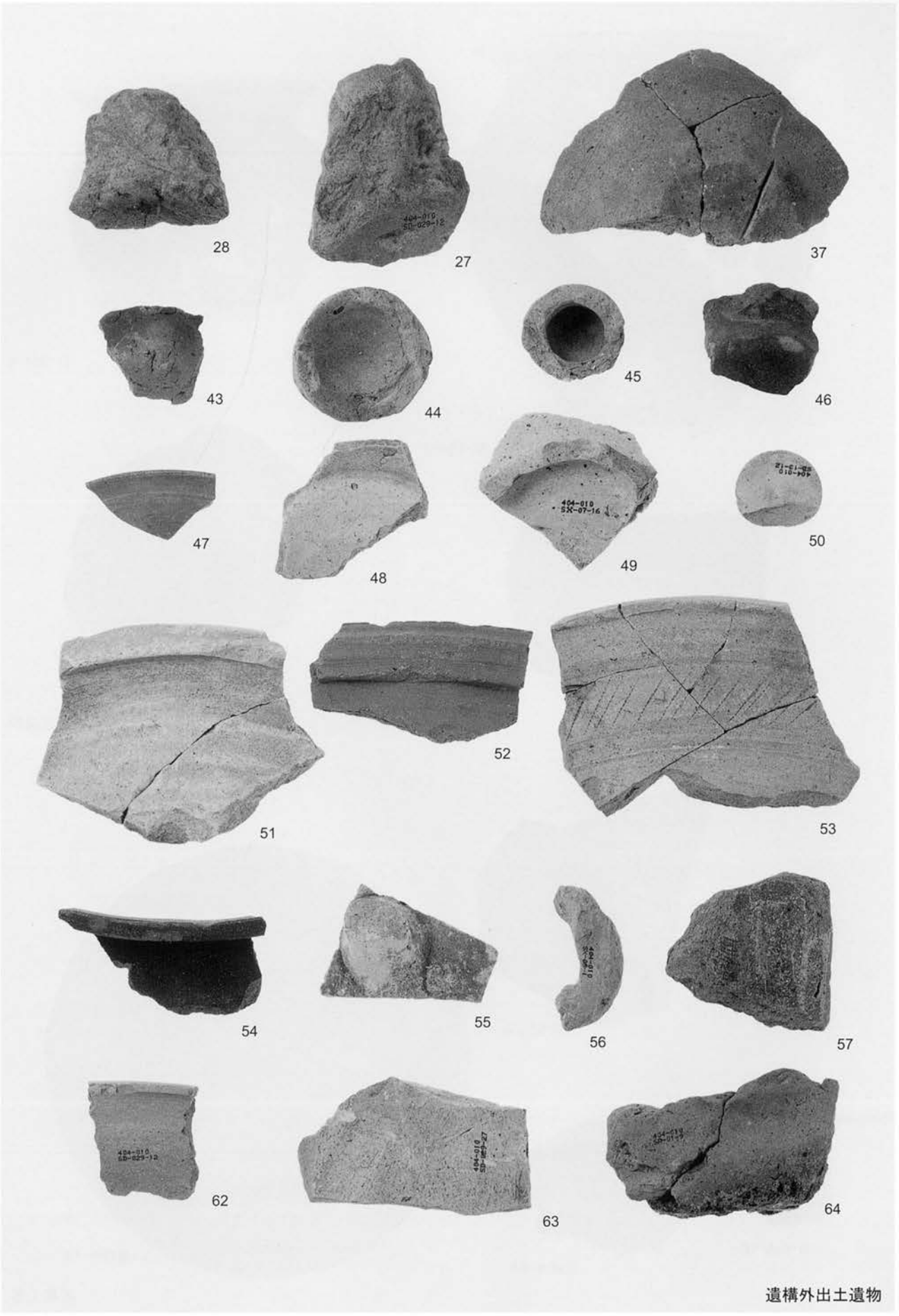
SI-055-3

SI-045-12

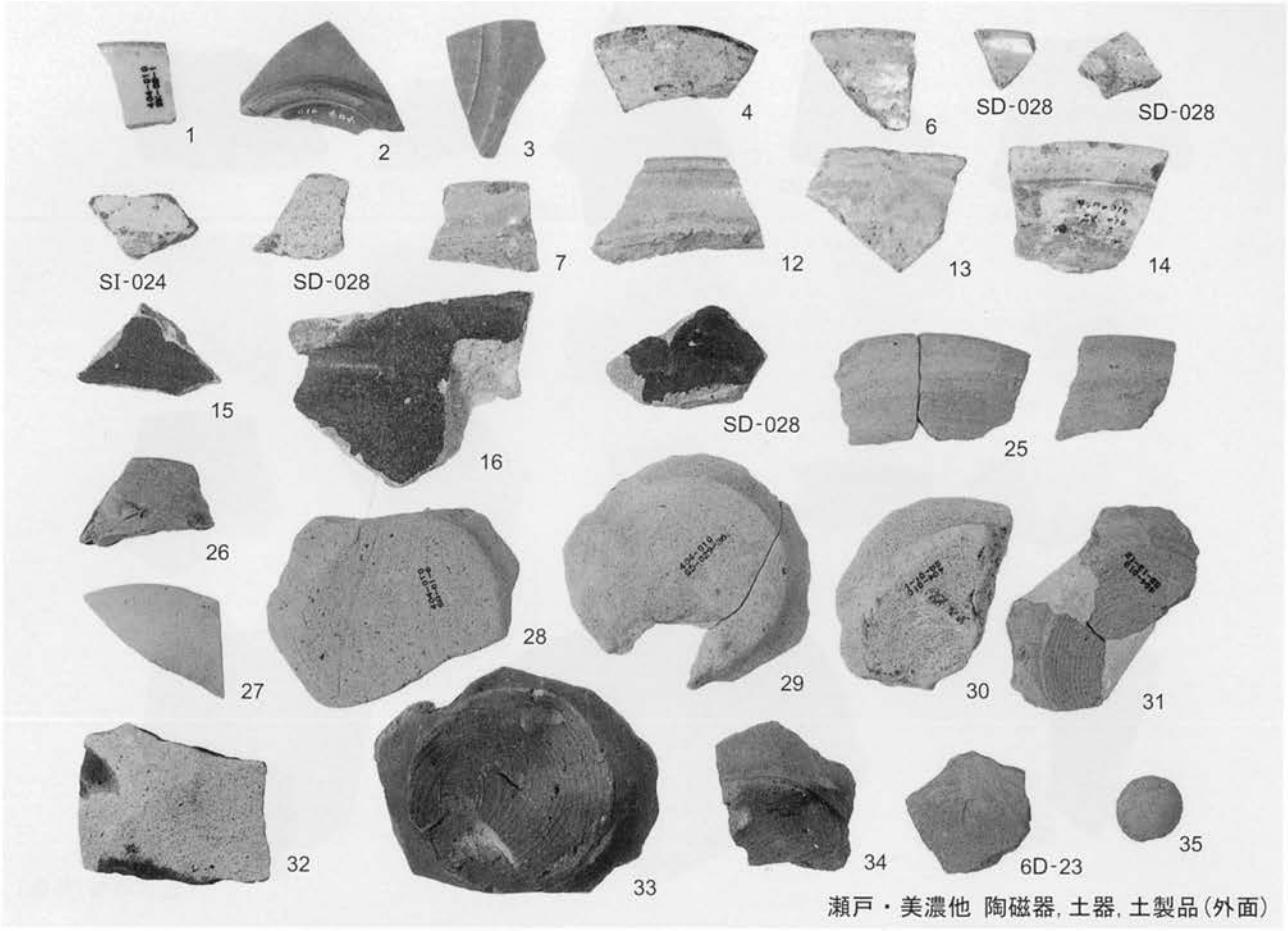
遺構外-58

遺構外-59

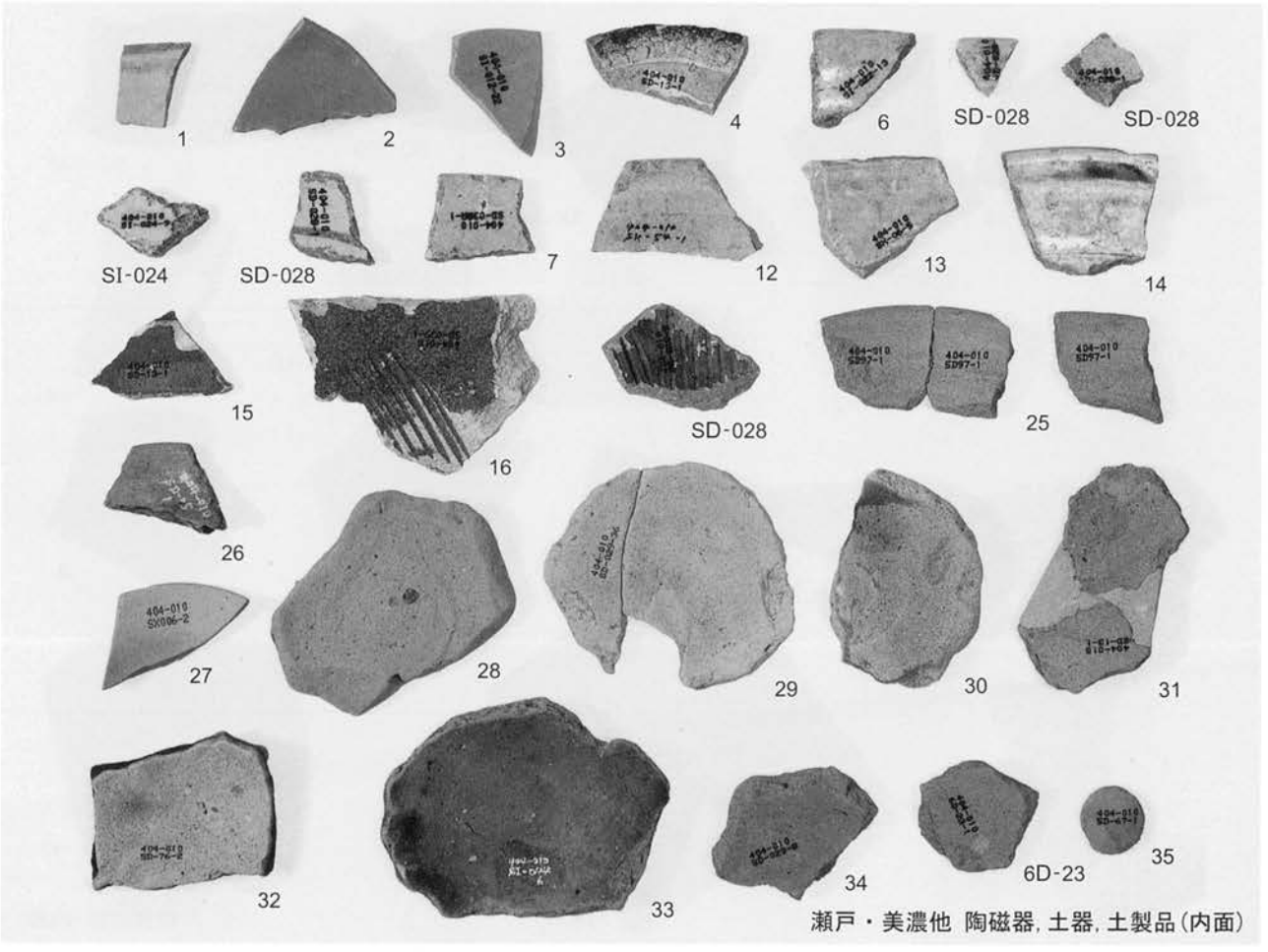
墨書土器



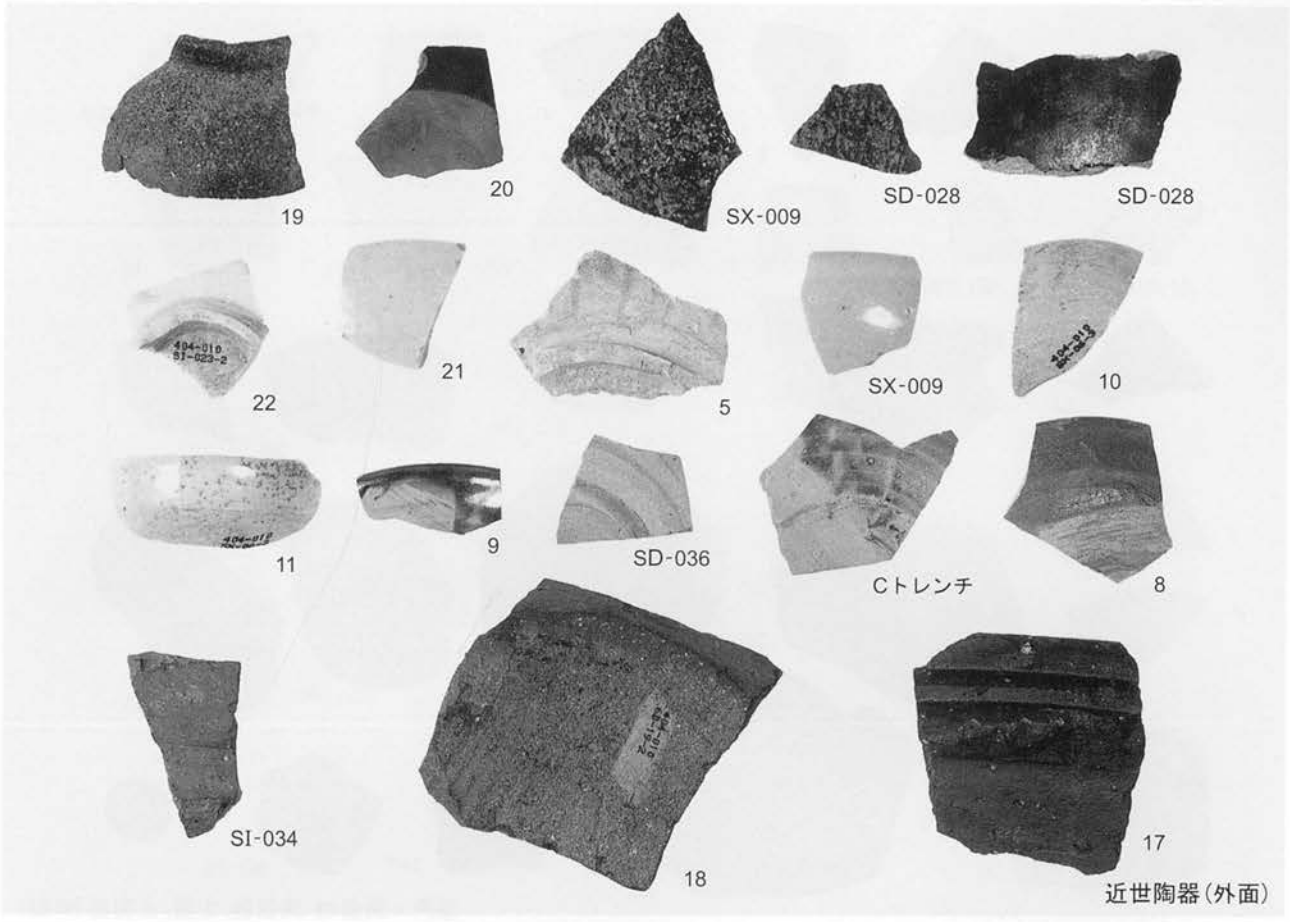
遺構外出土遺物

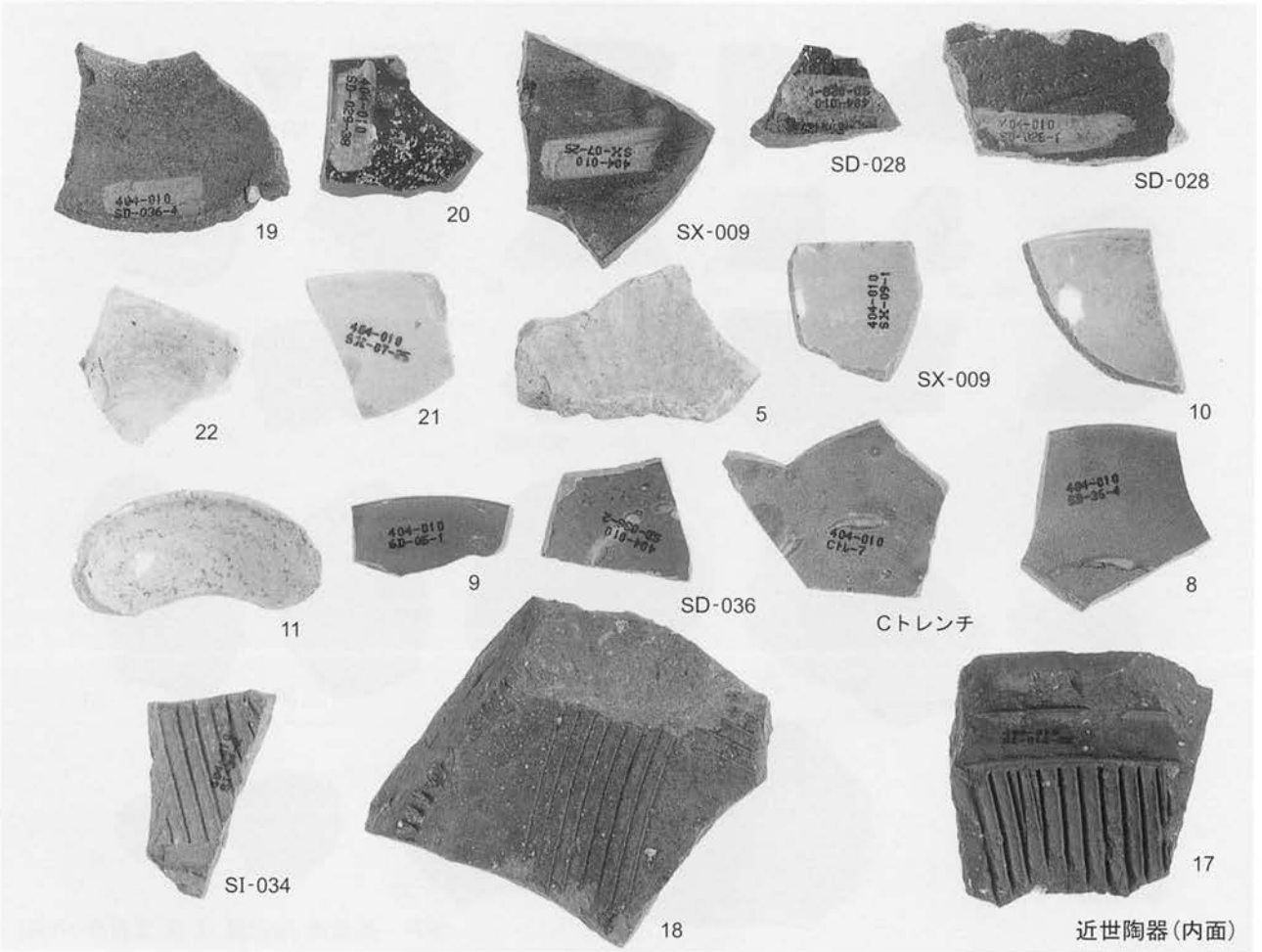


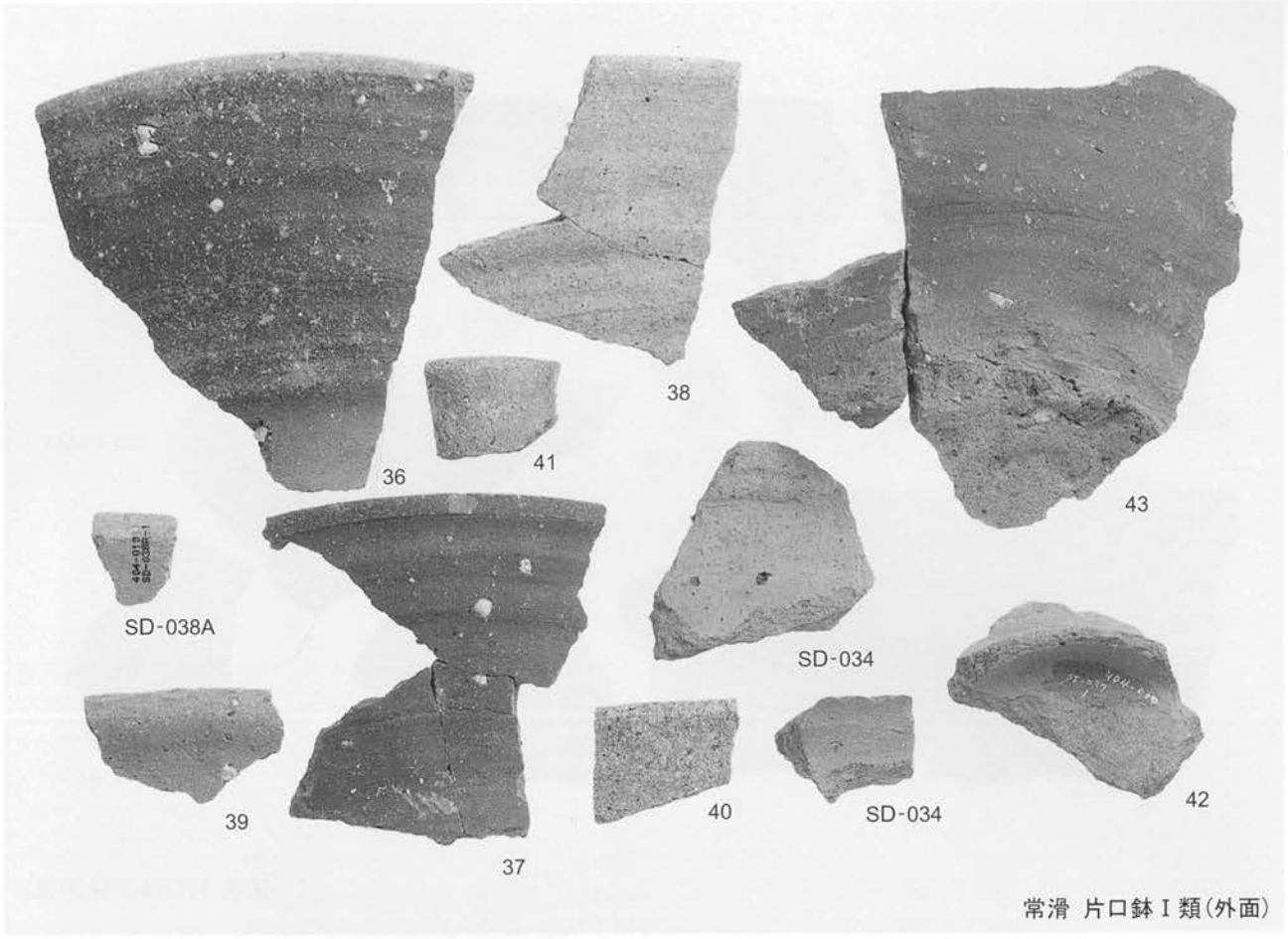
瀬戸・美濃他 陶磁器，土器，土製品（外面）



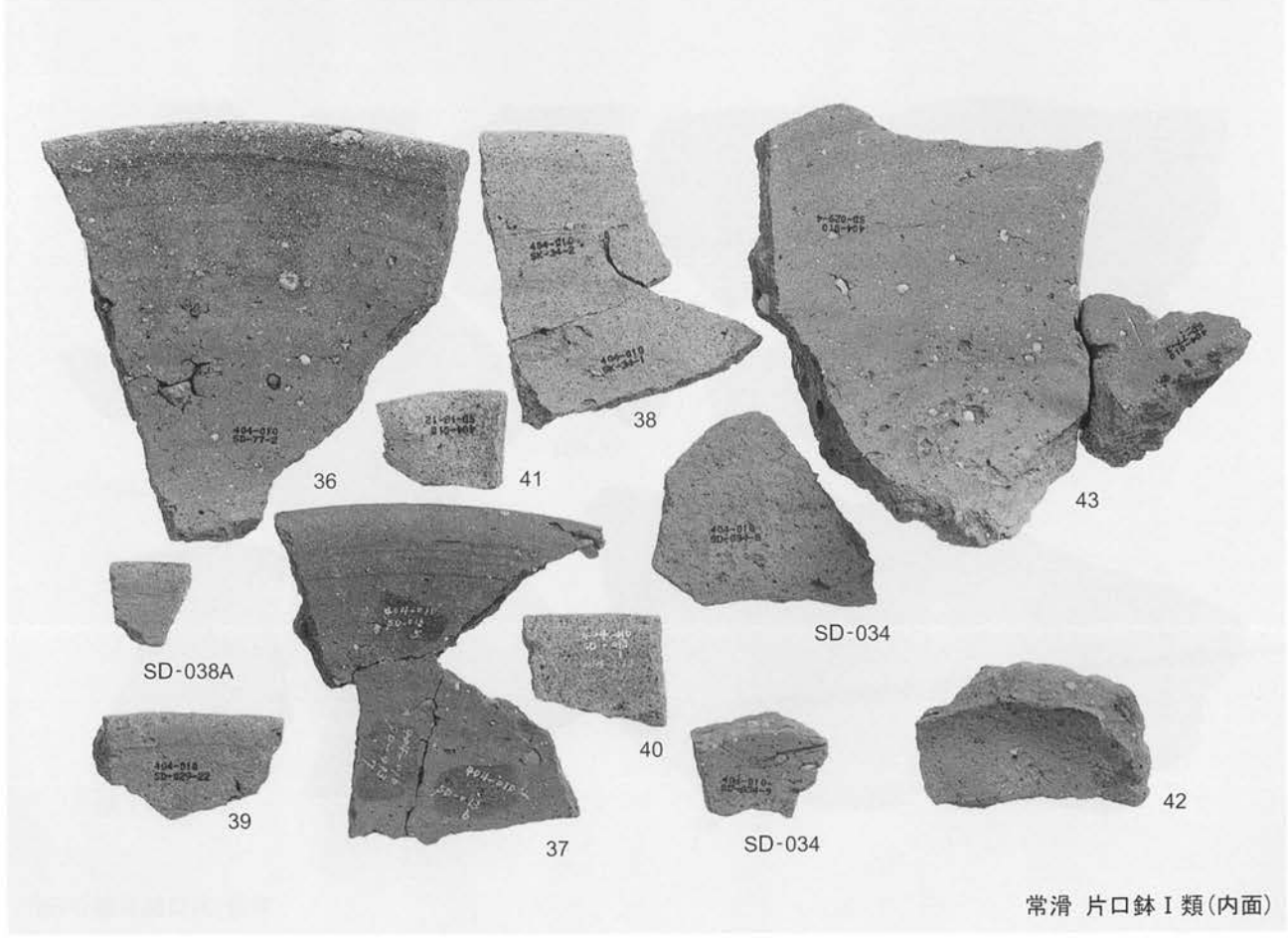
瀬戸・美濃他 陶磁器，土器，土製品（内面）


19
20
SX-009
SD-028
SD-028
22
21
5
SX-009
10
11
9
SD-036
Cトレンチ
8
SI-034
18
17
近世陶器（外面）

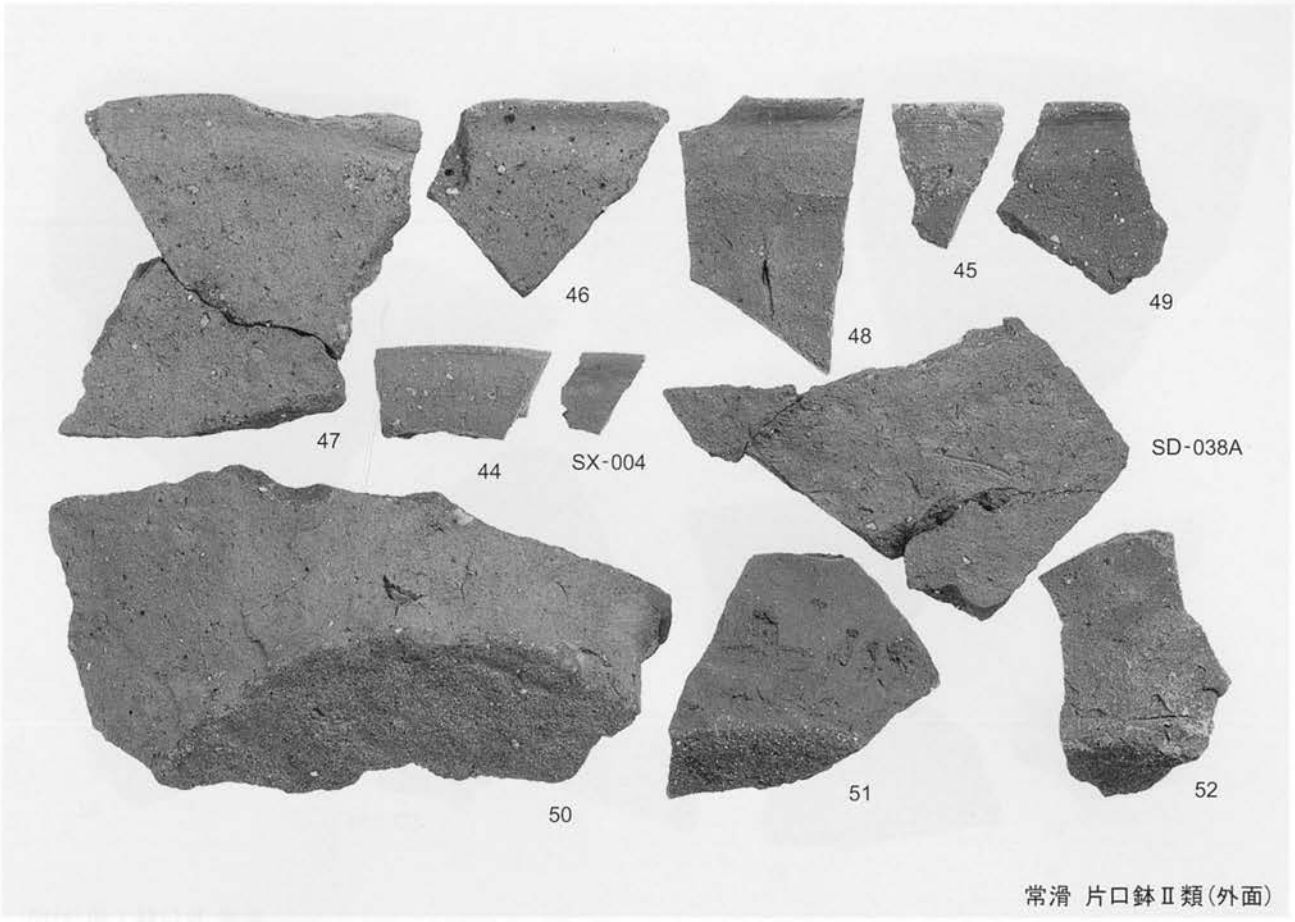

19
20
SX-009
SD-028
SD-028
22
21
5
SX-009
10
11
9
SD-036
Cトレンチ
8
SI-034
18
17
近世陶器（内面）



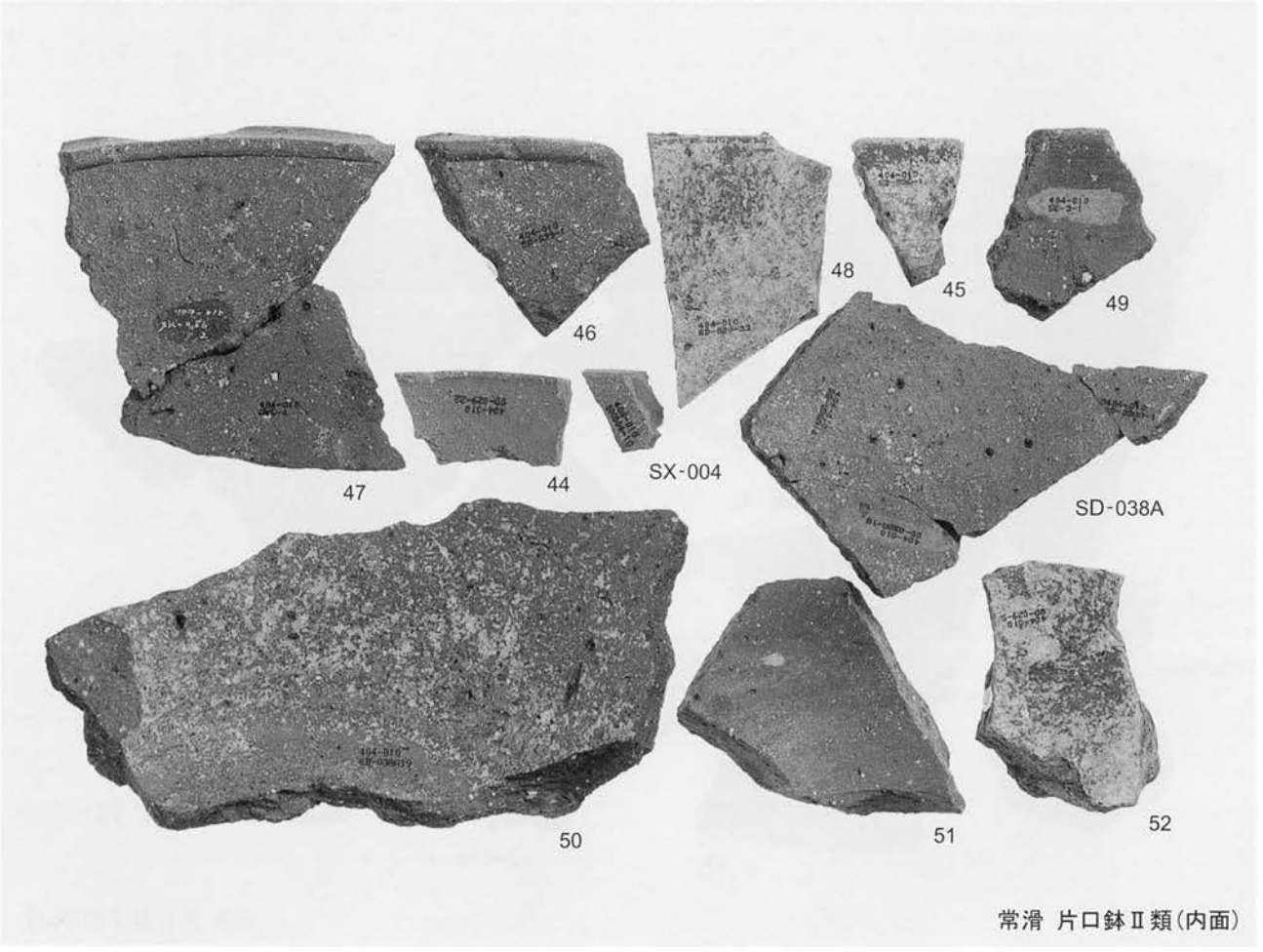
常滑 片口鉢Ⅰ類(外面)



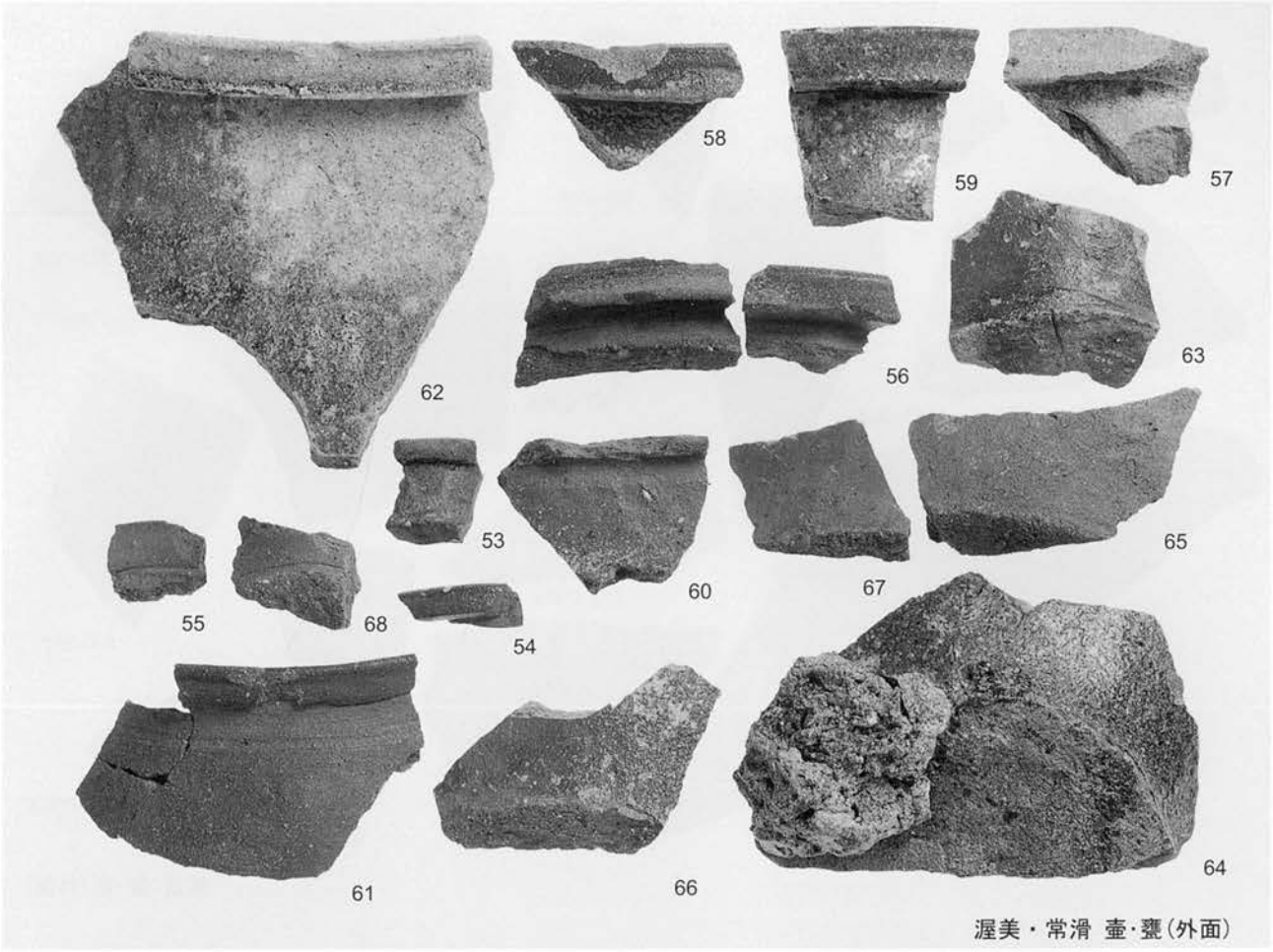
常滑 片口鉢Ⅰ類(内面)



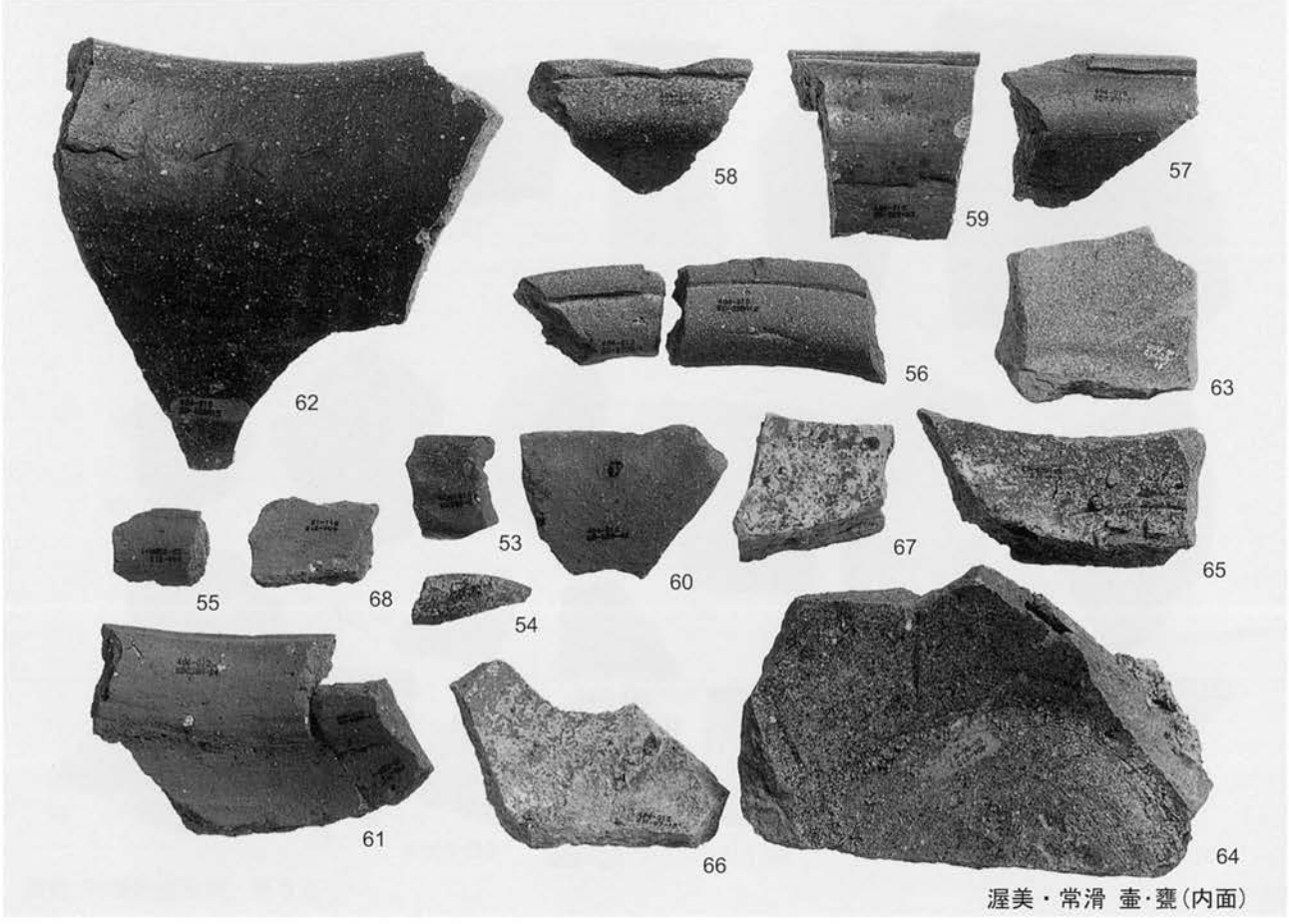
常滑 片口鉢Ⅱ類(外面)



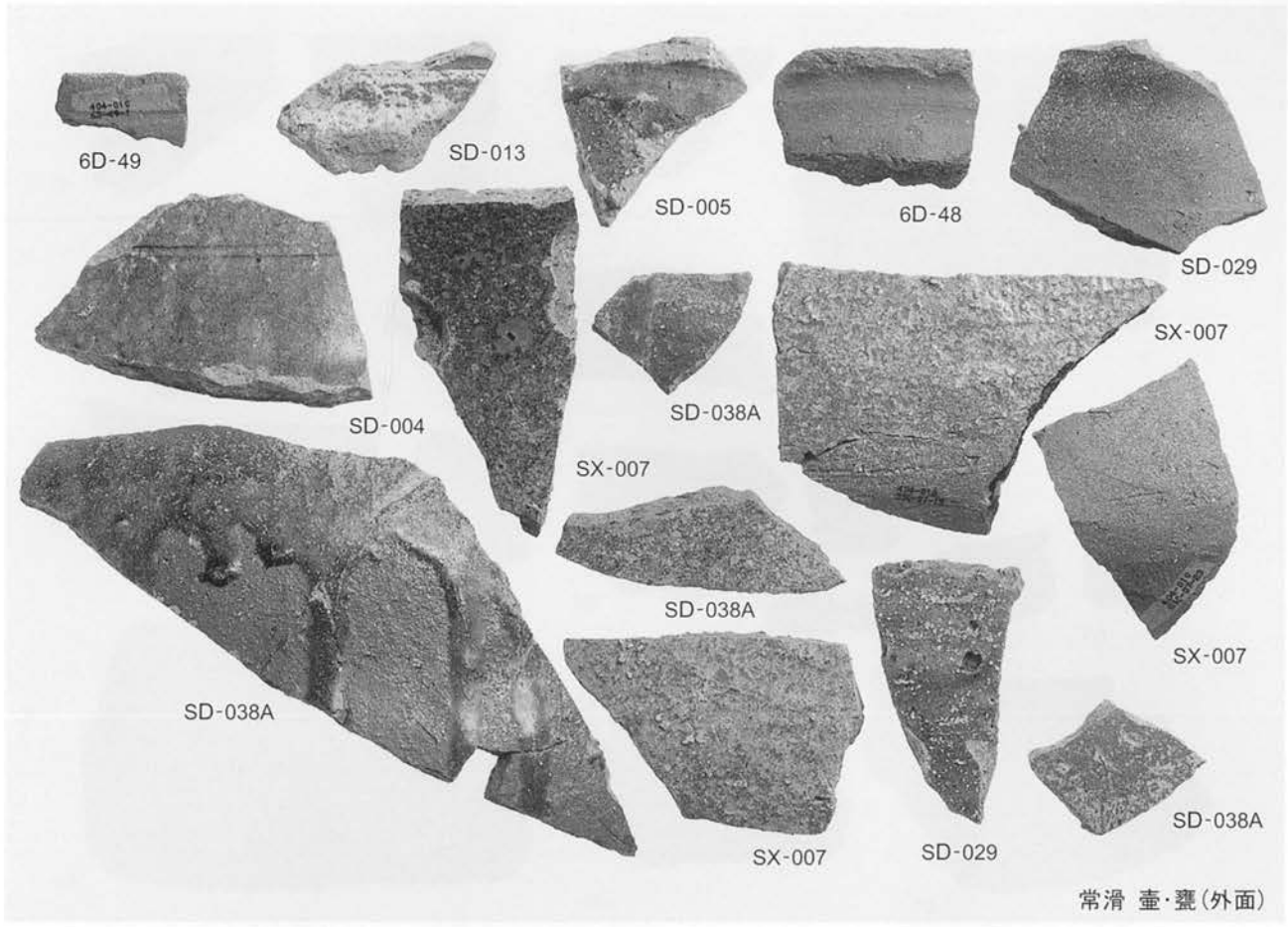
常滑 片口鉢Ⅱ類(内面)



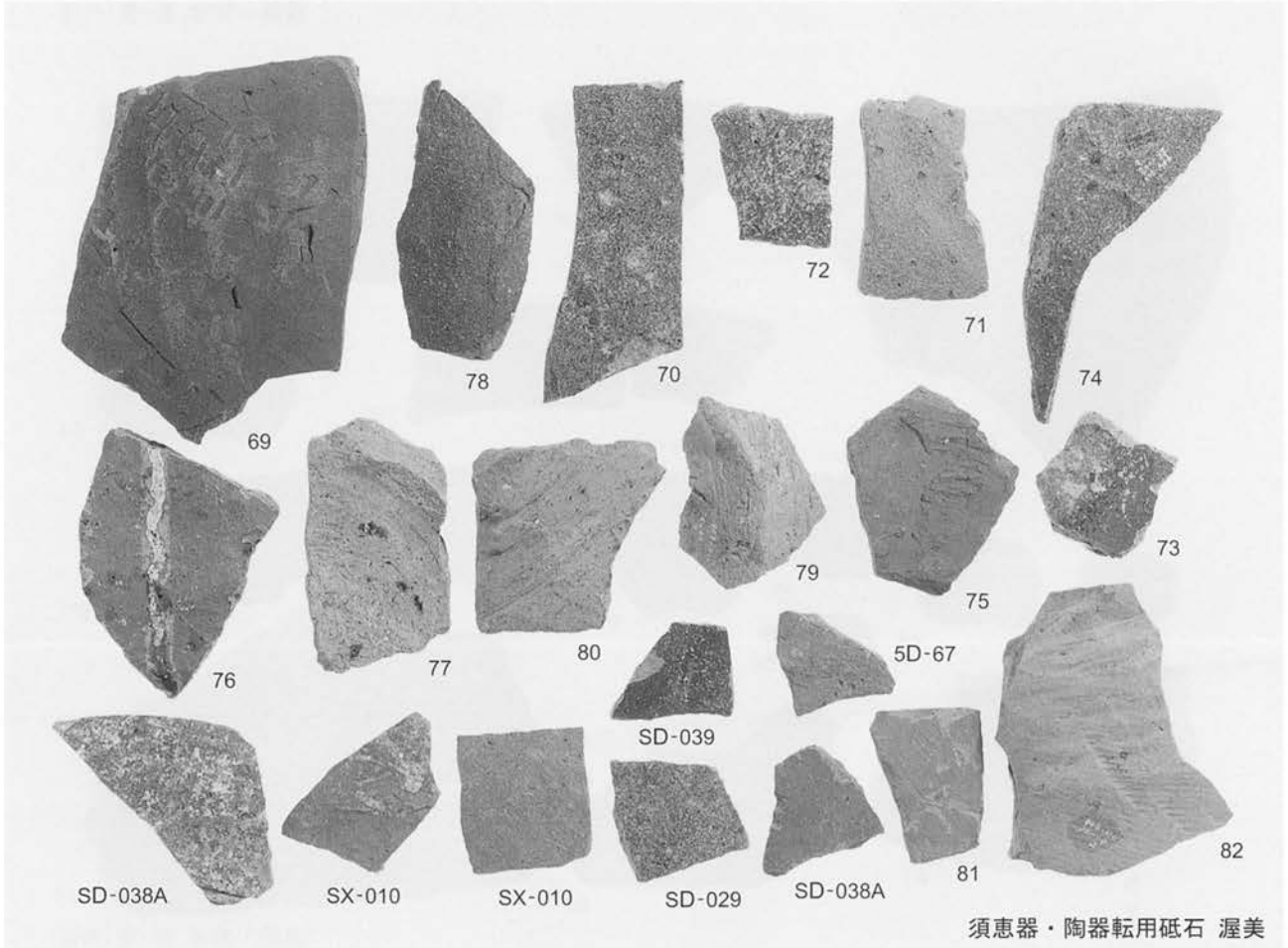
渥美・常滑 壷·甕(外面)



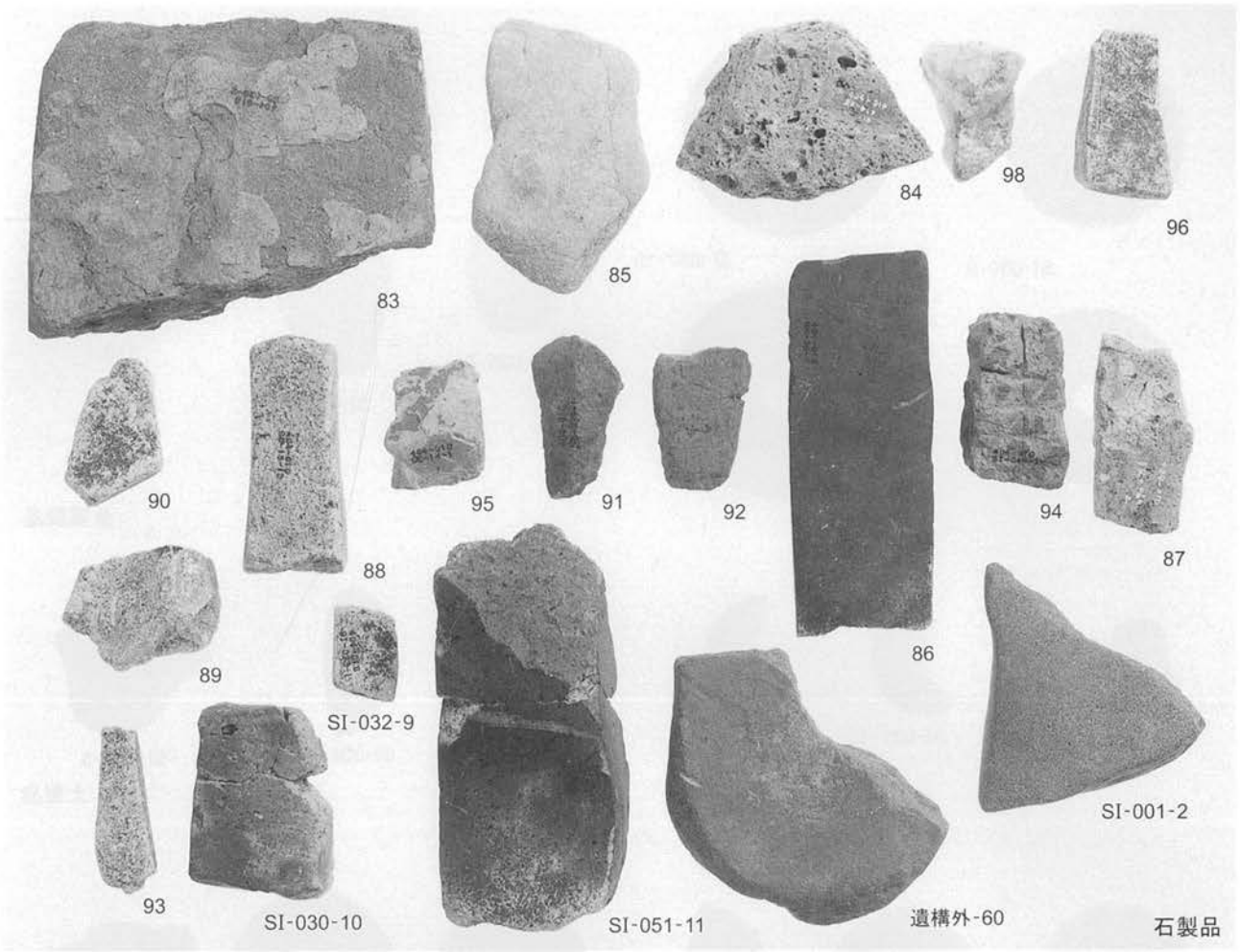
渥美・常滑 壷·甕(内面)

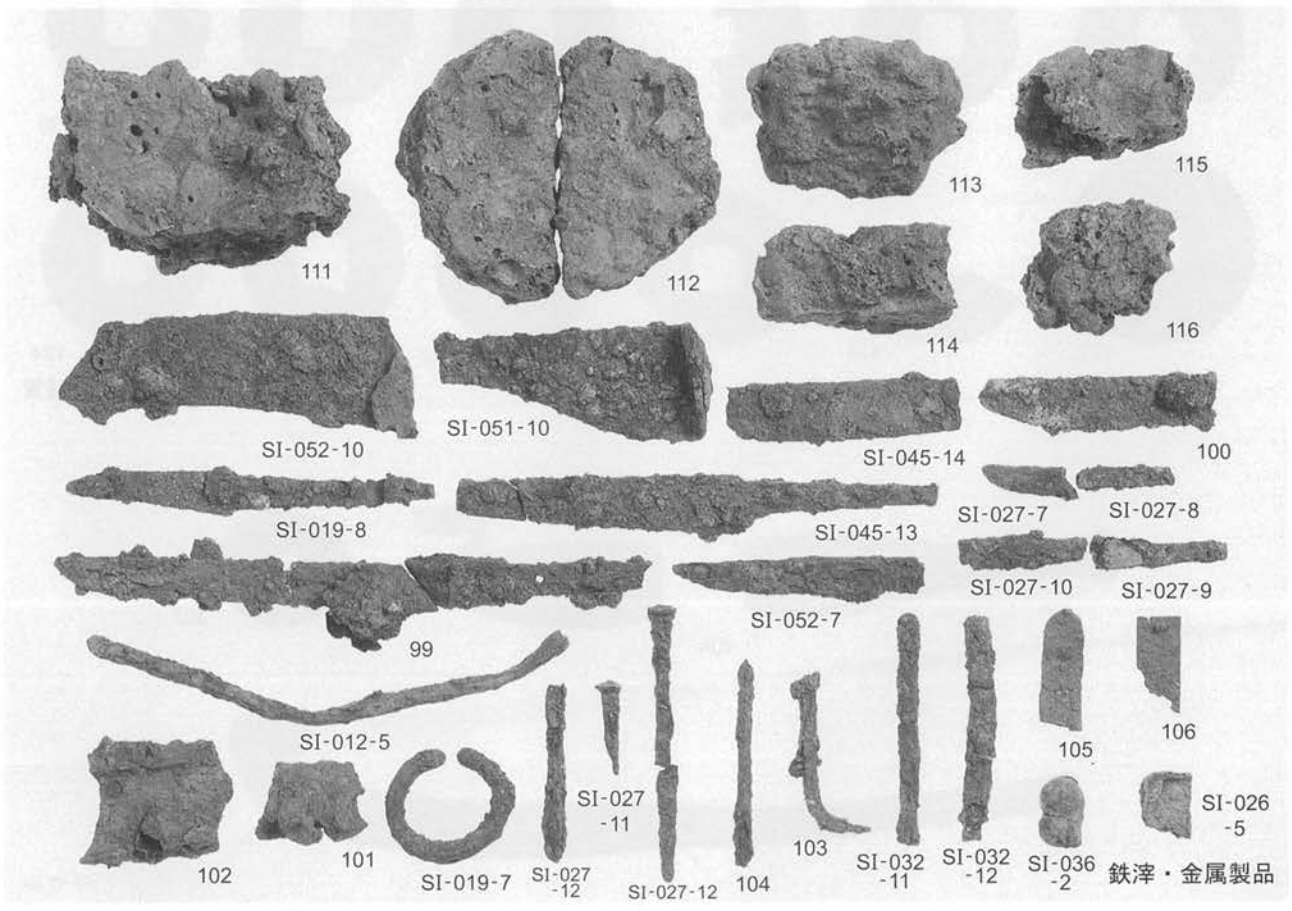


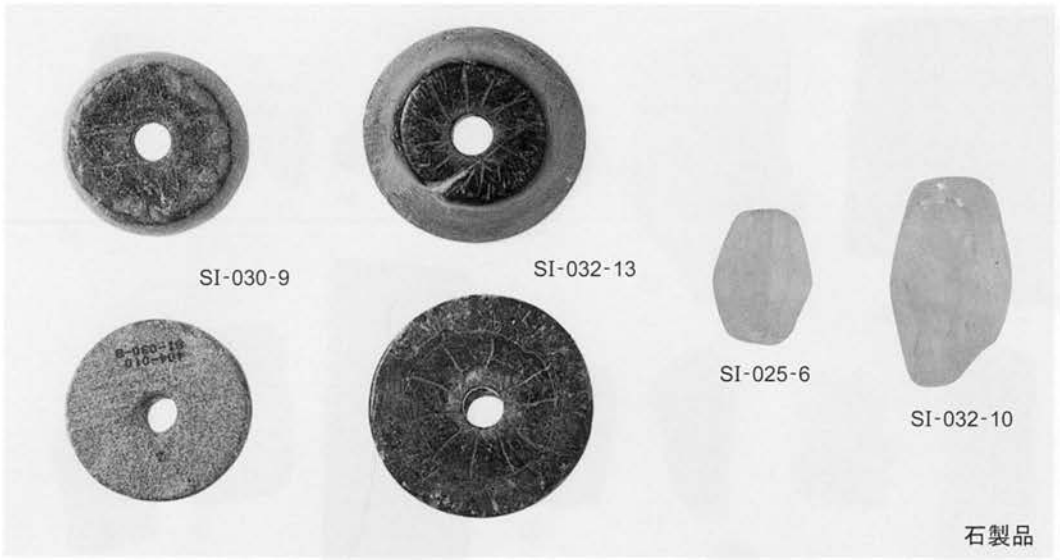
常滑 壷・甕(外面)



須恵器・陶器転用砥石 渥美

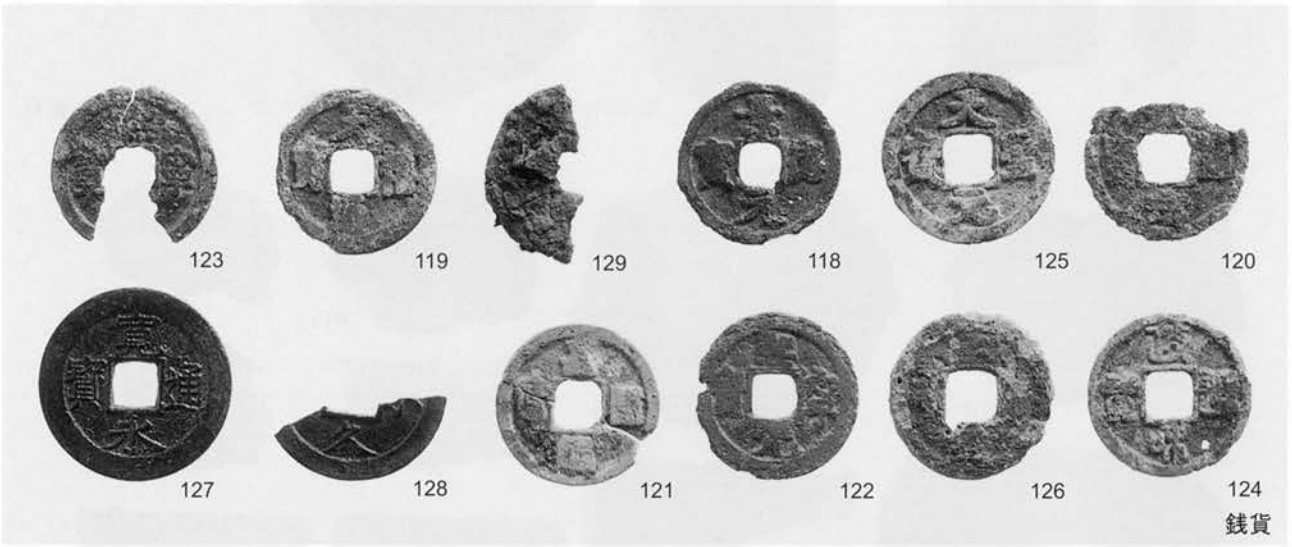

83
85
84
98
96
90
88
95
91
92
86
94
87
89
SI-032-9
93
SI-030-10
SI-051-11
遺構外-60
SI-001-2
石製品

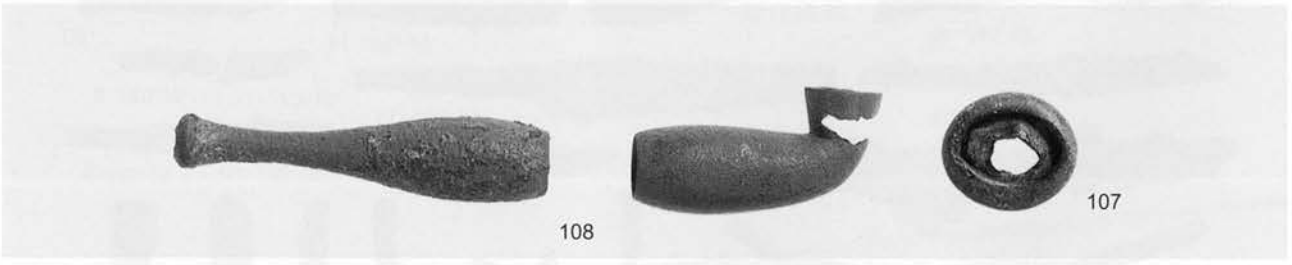

111
112
113
115
114
116
SI-052-10
SI-051-10
SI-045-14
100
SI-019-8
SI-045-13
SI-027-7
SI-027-8
SI-027-10
SI-027-9
99
SI-052-7
SI-012-5
105
106
SI-027
-11
103
SI-026
-5
102
101
SI-019-7
SI-027
-12
SI-027-12
104
SI-032
-11
SI-032
-12
SI-036
-2
鉄滓・金属製品

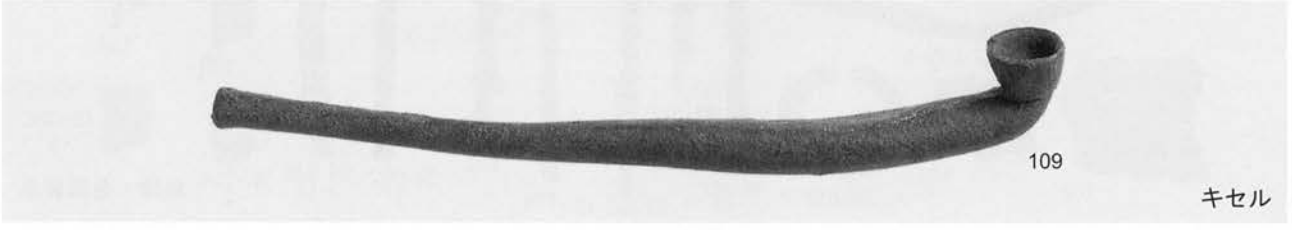

SI-030-9
SI-032-13
SI-025-6
SI-032-10
石製品

110
金属製品

SI-031-7
SI-031-10
遺構外-61
SI-031-11
SI-031-9
SI-031-8
土製品


123
119
129
118
125
120
127
128
121
122
126
124
銭貨


108
107


109
キセル

SI-019-8
SI-026-5
SI-027-7
SI-027-8
SI-027-9
SI-027-10
SI-032-12
SI-045-13
SI-045-14
SI-036-2
SI-052-7
中世-100
中世-101
中世-102
中世-103
SI-019-7
SI-051-10
中世-99
中世-107
中世-108
中世-109
中世-110

SI-001（北から）

SI-001遺物出土（北東から）

SI-001カマド（東から）

SI-001カマド遺物出土（東から）

SI-002　SD-001（北西から）

SI-003　SD-004（北西から）

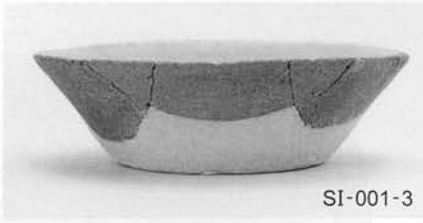
八幡神社北（３）

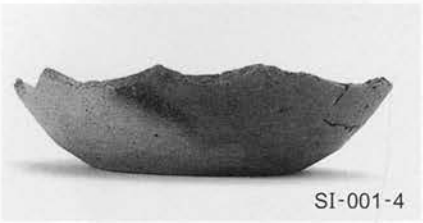
SB-001（東から）

SK-001（南西から）

SI-001-1

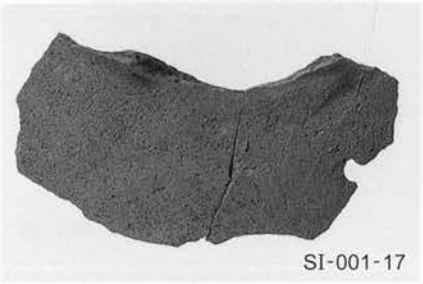
SI-001-2


SI-001-3

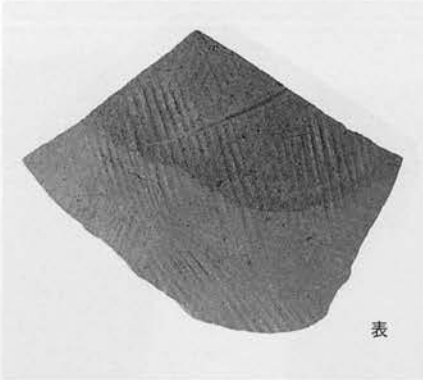

SI-001-4

SI-001-5

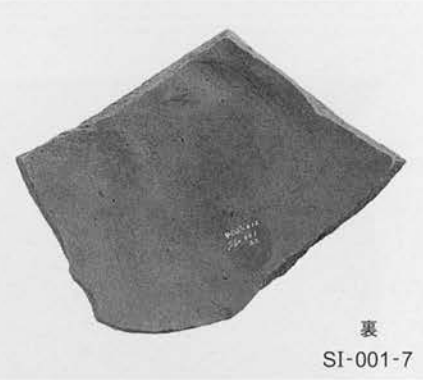
SI-001-6


SI-001-17

SI-001-18



表


裏
SI-001-7

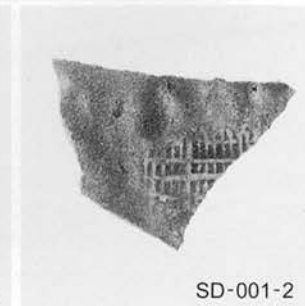
SI-002-1

SI-003-2

SD-004-1

SD-004-2

SD-001-1


SD-001-2

SI-001-10

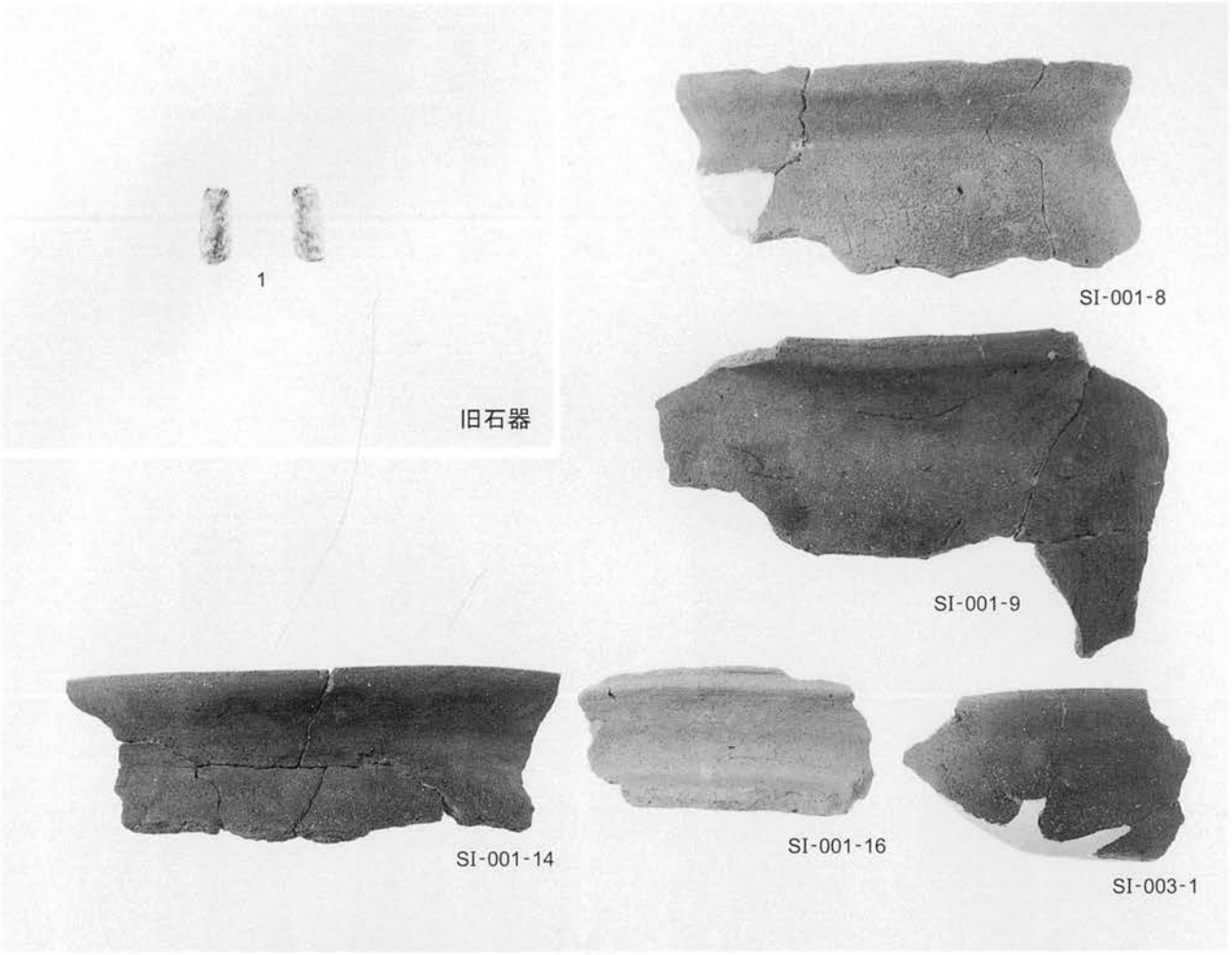
SI-001-12

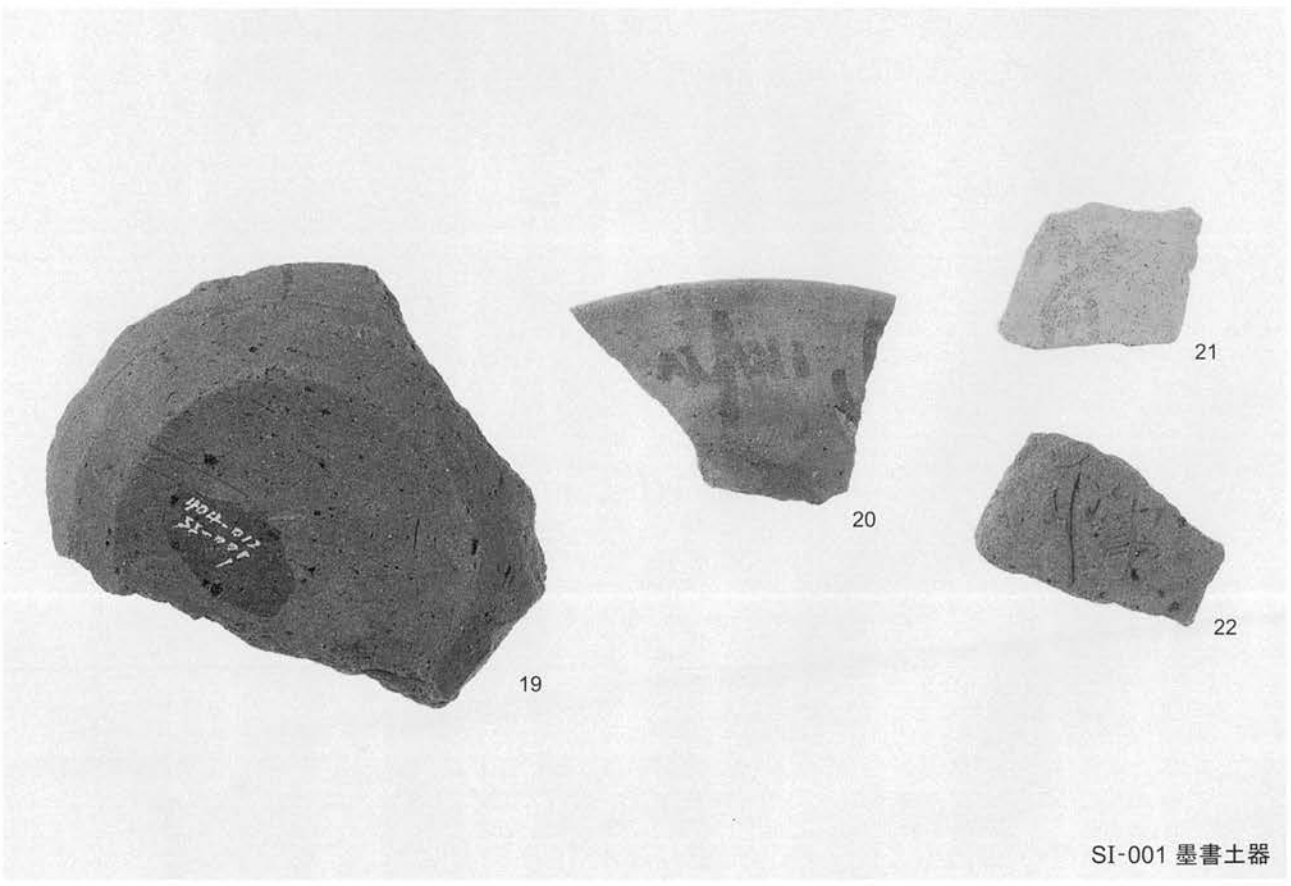
SI-001-13

SI-001-11

SI-001-15

SI-002-2


1
旧石器
SI-001-8
SI-001-9
SI-001-14
SI-001-16
SI-003-1


19
20
21
22
SI-001 墨書土器

千葉県教育振興財団調査報告第608集

両総農業水利事業第3揚水機場建設工事
埋蔵文化財調査報告書2
－山武市八幡神社北(1)・(2)・(3)遺跡－
第２分冊（附表・写真編）

平成21年2月25日発行

編　集　　財団法人　千葉県教育振興財団
発　行　　関東農政局両総農業水利事務所
東金市松之郷2,333
財団法人　千葉県教育振興財団
四街道市鹿渡809-2
印　刷　　株式会社 東 プ リ
船橋市咲が丘1-11-9